

キリスト教学Ⅱ		後期 2 単位	2年
キリスト教から見た教育の本質、基礎、目的を探る。		古谷 正仁 (ふるや まさよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	教育とは元来、社会的な要請に基づいて営まれるが、キリスト教教育は、それとは別にキリスト教的人間観の形成を目指してなされるものである。この授業においては、学生が①キリスト教教育とは何か。②その目指すもの何か。③その実践に対して大きな責任を担う教師は、どのような役割を果たすべきかの3つの観点から学び、担い手としての基礎力		
授業の概要	この科目において学生は、①キリスト教教育とは何か。②その目指すもの何か。③その教育において教師が果たすべき課題は何か学ぶことが求められる。そこで、現代日本において問われている「教育の問題」に焦点を当てつつ、キリスト教教育理論を学び、それを通して、この問題の解決への糸口共に考えたい。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 刈インテンション。教育における共同性の回復について。</p> <p>第 2回 知識の暴力。知識の起源と行き着く先。</p> <p>第 3回 祈りのある教育。知識と学習者の人格的關係。</p> <p>第 4回 修道院教育の目指したもの。知る者と知られるものの本質。</p> <p>第 5回 教育の客観主義の問題性。隠されているカリキュラム。</p> <p>第 6回 今日の教育の原点。観察することと関係すること。</p> <p>第 7回 真理の共同性。真理の相互性。</p> <p>第 8回 真理を人格的に学ぶと言うこと。真理と倫理。</p> <p>第 9回 教育の場の開放性、境界性、受容性。</p> <p>第10回 教室を実践練習の場とすること。コンセンサスによって学ぶ。</p> <p>第11回 題材が発する声。題材と教師。</p> <p>第12回 求められる教師像 (1) 謙遜と信念。</p> <p>第13回 求められる教師像 (2) 畏敬の念を持つ。</p> <p>第14回 求められる教師像 (3) 学ぶ教師。</p> <p>第15回 求められる教師像 (4) 見守る教師。</p>		
テキスト	P. J. パーマー(小見のぞみ、原 真和訳)『教育のスピリチュアリティ』日本キリスト教団出版局(2200円+税)	参考文献	未定。
評価方法	小レポート(作文) :60% 試験:40%		

共通英語		通年（前期）	2 単位	2・3年
英文法の基礎を学ぶ		黒岩 裕（くろいわ ゆたか）		
授業の到達目標 及びテーマ	1) 品詞、5文型、修飾と被修飾の関係について理解する。 2) 時制、助動詞、動名詞、不定詞、現在分詞、過去分詞、受動態、比較、関係代名詞、関係副詞、仮定法など、重要な文法事項を正確に理解する。			
授業の概要	毎回のテーマにそって、講義を中心に授業を進める。 適宜授業内容に関連する課題を与え、クラスで発表してもらう。			
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション 英語の基礎とは？ 第2回 品詞 第3回 5文型：第1～第3文型 第4回 5文型：第4～第5文型 第5回 時制 第6回 助動詞 第7回 動名詞 第8回 現在分詞 第9回 過去分詞 第10回 受動態 第11回 不定詞 第12回 比較 第13回 関係代名詞 第14回 関係副詞 第15回 仮定法			
テキスト	「読むための基礎英文法」（朝日出版）	参考文献	授業中に適宜紹介する。	
評価方法	課題：20% 中間試験：40% 期末試験：40%			

共通英語		通年（後期）	2 単位	2・3年
映画で英語を学ぶ		黒岩 裕（くろいわ ゆたか）		
授業の到達目標 及びテーマ	英米の映画を題材として、英語のリスニング能力を養う。さらに、英語の会話表現や映画の背景となる社会事情・文化事情を学ぶ。			
授業の概要	毎回映画のワンシーンをみて、スクリプトの穴埋めを行う。また、重要な語彙・文法を取り上げて説明し、会話表現や映画の背景について解説する。今年度は以下の2つの映画を取り上げる予定だが、後半は希望があれば別の映画をみることも検討する。			
授業計画	【後期】 第1回 インTRODakション：英語のリスニングについて 第2回 ワーキング・ガール テスの英語 第3回 ワーキング・ガール キャサリンの英語 第4回 ワーキング・ガール Middle Class とWorking Class 第5回 ワーキング・ガール 格差 第6回 ワーキング・ガール アメリカのビジネス 第7回 ワーキング・ガール キャリア 第8回 前半のまとめとテスト 第9回 ゴースト 背景 第10回 ゴースト 女性の台詞 第11回 ゴースト 男女の会話 第12回 ゴースト 黒人の英語 第13回 ゴースト 白人と黒人 第14回 ゴースト 結末 第15回 後半のまとめとテスト			
テキスト	毎回プリントを使用する。	参考文献	適宜紹介する。	
評価方法	課題：20% テスト1：40% テスト2：40%			

共通英語		通年（前期）	2 単位	2・3年
映画で英語を学ぶ		矢部 寿美子（やべ すみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	映画の教材を通して、多様な英語の表現・発音を学び、日本と英語文化の違い、表現の違い、文の構成の違いなどに着目しながらコミュニケーション能力を強化する。			
授業の概要	日本のアニメーション『Spirited Away』（千と千尋の神隠し）を教材として使用し、字幕の英語に焦点をあて、日本語と英語の違い、独特な表現、文法、発音などを総復習する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 Spirited Away - 1 : 基本構文 第3回 Spirited Away - 2 : 品詞 第4回 Spirited Away - 3 : 前置詞 第5回 Spirited Away - 4 : 時制 第6回 Spirited Away - 5 : 過去・現在形 第7回 復習 第8回 Test 1 第9回 Spirited Away - 6 : 未来形 第10回 Spirited Away - 7 : 現在完了 第11回 Spirited Away - 8 : 関係詞 第12回 Spirited Away - 9 : 仮定法 第13回 Spirited Away - 10 : 表現 第14回 Review 第15回 Test 2			
テキスト	配布資料を活用する。	参考文献		
評価方法	授業感想・課題:30% テスト:70%			

共通英語		通年（後期）	2 単位	2・3年
ニュースを英語で理解する		矢部 寿美子（やべ すみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	英語のニュースを理解することは、事実を把握することだけでなく、民族性、地域性など多様な価値観との出会いでもある。この授業では、様々なジャンルのニュースを通して英語の発音・文法・読解を総復習し、学生の英語コミュニケーション能力を強化する。			
授業の概要	毎回の授業でひとつのテーマを扱う。授業の冒頭で、前の週に終了したユニットの単語テストを行う。テキストは1回の授業で1ユニットをカバーするが、随時、プリントや動画も用いる。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction 第2回 Unit 1 : Soccer Brain Study 第3回 Unit 2 : The World' s Population 第4回 Unit 3 : Quake Concerns 第5回 Unit 4 : Fat Tax 第6回 Unit 6 : Light Pollution 第7回 復習 第8回 Test 1 第9回 Unit 8 : New Arcade Trend 第10回 Unit 9 : Smell of Success 第11回 Unit 12 : Shoe Frenzy 第12回 Unit 11 : Power of the Consumer 第13回 Unit 13 : Multigenerational Homes 第14回 復習 第15回 Test 2			
テキスト	Fuyuhiko Sekido, 他. 『CNN Student News』Asahi Press.	参考文献	特に定めない	
評価方法	授業時の感想文:10% クイズ:20% テスト:70%			

英語Ⅱ (Listening and Speaking)		通年 (前期)	2 単位	2年
Giving presentations in English		ウィルソン (WILSON, J. S.)		
授業の到達目標 及びテーマ	1) to help students understand the structure of speeches and how to write them 2) to build students' confidence in giving oral presentations effectively in front of others.			
授業の概要	Students listen to model speeches, practice them in pairs, write original speeches, and present them in class. They also learn pronunciation, posture, eye contact, vocal techniques and gestures, and use of visual aids.			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Class and course/introduction 第2回 Self-introduction study 第3回 Self-introduction/practice 第4回 Self-introduction/preparation 第5回 Self-introduction/presentation 第6回 Introducing someone/study 第7回 Introducing someone/practice 第8回 Introducing someone/preparation 第9回 Introducing someone/presentation 第10回 Demonstration speech/study 第11回 Demonstration speech/practice 第12回 Demonstration speech/preparation 第13回 Demonstration speech/presentation 第14回 Layout speech/study 第15回 Layout speech/practice			
テキスト	Getting Ready For Speech by Charles LeBeau / David Harrington, pub. Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9	参考文献	None	
評価方法	Presentations:80% Class Participation:20%			

英語Ⅱ (Listening and Speaking)		通年 (後期)		2年
Giving presentations in English		ウィルソン (WILSON, J. S.)		
授業の到達目標 及びテーマ	1) to help students understand the structure of speeches and how to write them 2) to build students' confidence in giving oral presentations effectively in front of others.			
授業の概要	Students who have completed the first semester continue to listen to model speeches, practice them, write original speeches and present them in class. Students also learn pronunciation, posture, eye contact, vocal techniques and gestures, and use of visual aids.			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Layout speech/preparation 第2回 Layout speech/presentation 第3回 Book & movie review/study 第4回 Book & movie review/practice 第5回 Book & movie review/preparation 第6回 Book & movie review/presentation 第7回 Show and tell speech/study 第8回 Show and tell speech/practice 第9回 Show and tell speech/preparation 第10回 Show and tell speech/presentation 第11回 Final speech/study 第12回 Final speech/practice 第13回 Final speech/preparation 第14回 Final speech/presentation (group1) 第15回 Final speech/presentation (group2)			
テキスト	Getting Ready For Speech by Charles LeBeau / David Harrington, pub. Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9	参考文献	None	
評価方法	Presentations:80% Class participation:20%			

フランス語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
日常のコミュニケーション能力を獲得するために		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	毎回の授業を通してフランス語の綴り字と発音の対応関係をしっかりと身につける。基本動詞の現在形の活用を学習し、それに基づいて、疑問の表し方、あるいは答え方などを習得し、必要な情報を獲得し、また発信できるようになること。			
授業の概要	毎回の授業で音読の練習を行う。初めてのフランス語であるから、フランス語の仕組み＝文法に関しては教員が少しずつ説明していくが、その他の練習などは教員と受講生との口頭でのやり取りを基本として進めていき、最後に板書によって確認していく。各テーマが終わる毎に小テストとしてディクテーションを行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 フランス語の音と文字、数字 第2回 フランスとはどんな国？ 第3回 あいさつの表現 第4回 名詞の性数、冠詞、前置詞と定冠詞の縮約 第5回 空港での会話―両替所にて 第6回 形容詞の変化、所有形容詞、提示の表現 第7回 ホテルでの会話―フロントにて 第8回 特殊な形容詞、人称代名詞強勢形、il y a ~の表現 第9回 郵便局の窓口での会話 第10回 電話での会話 第11回 否定文、指示形容詞 第12回 avoir +無冠詞名詞の表現 第13回 カフェでのウェイターとの会話 第14回 疑問文、非人称構文 第15回 メトロの窓口での会話			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版―（朝日出版社）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語（初級）		通年（後期）	1年	
コミュニケーションの幅を広げよう		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	綴り字と発音の対応関係の習得度をより確かなものとする。また不規則動詞の活用、さまざまな代名詞の使い方を学習し、現在形だけでなく過去形による幅広い表現を理解し、多様な話題について発信できるようになること。			
授業の概要	毎回、音読の練習を行う。文法事項の説明は教員が行うが、その他の作業は受講生各人にやってもらうので、受け身の学習にならないように積極的に取り組んでもらいたい。口頭でのやり取りだけでなく、受講生に板書してもらうこともある。各テーマが終わる毎にディクテーションを実施する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 近い未来と近い過去の表現、疑問形容詞 第2回 中性代名詞 en と y 第3回 観光バスに乗るための会話 第4回 命令形、目的語となる人称代名詞 第5回 食料品店での会話 第6回 疑問代名詞 第7回 疑問副詞 第8回 レストランでの会話 第9回 過去分詞、複合過去形 第10回 受動態 第11回 美術館での会話 第12回 比較級・最上級 第13回 代名動詞、性数のある指示代名詞 第14回 プティックでの会話 第15回 さらにフランス語学習を目指して―フランス語の全体像			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版―（朝日出版社）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
初めてのフランス語		檜垣 嗣子（ひがき つぎこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	英語とは異なるフランス語の音・綴りに慣れ、知らない単語でも発音を推測できるようになる。 挨拶などの初歩的な表現を身につける。			
授業の概要	教科書にそって進みますが、発音練習やフランス語での受け答えを頻繁におこなうため、受講者には積極的な参加が求められます。また、習ったことが確実に身につくよう、第3回以降の授業では冒頭に必ず小テストをおこないます。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／フランス語の発音とアルファベット</p> <p>第2回 あいさつの表現</p> <p>第3回 男性名詞と女性名詞：「ここに～がある」</p> <p>第4回 冠詞：「これは何ですか」</p> <p>第5回 主語と第一群規則動詞：「私はフランス語を話します」</p> <p>第6回 疑問文の作り方</p> <p>第7回 まとめの試験/形容詞：「彼女は青い花が好きです」</p> <p>第8回 疑問に対する答え方と否定文</p> <p>第9回 所有形容詞：「君は自分の部屋で勉強するの」</p> <p>第10回 動詞être：「あなたのお母さんはお医者さんですか」</p> <p>第11回 様々な職業や家族に関する言葉をおぼえる</p> <p>第12回 動詞avoir：「冷蔵庫にリンゴがあります」</p> <p>第13回 冠詞の変化</p> <p>第14回 部分冠詞と動詞prendre：「毎朝コーヒーを飲みます」</p> <p>第15回 まとめと復習</p>			
テキスト	内藤陽哉・玉田健二著『フランス語へのパスポート（三訂版）』（白水社）	参考文献	授業で随時紹介。仏和辞典の購入については初回にアドバイスします。	
評価方法	小テストと提出物:20% 授業内試験:30% 定期試験:50%			

フランス語（初級）		通年（後期）	1年	
フランス語の基礎		檜垣 嗣子（ひがき つぎこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	基礎的なフランス語の理解力・運用能力を身につける。 簡単な質問や受け答え、自己紹介ができるようになる。			
授業の概要	教科書にそってフランス語の基礎を学びます。 発音練習や基本文の変形練習をくり返し、また、授業のはじめには前回の内容について小テストをおこないます。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 発音と綴りの練習</p> <p>第2回 第二群規則動詞を使った表現</p> <p>第3回 疑問形容詞を使った質問</p> <p>第4回 allerとvenirを使った表現</p> <p>第5回 場所を示す代名詞/命令法</p> <p>第6回 近い未来と近い過去</p> <p>第7回 授業内試験/疑問副詞の使い方</p> <p>第8回 目的語人称代名詞を使う</p> <p>第9回 pouvoirとvouloirを使った表現</p> <p>第10回 前置詞を使った表現/疑問代名詞</p> <p>第11回 関係代名詞/比較級と最上級</p> <p>第12回 比較の表現と人称代名詞強勢形</p> <p>第13回 代名動詞を使った表現</p> <p>第14回 非人称動詞：天気や時間の表現</p> <p>第15回 作文練習と総まとめ</p>			
テキスト	内藤陽哉・玉田健二著『フランス語へのパスポート（三訂版）』（白水社）	参考文献	授業中に随時紹介します。	
評価方法	小テストと提出物:20% 授業内試験:30% 定期試験:50%			

フランス語（初級）		通年（前期）	2 単位	1・2・3年
フランス語入門		二川 佳巳（ふたがわ よしみ）		
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語入門のクラスとして、フランス語を正しく発音し、文法規則の初歩を身につけることを目標とする。			
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時小テストを行い、最後に定期試験を行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 イントロダクション、ABC 第 2回 短母音字と複母音字の読み方 第 3回 鼻母音字と子音字の読み方 第 4回 簡単な挨拶 第 5回 名詞と定冠詞 第 6回 -er 動詞、リエゾン・アンシェーマン 第 7回 不定冠詞、命令文 第 8回 動詞 être、国籍・職業の名詞 第 9回 形容詞の性・数 第 10回 指示形容詞、否定文 第 11回 疑問文 第 12回 所有形容詞、前置詞と定冠詞の縮約 第 13回 動詞 avoir、数 第 14回 疑問形容詞 第 15回 動詞 aller と venir			
テキスト	足立和彦ほか『パルトン！パルロン！』（第三書房）	参考文献	最初の授業で指示	
評価方法	定期試験：50% 課題：20% 小テストと平常点：30%			

フランス語（初級）		通年（後期）	1・2・3年
フランス語の初級		二川 佳巳（ふたがわ よしみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語 I に続く初級のクラスとして、やさしいフランス語の文を理解し表現できるようにする。		
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時動詞活用の小テストを行い、最後に定期試験を行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 人称代名詞の強勢形 第 2回 -ir 動詞、動詞 vouloir と pouvoir 第 3回 時刻表現と時間に関する疑問文 第 4回 天候表現、場所やいき方をたずねる 第 5回 部分冠詞、動詞 prendre と boire 第 6回 疑問代名詞 第 7回 代名動詞、理由をたずねる疑問副詞 第 8回 目的語人称代名詞 第 9回 中性代名詞 en、数・量をたずねる疑問副詞 第 10回 動詞 faire、否定文の冠詞 第 11回 近接未来と近接過去、動詞 savoir と connaître 第 12回 中性代名詞 y、様子・方法・状態をたずねる疑問副詞 第 13回 過去分詞、知覚動詞、序数 第 14回 複合過去 第 15回 比較級と最上級		
テキスト	足立和彦ほか 『パルトン！パルロン！』（第三書房）	参考文献	特になし
評価方法	定期試験：50% 課題：20% 小テストと平常点：30%		

ドイツ語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
ドイツ語の第一歩		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語初習者を対象とした授業です。初級文法を学びながら、「話す・聴く・書く・読む」の基本的な力をつけていきます。あいさつや自己紹介からはじまり、簡単な日常会話ができるようになりますようにしましょう。			
授業の概要	初級文法、基本単語、表現、正確なイントネーションと発音等、話す・聴く・書く・読むの総合的な力をバランスよく身につけていきます。授業はパートナー練習を多く取り入れていきますので、積極的な参加を重視します。ほかにも映像などの資料を多くとりいれて、ドイツを身近に感じられるようにしていきたいと思ひます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 簡単なあいさつから 第2回 自己紹介 アルファベットと発音の基礎知識 第3回 お互いに知り合う 第4回 動詞の現在人称変化（規則変化） 第5回 動詞の現在人称変化（sein） 第6回 動詞の現在人称変化（haben 不規則変化動詞） 第7回 名詞の性 第8回 冠詞 ～好きな食べ物 第9回 冠詞類 第10回 不規則な変化をする動詞 第11回 分離動詞 ～週末の予定、一日の行動など 第12回 話法の助動詞 ～「～したい」という表現 第13回 非人称 ～天気表現 第14回 「夏休みは何をする？」 第15回 前期の総まとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」（飯田・江口）三修社	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

ドイツ語（初級）		通年（後期）	1年	
ドイツ語の基礎がため		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	初級文法に関する基本的な知識を完成させ、コミュニケーション力を養成していきます。複雑な文章にもチャレンジしてドイツ語の文体に慣れていきます。			
授業の概要	前期に学んだ内容を発展させて、さらに複雑な構造の文を理解し、話し、書けるようにしていきます。前期と同様に、パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。映像資料を参考に、ドイツの歴史なども学んでいきたいと思ひます。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前期の簡単な復習 第2回 「夏休みは何をした？」など過去のできごとを表現する 第3回 動詞の三基本形を学ぶ 第4回 前置詞を使って、位置や場所に関する表現を学ぶ 第5回 過去形と現在完了 第6回 受動文 ～修理や・家事・料理に関する表現 第7回 再帰表現 ～趣味や楽しみにしていることなど 第8回 ふたつの文をひとつにする方法 第9回 比較・最上級 第10回 zu不定詞を使って表現 第11回 従属の接続詞と副文 第12回 非現実表現 第13回 「もしも～だったら」という表現 第14回 総復習 第15回 一年のまとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」（飯田・江口著 三修社）	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

中国語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
はじめの中国語		孔 令敬（こう れいけい）		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙量と文法の習得を到達目標とする。			
授業の概要	前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 中国語とは 第2回 母音と声調について 第3回 子音について 第4回 鼻母音と特殊母音について 第5回 音節と軽声 第6回 発音と発音表記のまとめ 第7回 動詞述語と形容詞が述語の表現について 第8回 疑問文の作り方について 第9回 まとめと練習（小テストを含む） 第10回 所在と存在を表す表現について 第11回 動作の進行と状態の持続を表す表現について 第12回 まとめと練習（小テストを含む） 第13回 前置詞による構文を使う表現について 第14回 動作の完了と過去を表す表現について 第15回 まとめと練習（小テストを含む）			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100 ②中日辞書・発行所：小学館（電子辞書も可）	
評価方法	小テストと授業参加度：50% 筆記テスト：50%			

中国語（初級）		通年（後期）	1年	
はじめの中国語		孔 令敬（こう れいけい）		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙の習得を目指す。			
授業の概要	授業内容：前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 助動詞を使う表現について 第2回 経験と実現ずみのことを表す表現について 第3回 慣用句を使う表現について 第4回 まとめと練習（小テストを含む） 第5回 動詞を運用する構文による表現について 第6回 行為の程度を表す表現について 第7回 動作の結果を表す表現について 第8回 まとめと練習（小テストを含む） 第9回 動作の方向を表す表現について 第10回 これから起きることを表す表現と処置を表す表現について 第11回 比較を表す表現について 第12回 まとめと練習（小テストを含む） 第13回 使役を表す表現について 第14回 受身を表す表現について 第15回 総まとめと練習 筆記テスト			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100	
評価方法	小テストと授業参加度：50% 筆記試験：50%			

中国語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
中国語で簡単な会話をする		本間 由香利（ほんま ゆかり）		
授業の到達目標 及びテーマ	ピンイン（発音記号）を読めるようにすることと、発音練習を重視し、単語単位ではなく文章を「中国語らしく」読めるよう訓練します。次に、必要最小限の文法を学び、シンプルな文を自分で組み立てられるようになることを目指します。			
授業の概要	比較的簡単なテキストを用いてゆっくりと授業を進めます。次々に新しい事を学ぶのではなく、十分に理解した上で反復訓練を行なうことを中心にします。学生諸君には大きな声で発音すること、進んで質問すること等、積極的に授業に参加して頂くことを期待します。また第三の言語を学び、日本語・英語を見る別の視線を身につける事にも配慮します。			
授業計画	【前期】 第 1回 私達が学ぶ「中国語」とは何か 第 2回 発音記号について 第 3回 発音練習（基礎） 第 4回 発音練習（応用） 第 5回 第 1 課 第 6回 復習と練習問題 第 7回 第 2 課 第 8回 復習と練習問題 第 9回 第 3 課 第 10回 復習と練習問題 第 11回 第 4 課 第 12回 復習と練習問題 第 13回 第 5 課 第 14回 復習と練習問題 第 15回 前期のまとめ			
テキスト	『ゼロから学ぶ中国語 検定試験合格への道のり』 周一川 他著 同学社	参考文献	授業内で指示する	
評価方法	平常点:60% 定期テストの平均:40%			

中国語（初級）		通年（後期）		1年
中国語で簡単な会話をする		本間 由香利（ほんま ゆかり）		
授業の到達目標 及びテーマ	前期に学んだ文法事項の理解と反復練習を通じて、自分のこと、身の回りの事柄について、簡単な中国語で会話ができるようになることを目標とします。			
授業の概要	比較的簡単なテキストを用いてゆっくりと授業を進めます。次々に新しい事を学ぶのではなく、十分に理解した上で反復訓練を行なうことを中心にします。学生諸君には大きな声で発音すること、進んで質問すること等、積極的に授業に参加して頂くことを期待します。また第三の言語を学び、日本語・英語を見る別の視線を身につける事にも配慮します。			
授業計画	【後期】 第 1回 前期の内容復習 第 6 課 第 2回 復習と練習問題 第 3回 第 7 課 第 4回 復習と練習問題 第 5回 第 8 課 第 6回 復習と練習問題 第 7回 第 9 課 第 8回 復習と練習問題 第 9回 第 10 課 第 10回 復習と練習問題 第 11回 第 11 課 第 12回 復習と練習問題 第 13回 第 12 課 第 14回 復習と練習問題 第 15回 後期のまとめ			
テキスト	『ゼロから学ぶ中国語 検定試験合格への道のり』 周一川 他著 同学社	参考文献	授業内で指示する	
評価方法	平常点:60% 定期テストの平均:40%			

韓国語（初級）		通年（前期）	2 単位	1年
韓国語と韓国文化		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講義では、韓国語の基礎をマスターすることを目的とする。到達目標は基本的な韓国語の読み、書き、聞き取り、それから簡単な日常会話ができるようにすることである。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式。 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション及び韓国語についての全般的な説明 第2回 第1課 基本母音 第3回 第1課 子音について（読み、書き） 第4回 第2課 単語の発音 第5回 第3課 濃音について 第6回 第4課 複合母音 第7回 第5課 終音について 第8回 第6課 子音の呼称 第9回 第7課 鼻音化について 第10回 第8課 流音化について 第11回 第9課 連音について 第12回 第10課 平音の濃音化 第13回 第11課 私は学生です（肯定形） 第14回 第12課 私は学生ではありません（体言否定形） 第15回 ハングルのワードの打ち方実習			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

韓国語（初級）		通年（後期）		1年
韓国語と韓国社会		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語の読み書き、聞き取り、会話能力を身につけ、様々な場面で韓国語が駆使できるようにする。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 第13課 3年生です（漢数詞について） 第2回 第13課 練習（漢数詞を使つての物の言い方） 第3回 第14課 何と言いますか（物の値段の言い方） 第4回 第14課 練習 疑問文について 第5回 第15課 今、何時ですか（時刻の言い方） 第6回 第15課 練習 固有数字について 第7回 第16課 どこへ行くのですか（用言とその上称形） 第8回 第16課 練習 動詞の上称形について 第9回 第17課 駅から家まで（主な助詞） 第10回 第17課 練習 形容詞について 第11回 第18課 ちょっとお尋ねします（意推量を表わす表現） 第12回 第18課 練習 位置を表わす表現 第13回 第19課 おいくつでいらっしゃいますか（尊敬形） 第14回 第19課 練習 動詞の尊敬形 第15回 第20課 好きではありません（用言否定形）			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

英語Ⅴ		通年（前期）	2 単位	1・2・3年
社会・人文系の論説を読み解くための基礎訓練		輪島 達郎（わじま たつろう）		
授業の到達目標 及びテーマ	社会系（政治・社会・経済・法律など）および人文系（哲学・教育・心理・言語・文化など）のアカデミックな論説文をていねいに解読しながら基礎的な文法事項を修得することによって、曖昧な部分を残さずに英文を論理的に読む力を身につけ、編入学試験に求められる英文読解力を養成する。			
授業の概要	論説文のテキストを逐語的に解読する作業を基本としながら、良質な例文を数多く提示することによって文法事項を説明し、訳読にあたっての留意点を示していく。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業計画と進め方の説明 第2回 テキスト第1課の訳読 第3回 テキスト第1課の文法事項説明 第4回 テキスト第1課の問題演習 第5回 テキスト第2課の訳読 第6回 テキスト第2課の文法事項説明 第7回 テキスト第2課の問題演習 第8回 テキスト第3課の訳読 第9回 テキスト第3課の文法事項説明 第10回 テキスト第3課の問題演習 第11回 テキスト第4課の訳読 第12回 テキスト第4課の文法事項説明 第13回 テキスト第4課の問題演習 第14回 編入学過去問演習（社会系） 第15回 編入学過去問演習（人文系）			
テキスト	教室で随時配布	参考文献	教室で随時提示	
評価方法	期末試験：99% 平常点：1%			

英語Ⅴ		通年（後期）	1・2・3年
社会・人文系の論説を読み解くための文脈理解力の養成		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	基本的な文法事項の修得は完了していることを前提に、やや高度な社会系（政治・社会・経済・法など）および人文系（哲学・歴史・教育・心理・言語・文化など）の論説文を読み、さまざまな知識を動員しながら、より深いところに流れる文脈を探り当てる力を養成する。		
授業の概要	論説文のテキストを逐語的に解読する作業を行っていくが、そのさいに、センテンス単位だけで英文を理解するのではなく、パラグラフや文章全体の構造を把握することに重点をおく。さらに、文脈理解のための背景知識を動員する力——歴史認識、社会認識、人間理解の力——を同時に養っていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業計画と進め方の説明 第2回 テキスト第1課の訳読 第3回 テキスト第1課の構造理解 第4回 テキスト第1課の問題演習 第5回 テキスト第2課の訳読 第6回 テキスト第2課の構造理解 第7回 テキスト第2課の問題演習 第8回 テキスト第3課の訳読 第9回 テキスト第3課の構造理解 第10回 テキスト第3課の問題演習 第11回 テキスト第4課の訳読 第12回 テキスト第4課の構造理解 第13回 テキスト第4課の問題演習 第14回 編入学過去問演習（社会系） 第15回 編入学過去問演習（人文系）		
テキスト	教室で随時配布	参考文献	教室で随時提示
評価方法	期末試験：99% 平常点：1%		

フランス語 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	1・2・3年
日常のコミュニケーション能力を獲得するために		加藤 行男 (かとう ゆきお)		
授業の到達目標 及びテーマ	毎回の授業を通してフランス語の綴り字と発音の対応関係をしっかりと身につける。基本動詞の現在形の活用を学習し、それに基づいて、疑問の表し方、あるいは答え方などを習得し、必要な情報を獲得し、また発信できるようになること。			
授業の概要	毎回の授業で音読の練習を行う。初めてのフランス語であるから、フランス語の仕組み＝文法に関しては教員が少しづつ説明していくが、その他の練習などは教員と受講生との口頭でのやり取りを基本として進めていき、最後に板書によって確認していく。各テーマが終わる毎に小テストとしてディクテーションを行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 フランス語の音と文字、数字 第 2回 フランスとはどんな国？ 第 3回 あいさつの表現 第 4回 名詞の性数、冠詞、前置詞と定冠詞の縮約 第 5回 空港での会話―両替所にて 第 6回 形容詞の変化、所有形容詞、提示の表現 第 7回 ホテルでの会話―フロントにて 第 8回 特殊な形容詞、人称代名詞強勢形、il y a ~の表現 第 9回 郵便局の窓口での会話 第 10回 電話での会話 第 11回 否定文、指示形容詞 第 12回 avoir + 無冠詞名詞の表現 第 13回 カフェでのウェイターとの会話 第 14回 疑問文、非人称構文 第 15回 メトロの窓口での会話			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版― (朝日出版社)	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語 I (初級)		通年 (後期)		1・2・3年
コミュニケーションの幅を広げよう		加藤 行男 (かとう ゆきお)		
授業の到達目標 及びテーマ	綴り字と発音の対応関係の習得度をより確かなものとする。また不規則動詞の活用、さまざまな代名詞の使い方を学習し、現在形だけでなく過去形による幅広い表現を理解し、多様な話題について発信できるようになること。			
授業の概要	毎回、音読の練習を行う。文法事項の説明は教員が行うが、その他の作業は受講生各人にやってもらうので、受け身の学習にならないように積極的に取り組んでもらいたい。口頭でのやり取りだけでなく、受講生に板書してもらうこともある。各テーマが終わる毎にディクテーションを実施する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 近い未来と近い過去の表現、疑問形容詞 第 2回 中性代名詞 en と y 第 3回 観光バスに乗るための会話 第 4回 命令形、目的語となる人称代名詞 第 5回 食料品店での会話 第 6回 疑問代名詞 第 7回 疑問副詞 第 8回 レストランでの会話 第 9回 過去分詞、複合過去形 第 10回 受動態 第 11回 美術館での会話 第 12回 比較級・最上級 第 13回 代名動詞、性数のある指示代名詞 第 14回 プティックでの会話 第 15回 さらなるフランス語学習を目指して―フランス語の全体像			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版― (朝日出版社)	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2・3年
確実な理解を目指して		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標及びテーマ	1年次に学習したことを復習するとともに、話し言葉でも書き言葉でも最もよく用いられる過去形の運用を確実なものにする。また自分自身について、しっかりとした情報を発信できるようになる。			
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、簡単な会話文の理解や作文が授業の中心的な作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や訳読、作文は受講生各自にやってもらう。したがって積極的な取り組みが望まれる。3、4課ごとに小テストを実施する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 綴り字の読み方の復習 第2回 限定詞（冠詞、指示形容詞、所有形容詞） 第3回 聞き取り：人物選択 第4回 直説法現在（規則動詞、不規則動詞）、命令形 第5回 作文：自己紹介 第6回 代名動詞 第7回 人称代名詞、代名詞 on 第8回 短い手紙を読む 第9回 疑問詞 第10回 インタビュー：あなた自身について 第11回 直説法複合過去、近接過去 第12回 インタビュー：夏休みについて 第13回 比較級、最上級 第14回 性・数の一致 第15回 まとめと復習			
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語Ⅱ（中級）		通年（後期）	2・3年	
フランス語の全体像をつかみ、基礎を完成させよう		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標及びテーマ	フランス語基礎学習の最終段階である。未来形やさまざまな過去形を学習し、フランス語の全体像を理解する。同時に語彙力をつけて、検定試験などに対応できるようになる。			
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、会話文の理解や作文が授業の中心的な作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や会話文の訳読、作文は受講生各自にってもらう。予習は必須である。3、4課ごとに小テストを実施する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 直説法単純未来、近接未来、非人称表現 第2回 作文：旅行の日程 第3回 直説法半過去 第4回 文の完成：昔と今 第5回 関係代名詞 第6回 直説法複合過去と半過去 第7回 指示代名詞、所有代名詞 第8回 会話文：ショッピング 第9回 中性代名詞 第10回 会話文：青果店での買物 第11回 現在分詞、ジェロンディフ、受動態 第12回 作文：リラックスの仕方 第13回 条件法現在・過去 第14回 接続法現在・過去 第15回 まとめと復習			
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

ドイツ語 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	1・2・3年
ドイツ語の第一歩		飯田 道子 (いいだ みちこ)		
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語初習者を対象とした授業です。初級文法を学びながら、「話す・聴く・書く・読む」の基本的な力をつけていきます。あいさつや自己紹介からはじまり、簡単な日常会話ができるようになりましょう。			
授業の概要	初級文法、基本単語、表現、正確なイントネーションと発音等、話す・聴く・書く・読むの総合的な力をバランスよく身につけていきます。授業はパートナー練習を多く取り入れていきますので、積極的な参加を重視します。ほかにも映像などの資料を多くとりいれて、ドイツを身近に感じられるようにしていきたいと思います。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 導入 簡単なあいさつから 第 2回 自己紹介 アルファベットと発音の基礎知識 第 3回 お互いに知り合う 第 4回 動詞の現在人称変化 (規則変化) 第 5回 動詞の現在人称変化 (sein) 第 6回 動詞の現在人称変化 (haben 不規則変化動詞) 第 7回 名詞の性 第 8回 冠詞 ~好きな食べ物 第 9回 冠詞類 第 10回 不規則な変化をする動詞 第 11回 分離動詞 ~週末の予定、一日の行動など 第 12回 話法の助動詞 ~「~したい」という表現 第 13回 非人称 ~天気の状態 第 14回 「夏休みは何をする？」 第 15回 前期の総まとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」(飯田・江口)三修社	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

ドイツ語 I (初級)		通年 (後期)	1・2・3年	
ドイツ語の基礎がため		飯田 道子 (いいだ みちこ)		
授業の到達目標 及びテーマ	初級文法に関する基本的な知識を完成させ、コミュニケーション力を養成していきます。複雑な文章にもチャレンジしてドイツ語の文体に慣れていきます。			
授業の概要	前期に学んだ内容を発展させて、さらに複雑な構造の文を理解し、話し、書けるようにしていきます。前期と同様に、パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。映像資料を参考に、ドイツの歴史なども学んでいきたいと思えます。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 前期の簡単な復習 第 2回 「夏休みは何をした？」など過去のできごとを表現する 第 3回 動詞の三基本形を学ぶ 第 4回 前置詞を使って、位置や場所に関する表現を学ぶ 第 5回 過去形と現在完了 第 6回 受動文 ~修理や・家事・料理に関する表現 第 7回 再帰表現 ~趣味や楽しみにしていることなど 第 8回 ふたつの文をひとつにする方法 第 9回 比較・最上級 第 10回 zu不定詞を使って表現 第 11回 従属の接続詞と副文 第 12回 非現実の表現 第 13回 「もしも~だったら」という表現 第 14回 総復習 第 15回 一年のまとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」(飯田・江口著 三修社)	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

ドイツ語 I (初級)		通年 (前期) 2 単位	1・2・3年
ドイツ語入門		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標及びテーマ	読む、書く、聴く、話すという多角度で、実際のドイツ語の初歩ができるようになる。		
授業の概要	ドイツ語について各章ごとにテーマのある、学生同士の対話中心のテキストに沿って進め、発音練習、文法説明後に確認練習、テキスト付属CDを使つてのキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	【前期】 第 1回 授業の概要説明、アルファベット 第 2回 発音 第 3回 動詞、語順 第 4回 挨拶 第 5回 名詞 第 6回 冠詞 第 7回 前置詞 第 8回 人称代名詞 第 9回 不規則変化動詞 第 10回 命令文 第 11回 冠詞類 第 12回 話法の助動詞 第 13回 形容詞 第 14回 複数形 第 15回 まとめ		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書 (最初の時間に紹介するので、毎時間携帯しておくこと)
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

ドイツ語 I (初級)		通年 (後期)	1・2・3年
初級ドイツ語		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標及びテーマ	ドイツ語 I で習得した入門ドイツ語をさらに深めて、初級ドイツ語を一通り理解し、実践的運用ができるようになる。		
授業の概要	テキストに沿って進め、文法説明後に確認練習、日常会話の練習、テキスト付属のCDを使つてのキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	【後期】 第 1回 前期の復習、数字 第 2回 現在完了形 第 3回 過去形 第 4回 動詞の三基本形 第 5回 形式上の主語es 第 6回 比較表現 第 7回 副文 第 8回 日付、時刻の言い方 第 9回 接続法 第 10回 手紙の書き方 第 11回 分離動詞 第 12回 再帰動詞 第 13回 受動 第 14回 関係文 第 15回 まとめ		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書、その他随時紹介
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

ドイツ語Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2・3年
中級へのステップアップ		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	1年次に学んだ文法を復習しながら、未習の文法事項を学び完成させることで、初級から中級へのステップアップをはかります。			
授業の概要	1年次の文法を復習・強化しながら、さらに未習の文法を学びます。パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。文法の復習順序は参加者のレベルと照らし合わせながら決めていきますが、以下のような内容を考えています。文法学習以外にも、映画を観たりしたいと思います。			
授業計画	【前期】 第1回 導入 自己紹介 第2回 現在完了の復習 第3回 過去のことを語る 第4回 副文の復習 第5回 副文を使って表現 第6回 助動詞の構文 第7回 ニュアンスのある表現 第8回 受動文 第9回 歴史のことを読む 第10回 関係文 第11回 再帰表現 第12回 接続法 第13回 非現実の表現 第14回 夏休みの予定 第15回 まとめ			
テキスト	参加者と話し合っ決定します	参考文献	授業内に適宜指示します	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%			

ドイツ語Ⅱ（中級）		通年（後期）	2 単位	2・3年
総合的な力をつけよう		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	これまで学習したドイツ語文法を使って、高度な内容の文章を読み、聴き取り、自ら発信していく力を養います。			
授業の概要	ドイツについてのさまざまなテーマを選んで、これまでより高度な内容の文章を読んでいきます。ドイツの歴史や文化についての理解を深められるよう、映像資料を取り入れたり、パソコンを使った授業も行っていきたいと思っています。テーマごとのプレゼンテーションも行いたいと思っています。			
授業計画	【後期】 第1回 夏休みはなにをした？ 第2回 ドイツとは 第3回 ドイツの歴史的、地理的理解 第4回 ヨーロッパにおけるドイツ 第5回 ドイツのことを調べる 第6回 ドイツのことを調べて発表する 第7回 ドイツ現代史 第8回 ベルリンの壁 第9回 壁崩壊 第10回 東西ドイツの問題点 第11回 メルヒエンを読む—Part.1 第12回 メルヒエンを読む—Part.2 第13回 メルヒエンの発表 第14回 メルヒエンの受容史 第15回 まとめ			
テキスト	適宜コピーを配布します	参考文献	授業内に適宜指示します	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%			

中国語 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	1・2・3年
はじめの中国語		孔 令敬 (こう れいけい)		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙量と文法の習得を到達目標とする。			
授業の概要	前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 中国語とは 第2回 母音と声調について 第3回 子音について 第4回 鼻母音と特殊母音について 第5回 音節と軽声 第6回 発音と発音表記のまとめ 第7回 動詞述語と形容詞が述語の表現について 第8回 疑問文の作り方について 第9回 まとめと練習 (小テストを含む) 第10回 所在と存在を表す表現について 第11回 動作の進行と状態の持続を表す表現について 第12回 まとめと練習 (小テストを含む) 第13回 前置詞による構文を使う表現について 第14回 動作の完了と過去を表す表現について 第15回 まとめと練習 (小テストを含む)			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100 ②中日辞書・発行所：小学館 (電子辞書も可)	
評価方法	小テストと授業参加度:50% 筆記テスト:50%			

中国語 I (初級)		通年 (後期)	1・2・3年	
はじめの中国語		孔 令敬 (こう れいけい)		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙の習得を目指す。			
授業の概要	授業内容：前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 助動詞を使う表現について 第2回 経験と実現ずみのことを表す表現について 第3回 慣用句を使う表現について 第4回 まとめと練習 (小テストを含む) 第5回 動詞を運用する構文による表現について 第6回 行為の程度を表す表現について 第7回 動作の結果を表す表現について 第8回 まとめと練習 (小テストを含む) 第9回 動作の方向を表す表現について 第10回 これから起きることを表す表現と処置を表す表現について 第11回 比較を表す表現について 第12回 まとめと練習 (小テストを含む) 第13回 使役を表す表現について 第14回 受身を表す表現について 第15回 総まとめと練習 筆記テスト			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100	
評価方法	小テストと授業参加度:50% 筆記試験:50%			

中国語Ⅱ（中級）	通年（前期）	2 単位	2・3年
役に立つ中国語のために	呉 秀月（ご しゅうげつ）		
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 初級の復習1：基本動詞・基本形容詞をチェック 第2回 初級の復習1：基本形容詞をチェック 第3回 初級の復習2：基本文型をチェック 第4回 第1課：助動詞の学習 第5回 第1課：主述述語文の学習 第6回 第1課：目的語が主述句の学習 第7回 第2課：「原因・理由」表現の学習 第8回 第2課：「逆接」を表す「可是」の学習 第9回 第3課：文末の助詞連動文の学習 第10回 第3課：「是…的」の文・疑問詞の学習 第11回 第4課：「了」の3つの用法 第12回 第4課：副詞「就」 第13回 第5課：結果補語(1)の学習 第14回 第5課：副詞「有点儿」・「假定」を表す「要是」の学習 第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】尹景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」（白水社、2013） 【参考文献】特になし 【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>			

中国語Ⅱ（中級）	通年（後期）	2 単位	2・3年
役に立つ中国語のために	呉 秀月（ご しゅうげつ）		
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>本授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中国語Ⅳは、前期の中国語Ⅲに引き続き、一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 第6課：存現文・主語がブレイズのときの学習 第2回 第6課：「又…又」の用法の学習 第3回 第7課：「状態の持続」を表す「着」の学習 第4回 第7課：副詞「再」・部分否定の学習 第5回 第8課：方向補語の学習 第6回 第8課：「使役」を表す疑問詞の不定用法の学習 第7回 第9課：可能補語の学習 第8回 第9課：強調表現の学習 第9回 第10課：「目的」を表す学習 第10回 第10課：「推測」を表す「会」・「～了～了」の用法の学習 第11回 第11課：結果補語(2)の学習 第12回 第11課：「受身」を表す「被」の学習 第13回 第12課：「快～了」の用法の学習 第14回 第12課：介詞「把」の学習 第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】尹景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」（白水社、2013） 【参考文献】特になし 【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>			

韓国語 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	2・3年
韓国語と韓国文化		川村 受映 (かわむら じゅえい)		
授業の到達目標 及びテーマ	この講義では、韓国語の基礎をマスターすることを目的とする。到達目標は基本的な韓国語の読み、書き、聞き取り、それから簡単な日常会話ができるようにすることである。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式。 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 オリエンテーション及び韓国語についての全般的な説明 第 2回 第 1 課 基本母音 第 3回 第 1 課 子音について (読み、書き) 第 4回 第 2 課 単語の発音 第 5回 第 3 課 濃音について 第 6回 第 4 課 複合母音 第 7回 第 5 課 終音について 第 8回 第 6 課 子音の呼称 第 9回 第 7 課 鼻音化について 第 10回 第 8 課 流音化について 第 11回 第 9 課 連音について 第 12回 第 10 課 平音の濃音化 第 13回 第 11 課 私は学生です (肯定形) 第 14回 第 12 課 私は学生ではありません (体言否定形) 第 15回 ハングルのワードの打ち方実習			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

韓国語 I (初級)		通年 (後期)		2・3年
韓国語と韓国社会		川村 受映 (かわむら じゅえい)		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語の読み書き、聞き取り、会話能力を身につけ、様々な場面で韓国語が駆使できるようにする。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 第 13 課 3年生です (漢数詞について) 第 2回 第 13 課 練習 (漢数詞を使つての物の言い方) 第 3回 第 14 課 何と言いますか (物の値段の言い方) 第 4回 第 14 課 練習 疑問文について 第 5回 第 15 課 今、何時ですか (時刻の言い方) 第 6回 第 15 課 練習 固有数字について 第 7回 第 16 課 どこへ行くのですか (用言とその上称形) 第 8回 第 16 課 練習 動詞の上称形について 第 9回 第 17 課 駅から家まで (主な助詞) 第 10回 第 17 課 練習 形容詞について 第 11回 第 18 課 ちょっとお尋ねします (意推量を表わす表現) 第 12回 第 18 課 練習 位置を表わす表現 第 13回 第 19 課 おいくつでいらっしゃいますか (尊敬形) 第 14回 第 19 課 練習 動詞の尊敬形 第 15回 第 20 課 好きではありません (用言否定形)			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

韓国語Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2・3年
もっと知りたい韓国語・韓国文化		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語初級を学んだ学生を対象に、一年目に習った文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能（聞く、話す、読む、書く）を一層高めることを目標にする。			
授業の概要	聞き取り、会話発表、パートナー学習などを取り入れた練習を行う。具体的には授業中二人一つのペアーを組み、会話の練習を繰り返すことである程度の日常会話ができるようにする。なお、韓国関係のDVDや映画などを用いることで、韓国の現代社会や文化にもふれる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 第1課 お名前は何とおっしゃいますか（尊敬） 第2回 第1課 ～たら（条件・仮定） 第3回 第1課 ～たら ～しようと思います（意図・計画） 第4回 第2課 朝子といいますが、日本から来ました（説明） 第5回 第2課 ～した後で ～する前に（動作の順序） 第6回 第2課 ～してから、～して以来（期間） 第7回 第3課 魚は焼かないでください（義務） 第8回 第3課 ～てもいいです（許可・禁止） 第9回 第3課 ～しなければなりません（義務） 第10回 第4課 ファンの集いに行くことにしました（形容詞） 第11回 第4課 ～て、～なので（理由） 第12回 第4課 ～することにしました【決心・約束】 第13回 第5課 道を渡って左にずっと行ってください（位置） 第14回 第5課 ～て（手段） 第15回 第5課 ～してから（動作の順序・連絡）			
テキスト	「ちよこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔栄美著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%			

韓国語Ⅱ（中級）		通年（後期）	2 単位	2・3年
もっと知りたい韓国語・韓国社会		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語Ⅲを学んだ学生を対象に、文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能（聞く、話す、読む、書く）を一層高めることを目標にする。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出す			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 6課 ファンの集いへ行ってみたんですけど 第2回 6課 ～している、～する（動詞・存在詞の現在連体形） 第3回 6課 ～してみました（試行・経験） 第4回 6課 ～なんだけれど（物やできごとの状況説明・感想） 第5回 7課 少し安くしてください 第6回 7課 ～してください（依頼） 第7回 7課 ～してみてください（勧誘・アドバイス） 第8回 7課 ～していただけますか？（より丁寧な依頼） 第9回 8課 私の気持ちですから受け取ってください 第10回 8課 ～だから（理由・根拠） 第11回 8課 ～ですなあ（感嘆） 第12回 8課 ～そうです、～だろうと思います（推測） 第13回 9課 咳がひどくて眠れませんでした 第14回 9課 ～でいらっしやいます（かしこまった尊敬） 第15回 9課 ～できない（不可能）			
テキスト	「ちよこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔栄美著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%			

健康科学Ⅱ		前期 1 単位	1・2・3年
ライフステージの健康と運動		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性の健康について幅広く知識と理解を深め、日常生活に活かせるようにする。 ○ 長寿社会にあって、年老いても自立し生きがいのある生活を送るためには、若い時からどのように心がけることが必要なかを模索する。 		
授業の概要	健康について歴史上ではどう考えられてきたか、フィットネスブームとダイエットブームは現在の健康や運動のあり方にどう影響を与えてきたか、女性の立場から日常生活を健康で生きがいをもって送るために必要な知識とは、など授業計画に沿って講義する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 現代社会における課題 第 2回 健康な体と心（歴史上ではどう考えられてきたか） 第 3回 スポーツとジェンダー（社会的な女性スポーツの位置づけ） 第 4回 フィットネスブームとダイエットブーム（ダイエットは必要か） 第 5回 推定エネルギー必要量と運動強度（身体活動量） 第 6回 運動と栄養（運動に必要な栄養素、サービッツ数） 第 7回 女性の体と健康（妊娠、出産、依存症） 第 8回 測定（骨密度、BMI、体脂肪、背筋力、運動強度など） 第 9回 運動と筋肉（効果的に鍛えるには） 第10回 健康維持のための有酸素運動 第11回 運動と疲労（疲労回復のために） 第12回 運動と呼吸・睡眠 第13回 運動と骨（健康な骨のために） 第14回 スポーツ傷害と応急処置 第15回 まとめ 		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

健康科学Ⅱ		後期 1 単位	1・2・3年
ライフステージの健康と運動		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性の健康について幅広く知識と理解を深め、日常生活に生かしていく。 ○ 長寿社会にあって、年老いても自立し生きがいのある生活を送るためには、若い時からどのように心がけることが必要なかを模索する。 		
授業の概要	健康について歴史上ではどう考えられてきたか、フィットネスブームとダイエットブームは、現在の健康や運動のあり方にどう影響を与えてきたか。女性の立場から日常生活を健康で生きがいを持って送るために必要な知識について、授業計画に沿って講義する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 現代社会における課題 第 2回 健康な体と心（歴史上ではどう考えられてきたか） 第 3回 スポーツとジェンダー（社会的な女性スポーツの位置づけ） 第 4回 フィットネスブームとダイエットブーム（ダイエットは必要か） 第 5回 推定エネルギー必要量と運動強度（身体活動量） 第 6回 運動と栄養（運動に必要な栄養素、サービッツ数） 第 7回 女性のからだと健康（妊娠、出産、依存症） 第 8回 測定（骨密度、BMI、体脂肪、背筋力、運動強度など） 第 9回 運動と筋肉（効果的に鍛えるには） 第10回 健康維持のための有酸素運動 第11回 運動と疲労（疲労回復のために） 第12回 運動と呼吸・睡眠 第13回 運動と骨（健康な骨のために） 第14回 スポーツ傷害と応急処置 第15回 まとめ 		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

健康科学Ⅲ		前期 1 単位	1・2・3年
健康と運動（スポーツ）		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯の健康について運動の観点から考えていくことが中心となる。また、身体の様々な機能などを理解すること、そして運動することで身体にはどのような変化が起こるかなどと合わせ健康作りへの知識を深めることが課題となる。		
授業の概要	授業では、現代人の（私たちの）生活習慣や健康への課題を整理し、運動（スポーツ）による身体への影響や変化、そしてその効果と運動の仕方について講義する。		
授業計画	【前期】 第 1回 現代のスポーツ 第 2回 私たちにとって「健康」とは？ 第 3回 生活習慣と健康 第 4回 運動の行い方 第 5回 運動による影響と効果 第 6回 運動と体脂肪の関係 第 7回 運動とダイエット 第 8回 有酸素運動 第 9回 運動と栄養 第 10回 運動と骨や筋肉の関係 第 11回 骨密度測定 第 12回 スポーツと傷害（障害）予防 第 13回 成長と運動 第 14回 運動プログラムの組み立て方 第 15回 スポーツの魅力		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	テスト：70% 平常点：30%		

健康科学Ⅲ		後期 1 単位	1・2・3年
健康と運動（スポーツ）		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯の健康について運動の観点から考えていくことが中心となる。また、身体の様々な機能などを理解すること、そして運動することで身体にはどのような変化が起こるかなどと合わせ健康作りへの知識を深めることが課題となる。		
授業の概要	授業では、現代人の（私たちの）生活習慣や健康への課題を整理し、運動（スポーツ）による身体への影響や変化、そしてその効果と運動の仕方について講義する。		
授業計画	【後期】 第 1回 現代のスポーツ 第 2回 私たちにとって「健康」とは？ 第 3回 生活習慣と健康 第 4回 運動の行い方 第 5回 運動による影響と効果 第 6回 運動と体脂肪の関係 第 7回 運動とダイエット 第 8回 有酸素運動 第 9回 運動と栄養 第 10回 運動と骨や筋肉の関係 第 11回 骨密度測定 第 12回 スポーツと傷害（障害）予防 第 13回 成長と運動 第 14回 運動プログラムの組み立て方 第 15回 スポーツの魅力		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	テスト：70% 平常点：30%		

健康科学Ⅳ		前期 1 単位	1・2・3年
女性の健康と運動		昆野 まり子（こんの まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	女性らしく生きいきとした生活を送るために、健康とは何か、運動の必要性、思春期の女性として身につけておきたい知識を、講義と演習を通して学びます。		
授業の概要	前半は講義中心で行います。後半は、測定やWS、ライフスタイルチェック等、健康が自分自身の身体、生活習慣と深く結びついていることを再確認する為に、演習的な内容も含んでいきます。講義ですが出席を重視します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 健康と身体の知識 第3回 運動と骨・筋肉 第4回 運動と食事 第5回 運動と呼吸・睡眠 第6回 運動とダイエット① あなたは本当に太っていますか？ 第7回 運動とダイエット② ダイエットのために大切なこと 第8回 測定とワークショップ① あなたの数値を知りましょう 第9回 女性のライフスタイル 第10回 女性の病気 第11回 様々な依存症 第12回 測定とワークショップ② 1か月後のあなたは？ 第13回 障害者とスポーツ 第14回 自己実現 第15回 応急手当 まとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中、適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションシート:20% 最終時のレポート内容:20%		

健康科学Ⅳ		後期 1 単位	1・2・3年
女性の健康と運動		昆野 まり子（こんの まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	女性らしく生きいきとした生活を送るために、健康とは何か、運動の必要性、思春期の女性として身につけておきたい知識を、講義と演習を通して学びます。		
授業の概要	前半は講義中心で行います。後半は、測定やWS、ライフスタイルチェック等、健康が自分自身の身体、生活習慣と深く結びついていることを再確認する為に、演習的な内容も含んでいきます。講義ですが出席を重視します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 健康と身体の知識 第3回 運動と骨・筋肉 第4回 運動と食事 第5回 運動と呼吸・睡眠 第6回 運動とダイエット① あなたは本当に太っていますか？ 第7回 運動とダイエット② ダイエットのために大切なこと 第8回 測定とワークショップ① あなたの数値を知りましょう 第9回 女性のライフスタイル 第10回 女性の病気 第11回 様々な依存症 第12回 測定とワークショップ② 1か月後のあなたは？ 第13回 障害者とスポーツ 第14回 自己実現 第15回 応急処置 まとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションシート:20% 授業最終レポート:20%		

健康科学Ⅳ		前期 1 単位	1・2・3年
運動と健康－体が変われば心が変わる、心が変われば体も変わる－		林 眞幾子（はやし まきこ）	
授業の到達目標及びテーマ	現在の「体と心＝まるごとのからだ」をみつめ、近未来のリアルな「私像」を描きながら健康を身近に引き寄せる具体策を探り、日々の運動実践に繋ぐ意欲的姿勢を育む。		
授業の概要	運動と健康の理論について多角的な視座からアプローチを進め、「からだ」の教養を深めるとともに、ライフステージを輝いて生きる、そのあり方を探究する。 講義を中心とするが、体への気づきを促すためのワークショップ（実践体験）も含めて計画する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 現在の健康度チェックと“からだ”クイズ 第2回 からだ（体と心）－発育・発達と健康 第3回 20歳からのからだ① 考えて食べる 第4回 20歳からのからだ② 考えて寝る 第5回 20歳からのからだ③ 考えて動く 第6回 からだと運動① 私の体は？ ※ワークショップ 第7回 からだと運動② 体力とは？運動器とは？ 第8回 からだと運動③ 生活のなかでフィットネス 第9回 「感染症や薬物」とからだ 第10回 女性の身体特性 第11回 ダイエットと摂食障害 第12回 健康的なダイエットーリバウンドの秘密 第13回 ボディ・ケア ※ワークショップ 第14回 体のリズム、心の健康 第15回 まとめ、小テスト		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著；共栄出版	参考文献	授業時に資料配付（適宜）
評価方法	理解度チェック（毎時）：80% 小テスト：20%		

健康科学Ⅳ		後期 1 単位	1・2・3年
運動と健康－体が変われば心が変わる、心が変われば体も変わる－		林 眞幾子（はやし まきこ）	
授業の到達目標及びテーマ	現在の「体と心＝まるごとのからだ」をみつめ、近未来のリアルな「私像」を描きながら健康を身近に引き寄せる具体策を探り、日々の運動実践に繋ぐ意欲的姿勢を育む。		
授業の概要	運動と健康の理論について多角的な視座からアプローチを進め、「からだ」の教養を深めるとともに、ライフステージを輝いて生きる、そのあり方を探究する。 講義を中心とするが、体への気づきを促すためのワークショップ（実践体験）も含めて計画する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 現在の健康度チェックと“からだ”クイズ 第2回 からだ（体と心）－発育・発達と健康 第3回 20歳からのからだ① 考えて食べる 第4回 20歳からのからだ② 考えて寝る 第5回 20歳からのからだ③ 考えて動く 第6回 からだと運動① 私の体は？ ※ワークショップ 第7回 からだと運動② 体力とは？運動器とは？ 第8回 からだと運動③ 生活のなかでフィットネス 第9回 「感染症や薬物」とからだ 第10回 女性の身体特性 第11回 ダイエットと摂食障害 第12回 健康的なダイエットーリバウンドの秘密 第13回 ボディ・ケア ※ワークショップ 第14回 体のリズム、心の健康 第15回 まとめ、小テスト		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著；共栄出版	参考文献	授業時に資料配付（適宜）
評価方法	理解度チェック（毎時）：80% 小テスト：20%		

健康科学Ⅴ		前期 1 単位	1・2・3年
こころの健康		鈴木 幹夫 (すずき みきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>身体の健康に比べ、心の健康について、日常我々は、さほど気にとめないように思われます。それは、心が自らを見つめるとき、その当の心自身の不健康さには気づきにくいという、心の構造上の事情があるのかも知れません。眼は、自らを直接視ることができず、おのれを視るためには鏡を要するように、です。そんな心の健康、不健康について考え</p>		
授業の概要	<p>講義が中心となります。解らないこと疑問があれば、随時その場で質問をしてください。イメージし易いように、なるべく具体的な例を挙げ、解りやすく説明するよう心がけます。下記の授業計画は、おおよその予定であり、多少前後する場合があります。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 総論1 こころと脳</p> <p>第2回 総論2 こころの発達 1 (フロイトの発達理論)</p> <p>第3回 総論3 こころの発達 2 (発達論的性格類型)</p> <p>第4回 各論1 性格の形成、神経症総論</p> <p>第5回 各論2 女性に多い神経症 (ヒステリーについて)</p> <p>第6回 各論3 男性に多い神経症 (強迫症について)</p> <p>第7回 各論4 小児期の問題 (妊娠中注意すべきことなど)</p> <p>第8回 各論5 青年期のこころの健康 1 (思春期やせ症)</p> <p>第9回 各論6 青年期のこころの健康 2 (薬物依存など)</p> <p>第10回 各論7 気分障害 1 (うつ病性障害と双極性障害)</p> <p>第11回 各論8 気分障害 2 (うつ病のメカニズムなど)</p> <p>第12回 各論9 統合失調症 1 (成因、症状と経過など)</p> <p>第13回 各論10 統合失調症 2 (分類、治療など)</p> <p>第14回 周辺領域1 司法精神医学 (精神鑑定について)</p> <p>第15回 周辺領域2 創造と精神医学 (病跡学について)</p>		
テキスト	鈴木幹夫著 『コメディカルのための精神医学』 DTP出版	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書を参照のこと。他は、授業時に随時紹介します。
評価方法	授業途中でのレポート:30% 期末提出のレポート:40% レポートの評価に平常点を加味する:30%		

健康科学Ⅴ		後期 1 単位	1・2・3年
こころの健康		鈴木 幹夫 (すずき みきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>身体の健康に比べ、心の健康について、日常我々は、さほど気にとめないように思われます。それは、心が自らを見つめるとき、その当の心自身の不健康さには気づきにくいという、心の構造上の事情があるのかも知れません。眼は、自らを直接視ることができず、おのれを視るためには鏡を要するように、です。そんな心の健康、不健康について考え</p>		
授業の概要	<p>講義が中心となります。解らないことがあれば、随時その場で質問をしてください。イメージし易いように、なるべく具体的な例を挙げ、解りやすく説明するよう心がけます。下記の授業計画は、おおよその予定であり、多少前後する場合があります。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 総論1 こころと脳</p> <p>第2回 総論2 こころの発達 1 (フロイトの発達理論)</p> <p>第3回 総論3 こころの発達 2 (発達論的性格類型)</p> <p>第4回 各論1 性格の形成、神経症総論</p> <p>第5回 各論2 女性に多い神経症 (ヒステリーについて)</p> <p>第6回 各論3 男性に多い神経症 (強迫症について)</p> <p>第7回 各論4 小児期の問題 (妊娠中注意すべきことなど)</p> <p>第8回 各論5 青年期のこころの健康 1 (思春期やせ症)</p> <p>第9回 各論6 青年期のこころの健康 2 (薬物依存など)</p> <p>第10回 各論7 気分障害 1 (うつ病性障害と双極性障害)</p> <p>第11回 各論8 気分障害 2 (うつ病のメカニズムなど)</p> <p>第12回 各論9 統合失調症 1 (成因、症状と経過など)</p> <p>第13回 各論10 統合失調症 2 (分類、治療など)</p> <p>第14回 周辺領域 1 司法精神医学 (精神鑑定について)</p> <p>第15回 周辺領域 2 創造と精神医学 (病跡学について)</p>		
テキスト	鈴木幹夫著 『コメディカルのための精神医学』 DTP出版	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書を参照のこと。他は、授業中に随時紹介します。
評価方法	授業途中でのレポート:30% 期末提出のレポート:40% レポートの評価に平常点を加味する:30%		

体育実技Ⅱ		後期 1 単位	1・2年
バドミントン		藤原 裕子（ふじわら ゆうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	自らの健康を考えつつ、生涯に渡りスポーツを楽しむための技術の習得とゲームなどの運営ができるようになる。		
授業の概要	バドミントンのゲームを楽しむ為に必要な基礎知識・ルール及び審判法を習得する。授業はゲームを中心に進めていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション及び20Mシャトルラン</p> <p>第2回 基本技術（サービス・ストローク）</p> <p>第3回 基本技術（ハイクリヤー、スマッシュ）・ミニゲーム</p> <p>第4回 基本技術（ドロップ、ヘアピン、ドライブ）・ミニゲーム</p> <p>第5回 シングルのルールと審判法の理解</p> <p>第6回 シングルスゲーム①（審判と運営）</p> <p>第7回 シングルスゲーム②（リーグ戦）</p> <p>第8回 シングルスゲーム③（レベル別）</p> <p>第9回 ダブルスのルールと審判法の理解</p> <p>第10回 ダブルスゲーム①（審判と運営）</p> <p>第11回 ダブルスゲーム②（戦術・トップ&バック）</p> <p>第12回 ダブルスゲーム③（戦術・サイド by サイド）</p> <p>第13回 ダブルスゲーム④（レベル別）</p> <p>第14回 リーグ戦（団体）①（審判と運営）</p> <p>第15回 リーグ戦（団体）②・・・レポート提出</p>		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	レポート課題:20% 理解力・技能:30% 授業への積極的な参加:50%		

哲学 I	前期 2 単位	1・2・3年
古代・中世の自然観・人間観・世界観	橋本 典子（はしもと のりこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 哲学的術語の意味を理解し、哲学の知的基礎をしっかりと身につける。古代からの本来的知恵を確認し、哲学的に考察することを可能にする。西洋の古代、中世、ルネサンスの自然観、人間観、世界観を中心に論じ、現代社会で「よく生きること」とは何か、哲学史に登場した哲学者達の考えから導出する。</p> <p><授業の概要> 講義を中心に進める。哲学史の基本的な知識を確実なものとするべく、哲学のダイナミックな展開を明確にし、哲学的考え理解したうえで、時々それまでのまとめと問題点を明らかにする。対話形式を実践し、哲学に於ける「対話」の重要性を経験できるように努力する。</p> <p><授業計画> 第 1回 序論、哲学の基礎知識と現代社会での意味 第 2回 ソクラテース以前の哲学、東の自然観と西の宗教的特質 第 3回 哲学の始まり、アルケーについての問い 第 4回 パルメニデースとエムペドクレス、「物」についてと「神」について 第 5回 人間を哲学の根本問題とする、ソクラテースについて 第 6回 プラトーン初期対話篇—倫理的問い 第 7回 プラトーンの二世界説—イデア論 第 8回 プラトーンの『国家』と宇宙論の展開 第 9回 アリストテレスの学問体系と形而上学 第 10回 幸福論、「よく生きること」とポリスの学 第 11回 実践哲学、混乱の時代の哲学、コスモポリタンの意味 第 12回 宗教と哲学、ユダヤ思想とキリスト教 第 13回 教父哲学、ギリシア教父とラテン教父 —グレゴリウスとアウグスティヌス 第 14回 大学の精神、アベラール 第 15回 トマス『神学大全』とルネサンスの哲学—神と人間 定期試験</p> <p><テキスト> 今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫） 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p><参考文献> 必要に応じて使用する 『プラトン全集』『アリストテレス全集』『アウグスティヌス著作集』他</p> <p><評価方法> 学期末試験 60%、授業への参加及び貢献度 20%、レポート 20%</p>		

哲学Ⅱ	後期 2 単位	1・2・3年
近世から現代までの世界観の変遷	橋本 典子（はしもと のりこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 近世、近代、現代の世界観の変遷を、人間と社会の連関を中心に理解することを目的とする。それぞれの時代の知的文化を形成し支えてきた基本的考えを的確にとらえ、それらの哲学の現代への影響と我々の在り方を考察する。</p> <p><授業の概要> 講義を中心に進めるが、哲学のダイナミックな展開を明確にし、それぞれの哲学者の考えを互いの影響関係を軸に体系的に考える努力をする。時々まとめと問題点を明らかにすることによって哲学史の流れを的確に捉えられるようにする。対話形式を実践し、哲学における「対話」の重要性を実感できるようにする。</p> <p><授業計画> 第 1回 Humanism の考えとピコー人間の尊厳について 第 2回 エラスムスとモアアー理想と現実 第 3回 自我の発見、デカルト『方法序説』 第 4回 デカルトの方法論、神の存在証明、心身二元論 第 5回 ホッブスの社会思想、国家論 第 6回 考える葦ーバスキアルの人間論と神の問題 第 7回 ライブニッツー二つの真理と汎神論 第 8回 イギリス経験論ーロック、ヒューム、バークリ 第 9回 カント、理論と実践の関係ー道徳論の位置づけ 第 10回 超越論ーカントの立場と『永遠平和のために』 第 11回 ドイツ観念論ーロマン主義と芸術 第 12回 シェリング、同一性とその克服としてのヘーゲル 第 13回 ヘーゲル、弁証法と歴史の展開 第 14回 ニーチェ、キルケゴール、現代哲学の始まり 第 15回 象徴論と宗教学ーリクールとレヴィナス 定期試験</p> <p><テキスト> 今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫）</p> <p><参考文献> 講義の際に指示するが、『カント全集』、『ヘーゲル全集』等の全集 その他、著作集、研究書等必要に応じて紹介する</p> <p><評価方法> 学期末試験 5 5%、授業感想文の内容と参加及び貢献度点 3 5%、レポート 1 0%</p>		

倫理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
授業の到達目標及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。		
授業の概要	授業では、さまざまな倫理的立場のうちから、「地域や文化が異なれば善悪の基準も違ってくる（相対主義）」という立場と「善悪とは客観的な事柄ではない（主観主義）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらい、検討したり回答したりする時間を設けます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インロダクション：倫理について考えること 第2回 文化的相対主義（1）：ヘロドトスが伝えたいこと 第3回 文化的相対主義（2）：文化ごとの生活習慣などの違い 第4回 文化的相対主義（3）：文化や習俗に優劣はない 第5回 道徳相対主義（1）：相対主義を道徳にあてはめてみる 第6回 道徳相対主義（2）：あなたはFGMを許容するか否か 第7回 道徳相対主義（3）：隠された共通性に目を向けること 第8回 倫理的な主観主義（1）：客観的事実ではない道徳 第9回 倫理的な主観主義（2）：主体の感情に基づいた道徳 第10回 情緒主義（1）：道徳判断とは何をしていることなのか 第11回 情緒主義（2）：感情の表れとしての道徳判断 第12回 情緒主義（3）：態度を報告すること・表明すること 第13回 指令主義（1）：命令としての道徳判断 第14回 指令主義（2）：道徳の客観性・普遍性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること		
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	坂井昭宏・柏葉武秀（編）『現代倫理学』ナカニシヤ出版、2007年；赤林朗（編）『入門・医療倫理Ⅱ』勁草書房、2007年。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

倫理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
授業の到達目標及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。		
授業の概要	授業では、「自分がすべきことは自分が一番よく知っている（利己主義）」という立場、「多くの人が幸せになることが善いことだ（功利主義）」という立場、「すべきことは端的にしなければならない（義務論）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらいます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インロダクション：倫理について考えること 第2回 心理的利己主義（1）：自分の利益になることをする 第3回 心理的利己主義（2）：行動を利己的に解釈する 第4回 心理的利己主義（3）：心理的利己主義の問題点 第5回 倫理的利己主義（1）：ふたつの利己主義の違い 第6回 倫理的利己主義（2）：利己主義から利他主義を考える 第7回 功利主義（1）：最も多くの人が最も幸せになるように 第8回 功利主義（2）：結果がよければいいのだろうか 第9回 行為功利主義と規則功利主義：ふたつの功利主義 第10回 規則功利主義（1）：何が功利的であるのか 第11回 規則功利主義（2）：功利主義から考える道徳的普遍性 第12回 義務論（1）：どんなときでも嘘をついてはいけないか 第13回 義務論（2）：端的にすべきである 第14回 義務論（3）：義務論から考える道徳の個性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること		
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	児玉聡『功利主義入門』ちくま新書、2012年；田中朋弘『文脈としての規範倫理学』ナカニシヤ出版、2012年。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

日本文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
文学と映像で学ぶ女性身体とライフコース		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性が直面している諸事態を、文学や映像作品を通じて理解します。 ・女性の身体、ライフコース選択、妊娠・出産・墮胎、母娘関係、美醜、国家・社会・民族と女性、平和と女性などのテーマを取り上げ、現代女性を取り巻く諸問題を理解します。 		
授業の概要	講義形式で、前半は、身体とライフコースなど女性たちの私的な体験とその表現について、後半は、戦争やナショナリズム・平和など大きな政治の中の女性の体験とその表現について、映像資料なども交えながら紹介します。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 導入 世界に女しかいなかったら？ SF小説の想像力</p> <p>第2回 ライフコース選択と専業主婦 大庭みな子</p> <p>第3回 ネガティブな女性身体 与謝野晶子と倉橋由美子</p> <p>第4回 身体加工・ダイエット・化粧 松本侑子</p> <p>第5回 妊娠を文学する 小川洋子</p> <p>第6回 中絶を選ぶということ</p> <p>第7回 母と娘は永遠のライバル?! 笹野頼子</p> <p>第8回 セクシュアリティと売買春</p> <p>第9回 戦争と女性1 第二次大戦時の日本と「従軍慰安婦」問題</p> <p>第10回 戦争と女性2 ナチスドイツと女性</p> <p>第11回 戦争と女性3 現代の紛争と平和構築</p> <p>第12回 異文化体験と女性1 外国人からみた日本女性</p> <p>第13回 異文化体験と女性2 李良枝と在日文学</p> <p>第14回 異文化体験と女性3 多和田葉子とドイツ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業時にプリントを配布します。	参考文献	斉藤美奈子『モダンガール論』（文春文庫）
評価方法	授業感想文の内容:40% 期末レポート:60%		

英米文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
他者と共に生きるためには何が必要か？現代アメリカ女性文学を通じて考える。		齋藤 修三 (さいとう しゅうぞう)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>①日本の狭い常識を異化し、自明視してきた自己像や世界観を批判的に見直すための「鏡」として、外国文学の魅力を理解する。②真に他者と共生するために、人種民族・国籍・階級・性別等の狭量で単一のカテゴリーに閉じこもる本質主義的アイデンティティ観を脱し、未知や異質との接触を成長の糧にできるしなやかで耐性に富む生き方を理解する。</p>		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・メールリポート講評 ・キーワード解説 ・テキスト読解と自由討議 		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イントロ：〈判断〉と〈理解〉～映画鑑賞</p> <p>第2回 『ヘルプ』1～3章、キーワード集Ⅰ&Ⅱの概説</p> <p>第3回 4～6章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議</p> <p>第4回 7～10章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議</p> <p>第5回 11～14章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議</p> <p>第6回 15～18章、小まとめ、中間レポート概要</p> <p>第7回 社会と時代の背景、キーワード集Ⅱ導入</p> <p>第8回 19～22章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議</p> <p>第9回 23～26章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議</p> <p>第10回 27～28章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議</p> <p>第11回 29～33章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議</p> <p>第12回 34章～訳者あとがき、キーワード集Ⅱより講義と自由討議</p> <p>第13回 キーワード集Ⅰ&Ⅱのまとめ</p> <p>第14回 資料紹介、期末レポート概要</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	キャスリン・ストケット『ヘルプ』（上巻・下巻） 集英社文庫、他配布プリント	参考文献	随時紹介
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールリポート:20% 自由討議参加度:20%		

英米文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
米国黒人女性文学を通じて、有色女性のエンパワーメント（自尊・自立）の方向性を考える		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
授業の到達目標及びテーマ	①肌の色、貧富の差、性差などをめぐる二重三重の差別と抑圧に立ち向かう米国少数派女性文学の魅力を理解する。②強さを求めた白人中流女性のフェミニズムから、「弱さ」を怖れずに、それを「南」の女性たちと連帯するための契機に読み替える有色女性のフェミニズムへの展開を押さえ、マイノリティ文化の可能性へつなげて理解する。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・メールリポート講評 ・キーワード解説 ・テキスト読解と自由討議 		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 歴史という表象の政治学～『青い目がほしい』導入</p> <p>第2回 同 pp. 15-88</p> <p>第3回 同 pp. 91-138</p> <p>第4回 同 pp. 141-194</p> <p>第5回 同 pp. 195-240</p> <p>第6回 同 pp. 241-304</p> <p>第7回 小まとめ～中間レポート概要</p> <p>第8回 『カラーバーブル』導入</p> <p>第9回 同 pp. 7-80</p> <p>第10回 同 pp. 80-162</p> <p>第11回 同 pp. 162-246</p> <p>第12回 同 pp. 246-313</p> <p>第13回 同 pp. 314-361</p> <p>第14回 小まとめ～期末レポート概要</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	トニ・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫 A・ウォーカー『カラーバーブル』集英社文庫 他配布プリント	参考文献	随時紹介
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールリポート:20% 自由討議参加度:20%		

アメリカ史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
女性の視点からみたアメリカ史—植民地期から再建期まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標及びテーマ	植民地時代から南北戦争後の再建期にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。		
授業の概要	植民地時代から再建期までのアメリカの歴史を扱う。まず、女性史という学問領域がどのように発達したのかを概観する。その後、植民地建設・奴隷制社会の生成・アメリカ革命・連邦共和国の成立・領土膨張・南北戦争などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 女性の目からアメリカ史を見る意味</p> <p>第2回 「新世界」の女性たち①先住民女性</p> <p>第3回 「新世界」の女性たち②南部植民地</p> <p>第4回 「新世界」の女性たち③ニューイングランド・中部植民地</p> <p>第5回 アメリカ革命</p> <p>第6回 革命の遺産</p> <p>第7回 共和国の成長と民主制の登場</p> <p>第8回 市場時代の家庭性：真の女性らしさ</p> <p>第9回 市場経済から産業革命へ：女性と賃金労働</p> <p>第10回 南部奴隷制社会と女性</p> <p>第11回 「明白な運命」と南北対立の激化</p> <p>第12回 南北戦争前の改革運動</p> <p>第13回 南北戦争</p> <p>第14回 南部再建とその遺産</p> <p>第15回 ギルディッド・エイジ</p>		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%		

アメリカ史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
女性の視点からみたアメリカ史—19世紀後半から現代まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	南北戦争後から現代にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。		
授業の概要	南北戦争後から現代までのアメリカの歴史を扱う。産業社会の発展・革新主義改革・世界大戦・大恐慌・冷戦・公民権運動などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。最後に女性の視点から歴史を学ぶ意義を考える。		
授業計画	【後期】 第1回 西部併合とフロンティア 第2回 工業化、労働者、新移民 第3回 海外膨張—世界強国への歩み 第4回 女性の労働と労働文化（1890年～1930年） 第5回 革新主義時代の女性 第6回 第一次世界大戦 第7回 繁栄の1920年代 第8回 大恐慌とニューディール 第9回 第二次世界大戦中の女性 第10回 冷戦と「フェミニン・ミスティーク」 第11回 公民権運動の高揚 第12回 ウーマンリブの時代 第13回 ニューライトの台頭 第14回 冷戦の終焉、グローバル化、テロリズム 第15回 まとめ		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%		

日本史Ⅰ		後期 2 単位	1・2・3年
女性の生き方からたどる日本近現代史		小林 瑞乃（こばやし みずの）	
授業の到達目標 及びテーマ	恋愛・結婚・子育て・仕事など多くの選択肢がある現代女性の自由で多様な生き方は、強い制限に縛られていた過去の女性達の願望や行動によって獲得したものでもある。国民国家の形成、世界情勢の変転、繰り返される戦争など近代以降激変していく時代状況について、女性をめぐる社会的な変遷過程を軸に考察し、近現代史を理解する。		
授業の概要	近代以降の日本の動向について、様々な文献・資料や視聴覚教材などから女性の生活や社会的変化の歴史として検証し、その特質を明らかにする。また、欧米やアジアの女性史との比較などを通じて、世界的視野から諸問題を取り上げ、国際社会における現代日本女性の歴史的な位置を明示する。		
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 明治国家と「家」制度 第3回 自由民権運動と女性 第4回 「良妻賢母」主義の教育 第5回 農村の少女達 第6回 日清・日露戦争：出征・戦死・遺家族 第7回 大正デモクラシーと婦人運動 第8回 「専業主婦」の誕生 第9回 女性解放思想と「母性保護論争」 第10回 昭和期の社会と生活 第11回 戦争と女性 ①代替労働力として 第12回 戦争と女性 ②〈いのち〉をめぐって 第13回 敗戦と民主化 第14回 現代社会と女性①諸問題の確認 第15回 現代社会と女性②未来に向けて		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	脇田晴子他編『日本女性史』（吉川弘文館、1987年） 歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』（青木書店、2001）他、講義時に随時紹介する
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%		

日本史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代日本社会を複眼的に見る		高 成鳳（こう そんぼん）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○日本の近現代史を、同時代の周辺アジア諸国の歴史と比較しながら読み解き、歴史を動かす要因と、歴史が持つ今日の意味について考えます。</p> <p>○歴史と社会を複眼的、多面的に捉えることを通して、あらゆる情報に対し自分で考え理解するための視座を養います</p>		
授業の概要	<p>第二次大戦終結後、日本と周辺アジア諸国はどのような社会を形作ってきたのか、そこでは日本と周辺諸国との間にいかなる利害や対立が存在し、それらがどう変化してきたのかをたどり、現状分析や未来への展望も交えながら、現代日本社会を読み解いていきます。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 はじめに-戦後日本の始動</p> <p>第 2回 講和と東アジア冷戦</p> <p>第 3回 日韓条約締結まで</p> <p>第 4回 日中国交回復と台湾</p> <p>第 5回 韓国・台湾の民主化と日本</p> <p>第 6回 冷戦終結-転換期の東アジア</p> <p>第 7回 戦後日本社会における対外イメージの変遷</p> <p>第 8回 メディアと世論-日本の特殊性</p> <p>第 9回 国際化と在日外国人-「オールドカマー」の場合</p> <p>第10回 国際化と在日外国人-「ニューカマー」の場合</p> <p>第11回 交流拡大と相互理解-日本と東アジア</p> <p>第12回 成熟社会の到来とその課題-日本と東アジア</p> <p>第13回 沖縄と基地問題再考</p> <p>第14回 3.11以後-地方から考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	テキストは特に定めず、資料を配付します。	参考文献	授業内で随時紹介します。
評価方法	授業感想文:40% ミニレポート:20% レポート試験:40%		

東洋史 I	前期 2 単位	1・2・3年
現代のアジア諸地域の制度や経済、社会や文化の基礎を形づくる前近代の歴史について、長期的な視点から論じる。	村上 正和（むらかみ まさかず）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 私たちがアジアと呼んでいる諸地域の制度や経済、社会や文化はどのように形成されてきたのだろうか。現代のアジア諸地域を特徴づける要素は、その長期的な歴史過程のなかで形成されたものであり、その理解には幅広い時間軸のなかで事象を捉える視点が必要とされる。本講義は、こうした問題意識のもとに、東洋史の前近代部分に関する基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握することを目標とする。</p> <p><授業の概要> 本講義では、現代のアジア地域の基礎を形作った前近代の歴史過程について、時系列に沿ってわかりやすく解説していく。</p> <p><授業計画> 第 1回 ガイダンス 第 2回 東洋史とは何か？ 第 3回 西アジアとオリエント世界 第 4回 南アジア・東南アジア世界の形成 第 5回 殷・周の成立から春秋・戦国時代へ 第 6回 秦・漢帝国の成立 第 7回 南北朝時代と隋唐帝国 第 8回 宋とモンゴル帝国の興亡 第 9回 明の統一と北虜南倭 第 10回 清の中国統一と繁栄 第 11回 明清期中国の思想と学問 第 12回 中国文化の広がり 第 13回 イスラーム世界の形成と拡大 第 14回 イスラームの文化と社会 第 15回 まとめ 定期試験</p> <p><テキスト> 「世界の歴史」編集委員会編『もういちど読む山川世界史』山川出版社、2009年 また、講義内容に関連するプリントを随時配布</p> <p><参考文献> 成瀬治・佐藤次高・木村靖二・岸本美緒・桑島良平『山川世界史総合図録』山川出版社、1994年 また、講義内容に関連する参考文献を随時紹介</p> <p><評価方法> 授業感想カード：30% 定期試験：70%</p>		

東洋史Ⅱ	後期 2 単位	1・2・3年
現代のアジア諸地域の情勢に直接関連する近現代の歴史について、その地域間の相互関係に注目しつつ論じる。	村上 正和（むらかみ まさかず）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 現代世界においてそのプレゼンスを高めつつあるアジア地域の国々や人々と円滑にコミュニケーションを図り共存していくためには、その歴史的背景を十分に理解することが不可欠である。 本講義は、こうした問題意識のもとに、東洋史の近現代部分に関する基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握することを目標とする。</p> <p><授業の概要> 本講義では、現代のアジア地域の情勢に直接的に関連する近現代の歴史過程について、時系列に沿ってわかりやすく解説していく。</p> <p><授業計画> 第 1回 ガイダンス 第 2回 結ばれる世界 第 3回 近代とは何か？ 第 4回 西アジア・南アジアの動揺 第 5回 東アジアの動揺 第 6回 太平天国と洋務運動 第 7回 変法運動から辛亥革命へ 第 8回 近代中国の文化 第 9回 第一次世界大戦とアジア 第10回 日中戦争と太平洋戦争 第11回 冷戦構造とアジア諸国の戦争 第12回 中華人民共和国の展開 第13回 近代台湾の歴史 第14回 多元化する世界 第15回 まとめ 定期試験</p> <p><テキスト> 「世界の歴史」編集委員会編『もういちど読む山川世界史』山川出版社、2009年 また、講義内容に関連するプリントを随時配布</p> <p><参考文献> 成瀬治・佐藤次高・木村靖二・岸本美緒・桑島良平『山川世界史総合図録』山川出版社、1994年 また、講義内容に関連する参考文献を随時紹介</p> <p><評価方法> 授業感想カード：30% 定期試験：70%</p>		

西洋史 I		前期 2 単位	1・2・3年
西洋史学概論 歴史のための闘争		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
授業の到達目標 及びテーマ	様々な歴史家と彼らの研究を追うことで、歴史学的な思考方法を身につけ、自分の人生に応用する。つまり、歴史学が、君を幸せにする、君を自由にする、君を強くする、君を優しくする、君をカッコよくする、君を君らしくする、君を大きくする、君を深くする、君を濃くする、君を賢くする、そして君を笑わせる! ? ことをリアルに実感する。		
授業の概要	講義が主体だが、学生にも参加してもらいたい新しいタイプの授業にしたい。そもそも本講義において重要なのは、暗記よりも、分析と考察である。高校の世界史とは全く違う。レポートの題目も歴史の授業とは思えない突飛で面白いものとなる予定である。例えば「太郎と花子が別れました。何故でしょう。原因を箇条書きにして説明しなさい」など。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 第 1 章嘘つきの私だって真実が欲しい! -ヘロドトス- 第 2回 -トウキティデス- 第 3回 第 2 章風が吹けば桶屋が儲かる? -モンテスキュー- 第 4回 -デュルケーム- 第 5回 -マルク・ブロック- 第 6回 -リュシアン・フェーヴル- 第 7回 -フェルナン・ブローデル- 第 8回 -ロジェ・シャルチエ- 第 9回 第 3 章舌先三寸のチ・カ・ラ! -キケロー- 第 10回 -タキトゥス- 第 11回 -ミシュレ- 第 12回 第 4 章運命の女神は誰に微笑む-神の摂理 (メストル) - 第 13回 -自由と文明の道 (ギゾー) - 第 14回 -矛盾の哲学の誕生 (ヘーゲル、マルクス) - 第 15回 -そして神は死んだ (ニーチェ) -		
テキスト	授業中に資料を配布する。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文 (4回) :40% レポート (4回) :60%		

西洋史 II		後期 2 単位	1・2・3年
戦争と革命の比較文化史		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
授業の到達目標 及びテーマ	違いが分る女になってくれ! 本講義の目的は違いが分る力=分析力の育成である。色々な戦争と革命の文化の比較をし、「戦争や革命なんてどれもおんなじ。ぜんぶ、こわーい。アタシは平和が好き」といった類の幼稚な思考方法を改善する。花屋の店先の花は色々。人生色々、男も色々、女も色々、暴力だって色々。薔薇と他の草花の違いを見せてや		
授業の概要	イギリス・アメリカ・フランス・ロシアの諸革命、帝国主義、第1次・第2次世界大戦、植民地独立運動等の比較を行う。またウィキペディアの歴史観を批判する。講義は時代と地域を絶えず横断するので、話についていくには西洋近現代史の基礎知識 (高校世界史) が必要である。難解だとは思いますが、もしも学生が全く理解できなかったら私は青短を辞		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 「違いが分る女になれよ」・学生との会話から・歴史認識 第 2回 「大いなる反動の台頭」・狼たちに狙われた自由の女神 第 3回 ・地獄のフィーリングカップル・鉄の女に愛された歴史家 第 4回 「革命と恐怖政治」・知識人は狂人・アイルランド大殺戮 第 5回 ・建国の父は火あぶりがお好き・諸革命の収支決算 第 6回 ・処刑に飽きた貴婦人・サディストと狂った預言者 第 7回 「世界内戦と植民地」・魔の山の下で眠れ 第 8回 ・裏切りの美学・伝道は死の香・毒ガスに祝福を 第 9回 「野蠻人との戦い」・片手にピストル、心に礼束 第 10回 ・頭蓋骨をお土産に・ドイツ人を去勢せよ・紳士協定破棄 第 11回 「色々なジェノサイド」・死体から石鹼を作る方法 第 12回 ・ミイラとり・地獄は続く・自動車王と悪魔・拷問の先生 第 13回 ・吸血鬼の野望・皆殺しの詩・愛と哀しみのウクライナ 第 14回 ・カティンの虐殺・捕虜はいらぬ・残酷な神々 第 15回 「青短残酷物語」・先天性原理・植民地・功利主義		
テキスト	資料を配布する。	参考文献	フュレ『フランス革命を考える』・アーレント『全体主義の起源』・パーク『フランス革命の省察』・トクヴィル『アンシャン・レジームと革命』
評価方法	講義感想文 (4回) :60% 期末レポート:40%		

芸術Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
美術と文学		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	画家や彫刻家が作品を構想するとき大きな着想源となったのは、聖書や神話などの文学作品であった。それらは「歴史画」と呼ばれて、主題の中で最も高貴なものとして、「歴史画家」は最も優れた画家とされた。どのような文学作品が参照されたのか、どのような表現が生まれたかを検証しながら、歴史画を高貴とした西洋精神を理解したい。同時に美術作品の見方を		
授業の概要	スライドで美術作品を見ながら、聖書や神話を手がかりにして、その主題を検討していく。必ずしも時代の順ではなく、ひとつの主題が異なる時代でどのように表現されたかを考える。日本の美術にも触れる。授業の中で、近くの美術館見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：講義の概要、参考文献の紹介 第2回 キリストと美術（1） 旧約の時代 第3回 キリストと美術（2） キリストの誕生 第4回 キリストと美術（3） キリストの生涯 第5回 キリストと美術（4） キリストの死 第6回 マリアと美術 第7回 使徒たちと美術 第8回 神話と美術（1） ユピテルの物語 第9回 神話と美術（2） ウェヌスの物語 第10回 神話と美術（3） アポロンの物語 第11回 神話と美術（4） 様々な神々 第12回 日本の美術（1） 王朝の物語 第13回 日本の美術（2） 近世の物語 第14回 まとめ 第15回 美術館見学（授業の中で期日を指定）		
テキスト	教科書は特に用いない。	参考文献	講義のなかで紹介する。
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%		

芸術Ⅱ		前期 2 単位	1・2・3年
ヨーロッパの17-18世紀美術		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	16世紀に起こった宗教改革は、西欧の精神生活に大きな影響を与えた。その影響は美術にも及び、同じ頃から始まる近代国家の形成とともに、美術家はこの事態に直面して独自の表現を模索する。一般にバロックと呼ばれる17世紀の美術、さらにそれが展開した18世紀のロココ美術を、それらが生み出された社会と時代の精神とともに理解する。		
授業の概要	17-18世紀に活躍した幾人かの画家の作品や室内装飾、工芸品をスライドで見ながら講義を進める。近くの美術館の見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：講義の概要、参考文献の紹介 第2回 カラヴァッジョの革新 第3回 ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと夜の世界 第4回 ルーベンス、バロック美術の神髄 第5回 ニコラ・プッサンとフランス古典主義 第6回 レンブラントと「夜警」 第7回 ペラスケスとスペインの美術 第8回 ヴェルサイユの装飾 第9回 ヴァトーと雅宴画 第10回 プーシェと神話画 第11回 ロココの工芸品 第12回 シャルダンの世界 第13回 フラゴナールと前ロマン主義 第14回 まとめ 第15回 美術館の見学（授業の中で期日は指定）		
テキスト	教科書は特に指定しない。	参考文献	講義のなかで参考文献を紹介します。
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%		

生活デザイン I		前期 2 単位	1・2・3年
道具やシステムの理解と使いこなす工夫		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のさまざまな場面に登場する道具について詳しく観察し、道具のデザインと使い方のライフスタイルを把握する。 ・道具やシステムとの関わり方によってものが変わっていくプロセスを理解する。 		
授業の概要	身近な道具と専門的なシステムを交互に紹介しながら、設計とデザイン、使い方の基本を示していく。また、生活の一場面についてどのように工夫・改善できるかを考えてもらい、集まった考えを比較評価する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 インTRODクシヨソノ人ト道具ノ関係</p> <p>第 2回 生活行動ノ観察 (1) 道具ヲ使う目標ト使った結果</p> <p>第 3回 生活行動ノ観察 (2) 自分でする・人に任せる</p> <p>第 4回 生活行動ノ観察 (3) 動物ト人間ヲ比べる</p> <p>第 5回 デザインノ方針 (1) 目的・状況ニ応じた形ト空間</p> <p>第 6回 デザインノ方針 (2) 実用性ニ留まらないデザイン</p> <p>第 7回 デザインノ方針 (3) 合理的なデザイントは</p> <p>第 8回 事例ノ比較観察 (1) わかりやすい表示</p> <p>第 9回 事例ノ比較観察 (2) わかりにくい道具ヤシステム</p> <p>第 10回 事例ノ比較観察 (3) 大切な記憶ト道具</p> <p>第 11回 比較考察 (1) 安全性</p> <p>第 12回 比較考察 (2) 自動化</p> <p>第 13回 比較考察 (3) アシスト</p> <p>第 14回 比較考察 (4) デザインノ寿命</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 平常点:20% レポート:60%		

対照言語学		前期 2 単位	1・2・3年
日本語と英語の比較対照		高野 嘉明（たかの よしあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	音声、文字、文法、発想法、語彙・意味などの観点から見た日本語と英語の違いについて、実例を参照しながら具体的に観察することにより、日本語と英語の言語的な特徴や相違をよりよく、より深く理解することを目標とします。また、誤った「日本語特殊論」についても考察します。		
授業の概要	授業に必要な資料はプリントにして配布し、基本的には講義形式で授業を進めることとなりますが、受講者の積極的な授業参加も期待されます。必要な事柄はしっかりノートを取るようして下さい。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 序論：世界の諸言語の中の日本語と英語</p> <p>第 3回 音声の日英語比較(母音)</p> <p>第 4回 音声の日英語比較(子音)</p> <p>第 5回 音節に関する日英語比較</p> <p>第 6回 アクセント・リズムに関する日英語比較</p> <p>第 7回 日本語と英語の文字体系</p> <p>第 8回 文法的類型からみた日本語と英語</p> <p>第 9回 文法の日英語比較(名詞・動詞)</p> <p>第 10回 文法の日英語比較(代名詞)</p> <p>第 11回 日本語の助詞と英語の冠詞、日本語の敬語体系</p> <p>第 12回 日本語と英語の発想法</p> <p>第 13回 語彙・意味の日英語比較</p> <p>第 14回 日本語と英語の造語法</p> <p>第 15回 補足とまとめ</p>		
テキスト	特には使用せず、プリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:25% 授業参加度:25% 試験:50%		

社会言語学		後期 2 単位	1・2・3年
社会の諸相と言語の関係		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語を対象言語として、主に音声や文法に関する言語変種の特徴について詳細に観察することにより、社会の諸側面と言語の関係に関する基本的な概念を理解することを目標とします。言い換えれば、社会に存在する言語使用および言語使用者、という観点からみた場合の言語変種について考察することになります。		
授業の概要	基本的には講義形式で授業を進めますが、受講者の積極的な授業参加も期待されます。また、授業内容は英語に関するものですが、日本社会と日本語の関係について考えてみることも期待されます。必要な資料は配付しますが、ノートもしっかり取って下さい。		
授業計画	【後期】 第1回 社会言語学の全体像 第2回 社会言語学の歴史と周辺領域 第3回 地域と言語(概論) 第4回 地域と言語(アメリカ) 第5回 地域と言語(イギリス) 第6回 地域と言語(その他の国々) 第7回 階級と言語(アメリカ) 第8回 階級と言語(イギリス) 第9回 人種・民族と言語 第10回 性別と言語 第11回 年齢層と言語 第12回 言語使用領域と言語 第13回 言語の格式度 第14回 伝達媒体(話し言葉と書き言葉) 第15回 補足とまとめ		
テキスト	特に使用せず、必要に応じてプリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:25% 授業参加度:25% 試験:50%		

創作俳句 I		前期 2 単位	1・2・3年
俳句に親しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	俳句は400年以上の長い伝統をもつ形式であり、今もなおお世代を超えて多くの人々に愛好されている文芸であることを理解する。その表現方法を身につけ、自分自身の日々の歩みと心の記録を残す喜びを味わう。また、季語を通して自然の豊かさを知り、日本文化の奥深さにも目を向けることをめざす。		
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句までの作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技術を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、楽しみながらさまざまな季語に触れてゆく。		
授業計画	【前期】 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語解説と実作指導 第4回 作品鑑賞と実作への応用 第5回 俳句の表現法 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 句会 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記(角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい)
評価方法	レポートの内容:40% 進歩の度合:50% 取り組みの姿勢と意欲:10%		

創作俳句Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
俳句を楽しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	俳句はわずか17音であるが、小さな昆虫から宇宙まで、何でもテーマとなる文芸であることを理解する。独自の表現法を学び、楽しみながら日々の生活の記録を残すことをめざす。また、季語を通して自然の豊かさを知るとともに、日本語の美しさに触れる。		
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句まで作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技法を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、さまざまな季語に触れてゆく。		
授業計画	【後期】 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語を知る 第4回 名句鑑賞と実作への応用 第5回 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 季語体験 (かるた会) 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記 (角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい)
評価方法	レポートの内容:50% 進捗状況:40% 取り組みの姿勢と意欲:10%		

国語表現法Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
国語表現法Ⅰ		多田 孝志 (ただ たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	グローバル時代における対話力の重要性について認識を深める。 多様な表現方法を体験し、自己の潜在的な表現力に気づく。 聴く、話す、対話するの口頭表現の理論の学習と技能の習得を目標とする。		
授業の概要	グローバル時代における対話力の重要性について映像の視聴を通して知る。 聴く、話す、対話するについて基本的考え方を学ぶ。聴く、話す、対話する力を高めるためのスキルを習得する。 グループでの調査活動⇒プレゼンテーションの活動を通して対話力を高めていく。		
授業計画	【前期】 第1回 日本人の国語表現力の特色について知る。 第2回 対話力の重要性について認識する。 第3回 聴くの理論を学び、聴く力を高めるスキルを習得する。 第4回 理論を学び、スピーチ力を高めるスキルを習得する。 第5回 対話の基礎力としての観察力を高める。 第6回 対話の基礎力としてのイメージ力を高める。 第7回 対話についての理論を学ぶ。 第8回 さまざまな対話スキルを体験する。 第9回 グループプレゼンテーションの手法を学ぶ。 第10回 グループでの調査を計画する。 第11回 グループでの調査をし、分析する。 第12回 グループプレゼンテーションをする。 第13回 グローバル時代の対話力について認識を深める。 第14回 既習事項を活用して、パブリックスピーチをする。 第15回 授業の反省をする。		
テキスト	授業で育てる対話力 教育出版	参考文献	特に定めず、適時資料を配布する。
評価方法	平常点:40% 授業中の活動:30% プレゼンテーション:30%		

国語表現法Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
日本語の基礎トレーニング		津島 知明 (つしま ともあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語表現力の向上を目指して、実践的なトレーニングを行う。独りよがりではなく、きちんと相手に伝わるような表現力を身につけてゆく。		
授業の概要	演習形式で行う。文章の推敲・添削などを通して、各自が自身の表現をより高めてゆけるよう個別指導してゆく(ただし、指導回数は受講者数による)。敬語の使い方、コメントの仕方など、実生活における様々な局面を想定することで、確実なスキルアップにつなげたい。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 自己紹介文 第3回 テーマを選ぶ 第4回 推敲と再構成 第5回 タイトルと書き出し 第6回 他人の表現に学ぶ 第7回 文章の縮約 第8回 文章の添削 第9回 相手の立場を考えたコメント 第10回 同音異義語の区別 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール文 第13回 敬語のまとめ 第14回 誤りやすい漢字 第15回 まとめ		
テキスト	「日本語リテラシー」(新典社)	参考文献	特になし。
評価方法	課題の提出:90% 特別課題:10%		

社会思想史Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
近代天皇制と現代日本		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史を参照しつつ、現代の私たち自身の問題を考えるための材料と思考力を獲得することが目標です。教育、植民地主義、戦争、ジェンダー、差別、といった事柄に即しながら、私たちの「内なる天皇制」を見出すことをテーマとします。		
授業の概要	天皇制は、日本社会を奥深いところで規定しています。日本国憲法下の象徴天皇制であってもなおそうであると言えます。というより、私たちの社会や心のありようが天皇制を必要としていると言ったほうがよいでしょう。それはどのような社会や心のありようなのか。天皇制を通して、日本の社会と精神状況について考えます。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 近代天皇制の成立と教育勅語(1)―「教育勅語体制」の成立 第3回 近代天皇制の成立と教育勅語(2)―教育勅語の社会的機能 第4回 宗教装置としての天皇制 第5回 靖国神社問題(1)―靖国問題とは何か 第6回 靖国神社問題(2)―靖国問題の争点 第7回 天皇制・日本精神・キリスト教(1)―キリスト教と天皇制 第8回 天皇制・日本精神・キリスト教(2)―キリスト教の戦争協力 第9回 天皇制とジェンダー(1)―女性皇族のメディア報道 第10回 天皇制とジェンダー(2)―皇位継承問題 第11回 天皇制とハンセン病差別(1)―ハンセン病問題の歴史と現在 第12回 天皇制とハンセン病差別(2)―ハンセン病問題と天皇制 第13回 天皇制と沖縄(1)―沖縄の皇民化 第14回 天皇制と沖縄(2)―「天皇メッセージ」と沖縄の基地化 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:50% 期末レポート:50%		

社会思想史Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
近代沖縄の歴史と思想——植民地化と抵抗		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	琉球王国が日本に編入された琉球処分(1872～9年)以降の沖縄の歴史・文化・思想を学びながら、日本が沖縄に行ってきた「植民地化」および「軍事要塞化」と、それにたいする沖縄の「抵抗」について考えます。沖縄を学ぶことを通して、植民者としての日本と日本人、という視点を獲得することが目標です。		
授業の概要	近代以降の沖縄の歴史に沿って進めますが、多文化主義や少数民族論など、つねに現代社会の課題を念頭に置きます。また、「沖縄の植民地化と抵抗」という課題に、政治・経済だけでなく、言語、生活習慣、芸能など文化的な面からもアプローチしますので、沖縄芸能の鑑賞や沖縄語の学習も随所に織り交ぜていきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 沖縄に何を学ぶか 第3回 琉球処分と沖縄の植民地化(1)—琉球処分の経過 第4回 琉球処分と沖縄の植民地化(2)—旧慣温存策とその転換 第5回 沖縄差別と自由民権運動 第6回 沖縄の音楽と演劇(1)—民謡と沖縄芝居 第7回 日本化・皇民化と方言論争 第8回 沖縄戦と住民 第9回 沖縄の音楽と演劇(2)—現代の沖縄芸能 第10回 米軍統治と復帰運動 第11回 歴史教科書問題 第12回 自立への課題(1)—基地と経済 第13回 沖縄の音楽と演劇(3)—組踊と古典芸能 第14回 自立への課題(2)—文化とアイデンティティー 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	新崎盛暉『現代日本と沖縄』（山川出版社、2001年） 沖縄歴史教育研究会『改訂版 高等学校 琉球・沖縄
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		前期 2 単位	1・2・3年
法学（日本国憲法）		山岸 秀（やまぎし しげる）	
授業の到達目標 及びテーマ	立憲主義に基づいて日本国憲法の基本原理を理解し、そのうえで社会の様々な分野における法の働きを概観し、物事を法的にとらえる目を養う。		
授業の概要	人数が少なくないので講義形式となるが、できるだけ、レポート・質問などを活用して個別指導にも心がける。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 法とは。行為規範、裁判規範の理解。法の体系。 第2回 憲法の基礎。民定憲法、成文憲法、硬性憲法。憲法の基本原則。 第3回 公法としての憲法。 第4回 裁判所の違憲判決。 第5回 近代的憲法の意味。 第6回 人権・権利の主体。 第7回 人権制約の原理。 第8回 人権の体系。 第9回 天皇と法。 第10回 戦争と法。 第11回 犯罪と法。 第12回 非行と法。 第13回 家庭と法。 第14回 教育と法。 第15回 現代社会と法、まとめ。		
テキスト	使用しない。	参考文献	適宜授業の中で紹介。
評価方法	テスト:60% レポート:40%		

法学Ⅰ（日本国憲法）		後期 2 単位	1・2・3年
日本国憲法と法学の基礎を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	法学の基礎と憲法を学ぶ。法学に接したことの無い者を対象として、法とは何か、法の歴史、裁判の方法、近代国家と近代憲法、明治憲法、現代国家と日本国憲法の概要を教えることによって、良き市民としてのリーガルマインドを涵養し、教員となる者に対して必要な知識と法的判断能力、そして、人権に関する感覚を醸成することを目的とする。		
授業の概要	基本的な教科書にそって、講義形式で進める。法学と憲法に関する基礎的な知識をしっかりと教える。一方的な講義にならないように、適宜講義中に指名し、対話を通してソクラテス方式で進める。特別な予習はいらぬが、必ず、教科書を持参し、ノートをしっかりとして欲しい。公務員試験や法学部への編入を目指す人は本講義をとって欲しい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン 法学と憲法について 第2回 法学を学ぶにあたって 第3回 法とは何か 社会と規範 第4回 法とは何か 日本法と外国法 第5回 法の発展 法の発展と社会の発展 第6回 法の発展 封建社会・近代社会・現代社会の法 第7回 法と裁判 裁判制度 第8回 裁判の基準 制定法と判例法 第9回 法の解釈 概念法学と自由法学 第10回 近代国家と憲法 近代憲法の理念 第11回 明治憲法と日本国憲法 自由権と社会権 第12回 権力分立 違憲立法審査権 第13回 基本的人権 法の下の平等など 第14回 基本的人権 表現の自由・情報プライバシー 第15回 基本的人権 思想・良心・心境の自由など		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%		

法学Ⅱ		前期 2 単位	1・2・3年
女性の一生に関する法律について学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	法律は日常生活において人の行動に関連するものであるが、女性が一生のライフステージを通して関係し、知っておかなくては困ることになる法律について理解することを授業の到達目標とする。		
授業の概要	学生が一番興味のある恋愛関係に関する法律から講義を始め、結婚と離婚に関する法律、家族の介護・相続に関する法律、女性が働くことに関する法律の順に講義を行う。学生の将来のライフプラン・キャリア形成に役に立つ授業となっている。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン 女性と法律学の関係 第2回 性暴力（レイプ・痴漢）と法律 第3回 恋愛・婚約と法律 第4回 不倫・セクハラと法律 第5回 結婚 事実婚と法律婚 第6回 ドメスティックバイオレンス・国際結婚 第7回 児童虐待 第8回 離婚 破綻婚主義 第9回 離婚 財産分与と慰謝料請求 第10回 親の介護 第11回 相続と遺言 第12回 働く女性の法律 雇用機会均等法 第13回 働く女性の法律 産休・育休 第14回 働く女性の法律 パート・アルバイト・派遣 第15回 女性と法律 総括		
テキスト	副田隆重他著『ライフステージと法』有斐閣アルマ	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%		

政治学Ⅰ		後期 2 単位	1・2・3年
共生への政治的合意形成に向けて		松本 高明 (まつもと たかあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講座は、「基礎知識を充実」と「政治的自我を確立」を目標とし、来るべき共生社会へ参画していくために必要な政治意識の確立と実践力の基礎を養ってもらう予定である。そのために(1)政治の原理と民主主義制度、(2)現代日本政治の成り立ちと課題、(3)地域社会の諸変動と地方自治について理解する。		
授業の概要	原論では、政治が身近で誰でも関わっているものであることを理解し、政治参加と民主主義制度、および有権者の政治行動を考える。また政治史では、政治史を学ぶことで日本政治の持つ特質を理解する。さらに地方自治論で、中央集権の下で整備された地方自治体について基礎を知り、現代における社会変動に対応するために必要な思考を養う。		
授業計画	【後期】 第1回 原論(1) 政治とは何か？ 第2回 原論(2) 正当性とリーダーシップ 第3回 原論(3) 市民社会と政治意識 第4回 原論(4) 民主主義を支える政治制度 第5回 原論(5) 選挙制度と政治心理 第6回 政治史(1) 中央集権制と地方自治体の整備 第7回 政治史(2) 55年体制と中央地方関係 第8回 地方自治論(1) 現代地方自治体制度 第9回 地方自治論(2) 地方自治体と財政 第10回 地方自治論(3) 新しい中央地方関係への胎動 第11回 社会変動と地方自治(1) 少子高齢化と地域社会 第12回 社会変動と地方自治(2) 交通網整備と自治体 第13回 社会変動と地方自治(3) 労働力移動と地域自治 第14回 社会変動と地方自治(4) 災害と地域の復興 第15回 社会変動と地方自治(5) 政治的合意形成に向けて		
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントにて配布。	参考文献	高島通敏著「政治学への道案内」三一書房
評価方法	レポート:60% 平常点(課題など):40%		

政治学Ⅱ		前期 2 単位	1・2・3年
東アジアにおける共生実現のための国際政治		松本 高明 (まつもと たかあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	課題を通じて、継続的に国際社会観察への目を養っていくとともに、講義にて ・国際政治の基礎理論を理解する。・国際社会の構成主体とその行動原理を知り、その社会形成の過程を理解する。・東アジア(特に中国)についてその動向を知る。・国際的紛争の諸形態とその解決について知る。		
授業の概要	初めに原論にて「近代国民国家体系」の原理について理解してもらい、それを基礎として現代国際社会の特質についてまとめた後、各論で東アジアの国際政治を扱う。特に中国については、富裕化することによって発生した経済格差、政治的自由の制限、中央地方関係、さらには民族紛争といった統合の問題まで概観したい。		
授業計画	【前期】 第1回 原論(1) 国際社会とは何か？ 第2回 原論(2) 近代国際社会の成立 第3回 原論(3) 国民統合と国民意識、そして民主主義 第4回 原論(4) 国際政治学の成立とその理論1 第5回 原論(5) 国際政治学の成立とその理論2 第6回 現代国際政治史(1) 冷戦期のパワー論 第7回 現代国際政治史(2) 国際組織論 第8回 現代国際政治史(3) 地域共同体論 第9回 現代中国論(1) 現代中国の成立と特質 第10回 現代中国論(2) 改革開放以降の政治 第11回 現代中国論(3) 大国を目指した90年代 第12回 現代中国論(4) 国民統合と民族紛争 第13回 現代中国論(5) 地域格差と国家市場形成 第14回 現代中国論(6) 戦後の日中関係 第15回 まとめ 共生実現への政治とは		
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	阿部斎・高橋和夫著「国際関係論」放送大学教材 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣
評価方法	レポート:60% 平常点(課題など):40%		

経済学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
経済学概論		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経済学の基本的な考え方やしくみについて説明する。経済学的なものの方や考え方の基礎を身に付けて、私たちが生きている現代社会を経済学的な立場から理解したり、批判できるようになることが目標である。		
授業の概要	いわゆる「近代経済学」の 카테고리であるミクロ経済学・マクロ経済学の基礎について説明する。「近代経済学」以外の経済学については、「現代社会と経済B」で説明する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 経済学の予備知識1 経済学と希少性 第3回 経済学の予備知識2 選択・機会費用・インセンティブ 第4回 需要と供給について考える1 需要 第5回 需要と供給について考える2 供給 第6回 需要と供給について考える3 均衡 第7回 市場について考える1 分業 第8回 市場について考える2 資本主義社会のしくみ 第9回 政府について考える1 市場の失敗 第10回 政府について考える2 財政のしくみと財政政策 第11回 お金について考える1 貨幣 第12回 お金について考える2 金融政策 第13回 経済全体について考える1 経済成長とGDP 第14回 経済全体について考える2 国際収支 第15回 まとめ		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

経済学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代経済の問題を経済学の歴史から考察する		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「経済学」の授業で取り上げた「近代経済学」とあわせて、新たに「近代経済学以外の経済学」についての説明を行う。正統派経済学である「近代経済学」流の考え方では見えてこなかったものを新たに発見し、物事を相対的に見ることが出来る態度を養うことが目標である。		
授業の概要	古典派以降の様々な経済学の学説について、それぞれの代表的論者である経済学者に焦点を当てて説明を行う。経済学者が生きていた時代背景や、それぞれの学説の中身だけではなく、それぞれの主張が現代にとっていったいどのような意味を持っているのか、ということも問題となるはずである。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 経済学はなぜ生まれたのか 第3回 古典派1 アダム・スミス(1) 市場のしくみ 第4回 古典派1 アダム・スミス(2) 自由主義と消費者 第5回 古典派2 リカードとマルサス(1) 人口問題と成長の限界 第6回 古典派2 リカードとマルサス(2) 比較優位と自由貿易 第7回 マルクス経済学1 マルクス 資本家と労働者 第8回 マルクス経済学2 マルクス 資本主義社会の相対化 第9回 新古典派1 限界革命の3人組(1) 効用と限界効用 第10回 新古典派2 限界革命の3人組(2) 市場の均衡 第11回 新古典派3 マーシャルほか 古典派の継承 第12回 ケインズ経済学1 ケインズ 市場と国家の役割 第13回 ケインズ経済学2 ケインズ 総需要管理政策 第14回 そのほかの経済学 モラル・エコノミー、行動経済学ほか 第15回 まとめ		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

経済学Ⅲ		後期 2 単位	1・2・3年
金融の基礎を学ぶ		阿川 裕里（あがわ ひろさと）	
授業の到達目標 及びテーマ	金融の基礎を学習して、身近に起きている金融問題を理解する力を身につける。		
授業の概要	金融市場のしくみ、銀行の役割、金利や株価、外国為替のしくみなど、金融の基礎を最新のニュースを取り入れて学習する。とくに身近な多重債務問題は、外部の専門家を招いて理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 財務諸表の見方 (1) 貸借対照表と損益計算書 第2回 財務諸表の見方 (2) 企業会計と社会会計 第3回 金融市場のしくみ (1) 資金循環 第4回 金融市場のしくみ (2) 直接金融と間接金融 第5回 銀行の役割 (1) 決済システム 第6回 銀行の役割 (2) 信用創造 第7回 金利はどのように決まるのか (1) 流動性 第8回 金利はどのように決まるのか (2) 利息制限 第9回 消費者金融問題 第10回 外国為替市場のしくみ (1) 貿易取引 第11回 外国為替市場のしくみ (2) 資本取引 第12回 為替相場はどのように決まるのか (1) 直物相場 第13回 為替相場はどのように決まるのか (2) 購買力平価 第14回 国際通貨制度を考える (1) 変動相場制 第15回 国際通貨制度を考える (2) ユーロ危機		
テキスト	初日に指示する。	参考文献	初日に指示する。
評価方法	レポート:60% 受講態度:20% 授業感想文の内容:20%		

経営学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。まずは経営学の全体像を理解できるようにする。「経営学とは何か」「企業とは何か」から出発し、経営学の歴史的な発展をとらえつつ、モチベーション理論やリーダーシップ理論などの基礎論を講義する。また、企業とは社会の中でどのような存在であるべきか、企業の社会的責任等も合わせて考える。		
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 企業の役割とは何か 第3回 企業を理解する 企業というシステム 第4回 会社の種類とは 第5回 企業は誰のものか コーポレート・ガバナンス 第6回 企業の社会的責任とは 第7回 経営学の考え方と発展 第8回 大企業の生成、テイラーシステム、フォードシステム 第9回 管理過程論 第10回 人間関係論 第11回 モチベーション理論 第12回 リーダーシップ理論 第13回 経営における意思決定 第14回 起業はどのようにして行われるのか 第15回 まとめ		
テキスト	齊藤毅憲編著 (2012) 『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。
評価方法	定期試験:80% 課題やレポート等:20%		

経営学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江 (うだ みえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。経営資源、戦略、組織形態、マネジャーの仕事、さらに、企業の各職能として、情報管理、研究開発、生産管理、マーケティング等についての基礎を理解できるようにする。教科書の前半部分は経営学Aで講義するため、経営学Aと合わせて受講することが望ましい。		
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 経営者の仕事とは 第3回 企業の仕組みとは 第4回 企業間関係とは 第5回 経営戦略① 戦略とは 多角化 第6回 経営戦略② 競争戦略 第7回 組織構造とは 第8回 企業を取り巻く環境とは 第9回 経営資源とは 第10回 情報管理・研究開発管理・生産管理とは 第11回 マーケティング① マーケティングとは 第12回 マーケティング② マーケティング戦略 第13回 財務管理とは 第14回 企業の国際経営 第15回 まとめ		
テキスト	齊藤毅憲編著 (2012) 『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。
評価方法	定期試験:80% 課題やレポート等:20%		

社会学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ミクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであるが、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによって、その目的を達成する。社会について多角的、批判的に見ることができるようになる。		
授業の概要	講義形式の授業であるが、何回かは参考資料を配布する。講義の対象とする社会学の分野は、個人と社会、家族社会学、うわさの社会心理といったミクロ社会学である。毎回、これらの分野の中で異なるテーマやトピックスを取り上げて講義を行う。		
授業計画	【前期】 第1回 社会学の性格および社会とは何か 第2回 個人と社会 (1) 社会的ジレンマ 第3回 個人と社会 (2) 社会化 第4回 個人と社会 (3) 地位と役割 第5回 個人と社会 (4) 社会的性格 第6回 個人と社会 (5) 近代人の誕生と資本主義の成立 第7回 個人と社会 (6) 社会統制と逸脱 第8回 家族社会学 (1) 家族と親族 第9回 家族社会学 (2) 結婚と離婚 第10回 家族社会学 (3) 家族の機能 第11回 家族社会学 (4) シングル化社会と家族の将来 第12回 うわさの社会心理 (1) 流言・ゴシップ・都市伝説・デマ 第13回 うわさの社会心理 (2) 流言 第14回 うわさの社会心理 (3) ゴシップと都市伝説 第15回 うわさの社会心理 (4) うわさの伝達と対策		
テキスト	とくになし。	参考文献	A・ギデンズ(松尾精文他訳)『社会学(第5版)』(而立書房)森下伸也『社会学がわかる事典』(日本実業出版社)
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%		

社会学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
マクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであり、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによってその目標達成を目指したい。社会について多角的、批判的に見ることができるようになる。		
授業の概要	講義形式でおこなう。講義の対象とする社会学の主要な分野は、マクロ社会学の階級・階層論と現代社会論であるが、毎回、これらの分野に含まれる異なるテーマを取り上げて、講義する。参考資料として、社会調査データ、関連統計データ等を配布する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会の構造と変動 第2回 社会階級 第3回 社会階層と社会移動 第4回 エリート 第5回 学歴社会 第6回 中流社会から格差社会へ 第7回 近代社会としての産業社会 第8回 近代社会から現代社会へ 第9回 現代社会論 (1) 大衆社会 第10回 現代社会論 (2) 情報化社会 第11回 現代社会論 (3) 消費社会 第12回 現代社会論 (4) 都市社会 第13回 現代社会論 (5) リスク社会と監視社会 第14回 現代社会論 (6) グローバル化社会 第15回 日本社会の特質		
テキスト	特になし。	参考文献	金子勇・長谷川公一『マクロ社会学』（新曜社）現代位相研究所編『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』（日本実業出版社）
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%		

心理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
世界を捉えるこころのしくみ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	心が世界を認識するための基本的なしくみについて理解することを目標とする。具体的には以下の通り。 (1) 心理学的な現象、概念を適切に理解する。 (2) 心理学の研究の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、知覚（主に視覚）、学習、認知などの研究領域について、2〜3回かけて解説する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス／心理「学」の研究対象 第2回 現実の世界とこころが捉える世界 第3回 視知覚 (1) : 形の知覚, 空間の知覚 第4回 視知覚 (2) : 運動の知覚, 色の知覚 第5回 視知覚 (3) : 恒常性と錯覚 第6回 注意とパタン認識／中間まとめ 第7回 学習 (1) : 学習についての考え方 第8回 学習 (2) : 条件づけ, 技能の学習 第9回 学習 (3) : 社会的学習 第10回 記憶 (1) : 記憶のしくみ 第11回 記憶 (2) : 日常世界の記憶／中間まとめ 第12回 表象 (1) : イメージと心的操作 第13回 表象 (2) : 概念とカテゴリ 第14回 言語の理解と使用 第15回 思考と推論／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	田山・須藤 (2012) 『基礎心理学入門』培風館／御領謙ほか (1993) 『最新 認知心理学への招待』(ともにサイエンス社)／このほか授業中に適宜紹
評価方法	期末試験:60% 小テスト・レポート:40%		

心理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
「わたし」と「あなた」とその間に見るころ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自己、他者、他者との関係や相互作用について理解する。具体的には以下の点を目標とする。 (1) 心理学的な現象、概念を適切に理解する。 (2) 心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、自己、パーソナリティ、対人コミュニケーションなどの研究領域について、3〜4回かけて解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス／学問としての心理学とは 第2回 自己(1)：自己概念、自己表象 第3回 自己(2)：自己評価 第4回 自己(3)：自己に関わる動機づけ、自己制御 第5回 パーソナリティ(1)：パーソナリティとは 第6回 パーソナリティ(2)：特性と状況の関係 第7回 パーソナリティ(3)：遺伝と環境の関係 第8回 対人心理学(1)：他者の認知、他者への欲求 第9回 対人心理学(2)：対人関係 第10回 対人心理学(3)：対人行動・対人コミュニケーション 第11回 対人コミュニケーションとは 第12回 しぐさのコミュニケーション 第13回 暗黙のコミュニケーション 第14回 メディアを介したコミュニケーション 第15回 専門家によるコミュニケーション／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	戸田ほか(2005)『グラフィック性格心理学』サイエンス／深田(1999)『コミュニケーション心理学』北大路書房／このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末試験:60% 小テスト・レポート:40%		

心理学Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
社会に生きる個人のころ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学(特に個人内過程および対人行動)の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人認知、自己、社会的推論、態度、対人行動などの研究領域について解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／(社会)心理学の前提と研究法 第2回 対人認知1：印象の形成 第3回 対人認知2：対人情報の処理 第4回 社会心理学的研究の変遷 第5回 帰属過程 第6回 社会的推論 第7回 感情と認知 第8回 態度1：認知的斉合性の観点から 第9回 態度2：情報処理の観点から 第10回 自己1：自己の認知、自己の評価 第11回 自己2：自己の他者への表出 第12回 対人行動1：援助行動 第13回 対人行動2：攻撃行動 第14回 コミュニケーションのしくみ 第15回 コミュニケーションのチャネル／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤(2009)『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら(2007)『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／この他適宜紹介する。
評価方法	期末試験:60% 小テスト・レポート:40%		

心理学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
個人のあつまりと社会		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学（特に対人関係および集団・集合過程）の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究手法の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人関係、集団行動、集団間関係、集合行動などの研究領域について解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス／社会心理学の前提と研究法 第2回 社会に生きる「個人」のころのしくみ 第3回 対人関係1：対人魅力と親密化 第4回 対人関係2：親密な関係 第5回 社会的交換 第6回 社会的影響：他者の存在による影響 第7回 集団1：集団での問題解決と意思決定 第8回 集団2：社会的規範と同調 第9回 社会的ジレンマ 第10回 リーダーシップ 第11回 集団間関係1：集団間葛藤 第12回 集団間関係2：ステレオタイプ、偏見、差別 第13回 集合・群集の行動 第14回 マス・コミュニケーション 第15回 文化と人のころ／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤（2009）『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら（2007）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／その他適宜紹介する。
評価方法	期末試験：60% 小テスト・レポート：40%		

心理学Ⅴ		前期 2 単位	1・2・3年
子供の個性に応じる		宮脇 郁 (みやわき かおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の個性、特に性格を理解するための知識と方法を理解する。 ・学校生活において生じやすい問題を知り、その対処法の1つとしてのカウンセリングの基礎がわかる。 ・障害児教育、特に発達障害の児童生徒に対する指導方法を理解する。 		
授業の概要	本講では、まず子供の個性の把握に役立てるために、性格の理論と測定方法を学ぶ。さらに、学校における問題（不適応）の種類およびその対処方法としてのカウンセリングを概観する。また、学級集団内の人間関係、障害児教育についても学ぶ。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 子供の個性の把握① 性格の理論 第3回 子供の個性の把握② 性格を理解する 第4回 適応と不適応 第5回 学校における不適応① 不登校 第6回 学校における不適応② いじめ、その他 第7回 学校における不適応③ 心の病気 第8回 学校におけるカウンセリング① 概論 第9回 学校におけるカウンセリング② ささまざまな心理療法 第10回 学校におけるカウンセリング③ 教育相談 第11回 学級集団の心理 第12回 心理教育的援助① 概論 第13回 心理教育的援助② 発達障害 第14回 心理教育的援助③ 特別支援教育 第15回 まとめと振り返り		
テキスト	未定	参考文献	服部 環（監修）『「使える」教育心理学 <増補改訂版>』北樹出版
評価方法	定期試験：80% 授業への積極的参加度：20%		

心理学VI		後期 2 単位	1・2・3年
子供の学びをサポートする		宮脇 郁 (みやわき かおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達のだんががわかる。 ・人間の知的能力の仕組みを理解し、日常場面での知的活動にに当てはめることができる。 ・代表的な学習指導法と教育評価の方法を身に付ける。 		
授業の概要	効果的な学習指導を行うためには、子供の知的な側面を正しく把握する必要がある。そこで本講では、子供の知的能力の理解に役立つトピックである発達・学習・記憶と認知・知能などについて基礎的な知識を学び、教育場面への応用を考える。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子供の発達の特徴① 乳児期、幼児期</p> <p>第3回 子供の発達の特徴② 児童期、青年期</p> <p>第4回 子供の発達の特徴③ 発達の理論</p> <p>第5回 学習の仕組み① 古典的条件づけとオペラント条件づけ</p> <p>第6回 学習の仕組み② 条件づけを応用する</p> <p>第7回 学習意欲</p> <p>第8回 記憶と認知① 概論</p> <p>第9回 記憶と認知② 記憶の種類</p> <p>第10回 記憶と認知③ 知識の仕組み</p> <p>第11回 記憶と認知④ 考える力</p> <p>第12回 知能とは何か</p> <p>第13回 学習指導の方法</p> <p>第14回 教育評価</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
テキスト	未定	参考文献	柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』（北樹出版 2011年）
評価方法	定期試験:80% 授業への積極的参加度:20%		

心理学VII		前期 2 単位	1・2・3年
臨床心理学A（心理療法とこころの理解）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現在の主要な心理療法の理論や技法について学び、人間の心身の失調の意味について、自己や他者の心のつまずきについてより適切に向き合い、支援するためのアイデアを持つことができるようにする。		
授業の概要	以下のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 臨床心理学とは</p> <p>第2回 欧米における精神保健の歴史①</p> <p>第3回 日本における精神保健の歴史②</p> <p>第4回 内因性精神障害</p> <p>第5回 心因性精神障害</p> <p>第6回 器質性の精神障害</p> <p>第7回 行動療法①学習理論と行動療法</p> <p>第8回 行動療法②各種技法、認知行動療法</p> <p>第9回 来談者中心療法</p> <p>第10回 日本オリジナルの心理療法 森田療法 臨床動作法</p> <p>第11回 心の状態を見立てる① 心理検査とテストバッテリー</p> <p>第12回 心の状態を見立てる② 性格検査、臨床描画法実習</p> <p>第13回 児童期の心理療法 事例から考える</p> <p>第14回 思春期・青年期の心理療法 事例から考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	坂上裕子・繁樹江里・薬師神玲子・田中志帆・武田美亜ら著 大学1、2年生のためのすぐわかる心理学 東京図書 ￥2200	参考文献	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房
評価方法	授業感想文:40% 最終レポート:60%		

心理学Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
臨床心理学B（精神分析入門）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	精神分析的な心理療法における基礎的な理論や方法、心の失調とは何かを学び、人間の深層心理について考える。生後1年～2年までの乳幼児の心の状態を含め、人の心の成長と生と死の本能の意味について触れ、人間と社会について精神分析的な視点で考察できるようになることを目指す。		
授業の概要	フロイト理論と対象関係論について、解りやすく解説する。アニメや芸術作品を鑑賞したり、また心理療法のケースを紹介しながら、人間の深層心理について共に考える。授業中にプリント課題を配布して、実習形式で講義を行う場合がある。		
授業計画	【後期】 第1回 精神分析が誕生した時代 第2回 フロイトの人生(その生涯) 第3回 精神分析の基本的な原則と概念 第4回 自我・エス・超自我①防衛機制 第5回 自我・エス・超自我②発達段階 第6回 神経症のなりたち 第7回 エディプスコンプレックスとは 第8回 アルプスの少女ハイジを分析する 第9回 夢の意味と理論 第10回 やってみよう夢分析 第11回 芸術家や作家の人生、作品にみる反復強迫 第12回 生と死の本能—人はなぜ戦争をするのか 第13回 対象関係論①P/Sポジション 第14回 対象関係論②Dポジション 第15回 精神分析とは何か？（まとめ）		
テキスト	特に指定しない	参考文献	推薦図書を授業中に配布する。
評価方法	授業時の課題や感想文:60% 最終レポート:40%		

教育学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ヒトが人になるとはどういうことか		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	Ⅰ. 教育の本質について、種の保存という観点から、「ヒトが人になるとはどういうことか」について考え、人間にとつての教育の根源的意味を理解する。Ⅱ. 日本における近代教育の歴史的展開をたどることで、教育が国家や社会のあり方、文化や価値観の変遷と密接な関連を持つことを理解する。		
授業の概要	全体を本質編と歴史編に分ける。本質編では、教育という営みの人類史的意味を明らかにする。歴史編では、近世における教育の習俗を明らかにしつつ、それが明治以降の近代教育へどのように転換していったかを明らかにする。近代国家と教育の関係、学歴社会の成立、戦争と教育、戦後教育改革の展開、など。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 種の持続と人間の子育て・・・動物と人間を分かちもの 第3回 人間の子育ての特徴 第4回 子育ての習俗①・・・通過儀礼など 第5回 子育ての習俗②・・・子供組、若者組など 第6回 商人の教育、女子の教育 第7回 寺子屋と藩校 第8回 文明開化と教育・・・近代学校のはじまり 第9回 試験制度の始まり 第10回 国家と教育 第11回 学歴社会の成立 第12回 「教育する家族」の登場 第13回 戦争と教育 第14回 戦後教育改革の展開 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない	参考文献	ポルトマン『人間はどこまで動物か』（岩波新書）、大田堯著『教育とは何か』（岩波新書）、その他随時紹介する。
評価方法	感想文:20% レポート:80%		

教育学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代の教育問題を問う		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	Ⅰ 戦後から今日にいたる「教育問題」を取り上げ、その歴史的背景やそれぞれに内在する教育学的論点を理解する。 Ⅱ 世界の教育改革動向に目を向け、日本の教育問題の特殊性や普遍性に気づくことで、自らの教育観の基礎を培う。		
授業の概要	教育における「競争」「管理主義」「早期教育」「いじめ」「学級崩壊」等の諸問題を取り上げ、それらの内在的な関連を、近代教育の歴史的特質や社会構造の変化との関連で明らかにしていく。さらに「子どもの権利条約」や外国の教育改革動向との関連で、日本の教育問題の解決の方向を国際的視野から考える。		
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 戦後における学歴競争：「競争」の性格変化 第3回 学歴・資格の社会的意味 第4回 「管理主義教育」の実態：校則と体罰、ビデオ視聴 第5回 「管理主義教育」をどう考えるか 第6回 早期教育の実態と論点：ビデオ視聴 第7回 早期教育をどう考えるか：討論 第8回 「いじめ」の構造と対応 第9回 「学級崩壊」とは何か 第10回 欧米における教育改革①：育児支援と子ども観 第11回 欧米における教育改革②：学力観 第12回 欧米における教育改革③：討論 第13回 「子供の権利条約」が提起するもの：新しい子ども観 第14回 「子供の権利条約」をどう考えるか：討論 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない	参考文献	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、その他随時紹介する。
評価方法	感想文:20% レポート:80%		

文化人類学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ツーリズム研究の地平 — 移動と場所			
授業の到達目標 及びテーマ	ツーリズム（旅・観光・巡礼）を切り口に、人間は移動を通して場所とどのように関わっているのかについて人類学と結びつけながら考える。ツーリズムにかんする三方向からの問い（実用的、社会科学的、哲学的）を通じて、関連知識と理論的な思考力を身につける。また、これらをふまえ、理解した内容を説得的にまとめ、構成する方法を学ぶ。		
授業の概要	文化人類学は異文化に詳しくなることだけが目的ではありません。扱うトピックは多彩ですが、できるだけ具体的かつ包括的に、自分のものの見方を豊かにすることを目指す学問です。そのことを意識しつつ、事例や関連知識、ものごとの背景の読み解き方、思考の深め方を学びます。グループあるいは各自で発表してもらう機会を設けます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン - 文化人類学とは？ 第2回 労働と余暇 第3回 観光人類学・観光社会学という視座 第4回 名所旧跡から海や廃墟へ—アトラクションの変遷 第5回 「どこに行くか」から「どう行くか」へ 第6回 世界遺産とランドスケープ 第7回 観光地・巡礼地の作られ方 第8回 観光という商品の作られ方 第9回 世界の巡礼／ツーリズム（1）グループまたは個人発表 第10回 世界の巡礼／ツーリズム（2）グループまたは個人発表 第11回 世界の巡礼／ツーリズム（3）スペインの事例 第12回 世界の巡礼／ツーリズム（4）スペインの事例 第13回 レポートの書き方と議論のしかた 第14回 移動と定住、日常と非日常 第15回 居場所があるとはどういうことか		
テキスト	星野英紀・山中弘・岡本亮輔編（2012）「聖地巡礼ツーリズム」弘文堂	参考文献	授業の中で紹介します
評価方法	口頭発表:30% リアクションペーパー:20% レポート:50%		

文化人類学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
文化人類学的に考える			
授業の到達目標 及びテーマ	○幅広い題材を用いて、文化人類学に特徴的な考え方、とりわけ「ものごとを丁寧にみること・考えること」を学ぶ ○文化人類学で扱う多彩な問題関心のあいだにある地続きの部分が把握できるようになる ○当講座内容に関連したレポートの書き方（作法、議論、構成の仕方）を身につける		
授業の概要	扱うトピックは各回ごとに異なるが、具体的に徹した内容から少しずつ抽象度の高い内容へと移行しながら授業をすすめる。文化人類学においては「客観的にみて正しい／間違っただけ」というものはない。なので、授業の参加者からの積極的な発言を期待する。ペアワークを取り入れたり課題を課すことがある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨーン文化人類学的思考とは 第2回 人類学の出発点とその歴史の概略 第3回 フィールドワークの方法（1）調査の仕方と目的 第4回 フィールドワークの方法（2）事例から思考を組み立てる 第5回 民族誌的映像を見る 「極北のナヌーク」 第6回 民族誌的映像を見る 「ライフ・イン・ア・デイ」 第7回 細かな問題・身近な問題・遠くの問題 第8回 経済と開発—効率や成功の裏側 第9回 アーティファクトと物質性 第10回 集合性とは何か—本質主義と相対主義 第11回 グローバル化と社会変容 第12回 国家—権力と資本主義から考える 第13回 レポートの書き方（1）基本的な作法と議論の仕方 第14回 レポートの書き方（2）議論と構成の仕方 第15回 文化・社会・環境—二つの視点		
テキスト	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	授業参加貢献度:20% リアクションペーパーと提出物:20% レポート:60%		

人文地理学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
人文地理学の基礎		齋藤 元子（さいとう もとこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の基本を理解する。人文地理学の主要分野である地理教育・歴史地理学・文化地理学を取り上げ、それぞれの研究対象ならびに研究の方法を理解する。人文地理学の基本ツールである地図があらゆる分野の研究に活用されていることを理解し、様々な時代やスケールの地図を解読できるようになる。		
授業の概要	地理教育では、教科書の歴史に焦点を当て、特に掲載された地図に着目する。歴史地理学では、東京の歴史地理をテーマとし、江戸時代から現在に至る空間的な変遷を多様なスケールの地図を用いて検証する。文化地理学では、国際交流やジェンダーの問題を地理学的な視点から考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 人文地理学の研究対象と方法 第3回 近世の世界地図・日本地図 第4回 地理教育史1：初等教育 第5回 地理教育史2：中等教育 第6回 地理教育史3：社会教育 第7回 東京の歴史地理1：江戸から東京へ 第8回 東京の歴史地理2：山の手移り変わり 第9回 東京の歴史地理3：下町の移り変わり 第10回 東京の歴史地理4：青山学院の地を越える 第11回 国際姉妹都市1：友好活動のケーススタディ 第12回 国際姉妹都市2：地理教育への活用 第13回 ジェンダーの地理1：世界 第14回 ジェンダーの地理2：日本 第15回 まとめ		
テキスト	使用しない	参考文献	授業中に適宜指示
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%		

人文地理学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
人文地理学の実践		齋藤 元子（さいとう もとこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の実践として、宗教地理学・民族地理学を取り上げ、その研究の対象と方法を日本ならびに世界各地の事例を用いて理解する。人文地理学の基本ツールである地図が、それぞれの調査や研究にいかにか活用できるかを理解する。		
授業の概要	世界各地の宗教集団や民族集団が形成した景観や空間を分析することを通して、文化の固有性を学ぶとともに、自然環境や歴史的環境が生み出した地域性に着目する。考察対象としては、アメリカのキリスト教集団アーミッシュ、英国北アイルランドのカトリックとプロテスタント、日本の隠れキリシタン、富士山信仰、日米のエスニックタウンを取り上		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 宗教地理学・民族地理学の研究対象と方法 第3回 アーミッシュの社会 第4回 アーミッシュの地域差 第5回 アーミッシュの観光化 第6回 北アイルランドの歴史地理 第7回 ベルファストの都市構造 第8回 ビースラインとミューラル 第9回 紛争地観光の展開 第10回 平和と地理教育 第11回 隠れキリシタン伝承の島々 第12回 富士山信仰と富士塚 第13回 アメリカのジャパントウン 第14回 日本のチャイナタウン 第15回 まとめ		
テキスト	使用しない	参考文献	授業中適宜指示
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%		

マス・コミュニケーション論Ⅰ		後期 2 単位	1・2・3年
これからの情報化社会：ブロードバンドとユビキタス時代		川村 受映（かわむら じゅえい）	
授業の到達目標 及びテーマ	私達は今「インターネット」や「ブロードバンド」「モバイル通信」「ユビキタス」など、情報通信ネットワークと切り離せない社会に生きている。「情報化社会」とはどんな社会なのか、私たちの生活は以前とどのように変わり、これからどのような未来に向かっていくのかを探求するのがこの授業の目標である。		
授業の概要	毎回パワーポイントやインターネットを使い、講義形式で授業を進める。学生がどれだけ理解しているのかを確認するため、授業の最後に小レポートを作成してもらおう。皆で共有した方がいいと判断される意見や質問などは次回の授業で発表する。		
授業計画	【後期】 第1回 情報化社会 第2回 IT情報技術の進歩 第3回 世界のメディア統計 第4回 メディアの歴史 第5回 インターネットの世界 第6回 ブロードバンド 第7回 ソーシャルネットワークサービス(SNS) 第8回 ブログ フェースブック ツイッター 第9回 モバイル通信 第10回 情報通信の未来 第11回 ユビキタス社会 第12回 ユビキタスと私たちの生活 第13回 諸外国のユビキタス事情 第14回 オンライン・ジャーナリズム 第15回 これからの世界		
テキスト	特になし	参考文献	授業中に提示する
評価方法	授業中の小レポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論Ⅱ		前期 2 単位	1・2・3年
マス・メディアの過去と現在		長谷川 倫子（はせがわ ともこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	マス・メディアの成り立ちから現状までを概観しながら、社会生活におけるマス・メディアの存在意義を問うことで、マス・コミュニケーションとは何かを理解する。		
授業の概要	メディア論の視点から、近代化とともに新しく登場したメディアがマス・コミュニケーションの手段となるまでを理解します。マス・メディアがそれぞれの生活の中でどのような役割を果たしているのかを考えながら、日本の新聞・放送・出版・映画それぞれの現状と今後を産業論の視点から紹介します。講義ではパワーポイントや映像資料も使用しま		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 マス・コミュニケーションとマス・メディアとは</p> <p>第2回 近代化と印刷メディアの登場</p> <p>第3回 新聞王ビュリツター</p> <p>第4回 映画の輸入・定着からトーキーへ</p> <p>第5回 ラジオの登場とその普及</p> <p>第6回 プロパガンダとマス・メディア</p> <p>第7回 高度経済成長とテレビ</p> <p>第8回 メディアイベントとマス・メディア</p> <p>第9回 若者文化とマス・メディア</p> <p>第10回 音楽とマス・メディア</p> <p>第11回 日本の新聞</p> <p>第12回 日本の放送（1）放送制度とは</p> <p>第13回 日本の放送（2）これからの放送</p> <p>第14回 日本の出版</p> <p>第15回 日本の映画</p>		
テキスト	未定	参考文献	春原昭彦他編著『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、2004年）
評価方法	平常点（積極的参加）：30% 課題や感想文の内容：30% レポートか試験：40%		

マス・コミュニケーション論Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
ニュースのメカニズムと影響について学ぶ		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちが毎日接触しているニュースはどのようにして出来上がっているのか。また、それはどのように受け止められ、どのような影響を私たちに及ぼしているのか。これらについての理解を深めることでリテラシーを高めることを目指したい。ニュースに主体的に向き合い、批判的に読むことができるようになる。		
授業の概要	講義形式による。まず、コミュニケーション、マス・コミュニケーション、日本のマスコミの特徴、ニュースのメカニズムについて概観する。次に、国際報道、災害報道、犯罪報道の現状と問題点について検討する。さらに、マスコミの報道の影響について具体的事例を取り上げて、批判的に考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 コミュニケーションとマス・コミュニケーション</p> <p>第2回 日本のマスコミの特徴</p> <p>第3回 ニュースとジャーナリズム</p> <p>第4回 国際報道（1）南北問題</p> <p>第5回 国際報道（2）アジア報道</p> <p>第6回 災害報道（1）震災報道</p> <p>第7回 災害報道（2）報道と防災</p> <p>第8回 犯罪報道（1）報道の問題</p> <p>第9回 犯罪報道（2）取材の問題</p> <p>第10回 犯罪報道（3）人権侵害</p> <p>第11回 誤報</p> <p>第12回 マスコミ報道の影響（1）健康と食</p> <p>第13回 マスコミ報道の影響（2）選挙</p> <p>第14回 マスコミ報道の影響（3）自殺</p> <p>第15回 マスコミ報道の影響（4）パニック</p>		
テキスト	特になし。関連資料を適宜配布する。	参考文献	上前淳一郎『支店長はなぜ死んだか』（文春文庫） 読売新聞社『「人権」報道』（中央公論新社） 梓澤和幸『報道被害』（岩波新書）
評価方法	平常点：20% 定期試験：80%		

女性学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
女性が主体的に生きることを考える		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義は、現代日本社会において、女性が主体的に生きる力を養成することを目的とする。 長期的視野に立って自分自身のライフデザインを考える上で、日本社会における女性を取り巻く社会環境を理解する。		
授業の概要	就職活動、職業選択、結婚、家族形成など、各ライフステージにおいて女性が直面するであろう諸問題を、男性の変容を視野に入れつつ、把握していく。		
授業計画	【前期】 第1回 統計でみる女性の一生：進学・就職・仕事編 第2回 統計でみる女性の一生：結婚・家族編 第3回 現在の就職事情 第4回 女性のライフコースの変化 第5回 性別役割分業意識の変容 第6回 ジェンダー規範と自己形成 第7回 ジェンダーと職業選択 第8回 経済変動と結婚の変容 第9回 結婚の現代的意味を考える 第10回 未婚化・非婚化の進行 第11回 シングルマザー 第12回 専業主婦再考 第13回 家族団欒の変容 第14回 親密性の中の暴力：DV 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントを配布する。	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	ミニペーパー：30% 試験：70%		

女性学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
現代の家族を考える		原 葉子 (はら ようこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 「家族」を社会学的な視角からとらえ、私たちが日常的に当たり前だと思っているごく身近な問題を改めて問い直すことの重要性を理解する。 (2) 家族を考えるための基礎的な概念や枠組みを習得し、具体的なテーマについて自ら考えることができるようになる		
授業の概要	「家族」という概念についての基礎知識や歴史を学んだ後、結婚から高齢期に至るまでのさまざまな段階における具体的な問題を、国際比較もまじえながら考えていく。受講者は、リアクションペーパーの記入やディスカッションを通じて、授業に積極的に参加していくことが求められる。		
授業計画	【後期】 第1回 「家族」を考えるための基礎知識 第2回 家族とは何か 第3回 「近代家族」とは 第4回 家族とジェンダー (1) 性別役割分業 第5回 家族とジェンダー (2) 「家」と「家族」 第6回 結婚の現代的意味 第7回 少子化の要因 第8回 出産をめぐる状況の変化 第9回 育児と親役割 第10回 変わる父親像 第11回 さまざまな家族のかたち (1) 離婚後の家族 第12回 さまざまな家族のかたち (2) 非血縁家族 第13回 親密な関係性における葛藤 第14回 高齢期の家族 第15回 まとめとディスカッション		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布する。	参考文献	講義の中で適宜紹介する。
評価方法	期末試験：70% 平常点：30%		

女性学Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
性暴力と性の商品化		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性に対する性暴力と被害者支援の現状を学び、今後の支援のありかたや性暴力をなくすための問題点を理解する。 ・性の商品化の問題点や議論の対立点を学び、性の自己決定及び、主体的な性と生について理解する。 		
授業の概要	全体を①歴史②性暴力③性の商品化にわける。①では性差別、性暴力に関する学問の成立の歴史的経緯とその成果を学ぶ。②では、現在の痴漢、強姦、ストーカー、セクシャル・ハラスメント、DVなどの性暴力の実態と被害者心理や支援を学ぶ。③では性産業やメディアにおける性表現や情報を検討し、女性の主体的な性と生のあり方を探る。		
授業計画	<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ジェンダーとは何か 第2回 性暴力と女性運動 第3回 女性運動と学問研究 第4回 セクシャル・ハラスメント 第5回 ストーカー 第6回 ちかん・強姦 第7回 性暴力の被害者支援 第8回 DVの構造と実態 第9回 DV被害者の生活再建 第10回 DV加害者の更生 第11回 性の商品化 現状と問題点 第12回 メディアにおける性表現①新聞、雑誌 第13回 メディアにおける性表現②映像 第14回 性の自己決定 第15回 まとめ 		
テキスト	特に定めない。資料を配布する。	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	レポート:50% 授業感想文:50%		

社会福祉概論		前期 2 単位	1・2・3年
社会福祉入門		山内 陽子 (やまうち ようこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会福祉の理念、歴史、福祉サービスの成り立ちについて概観するとともに、基礎的な知識を身につけることが目標である。		
授業の概要	社会福祉は私たちの生活と関わりが深く、身近である。本講義では、社会福祉を第三者的に学ぶのではなく、社会的関心の高いさまざまな福祉の問題を挙げ、学生自身の生活と結びつけて考え、現在の社会状況および、福祉サービスについて基礎的な理解を深めていく。講義中心だが、学生同士のディスカッション等の学習形態も取り入れる。		
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会福祉の理念と概念 第3回 社会福祉の歴史 第4回 社会福祉の法制度 第5回 子ども虐待問題と対策 第6回 ドメスティック・バイオレンス 第7回 社会的養護1 施設養護 (乳児院) 第8回 社会的養護2 施設養護 (児童養護施設) 第9回 社会的養護3 家庭的養護 第10回 少年非行問題とその対策 第11回 貧困問題と生活保護制度 第12回 障害児・者福祉制度 第13回 高齢者福祉制度 第14回 社会福祉に携わる専門職 第15回 まとめ 		
テキスト	特に定めない。プリント等資料を配布する。	参考文献	鈴木力「あたらしい社会的養護とその内容」青踏社 山縣文治「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会 随時紹
評価方法	リアクションペーパー:10% 中間レポート:40% 試験:50%		

国際協力 I		前期 2 単位	1・2・3年
国際協力と民際協力へ協力のありかたを考える～		佐伯 奈津子（さえき なつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	○国際化、グローバル化といわれる今日、開発、人権、紛争、労働、女性、環境などは、一国内にとどまらない地球的問題になっている。このような地球的問題から、国際協力が必要とされる背景を理解する。○国際協力は、国家から草の根までさまざまなレベルで実施されている。具体的な協力の事例を挙げつつ、国際協力の意義や課題を理解する。		
授業の概要	○前半では、身の回りのモノを通じて、わたしたちが暮らす世界の仕組みを明らかにする。 ○後半では、日本の政府開発援助（ODA）の歴史や概観を説明したのち、ODA事業や非政府組織（NGO）による国際協力について説明する。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション：授業の進め方とねらい 第2回 ツナ缶：インドネシアのカツオ漁とツナ缶工場 第3回 コーヒー：おいしいコーヒーの真実 第4回 カカオ：先物取引市場と児童労働 第5回 パームオイル：「環境にやさしい」は本当か 第6回 ジーンズ：綿花から製品まで 第7回 ナイキのスポーツ・シューズ：グローバル化時代の労働 第8回 日本の国際協力：政府開発援助（ODA） 第9回 インドネシアのダム開発：電力需要と住民の立ち退き 第10回 インドネシアの天然ガス開発：エネルギー安全保障と人権 第11回 ビルマの天然ガス開発：民主化と軍事政権 第12回 スマトラ沖地震・津波：オール・ジャパンの緊急援助 第13回 ロールプレイ 第14回 まとめ：国際協力と民際協力 第15回 長文リスポンスシート記入		
テキスト	授業時に配布	参考文献	授業時に提示
評価方法	授業感想文の内容：60% ロールプレイ：20% 長文リスポンスシート：20%		

キャリア・デザインⅡ		前期 2 単位	1・2・3年
労働市場の変化とその影響、企業における人材育成、従業員のキャリア形成		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	個人と企業組織の調和のために、個人が企業組織でどのようにキャリア形成していくかを人材マネジメントの観点から理解できるようにする。そこから、将来どのように企業組織で働くかのイメージと心構えをつくることのできるようにする。		
授業の概要	働く個人が企業においてキャリアを形成する流れに沿って、人材の獲得、人材育成、配置や異動、昇進、評価や処遇といった内容について取り上げる。具体的なイメージを持つために、ビデオ等の視聴覚教材を使用する。また、自己理解を深めるための課題への取り組み等を実施する。原則として、講義内容に対する意見や感想を毎回書いて提出してもら		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 企業におけるキャリア形成とは？ 第2回 人材の獲得① 労働市場の変化、雇用の多様化 第3回 人材の獲得② 求職と求人、就職活動 第4回 人材育成① 人材育成の目的 第5回 人材育成② OJTとOff-JT、キャリア・パス 第6回 人材フロー 配置と異動 第7回 管理職の役割の変化 第8回 管理職の早期選抜と育成 第9回 人材の評価 評価制度の変化 第10回 人材の処遇① 外面的報酬と内面的報酬 第11回 人材の処遇② 賃金管理の変化 第12回 人材の尊重 働く環境の整備、福利厚生 第13回 転職・失業・定年退職 第14回 変化する企業と個人の関係 第15回 まとめ さまざまなキャリア形成		
テキスト	開講時に指示する	参考文献	阿部正浩、松繁寿和（2010）『キャリアのみかた図で見る109のポイント』有斐閣、守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社
評価方法	感想及び課題提出：50% 期末のレポート：50%		

自然科学概論Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
科学の社会史		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	東日本大震災及びそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、科学・技術と上手に付き合っていくための科学リテラシーの修得を目標とす		
授業の概要	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」の誕生：「歴史観」について説明します。 第3回 「古代ギリシアの自然観」について説明します。 第4回 「錬金術と絵画」：『ハリー・ポッターと賢者の石』 第5回 「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」：『薔薇の名前』 第6回 「科学革命論」再考Ⅰ：概略とその問題点を説明します。 第7回 「科学革命論」再考Ⅱ：中国の科学と西洋中心主義 第8回 「科学革命論」再考Ⅲ：魔術的自然観と機械論的自然観 第9回 「科学革命論」再考Ⅳ：化学革命の検討。『パヒューム』 第10回 「酸素の発見」と「パラダイム論」：『絵画と科学』 第11回 啓蒙主義と聖俗革命：百科事典と学問分類 第12回 BSE(狂牛病)と科学コミュニケーション 第13回 原発問題とリスク社会、科学リテラシーについて説明。 第14回 「大学の誕生（日本）」、「教養教育の再構築」 第15回 本講義のまとめ		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
科学の社会史		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	東日本大震災及びそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、科学・技術と上手に付き合っていくための科学リテラシーの修得を目標とす		
授業の概要	本講義では科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに「科学と英文学」、「科学と絵画」、「ジェンダーと科学」等のテーマを考察し、最終的には科学技術社会論的観点から考察します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野（英文学、芸術、教育等）から積極的に「科学」との関連を模索して下さい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：概要と衝撃について説明します。 第3回 「社会ダーウィニズム」と「日本における進化論の受容」 第4回 「科学とイギリス文学」に関する研究を概観します。 第5回 ダーウィニズムとウェルズ：『タイムマシン』を考察。 第6回 『フランケンシュタイン』を科学的に考察しましょう。 第7回 絵画と科学：フェルメール等を例に考察してみましょう。 第8回 戦争と科学：フリッツ・ハーバーの生涯と業績 第9回 レイチェル・カーソン：科学・文学・環境：DDTの功罪 第10回 日本人と近代科学Ⅰ：長州ファイブ、山尾庸三、ダイアール 第11回 日本人と近代科学Ⅱ：『JIN』：病気の文化史：華岡青洲 第12回 ジェンダーと科学：マリー・キュリーを題材に考察。 第13回 GMO(遺伝子組み換え作物)と科学コミュニケーション 第14回 原発問題とリスク社会、科学リテラシー 第15回 本講義のまとめ：教養教育の再構築		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅲ		前期 2 単位	1・2・3年
文化としての科学・教養としての科学		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。		
授業の概要	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素や文化的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第 2回 「科学」と「技術」：「歴史観」についても説明します。 第 3回 古代ギリシアの自然観：女性哲学者ヒュパティア 第 4回 「錬金術と絵画」Ⅰ：錬金術の基礎理解とその表象 第 5回 「錬金術と絵画」Ⅱ：プリューゲルから『ポッター』まで 第 6回 図書館と科学：12世紀ルネサンス：『薔薇の名前』 第 7回 ガリレオの斜塔：科学とキリスト教・文学・音楽 第 8回 ケプラーと世界の調和：科学・音楽・占星術 第 9回 ニュートンの光と影：錬金術師としてのニュートン 第10回 ラヴォワジエとプリーストリ：『パヒューム』 第11回 ジェンダーと科学：マリー・ラヴォワジエ：ダヴィド 第12回 百科事典と科学：ペーコン、百科全書、ブリタニカ 第13回 コーヒーハウスと科学：公共圏とサイエンス・カフェ 第14回 原発問題とリスク社会：科学コミュニケーション 第15回 本講義のまとめ：科学リテラシーと教養教育の再構築		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論Ⅳ		後期 2 単位	1・2・3年
文化としての科学・社会における科学		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。		
授業の概要	本講義では科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに、科学哲学の視点からアプローチし、理論と事実、仮説と法則等のテーマを考察し、疑似科学とどう対峙していくかを学び、最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察することにします。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第 2回 ダーウィンと進化論：科学とキリスト教～社会進化論 第 3回 モンキー裁判再考：創造論～インテリジェント・デザイン 第 4回 科学哲学Ⅰ：理論と事実、仮説と法則 第 5回 科学哲学Ⅱ：疑似科学と反証条件、実験と観察 第 6回 フェルメールと科学：合成染料の歴史：パーキンとモーブ 第 7回 微生物学の歴史：レーウエンフック、パスツール、コッホ 第 8回 日本人と近代科学Ⅰ：『JIN』：病気の文化史：緒方洪庵 第 9回 日本人と近代科学Ⅱ：『JIN』：病気の文化史：吉原・梅毒 第10回 ジェンダーと科学：津田梅子を題材に考察・山川捨松 第11回 戦後日本の科学観：アトムとゴジラ：手塚治虫と科学 第12回 高木仁三郎と市民の科学：科学コミュニケーション 第13回 原発問題とリスク社会：大石又七と大江健三郎 第14回 教養教育の再構築：科学リテラシー 第15回 本講義のまとめ		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

自然科学概論VI		後期 2 単位	1・2・3年
現代の科学・技術が抱える諸問題について、歴史的視点および具体的事例から検討する。		栗原 岳史（くりはら たけし）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会を生きるうえで欠かすことのできない科学・技術に関する諸問題について、歴史的出来事や具体的な事例から検討することで、専門家でなくともそれらについて考えられるようになることを授業の目標とする。		
授業の概要	講義形式で進める。毎回の講義終了時に講義の感想、意見、または質問などを簡単に書き、それを小レポートとして提出することで、授業に出席したとみなす。小レポートの内容を講義に反映させるので、積極的な意見や質問を希望する。時事的な問題を取り入れるため授業の内容を変更する場合もある。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 原子爆弾の誕生とその影響 (1) 原子爆弾構想の起源</p> <p>第2回 原子爆弾の誕生とその影響 (2) 原子爆弾開発の決定</p> <p>第3回 原子爆弾の誕生とその影響 (3) 原子爆弾使用の正当化</p> <p>第4回 日本の核開発 (1) 日本の原子力開発のはじまり</p> <p>第5回 日本の核開発 (2) 日本の原子力開発体制の成立</p> <p>第6回 日本の核開発 (3) 日本の原子力開発体制の特質</p> <p>第7回 日本の公害問題 (1) 水俣病とは？</p> <p>第8回 日本の公害問題 (2) 歴史としての水俣病</p> <p>第9回 日本の公害問題 (3) イタイイタイ病とは？</p> <p>第10回 日本の公害問題 (4) 歴史としてのイタイイタイ病</p> <p>第11回 現代の科学と技術 (1) 戦争と科学について</p> <p>第12回 現代の科学と技術 (2) 大規模事故について</p> <p>第13回 現代の科学と技術 (3) 食品問題について</p> <p>第14回 現代の環境問題 (1) フロンガスと国政政治</p> <p>第15回 現代の環境問題 (2) 地球温暖化</p>		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	各授業毎に提示する。
評価方法	授業時の小レポート:40% レポート:60%		

自然科学概論VII		後期 2 単位	1・2・3年
環境科学への招待－環境問題を学際的に考える－		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、環境問題を生活者の視点で捉え直し、市民として必要な環境リテラシーと学際的な視野を涵養することを、到達目標とする。そのため、参加体験型学習を重視し、グループ・ディスカッション、環境の実験実習、大学周辺の環境関連施設見学を導入する。		
授業の概要	人間活動の結果として生じた環境問題の現状を概観し、環境問題の解決には自然科学・社会科学・人文科学の諸学問の融合と、市民・科学技術者・行政・企業等の学際的協働が必要であることを、事例を通して学ばせる。その上で、環境問題の解決に向けて我々が何をできるかを考察させる。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 イントロダクション-環境科学とは何か？-</p> <p>第2回 世界の環境問題の歴史- 20世紀後半の欧米を中心に-</p> <p>第3回 地球環境問題と社会-環境政策を中心に-</p> <p>第4回 日本の環境問題の歴史-公害と政府・自治体・科学者-</p> <p>第5回 環境問題の解決へ向けて-学際的な研究と教育-</p> <p>第6回 環境問題と科学技術者の社会的責任 1</p> <p>第7回 環境問題と科学技術者の社会的責任 2</p> <p>第8回 グループ・ディスカッション</p> <p>第9回 事前学習（環境関連施設の見学）</p> <p>第10回 環境関連施設の見学</p> <p>第11回 事後学習（環境関連施設の見学）</p> <p>第12回 国際機関の取り組み</p> <p>第13回 青山キャンパスでの気象観測実験</p> <p>第14回 GISと環境情報</p> <p>第15回 青山エコ・キャンパス</p>		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	随時、紹介します。
評価方法	平常点:40% 提出物:30% レポート:30%		

自然科学概論Ⅷ		後期 2 単位	1・2・3年
気象学入門		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	猛暑、突風、地球温暖化、オゾン層の破壊等の問題を通して、また各種リモートセンシング技術の進歩により、気象現象や地球大気そのものがごく身近に意識されるようになってきました。ここでは大気中の種々の気象現象・大気現象の基礎を理解できるように講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。気象の広範囲な内容 一大気の組成・構造、高気圧と低気圧、風、雲の種類、雨と雲、光の散乱などー について、主に観測や実験に基づいた基本的な事柄を説明します。		
授業計画	【後期】 第1回 大気の温度構造 第2回 大気の組成 (平均組成・鉛直分布) 第3回 低気圧と高気圧、台風 第4回 風-大気の大循環 第5回 風-局地風 第6回 雲の種類とでき方 第7回 雨と雪 第8回 梅雨と降雪 第9回 太陽放射 第10回 地球の熱収支 第11回 大気の光学現象 第12回 気象観測技術 (地上観測・高層観測) 第13回 気象観測技術 (気象衛星・リモートセンシング) 第14回 日本の気候 (二十四節気) 第15回 日本の気候 (気温・雨量等)		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	山岸照幸「理科のおさらい 気象」(自由国民社)、山岸米二郎「気象学入門」(オーム社)
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

統計学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
記述統計の基礎		内山 義英 (うちやま よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。		
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの見方、考え方は一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Aでは、記述統計を学んでいく。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨ、ン、統 計 学 と は 第2回 デー タ の 種 類 第3回 度 数 分 布 表 (1) — 度 数 、 相 対 度 数 第4回 度 数 分 布 表 (2) — 累 積 度 数 、 累 積 相 対 度 数 第5回 ヒ ス ト グ ラ ム 第6回 累 積 相 対 度 数 グ ラ フ 第7回 分 布 の 特 性 値 (1) — 平 均 、 メ デ ィ ア ン 、 モ ー ド 第8回 分 布 の 特 性 値 (2) — 平 均 偏 差 、 標 準 偏 差 、 分 散 第9回 分 布 の 特 性 値 (3) — デー タ の 基 準 化 、 偏 差 値 第10回 量 的 デー タ の 関 係 分 析 (1) — 散 布 図 第11回 量 的 デー タ の 関 係 分 析 (2) — 相 関 係 数 第12回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (1) — ク ロ ス 集 計 第13回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (2) — 分 割 表 第14回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (3) — 同 時 分 布 と 条 件 付 き 分 布 第15回 今 学 期 の ま と め		
テキスト	配布プリント、ただし平方根(ルート)を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%		

統計学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
推測統計の基礎		内山 義英 (うちやま よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。		
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Bでは、推測統計を学んでいく。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨ、推測統計学とは 第2回 標本空間と標本点 第3回 数学的確率、確率変数 第4回 確率変数の期待値と分散 第5回 中心極限定理と正規分布 第6回 母集団からの標本抽出 第7回 仮説検定の考え方 第8回 仮説検定の手順 第9回 t 検定 第10回 分散分析 (F検定) 第11回 独立性検定 (カイ2乗検定) 第12回 回帰分析とは 第13回 単回帰分析 第14回 重回帰分析 第15回 今学期のまとめ		
テキスト	配布プリント、ただし平方根 (ルート) を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%		

数学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
一筆書きの数理/魔方陣の数理		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	比較的身近な題材を通して数学を学びます。2つのテーマ (一筆書き、魔方陣) をとりあげ、数学的な意味を理解するとともに、数学的思考力を身につけます。		
授業の概要	2つのテーマを数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 一筆書きの数理: ケーニヒスベルグの橋渡り 第3回 グラフの定義、次数、偶点と奇点 第4回 数学的帰納法 第5回 一筆書きの条件 第6回 イリテーションパズルと彩色グラフ 第7回 順列グラフと有向グラフ 第8回 重畳彩色グラフ 第9回 魔方陣の数理: 魔方陣の定義、行列 第10回 色々な魔方陣 第11回 自然方陣の性質 第12回 自然方陣と魔方陣 第13回 汎魔方陣とは 第14回 汎魔方陣の条件 第15回 汎魔方陣の作成		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

数学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
二進法／素数		宮田 雅智（みやた まさのり）	
授業の到達目標及びテーマ	比較的身近な題材を通して数学を学びます。2つのテーマ（二進法、素数）をとりあげ、数学的な意味を理解するとともに、数学的思考力を身につけます。		
授業の概要	2つのテーマを数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 二進法の数理：スイッチの形 第3回 二進法と十進法 第4回 倍加法と逆倍加法 第5回 二進数の演算 第6回 数当てゲーム、二進カードの分類 第7回 情報のデジタル化（1）文字のデジタル化 第8回 情報のデジタル化（2）音と画像のデジタル化 第9回 素数：素数の定義、エラトステネスのふるい 第10回 素数は無限にあるか 第11回 素因数分解の一意性 第12回 約数の和 第13回 完全数 第14回 メルセンヌ数とユークリッド型完全数 第15回 素数と暗号		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

生物学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
ヒトの生物学		石井 孝彦（いしい たかひこ）	
授業の到達目標及びテーマ	○地球上の生命の発生からのヒトまでの進化を理解する。 ○ヒトの体の構造と機能を、生体成分の代謝系、神経・感覚系、免疫系、性と生殖系を通して理解する。 ○ヒトの一生をライフステージ別に理解する。		
授業の概要	ヒトが4000万種といわれる生物の1つの種にすぎないことを忘れがちである。講義は、分子から細胞へ、細胞から器官系（体の構造と機能）、遺伝、生殖と発生、進化などを通して生物界の一員としてのヒトの特徴を理解させる。最後に、自然環境との関連性を講義する。映像資料も活用する。		
授業計画	【前期】 第1回 進化1 化学進化～植物・昆虫の上陸 第2回 進化2 オルドビス紀～現代 第3回 情報の伝達1 神経系 第4回 情報の伝達2 感覚系 第5回 細胞／組織／器官系／個体 第6回 生命のレシピとしての遺伝子 第7回 生殖と発生 第8回 男と女の違い 第9回 食べ物の摂取／消化器系 第10回 栄養素・エネルギーの代謝 第11回 免疫系感染症 第12回 なぜ老いなぜ死ぬか 第13回 長寿遺伝子 第14回 ヒトのライフステージまとめ 第15回 ヒトと自然／地球生物圏は存続しうるか		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	永田恭介監訳『ヒトの生物学』（丸善株式会社）および図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 授業中の小テスト:20%		

生物学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
食事と臓器・組織の応答		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○食欲を通して感覚。記憶などの高次神経機能の一端を理解する。</p> <p>○消化吸収、代謝、循環、運動、排泄を通して自律神経機能、内分泌機能を理解する。</p> <p>○個体の恒常性の維持しながらも生理的変化として現れる老化について、遺伝・環境因子から理解する。</p>		
授業の概要	<p>外部環境の1つである食事の変化に対して、内部環境を維持するために、生体がどのように応答するかを諸臓器の機能を通して講義する。映像資料も活用する。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 生命と水</p> <p>第2回 内分泌系概説</p> <p>第3回 自律神経系概説</p> <p>第4回 食欲／脳の感覚・記憶機能</p> <p>第5回 摂取／歯・唾液・味覚・嚥下機能</p> <p>第6回 消化管／消化吸収機能・生体防御1機能</p> <p>第7回 肝臓の機能（体内の化学工場）</p> <p>第8回 脂肪細胞機能1 エネルギー貯蔵と肥満</p> <p>第9回 脂肪細胞機能2 ダイエットということ</p> <p>第10回 筋肉と骨格の機能</p> <p>第11回 身体（筋肉と骨格）つくりと栄養・運動および休養の役割</p> <p>第12回 心臓機能と血液機能</p> <p>第13回 腎臓機能と尿</p> <p>第14回 癌予防</p> <p>第15回 リズム（概日、月、季節、年など）と栄養</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する・	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:80% 授業中の小テスト:20%		

環境科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
環境科学の基礎		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>環境と調和した社会を築くためには、環境の科学的な理解が不可欠です。ここでは大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の化学的メカニズム、健康被害、浄化対策、また一般廃棄物、産業廃棄物、特に化学物質の処理、リサイクル等について、その基礎を理解できるよう講義します。</p>		
授業の概要	<p>講義を中心に進めます。はじめに環境問題の背景にある急速な人口増加、食料や資源・エネルギー確保といった問題について説明し、ついで主に我が国の公害・環境問題を具体例として大気、水質、土壌汚染について、そのメカニズム、健康被害、浄化対策を、また廃棄物問題とその対策について説明します。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 環境科学入門</p> <p>第2回 人口問題、食糧問題</p> <p>第3回 資源・エネルギーと環境</p> <p>第4回 自然の浄化作用</p> <p>第5回 環境汚染物質</p> <p>第6回 大気汚染（ガス）</p> <p>第7回 大気汚染（エアロゾル）</p> <p>第8回 大気汚染（二次汚染質）</p> <p>第9回 水質汚濁（河川・湖沼）</p> <p>第10回 水質汚濁（海洋）</p> <p>第11回 水質汚濁（上水・下水）</p> <p>第12回 土壌汚染（農薬など）</p> <p>第13回 土壌汚染（重金属）</p> <p>第14回 廃棄物とリサイクル</p> <p>第15回 化学物質の健康影響・安全管理</p>		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）、世自力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

環境科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
地球環境問題の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	産業革命以後、人間活動は際限なく拡大し、地球全体に影響を及ぼすようになってきました。そして我々は地球温暖化、海洋汚染、希少生物の絶滅等地球規模の環境問題に直面しています。ここでは個々の地球環境問題に関するメカニズム、影響、対策、将来予測等について、その基礎を理解できるよう講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。まず地球大気の構造について説明し、その上で地球温暖化・オゾン層破壊について説明します。また酸性雨、海洋汚染、放射能汚染等について説明するとともに、それらに関連する化学物質の観測方法、データの見方等についても説明します。		
授業計画	【後期】 第1回 大気の構造 第2回 地球温暖化の現状、温室効果 第3回 地球温暖化の将来予測 第4回 二酸化炭素の観測・監視 第5回 オゾン層破壊－オゾンの生成・消滅反応 第6回 オゾン層破壊－フロンガスの影響、オゾンホール 第7回 酸性雨－生成メカニズム 第8回 酸性雨－現状 第9回 海洋汚染 第10回 放射能汚染 第11回 熱帯雨林の破壊 第12回 砂漠化 第13回 生物多様性 第14回 環境と調和した暮らし方 第15回 省エネルギー・新しいエネルギー		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）、小島次雄・川平浩二・藤倉良「これからの環境科学」（化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

生活科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
日常生活と科学（物質）		谷本 信也（たにもと しんや）	
授業の到達目標 及びテーマ	人間と人間生活を物質を通して理解する。物質を構成する元素と元素どうしの結合から身の回りの物質のおおよその性質を理解し、生物にまで範囲を広げて生物と人間の特徴を生物学的に理解する。次に人間が作り出したさまざまな物質がどのような性質を持ちどのような存在意義を持つかを検証し、物質を通して生物と生活の理解が出来ることとする。		
授業の概要	前半は物質を構成している元素と元素同士の結合を学び、身の回りの物質の性質がどのようにして成り立つのかを扱い、その後自然界の物質の存在意義とその特徴を生物にまで範囲を広げる。終盤では、人間が作り出したさまざまな物質がどのような性質を持ちどのような存在意義を持つかを検証し、物質を通して生物と生活の理解が出来ることとする。		
授業計画	【前期】 第1回 全体の概要と元素について、また、そのエネルギーを扱う 第2回 分子についてそのエネルギーを扱う 第3回 高分子の特性をその構成元素、構造から理解する 第4回 身の回りの物質の概観をおこなう 第5回 生活環境を支える物質の概観をおこなう 第6回 自然界を支える物質の概観をおこなう 第7回 生物の構成成分の概観をおこなう 第8回 生物の代謝についての物質の概観をおこなう 第9回 生物の生体維持の為の物質変換の物質の概観をおこなう 第10回 外部物質が生体に与える影響の物質の概観をおこなう 第11回 石油などエネルギー資源についての概観をおこなう 第12回 石油由来の化学合成品と生活に関し概観をおこなう 第13回 それら以外の天然資源由来物質と生活との関わりを概観 第14回 食料資源の概観をおこなう 第15回 地球規模での生活のこれからは物質から概観する		
テキスト	全体を網羅するテキストが無く、特に指定なし	参考文献	人間・環境・安全 共立出版、エネルギー・環境・生命 化学同人、安全な暮らし方事典、食料の世界地図 丸善、他図書館カウンターの指定図書
評価方法	到達度を期末試験で :70% 授業の積極的な参加 :30%		

生活科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
化学の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	身近な衣食住に関わる物質の性質を化学の目で見られるよう、化学の基礎—元素の周期律、化学結合等—を分かりやすく解説します。また物質が違っても共通にみられる気体・液体・固体の性質、さらに生活との関係が深く、極めて多種多様な化合物を包含する有機化学の基礎についてやさしく解説します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。原子の電子構造から元素の周期律を学び、さらに化学結合を学びます。物質の三態（気体・液体・固体）及び希薄溶液やコロイドの性質を学んだ後、有機化学の基礎を学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 原子、元素 第2回 同位体 第3回 元素の周期表 第4回 原子の電子構造 第5回 化学結合—イオン結合 第6回 化学結合—共有結合 第7回 物質の三態—気体の状態方程式 第8回 物質の三態—液体・希薄溶液の性質 第9回 物質の三態—コロイド 第10回 物質の三態—固体・結晶 第11回 有機化合物—分類 第12回 有機化合物—構造・異性体 第13回 有機化合物—反応 第14回 低分子有機化合物 第15回 高分子化合物		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	長島弘三・富田功著「一般化学（三訂版）」（裳華房）
評価方法	時々の小テスト:50% 試験:50%		

情報科学Ⅰ		前期 2 単位	1・2・3年
情報科学と社会		小山 俊士（こやま しゅんし）	
授業の到達目標 及びテーマ	情報社会と的確につきあっていくための、基礎教養を身につけることを目的とする講義である。情報処理技術や通信技術は現代社会のあらゆる場面で使われており、その基本は誰もが知っていなければならない。コンピュータやインターネットの誕生と基本原理を学び、社会での有効な利用法やトラブルへの対処方法などを考えていく。		
授業の概要	情報科学の考え方を解説し、情報技術が社会でどのように使われているかといったことを紹介するための講義を行う。講義の中で提示する資料を読み、関連する事項について自ら調べ、考えたことをレポートにするかまたは発表することも求める。コンピュータに関する基礎知識は必要としないが、ホームページを検索し、参照することができるのが望ま		
授業計画	【前期】 第1回 情報科学とは 第2回 計算の原理 第3回 プログラム 第4回 コンピュータはどのように生まれたか 第5回 半導体と集積回路 第6回 シリコンバレーと情報産業 第7回 パーソナル・コンピュータ 第8回 インターネット 第9回 携帯電話 第10回 ワードプロセッサと日本語 第11回 データベースと検索 第12回 音楽配信と著作権 第13回 ネットビジネス 第14回 情報倫理とセキュリティ 第15回 まとめ		
テキスト	特に指定しない。 講義でプリントを配布する。	参考文献	毎回の講義の中で指示する。
評価方法	毎講の小テスト:60% レポート:40%		

情報科学Ⅱ		後期 2 単位	1・2・3年
私たちの生活と情報		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本科目は、情報の性質を理解した上で、私たちの生活において情報がどのように伝達されどのように受け止められているのかを知り、受講生自身が情報を使う力（情報リテラシー）を高めることを目的としている。		
授業の概要	まず、情報及び情報学とは何かを押さえ、現代の高度情報通信社会に至るまでの情報の歴史を振り返る。そして、我が国の情報政策や日本人の情報行動の特徴を確認したうえで、身の回りの情報システムやメディアと報道、情報リテラシーについて考える。また、グループで県単位に観光客誘致のための企画書を作成し発表することを課題とする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 情報学とは何か 第2回 高度情報通信社会への道 第3回 我が国の情報政策 第4回 日本人の情報行動 第5回 生活のなかの情報システム（1）行政情報など 第6回 生活のなかの情報システム（2）福祉情報など 第7回 メディアと報道 第8回 情報の入手と利用（1）インターネット、Webページの評価 第9回 情報の入手と利用（2）図書館、印刷情報とWeb情報 第10回 発表 グループ1 第11回 発表 グループ2 第12回 発表 グループ3 第13回 発表 グループ4 第14回 情報リテラシーの理論 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% レポート:50%		

基礎食品学		前期 2 単位	1・2・3年
食品と食品栄養学		谷本 信也（たにもと しんや）	
授業の到達目標 及びテーマ	栄養成分だけではなく非栄養素まで含めた食品成分を理解し健康的なまた調理にも適した食品が選べるように。食品調理加工において、食品成分がどのように変化しどのような特性を得ているのかを理解し、理論を説明できるように。適切な貯蔵法も選べるようにする。以上より安全で健康な食生活を提示できるようにすることが全体のテーマである。		
授業の概要	始めに食品構成成分を理解し、次に植物性食材や動物性食材の組成を説明することで各食材の特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につける。流通加工における組成組織の変化を学ぶ中で、商品の見分け方保存方法栄養学的に見た加工調理法も学びとる。最後に流通と表示を中心に、法律と政策を学び食生活の多方面な知識を得総合的に食品を見る		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 原子の構造と元素、分子の分類から、食成分の特性を俯瞰 第2回 水の性質を知り食品全体の性質と加工貯蔵との関連も学ぶ 第3回 炭水化物、脂質、タンパク質と、食品中の多量成分を扱う 第4回 灰分ビタミンと有害成分等微量成分の人への影響を学ぶ 第5回 動植物生育の条件と食品保蔵方法を扱い次に微生物も学ぶ 第6回 畜肉とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第7回 卵牛乳とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第8回 魚介類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第9回 豆イモ類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第10回 穀物とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第11回 野菜とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第12回 果物海藻類とその加工品を扱い購入保存法調理加工も学ぶ 第13回 食品関係の法律と行政政策を扱い生活を組み立てられる様 第14回 安全性確保のための試験法と食品添加物を扱い見解を学ぶ 第15回 食品流通の実態と食品表示を学び商品の選択ができる様に		
テキスト	食品学Ⅰ 五十嵐脩編 光生館	参考文献	ヒューマンニュートリション（医歯薬出版）、食品安全ハンドブック（丸善）、食品技術総合辞典（朝倉書店）、食品大百科事典（朝倉書店）
評価方法	到達度を期末試験で:70% 授業の積極的な参加:30%		

応用食品学		後期 2 単位	1・2・3年
味、香り、色、食感と健康の食品学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	理は生活の中で大きな位置を占め、また食事では加工食品の利用も多い。この講義では、調理や加工によって、食品の特性がどのように付与されてゆくかを学び取り、また、その特性を保持するために、なぜどのような保蔵方法を取るべきかを学び、それらによって健康な体の養成と食生活を営むことが出来るようにする。		
授業の概要	始めの5回の講義では、味、色、匂いなどの成分が何であり、どのように生成されるのか、どのような意味を持つのかを理解する。次の4回の講義では、食感がどのように生じ、どのようにコントロールして特性を持たせ、意味のある食品とするかを学ぶ。次の6回では、安全性と保蔵について扱い、安全な食品の選定について理解できるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 食品の構成成分と機能 第2回 食品の味、呈味成分1 甘味を中心として 第3回 食品の味、呈味成分2 旨味、酸味を中心として 第4回 食品の色、色素成分 第5回 食品の匂い、匂い成分 第6回 食品の物性1 デンプンとデンプン食品 パン等 第7回 食品の物性2 チーズ、ヨーグルトの乳製品 第8回 食品の物性3 蒲鉾と豆腐など 第9回 食品の物性4 脂質の乳化 第10回 毒性物質 外来のもの 第11回 毒性物質 食品由来のもの 第12回 食品の劣化 第13回 食品の保蔵 第14回 食品と医薬品 表示事項や食品衛生法と日本農林規格など 第15回 日本型食生活など政策からの食生活		
テキスト	1年生 食品学Ⅰ 五十嵐脩編 光生館。2年生 アクセス機能成分(基礎食品学にて使用したもの)または1年生用を使用	参考文献	ヒューマンニュートリション 医歯薬出版、食品安全ハンドブック 丸善、食品技術総合辞典と食品大百科事典 朝倉書店、参考書リストも参考のこと。
評価方法	授業への参加の評価:30% 期末試験:70%		

実践栄養学		後期 2 単位	1・2・3年
栄養学を実践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○(若い)女性が陥りやすい栄養に関する疾病を症状、予防、治療の面から理解する。 ○成人女性の「日本食事摂取基準」を理解する。		
授業の概要	はじめに外部刺激に対する神経系、内分泌系、免疫系の調節方法を講義する。その調節系の破綻と病気の関係を講義する。また、病気ではないが、妊娠・授乳期の調節方法を講義する。さらに、食事摂取基準、食事療法、食品選択。調理方法の注意点・工夫・献立例など栄養知識の実践方法を講義する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 女性ホルモン変化と身体組成の変化 第2回 成人女性の食事摂取基準 第3回 ダイエット1 失敗例に学ぶ 第4回 ダイエット2 神経性食欲不振 第5回 ダイエット3 ダイエットの意味とダイエット食 第6回 ダイエット4 ダイエット食献立作成と運動 第7回 皮膚、毛髪と栄養 第8回 便秘 第9回 脂肪肝、高脂血症 第10回 貧血、生理不順 第11回 低血圧(冷え)、妊娠中毒症1(高血圧) 第12回 むくみ、妊娠中毒症2(浮腫) 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート結果と討論		
テキスト	特に定めず、配布資料を参考とする。	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 授業中小テスト:20%		

映像論	前期 2 単位	1・2・3年
映像の歴史と映像表現を理解するための作品分析	濱崎 好治（はまさき こうじ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 写真と映画の歴史を具体的な作品を見ながら、その表現技法と時代社会的背景を概説し作家性を考察する。視覚文化の拡がりから批評的な読み解きと内容分析できる理論を身につける。</p> <p><授業の概要> 毎回、映像を見る。 映像とは何か、18世紀中頃～20世紀まで代表的な作品を紹介しながら多様な視点の分析方法を解説する。幅広いジャンルの映像を数多く見ることで、技法と表現の規制、作家の創造力、人々の受容される要素を発見し、テレビの草創期から現在のインターネットの動画まで、映像表現の今日的な問題点も探る。</p> <p><授業計画> 第 1回 写真術の発明によって何がもたらされたか？ 第 2回 写真の技法と写真の読み方 第 3回 映画の誕生と20世紀の科学技術 第 4回 映画の文法 カメラワーク 第 5回 映画の文法 モンタージュ 第 6回 映画の物語性と演技力 第 7回 ニュース映画とプロパガンダ・コマーシャル 第 8回 ドキュメンタリー映画の系譜（文化映画・PR映画・記録映画・テレビドキュメンタリー） 第 9回 映画の作家性（外国映画） 第10回 映画の作家性（日本映画） 第11回 映画の芸術性 第12回 映画とテレビの比較文化とメディア論 第13回 ニュー・テレビジョンとビデオ（1960～1970） 第14回 万博パビリオンから映像インスタレーション 第15回 インターネットと投稿動画</p> <p><テキスト> 特に指定はないが、授業時間内に印刷物を配布する。</p> <p><参考文献> 授業時間内に紹介する。</p> <p><評価方法> 平常点:15% 質疑応答:20% レポート:65%</p>		

古典文学史 I	前期 2 単位	1年
日本古典文学史の基礎と発展 I 古代・中古篇	小林 正明 (こばやし まさあき)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>○上代から平安末期までの文学史を理解する。 ○時代ごとの特質・ジャンル・社会歴史的な背景等々を理解する。 ○古典文学史の著名群像に親炙することができるようになる。 ○『源氏物語』などの日本古典作品を原文で読むことができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>○[形態] 講義を基調とするが、学生参加型・問題探求型として、学生発表の形態も併用する。 ○[小試験] 小試験を、授業回数に進捗と連動しながら実施する。基礎知識の定着を求めて。 ○[時代の順序] 取り使う時代の順序は、必ずしも時系列に従わない。リサーチ指示・学生発表設定・小試験実施等の日程事情もある。 ○[授業速度と教材量] あわただしい授業のやりくりとなる。半期科目の文学史として、古代から平安末期まで縦断する、カリキュラムの設定はもともと無謀。上滑りな説明や省略の部分を補うために、授業内で扱える以上の資料を配布することもある。 ○[メモ等の励行] 過密な授業に適応するためには、各自による、配布資料の管理やメモについて自覚的な励行が必要。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス：授業説明、情報交換。*リサーチI(万葉集)割り当て。#万葉集地図・系図配布 第2回 古代神話論：記紀神話の体系と代表的な神話事例を紹介。*リサーチII(源氏絵)割り当て。#源氏絵配布 第3回 日記・平安女流篇：平安日記の系譜と平安女流の問題。日記作品の紹介と読解。漢詩文史についても瞥見。 第4回 古代歌謡論ⅰ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅰ。 □5分試験(古代神話) 第5回 古代歌謡論ⅱ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅱ。 □5分試験(日記・平安女流) 第6回 古代歌謡論ⅲ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅲ。 第7回 古今集篇：古今集の諸問題を中心にして、勅撰八代集、紀貫之なども。和歌の修辞・歌枕、歌論書小史を補足。 □10分試験(万葉集) 第8回 源氏物語篇：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅰ。 □5分試験(古今集) □口頭短問(源氏物語の基礎知識①) 第9回 源氏物語篇ⅰ：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅱ。 □口頭短問(源氏物語の基礎知識②) 第10回 源氏物語篇ⅲ：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅲ。 □口頭短問(源氏物語の基礎知識③) 第11回 伊勢物語・竹取物語篇：両物語を紹介。伊勢物語の主要場面と本文を読解。両物語は源氏物語にとって不可欠なので徹底学習が必要。主要物語の基礎知識も背景として補足。 □15分試験(源氏物語) 第12回 枕草子篇：枕草子、定子後宮の基本知識。 □5分試験(伊勢・竹取・平安物語) 第13回 歴史物語篇：栄花物語・大鏡などの紹介。 □5分試験(枕草子) 第14回 説話文学篇：今昔物語集・説話系譜の紹介。民衆文化や漢籍類書(大平広記など)との比較など、関連見解も参照する。 □5分試験(歴史物語) 第15回 今様篇：梁塵秘抄の読解。遊女・白拍子・傀儡(くぐつ)の芸能も。 □5分試験(今様)</p> <p><テキスト></p> <p>プリント配布(講義資料・学生リサーチ集等の配布物が多いので、各自ファイル管理すること。原則として、欠席者への後日配布なし)。</p> <p><参考文献></p> <p>特になし。</p> <p><評価方法></p> <p>小試験70% リサーチ・発表10% 発言・授業姿勢10% メモ・資料管理10%</p>		

古典文学史 I		前期 2 単位	1年
中世から近世初期までの日本芸能		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	中世から近世初期に至る日本芸能の歴史を俯瞰する。		
授業の概要	中世の語り物の「平曲」や演劇芸能である「能楽」・「狂言」について、その成立背景や特徴を知る。さらにこれらを母体として生まれた近世（江戸時代）初期の諸芸能について、映像・音源資料をもとに講義する。授業を通じて、日本の「芸能」に関する理解と知識を深めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 古代の芸能</p> <p>第 2回 大陸系芸能の渡来・伎楽（消えてしまった仮面劇）</p> <p>第 3回 雅楽・舞楽</p> <p>第 4回 雑芸・白拍子など・散楽（猿楽）</p> <p>第 5回 公家から武家へ（延年舞曲）</p> <p>第 6回 田楽（田楽能）</p> <p>第 7回 猿楽（能楽）</p> <p>第 8回 観阿弥と世阿弥</p> <p>第 9回 能と狂言</p> <p>第10回 平曲</p> <p>第11回 幸若舞曲</p> <p>第12回 説経</p> <p>第13回 浄瑠璃</p> <p>第14回 傾き者たち</p> <p>第15回 そして庶民へ</p>		
テキスト	『日本演劇史』（おうふう）¥2000+税。	参考文献	『演劇百科大事典』全7巻（平凡社）など
評価方法	授業への積極的参加:30% レポート&テスト:70%		

古典文学史Ⅱ	後期 2 単位	1年
日本古典文学史の基礎と発展 Ⅱ 中世・近世篇	小林 正明 (こばやし まさあき)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象範囲として中世から江戸末期までの日本古典文学史を理解する。 ○ 古典作品の名称・作者・時代・ジャンルを記憶することができる。 ○ 日本古典文学の著名群像に親炙することができるようになる。 ○ 中世から江戸末期までの古典作品を原文で読むことができるようになる。 <p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [形態] 講義授業の形態を基調とするが、学生参加型・発見学習型として、学生によるリサーチ発表の形態も併用する。 ○ [小試験] 授業回数に進行に雁行しながら小試験を実施する。基本知識の徹底を求めている。 ○ [時代の順序] 必ずしも時系列とせず。リサーチ指示・学生発表・小試験等の日程との都合による。 ○ [速度と教材量] 倍速の進捗とならざるをえない。半期科目の文学史で、鎌倉から江戸末期までを縦断する、カリキュラムの設定はほとんど無謀。やむなく、徒然草、芭蕉などいくつかの重要項目を割愛。説明の上滑りや作品読解の不足を補うために、各自の自主学習を期して、授業内で扱える以上の資料を配布する。 ○ [授業メモ等] 過密な進行に適応するために、各自が、配布物管理と授業中メモを自覚的に励行する。 <p><授業計画></p> <p>第1回 準備篇：ガイダンス、情報交換。 * リサーチⅠ『中世近世群像名鑑』割り当てリスト（石堂丸・おまん・万寿姫・安寿姫・大磯虎・朝比奈三郎・清姫・逆髪・八百屋お七・和藤内・鉢かつぎ姫・中将姫・景清・塩谷判官・大塔宮護良 親王・天満屋お初・高師直・梅若・俊徳丸・渡辺綱・玉藻前・二条・志水冠者・伏姫・静御前・悪七兵衛景清・阿古屋・安部保名・大経師おさん・猿源氏・小栗判官・照手姫・最明寺入道・桜姫・弁慶・松王丸・佐藤庄司・崇徳院・夕霧太夫・吉野太夫・小春）。</p> <p>第2回 西行・実朝篇：和歌史で特異な位置を占める両歌人。政治史の背景や 『吾妻鑑』『日本外史』も参照にする。 * リサーチⅡ『平家物語群像名鑑』割り当て。</p> <p>第3回 新古今和歌集篇：定家を主に扱う。定家なしでは今日の源氏物語はありえない、その仕事や『明月記』等も紹介。他の若干の新古今時代の歌人（俊成、式子内親王）に触れたい。 <input type="checkbox"/> 5分試験（西行・実朝）</p> <p>第4回 世阿弥能楽理論：『世阿弥十六部集』の紹介。 <input type="checkbox"/> 5分試験（新古今）</p> <p>第5回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅰ：リサーチ発表ⅰ。 <input type="checkbox"/> 5分試験（世阿弥）</p> <p>第6回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅱ：リサーチ発表ⅱ。 第7回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅲ：リサーチ発表ⅲ。 第8回 中世語物り物篇：小栗・刈萱・身毒など五説経、『義経記』『曾我物語』の紹介と本文。あわせて、御伽草子挿絵配布。</p> <p>第9回 南北朝篇：『東西南北赤心卍崩一私版』寸劇参加によるブレイン・ストーミング。増鏡、梅松論など関連書物も参照する。ジャンルとしての軍記物について知識を理解を強化する。</p> <p>第10回 A『平家物語群像名鑑』篇Ⅰ：リサーチ発表ⅰ。 B 西鶴篇：俳諧、阿蘭陀流西鶴、矢数俳諧。 <input type="checkbox"/> 5分試験（語り物）</p> <p>第11回 A『平家物語群像名鑑』篇Ⅱ：リサーチ発表ⅱ。 B 西鶴篇：好色物。 <input type="checkbox"/> 5分試験（南北朝）</p> <p>第12回 A『平家物語群像名鑑』篇Ⅲ：リサーチ発表ⅲ。 B 西鶴篇：町人物。 <input type="checkbox"/> 20分試験（『中世近世群像名鑑』）</p> <p>第13回 近松門左衛門篇Ⅰ：元禄文学対照略史。近松世話物の紹介。 <input type="checkbox"/> 15分試験（『平家物語群像名鑑』）</p> <p>第14回 近松門左衛門篇Ⅱ：近松世話物・時代物の紹介。 <input type="checkbox"/> 10分試験（近松）</p> <p>第15回 南総里見八犬伝篇：八犬伝の世界、挿絵、馬琴の他作品など紹介。 <input type="checkbox"/> 5分試験（八犬伝）</p> <p><テキスト></p> <p>配布教材使用（講義要旨・作品抄出・学生リサーチ集など配布資料がおおいので、要ファイル。原則的には、欠席者への後日配布なし）。</p> <p><参考文献></p> <p>特になし。</p> <p><評価方法></p> <p>小試験70% リサーチ・発表10% 発言・姿勢10% メモ・教材ファイル10%</p>		

古典文学史Ⅱ		後期 2 単位	1年
江戸時代から明治中期までの日本芸能史		大木 京子（おおき きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代庶民の最大の娯楽であった「歌舞伎」を中心に講義を進める。		
授業の概要	出雲の阿国から女歌舞伎、若衆歌舞伎、そして野郎歌舞伎の順に発生期の諸相を明らかにした後、上方と江戸の芸風の違い、また隣接する人形浄瑠璃との相互影響などについて講義する。さらに、明治維新後、西洋の影響を受けて、これらの芸能がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについても言及していく。		
授業計画	【後期】 第1回 阿国歌舞伎 第2回 女歌舞伎の禁止 第3回 若衆歌舞伎から野郎歌舞伎へ 第4回 離れ狂言と続き狂言 第5回 市川團十郎と坂田藤十郎（荒事と和事） 第6回 芳沢あやめ（女形について） 第7回 近松門左衛門（歌舞伎と浄瑠璃と） 第8回 竹本座・竹田座・豊竹座 第9回 三大浄瑠璃について 第10回 浄瑠璃と歌舞伎 第11回 上方歌舞伎と江戸歌舞伎 第12回 鶴屋南北について 第13回 河竹黙阿弥について 第14回 幕末から明治にかけて 第15回 新派・新国劇・新劇について		
テキスト	『日本演劇史』（おうふう）¥2000+税。	参考文献	『演劇百科大事典』全7巻（平凡社）・『歌舞伎年表』（岩波）など
評価方法	授業への積極的参加:30% レポート&テスト:70%		

近代文学史Ⅱ		後期 2 単位	1年
日本近現代文学とジェンダー		鈴木 直子（すずき なおこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	・日本近現代文学をジェンダーとナショナリズムの視点から歴史的に概観します。諸外国とのせめぎあいの中の明治期の文学・文化政策や、清水紫琴・一葉が切り拓いた表現領域を概観し、漱石・花袋・芥川・太宰・大江などの主要作品から現代女性文学まで、さまざまな作品を時代状況に照らして理解します。		
授業の概要	ジェンダー的視点を軸に、明治以降現代までの歴史社会状況と文学の関わり、とくに女性の置かれた社会的状況や、植民地時代の力学に配慮しつつ、主要な作品を具体的に紹介していきます。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション 第2回 明治期の文学1 植民地主義と啓蒙主義 第3回 明治期の文学2 紫琴と一葉 第4回 明治期の文学3 「菽の鶯」と「蒲団」 第5回 大正期の文学1 『青鞥』と晶子・らいてう 第6回 大正期の文学2 少女・専業主婦・職業婦人 第7回 大正期の文学3 女中・娼婦・プロレタリア 第8回 戦争・占領期の文学1 総力戦体制と女性 第9回 戦争・占領期の文学2 太宰治・野間宏にみる戦場と敗戦 第10回 現代文学の諸相1 島尾敏雄・大庭みな子にみる近代家族 第11回 現代文学の諸相2 ネガティブな女性身体 倉橋由美子 第12回 現代文学の諸相3 身体加工とダイエット 松本侑子 第13回 現代文学の諸相4 妊娠体験・母になること 小川洋子 第14回 現代文学の諸相5 多和田葉子のドイツ、李良枝の韓国 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントを配布します。	参考文献	斉藤美奈子『モダンガール論』文春文庫、一柳廣孝他編『文化のなかのテキスト』双文社出版、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫
評価方法	コメントカード:40% 期末レポート:60%		

古典講読Ⅴ		通年（前期）	4 単位	2年
万葉歌人の詩を読む（山上憶良）		小川 靖彦（おがわ やすひこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 『万葉集』についての基本的知識を得る。2. 受講生一人一人が、「詩」としての『万葉集』の「やまと歌」の美や力を、自分の感性で受け止められるようになる。3. 『万葉集』の「やまと歌」から受け止めたものを、自分のことばで表現できるようにする。4. 日本文学・文化の根幹を学ぶとともに、現代とは異なる文化との対話の方法を身につ			
授業の概要	この授業では、日本文学史の最初期の文学『万葉集』を取り上げ、誕生したばかりの文学のことばの美や力について考察する。具体的には山上憶良の作品を講読する。憶良は中国とその文学との出会いを踏まえて、“人間とは何か”と問う思想性の高い「詩」を制作した。その多彩なスタイルと人間に向けられた温かな眼差しを味わう（授業中の発言重			
授業計画	【前期】 第1回 『万葉集』の世界へのいざない：憶良の作品に触れる 第2回 中国との鮮烈な出会い・憶良の生涯 第3回 人々の間で：筑前国守以前の歌 第4回 大伴旅人との出会い 第5回 人間の脆さ（よわ）と勁（つよ）さと：日本挽歌 第6回 世俗に背を向ける人へことば：心の迷いを正す歌 第7回 『万葉集』の研究法とレポートの書き方 第8回 子への愛：子らを思う歌 第9回 梅花の宴：風雅の底に横たわる無常 第10回 若くして亡くなった少年のために：熊凝哀悼歌 第11回 貧しい者への眼差し：貧窮問答歌 第12回 自分の病についての思索：沈痾自哀文 第13回 絶望の裏にある〈生〉への願い：無常を嘆く漢詩 第14回 死への誘いを引き留めるもの：老身重病の歌 第15回 まとめ			
テキスト	・中西進『万葉集 全訳注原文付』（一）、講談社文庫、講談社（＊必ず購入すること） ・毎回プリントを配布	参考文献	・小川靖彦『万葉集 隠された歴史のメッセージ』角川選書、角川学芸出版	
評価方法	期末レポート:50% 平常点（予習・復習）:20% 授業の積極的参加:30%			

古典講読Ⅵ		通年（後期）	2年
古代における「旅」を考える		今井 俊哉（いまい としや）	
授業の到達目標 及びテーマ	古代（上代・中古）における人々の暮らしの中で、その時代の「文学」が担ってきた意味を考えます。現代とは社会システムも生活環境も異なる時代では、人々の考えかたや、またその考えかたの表しかた、即ち言葉による表現のしかたにも違いが表れます。そうした古代における言語表現を学び、理解することがこの授業での目標であり、テーマとなります		
授業の概要	古代の人々にとって「旅」とはどのようなものだったのでしょうか。旅にあるとき、また親しい人を旅に送り出したとき、人はその際の心情をどう言葉にあらわしてきたのでしょうか。また、その旅じたいを、言葉でどう表現してきたのでしょうか。この授業では、そうした古代における「旅」のありかたを、和歌を中心に眺めていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 『万葉集』における旅の歌1・旅をするもの 第2回 『万葉集』における旅の歌2・送り出す側 第3回 『万葉集』太宰帥大伴旅人1・律令官人としての旅 第4回 『万葉集』太宰帥大伴旅人2・妻の死と帰京 第5回 『万葉集』巻十五 遣新羅使一行の歌1・古代の外交 第6回 『万葉集』巻十五 遣新羅使一行の歌2・旅先での障害 第7回 『万葉集』における「地方」・東歌、防人歌ほか 第8回 『古今和歌集』の旅の歌 第9回 紀貫之の『土佐日記』1・旅の表現—漢文日記とかな日記 第10回 紀貫之の『土佐日記』2・子供の死と帰京 第11回 『うつほ物語』・清原俊隆の大冒険 第12回 番外編1：渋沢龍彦『高岳親王航海記』 第13回 『伊勢物語』・昔男の東下り 第14回 『源氏物語』・光源氏の須磨退去 第15回 番外編2：そして西行、芭蕉へ		
テキスト	各回予習用としてテキストのプリントを配布します。	参考文献	適宜指示します。
評価方法	定期試験:70% 平常点（授業態度等）:30%		

古典講読 F		通年（前期）	4 単位	2年
枕草子を読む		津島 知明（つしま ともあき）		
授業の到達目標 及びテーマ	清少納言の枕草子を精読しながら、平安文学の政治背景、生活文化を理解する。同時に古典文学を学ぶ上で必要な基礎知識も身につけてゆく。			
授業の概要	講義形式で行う。日本文学史において、平安時代とはいかなる時代だったのか。当時の女性は、どのような環境で、何に悩み、何を生きがいとしていたのか。現代との差異や共通点を確認しながら、丁寧に枕草子を読解してゆく。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 テキストについての概説</p> <p>第 3回 写本と活字本</p> <p>第 4回 摂関政治について（背景）</p> <p>第 5回 本文を精読する（1）6段を読む</p> <p>第 6回 本文を精読する（2）7段を読む</p> <p>第 7回 本文を精読する（3）6段と7段の間</p> <p>第 8回 写本を読む（1）初段</p> <p>第 9回 本文を精読する（4）2 1段を読む</p> <p>第10回 本文を精読する（5）2 1段の背景</p> <p>第11回 本文を精読する（6）8 4段を読む</p> <p>第12回 本文を精読する（7）8 4段の背景</p> <p>第13回 本文を精読する（8）8 4段の享受</p> <p>第14回 写本を読む（2）跋文</p> <p>第15回 まとめ</p>			
テキスト	「新編 枕草子」（おうふう）	参考文献	授業時に紹介する。	
評価方法	課題（コメントなど）:60% まとめレポート:40%			

古典講読 F	通年（後期）	2年
『平家物語』の世界—歴史を物語るとのこと—	清水 眞澄（しみず ますみ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>本授業は、古典文学を学ぶことで、教員を志望する者にふさわしく人間を多角的に深く理解する視座を養うことを目標とする。すなわち日本中世文学の白眉（はくび）である『平家物語』を取り上げて、動乱の時代に生きた人々の心情に触れる。さらに、伝承文学を人々が生きた具体的な証しとしてとらえ、歴史叙述との間に存在する問題点を考えたい。また、『平家物語』を伝えた琵琶法師について学び、芸能史から障害者の歴史にも理解を深めてゆく。</p> <p><授業の概要></p> <p>講義形式を基本とし、必要に応じて音声・映像資料を活用する。特に『平家物語』は語り物として伝えられただけではなくて、能、浄瑠璃、歌舞伎、現代演劇などに取り入れられて、後世の文芸に大きな影響を与えた。このような『平家物語』の特性を学ぶために、音声・映像を鑑賞し、朗読を体験する。また毎回、課題を課して受講票での回答を求め、講義の理解を深める。しかし同時に、受講票を質問票としても活用し、学生と教員との相互コミュニケーションに努めたい。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 『平家物語』入門—文学史の整理 第2回 巻第一「祇園精舎」—平氏政権の誕生と無常観 第3回 巻第一「祇王」—白拍子と尼 第4回 巻第三「足摺」—俊寛の悲劇 第5回 巻第五「宮御最期」—以仁王の挙兵と宇治川合戦 第6回 巻第六「入道死去」—清盛悪行者像の真実 第7回 巻第九「宇治川先陣」—名馬争いと頼朝 第8回 巻第九「木曾最期」—巴の行方 第9回 巻第十一「敦盛最期」—武士の罪業 第10回 巻第十一「那須与一」—弓の技と義経の真実 第11回 巻第十一「内侍所都入」—平家滅亡と三種の神器 第12回 灌頂巻「大原御幸」—女院の祈り 第13回 琵琶法師と芸能—中世・近世芸能史 第14回 『平家物語』の影響—能と歌舞伎 第15回 まとめ</p> <p><テキスト></p> <p>講談社文庫『平家物語』上・下 高橋貞一 校注</p> <p><参考文献></p> <p>『図説 平家物語』 鈴木彰・出口久徳・樋口州男・錦昭江・松井吉昭 編 河出書房新社</p> <p><評価方法></p> <p>平常点（毎回、受講票に課題を回答）50%、レポート50%</p>		

古典講読G		通年（前期）	4 単位	2年
江戸のラブストーリー		井上 泰至（いのうえ やすし）		
授業の到達目標 及びテーマ	日本の文学の長い歴史で、最初に女性読者を対象に商品化された恋愛小説、人情本の代表作に触れることにより、女性が小説を読むことの原初的意味を理解する。			
授業の概要	江戸後期の恋愛小説、人情本の代表作「春色梅児誉美（しゅんしょくうめぐよみ）」「春色辰巳園（しゅんしょくたつみのその）」を読むことを通して、現代のサブカルチャー・自己啓発本・広告・雑誌にも通じる、女性の読書をめぐる根源的な諸問題を考える。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 女性向け恋愛小説誕生の事情 第2回 プロダクションシステムの作家永春水 第3回 江戸と近代の恋愛観の相違 第4回 擬似恋愛行為としての読書 第5回 演技としての恋愛1 恋愛の儀礼性 第6回 演技としての恋愛2 冷静と情熱の間 第7回 演技としての恋愛3 感情の再現と提示 第8回 恋愛の会話を成り立たせるもの1 繰り返し 第9回 恋愛の会話を成り立たせるもの2 リズム 第10回 「いき」の美学1 媚態 第11回 「いき」の美学2 意気地 第12回 「いき」の美学3 諦観 第13回 女の涙 不幸と恋愛のカタルシス 第14回 物語の面影・歌心の引用 第15回 恋のふるまいと女の願い 美と道徳の調和			
テキスト	井上泰至『江戸の恋愛作法』（春日出版）	参考文献	井上泰至『恋愛小説の誕生 ロマン・消費・いき』（笠間書院）・『日本古典文学大系 春色梅児誉美』（岩波書店）	
評価方法	授業への積極的参加:30% 期末にノート提出:70%			

古典講読G		通年（後期）	2年
サムライの文学		井上 泰至（いのうえ やすし）	
授業の到達目標 及びテーマ	東アジア世界の中でも、日本は長らくサムライの国だった。江戸文学に現れたサムライ像を追いかけて、日本人のヒーロー像やその背景について知る。		
授業の概要	江戸時代のサムライ達が、自己および自己の分身に言及した物語・言説を、いくつかのタイプに分けて紹介し、リーダーのためのモラル・カリスマ性を産むもの、あるいはその語り方について分析する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 サムライ階層 東アジアにおける日本の特異性 第2回 ヒーローの語り方 講談的方法 第3回 平和な時代のサムライへ 戦う者からリーダーへ 第4回 死生観 スイッチとしての禪 第5回 武士の旅 心の遍歴と情報蒐集 第6回 ヒーロー像の膨らみ方 娯楽化 第7回 家意識 武士のアイデンティティー 第8回 仇討1 暴力的解決の美学 第9回 仇討2 リーダー像の理想 第10回 自伝1 子孫たちへ 第11回 自伝2 名誉・決断・修養・志 第12回 武家文人1 心身一致の教育 第13回 武家文人2 読書階級の自覚 第14回 志士 武士像のファッション化 第15回 武士道 世界の中の日本のアイデンティティー		
テキスト	井上泰至『サムライの書齋 江戸武家文人列伝』（ペリカン社）	参考文献	谷口真子『武士道考』（角川学芸出版）。随時授業中紹介、コピー配布。
評価方法	授業への積極的参加:30% 期末にノート提出:70%		

卒業論文		通年（前期）	4 単位	2年
江戸時代文化・文芸・芸能・風俗・歴史の研究		井上 泰至（いのうえ やすし）		
授業の到達目標及びテーマ	江戸時代の「文学・文化・芸能・風俗・歴史など」に関するテーマで卒業論文を作成する学生を対象として、論文作成に向けた指導を行う。			
授業の概要	まず、学生各人が関心を持つ分野について、基礎的な資料を探索することから始める。その資料を基に、さらに深くその分野を知り、自己の論文の主題を決定する。また、周辺資料も広くあたり、テーマの深化を計る。論文そのものの構成と内容、文献あるいは絵画資料、場合によっては音声資料などの用い方についても具体的に指示する。			
授業計画	【前期】 第1回 課題（テーマ）・研究ノートの作成 第2回 5枚程度の概略文の作成 第3回 上記概略文を元にした個別指導 ① 第4回 同上 ② 第5回 同上 ③ 第6回 10枚程度の発表原稿用意（個別指導）① 第7回 同上 ② 第8回 同上 ③ 第9回 研究発表① 第10回 同上 ② 第11回 同上 ③ 第12回 各発表者による討議・検討① 第13回 同上 ② 第14回 総評（さらに発展させるために） 第15回 15枚程度のレポート提出			
テキスト	個人各々の「テーマ」により、それぞれに指示します。	参考文献	「テーマ」に応じて、指示するとともに、各々が作成した「研究ノート」が参考文献となります。	
評価方法	過程報告:50% レポート:50%			

卒業論文		通年（後期）	2年	
江戸時代文化・文芸・芸能・風俗・歴史の研究論文の作成		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）		
授業の到達目標及びテーマ	江戸時代の「文学・文化・芸能・風俗・歴史など」に関するテーマで卒業論文を作成する学生を対象として、論文作成に向けた指導を行う。江戸という時代を俯瞰し、学生各人が持つ「江戸時代」に関する課題について、歴史的な位置づけを考察し、各々の知識の充実を図る。			
授業の概要	江戸時代の地域的差異にも着目して論文作成を進めていく。京坂（上方）と江戸の差異、「都市」と「地方」の差異などの観点なども各人のテーマに合わせて探っていく。また、先行研究や他の学説への言及も含め、主張の一貫性、説得性、論理性、言語表現の適切性などを確認し、「論文」を完成させることを目的とする。			
授業計画	【後期】 第1回 「卒業演習Ⅰ」で作成したレポートを読み直す 第2回 上記レポートを元に論文構成を考える 第3回 個別指導 Ⅰ 第4回 個別指導 Ⅱ 第5回 個別指導 Ⅲ 第6回 中間発表 Ⅰ 第7回 中間発表 Ⅱ 第8回 中間発表 Ⅲ 第9回 相互意見交換 第10回 論文下書き期間 Ⅰ 第11回 論文下書き期間 Ⅱ 第12回 個別指導（添削）Ⅰ 第13回 個別指導（添削）Ⅱ 第14回 個別指導（自己申告） 第15回 卒業論文提出			
テキスト	各個人の「テーマ」に応じて、それぞれ指示します。	参考文献	卒業演習Ⅰで作成したレポート・「研究ノート」・その他、各々に指示します。	
評価方法	過程報告:40% 論文内容:60%			

卒業論文		通年（前期）	4 単位	2年
近現代小説研究 1		鈴木 直子（すずき なおこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	研究対象を各自の問題関心に沿って調査研究する方法および、長い文章を論理的に構築しわかりやすく適切に表現する力を身につけます。テーマは一葉・漱石・賢治・太宰から戦争・沖縄・現代女性文学まで文学研究の他、ジェンダー・性・サブカルチャーなど現代文化論からも選択可。			
授業の概要	各自、対象作品等の分析、参考文献調査・読破を経て、ゼミ発表をします。 ゼミ発表に参加し、さまざまな研究に触れ、ディスカッションで理解を深めます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 研究テーマを決め、計画を立てる1 第3回 研究テーマを決め、計画を立てる1 第4回 文献調査法を学ぶ 第5回 個人研究中間報告 第6回 発表とディスカッション1 第7回 発表とディスカッション2 第8回 発表とディスカッション3 第9回 発表とディスカッション4 第10回 発表とディスカッション5 第11回 発表とディスカッション6 第12回 発表とディスカッション7 第13回 発表とディスカッション8 第14回 前期の研究成果を振り返る 第15回 夏休み以降の研究計画を立てる			
テキスト	とくになし	参考文献	授業中に指示	
評価方法	発表:40% 発言とコメントカード:30% 期末レポート:30%			

卒業論文		通年（後期）	2年
近現代文学・評論の研究		鈴木 直子（すずき なおこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降の小説、ルポルタージュ、評論などを主として対象とし、みずからの問題意識を大切に育てながら、総合的な「論」を形作る。その過程で、先行研究の調査、他の分野で行なわれている発想・研究方法との比較をすること、論理的な説得の手順、自分自身の文体を見つけることなどを学習する。		
授業の概要	論文は、わかりやすい比喻で言えば、建築です。ヴィジョンを練り、よい材料を時間をかけて集め、柱と梁をしっかりと構築し、（論理的）不整合の無いようにブロックを組んでいきます。どうか雨漏りのないように、ひとりひとりの大切な問題意識が、その中で育ち、成長できている建築でありますように。そのために必要な技術を順次指導します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 草稿を提出 第2回 課題の修正、追補 第3回 論文推敲Ⅰ（テーマ・構成について） 第4回 論文推敲Ⅱ（章ごとの内容について） 第5回 論文推敲Ⅲ（部分と全体の関係について） 第6回 論文推敲Ⅳ（序論と結論について） 第7回 論文推敲Ⅴ（注について） 第8回 グループごとの指導A 第9回 グループごとの指導B 第10回 グループごとの指導C 第11回 グループごとの指導D 第12回 グループごとの指導E 第13回 口頭試問面接（グループⅠ） 第14回 口頭試問面接（グループⅡ） 第15回 口頭試問面接（グループⅢ）		
テキスト	各自の対象とするテキストとノート	参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します。
評価方法	論文内容:70% 中間報告など作成過程における達成:30%		

卒業論文		通年（前期）	4 単位	2年
近現代文学・評論の研究		辻 吉祥（つじ よしひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降の小説、ルポルタージュ、評論などを主として対象とし、みずからの問題意識を大切に育てながら、総合的な「論」を形作る。その過程で、先行研究の調査、他の分野で行なわれている発想・研究方法との比較をすること、論理的な説得の手順、自分自身の文体を見つけることなどを学習する。			
授業の概要	論文は、わかりやすい比喻で言えば、建築です。ヴィジョンを練り、よい材料を時間をかけて集め、柱と梁をしっかりと構築し、（論理的）不整合の無いようにブロックを組んでいきます。どうか雨漏りのしないように、ひとりびとりの大切な問題意識が、その中で育ち、成長できている建築でありますように。そのために必要な技術を順次指導します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 論文作成に先立つ問題意識について 第 2回 テーマ、問題意識を固めるⅠ（序） 第 3回 テーマ、問題意識を固めるⅡ（図書館の利用） 第 4回 テキストの確定 第 5回 先行研究を収集する 第 6回 調査研究・論文作成と7P ローチ法の指導Ⅰ（先行研究の系統化） 第 7回 調査研究・論文作成と7P ローチ法の指導Ⅱ（筋立ての作成） 第 8回 調査研究・論文作成と7P ローチ法の指導Ⅲ（テーマの追究） 第 9回 調査研究・論文作成と7P ローチ法の指導Ⅳ（テーマの深化） 第10回 概要の発表Ⅰ（グループA） 第11回 概要の発表Ⅱ（グループB） 第12回 概要の発表Ⅲ（グループC） 第13回 概要の発表Ⅳ（グループD） 第14回 概要の発表Ⅴ（グループE） 第15回 夏季の課題を確認			
テキスト	各自の対象とするテキストとノート	参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します。	
評価方法	論文内容:70% 中間報告など作成過程における達成:30%			

卒業論文		通年（後期）	2年
近現代小説研究 2		辻 吉祥（つじ よしひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究対象を各自の問題関心に沿って調査研究する方法および、長い文章を論理的に構築しわかりやすく適切に表現する力を身につけます。テーマは一葉・漱石・賢治・太宰から戦争・沖縄・現代女性文学まで文学研究の他、ジェンダー・性・サブカルチャーなど現代文化論からも選択可。		
授業の概要	前期の成果と夏期中の研究をまとめた夏期レポートを提出します。各自、新たに設定した研究テーマをさらに研究し、ゼミ発表します。論理的で分かりやすい文章作法を学び、論文を作成します。相互に添削しあうことを通して、「伝わる文章」を目指します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 後期イントロダクション 第 2回 発表とディスカッション 1 第 3回 発表とディスカッション 2 第 4回 発表とディスカッション 3 第 5回 発表とディスカッション 4 第 6回 発表とディスカッション 4 第 7回 文章作成法 1 第 8回 文章作成法 2 第 9回 個別指導 1 第10回 個別指導 2 第11回 個別指導 3 第12回 個別指導 4 第13回 ふりかえりと共有 1 第14回 ふりかえりと共有 2 第15回 まとめ		
テキスト	とくになし	参考文献	授業中に指示
評価方法	夏期レポート:10% ディスカッション:20% 卒論制作過程:30% 卒論:40%		

近代文学講読E		通年（前期）	4 単位	2年
物語や伝説を媒介にした小説から現代における人と人の関係を探る		佐々木 さよ（ささき さよ）		
授業の到達目標 及びテーマ	この日本という国の近代のかたちとその時代を生きた人間の姿を文学作品を通して読み、現代を生きている私たち自身、私たちの社会のあり方について考えを深めていけるようになる。人間とは何か、人間と社会との関わりはどのようなものであるのか、といった普遍的な問いに対する答えを文学の中に探究することを理解する。			
授業の概要	近現代の小説には伝説や説話などを物語の枠組みとして用いたものがある。それを現代の女性作家の連作小説集の場合で考えてみたい。現代における親子や男女、兄弟姉妹等の関係を物語の枠組みを用いてどのように描いているのかを読んでみよう。枠組みが形成する広大な流域を現代文学において眺め、枠の意味をも考える機会としたい。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 導入—全回の予定、授業の進め方など</p> <p>第2回 津島佑子と連作小説集『逢魔物語』について</p> <p>第3回 「伏姫」を読む①—物語の枠組みと論点</p> <p>第4回 「伏姫」を読む②—「異類」をめぐって</p> <p>第5回 「伏姫」を読む③—まとめ</p> <p>第6回 「三ツ目」を読む①—物語の枠組みと論点</p> <p>第7回 「三ツ目」を読む②—「見ること」と「空間」を中心に</p> <p>第8回 「三ツ目」を読む③—まとめ</p> <p>第9回 「おろち」を読む①—物語の枠組みと論点</p> <p>第10回 「おろち」を読む②—「胎の内」に込めたものを中心に</p> <p>第11回 「おろち」を読む③—まとめ</p> <p>第12回 「厨子王」を読む①—物語の枠組みと論点</p> <p>第13回 「厨子王」を読む②—「姉」と「弟」を中心に</p> <p>第14回 「厨子王」を読む③—まとめ</p> <p>第15回 全体のまとめと振り返り</p>			
テキスト	津島佑子『逢魔物語』（講談社文芸文庫）を基に、参考資料のプリントを配布する。	参考文献	進行状況に合わせて紹介する。また、文献の一部をプリントとして配布する場合もある。	
評価方法	レポート:50% ミニ・レポート:30% 平常点:20%			

近代文学講読E		通年（後期）	2年	
日常の中に生起する細やかな感情を、小品から読み取る		佐々木 さよ（ささき さよ）		
授業の到達目標 及びテーマ	近代という時代が私たちにもたらしたものは何か、それらは現代を生きる上でどのような意味を持っているのか、などを文学を通して考えるということを理解する。少なくとも、文学作品を読むことが自分と自分が生きている現代という時代を読むことであることがわかる。			
授業の概要	時代や社会、文化の変化を視野に入れつつ、日本の近代文学が取り上げてきた日常の事柄を考えていく場としたい。講義形式に履修者が参加する形式を適宜加えて行う。授業中または終了後にミニレポートのような形あるいは口頭で意見を求めていくようにしたい。したがって、履修者各自が考える契機を得られるような授業を目指すことになる。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 導入（全15回の概要、授業の進め方、評価方法 等）</p> <p>第2回 小品、掌編というジャンルについて</p> <p>第3回 導入—夏目漱石の場合</p> <p>第4回 夏目漱石『永日小品』から—「日常」に密着して</p> <p>第5回 夏目漱石『永日小品』から—「日常」から離れて</p> <p>第6回 意見交換を中心に</p> <p>第7回 夏目漱石『文鳥』について</p> <p>第8回 夏目漱石『文鳥』と『永日小品』</p> <p>第9回 川端康成『掌の小説』について—導入</p> <p>第10回 『掌の小説』から選んで読む①—取り上げるテーマ選定へ</p> <p>第11回 『掌の小説』から選んで読む②—論点の整理</p> <p>第12回 『掌の小説』から選んで読む③—具体的分析と意見交換</p> <p>第13回 『掌の小説』から選んで読む④—周辺作品への視野</p> <p>第14回 意見交換を中心に</p> <p>第15回 全体の振り返りとレポートについて</p>			
テキスト	夏目漱石『文鳥・夢十夜』（新潮文庫）、配付プリントなど	参考文献	必要に応じて授業時に指示する。授業の進行状況によって図書館等で閲覧をしてほしい。また、文献の一部をプリントして配布する場合もある。	
評価方法	レポート:50% ミニ・レポート:30% 平常点:20%			

近代文学講読 F		通年（前期）	4 単位	2年
原稿で読む昭和文学		宗像 和重（むなかた かずしげ）		
授業の到達目標 及びテーマ	おもに戦前から戦後の昭和期の小説を対象として、近代文学の作品を一般の活字のテキストではなく、作家の原稿を通して読み解く。明治・大正期とは異なる大きな時代の変動期のなかで、昭和期の作家がそれぞれの時代をどのように生き、どのように表現したかを、肉筆の原稿を通して考え、時代と文学・作家とのかかわりを具体的に理解する。			
授業の概要	昭和文学の作家と作品をいくつか選び、その原稿を写真版や複製などで紹介しながら、表現や文体、視点や方法、時代背景や作者との関わりなどに眼を向けて、読み解いてみる。戦争の暗い谷間をくぐり抜けた昭和の文学は、時代と人間との切実なかかわりを教えてくれるだろう。受講生の発表も予定し、下記の授業計画は変更することもある。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 はじめにー授業の概要と進め方 第 2回 芥川龍之介の原稿 第 3回 志賀直哉の原稿ー「暗夜行路」前編 第 4回 志賀直哉の原稿ー「暗夜行路」後編 第 5回 宮沢賢治の原稿ー「銀河鉄道の夜」冒頭 第 6回 宮沢賢治の原稿ー「銀河鉄道の夜」末尾 第 7回 宮沢賢治の原稿ー「雨ニモマケズ」 第 8回 横光利一の原稿ー「花園の思想」 第 9回 横光利一の原稿ー「旅愁」 第 10回 谷崎潤一郎の原稿ー「蘆刈」 第 11回 谷崎潤一郎の原稿ー「春琴抄」 第 12回 太宰治の原稿ー「人間失格」 第 13回 川端康成の原稿ー「雪国抄」 第 14回 詩歌の原稿 第 15回 まとめー昭和文学と現代			
テキスト	プリントを配布する予定。具体的には教室で指示する。	参考文献	その都度、教室で指示する。	
評価方法	発表、提出物等の評価:30% 学期末レポート:70%			

近代文学講読 F		通年（後期）	2年
「坊っちゃん」で読み解く明治文学		宗像 和重（むなかた かずしげ）	
授業の到達目標 及びテーマ	夏目漱石の「坊っちゃん」を主な対象として、明治期の文学作品を多角的に読み解く力を養うことを目標とする。日本が近代化を迎えた明治という時代は、新しい文学が成立・形成された時代でもあった。この授業では、漱石の「坊っちゃん」を中心として、明治期の文学の文体や表現形式、そして作品研究の方法などを理解する。		
授業の概要	「坊っちゃん」は現在でも多くの読者に親しまれているが、決して子供向けのやさしい作品ではない。この作品をさまざまな角度から読み解き、明治期の文学の歴史や時代背景、作家と作品の関わり、文体や表現の試みなどを考察し、文学研究や作品論・作家論の方法も会得する。受講生の発表も予定し、下記の授業計画は変更することもある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 はじめにー授業の概要と進め方 第 2回 明治文学の出版 第 3回 明治文学の形成 第 4回 夏目漱石の出版期 第 5回 「坊っちゃん」の発表ー初出と単行本 第 6回 小説の書き出しをめぐって 第 7回 小説の文体と視点 第 8回 小説の時間と空間、時代背景 第 9回 作品研究ー分析メモをつくる 第 10回 作品研究ー作品論のテーマを考える 第 11回 作中人物論ー主人公をめぐって 第 12回 作中人物論ーマドンナをめぐって 第 13回 「坊っちゃん」と同時代の小説 第 14回 「坊っちゃん」の研究史 第 15回 まとめー「坊っちゃん」と明治文学		
テキスト	夏目漱石『坊っちゃん』（岩波文庫）	参考文献	その都度、教室で指示する。
評価方法	発表、提出物等の評価:30% 学期末レポート:70%		

近代文学講読G		通年（前期）	4 単位	2年
1980～90年代の文化表象を通じて、学校空間における政治学を考察する		上戸 理恵（うえと りえ）		
授業の到達目標 及びテーマ	現代日本の文学作品およびサブカルチャーにおいて、学校空間がどのように表象されているのかを検討し、そこにある特有の力学を歴史的・社会的文脈から考察することができるようになる。学校空間における「いじめ」の表象を読み解き、多様な暴力の形態について考えることで、現代日本の社会関係をめぐる問題を理解する。			
授業の概要	講義形式。主に80年～90年代の作品を取り上げ、そこに描かれた〈少年／少女〉たちを取り囲む空間がどのような力学に支えられているのかを考察し、その社会的背景を明らかにする。必要に応じて履修者の発表や討議の機会を設け、自らの考えを発信し問い直す場を提供する。また、それぞれのセクションの終わりに小テストを行い理解の定着を図			
授業計画	【前期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 社会学的アプローチ（1） いじめの社会関係論 第3回 社会学的アプローチ（2） いじめをめぐる言説 第4回 社会学的アプローチ（3） 現代的コミュニケーション 第5回 議論の整理と小テストⅠ 第6回 山田詠美作品を読む（1） 学校という舞台 第7回 山田詠美作品を読む（2） 「風葬の教室」の読解 第8回 重松清作品を読む（1） 重松作品と「いじめ」 第9回 重松清作品を読む（2） 「ナイフ」の読解 第10回 議論の整理と小テストⅡ 第11回 岡崎京子作品を読む（1） 岡崎京子の描く社会関係 第12回 岡崎京子作品を読む（2） 岡崎京子の〈暴力〉表象 第13回 岡崎京子作品を読む（3） 『リバーズ・エッジ』の読解 第14回 議論の整理と小テストⅢ 第15回 講義のまとめ			
テキスト	特に定めない。主としてプリントを配布しそれを用いる。	参考文献	内藤朝雄『いじめの社会理論 その生態学的秩序の生成と解体』柏書房など。その他、随時紹介する。	
評価方法	授業感想カードの内容:20% 小テスト:30% レポート課題:50%			

近代文学講読G		通年（後期）	2年
2000年代以降の文化表象を通じて、学校空間における政治学を考察する		上戸 理恵（うえと りえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	2000年代以降の文学作品やポップカルチャーにおいて、学校空間がどのように表象されているのかを検討し、そこにある特有の力学を歴史的・社会的文脈から考察することができるようになる。学校空間における「いじめ」の表象を読み解き、多様な暴力の形態について考えることで、現代日本の社会関係をめぐる問題を理解する。		
授業の概要	講義形式。2000年代以降に発表された作品を通じて、学校空間を支配する力学がどのように描かれているのかを考察し、多様化する暴力に対峙していく方法を検討する。必要に応じて履修者の発表や討議の機会を設け、自らの考えを発信し問い直す場を提供する。また、それぞれのセクションの終わりに小テストを行い理解の定着を図る。		
授業計画	【後期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 近年の議論（1） 従来の議論との接点と差異 第3回 近年の議論（2） スクールカーストの問題化 第4回 近年の議論（3） 「キャラ」による闘争 第5回 近年の議論（4） 孤立化と同調圧力 第6回 小テストⅠ 第7回 『野ブタ。をプロデュース』（1） テレビ的空間の拡大 第8回 『野ブタ。をプロデュース』（2） 価値の相対化 第9回 『野ブタ。をプロデュース』（3） メディア論的考察 第10回 小テストⅡ 第11回 『りはめより100倍恐ろしい』（1） 自己演出の主題 第12回 『りはめより100倍恐ろしい』（2） いじりという暴力 第13回 『りはめより100倍恐ろしい』（3） 関係性の転覆 第14回 『りはめより100倍恐ろしい』（4） 小テストⅢ 第15回 小テストⅢ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを配布しそれを用いる。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	授業感想カードの内容:20% 小テスト:30% レポート課題:50%		

日本語学Ⅰ	前期 2 単位	1年
言語科学としての日本語のあつかいかたの応用面を研究するちからを身につける。	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日本語学A」の学習上の基盤のうえに、言語科学の応用領域をあつかい、日本語と近代・現代におよぶ日本文化を読み解く skill の獲得をめざし、次下三つの到達目標をたてる。 ①主観を離れて言語を科学的にあつかう力量の養成。 ②用例dataの意義をたたく理解し、その集収にあたる力量の養成。 ③該当のdataからあらたな知見を導き求める力量の養成。</p> <p><授業の概要> 日本語学Aの履修を了えた学生、また履修している学生が、下記<授業計画>に明記したような日本語学の応用面にのりだして、論理性、客観性、科学性を養うための学生参加型の授業である。おおよそ、平均的に、講義者の講義および発表割合 1～1.5 に対し、参加学生 1.0 の思考、調査、発表活動をあてて進行する。 あくまでも、1年生時「日本語学A」を履修し、単位を得た2年生、また現在「日本語学A」を履修中の意欲的な学生のための応用言語学的な講座である。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準に従って自己評価の申告を原則とする。ただし、著しい思い違いについては、他の参加者たちの知見、判断などをも導入して、是正する。 なお、この講義は、申し出によって父母の参加が可能である。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマ以上に亘ってまると参加することが要請される。</p> <p><授業計画> 第1回 introduction→印鑑持参。 第2回 文学を読み解く言語学 第3回 文豪たちを読み解く言語学 第4回 夏目漱石と森鷗外についての科学的観察。 第5回 J-popの文化を読み解く言語学・アーティストの歌詞を繙く科学的思考 第6回 鬼束ちひろと中島みゆきを読み解く 第7回 Musicianを読みとくちから 第8回 課題発見レポートの提出日（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視） 第9回 たとえば、わらべ唄をみつめる言語……発展自由領域…… 第10回 たとえば、わらべ唄を読み解く……発展自由領域…… 第11回 たとえば、わらべ唄を読み解く言語学……発展自由領域…… 第12回 好きなテーマについて読み解く……発展自由領域…… 第13回 好きなテーマについての文化的側面にせまる言語学……発展自由領域…… 第14回 社会のできごとを読み解く言語学……発展自由領域…… 第15回 まとめて、まとめてwords&culture</p> <p><テキスト> 日本語学A使用のものの継続のほか、いま、参加学生の興味と力量を認め得ないまま決めることを憂慮し、第1～第3回の試問時に、言語および言語以前の課題にかかわるテキストを選定する。</p> <p><参考文献> 図書館文献を中心に講義中の質疑また雑談に応じて指示する。</p> <p><評価方法> ノートの展開的作成力 言語data収集力 収集dataからみちすじをたてて考える力の度合い 授業貢献の度合 各25%</p>		

日本語学 I	前期 2 単位	1年
日本語のあつかい方の基礎を、科学的、また歴史的観点から身につける。	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><テーマ> 自分中心に言語をあつかい感覚するのではなく、言語科学としての日本語学の基盤を学ぶ。とくに、日本語の歴史的なあつかいかたを、古代語が中世語を経て現代語へ至るみちすじ、日本語の歴史の探求として、学生自身の調査と発表を交えて学ぶこと。いくつかの日本語資料をテキストとしてつねに身近において、今年度は、とくに、文字史・文字論、そして辞書史・辞書論を中心にとりあげ、日本語史構築の基本的知見を学生自身が体験的、自律的に学ぶ。</p> <p><到達目標> ・主観的理解や感想的受容を離れ、言語を科学的、客観的にあつかう力の養成。 ・用例dataの意義をじゅうぶんに理解し、集取できる力の養成。 ・それらのdataから読み取るべき内容を認定するすじみちを考え、結論を導く力の養成。</p> <p><授業の概要> 日本語の真のありようを知るてがかりとするための言語の歴史的探求を、学生自身の自覚的な参加を得ながら進める授業です。真摯に学習しようとする意欲ある学生のための実質的な講座とするため、講義者との質疑、コミュニケーション、雑談などが学生の積極的参加力、授業貢献度として要請されて進みます。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準にしたがった自己評価の申告を原則とします。 ただし、著しい思い違いについては参加者の知見、判断をも導入して、是正します。</p> <p><授業計画> 第1回 導入篇・日本語watching（印鑑持参） 第2回 日本語を科学的にあつかうこと 第3回 日本語を歴史的にあつかうこと 第4回 現代日本語へのみちすじ＝漢字の伝来・漢字の特質を中心に 第5回 現代日本語へのみちすじ＝かなの誕生・万葉仮名を中心に 第6回 日本語をさかのぼる・ひらがなの誕生を中心に 第7回 日本語をさかのぼる・かたかなの誕生を中心に 第8回 課題学習にとりくむ（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視）・辞書・辞典のなかの若者ことば 第9回 日本語と辞書 第10回 日本語と辞書史・昔々の若者ことば 第11回 若者ことばのあつかい方を考える 第12回 若者ことばを見つめる・自己評価票の提出 第13回 若者ことばを記述する試み 第14回 若者ことばを点検する試み 第15回 総合・自己評価票の提出</p> <p><テキスト> いま、参加学生の関心と力量を認め得ないまま決めることを憂慮し、第1～第3回の試問時に、言語および言語以前の課題にかかわるテキストを選定します。</p> <p><参考文献> 図書館文献を中心に講義中の質疑また雑談に応じて指示します。</p> <p><評価方法> ノート発展的作成度：35% 論理的思考力養成度：35% 授業貢献度：30% 上記方式によって評価し得ないばあいは、定期試験を行うことにします。なお、「毎回静かに出席した」というのは、どの評価ポイントにも属しません。</p>		

日本語学Ⅱ	後期 2 単位	1年
言語科学としての日本語のあつかいかたの応用面を研究するちからを身につける。	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日本語学A」の学習上の基盤のうえに、言語科学の応用領域をあつかい、日本語と近代・現代におよぶ日本文化を読み解く skill の獲得をめざし、次下三つの到達目標をたてる。 ①主観を離れて言語を科学的にあつかう力量の養成。 ②用例dataの意義をたたく理解し、その集収にあたる力量の養成。 ③該当のdataからあらたな知見を導き求める力量の養成。</p> <p><授業の概要> 日本語学Aの履修を了えた学生、また履修している学生が、下記<授業計画>に明記したような日本語学の応用面にのりだして、論理性、客観性、科学性を養うための学生参加型の授業である。おおよそ、平均的に、講義者の講義および発表割合 1～1.5 に対し、参加学生 1.0 の思考、調査、発表活動をあてて進行する。 あくまでも、1年生時「日本語学A」を履修し、単位を得た2年生、また現在「日本語学A」を履修中の意欲的な学生のための応用言語学的な講座である。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準に従って自己評価の申告を原則とする。ただし、著しい思い違いについては、他の参加者たちの知見、判断などをも導入して、是正する。 なお、この講義は、申し出によって父母の参加が可能である。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマ以上に亘ってまると参加することが要請される。</p> <p><授業計画> 第1回 introduction→印鑑持参。 第2回 文学を読み解く言語学 第3回 文豪たちを読み解く言語学 第4回 夏目漱石と森鷗外についての科学的観察。 第5回 J-popの文化を読み解く言語学・アーティストの歌詞を繙く科学的思考 第6回 鬼束ちひろと中島みゆきを読み解く 第7回 Musicianを読みとくちから 第8回 課題発見レポートの提出日（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視） 第9回 たとえば、わらべ唄をみつめる言語……発展自由領域…… 第10回 たとえば、わらべ唄を読み解く……発展自由領域…… 第11回 たとえば、わらべ唄を読み解く言語学……発展自由領域…… 第12回 好きなテーマについて読み解く……発展自由領域…… 第13回 好きなテーマについての文化的側面にせまる言語学……発展自由領域…… 第14回 社会のできごとを読み解く言語学……発展自由領域…… 第15回 まとめて、まとめてwords&culture</p> <p><テキスト> 日本語学A使用のものの継続のほか、いま、参加学生の興味と力量を認め得ないまま決めることを憂慮し、第1～第3回の試問時に、言語および言語以前の課題にかかわるテキストを選定する。</p> <p><参考文献> 図書館文献を中心に講義中の質疑また雑談に応じて指示する。</p> <p><評価方法> ノートの展開的作成力 言語data収集力 収集dataからみちすじをたてて考える力の度合い 授業貢献の度合 各25%</p>		

日本語学Ⅱ		前期 2 単位	1年
日本語の音声・音韻		小川 晋史（おがわ しんじ）	
授業の到達目標及びテーマ	<p>【テーマ】日本語の音声・音韻</p> <p>【到達目標】日本語の音声・音韻特徴を理解する。普段自分たちが使っている日本語を科学的な目線で分析する思考ができるようになる。</p>		
授業の概要	<p>ここでは日本語に関する事項の中で、人間が意思疎通を図る基本手段である言語音とそれに関連する現象について講義する。対象は共時的な（現在の日本語の）ものを中心だが、通時的な（歴史的な）内容にも触れる。また、音声・音韻を題材として、日常使っている日本語を分析的に捉えるとはどういうことかを解説する。テキストの内容に沿って進め</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 講義の進め方の説明、言語学の基本概念</p> <p>第 2回 母音と子音① 調音</p> <p>第 3回 母音と子音② 音の有標性と無標性</p> <p>第 4回 音の獲得① 音素</p> <p>第 5回 音の獲得② 日本語の音素</p> <p>第 6回 音の成分① 音声素生</p> <p>第 7回 音の成分② 様々な現象と音声素生</p> <p>第 8回 連濁と音の交替① 形態音素交替</p> <p>第 9回 連濁と音の交替② 連濁</p> <p>第10回 日本語の特質とモーラ① モーラとは何か</p> <p>第11回 日本語の特質とモーラ② 歌謡、言い間違い、混成語</p> <p>第12回 日本語の特質とモーラ③ 音韻規則とモーラ</p> <p>第13回 音節とアクセント① 音節とは何か</p> <p>第14回 音節とアクセント② 音節とアクセント規則</p> <p>第15回 音節とアクセント③ 音節構造</p>		
テキスト	『日本語の音声』窪菌晴夫[著]（岩波書店）	参考文献	特になし
評価方法	講義の感想と質問表:40% テスト:60%		

特別演習	通年（前期）	2 単位	1年
大学での学び方を習得しよう	小林 正明（こばやし まさあき）		
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：大学での学び方を習得しよう 大学での学びは、学生自らの主体的な関心と意欲が基本になっています。この学びを実りあるものにするためには、一定の約束事やスキルを身につける必要があります。この演習では、大学での「学び方」の初歩を修得し、大学生生活のスタートを上手に切っていただくことを期待しています。具体的には、次のような力の修得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での学びの特徴を理解する。 ②基礎的な学習スキルを身につける。 ③基礎的な情報検索・文献探索能力を身につける。 ④基礎的な文章読解力を身につける。 ⑤基礎的な口頭発表能力と討論の仕方を身につける。 ⑥基礎的な文章作成能力を身につける。 <p>【授業の概要】 各グループ十数名の少人数による発表や討論が中心になります。授業の進め方は担当教員によって異なりますが、例えば、○互いの関心を発表し合い、大学で何を学びたいか交流する、○共通のテキストを読み、レジュメを作り、発表し、討論する、○テーマを決め、関連する文献や資料を探し、まとめて発表する、○テーマにもとづき作品を完成させ、互いに批評し合う、○身体活動やロールプレイ、ワークショップなどを通じ、多様な自己表現を試みたり体験的認識を深める、○レポートを作成することを通じて、わかりやすく自分の考えを他人に伝えられるようにする、などを組み合わせたものとなるでしょう。どのような形であれ、自ら問いを発し、自分と他人の関心や意見を突き合わせることから、物事の新しい見方が開かれてきます。</p> <p>【授業計画】 グループごとに授業計画は異なります。</p> <p>【テキスト】 グループごとにテキストは異なります。</p> <p>【評価方法】 平常点50%、提出課題50%</p>			

特別演習	通年（後期）	1年
『修紫田舎源氏』—『源氏物語』への捷径として	小林 正明（こばやし まさあき）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古文読解力を強化することができる。 ○ 翻案と『源氏物語』とを対照して、反復／差異について理解できる。 ○ 読解の着眼を自分の言葉で筆記／発言できるようになる。 ○ 挿絵の絵解きができるようになる。 <p>【授業の概要】</p> <p>『修紫田舎源氏』は『源氏物語』の翻案として最たるものである。主人公は、架空將軍家の御書司・光氏。国貞描く挿絵も絶品との定評あり。この半期科目では、その19枚の挿絵とともに、夕顔巻後半に相当する第5編の本文を精読する。黄昏（たそがれ＝夕顔）の死を、將軍位継承の宝器「小鳥丸」紛失に絡めて、能・歌舞伎仕立てで象る第5編は、柳亭種彦の奔筆が思う存分発揮された章譚であろう。『源氏物語』手引きとしても推奨したい。</p> <p>【授業計画】 （後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 授業説明、情報交換。 第2回 夕顔巻、花の和歌贈答。 第3回 敵役、母・凌晨。 第4回 八月十五夜の睦言。 第5回 近隣の黎明。 第6回 某院のあやかし。 第7回 謡曲『葵上』という媒介項。 第8回 鬼女と山伏との活劇。 第9回 敵役の告白、末期の真実。 第10回 負の連鎖、暗い家筋。 第11回 黄昏の自裁。 第12回 將軍位継承の宝器。 第13回 『源氏物語』夕顔巻の要諦。 第14回 翻案と原作との反復／差異。パロディ論。 第15回 総括と情報交換、『源氏物語』に向けて。 <p>【テキスト】 配布プリント（修紫田舎源氏 - 国貞挿絵付、源氏物語夕顔巻）</p> <p>【参考文献】 特になし</p> <p>【評価方法】 発表：20% 事前読解報告書：15% 提出物：15% 発言：50%</p>		

特別演習	通年（前期） 2 単位	1年
大学での学び方を習得しよう	辻 吉祥（つじ よしひろ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：大学での学び方を習得しよう 大学での学びは、学生自らの主体的な関心と意欲が基本になっています。この学びを実りあるものにするためには、一定の約束事やスキルを身につける必要があります。この演習では、大学での「学び方」の初歩を修得し、大学生生活のスタートを上手に切っただけことを期待しています。具体的には、次のような力の修得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での学びの特徴を理解する。 ②基礎的な学習スキルを身につける。 ③基礎的な情報検索・文献探索能力を身につける。 ④基礎的な文章読解力を身につける。 ⑤基礎的な口頭発表能力と討論の仕方を身につける。 ⑥基礎的な文章作成能力を身につける。 <p>【授業の概要】 各グループ十数名の少人数による発表や討論が中心になります。授業の進め方は担当教員によって異なりますが、例えば、○互いの関心を発表し合い、大学で何を学びたいか交流する、○共通のテキストを読み、レジュメを作り、発表し、討論する、○テーマを決め、関連する文献や資料を探し、まとめて発表する、○テーマにもとづき作品を完成させ、互いに批評し合う、○身体活動やロールプレイ、ワークショップなどを通じ、多様な自己表現を試みたり体験的認識を深める、○レポートを作成することを通じて、わかりやすく自分の考えを他人に伝えられるようにする、などを組み合わせたものとなるでしょう。どのような形であれ、自ら問いを発し、自分と他人の関心や意見を突き合わせることから、物事の新しい見方が開かれてきます。</p> <p>【授業計画】 グループごとに授業計画は異なります。</p> <p>【テキスト】 グループごとにテキストは異なります。</p> <p>【評価方法】 平常点50%、提出課題50%</p>		

特別演習		通年（後期）	1年
フィクションとノンフィクション——生活と生命の表現を読む		辻 吉祥（つじ よしひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	〈帝国〉システムの世界的な破綻、その下での貧富の両極分解は、さらに災害ショックを縦横に活用しながら止め処なく進行させられています。深まる凄惨な事態を捉える小説、ルポ、なかでも「災害」「貧困」「戦争」をテーマに、さまざまな作品を読みます。この作業を通して、他ならぬ自分自身の「生きる現在」を解読し、照らしだせるようにします		
授業の概要	各自が前期「学問入門演習」で学習したことを基礎にしたうえで、それぞれのテーマについて、教員の提示する作品リスト（多量な素材があり、どれを選んでもかまいません（授業計画はそのごく一例）。もちろん自分で探してきて可）から選んだ作品について、発表・討議します——たのしく、深く、そしてなにより、現在の自分をのり越えるため		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 導入—文献案内</p> <p>第2回 麻ノルージュ1—鎌田慧『自動車絶望工場—ある季節工の手記』</p> <p>第3回 麻ノルージュ2—石牟礼道子『苦海浄土—わが水俣病』</p> <p>第4回 麻ノルージュ3—荒畑寒村『谷中村滅亡史』</p> <p>第5回 戦争の表現1—芥川龍之介『奇怪な再会』</p> <p>第6回 戦争の表現2—武田泰淳『ひかりごけ』</p> <p>第7回 戦争の表現3—大岡昇平『野火』</p> <p>第8回 学生による発表と質疑応答（Aグループ）</p> <p>第9回 学生による発表と質疑応答（Bグループ）</p> <p>第10回 学生による発表と質疑応答（Cグループ）</p> <p>第11回 学生による発表と質疑応答（Dグループ）</p> <p>第12回 学生による発表と質疑応答（Eグループ）</p> <p>第13回 学生による発表と質疑応答（Fグループ）</p> <p>第14回 学生による発表と質疑応答（Gグループ）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業時にプリントで配布します	参考文献	ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』上下（岩波書店） ルポの本は文庫本で入手できます。必読。
評価方法	レポート（調査・考察・文の巧拙）：50% 発表：30% ディスカッション参加度：20%		

日本語学特講 I		前期 2 単位	2年
日本語コミュニケーションにおける言語問題		南口 順子（みなみぐち じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	文化庁による『国語に関する世論調査』の結果をもとに、日本語コミュニケーションにおける言語問題について考察し、これからの時代に求められる日本人の言語能力について考えていくことを大きな授業のねらいとする。		
授業の概要	教室内でのアンケート調査結果と文化庁の調査結果を照らし合わせながら考察を加えていく。実際のコミュニケーション場面から用例を採集し分析したり、アンケートやインタビュー調査の実施結果を発表しレポートにまとめる。学生主体の自律的取り組みを重視し、ディスカッションやディベート等の教室活動も適宜取り入れ授業を進めていく予定であ		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 アンケート調査実施、気になる言い方について</p> <p>第2回 若者言葉、言葉遣いの乱れに対する意識①前半発表</p> <p>第3回 若者言葉、言葉遣いの乱れに対する意識②後半発表</p> <p>第4回 外来語、カタカナ語の使用状況についての意識①前半発表</p> <p>第5回 外来語、カタカナ語の使用状況についての意識②後半発表</p> <p>第6回 日本語コミュニケーションにおける敬語①前半発表</p> <p>第7回 日本語コミュニケーションにおける敬語②後半発表</p> <p>第8回 携帯電話、電子メールの言語生活への影響について</p> <p>第9回 共通語と方言について</p> <p>第10回 男女の言葉遣いに対する意識</p> <p>第11回 日本語の国際化、日本語を学ぶ外国人の増加について</p> <p>第12回 向上させたい日本語能力、美しい日本語とは</p> <p>第13回 これからの時代に求められる日本人の言語能力</p> <p>第14回 最終レポート内容について口頭発表①前半</p> <p>第15回 最終レポート内容について口頭発表②後半</p>		
テキスト	調査結果データなどを資料として配布予定	参考文献	授業時に適宜紹介する
評価方法	授業参加度：20% 小課題、発表の成果：30% 最終レポートの成績：50%		

日本語学特講Ⅱ		後期 2 単位	2年
第二言語としての日本語の習得研究入門		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語を母語としない人たちが、日本語をどのように習得していくのか、その過程をたどることにより、無意識に習得した自分自身の日本語の意識化を図っていく。母語でない言語の習得過程に焦点を当てた研究「第二言語習得研究」の基礎を学ぶことを大きな狙いとした授業である。		
授業の概要	第二言語習得研究の基礎を学ぶことを中心として授業を進めていくが、第二言語習得の前提として、第一言語（母語）習得において、子供がどのように言語を獲得していくのか、脳のメカニズムについても触れ、自分自身がどのように母語を習得してきたのか、それが第二言語、外国語の習得とどのように関わっていくのかも探っていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 第二言語習得研究とは/第一言語習得研究（脳の発達） 第2回 第一言語習得研究（子供のことばの発達過程） 第3回 第二言語習得研究の流れ（対照分析研究） 第4回 第二言語習得研究の流れ（誤用分析研究、中間言語研究） 第5回 第二言語習得理論（普遍文法理論） 第6回 第二言語習得理論（モニター・モデル） 第7回 第二言語習得にかかわる要因（言語転移他） 第8回 第二言語習得にかかわる要因（学習者のストラテジー） 第9回 言語接触とバイリンガリズム（敷居理論他） 第10回 言語接触とバイリンガリズム（バイリンガル教育） 第11回 第二言語習得研究の方法 第12回 日本語の第二言語習得研究（文法） 第13回 日本語の第二言語習得研究（語彙、文字・表記等） 第14回 日本語の第二言語習得研究（年少者の日本語習得） 第15回 後期の総復習		
テキスト	適宜プリントを使用	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	授業参加度:30% 小課題:20% 最終レポート又は試験:50%		

日本史Ⅰ		前期 2 単位	2年
日本中世史		関口 崇史 (せきぐち たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	鎌倉・南北朝時代の歴史を学習し、中世の日本を理解する。 武士の動向を中心に中世社会を理解する。 中世から現代に引き継がれたものは何か、また、引き継がれなかったものは何かを理解する。		
授業の概要	史料（原点）を利用して、鎌倉・南北朝時代における日本を明らかにする。 具体的には、武士の実態、合戦、中世における神仏、裁判などを通じて中世社会とはいかなる社会であったかを考察して		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨN 中世とはどんな時代だったのか？ 第2回 年号の歴史 第3回 サインの歴史 第4回 「イクニ」作ってないよ鎌倉幕府 第5回 御恩と奉公 第6回 ミミヲキリ、ハナヲソギ（1） 第7回 ミミヲキリ、ハナヲソギ（2） 第8回 自力救済の社会—中世の法廷から 第9回 命の値段 第10回 中世人の夢 第11回 鴨長明が見た世界 第12回 中世の神様 第13回 軍忠状の世界 第14回 戦場に赴く武士 第15回 総括		
テキスト	特になし。プリントを配布する予定	参考文献	石井進『日本の歴史』7（中公文庫、2004年） 佐藤進一『日本の歴史』9（中公文庫、2005年）
評価方法	授業感想文:20% レポート:80%		

日本史Ⅱ		後期 2 単位	2年
日本の歴史と宗教		関口 崇史（せきぐち たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の宗教を歴史的・客観的に理解し、国際社会で言われ続けている「日本人は宗教音痴」という現状を克服する		
授業の概要	古代末期から中世・近世・近代までを扱い、それぞれの時代の特徴を示し、かつ現在の日本の問題とも深く関係する事柄を取り上げて講義する。各時代が抱えた問題や文化的事象の背景にある人々の意識を探り、日本の宗教や日本人の宗教意識を解明する。これによって、自分の信じている宗教について、客観的に語れるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 「いろは歌」について</p> <p>第2回 平安貴族社会と仏教</p> <p>第3回 「臨終出家」から「死後出家」へ 葬式仏教の成立</p> <p>第4回 鎌倉新仏教とは何か</p> <p>第5回 禅宗の展開</p> <p>第6回 ゆとりの時間 日本人の生活との関係／または博物館見学</p> <p>第7回 室町時代の政治と文化（1） 北山文化</p> <p>第8回 室町時代の政治と文化（2） 東山文化</p> <p>第9回 戦国時代の政治と宗教</p> <p>第10回 幕藩体制の成立と宗教</p> <p>第11回 鎖国と宗教</p> <p>第12回 近世的檀家制度の成立</p> <p>第13回 江戸時代の文化と宗教</p> <p>第14回 江戸時代の学問と宗教</p> <p>第15回 まとめ 歴史から現代を見る</p>		
テキスト	特に定めない	参考文献	三橋正『平安時代の信仰と宗教儀礼』（続群書類従完成会、2000年）、各出版社による『日本の歴史』など
評価方法	平常点:30% 授業内テスト:70%		

美術史Ⅰ		後期 2 単位	2年
日本美術史における動物表現の系譜		石田 佳也（いしだ よしや）	
授業の到達目標 及びテーマ	屏風絵や絵巻、掛軸などの画面形式に代表される日本絵画には、山水画や花鳥画、物語絵や風俗画など、様々なテーマがある。この講義では日本美術史における動物表現に着目し、日本美術史の基礎事項を習得すると共に、同時代の文学や芸能とも関連づけながら考察し、個々の動物がどのように表現されて来たのかについて文化史的な背景と併せて理解		
授業の概要	毎回、特定の動物をテーマに取り上げ、日本の近世絵画を中心に、漆工や染織などの工芸作品も含めて関連する作例を画像で紹介する。その過程で、個々の作品の作者や流派、技法などに関する基礎事項を確認し、日本美術史における位置づけや文化史的背景を明らかにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 授業内容のガイダンス・導入</p> <p>第2回 日本絵画史の基礎事項（1）画面形式</p> <p>第3回 日本絵画史の基礎事項（2）技法と用語</p> <p>第4回 日本絵画史の基礎事項（3）画家と流派</p> <p>第5回 日本絵画史における動物表現の概観 十二支をめぐって</p> <p>第6回 動物表現の諸様相 ウサギ 鳥獣戯画の世界</p> <p>第7回 動物表現の諸様相 サル 水墨画と動物</p> <p>第8回 動物表現の諸様相 ライオン 宗教絵画の名脇役</p> <p>第9回 動物表現の諸様相 ゾウ 記録された異国の動物</p> <p>第10回 動物表現の諸様相 シカ 和歌の世界に生きる動物</p> <p>第11回 動物表現の諸様相 ウシとウマ 暮らしの中の動物</p> <p>第12回 動物表現の諸様相 リュウとトラ 武将好みの動物たち</p> <p>第13回 動物表現の諸様相 イヌとネコ 描かれた愛玩動物</p> <p>第14回 動物表現の諸様相 近現代における展開</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	とくに定めない。主としてプリントを毎回配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業感想文:20% 期末レポート:80%		

美術史Ⅱ		後期 2 単位	2年
絵巻がわかる・絵巻を読み解く		成原 有貴（なりはら ゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	平安時代から江戸時代初期の絵巻を対象とし、内容と表現について学ぶ。物語や縁起・説話などを描いた各時代の代表的作品をとりあげ、絵巻ならではの表現方法を学習し、絵が語り出すメッセージを理解する。		
授業の概要	絵巻は、特徴的な画面形式と表現によって、さまざまなメッセージを見る者に訴えかける。授業ではそうしたメッセージを、作品が生み出された時代の社会・文化状況を視野に入れて読み解く。また、絵巻の制作事情や制作目的について考察し、社会における美術の機能を明らかにする。授業は講義形式で行い、毎回パワーポイントを使用し作品を映写す		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに：絵巻の世界へようこそ 第2回 「源氏物語絵巻」1：主人公の心理はいかに表現されるか 第3回 「源氏物語絵巻」2：不可欠の脇役・女房像の意味 第4回 「地獄草紙」「餓鬼草紙」：現世と他界のイメージ 第5回 「病草紙」：病への視線と差別 第6回 「平家納経」：平家一門の祈りの造形 第7回 「紫式部日記絵巻」：絵にあらわれた貴族の願望 第8回 「源氏物語絵詞」：描かれた浮舟像の意味 第9回 「華嚴宗祖師伝絵」1：「誘惑者」としての女性像の意味 第10回 「華嚴宗祖師伝絵」2：龍に変身する女性像の意味 第11回 「道成寺縁起絵巻」1：蛇に変身する女性像の意味 第12回 「道成寺縁起絵巻」2：絵巻と芸能 第13回 「当麻曼荼羅縁起絵巻」：女性の祈りと往生 第14回 「山中常盤物語絵巻」：女性への暴力はなぜ描かれたか 第15回 まとめ		
テキスト	特に指定しない。授業の要点を記したプリントを毎回配布する。	参考文献	『新修日本絵巻物全集』角川書店、『日本絵巻大成』中央公論社、『続日本絵巻大成』中央公論社。該当巻などは授業時に指示する。
評価方法	授業感想文：30% 試験：70%		

映像と文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
文学と映画		中澤 弥（なかざわ わたる）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本映画の歴史の中で文学作品が重要な素材となるのは、1930年代に当時のベストセラー小説を映画化した「文芸映画」に始まります。その後、1950年代の映画黄金期を経てメディアが多様化した現代にいたるまでの文学と映画の関係を探求します。		
授業の概要	文学と映画は互いに刺激を受けながら作品を生み出してきました。この授業では、映像化された文学作品を検討することで、両者の関係をその発生から変質まで追ってみたいと思います。それはまた、ジャンルを超えての芸術の交流を考えることにもなります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 文芸映画というジャンルの成立 第2回 豊田四郎の登場 第3回 成瀬巳喜男「浮雲」 第4回 森田芳光「家族ゲーム」 第5回 文芸映画のリメイク 第6回 安部公房と勅使河原宏 第7回 寺山修司と映像の実験 第8回 鈴木清順 大正ロマン三部作 第9回 大林宣彦「廃市」の世界 第10回 モスラと中村真一郎 第11回 鈴木清順 大正ロマン三部作 第12回 黒沢清のホラー映画 第13回 青山真治と岩井俊二 第14回 松尾スズキとケラリーノ・サンドロヴィッチ 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	随時紹介する。
評価方法	レポート：70% 平常点：30%		

映像と文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
差別・戦争と文学		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	映像メディアと文学、それらの作品が構成し、また問いかけている「問題」を熟考する。なかでもこの日常世界からは一見、ないものであるかのように見紛いがちな「差別」、さまざまな意図の下に正体が隠される「戦争」をテーマとし、屈折し、微妙で、秘められつつ顕れるような表現の世界を読み解けるようになることを主眼とする。		
授業の概要	映像は、文学理解の単純な補助手段ではありません。ここでは文学作品による印象世界と、映像メディアによるそれとを混同せずに、それぞれが独自に持ちえた意義について考え、その二つのメディアが指し示すところを考えることにします。「問題と私」ではなく、「問題の中に生きる私」「問題を構成する私」に出会う創造的な機会を提供します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入——宮沢賢治『よだかの星』 第2回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・日本） 第3回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・朝鮮半島） 第4回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・現在の日本） 第5回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・テキスト） 第6回 原一男の映画—戦争の傷痕（映像） 第7回 原一男の映画—戦争の傷痕（映像とテキスト） 第8回 武田泰淳『ひかりごけ』—映像と考察 第9回 武田泰淳『ひかりごけ』—映像・テキストと考察 第10回 井上光晴『地の群れ』—映像と考察 第11回 井上光晴『地の群れ』—映像・テキストと考察 第12回 井上ひさし『父と暮らせば』—映像と考察 第13回 井上ひさし『父と暮らせば』—映像・テキストと考察 第14回 戦場の女たち—映像と考察 第15回 戦場の女たち—映像・テキストと考察		
テキスト	授業中に多く配布するほか、各自の探究に必要なものは随時案内します。	参考文献	北條民雄『いのちの初夜』角川文庫
評価方法	レポート（調査・考察・文の巧拙）：70% 授業内での考察シート作成：15% 授業への積極的な参加：15%		

メディア論Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
印刷・出版の歴史を学び、パッケージ・メディアとしての「本」について考え、電子書籍についての最新情報を得る。		榎本 正樹 (えのもと まさき)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷や出版について自分の視点で考察し、分析する力を養う。 ・ゲーテンベルクによって発明された近代的な印刷術の意味と意義を理解する。 ・パッケージ・メディアとしてのリアル書籍の特性を理解する。 		
授業の概要	印刷や出版の歴史を踏まえつつ、「メディアとしての本」の意味と意義について考えていきます。リアル書籍の発展形としての電子書籍に注目し、メディア的な可能性を探ります。上に述べたことに加え、「メディア」「ネット」「デジタル」をキーワードに、最新のトピックス、ニュース、動向、事象などを紹介、分析するコーナーを設置します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン 授業内容についての説明 第2回 「ライティングスペース」という概念をめぐって 第3回 ライティングスペースからリーディングスペースへ 第4回 印刷・出版の歴史(1) ヨハネス・ゲーテンベルクの生涯 第5回 印刷・出版の歴史(2) 活版印刷というテクノロジー 第6回 印刷・出版の歴史(3) 印刷書籍がもたらした文化的意味 第7回 メディアとしての「本」について考える 第8回 本とコンピュータの相関性 第9回 リアル書籍と電子書籍 第10回 Amazon Kindle研究 第11回 Apple iPad研究 第12回 その他の端末の研究 (Androidタブレットなど) 第13回 電子書籍をつくってみる 第14回 電子書籍を配信してみる 第15回 授業のまとめ&レポート提出		
テキスト	使用しません。	参考文献	参考文献は教室で指示します。また、必要な資料は適宜、配付します。
評価方法	授業へのレスポンス：20% レポート：80%		

メディア論Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
メディア・リテラシーを修得し、広告の基本を理解する。		井上 雅義 (いのうえ まさよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	メディアの構造転換や多様化など、変化するメディアの全体像を理解する。 情報のグローバル化やデジタル化を踏まえ、メディアと広告の社会性を学習する。 各メディアの特性に適した広告企画力を修得し、広告表現ができるようになる。		
授業の概要	授業の進行方法は、各回のテーマごとに基礎知識を学習した後、日本と世界のCMを視聴する。 インタラクティブ広告や国際NGOのPRビデオなど最新の映像表現を分析し、広告表現や広告企画を実践する。		
授業計画	【後期】 第1回 メディア概論：メディア・リテラシー 第2回 インタラクティブ・メディアとマス・メディア 第3回 広告の構造：広告設計の構造とブランディング 第4回 広告計画と戦略：各メディアの使い分け 第5回 都市メディア：商業空間・イベント・交通広告 第6回 マーケティングとブランディング 第7回 広告表現（1）：映像の表現技法 第8回 広告表現（2）：物語の構造と表現技法 第9回 広告表現（3）：コピー・音楽・音響効果など 第10回 テレビ広告：日本と欧米のCMを比較する 第11回 新聞・雑誌広告：メディアの特徴と広告効果 第12回 ラジオ広告：メディアの特徴と広告効果 第13回 インターネット広告：ネットワークの進化 第14回 広告の社会性（1）：途上国支援事業の広告・PR 第15回 広告の社会性（2）：世界の公共広告		
テキスト	特に定めない。資料のコピーを配布する	参考文献	「現代デザイン事典2013年版」平凡社（2013年3月中旬発行）
評価方法	レポート:40% 平常点（課題など）:60%		

編集の実際Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
編集の意義と実態Ⅰ		高橋 至 (たかはし いたる)	
授業の到達目標 及びテーマ	企画、原稿依頼、校正、印刷、宣伝など、一冊の本が世に出るまでに編集者がいかに関わっているのか？ 企画立案から校了まで、編集の本質と実態を理解させる。また、現代文学のおおまかな見取り図を把握させる。		
授業の概要	講義を中心とし、編集の持つ意義と方法についての理解を深めることに重点を置く。企画から校了までの手順とその意味を明らかにする。出席カードを利用し、必要に応じて質問、提案等を受け、次回に回答する。希望者に対して、出版社への見学会を予定している。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス（編集者24時） 第2回 編集者への多様な道筋について 第3回 企画から校了までについて 第4回 活字、用紙、印刷、製本のついて 第5回 本・雑誌と編集者との具体的な関わりについて 第6回 著者と編集者との具体的な関わりについて 第7回 企画の立て方の基本と応用について 第8回 著者への原稿依頼について 第9回 原稿の受理と入稿について 第10回 校正の基本について 第11回 掌編小説の読解について 第12回 掌編小説の創作について 第13回 文芸各誌の新人賞について 第14回 編集者が見た戦後の文学のおおまかな流れについて 第15回 レポートなど		
テキスト	なし。	参考文献	なし。
評価方法	課題レポート:70% 授業内レポート:30%		

編集の実際Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
編集の意義と実態Ⅱ		高橋 至（たかはし いたる）	
授業の到達目標及びテーマ	実践を通してより深く、習得した内容を理解させる。編集者の存在意義と編集の持つ本質を把握させ、また現代文学に関する興味を喚起し、文学の持つ意味合いを十分に体得させる。		
授業の概要	テーマに沿った具体的な作業に携わり、編集の意義についてより深く理解し、実践的な適応が可能なまでに高める。出席カードを利用し、必要に応じて質問、提案等を受け、次回に回答する。希望者に対して、出版社への見学会を予定している。		
授業計画	【後期】 第 1回 ガイダンス（編集者24時） 第 2回 活字、用紙の選定、印刷、製本の選択について 第 3回 企画案の作成の方法について 第 4回 企画案の作成について 第 5回 企画案の分析と講評 第 6回 原稿依頼の手紙を書く方法について 第 7回 原稿依頼の手紙の分析と講評 第 8回 校正の意味と実態について 第 9回 校正の実習作業について 第10回 校正の分析と講評 第11回 掌編小説を分析し、創作化する方法について 第12回 与えられたテーマから創作に挑む 第13回 創作の分析と講評 第14回 近年の新人賞の動向について 第15回 レポートなど		
テキスト	なし。	参考文献	なし。
評価方法	課題レポート:60% 授業内レポート:40%		

ジャーナリズム論Ⅱ	後期 2 単位	1・2年
ジャーナリズムの領域／ジャーナリストの立ち位置／伝える言葉へのデリカシーと的確さを身につける。出版、編集作業の実際を理解する。	林 佳恵 (はやし よしえ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <p>楽しいことを増やすことも大切ですが、嫌なこと、不快なことがそのまま、解決されない社会が続くとしたらどうでしょう。まずは、あなたの不快なことを社会化してみませんか。自分だけの特別なことと思っていたものが、実は多くの人の悩みだと気付くことをスタートラインにおいて、誰に何をどう伝えるのか、届く言葉を獲得する。</p> <p>企画、立案の編集会議から、著者との交渉、スケジュールの作り方、編集作業の工程、造本（装幀＝ブックデザイン）の依頼、印刷所、製本屋さんとのやりとり、取次店、書店との交渉まで、ノウハウを学ぶ。</p> <p>〈授業の概要〉</p> <p>林が関わった仕事——装幀(ブックデザイン)を柱に、暦、座談会、町おこし事業、業界新聞コラム連載、企画立案した著書などもテキストに使います。町の広告、ポスター、テレビのCM、雑誌、新聞等、目や耳に触れた情報で感動したもの、不愉快だったものも取り上げ、その原因を探します。女性ならではの気付きを論の出発点にして、個人の問題をどう社会化して表現できるのか、その道筋を探ります。編集・デザインのプロセス、造本、企画書の書き方等を具体的に示します。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>第1回 林の歩き方、出版社設立から、執筆まで。「あなたはすでに編集長！」編集とは何か。</p> <p>第2回 本、雑誌ができるまでの工程。企画をたてることから販売、返品までの流れ。取次店の役割</p> <p>第3回 「じゃなかしやば」への希求から、ルポルタージュ『橋の上の殺意』鎌田慧へ</p> <p>第4回 これを毎日続ければ、あなたもジャーナリスト。企画書の作り方、想いを現実にする方法。</p> <p>第5回 雑誌、書籍が店頭と並ぶまで。編集、制作、営業は楽しい！ 書店の店員さんと仲良くなるよう！</p> <p>第6回 目に留まる広告の作り方・届く言葉とは。書評等、マスコミへの依頼のポイント</p> <p>第7回 対談・座談会・インタビューで心がけること</p> <p>第8回 ジャーナリストとしての足元、戦争と女性史。</p> <p>第9回 フェミニズムとは……。 「言葉」から見える女性・「わたくし」からのスタート。</p> <p>第10回 失礼のない、書きたいと思ってもらえる依頼書。取りあえず話を聞きたいと言われた時。スケジュール表の用意ほか。</p> <p>第11回 本のサイズ、製本（並製・上製）、割り付け（字体、字数、行数、行間、位置）、ゲラと文字校正、カバー、表紙、ヘッドバンド、花切れ、etc. 装幀者（ブックデザイナー）林の装幀論。</p> <p>第12回 装幀のワークショップ。あなたのブックデザイン。</p> <p>第13回 アナウンサー、出演者の言葉の？と！を探す。しのぎをけずるCM。</p> <p>第14回 言葉を届ける、竹内敏晴さんの「からだ」と「ことば」のレッスン。 林から送る言の葉</p> <p>第15回 これまでのまとめ。</p> <p>〈テキスト〉</p> <p>そのつど用意します。</p> <p>〈参考文献〉</p> <p>鹿野政直『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』有斐閣、『吉武輝子対話集「私」が「わたくし」であることへ』パド・ウィメンズ・オフィス</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>積極的な授業参加:30% 作業:20% レポート:50%</p>		

歌舞伎入門Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
歌舞伎の魅力を探る		津金 規雄 (つがね のりお)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代に生まれた古典的な演劇でありながら、現代もお私たちの娯楽のひとつとして生き続けている歌舞伎の魅力、実際の舞台に即しつつ探っていきます。		
授業の概要	江戸歌舞伎を代表する、荒事を中心に授業を進めます。 6月の国立劇場の歌舞伎公演を見て、レポートを提出してもらいます。チケットの購入・料金負担は学生各自が行います。また上演される演目については、事前に授業で取り上げ、詳しく解説します。		
授業計画	【前期】 第1回 歌舞伎についての総論 第2回 荒事 第3回 「暫」 第4回 「雷神不動北山桜」のうち「鳴神」 第5回 「雷神不動北山桜」のうち「毛抜」 第6回 国立劇場6月公演の演目の台本精読 第7回 国立劇場6月公演の演目の解説・鑑賞 第8回 歌舞伎十八番 第9回 市川團十郎（初代から七代目） 第10回 市川團十郎（八代目から十二代目） 第11回 「矢の根」 第12回 「助六」 第13回 「勸進帳」 第14回 江戸の名優たち 第15回 上方の名優たち		
テキスト	プリントを中心にこちらで用意します。	参考文献	『歌舞伎オン・ステージ』（白水社）、『名作歌舞伎全集』（東京創元新社）の各巻。月刊誌「演劇界」（演劇出版社）の特集号・増刊号など。
評価方法	観劇レポート:70% 授業態度:30%		

能狂言入門Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
古典演劇「能・狂言（能楽）」の理解と鑑賞		三浦 裕子 (みうら ひろこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	室町時代に演劇的基礎を固めた能・狂言（能楽）は、音楽・舞踊・美術・文学・演劇などの諸要素が不可分に融合した総合芸術である。本講義では、このような特徴を持つ能・狂言に関して、さまざまなアプローチを試みつつ、とくに文学的な価値を理解することに重点を置く。		
授業の概要	能・狂言の基本的知識および演劇的・文学的特徴を概説する。そのうえで、狂言〈附子〉〈蚊相撲〉〈悪太郎〉、能〈黒塚〉のテキストを丁寧に講読し、映像資料による鑑賞を行う。能・狂言をより深く理解するため能舞台の見学を行う予定。		
授業計画	【後期】 第1回 総合芸術としての能・狂言を概説する 第2回 狂言〈附子〉前半の講読と鑑賞 第3回 狂言〈附子〉後半の講読と鑑賞 第4回 狂言〈蚊相撲〉前半の講読と鑑賞 第5回 狂言〈蚊相撲〉後半講読と鑑賞 第6回 狂言〈蚊相撲〉の講読と鑑賞～大名・太郎冠者を考える 第7回 狂言〈悪太郎〉の講読と鑑賞 第8回 狂言〈悪太郎〉の講読と鑑賞～悪人正義説を考える 第9回 能・狂言の演技術と舞台を考える 第10回 能〈黒塚〉前半の講読と鑑賞 第11回 能〈黒塚〉中盤の講読と鑑賞 第12回 能〈黒塚〉後半の講読と鑑賞 第13回 能〈黒塚〉の講読と鑑賞～能面・能装束・演技を考える 第14回 まとめⅠ～映画〈蜘蛛巣城〉の紹介と鑑賞 第15回 まとめⅡ～能・狂言の総括		
テキスト	三浦裕子著『能・狂言』（シリーズ「学校で教えない教科書」、日本文芸社） 竹本幹夫著『対訳でたのしむ安達原 黒塚』（檜書	参考文献	必要に応じて講義時に提示する
評価方法	平常点（集中度）:40% 講義時のアンケート等:10% 定期試験:50%		

日本語教育 I		前期 2 単位	1・2年
日本語教育の基礎知識の習得		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	外国人に日本語を教える「日本語教育」の理論と実践に基づき、以下の①～③の能力を育成することを大きなねらいとして授業を進める。 ①日本語の言語的特徴の基礎を理解する能力②自己の言語生活を内省する能力③日本語をより適切に運用する能力		
授業の概要	言語としての日本語の特徴を音声、文字表記、語彙、社会言語学(待遇表現を中心に)の面からつかみ、日本語教育の基礎知識の習得を目指すと同時に、日本語運用能力を高めるためのトレーニングも適宜行なっていく予定。		
授業計画	【前期】 第1回 日本語教育と国語教育、日本語の系統、類型 第2回 日本語の特性、日本語の音声(音、音節、リズム) 第3回 日本語の音声(母音、子音) 第4回 日本語の音声(子音、調音点、調音法他) 第5回 日本語の音声(アクセント、イントネーション) 第6回 日本語の文字・表記(常用漢字表、筆順、送り仮名) 第7回 日本語の文字・表記(仮名遣い、外来語の表記) 第8回 日本語の文字・表記(ローマ字、文字の歴史) 第9回 日本語の語彙(語彙と語、語種) 第10回 日本語の語彙(語構成、体系) 第11回 日本語の語彙(教え方、位相) 第12回 社会言語学①(待遇表現を中心に) 第13回 社会言語学②(待遇表現を中心に) 第14回 前期のまとめ(前半) 第15回 前期のまとめ(後半)		
テキスト	高見澤孟他著『新・はじめての日本語教育・I 日本語教育の基礎知識』アスク	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	授業参加度:30% 小課題等評価:20% 最終試験:50%		

日本語教育 II		後期 2 単位	1・2年
日本語教授法入門(教授法の知識の実践的活用を目指して)		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語教育(現状と歴史を中心に)を概観し、日本語教授法の基礎知識を得ると同時に日本語を外国語としてとらえることで、客観的に日本、日本語を見直す視点を養っていくことを大きなねらいとする。		
授業の概要	日本語を教える上で必要となる文法的知識を整理、確認しながら、実際に外国語として日本語を教える際の具体的な方法について考察していく。後半、時間的に可能であれば模擬授業を導入し、今まで習ってきた日本語教育の知識を実践的に活用できたらと考えている。		
授業計画	【後期】 第1回 国内の日本語教育事情/日本語教師の役割 第2回 海外の日本語教育事情/日本語教育史(明治期以前) 第3回 日本語教育史(明治期以降)/コースデザイン、シラバス 第4回 日本語教育史(戦後)/カリキュラム 第5回 外国語教授法(中世・近世)/教室活動について 第6回 オーディオリンガルアプローチ/教材・教具について 第7回 新しい外国語教授法/評価法について 第8回 日本語文法と国文法(文法用語、品詞分類、活用) 第9回 日本語のテンス、アスペクト、ムード 第10回 初級文法の指導法(名詞文) 第11回 初級文法の指導法(指示詞) 第12回 授業の実際(教材分析、教案の立て方) 第13回 授業の実際(模擬授業前半) 第14回 授業の実際(模擬授業後半) 第15回 後期試験前の総復習		
テキスト	高見澤孟他著『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	授業参加度:30% 小課題、模擬授業等:20% 最終試験:50%		

漢文講読Ⅴ		通年（前期）	4 単位	2年
漢文訓読の基礎		古田島 洋介（こたじま ようすけ）		
授業の到達目標 及びテーマ	漢文を訓読するための基礎知識を習得することを目標とする。「対象としての漢文」と「方法としての訓読」を明確に意識し、最終的には、与えられた書き下し文に従って、白文に対して正確に「返り点」「送り仮名」が付けられるようになる。			
授業の概要	「対象としての漢文」と「方法としての訓読」を踏まえ、訓読の基礎知識すなわち発音としての「音読み」「訓読み」および特殊な発音を持つ「再読文字」「置き字」について認識を深め、「漢文法」の基礎事項をも確認したうえで、最も主要な訓点たる「返り点」について十分な練習作業を課す。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 対象としての漢文 第2回 方法としての訓読 第3回 発音（1）音読み 第4回 発音（2）訓読み 第5回 特殊な発音を持つ文字（1）再読文字 第6回 特殊な発音を持つ文字（2）置き字 第7回 漢文法の基礎事項（1）文型 第8回 漢文法の基礎事項（2）語間連結構造 第9回 漢文の加工（1）書き下し文の書式 第10回 漢文の加工（2）固有名詞符号 第11回 返り点の概要：符号の整理と用法の原則 第12回 返り点実践練習（1）基礎事項確認問題 第13回 返り点実践練習（2）連続符号（ハイフン）応用問題 第14回 返り点実践練習（3）例外措置を必要とする問題 第15回 まとめ＋質疑応答			
テキスト	古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院）	参考文献	古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社《新典社新書》25）；古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社《新典社選書》46）	
評価方法	学期末筆記試験：90% 積極性：10%			

漢文講読Ⅴ		通年（後期）	2年	
「赤い糸」原話講読		古田島 洋介（こたじま ようすけ）		
授業の到達目標 及びテーマ	〔唐〕李復言「定婚店」（訓点付き）を精読することにより、漢文の読解力を養成することを目標とする。当該説話は、日本の殊に若い女性のあいだに広まっている「赤い糸」の伝説の原話と推定され、漢文の読解力を向上させるためにも恰好の素材であり、訓点付きの漢文が平易に読めるようになる。			
授業の概要	〔唐〕李復言「定婚店」（訓点付き）を精読する。訓点すなわち「返り点」「送り仮名」はもとより、文型や助字その他についても詳細な解説を加えつつ講読してゆく。受講者は積極的に質問を提出すること。なお、平常レポート（複数回）として、書き下し文の作成を課す。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 概要の説明：教材の説明＋書き下し文の作成要領 第2回 「定婚店」講読（1）固有名詞の処理法 第3回 「定婚店」講読（2）基本構文 第4回 「定婚店」講読（3）疑問文 第5回 「定婚店」講読（4）反語文 第6回 「定婚店」講読（5）会話文の処理法 第7回 「定婚店」講読（6）音読みと訓読み 第8回 「定婚店」講読（7）副詞に関する注意点 第9回 「定婚店」講読（8）多義語への対処法 第10回 「定婚店」講読（9）語間連結構造の把握 第11回 「定婚店」講読（10）話型：Predestined Wife の特徴 第12回 「赤い糸」の日本への伝来（1）中世 第13回 「赤い糸」の日本への伝来（2）近世 第14回 「赤い糸」の日本への伝来（3）近現代 第15回 まとめ＋質疑応答			
テキスト	ナシ。必要な教材は、すべてプリントで配付する。	参考文献	古田島洋介『「縁」について——中国と日本』（新典社）；古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院）	
評価方法	学期末筆記試験：50% 学期末レポート：20% 平常レポート：20% 積極性：10%			

創作指導「俳句」		通年（前期）	4 単位	2年
俳句に親しむ		片山 由美子（かたやま ゆみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	俳句は400年以上の長い伝統をもつ形式であり、今もなお世代を超えて多くの人々に愛好されている文芸であることを理解する。その表現方法を身につけ、自分自身の日々の歩みと心の記録を残す喜びを味わう。また、季語を通して自然の豊かさを知り、日本文化の奥深さにも目を向けることをめざす。			
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句までの作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技術を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、楽しみながらさまざまな季語に触れてゆく。			
授業計画	【前期】 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語解説と実作指導 第4回 作品鑑賞と実作への応用 第5回 俳句の表現法 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 句会 第15回 まとめ			
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記（角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい）	
評価方法	レポートの内容:40% 進歩の度合:50% 取り組みの姿勢と意欲:10%			

創作指導「俳句」		通年（後期）	2年	
俳句を楽しむ		片山 由美子（かたやま ゆみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	俳句はわずか17音であるが、小さな昆虫から宇宙まで、何でもテーマとなる文芸であることを理解する。独自の表現法を学び、楽しみながら日々の生活の記録を残すことをめざす。また、季語を通して自然の豊かさを知るとともに、日本語の美しさに触れる。			
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句まで作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技法を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、さまざまな季語に触れてゆく。			
授業計画	【後期】 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語を知る 第4回 名句鑑賞と実作への応用 第5回 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 季語体験（かるた会） 第15回 まとめ			
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記（角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい）	
評価方法	レポートの内容:50% 進歩状況:40% 取り組みの姿勢と意欲:10%			

創作指導「小説」		通年（前期）	4 単位	1・2年
小説を書くための方法を学ぶ		増田 みず子（ますだ みずこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書く基礎力を養うことを目的とする。小説の概念を理解してもらい、言葉と文字、小説文学の歴史を学んでもらい、さらに先人たちがどんなことをどんなふうにな小説で表現してきたかを知ってもらった上で、学生一人ずつに自身の書くべきテーマを模索してもらう。			
授業の概要	近現代の日本の小説作品を参考に、描写、説明、会話の文章の書き方を練習し、構成方法を学んでもらう。講義を中心とした授業であるが、できるだけ学生一人ずつが自身の個性を発揮できるような個別の指導に力を入れたい。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 小説の概念について 第2回 文字と言葉について 第3回 世界の小説について 第4回 日本の小説について 第5回 女性小説家のテーマと個性について 第6回 小説の文章 ①描写文（テキスト書写） 第7回 小説の文章 ②描写文（美しい風景を描写する） 第8回 小説の文章 ③会話文（創作） 第9回 小説の文章 ④説明文（大学生活を説明する） 第10回 小説の種類と構造について 第11回 小説のテーマについて 第12回 小説の材料を集める 第13回 習作 ①「私」をテーマに小品創作 第14回 習作 ②「風景」をテーマに小品創作 第15回 習作 ③「事件」をテーマに小品創作			
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	必要に応じて指示する。	
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%			

創作指導「小説」		通年（後期）		1・2年
小説を書く		増田 みず子（ますだ みずこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書く基礎力を養うことを目的とする。実際に作品を書いてもらいながら、適宜助言をして刺激を与えることによって、より深い観察力、想像力、文章力を引き出すようにしたい。学生自身の感性の生き生きとした作品作りを目指す。			
授業の概要	個別指導を中心とした演習授業である。まず短い課題小説の創作から取り組み、その作品を土台に、学生の個性的なテーマを発見し、オリジナルの小説作品の完成を目指して、執筆と添削指導を繰り返す。テーマの探求と執筆の過程を大事にしたい。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 課題作文①テーマ 写真 第2回 課題作文②テーマ 眠り 第3回 実作のための個人面談① 第4回 実作のための個人面談② 第5回 実作の開始 第6回 実作と添削指導① 第7回 実作と添削指導② 第8回 実作と添削指導③ 第9回 実作と添削指導④ 第10回 実作と添削指導⑤ 第11回 実作と添削指導⑥ 第12回 実作と添削指導⑦ 第13回 実作と添削指導⑧ 第14回 作品提出 第15回 作品返却と個人面談			
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	必要に応じて指示する。	
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%			

英文講読 I		通年（前期）	2 単位	1年
英文読解の基礎		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標 及びテーマ	英文の訳読を通して、英文読解の基礎力を身に付け、内容を正しく理解する力を高めることを授業の到達目標とします。			
授業の概要	英文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出しをして英文を正確に読み、内容を正しく理解する力を高めます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション+ガイダンス 第2回 Dates We Can't Forget: 9/11/2001 and 3/11/2011（前半） 第3回 Dates We Can't Forget: 9/11/2001 and 3/11/2011（後半） 第4回 Professor Donald Keene（前半） 第5回 Professor Donald Keene（後半） 第6回 The Cherry Blossoms of Washington DC（前半） 第7回 The Cherry Blossoms of Washington DC（後半） 第8回 The Pink Dog（前半） 第9回 The Pink Dog（後半） 第10回 The Miracle of Trees（前半） 第11回 The Miracle of Trees（後半） 第12回 Nothing New under the Sun（前半） 第13回 Nothing New under the Sun（後半） 第14回 Exporting the Mottainai Movement（前半） 第15回 前期確認テスト+前期のまとめ			
テキスト	「Enjoyable Reading II」Joan McConnell and Shuichi Takeda 著、成美堂	参考文献	授業時に指示します。	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英文講読 I		通年（後期）		1年
英文読解の基礎		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標 及びテーマ	英文の訳読を通して、英文読解の基礎力を身に付け、内容を正しく理解する力を高めることを授業の到達目標とします。			
授業の概要	英文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出しをして英文を正確に読み、内容を正しく理解する力を高めます。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Exporting the Mottainai Movement（後半） 第2回 The Spirit Bear（前半） 第3回 The Spirit Bear（後半） 第4回 Technology and Language（前半） 第5回 Technology and Language（後半） 第6回 The Philosophy of Steve Jobs（前半） 第7回 The Philosophy of Steve Jobs（後半） 第8回 A Little Boy's Act of Kindness（前半） 第9回 A Little Boy's Act of Kindness（後半） 第10回 The Dolphin with an Artificial Tail（前半） 第11回 The Dolphin with an Artificial Tail（後半） 第12回 Inspiration from Nadeshiko（前半） 第13回 Inspiration from Nadeshiko（後半） 第14回 Lessons from Japan 第15回 後期確認テスト+後期まとめ			
テキスト	「Enjoyable Reading II」Joan McConnell and Shuichi Takeda 著、成美堂	参考文献	授業時に指示します。	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年	
英文読解力養成		松村 伸一（まつむら しんいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	標準レベルの現代英語で書かれた文章を、適宜辞書などを利用して自力で読み解くためのさまざまな技術を身につける。			
授業の概要	日本や米国に長く滞在した経験を持つイギリス人ジャーナリストが、外国人の目を意識しつつ、イギリス文化のさまざまな側面を紹介した英文を精読する。語彙や文法などに注意して訳読してもらいが、ちょっとした言い回しの裏側にある文化的背景や独特なユーモアなど、細部に至るまでしっかり理解できるよう解説する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Preface 第3回 1. Class Spotting (1) 第4回 1. Class Spotting (2) 第5回 3. Understanding the Union Flag (1) 第6回 3. Understanding the Union Flag (2) 第7回 5. The Joys of British Cuisine (1) 第8回 5. The Joys of British Cuisine (2) 第9回 6. Our German (and French ...) Royals (1) 第10回 6. Our German (and French ...) Royals (2) 第11回 6. Our German (and French ...) Royals (3) 第12回 8. Expressive English (1) 第13回 8. Expressive English (2) 第14回 9. How to Become an ... "England Expert" (1) 第15回 9. How to Become an ... "England Expert" (2)	<p>【後期】</p> 第1回 10. "Great" Britons (1) 第2回 10. "Great" Britons (2) 第3回 10. "Great" Britons (3) 第4回 12. "Tea Revives the World" (1) 第5回 12. "Tea Revives the World" (2) 第6回 15. Selected Moments in British History (1) 第7回 15. Selected Moments in British History (2) 第8回 15. Selected Moments in British History (3) 第9回 15. Selected Moments in British History (4) 第10回 19. A Tentative Paean to England (1) 第11回 19. A Tentative Paean to England (2) 第12回 19. A Tentative Paean to England (3) 第13回 19. A Tentative Paean to England (4) 第14回 Afterword 第15回 まとめ		
テキスト	Colin Joyce, Let' s England: A Foreign Correspondent Comes Home. NHK出版、2011.	参考文献		
評価方法	平常点（訳読担当）:90% 小テスト:10%			

英文講読Ⅱ		通年（前期） 2 単位	2年
英文を楽しむ力を身につけるために		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の仕組みを基本から確認するとともに、応用力を増強する。		
授業の概要	さまざまな分野で活躍した魅力的な24人を取り上げた短いストーリーを読む。毎回語彙テストを授業冒頭に行い、ついで重要な文法項目を確認し、内容理解へと進む。各受講生とのコンタクトを大切にして「よく理解できるまで」をモットーにして授業を進めたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 1 Steve Jobs 第3回 2 The Beatles 第4回 3 Alexander the Great 第5回 4 Pele 第6回 5 Coco Chanel 第7回 6 Yuri Gagarin 第8回 Review of Units 1 through 6 第9回 7 Walt Disney 第10回 8 Toyoda Eiji 第11回 9 Albert Einstein 第12回 10 Audrey Hepburn 第13回 11 Albert Schweitzer 第14回 12 Archimedes 第15回 Review of Units 7 through 12		
テキスト	『世界を変えた24人』 染谷・Ferrasci・Murray著 三修社 2013年	参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常授業:40% 期末試験:60%		

英文講読Ⅱ		通年（後期）	2年
英文を楽しむ力を身につけるために		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の仕組みを基本から確認するとともに、応用力を増強する。		
授業の概要	さまざまな分野で活躍した魅力的な24人を取り上げた短いストーリーを読む。毎回語彙テストを授業冒頭に行い、ついで重要な文法項目を確認し、内容理解へと進む。各受講生とのコンタクトを大切にして「よく理解できるまで」をモットウにして授業を進めたい。		
授業計画	【後期】 第1回 Politics and government (1) 語彙・文構造 第2回 Politics and government (2) 内容確認 第3回 Multicultural Britain (1) 語彙・文構造 第4回 Multicultural Britain (2) 内容確認 第5回 Food (1) 語彙・文構造 第6回 Food (2) 内容確認 第7回 Music and Fashion (1) 語彙・文構造 第8回 Music and Fashion (2) 内容確認 第9回 Fantasy and Castles (1) 語彙・文構造 第10回 Fantasy and Castles (2) 内容確認 第11回 Language (1) 語彙・文構造 第12回 Language (2) 内容確認 第13回 The arts (1) 語彙・文構造 第14回 The arts (2) 内容確認 第15回 総まとめ		
テキスト	『世界を変えた24人』 染谷・Ferrasci・Murray著 三修社 2013年	参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常授業:40% 期末試験:60%		

英語表現法		通年（前期）	2 単位	1年
口語英作文演習と文法の基本確認		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標 及びテーマ	口語英作文演習を通じて実用的な英語を身につける事を目指します。			
授業の概要	大学生に身近なトピックを扱った英作文演習を通じて、実用的な英語を楽しく学び英作文の基礎力を身につけます。さらに「書く力」から「話す力」へと転化できるように訓練します。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 Asking for Repetition or Explanation 第3回 Natural Responses 第4回 Thanks and Apologies 第5回 Greetings and Farewells 第6回 Meeting People on the Campus 第7回 Making Appointments 第8回 Requests and Permission 第9回 Suggestions and Advice 第10回 Intentions and Wishes 第11回 Techniques for Carrying on a Conversation 第12回 College Life 第13回 Physical Appearance and Personality 第14回 Friends and Dating 第15回 前期確認テスト+前期のまとめ			
テキスト	「コミュニケーションのための口語英作文」（成美堂）、山口俊治・Timothy Minton 共著	参考文献	・すぐ使える英文ライティングのエッセンス（研究社）、小林兼之・Gary Hunt 共著	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英語表現法		通年（後期）	1年
口語英作文演習と文法の基本確認		富士川 美紀（ふじかわ みき）	
授業の到達目標 及びテーマ	口語英作文演習を通じて実用的な英語を身につける事を目指します。		
授業の概要	大学生に身近なトピックを扱った英作文演習を通じて、実用的な英語を楽しく学び英作文の基礎力を身につけます。さらに「書く力」から「話す力」へと転化できるように訓練します。		
授業計画	【後期】 第1回 Health and Sports 第2回 Eating, Drinking and Smoking 第3回 Speaking on the Phone 第4回 Giving Directions 第5回 Overseas Travel (1) 第6回 Overseas Travel (2) 第7回 Studying Abroad 第8回 文法の復習：動名詞、不定詞 第9回 文法の復習：完了形 第10回 文法の復習：分詞 第11回 文法の復習：関係詞 第12回 文法の復習：比較 第13回 文法の復習：仮定法 第14回 文法の復習：接続詞、その他 第15回 後期確認テスト+後期のまとめ		
テキスト	「コミュニケーションのための口語英作文」（成美堂）、山口俊治・Timothy Minton 共著	参考文献	・すぐ使える英文ライティングのエッセンス（研究社）、小林兼之・Gary Hunt 共著
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%		

Introductory College English II	通年（前期） 2 単位	1年
Writing	リムスコグ (RIMSKOG, Christa) テラダ (TERADA, Betsy)	
<p data-bbox="107 214 371 237">【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p data-bbox="97 262 1146 285">By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p data-bbox="107 311 230 334">【授業の概要】</p> <p data-bbox="97 336 889 359">In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol data-bbox="97 384 710 550" style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p data-bbox="97 575 1252 645">Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p data-bbox="107 691 211 714">【授業計画】</p> <p data-bbox="97 716 842 739">Week 1 Teacher and Course Introduction: Introduction to Paragraph writing</p> <p data-bbox="97 741 403 765">Week 2 3 Parts of a Paragraph</p> <p data-bbox="97 767 371 790">Week 3 Kinds of Paragraphs</p> <p data-bbox="97 792 570 815">Week 4 Writing an Outline/concluding sentences</p> <p data-bbox="97 817 701 840">Week 5 From Outline to Paragraph - Paragraph 1 - Time order</p> <p data-bbox="97 842 732 865">Week 6 Test 1: Outlines; Booklet: Time Order - Error Paragraph</p> <p data-bbox="97 867 732 890">Week 7 Test Feedback; Paragraph Unity and Concluding Sentences</p> <p data-bbox="97 892 721 915">Week 8 Simple and Compound Sentences; Coordinate Conjunctions</p> <p data-bbox="97 917 581 940">Week 9 Introduction to Listing Order Paragraphs</p> <p data-bbox="97 942 810 966">Week 10 Listing Order Paragraph - Process; Writing Concluding sentences</p> <p data-bbox="97 967 831 991">Week 11 Test 2: Time Order Paragraphs; Booklet: Process - Error Paragraph</p> <p data-bbox="97 993 879 1016">Week 12 Test Feedback; Listing Order Paragraph - Comparison; Transition Signals</p> <p data-bbox="97 1018 721 1041">Week 13 Listing Order Paragraph - Contrast; Transition Signals</p> <p data-bbox="97 1043 842 1066">Week 14 Listing Order Paragraph- Process Paragraphs and Sentence Structure</p> <p data-bbox="97 1068 670 1091">Week 15 Preparation for Test 3: Listing Order Paragraphs</p> <p data-bbox="107 1099 211 1122">【テキスト】</p> <p data-bbox="97 1124 172 1147">Booklet</p> <p data-bbox="97 1149 511 1172">First Steps in Academic Writing-Level Two</p> <p data-bbox="107 1195 211 1219">【参考文献】</p> <p data-bbox="97 1221 141 1244">なし</p> <p data-bbox="107 1267 211 1290">【評価方法】</p> <p data-bbox="97 1292 680 1315">Your grade for this course will be based on the following:</p> <p data-bbox="97 1317 989 1340">Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。</p> <p data-bbox="97 1342 351 1365">Paragraph Assignments 40%</p> <p data-bbox="97 1367 460 1391">Homework and Class Participation 20%</p> <p data-bbox="97 1414 1260 1483">授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II	通年（後期）	1年
Writing	フィリップス（PHILLIPS, J. R.） ピンター（PINTER, B.）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p>Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Describing the world around you: Space Order Week 2 Space Order Week 3 Paragraph Writing; Introduction to Reasons and Examples Week 4 Test 1: Space Order Paragraphs; Classwork - Error Paragra Week 5 Test Feedback; Complex Sentences Week 6 Facts and Opinions - Transition Signals Week 7 Supporting your opinion with evidence and examples Week 8 Writing an Opinion Paragraph with Supporting Evidence Week 9 In Class Writing: Supporting your reasons and Paraphrasing Week 10 Test 2: Opinion Paragraphs; Classwork - Opinion Paragraph Week 11 Test Feedback; Introduction to Summarizing - Avoiding Plagiarism - Paraphrasing Week 12 Identifying Main Points Week 13 Writing a Reaction Week 14 Supporting your reaction with examples Week 15 Reaction and Opinion; Prepare for Test 3</p> <p>【テキスト】 Booklet First Steps in Academic Writing-Level Two</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Paragraph Assignments 40% Homework and Class Participation 20%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English III	通年（前期） 2 単位	1年
Reading	テラダ (TERADA, Betsy)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to utilize a range of reading skills in order to achieve the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. find specific information in a text easily 2. read more quickly 3. read short books (e.g. graded readers) 4. discuss and write about books you have read understand and enjoy texts written in natural English. <p>Without limiting the foregoing, students will be expected to master the following specific reading skills:</p> <p>Identifying the topic Skimming Scanning Predicting Identifying patters of organization Making inferences</p> <p>In addition, students will be expected to at least double their reading speed by the end of the course.</p> <p>Finally, students will be expected to read at least one graded-reader per week.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, you will practice three different types of reading methods, as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Extensive Reading 2. Speed-Reading 3. Reading Skills <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the Course - Extensive Reading 2 Speed Reading & Skimming 3 Scanning & Thinking Skills 4 Previewing and Predicting 5 Making Predictions & Guessing Word Meaning 6 Review of Speed Reading and Reading Skills 7 Reading Test 1- Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 8 Reading Discussion 9 Looking for the Topic 10 Skimming - Review 11 Pronouns & Synonyms 12 Synonyms & Reading Comprehension 13 What is a Paragraph? & Review for the Test 14 Reading Test 2 - Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 15 Preparing Book Report Oral Presentation (Test 3) <p>【テキスト】 Booklet Cries from the Heart</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 TESTS 60% There will be three tests. Two will include speed-reading, reading-skills exercises, and a short story. You will need to answer comprehension questions about the story you read. The third will be an oral presentation about one of the books you read during the semester. Please see your course schedule for the dates. テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順に並べて、その上位 2 つの平均点になります。</p> <p>GRADED READERS 20% (Short stories that you will read at home) You will be asked to give brief summaries of and comments on the books you have read. Your comments will be given in written, oral, or written and oral form.</p> <p>HOMEWORK and CLASS PARTICIPATION 20%</p>		

Introductory College English III	通年（後期）	1年
Reading	ピンター（PINTER, B.）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to utilize a range of reading skills in order to achieve the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. find specific information in a text easily 2. read more quickly 3. read short books (e.g. graded readers) 4. discuss and write about books you have read understand and enjoy texts written in natural English. <p>Without limiting the foregoing, students will be expected to master the following specific reading skills:</p> <p>Identifying the topic Skimming Scanning Predicting Identifying patters of organization Making inferences</p> <p>In addition, students will be expected to at least double their reading speed by the end of the course.</p> <p>Finally, students will be expected to read at least one graded-reader per week.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, you will practice three different types of reading methods, as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Extensive Reading 2. Speed-Reading 3. Reading Skills <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Book Presentations 2 What is the Topic and Main Idea? 3 Patterns of Organization 4 Paragraph Pattern - Listing Order 5 Paragraph Pattern - Cause & Effect 6 Skimming & Scanning -Review 7 Test 1 - Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 8 Paragraph Pattern: Time Order 9 TOEIC Test Reading or listening 10 Paragraph Patterns: Comparison/Contrast 11 Making Inferences 12 Reading Discussion: Short Story 6 'Callus' 13 Making Inferences (continued) 14 Test 2- Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 15 Preparing Book Presentations for Test 3 <p>【テキスト】 Booklet Cries From the Heart</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 TESTS 60% There will be three tests. Two will include speed-reading, reading-skills exercises, and a short story. You will need to answer comprehension questions about the story you read. The third will be an oral presentation about one of the books you read during the semester. Please see your course schedule for the dates. テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順に並べて、その上位 2 つの平均点になります。 GRADED READERS 20% (Short stories that you will read at home) You will be asked to give brief summaries of and comments on the books you have read. Your comments will be given in written, oral, or written and oral form. HOMEWORK and CLASS PARTICIPATION 20%</p>		

Intermediate College English	通年（前期）	2 単位	2年
Intermediate College English IB			
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (前期)</p> 第 1回 Introduction to the Course 第 2回 Environmental Issues 1: Our Planet 第 3回 Environmental Issues 2: Minamata 第 4回 Environmental Issues 3: Water 第 5回 Environmental Issues 4: Fast Food 第 6回 Environmental Issues- Development and Hunger 第 7回 Reviewing Environmental Issues 第 8回 Presentation 1 第 9回 Test 1 第10回 Moral Issues 1: A Moral World: Gender 第11回 Moral Issues 2: Parasite Singles 第12回 Moral Issues 3: Charity 第13回 Moral Issues 4: AIDS 第14回 Reviewing Moral Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2 <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>			

Intermediate College English	通年（後期）	2年
Intermediate College English IIB		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (後期) 第1回 Introduction to the Course 第2回 Health Issues 1: The Meaning of Health 第3回 Health Issues 2: Smoking 第4回 Health Issues 3: Organ Transplants 第5回 Health Issues 4: Cloning 第6回 Health Issues- My Life-My Body 第7回 Reviewing Health Issues 第8回 Presentation 1 第9回 Test 1 第10回 TOEIC 第11回 World Issues 1: Free Trade 第12回 World Issues 2: Fair Trade 第13回 World Issues 3: Rich and Poor 第14回 Reviewing World Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2 :15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>		

英文学史		通年（前期）	4 単位	1年
イギリス文学一国の創生から18世紀まで		山田 美穂子（やまだ みほこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリス連邦の言語、人種、宗教の多重性を確認したのち、いわゆる英文学の創成期にあたる8世紀あたりから近代社会が確立する18世紀までを通史的に概観する。			
授業の概要	各時代のイギリスの社会背景と文化的思潮を並行して解説しながら文学作品を紹介する。取り上げる予定の作品は「ペーオウルフ」、チョーサーの「カンタベリー物語」、シェイクスピアの諸作品、ジョン・ミルトンの「失樂園」、形而上詩人の作品、デフォーの「ロビンソン・クルーソー」、スウィフト「ガリヴァー旅行記」等。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 古英語の時代「ペーオウルフ」 第3回 国民創生の伝説群 アーサー王伝説 第4回 国民創生の伝説群 ロビンフッド伝説 第5回 シェイクスピア 歴史劇 第6回 シェイクスピア 喜劇 第7回 シェイクスピア 悲劇 第8回 シェイクスピア ロマンズ劇 第9回 宗教革命とピューリタン文学 第10回 ミルトン「失樂園」 第11回 形而上詩人 ジョージ・ハーバート他 第12回 近代社会の成立とジャーナリズム 第13回 小説の誕生 第14回 デフォー「ロビンソン・クルーソー」 第15回 スウィフト「ガリヴァー旅行記」			
テキスト	『コンプトンの英国史・英文学史』	参考文献	授業内に適宜指導。	
評価方法	授業内コメント提出:60% 各期末レポート提出:40%			

英文学史		通年（後期）		1年
イギリス文学—19世紀から現代まで		山田 美穂子（やまだ みほこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	大英帝国として世界に君臨した19世紀イギリスの多面性を文学作品を通じて学び、世界大戦を経て変容してゆくイギリスの現在までの道のりを小説や戯曲、詩を紹介しながら概観する。			
授業の概要	18世紀末からわき起こったロマン派運動と社会改革の精神の連動を軸に、ヴィクトリア朝文学、主に詩作品と小説、幾つかの戯曲を読む。続けて20世紀の多様化、英語圏文学への変容を主に小説を扱いながら学ぶ。取り上げる予定の作家はオースティン、ディケンズ、ルイス・キャロル、ワイルド、ウルフ、カズオ・イシグロ等。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 ロマン派詩人の作品 第3回 メアリー・シェリー 第4回 ジェイン・オースティン 第5回 ディケンズ 第6回 ルイス・キャロル 第7回 ワイルド、ショー 第8回 戦争詩人の作品 第9回 ヴァージニア・ウルフ 第10回 ジョージ・オーウェル 第11回 C. S. ルイス、J. R. R. トールキン 第12回 T. S. エリオット 第13回 W. H. オーデン 第14回 カズオ・イシグロ 第15回 イギリス文学のまとめ			
テキスト	『コンプトンの英文学史』	参考文献	授業内に適宜指導。	
評価方法	授業内コメント提出:60% 期末レポート提出:40%			

英米文学研究		通年（前期）	8 単位	2年
アメリカ社会史をまなぶ（1）		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標及びテーマ	研究論文や一次資料の購読を通じて、資料の検索・収集方法、資料の読み方、議論の組み立て方など、論文作成に必要な技術を学びます。夏休み前までに卒業論文のテーマを各自決定します。			
授業の概要	ジェンダー史やアメリカ社会史の研究論文や資料を読み、参加者で議論します。報告者には論点や疑問点をまとめてもらいます。期末レポートでは、自分の卒業論文に関連する本を書評します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 つくられる性差 第3回 近代国家建設とジェンダー 第4回 「帝国」とジェンダー編成 第5回 階級とジェンダー編成 第6回 教育と性差 第7回 「売春」をめぐる社会改革運動 第8回 政治文化とジェンダー（1） 第9回 政治文化とジェンダー（2） 第10回 異性愛／同性愛の誕生 第11回 アメリカ・ジェンダー史（1）近代家族の成立 第12回 アメリカ・ジェンダー史（2）「真の女らしさ」の登場 第13回 アメリカ・ジェンダー史（3）19世紀の女性同士の親密性 第14回 アメリカ・ジェンダー史（4）求婚のかたち 第15回 まとめ：卒論執筆にむけて			
テキスト	歴史学研究会編『性と権力関係の歴史』（青木書店）	参考文献	授業時に適宜紹介します。	
評価方法	授業への参加姿勢:50% 期末レポート:50%			

英米文学研究		通年（後期）	2年
アメリカ社会史をまなぶ（2）		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標及びテーマ	前期に引き続き、研究論文や一次資料の購読を通じて、資料の検索・収集方法、資料の読み方、議論の組み立て方など、論文作成に必要な技術を学びます。中間報告での議論を組み込んで、卒業論文を完成させます。		
授業の概要	前半はアメリカ・ジェンダー史の研究論文を読み、参加者で議論します。報告者には論点や疑問点をまとめてもらいます。中盤では、それぞれの卒論の中間報告を行います。後半はテキストの輪読を通じて歴史を研究する意味を考えつつ、卒論執筆に向けた個人面談を並行して行います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 アメリカ・ジェンダー史（5）家族史 第2回 アメリカ・ジェンダー史（6）性規範 第3回 アメリカ・ジェンダー史（7）離婚と女性の地位 第4回 アメリカ・ジェンダー史（8）離婚にみるジェンダー規範 第5回 卒論中間報告（1） 第6回 卒論中間報告（2） 第7回 卒論中間報告（3） 第8回 卒論中間報告（4） 第9回 卒論中間報告（5） 第10回 歴史を書く（1）真実の物語 第11回 歴史を書く（2）歴史研究の専門化 第12回 歴史を書く（3）資料とは何か？ 第13回 歴史を書く（4）物語をつくる 第14回 歴史を書く（5）心性の歴史 第15回 まとめ：歴史研究の意味		
テキスト	ジョン・H・アーノルド『歴史』（岩波書店）	参考文献	授業時に適宜紹介します。
評価方法	授業への参加姿勢:50% 卒業論文:50%		

英米文学研究		通年（前期）	8 単位	2年
異文化研究		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)		
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。			
授業の概要	大学での教育経験を活かして、関心を持ったものについてテーマ化することが大きく一歩を踏み出したことになると考えている。前期には、個々に関心を持ったものについて、テーマ化できたものを個々に報告してもらい、夏休みまでに卒論テーマを絞り込んでもらいたいと思う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 導入(前期ゼミの運営方針を提起) 第 2回 文化の正体 第 3回 自民族中心主義 第 4回 グローバリゼーション 第 5回 ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化 第 6回 マスメディアと現在社会 第 7回 固定観念を捨てること 第 8回 価値観と信念 第 9回 一体性と多様性 第10回 卒論テーマ発表と討論 1 第11回 卒論テーマ発表と討論 2 第12回 卒論テーマ発表と討論 3 第13回 卒論テーマ発表と討論 4 第14回 卒論テーマ発表と討論 5 第15回 まとめ、懇談			
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示	
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%			

英米文学研究		通年（後期）		2年
異文化研究		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)		
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。			
授業の概要	論文のテーマをさらに分析し、深化させて、卒業論文の作成が進むよう援助していきたいと考えている。お互い助け合い、情報交換に努めて欲しいと思う。卒論の完成に向け、卒論の中身について議論しあいたいと考えている。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 導入(後期のゼミ運営方針の提起) 第 2回 卒論概要発表 について 第 3回 概要発表と討論 1 第 4回 概要発表と討論 2 第 5回 概要発表と討論 3 第 6回 概要発表と討論 4 第 7回 概要発表と討論 5 第 8回 概要発表と討論 6 第 9回 卒論表現法の点検について 第10回 総論 1：句読点の使い方等 第11回 総論 2：引用等 第12回 構成 1：序論 第13回 構成 2：先行研究と自説 第14回 構成 3：資料盛り込みと結論 第15回 まとめ、懇談			
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示	
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%			

英米文学研究		通年（前期）	8 単位	2年
卒業論文作成に向けて		松村 伸一（まつむら しんいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文の作成方法について概要を知る。卒業論文のテーマを決める。関係する本を自主的に読み進める。卒業論文のためのメモを継続的に書き続ける。英語文献を読み解く語学力を磨く。夏休みに読むべき文献のリストを作る。			
授業の概要	卒業論文の作成に向けて、隔週でブックレポートを課す。また、並行して、19世紀末イギリスの文学作品（英文）および関連資料の輪読を進める。輪読の導入としてワイルドの入門的作品を用意するが、その後は学生の希望を考慮して素材を選択する予定。19世紀末イギリスの文学作品をメインとするが、美術・歴史・文化論など関連領域でのテーマ選択			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 <i>The Happy Prince</i> 講読1とブックレポート 第3回 <i>The Happy Prince</i> 講読2とブックレポート 第4回 <i>The Happy Prince</i> 講読3とブックレポート 第5回 選択文献1の講読とブックレポート 第6回 選択文献2の講読とブックレポート 第7回 選択文献3の講読とブックレポート 第8回 選択文献4の講読とブックレポート 第9回 選択文献5の講読とブックレポート 第10回 選択文献6の講読とブックレポート 第11回 選択文献7の講読とブックレポート 第12回 選択文献8の講読とブックレポート 第13回 選択文献9の講読とブックレポート 第14回 選択文献10の講読とブックレポート 第15回 まとめと夏休みの課題の確認			
テキスト	英文はプリントを用意する	参考文献	授業時に指示	
評価方法	平常の提出課題:70% 卒論中間レポート:30%			

英米文学研究		通年（後期）		2年
卒業論文の完成		松村 伸一（まつむら しんいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文を完成させる。			
授業の概要	卒業論文の作成に向けた個別指導では、隔週で論文メモを提出してもらう。また並行して、参加学生が選択した文学作品（英文）および関連資料の輪読を進める。19世紀末イギリスの文学作品をメインとするが、美術・歴史・文化論など関連領域でのテーマ選択も可。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 夏休みの課題についての発表 第2回 選択文献の講読および論文メモの提出 第3回 選択文献の講読および論文メモの提出 第4回 選択文献の講読および論文メモの提出 第5回 選択文献の講読および論文メモの提出 第6回 選択文献の講読および論文メモの提出 第7回 選択文献の講読および論文メモの提出 第8回 選択文献の講読および論文メモの提出 第9回 選択文献の講読および論文メモの提出 第10回 選択文献の講読および論文メモの提出 第11回 選択文献の講読および論文メモの提出 第12回 選択文献の講読および論文メモの提出 第13回 プレゼンテーションの準備（草稿作成） 第14回 プレゼンテーションの準備（仕上げ） 第15回 まとめ			
テキスト	選択文献はプリントとして配布する	参考文献	授業時に指示	
評価方法	平常点（課題提出）:15% 卒業論文:85%			

英語圏文学		通年（前期）	4 単位	2年
アイルランドについて学ぶ		舟橋 美香（ふなはし みか）		
授業の到達目標 及びテーマ	アイルランドの歴史、社会、文学と演劇を含む文化について、旅行ガイドの英文から、現代の短編小説や詩をふくむ、さまざまなジャンルの英語による文を読み、また、映画や上演された劇などの映像を見る事で理解を深める。			
授業の概要	アイルランドは長い歴史と豊かな文化をもつ国であり、近年経済的にも大きな発展を遂げたが、ここ数年は経済状況の悪化がニュースとなっている。アイルランドの作品を読むときに必要と思われるアイルランドの歴史的背景や社会について解説、講義し、文化を紹介し、講義の途中からは、実際に作品を読んだり観たりし、ディスカッションにつなげ			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction to Ireland: 地理と領土 第2回 アイルランドの基礎知識- 中世〜大飢饉〜現在&スポーツ 第3回 イースター蜂起から内乱までの映画（前半）対英戦争まで 第4回 映画（後半）条約と分割 & 北アイルランド問題 第5回 ジェイムス・ジョイスの短編を読む 第6回 アイルランドの現代詩を読む-1 泥炭とじゃがいも 第7回 アイルランド現代詩を読む-2 中世の聖人 第8回 詩のまとめ&アイルランド語 第9回 アラン諸島とシング&アイルランドの料理・伝統文化 第10回 アイルランド演劇を観る-1 幕の悲劇（英語上演） 第11回 アイルランド演劇を観る-笑いと風刺（英語上演） 第12回 アイルランド演劇を観る-笑いを再考 第13回 サミュエル・ベケットと不条理演劇から現代演劇 第14回 アイルランドの映画を英語字幕で見る 第15回 まとめ			
テキスト	上野格・アイルランド文化研究会編著『図説アイルランド』河出書房新社 配布プリント	参考文献	授業で随時指示する。	
評価方法	授業での姿勢と提出物:40% 期末レポート:60%			

英語圏文学		通年（後期）	2年
米国黒人女性文学を通じて、有色女性のエンパワーメント（自尊・自立）の方向性を考える		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
授業の到達目標 及びテーマ	①肌の色、貧富の差、性差などをめぐる二重三重の差別と抑圧に立ち向かう米国少数派女性文学の魅力を理解する。②強さを求めた白人中流女性のフェミニズムから、「弱さ」を怖れずに、それを「南」の女性たちと連帯するための契機に読み替える有色女性のフェミニズムへの展開を押さえ、マイノリティ文化の可能性へつなげて理解する。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・メールリポート講評 ・キーワード解説 ・テキスト読解と自由討議 		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 歴史という表象の政治学～『青い目がほしい』導入 第2回 同 pp. 15-88 第3回 同 pp. 91-138 第4回 同 pp. 141-194 第5回 同 pp. 195-240 第6回 同 pp. 241-304 第7回 小まとめ～中間レポート概要 第8回 『カラーパープル』導入 第9回 同 pp. 7-80 第10回 同 pp. 80-162 第11回 同 pp. 162-246 第12回 同 pp. 246-313 第13回 同 pp. 314-361 第14回 小まとめ～期末レポート概要 第15回 まとめ		
テキスト	トニ・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫 A・ウォーカー『カラーパープル』集英社文庫 他配布プリント	参考文献	随時紹介
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールリポート:20% 自由討議参加度:20%		

児童文学		通年（前期）	4 単位	2年
イギリス児童文学：現代のファンタジー		成瀬 俊一（なるせ しゅんいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	1) 1930年代以降のイギリス児童文学のファンタジーの特質を理解する。 2) 物語の読み方（登場人物・舞台・出来事のとりえ方）を習得する。			
授業の概要	1930年代～現代のイギリス児童文学のファンタジー作品の発展の軌跡を、代表的な作品を題材にたどりま。各作家・作品の背景、読み方のポイントに関する講義と作品原文の一部の講読をします。一部の作品に関しては小レポートの発表を履修者に求めます。各作品の映画版またはTV版を部分的に視聴します。			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション&講義「イギリス児童文学の誕生」 第2回 講義「ファンタジーの誕生と発展」 第3回 『不思議の国のアリス』（1865）講義 第4回 『お姫さまとゴブリンの物語』（1872）講義 第5回 『お姫さまとゴブリンの物語』（1872）レポート発表 第6回 『砂の妖精』（1902）講義 第7回 『ピーターラビットのおはなし』（1902）講義 第8回 『たのしい川べ』（1908）講義 第9回 『たのしい川べ』（1908）レポート発表 第10回 『ピーター・パン』（1911）講義 第11回 『ピーター・パン』（1911）レポート発表 第12回 『クマのプーさん』（1926）講義 第13回 『クマのプーさん』（1926）レポート発表 第14回 『風によってきたメアリー・ポピンズ』（1934）講義 第15回 まとめ			
テキスト	本多英明、桂宥子、小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房	参考文献	小レポート課題で用いる作品を地元の図書館で借りるか地元の書店で購入してください（原書・翻訳どちらでも可）。	
評価方法	小レポート:20% 期末試験:80%			

児童文学		通年（後期）	2年	
イギリス児童文学：現代のファンタジー		成瀬 俊一（なるせ しゅんいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	1) 1930年代以降のイギリス児童文学のファンタジーの特質を理解する。 2) 物語の読み方（登場人物・舞台・出来事のとりえ方）を習得する。			
授業の概要	1930年代～現代のイギリス児童文学のファンタジー作品の発展の軌跡を、代表的な作品を題材にたどりま。各作家・作品の背景、読み方のポイントに関する講義と作品原文の一部の講読をします。一部の作品に関しては小レポートの発表を履修者に求めます。各作品の映画版またはTV版を部分的に視聴します。			
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション&講義「ファンタジーの誕生と発展」 第2回 『ホビットの冒険』（1937）講義 第3回 『人形の家』（1947）講義 第4回 『人形の家』（1947）レポート発表 第5回 『ライオンと魔女』（1950）講義 第6回 『ライオンと魔女』（1950）レポート発表 第7回 『床下の小人たち』（1952）講義 第8回 『トムは真夜中の庭で』（1958）講義 第9回 『トムは真夜中の庭で』（1958）レポート発表 第10回 『くまのバディントン』（1958）講義 第11回 『チャーリーとチョコレート工場』（1964）講義 第12回 『風が吹くとき』（1982）講義 第13回 『ハリー・ポッターと賢者の石』（1997）講義 第14回 『ハリー・ポッターと賢者の石』（1997）レポート発表 第15回 まとめ			
テキスト	本多英明、桂宥子、小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房	参考文献	小レポート課題で用いる作品を地元の図書館で借りるか地元の書店で購入してください（原書・翻訳どちらでも可）。	
評価方法	小レポート:20% 期末試験:80%			

英文法		通年（前期）	4 単位	2年
文法理論：形態論		狩野 郁子（かのう いくこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	形態論に焦点を当て、講義を展開する。形態論を学習することで、語彙力の強化に繋がり、同時に母国語に関する知識をも深めてもらうこととなる。			
授業の概要	英語のmorphemesに関しての認識を深めた後、affixes, free/bound morphemes, derivational/inflectional morphemesを把握、判別しながら、形態論を習得していく。次に、word coinageと題して、新単語創造の過程を学習する。最後には、英語の形態論の概念を基に、世界の様々な言語においても同様の分析を行い、言語の普遍文法の一部を知ってもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction to Morphology 第2回 Classes of words: lexical content/function words 第3回 Morphemes in English: free/bound morphemes 第4回 Morphemes in English: prefix and suffix 第5回 Morphemes : derivational and inflectional morphemes 第6回 Review of morphemes 第7回 Quiz on morphemes 第8回 Word coinage: compounds and blends 第9回 Acronyms and back-formations 第10回 Other types of word coinage 第11回 Review of word coinage 第12回 Morphosyntax 第13回 Morphosyntax in other languages: Dutch and Russian 第14回 Morphosyntax in other languages: Zulu and Swahili 第15回 Wrap-up on morphology and morphosyntax			
テキスト	Hand-outs	参考文献	They will be introduced in class.	
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%			

英文法		通年（後期）	2年
文法理論：統語論		狩野 郁子（かのう いくこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の統語論を展開する。高校までの学校文法で学習してきたであろうtraditional grammarに関する知識を駆使しながら、transformational grammarを紹介し、知識を深めてもらう。		
授業の概要	まずは、phrase structure rulesを適用しtree diagramを作成していく方法を学ぶ。これにより、文章がphrasesの結合による立体構造をもつものであると認識してもらう。その後、日本語の文章構造との対照分析を行い、母語に関する知識も定着させていく。統語論の学習を通して、listening, speaking, reading, writingの4技能の向上を図る。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction to Syntax 第2回 Grammatical or ungrammatical? 第3回 Sentence structure: syntactic categories 第4回 Phrase structure trees 第5回 More phrase structure trees 第6回 The infinitude of language 第7回 Phrase structure rules 第8回 The relationship between phrase structure rules 第9回 Review of tree diagrams through a quiz 第10回 More phrase structure rules 第11回 Introduction to X-bar theory 第12回 The lexicon: subcategorization 第13回 Transformational rules 第14回 NP-movement and V-movement 第15回 WH-movement		
テキスト	Hand-outs	参考文献	English Syntax and Argumentation by Bas Aarts / Transformational Grammar by Andrew Radford
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

英文法		通年（後期）	4 単位	2年
日英語の構造		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では、日英語の語彙（形態）・文の仕組み（統語）・意味（意味）の「なぜ」を取り上げる。受講生自らがデータを分析することにより、「なぜ」に対して説明を与えられるようにするのが目標である。また、母語である日本語と英語を対照することにより、英語の仕組みの理解を深めることも目標である。			
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。			
授業計画	【後期】 第1回 Introduction 第2回 語の仕組み：拘束形態素・派生形態素 第3回 語の仕組み：転換・複合語・日本語複合動詞と英語表現 第4回 語の仕組み：逆形成・短縮・略語・頭文字語 第5回 文の仕組み：日本語の格助詞・英語の動詞と文型 第6回 文の仕組み：構造的曖昧性・構成素 第7回 文の仕組み：英語文の分析 第8回 生成文法概説・認知言語学概説 第9回 意味の仕組み：多様な意味・意味変化 第10回 意味の仕組み：多義語・同意語・反意語・上位語 第11回 意味の仕組み：メタファー・メトニミー 第12回 意味の仕組み：日英語語彙対照分析 第13回 意味の仕組み：英語冠詞分析 第14回 言語コミュニケーションと言語の特徴 第15回 まとめ			
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションで進め、適宜、資料を配布する。学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会. その他授業中に適宜紹介する。	
評価方法	期末試験:50% 授業貢献・課題:50%			

英語音声学		通年（前期）	4 単位	2年
英語音声学：子音		狩野 郁子（かのう いくこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	英語子音の分析を中心に講義を展開する。日本語音との対照考察・分析しながら、共通点、相違点を見だし、どうすれば適切な英語子音が生み出せるかを学習する。発音記号の習得、判別、認識は必須となる。			
授業の概要	毎回の講義で、学生による発音練習、実践を繰り返し、英語子音の習得を図る。また、一つ一つのphoneを習得した上で、音のつながりによって起こるphonesの変化を観察し、音韻論を導入した講義展開へと移行する。			
授業計画	【前期】 第1回 Introduction to Phonetics 第2回 Articulatory phonetics 第3回 Bilabial stops 第4回 Alveolar and velar stops 第5回 Labiodental fricatives 第6回 Interdental fricatives 第7回 Alveolar fricatives 第8回 Alveo-palatal and palatal fricatives 第9回 Liquids 第10回 Glides/semi-vowels 第11回 Review of consonants through exercises 第12回 Review of consonants through a quiz 第13回 Prosodic suprasegmental feature 第14回 Tone and intonation 第15回 Review			
テキスト	Sounds Right! Sounds Good!	参考文献	An Introduction to Language / A Linguistics Workshop	
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%			

英語音声学		通年（後期）	2年
英語音声学：母音		狩野 郁子（かのう いくこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語母音の分析を中心に講義を展開する。日本語音との対照考察・分析しながら、共通点、相違点を見だし、どうすれば適切な英語母音が生み出せるかを学習する。発音記号の習得、判別、認識は必須となる。		
授業の概要	毎回の講義で、学生による発音練習、実践を繰り返し、英語母音の習得を図る。また、一つ一つのphoneを習得した上で、音のつながりによって起こるphonesの変化を観察し、音韻論を導入した講義展開へと移行する。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction to Phonetics 第2回 Classification of vowels 第3回 High/front vowels 第4回 Mid/front vowels 第5回 Low/front and central vowels 第6回 Central vowels 第7回 High/back vowels 第8回 Mid/back vowels 第9回 Review of vowels through exercises 第10回 Review of vowels through a quiz 第11回 Introduction to Phonology 第12回 Classes of words 第13回 Rhythm and intonation 第14回 Assimilation 第15回 Review		
テキスト	Sounds Right! Sounds Good!	参考文献	An Introduction to Language / A Linguistics Workshop
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

言語学概論		通年（前期）	4 単位	2年
日英語の音		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では言語を科学的に研究する第一歩として、日英語の音声を取り上げ、受講生自身の口の動き、耳の働きをデータとして発音の仕組み・音韻構造の「なぜ」を明らかにしていく。毎回自身で課題と取り組むことにより、観察から仮説構築、そして仮説検証という一連の研究方法を習得する。加えて、英語の母音及び音変化の習得も目標とする。			
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。			
授業計画	【前期】 第1回 Introduction：音声器官・調音の仕組み 第2回 日本語の母音の発音 第3回 英語の母音の発音 第4回 日本語の連母音と英語の二重母音 第5回 開音節構造とモーラ 第6回 日本語の50音図：母音の歴史的変化と八行転呼 第7回 日本語の50音図：音変化（連濁・促音・撥音） 第8回 音素と異音 第9回 英語の開音節構造 第10回 音節と聞こえ度 第11回 英語の音変化：短縮・消失・連結 第12回 英語の音変化：脱落・同化・弱化 第13回 日本語のピッチアクセント 第14回 英語のストレスアクセント 第15回 まとめ			
テキスト	特定のテキストを用いず担当者によるプレゼンテーションで進める。発音記号の記載のある学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会	
評価方法	期末試験:50% 授業貢献・課題:50%			

言語学概論		通年（後期）	2年
日英語の構造		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では、日英語の語彙（形態）・文の仕組み（統語）・意味（意味）の「なぜ」を取り上げる。受講生自らがデータを分析することにより、「なぜ」に対して説明を与えられるようにするのが目標である。また、母語である日本語と英語を対照することにより、英語の仕組みの理解を深めることも目標である。		
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction 第2回 語の仕組み：拘束形態素・派生形態素 第3回 語の仕組み：転換・複合語・日本語複合動詞と英語表現 第4回 語の仕組み：逆形成・短縮・略語・頭文字語 第5回 文の仕組み：日本語の格助詞・英語の動詞と文型 第6回 文の仕組み：構造的曖昧性・構成素 第7回 文の仕組み：英語文の分析 第8回 生成文法概説：認知言語学概説 第9回 意味の仕組み：多様な意味・意味変化 第10回 意味の仕組み：多義語・同意語・反意語・上位語 第11回 意味の仕組み：メタファー・メトニミー 第12回 意味の仕組み：日英語語彙対照分析 第13回 意味の仕組み：英語冠詞分析 第14回 言語コミュニケーションと言語の特徴 第15回 まとめ		
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションで進め、適宜、資料を配布する。学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会. その他授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末試験:50% 授業貢献・課題:50%		

英語学概論		通年（前期）	4 単位	2年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子（みずさわ ゆみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていきながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。			
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。			
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 What is English linguistics? (英語学ってなんだろう?) 第3回 What is language? (ことばってなんだろう?) 第4回 History of English1 (様々な言語) 第5回 History of English2 (英語の歴史) 第6回 Phonetics and Phonology1 (発話のメカニズム) 第7回 Phonetics and Phonology2 (音の分類) 第8回 Phonetics and Phonology3 (イントネーションとリズム) 第9回 Morphology1 (語の特徴) 第10回 Morphology2 (語の形成) 第11回 Morphology3 (語の変化) 第12回 Syntax1 (句の構造) 第13回 Syntax2 (文の構造) 第14回 Syntax3 (情報の構造) 第15回 Review (まとめ)			
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内に随時指示します。	
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%			

英語学概論		通年（後期）	2年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子（みずさわ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていきながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。		
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。		
授業計画	【後期】 第1回 Semantics1（ことばの意味） 第2回 Semantics2（さまざまな意味関係） 第3回 Semantics3（メタファー） 第4回 Pragmatics1（談話のしくみ） 第5回 Pragmatics2（ことばと文脈） 第6回 Pragmatics3（発話行為） 第7回 Pragmatics4（ポライトネス） 第8回 Sociolinguistics1（ことばと社会） 第9回 Sociolinguistics2（ことばと文化） 第10回 Sociolinguistics3（ことばの違い） 第11回 Psycholinguistics1（心とことば） 第12回 Psycholinguistics2（ことばの習得） 第13回 Neurolinguistics（ことばと脳） 第14回 Other issues（ことばを取り巻く諸問題） 第15回 Review（まとめ）		
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内で随時指示します。
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%		

異文化間コミュニケーション		通年（前期）	4 単位	2年
異文化コミュニケーションの基本的理論を学ぼう		横溝 環（よこみぞ たまき）		
授業の到達目標 及びテーマ	・異文化間コミュニケーションの基本的理論を理解する。 ・自己および他者への気づきを高め、両者が相互に尊重し合えるような関係を築くことができるようになる。			
授業の概要	国籍はもとより、ジェンダー、年齢、ひいては個人的特性など、人と人との間に存在する様々な差異を「異文化」として捉え、ある特定の文化に関する知識を学ぶというよりも、文化的枠組みの異なる者同士の関わりに焦点をあてていく。講義とともに、それに関連したエクササイズを行い、さらにグループ討議、全体討議へとつなげていく。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／文化とは 第2回 コミュニケーションとは 第3回 自分とは 第4回 価値観と文化的特徴（1）： クラックホーンとストロッドベック 第5回 価値観と文化的特徴（2）：ホフステード 第6回 価値観と文化的特徴（3）：トロンベナルス 第7回 アイデンティティ 第8回 ステレオタイプと偏見 第9回 言語および非言語コミュニケーションの特徴および役割 第10回 言語コミュニケーション（1）：意味づけ、スタイル 第11回 言語コミュニケーション（2）：ポライトネス／準言語 第12回 非言語コミュニケーション（1）：表情、視線等 第13回 非言語コミュニケーション（2）：ジェスチャー 第14回 非言語コミュニケーション（3）：空間とテリトリー 第15回 グループディスカッション／まとめ			
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング（改訂版）』三修社 その他、授業時に適宜紹介する。	
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%			

異文化間コミュニケーション		通年（後期）	2年
諸問題を多面的に捉えた上で解決方法を考えてみよう		横溝 環（よこみぞ たまき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸問題を多方面から解釈できるようになる。 ・ 異文化に接した時の自らの感情および行動の癖に気づく。 ・ 相手を尊重しつつ、自分の考え、感情、権利が主張できるようになる。 		
授業の概要	異文化コミュニケーションに関する基本的理論を、映像、事例研究、ディスカッション（人数的に可能であればロールプレイ、シミュレーションゲーム）など異文化トレーニングの様々な手法を通して、具体的かつ総合的に捉えていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス／異文化トレーニング概要</p> <p>第2回 ディスカッションから学ぶ：コンセンサス</p> <p>第3回 映像『ガンホー』（1）：ステレオタイプ</p> <p>第4回 映像『ガンホー』（2）：アイデンティティ</p> <p>第5回 カルチャーショック、協調的問題解決</p> <p>第6回 異文化コミュニケーションスキル：アサーティブ、DIE法</p> <p>第7回 メディアの中の文化（1）：ステレオタイプと社会的現実</p> <p>第8回 メディアの中の文化（2）：記号化された人々</p> <p>第9回 正義とは？：ヒーローと悪役</p> <p>第10回 事例研究から学ぶ</p> <p>第11回 シミュレーションゲームから学ぶ</p> <p>第12回 映像『シャルウィダンス』（1）：ジェンダー他</p> <p>第13回 映像『シャルウィダンス』（2）：コンテクスト他</p> <p>第14回 文化心理学的視点から物事を捉えてみよう</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%		

異文化間コミュニケーション		通年（後期）	4 単位	2年
ヨーロッパ文化と日本文化		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>来日したヨーロッパ人の眼に映った日本文化を考察する。</p> <p>ヨーロッパ文化と日本文化の出会いの時代背景を理解する。</p> <p>現代文明と伝統的な日本文化・ヨーロッパ文化を比較する。</p>			
授業の概要	<p>時代背景や文化の背景を講義する。</p> <p>来日ヨーロッパ人の日本紀行・旅行記や手紙を直接読み、理解する。</p> <p>ほぼ毎回、講義を聴いて考えたことについてコメントを提出する。</p>			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ヨーロッパ文化と日本文化の比較について</p> <p>第2回 マルコ・ポーロと「東方見聞録」</p> <p>第3回 大航海時代～コロンブスとラス・カサス</p> <p>第4回 ロヨラとイエズス会</p> <p>第5回 フランシスコ・ザビエルと日本</p> <p>第6回 フロイスの「日欧文化比較」</p> <p>第7回 さまざまなイエズス会士と日本</p> <p>第8回 「南蛮文化」</p> <p>第9回 キリスト教と日人～キリシタン</p> <p>第10回 江戸時代とヨーロッパ～ケンベルの日本論</p> <p>第11回 ヅンペリーの日本旅行記</p> <p>第12回 新井白石と「世界」</p> <p>第13回 蘭学について</p> <p>第14回 シーボルトと日本</p> <p>第15回 幕末明治の来日欧米人の見た日本</p>			
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』	
評価方法	授業コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%			

英国史		通年（前期）	4 単位	2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——古代から近世まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	古代から近世にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。			
授業の概要	近世までのイギリス史を取り上げる。イギリスが島国国家として統一される16世紀までの歴史を概説したのち、16世紀以降の各時代に活躍した歴史上の女性に焦点を合わせながら、国教会体制の成立、連合王国の成立、科学革命、名誉革命、議会制度の形成、出版文化の繁栄などのイギリス史の流れをたどる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODククシヨン：イギリス史を学ぶ意味 第2回 概説：16世紀までのイギリス 第3回 エリザベス1世：英国国教会体制の確立 第4回 『エリザベス』：宗教対立の時代 第5回 メアリ・ステュワート：連合王国の成立過程 第6回 マーガレット・キャヴェンディッシュ：17世紀の科学革命 第7回 『ハリー・ポッター』から：錬金術・科学・ジェンダー 第8回 メアリ・アステル：18世紀の啓蒙と宗教 第9回 フィリス・ウィートリー：アメリカ独立と奴隷貿易 第10回 デヴォンシャー公爵夫人：議会政治の形成過程 第11回 『ある公爵夫人の生涯』：貴族の政治と文化 第12回 メアリ・ウルストンクラフト：革命とフェミニズム 第13回 ジェイン・オースティン：近代小説の成立過程 第14回 『いつか晴れた日に』：女性にとっての結婚 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。	
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%			

英国史		通年（後期）	2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——近代から現代まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近代から現代にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。		
授業の概要	イギリスの近現代史を取り上げる。19世紀から21世紀までの各時代を代表する女性の活躍に迫りながら、イギリスが大英帝国として世界各地に勢力を広げていく過程と、その時期の国内の政治、社会、文化の動き、さらに帝国支配終焉後のイギリスの独自の発展の過程を跡づける。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODククシヨン：19世紀以降のイギリス 第2回 ヴィクトリア女王：大英帝国の繁栄 第3回 シャーロット・ブロンテ：ヴィクトリア時代の道徳規範 第4回 『ジェイン・エア』：ガヴァネスとしての女性 第5回 フローレンス・ナイティンゲール：戦争と看護の専門化 第6回 アンナ・レオノーウエンス：大英帝国とその周縁 第7回 『アンナと王様』：オリエンタリズムと帝国主義 第8回 ミリセント・フォーセット：女性参政権運動の展開 第9回 ピアトリクス・ポター：工業化と自然保護 第10回 『ミス・ポター』：女性にとっての家庭 第11回 ヴァージニア・ウルフ：戦間期イギリス社会の変容 第12回 マーガレット・サッチャー：新自由主義の功罪 第13回 『マーガレット・サッチャー』：女性政治家の生き方 第14回 ヴィヴィアン・ウエストウッド：ファッションと文化創造 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%		

米国史		通年（前期）	4 単位	2年
女性の視点からみたアメリカ史—植民地期から再建期まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標及びテーマ	植民地時代から南北戦争後の再建期にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。			
授業の概要	植民地時代から再建期までのアメリカの歴史を扱う。まず、女性史という学問領域がどのように発達したのかを概観する。その後、植民地建設・奴隷制社会の生成・アメリカ革命・連邦共和国の成立・領土膨張・南北戦争などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 女性の目からアメリカ史を見る意味 第 2回 「新世界」の女性たち①先住民女性 第 3回 「新世界」の女性たち②南部植民地 第 4回 「新世界」の女性たち③ニューイングランド・中部植民地 第 5回 アメリカ革命 第 6回 革命の遺産 第 7回 共和国の成長と民主制の登場 第 8回 市場時代の家庭性：真の女性らしさ 第 9回 市場経済から産業革命へ：女性と賃金労働 第 10回 南部奴隷制社会と女性 第 11回 「明白な運命」と南北対立の激化 第 12回 南北戦争前の改革運動 第 13回 南北戦争 第 14回 南部再建とその遺産 第 15回 ギルディッド・エイジ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%			

米国史		通年（後期）		2年
女性の視点からみたアメリカ史—19世紀後半から現代まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標及びテーマ	南北戦争後から現代にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。			
授業の概要	南北戦争後から現代までのアメリカの歴史を扱う。産業社会の発展・革新主義改革・世界大戦・大恐慌・冷戦・公民権運動などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。最後に女性の視点から歴史を学ぶ意義を考える。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 西部併合とフロンティア 第 2回 工業化、労働者、新移民 第 3回 海外膨張—世界強国への歩み 第 4回 女性の労働と労働文化（1890年～1930年） 第 5回 革新主義時代の女性 第 6回 第一次世界大戦 第 7回 繁栄の1920年代 第 8回 大恐慌とニューディール 第 9回 第二次世界大戦中の女性 第 10回 冷戦と「フェミニン・ミスティーク」 第 11回 公民権運動の高揚 第 12回 ウーマンリブの時代 第 13回 ニューライトの台頭 第 14回 冷戦の終焉、グローバル化、テロリズム 第 15回 まとめ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%			

英国論		通年（前期）	4 単位	2年
イギリス社会の諸問題——階級、福祉国家、家族		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスにおける階級の成り立ちと構造、階級に根ざした文化のかたち、②イギリスにおける福祉国家体制の成立と解体、新自由主義の台頭とその葛藤、③イギリスにおける近代家族の成立と変容、現代の家族の多様化について理解を深める。			
授業の概要	「社会階級」「福祉国家」「家族と女性」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3回の授業と1回のディベートを行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 イギリス社会を生きる人びと 第3回 社会階級（1）階級社会イギリスの成り立ちと構造 第4回 社会階級（2）『マイ・フェア・レディ』 第5回 社会階級（3）階級にねざした文化のかたち 第6回 社会階級（4）ディベート・小レポート 第7回 福祉国家（1）福祉国家イギリスの変容 第8回 福祉国家（2）『ナビゲーター』 第9回 福祉国家（3）社会民主主義と新自由主義の相克 第10回 福祉国家（4）ディベート・小レポート 第11回 家族と女性（1）近代家族モデルの形成と変容 第12回 家族と女性（2）『Dear フランキー』 第13回 家族と女性（3）家族の多様化と女性の「自己決定」 第14回 家族と女性（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。	
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%			

英国論		通年（後期）		2年
イギリス社会の諸問題——帝国、植民地、多文化主義		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスによるインド支配の事例にみられる帝国支配の歴史の功罪、②北アイルランド紛争の事例にみられる植民地問題の解決の難しさとその可能性、③イギリスにおける移民社会の成り立ち、多文化共生にむけた模索過程について理解を深める。			
授業の概要	「帝国支配」「北アイルランド問題」「多文化主義」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3～4回の授業と1回のディベート（またはロールプレイング）を行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 帝国支配（1）大英帝国としてのイギリス 第3回 帝国支配（2）イギリスのインド支配 第4回 帝国支配（3）植民地支配の功罪とグローバリゼーション 第5回 帝国支配（4）ディベート・小レポート 第6回 北アイルランド問題（1）イギリスのアイルランド支配 第7回 北アイルランド問題（2）北アイルランド紛争の展開 第8回 北アイルランド問題（3）『ナッシング・パーソナル』 第9回 北アイルランド問題（4）ロールプレイング・小レポート 第10回 北アイルランド問題（5）和解にむけた取り組み 第11回 多文化主義（1）移民社会イギリスの成り立ちと構造 第12回 多文化主義（2）『ぼくの国、パパの国』 第13回 多文化主義（3）多文化共生の模索 第14回 多文化主義（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。	
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%			

米国論		通年（前期）	4 単位	2年
現代アメリカ社会を知る		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ合衆国の成り立ちや、現代アメリカ社会が直面する諸問題を理解する。アメリカに関する情報を理解し、議論できるようにする。また、アメリカ社会の経験と比較することで、私たちが生きる日本社会の特徴や問題を考える視点を身につける。			
授業の概要	多文化社会・政治・経済・外交という4つのテーマに分けて、現代アメリカ社会の特徴と諸問題を明らかにする。講義にくわえて、アメリカの社会問題に関する新聞・雑誌記事を読み、内容を理解して自分の考えをまとめてもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 多文化社会①人種とは何か？ 第3回 多文化社会②移民国家アメリカの生成 第4回 多文化社会③アメリカ先住民 第5回 多文化社会④ジェンダー、セクシュアリティ 第6回 多文化社会⑤宗教 第7回 多文化社会⑥国民統合のメカニズム 第8回 アメリカ政治①大統領 第9回 アメリカ政治②民主主義 第10回 アメリカ政治③保守／リベラル 第11回 アメリカ経済①経済政策と経済学 第12回 アメリカ経済②格差社会 第13回 アメリカ外交①「帝国」としてのアメリカ 第14回 アメリカ外交②日米関係 第15回 まとめ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%			

米国論		通年（後期）	2年
映画から見るアメリカ社会		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀初頭から現代にいたるまで、アメリカ映画のなかでアメリカの人種／エスニシティ・階級・ジェンダー・セクシュアリティがどのように描かれてきたかを理解する。また、映画の中のイメージと「現実の世界」がどのように関係しているのかを考える視点を身につける。		
授業の概要	最初の2回でアメリカ映画の歴史と文化理論を概観し、人種／エスニシティ、階級、ジェンダー、セクシュアリティの4つのテーマに沿って、アメリカ映画の中で多様性がどのように表象されてきたかをたどる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：アメリカ映画と日本 第2回 ハリウッド映画の歴史 第3回 人種・エスニシティ①映画の中の白人性 第4回 人種・エスニシティ②アフリカ系アメリカ人 第5回 人種・エスニシティ③アメリカ先住民 第6回 人種・エスニシティ④アジア系アメリカ人 第7回 人種・エスニシティ⑤ラティーノ 第8回 階級①初期の階級の表象 第9回 階級②大恐慌以降の階級表象 第10回 ジェンダー①女性らしさの表象 第11回 ジェンダー②見るということ 第12回 ジェンダー③男性らしさの表象 第13回 ジェンダー④1960年代以降のジェンダー表象 第14回 セクシュアリティ①異性愛／同性愛 第15回 セクシュアリティ②性的革命以降		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%		

比較文化		通年（前期）	4 単位	2年
自然と芸術		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	「自然と芸術」をめぐる思想を歴史的背景を考慮しつつ理解する。 「自然に学ぶ」ということの多様なあり方を考える。 ヨーロッパと中国・日本の芸術思想を比較する。			
授業の概要	講義を中心とする。講義を踏まえて、考えたことをコメントとして提出する。 「芸術と自然」に関する文章を読む。 画像やDVD、図書館の画集などを実際に見る。			
授業計画	【前期】 第1回 「自然と芸術」について 第2回 美術のはじまり～先史時代の美術 第3回 神話における自然と芸術 第4回 ギリシアの古代哲学における芸術と自然 第5回 キリスト教の自然観と芸術 第6回 中国の自然哲学と山水画 第7回 レオナルド・ダ・ヴィンチにおける自然と芸術 第8回 近世オランダにおける自然と芸術～DVD「オランダの光」 第9回 ロマン主義哲学と芸術 第10回 ロマン主義の絵画 第11回 ゴッホと日本 第12回 パウル・クレーにおける自然と芸術～クレーの日記 第13回 クレーにおける自然と芸術～作品 第14回 抽象絵画と自然 第15回 現代美術における自然			
テキスト	文章を配布する。 画像、DVDを教室で鑑賞する。	参考文献	図書館の蔵書のなかから紹介する。	
評価方法	コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%			

比較文化		通年（後期）	2年
ヨーロッパ文化と日本文化		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	来日したヨーロッパ人の眼に映った日本文化を考察する。 ヨーロッパ文化と日本文化の出会いの時代背景を理解する。 現代文明と伝統的な日本文化・ヨーロッパ文化を比較する。		
授業の概要	時代背景や文化の背景を講義する。 来日ヨーロッパ人の日本紀行・旅行記や手紙を直接読み、理解する。 ほぼ毎回、講義を聴いて考えたことについてコメントを提出する。		
授業計画	【後期】 第1回 ヨーロッパ文化と日本文化の比較について 第2回 マルコ・ポーロと「東方見聞録」 第3回 大航海時代～コロンブスとラス・カサス 第4回 ロヨラとイエズス会 第5回 フランシスコ・ザビエルと日本 第6回 フロイスの「日欧文化比較」 第7回 ささまざまなイエズス会士と日本 第8回 「南蛮文化」 第9回 キリスト教と日人～キリシタン 第10回 江戸時代とヨーロッパ～ケンペルの日本論 第11回 ヅェンペリーの日本旅行記 第12回 新井白石と「世界」 第13回 蘭学について 第14回 シーボルトと日本 第15回 幕末明治の来日欧米人の見た日本		
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』
評価方法	授業コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%		

人種問題		通年（後期）	4 単位	2年
米国黒人女性文学を通じて、有色女性のエンパワーメント（自尊・自立）の方向性を考える		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）		
授業の到達目標及びテーマ	①肌の色、貧富の差、性差などをめぐる二重三重の差別と抑圧に立ち向かう米国少数派女性文学の魅力を理解する。②強さを求めた白人中流女性のフェミニズムから、「弱さ」を怖れずに、それを「南」の女性たちと連帯するための契機に読み替える有色女性のフェミニズムへの展開を押さえ、マイノリティ文化の可能性へつなげて理解する。			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ メールリポート講評 ・ キーワード解説 ・ テキスト読解と自由討議 			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 歴史という表象の政治学～『青い目がほしい』導入</p> <p>第 2回 同 pp. 15-88</p> <p>第 3回 同 pp. 91-138</p> <p>第 4回 同 pp. 141-194</p> <p>第 5回 同 pp. 195-240</p> <p>第 6回 同 pp. 241-304</p> <p>第 7回 小まとめ～中間レポート概要</p> <p>第 8回 『カラーパープル』導入</p> <p>第 9回 同 pp. 7-80</p> <p>第10回 同 pp. 80-162</p> <p>第11回 同 pp. 162-246</p> <p>第12回 同 pp. 246-313</p> <p>第13回 同 pp. 314-361</p> <p>第14回 小まとめ～期末レポート概要</p> <p>第15回 まとめ</p>			
テキスト	トニ・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫 A・ウォーカー『カラーパープル』集英社文庫 他配布プリント	参考文献	随時紹介	
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールリポート:20% 自由討議参加度:20%			

英文講読 I		通年（前期）	2 単位	1年
英文読解の基礎		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標及びテーマ	英文の訳読を通して、英文読解の基礎力を身に付け、内容を正しく理解する力を高めることを授業の到達目標とします。			
授業の概要	英文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出しをして英文を正確に読み、内容を正しく理解する力を高めます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション+ガイダンス 第2回 Dates We Can't Forget: 9/11/2001 and 3/11/2011（前半） 第3回 Dates We Can't Forget: 9/11/2001 and 3/11/2011（後半） 第4回 Professor Donald Keene（前半） 第5回 Professor Donald Keene（後半） 第6回 The Cherry Blossoms of Washington DC（前半） 第7回 The Cherry Blossoms of Washington DC（後半） 第8回 The Pink Dog（前半） 第9回 The Pink Dog（後半） 第10回 The Miracle of Trees（前半） 第11回 The Miracle of Trees（後半） 第12回 Nothing New under the Sun（前半） 第13回 Nothing New under the Sun（後半） 第14回 Exporting the Mottainai Movement（前半） 第15回 前期確認テスト+前期のまとめ			
テキスト	「Enjoyable Reading II」Joan McConnell and Shuichi Takeda 著、成美堂	参考文献	授業時に指示します。	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英文講読 I		通年（後期）		1年
英文読解の基礎		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標及びテーマ	英文の訳読を通して、英文読解の基礎力を身に付け、内容を正しく理解する力を高めることを授業の到達目標とします。			
授業の概要	英文を意味の固まりで区切り、その区切りごとに逆戻りせずに音読と訳出しをして英文を正確に読み、内容を正しく理解する力を高めます。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Exporting the Mottainai Movement（後半） 第2回 The Spirit Bear（前半） 第3回 The Spirit Bear（後半） 第4回 Technology and Language（前半） 第5回 Technology and Language（後半） 第6回 The Philosophy of Steve Jobs（前半） 第7回 The Philosophy of Steve Jobs（後半） 第8回 A Little Boy's Act of Kindness（前半） 第9回 A Little Boy's Act of Kindness（後半） 第10回 The Dolphin with an Artificial Tail（前半） 第11回 The Dolphin with an Artificial Tail（後半） 第12回 Inspiration from Nadeshiko（前半） 第13回 Inspiration from Nadeshiko（後半） 第14回 Lessons from Japan 第15回 後期確認テスト+後期まとめ			
テキスト	「Enjoyable Reading II」Joan McConnell and Shuichi Takeda 著、成美堂	参考文献	授業時に指示します。	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英文講読Ⅱ		通年 2 単位	2年
英文読解力養成		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	標準レベルの現代英語で書かれた文章を、適宜辞書などを利用して自力で読み解くためのさまざまな技術を身につける。		
授業の概要	日本や米国に長く滞在した経験を持つイギリス人ジャーナリストが、外国人の目を意識しつつ、イギリス文化のさまざまな側面を紹介した英文を精読する。語彙や文法などに注意して訳読してもらおうが、ちょっとした言い回しの裏側にある文化的背景や独特なユーモアなど、細部に至るまでしっかり理解できるよう解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Preface 第3回 1. Class Spotting (1) 第4回 1. Class Spotting (2) 第5回 3. Understanding the Union Flag (1) 第6回 3. Understanding the Union Flag (2) 第7回 5. The Joys of British Cuisine (1) 第8回 5. The Joys of British Cuisine (2) 第9回 6. Our German (and French ...) Royals (1) 第10回 6. Our German (and French ...) Royals (2) 第11回 6. Our German (and French ...) Royals (3) 第12回 8. Expressive English (1) 第13回 8. Expressive English (2) 第14回 9. How to Become an ... "England Expert" (1) 第15回 9. How to Become an ... "England Expert" (2)	【後期】 第1回 10. "Great" Britons (1) 第2回 10. "Great" Britons (2) 第3回 10. "Great" Britons (3) 第4回 12. "Tea Revives the World" (1) 第5回 12. "Tea Revives the World" (2) 第6回 15. Selected Moments in British History (1) 第7回 15. Selected Moments in British History (2) 第8回 15. Selected Moments in British History (3) 第9回 15. Selected Moments in British History (4) 第10回 19. A Tentative Paean to England (1) 第11回 19. A Tentative Paean to England (2) 第12回 19. A Tentative Paean to England (3) 第13回 19. A Tentative Paean to England (4) 第14回 Afterword 第15回 まとめ	
テキスト	Colin Joyce, Let' s England: A Foreign Correspondent Comes Home. NHK出版、2011.	参考文献	
評価方法	平常点（訳読担当）:90% 小テスト:10%		

英文講読Ⅱ		通年（前期） 2 単位	2年
英文を楽しむ力を身につけるために		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の仕組みを基本から確認するとともに、応用力を増強する。		
授業の概要	さまざまな分野で活躍した魅力的な24人を取り上げた短いストーリーを読む。毎回語彙テストを授業冒頭に行い、ついで重要な文法項目を確認し、内容理解へと進む。各受講生とのコンタクトを大切にして「よく理解できるまで」をモットーにして授業を進めたい。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 1 Steve Jobs 第3回 2 The Beatles 第4回 3 Alexander the Great 第5回 4 Pele 第6回 5 Coco Chanel 第7回 6 Yuri Gagarin 第8回 Review of Units 1 through 6 第9回 7 Walt Disney 第10回 8 Toyoda Eiji 第11回 9 Albert Einstein 第12回 10 Audrey Hepburn 第13回 11 Albert Schweitzer 第14回 12 Archimedes 第15回 Review of Units 7 through 12		
テキスト	『世界を変えた24人』 染谷・Ferrasci・Murray著 三修社 2013年	参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常授業:40% 期末試験:60%		

英文講読Ⅱ		通年（後期）	2年
英文を楽しむ力を身につけるために		湯本 久美子（ゆもと くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の基本的仕組みを見直すとともに、応用力を増強する。		
授業の概要	さまざまな分野で活躍した魅力的な24人を取り上げた短いストーリーを読む。毎回語彙テストを授業冒頭に行い、ついで重要な文法項目を確認し、内容理解へと進む。各受講生とのコンタクトを大切にして「よく理解できるまで」をモットウにして授業を進めたい。		
授業計画	【後期】 第1回 13 The Wright Brothers 第2回 14 Wolfgang Amadeus Mozart 第3回 15 Pablo Picasso 第4回 16 William Shakespeare 第5回 17 Emperor Meiji 第6回 18 Frank Lloyd Wright 第7回 Review of Units 13 through 18 第8回 19 Confucius 第9回 20 Vasco da Gama 第10回 21 Mikhail Gorbachev 第11回 22 Socrates 第12回 23 Herbert von Karajan 第13回 24 Martin Luther King, Jr. 第14回 Review of Units 19 through 24 第15回 Review of Units 1 through 24		
テキスト	『世界を変えた24人』 染谷・Ferrasci・Murray著 三修社 2013年	参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常授業:40% 期末試験:60%		

英語表現法		通年（前期）	2 単位	1年
口語英作文演習と文法の基本確認		富士川 美紀（ふじかわ みき）		
授業の到達目標 及びテーマ	口語英作文演習を通じて実用的な英語を身につける事を目指します。			
授業の概要	大学生に身近なトピックを扱った英作文演習を通じて、実用的な英語を楽しく学び英作文の基礎力を身につけます。さらに「書く力」から「話す力」へと転化できるように訓練します。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 Asking for Repetition or Explanation 第3回 Natural Responses 第4回 Thanks and Apologies 第5回 Greetings and Farewells 第6回 Meeting People on the Campus 第7回 Making Appointments 第8回 Requests and Permission 第9回 Suggestions and Advice 第10回 Intentions and Wishes 第11回 Techniques for Carrying on a Conversation 第12回 College Life 第13回 Physical Appearance and Personality 第14回 Friends and Dating 第15回 前期確認テスト+前期のまとめ			
テキスト	「コミュニケーションのための口語英作文」（成美堂）、山口俊治・Timothy Minton 共著	参考文献	・すぐ使える英文ライティングのエッセンス（研究社）、小林兼之・Gary Hunt 共著	
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%			

英語表現法		通年（後期）	1年
口語英作文演習と文法の基本確認		富士川 美紀（ふじかわ みき）	
授業の到達目標 及びテーマ	口語英作文演習を通じて実用的な英語を身につける事を目指します。		
授業の概要	大学生に身近なトピックを扱った英作文演習を通じて、実用的な英語を楽しく学び英作文の基礎力を身につけます。さらに「書く力」から「話す力」へと転化できるように訓練します。		
授業計画	【後期】 第1回 Health and Sports 第2回 Eating, Drinking and Smoking 第3回 Speaking on the Phone 第4回 Giving Directions 第5回 Overseas Travel (1) 第6回 Overseas Travel (2) 第7回 Studying Abroad 第8回 文法の復習：動名詞、不定詞 第9回 文法の復習：完了形 第10回 文法の復習：分詞 第11回 文法の復習：関係詞 第12回 文法の復習：比較 第13回 文法の復習：仮定法 第14回 文法の復習：接続詞、その他 第15回 後期確認テスト+後期のまとめ		
テキスト	「コミュニケーションのための口語英作文」（成美堂）、山口俊治・Timothy Minton 共著	参考文献	・すぐ使える英文ライティングのエッセンス（研究社）、小林兼之・Gary Hunt 共著
評価方法	平常点:40% 前期・後期確認テスト:60%		

Introductory College English I	通年（前期） 2 単位	1年
Listening and Speaking	リムスコグ (RIMSKOG, Christa)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.</p> <p>【授業の概要】</p> <p>In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations <p>Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.</p> <p>Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.</p> <p>【授業計画】</p> <p>First Semester</p> <p>Week 1 Course Goals and Objectives</p> <p>Week 2 Unit 1: Talking about Introductions</p> <p>Week 3 Unit 2: Talking about Family</p> <p>Week 4 Unit 3: Talking about Movies</p> <p>Week 5 Unit 4: Talking about Directions</p> <p>Week 6 Preparing a three -minute Presentation; Prepare for Test 1</p> <p>Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>Week 8 Test Feedback; preparing a three-minute presentation</p> <p>Week 9 Three-minute presentation</p> <p>Week 10 Unit 5: Talking about Travel</p> <p>Week 11 Unit 6: Talking about Recipes</p> <p>Week 12 Unit 7: Talking about Health</p> <p>Week 13 Unit 8: Talking about Making a Speech</p> <p>Week 14 Test 2 Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>Week 15 How to Make a Speech - Preparing your three-minute Speech</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】</p> <p>Your grade for this course will be based on the following:</p> <p>Tests and 3-minute Speech 50% テストとスピーチの点数は、2回のテストと一回のスピーチ結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。</p> <p>Participation/Homework 20%</p> <p>Vocabulary Quizzes 15%</p> <p>Three-minute Presentation 15%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English I	通年（後期）	1年
Listening and Speaking	フィリップス（PHILLIPS, J.R.）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations <p>Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.</p> <p>Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Three-minute presentation 1 (Summer Vacation) Week 2 Unit 9: Talking about Music Week 3 Unit 10: Talking about Friends Week 4 Unit 11: Talking about Money and Jobs Week 5 Unit 12: Talking about Superstitions Week 6 Preparing a three-minute presentation; Preparing for Test 1 Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion Week 8 Three-minute presentation 2 on Units 9-12 Week 9 Speech Contest Week 10 TOEIC - IP Week 11 Unit 13: Talking about Sports Week 12 Unit 14: Talking about the News Week 13 Unit 15: Talking about Fashion Week 14 Unit 16: Talking about the Past and Future Week 15 Test 2: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 50% テストとFinal Presentationの点数は、2回のテストと一回のグループプレゼンテーション結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Participation/Homework 20% Vocabulary Quizzes 15% Three-minute Presentations 15%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II	通年（前期） 2 単位	1年
Writing	リムスコグ (RIMSKOG, Christa) テラダ (TERADA, Betsy)	
<p data-bbox="107 214 371 237">【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p data-bbox="97 262 1146 285">By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p data-bbox="107 311 230 334">【授業の概要】</p> <p data-bbox="97 336 889 359">In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol data-bbox="97 384 710 548" style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p data-bbox="97 573 1252 643">Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p data-bbox="107 693 209 716">【授業計画】</p> <p data-bbox="97 718 842 741">Week 1 Teacher and Course Introduction: Introduction to Paragraph writing</p> <p data-bbox="97 743 403 767">Week 2 3 Parts of a Paragraph</p> <p data-bbox="97 768 371 792">Week 3 Kinds of Paragraphs</p> <p data-bbox="97 794 570 817">Week 4 Writing an Outline/concluding sentences</p> <p data-bbox="97 819 701 842">Week 5 From Outline to Paragraph - Paragraph 1 - Time order</p> <p data-bbox="97 844 731 867">Week 6 Test 1: Outlines; Booklet: Time Order - Error Paragraph</p> <p data-bbox="97 869 731 892">Week 7 Test Feedback; Paragraph Unity and Concluding Sentences</p> <p data-bbox="97 894 721 917">Week 8 Simple and Compound Sentences; Coordinate Conjunctions</p> <p data-bbox="97 919 581 942">Week 9 Introduction to Listing Order Paragraphs</p> <p data-bbox="97 944 810 967">Week 10 Listing Order Paragraph - Process; Writing Concluding sentences</p> <p data-bbox="97 969 831 993">Week 11 Test 2: Time Order Paragraphs; Booklet: Process - Error Paragraph</p> <p data-bbox="97 994 879 1018">Week 12 Test Feedback; Listing Order Paragraph - Comparison; Transition Signals</p> <p data-bbox="97 1020 721 1043">Week 13 Listing Order Paragraph - Contrast; Transition Signals</p> <p data-bbox="97 1045 841 1068">Week 14 Listing Order Paragraph- Process Paragraphs and Sentence Structure</p> <p data-bbox="97 1070 670 1093">Week 15 Preparation for Test 3: Listing Order Paragraphs</p> <p data-bbox="107 1103 209 1126">【テキスト】</p> <p data-bbox="97 1128 172 1151">Booklet</p> <p data-bbox="97 1153 511 1176">First Steps in Academic Writing-Level Two</p> <p data-bbox="107 1199 209 1222">【参考文献】</p> <p data-bbox="97 1224 141 1248">なし</p> <p data-bbox="107 1271 209 1294">【評価方法】</p> <p data-bbox="97 1296 680 1319">Your grade for this course will be based on the following:</p> <p data-bbox="97 1321 989 1344">Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。</p> <p data-bbox="97 1346 351 1369">Paragraph Assignments 40%</p> <p data-bbox="97 1371 460 1394">Homework and Class Participation 20%</p> <p data-bbox="97 1418 1260 1487">授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II	通年（後期）	1年
Writing	フィリップス（PHILLIPS, J. R.） ピンター（PINTER, B.）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p>Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Describing the world around you: Space Order Week 2 Space Order Week 3 Paragraph Writing; Introduction to Reasons and Examples Week 4 Test 1: Space Order Paragraphs; Classwork - Error Paragra Week 5 Test Feedback; Complex Sentences Week 6 Facts and Opinions - Transition Signals Week 7 Supporting your opinion with evidence and examples Week 8 Writing an Opinion Paragraph with Supporting Evidence Week 9 In Class Writing: Supporting your reasons and Paraphrasing Week 10 Test 2: Opinion Paragraphs; Classwork - Opinion Paragraph Week 11 Test Feedback; Introduction to Summarizing - Avoiding Plagiarism - Paraphrasing Week 12 Identifying Main Points Week 13 Writing a Reaction Week 14 Supporting your reaction with examples Week 15 Reaction and Opinion; Prepare for Test 3</p> <p>【テキスト】 Booklet First Steps in Academic Writing-Level Two</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Paragraph Assignments 40% Homework and Class Participation 20%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Intermediate College English	通年（前期）	2 単位	2年
Intermediate College English IB			
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (前期)</p> 第 1回 Introduction to the Course 第 2回 Environmental Issues 1: Our Planet 第 3回 Environmental Issues 2: Minamata 第 4回 Environmental Issues 3: Water 第 5回 Environmental Issues 4: Fast Food 第 6回 Environmental Issues- Development and Hunger 第 7回 Reviewing Environmental Issues 第 8回 Presentation 1 第 9回 Test 1 第10回 Moral Issues 1: A Moral World: Gender 第11回 Moral Issues 2: Parasite Singles 第12回 Moral Issues 3: Charity 第13回 Moral Issues 4: AIDS 第14回 Reviewing Moral Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2 <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>			

Intermediate College English	通年（後期）	2年
Intermediate College English IIB		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイェヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (後期) 第1回 Introduction to the Course 第2回 Health Issues 1: The Meaning of Health 第3回 Health Issues 2: Smoking 第4回 Health Issues 3: Organ Transplants 第5回 Health Issues 4: Cloning 第6回 Health Issues- My Life-My Body 第7回 Reviewing Health Issues 第8回 Presentation 1 第9回 Test 1 第10回 TOEIC 第11回 World Issues 1: Free Trade 第12回 World Issues 2: Fair Trade 第13回 World Issues 3: Rich and Poor 第14回 Reviewing World Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2 :15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>		

英語学概論		通年（前期）	4 単位	1年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子（みずさわ ゆみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。			
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 Introduction 第 2回 What is English linguistics? (英語学ってなんだろう?) 第 3回 What is language? (ことばってなんだろう?) 第 4回 History of English1 (様々な言語) 第 5回 History of English2 (英語の歴史) 第 6回 Phonetics and Phonology1 (発話のメカニズム) 第 7回 Phonetics and Phonology2 (音の分類) 第 8回 Phonetics and Phonology3 (イントネーションとリズム) 第 9回 Morphology1 (語の特徴) 第10回 Morphology2 (語の形成) 第11回 Morphology3 (語の変化) 第12回 Syntax1 (句の構造) 第13回 Syntax2 (文の構造) 第14回 Syntax3 (情報の構造) 第15回 Review (まとめ)			
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内に随時指示します。	
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%			

英語学概論		通年（後期）		1年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子（みずさわ ゆみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。			
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 Semantics1 (ことばの意味) 第 2回 Semantics2 (さまざまな意味関係) 第 3回 Semantics3 (メタファー) 第 4回 Pragmatics1 (談話のしくみ) 第 5回 Pragmatics2 (ことばと文脈) 第 6回 Pragmatics3 (発話行為) 第 7回 Pragmatics4 (ポライトネス) 第 8回 Sociolinguistics1 (ことばと社会) 第 9回 Sociolinguistics2 (ことばと文化) 第10回 Sociolinguistics3 (ことばの違い) 第11回 Psycholinguistics1 (心とことば) 第12回 Psycholinguistics2 (ことばの習得) 第13回 Neurolinguistics (ことばと脳) 第14回 Other issues (ことばを取り巻く諸問題) 第15回 Review (まとめ)			
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内で随時指示します。	
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%			

英国史		通年（前期）	4 単位	1年
イギリスの歴史をつくった女性たち——古代から近世まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	古代から近世にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。			
授業の概要	近世までのイギリス史を取り上げる。イギリスが島国国家として統一される16世紀までの歴史を概説したのち、16世紀以降の各時代に活躍した歴史上の女性に焦点を合わせながら、国教会体制の成立、連合王国の成立、科学革命、名誉革命、議会制度の形成、出版文化の繁栄などのイギリス史の流れをたどる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODククション：イギリス史を学ぶ意味 第2回 概説：16世紀までのイギリス 第3回 エリザベス1世：英国国教会体制の確立 第4回 『エリザベス』：宗教対立の時代 第5回 メアリ・ステュワート：連合王国の成立過程 第6回 マーガレット・キャヴェンディッシュ：17世紀の科学革命 第7回 『ハリー・ポッター』から：錬金術・科学・ジェンダー 第8回 メアリ・アステル：18世紀の啓蒙と宗教 第9回 フィリス・ウィートリー：アメリカ独立と奴隷貿易 第10回 デヴォンシャー公爵夫人：議会政治の形成過程 第11回 『ある公爵夫人の生涯』：貴族の政治と文化 第12回 メアリ・ウルストンクラフト：革命とフェミニズム 第13回 ジェイン・オースティン：近代小説の成立過程 第14回 『いつか晴れた日に』：女性にとっての結婚 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。	
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%			

英国史		通年（後期）		1年
イギリスの歴史をつくった女性たち——近代から現代まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	近代から現代にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。			
授業の概要	イギリスの近現代史を取り上げる。19世紀から21世紀までの各時代を代表する女性の活躍に迫りながら、イギリスが大英帝国として世界各地に勢力を広げていく過程と、その時期の国内の政治、社会、文化の動き、さらに帝国支配終焉後のイギリスの独自の発展の過程を跡づける。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODククション：19世紀以降のイギリス 第2回 ヴィクトリア女王：大英帝国の繁栄 第3回 シャーロット・ブロンテ：ヴィクトリア時代の道徳規範 第4回 『ジェイン・エア』：ガヴァネスとしての女性 第5回 フローレンス・ナイティンゲール：戦争と看護の専門化 第6回 アンナ・レオノーウエンス：大英帝国とその周縁 第7回 『アンナと王様』：オリエンタリズムと帝国主義 第8回 ミリセント・フォーセット：女性参政権運動の展開 第9回 ピアトリクス・ポター：工業化と自然保護 第10回 『ミス・ポター』：女性にとっての家庭 第11回 ヴァージニア・ウルフ：戦間期イギリス社会の変容 第12回 マーガレット・サッチャー：新自由主義の功罪 第13回 『マーガレット・サッチャー』：女性政治家の生き方 第14回 ヴィヴィアン・ウエストウッド：ファッションと文化創造 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。	
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%			

米国史		通年（前期）	4 単位	1年
女性の視点からみたアメリカ史—植民地期から再建期まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標及びテーマ	植民地時代から南北戦争後の再建期にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。			
授業の概要	植民地時代から再建期までのアメリカの歴史を扱う。まず、女性史という学問領域がどのように発達したのかを概観する。その後、植民地建設・奴隷制社会の生成・アメリカ革命・連邦共和国の成立・領土膨張・南北戦争などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 女性の目からアメリカ史を見る意味 第 2回 「新世界」の女性たち①先住民女性 第 3回 「新世界」の女性たち②南部植民地 第 4回 「新世界」の女性たち③ニューイングランド・中部植民地 第 5回 アメリカ革命 第 6回 革命の遺産 第 7回 共和国の成長と民主制の登場 第 8回 市場時代の家庭性：真の女性らしさ 第 9回 市場経済から産業革命へ：女性と賃金労働 第 10回 南部奴隷制社会と女性 第 11回 「明白な運命」と南北対立の激化 第 12回 南北戦争前の改革運動 第 13回 南北戦争 第 14回 南部再建とその遺産 第 15回 ギルディッド・エイジ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%			

米国史		通年（後期）		1年
女性の視点からみたアメリカ史—19世紀後半から現代まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標及びテーマ	南北戦争後から現代にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。			
授業の概要	南北戦争後から現代までのアメリカの歴史を扱う。産業社会の発展・革新主義改革・世界大戦・大恐慌・冷戦・公民権運動などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。最後に女性の視点から歴史を学ぶ意義を考える。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 西部併合とフロンティア 第 2回 工業化、労働者、新移民 第 3回 海外膨張—世界強国への歩み 第 4回 女性の労働と労働文化（1890年～1930年） 第 5回 革新主義時代の女性 第 6回 第一次世界大戦 第 7回 繁栄の1920年代 第 8回 大恐慌とニューディール 第 9回 第二次世界大戦中の女性 第 10回 冷戦と「フェミニン・ミスティーク」 第 11回 公民権運動の高揚 第 12回 ウーマンリブの時代 第 13回 ニューライトの台頭 第 14回 冷戦の終焉、グローバル化、テロリズム 第 15回 まとめ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%			

英米文化研究		通年（前期）	8 単位	2年
異文化研究		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）		
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。			
授業の概要	大学での教育経験を活かして、関心を持ったものについてテーマ化することが大きく一歩を踏み出したことになると考えている。前期には、個々に関心を持ったものについて、テーマ化できたものを個々に報告してもらい、夏休みまでに卒論テーマを絞り込んでもらいたいと思う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入(前期ゼミの運営方針を提起) 第2回 文化の正体 第3回 自民族中心主義 第4回 グローバリゼーション 第5回 ハイコンテキスト文化とローコンテキスト文化 第6回 マスメディアと現在社会 第7回 固定観念を捨てること 第8回 価値観と信念 第9回 一体性と多様性 第10回 卒論テーマ発表と討論1 第11回 卒論テーマ発表と討論2 第12回 卒論テーマ発表と討論3 第13回 卒論テーマ発表と討論4 第14回 卒論テーマ発表と討論5 第15回 まとめ、懇談			
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示	
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%			

英米文化研究		通年（後期）		2年
異文化研究		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）		
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。			
授業の概要	論文のテーマをさらに分析し、深化させて、卒業論文の作成が進むよう援助していきたいと考えている。お互い助け合い、情報交換に努めて欲しいと思う。卒論の完成に向け、卒論の中身について議論しあいたいと考えている。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入(後期のゼミ運営方針の提起) 第2回 卒論概要発表 について 第3回 概要発表と討論1 第4回 概要発表と討論2 第5回 概要発表と討論3 第6回 概要発表と討論4 第7回 概要発表と討論5 第8回 概要発表と討論6 第9回 卒論表現法の点検について 第10回 総論1：句読点の使い方等 第11回 総論2：引用等 第12回 構成1：序論 第13回 構成2：先行研究と自説 第14回 構成3：資料盛り込みと結論 第15回 まとめ、懇談			
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示	
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%			

英米文化研究		通年（前期）	8 単位	2年
The History of Canada		フィリップス (PHILLIPS, J. R.)		
授業の到達目標 及びテーマ	This course will provide an overview of the history and culture of Canada. Emphasis will be placed on the way in which Canadian history and culture has evolved in a way distinct from that of the United States, resulting in superficially similar but deeply different societies.			
授業の概要	Each week, there will be a reading assignment set for homework. In class there will be one period consisting of a lecture and/or presentation followed by discussion in the second period. The lecture and discussion will be based on the reading assignment.			
授業計画	【前期】 第 1回 Introduction to the Course 第 2回 Thinking about History 第 3回 The Crossing 第 4回 First Nations 第 5回 When World' s Collide - First Contact 第 6回 The Rise of New France 第 7回 The Fall of New France 第 8回 The Failed Republic 第 9回 The Roads to Confederation 第10回 Western Expansion 第11回 World War 1 第12回 Depression 第13回 World War II 第14回 Constitution and Nationalism 第15回 Student Presentations			
テキスト	Handouts	参考文献	References will be provided	
評価方法	Tests:25% Presentation:25% Written Research Project:50%			

英米文化研究		通年（後期）		2年
The Culture of Canada		フィリップス (PHILLIPS, J. R.)		
授業の到達目標 及びテーマ	This course will provide an overview of the culture of Canada. Emphasis will be placed on the way in which Canadian culture has evolved in a way distinct from that of the United States, resulting in superficially similar but deeply different societies.			
授業の概要	Each week, there will be a reading assignment set for homework. In class there will be one period consisting of a lecture and/or presentation followed by discussion in the second period. The lecture and discussion will be based on the reading assignment.			
授業計画	【後期】 第 1回 Thinking about Culture 第 2回 Canadian Culture - US culture: 第 3回 Immigration and Multiculturalism 第 4回 The Japanese in Canada 1 第 5回 The Japanese in Canada 2 第 6回 Literature, the Arts and Music 第 7回 Sports and Leisure 第 8回 The Environment 1 第 9回 The Environment 2 第10回 Canada' s and the World 第11回 Peacekeeping 第12回 Canada' s Economy 第13回 Work, Health and Welfare 第14回 The Future of Canada 第15回 Student Presentations			
テキスト	Handouts	参考文献	References will be provided	
評価方法	Test:25% Presentation:25% Written Research Project:50%			

英米文化研究		通年（前期）	8 単位	2年
日英語語用論		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	ことばは私たちの考え・捉え方に形を与え、そして人と人との結びつきを作り上げてくれます。本講座では、「あることばが使われるとき、それはどのような捉え方が反映されているのだろうか」という角度から、様々な言語事象を日本語と英語を比較しながら考え、「ことば」のおもしろさを一緒に楽しんできたいと思います。			
授業の概要	本講座ではことばの意味を話し手と聞き手がいる使用場面で考えていきます。担当者の講義と受講生の議論によって様々な「なぜ」を解き明かしていきます。			
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 人称代名詞：あなた・わたし・彼・彼女・私達 第3回 人称代名詞：You・I・He・She・We 第4回 人称代名詞：歴史的変化 第5回 指示詞：これ・それ・あれ 第6回 指示詞・冠詞・代名詞：This・That・A・The・It 第7回 情報構造：That・It 第8回 卒業論文ガイダンス 第9回 ポライトネス（発話の力と丁寧さ）：日本語の敬語 第10回 ブラウン・レビンソンによるポジティブポライトネス 第11回 ブラウン・レビンソンによるネガティブポライトネス 第12回 リーチによるポライトネス 第13回 Fashion of Speech：サビア・ウォーフの仮説 第14回 Fashion of Speech：するべき英語・なるべき英語 第15回 まとめ			
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者のプレゼンテーション・資料配布で進める。英語辞書とA4サイズのバインダーを持参のこと。	参考文献	授業中に適宜紹介する。	
評価方法	議論・課題：70% 卒業論文準備：30%			

英米文化研究		通年（後期）		2年
日英語意味論		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	ことばは私たちの考え・捉え方に形を与え、そして人と人との結びつきを作り上げてくれます。本講座では、「あることばが使われるとき、それはどのような捉え方が反映されているのだろうか」という角度から、様々な言語事象を日本語と英語を比較しながら考え、「ことば」のおもしろさを一緒に楽しんできたいと思います。			
授業の概要	本講座では「意味論」と呼ばれる範疇でのさまざまな日英語の意味を分析していきます。担当者の講義と受講生の議論で進めます。			
授業計画	【後期】 第1回 卒業論文テーマ発表（予定） 第2回 Introduction 第3回 進行相 V-ing・テイル 第4回 英語進行相：ペンドラーによる動詞分析 第5回 日本語進行相：金田一による動詞分析 第6回 移動動詞：移動を構成する要素と言語化 第7回 移動動詞：イベントの統合 第8回 移動動詞：主観的移動表現 第9回 受動態：英語受動態の機能 第10回 受動態：英語受動態の歴史 第11回 受動態：日本語受動態（直接受け身） 第12回 受動態：日本語受動態（間接受け身） 第13回 受動態：日本語受動態の歴史 第14回 まとめ 第15回 卒業論文発表（予定）			
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションで進める。英語辞書・A4サイズのバインダーを持参のこと。	参考文献	授業中に適宜紹介する。	
評価方法	議論課題：50% 卒業論文：50%			

イギリスの文化と社会		通年（前期）	4 単位	2年
イギリス社会の諸問題——階級、福祉国家、家族		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスにおける階級の成り立ちと構造、階級に根ざした文化のかたち、②イギリスにおける福祉国家体制の成立と解体、新自由主義の台頭とその葛藤、③イギリスにおける近代家族の成立と変容、現代の家族の多様化について理解を深める。			
授業の概要	「社会階級」「福祉国家」「家族と女性」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3回の授業と1回のディベートを行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 イギリス社会を生きる人びと 第3回 社会階級（1）階級社会イギリスの成り立ちと構造 第4回 社会階級（2）『マイ・フェア・レディ』 第5回 社会階級（3）階級にねざした文化のかたち 第6回 社会階級（4）ディベート・小レポート 第7回 福祉国家（1）福祉国家イギリスの変容 第8回 福祉国家（2）『ナビゲーター』 第9回 福祉国家（3）社会民主主義と新自由主義の相克 第10回 福祉国家（4）ディベート・小レポート 第11回 家族と女性（1）近代家族モデルの形成と変容 第12回 家族と女性（2）『Dear フランキー』 第13回 家族と女性（3）家族の多様化と女性の「自己決定」 第14回 家族と女性（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。	
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%			

イギリスの文化と社会		通年（後期）		2年
イギリス社会の諸問題——帝国、植民地、多文化主義		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスによるインド支配の事例にみられる帝国支配の歴史の功罪、②北アイルランド紛争の事例にみられる植民地問題の解決の難しさとその可能性、③イギリスにおける移民社会の成り立ち、多文化共生にむけた模索過程について理解を深める。			
授業の概要	「帝国支配」「北アイルランド問題」「多文化主義」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3～4回の授業と1回のディベート（またはロールプレイング）を行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 帝国支配（1）大英帝国としてのイギリス 第3回 帝国支配（2）イギリスのインド支配 第4回 帝国支配（3）植民地支配の功罪とグローバリゼーション 第5回 帝国支配（4）ディベート・小レポート 第6回 北アイルランド問題（1）イギリスのアイルランド支配 第7回 北アイルランド問題（2）北アイルランド紛争の展開 第8回 北アイルランド問題（3）『ナッシング・パーソナル』 第9回 北アイルランド問題（4）ロールプレイング・小レポート 第10回 北アイルランド問題（5）和解にむけた取り組み 第11回 多文化主義（1）移民社会イギリスの成り立ちと構造 第12回 多文化主義（2）『ぼくの国、パパの国』 第13回 多文化主義（3）多文化共生の模索 第14回 多文化主義（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。	
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%			

アメリカの文化と社会		通年（前期）	4 単位	2年
現代アメリカ社会を知る		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ合衆国の成り立ちや、現代アメリカ社会が直面する諸問題を理解する。アメリカに関する情報を理解し、議論できるようにする。また、アメリカ社会の経験と比較することで、私たちが生きる日本社会の特徴や問題を考える視点を身につける。			
授業の概要	多文化社会・政治・経済・外交という4つのテーマに分けて、現代アメリカ社会の特徴と諸問題を明らかにする。講義にくわえて、アメリカの社会問題に関する新聞・雑誌記事を読み、内容を理解して自分の考えをまとめてもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 多文化社会①人種とは何か？ 第3回 多文化社会②移民国家アメリカの生成 第4回 多文化社会③アメリカ先住民 第5回 多文化社会④ジェンダー、セクシュアリティ 第6回 多文化社会⑤宗教 第7回 多文化社会⑥国民統合のメカニズム 第8回 アメリカ政治①大統領 第9回 アメリカ政治②民主主義 第10回 アメリカ政治③保守／リベラル 第11回 アメリカ経済①経済政策と経済学 第12回 アメリカ経済②格差社会 第13回 アメリカ外交①「帝国」としてのアメリカ 第14回 アメリカ外交②日米関係 第15回 まとめ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%			

アメリカの文化と社会		通年（後期）	2年	
映画から見るアメリカ社会		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀初頭から現代にいたるまで、アメリカ映画のなかでアメリカの人種／エスニシティ・階級・ジェンダー・セクシュアリティがどのように描かれてきたかを理解する。また、映画の中のイメージと「現実の世界」がどのように関係しているのかを考える視点を身につける。			
授業の概要	最初の2回でアメリカ映画の歴史と文化理論を概観し、人種／エスニシティ、階級、ジェンダー、セクシュアリティの4つのテーマに沿って、アメリカ映画の中で多様性がどのように表象されてきたかをたどる。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イン트로ダクション：アメリカ映画と日本 第2回 ハリウッド映画の歴史 第3回 人種・エスニシティ①映画の中の白人性 第4回 人種・エスニシティ②アフリカ系アメリカ人 第5回 人種・エスニシティ③アメリカ先住民 第6回 人種・エスニシティ④アジア系アメリカ人 第7回 人種・エスニシティ⑤ラティノー 第8回 階級①初期の階級の表象 第9回 階級②大恐慌以降の階級表象 第10回 ジェンダー①女性らしさの表象 第11回 ジェンダー②見るということ 第12回 ジェンダー③男性らしさの表象 第13回 ジェンダー④1960年代以降のジェンダー表象 第14回 セクシュアリティ①異性愛／同性愛 第15回 セクシュアリティ②性的革命以降			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%			

比較文化		通年（前期）	4 単位	2年
自然と芸術		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	「自然と芸術」をめぐる思想を歴史的背景を考慮しつつ理解する。 「自然に学ぶ」ということの多様なあり方を考える。 ヨーロッパと中国・日本の芸術思想を比較する。			
授業の概要	講義を中心とする。講義を踏まえて、考えたことをコメントとして提出する。 「芸術と自然」に関する文章を読む。 画像やDVD、図書館の画集などを実際に見る。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 「自然と芸術」について 第2回 美術のはじまり～先史時代の美術 第3回 神話における自然と芸術 第4回 ギリシアの古代哲学における芸術と自然 第5回 キリスト教の自然観と芸術 第6回 中国の自然哲学と山水画 第7回 レオナルド・ダ・ヴィンチにおける自然と芸術 第8回 近世オランダにおける自然と芸術～DVD「オランダの光」 第9回 ロマン主義哲学と芸術 第10回 ロマン主義の絵画 第11回 ゴッホと日本 第12回 パウル・クレーにおける自然と芸術～クレーの日記 第13回 クレーにおける自然と芸術～作品 第14回 抽象絵画と自然 第15回 現代美術における自然			
テキスト	文章を配布する。 画像、DVDを教室で鑑賞する。	参考文献	図書館の蔵書のなかから紹介する。	
評価方法	コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%			

比較文化		通年（後期）	2年
ヨーロッパ文化と日本文化		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	来日したヨーロッパ人の眼に映った日本文化を考察する。 ヨーロッパ文化と日本文化の出会いの時代背景を理解する。 現代文明と伝統的な日本文化・ヨーロッパ文化を比較する。		
授業の概要	時代背景や文化の背景を講義する。 来日ヨーロッパ人の日本紀行・旅行記や手紙を直接読み、理解する。 ほぼ毎回、講義を聴いて考えたことについてコメントを提出する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ヨーロッパ文化と日本文化の比較について 第2回 マルコ・ポーロと「東方見聞録」 第3回 大航海時代～コロンブスとラス・カサス 第4回 ロヨラとイエズス会 第5回 フランシスコ・ザビエルと日本 第6回 フロイスの「日欧文化比較」 第7回 ささまざまなイエズス会士と日本 第8回 「南蛮文化」 第9回 キリスト教と日人～キリシタン 第10回 江戸時代とヨーロッパ～ケンペルの日本論 第11回 ヅェンペリーの日本旅行記 第12回 新井白石と「世界」 第13回 蘭学について 第14回 シーボルトと日本 第15回 幕末明治の来日欧米人の見た日本		
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』
評価方法	授業コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%		

英文法		通年（前期）	4 単位	2年
文法理論：形態論		狩野 郁子（かのう いくこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	形態論に焦点を当て、講義を展開する。形態論を学習することで、語彙力の強化に繋がり、同時に母国語に関する知識をも深めてもらうこととなる。			
授業の概要	英語のmorphemesに関しての認識を深めた後、affixes, free/bound morphemes, derivational/inflectional morphemesを把握、判別しながら、形態論を習得していく。次に、word coinageと題して、新単語創造の過程を学習する。最後には、英語の形態論の概念を基に、世界の様々な言語においても同様の分析を行い、言語の普遍文法の一部を知ってもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction to Morphology 第2回 Classes of words: lexical content/function words 第3回 Morphemes in English: free/bound morphemes 第4回 Morphemes in English: prefix and suffix 第5回 Morphemes : derivational and inflectional morphemes 第6回 Review of morphemes 第7回 Quiz on morphemes 第8回 Word coinage: compounds and blends 第9回 Acronyms and back-formations 第10回 Other types of word coinage 第11回 Review of word coinage 第12回 Morphosyntax 第13回 Morphosyntax in other languages: Dutch and Russian 第14回 Morphosyntax in other languages: Zulu and Swahili 第15回 Wrap-up on morphology and morphosyntax			
テキスト	Hand-outs	参考文献	They will be introduced in class.	
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%			

英文法		通年（後期）	2年
文法理論：統語論		狩野 郁子（かのう いくこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の統語論を展開する。高校までの学校文法で学習してきたであろうtraditional grammarに関する知識を駆使しながら、transformational grammarを紹介し、知識を深めてもらう。		
授業の概要	まずは、phrase structure rulesを適用しtree diagramを作成していく方法を学ぶ。これにより、文章がphrasesの結合による立体構造をもつものであると認識してもらう。その後、日本語の文章構造との対照分析を行い、母語に関する知識も定着させていく。統語論の学習を通して、listening, speaking, reading, writingの4技能の向上を図る。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction to Syntax 第2回 Grammatical or ungrammatical? 第3回 Sentence structure: syntactic categories 第4回 Phrase structure trees 第5回 More phrase structure trees 第6回 The infinitude of language 第7回 Phrase structure rules 第8回 The relationship between phrase structure rules 第9回 Review of tree diagrams through a quiz 第10回 More phrase structure rules 第11回 Introduction to X-bar theory 第12回 The lexicon: subcategorization 第13回 Transformational rules 第14回 NP-movement and V-movement 第15回 WH-movement		
テキスト	Hand-outs	参考文献	English Syntax and Argumentation by Bas Aarts / Transformational Grammar by Andrew Radford
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

対照言語学		通年（前期）	4 単位	2年
日英語の音		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では言語を科学的に研究する第一歩として、日英語の音声を取り上げ、受講生自身の口の動き、耳の働きをデータとして発音の仕組み・音韻構造の「なぜ」を明らかにしていく。毎回自身で課題と取り組むことにより、観察から仮説構築、そして仮説検証という一連の研究方法を習得する。加えて、英語の母音及び音変化の習得も目標とする。			
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction：音声器官・調音の仕組み 第2回 日本語の母音の発音 第3回 英語の母音の発音 第4回 日本語の連母音と英語の二重母音 第5回 開音節構造とモーラ 第6回 日本語の50音図：母音の歴史的变化とハ行転呼 第7回 日本語の50音図：音変化（連濁・促音・撥音） 第8回 音素と異音 第9回 英語の開音節構造 第10回 音節と聞こえ度 第11回 英語の音変化：短縮・消失・連結 第12回 英語の音変化：脱落・同化・弱化 第13回 日本語のピッチアクセント 第14回 英語のストレスアクセント 第15回 まとめ			
テキスト	特定のテキストを用いず担当者によるプレゼンテーションで進める。発音記号の記載のある学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会	
評価方法	期末試験：50% 授業貢献・課題：50%			

対照言語学		通年（後期）	2年	
日英語の構造		湯本 久美子（ゆもと くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では、日英語の語彙（形態）・文の仕組み（統語）・意味（意味）の「なぜ」を取り上げる。受講生自らがデータを分析することにより、「なぜ」に対して説明を与えられるようにするのが目標である。また、母語である日本語と英語を対照することにより、英語の仕組みの理解を深めることも目標である。			
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction 第2回 語の仕組み：拘束形態素・派生形態素 第3回 語の仕組み：転換・複合語・日本語複合動詞と英語表現 第4回 語の仕組み：逆形成・短縮・略語・頭文字語 第5回 文の仕組み：日本語の格助詞・英語の動詞と文型 第6回 文の仕組み：構造的曖昧性・構成素 第7回 文の仕組み：英語文の分析 第8回 生成文法概説・認知言語学概説 第9回 意味の仕組み：多様な意味・意味変化 第10回 意味の仕組み：多義語・同意語・反意語・上位語 第11回 意味の仕組み：メタファー・メトニミー 第12回 意味の仕組み：日英語語彙対照分析 第13回 意味の仕組み：英語冠詞分析 第14回 言語コミュニケーションと言語の特徴 第15回 まとめ			
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションで進め、適宜、資料を配布する。学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会. その他授業中に適宜紹介する。	
評価方法	期末試験：50% 授業貢献・課題：50%			

異文化間コミュニケーション		通年（前期）	4 単位	2年
異文化コミュニケーションの基本的理論を学ぼう		横溝 環（よこみぞ たまき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションの基本的理論を理解する。 自己および他者への気づきを高め、両者が相互に尊重し合えるような関係を築くことができるようになる。 			
授業の概要	国籍はもとより、ジェンダー、年齢、ひいては個人的特性など、人と人との間に存在する様々な差異を「異文化」として捉え、ある特定の文化に関する知識を学ぶというよりも、文化的枠組みの異なる者同士の関わりに焦点をあてていく。講義とともに、それに関連したエクササイズを行い、さらにグループ討議、全体討議へとつなげていく。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／文化とは</p> <p>第2回 コミュニケーションとは</p> <p>第3回 自分とは</p> <p>第4回 価値観と文化的特徴（1）： クラックホーンとストロッドベック</p> <p>第5回 価値観と文化的特徴（2）：ホフステード</p> <p>第6回 価値観と文化的特徴（3）：トロンベナルス</p> <p>第7回 アイデンティティ</p> <p>第8回 ステレオタイプと偏見</p> <p>第9回 言語および非言語コミュニケーションの特徴および役割</p> <p>第10回 言語コミュニケーション（1）：意味づけ、スタイル</p> <p>第11回 言語コミュニケーション（2）：ポライトネス／準言語</p> <p>第12回 非言語コミュニケーション（1）：表情、視線等</p> <p>第13回 非言語コミュニケーション（2）：ジェスチャー</p> <p>第14回 非言語コミュニケーション（3）：空間とテリトリー</p> <p>第15回 グループディスカッション／まとめ</p>			
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング（改訂版）』三修社 その他、授業時に適宜紹介する。	
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%			

異文化間コミュニケーション		通年（後期）	2年	
諸問題を多面的に捉えた上で解決方法を考えてみよう		横溝 環（よこみぞ たまき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 諸問題を多面から解釈できるようになる。 異文化に接した時の自らの感情および行動の癖に気づく。 相手を尊重しつつ、自分の考え、感情、権利が主張できるようになる。 			
授業の概要	異文化コミュニケーションに関する基本的理論を、映像、事例研究、ディスカッション（人数的に可能であればロールプレイ、シミュレーションゲーム）など異文化トレーニングの様々な手法を通して、具体的かつ総合的に捉えていく。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス／異文化トレーニング概要</p> <p>第2回 ディスカッションから学ぶ：コンセンサス</p> <p>第3回 映像『ガンホー』（1）：ステレオタイプ</p> <p>第4回 映像『ガンホー』（2）：アイデンティティ</p> <p>第5回 カルチャーショック、協調的問題解決</p> <p>第6回 異文化コミュニケーションスキル：アサーティブ、DIE法</p> <p>第7回 メディアの中の文化（1）：ステレオタイプと社会的現実</p> <p>第8回 メディアの中の文化（2）：記号化された人々</p> <p>第9回 正義とは？：ヒーローと悪役</p> <p>第10回 事例研究から学ぶ</p> <p>第11回 シミュレーションゲームから学ぶ</p> <p>第12回 映像『シャルウィダンス』（1）：ジェンダー他</p> <p>第13回 映像『シャルウィダンス』（2）：コンテクスト他</p> <p>第14回 文化心理学的視点から物事を捉えてみよう</p> <p>第15回 まとめ</p>			
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。	
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%			

東南アジア諸国の文化と社会		通年（前期）	4 単位	2年
国際協力と民際協力へ協力のありかたを考える～		佐伯 奈津子（さえき なつこ）		
授業の到達目標及びテーマ	○国際化、グローバル化といわれる今日、開発、人権、紛争、労働、女性、環境などは、一国内にとどまらない地球的問題になっている。このような地球的問題から、国際協力が必要とされる背景を理解する。○国際協力は、国家から草の根までさまざまなレベルで実施されている。具体的な協力の事例を挙げつつ、国際協力の意義や課題を理解する。			
授業の概要	○前半では、身の回りのモノを通じて、わたしたちが暮らす世界の仕組みを明らかにする。 ○後半では、日本の政府開発援助（ODA）の歴史や概観を説明したのち、ODA事業や非政府組織（NGO）による国際協力について説明する。			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション：授業の進め方とねらい 第2回 ツナ缶：インドネシアのカツオ漁とツナ缶工場 第3回 コーヒー：おいしいコーヒーの真実 第4回 カカオ：先物取引市場と児童労働 第5回 パームオイル：「環境にやさしい」は本当か 第6回 ジーンズ：綿花から製品まで 第7回 ナイキのスポーツ・シューズ：グローバル化時代の労働 第8回 日本の国際協力：政府開発援助（ODA） 第9回 インドネシアのダム開発：電力需要と住民の立ち退き 第10回 インドネシアの天然ガス開発：エネルギー安全保障と人権 第11回 ビルマの天然ガス開発：民主化と軍事政権 第12回 スマトラ沖地震・津波：オール・ジャパンの緊急援助 第13回 ロールプレイ 第14回 まとめ：国際協力と民際協力 第15回 長文リスポンスシート記入			
テキスト	授業時に配布	参考文献	授業時に提示	
評価方法	授業感想文の内容：60％ ロールプレイ：20％ 長文リスポンスシート：20％			

東南アジア諸国の文化と社会		通年（後期）	2年	
東南アジアー身近な異文化・社会の理解のために		長瀬 理英（ながせ りえい）		
<授業の到達目標及びテーマ> ○自然環境、社会・文化・政治・経済、人々の暮らしについて親しみを持ちながら理解し、固定観念から脱却できるようにする。 ○多様な環境や価値観・基準（モノサシ）について理解する。○日本との関わり、その影響について理解する。○以上の理解を通じて、自らの「モノサシ」や暮らし、集団間に作用する力関係について複眼的に捉え直し、再考し、自ら選び直す機会が得られる。				
<授業の概要> ①入門編では様々な地図や人々による表現から、多様な成り立ちと複雑さについて明らかにする。②大陸部編ではメコン河流域に焦点を当て、近年の経済開発と人々への暮らしの影響について概観する。③島嶼部編ではフィリピンのミンダナオ島に焦点を当て、紛争について普遍的な観点から理解を導き、多様性や多文化共生の重要性について明らかにする。				
<授業計画> 第1回 イントロダクション／オリエンテーション 第2回 なぜ「モノサシ」が重要か？-3.11後と私たち 第3回 地図から見えてくるもの（1）自然・人びと・歴史 第4回 地図から見えてくるもの（2）社会・文化・政治・経済 第5回 表現から見えてくるもの（1） 絵画・詩からみる多様性 第6回 表現から見えてくるもの（2）映画からみる政治と宗教 第7回 大陸部の暮らし（1）メコン河流域の自然と人々 第8回 大陸部の暮らし（2）メコン河流域諸国の歴史と変化 第9回 大陸部の暮らし（3）日本など外部者の関わりー開発を中心に 第10回 グループ・ディスカッション 第11回 島嶼部の暮らし（1）フィリピン・ミンダナオの人々と争い 第12回 島嶼部の暮らし（2）「国民国家」と「エスニック集団」から見る紛争の根本原因 第13回 島嶼部の暮らし（3）紛争解決のための努力と多文化共生にむけて 第14回 グループ・ディスカッション 第15回 全体のまとめ				
<テキスト> 特に定めない。主としてプリントを用いる。 <参考文献> プリントの中で随時紹介する。 <評価方法> 授業感想文：30％ レポート：70％				

アフリカ諸国の文化と社会		通年（前期）	4 単位	2年
イスラームの文化と社会：ムスリム社会の女性をとりまく環境、地位に注目して		椎野 若菜（しいの わかな）		
授業の到達目標及びテーマ	2010年末にチュニジアを筆頭に始まった最近のアフリカが国際ニュースを賑わせている理由や、その流れをおえるようにする。イスラームの人々に起きている変化とは何か、当該文化と社会の歴史的文化的背景をみながら、とくに女性の地位、境遇に注目して迫り生活者の視点からの理解を深め語れるようになることが目標。			
授業の概要	現在イスラーム社会は10億人以上の人口を抱え急成長している。2001年の9.11米国同時多発テロ事件以降、一部の原理主義者たちの活動によりイスラームの暴力性が強調され、誤解を生んでいることは周知の事実だ。本講義では、日本人にとり未だ理解しづらいイスラームの文化と社会の人々の生活について、映像を用いながらアフリカ大陸を中心にみて			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 アラブの春：チュニジアの場合 第3回 アラブの春：エジプトの場合 第4回 イスラームの親族家族、結婚、女性の地位 第5回 北アフリカの場合：チュニジアの女性たち 第6回 結婚生活：スーダンの場合 第7回 イスラームのセクシュアリティ 第8回 ムスリム社会の女性解放 第9回 イスラームにおけるファッション、ビジネス 第10回 イスラームにおけるシングル 第11回 イスラーム都市 第12回 東アフリカ、スワヒリ世界の形成 第13回 ザンジバルの女性たち 第14回 コモロの女性：結婚・離婚とシングルの生き方 第15回 まとめ			
テキスト	授業時に紹介する	参考文献	授業時に紹介する	
評価方法	レスポンスペーパー：20% レポート：80%			

アフリカ諸国の文化と社会		通年（後期）	2年	
現代アフリカの多様な人々の暮らしと文化		椎野 若菜（しいの わかな）		
授業の到達目標及びテーマ	アフリカの特徴的な自然環境、人間集団、社会、文化、経済活動、国民国家群の様相を、歴史的変遷とともに現代的な社会問題に至るまで幅広く知識を蓄積。いま、アフリカで何がおこっているのか。アフリカとはどのような土地か。どのような人々が暮らしているのか。人々の視点からみて、世界情勢との関係を双方から捉えられるようになることが目標。			
授業の概要	アフリカ大陸が、西洋列強による植民地化から脱するのは1960年代。その「アフリカの年」から約半世紀がたった現在、またアフリカは急速に変化する新たな時代に突入している。本講義では、人類学視点から、多様なアフリカ人の社会と文化とその変化を具体的事例から映像を交え学ぶ。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 狩猟採集民 フッシュマンの食べ物 第3回 狩猟採集民 森のくらし 第4回 農牧漁撈民ルオの民族誌：ジェンダーの視点から 第5回 牧畜民 バンナの民族誌、通過儀礼（男子） 第6回 通過儀礼（女子） 第7回 アフリカの結婚の多様性 第8回 牧畜民 トウルカナの結婚 第9回 一夫多妻の運営の方法 第10回 寡婦のくらし 第11回 ルオにおける子育て 第12回 アフリカの植民地期と今 第13回 シングルをはじく村、うけいれる都市ナイロビ 第14回 都市：ナイロビ・スラムと開発の問題 第15回 まとめ			
テキスト	『文化人類学のレッスン 増補版 フィールドからの出発』 奥野克巳・花淵馨也共編、学陽書房	参考文献	『「シングル」で生きる—人類学者のフィールドから』 椎野若菜編、御茶の水書房。ほか授業時に提示。	
評価方法	レスポンスペーパー：20% レポート：80%			

生活人間論		前期 2 単位	2年
エコエティカ（生圏倫理学）		橋本 典子（はしもと のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生活人間論は未だ試みの学問であり、それは生、生活、生命、生きることの考察を通して人間存在を明らかにする学問である。人間の生の問題は、日常的で具体的なレベルから根源的な精神生活に至るまで様々であるが、授業では現代に於ける生を考察する。		
授業の概要	講義形式で行う。必要に応じてレポートを課する。必要なプリントも配布する。 講義は必ず出席すること。現代社会での自分の位置、考えるべきテーマを見つけ、コミュニケーション実践力を獲得する。		
授業計画	【前期】 第1回 序論、生活人間論の定義 第2回 エコエティカの意味と現代的寄与 第3回 人間論の始まり、ソクラテースの魂の世話 第4回 理想主義者プラトーン、イデア論、よく生きること 第5回 現実主義的考え方、アリストテレース 第6回 学問の体系と家政学(oikonomia) 第7回 徳の問題—勇氣、忠、謙遜 第8回 行為の三段論法—アリストテレースと現代 第9回 人間の尊厳—ピコ、臓器移植の問題 第10回 人間学の始まり—カント、人格としての人間 第11回 哲学的人間学—環境と人間 第12回 進化論的人間観—『創造的進化』 第13回 閉じられたものと開かれたもの—実存と社会 第14回 死—ジャンケレヴィッチ『死』 第15回 技術連関の中で<よく生きること>とは		
テキスト	今道友信著『エコエティカ——生圏倫理学入門』（講談社学術文庫）	参考文献	授業の際に紹介する。
評価方法	試験:30% コミュニケーション力:20% レポート:50%		

衣生活論		前期 2 単位	1・2年
衣生活文化		根本 由香（ねもと ゆか）	
授業の到達目標 及びテーマ	衣服は人体を保護し快適に保つだけでなく、社会的な記号として、美意識を反映させるものとして、人の心と深く関わっていることを理解する。物質的に豊かになった現代では短い周期で流行が移り変わり、多様な衣服が着られているが、真に豊かな衣生活とはどのようなものかを衣生活文化の変遷を学び理解する。		
授業の概要	本授業では、近世の「きもの」文化と近代の洋装の導入から定着までを概観し、着ること・作ることに込められた思いとその様相について学ぶ。季節感と生活、個性と集団、流行、慣習などの観点からも歴史の中の事例をとり上げ解説する。授業は講義形式で行い、必要に応じて文献資料・図像資料を使用する。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：現代の衣生活への視点 第2回 「きもの」の文化1 江戸時代の小袖から現代のきものへ 第3回 「きもの」の文化2 文様に込められた意味 第4回 「きもの」の文化3 「ゆかた」のうつりかわり 第5回 伝統染織を学ぶ 第6回 日本人と洋服1 洋服との出会い 第7回 日本人と洋服2 洋風摂取による近代の衣生活の変化 第8回 日本人と洋服3 洋装の定着 第9回 百貨店が発信した流行—近代の流通革命— 第10回 日本の色彩1—多様な色名と色相— 第11回 日本の色彩2—歴史の中の色— 第12回 制服をめぐる—個性と集団— 第13回 衣服と慣習—祝い着・衣がえ— 第14回 衣服と環境—衣服を大切にすること— 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	試験:70% 授業感想文:30%		

食生活論		後期 2 単位	1・2年
食料生産の歴史と食生活での食料の意義		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	食料が、どのようなもので、どう生産され人がどのように利用してきたかを理解できるように、そして食が食品素材としてどのように体を支えているか、食そのものが我々の社会生活をどのように支えているのかを、理解できるようにする。全体として食生活をどのように捉えればよいのかを考え、自分なりに答えを出せるようにする。		
授業の概要	地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史を見て、食と捕食者の関係と食の量の面を生態系から考察し、次に農耕が始まり人がどのように食糧生産を行ってきたのかを学ぶ。さらに食が人体に与える影響を、栄養素から体が組み立てられ各組織とクロストークして動いてゆくのかを見る。流通面からも食の人体への貢献を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 地球の地学的な歴史と生存競争と進化の歴史を概観する 第 2回 人類の誕生と進化人としての特徴を食生活も交えて概観 第 3回 捕食者と食われるものの関係と食糧生産での利用を概観 第 4回 採集による食獲得形態の利点と問題点を学ぶ 第 5回 初期の農耕による食糧生産の利点と問題点を学ぶ 第 6回 現在の農耕による食糧生産の利点と問題点を学ぶ 第 7回 生産流通消費の食糧供給の現状を食生活との関係から見る 第 8回 将来の食糧生産、流通、消費を考えてみる 第 9回 食構成成分の人体への影響を栄養素から概観する 第10回 栄養素以外の食成分が体組織へ与える影響を概観する 第11回 栄養素以外の食成分が病人へ与える影響を概観する 第12回 栄養素以外の食成分が健康面へ与える影響を概観する 第13回 栄養素以外の食成分が精神面へ与える影響を概観する 第14回 何をどう食べてゆくか個人でどう異なるかを考えてゆく 第15回 食生活そのものが生活に及ぼす効果、問題点を考えてゆく		
テキスト	使用せず。	参考文献	生物学から文化へ（みすず書房）、機能性食品の事典（朝倉書店）、食品大百科事典（朝倉）、ヒューマンニュートリション（医歯薬出版）
評価方法	理解を期末試験で判断:70% 授業への取り組みの評価:30%		

住居学		後期 2 単位	1・2年
現代日本における家族と住居		松本 真澄 (まつもと ますみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	少子高齢社会に向けて大きく変容しつつある現代日本の住居をめぐる様々な問題を認識し、これからの住居のあり方を考えるための基本的な知識と判断力を養うことを目指す。「社会のなかの住宅」、「家族と住居」、「住環境と地域」、「住居経済」、「住居のマネジメント」などをテーマにとりあげ、生活の器である住居の現状や社会背景を理解		
授業の概要	授業は毎回テーマごとに講義を中心に進め、理解を助けるために写真などのビジュアルデータや、映像などを適宜取り入れる。また、理解を深めるために授業中に簡単な課題を行うことがある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 住居学について 第 2回 日本の住宅事情 第 3回 住宅政策 第 4回 統計からみる住宅と世帯 第 5回 住まいの変遷 第 6回 住生活と間取り 第 7回 高齢者と居住環境 第 8回 住宅関係費と家計 第 9回 住情報と消費者問題 第10回 不動産としての住宅 第11回 都市計画と住まい 第12回 住まいの維持管理 第13回 集合住宅のマネジメント 第14回 住宅のストック活用と環境問題 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主として配布資料を用いる	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	授業中感想・課題:30% レポート:70%		

女性論		後期 2 単位	1・2年
「身体」を通じてジェンダーを学ぶ		荒木 純子（あらかき じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生む性としての機能を備えた女性の身体がどのように捉えられてきたのか、歴史的に理解する。とくに西洋における時代ごとの科学・医学・技術とのかかわりを念頭において理解することで、現代の女性としての生き方を設定できるようにする。		
授業の概要	女性の身体を「知る」「使う」「装う」の3つの観点から考えていく。「知る」では伝統的な女性観を聖書や医学書など男性知識人によって展開された言説と表象から学ぶ。「使う」では女性が自らの身体とどのように向き合ってきたかを健康と病、妊娠出産といった機会から検討する。「装う」では女性の身体を飾り、変え、演出する諸相について考え		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション：女性は「得」？ 第2回 女性の身体を「知る」1 聖書の女性観 第3回 女性の身体を「知る」2 聖人伝と異性装 第4回 女性の身体を「知る」3 発生学の発展 第5回 女性の身体を「知る」4 婦人科学の発展 第6回 女性の身体を「使う」1 聖女と魔女 第7回 女性の身体を「使う」2 魔術と医術 第8回 女性の身体を「使う」3 母性と看護 第9回 女性の身体を「使う」4 産科学の発展 第10回 女性の身体を「使う」5 病理と生理 第11回 女性の身体を「装う」1 美とエロス 第12回 女性の身体を「装う」2 セクシーな所作 第13回 女性の身体を「装う」3 身体加工 第14回 女性の身体を「装う」4 化粧と身なり 第15回 まとめ		
テキスト	プリントを使用します。	参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末レポート:80% レスポンスシート:20%		

女性論		後期 2 単位	1・2年
女性と健康・命・長寿社会		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	女性の健康は、自ら生きがいを持って充実した生活をおくるために不可欠であるとともに、次世代の命と健康を支える存在でもある。女性の健康についての基本的な知識や考え方を学ぶとともに、日常生活の中で直面する問題の解決、対処する知恵や考え方を探る。		
授業の概要	女性として生きていくうえで、健康の問題やジェンダーの問題は避けて通ることができない。健康、体力、ジェンダー、医療、老い、生きがいについて具体的事例を上げ、その中から自らの健康とどう向きあっていくのかを考える機会とする。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の概要説明、年齢の心理 第2回 長寿社会と健康（100歳の壁は越えられるか） 第3回 女性のスポーツから見るジェンダー オリンピックを例に 第4回 女性とスポーツ スポーツは健康をもたらす？ 第5回 女性と体力 第6回 女性と健康1、健康科学から見た女性と身体 第7回 女性と健康2、身体・医療とジェンダー 第8回 女性と健康3、妊娠・出産・子育て 第9回 女性と健康4、ダイエットは必要ですか 第10回 暴力とジェンダー 第11回 近代の家族のかたち 第12回 現代の家族のかたち 第13回 女性と老い・生きがい1、健康と寿命 第14回 女性と老い・生きがい2、高齢社会を生きる 第15回 まとめ		
テキスト	プリントを中心に	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

人間関係論	前期 2 単位	1・2年
家族の法と倫理	河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	まず第一に、現代日本社会において家族関係がどのような特徴を持っており、どのような課題を抱えているかを把握することを目標とする。そして第二に、自己決定の尊重を旨としている現代において、家族は個人の生き方にどのように関わるものとされているかを吟味し、各人の生き方を支え合う家族関係の在り方を見出すことを目標とする。	
授業の概要	重要な社会的課題を題材にして、個人の生き方と家族の関わりについて考えていく。テーマとして、脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死、夫婦別氏論議などを取り上げる。その際、学生自身が現在持っている家族観を探っていく形で授業を進めていく。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに：人間関係の原理と家族 第2回 <臓器移植から考える>脳死・臓器移植と自己決定 第3回 脳死・臓器移植と家族 第4回 臓器は誰のものか 第5回 個人の自由と家族の役割 第6回 <安楽死から考える>生命の尊重と安楽死と家族 第7回 なぜ人を殺してはいけないのか：具体例から考える 第8回 あなたならどうする？医療と家族とケア 第9回 <家族の法と倫理>現代日本社会における家族問題の諸相 第10回 家族法における家族関係、夫婦関係の原則 第11回 夫婦別氏論議から考える家族 第12回 東海大学安楽死事件から考える家族 第13回 三つのモデルから考える家族 第14回 家族関係における自由・平等・福祉 第15回 まとめ：生き方を支え合う家族関係のために必要なこと	
テキスト	河見誠『現代社会と法原理』（成文堂）	参考文献 指定しない。
評価方法	期末レポート：80% 授業参加（提出物含）：20%	

現代生活論	前期 2 単位	1・2年
家族社会学の基礎	平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会における家族をめぐる意識と行動、その変化と持続性を理解することを一般目標とし、社会の変化と個人の生き方、家族のあり方に関して、次の内容の授業を行う。①社会学の分野での家族研究に基づき家族と家族関係について基礎から学ぶ。②隣接諸社会科学における家族論の成果から学び、家族についての理解を深める。	
授業の概要	家族の研究のための視角や理論的枠組みを説明し、社会的アプローチによる現代家族の特質や変動の方向性の理解をすすめるため、以下の4点を中心に講義を進める。①歴史的・比較文化的な観点からみた家族をめぐる意識と行動②家族の機能と自己組織化のメカニズム③家族とその他の社会関係との関連④家族形成のプロセスと人間発達	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 家族について学ぶ意義 第2回 家族を対象とした社会学的研究の射程 第3回 家族変動をとらえる分析視角 第4回 その1 構造機能論 第5回 その2 システム論 第6回 その3 相互作用論 第7回 現代家族の特質に焦点を当てた分析視角 第8回 家族周期論とライフコース論 第9回 社会的ネットワーク論 第10回 家族ストレス論 第11回 現代社会における家族変動の方向性 第12回 現代社会に生きる個人と家族 第13回 現代社会のかかえる問題とこんにちの家族 第14回 現代社会の変容と家族の特性 第15回 現代社会学の展開における「家族」	
テキスト	特になし	参考文献 必要に応じて、紹介する。
評価方法	定期試験：60% 平常点（課題提出等）：40%	

社会福祉論		前期 2 単位	1・2年
社会問題と福祉サービス		山内 陽子（やまうち ようこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会的関心の高い福祉問題を取り上げ、学生自身が主体的に社会問題を適切に理解し、福祉、サービスについて深く考察できるようになることが目標である。		
授業の概要	従来の「最低限度の保障」に重きをおいた「福祉」の考え方から、近年「すべての人が自分らしくよりよく生きる」ことができるように支援を展開していくことが「福祉」であるという考え方への転換が求められている。その視点に立ち、本講義では、福祉問題を取り上げて映像資料等を用いた学び、ディスカッションや発表を中心に行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会福祉とは 第3回 子育て支援 第4回 子ども虐待問題 第5回 ドメスティック・バイオレンス 第6回 社会的養護1 施設養護（乳児院） 第7回 社会的養護2 施設養護（児童養護施設） 第8回 社会的養護3 家庭的養護（グループホーム） 第9回 社会的養護4 家庭的養護（里親） 第10回 少年非行問題 第11回 ひとり親家庭 第12回 障害児・者問題1（生活支援） 第13回 障害児・者問題2（就労支援） 第14回 高齢者問題 第15回 まとめと振り返り		
テキスト	特に定めない。プリント等資料を配布する。	参考文献	山縣文治「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会 その他、 随時紹介する
評価方法	リアクションペーパー:50% 中間レポート:50%		

生活福祉論		前期 2 単位	1・2年
社会福祉入門		山内 陽子（やまうち ようこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会福祉の理念、歴史、福祉サービスの成り立ちについて概観するとともに、基礎的な知識を身につけることが目標である。		
授業の概要	社会福祉は私たちの生活と関わりが深く、身近である。本講義では、社会福祉を第三者的に学ぶのではなく、社会的関心の高いさまざまな福祉の問題を挙げ、学生自身の生活と結びつけて考え、現在の社会状況および、福祉サービスについて基礎的な理解を深めていく。講義中心だが、学生同士のディスカッション等の学習形態も取り入れる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会福祉の理念と概念 第3回 社会福祉の歴史 第4回 社会福祉の法制度 第5回 子ども虐待問題と対策 第6回 ドメスティック・バイオレンス 第7回 社会的養護1 施設養護（乳児院） 第8回 社会的養護2 施設養護（児童養護施設） 第9回 社会的養護3 家庭的養護 第10回 少年非行問題とその対策 第11回 貧困問題と生活保護制度 第12回 障害児・者福祉制度 第13回 高齢者福祉制度 第14回 社会福祉に携わる専門職 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。プリント等資料を配布する。	参考文献	鈴木力「あたらしい社会的養護とその内容」青踏社 ／山縣文治「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 ／「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会 随時紹
評価方法	リアクションペーパー:10% 中間レポート:40% 試験:50%		

保育学		通年（前期）	4 単位	1・2年
子どもの健やかな発達と大人のかかわり		林 浩子（はやし ひろこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誕生から思春期までの子どもの心身の発達や生活について理解し、子どもの健やかな成長に必要な知識と対応について理解できるようにする。 ○ 講義だけではなく、育児に必要な技術を実習を通して学んでいくことで、子育てが身近に感じられるようになる。 			
授業の概要	現代、育児をめぐる親子関係のあり方は、社会の変化とともに様々な問題が生じているが、子どもの発達を正しく理解することで、育児への不安を解消し、喜びへと変換していくことができる。本授業では、子どもの発達や育児の実践を映像や事例で取り上げることで、将来の具体的実践に結びつく学びを目指していく。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 オリエンテーション：自らの育ちを振り返る</p> <p>第 2回 一赤ちゃん 成長の不思議な道のりのビデオ視聴</p> <p>第 3回 子どもの発達(1)人間の発達の方向性</p> <p>第 4回 子どもの発達(2)妊娠～出産</p> <p>第 5回 子どもの発達(3)新生児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第 6回 子どもの発達(4)乳児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第 7回 子どもの発達(5)幼児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第 8回 子どもの発達(6)学童期～思春期の発達の特性とかかわり</p> <p>第 9回 子どもの発達(7)特別支援を要する子どものかかわり</p> <p>第10回 子どもの発達(8)早期教育とその問題点</p> <p>第11回 子どもの生活(1)食事、排泄、睡眠</p> <p>第12回 子どもの生活(2)疾病とその予防</p> <p>第13回 子どもの生活(3)事故と安全</p> <p>第14回 子どもの生活(4)遊びの意味と意義</p> <p>第15回 子どもと生活(5)絵本の意味と意義</p>			
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業内で随時紹介する。	
評価方法	授業感想文:30% 試験:70%			

保育学		通年（後期）		1・2年
現代における「子育て」の現状と課題		林 浩子（はやし ひろこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを取り巻く社会環境の変化とともに浮かび上がってくる、子育ての現状と課題を理解する。 ○ 現代の子育て事情や課題に対する法的制度の変遷と現状を学び、これからの子育て支援のあり方と方向性について理解する。 			
授業の概要	現代の子どもが育つ、あるいは、子どもを育てる社会環境は複雑で様々な問題を抱えている。上記にあげた授業の到達目標に向けて、講義だけではなく、学生自らが情報を収集したりグループディスカッションを行ったりしながら、現代の子育てに必要な社会的制度を探索し、将来への子育ての具体的実践に結びつく学びを目指していく。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 オリエンテーション：子どもをめぐる法的制度</p> <p>第 2回 社会環境の変化と子育て(1)子どもを「生む」ということ</p> <p>第 3回 社会環境の変化と子育て(2)母親が抱える育児不安</p> <p>第 4回 社会環境の変化と子育て(3)虐待の背景にあるもの</p> <p>第 5回 社会環境の変化と子育て(4)子育て支援施策の動向</p> <p>第 6回 社会環境の変化と子育て(5)子育て支援の情報収集</p> <p>第 7回 社会環境の変化と子育て(6)子育て支援の課題と方向性</p> <p>第 8回 社会環境の変化と子育て(7)色々な家族のあり方</p> <p>第 9回 保育現場の「今」(1)一幼稚園、保育園、子ども園一</p> <p>第10回 保育現場の「今」(2)発達感の今、昔</p> <p>第11回 保育現場の「今」(3)ぶつかり合いの中で育つもの</p> <p>第12回 ケアリングとは(1)ケアの変遷とその意味</p> <p>第13回 ケアリングとは(2)共感的他者の役割とその意義</p> <p>第14回 ケアリングとは(3)家庭から始めよう</p> <p>第15回 まとめ「子育て」と「自分育て」</p>			
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業内で随時紹介する。	
評価方法	授業感想文:20% レポート:60% 課題:20%			

臨床心理学		通年（前期）	4 単位	1・2年
臨床心理学A（心理療法とこころの理解）		田中 志帆（たなか しほ）		
授業の到達目標 及びテーマ	現在の主要な心理療法の理論や技法について学び、人間の心身の失調の意味について、自己や他者の心のつまづきについてより適切に向き合い、支援するためのアイデアを持つことができるようにする。			
授業の概要	以下のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 臨床心理学とは 第2回 欧米における精神保健の歴史① 第3回 日本における精神保健の歴史② 第4回 内因性精神障害 第5回 心因性精神障害 第6回 器質性の精神障害 第7回 行動療法①学習理論と行動療法 第8回 行動療法②各種技法、認知行動療法 第9回 来談者中心療法 第10回 日本オリジナルの心理療法 森田療法 臨床動作法 第11回 心の状態を見立てる① 心理検査とテストバッテリー 第12回 心の状態を見立てる② 性格検査、臨床描画法実習 第13回 児童期の心理療法 事例から考える 第14回 思春期・青年期の心理療法 事例から考える 第15回 まとめ			
テキスト	坂上裕子・繁樹江里・薬師神玲子・田中志帆・武田美亜ら著 大学1、2年生のためのすぐわかる心理学 東京図書 ￥2200	参考文献	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房	
評価方法	授業感想文：40% 最終レポート：60%			

臨床心理学		通年（後期）	1・2年
臨床心理学B（精神分析入門）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	精神分析的な心理療法における基礎的な理論や方法、心の失調とは何かを学び、人間の深層心理について考える。生後1年～2年までの乳幼児の心の状態を含め、人の心の成長と生と死の本能の意味について触れ、人間と社会について精神分析的な視点で考察できるようになることを目指す。		
授業の概要	フロイト理論と対象関係論について、解りやすく解説する。アニメや芸術作品を鑑賞したり、また心理療法のケースを紹介しながら、人間の深層心理について共に考える。授業中にプリント課題を配布して、実習形式で講義を行う場合がある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 精神分析が誕生した時代 第2回 フロイトの人生（その生涯） 第3回 精神分析の基本的な原則と概念 第4回 自我・エス・超自我①防衛機制 第5回 自我・エス・超自我②発達段階 第6回 神経症のなりたち 第7回 エディプスコンプレックスとは 第8回 アルプスの少女ハイジを分析する 第9回 夢の意味と理論 第10回 やってみよう夢分析 第11回 芸術家や作家の人生、作品にみる反復強迫 第12回 生と死の本能—人はなぜ戦争をするのか 第13回 対象関係論①P/Sポジション 第14回 対象関係論②Dポジション 第15回 精神分析とは何か？（まとめ）		
テキスト	特に指定しない	参考文献	推薦図書を授業中に配布する。
評価方法	授業時の課題や感想文：60% 最終レポート：40%		

生活管理学		前期 2 単位	1・2年
「老い」との共生		原 葉子（はら ようこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは「老い」に、社会の一員として、家族として、また自分自身の問題として向き合っていかなければならない。そのためこの講義では（1）日本社会が直面している高齢社会の現状や基本的な問題点を理解し、（2）「老い」と共生するためにどのような社会を築いていけばよいのかを、自ら考え議論できるようにすることを目標とする。		
授業の概要	授業は講義形式で行う。はじめは、人口構造、歴史、国際比較を通じ、現代の高齢者を取り巻く環境の変化を概観する。中盤では「介護」に焦点をあて、家族介護や、ケアワークについて考える。さいごに、高齢期をめぐる社会政策や社会的な位置付けについて考察を行う。受講者は、リアクションペーパーを記入しテーマへの考察を深めることが期待		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 「高齢社会」とは何か 第2回 高齢社会の人口学的側面 第3回 社会は「老人」をどう見てきたか 第4回 高齢者と家族（1）変わる関係性 第5回 高齢者と家族（2）国際比較 第6回 高齢社会と介護（1）介護の戦後史 第7回 高齢社会と介護（2）家族と介護 第8回 高齢社会と介護（3）変わる介護のかたち 第9回 高齢社会と介護（4）男性とケアワーク 第10回 福祉社会のあり方 第11回 高齢期の格差 第12回 高齢者の社会的位置付け（1）社会政策 第13回 高齢者の社会的位置付け（2）メディア 第14回 老いの経験 第15回 まとめ</p>		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布する。	参考文献	毎回のテーマに合わせて、講義のなかで紹介する。
評価方法	期末試験：70% 平常点：30%		

家庭経済学		後期 2 単位	1・2年
家計・消費者・女性		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	資本主義社会においては、家計や家庭経済の活動とは企業や政府と密接な関係を保ちながら、非常に重要な意味を有していることを理解するとともに、自らの家計の営みを管理したり、人生設計を立てることの重要性についても考えることを目標とする。		
授業の概要	経済学で言う、1つの経済主体としての「家計」、あるいはそれを含む家庭経済のしくみを説明するだけでなく、消費者としての、あるいは女性としての視点から、家計をどのように捉えることができるのかということもあわせて考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 現代社会と家庭経済1 家庭経済学とはどんな学問か 第3回 現代社会と家庭経済2 家庭経済の誕生 第4回 日本経済と家庭経済1 戦後復興期から高度経済成長期 第5回 日本経済と家庭経済2 安定成長期から現在まで 第6回 現代社会と家族・子ども1 世帯の多様化 第7回 現代社会と家族・子ども2 少子高齢化社会 第8回 家計研究の歴史 世界と日本 第9回 家計のしくみ 収入・支出・家計簿記帳 第10回 ライフサイクルと家計 第11回 職業と労働1 日本型雇用慣行のしくみと限界 第12回 職業と労働2 女性労働をめぐる諸問題 第13回 社会保障のしくみ 第14回 消費者問題 第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点：30% 期末試験又はレポート：70%		

商品学・流通論Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
消費者への価値創造・伝達過程としての流通と企業活動		伊藤 匡美 (いとう まさみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	大ヒット商品や人気のお店が生まれるのはなぜか。その背後では、どんな企業がどのような活動を行っているのか。わたしたちが日頃目にする現象やその仕組みについて、流通・マーケティングの見地から論理的に考え、理解する力を養っていく。		
授業の概要	講義形式の授業形態で行い、流通に関する論点を軸に取り上げていく。 生産と消費の間をつなぐ流通があるからこそ、われわれは日々近隣の店舗で商品を買ひ、豊かで便利な生活を送ることができるのである。当講義では流通のもつ基本的役割や特質、昨今の環境変化の方向性について論じていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 流通の位置づけと構造 第2回 消費者と流通 (1) 消費構造と其の変化 第3回 消費者と流通 (2) 店舗選択基準 第4回 消費者と流通 (3) 買ひ物行動と商品分類 第5回 流通の役割と卸売業・小売業 第6回 小売業の機能と構造 第7回 小売業の店舗形態と経営特性—業態とは— 第8回 百貨店について 第9回 チェーンストアとは何か 第10回 日本のチェーンストアについて 第11回 コンビニエンスストアについて 第12回 マーケティング (1) 基本的な考え方 第13回 マーケティング (2) マーケティング環境分析 第14回 マーケティング (3) マーケティング・チャネル 第15回 マーケティング (4) マーケティング戦略		
テキスト	鈴木安昭『新・流通と商業』(有斐閣)	参考文献	講義の中で随時紹介する。
評価方法	定期試験:95% 小レポート:5%		

商品学・流通論Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
流通の機能・役割と其の変化		長原 紀子 (ながはら のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	製品やサービスは流通過程を経て“商品”となり、消費者に選別されることを理解する。流通の機能・役割の基本と、変化する流通業の実態を理解する。		
授業の概要	基本的には座学を中心に行うが、街で実際に店舗を見て比較・観察するストアコンパリゾンを組み入れる。身近で具体的な事例を数多くとりあげ、流通についての要点を会得する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス 第2回 流通の社会的役割と仕組み 第3回 流通の機能 第4回 卸売業の役割と機能 第5回 小売業の役割と機能 第6回 小売業の形態と構造および変化 第7回 消費者と流通 第8回 スストアコンパリゾンへのオリエンテーションと実習へ 第9回 スストアコンパリゾン発表会 第10回 流通とマーケティング 第11回 顧客心理と接客 第12回 顧客心理とVMD 第13回 顧客満足とホスピタリティ 第14回 ウェブ時代の流通 第15回 流通・商業に関する公共政策		
テキスト	新・流通と商業(有斐閣) お客がわかれば売り方がわかる(商業界)	参考文献	必要に応じて資料を紹介する。
評価方法	授業参加度&受講態度:50% レポート(2回提出):50%		

簿記原理		通年（前期）	4 単位	1・2年
簿記の基本		小阪 敬志（こさか たかし）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。			
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業ガイダンス、簿記の基礎概念 第2回 貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産） 第3回 損益計算書とその構成要素（収益・費用・純損益） 第4回 確認テスト①、取引 第5回 勘定と仕訳 第6回 問題演習による仕訳方法の習得 第7回 勘定への転記 第8回 確認テスト②、試算表の作成 第9回 現金・当座預金 第10回 当座借越・小口現金 第11回 確認テスト③、商品売買（分記法） 第12回 商品売買（三分法、値引・返品処理） 第13回 売掛金と買掛金 第14回 確認テスト④、約束手形と為替手形 第15回 手形の裏書譲渡と割引			
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし	
評価方法	試験:70% 平常点（確認テスト）:30%			

簿記原理		通年（後期）	1・2年	
簿記の基本		小阪 敬志（こさか たかし）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。			
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 簿記原理Aで学習した内容のおさらい 第2回 その他の債権と債務 第3回 有価証券 第4回 確認テスト①、固定資産 第5回 資本金と引出金 第6回 決算整理の流れ 第7回 確認テスト②、現金過不足、商品評価 第8回 貸倒引当金、消耗品 第9回 有価証券の評価、減価償却 第10回 確認テスト③、収益・費用の見越し 第11回 収益・費用の繰延べ 第12回 当期純損益の計算と勘定の締切り 第13回 精算表の作成 第14回 確認テスト④、問題演習による精算表作成方法の習得 第15回 授業内容の総括			
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし	
評価方法	試験:70% 平常点（確認テスト）:30%			

統計学		通年（前期）	4 単位	1・2年
記述統計の基礎		内山 義英（うちやま よしひで）		
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。			
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Aでは、記述統計を学んでいく。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ、統計学とは 第2回 データの種類 第3回 度数分布表(1)―度数、相対度数 第4回 度数分布表(2)―累積度数、累積相対度数 第5回 ヒストグラム 第6回 累積相対度数グラフ 第7回 分布の特性値(1)―平均、メジアン、モード 第8回 分布の特性値(2)―平均偏差、標準偏差、分散 第9回 分布の特性値(3)―データの基準化、偏差値 第10回 量的データの関係分析(1)―散布図 第11回 量的データの関係分析(2)―相関係数 第12回 質的データの関係分析(1)―クロス集計 第13回 質的データの関係分析(2)―分割表 第14回 質的データの関係分析(3)―同時分布と条件付き分布 第15回 今学期のまとめ			
テキスト	配布プリント、ただし平方根（ルート）を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%			

統計学		通年（後期）		1・2年
推測統計の基礎		内山 義英（うちやま よしひで）		
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。			
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Bでは、推測統計を学んでいく。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ、推測統計学とは 第2回 標本空間と標本点 第3回 数学的確率、確率変数 第4回 確率変数の期待値と分散 第5回 中心極限定理と正規分布 第6回 母集団からの標本抽出 第7回 仮説検定の考え方 第8回 仮説検定の手順 第9回 t 検定 第10回 分散分析(F検定) 第11回 独立性検定(カイ2乗検定) 第12回 回帰分析とは 第13回 単回帰分析 第14回 重回帰分析 第15回 今学期のまとめ			
テキスト	配布プリント、ただし平方根（ルート）を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%			

生態学		通年（前期）	4 単位	1・2年
生態系を理解し、その一員としての人間について生態学的認識を深める		高坂 宏一（たかさか こういち）		
授業の到達目標 及びテーマ	生態系がひとつのシステム（系）であること、さまざまな生物種が相互に依存していること、それぞれの生物種は環境の制約を受けることを理解する。また、生態系の一員である人間について生態学的理解を深めると同時に、人間が生態系に及ぼした影響について理解する。			
授業の概要	食物連鎖などを取上げ、生態系の構造と機能を明らかにする。あわせて人間の諸活動が生態系に及ぼした影響を環境問題として取上げる。同時にそうした問題を引起すに到った人間の特性を進化史的に概観する。また生態学の基本事項であるポピュレーション（個体群、人口）について講じる。インドネシアやポリビアなどでの現地調査の映像を使用す			
授業計画	【前期】 第1回 序論 第2回 生態系とは 第3回 生態系の構造と機能 第4回 自然生態系と人間化された生態系 第5回 食物連鎖と生物濃縮 第6回 環境問題と健康問題 第7回 生態系におけるヒトの特殊性 第8回 人類の起源をめぐって 第9回 人類の進化をめぐって 第10回 人間の生存様式の推移とその生態系への影響 第11回 個体群の生態学 第12回 個体群の成長 第13回 個体群の抑制 第14回 人口（ヒト個体群）の推移—過去・現在・将来 第15回 まとめ			
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.	
評価方法	試験:85% 平常点:15%			

生態学		通年（後期）	1・2年
人間の生態学的理解をめざし、人類史を踏まえ適応・文化・人口を考える		高坂 宏一（たかさか こういち）	
授業の到達目標 及びテーマ	人間が世界中に暮らしているのは移動・拡散し、さまざまな異なる地域環境にそれぞれ適応することができた結果であることを踏まえ、文化をもつ生物である人間の適応について生態学的視点から理解する。人間の繁栄は資源の利用や人口に表れているが、一方で生態学的問題も抱えていることを理解する。		
授業の概要	人類の全世界への移動の経緯を概観し、さまざまな環境への適応が人類の多様性を生み出したことを論じる。人は他の生物と同様に生物学的に適応すると同時に、文化を適応の手段とするについて考える。人の適応力の高さや生活様式の変化は人口に表れているが、人口問題も含め人口現象について講じる。ポリビアなどでの現地調査の映像を使用す		
授業計画	【後期】 第1回 序論：人間の生態学について 第2回 多様な環境に暮らす人間 第3回 人類史から見た全世界への移動・拡散 第4回 環境と適応 第5回 生物学的適応について 第6回 人類の多様性 第7回 農耕の起源と生態系への影響 第8回 事例：アンデス高地の環境・人・暮らし 第9回 文化的適応：アンデス高地のジャガイモ加工と適応的意味 第10回 文化的適応：アンデス高地の育児様式をめぐって 第11回 人類の繁栄と人口 第12回 人口現象の把握 第13回 少子高齢化と人口問題 第14回 地球環境問題と生態学 第15回 まとめ		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.
評価方法	試験:85% 平常点:15%		

住環境論	前期 2 単位	1・2年
私たちの生活を取り巻く環境としての建築・都市空間 “built environment”	禅野 靖司（ぜんの やすし）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>私たちの「環境」を構成している建築や都市空間を意識的に認識する眼を養い、観察のテクニックを学び、見たものを自分の言葉で分析して表現する力をつける。そこでまずは、身近な住宅の持つ建築的特性を論じることからはじめ、そこから寺社など歴史的な建築にまで観察の範囲を広げて、日本建築の一般的特徴を、中国・朝鮮半島の伝統建築や、西洋のゴシック建築などと比較することで理解していく。さらにキャンパスの建物や都心の超高層ビルなどに注目して、建築デザインから何を読み取ることができるかを考える。また、建築から都市のレベルへと観察を深化させ、一生モノとなる「読解力」を身に付ける。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>毎回いくつもの建物や街並みの写真を見せ、皆さんにそれぞれの写真を自分の言葉で分析、描写してもらいます。この授業のために一冊のノートを必ず用意し、そこに書くようにして下さい。毎回の授業で使われたいろいろな言葉、表現をノートに記録し、またそれに関する自分の考察を記録することでボキャブラリーを増やし、次回の授業では、それに基づいてより多くの、そしてより豊かな言葉で建築や都市空間を表現できるようになっていきます。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イントロダクション（縁側について考える） 第 2 回 日本の伝統建築の主な特徴（1） 第 3 回 日本の伝統建築の主な特徴（2） 第 4 回 日本の伝統建築の主な特徴（3） 第 5 回 日本の伝統建築の主な特徴のまとめ＋ミニクイズ 第 6 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（1） 第 7 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（2） 第 8 回 構造から見た日本建築と西洋建築の違い＋中間試験 第 9 回 ヨーロッパの石造建築（1） 第 10 回 ヨーロッパの石造建築（2） 第 11 回 キャンパスゴシック 第 12 回 コスプレ建築としてのゴシック調建築 第 13 回 都市空間の特性（1）：キャンパスと都市に見られるバロック空間 第 14 回 都市空間の特性（2）：ランドマーク 第 15 回 総復習 <p>【テキスト】なし 【参考文献】なし</p> <p>注意点： この授業には教科書がありません。配付物を随時渡しますが、基本は授業中に見せる写真と私の説明が全てですから、欠席したり居眠りしていると授業についていけなくなってしまいます。十分注意して下さい。</p> <p>【評価方法】</p> <p>中間試験の結果（全体の30%）と期末試験の結果（全体の50%）によって成績をつけます。残りの20%は出席点です。出席は毎回とるわけではありませんが、一学期で大体8回前後（もしくはそれ以上）取りますから、たまたま全員の出席を取った週に欠席した人の場合は、欠席1回分としマイナス4点にカウントされます。もし5回欠席したら、マイナス20点（100点中）となりますから、その場合は試験で満点を取ったとしても、総合点は80点（30点＋50点＋0点）となります。もちろん全回出席していれば、総合点は100点（30点＋50点＋20点）です。中間および期末試験の時に欠席した場合は、基本的にあとから受けることはできません。もし病気でやむを得ず欠席した場合は、必ず医師の診断書を提出して下さい。</p>		

生活環境論		後期 2 単位	1・2年
環境科学への招待－環境問題を学際的に考える－		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、環境問題を生活者の視点で捉え直し、市民として必要な環境リテラシーと学際的な視野を涵養することを、到達目標とする。そのため、参加体験型学習を重視し、グループ・ディスカッション、環境の実験実習、大学周辺の環境関連施設見学を導入する。		
授業の概要	人間活動の結果として生じた環境問題の現状を概観し、環境問題の解決には自然科学・社会科学・人文科学の諸学問の融合と、市民・科学技術者・行政・企業等の学際的協働が必要であることを、事例を通して学ばせる。その上で、環境問題の解決に向けて我々が何をできるかを考察させる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション-環境科学とは何か?- 第2回 世界の環境問題の歴史- 20世紀後半の欧米を中心に- 第3回 地球環境問題と社会-環境政策を中心に- 第4回 日本の環境問題の歴史-公害と政府・自治体・科学者- 第5回 環境問題の解決へ向けて-学際的な研究と教育- 第6回 環境問題と科学技術者の社会的責任 1 第7回 環境問題と科学技術者の社会的責任 2 第8回 グループ・ディスカッション 第9回 事前学習（環境関連施設の見学） 第10回 環境関連施設の見学 第11回 事後学習（環境関連施設の見学） 第12回 国際機関の取り組み 第13回 青山キャンパスでの気象観測実験 第14回 GISと環境情報 第15回 青山エコ・キャンパス		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	随時、紹介します。
評価方法	平常点:40% 提出物:30% レポート:30%		

環境科学		通年（前期） 4 単位	1・2年
環境科学の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	環境と調和した社会を築くためには、環境の科学的な理解が不可欠です。ここでは大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の化学的メカニズム、健康被害、浄化対策、また一般廃棄物、産業廃棄物、特に化学物質の処理、リサイクル等について、その基礎を理解できるよう講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。はじめに環境問題の背景にある急速な人口増加、食料や資源・エネルギー確保といった問題について説明し、ついで主に我が国の公害・環境問題を具体例として大気、水質、土壌汚染について、そのメカニズム、健康被害、浄化対策を、また廃棄物問題とその対策について説明します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 環境科学入門 第2回 人口問題、食糧問題 第3回 資源・エネルギーと環境 第4回 自然の浄化作用 第5回 環境汚染物質 第6回 大気汚染（ガス） 第7回 大気汚染（エアロゾル） 第8回 大気汚染（二次汚染質） 第9回 水質汚濁（河川・湖沼） 第10回 水質汚濁（海洋） 第11回 水質汚濁（上水・下水） 第12回 土壌汚染（農薬など） 第13回 土壌汚染（重金属） 第14回 廃棄物とリサイクル 第15回 化学物質の健康影響・安全管理		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）、世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

環境科学		通年（後期）	1・2年
地球環境問題の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	産業革命以後、人間活動は際限なく拡大し、地球全体に影響を及ぼすようになってきました。そして我々は地球温暖化、海洋汚染、希少生物の絶滅等地球規模の環境問題に直面しています。ここでは個々の地球環境問題に関するメカニズム、影響、対策、将来予測等について、その基礎を理解できるよう講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。まず地球大気の構造について説明し、その上で地球温暖化・オゾン層破壊について説明します。また酸性雨、海洋汚染、放射能汚染等について説明するとともに、それらに関連する化学物質の観測方法、データの見方等についても説明します。		
授業計画	【後期】 第1回 大気構造 第2回 地球温暖化の現状、温室効果 第3回 地球温暖化の将来予測 第4回 二酸化炭素の観測・監視 第5回 オゾン層破壊－オゾンの生成・消滅反応 第6回 オゾン層破壊－フロンガスの影響、オゾンホール 第7回 酸性雨－生成メカニズム 第8回 酸性雨－現状 第9回 海洋汚染 第10回 放射能汚染 第11回 熱帯雨林の破壊 第12回 砂漠化 第13回 生物多様性 第14回 環境と調和した暮らし方 第15回 省エネルギー・新しいエネルギー		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）、小島次雄・川平浩二・藤倉良「これからの環境科学」（化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

基礎化学		後期 2 単位	1・2年
化学の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	身近な衣食住に関わる物質の性質を化学の目で見られるよう、化学の基礎－元素の周期律、化学結合等－を分かりやすく解説します。また物質が違って共通にみられる気体・液体・固体の性質、さらに生活との関係が深く、極めて多種多様な化合物を包含する有機化学の基礎についてやさしく解説します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。原子の電子構造から元素の周期律を学び、さらに化学結合を学びます。物質の三態（気体・液体・固体）及び希薄溶液やコロイドの性質を学んだ後、有機化学の基礎を学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 原子、元素 第2回 同位体 第3回 元素の周期表 第4回 原子の電子構造 第5回 化学結合－イオン結合 第6回 化学結合－共有結合 第7回 物質の三態－気体の状態方程式 第8回 物質の三態－液体・希薄溶液の性質 第9回 物質の三態－コロイド 第10回 物質の三態－固体・結晶 第11回 有機化合物－分類 第12回 有機化合物－構造・異性体 第13回 有機化合物－反応 第14回 低分子有機化合物 第15回 高分子化合物		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	長島弘三・富田功著「一般化学（三訂版）」（裳華房）
評価方法	時々の小テスト:50% 試験:50%		

基礎食品学		前期 2 単位	1・2年
食品と食品栄養素学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	栄養成分だけではなく非栄養素まで含めた食品成分を理解し健康的なまた調理にも適した食品が選べるように。食品調理加工において、食品成分がどのように変化しどのような特性を得ているのかを理解し、理論を説明できるように。適切な貯蔵法も選べるようにする。以上より安全で健康な食生活を提示できるようにすることが全体のテーマである。		
授業の概要	始めに食品構成成分を理解し、次に植物性食材や動物性食材の組成を説明することで各食材の特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につける。流通加工における組成組織の変化を学ぶ中で、商品の見分け方保存方法栄養学的に見た加工調理法も学びとる。最後に流通と表示を中心に、法律と政策を学び食生活の多方面な知識を得総合的に食品を見据		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 原子の構造と元素、分子の分類から、食成分の特性を俯瞰</p> <p>第2回 水の性質を知り食品全体の性質と加工貯蔵との関連も学ぶ</p> <p>第3回 炭水化物、脂質、タンパク質と、食品中の多量成分を扱う</p> <p>第4回 灰分ビタミンと有害成分等微量成分の人への影響を学ぶ</p> <p>第5回 動植物生育の条件と食品保蔵方法を扱い次に微生物も学ぶ</p> <p>第6回 畜肉とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第7回 卵牛乳とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第8回 魚介類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第9回 豆イモ類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第10回 穀物とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第11回 野菜とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ</p> <p>第12回 果物海藻類とその加工品を扱い購入保存法調理加工も学ぶ</p> <p>第13回 食品関係の法律と行政政策を扱い生活を組み立てられる様</p> <p>第14回 安全性確保の為に試験法と食品添加物を扱い見解を学ぶ</p> <p>第15回 食品流通の実態と食品表示を学び商品の選択ができる様に</p>		
テキスト	食品学 I 五十嵐脩編 光生館	参考文献	ヒューマンニュートリション (医歯薬出版)、食品安全ハンドブック (丸善)、食品技術総合辞典 (朝倉書店)、食品大百科事典 (朝倉書店)
評価方法	到達度を期末試験で:70% 授業の積極的な参加:30%		

応用食品学		後期 2 単位	1・2年
味、香り、色、食感と健康の食品学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	理は生活の中で大きな位置を占め、また食事では加工食品の利用も多い。この講義では、調理や加工によって、食品の特性がどのように付与されてゆくかを学び取り、また、その特性を保持するために、なぜどのような保蔵方法を取るべきかを学び、それらによって健康な体の養成と食生活を営むことができるようにする。		
授業の概要	始めの5回の講義では、味、色、匂いなどの成分が何であり、どのように生成されるのか、どのような意味を持つのかを理解する。次の4回の講義では、食感がどのように生じ、どのようにコントロールして特性を持たせ、意味のある食品とするかを学ぶ。次の6回では、安全性と保蔵について扱い、安全な食品の選定について理解できるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 食品の構成成分と機能</p> <p>第2回 食品の味、呈味成分1 甘味を中心として</p> <p>第3回 食品の味、呈味成分2 旨味、酸味を中心として</p> <p>第4回 食品の色、色素成分</p> <p>第5回 食品の匂い、匂い成分</p> <p>第6回 食品の物性1 デンプンとデンプン食品 パン等</p> <p>第7回 食品の物性2 チーズ、ヨーグルトの乳製品</p> <p>第8回 食品の物性3 蒲鉾と豆腐など</p> <p>第9回 食品の物性4 脂質の乳化</p> <p>第10回 毒性物質 外來のもの</p> <p>第11回 毒性物質 食品由来のもの</p> <p>第12回 食品の劣化</p> <p>第13回 食品の保蔵</p> <p>第14回 食品と医薬品 表示事項や食品衛生法と日本農林規格など</p> <p>第15回 日本型食生活など政策からの食生活</p>		
テキスト	1年生 食品学 I 五十嵐脩編 光生館。2年生 アクセス機能成分 (基礎食品学にて使用したもの) または1年生用を使用	参考文献	ヒューマンニュートリション 医歯薬出版、食品安全ハンドブック 丸善、食品技術総合辞典と食品大百科事典 朝倉書店、参考書リストも参考のこと。
評価方法	授業への参加の評価:30% 期末試験:70%		

基礎栄養学		前期 2 単位	1・2年
栄養素の役割と食事摂取基準		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○身体の内部環境の維持と健康の関係を理解する。 ○外部環境の一部である食事・各栄養素の機能・代謝を理解する。 ○日本人の食事摂取基準を理解する。		
授業の概要	外部環境の一部である食事を理解するため糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの化学とそれらの栄養素の消化吸収・代謝およびエネルギー代謝を講義する。また、栄養素以外の水と食物繊維の役割も講義する。		
授業計画	【前期】 第 1回 栄養・栄養素とは 第 2回 糖質の化学と消化吸収／食物繊維の化学 第 3回 糖質の代謝と食事摂取基準 第 4回 糖質の代謝調節／内部環境の維持 第 5回 脂質の化学と消化吸収 第 6回 脂質の代謝と食事摂取基準 第 7回 タンパク質・アミノ酸の化学と消化吸収 第 8回 タンパク質・アミノ酸の代謝と食事摂取基準 第 9回 ロレソツオのオイル 第10回 エネルギー代謝 第11回 臓器別エネルギー代謝 水の機能 第12回 カルシウム・マグネシウム・リンの機能と食事摂取基準 第13回 鉄とその他のミネラルの機能と食事摂取基準 第14回 水溶性ビタミンの機能と食事摂取基準 第15回 脂溶性ビタミンの機能と食事摂取基準		
テキスト	吉田勉ほか著『新基礎栄養学第8版』（医歯薬出版）	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:80% 授業中の小テスト:20%		

実践栄養学		後期 2 単位	1・2年
栄養学を実践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○（若い）女性が陥りやすい栄養に関する疾病を症状、予防、治療の面から理解する。 ○成人女性の「日本食事摂取基準」を理解する。		
授業の概要	はじめに外部刺激に対する神経系、内分泌系、免疫系の調節方法を講義する。その調節系の破綻と病気の関係を講義する。また、病気ではないが、妊娠・授乳期の調節方法を講義する。さらに、食事摂取基準、食事療法、食品選択、調理方法の注意点・工夫・献立例など栄養知識の実践方法を講義する。		
授業計画	【後期】 第 1回 女性ホルモン変化と身体組成の変化 第 2回 成人女性の食事摂取基準 第 3回 ダイエット 1 失敗例に学ぶ 第 4回 ダイエット 2 神経性食欲不振 第 5回 ダイエット 3 ダイエットの意味とダイエット食 第 6回 ダイエット 4 ダイエット食献立作成と運動 第 7回 皮膚、毛髪と栄養 第 8回 便秘 第 9回 脂肪肝、高脂血症 第10回 貧血、生理不順 第11回 低血圧（冷え）、妊娠中毒症 1（高血圧） 第12回 むくみ、妊娠中毒症 2（浮腫） 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート結果と討論		
テキスト	特に定めず、配布資料を参考とする。	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 授業中小テスト:20%		

栄養生理学		後期 2 単位	1・2年
食事と臓器・組織の応答		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○食欲を通して感覚。記憶などの高次神経機能の一端を理解する。</p> <p>○消化吸収、代謝、循環、運動、排泄を通して自律神経機能、内分泌機能を理解する。</p> <p>○個体の恒常性の維持しながらも生理的变化として現れる老化について、遺伝・環境因子から理解する。</p>		
授業の概要	外部環境の1つである食事の変化に対して、内部環境を維持するために、生体がどのように応答するかを諸臓器の機能を通して講義する。映像資料も活用する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 生命と水</p> <p>第2回 内分泌系概説</p> <p>第3回 自律神経系概説</p> <p>第4回 食欲/脳の感覚・記憶機能</p> <p>第5回 摂取/歯・唾液・味覚・嚥下機能</p> <p>第6回 消化管/消化吸収機能・生体防御1機能</p> <p>第7回 肝臓の機能(体内の化学工場)</p> <p>第8回 脂肪細胞機能1 エネルギー貯蔵と肥満</p> <p>第9回 脂肪細胞機能2 ダイエットということ</p> <p>第10回 筋肉と骨格の機能</p> <p>第11回 身体(筋肉と骨格)つくりと栄養・運動および休養の役割</p> <p>第12回 心臓機能と血液機能</p> <p>第13回 腎臓機能と尿</p> <p>第14回 癌予防</p> <p>第15回 リズム(概日、月、季節、年など)と栄養</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する・	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:80% 授業中の小テスト:20%		

調理文化		後期 2 単位	1・2年
食文化論		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>食文化と宗教や思想の関連を理解する。食文化を歴史の中で考える。</p> <p>食文化と自然環境の関連を理解する。マナーや社交性について理解する。</p> <p>現代における食文化の問題点を理解する。</p>		
授業の概要	講義を中心とし、コメントを書いて提出する。映画、絵画、文学などにふれて、考えたことを文章にする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 現代日本の食文化の特徴と問題</p> <p>第2回 食文化の見方</p> <p>第3回 神話と食文化</p> <p>第4回 食のタブー</p> <p>第5回 宗教と食文化～ユダヤ教とキリスト教</p> <p>第6回 宗教と食文化～禅</p> <p>第7回 宗教と食文化～イスラーム</p> <p>第8回 風土と食文化</p> <p>第9回 食文化の異文化交流</p> <p>第10回 マナーと文明化</p> <p>第11回 グルメの誕生</p> <p>第12回 質素と贅沢、断食と飽食</p> <p>第13回 食文化の身体性と精神性</p> <p>第14回 酒とコーヒーと茶</p> <p>第15回 現代の食の風景</p>		
テキスト	文章を配布する。画像や映画を鑑賞する。	参考文献	図書館資料を紹介する。
評価方法	授業コメント:40% レポート(複数回):30% 試験:30%		

衣裳文化		前期 2 単位	1・2年
着ることの意味を文化史的に問う		野口 ひろみ (のぐち ひろみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	時代や文化によって違う衣服のありようを、表現の観点から整理し、理解する。		
授業の概要	まず、衣服が人間にとってどんな意味をもって成立しているのかを分析し、衣服が実用的な存在であるのと同時にさまざまな意味において人間の表現を担うものであることを理解する。次に、古今東西さまざまな文化の中でいろいろな形で現れた衣服を、画像資料によって知り、表現の観点から考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 着るものを表す言葉 第2回 衣服の意味 第3回 表現としての衣服 第4回 服飾の形態1 ギリシャの衣服 第5回 服飾の形態1 マント 第6回 服飾の形態2 ビザンチンの衣服 第7回 服飾の形態2 日本の衣服 第8回 服飾の形態3 近世以降の洋服の変遷 第9回 服飾の形態3 武家服飾 第10回 形態の表現1 ドレープ 第11回 形態の表現2 面 第12回 形態の表現3 形態感の強調 第13回 形態の表現4 装飾部分① 襟・曳き裾 第14回 形態の表現4 装飾部分② 袖・帯 第15回 服飾の表現 まとめ		
テキスト	特に定めない。画像資料のプリントを配布する。	参考文献	谷田開次・石山彰『服飾美学・服飾意匠学』（光生館） その他図書館にある服飾事典の類を参考にするとよ
評価方法	試験:70% レポート:20% 平常点:10%		

被服構成論		後期 2 単位	1・2年
被服構成論		植竹 桃子 (うえたけ ももこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○被服と社会生活との関わりおよび被服と人体との関係を理解し、衣生活を合理的に計画し、適切に設計・選択・着装することができるようになる。 ○現代の衣生活の長所や問題点を捉え、今後の社会を支える立場から、現代の衣生活が抱える課題を明確化できるようになる。		
授業の概要	基本的な知識として、人間生活の中で果たしてきた被服の機能、人体の形態的要因と被服との関係を理解する。次に、被服の着用感、着用者の年齢層や身体的・社会的状況に適応した被服環境の設計について理解し、それぞれに望まれる要件を考える。教材の中には和服と既製衣料品も取り入れ、日本文化の維持・継承および現代生活に即した学びを目指す		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 現代生活における被服の機能 第2回 被服行動の原則 第3回 被服の構造 (1) 被服の祖型 (2) 和服と洋服 第4回 人体形態の計測法 第5回 人体形態と衣服原型 第6回 衣服原型から衣服パターンへのデザイン展開 第7回 被服の動作適合性 第8回 被服圧の人体への影響・効果 第9回 乳幼児用被服 (1) おむつの装着感 第10回 乳幼児用被服 (2) 成人用被服との相違点 第11回 ユニバーサルファッション 第12回 既製衣料品 (1) 企画・設計・生産 第13回 既製衣料品 (2) 流通・処分経路 第14回 既製衣料品 (3) サイズ規格 第15回 まとめ		
テキスト	衣服製作の科学 (松山容子編著, 建帛社)	参考文献	特になし
評価方法	中間提出物:20% 試験:80%		

生活文化論		後期 2 単位	1・2年
豊かに生きるために住空間を考える		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	多様化している現代の生活様式のもと、利便性や安全性を備え、健康的で快適な、かつ環境に配慮した住まいのあり方を学ぶ。人間生活のベースとなる住空間への意識を高め、問題を見出し、考える力を養うことが目標。「真の豊かさとは」をテーマに、豊かな人間社会の形成において住居が果たす役割を認識し、実現するために何をすべきかを問う。		
授業の概要	まず住まいの役割、構造の基本知識を共有し、インテリアの構成要素の中から特に光と空間の関わりをとり上げる。次に20世紀を代表する住宅建築を写真と図面により学ぶ。さらに日本の住まいの変遷をなぞり、住生活の今日的な諸問題について考える。最後に理想の住まいについて各人がプランを提示する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 住まいとは：住まいと風土／住まいの機能／住まいの空間 第2回 住まいの構造1：住要求と居住性／住宅平面要素 第3回 住まいの構造2：インテリアとエクステリア 第4回 住空間と光1：自然光／透光不透視 第5回 住空間と光2：照明／器具とライティング 第6回 20世紀の住宅建築1：マッキントッシュ、ライト 第7回 20世紀の住宅建築2：リートフェルト、コルビュジェ 第8回 20世紀の住宅建築3：アアルト、イームズ、ミース、他 第9回 日本の住まい1：歴史／地域性／西洋との比較 第10回 日本の住まい2：1950年代以降の生活様式／集合住宅 第11回 日本の住宅建築1：吉村順三、中村好文 第12回 日本の住宅建築2：安藤忠雄、他 第13回 住まいと環境問題 第14回 理想の住まい：プランニング 第15回 理想の住まい：プレゼンテーション／まとめ		
テキスト	資料を配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 提出物:20% 定期試験:50%		

デザイン文化論		後期 2 単位	1・2年
デザイン史に学ぶ		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代はものが豊かにあふれており、それらは全てデザインされている。近代以降の西洋における産業の発達の中で、時代や社会の諸相を反映してきたデザインの歴史を学ぶことを通じて、現代の社会が直面している問題に関心を持ち、考える視座を得ることを目標とする。また良い作品をみて感性を磨くこと、見る目を養うことを目指す。		
授業の概要	19世紀半ばから20世紀半ばまでのヨーロッパ、アメリカ、日本を中心に、特徴のある優れた作品をスライドで見ながら、地域、時代ごとのデザインの変遷を学んでいく。また受講者が日常生活の中でデザインを意識することを目的とするアンケートや授業の内容に対するリアクションペーパーを用いて、コミュニケーションをはかりながら進めていく		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入／産業革命前後／講師の作品紹介 第2回 ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 第3回 アール・ヌーヴォー 第4回 グラスゴー派／19世紀のメディア環境 第5回 ウィーン工房／ドイツ工作連盟 第6回 パウハウス 第7回 デ・ステイル／ロシア・アヴァンギャルド 第8回 アール・デコ／アメリカの近代化 第9回 アメリカのインダストリアルデザイン 第10回 ミッドセンチュリー／グッドデザイン運動 第11回 イタリアのデザイン 第12回 北欧のデザイン 第13回 日本のデザイン (明治から第二次世界大戦まで) 第14回 日本のデザイン (戦後の高度経済成長の中で) 第15回 現代社会とデザイン／まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布	参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	平常点:30% 提出物:20% 定期試験:50%		

色彩形態論		前期 2 単位	2年
造形表現の基礎を講義と演習をとおして学ぶ。色彩効果と色彩計画を理解する。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高める。基礎演習Cでは、造形の3要素（色、形、素材・質感）のうち主に色彩について学ぶ。色彩のもつ基本的な視覚効果を理解し、身近な色彩計画に含まれる要素が指摘できるようになることを目標とする。		
授業の概要	色彩と形の組み合わせによって生じる視覚効果を観察する。色は隣り合う色によって見え方が変わるので、色紙でサンプルを作り確認する。動植物に見られる色彩の豊かさや身近な色彩設計の事例についてはスライドで紹介する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス／ヴィジュアルコミュニケーションとは 第2回 造形の3要素とその中の色彩について 第3回 光と色の性質 第4回 色彩の対比効果 第5回 色彩の同化作用 第6回 同系色の調和 第7回 反対色の組み合わせ 第8回 錯視と補正 第9回 色彩の微調整 第10回 形の微調整 第11回 色彩計画の方針 第12回 表示のデザイン 第13回 身近な色彩と形体-1 第14回 身近な色彩と形体-2 第15回 まとめ		
テキスト	テキスト：『デザインの色彩』（日本色研）	参考文献	特になし
評価方法	サンプル制作:20% 平常点:20% レポート:60%		

生活用具論		前期 2 単位	1・2年
道具やシステムの理解と使いこなす工夫		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 生活のさまざまな場面に登場する道具について詳しく観察し、道具のデザインと使い方のライフスタイルを把握する。 道具やシステムとの関わり方によってものが変わっていくプロセスを理解する。 		
授業の概要	身近な道具と専門的なシステムを交互に紹介しながら、設計とデザイン、使い方の基本を示していく。また、生活の一場面についてどのように工夫・改善できるかを考えてもらい、集まった考えを比較評価する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション／人と道具の関係 第2回 生活行動の観察 (1) 道具を使う目標と使った結果 第3回 生活行動の観察 (2) 自分でする・人に任せる 第4回 生活行動の観察 (3) 動物と人間を比べる 第5回 デザインの方針 (1) 目的・状況に応じた形と空間 第6回 デザインの方針 (2) 実用性に留まらないデザイン 第7回 デザインの方針 (3) 合理的なデザインとは 第8回 事例の比較観察 (1) わかりやすい表示 第9回 事例の比較観察 (2) わかりにくい道具やシステム 第10回 事例の比較観察 (3) 大切な記憶と道具 第11回 比較考察 (1) 安全性 第12回 比較考察 (2) 自動化 第13回 比較考察 (3) アンスト 第14回 比較考察 (4) デザインの寿命 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 平常点:20% レポート:60%		

日本史		通年（前期）	4 単位	1・2年
私たちと近代史		小林 瑞乃（こばやし みずの）		
授業の到達目標 及びテーマ	明治以後の変化について、社会・思想・政治・経済など様々な角度から考察する。第1に人々の思いや生活といった観点から歴史を解くと何が見えてくるのか。第2に国家と社会、国際問題、アジアとの関係など現状の課題を歴史的経緯の中で理解する。この2つを軸に、近代日本の歩みを身近な視点かつグローバルな視野から通観できるようにする。			
授業の概要	重要なテーマを中心に時代状況と問題を探求し、歴史の推移やその特質を多面的に考察する。文献や映像など様々な資料を用いて学びを深め、今日的課題を考えていく。毎回授業の感想や意見等を所定用紙に記入・提出し、参加意欲や理解度をみながら授業を進める。後半に1回レポート提出を課す。			
授業計画	【前期】 第1回 序論：歴史・社会・人間 第2回 世界史の中の明治維新 第3回 文明開化と民衆 第4回 国境の確定と周辺諸国 第5回 琉球から（沖縄）へ 第6回 蝦夷から（北海道）へ 第7回 自由民権運動 第8回 日清・日露戦争 第9回 戦後の経済と社会状況 第10回 韓国併合 第11回 第一次世界大戦 第12回 大戦期の日本とアジア 第13回 国際協調の時代へ 第14回 大正デモクラシー 第15回 まとめ			
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義のテーマに合わせて随時紹介する	
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%			

日本史		通年（後期）	1・2年
私たちの近現代史		小林 瑞乃（こばやし みずの）	
授業の到達目標 及びテーマ	大正から昭和の歴史について、社会・思想・政治・経済など様々な角度から考察する。第1に人々の思いや生活といった観点から歴史を解くと何が見えてくるのか。第2に国家と社会、国際問題、アジアとの関係など現代的課題を歴史的推移の中で理解する。この2つを軸に、近現代史を身近な視点かつグローバルな視野から通観できるようにする。		
授業の概要	重要なテーマを中心に時代状況とその問題を探求し、歴史の推移やその特質を知る。文献や映像など様々な資料を手がかりに歴史をみる力を養い、今日的課題を考える。毎回授業の感想や意見等を所定用紙に記入・提出し、参加意欲や理解度をみながら授業を進める。後半に1回レポート提出を課す。		
授業計画	【後期】 第1回 明治から大正へ 大きな流れをつかむ 第2回 民衆運動の展開 第3回 植民地の諸問題 第4回 世界恐慌と日本経済 第5回 関東大震災 第6回 満州事変と軍部の台頭 第7回 国家主義教育と子どもたち 第8回 日中戦争から太平洋戦争へ 第9回 戦線の拡大と「大東亜共栄圏」 第10回 戦争と人間①「健康」の推進 第11回 戦争と人間②戦場の兵士たち 第12回 戦争の終結と占領政策 第13回 戦後日本の出発 第14回 現代社会の中で 第15回 まとめ		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義のテーマに合わせて随時紹介する
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%		

西洋史		通年（前期）	4 単位	1・2年
西洋宗教社会史（17世紀から19世紀）		西願 広望（せいがん こうぼう）		
授業の到達目標 及びテーマ	日本人は信心深い。8千万人が初詣をする。驚愕の現象だ。自動車には交通安全のお守りをつるす。自衛隊は潜水艦の絵馬を金毘羅に奉納する。寿司屋には神棚がある。高層ビルを建てるのに地鎮祭をする。受験の前に神社に行く。縁起をかつぐ。男の子に愛の告白をする前に占いを見る。何故だ？西洋史を学んで、日本人の精神世界を相対化しよう。			
授業の概要	国王と教皇の権力争い、革命下での聖像破壊、悪魔憑き、天使出現の奇跡、魔女狩り、性愛にこだわる「セックス偏執狂」の教会などを、変にカタクなく、妙にマジメすぎることなく、面白おかしく、なおかつクールな論理性を大事にして提示したい。重要なのは暗記よりも、科学的分析だ。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 カトリシムの政治制度的没落 -王国の宗教- 第2回 カトリシムの政治制度的没落 -王国の宗教- 第3回 カトリシムの政治制度的没落 -革命後- 第4回 カトリシムの政治制度的没落 -革命後- 第5回 カトリシムの政治制度的没落 -ライシテの誕生- 第6回 カトリシムの政治制度的没落 -ライシテの誕生- 第7回 非キリスト教化の歴史 -数量的分析- 第8回 非キリスト教化の歴史 -数量的分析- 第9回 非キリスト教化の歴史 -推進要因- 第10回 非キリスト教化の歴史 -推進要因- 第11回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -制度改革- 第12回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -制度改革- 第13回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -18世紀の宗教熱- 第14回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -19世紀の民間信仰- 第15回 予備日			
テキスト	特になし。資料を授業中に配布する。	参考文献	適宜、授業中に紹介する。	
評価方法	講義感想文（4回）：60% 期末レポート：40%			

西洋史		通年（後期）		1・2年
西洋メディア史（17世紀から20世紀）		西願 広望（せいがん こうぼう）		
授業の到達目標 及びテーマ	西洋近現代史におけるマスメディアの役割を考える。歴史学の方法を用いてメディアと政治・社会・人間の知覚との関係を明らかにし、学生のメディアリテラシーを高め、メディアが現代人に及ぼす影響を考察する。また西洋史Bは西洋史Aの続編とも言える。西洋史Aで扱った宗教とメディアは重要な関係にある。その関係が西洋史Bで明らかとな			
授業の概要	18世紀の地下出版、19世紀の新聞小説、20世紀のハリウッド・スター等を扱う。また今日の連載漫画・コンピュータゲーム、携帯電話、インターネットと過去のメディアの比較も行う。（いつも笑ってばかりいますが、実は学問を尊敬する教師ですので、一生懸命学ぶ気のない学生は履修しないことをオススメします。あ、ちょっとこわかったかし			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前近代における出版業界（18世紀後半） 第2回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第3回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第4回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第5回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第6回 産業革命の影響（19世紀） 第7回 産業社会における著者・テキスト・読者（19世紀） 第8回 産業社会における著者・テキスト・読者（19世紀） 第9回 コミュニケーション網の整備（19世紀後半から20世紀初頭） 第10回 新聞の黄金期（19世紀後半から20世紀初頭） 第11回 映画（20世紀） 第12回 映画（20世紀） 第13回 映画（20世紀） 第14回 ラジオ（20世紀） 第15回 予備日			
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。	
評価方法	講義感想文（4回）：60% 期末レポート：40%			

英国史		通年（前期）	4 単位	2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——古代から近世まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）		
授業の到達目標 及びテーマ	古代から近世にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。			
授業の概要	近世までのイギリス史を取り上げる。イギリスが島国国家として統一される16世紀までの歴史を概説したのち、16世紀以降の各時代に活躍した歴史上の女性に焦点を合わせながら、国教会体制の成立、連合王国の成立、科学革命、名誉革命、議会制度の形成、出版文化の繁栄などのイギリス史の流れをたどる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODククシヨン：イギリス史を学ぶ意味 第2回 概説：16世紀までのイギリス 第3回 エリザベス1世：英国国教会体制の確立 第4回 『エリザベス』：宗教対立の時代 第5回 メアリ・ステュワート：連合王国の成立過程 第6回 マーガレット・キャヴェンディッシュ：17世紀の科学革命 第7回 『ハリー・ポッター』から：錬金術・科学・ジェンダー 第8回 メアリ・アステル：18世紀の啓蒙と宗教 第9回 フィリス・ウィートリー：アメリカ独立と奴隷貿易 第10回 デヴォンシャー公爵夫人：議会政治の形成過程 第11回 『ある公爵夫人の生涯』：貴族の政治と文化 第12回 メアリ・ウルストンクラフト：革命とフェミニズム 第13回 ジェイン・オースティン：近代小説の成立過程 第14回 『いつか晴れた日に』：女性にとっての結婚 第15回 まとめ			
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。	
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%			

英国史		通年（後期）	2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——近代から現代まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近代から現代にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。		
授業の概要	イギリスの近現代史を取り上げる。19世紀から21世紀までの各時代を代表する女性の活躍に迫りながら、イギリスが大英帝国として世界各地に勢力を広げていく過程と、その時期の国内の政治、社会、文化の動き、さらに帝国支配終焉後のイギリスの独自の発展の過程を跡づける。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODククシヨン：19世紀以降のイギリス 第2回 ヴィクトリア女王：大英帝国の繁栄 第3回 シャーロット・ブロンテ：ヴィクトリア時代の道徳規範 第4回 『ジェイン・エア』：ガヴァネスとしての女性 第5回 フローレンス・ナイティンゲール：戦争と看護の専門化 第6回 アンナ・レオノーウエンス：大英帝国とその周縁 第7回 『アンナと王様』：オリエンタリズムと帝国主義 第8回 ミリセント・フォーセット：女性参政権運動の展開 第9回 ピアトリクス・ポター：工業化と自然保護 第10回 『ミス・ポター』：女性にとっての家庭 第11回 ヴァージニア・ウルフ：戦間期イギリス社会の変容 第12回 マーガレット・サッチャー：新自由主義の功罪 第13回 『マーガレット・サッチャー』：女性政治家の生き方 第14回 ヴィヴィアン・ウエストウッド：ファッションと文化創造 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%		

美術史		通年（前期）	4 単位	1・2年
ルネサンスの美術		大野 芳材（おおの よしき）		
授業の到達目標 及びテーマ	ルネサンスとして知られる西洋で14世紀頃から始まる新しい美術の表現は、今日の美術の基本を形作った。それは古代ギリシャ・ローマの文芸の復興を目指し、人間をすべての中心とする人文主義を主張でもあった。美術作品を手がかりにしてその内容を具体的に確かめながら、西洋の精神の源流のひとつを理解し、その今日的な意味を検討する。			
授業の概要	毎回西欧のルネサンスの時代に活躍した画家を取り上げて、スライドでそれぞれの画家や作品の特徴を考える。古代ギリシャ・ローマや中世の美術と比較するとともに、後の時代への影響を考える。授業の中で、近くの美術館見学も行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：ルネサンスとは何か 第2回 中世のキリスト教美術 第3回 ジョットの革新 第4回 1401年のコンクール：フィレンツェとルネサンス 第5回 マザッチョとフラ・アンジェリコ：ふたりの宗教画家 第6回 ファン・エイク：ネーデルラントのルネサンス 第7回 ポッティチェリ：神話画 第8回 レオナルド・ダ・ヴィンチ 第9回 ラファエッロ 第10回 ミケランジェロ 第11回 ボスとブリューゲル：ネーデルラントの展開 第12回 ティツィアーノとヴェネツィアの美術 第13回 マニエリスム：新しい展開 第14回 まとめ 第15回 美術館見学（授業の中で期日を指定）			
テキスト	特に教科書は用いない。	参考文献	高階秀爾・遠山公一編著『ルネサンスの名画101』新書館/『世界美術大全集』小学館など。講義のなかで紹介します。	
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%			

美術史		通年（後期）	1・2年	
ロマン主義から印象派へ		大野 芳材（おおの よしき）		
授業の到達目標 及びテーマ	18世紀末のフランス革命と、イギリスで始まった産業革命は西欧の政治経済のみならず文化にも大きな影響を及ぼした。王侯貴族や教会の権威の没落は、美術の世界では一般の大衆が鑑賞者として登場する機会になったのである。多くの美術家の活動を、新しい社会の構造の中で理解することを目標にしたい。			
授業の概要	西欧の19世紀から20世紀初頭の美術の動向を、毎回スライドで作品を見ながら具体的に検討する。それぞれの画家たちが当時どのように評価されていたか、今日の評価とそれはどう違うか、などを考えながら、社会と芸術家の関係についても考えたい。授業の中で、近くの美術館見学も行う。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：講義の概要と参考文献の紹介 第2回 ダヴィッドとアングル：新古典主義 第3回 ジェリコーとドラクロワ：ロマン主義、美術の革新 第4回 ターナーとフリードリヒ：イギリスとドイツの美術 第5回 ゴヤ：ふたつの「マハ」とスペイン美術 第6回 コローとミレー：「想い出」シリーズと「落ち穂拾い」 第7回 ラファエロ前派：イギリスの革新 第8回 クールベとマネ 第9回 1874年、第1回印象派展 第10回 モネとルノワール 第11回 ゴッホとゴーガン 第12回 ロダンと彫刻 第13回 セザンヌ 第14回 マチスとピカソ：まとめに替えて 第15回 美術館見学（講義のなかで期日を指定）			
テキスト	特に教科書は用いません。	参考文献	『世界美術大全集』小学館、など。講義のなかで紹介します。	
評価方法	レポート(2000字)：70% 授業への取り組み：30%			

社会思想史		通年（前期）	4 単位	1・2年
国家と権力——20世紀における国家システムの形成		輪島 達郎（わじま たつろう）		
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀の前半に、強力に人間を支配するものとして成立した「国家」という巨大システムを、さまざまな観点から検討します。私たちが普段はあまり意識していない国家権力を、歴史を振り返ることをとおして、また私たちの身近にある権力作用の分析をとおして意識化していくことがこの授業の目標です。			
授業の概要	あらゆる階層の人々を「国民」に変え、国家のために動員していく際に、どのような仕掛けが使われたか、まず教育と公衆衛生という観点から考察します。つぎに、おもにメディア支配という視点から、国家が国民をどのように操作していったかを検討します。さらに、家族制度は、国家権力によってどのように構築され、利用されてきたかを考察しま			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 教育と国民の形成(1)—国民国家と国民の形成 第3回 教育と国民の形成(2)—教育と国民の動員 第4回 公衆衛生と優生思想(1)—優生思想の登場とその背景 第5回 公衆衛生と優生思想(2)—ハンセン病問題 第6回 公衆衛生と優生思想(3)—優生保護法と母体保護法 第7回 全体主義と国民の動員(1)—第一次世界大戦と世界史の転換 第8回 全体主義と国民の動員(2)—全体主義の思想と行動 第9回 全体主義と国民の動員(3)—日本の全体主義・歴史と現代 第10回 メディア支配と世論操作(1)—メディア寡占の構造 第11回 メディア支配と世論操作(2)—世論操作の実際 第12回 家族制度と労働の再生産(1)—近代家族の形成 第13回 家族制度と労働の再生産(2)—生殖にたいする国家の支配 第14回 家族制度と労働の再生産(3)—社会保障制度の抱える問題 第15回 総括			
テキスト	授業中にプリントを配布します。	参考文献	授業中に指示します。	
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%			

社会思想史		通年（後期）	1・2年
グローバル化と生活世界		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	「グローバルな資本の支配」という観点から現代社会を分析し、私たちの生活のさまざまな側面に及んでいる「グローバル化」の力を意識化しながら、望ましい社会や生を構想する思考力を養うことがこの授業の目標です。		
授業の概要	まず、グローバル化の構造を決定づけてきた16世紀からはじまるヨーロッパ諸国の植民地支配の構造から検討し、現代における先進国と大企業による世界支配の構図を見ていきます。つぎに、私たちの具体的な生活領域にたいして、この支配がどのように及んでいるかを考察することへと進みます。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 植民地支配の歴史と構造(1)—プランテーションと奴隷貿易 第3回 植民地支配の歴史と構造(2)—多国籍企業と途上国の貧困化 第4回 途上国支援の課題(1)—ODAの諸問題 第5回 途上国支援の課題(2)—市民活動の課題 第6回 グローバル化と食生活(1)—食生活のリスク 第7回 グローバル化と食生活(2)—アグリビジネスの農業支配 第8回 グローバル化と食生活(3)—日本における食の課題 第9回 グローバル化とジェンダー(1)—ジェンダーと無償労働 第10回 グローバル化とジェンダー(2)—売春と人身売買 第11回 グローバル化とジェンダー(3)—女性たちの抵抗運動 第12回 グローバル化と文化(1)—文化の多様化？ 画一化？ 第13回 グローバル化と文化(2)—文化の商品化 第14回 グローバル化と文化(3)—アイデンティティの問題 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%		

現代社会と倫理		通年（前期）	4 単位	1・2年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）		
授業の到達目標 及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。			
授業の概要	授業では、さまざまな倫理的立場のうちから、「地域や文化が異なれば善悪の基準も違ってくる（相対主義）」という立場と「善悪とは客観的な事柄ではない（主観主義）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらい、検討したり回答したりする時間を設けます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インロトダクション：倫理について考えること 第2回 文化的相対主義（1）：ヘロドトスが伝えたいこと 第3回 文化的相対主義（2）：文化ごとの生活習慣などの違い 第4回 文化的相対主義（3）：文化や習俗に優劣はない 第5回 道徳相対主義（1）：相対主義を道徳にあてはめてみる 第6回 道徳相対主義（2）：あなたはFGMを許容するか否か 第7回 道徳相対主義（3）：隠された共通性に目を向けること 第8回 倫理的な主観主義（1）：客観的事実ではない道徳 第9回 倫理的な主観主義（2）：主体の感情に基づいた道徳 第10回 情緒主義（1）：道徳判断とは何をしていることなのか 第11回 情緒主義（2）：感情の表れとしての道徳判断 第12回 情緒主義（3）：態度を報告すること・表明すること 第13回 指令主義（1）：命令としての道徳判断 第14回 指令主義（2）：道徳の客観性・普遍性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること			
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	坂井昭宏・柏葉武秀（編）『現代倫理学』ナカニシヤ出版、2007年；赤林朗（編）『入門・医療倫理Ⅱ』勁草書房、2007年。	
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%			

現代社会と倫理		通年（後期）	1・2年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。		
授業の概要	授業では、「自分がすべきことは自分が一番よく知っている（利己主義）」という立場、「多くの人が幸せになることが善いことだ（功利主義）」という立場、「すべきことは端的にしなければならない（義務論）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらいます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インロトダクション：倫理について考えること 第2回 心理的利己主義（1）：自分の利益になることをする 第3回 心理的利己主義（2）：行動を利己的に解釈する 第4回 心理的利己主義（3）：心理的利己主義の問題点 第5回 倫理的利己主義（1）：ふたつの利己主義の違い 第6回 倫理的利己主義（2）：利己主義から利他主義を考える 第7回 功利主義（1）：最も多くの人が最も幸せになるように 第8回 功利主義（2）：結果がよければいいのだろうか 第9回 行為功利主義と規則功利主義：ふたつの功利主義 第10回 規則功利主義（1）：何が功利的であるのか 第11回 規則功利主義（2）：功利主義から考える道徳的普遍性 第12回 義務論（1）：どんなときでも嘘をついてはいけないか 第13回 義務論（2）：端的にすべきである 第14回 義務論（3）：義務論から考える道徳の個性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること		
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	児玉聡『功利主義入門』ちくま新書、2012年；田中朋弘『文脈としての規範倫理学』ナカニシヤ出版、2012年。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

比較文化論		通年（前期）	4 単位	1・2年
自然と芸術		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	「自然と芸術」をめぐる思想を歴史的背景を考慮しつつ理解する。 「自然に学ぶ」ということの多様なあり方を考える。 ヨーロッパと中国・日本の芸術思想を比較する。			
授業の概要	講義を中心とする。講義を踏まえて、考えたことをコメントとして提出する。 「芸術と自然」に関する文章を読む。 画像やDVD、図書館の画集などを実際に見る。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 「自然と芸術」について 第2回 美術のはじまり～先史時代の美術 第3回 神話における自然と芸術 第4回 ギリシアの古代哲学における芸術と自然 第5回 キリスト教の自然観と芸術 第6回 中国の自然哲学と山水画 第7回 レオナルド・ダ・ヴィンチにおける自然と芸術 第8回 近世オランダにおける自然と芸術～DVD「オランダの光」 第9回 ロマン主義哲学と芸術 第10回 ロマン主義の絵画 第11回 ゴッホと日本 第12回 パウル・クレーにおける自然と芸術～クレーの日記 第13回 クレーにおける自然と芸術～作品 第14回 抽象絵画と自然 第15回 現代美術における自然			
テキスト	文章を配布する。 画像、DVDを教室で鑑賞する。	参考文献	図書館の蔵書のなかから紹介する。	
評価方法	コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%			

比較文化論		通年（後期）		1・2年
ヨーロッパ文化と日本文化		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	来日したヨーロッパ人の眼に映った日本文化を考察する。 ヨーロッパ文化と日本文化の出会いの時代背景を理解する。 現代文明と伝統的な日本文化・ヨーロッパ文化を比較する。			
授業の概要	時代背景や文化の背景を講義する。 来日ヨーロッパ人の日本紀行・旅行記や手紙を直接読み、理解する。 ほぼ毎回、講義を聴いて考えたことについてコメントを提出する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ヨーロッパ文化と日本文化の比較について 第2回 マルコ・ポーロと「東方見聞録」 第3回 大航海時代～コロンブスとラス・カサス 第4回 ロヨラとイエズス会 第5回 フランシスコ・ザビエルと日本 第6回 フロイスの「日欧文化比較」 第7回 さまざまなイエズス会士と日本 第8回 「南蛮文化」 第9回 キリスト教と日人～キリシタン 第10回 江戸時代とヨーロッパ～ケンベルの日本論 第11回 ヅェンペリーの日本旅行記 第12回 新井白石と「世界」 第13回 蘭学について 第14回 シーボルトと日本 第15回 幕末明治の来日欧米人の見た日本			
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』	
評価方法	授業コメント:40% レポート（複数回）:30% 試験:30%			

異文化間コミュニケーション		通年（前期）	4 単位	2年
異文化コミュニケーションの基本的理論を学ぼう		横溝 環（よこみぞ たまき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションの基本的理論を理解する。 自己および他者への気づきを高め、両者が相互に尊重し合えるような関係を築くことができるようになる。 			
授業の概要	国籍はもとより、ジェンダー、年齢、ひいては個人的特性など、人と人との間に存在する様々な差異を「異文化」として捉え、ある特定の文化に関する知識を学ぶというよりも、文化的枠組みの異なる者同士の関わりに焦点をあてていく。講義とともに、それに関連したエクササイズを行い、さらにグループ討議、全体討議へとつなげていく。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／文化とは</p> <p>第2回 コミュニケーションとは</p> <p>第3回 自分とは</p> <p>第4回 価値観と文化的特徴（1）： クラックホーンとストロッドベック</p> <p>第5回 価値観と文化的特徴（2）：ホフステード</p> <p>第6回 価値観と文化的特徴（3）：トロンベナルス</p> <p>第7回 アイデンティティ</p> <p>第8回 ステレオタイプと偏見</p> <p>第9回 言語および非言語コミュニケーションの特徴および役割</p> <p>第10回 言語コミュニケーション（1）：意味づけ、スタイル</p> <p>第11回 言語コミュニケーション（2）：ポライトネス／準言語</p> <p>第12回 非言語コミュニケーション（1）：表情、視線等</p> <p>第13回 非言語コミュニケーション（2）：ジェスチャー</p> <p>第14回 非言語コミュニケーション（3）：空間とテリトリー</p> <p>第15回 グループディスカッション／まとめ</p>			
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング（改訂版）』三修社 その他、授業時に適宜紹介する。	
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%			

異文化間コミュニケーション		通年（後期）	2年	
諸問題を多面的に捉えた上で解決方法を考えてみよう		横溝 環（よこみぞ たまき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 諸問題を多方面から解釈できるようになる。 異文化に接した時の自らの感情および行動の癖に気づく。 相手を尊重しつつ、自分の考え、感情、権利が主張できるようになる。 			
授業の概要	異文化コミュニケーションに関する基本的理論を、映像、事例研究、ディスカッション（人数的に可能であればロールプレイ、シミュレーションゲーム）など異文化トレーニングの様々な手法を通して、具体的かつ総合的に捉えていく。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス／異文化トレーニング概要</p> <p>第2回 ディスカッションから学ぶ：コンセンサス</p> <p>第3回 映像『ガンホー』（1）：ステレオタイプ</p> <p>第4回 映像『ガンホー』（2）：アイデンティティ</p> <p>第5回 カルチャーショック、協調的問題解決</p> <p>第6回 異文化コミュニケーションスキル：アサーティブ、DIE法</p> <p>第7回 メディアの中の文化（1）：ステレオタイプと社会的現実</p> <p>第8回 メディアの中の文化（2）：記号化された人々</p> <p>第9回 正義とは？：ヒーローと悪役</p> <p>第10回 事例研究から学ぶ</p> <p>第11回 シミュレーションゲームから学ぶ</p> <p>第12回 映像『シャルウィダンス』（1）：ジェンダー他</p> <p>第13回 映像『シャルウィダンス』（2）：コンテクスト他</p> <p>第14回 文化心理学的視点から物事を捉えてみよう</p> <p>第15回 まとめ</p>			
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。	
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%			

アメリカの文化と社会		通年（前期）	4 単位	1・2年
現代アメリカ社会を知る		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ合衆国の成り立ちや、現代アメリカ社会が直面する諸問題を理解する。アメリカに関する情報を理解し、議論できるようにする。また、アメリカ社会の経験と比較することで、私たちが生きる日本社会の特徴や問題を考える視点を身につける。			
授業の概要	多文化社会・政治・経済・外交という4つのテーマに分けて、現代アメリカ社会の特徴と諸問題を明らかにする。講義にくわえて、アメリカの社会問題に関する新聞・雑誌記事を読み、内容を理解して自分の考えをまとめてもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 多文化社会①人種とは何か？ 第3回 多文化社会②移民国家アメリカの生成 第4回 多文化社会③アメリカ先住民 第5回 多文化社会④ジェンダー、セクシュアリティ 第6回 多文化社会⑤宗教 第7回 多文化社会⑥国民統合のメカニズム 第8回 アメリカ政治①大統領 第9回 アメリカ政治②民主主義 第10回 アメリカ政治③保守／リベラル 第11回 アメリカ経済①経済政策と経済学 第12回 アメリカ経済②格差社会 第13回 アメリカ外交①「帝国」としてのアメリカ 第14回 アメリカ外交②日米関係 第15回 まとめ			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%			

アメリカの文化と社会		通年（後期）		1・2年
映画から見るアメリカ社会		後藤 千織（ごとう ちおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀初頭から現代にいたるまで、アメリカ映画のなかでアメリカの人種／エスニシティ・階級・ジェンダー・セクシュアリティがどのように描かれてきたかを理解する。また、映画の中のイメージと「現実の世界」がどのように関係しているのかを考える視点を身につける。			
授業の概要	最初の2回でアメリカ映画の歴史と文化理論を概観し、人種／エスニシティ、階級、ジェンダー、セクシュアリティの4つのテーマに沿って、アメリカ映画の中で多様性がどのように表象されてきたかをたどる。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イン트로ダクション：アメリカ映画と日本 第2回 ハリウッド映画の歴史 第3回 人種・エスニシティ①映画の中の白人性 第4回 人種・エスニシティ②アフリカ系アメリカ人 第5回 人種・エスニシティ③アメリカ先住民 第6回 人種・エスニシティ④アジア系アメリカ人 第7回 人種・エスニシティ⑤ラティノー 第8回 階級①初期の階級の表象 第9回 階級②大恐慌以降の階級表象 第10回 ジェンダー①女性らしさの表象 第11回 ジェンダー②見るということ 第12回 ジェンダー③男性らしさの表象 第13回 ジェンダー④1960年代以降のジェンダー表象 第14回 セクシュアリティ①異性愛／同性愛 第15回 セクシュアリティ②性的革命以降			
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。	
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%			

文化人類学		通年（前期）	4 単位	1・2年
ツーリズム研究の地平 — 移動と場所				
授業の到達目標 及びテーマ	ツーリズム（旅・観光・巡礼）を切り口に、人間は移動を通して場所とどのように関わっているのかについて人類学と結びつけながら考える。ツーリズムにかんする三方向からの問い（実用的、社会科学的、哲学的）を通じて、関連知識と理論的な思考力を身につける。また、これらをつまみ、理解した内容を説得的にまとめ、構成する方法を学ぶ。			
授業の概要	文化人類学は異文化に詳しくなることだけが目的ではありません。扱うトピックは多彩ですが、できるだけ具体的かつ包括的に、自分のものの見方を豊かにすることを目指す学問です。そのことを意識しつつ、事例や関連知識、ものごとの背景の読み解き方、思考の深め方を学びます。グループあるいは各自で発表してもらう機会を設けます。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン - 文化人類学とは？ 第2回 労働と余暇 第3回 観光人類学・観光社会学という視座 第4回 名所旧跡から海や廃墟へ—アトラクションの変遷 第5回 「どこに行くか」から「どう行くか」へ 第6回 世界遺産とランドスケープ 第7回 観光地・巡礼地の作られ方 第8回 観光という商品の作られ方 第9回 世界の巡礼／ツーリズム（1）グループまたは個人発表 第10回 世界の巡礼／ツーリズム（2）グループまたは個人発表 第11回 世界の巡礼／ツーリズム（3）スペインの事例 第12回 世界の巡礼／ツーリズム（4）スペインの事例 第13回 レポートの書き方と議論のしかた 第14回 移動と定住、日常と非日常 第15回 居場所があるとはどういうことか			
テキスト	星野英紀・山中弘・岡本亮輔編（2012）「聖地巡礼ツーリズム」弘文堂	参考文献	授業の中で紹介します	
評価方法	口頭発表:30% リアクションペーパー:20% レポート:50%			

文化人類学		通年（後期）		1・2年
文化人類学的に考える				
授業の到達目標 及びテーマ	○幅広い題材を用いて、文化人類学に特徴的な考え方、とりわけ「ものごとを丁寧に見ること・考えること」を学ぶ ○文化人類学で扱う多彩な問題関心のあいだにある地続きの部分が把握できるようになる ○当講座内容に関連したレポートの書き方（作法、議論、構成の仕方）を身につける			
授業の概要	扱うトピックは各回ごとに異なるが、具体的に徹した内容から少しずつ抽象度の高い内容へと移行しながら授業をすすめる。文化人類学においては「客観的にみて正しい／間違った答え」というものはない。なので、授業の参加者からの積極的な発言を期待する。ペアワークを取り入れたり課題を課すことがある。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン—文化人類学的思考とは 第2回 人類学の出発点とその歴史の概略 第3回 フィールドワークの方法（1）調査の仕方と目的 第4回 フィールドワークの方法（2）事例から思考を組み立てる 第5回 民族誌的映像を見る 「極北のナヌーク」 第6回 民族誌的映像を見る 「ライフ・イン・ア・デイ」 第7回 細かな問題・身近な問題・遠くの問題 第8回 経済と開発—効率や成功の裏側 第9回 アーティファクトと物質性 第10回 集合性とは何か—本質主義と相対主義 第11回 グローバル化と社会変容 第12回 国家—権力と資本主義から考える 第13回 レポートの書き方（1）基本的な作法と議論の仕方 第14回 レポートの書き方（2）議論と構成の仕方 第15回 文化・社会・環境—二つの視点			
テキスト	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業のなかで紹介する。	
評価方法	授業参加貢献度:20% リアクションペーパーと提出物:20% レポート:60%			

現代社会と法律		通年（前期）	4 単位	1・2年
現代社会と法律の基本を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	法律を初めて学ぶ者を対象として、法律の基礎を教える。憲法については、法学として他の講義が開講されているので、それ以外の法律の基礎が中心となる。刑法と刑事法、民法の家族法と財産法の基礎的知識を習得することを目標とする。			
授業の概要	現代社会には多くの社会問題があり、法律はこれらの社会問題を解決するためにある。本講義では、法律の基礎的知識を教えつつ、現代社会に特有の社会問題を取りあげて、講義を進める。講義はなるべく一方的にならないように、受講者と議論をしながら進めたい。積極的参加を希望する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 法律学とはなにか 第2回 法律学基礎の基礎 民事法・刑事法 第3回 法律学基礎の基礎 裁判制度 条文と判例 要件事実論 第4回 犯罪と刑罰 刑事責任と刑事訴訟法 逮捕から裁判まで 第5回 犯罪と刑罰 刑事責任と刑法 構成要件から責任まで 第6回 民法と家族法 家族をめぐる法律の歴史 第7回 民法と家族法 結婚と離婚 第8回 民法と家族法 親子関係と相続 第9回 契約法 契約とはなにか 契約の成立と効力 第10回 契約法 契約の当事者・内容・意思表示 第11回 契約法 現代の契約の諸問題 第12回 損害賠償法 不法行為 交通事故 第13回 損害賠償法 過失責任と厳格責任 第14回 環境法 第15回 情報法 インターネットに関する法律			
テキスト	末川博『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。	
評価方法	授業への積極的参加 :7% テスト:93%			

現代社会と法律		通年（後期）	1・2年	
現代社会と法律の応用編を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会と法律Aでは基礎的な法律的知識を扱ったが、更に発展的に現代における社会問題を学ぶことを目標とする。労働法、消費者法、情報法、環境法など、特別法を中心に現代社会における最先端の法律を学ぶ。			
授業の概要	現代社会には多くの社会問題があり、法律はこれらの社会問題を解決するためにある。本講義では、教科書を使って、労働法、消費者法などに関して現代社会に生じている諸問題に関する法律に関して講義を行う。講義はなるべく一方的にならないように、受講者と議論をしながら進めたい。積極的参加を希望する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 法律学を学ぶために 第2回 法律学の基礎の確認 第3回 働くことに関する法律 労働法とは？ 第4回 働くことに関する法律 雇用機会均等法 第5回 働くことに関する法律 間接差別 第6回 働くことに関する法律 同一労働同一賃金の原則 第7回 働くことに関する法律 子育てに関する法律 第8回 働くことに関する法律 アルバイト・派遣の問題点 第9回 民法・消費者法 民法における契約とは？ 第10回 民法・消費者法 悪徳商法のあれこれ 第11回 民法・消費者法 クーリングオフ 第12回 民法・消費者法 民法における保護の規定 消費者契約法 第13回 民法・消費者法 クレジットカードと三者関係 第14回 民法・環境法 公害 環境アセスメント 地球環境問題 第15回 民法・情報法 インターネットと名誉毀損・プライバシー			
テキスト	副田隆重他著『ライフステージと法』有斐閣アルマ	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。	
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%			

現代社会と経済		通年（前期）	4 単位	1・2年
グローバリゼーションについての考察		秋富 創（あきとみ はじめ）		
授業の到達目標 及びテーマ	21世紀「現代社会」がどのような特徴を持っている社会なのかということ、人類の歴史という長い時間軸の中で認識し、「ほかの時代・空間の社会」における例との比較を試みながら理解するとともに、複雑化する現代社会においてこれから生きていく際に必要とされるであろう、「人間力」を形成するための知識・物事の考え方などについて学ぶ。			
授業の概要	東西冷戦の終結以降、地球全体を巻き込んで進行している「グローバリゼーション」について、様々な角度から検討を加えて考察する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 現代社会と経済学 第3回 現代社会の課題 第4回 資本主義と社会主義1 冷戦の歴史 第5回 資本主義と社会主義2 政治経済の対立 第6回 2つのグローバリゼーション1 市場経済 第7回 2つのグローバリゼーション2 民主主義 第8回 政治的企図1 新自由主義 第9回 政治的企図2 オルター・グローバリゼーション 第10回 過程1 世界システム論 第11回 過程2 経済成長論 第12回 状況1 モノのグローバリゼーション 第13回 状況2 カネのグローバリゼーション 第14回 状況3 ヒトのグローバリゼーション 第15回 まとめ			
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。	
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%			

現代社会と経済		通年（後期）		1・2年
現代経済の問題を経済学の歴史から考察する		秋富 創（あきとみ はじめ）		
授業の到達目標 及びテーマ	「経済学」の授業で取り上げた「近代経済学」とあわせて、新たに「近代経済学以外の経済学」についての説明を行う。正統派経済学である「近代経済学」流の考え方では見えてこなかったものを新たに発見し、物事を相対的に見ることが出来る態度を養うことが目標である。			
授業の概要	古典派以降の様々な経済学の学説について、それぞれの代表的論者である経済学者に焦点を当てて説明を行う。経済学者が生きていた時代背景や、それぞれの学説の中身だけではなく、それぞれの主張が現代にとっていったいどのような意味を持っているのか、ということも問題となるはずである。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済学はなぜ生まれたのか 第3回 古典派1 アダム・スミス(1) 市場のしくみ 第4回 古典派1 アダム・スミス(2) 自由主義と消費者 第5回 古典派2 リカードとマルサス(1) 人口問題と成長の限界 第6回 古典派2 リカードとマルサス(2) 比較優位と自由貿易 第7回 マルクス経済学1 マルクス 資本家と労働者 第8回 マルクス経済学2 マルクス 資本主義社会の相対化 第9回 新古典派1 限界革命の3人組(1) 効用と限界効用 第10回 新古典派2 限界革命の3人組(2) 市場の均衡 第11回 新古典派3 マーシャルほか 古典派の継承 第12回 ケインズ経済学1 ケインズ 市場と国家の役割 第13回 ケインズ経済学2 ケインズ 総需要管理政策 第14回 そのほかの経済学 モラル・エコノミー、行動経済学ほか 第15回 まとめ			
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。	
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%			

現代社会と政治		通年（前期）	4 単位	1・2年
現代政治とリベラリズム		村田 玲（むらた あきら）		
授業の到達目標 及びテーマ	政治と権力をめぐる現代政治学の議論を瞥見することで、諸々の政治学の基本的概念とその用法を理解する。ついで、近世ヨーロッパにおけるリベラリズム（自由主義）の発生と変容の歴史展開を理解する。さらに広義の「リベラリズム」の多様性を把握することで、現代政治のひとつの重大な対立軸を理解する。			
授業の概要	本講義は、現代政治を理解し、これに参加するにあたって有用な思考の枠組みを受講生に提供することを期する。講義は、おおむねテキストに沿って進行する。「現代社会と政治A」においては、リベラリズムに関わる諸々の問題とその起源を概説する。諸論点をより根本的に考察するために、随時、政治学史上の諸々の古典にも言及する。			
授業計画	【前期】 第1回 序論および授業概要 第2回 リベラリズムの岐路 第3回 グローバリゼーションの展開 第4回 政治権力の諸形態 第5回 政治権力の正当性 第6回 リベラリズムの歴史：17世紀～19世紀 第7回 リベラリズムの歴史：19世紀～20世紀 第8回 福祉国家の性格 第9回 福祉国家批判の諸相 第10回 ロールズの正義論 第11回 ロールズ批判の諸相 第12回 リベラル・コミュニタリアン論争 第13回 リベラリズムの問題点 第14回 リベラリズムと規範理論 第15回 総括			
テキスト	川崎修・杉田敦編著『【新版】現代政治理論』（有斐閣、2012年）	参考文献	随時、授業時に指定する。	
評価方法	定期試験：50% レポート：30% 平常点・授業参加度：20%			

現代社会と政治		通年（後期）		1・2年
現代政治とデモクラシー		村田 玲（むらた あきら）		
授業の到達目標 及びテーマ	デモクラシー（民主主義）に関連する基本的概念とその用法を理解する。ついで、古典古代におけるデモクラシーの発生とその後の近代ヨーロッパにおける歴史的展開を理解する。さらに現代デモクラシーが直面している諸々の問題を瞥見することで、現代政治の若干の重大な争点を理解する。			
授業の概要	本講義は、現代政治を理解し、これに参加するにあたって有用な思考の枠組みを受講生に提供することを期する。講義は、おおむねテキストに沿って進行する。「現代社会と政治B」においては、デモクラシーに関わる諸々の問題とその起源を概説する。諸論点をより根本的に考察するために、随時、政治学史上の諸々の古典にも言及する。			
授業計画	【後期】 第1回 序論および授業概要 第2回 戦前日本政治 第3回 戦後日本政治 第4回 デモクラシーの歴史：古代～近代 第5回 デモクラシーの歴史：近代～現代 第6回 現代デモクラシー論の諸相 第7回 市民社会論 第8回 デモクラシーと公共性：アレント 第9回 デモクラシーと公共性：ハーバーマス 第10回 ネーションとエスニシティ 第11回 フェミニズム 第12回 グローバリゼーションと政治 第13回 グローバリゼーション批判の諸相 第14回 デモクラシーと規範理論 第15回 総括			
テキスト	川崎修・杉田敦編著『【新版】現代政治理論』（有斐閣、2012年）	参考文献	随時、授業中に指定する。	
評価方法	定期試験：50% レポート：30% 平常点・授業参加度：20%			

経営学		通年（前期）	4 単位	1・2年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江（うだ みえ）		
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。まずは経営学の全体像を理解できるようにする。「経営学とは何か」「企業とは何か」から出発し、経営学の歴史的な発展をとらえつつ、モチベーション理論やリーダーシップ理論などの基礎論を講義する。また、企業とは社会の中でどのような存在であるべきか、企業の社会的責任等も合わせて考える。			
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 企業の役割とは何か 第3回 企業を理解する 企業というシステム 第4回 会社の種類とは 第5回 企業は誰のものか コーポレート・ガバナンス 第6回 企業の社会的責任とは 第7回 経営学の考え方と発展 第8回 大企業の生成、テイラーシステム、フォードシステム 第9回 管理過程論 第10回 人間関係論 第11回 モチベーション理論 第12回 リーダーシップ理論 第13回 経営における意思決定 第14回 起業はどのようにして行われるのか 第15回 まとめ			
テキスト	齊藤毅憲編著（2012）『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。	
評価方法	定期試験：80% 課題やレポート等：20%			

経営学		通年（後期）		1・2年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江（うだ みえ）		
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。経営資源、戦略、組織形態、マネジャーの仕事、さらに、企業の各職能として、情報管理、研究開発、生産管理、マーケティング等についての基礎を理解できるようにする。教科書の前半部分は経営学Aで講義するため、経営学Aと合わせて受講することが望ましい。			
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。			
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 経営者の仕事とは 第3回 企業の仕組みとは 第4回 企業間関係とは 第5回 経営戦略① 戦略とは 多角化 第6回 経営戦略② 競争戦略 第7回 組織構造とは 第8回 企業を取り巻く環境とは 第9回 経営資源とは 第10回 情報管理・研究開発管理・生産管理とは 第11回 マーケティング① マーケティングとは 第12回 マーケティング② マーケティング戦略 第13回 財務管理とは 第14回 企業の国際経営 第15回 まとめ			
テキスト	齊藤毅憲編著（2012）『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。	
評価方法	定期試験：80% 課題やレポート等：20%			

国際関係論		通年（前期）	4 単位	1・2年
国際関係論入門I 国際関係の歴史と国際政治学・国際関係論の基本概念		芝崎 厚士（しばさき あつし）		
授業の到達目標及びテーマ	本講義の到達目標は、（１）ウェストファリア体制成立から21世紀初頭に至る国際関係の歴史の基本的な流れを理解すること（２）国際関係を分析するさまざまな理論や分析概念を、古典的なものから最新のものまで幅広く理解すること、（３）2012年現在の国際関係の動きを（１）（２）に基づいて分析する考え方を身につけること、である。			
授業の概要	グローバル社会で生きていく上で学んでおくべき、国際関係論・国際政治学の基本的な歴史と理論、考え方を初学者にわかりやすく教えます。授業はテスト形式で、（１）報道を分析するニュースウォッチ（２）小論文のリーディング（３）映像や音楽を分析するメディアウォッチで構成されます。毎回答案用紙を提出して、成績評価を行います。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：世界と自分、自分と世界の関わり 第2回 学問としての国際関係論・国際政治学とは何か 第3回 国際関係の歴史1 17世紀から19世紀まで 第4回 国際関係の歴史2 20世紀 2つの世界大戦と冷戦 第5回 映像分析1 20世紀とは何だったのか 第6回 国際関係の歴史3 21世紀 冷戦崩壊から現在まで 第7回 国際関係論の基本概念1 主権国家 第8回 国際関係論の基本概念2 多国籍企業・NGO 第9回 国際関係論の基本概念3 国際関係におけるパワー 第10回 映像分析2 グローバルな世界と日本のかかわりを考える 第11回 国際関係の理論1 リアリズムと勢力均衡 第12回 国際関係の理論2 リベラリズムと相互依存 第13回 国際関係の理論3 コンストラクティビズムと社会変化 第14回 映像分析3 21世紀の世界を考える 第15回 まとめ			
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。	
評価方法	平常点:50% 試験:50%			

国際関係論		通年（後期）		1・2年
国際関係論入門I グローバル社会の現状と課題		芝崎 厚士（しばさき あつし）		
授業の到達目標及びテーマ	本講義の到達目標は、（１）21世紀初頭のグローバルな社会が抱える諸問題を基礎から理解する（２）それらの問題を解決するためになされている取り組みを幅広く理解する（３）それらの問題を解決するために必要な考え方や物の見方を習得することである。			
授業の概要	前期の「国際関係論A」では基礎的な知識を学び、後期の「国際関係論B」では現在のグローバル社会で生じている環境問題、グローバル資本主義、格差、貧困、援助、子どもや女性の人権、紛争といった諸問題を取りあげます。ニュースウォッチ、リーディング、メディアウォッチを組み合わせたテスト形式で行い、多様なメディア・リテラシーを養い			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：君たちはどう世界に生きているか 第2回 グローバリゼーションとは何か 第3回 国際関係からグローバル関係へ 第4回 グローバル市場経済 第5回 映像分析：グローバル経済の功罪 第6回 地球環境問題 第7回 子ども・女性と人権 第8回 紛争とナショナリズム 第9回 映像分析：紛争の中の弱者達 第10回 紛争解決と平和構築 第11回 貧困と開発 第12回 グローバルな安全保障 第13回 映像分析2：マルチチャードの挑戦 第14回 グローバル市民社会 第15回 まとめ			
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。	
評価方法	平常点:50% 試験:50%			

教育学		通年（前期）	4 単位	1・2年
ヒトが人になるとはどういうことか		清水 康幸（しみず やすゆき）		
授業の到達目標 及びテーマ	I. 教育の本質について、種の保存という観点から、「ヒトが人になるとはどういうことか」について考え、人間にとつての教育の根源的意味を理解する。II. 日本における近代教育の歴史的展開をたどることで、教育が国家や社会のあり方、文化や価値観の変遷と密接な関連を持つことを理解する。			
授業の概要	全体を本質編と歴史編に分ける。本質編では、教育という営みの人類史的意味を明らかにする。歴史編では、近世における教育の習俗を明らかにしつつ、それが明治以降の近代教育へどのように転換していったかを明らかにする。近代国家と教育の関係、学歴社会の成立、戦争と教育、戦後教育改革の展開、など。			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 種の持続と人間の子育て・・・動物と人間を分かちつもの 第3回 人間の子育ての特徴 第4回 子育ての習俗①・・・通過儀礼など 第5回 子育ての習俗②・・・子供組、若者組など 第6回 商人の教育、女子の教育 第7回 寺子屋と藩校 第8回 文明開化と教育・・・近代学校のはじまり 第9回 試験制度の始まり 第10回 国家と教育 第11回 学歴社会の成立 第12回 「教育する家族」の登場 第13回 戦争と教育 第14回 戦後教育改革の展開 第15回 まとめ			
テキスト	特に定めない	参考文献	ポルトマン『人間はどこまで動物か』（岩波新書）、大田堯著『教育とは何か』（岩波新書）、その他随時紹介する。	
評価方法	感想文:20% レポート:80%			

教育学		通年（後期）		1・2年
現代の教育問題を問う		清水 康幸（しみず やすゆき）		
授業の到達目標 及びテーマ	I 戦後から今日にいたる「教育問題」を取り上げ、その歴史的背景やそれぞれに内在する教育学的論点を理解する。 II 世界の教育改革動向に目を向け、日本の教育問題の特殊性や普遍性に気づくことで、自らの教育観の基礎を培う。			
授業の概要	教育における「競争」「管理主義」「早期教育」「いじめ」「学級崩壊」等の諸問題を取り上げ、それらの内在的な関連を、近代教育の歴史的特質や社会構造の変化との関連で明らかにしていく。さらに「子どもの権利条約」や外国の教育改革動向との関連で、日本の教育問題の解決の方向を国際的視野から考える。			
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 戦後における学歴競争：「競争」の性格変化 第3回 学歴・資格の社会的意味 第4回 「管理主義教育」の実態：校則と体罰、ビデオ視聴 第5回 「管理主義教育」をどう考えるか 第6回 早期教育の実態と論点：ビデオ視聴 第7回 早期教育をどう考えるか：討論 第8回 「いじめ」の構造と対応 第9回 「学級崩壊」とは何か 第10回 欧米における教育改革①：育児支援と子ども観 第11回 欧米における教育改革②：学力観 第12回 欧米における教育改革③：討論 第13回 「子供の権利条約」が提起するもの：新しい子ども観 第14回 「子供の権利条約」をどう考えるか：討論 第15回 まとめ			
テキスト	特に定めない	参考文献	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、その他随時紹介する。	
評価方法	感想文:20% レポート:80%			

社会心理学		通年（前期）	4 単位	1・2年
社会に生きる個人のこころ		武田 美亜（たけだ みあ）		
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学（特に個人内過程および対人行動）の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。			
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人認知、自己、社会的推論、態度、対人行動などの研究領域について解説する。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／（社会）心理学の前提と研究法 第2回 対人認知1：印象の形成 第3回 対人認知2：対人情報の処理 第4回 社会心理学的研究の変遷 第5回 帰属過程 第6回 社会的推論 第7回 感情と認知 第8回 態度1：認知的斉合性の観点から 第9回 態度2：情報処理の観点から 第10回 自己1：自己の認知、自己の評価 第11回 自己2：自己の他者への表出 第12回 対人行動1：援助行動 第13回 対人行動2：攻撃行動 第14回 コミュニケーションのしくみ 第15回 コミュニケーションのチャネル／全体のまとめ			
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤（2009）『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら（2007）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／その他適宜紹介する。	
評価方法	期末試験：60％ 小テスト・レポート：40％			

社会心理学		通年（後期）		1・2年
個人のあつまりと社会		武田 美亜（たけだ みあ）		
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学（特に対人関係および集団・集合過程）の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。			
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人関係、集団行動、集団間関係、集合行動などの研究領域について解説する。			
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス／社会心理学の前提と研究法 第2回 社会に生きる「個人」のこころのしくみ 第3回 対人関係1：対人魅力と親密化 第4回 対人関係2：親密な関係 第5回 社会的交換 第6回 社会的影響：他者の存在による影響 第7回 集団1：集団での問題解決と意思決定 第8回 集団2：社会的規範と同調 第9回 社会的ジレンマ 第10回 リーダーシップ 第11回 集団間関係1：集団間葛藤 第12回 集団間関係2：ステレオタイプ、偏見、差別 第13回 集合・群衆の行動 第14回 マス・コミュニケーション 第15回 文化と人のこころ／全体のまとめ			
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤（2009）『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら（2007）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／その他適宜紹介する。	
評価方法	期末試験：60％ 小テスト・レポート：40％			

教育心理学		通年（前期）	4 単位	2年
子供の個性に応じる		宮脇 郁（みやわき かおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の個性、特に性格を理解するための知識と方法を理解する。 ・学校生活において生じやすい問題を知り、その対処法の1つとしてのカウンセリングの基礎がわかる。 ・障害児教育、特に発達障害の児童生徒に対する指導方法を理解する。 			
授業の概要	本講では、まず子供の個性の把握に役立てるために、性格の理論と測定方法を学ぶ。さらに、学校における問題（不適応）の種類およびその対処方法としてのカウンセリングを概観する。また、学級集団内の人間関係、障害児教育についても学ぶ。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子供の個性の把握① 性格の理論</p> <p>第3回 子供の個性の把握② 性格を理解する</p> <p>第4回 適応と不適応</p> <p>第5回 学校における不適応① 不登校</p> <p>第6回 学校における不適応② いじめ、その他</p> <p>第7回 学校における不適応② 心の病気</p> <p>第8回 学校におけるカウンセリング① 概論</p> <p>第9回 学校におけるカウンセリング② さまざまな心理療法</p> <p>第10回 学校におけるカウンセリング③ 教育相談</p> <p>第11回 学級集団の心理</p> <p>第12回 心理教育的援助① 概論</p> <p>第13回 心理教育的援助② 発達障害</p> <p>第14回 心理教育的援助③ 特別支援教育</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>			
テキスト	未定	参考文献	服部 環（監修） 『「使える」教育心理学 <増補改訂版>』 北樹出版	
評価方法	定期試験：80% 授業への積極的参加度：20%			

教育心理学		通年（後期）	2年	
子供の学びをサポートする		宮脇 郁（みやわき かおり）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達の道筋がわかる。 ・人間の知的能力の仕組みを理解し、日常場面での知的活動にに当てはめることができる。 ・代表的な学習指導法と教育評価の方法を身に付ける。 			
授業の概要	効果的な学習指導を行うためには、子供の知的な側面を正しく把握する必要がある。そこで本講では、子供の知的能力の理解に役立つトピックである発達・学習・記憶と認知・知能などについて基礎的な知識を学び、教育場面への応用を考える。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子供の発達の特徴① 乳児期、幼児期</p> <p>第3回 子供の発達の特徴② 児童期、青年期</p> <p>第4回 子供の発達の特徴③ 発達の理論</p> <p>第5回 学習の仕組み① 古典的条件づけとオペラント条件づけ</p> <p>第6回 学習の仕組み② 条件づけを応用する</p> <p>第7回 学習意欲</p> <p>第8回 記憶と認知① 概論</p> <p>第9回 記憶と認知② 記憶の種類</p> <p>第10回 記憶と認知③ 知識の仕組み</p> <p>第11回 記憶と認知④ 考える力</p> <p>第12回 知能とは何か</p> <p>第13回 学習指導の方法</p> <p>第14回 教育評価</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>			
テキスト	未定	参考文献	柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』（北樹出版 2011年）	
評価方法	定期試験：80% 授業への積極的参加度：20%			

臨床心理学		通年（前期）	4 単位	1・2年
臨床心理学A（心理療法とこころの理解）		田中 志帆（たなか しほ）		
授業の到達目標 及びテーマ	現在の主要な心理療法の理論や技法について学び、人間の心身の失調の意味について、自己や他者の心のつまづきについてより適切に向き合い、支援するためのアイデアを持つことができるようにする。			
授業の概要	以下のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 臨床心理学とは 第2回 欧米における精神保健の歴史① 第3回 日本における精神保健の歴史② 第4回 内因性精神障害 第5回 心因性精神障害 第6回 器質性の精神障害 第7回 行動療法①学習理論と行動療法 第8回 行動療法②各種技法、認知行動療法 第9回 来談者中心療法 第10回 日本オリジナルの心理療法 森田療法 臨床動作法 第11回 心の状態を見立てる① 心理検査とテストバッテリー 第12回 心の状態を見立てる② 性格検査、臨床描画法実習 第13回 児童期の心理療法 事例から考える 第14回 思春期・青年期の心理療法 事例から考える 第15回 まとめ			
テキスト	坂上裕子・繁樹江里・薬師神玲子・田中志帆・武田美亜ら著 大学1、2年生のためのすぐわかる心理学 東京図書 ￥2200	参考文献	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房	
評価方法	授業感想文：40% 最終レポート：60%			

臨床心理学		通年（後期）	1・2年
臨床心理学B（精神分析入門）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	精神分析的な心理療法における基礎的な理論や方法、心の失調とは何かを学び、人間の深層心理について考える。生後1年～2年までの乳幼児の心の状態を含め、人の心の成長と生と死の本能の意味について触れ、人間と社会について精神分析的な視点で考察できるようになることを目指す。		
授業の概要	フロイト理論と対象関係論について、解りやすく解説する。アニメや芸術作品を鑑賞したり、また心理療法のケースを紹介しながら、人間の深層心理について共に考える。授業中にプリント課題を配布して、実習形式で講義を行う場合がある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 精神分析が誕生した時代 第2回 フロイトの人生（その生涯） 第3回 精神分析の基本的な原則と概念 第4回 自我・エス・超自我①防衛機制 第5回 自我・エス・超自我②発達段階 第6回 神経症のなりたち 第7回 エディプスコンプレックスとは 第8回 アルプスの少女ハイジを分析する 第9回 夢の意味と理論 第10回 やってみよう夢分析 第11回 芸術家や作家の人生、作品にみる反復強迫 第12回 生と死の本能—人はなぜ戦争をするのか 第13回 対象関係論①P/Sポジション 第14回 対象関係論②Dポジション 第15回 精神分析とは何か？（まとめ）		
テキスト	特に指定しない	参考文献	推薦図書を授業中に配布する。
評価方法	授業時の課題や感想文：60% 最終レポート：40%		

発達心理学		通年（前期）	4 単位	1・2年
生涯発達心理学		大野 祥子（おおの さちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	この科目では生涯発達心理学の基礎を学びます。人間はその誕生から死に至るまで、一生涯発達し続ける存在です。環境との相互作用を通して自分を形成していく発達のダイナミズムを知り、人間について、自己についての理解を深めます。			
授業の概要	講義形式で授業を進めますが、子どもの発達については具体的なイメージをつかむために視聴覚教材を多用する計画です。青年期の発達については、現在の自分の問題と照らし合わせた理解を助けるようなワークを取り入れます。			
授業計画	【前期】 第1回 生涯発達心理学とは何か 第2回 赤ちゃんの有能さ 第3回 赤ちゃんの社会性 第4回 他者を知る・自分を知る 第5回 言葉の発達 第6回 考える力の発達 第7回 養育者との絆 第8回 発達の可塑性 第9回 対人ネットワークの中での発達 第10回 エリクソンの発達理論（乳児期から幼児期まで） 第11回 エリクソンの発達理論（学童期から青年期まで） 第12回 青年期の心理 第13回 エリクソンの発達理論（成人期から老年期まで） 第14回 年をとるとはどういうことか 第15回 全体のまとめ			
テキスト	テキストは指定せず、資料を配布します。	参考文献	授業中に紹介します。	
評価方法	リアクションペーパー:40% 試験:60%			

発達心理学		通年（後期）	1・2年
女性のライフコースと発達		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「働くこと」と「家族を持つこと」は個人の発達の上で大きなテーマですが、特に女性は個人としての人生選択と家庭生活が葛藤する場面に多く遭遇します。この授業では、ジェンダーを切り口に、青年期以降の発達と家族心理学を学びます。成人発達とジェンダーについての知識を身につけるとともに、近い将来の自分の生き方について考えます。		
授業の概要	主に講義形式で授業を進めます。一般的・抽象的な存在としての人間の発達でなく現代を生きる自分の問題として考えることができるよう、現実の社会現象や社会制度とも関連づけながら学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 家族とは何か 第2回 現代家族をとらまく社会状況 第3回 女性のライフコース 第4回 母性神話を考える 第5回 子育て中の心理（ビデオ視聴） 第6回 育児不安はなぜ起こるか 第7回 家族役割分担を考える 第8回 結婚・夫婦関係の心理 第9回 働くことと家族をもつこと 第10回 親子関係の心理 第11回 親子関係の発達 第12回 家族システム論 第13回 個人の発達と家族 第14回 家族カウンセリング 第15回 全体のまとめ		
テキスト	柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待（第2版）』ミネルヴァ書房	参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	リアクションペーパー:40% 試験:60%		

社会学		通年（前期）	4 単位	1・2年
ミクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智（わたなべ よしとも）		
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであるが、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによって、その目的を達成する。社会について多角的、批判的に見るができるようになる。			
授業の概要	講義形式の授業であるが、何回かは参考資料を配布する。講義の対象とする社会学の分野は、個人と社会、家族社会学、うわさの社会心理といったミクロ社会学である。毎回、これらの分野の中で異なるテーマやトピックスを取り上げて講義を行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 社会学の性格および社会とは何か 第2回 個人と社会（1）社会的ジレンマ 第3回 個人と社会（2）社会化 第4回 個人と社会（3）地位と役割 第5回 個人と社会（4）社会的性格 第6回 個人と社会（5）近代人の誕生と資本主義の成立 第7回 個人と社会（6）社会統制と逸脱 第8回 家族社会学（1）家族と親族 第9回 家族社会学（2）結婚と離婚 第10回 家族社会学（3）家族の機能 第11回 家族社会学（4）シングル化社会と家族の将来 第12回 うわさの社会心理（1）流言・ゴシップ・都市伝説・デマ 第13回 うわさの社会心理（2）流言 第14回 うわさの社会心理（3）ゴシップと都市伝説 第15回 うわさの社会心理（4）うわさの伝達と対策			
テキスト	とくになし。	参考文献	A・ギデンズ（松尾精文他訳）『社会学（第5版）』（而立書房）森下伸也『社会学がわかる事典』（日本実業出版社）	
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%			

社会学		通年（後期）		1・2年
マクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智（わたなべ よしとも）		
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであり、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによってその目標達成を目指したい。社会について多角的、批判的に見るができるようになる。			
授業の概要	講義形式でおこなう。講義の対象とする社会学の主要な分野は、マクロ社会学の階級・階層論と現代社会論であるが、毎回、これらの分野に含まれる異なるテーマを取り上げて、講義する。参考資料として、社会調査データ、関連統計データ等を配布する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会の構造と変動 第2回 社会階級 第3回 社会階層と社会移動 第4回 エリート 第5回 学歴社会 第6回 中流社会から格差社会へ 第7回 近代社会としての産業社会 第8回 近代社会から現代社会へ 第9回 現代社会論（1）大衆社会 第10回 現代社会論（2）情報化社会 第11回 現代社会論（3）消費社会 第12回 現代社会論（4）都市社会 第13回 現代社会論（5）リスク社会と監視社会 第14回 現代社会論（6）グローバル化社会 第15回 日本社会の特質			
テキスト	特になし。	参考文献	金子勇・長谷川公一『マクロ社会学』（新曜社）現代位相研究所編『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる社会学』（日本実業出版社）	
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%			

マス・コミュニケーション		通年（前期）	4 単位	1・2年
マス・メディアの過去と現在		長谷川 倫子（はせがわ ともこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	マス・メディアの成り立ちから現状までを概観しながら、社会生活におけるマス・メディアの存在意義を問うことで、マス・コミュニケーションとは何かを理解する。			
授業の概要	メディア論の視点から、近代化とともに新しく登場したメディアがマス・コミュニケーションの手段となるまでを理解します。マス・メディアがそれぞれの生活の中でどのような役割を果たしているのかを考えながら、日本の新聞・放送・出版・映画それぞれの現状と今後を産業論の視点から紹介します。講義ではパワーポイントや映像資料も使用しま			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 マス・コミュニケーションとマス・メディアとは</p> <p>第 2回 近代化と印刷メディアの登場</p> <p>第 3回 新聞王ビュリツター</p> <p>第 4回 映画の輸入・定着からトーキーへ</p> <p>第 5回 ラジオの登場とその普及</p> <p>第 6回 プロパガンダとマス・メディア</p> <p>第 7回 高度経済成長とテレビ</p> <p>第 8回 メディアイベントとマス・メディア</p> <p>第 9回 若者文化とマス・メディア</p> <p>第10回 音楽とマス・メディア</p> <p>第11回 日本の新聞</p> <p>第12回 日本の放送（1）放送制度とは</p> <p>第13回 日本の放送（2）これからの放送</p> <p>第14回 日本の出版</p> <p>第15回 日本の映画</p>			
テキスト	未定	参考文献	春原昭彦他編著『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、2004年）	
評価方法	平常点（積極的参加）:30% 課題や感想文の内容:30% レポートか試験:40%			

マス・コミュニケーション		通年（後期）		1・2年
マス・メディアの社会的役割を理解する		長谷川 倫子（はせがわ ともこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	マス・メディアの影響や効果をめぐる学説を学びながら、マス・メディアと個人との関係を理解する。			
授業の概要	アメリカの先行研究から導き出された仮説を中心に、これまでのマス・メディアの影響や効果をめぐるさまざまな考えを紹介します。身近な事例をクリティカルな視点から見直すことで、マス・コミュニケーションとは何かをより深く理解できるようになります。講義ではパワーポイントや映像資料も用います。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 マス・メディアの影響と効果</p> <p>第 2回 アメリカにおけるマス・コミュニケーション研究の流れ</p> <p>第 3回 戦時期のプロパガンダ研究とマス・メディア</p> <p>第 4回 火星からの侵入と大衆説得</p> <p>第 5回 アメリカの大統領選挙</p> <p>第 6回 2段の流れ研究</p> <p>第 7回 利用と満足の研究</p> <p>第 8回 ロジャーズのイノベーション理論</p> <p>第 9回 世論とは何か</p> <p>第10回 議題設定機能と沈黙のらせん</p> <p>第11回 テレビと子ども</p> <p>第12回 ジャーナリズムとは何か</p> <p>第13回 ニュース番組を考える</p> <p>第14回 災害報道を考える</p> <p>第15回 マス・メディアと社会制度</p>			
テキスト	未定	参考文献	春原昭彦他編著『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、2004年）	
評価方法	平常点（積極的参加）:30% 課題や感想文の内容:30% レポートか試験:40%			

簿記原理		通年（前期）	4 単位	2年
簿記の基本		小阪 敬志（こさか たかし）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。			
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業ガイダンス、簿記の基礎概念 第2回 貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産） 第3回 損益計算書とその構成要素（収益・費用・純損益） 第4回 確認テスト①、取引 第5回 勘定と仕訳 第6回 問題演習による仕訳方法の習得 第7回 勘定への転記 第8回 確認テスト②、試算表の作成 第9回 現金・当座預金 第10回 当座借越・小口現金 第11回 確認テスト③、商品売買（分記法） 第12回 商品売買（三分法、値引・返品処理） 第13回 売掛金と買掛金 第14回 確認テスト④、約束手形と為替手形 第15回 手形の裏書譲渡と割引			
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし	
評価方法	試験:70% 平常点（確認テスト）:30%			

簿記原理		通年（後期）	2年	
簿記の基本		小阪 敬志（こさか たかし）		
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。			
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 簿記原理Aで学習した内容のおさらい 第2回 その他の債権と債務 第3回 有価証券 第4回 確認テスト①、固定資産 第5回 資本金と引出金 第6回 決算整理の流れ 第7回 確認テスト②、現金過不足、商品評価 第8回 貸倒引当金、消耗品 第9回 有価証券の評価、減価償却 第10回 確認テスト③、収益・費用の見越し 第11回 収益・費用の繰延べ 第12回 当期純損益の計算と勘定の締切り 第13回 精算表の作成 第14回 確認テスト④、問題演習による精算表作成方法の習得 第15回 授業内容の総括			
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし	
評価方法	試験:70% 平常点（確認テスト）:30%			

商品学・流通論Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
消費者への価値創造・伝達過程としての流通と企業活動		伊藤 匡美 (いとう まさみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	大ヒット商品や人気のお店が生まれるのはなぜか。その背後では、どんな企業がどのような活動を行っているのか。わたしたちが日頃目にする現象やその仕組みについて、流通・マーケティングの見地から論理的に考え、理解する力を養っていく。		
授業の概要	講義形式の授業形態で行い、流通に関する論点を軸に取り上げていく。 生産と消費の間をつなぐ流通があるからこそ、われわれは日々近隣の店舗で商品を買ひ、豊かで便利な生活を送ることができるのである。当講義では流通のもつ基本的役割や特質、昨今の環境変化の方向性について論じていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 流通の位置づけと構造 第2回 消費者と流通 (1) 消費構造と其の変化 第3回 消費者と流通 (2) 店舗選択基準 第4回 消費者と流通 (3) 買い物行動と商品分類 第5回 流通の役割と卸売業・小売業 第6回 小売業の機能と構造 第7回 小売業の店舗形態と経営特性—業態とは— 第8回 百貨店について 第9回 チェーンストアとは何か 第10回 日本のチェーンストアについて 第11回 コンビニエンスストアについて 第12回 マーケティング (1) 基本的な考え方 第13回 マーケティング (2) マーケティング環境分析 第14回 マーケティング (3) マーケティング・チャネル 第15回 マーケティング (4) マーケティング戦略		
テキスト	鈴木安昭『新・流通と商業』(有斐閣)	参考文献	講義の中で随時紹介する。
評価方法	定期試験:95% 小レポート:5%		

商品学・流通論Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
流通の機能・役割と其の変化		長原 紀子 (ながはら のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	製品やサービスは流過程を経て“商品”となり、消費者に選別されることを理解する。流通の機能・役割の基本と、変化する流通業の実態を理解する。		
授業の概要	基本的には座学を中心に行うが、街で実際に店舗を見て比較・観察するストアコンパリゾンを組み入れる。身近で具体的な事例を数多くとりあげ、流通についての要点を会得する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス 第2回 流通の社会的役割と仕組み 第3回 流通の機能 第4回 卸売業の役割と機能 第5回 小売業の役割と機能 第6回 小売業の形態と構造および変化 第7回 消費者と流通 第8回 スストアコンパリゾンへのオリエンテーションと実習へ 第9回 スストアコンパリゾン発表会 第10回 流通とマーケティング 第11回 顧客心理と接客 第12回 顧客心理とVMD 第13回 顧客満足とホスピタリティ 第14回 ウェブ時代の流通 第15回 流通・商業に関する公共政策		
テキスト	新・流通と商業(有斐閣) お客がわかれば売り方がわかる(商業界)	参考文献	必要に応じて資料を紹介する。
評価方法	授業参加度&受講態度:50% レポート(2回提出):50%		

科学文化史		通年（前期）	4 単位	1・2年
文化としての科学・教養としての科学		河野 俊哉（こうの としや）		
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。			
授業の概要	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素や文化的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」と「技術」：「歴史観」についても説明します。 第3回 古代ギリシアの自然観：女性哲学者ヒュパティア 第4回 「錬金術と絵画」Ⅰ：錬金術の基礎理解とその表象 第5回 「錬金術と絵画」Ⅱ：プリューゲルから『ポッター』まで 第6回 図書館と科学：12世紀ルネサンス：『薔薇の名前』 第7回 ガリレオの斜塔：科学とキリスト教・文学・音楽 第8回 ケプラーと世界の調和：科学・音楽・占星術 第9回 ニュートンの光と影：錬金術師としてのニュートン 第10回 ラヴォワジエとプリーストリ：『パヒューム』 第11回 ジェンダーと科学：マリー・ラヴォワジエ：ダヴィド 第12回 百科事典と科学：ペーコン、百科全書、ブリタニカ 第13回 コーヒーハウスと科学：公共圏とサイエンス・カフェ 第14回 原発問題とリスク社会：科学コミュニケーション 第15回 本講義のまとめ：科学リテラシーと教養教育の再構築			
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）	
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%			

科学文化史		通年（後期）		1・2年
文化としての科学・社会における科学		河野 俊哉（こうの としや）		
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。			
授業の概要	本講義では科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに、科学哲学の視点からアプローチし、理論と事実、仮説と法則等のテーマを考察し、疑似科学とどう対峙していくかを学び、最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察することにします。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：科学とキリスト教～社会進化論 第3回 モンキー裁判再考：創造論～インテリジェント・デザイン 第4回 科学哲学Ⅰ：理論と事実、仮説と法則 第5回 科学哲学Ⅱ：疑似科学と反証条件、実験と観察 第6回 フェルメールと科学：合成染料の歴史：パーキンとモーブ 第7回 微生物学の歴史：レーウエンフック、パスツール、コッホ 第8回 日本人と近代科学Ⅰ：『JIN』：病気の文化史：緒方洪庵 第9回 日本人と近代科学Ⅱ：『JIN』：病気の文化史：吉原・梅毒 第10回 ジェンダーと科学：津田梅子を題材に考察・山川捨松 第11回 戦後日本の科学観：アトムとゴジラ：手塚治虫と科学 第12回 高木仁三郎と市民の科学：科学コミュニケーション 第13回 原発問題とリスク社会：大石又七と大江健三郎 第14回 教養教育の再構築：科学リテラシー 第15回 本講義のまとめ			
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）	
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%			

生態学		通年（前期）	4 単位	1・2年
生態系を理解し、その一員としての人間について生態学的認識を深める		高坂 宏一（たかさか こういち）		
授業の到達目標 及びテーマ	生態系がひとつのシステム（系）であること、さまざまな生物種が相互に依存していること、それぞれの生物種は環境の制約を受けることを理解する。また、生態系の一員である人間について生態学的理解を深めると同時に、人間が生態系に及ぼした影響について理解する。			
授業の概要	食物連鎖などを取上げ、生態系の構造と機能を明らかにする。あわせて人間の諸活動が生態系に及ぼした影響を環境問題として取上げる。同時にそうした問題を引起すに到った人間の特性を進化史的に概観する。また生態学の基本事項であるポピュレーション（個体群、人口）について講じる。インドネシアやポリビアなどでの現地調査の映像を使用す			
授業計画	【前期】 第1回 序論 第2回 生態系とは 第3回 生態系の構造と機能 第4回 自然生態系と人間化された生態系 第5回 食物連鎖と生物濃縮 第6回 環境問題と健康問題 第7回 生態系におけるヒトの特殊性 第8回 人類の起源をめぐって 第9回 人類の進化をめぐって 第10回 人間の生存様式の推移とその生態系への影響 第11回 個体群の生態学 第12回 個体群の成長 第13回 個体群の抑制 第14回 人口（ヒト個体群）の推移—過去・現在・将来 第15回 まとめ			
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.	
評価方法	試験:85% 平常点:15%			

生態学		通年（後期）	1・2年
人間の生態学的理解をめざし、人類史を踏まえ適応・文化・人口を考える		高坂 宏一（たかさか こういち）	
授業の到達目標 及びテーマ	人間が世界中に暮らしているのは移動・拡散し、さまざまな異なる地域環境にそれぞれ適応することができた結果であることを踏まえ、文化をもつ生物である人間の適応について生態学的視点から理解する。人間の繁栄は資源の利用や人口に表れているが、一方で生態学的問題も抱えていることを理解する。		
授業の概要	人類の全世界への移動の経緯を概観し、さまざまな環境への適応が人類の多様性を生み出したことを論じる。人は他の生物と同様に生物学的に適応すると同時に、文化を適応の手段とするについて考える。人の適応力の高さや生活様式の変化は人口に表れているが、人口問題も含め人口現象について講じる。ポリビアなどでの現地調査の映像を使用す		
授業計画	【後期】 第1回 序論：人間の生態学について 第2回 多様な環境に暮らす人間 第3回 人類史から見た全世界への移動・拡散 第4回 環境と適応 第5回 生物学的適応について 第6回 人類の多様性 第7回 農耕の起源と生態系への影響 第8回 事例：アンデス高地の環境・人・暮らし 第9回 文化的適応：アンデス高地のジャガイモ加工と適応的意味 第10回 文化的適応：アンデス高地の育児様式をめぐって 第11回 人類の繁栄と人口 第12回 人口現象の把握 第13回 少子高齢化と人口問題 第14回 地球環境問題と生態学 第15回 まとめ		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.
評価方法	試験:85% 平常点:15%		

環境科学		通年（前期）	4 単位	1・2年
環境科学の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）		
授業の到達目標 及びテーマ	環境と調和した社会を築くためには、環境の科学的な理解が不可欠です。ここでは大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の化学的メカニズム、健康被害、浄化対策、また一般廃棄物、産業廃棄物、特に化学物質の処理、リサイクル等について、その基礎を理解できるよう講義します。			
授業の概要	講義を中心に進めます。はじめに環境問題の背景にある急速な人口増加、食料や資源・エネルギー確保といった問題について説明し、ついで主に我が国の公害・環境問題を具体例として大気、水質、土壌汚染について、そのメカニズム、健康被害、浄化対策を、また廃棄物問題とその対策について説明します。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 環境科学入門 第2回 人口問題、食糧問題 第3回 資源・エネルギーと環境 第4回 自然の浄化作用 第5回 環境汚染物質 第6回 大気汚染（ガス） 第7回 大気汚染（エアロゾル） 第8回 大気汚染（二次汚染質） 第9回 水質汚濁（河川・湖沼） 第10回 水質汚濁（海洋） 第11回 水質汚濁（上水・下水） 第12回 土壌汚染（農薬など） 第13回 土壌汚染（重金属） 第14回 廃棄物とリサイクル 第15回 化学物質の健康影響・安全管理			
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）、世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）	
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%			

環境科学		通年（後期）	1・2年	
地球環境問題の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）		
授業の到達目標 及びテーマ	産業革命以後、人間活動は際限なく拡大し、地球全体に影響を及ぼすようになってきました。そして我々は地球温暖化、海洋汚染、希少生物の絶滅等地球規模の環境問題に直面しています。ここでは個々の地球環境問題に関するメカニズム、影響、対策、将来予測等について、その基礎を理解できるよう講義します。			
授業の概要	講義を中心に進めます。まず地球大気の構造について説明し、その上で地球温暖化・オゾン層破壊について説明します。また酸性雨、海洋汚染、放射能汚染等について説明するとともに、それらに関連する化学物質の観測方法、データの見方等についても説明します。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 大気の構造 第2回 地球温暖化の現状、温室効果 第3回 地球温暖化の将来予測 第4回 二酸化炭素の観測・監視 第5回 オゾン層破壊－オゾンの生成・消滅反応 第6回 オゾン層破壊－フロンガスの影響、オゾンホール 第7回 酸性雨－生成メカニズム 第8回 酸性雨－現状 第9回 海洋汚染 第10回 放射能汚染 第11回 熱帯雨林の破壊 第12回 砂漠化 第13回 生物多様性 第14回 環境と調和した暮らし方 第15回 省エネルギー・新しいエネルギー			
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）、小島次雄・川平浩二・藤倉良「これからの環境科学」（化学同人）	
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%			

人文地理学		通年（前期）	4 単位	1・2年
人文地理学の基礎		齋藤 元子（さいとう もとこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の基本を理解する。人文地理学の主要分野である地理教育・歴史地理学・文化地理学を取り上げ、それぞれの研究対象ならびに研究の方法を理解する。人文地理学の基本ツールである地図があらゆる分野の研究に活用されていることを理解し、様々な時代やスケールの地図を解読できるようになる。			
授業の概要	地理教育では、教科書の歴史に焦点を当て、特に掲載された地図に着目する。歴史地理学では、東京の歴史地理をテーマとし、江戸時代から現在に至る空間的な変遷を多様なスケールの地図を用いて検証する。文化地理学では、国際交流やジェンダーの問題を地理学的な視点から考察する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 人文地理学の研究対象と方法 第3回 近世の世界地図・日本地図 第4回 地理教育史1：初等教育 第5回 地理教育史2：中等教育 第6回 地理教育史3：社会教育 第7回 東京の歴史地理1：江戸から東京へ 第8回 東京の歴史地理2：山の手に移り変わり 第9回 東京の歴史地理3：下町に移り変わり 第10回 東京の歴史地理4：青山学院の地を遡る 第11回 国際姉妹都市1：友好活動のケーススタディ 第12回 国際姉妹都市2：地理教育への活用 第13回 ジェンダーの地理1：世界 第14回 ジェンダーの地理2：日本 第15回 まとめ			
テキスト	使用しない	参考文献	授業中に適宜指示	
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%			

人文地理学		通年（後期）		1・2年
人文地理学の実践		齋藤 元子（さいとう もとこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の実践として、宗教地理学・民族地理学を取り上げ、その研究の対象と方法を日本ならびに世界各地の事例を用いて理解する。人文地理学の基本ツールである地図が、それぞれの調査や研究にいかんにか活用できるかを理解する。			
授業の概要	世界各地の宗教集団や民族集団が形成した景観や空間を分析することを通して、文化の固有性を学ぶとともに、自然環境や歴史的環境が生み出した地域性に着目する。考察対象としては、アメリカのキリスト教集団アーミッシュ、英国北アイルランドのカトリックとプロテスタント、日本の隠れキリシタン、富士山信仰、日米のエスニックタウンを取り上			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 宗教地理学・民族地理学の研究対象と方法 第3回 アーミッシュの社会 第4回 アーミッシュの地域差 第5回 アーミッシュの観光化 第6回 北アイルランドの歴史地理 第7回 ベルファストの都市構造 第8回 ピースラインとミューラル 第9回 紛争地観光の展開 第10回 和平と地理教育 第11回 隠れキリシタン伝承の島々 第12回 富士山信仰と富士塚 第13回 アメリカのジャパントウン 第14回 日本のチャイナタウン 第15回 まとめ			
テキスト	使用しない	参考文献	授業中適宜指示	
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%			

環境デザイン論	通年（前期） 4 単位	1・2年
私たちの生活を取り巻く環境としての建築・都市空間 “built environment”	禅野 靖司（ぜんの やすし）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>私たちの「環境」を構成している建築や都市空間を意識的に認識する眼を養い、観察のテクニックを学び、見たものを自分の言葉で分析して表現する力をつける。そこでまずは、身近な住宅の持つ建築的特性を論じることからはじめ、そこから寺社など歴史的な建築にまで観察の範囲を広げて、日本建築の一般的特徴を、中国・朝鮮半島の伝統建築や、西洋のゴシック建築などと比較することで理解していく。さらにキャンパスの建物や都心の超高層ビルなどに注目して、建築デザインから何を読み取ることができるかを考える。また、建築から都市のレベルへと観察を深化させ、一生モノとなる「読解力」を身に付ける。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>毎回いくつもの建物や街並みの写真を見せ、皆さんにそれぞれの写真を自分の言葉で分析、描写してもらいます。この授業のために一冊のノートを必ず用意し、そこに書くようにして下さい。毎回の授業で使われたいろいろな言葉、表現をノートに記録し、またそれに関する自分の考察を記録することでボキャブラリーを増やし、次回の授業では、それに基づいてより多くの、そしてより豊かな言葉で建築や都市空間を表現できるようになっていきます。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イントロダクション（縁側について考える） 第 2 回 日本の伝統建築の主な特徴（1） 第 3 回 日本の伝統建築の主な特徴（2） 第 4 回 日本の伝統建築の主な特徴（3） 第 5 回 日本の伝統建築の主な特徴のまとめ＋ミニクイズ 第 6 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（1） 第 7 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（2） 第 8 回 構造から見た日本建築と西洋建築の違い＋中間試験 第 9 回 ヨーロッパの石造建築（1） 第 10 回 ヨーロッパの石造建築（2） 第 11 回 キャンパスゴシック 第 12 回 コスプレ建築としてのゴシック調建築 第 13 回 都市空間の特性（1）：キャンパスと都市に見られるバロック空間 第 14 回 都市空間の特性（2）：ランドマーク 第 15 回 総復習 <p>【テキスト】なし 【参考文献】なし</p> <p>注意点： この授業には教科書がありません。配付物を随時渡しますが、基本は授業中に見せる写真と私の説明が全てですから、欠席したり居眠りしていると授業についていけなくなってしまいます。十分注意して下さい。</p> <p>【評価方法】</p> <p>中間試験の結果（全体の30%）と期末試験の結果（全体の50%）によって成績をつけます。残りの20%は出席点です。出席は毎回とるわけではありませんが、一学期で大体8回前後（もしくはそれ以上）取りますから、たまたま全員の出席を取った週に欠席した人の場合は、欠席1回分としマイナス4点にカウントされます。もし5回欠席したら、マイナス20点（100点中）となりますから、その場合は試験で満点を取ったとしても、総合点は80点（30点＋50点＋0点）となります。もちろん全回出席していれば、総合点は100点（30点＋50点＋20点）です。中間および期末試験の時に欠席した場合は、基本的にあとから受けることはできません。もし病気でやむを得ず欠席した場合は、必ず医師の診断書を提出して下さい。</p>		

環境デザイン論		通年（後期）	1・2年
市民主体の環境づくりを考える～身近な環境をより豊かにしていくために		狩野 三枝（かりの みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	我々を取り巻く環境は、地球レベルの話から家族関係や毎日自分が出すゴミに至るまで、すべて切り離すことのできな いつながりを持っている。ここでは、社会の中で市民一人一人が当事者として主体的に誰もが自分らしく生きられる環 境づくりを考え実践するために、自らが課題を発見し・掘り下げ・解決する姿勢とその方法を体験・習得する。		
授業の概要	海外及び日本における社会の革新的な仕組や考え方を事例から学び、自らのコミュニティが抱える課題に取り組むための 話し合いや合意形成の方法を習得する。進め方としては、課題テーマ毎のグループワークを通して個人個人がつながり協 力することで生み出される創造の可能性を体験し、個人に関わる社会の課題に対して主体的に関わることを意味を学		
授業計画	【後期】 第1回 コミュニケーションの技術（1）～グループ討論体験 第2回 新しい世界を知り発想力を磨く～持続可能な社会 第3回 コミュニケーションの技術（2）～対話のレッスン 第4回 新しい世界を知り発想力を磨く～子どもの世界 第5回 新しい世界を知り発想力を磨く～コレクティブハウジング 第6回 新しい世界を知り発想力を磨く～日本のコミュニティ 第7回 課題説明～（仮）暮らしやすいまちの秘密発見 第8回 テーマのディスカッション 第9回 グループ決め・テーマ決めと課題スケジュール計画 第10回 グループで調査・議論～仮説を立てる 第11回 グループで調査・議論～考えを広める 第12回 グループで調査・議論～考えを深める 第13回 グループで調査・議論～現場を見る 第14回 グループでまとめ作業 第15回 発表と評価		
テキスト	特に使わない。必要な資料は随時配付。課題のま とめに必要な記録用写真やコピー代、地図・交通費等 の費用は随時個人負担。通年で三千元程度。	参考文献	僕たちの街づくり作戦/マイケル・ノートン著（都市 文化社）、参加するまちづくり（OM出版）など。そ の他、授業時に随時紹介。
評価方法	平常点:30% レポート:30% グループ課題:40%		

統計学		通年（前期）	4 単位	1・2年
記述統計の基礎		内山 義英（うちやま よしひで）		
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導 き出せるようになることが目標である。			
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そ こでの講義では、統計学的なものの方、考え方は一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定であ る。この統計学Aでは、記述統計を学んでいく。			
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション、統計学とは 第2回 データの種類 第3回 度数分布表(1)―度数、相対度数 第4回 度数分布表(2)―累積度数、累積相対度数 第5回 ヒストグラム 第6回 累積相対度数グラフ 第7回 分布の特性値(1)―平均、メジアン、モード 第8回 分布の特性値(2)―平均偏差、標準偏差、分散 第9回 分布の特性値(3)―データの基準化、偏差値 第10回 量的データの関係分析(1)―散布図 第11回 量的データの関係分析(2)―相関係数 第12回 質的データの関係分析(1)―クロス集計 第13回 質的データの関係分析(2)―分割表 第14回 質的データの関係分析(3)―同時分布と条件付き分布 第15回 今学期のまとめ			
テキスト	配布プリント、ただし平方根（ルート）を計算でき る卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%			

統計学		通年（後期）	1・2年
推測統計の基礎		内山 義英（うちやま よしひで）	
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。		
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Bでは、推測統計を学んでいく。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン、推測統計学とは 第2回 標本空間と標本点 第3回 数学的確率、確率変数 第4回 確率変数の期待値と分散 第5回 中心極限定理と正規分布 第6回 母集団からの標本抽出 第7回 仮説検定の考え方 第8回 仮説検定の手順 第9回 t検定 第10回 分散分析(F検定) 第11回 独立性検定(カイ2乗検定) 第12回 回帰分析とは 第13回 単回帰分析 第14回 重回帰分析 第15回 今学期のまとめ		
テキスト	配布プリント、ただし平方根（ルート）を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%		

比較文化論演習		通年（前期）	4 単位	2年
比較文化論、来日した欧米人の目に映った日本文化		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	16世紀から19世紀に来日した欧米人の旅行記をとおして、異文化交流、日本文化とヨーロッパ文化の比較について学ぶ。 卒業論文のテーマを各自が決め、研究方法を学び、実践する。			
授業の概要	1. 共通のテキストを決め、要約し、ディスカッションし、報告書を書く。 2. 卒業論文については、各自で決めたテーマに基づき、文献を収集する。 3. 現代世界における日本文化について考えるため、新聞を読んできて話し合う。			
授業計画	【前期】 第1回 演習の進め方、卒業論文について 第2回 現代世界のなかの日本 第3回 世界の中の日本文化 第4回 来日したヨーロッパ人の背景 第5回 来日したヨーロッパ人の背景 第6回 来日したヨーロッパ人さまざま 第7回 来日したヨーロッパ人さまざま 第8回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第9回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第10回 卒業論文に関する文献リストの作成 第11回 卒業研究の進め方 第12回 レポートを書く 第13回 レポートについての話し合い 第14回 研究計画について 第15回 研究の進め方			
テキスト	渡辺京二『近きし世の面影』平凡社ライブラリー	参考文献	演習の中で紹介する	
評価方法	コメント:20% 議論、発言:30% まとめ:20% レポート:30%			

比較文化論演習		通年（後期）	2年
比較文化論に関連する卒業論文を書く		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	（卒業論文の作成）前期から決めたテーマに関する卒業論文を書く。文献の集め方、論文の構成、論文の書き方を学ぶ。 研究の口頭発表の仕方を学ぶ。 （共同研究）来日した欧米人の日本旅行記を読み、異文化理解や文化比較について学ぶ。		
授業の概要	共同研究では、共通の文献を読み、担当者の要約に基づき話し合う。 卒業論文に関しては、適宜、各自の研究を途中で報告しつつ、卒業論文を完成させる。 英語のテキストを決め、輪読する。		
授業計画	【後期】 第1回 卒論に関する報告 第2回 卒論の進め方、書き方について検討する 第3回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（1） 第4回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（2） 第5回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（3） 第6回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（4） 第7回 卒論の中間発表 第8回 卒論に関する文献を共同で読む（1） 第9回 卒論に関する作品の検討 第10回 卒論の形式についての検討 第11回 論文の仮提出 第12回 論文の改訂 第13回 論文の提出 第14回 論文についての口頭発表 第15回 論文の評価		
テキスト	授業時間中に指示する	参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	演習での議論:25% 発表、報告:25% 卒業論文:50%		

社会思想史演習		通年（前期）	4 単位	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする専門的研究手法の獲得		輪島 達郎（わじま たつろう）		
授業の到達目標 及びテーマ	社会科学の領域から日本という対象にアプローチしていくために、研究の方法や、論理の構築方法を学ぶ。			
授業の概要	共通の研究書や論文を読み解き、たがいに議論しながら、粘り強く、論理的に思考する訓練を行うと同時に、メンバーそれぞれの個性から豊かに学ぶことができる空間を作っていく。			
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーションと自己紹介 第2回 オリエンテーションと自己紹介 第3回 テキストの読解と討論 第4回 テキストの読解と討論 第5回 テキストの読解と討論 第6回 テキストの読解と討論 第7回 テキストの読解と討論 第8回 資料探索の手法 第9回 テキストの読解と討論 第10回 テキストの読解と討論 第11回 テキストの読解と討論 第12回 テキストの読解と討論 第13回 卒業論文のテーマ設定のために 第14回 卒業論文のテーマ設定のために 第15回 卒業論文のテーマ設定のために			
テキスト	授業中に指示	参考文献	授業中に指示	
評価方法	平常点:80% 振り返りレポート:20%			

社会思想史演習		通年（後期）	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする卒業論文の作成		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標及びテーマ	前期に社会科学の領域から日本という対象にアプローチするための研究手法を獲得していくと同時に、各自のテーマに沿って卒業論文を作成する。		
授業の概要	メンバーそれぞれが研究発表を行い、それについて全員で討論していく。たがいにおおいに学び合うことが、内容の濃い卒業論文に結実していくので、教室ではとことん議論することを重んじる。卒業論文の具体的な作成の仕方の指導も行う。		
授業計画	【後期】 第1回 研究発表と討論 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 研究発表と討論 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 研究発表と討論		
テキスト	なし	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

経営学演習		通年（前期）	4 単位	2年
経営学演習		宇田 美江（うだ みえ）		
授業の到達目標及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆するため、自分の興味を見つけていくことができるようにする。			
授業の概要	毎回レポーターを決め、経営学に関する文献などを読みつつ、さまざまな企業や仕事、働く女性などを調査したり、それを基に発表や議論を中心に行う。担当箇所に限らず、文献は全員読んでおくこと。チームでの取り組みも模索する。参加者には、ディスカッションへの積極的参加を期待する。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス・発表担当の決定 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 前期のまとめ・卒論に向けて			
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	適宜紹介する。	
評価方法	発表:40% 授業への参画度:60%			

経営学演習		通年（後期）	2年
経営学演習		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、自分の興味によって、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆する。		
授業の概要	各自が興味のあるテーマを選び、卒業論文の作成を中心に行う。課題（文献を読んでくる、報告を用意する）を与えるため、その際は必ず準備して臨むこと		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス・卒業論文に向けて 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 論文仮提出と手直し 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表と論文提出		
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	発表:30% 授業への参画度:40% 卒業論文:30%		

心理学演習		通年（前期）	4 単位	2年
実証研究を行なって論文にまとめる!		武田 美亜（たけだ みあ）		
授業の到達目標 及びテーマ	実証研究を行なって卒業論文をまとめるための準備を行なう。自分たちで先行研究を調べて研究テーマを絞り、実験や調査の計画、準備を行なう。論文の執筆もできるところから順次進める。研究を行なう上で考慮しなければならないことを理解する。			
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、先行研究を調べながら実験または調査の研究計画を立て、準備を行う。授業外の時間も大量に使って自主的に作業を進めることが必須である。研究は基本的にグループで行なうが、論文は各自で執筆する。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／春休みの成果の発表 第2回 卒論テーマの検討 第3回 卒論テーマの決定 第4回 心理統計：導入 第5回 心理統計：基礎 第6回 文献探し 第7回 文献の検討 第8回 先行研究のまとめ 第9回 先行研究の発表 第10回 研究の方向性の検討 第11回 研究計画の立案 第12回 研究計画の吟味 第13回 研究計画の決定 第14回 実験・調査の準備 第15回 まとめ／夏の課題の確認			
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	戸田山和久（2012）『論文の教室』NHK出版／向後千春・富永敦子（2007）『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。	
評価方法	課題発表:60% 授業への参加:40%			

心理学演習		通年（後期）	2年
実証研究を行なって論文にまとめるII		武田 美亜（たけだ みあ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究計画に基づいて、実験または調査の実施、分析を行ない、論文を完成させる。 実験に参加してくれる人への倫理的配慮を理解する。		
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、実験または調査の実施、ExcelやSPSSなどの統計ソフトを用いた分析も必要に応じて行う。論文は各自で執筆する。授業外の時間も大量に使って自主的に作業を進めることが必須である。		
授業計画	【後期】 第1回 進行状況と課題の確認 第2回 実験・調査の最終準備 第3回 実験の実施 第4回 調査の実施 第5回 分析手順の確認 第6回 データ入力 第7回 データ分析・基礎 第8回 データ分析・応用 第9回 結果の解釈 第10回 結果の解釈の吟味 第11回 結果の考察 第12回 考察の吟味 第13回 論文作成 第14回 研究参加者への報告の作成 第15回 研究成果の発表、総まとめ		
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	松井豊（2006）『心理学論文の書き方』（河出書房新社）／向後千春・富永敦子（2007）『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。
評価方法	卒業論文：70% 研究への取り組み：30%		

社会学演習		通年（前期）	4 単位	2年
日本の社会やメディアについての理解を深める。		渡邊 良智（わたなべ よしとも）		
授業の到達目標 及びテーマ	2年後期の卒業演習Ⅱの準備段階として、日本の社会やメディアについての共通理解を深めるとともに、将来社会人として要求される学生の諸能力を少人数授業の中で養成する。学生は、問題発見力、調査力、分析力、討議力、表現力および発表力を合わせたコミュニケーション能力、が身に着くことが期待される。			
授業の概要	授業の前半は、災害という切り口から日本社会についての理解を深めるため、共通テキストを輪読する。後半は、各自自由に現代日本社会に関するテーマを選択して調査研究を行い、分析結果をレジュメにまとめて発表し、それに基づいて討論を行い、現代日本社会についての理解を深める。			
授業計画	【前期】 第1回 導入と今後のスケジュール 第2回 テキストの輪読（1） 第3回 テキストの輪読（2） 第4回 テキストの輪読（3） 第5回 テキストの輪読（4） 第6回 テキストの輪読（5） 第7回 テキストの輪読（6） 第8回 発表と討論（1） 第9回 発表と討論（2） 第10回 発表と討論（3） 第11回 発表と討論（4） 第12回 発表と討論（5） 第13回 発表と討論（6） 第14回 発表と討論（7） 第15回 全体まとめ			
テキスト	寺田寅彦『天災と日本人』（角川ソフィア文庫）寺田寅彦『天災と国防』（講談社文庫）	参考文献	必要に応じて適宜指示する。	
評価方法	演習参加度：30% 中間発表：30% 最終レポート：40%			

社会学演習		通年（後期）	2年
日本社会論・日本人論のテーマで卒業論文を書く。		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
授業の到達目標及びテーマ	日本社会論・日本人論の枠内で大きくテーマを設定し、自主的に文献やデータを収集し分析する。過去の研究を参考に、自分のテーマを絞り込み、討議および教員のアドバイスを受けて修正をくわえ、最終的に、平常の授業レポートを上回るレベルの卒業論文を完成する。問題発見力、文献探索力、発表力、文章表現力を養成する。		
授業の概要	まず各自が卒業論文の大きなテーマを決め、論文の構想を立てる。それに必要な文献およびデータを収集し、分析する。さらに、これまでの研究を参考に追求すべき論点を絞り込むことによりテーマを決める。目次を立てて論文を作成し、修正を加えつつ論文を完成する。論文作成途中で中間報告、進行状態の報告を行い、お互いの理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 導入と今後の予定 第2回 大きなテーマの選択 第3回 論文の構想（1） 第4回 論文の構想（2） 第5回 文献やデータの収集（1） 第6回 文献やデータの収集（2） 第7回 これまでの研究のレビュー（1） 第8回 これまでの研究のレビュー（2） 第9回 これまでの研究のレビュー（3） 第10回 論文の構想（3） 第11回 論文の構想（4） 第12回 論文の概要の決定 第13回 論文の作成（1） 第14回 論文の作成（2） 第15回 論文の完成		
テキスト	特になし。	参考文献	各人の選択したテーマごとに指示する。
評価方法	授業参加度:30% 中間報告:20% 卒業論文:50%		

英語演習 I	通年（前期） 2 単位	1年
Listening and Speaking	カリガン (CULLIGAN, B. A.) ピンター (PINTER, B.)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.</p> <p>【授業の概要】</p> <p>In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations <p>Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.</p> <p>Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.</p> <p>【授業計画】</p> <p>First Semester</p> <p>Week 1 Course Goals and Objectives</p> <p>Week 2 Unit 1: Talking about Introductions</p> <p>Week 3 Unit 2: Talking about Family</p> <p>Week 4 Unit 3: Talking about Movies</p> <p>Week 5 Unit 4: Talking about Directions</p> <p>Week 6 Preparing a three -minute Presentation; Prepare for Test 1</p> <p>Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>Week 8 Test Feedback; preparing a three-minute presentation</p> <p>Week 9 Three-minute presentation</p> <p>Week 10 Unit 5: Talking about Travel</p> <p>Week 11 Unit 6: Talking about Recipes</p> <p>Week 12 Unit 7: Talking about Health</p> <p>Week 13 Unit 8: Talking about Making a Speech</p> <p>Week 14 Test 2 Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>Week 15 How to Make a Speech - Preparing your three-minute Speech</p> <p>【テキスト】</p> <p>Booklet</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p> <p>【評価方法】</p> <p>Your grade for this course will be based on the following:</p> <p>Tests and 3-minute Speech 50% テストとスピーチの点数は、2回のテストと一回のスピーチ結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。</p> <p>Participation/Homework 20%</p> <p>Vocabulary Quizzes 15%</p> <p>Three-minute Presentation 15%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

英語演習 I	通年（後期）	1年
Listening and Speaking	カリガン (CULLIGAN, B. A.) グリック (GLICK, J.)	
【授業の到達目標及びテーマ】		
By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.		
【授業の概要】		
In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:		
<ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations 		
Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.		
Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.		
【授業計画】		
<p>Week 1 Three-minute presentation 1 (Summer Vacation)</p> <p>Week 2 Unit 9: Talking about Music</p> <p>Week 3 Unit 10: Talking about Friends</p> <p>Week 4 Unit 11: Talking about Money and Jobs</p> <p>Week 5 Unit 12: Talking about Superstitions</p> <p>Week 6 Preparing a three-minute presentation; Preparing for Test 1</p> <p>Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>Week 8 Three-minute presentation 2 on Units 9-12</p> <p>Week 9 Speech Contest</p> <p>Week 10 TOEIC - IP</p> <p>Week 11 Unit 13: Talking about Sports</p> <p>Week 12 Unit 14: Talking about the News</p> <p>Week 13 Unit 15: Talking about Fashion</p> <p>Week 14 Unit 16: Talking about the Past and Future</p> <p>Week 15 Test 2: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p>		
【テキスト】		
Booklet		
【参考文献】		
なし		
【評価方法】		
Your grade for this course will be based on the following:		
<p>Tests 50% テストとFinal Presentationの点数は、2回のテストと一回のグループプレゼンテーション結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。</p> <p>Participation/Homework 20%</p> <p>Vocabulary Quizzes 15%</p> <p>Three-minute Presentations 15%</p>		
<p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

英語演習Ⅱ	通年（前期）	2 単位	2年
Intermediate College English IA			
<p>【担当教員】 グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J.R.)、シミズ (SHIMIZU, M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course students will continue to develop the reading and discussion skills they learned last year. During the semester, students will focus on two broad topics that are important in the world today (environmental issues and moral issues). For each unit students will learn new vocabulary, do a dictation exercise, a listening exercise, read articles, answer comprehension questions about the article, and have an opportunity to discuss the issues in pairs or small groups and express their opinions.</p> <p>【授業の概要】 There are a number of goals for this content-based course. The first four are English language use goals, and the other three are intellectual and personal development goals. Please see the course booklet for details.</p> <p>【授業計画】 (前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 Introduction to the Course 第 2回 Environmental Issues 1: Our Planet 第 3回 Environmental Issues 2: Minamata 第 4回 Environmental Issues 3: Water 第 5回 Environmental Issues 4: Fast Food 第 6回 Environmental Issues- Development and Feeding th 第 7回 Reviewing Environmental Issues 第 8回 Vocabulary and multiple Choice Test 1 第 9回 Presentation 1 第10回 Moral Issues 1: A Moral World: Gender 第11回 Moral Issues 2: Parasite Singles 第12回 Moral Issues 3: Charity 第13回 Moral Issues 4: AIDS 第14回 Reviewing Moral Issues 第15回 Vocabulary and multiple Choice Test 2 <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Participation:15% Homework:15%</p>			

英語演習Ⅱ	通年（後期）	2年
Intermediate College English IIA		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course students will continue to develop the reading and discussion skills they learnt last year. During the semester, students will focus on two broad topics that are important in the world today (Health issues and World issues). For each unit students will learn new vocabulary, do a dictation exercise, a listening exercise, read articles, answer comprehension questions about the article, and have an opportunity to discuss the issues in pairs or small groups and express opinions.</p> <p>【授業の概要】 There are a number of goals for this content-based course. The first four are English language use goals, and the other three are intellectual and personal development goals.</p> <p>【授業計画】 (後期) 第1回 Introduction to the Course - 4 Big Issues 第2回 Health Issues 1: The Meaning of Health 第3回 Health Issues 2: Smoking 第4回 Health Issues 3: Organ Transplants 第5回 Health Issues 4: Cloning 第6回 Health Issues - Counterpoint 1: My life - My body 第7回 Review of Health Issues 第8回 Vocabulary and multiple Choice Test 1 第9回 Presentation 1 第10回 TOEIC 第11回 World Issues 1: Free Trade 第12回 World Issues 2: Fair Trade 第13回 World Issues 3: Rich and Poor 第14回 Review of World Issues 第15回 Vocabulary and multiple Choice Test 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Participation:15% Homework:15%</p>		

英書講読		通年（前期）	2 単位	2年
経営学演習		宇田 美江（うだ みえ）		
授業の到達目標 及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆するため、自分の興味を見つけることができるようにする。			
授業の概要	毎回レポーターを決め、経営学に関する文献などを読みつつ、さまざまな企業や仕事、働く女性などを調査したり、それを基に発表や議論を中心に行う。担当箇所に限らず、文献は全員読んでおくこと。チームでの取り組みも模索する。参加者には、ディスカッションへの積極的参加を期待する。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス・発表担当の決定 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 前期のまとめ・卒論に向けて			
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	適宜紹介する。	
評価方法	発表:40% 授業への参画度:60%			

英書講読		通年（後期）	2年	
経営学演習		宇田 美江（うだ みえ）		
授業の到達目標 及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、自分の興味によって、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆する。			
授業の概要	各自が興味のあるテーマを選び、卒業論文の作成を中心に行う。課題（文献を読んでくる、報告を用意する）を与えるため、その際は必ず準備して臨むこと			
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス・卒業論文に向けて 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 論文仮提出と手直し 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表と論文提出			
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	授業内で適宜紹介する。	
評価方法	発表:30% 授業への参画度:40% 卒業論文:30%			

英書講読		通年（前期）	2 単位	2年
実証研究を行なって論文にまとめるI		武田 美亜（たけだ みあ）		
授業の到達目標 及びテーマ	実証研究を行なって卒業論文をまとめるための準備を行なう。自分たちで先行研究を調べて研究テーマを絞り、実験や調査の計画、準備を行なう。論文の執筆もできるところから順次進める。 研究を行なう上で考慮しなければならないことを理解する。			
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、先行研究を調べながら実験または調査の研究計画を立て、準備を行う。授業外の時間も大量に使うことによって自主的に作業を進めることが必須である。研究は基本的にグループで行なうが、論文は各自で執筆する。			
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／春休みの成果の発表 第2回 卒論テーマの検討 第3回 卒論テーマの決定 第4回 心理統計：導入 第5回 心理統計：基礎 第6回 文献探し 第7回 文献の検討 第8回 先行研究のまとめ 第9回 先行研究の発表 第10回 研究の方向性の検討 第11回 研究計画の立案 第12回 研究計画の吟味 第13回 研究計画の決定 第14回 実験・調査の準備 第15回 まとめ／夏の課題の確認			
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	戸田山和久（2012）『論文の教室』NHK出版／向後千春・富永敦子（2007）『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。	
評価方法	課題発表：60% 授業への参加：40%			

英書講読		通年（後期）	2年
実証研究を行なって論文にまとめるII		武田 美亜（たけだ みあ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究計画に基づいて、実験または調査の実施、分析を行ない、論文を完成させる。 実験に参加してくれる人への倫理的配慮を理解する。		
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、実験または調査の実施、ExcelやSPSSなどの統計ソフトを用いた分析も必要に応じて行う。論文は各自で執筆する。授業外の時間も大量に使うことによって自主的に作業を進めることが必須である。		
授業計画	【後期】 第1回 進行状況と課題の確認 第2回 実験・調査の最終準備 第3回 実験の実施 第4回 調査の実施 第5回 分析手順の確認 第6回 データ入力 第7回 データ分析・基礎 第8回 データ分析・応用 第9回 結果の解釈 第10回 結果の解釈の吟味 第11回 結果の考察 第12回 考察の吟味 第13回 論文作成 第14回 研究参加者への報告の作成 第15回 研究成果の発表、総まとめ		
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	松井豊（2006）『心理学論文の書き方』（河出書房新社）／向後千春・富永敦子（2007）『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。
評価方法	卒業論文：70% 研究への取り組み：30%		

英書講読		通年（前期）	2 単位	2年
比較文化論、来日した欧米人の目に映った日本文化		中井 章子（なかい あやこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	16世紀から19世紀に来日した欧米人の旅行記をとおして、異文化交流、日本文化とヨーロッパ文化の比較について学ぶ。 卒業論文のテーマを各自が決め、研究方法を学び、実践する。			
授業の概要	1. 共通のテキストを決め、要約し、ディスカッションし、報告書を書く。 2. 卒業論文については、各自で決めたテーマに基づき、文献を収集する。 3. 現代世界における日本文化について考えるため、新聞を読んできて話し合う。			
授業計画	【前期】 第1回 演習の進め方、卒業論文について 第2回 現代世界のなかの日本 第3回 世界の中の日本文化 第4回 来日したヨーロッパ人の背景 第5回 来日したヨーロッパ人の背景 第6回 来日したヨーロッパ人さまざま 第7回 来日したヨーロッパ人さまざま 第8回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第9回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第10回 卒業論文に関する文献リストの作成 第11回 卒業研究の進め方 第12回 レポートを書く 第13回 レポートについての話し合い 第14回 研究計画について 第15回 研究の進め方			
テキスト	渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー	参考文献	演習の中で紹介する	
評価方法	コメント:20% 議論、発言:30% まとめ:20% レポート:30%			

英書講読		通年（後期）	2年
比較文化論に関連する卒業論文を書く		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	(卒業論文の作成) 前期から決めたテーマに関する卒業論文を書く。文献の集め方、論文の構成、論文の書き方を学ぶ。 研究の口頭発表の仕方を学ぶ。 (共同研究) 来日した欧米人の日本旅行記を読み、異文化理解や文化比較について学ぶ。		
授業の概要	共同研究では、共通の文献を読み、担当者の要約に基づき話し合う。 卒業論文に関しては、適宜、各自の研究を途中で報告しつつ、卒業論文を完成させる。 英語のテキストを決め、輪読する。		
授業計画	【後期】 第1回 卒論に関する報告 第2回 卒論の進め方、書き方について検討する 第3回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（1） 第4回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（2） 第5回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（3） 第6回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（4） 第7回 卒論の中間発表 第8回 卒論に関する文献を共同で読む（1） 第9回 卒論に関する作品の検討 第10回 卒論の形式についての検討 第11回 論文の仮提出 第12回 論文の改訂 第13回 論文の提出 第14回 論文についての口頭発表 第15回 論文の評価		
テキスト	授業時間中に指示する	参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	演習での議論:25% 発表、報告:25% 卒業論文:50%		

英書講読		通年（前期）	2 単位	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする専門的研究手法の獲得		輪島 達郎（わじま たつろう）		
授業の到達目標及びテーマ	社会科学の領域から日本という対象にアプローチしていくために、研究の方法や、論理の構築方法を学ぶ。			
授業の概要	共通の研究書や論文を読み解き、たがいに議論しながら、粘り強く、論理的に思考する訓練を行うと同時に、メンバーそれぞれの個性から豊かに学ぶことができる空間を作っていく。			
授業計画	【前期】 第 1回 オリエンテーションと自己紹介 第 2回 オリエンテーションと自己紹介 第 3回 テキストの読解と討論 第 4回 テキストの読解と討論 第 5回 テキストの読解と討論 第 6回 テキストの読解と討論 第 7回 テキストの読解と討論 第 8回 資料探索の手法 第 9回 テキストの読解と討論 第10回 テキストの読解と討論 第11回 テキストの読解と討論 第12回 テキストの読解と討論 第13回 卒業論文のテーマ設定のために 第14回 卒業論文のテーマ設定のために 第15回 卒業論文のテーマ設定のために			
テキスト	授業中に指示	参考文献	授業中に指示	
評価方法	平常点:80% 振り返りレポート:20%			

英書講読		通年（後期）	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする卒業論文の作成		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標及びテーマ	前期に社会科学の領域から日本という対象にアプローチするための研究手法を獲得していくと同時に、各自のテーマに沿って卒業論文を作成する。		
授業の概要	メンバーそれぞれが研究発表を行い、それについて全員で討論していく。たがいにおおいに学び合うことが、内容の濃い卒業論文に結実していくので、教室ではとことん議論することを重んじる。卒業論文の具体的な作成の仕方の指導も行う。		
授業計画	【後期】 第 1回 研究発表と討論 第 2回 研究発表と討論 第 3回 研究発表と討論 第 4回 研究発表と討論 第 5回 研究発表と討論 第 6回 研究発表と討論 第 7回 研究発表と討論 第 8回 研究発表と討論 第 9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 研究発表と討論		
テキスト	なし	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

フランス語演習Ⅰ（初級）		通年（前期）	2 単位	1・2年
日常のコミュニケーション能力を獲得するために		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	毎回の授業を通してフランス語の綴り字と発音の対応関係をしっかりと身につける。基本動詞の現在形の活用を学習し、それに基づいて、疑問の表し方、あるいは答え方などを習得し、必要な情報を獲得し、また発信できるようになること。			
授業の概要	毎回の授業で音読の練習を行う。初めてのフランス語であるから、フランス語の仕組み＝文法に関しては教員が少しずつ説明していくが、その他の練習などは教員と受講生との口頭でのやり取りを基本として進めていき、最後に板書によって確認していく。各テーマが終わる毎に小テストとしてディクテーションを行う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 フランス語の音と文字、数字 第2回 フランスとはどんな国？ 第3回 あいさつの表現 第4回 名詞の性数、冠詞、前置詞と定冠詞の縮約 第5回 空港での会話―両替所にて 第6回 形容詞の変化、所有形容詞、提示の表現 第7回 ホテルでの会話―フロントにて 第8回 特殊な形容詞、人称代名詞強勢形、il y a ~の表現 第9回 郵便局の窓口での会話 第10回 電話での会話 第11回 否定文、指示形容詞 第12回 avoir +無冠詞名詞の表現 第13回 カフェでのウェイターとの会話 第14回 疑問文、非人称構文 第15回 メトロの窓口での会話			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版―（朝日出版社）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語演習Ⅰ（初級）		通年（後期）	1・2年	
コミュニケーションの幅を広げよう		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	綴り字と発音の対応関係の習得度をより確かなものとする。また不規則動詞の活用、さまざまな代名詞の使い方を学習し、現在形だけでなく過去形による幅広い表現を理解し、多様な話題について発信できるようになること。			
授業の概要	毎回、音読の練習を行う。文法事項の説明は教員が行うが、その他の作業は受講生各人にやってもらうので、受け身の学習にならないように積極的に取り組んでもらいたい。口頭でのやり取りだけでなく、受講生に板書してもらうこともある。各テーマが終わる毎にディクテーションを実施する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 近い未来と近い過去の表現、疑問形容詞 第2回 中性代名詞 en と y 第3回 観光バスに乗るための会話 第4回 命令形、目的語となる人称代名詞 第5回 食料品店での会話 第6回 疑問代名詞 第7回 疑問副詞 第8回 レストランでの会話 第9回 過去分詞、複合過去形 第10回 受動態 第11回 美術館での会話 第12回 比較級・最上級 第13回 代名動詞、性数のある指示代名詞 第14回 プティックでの会話 第15回 さらにフランス語学習を目指して―フランス語の全体像			
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版―（朝日出版社）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語演習 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	1・2年
フランス語入門		二川 佳巳 (ふたがわ よしみ)		
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語入門のクラスとして、フランス語を正しく発音し、文法規則の初歩を身につけることを目標とする。			
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時小テストを行い、最後に定期試験を行う。			
授業計画	【前期】 第 1回 イントロダクション、ABC 第 2回 短母音字と複母音字の読み方 第 3回 鼻母音字と子音字の読み方 第 4回 簡単な挨拶 第 5回 名詞と定冠詞 第 6回 -er 動詞、リエゾン・アンシェーマン 第 7回 不定冠詞、命令文 第 8回 動詞 être、国籍・職業の名詞 第 9回 形容詞の性・数 第 10回 指示形容詞、否定文 第 11回 疑問文 第 12回 所有形容詞、前置詞と定冠詞の縮約 第 13回 動詞 avoir、数 第 14回 疑問形容詞 第 15回 動詞 aller と venir			
テキスト	足立和彦ほか 『パルトン！パルロン！』（第三書房）	参考文献	最初の授業で指示	
評価方法	定期試験：50% 課題：20% 小テストと平常点：30%			

フランス語演習 I (初級)		通年 (後期)		1・2年
フランス語の初級		二川 佳巳 (ふたがわ よしみ)		
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語 I に続く初級のクラスとして、やさしいフランス語の文を理解し表現できるようにする。			
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時動詞活用の小テストを行い、最後に定期試験を行う。			
授業計画	【後期】 第 1回 人称代名詞の強勢形 第 2回 -ir 動詞、動詞 vouloir と pouvoir 第 3回 時刻表現と時間に関する疑問文 第 4回 天候表現、場所やいき方をたずねる 第 5回 部分冠詞、動詞 prendre と boire 第 6回 疑問代名詞 第 7回 代名動詞、理由をたずねる疑問副詞 第 8回 目的語人称代名詞 第 9回 中性代名詞 en、数・量をたずねる疑問副詞 第 10回 動詞 faire、否定文の冠詞 第 11回 近接未来と近接過去、動詞 savoir と connaître 第 12回 中性代名詞 y、様子・方法・状態をたずねる疑問副詞 第 13回 過去分詞、知覚動詞、序数 第 14回 複合過去 第 15回 比較級と最上級			
テキスト	足立和彦ほか 『パルトン！パルロン！』（第三書房）	参考文献	特になし	
評価方法	定期試験：50% 課題：20% 小テストと平常点：30%			

フランス語演習Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2年
確実な理解を目指して		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	1年次に学習したことを復習するとともに、話し言葉でも書き言葉でも最もよく用いられる過去形の運用を確実なものにする。また自分自身について、しっかりとした情報を発信できるようになる。			
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、簡単な会話文の理解や作文が授業の中心的な作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や訳読、作文は受講生各自にやってもらう。したがって積極的な取り組みが望まれる。3、4課ごとに小テストを実施する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 綴り字の読み方の復習 第2回 限定詞（冠詞、指示形容詞、所有形容詞） 第3回 聞き取り：人物選択 第4回 直説法現在（規則動詞、不規則動詞）、命令形 第5回 作文：自己紹介 第6回 代名動詞 第7回 人称代名詞、代名詞 on 第8回 短い手紙を読む 第9回 疑問詞 第10回 インタビュー：あなた自身について 第11回 直説法複合過去、近接過去 第12回 インタビュー：夏休みについて 第13回 比較級、最上級 第14回 性・数の一致 第15回 まとめと復習			
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

フランス語演習Ⅱ（中級）		通年（後期）	2年	
フランス語の全体像をつかみ、基礎を完成させよう		加藤 行男（かとう ゆきお）		
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語基礎学習の最終段階である。未来形やさまざまな過去形を学習し、フランス語の全体像を理解する。同時に語彙力をつけて、検定試験などに対応できるようになる。			
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、会話文の理解や作文が授業の中心的な作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や会話文の訳読、作文は受講生各自にしてもらう。予習は必須である。3、4課ごとに小テストを実施する。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 直説法単純未来、近接未来、非人称表現 第2回 作文：旅行の日程 第3回 直説法半過去 第4回 文の完成：昔と今 第5回 関係代名詞 第6回 直説法複合過去と半過去 第7回 指示代名詞、所有代名詞 第8回 会話文：ショッピング 第9回 中性代名詞 第10回 会話文：青果店での買物 第11回 現在分詞、ジェロンディフ、受動態 第12回 作文：リラックスの仕方 第13回 条件法現在・過去 第14回 接続法現在・過去 第15回 まとめと復習			
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし	
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%			

ドイツ語演習Ⅰ（初級）		通年（前期）	2 単位	1・2年
ドイツ語の第一歩		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語初習者を対象とした授業です。初級文法を学びながら、「話す・聴く・書く・読む」の基本的な力をつけていきます。あいさつや自己紹介からはじまり、簡単な日常会話ができるようになりましょう。			
授業の概要	初級文法、基本単語、表現、正確なイントネーションと発音等、話す・聴く・書く・読むの総合的な力をバランスよく身につけていきます。授業はパートナー練習を多く取り入れていきますので、積極的な参加を重視します。ほかにも映像などの資料を多くとりいれて、ドイツを身近に感じられるようにしていきたいと思います。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 簡単なあいさつから 第2回 自己紹介 アルファベットと発音の基礎知識 第3回 お互いに知り合う 第4回 動詞の現在人称変化（規則変化） 第5回 動詞の現在人称変化（sein） 第6回 動詞の現在人称変化（haben 不規則変化動詞） 第7回 名詞の性 第8回 冠詞 ～好きな食べ物 第9回 冠詞類 第10回 不規則な変化をする動詞 第11回 分離動詞 ～週末の予定、一日の行動など 第12回 話法の助動詞 ～「～したい」という表現 第13回 非人称 ～天気表現 第14回 「夏休みは何をする？」 第15回 前期の総まとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」（飯田・江口）三修社	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

ドイツ語演習Ⅰ（初級）		通年（後期）	1・2年	
ドイツ語の基礎がため		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標 及びテーマ	初級文法に関する基本的な知識を完成させ、コミュニケーション力を養成していきます。複雑な文章にもチャレンジしてドイツ語の文体に慣れていきます。			
授業の概要	前期に学んだ内容を発展させて、さらに複雑な構造の文を理解し、話し、書けるようにしていきます。前期と同様に、パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。映像資料を参考に、ドイツの歴史なども学んでいきたいと思います。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前期の簡単な復習 第2回 「夏休みは何をした？」など過去のできごとを表現する 第3回 動詞の三基本形を学ぶ 第4回 前置詞を使って、位置や場所に関する表現を学ぶ 第5回 過去形と現在完了 第6回 受動文 ～修理や・家事・料理に関する表現 第7回 再帰表現 ～趣味や楽しみにしていることなど 第8回 ふたつの文をひとつにする方法 第9回 比較・最上級 第10回 zu不定詞を使って表現 第11回 従属の接続詞と副文 第12回 非現実表現 第13回 「もしも～だったら」という表現 第14回 総復習 第15回 一年のまとめ、試験			
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」（飯田・江口著 三修社）	参考文献	特になし	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%			

ドイツ語演習 I (初級)		通年 (前期) 2 単位	1・2年
ドイツ語入門		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標及びテーマ	読む、書く、聴く、話すという多角度で、実際のドイツ語の初歩ができるようになる。		
授業の概要	ドイツ語について各章ごとにテーマのある、学生同士の対話中心のテキストに沿って進め、発音練習、文法説明後に確認練習、テキスト付属CDを使つてのキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	【前期】 第 1回 授業の概要説明、アルファベット 第 2回 発音 第 3回 動詞、語順 第 4回 挨拶 第 5回 名詞 第 6回 冠詞 第 7回 前置詞 第 8回 人称代名詞 第 9回 不規則変化動詞 第 10回 命令文 第 11回 冠詞類 第 12回 話法の助動詞 第 13回 形容詞 第 14回 複数形 第 15回 まとめ		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書 (最初の時間に紹介するので、毎時間携帯しておくこと)
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

ドイツ語演習 I (初級)		通年 (後期)	1・2年
初級ドイツ語		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標及びテーマ	ドイツ語 I で習得した入門ドイツ語をさらに深めて、初級ドイツ語を一通り理解し、実践的運用ができるようになる。		
授業の概要	テキストに沿って進め、文法説明後に確認練習、日常会話の練習、テキスト付属のCDを使つてのキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	【後期】 第 1回 前期の復習、数字 第 2回 現在完了形 第 3回 過去形 第 4回 動詞の三基本形 第 5回 形式上の主語es 第 6回 比較表現 第 7回 副文 第 8回 日付、時刻の言い方 第 9回 接続法 第 10回 手紙の書き方 第 11回 分離動詞 第 12回 再帰動詞 第 13回 受動 第 14回 関係文 第 15回 まとめ		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書、その他随時紹介
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

ドイツ語演習Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2年
中級へのステップアップ		飯田 道子（いいだ みちこ）		
授業の到達目標及びテーマ	1年次に学んだ文法を復習しながら、未習の文法事項を学び完成させることで、初級から中級へのステップアップをはかります。			
授業の概要	1年次の文法を復習・強化しながら、さらに未習の文法を学びます。パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。文法の復習順序は参加者のレベルと照らし合わせながら決めていきますが、以下のような内容を考えています。文法学習以外にも、映画を観たりしたいと思います。			
授業計画	【前期】 第1回 導入 自己紹介 第2回 現在完了の復習 第3回 過去のことを語る 第4回 副文の復習 第5回 副文を使って表現 第6回 助動詞の構文 第7回 ニュアンスのある表現 第8回 受動文 第9回 歴史のことを読む 第10回 関係文 第11回 再帰表現 第12回 接続法 第13回 非現実の表現 第14回 夏休みの予定 第15回 まとめ			
テキスト	参加者と話し合って決定します	参考文献	授業内に適宜指示します	
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%			

ドイツ語演習Ⅱ（中級）		通年（後期）	2年
総合的な力をつけよう		飯田 道子（いいだ みちこ）	
授業の到達目標及びテーマ	これまで学習したドイツ語文法を使って、高度な内容の文章を読み、聴き取り、自ら発信していく力を養います。		
授業の概要	ドイツについてのさまざまなテーマを選んで、これまでより高度な内容の文章を読んでいきます。ドイツの歴史や文化についての理解を深められるよう、映像資料を取り入れたり、パソコンを使った授業も行っていきたいと思っています。テーマごとのプレゼンテーションも行いたいと思っています。		
授業計画	【後期】 第1回 夏休みはなにをした？ 第2回 ドイツとは 第3回 ドイツの歴史的、地理的理解 第4回 ヨーロッパにおけるドイツ 第5回 ドイツのことを調べる 第6回 ドイツのことを調べて発表する 第7回 ドイツ現代史 第8回 ベルリンの壁 第9回 壁崩壊 第10回 東西ドイツの問題点 第11回 メルヒエンを読む—Part.1 第12回 メルヒエンを読む—Part.2 第13回 メルヒエンの発表 第14回 メルヒエンの受容史 第15回 まとめ		
テキスト	適宜コピーを配布します	参考文献	授業内に適宜指示します
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%		

中国語演習 I (初級)		通年 (前期)	2 単位	1・2年
はじめの中国語		孔 令敬 (こう れいけい)		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙量と文法の習得を到達目標とする。			
授業の概要	前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 中国語とは 第2回 母音と声調について 第3回 子音について 第4回 鼻母音と特殊母音について 第5回 音節と軽声 第6回 発音と発音表記のまとめ 第7回 動詞述語と形容詞が述語の表現について 第8回 疑問文の作り方について 第9回 まとめと練習 (小テストを含む) 第10回 所在と存在を表す表現について 第11回 動作の進行と状態の持続を表す表現について 第12回 まとめと練習 (小テストを含む) 第13回 前置詞による構文を使う表現について 第14回 動作の完了と過去を表す表現について 第15回 まとめと練習 (小テストを含む)			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100 ②中日辞書・発行所：小学館 (電子辞書も可)	
評価方法	小テストと授業参加度:50% 筆記テスト:50%			

中国語演習 I (初級)		通年 (後期)	1・2年	
はじめの中国語		孔 令敬 (こう れいけい)		
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙の習得を目指す。			
授業の概要	授業内容：前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 助動詞を使う表現について 第2回 経験と実現ずみのことを表す表現について 第3回 慣用句を使う表現について 第4回 まとめと練習 (小テストを含む) 第5回 動詞を運用する構文による表現について 第6回 行為の程度を表す表現について 第7回 動作の結果を表す表現について 第8回 まとめと練習 (小テストを含む) 第9回 動作の方向を表す表現について 第10回 これから起きることを表す表現と処置を表す表現について 第11回 比較を表す表現について 第12回 まとめと練習 (小テストを含む) 第13回 使役を表す表現について 第14回 受身を表す表現について 第15回 総まとめと練習 筆記テスト			
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100	
評価方法	小テストと授業参加度:50% 筆記試験:50%			

中国語演習Ⅱ（中級）	通年（前期）	2 単位	2年
役に立つ中国語のために	呉 秀月（ご しゅうげつ）		
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 初級の復習1：基本動詞・基本形容詞をチェック 第2回 初級の復習1：基本形容詞をチェック 第3回 初級の復習2：基本文型をチェック 第4回 第1課：助動詞の学習 第5回 第1課：主述述語文の学習 第6回 第1課：目的語が主述句の学習 第7回 第2課：「原因・理由」表現の学習 第8回 第2課：「逆接」を表す「可是」の学習 第9回 第3課：文末の助詞連動文の学習 第10回 第3課：「是…的」の文・疑問詞の学習 第11回 第4課：「了」の3つの用法 第12回 第4課：副詞「就」 第13回 第5課：結果補語(1)の学習 第14回 第5課：副詞「有点儿」・「假定」を表す「要是」の学習 第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】尹景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」（白水社、2013） 【参考文献】特になし 【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>			

中国語演習Ⅱ（中級）	通年（後期）	2年
役に立つ中国語のために	呉 秀月（ご しゅうげつ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>本授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中国語Ⅳは、前期の中国語Ⅲに引き続き、一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 第6課：存現文・主語がブレイズのときの学習 第2回 第6課：「又…又」の用法の学習 第3回 第7課：「状態の持続」を表す「着」の学習 第4回 第7課：副詞「再」・部分否定の学習 第5回 第8課：方向補語の学習 第6回 第8課：「使役」を表す疑問詞の不定用法の学習 第7回 第9課：可能補語の学習 第8回 第9課：強調表現の学習 第9回 第10課：「目的」を表す学習 第10回 第10課：「推測」を表す「会」・「～了～了」の用法の学習 第11回 第11課：結果補語(2)の学習 第12回 第11課：「受身」を表す「被」の学習 第13回 第12課：「快～了」の用法の学習 第14回 第12課：介詞「把」の学習 第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】尹景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」（白水社、2013） 【参考文献】特になし 【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>		

韓国語演習Ⅰ（初級）		通年（前期）	2 単位	1・2年
韓国語と韓国文化		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講義では、韓国語の基礎をマスターすることを目的とする。到達目標は基本的な韓国語の読み、書き、聞き取り、それから簡単な日常会話ができるようにすることである。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式。 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション及び韓国語についての全般的な説明 第2回 第1課 基本母音 第3回 第1課 子音について（読み、書き） 第4回 第2課 単語の発音 第5回 第3課 濃音について 第6回 第4課 複合母音 第7回 第5課 終音について 第8回 第6課 子音の呼称 第9回 第7課 鼻音化について 第10回 第8課 流音化について 第11回 第9課 連音について 第12回 第10課 平音の濃音化 第13回 第11課 私は学生です（肯定形） 第14回 第12課 私は学生ではありません（体言否定形） 第15回 ハングルのワードの打ち方実習			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

韓国語演習Ⅰ（初級）		通年（後期）		1・2年
韓国語と韓国社会		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語の読み書き、聞き取り、会話能力を身につけ、様々な場面で韓国語が駆使できるようにする。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 第13課 3年生です（漢数詞について） 第2回 第13課 練習（漢数詞を使つての物の言い方） 第3回 第14課 何と言いますか（物の値段の言い方） 第4回 第14課 練習 疑問文について 第5回 第15課 今、何時ですか（時刻の言い方） 第6回 第15課 練習 固有数字について 第7回 第16課 どこへ行くのですか（用言とその上称形） 第8回 第16課 練習 動詞の上称形について 第9回 第17課 駅から家まで（主な助詞） 第10回 第17課 練習 形容詞について 第11回 第18課 ちょっとお尋ねします（意推量を表わす表現） 第12回 第18課 練習 位置を表わす表現 第13回 第19課 おいくつでいらっしゃいますか（尊敬形） 第14回 第19課 練習 動詞の尊敬形 第15回 第20課 好きではありません（用言否定形）			
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%			

韓国語演習Ⅱ（中級）		通年（前期）	2 単位	2年
もっと知りたい韓国語・韓国文化		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語初級を学んだ学生を対象に、一年目に習った文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能（聞く、話す、読む、書く）を一層高めることを目標にする。			
授業の概要	聞き取り、会話発表、パートナー学習などを取り入れた練習を行う。具体的には授業中二人一つのペアーを組み、会話の練習を繰り返すことである程度の日常会話ができるようにする。なお、韓国関係のDVDや映画などを用いることで、韓国の現代社会や文化にもふれる。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 第1課 お名前は何とおっしゃいますか（尊敬） 第2回 第1課 ～たら（条件・仮定） 第3回 第1課 ～たら ～しようと思います（意図・計画） 第4回 第2課 朝子といいますが、日本から来ました（説明） 第5回 第2課 ～した後で ～する前に（動作の順序） 第6回 第2課 ～してから、～して以来（期間） 第7回 第3課 魚は焼かないでください（義務） 第8回 第3課 ～てもいいです（許可・禁止） 第9回 第3課 ～なければなりません（義務） 第10回 第4課 ファンの集いに行くことにしました（形容詞） 第11回 第4課 ～て、～なので（理由） 第12回 第4課 ～することにしました【決心・約束】 第13回 第5課 道を渡って左にずっと行ってください（位置） 第14回 第5課 ～て（手段） 第15回 第5課 ～してから（動作の順序・連絡）			
テキスト	「ちょこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔栄美著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%			

韓国語演習Ⅱ（中級）		通年（後期）		2年
もっと知りたい韓国語・韓国社会		川村 受映（かわむら じゅえい）		
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語Ⅲを学んだ学生を対象に、文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能（聞く、話す、読む、書く）を一層高めることを目標にする。			
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出す			
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 6課 ファンの集いへ行ってみたんですけど 第2回 6課 ～している、～する（動詞・存在詞の現在連体形） 第3回 6課 ～してみました（試行・経験） 第4回 6課 ～なんだけれど（物やできごとの状況説明・感想） 第5回 7課 少し安くしてください 第6回 7課 ～してください（依頼） 第7回 7課 ～してみてください（勧誘・アドバイス） 第8回 7課 ～していただけますか？（より丁寧な依頼） 第9回 8課 私の気持ちですから受け取ってください 第10回 8課 ～だから（理由・根拠） 第11回 8課 ～ですわね（感嘆） 第12回 8課 ～そうです、～だろうと思います（推測） 第13回 9課 咳がひどくて眠れませんでした 第14回 9課 ～でいらっやいます（かしこまった尊敬） 第15回 9課 ～できない（不可能）			
テキスト	「ちょこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔栄美著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する	
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%			

美学 I		前期 2 単位	2年
美の学 (Calonologia) 研究		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	美は真・善と並んで重要な価値である。美は芸術作品だけが具現する価値なのか。否。人間は芸術ばかりでなく、自然、技術的な機械、人間の行為などにも美を見出す。講義では、古代からヘーゲルまでの美学の緒論を紹介し、最後に現代に於ける美学をカロノロジア (Calonologia) として、その方向性を論じる。美の価値の現代的意味を理解す		
授業の概要	古典古代のプラトーンは超絶的なアイデアを目指す”美 (ト・カロン) の学”を最高の学とした。つまり18世紀の”美学” 成立以前に美を論じた”美の学” はあった。講義では古代から現代までの美についての緒論を紹介し、最後に現代の美学をカロノロジアとして論ずる。講義形式で行うが、レポートも必要に応じて課する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 序論、美学の定義 第 2回 美学の始まりーバウムガルテンの感覚重視の美学 第 3回 日本に於ける美学ー「美学」の話の翻訳の問題ー西周 第 4回 ギリシア悲劇 第 5回 プラトーンの「美の学」と霊感説 第 6回 アリストテレスの『詩学』 第 7回 中世美学の特徴ー超越と光 第 8回 象徴の美学ー象徴と解釈の問題 第 9回 トマスの超越論ーキリスト教的美学 第10回 フランスの合理主義美学ー数と「真実らしさ」 第11回 カント美学ー崇高論と天才論ー自然美 第12回 ロマン主義の芸術観ー詩、絵画、音楽 第13回 ドイツ観念論の美学ーシェリングとヘーゲルー自然美と芸術美 第14回 日本の美学ー詩歌論、間の問題 第15回 カロノロジアと芸術の学		
テキスト	今道友信『講座美学』1 美学の歴史 (東京大学出版会)、絶版のためプリントを使う	参考文献	今道友信『美について』 (講談社現代新書)
評価方法	試験:30% コミュニケーション力:30% レポート:40%		

芸術各論 I		前期 2 単位	2年
芸術の諸相		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術の多面的構造を理解し、芸術の理念及び内在的意味と周辺的な個別芸術のもつそれぞれの独自性を論理的に明らかにする。総合的に芸術を考察することを目的とする。		
授業の概要	講義形式で行う。今年度の自分の研究課題と関連させて考えることを目指している。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 序論ー諸芸術の関係と展開 第 2回 芸術とは何かー芸術と価値 第 3回 芸術のアナロギーー芸術の意味の多様性 第 4回 芸術の分類ー分類の歴史 第 5回 芸術の起源ー芸術と宗教 第 6回 日本の芸能ー能と歌舞伎、それぞれの特徴 第 7回 能と歌舞伎の構造的関係と双極性ー比較研究 第 8回 日本の芸術における「間」 第 9回 日本の芸術における否定性 第10回 造形芸術 1ー絵画、抽象芸術の意味 第11回 造形芸術 2ー彫刻、新しい造形化 第12回 デザインーデザインの革新的展開 第13回 都市論ー建築美学と現代都市 第14回 芸術の将来 第15回 まとめ		
テキスト	今道友信編『講座美学』4 芸術の諸相 (東京大学出版)	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験:20% コミュニケーション力:30% レポート:50%		

映像論	前期 2 単位	2年
映像の歴史と映像表現を理解するための作品分析	濱崎 好治（はまさき こうじ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 写真と映画の歴史を具体的な作品を見ながら、その表現技法と時代社会的背景を概説し作家性を考察する。視覚文化の拡がりから批評的な読み解きと内容分析できる理論を身につける。</p> <p><授業の概要> 毎回、映像を見る。 映像とは何か、18世紀中頃～20世紀まで代表的な作品を紹介しながら多様な視点の分析方法を解説する。幅広いジャンルの映像を数多く見ることで、技法と表現の規制、作家の創造力、人々の受容される要素を発見し、テレビの草創期から現在のインターネットの動画まで、映像表現の今日的な問題点も探る。</p> <p><授業計画> 第 1回 写真術の発明によって何がもたらされたか？ 第 2回 写真の技法と写真の読み方 第 3回 映画の誕生と20世紀の科学技術 第 4回 映画の文法 カメラワーク 第 5回 映画の文法 モンタージュ 第 6回 映画の物語性と演技力 第 7回 ニュース映画とプロパガンダ・コマーシャル 第 8回 ドキュメンタリー映画の系譜（文化映画・PR映画・記録映画・テレビドキュメンタリー） 第 9回 映画の作家性（外国映画） 第10回 映画の作家性（日本映画） 第11回 映画の芸術性 第12回 映画とテレビの比較文化とメディア論 第13回 ニュー・テレビジョンとビデオ（1960～1970） 第14回 万博パビリオンから映像インスタレーション 第15回 インターネットと投稿動画</p> <p><テキスト> 特に指定はないが、授業時間内に印刷物を配布する。</p> <p><参考文献> 授業時間内に紹介する。</p> <p><評価方法> 平常点:15% 質疑応答:20% レポート:65%</p>		

子ども学基礎論	前期 2 単位	1年
大学での学びの基礎となる教養を培う		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この科目は、子ども学科において、これから学習する内容の基本となる広い教養を培うことを目指しています。 人間の原点である子どもを学ぶことの現代的な意義について、様々な角度から考察します。 具体的には、子どもの発達や保育・教育・福祉・文化などの諸問題を中心にしながら、今日子どもがおかれている社会的・文化的状況についての理解を深めていきます。 あわせて、学ぶことの真の意味である、既成の概念を疑い、自らの心と頭と身体を駆使して感じ取り、考え、洞察し、頭脳と感性を耕していく自己変革の生活への一歩となる時間を、共に創造していく機会にしたいと願っています。</p> <p><授業の概要> 少人数のグループによる授業を主体にし、資料収集・討論・見学・ワークショップなどグループやそのテーマごとに多様な方法で行われます。 本年度は10のグループに分かれます。 また、途中で別のグループ分けによる学外見学が予定されています。</p> <p><授業計画> 第 1～7回 グループによる相互学習 第 8回 学外見学(幼稚園) 第 9～14回 グループによる相互学習／第15回 まとめ</p> <p><テキスト> 各グループで適宜考えます。 <参考文献> 各グループで必要に応じ、随時紹介して行きます。 <評価方法> 平常点70%、レポート・提出物など30%を基本として各教員が評価します。</p> <p>(付記) 「子ども学基礎論」の学びの一環として、全クラスで午前中の半日、約10か所で幼稚園見学を予定していますので、幼稚園免許取得の希望と関わりなく、必ず全員が出席してください。</p>		

子ども学特別研究Ⅲ	前期 2 単位	3年
幼児及び保育をとりまく諸課題の探究 Ⅲ		浅見 均（あさみ ひとし）
授業の到達目標 及びテーマ	○ 子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、幼児及び保育をとりまく諸課題に対して受講者の報告、発表から、広く、深く学び合っていく。 ○ 自分の研究テーマを特定し、資料収集、論文作成に取り組む。	
授業の概要	受講生の自発的な学び及びその成果を報告・発表しそれに対する討議を中心として学び合う授業展開をする。またその中で、文献講読も随時行っていく。 夏休み中にゼミ合宿を計画	
授業計画	【前期】 第1回 授業ガイダンス 第2回 課題別資料収集の方法（図書館） 第3回 PCを使用した論文作成の基本及び応用 第4回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第5回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第6回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第7回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第8回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第9回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第10回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第11回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第12回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第13回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第14回 「子ども学特別研究Ⅲ成果集」作成 第15回 まとめ	
テキスト	特に定めない	参考文献 特になし
評価方法	討議への積極的参加:30% 発表内容:30% レポート内容:40%	

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
幼児及び保育をとりまく諸課題についての探究Ⅰ		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 論文作成の基礎・基本としての読む、討議する、書くことを身につける。 ○ 幼児及び保育における様々な課題について広範な視点より探究し、自分の言葉で発表することができる。 		
授業の概要	前半は論文作成にあたっての基礎・基本を身につけることを主眼に置き、その後、保育関連の文献を読み、ディスカッションをする。また、受講生の興味あるテーマでグループ研究をし、レポートを作成し、発表、討議する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方について他</p> <p>第2回 研究テーマ方向性発表</p> <p>第3回 論文作成にあたっての資料収集の基礎（図書館）</p> <p>第4回 論文作成の基礎1 ワードの基礎</p> <p>第5回 論文作成の基礎3 エクセル及びパワーポイントの基礎</p> <p>第6回 文献研究および討議1</p> <p>第7回 文献研究および討議2</p> <p>第8回 文献研究および討議3</p> <p>第9回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第10回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第11回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第12回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第13回 テーマに基づく報告・発表・討議</p> <p>第14回 テーマに基づく報告・発表・討議</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業の中で指示する。	参考文献	なし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
特別研究への取り組み（その3）			
<p>【担当教員】</p> <p>浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、荒松 礼乃（あらまつ あやの）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>本授業のねらいは、2年次の「子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱ」を引き継ぎ、年度末の論文発表会・作品発表会に向けて、これまで取り組み中の課題について3年前期としてのまとめをすることを通して、論文の作成や作品の制作に努めることにある。</p> <p>なお、グループ編成は「子ども学特別研究Ⅱ」が継承され、渡部かなえ先生グループ所属の学生は、同先生が特別研究期間制度を利用される2013年度は、同じ専門領域の荒松 礼乃先生の指導を受ける。</p> <p>指導教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要></p> <p>それぞれのテーマに即して個人（グループ）研究が継続されます。</p> <p>論文中心の場合は年度末の「論文発表会」に向けて、また表現領域の場合は「作品発表会」や卒展での発表を前提とした終了制作に向けてとりくむ。</p> <p><授業計画></p> <p>第1～15回 各研究テーマに即して、その内容の深化に努め、論文作成や作品制作にとりくむ。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> それぞれのグループで必要に応じ、随時紹介していく。</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物や中間発表などを総合して評価する。</p>			

子ども学特別研究Ⅰ	前期 2 単位	2年
特別研究への取り組み（その1）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この授業は、学生が自らの知的関心と独自の視点にもとづいて研究テーマを設定し、本学科で学んでいる知見を手掛かりに、論文の作成、品の制作にとりくむもので、このことにより課題研究の体験学習を積む。また、同じグループに属するメンバー相互の意見交換や討論により、研究テーマをできるだけ総合的に捉えることができるようにする。これらを通して、大学教育で肝心な既存概念や先入観の再吟味、自発的で創造的な課業となることが期待される。指導教員ならびにその指導の主要な分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要> 原則として、個別テーマに即した研究内容についての助言や指導とともに、それを論文や制作として構成し、記述・表現する方法などについての個別指導やグループ指導が行なわれる。グループ研究（制作）の場合もある。同じグループ内での相互の意見交換や討論・批判などが次の特別研究の取り組みへとつながっていく。この特別研究は、原則として、2年次後期「子ども学特別研究Ⅱ」、3年次前期「子ども学特別研究Ⅲ」、同後期「子ども学特別研究Ⅳ」を継続して履修するものとする。</p> <p><授業計画> 第1～15回 それぞれの研究テーマに即してその内容の深化に努め、資料収集や予備調査を行ない、後期の執筆や制作の準備を行なう。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物などを総合して評価される。</p>		

保育内容総論		前期 2 単位	3年
保育内容各論の学びを統合し保育内容を総合的に捉える視点を持つ		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標及びテーマ	1. 幼稚園・保育所の実際を振り返り、乳幼児の発達、生活の基本など再確認する。2. 保育内容の史的変遷及び「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の基本理解をし、保育内容を総合的に捉える視点を持つ。3. 子どもの主体的な活動を保障する環境の設定、遊びを通しての総合的指導、保育内容を具体化する指導計画の作成、評価の基本を学ぶ。		
授業の概要	実習体験や保育内容各論（5領域）の学びを統合して保育を総合的に考えることができるように、		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 オリエンテーション及び授業の進め方</p> <p>第 2回 保育の基本と保育内容</p> <p>第 3回 保育の特質</p> <p>第 4回 保育内容の変遷</p> <p>第 5回 幼児の発達と生活</p> <p>第 6回 幼児理解と保育内容</p> <p>第 7回 環境と保育内容</p> <p>第 8回 遊びと学び</p> <p>第 9回 保育内容とメディア利用</p> <p>第10回 保育内容と保育の計画保育内容と保育の展開</p> <p>第11回 保育の評価と記録</p> <p>第12回 保育者の役割</p> <p>第13回 保育内容における現状と課題</p> <p>第14回 今日の保育の課題と保育内容</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	浅見均・田中正浩編著『保育内容総論』大学図書出版 2013	参考文献	授業の中で適宜紹介
評価方法	授業への参加態度:30% レポート:10% 試験:60%		

幼稚園実習ⅡA	前期 1 単位	2年
幼児と保育について本質的理解を深める		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 「幼稚園実習ⅡA・B」は、幼稚園教諭2種免許状の取得をめざすが、幼稚園の現場で3週間の実習をする。特に2年生の実習は、幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者の在り方などを学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の適性についても考える機会とすることを目的としている。</p> <p><授業の概要> 幼稚園実習に向けて準備のために毎週行う「事前授業」、3週間の実習幼稚園における「幼稚園教育実習」、そして実習後に毎週行う「事後授業」の3本立てで進める。事前と事後の授業は、基本的に4グループの分級で行う。</p> <p><授業計画> 前期 第1回 幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的 第2回 幼児理解を深めるために 第3回 幼児の発達と保育者のかかわり 第4回 幼児の生活と保育活動 第5回 6月実習をふまえた教材研究 第6回 保育の内容と方法 第7回 指導計画と保育方法 第8回 幼稚園における参加実習 第9回 幼稚園における参加実習と部分保育実習 第10回 幼稚園における責任実習 第11回 幼稚園実習の報告と検討 第12回 他園の保育状況を知る 第13回 合同報告会 第14回 幼児と保育の問題点を課題をさぐる 第15回 幼児と保育についての本質理解のまとめ</p> <p>◎幼稚園での実習は6月3日（月）～6月22日（土）の3週間です。</p> <p><テキスト> 『子どもの育ちを支える 幼稚園教育実習』浅見均・田中正浩編著 大学図書出版</p> <p><参考文献> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省</p> <p><評価方法> 平常点（授業への参加態度、課題レポートなど）50%、 実習点（実習評価票、実習録・提出レポートなどの総合評価）50%</p> <p>※履修上の注意： ・第1回目の授業より毎週必ず出席のこと（出席・受講態度重視）。 ・本授業への欠席があると幼稚園での3週間の実習に行けない場合があるので注意のこと。 ・やむを得ないことでの欠席は事前に学科研究室に届け出、後日担当教員（安部・浅見）を訪ねること。無断欠席者に対しては厳しい対応をとる。</p> <p>※「幼稚園実習ⅡA・B」の履修条件 ・1年次の「幼稚園実習ⅠA・B」が履修済みであること。 ・1年次の基礎科目（1年次の教職科目）が原則として全科目履修できていること。</p>		

幼稚園実習ⅡB	前期集中 3 単位	2年
幼稚園実習を通して幼児・保育の本質理解を深める		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、荘司 紀子（しょうじ のりこ） （教育実習時の幼稚園訪問指導の教員） 実習巡回指導には、浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、横堀昌子、村知稔三の専任教員のほか、上村真理子、荘司紀子の幼稚園実習担当講師があたる。</p> <p><実習の到達目標及びテーマ> 幼稚園での3週間の教育実習を通して、幼児と保育について、本質的理解を深める。</p> <p><実習授業の概要> 実習期間 2013年6月3日（月）～6月22日（土）</p> <p>（内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 園児の観察、保育の参観など、観察・参加実習 2. 幼児の理解を深める 3. 保育内容や保育方法の研究 4. 保育者の幼児へのかかわり方などの研究 5. 保育の計画と実践（部分実習・責任実習も含む） 6. 保育の展開と記録 7. 環境構成への参加（清掃・教材準備など） 8. 幼児・保育・自己への省察 9. 幼稚園教育の理解 <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく <評価方法> 実習評価票25%・実習録25%・実習後のレポート25%・訪問指導教員の評価25%</p>		

子ども学基礎演習	後期 2 単位	1年
子どもへのまなざし ―子どもを通して人間や社会を考える―		浅見 均（あさみ ひとし）
授業の到達目標 及びテーマ	○ 子どもをキーワードに討議することができる。 ○ 子どもについて考え、自分の言葉で発表できる。 ○ 子どもを考えることを通して自分の考えを文章にできる。	
授業の概要	先ず、子どもをキーワードに、新聞記事を持ち寄り、子ども関連の記事を通して人間や社会について考える。次にドキュメンタリーや映画などを通して子どもについて、社会について人間についてさらに考えを深めていく。また子どもに関するテーマで調べ、文章にまとめ、発表をする。	
授業計画	【後期】 第1回 授業概要及び組み立てについて 第2回 新聞の中の子ども 新聞記事からの討議 第3回 ドキュメンタリー映像 子どもと貧困 視聴 第4回 映像を見て討議及びレポート作成 第5回 保育所見学 第6回 保育所の子ども（1）保育所見学レポート発表 第7回 保育所の子ども（2）保育所見学レポート発表 第8回 子どもをテーマに調べる テーマを設定 第9回 子どもをテーマに調べる 図書館で資料探索 第10回 子どもをテーマに調べる 図書館及びPCで調べる 第11回 子どもをテーマに調べた資料をまとめる 第12回 子どもをテーマに調べたものを文章にする 第13回 子どもをテーマにまとめたものを発表する 第14回 子どもをテーマにまとめたものを発表する 第15回 まとめ	
テキスト	特になし	参考文献 特になし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%	

保育・教職実践演習（幼稚園）	後期 2 単位	3年
教養豊かで魅力あふれる大人としての保育者を目指して		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、上村 真理子（かみむら まりこ）、荘司 紀子（しょうじ のりこ） <授業の到達目標及びテーマ> 幼児の傍らに寄り添う大人としての保育者はどうあるべきかについて、様々な視点より考え、討論し、子どもにとって魅力的な存在とはどのようなものかについて気付いていく（保育者として最小限必要な資質、能力の確認）。</p> <p><授業の概要> 当該科目の意義を自覚し、保育職の意義、保育者の役割、人間関係構築、幼児理解、保育内容の豊かな検討、クラス経営などについて、教職担当教員、教科に関する科目担当教員、幼稚園現職教員、保育士科目担当教員などが協力して教養及び感性豊かで魅力ある保育者に向けて授業展開をしていく。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション（演習の目的、計画等）（浅見） 第2回 子どもの育ちを支えるとは 講義と討議（上村） 第3回 環境構成と保育の見通し 講義と討議（荘司） 第4回 保育場面設定 ロールプレイ準備（浅見・上村・荘司） 第5回 保育場面設定によるロールプレイ（浅見・上村・荘司） 第6回 幼児期の豊かな造形表現 講義と討議・小論（久保） 第7回 幼児の発達理解と保育 講義・討議・小論（菅野） 第8回 幼児期の豊かな言語生活 講義・討議・小論（さくま） 第9回 保育の本質について講義・討議・小論（阿部） 第10回 保育の現状と課題1 討議（杉田・村知・横堀） 第11回 保育の現状と課題2 討議（杉田・村知・横堀） 第12回 保育の現状と課題3 討議（杉田・村知・横堀） 第13回 「保育から学んだ事」発表会 合同（杉田・村知・横堀） 第14回 「保育から学んだ事」発表会 合同（杉田・村知・横堀） 第15回 まとめ 合同</p> <p><テキスト>特に指定しない <参考文献>必要に応じて適宜示す <評価方法>授業への参加態度:40% レポート:60%</p>		

保育方法研究	後期 2 単位	2年
幼児期における保育方法の探究		浅見 均（あさみ ひとし）
授業の到達目標 及びテーマ	○ 保育方法の基本として、乳幼児の特性、保育の原理、方法などについて理解する。 ○ 様々な主義や保育形態について理解し、保育の中でどう生かしていくことが望ましいのかということについて理解する。	
授業の概要	保育の方法について、主義、形態、環境等、様々な観点からその在り方を探る。授業展開としては、授業内講演者を招いたり、映像を見たりしながら具体的に考えていくことにより、幼児にふさわしい保育の方法のあり方について理解を深めることを中心とする。尚3名の保育実践者を招いて話を伺う予定である。	
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 保育方法研究の意義 第2回 保育方法の基本 第3回 様々な主義に基づく保育（1）キリスト教保育など 第4回 様々な主義に基づく保育（2）モンテッソーリメソッド 第5回 様々な保育形態による保育（1）自由保育形態など 第6回 様々な保育形態による保育（2）共生保育など 第7回 子どもの遊びをどう援助するか 第8回 保育環境の考え方（1）表現を中心とした保育展開 第9回 保育環境の考え方（2）レジャージェミリア市の保育 第10回 保育における情報機器及び教材の活用 第11回 保育方法とカリキュラム 第12回 保育方法と園行事 第13回 保育方法と保育記録 第14回 指導要録の記入の実際（保育記録を活かす） 第15回 まとめ	
テキスト	浅見均・田中正浩 編著『保育方法の探究』 大学 図書出版 2009	参考文献 授業の中で指示
評価方法	授業への参加態度:20% ミニレポート:10% 試験:70%	

子どもと人間関係		後期 2 単位	1年
保育における人間関係の探究		浅見 均 (あさみ ひとし)	
授業の到達目標 及びテーマ	<input type="radio"/> 「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」における領域「人間関係」の目指す内容を具体例を通して理解する。 <input type="radio"/> 乳幼児期の人間関係の発達について理解する。 <input type="radio"/> 保育者として乳幼児にどうかかわることが望ましいのかを理解する。		
授業の概要	教育要領、保育指針における教育の基本を把握し、領域「人間関係」のねらいや、内容について、具体的な事例や映像を交えて考えていく。その際、人間関係の発達についても概観する。さらには、保育者同士の人間関係の重要性、保育者と保護者の人間関係の重要性についても学んでいく。		
授業計画	【後期】 第1回 はじめに 保育の基本とは何か 第2回 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」とは 第3回 子どもと人間関係を支える保育者の役割 第4回 乳幼児期の発達と領域「人間関係」 第5回 子どもの言葉と人間関係 第6回 子どもの遊びと人間関係 第7回 個と集団の育ち (集団化へのプロセス) 第8回 子どもの生活と人間関係 第9回 子どもの活動と人間関係 第10回 園行事と人間関係 第11回 地域とのかかわり他 第12回 小学校との連携 第13回 保育者同士の人間関係 第14回 保護者との人間関係 第15回 まとめ		
テキスト	浅見均 編著 『子どもと人間関係』 大学図書出版 2010年	参考文献	文部科学省 『幼稚園教育要領解説』
評価方法	授業への参加態度:20% 授業感想文:10% 試験:70%		

子ども学特別研究Ⅳ	後期 2 単位	3年
特別研究への取り組み（その4）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、荒松 礼乃（あらまつ あやの）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 本授業は、3年前期「子ども学特別研究Ⅲ」に引き続き、特別研究の最終段階として子ども学科での学びの集大成として位置づけられる。 具体的には、年度末の論文・作品発表会でその成果を明らかにし、大学教育の締めくくりに役割を果たす。 なお、グループの編成は3年前期「子ども学特別研究Ⅲ」が継承される。 教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要> それぞれのテーマに即して個人（グループ）研究が継続される。論文中心の場合は年度末の「論文発表会」に向けて、また表現領域の場合は「作品発表会」や卒展での発表を前提とした終了制作に向けてとりくむ。</p> <p><授業計画> 第1～14回 各研究テーマに即して、その内容の深化に努め、論文の作成や作品の制作にとりくみ、まとめる。 その成果は提出と発表が義務づけられている。／第15回 論文・作品発表会で発表する。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 基本的には論文や作品にもとづいて評価するが、最終的には取り組みの過程を含めた総合的な視点から各教員が評価する。</p> <p><論文・作品の提出日> 後日、掲示する。日時を厳守のこと（提出先は教務課）。</p> <p><論文・作品発表会> 2013年1月。全員が発表する。</p> <p>（付記） 論文・作品の要旨を編集した「研究誌」が年度内に発行され、配布される。</p>		

子ども学特別研究Ⅱ	後期 2 単位	2年
特別研究への取り組み（その2）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この授業は前期の「子ども学特別研究Ⅰ」を引き継ぐものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生自らの知的関心及び独自の視点に基づき研究テーマを設定し、本学科で学んでいる知見を手掛かりに、論文の作成や作品の制作にとりくむ。これにより課題研究の体験学習を引き続き積むこととなる。また、同じグループに属するメンバー相互の意見交換や討論、相互批判などにより、研究テーマを総合的に捉えられるようにする。 ○ 大学教育で肝心の既存概念や先入観の再吟味や自発的で創造的な課業とし、研究テーマについてどのように調べるか、どのような内容構成が必要かについての実践的な学びを積み重ねる。ここでの特別研究は、原則として3年次の「子ども学特別研究Ⅲ・Ⅳ」に継承され、2年間にわたる継続学習になる。教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。 <p><授業の概要> 原則として、前期に引き続き履修学生の個別的な研究テーマに即した研究内容についての助言や指導とともに、それをいかに論文や制作として構成し、記述・表現するかの方法などについての個別指導やグループ指導が行われる。グループ研究（制作）の場合もある。また、同じグループメンバーにおける相互の意見交換や討論、相互批判などは引き続きここでの特別研究の内容深化につながる。それぞれのグループにおいて、年度末には何らかの中間発表が考えられる。そして、これらの取り組みは3年次の学びへと継承される。</p> <p><授業計画> 第1～14回 前期の準備を受け、それぞれの研究テーマに即した論文の作成や作品の制作にとりくむ。 第15回 中間発表などを実施し、「子ども学特別研究Ⅲ」への準備とする。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物や中間発表などを総合して評価する。</p> <p>（付記） 3年次「子ども学特別研究」の「論文発表会」「作品発表会」「卒展・ギャラリートーク」を2014年1月に予定しているので、必ず全員が出席のこと。</p>		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
幼児及び保育をとりまく諸課題の探究 Ⅳ		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標 及びテーマ	○ 2年間の「子ども学特別研究」の学びの集大成として、受講生各自のテーマに沿った論文を作成し、完成させる。 ○ 研究テーマに沿って資料収集し、それらをもとにしながら自分の言葉で論理的に論文を作成することができる。		
授業の概要	前半は論文の中間報告及び討議を中心とする。後半は仮提出を踏まえて個別指導、最後に論文発表会をゼミの中で行う。最後に受講生全員の論文集を作成する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 テーマ別資料収集の方法ガイダンス（図書館） 第3回 PCを使った論文作成の基本及び方法 第4回 論文中間報告、発表、討議 第5回 論文中間報告、発表、討議 第6回 論文中間報告、発表、討議 第7回 論文中間報告、発表、討議 第8回 論文中間報告、発表、討議 第9回 仮提出を踏まえた個別指導 第10回 仮提出を踏まえた個別指導 第11回 仮提出を踏まえた個別指導 第12回 仮提出 第13回 パワーポイントによるプレゼン準備 第14回 論文発表会（グループ内） 第15回 論文発表会（全体）		
テキスト	特に定めない	参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度:15% 授業参加（出席）:15% 論文の内容:70%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
大学での学びの基礎となる教養を深める			
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この科目は、子ども学基礎論で培った学びをより深めることを目指す科目です。 人間の原点である子どもを学ぶことの現代的な意義について、様々な角度から考察し、深めます。 具体的には、子どもの発達、保育、教育、福祉、文化などの諸問題を中心にしながら、今日子どもがおかれている社会的・文化的状況についての理解をいっそう深めていきます。 あわせて、学ぶことの真の意味である、既成の概念を疑い、自らの心と頭と身体を駆使して感じ取り、考え、洞察し、頭脳と感性を耕していく自己変革の生活への第2段階となる時間を、共に創造していく機会にしたいと願っています。</p> <p><授業の概要> 自ら選択した少人数のグループによる授業を主体にし、資料収集・討論・見学・ワークショップなどグループやそのテーマごとに多様な方法で行われます。本年度は10のグループに分かれます。 また、途中で別のグループ分けによる学外見学が予定されています。</p> <p><授業計画> 第1～7回 グループによる相互学習／第8回 学外見学(保育所)／第9～14回 グループによる相互学習 第15回 まとめ</p> <p><テキスト> 各グループで適宜考えます。 <参考文献> 各グループで必要に応じ、随時紹介して行きます。 <評価方法> 平常点70%、レポート・提出物など30%を基本として各教員が評価します。</p> <p>(付記) 「子ども学基礎演習」の学びの一環として、全クラスで午前中の半日、約10か所で保育所見学を予定していますので、保育士資格取得の希望と関わりなく、必ず全員が出席してください。</p>			

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
幼児及び保育をとりまく諸課題についての探究 Ⅱ		浅見 均 (あさみ ひとし)	
授業の到達目標及びテーマ	○ 論文作成の基礎基本としての、資料収集、自分の考えを書く、発表する、討議する、研究テーマを深めるなどのことができるようになる。 ○ 幼児及び保育における様々な課題について多様な視点より探究する。		
授業の概要	夏季休業中に幼児に関する課題テーマを設定して、小論文を作成し、授業の中で発表し、それに基づいて討議をすることを中心に授業を進める。その中で、文献講読も適宜行っていく。		
授業計画	【後期】 第1回 子ども学特別研究Ⅱについて 第2回 文献・資料収集について (図書館) 第3回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第4回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第5回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第6回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第7回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第8回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第9回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第10回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第11回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第12回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第13回 「子ども学特別研究Ⅲ」に向けて自己課題発表 第14回 小論文集作成 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	なし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

幼稚園実習ⅠA	後期 1 単位	1年
幼児理解をめざして		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 「幼稚園実習ⅠA」は、幼稚園教諭2種免許状の取得を目指す人が、幼稚園教育の実態を知り、幼児理解を深めることをねらいとする。</p> <p><授業の概要> 幼稚園実習に向けての準備のための「事前授業」と、「幼稚園実習ⅠB」での1週間実習、そしてその成果を振り返る「事後の授業」の3本立てで進めていく。 また、この授業の評価は3本を総合して行う。 なお授業は、基本的に4グループに分けて行う。</p> <p><授業計画> 後期 第1回 幼稚園実習のねらい・目的を知る 第2回 実習準備室を利用した学習 第3回 実習に向けて 幼稚園の1日を知る 第4回 実習に向けて 観察実習と参加実習その在り方 第5回 実習に向けて 実習日誌の書き方・実習の心構え等 第6回 実習に向けて1 簡単な指導案の書き方 第7回 実習に向けて2 具体的な実習準備・心構え確認 第8回 幼稚園実習（実習協力園での実習） 第9回 実習を終えて1（省察） 第10回 実習を終えて2 実習から学んだこと1（報告会） 第11回 実習を終えて3 実習から学んだこと2（報告会） 第12回 実習を終えて4 実習から学んだこと2（報告会） 第13回 「幼稚園実習Ⅱ」に向けての課題検討 第14回 「幼稚園実習Ⅱ」に向けての準備 第15回 まとめ * 幼稚園での実習は11月11日（月）～11月16日（土）の1週間行う。</p> <p>※履修上の注意： ・第1回目の授業より毎週必ず出席のこと（出席・受講態度重視）。 ・やむを得ないことでの欠席は事前に学科研究室に届け出、後日専任担当教員（安部・浅見）を訪ねること。無断欠席者に対しては厳しい対応をとる。 ・本授業への欠席があると幼稚園での1週間の実習に行けない場合があるので注意すること。 ・「幼稚園実習ⅠA」、「幼稚園実習ⅠB」の単位が取得できない場合は「幼稚園実習ⅡA」、「幼稚園実習ⅡB」の履修ができない。</p> <p><テキスト> 浅見均・田中正浩編著『子どもの育ちを支える 幼稚園教育実習』 大学図書出版</p> <p><参考文献> 授業の中で適宜紹介する。</p> <p><評価方法> 授業への参加態度40%・実習日誌・評価40%・レポート20%</p>		

幼稚園実習 I B	後期集中 1 単位	1年
幼稚園実習を通して幼児理解をする		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ） <実習の到達目標及びテーマ> 幼稚園での1週間の実習を通して、幼稚園教育や保育の実際を知り、幼児理解を深める。</p> <p><実習の概要> 実習期間：11月11日（月）～11月16日（土）</p> <p>内容： 1、実習幼稚園の概要を知る。 2、配属クラスの1日の生活の流れを知る。 3、配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活など）を知る。 4、保育者の子どもへのかかわり方などを知る。 5、簡単な部分保育実習（点呼・ピアノ・紙芝居・遊びへの参加など）。 6、保育を観察、記録し、日誌を書き、学んだことを省察する。 7、環境構成への参加（清掃、保育準備など）。</p> <p>※実習巡回指導には、浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、横堀昌子、村知稔三の専任教員のほか、上村真理子、莊司紀子の幼稚園実習担当講師が当たる。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく <評価方法> 実習態度20%・実習日誌30%・実習評価表30%・レポート20%</p>		

児童福祉療育論	後期 2 単位	3年
障害のある子どもと家族の幸せを支援する療育のあり方	厚坂 幸子（あつさか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>幼児期における療育システムは整備されているが、障害のある子どもと家族の、地域生活における課題は山積している。幼児期に留まらず学齢期を含めて、関係機関が果たす役割を理解する。また具体的事例を通して、障害があっても一人の子供として当たり前で生活するための望ましい環境を考察し、本人と家族に寄り添った総合的支援のあり方を理解する。</p>	
授業の概要	<p>講義が中心となるが、毎回授業感想や考察を書き次回授業で振り返る。障害を自分自身に引き寄せて捉えるグループワークも随時行う。教育を含め、さまざまな福祉課題を取り上げながら、障害児者の生きにくさや障害とは何かの本質に近づき、多様な角度で療育を検証する。</p>	
授業計画	<p>【後期】 第1回 療育とは何か・障害とは何か 第2回 早期発見・早期療育—そのシステムと現状 第3回 障害の特性—見える障害と見えない障害 第4回 障害受容のプロセス—寄り添う支援のあり方 第5回 家族（母、父、兄弟児）の状況と求められる支援のあり方 第6回 幼稚園・保育園での受け止め方 第7回 就学期（学校選び）の対応 第8回 学齢期に求められる療育（学校教育編） 第9回 学齢期に求められる療育（放課後編） 第10回 障害児児童入所施設の現状と課題 第11回 権利擁護の仕組みと福祉オンブズパーソン活動実践 第12回 市民活動の意義と役割—「ともいくクラブ」実践より 第13回 地域生活支援—暮らしを総合的に支える新たな取り組み 第14回 日本の障害者福祉—カンボジア知的障害者支援から学ぶ 第15回 特別視と配慮の違いを理解する</p>	
テキスト	特に定めず、随時資料を配布する。	参考文献 必要に応じて、その都度紹介する。
評価方法	授業感想文:56% 試験:44%	

保育者論	前期 2 単位	2年
保育者の専門性とあるべき姿	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 具体的に保育者の生活と姿、保育者として必要な専門的知識、倫理感について再確認し、新しい保育課題と向きあう保育者の在りようについて考えます。この講義の終わりにはそれぞれの目指す保育者像を描くことができることを期待しています。</p> <p>【授業の概要】 この講義は2年次前期で実施される幼稚園実習を念頭に行います。実践的に保育者の在りようを考え、グループ討議を含みます。</p> <p>【授業計画：前期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績の評価方法等の説明 第2回 保育者とは何か 第3回 幼稚園教育要領と保育所保育指針にみる保育者像 第4回 保育者の職務 第5回 保育者に求められる専門性と人間性 第6回 子どもを守る保育者 第7回 保育者の知識・技術及び判断、省察 第8回 保育課程・指導計画に基づく保育の展開と自己評価 第9回 学校教育における乳幼児教育の位置づく一連続性と一貫性 第10回 連携—家庭 第12回 連携・協働—保育者間、専門機関など 第14回 専門性の向上 第15回 まとめ(試験)</p> <p>【テキスト】 『子どもの心によりそう 保育者論』(福村出版)</p> <p>【参考文献】 授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点(授業への積極的な参加、課題作業レポート、ミニレポート、ミニテスト等)」60%及び「定期試験」40%によって評価す</p>		

保育原理 I	前期 2 単位	1年
乳幼児が「育つ」ということ、保育の役割と課題	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 この講義は、乳幼児が育つことについて考え、理解し、多角的な視点から幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、幼児教育・保育にかかわる仕事の重要性和責任感について理解することをねらいとしています。</p> <p>【授業の概要】 多岐にわたるたくさんの知識について学んでいただく講義が中心となりますが、視聴覚教材や補助のプリントなども使用します。</p> <p>【授業計画：前期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績評価の出し方等の説明 第2回 保育の意義と目的—保育の意義(幼稚園、保育所) 第3回 保育の意義と目的—家庭との連携、保育所保育指針、幼稚園教育要領 第4回 保育の基本・理念—保育所保育と幼稚園教育 第5回 保育の基本・理念—保護者との連携、保育者の倫理観 第6回 保育における目標・内容・方法—生活・遊びを通しての総合的な保育 第7回 保育における目標・内容・方法—保育における「個」と「集団」の意義 第8回 ミニテスト(第7回までの内容を確認することを目的) 第9回 保育思想—欧米 第10回 保育思想—日本 第11回 保育の現状と課題—諸外国(ヨーロッパ) 第12回 保育の現状と課題—諸外国(アメリカ) 第13回 保育の現状と課題—東アジア、北米 第14回 保育の現状と課題—日本 第15回 前期授業のまとめ(試験)</p> <p>【テキスト】 『実践的 保育原理』(三晃書房) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所所保育指針解説』(フレーベル館)</p> <p>【参考文献】 授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点(授業への積極的な参加、課題作業レポート、ミニレポート、ミニテスト等)」60%及び「定期試験」40%によって評価する</p>		

子ども学特別研究Ⅰ	前期 2 単位	2年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究	阿部 真美子（あべ まみこ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 2年間にわたる研究の最初の段階として、テーマと研究方法の関係について理解し、関心あるテーマについて考え、調べ、発表する。乳幼児の生活と発達、「場」、保育者について共に研究する。</p> <p>【授業の概要】 演習形式で進めます。</p> <p>【授業計画：前期】</p> <p>第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 関心を広げる～子育て支援活動、子どもの生活と遊び、保育者像～</p> <p>第2回 研究テーマ、研究目的、研究方法の関係について理解する</p> <p>第3回 各自の関心について発表、討議</p> <p>第4回 仮テーマ、計画について発表、討議</p> <p>第5回 調査、検索について</p> <p>第6回 テーマに関する資料収集</p> <p>第7回 テーマに関する資料の発表、検討（1） 4名</p> <p>第8回 テーマに関する資料の発表、検討（2） 4名</p> <p>第9回 幼稚園における子どもの生活と子どもの姿（1）エピソード 作成</p> <p>第10回 幼稚園における子どもの生活と子どもの姿（2）エピソード 発表</p> <p>第11回 幼稚園における保育者の役割（1）エピソード 作成</p> <p>第12回 幼稚園における保育者の役割（2）エピソード 発表</p> <p>第13回 発表・討議（1）</p> <p>第14回 「研究とは」（講義）</p> <p>第15回 次の研究課題について発表・討議</p> <p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考文献】 授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点（授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等）」60%及び「レポート」40%によって評価する。</p>		

子ども学特別研究Ⅲ	前期 2 単位	3年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究	阿部 真美子（あべ まみこ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 2年次に引き続いて、各自の関心あるテーマを絞り、研究方法を探り、論文としてまとめるための研究と作業を進めていきます。乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についても検討します。</p> <p>【授業の概要】 前半では主に、テーマ、構想、計画の作成についてとりあげますが、その後は各自のテーマ、計画に沿って指導します。</p> <p>【授業計画：前期】</p> <p>第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 論文の構想と作成について</p> <p>第2回 各自の研究テーマ、研究計画を発表（レジュメ、パワーポイント作成）7名</p> <p>第3回 各自の研究テーマ、研究計画 を発表（レジュメ、パワーポイント作成）6名</p> <p>第4回 （仮）テーマの提出</p> <p>第5回 資料収集について（講義、図書館）</p> <p>第6回 研究方法について（講義）</p> <p>第7回 実習における事例研究：エピソードの作成</p> <p>第8回 実習における事例研究：エピソードの発表と討議</p> <p>第9回 研究経過と課題の発表：7名</p> <p>第10回 研究経過と課題の発表：6名</p> <p>第11回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：4名</p> <p>第12回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：4名</p> <p>第13回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：5名</p> <p>第14回 夏期休暇中の研究計画について発表（全員）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考文献】 随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点（授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等）」60%、「レポート」40%によって評価する。</p>		

子ども学特別研究Ⅳ	後期 2 単位	3年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 2年間における研究を基に、各自の関心あるテーマを絞り込み、目的・方法を確定し、論文を作成するための具体的な作業を進めていきます。</p> <p>【授業の概要】 各自のテーマについて研究を進め、そのための指導とともに、中間発表・一次稿提出・論文発表レジュメ作成など、ゼミ全員での取り組みとなります。</p> <p>【授業計画：後期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 卒業論文の構想と作成について 第2回 各自の研究計画について発表：7名（レジュメ、パワーポイント使用） 第3回 各自の研究計画について発表：6名（レジュメ、パワーポイント使用） 第4回 テーマ(仮)の提出 第5回 論文の構想と計画について(講義) 第6回 論文の構想と計画について：各自の計画の見直しと再構築 第7回 中間発表：7名（レジュメ、パワーポイント使用） 第8回 中間発表：6名（レジュメ、パワーポイント使用） 第9回 修正作業(個別指導)：5名 第10回 修正作業(個別指導)：5名 第11回 一次稿作成 第12回 修正作業(個別指導)：5名 第13回 修正作業(個別指導)：5名 第14回 論文発表会に向けての準備（発表用レジュメ作成） 第15回 報告書レジュメ作成</p> <p>【テキスト】特になし</p> <p>【参考文献】随時紹介します。</p> <p>【評価方法】「平常点（授業への積極的な参加, プレゼンテーション, ミニレポート等）」60% 「レポート」40%によって評価す</p>		

子ども学基礎演習	後期 2 単位	1年
子どもや社会について考え、併せて学び方や研究の方法について具体的に学ぶ	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	1) 現代社会における子どもの生活・遊びについて視点を持ち、具体的な姿からアプローチを試みる 2) グループで研究する。協働、調査、まとめ、発表に積極的に参加しようとする意欲を養う。 3) 上記の作業によって、情報の収集、理解の仕方、まとめ方、言葉の使い方などの基礎を習得する	
授業の概要	現代社会における子どもの生活・遊びにおける様々な姿を具体的に知る作業を行う。 また、テーマを絞ってグループ研究を行い、そのための情報収集や、討議、まとめの作成やプレゼンテーションを行う。	
授業計画	<p>【後期】 第1回 オリエンテーション(授業趣旨、進め方、評価方法) 第2回 子どもの生活・遊びの状況：視点について 第3回 子どもの生活・遊びの状況：エピソードで 第4回 上記について、学生による発表：4名 第5回 上記について、学生による発表：4名 第6回 保育園見学 第7回 保育園での子どもの姿：エピソード作成作業 第8回 保育園での子どもの姿：エピソード発表・質疑 第9回 グループ研究の方法、グループ編成、相談(テーマ) 第10回 グループ研究の計画作成 第11回 グループ研究作業 第12回 グループ研究作業 第13回 グループ研究の発表 第14回 グループ研究のまとめ(冊子)作成 第15回 グループ研究のまとめ(冊子)の作成</p>	
テキスト	特定のテキストは無い。	参考文献 参考文献や資料については調査することを主眼とする
評価方法	平常点(積極的参加)：40% プレゼンテーション:30% レポート、冊子:30%	

子ども学特別研究Ⅱ	後期 2 単位	2年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 子ども学特別研究Ⅰ（前期）での学びを継続、発展させる。テーマと研究方法の関係についての理解を深め、関心あるテーマについて考え、調べ、発表するとともに成果を小冊子にまとめる。</p> <p>【授業の概要】 演習形式です。すすめます。</p> <p>【授業計画：後期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 第2回 夏期休暇中の観察研究について発表：エピソードと考察（7名） 第3回 夏期休暇中の観察研究について発表：エピソードと考察（6名） 第4回 夏期休暇中の各自の研究テーマについて発表（7名） 第5回 夏期休暇中の各自の研究テーマについて発表（6名） 第6回 各自のテーマをさらに深めるための検討、討議 第7回 共通資料、基礎文献を検討する（1）プリントで検討 第8回 共通資料、基礎文献を検討する（2）図書館で実施 第9回 保育所における子どもの生活と子どもの姿（観察研究） 第10回 保育所における保育者の役割（観察研究、インタビュー） 第11回 発表（保育所での子どもの姿のエピソード） 4名発表 第12回 発表（保育者の姿のエピソード） 4名発表 第13回 1年間の研究のまとめ（レポートづくり）作業 第14回 1年間の研究のまとめ（レポートづくり）作業 第15回 小冊子づくり（1年間の研究のまとめ）</p> <p>【テキスト】特になし</p> <p>【参考文献】授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点（授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等）」60% 「レポート」40%により評価する。</p>		

保育内容総論	後期 2 単位	3年
保育内容について視野を広げ、子どもの発達と保育内容のかかわりについて理解を深める	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>①共通の実践材料についての的確に理解する ②共通の実践材料について考え意見を出し合う ③共通の実践材料について意見をまとめ発表する</p>	
授業の概要	2年半の学びを土台にして、共通に考えあう実践材料によって、さまざまな視点から保育内容について催行してみたいと思います。理解し、考えあい、意見を出し合うという方法で進めていきます。実践材料としては、自由保育、集団保育、モンテッソーリ教育、フレネ教育、レッジョ・エミリア・アプローチ、プロジェクト型保育等を映像やプリントで	
授業計画	<p>【後期】 第1回 はじめに一授業の趣旨、進め方などの説明、グループを作る 第2回 自由保育について考える（その1） 第3回 自由保育について考える（その2） 第4回 集団保育について考える（その1） 第5回 集団保育について考える（その2） 第6回 自由保育か集団保育か 第7回 個の教育と環境構成ーモンテッソーリ教育 第8回 個の教育と環境構成ーモンテッソーリ教育 第9回 個と集団の学びーフレネ教育 第10回 個と集団の学びーフレネ教育 第11回 レッジョ・エミリア・アプローチについて考える（その1） 第12回 レッジョ・エミリア・アプローチについて考える（その2） 第13回 プロジェクト型保育について考える（その1） 第14回 プロジェクト型保育について考える（その2） 第15回 まとめ</p>	
テキスト	特にありません	参考文献 授業内で随時紹介します
評価方法	ミニレポート:20% 授業、グループ討議への参加:20% プレゼンテーション:20% 定期試験:40%	

保育課程論	後期 2 単位	1年
幼稚園教育の理解と実践の基礎	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>主に幼稚園教育における教育課程について理解を深めますが、保育課程についても扱います。幼稚園教育における指導計画の作成、保育者の役割、環境構成と援助の方法、幼児理解、評価と改善、指導要録など具体的実践的に学びます。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>この講義は1年次後期で実施される幼稚園実習を念頭に行います。講義に加え課題作業によって実践のための基礎力を養います。</p> <p>【授業計画:後期】</p> <p>第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績の評価方法等の説明 第2回 指導案の作成と検討(1) 部分実習指導案の考え方と組み立て 第3回 指導案の作成と検討(2) 部分実習指導案の作成 第4回 指導案の作成と検討(3) 部分実習指導案の作成 第5回 指導案の作成と検討(4) 部分実習指導案のまとめ 第6回 幼稚園における生活 第7回 保育・教育課程の考え方 第8回 指導計画の考え方 第9回 保育・教育課程の編成と展開 第10回 指導計画の作成と展開 第11回 保育の省察及び記録 第12回 保育者及び保育施設における自己評価 第13回 指導要録などの作成 第14回 事例研究 第15回 まとめ(試験)</p> <p>【テキスト】</p> <p>『保育・教育課程論』(福村出版)、『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)</p> <p>【参考文献】</p> <p>授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】</p> <p>「平常点(授業への積極的な参加,課題作業レポート,ミニレポート,ミニテスト等)」60%及び「定期試験」40%によって評価す</p>		

地域社会と子ども	後期集中 2 単位	2・3年
地域における子どもの豊かな遊びを保障するために～子育ては地域で、自分たちの手で	天野 智子 (あまの ともこ)	
授業の到達目標及びテーマ	地域住民が運営する子どもの遊び場「プレーパーク(冒険遊び場)」:以下、PP」の実践や親たちの手による共同の子育て「自主保育」の活動への参加(フィールドワーク:以下、FW)と考察を通して、子どもの生活と遊び環境、子どもと大人との関係、子育てと地域のつながりについて考える。	
授業の概要	9月9日(月)3～5限は学内で講義とワークショップを行う。9月11日(水)、12日(木)もしくは13日(金)、14日(土)は午前中から夕方まで学外(世田谷区内のPP)でのフィールドワーク(以下、FW)と現地でのふり返しを行うため、終日アルバイトなど他の予定を入れない。学内授業欠席の場合、FWへの参加は不可。履修人数は上限15名。	
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 子ども時代をふり返る～ワークショップ1 第2回 子ども時代をふり返る～ワークショップ2 第3回 PPと自主保育(視覚教材視聴と講義) 第4回 PPと出会う～オリエンテーション 第5回 PPを体験する～触れる・遊ぶ・作業する 第6回 放課後をPPで遊ぶ子どもたち 第7回 活動参加のふり返しとディスカッション 第8回 幼児・その親たちの活動への参加 第9回 親たちを困らせて～子育て中の親の声を聴く 第10回 放課後をPPで遊ぶ子どもたち 第11回 活動参加のふり返しとディスカッション 第12回 地域社会と子ども～ふり返しとディスカッション 第13回 地域社会と子ども～ふり返しとディスカッション 第14回 私の感じる「遊び・地域・子ども・大人」 第15回 まとめ～地域での子どもの豊かな遊びを保障するために</p>	
テキスト	天野秀昭『子どもはおとなの育ての親』ゆじょんとブックレットシリーズ③、2002年(前期に、事前ブックレポートを提出してもらおう予定)	参考文献 遊びの価値と安全を考える会『もっと自由な遊び場を』大月書店、羽根木プレーパークの会『冒険遊び場がやってきた!』晶文社(その他は授業で紹介)
評価方法	授業・FWの参加態度:50% FWノート:30% 事前・事後のレポート:20%	

子どもと健康		前期 2 単位	2年
小さな命と健康を守り育てる		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 乳幼児期の心と体の発達について理解する 2. 子どもの運動遊びの重要性を理解し、活動を援助できる 3. 子どもが身につけておくべき基本的な生活習慣や安全への知識について理解する		
授業の概要	子どもの発達を捉えた5領域の1つ「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。これらの内容について具体的な事例をもとに学習することで、子どもの心身の発達について理解し、保育者が行う援助や関わりに必要な知識と技術を習得する。		
授業計画	【前期】 第1回 子どもを取り巻く環境の変化と乳幼児期の健康 第2回 子どもの心と体の発達と健康 第3回 子どもの体の発達と体力・運動能力の発達 第4回 園庭環境と運動用具を使った遊び 第5回 集団・ルールのある遊び（鬼遊び） 第6回 集団・ルールのある遊び（ボール、縄） 第7回 安全管理と安全教育 第8回 いきいきとした心を育てる表現遊び 第9回 基本的な生活習慣の形成（衣服の着脱と排泄） 第10回 基本的な生活習慣の形成（食育） 第11回 運動意欲を育む園行事（運動会） 第12回 周辺環境を使った活動 第13回 季節の運動遊び 第14回 運動遊びの計画と指導案作成 第15回 計画の発表、振り返り、まとめ		
テキスト	保育内容「健康」 岸井慶子編、大学図書出版2009	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	レポート:50% 発表:30% 課題提出:20%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
子どもの身体（運動）研究		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもを取り巻く運動環境について理解する 2. 様々な運動遊びについて知り、その意義について理解できる		
授業の概要	子どもの身体について、特に運動（遊び）の視点から広く考察していく。発達段階と体の動き、子どもにとっての運動遊びの意味、運動環境などについて事例やVTRなどを用いて考え、保育者として子どもにどのような援助が必要なのか、各自が自分の考えを述べられるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 子どもにとって運動遊びとは？ 第3回 様々な運動遊び、身体を使った活動 第4回 運動遊びの発達段階 第5回 安全教育 第6回 救命救急と応急処置 第7回 運動遊びの創作1（リズム） 第8回 運動遊びの創作2（集団遊び） 第9回 運動遊びの創作3（用具を使って） 第10回 文献検討1（子どもの運動能力） 第11回 文献検討2（保育中の運動遊びの意味） 第12回 文献検討3（子どもの運動遊び環境の変化） 第13回 ディスカッション&ミニレポート作成 第14回 ミニレポート発表 第15回 振り返りとまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
子どもの身体（運動）研究		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもを取りまく環境や遊びについて理解する 2. 自分なりのテーマを定め、まとめ、自分の考えとして発表できる		
授業の概要	子どもの身体について、特に運動（遊び）の視点から広く考察していく。発達段階と体の動き、子どもにとっての運動遊びの意味、運動環境などについて事例やVTRなどを用いて考え、保育者として子どもにどのような援助が必要なのか、各自が自分の考えをまとめられるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 前期振り返り（ガイダンス） 第2回 子どもにとっての運動遊びの意義 第3回 事例検討1（運動遊びの発達段階） 第4回 事例検討2（運動遊びと保育者のかかわり） 第5回 事例検討3（イメージと身体のかかわり） 第6回 テーマ検討1（事例収集） 第7回 テーマ検討2（論文収集） 第8回 テーマ検討3（テーマと方向性の決定） 第9回 論文作成1 第10回 論文作成2 第11回 論文作成3 第12回 中間報告 第13回 論文作成4 第14回 論文作成5 第15回 研究のまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	レポート:50% 発表:50%		

器楽Ⅴ	前期 1 単位	3年
ピアノ（アコーディオン・オルガン）・ギターの演奏を学ぶ（そのⅠ）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐藤 紀雄（さとう のりお）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かほる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 受講者の進度に応じて各楽器に親しんでいくと共に、演奏技術の向上や音楽性の涵養に努める。 ○ 3年次の保育所や施設での実習にも配慮し、また就職試験や現場で多く取り入れられている初見や移調などにも取り組む。</p> <p><授業の概要> 原則として、個人指導によるピアノ・アコーディオン・オルガン・ギターの授業を開講している。 各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、2年次よりの継続学習によりグレードアップに努める。</p> <p><進め方> 受講者の進度に応じた個別指導を中心に進める。 3年次での器楽Ⅴでは、各進度の違いを踏まえた混合クラスを基本にした編成で相互に刺激しあいながら学ぶ。 保育士資格取得を希望する人は、保育現場で使用する教材を優先的に学ぶことができる。 また、ピアノ連弾によるアンサンブルの経験も持つようにしたいと考えている。 パイプオルガン希望者は、礼拝堂で授業を行う。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 それぞれの進度に応じた個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 幼児教育・保育士養成のための『幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―』（音楽教育研究協会）その他</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師で行う。 授業参加度50%、実技試験 50% を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』 <授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。 教則本を中心に、演奏能力をつける。合奏の楽しさを体験学習することにも取り組む。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級） <参考文献> 「アコーディオンの本」（春秋社）ほか</p> <p>※『オルガン』 <授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 オルガンの構造等についての理解も深める。</p> <p><テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニアル』（パックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』ウルフォード、 『J. S. Bachオルガン曲集』等</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>※『ギター』 <授業の進め方> 簡単な基礎を学び、易しい曲や伴奏を実践してみる。</p> <p><テキスト> 小原安正監修『教室用ギター教本』ギタラ社</p> <p>【履修条件】 3年次からの履修も可能である。 なお、幼稚園や保育園等の就職に必要な基礎技能となることを踏まえて積極的な履修が望まれる。</p>		

器楽Ⅲ	前期 1 単位	2年
器楽の基礎技能を学ぶ（その3）		
【担当教員】		
飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（か しい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる （ちば かほる）、藤城 真美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）		
<授業の到達目標及びテーマ>		
○ 選択科目であるが、6月に幼稚園実習をひかえているので、初歩から始めた人は特に努めて履修することが望ましい。 ○ 1年次に習得した基礎技術や音楽への理解をより深め、豊かなものにしていく。 ○ 子どもの歌の伴奏や弾き歌いを多く経験することにより実践的な力も身に付けていく。		
<授業の内容>		
2年次には、ピアノの他にアコーディオン、オルガンを開講している。 短期間の学習であるから、あまり目先のことにとらわれず、各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら 実際の教材も併用し、土台づくりを中心としていく。		
<授業の概要>		
1年次同様、基本的には個人レッスンであるがグループレッスンを併用しているクラスもある。 なお、初歩的な学びの中にある履修者に対してより丁寧な手ほどきを意図する『基礎クラス』 （自己申告と教授者の判断を総合して決める）を設けているので、大いに活用してほしい。 また、難易度の高い曲を弾ける人も、さらに練習をかさねて、更なる展開や応用の力を培うことがのぞまれる。		
<授業計画>		
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験		
<テキスト>		
1年次の『共通テキスト』を続けて使用するが、進度に応じて新しい教材を加えることもある。		
<参考文献>		
必要に応じ、随時紹介していく		
<評価方法>		
各担当教師が評価する。授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。		
『アコーディオン』		
<授業内容と進め方>		
実技による授業が中心になる。教則本を中心に、中級程度までの演奏能力をつける。 左手（ベース）の和音（コード）のメカニクを簡単に童謡の曲等で習得する。		
<テキスト>		
マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）		
<参考文献>		
「アコーディオンの本」（春秋社）ほか		
『オルガン』		
<授業内容と進め方>		
礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 同時にオルガンの構造等についての理解を深める。		
<テキスト>		
次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（ボックスビジョン出版）、『教会オルガン基礎教程』ウルフオード、『J. S. Bachオルガン曲集』 等		
<参考文献>		
必要に応じ、随時紹介していく		
(付記)		
この「器楽Ⅲ」は、将来の幼稚園（保育園）等の就職に必要な基礎的技能であることを踏まえて、積極的に履修することが 望まれる。		

器楽Ⅰ	前期 1 単位	1年
器楽の基礎技能を学ぶ（その1）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、飯田 千夏（いいた ちなつ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、大家 百子（おおや ももこ）、樫井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐々木 順子（ささき じゅんこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 幼稚園・保育園をはじめとする、子どもの教育・保育にたずさわる人々に必要な「器楽の基礎技能」を習得する。 ○ 「音楽性や芸術性」を深める学びをする。 ○ ピアノを中心に、アコーディオンも一部取り入れ弾けるようになる。</p> <p><授業概要> 履修者の幼児期から現在までの音楽経験等に配慮しながら、各学生にふさわしい教材を通して基礎技能をつけていく。メソード・ローズ、バイエル、フルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等を通じてピアノの演奏技術を学ぶとともに、子どもの歌の伴奏、弾き歌いなどの経験を積む。保育の場で使用される比較的簡単な実際教材（行進曲、スキップの曲、子どもの歌の伴奏など）が演奏できるようになることが望ましい。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション。授業の内容や進め方の説明。各学生の課題を決める。 第2回～第14回 ピアノ教則本・子どもの歌などを教材にした、個人および少人数制のグループレッスン。 詳しい内容についてはそれぞれの進度により異なる。 第15回 実技試験</p> <p><進め方> 入学時に実施する「器楽履修調査票」と「自己申告票」に基づいて13クラスに分ける。 初心者・初歩段階の履修者向けに『基礎クラス』を設けている。 各学生の進度に応じて原則として個人レッスンを行うが、グループレッスンを取り入れる場合もある。</p> <p>『ピアノとアコーディオンの併用授業』 「1クラス」だけピアノとアコーディオンの両方を学ぶ。 アコーディオンは、アンサンブルの楽しみもあり、また保育の場では子どもの状態をよく見ながら演奏できることと、園舎外で手軽に伴奏できる利点がある。 前期では、ピアノの技術を身に付け音楽性を育てながら、コードの習得に努めアコーディオンの演奏能力を少しずつつけていく。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）など</p> <p>* <共通テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 『こどものうた200』（チャイルド本社） 『続こどものうた200』（チャイルド本社）</p> <p>* <共用テキスト> 歌唱練習曲集『世界のうたでソルフェージュ（改訂版）』（音楽之友社） （この1冊は、CⅡ・CⅢまでの音楽教育全体と幼稚園・保育園実習や就職先までを見通して考慮のうえ指定するものである。このため、テキストは3点セットとして用意する。）</p> <p><評価方法> 最終的には各担当教師が評価する。各段階に応じた課題曲が出題され発表会形式の実技試験を実施する。 授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。</p>		

器楽VI	後期 1 単位	3年
ピアノ（アコーディオン・オルガン）・ギターの演奏を学ぶ（そのII）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐藤 紀雄（さとう のりお）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 受講者の進度に応じて各楽器により一層親しんでいくと共に、更なる演奏技術の向上や音楽性の涵養に努める。 ○ 3年次の保育所・施設実習のアフターケアにも配慮し、また就職試験や現場で多く取り入れられている初見や移調などができるようになる。</p> <p><授業の概要> 原則として、個人指導によるピアノ・アコーディオン・オルガン・ギターの授業を開講している。 各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、前期よりの継続学習により更なるグレードアップに努める。 また、人前で演奏する力をつけるとともに、お互いの音楽を聴き合うことを目標にした発表会を実施する。</p> <p><進め方> 受講者の進度に応じた個別指導を中心に進める。 なお、3年次「器楽VI」では各進度の混合グループで相互に刺激しあいながら学ぶ。 所属するクラス編成は原則として前期の「器楽V」と同じにして継続学習を基本とする。 保育士資格取得を希望する人は、保育現場で使用する教材を優先的に学ぶことができる。 また、ピアノ連弾によるアンサンブルの経験も持つようにする。 パイプオルガン希望者は、礼拝堂で授業を行う。</p> <p><授業計画> 第 1回～第 7回 発表会準備を含む個人およびグループレッスン 第 8回 発表会（予定） 第 9回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 幼児教育・保育士養成のための『幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―』（音楽教育研究協会） その他</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が行う。 授業参加度50%、実技試験 50% を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』 <授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。教則本を中心に、演奏能力をつける。 合奏の楽しさを体験学習することにも取り組む。 <テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級） <参考文献> 「アコーディオンの本」（春秋社） ほか</p> <p>※『オルガン』 <授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 オルガンの構造等についての理解も深める。 <テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（バックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』ウルフオード、 『J. S. Bachオルガン曲集』等 <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>※『ギター』 <授業の概要と進め方> 基本の技術を学びながら易しい曲や歌の伴奏付けをします。 <テキスト> 小原安正監修『教室用ギター教本』ギタール社</p> <p>【履修条件】 3年次からの履修も可能である。 なお、幼稚園や保育園等の就職に必要な基礎的技能となることを踏まえて積極的に履修することが望まれる。</p>		

器楽Ⅱ	後期 1 単位	1年
器楽の基礎技能を学ぶ（その2）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、飯田 千夏（いいた ちなつ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、大家 百子（おおや ももこ）、樫井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐々木 順子（ささき じゅんこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 教科課程上は、選択科目であるが、幼稚園教諭や保育士の資格取得希望者は、実習や就職につながる点で履修することが望ましい実技科目である。 11月に幼稚園実習もあるので「器楽Ⅰ」で習得した技術や弾き歌いなどの経験をさらに発展させ、より高い音楽性を養うとともに実践力を養う。 ○ 人前で演奏する力を身につけるとともに、お互いの演奏を聴きあうことを目標にした発表会を行う。</p> <p><授業の概要> クラス分けは、『基礎クラス』を含め、原則的には前期の「器楽Ⅰ」と同じにして継続学習を基本にする。事情のある時は、若干の微調整を行う。 各学生の進度に応じた個人レッスンを中心に進めるが、グループレッスンも適宜取り入れる。 ピアノとアコーディオンの併用授業も「1クラス」開講する。</p> <p><授業計画> 第1回～第4回 主に発表会準備を含む個人およびグループレッスン 第5回 発表会（予定） 第6回～第14回 ピアノ曲、子どもの歌などを教材にした個人およびグループレッスン 第15回 各担当教師ごとの実技試験</p> <p><テキスト></p> <p>* 共通テキスト やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 『こどものうた200』（チャイルド本社） 『続こどものうた200』（チャイルド本社）</p> <p>* 共用テキスト 歌唱練習曲集『世界のうたでソルフェージュ（改訂版）』（音楽之友社） （この1冊は、CⅡ・CⅢまでの音楽教育全体と幼稚園・保育所実習や就職先での活用などを見通して考慮のうえ指定するものである。このため、テキストは3点セットになる。）</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が評価する。各段階に応じた課題曲が出題され実技試験を実施する。 授業参加度50%、実技試験50%が基準となる。</p> <p>『ピアノとアコーディオンの併用授業』 「1クラス」だけピアノとアコーディオンの両方を学ぶ。 アコーディオンは、アンサンブルの楽しみもあり、また保育の場では子どもの状態をよく見ながら演奏できることと、園舎の外で手軽に伴奏できる利点がある。 前期に引き続きアコーディオンの演奏能力をピアノの学びとともに付けて行く。合奏にも取り組む。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）など</p>		

器楽Ⅳ	後期 1 単位	2年
器楽の基礎技能を学ぶ（その４）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かほる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○選択科目であるが、11月に保育所実習もひかえているので、初歩から始めた人を中心になるべく履修することが望ましい。 ○1年次に習得した基礎技術や音楽への理解をより深め、豊かなものにしていく。 ○子どもの歌の伴奏や弾き歌いを数多く経験することにより実践的な力も身に付けていく。 ○人前で演奏する力をつけるとともに、お互いの音楽を聴き合うことを目標にした小発表会を適宜行う。</p> <p><授業の概要> 2年次には、ピアノの他にアコーディオン、オルガンを開講している。 短期間の学習であるから、あまり目先のことにとらわれず、各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、土台づくりを中心としていく。</p> <p><進め方> 1年次同様、基本的には個人レッスンであるがグループレッスンを併用しているクラスもある。 なお、初歩的な学びの中にある履修者に対してより丁寧な手ほどきを意図した『基礎クラス』（自己申告と教授者の判断を総合して決める）を設けるので大いに活用してほしい。 また、難易度の高い曲を弾ける人も、さらに練習を重ねて、更なる展開や応用の力を培うことが望ましい。 所属するクラス編成は原則として前期の「器楽Ⅲ」と同じにして継続学習を基本とする。</p> <p><授業計画> 第1回～第4回 発表会準備を中心とした個人およびグループレッスン 第5回 発表会（予定） 第6回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> 1年次の『共通テキスト』を続けて使用するが、進度に応じて新しい教材を加えることもある。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が評価する。授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』</p> <p><授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。後期なので、アンサンブル（合奏）の楽しさを体験学習する。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）ほか</p> <p>※『オルガン』</p> <p><授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 同時にオルガンの構造についての理解を深める。</p> <p><テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（バックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』（ウルフオード）、 『J. S. Bachオルガン曲集』等。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>（付記） この「器楽Ⅳ」は、将来の幼稚園・保育所等の就職に必要な基礎的技能であることを踏まえて積極的な履修が望まれる。</p>		

音楽表現Ⅱ		前期 1 単位	2年
子供たちの心をひきつける		飯田 千夏 (いいだ ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	幼児教育現場の中で取り扱われているこどものうた、あそび歌、手遊びを習得し、実習や現場に出た時に必要とされる指導力を身につける。および、それらを展開するために必要な知識と技能を習得する。		
授業の概要	実習前は幼児教育現場に活かすことのできるこどものうた、あそび歌、手遊びなどを演習し、それに伴うきれいな日本語の発音、表情豊かに歌うことを身につけていく。実習後には、こどものうた、あそび歌、手遊びなどに、自ら創意工夫を凝らし、子供と共に楽しむための音楽活動を展開し、実践していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 遊びを取り入れたうたを楽しむ 第2回 みんなの好きなうた・こどもの好きなうた 第3回 リズムを活かした音楽活動 第4回 詩を活かした音楽活動 第5回 楽しさをふくらませる工夫(1) パネルシアター 第6回 楽しさをふくらませる工夫(2) 創作や替え歌 第7回 楽しさをふくらませる工夫(3) 表現と動き 第8回 実践的な活動(1) 幼児の嗜好を探る 第9回 実践的な活動(2) 幼児の表現活動の特性を探る 第10回 実践的な活動(3) 幼児との音楽活動 第11回 こどもと楽しむためのコンサート～企画と選曲 第12回 こどもと楽しむためのコンサート～表現や動き 第13回 こどもと楽しむためのコンサート～簡易楽器の挿入 第14回 こどもと楽しむためのコンサート～合唱 第15回 こどもと楽しむためのコンサート リハーサル		
テキスト	配布資料を用いる	参考文献	「手遊びうた」(学事出版) 「うたっておどっておもちゃ箱」(教育芸術社) 「音楽広場 特別編集 1ー8巻」(クレヨンハウス)
評価方法	演習姿勢:60% 発表:40%		

音楽		前期 2 単位	1年
音楽の基礎指導		飯田 千夏 (いいだ ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	楽譜を読むために必要な音楽の基礎的な知識を学ぶ事で、音楽の仕組みを理解する。また、様々な音楽活動を通して、歌う楽しさや喜びを経験し、幼児教育の現場で扱われる「こどものうた」を自らも楽しく歌うことができるようにする。		
授業の概要	第1回～第7回：C1B／第8回～第14回：C1A／第15回：まとめ／定期試験：音楽の基礎知識の確認（AB合同） 音楽の基礎的な知識を歌唱（こどものうた）を通して身につけていく。また、歌唱においては、手・指・身体を動かしながら歌うことを体験していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 うたに親しむ（楽譜についての基礎知識） 第2回 生活のうたを中心に歌う（ハ長調） 第3回 動物のうたを中心に歌う（ト長調） 第4回 季節のうたを中心に歌う（ヘ長調） 第5回 リズムや歌詞を活かして歌う 第6回 歌唱実技試験 第7回 合唱を楽しむ 第8回 うたに親しむ（楽譜についての基礎知識） 第9回 生活のうたを中心に歌う（ハ長調） 第10回 動物のうたを中心に歌う（ト長調） 第11回 季節のうたを中心に歌う（ヘ長調） 第12回 リズムや歌詞を活かして歌う 第13回 歌唱実技試験 第14回 合唱を楽しむ 第15回 まとめ		
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）	参考文献	特になし
評価方法	演習姿勢:50% 試験(実技・筆記):50%		

音楽表現Ⅰ		後期 1 単位	1年
打楽器と歌による音楽表現		飯田 千夏 (いいだ ちなつ) 二ツ木 千由紀 (ふたつぎ ちゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	打楽器の幅広く多彩で奥深い表現力を自らの演奏を通して深めていくとともに、楽器の特徴とその奏法を理解する。また、子供と関わる現場において必要な歌のレパートリーを広げ、歌に打楽器が加わることで楽しさが膨らみ、音楽表現が豊かになることを自らの演奏を通して習得する。		
授業の概要	授業形態は「打楽器」「歌」「打楽器・歌合同」の3形態を適宜対応していく。打楽器の授業では様々な打楽器の基本奏法を学び、実際に楽器に触れながら演習していく。歌の授業では季節・行事の歌の他、コードネームを学ぶ。コードネームを活かしたオリジナル伴奏、またリズム楽器などを加え自分たちでこどものうたをアレンジできるよう指導して		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 小太鼓奏法とリズム基礎／リズムを感じながら歌う 第2回 大太鼓・シンバル奏法とリズム基礎／ティズニーソング 第3回 タンバリン・カスタネット奏法とリズム基礎／動物のうた 第4回 マリンバ奏法とリズム基礎／季節・行事の歌(秋) 第5回 ボディ・パーカッション／実習に備えたこどものうた 第6回 言葉でパーカッション／コードネーム入門編 第7回 色々な打楽器①ラテン楽器／コードネーム実践編① 第8回 色々な打楽器②効果音／コードネーム実践編② 第9回 ラテンリズムのこどものうた 第10回 打楽器アンサンブル～スペインのカスタネット～ 第11回 合唱～クリスマスソング～ 第12回 打楽器と歌によるクリスマスコンサート 第13回 アンサンブルステップアップ①／季節・行事の歌(冬) 第14回 アンサンブルステップアップ②／新しいこどものうた 第15回 打楽器と歌のまとめ		
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200(チャイルド本社) その他、適宜、配布資料を用いる。	参考文献	打楽器事典：網代景介、岡田知之 共著
評価方法	演習姿勢:80% 実技試験:20%		

音楽表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
音楽表現を豊かにする		飯田 千夏 (いいだ ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽表現Ⅰ・Ⅱにおいて培ってきた音楽的能力を一段と高める事を目標とし、様々な音楽ジャンルの作品を通して、自身の音楽経験をより一層深めていく。演習を通じて、豊かな感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていくとともに、演奏技能を習熟させる。		
授業の概要	ミュージカル、クラシック、ポピュラー音楽等、幅広いジャンルから選曲し、それらを演習していく(例:サウンドオブミュージック、天使のラブソングなど)。学年末には授業で手掛けてきた曲(合唱、合奏など)を取り入れた演奏会を開催。自分たちで選曲から構成まで行い、皆で音楽を作り上げ、仕上げていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン:心の1曲をさがす 第2回 声のアンサンブル・合唱(1) 音とり・パート練習 第3回 声のアンサンブル・合唱(2) 復習 第4回 声のアンサンブル・合唱(3) 曲想作り 第5回 楽器のアンサンブル・合奏(1) 音とり・パート練習 第6回 楽器のアンサンブル・合奏(2) 復習 第7回 楽器のアンサンブル・合奏(3) 曲想作り 第8回 表現力を磨く・ミュージカル(1) 歌唱・演技指導 第9回 表現力を磨く・ミュージカル(2) 動き・表現の創作 第10回 表現力を磨く・ミュージカル(3) まとめ 第11回 演奏会を企画する 第12回 演奏会のためのステップアップ(1) 練習 第13回 演奏会のためのステップアップ(2) 復習 第14回 演奏会のためのステップアップ(3) 全体の仕上げ 第15回 演奏会 リハーサル		
テキスト	配布資料を用いる	参考文献	特になし
評価方法	演習姿勢:70% 発表:30%		

身体表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
リトミックを通して幼児の音楽的表現の実際を学ぶ		伊藤 仁美 (いとう さとみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	実践的にリトミックを体験することでリズムや音楽に関わる様々な表現活動を理解する。		
授業の概要	乳幼児期の音楽的な成長や発達について理解を深め、音楽を通じた身体表現活動の実際について学習する。具体的には「ボディパーカッション」「幼児のための振り付け創作」「リトミック」「絵本・音楽・身体表現」等の様々な活動を取り上げていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 幼児のリトミック (1) 手を叩く 第3回 幼児のリトミック (2) 歩く 第4回 幼児のリトミック (3) ストップ&ゴー 第5回 幼児のリトミック (4) ギャロップ 第6回 幼児のリトミック (5) スキップ 第7回 幼児のリトミック (6) 様々なリズムパターン 第8回 わらべうたと身体表現 (1) 乳児編 第9回 わらべうたと身体表現 (2) 幼児編 第10回 ボディパーカッション (1) オルフ 第11回 ボディパーカッション (2) ロックトラップ 第12回 幼児のための振り付け創作 第13回 絵本・音楽・身体表現 (1) 乳児編 第14回 絵本・音楽・身体表現 (2) 幼児編 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。	参考文献	特になし。
評価方法	授業に対する参加意欲度:70% 授業内発表:30%		

子ども人間学概論		後期 2 単位	1年
子ども観の歴史の変遷 ー西洋と日本ー		伊藤 巳令 (いとう みれい) 鈴木 俊之 (すずき としゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義を履修した者は、1. 子どもに対するまなざしの変遷を歴史的に跡づけることによって子ども像の移り変わりとその時代背景を理解する、2. 人間的諸権利を根底にすえた現代子ども像についての多角的な考察を行い、子どもの人間的成長発達の意義を説明する、ことができるようになる。		
授業の概要	講義形式で行う。前半は伊藤が担当し、西洋絵画についての講義を行う。後半は鈴木が担当し、日本における子どもの歴史についての講義を行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 西洋美術に描かれた子ども①ギリシア・ローマ美術のなかの子ども 第3回 西洋美術に描かれた子ども②ブット 第4回 西洋美術に描かれた子ども③幼児キリストと天使 第5回 西洋美術に描かれた子ども④ブリュゲルの「子供の遊び」 第6回 西洋美術に描かれた子ども⑤オランダ市民社会と子ども 第7回 西洋美術に描かれた子ども⑥無垢なる子どもから普通の子どもへ 第8回 中間まとめ 第9回 日本の子ども① 古代から中世(1) 第10回 日本の子ども② 古代から中世(2) 第11回 日本の子ども③ 近世 寺子屋(1) 第12回 日本の子ども④ 近世 寺子屋(2) 第13回 日本の子ども⑤ 近世 藩校 第14回 日本の子ども⑥ 近世 私塾 第15回 まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:30% 試験あるいはレポート:70%		

保育臨床相談		前期 2 単位	3年
子どもの心の理解と保育者に必要なカウンセリングマインドを学ぶ		井上 万理子 (いのうえ まりこ)	
授業の到達目標及びテーマ	授業の目標は次の4点である①保育・幼児教育の中で求められるカウンセリングマインドを理解する②発達に問題を抱える子どもの理解や対処について学ぶ③保護者や子どもとかわる他の専門家との連携について学ぶ④対人援助職として自己理解を深め、コミュニケーション能力を身につける		
授業の概要	この科目では、対人援助職としての保育者に求められる心の理解や援助について、臨床心理学的視点から学ぶ。カウンセリングやコミュニケーションスキルについて、エクソサイズやロールプレイなど実際に体験して身につけることをめざす。また、自己理解について各種の心理テストや心理療法をおこなうなど、主体的な授業参加に基づく演習形式で進		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション：カウンセリングについて 第2回 エクソサイズを通して対人コミュニケーションを学ぶ 第3回 ロールプレイを通して傾聴、共感を体験的に理解する 第4回 自分の感情状態に気づく、又、自己開示の体験をする 第5回 心理テストを体験しその結果をもとに自己理解を深める 第6回 基礎的な精神病理や心理療法について学ぶ 第7回 心理療法を体験し、自己理解を深める 第8回 保育の場であう問題について事例をもとに考える 第9回 子ども心の問題について発達課題や対応を学ぶ 第10回 発達障がいについて理解と対応を学ぶ 第11回 親支援、育児支援について考える 第12回 事例を通して保護者との連携を考える 第13回 関係機関との連携について考える 第14回 事例について総合的にまとめかかわりのプランを検討する 第15回 まとめ		
テキスト	馬場禮子・青木紀久代著『保育に生かす心理臨床』ミネルヴァ書房	参考文献	青木紀久代編『いっしょに考える家族支援』明石書店
評価方法	授業への参加度：30% 授業内課題の提出：10% レポート試験：60%		

子どもと言葉		後期 2 単位	2年
「子どもの言葉・自分の言葉・保育者としての言葉」を客観的に捉える		内田 紀子 (うちだ のりこ)	
授業の到達目標及びテーマ	子どもの言葉は生活と遊びの中でどのような位置を占め、環境とどのように結びついているのか、言葉と発達・環境の関係を理解する。また、保育者は子どもの言葉をどう受け止め、どのように関わることができるのか、保育者の言葉の役割について理解する。更に、自分自身の言葉を客観的に捉えることで、言葉の持つ力を再確認する。		
授業の概要	最初に「言葉」が持つ力や意味について確認し、「自分の言葉」「子どもの言葉」「保育者としての言葉」について学ぶ。事例や実習での経験を基に話し合い、学びを深める。又、後半では各グループで課題を設定し、発表しあう。ペアやグループでの活動を通して、受講者同士で学び合う形で授業を進める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 「言葉で伝えること」の意味 第3回 自分自身の言葉 第4回 子どもの言葉（感情体験と言葉） 第5回 子どもの言葉（書き言葉が広げる世界） 第6回 外国語を母語とする子どもの言葉 第7回 ことば遊び 第8回 保育者の言葉の役割（信頼関係から生み出される言葉） 第9回 保育者の言葉の役割（子どもの思いを受け止める言葉） 第10回 幼稚園教育要領の「言葉」 第11回 課題準備 第12回 課題発表（グループ1） 第13回 課題発表（グループ2） 第14回 まとめ 第15回 試験及び振り返り		
テキスト	特になし	参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』その他随時紹介する
評価方法	試験：50% 課題：30% 授業・活動への参加度：20%		

子どもと環境		前期 2 単位	1・2年
幼児教育・保育における子どもと自然環境・社会環境とのかかわり		大澤 力（おおさわ つとむ）	
授業の到達目標及びテーマ	本講義は、幼稚園・保育所・こども園などで生活する子ども達の心身の発達特性を踏まえ、そのふさわしい自然環境・社会環境とのかかわり方を領域「環境」の理解を基盤に学ぶものである。学生自身の乳幼児期の生活体験や学外実習体験など実践と講義における理論の融合を通して、理解力と実践力が身に付くよう工夫した授業展開を心掛ける。		
授業の概要	授業は、講義とグループワーク・模擬保育や実践活動も取り入れつつ、理論と実践が身に付くよう工夫して展開する。さらに、OHC・パソコン・DVDなど視聴覚教材を活用し子どもと環境に対する理解を深める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに 保育内容「環境」とは 第2回 子どもと身近な環境①自然環境とのかかわり 第3回 子どもと身近な環境②社会環境とのかかわり 第4回 子どもと身近な環境③自宅周辺環境の散歩地図作り 第5回 子どもと身近な環境④自宅周辺環境の散歩地図作り 第6回 子どもと身近な環境⑤散歩地図実地調査報告 第7回 子どもと身近な環境⑥散歩指導案作成 試験・評価 第8回 動植物とのかかわり①保育における飼育栽培の実践 第9回 動植物とのかかわり②飼育活動（アルテミア） 第10回 動植物とのかかわり③栽培活動（ハツカダイコン） 第11回 動植物とのかかわり④キャンパス内散歩 試験・評価 第12回 子どもと身近な科学あそびの実践 第13回 身近な標識・記号および数量・図形・時間などの概念形成 第14回 子どもと環境教育の実践 第15回 まとめ 試験・評価		
テキスト	「幼児の環境教育論」 大澤 力著（文化書房博文社） 印刷資料も併用する	参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針および図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照
評価方法	筆記試験:30% レポートおよび作品:30% 授業への取り組み状況:40%		

子どもと環境		後期 2 単位	1・2年
幼児教育・保育における子どもと自然環境・社会環境とのかかわり		大澤 力（おおさわ つとむ）	
授業の到達目標及びテーマ	本講義は、幼稚園・保育所・こども園などで生活する子ども達の心身の発達特性を踏まえ、そのふさわしい自然環境・社会環境とのかかわり方を領域「環境」の理解を基盤に学ぶものである。学生自身の乳幼児期の生活体験や学外実習体験など実践と講義における理論の融合を通して、理解力と実践力が身に付くよう工夫した授業展開を心掛ける。		
授業の概要	授業は、講義とグループワーク・模擬保育や実践活動も取り入れつつ、理論と実践が身に付くよう工夫して展開する。さらに、OHC・パソコン・DVDなど視聴覚教材を活用し子どもと環境に対する理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに 保育内容「環境」とは 第2回 動植物とのかかわり①保育における飼育栽培の実践 第3回 動植物とのかかわり②飼育活動（アルテミア） 第4回 動植物とのかかわり③栽培活動（チューリップ） 第5回 動植物とのかかわり④キャンパス内散歩 試験・評価 第6回 子どもと身近な環境①自然環境とのかかわり 第7回 子どもと身近な環境②社会環境とのかかわり 第8回 子どもと身近な環境③自宅周辺環境の散歩地図作り 第9回 子どもと身近な環境④自宅周辺環境の散歩地図作り 第10回 子どもと身近な環境⑤散歩地図実地調査報告 第11回 子どもと身近な環境⑥散歩指導案作成 試験・評価 第12回 子どもと身近な科学あそびの実践 第13回 身近な標識・記号および数量・図形・時間などの概念形成 第14回 子どもと環境教育の実践 第15回 まとめ 試験・評価		
テキスト	「幼児の環境教育論」 大澤 力著（文化書房博文社） 印刷資料も併用する	参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針および図書館カウンターにある2014年度指定参考図書目録を参照
評価方法	筆記試験:30% レポートおよび作品:30% 授業への取り組み状況:40%		

臨床心理学Ⅱ		前期 2 単位	3年
臨床心理学Ⅱ		太田 沙緒梨（おた さおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児から学童期にある子どもと家族への支援のために、必要な知識ならびに援助の基本について理解する。 具体的には、子育て期にある現代社会の特徴と問題が分かる。 子育て支援が行われている場並びにそこで行われる心理臨床的アプローチの基本を理解する。		
授業の概要	全体を現代社会の特徴、支援の基本、子育て支援の実際の3つに分ける。現代社会の特徴では、核家族化や少子化等の特徴を知り、子育て支援の考え方について明らかにする。支援の基本では、親子の関係性の発達、心理教育、親乳幼児心理療法を概観する。子育て支援のフィールドでどのような支援が行われているかを概観する。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 心理臨床的な家族支援とは 第3回 現代の子育て家族の危機 第4回 子ども虐待の防止と社会的対応 第5回 親子の関係性を捉える視点 第6回 子どもの発達と親子関係 第7回 親の心理教育 第8回 親子の関係性を促進するアプローチ 第9回 子育て・家族支援に関わる人とフィールド 第10回 ハイリスク傾向にある親子への家族支援 第11回 小児科での家族支援と実際 第12回 子どもの障害と家族支援の実際 第13回 周産期の家族支援の実際 第14回 社会的養護における家族支援の実際 第15回 まとめ		
テキスト	青木紀久代（編著）「いっしょに考える家族支援」（明石書店）	参考文献	特になし
評価方法	平常点:30% 定期試験:70%		

臨床心理学		後期 2 単位	2年
臨床心理学		太田 沙緒梨（おた さおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	心の健康について、多角的に捉え、臨床心理学の基本的な知識を獲得することによって、日常生活における自らの心の健康増進に役立てることができるようになる。 自らの心の状態の変化に気がつき、適切な対処ができるようになる。		
授業の概要	心の健康を考える上で必要な臨床心理学の基本的な知識を網羅的に学べるように全体が構成されている。授業は、グループワーク形式と講義形式からなる。心の健康と病理、発達、ストレス、パーソナリティ、心理療法の5つの領域について概観する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 心の健康 第3回 心の病 第4回 乳幼児期の発達と危機 第5回 児童期・思春期青年期の発達と危機 第6回 成人期・老年期の発達と危機 第7回 ストレスとは～自分の状態を振り返る 第8回 ストレスマネジメント 第9回 パーソナリティの理論 第10回 パーソナリティの測定 第11回 精神分析的アプローチ 第12回 ヒューマニスティックアプローチ 第13回 認知行動療法 第14回 グループワーク 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。プリントを適宜授業内で配布する。	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	平常点（授業態度等）:30% 試験:70%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前年度に引き続き、発達心理学・家族心理学について発展的に学びながら、各自の興味あるテーマについての学習を進めます。卒業論文のテーマを決め、調査計画を立てていきます。		
授業の概要	毎回の発表担当者を決め、自分の選んだテーマについて調べてきた成果を発表します。全員でディスカッションをしながら、卒業論文のテーマを絞り込んでいきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 発表とディスカッション 第3回 発表とディスカッション 第4回 発表とディスカッション 第5回 発表とディスカッション 第6回 発表とディスカッション 第7回 発表とディスカッション 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 発表とディスカッション 第12回 発表とディスカッション 第13回 発表とディスカッション 第14回 発表とディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	人間にとって最も身近な「家族」について、大人・子ども両方の立場から考えていきます。親子関係、夫婦関係、仕事と家庭の両立、子どもの社会経験の意味、親の役割、人間にとって家族とは何か？変化していく社会の中でこれから家族はどうなっていくのか？などを考えながら、子どもが育つ環境について理解を深めます。		
授業の概要	まず全員でテキストを講読しながら発達心理学・家族心理学の基本的な概念や研究成果を理解していきます。あわせて資料や参考文献にあたって現実の社会現象や心理学研究の方法についての理解を進めます。毎回担当を決めて順番で発表していきますが、進める速さは受講生の理解度に合わせます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 テキスト講読・発表 第3回 テキスト講読・発表 第4回 テキスト講読・発表 第5回 テキスト講読・発表 第6回 テキスト講読・発表 第7回 テキスト講読・発表 第8回 テキスト講読・発表 第9回 テキスト講読・発表 第10回 テキスト講読・発表 第11回 テキスト講読・発表 第12回 テキスト講読・発表 第13回 テキスト講読・発表 第14回 テキスト講読・発表 第15回 まとめ		
テキスト	コピーを用意します。	参考文献	進度に合わせて授業中に紹介・配布します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に引き続き、発達心理学・家族心理学の基本を学びながら、各自の興味あるテーマについての学習を深めます。年度末には次年度の卒業論文を意識して、関心を絞っていきます。		
授業の概要	前期に学んだ内容の中から受講生が関心を持った領域について、さらに理解を深める資料や文献を選んで発表していきます。全員での議論を通して、その領域の今後の課題を認識し、卒業論文のテーマ選定の手掛かりを得ることを目指します。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 文献講読と発表 第3回 文献講読と発表 第4回 文献講読と発表 第5回 文献講読と発表 第6回 文献講読と発表 第7回 文献講読と発表 第8回 文献講読と発表 第9回 文献講読と発表 第10回 文献講読と発表 第11回 文献講読と発表 第12回 文献講読と発表 第13回 文献講読と発表 第14回 文献講読と発表 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自の決めたテーマにそって調査・研究を行い、卒業論文を作成します。現代の子ども・親・家族の状況について理解し、自分なりの意見やもの見方を構築するとともに、それを人に伝えるための学術的な表現形式・方法を学びます。		
授業の概要	毎回担当者を決め、各自時間外に進めてきた調査の成果を発表し、全員でディスカッションをして論文にまとめていきます。必要に応じて個別指導の時間を設けます。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 発表とディスカッション 第3回 発表とディスカッション 第4回 発表とディスカッション 第5回 発表とディスカッション 第6回 発表とディスカッション 第7回 発表とディスカッション 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 発表とディスカッション 第12回 発表とディスカッション 第13回 発表とディスカッション 第14回 発表とディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介する。
評価方法	担当の発表:30% 研究への取り組み方:35% 卒業論文:35%		

障害児保育演習		通年（前期）	2 単位	3年
障害児保育演習		角田 雅昭（かくた まさあき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の原点としての障害児保育のあり方について学ぶ。 ・ 障害児やその家族のニーズを理解する。 ・ ニーズに応じた支援や配慮を理解する。 			
授業の概要	はじめに障害という概念について再考する。その上で、ニーズ・支援といった実践の基盤になる事柄について具体的な場面を通して理解する。その際、ただ専門性を深めるばかりではなく、その専門性自体を、実践の中で反省的に捉え直す必要性についても学ぶ。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 イントロダクション 障害児との出会い 第 2回 障害児保育とは（1）障害という概念について 第 3回 障害児保育とは（2）保育者として学ぶべきこと 第 4回 障害児保育とは（3）障害児と生活をともにすること 第 5回 障害児保育とは（4）障害児のかかわりを広げること 第 6回 障害児保育とは（5）障害児の生きている世界への共感 第 7回 障害児保育の歴史と理念（1）戦前の障害児保育 第 8回 障害児保育の歴史と理念（2）石井亮一の実践 第 9回 障害児保育の歴史と理念（3）戦後の障害児保育 第 10回 障害児保育の歴史と理念（4）現代の障害児保育 第 11回 障害児保育の制度とその実際（1）これまでの経緯 第 12回 障害児保育の制度とその実際（2）現状と今後の課題 第 13回 保護者の声から学ぶ（1）保護者への支援と連携 第 14回 保護者の声から学ぶ（2）地域との連携 第 15回 まとめ</p>			
テキスト	鯨岡峻編著『最新保育講座15 障害児保育』ミネル ヴァ書房2009年	参考文献	授業内で適宜、紹介する	
評価方法	試験（ノート持込可）：80% リアクションペーパー：20%			

障害児保育演習		通年（後期）		3年
障害児保育演習		角田 雅昭（かくた まさあき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性を理解する。 ・ 保育現場における障害児や保護者への具体的なかかわりについて実践に即して理解する。 ・ 人は、誰もが共に支え合いながら生きているという共生の原点を理解する。 			
授業の概要	保育現場では、発達障害といわれる子どもを含めて、他者とのコミュニケーションに困難を抱えている子どもと出会うことは多い。それらの子どもの特性を理解しながら、コミュニケーションの可能性を探る。その上で、共生という概念を実践面から理解する。後期集中はA組は9月11日～13日、B組は9月17日～19日予定。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 発達障害の子どもとその保育（1）発達障害の特性 第 2回 発達障害の子どもとその保育（2）子どもの生きる世界 第 3回 発達障害の子どもとその保育（3）自閉症スペクトラム 第 4回 発達障害の子どもとその保育（4）アスペルガー症候群 第 5回 発達障害の子どもとその保育（5）実践事例から 第 6回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（1）障害特性 第 7回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（2）盲ろう障害 第 8回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（3）実践事例 第 9回 言葉の遅れのある子どもの保育（1）障害特性 第 10回 言葉の遅れのある子どもの保育（2）保育の実践事例 第 11回 からだの不自由な子ども・病気がちな子どもの保育と事例 第 12回 園での保育計画と支援 保育ニーズとケース会議 第 13回 障害児保育をめぐる現状と課題 関連機関との連携・協働 第 14回 今後の障害児保育の可能性 共生ケアとその実践の紹介 第 15回 まとめ</p>			
テキスト	鯨岡峻編著『最新保育講座15 障害児保育』ミネル ヴァ書房2009年	参考文献	授業内で適宜、紹介する	
評価方法	レポート：70% リアクションペーパー：30%			

演劇表現Ⅱ		後期 1 単位	3年
演劇ワークショップー演劇を作るところから考えてみるー		柏木 陽（かしわぎ あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	演劇を作ることを通じて演劇表現、こどもの表現を考えてみる。 他の人がどう作るか、どう感じるか、自分ならどう作るかなど様々な感じる中から、自分自身がどう充足するか、自分の中にあるものをどうやったら他の人に伝えていくことが出来るかを実践してみる。		
授業の概要	集まった人たちと実際に演劇を作ってみます。 この授業は集まった人々によって進め方が異なっていきます。 その場での合意や探求が重要だと考えますのでこの授業計画も可変的な物だと思っていてください。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 遊ぶ～遊びを通じて他者との関係を作る 第2回 アイディアを集める 表現方法の模索 第3回 題材を探す 第4回 一度作ってみる 第5回 検証 第6回 シナリオにしてみる 言葉以外の方法 第7回 シナリオにしてみる 言葉で 第8回 場面を作ってみる 短い場面を作る 第9回 場面を作ってみる 場面を工夫してみる 第10回 衣裳・小道具の計画を立てる 第11回 中間発表 第12回 作り直し1 全体を考えて構成を考え直す 第13回 作り直し2 表現方法を模索する 第14回 発表 第15回 まとめ それぞれの感想を話し合ってみる		
テキスト	授業中にプリントを配布	参考文献	必要に応じて授業中に提示
評価方法	授業への参加:50% 発表などの内容:30% レポート:20%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
アート・コミュニケーション・出会い・省察・制作 ー素材の森に邂逅ー		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	自分の中に発信したいコトはいくつもあるだろうが、どんな形でどのように表現したらいちばんその想いが人に伝わるか思い悩むことが多い。何でも良いわけではないし、いくつものイメージを編集して、何らかの素材のコトバをかりてつむぎ上げていくしかない。それには今の自分に最適な素材との出会いが決定的であるとの視点を理解することができ		
授業の概要	いくつかのタームに分けて、素材研究と表現手段のワークショップを実施していく。素材と表現する内容とがいかに関連するかを検討していく。また、素材自体の研究・調査も各自がとりくみ、研究内容はプレゼンし、レポートにまとめる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン 特研の展開 第2回 考察「ものをつくるといことからartにすること」 第3回 素材との出会い ワークシヨ ッ プ 1「柔らかなもの」 第4回 素材との出会い ワークシヨ ッ プ 2「うすいもの」 第5回 素材との出会い ワークシヨ ッ プ 3「かたいもの」 第6回 素材との出会い ワークシヨ ッ プ 4「大きいもの」 第7回 ワークシヨ ッ プの編集 プレゼンテシヨ ン1 第8回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 1「フォト」 第9回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 2「ドローイング」 第10回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 4「ムービー」 第11回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 5「ムービー」 第12回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 6「アニメシヨ ン」 第13回 表現の研究 ワークシヨ ッ プ 7「コラボレシヨ ン」 第14回 ワークシヨ ッ プの編集 プレゼンテシヨ ン2 第15回 夏期休暇期間の合宿 オリエンテシヨ ン		
テキスト	日々の生活の中で素敵だと思えた一瞬。	参考文献	ワークシートの配布。適宜、文献、画集、作品、資料などを紹介する。
評価方法	平常の取り組み:50% レポート:50%		

図画工作 I		前期 1 単位	1年
芸術表現の原体験 part 1 —平面造形の制作を主体に—		久保 制一（くぼ せいいち） 中根 のり子（なかね のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもたちの絵は実に自由でのびやかで、描きながら自在に表現する世界をひろげていく。新鮮な出会いと彷徨、冒険と実験、破壊と創造をダイナミックに展開する。誰もがかつてはこの「小さな芸術家」であった。この「小さな芸術家」と共感できる感性と創造の魂の再構築をめざし、自由に表現するすばらしさを体得できる。		
授業の概要	油絵を2-3枚描く。描く途上で幼い頃の自由でのびやかな魂を呼び醒まし、自分の「形」自分の「色」を発見しながら、絵を描く楽しさ創造するよろこびを体感的に学ぶ。学外授業で展覧会に出掛ける。作品にはタイトルをつけ期日までに提出。絵具で汚れてもいい「仕事着」を着用。油絵具の道具の購入については4月「履修ガイダンス」で説明す		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 なぜ油絵を描くのか 道具の準備 第2回 油絵の楽しみ 絵具や筆のこと 第3回 油絵 インTRODクシヨン 小さな絵を描く 第4回 油絵を描く 1 「art work 1」何を描くか決める 第5回 油絵を描く 2 「art work 1」F10号キャンパスに描く 第6回 油絵を描く 3 「art work 1」絵の具をたっぷりと 第7回 油絵を描く 4 「art work 1」サインをいれて終了 第8回 学外授業 美術展覧会 鑑賞（予定） 第9回 油絵を描く 6 「art work 2」キャンパスに下塗り 第10回 油絵を描く 7 「art work 2」絵の具をたっぷりと 第11回 油絵を描く 8 「art work 2」色を混ぜる 第12回 油絵を描く 9 「art work 2」かたちをみつける 第13回 油絵を描く 10 「art work 2」サインをいれて終了 第14回 クラス全員の油絵を鑑賞し講評を聞く会 1 第15回 クラス全員の油絵を鑑賞し講評を聞く会 2		
テキスト	特に指定無し	参考文献	展覧会の絵。短大図書館の美術書コーナーの画集。 通学の車窓からの景色。隣にいる人。散歩している犬・・・
評価方法	授業への参加度:30% 作品・レポート:70%		

ワークショップ・人間と表現		前期 2 単位	1年
(子ども学コア科目) 発見する身体、感受する身体、学習する身体、そして発信する身体へ		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	自由に感じ、考え、自らの問を発するという大学での学びの方法を確立する第一歩として多様な表現のワークショップを体験する。ホンモノの表現との出会いから自己の頭脳と身体で感じ知覚し、更に他者の表現を受容できる心豊かなコミュニケーションマインドを体得することができる。		
授業の概要	第一線でご活躍のゲスト講師によるオムニバスのワークショップ。多様な表現の基礎と方法に出会い、感性を研ぎ澄まし自らを発見し全身の感覚を駆使して身体を解放し頭脳とこころを耕し、これからの大学での耕しと種蒔きに備える。動きやすい服装を推奨。毎回ポートフォリオを作成し提出。（講師・日程は変更の場合がある）		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 INTRODUCTION 出会いと発見 久保制一 第2回 遊びとの出会いと発見 柏木 陽 第3回 五感との出会いと発見 横堀昌子 第4回 言葉との出会いと発見 I 小川Kenku郎 第5回 言葉との出会いと発見 II 小川Kenku郎 第6回 身体との出会いと表現 上村なおか 第7回 身体との出会いと表現（身体技法） 上村なおか 第8回 自然との出会いと発見（別日程で学外授業） 未定 第9回 自然との出会いと表現（別日程で学外授業） 未定 第10回 ドラマとの出会いと発見 柏木 陽 第11回 ドラマの発信と受容 柏木 陽 第12回 アートとの出会いと発見 久保制一 第13回 身体と言葉との出会いと発見（野口体操） 羽鳥 操 第14回 音とリズムとの出会いと発見 大家 百子 第15回 ポートフォリオの編集と提出 久保制一		
テキスト	毎回ハンドアウトシート・ワークシートなどを配布。	参考文献	適宜参考文献・ビデオなどを紹介する。
評価方法	平常の授業への参加度:40% ポートフォリオ:60%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
アート・コミュニケーション・企画・省察・制作 ーイメージの泉を探険ー		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	作品のイメージとコンセプトを大事にしながアートプロジェクトをたち上げ、最もフィットする素材の情報収集と多様な視点からの実験をする。プロセスの中から出てきた新たなイメージを言語化することにより更なる深化と広がりがでてくるよう展開し理解を深める事ができるようにする。		
授業の概要	素材のちがいが表現する内容とどのような関連性があるかを更に検討していく。また、素材自体の研究・調査も各自とirikumu。テーマやイメージをプレゼンしたり、言語化してレポートにまとめ提出する。 夏期休暇期間（2013年8月）に2泊3日の2年生と合同のK's factory合宿を実施予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 素材の実験 ワークショップ</p> <p>第2回 イメージの実験 ワークショップ</p> <p>第3回 素材とイメージの実験 ワークショップ</p> <p>第4回 イリュージョンの実験 ワークショップ</p> <p>第5回 道具の実験 ワークショップ</p> <p>第6回 イメージ定着の実験 ワークショップ</p> <p>第7回 素材とイメージの実験 プレゼンテーション 1</p> <p>第8回 素材の編集 ワークショップ 1</p> <p>第9回 素材の編集 ワークショップ 2</p> <p>第10回 イメージの編集 ワークショップ 3</p> <p>第11回 イメージの編集 ワークショップ 4</p> <p>第12回 素材とイメージの編集 ワークショップ 5</p> <p>第13回 素材とイメージの編集 ワークショップ 6</p> <p>第14回 素材とイメージの編集 プレゼンテーション 2</p> <p>第15回 夏期休暇中の特研合宿オリエンテーション</p>		
テキスト	適宜、ワークシートを配布する	参考文献	出来るだけ、ホンモノに触れる。
評価方法	平常の取り組み:50% レポート:50%		

造形表現Ⅰ		前期 1 単位	2年
芸術表現の原体験 part3 ー立体造形の制作を主体にー			
<p>【担当教員】 久保 制一（くぼ せいいち）、長江 眞弥（ながえ なおや）、本田 悦久（ほんだ よしひさ）</p> <p><授業の到達目標およびテーマ> 1年次の図画工作Ⅰ・Ⅱでは油絵を描き平面の芸術表現に取り組んだが、ひきつづいて2年次のこの授業では、立体の造形表現の可能性を探究する。興行きを把握することで「もの」の形を全面的・立体的に洞察することができ、それを再構成するなかで「もの」の本質理解に一步近づけることを実感しつつ、視覚だけではなく五感のすべてを稼働させてフォルムの発見をしていく。素材との出会い、道具の用法・立体としての構造など多くのことを学びながら、自分のフォルムを見つけていく。この工作のプロセスを通じて「手と心で考える」という芸術表現のマインドを実践的に深く感じとり学ぶことができるであろう。</p> <p><授業の概要> 立体造形の作品制作の授業。素材は主に紙を使用予定。3名の教員によるチームティーチング。受講生は「仕事着」を着用。</p> <p><授業計画></p> <p>【前期】 第1回 立体の作品をつくるということ</p> <p>第2回 2013年度のテーマを提示 デッサンを描く 1</p> <p>第3回 デッサンを描く 2</p> <p>第4回 作品のイメージスケッチ 素材との出会い</p> <p>第5回 素材の研究 素材の選択 道具の用法</p> <p>第6回 art work 制作 1「素材選択」</p> <p>第7回 art work 制作 2「素材収集」</p> <p>第8回 art work 制作 3「かたち」</p> <p>第9回 art work 制作 4「構造」</p> <p>第10回 art work 制作 5「パーツ制作1」</p> <p>第11回 art work 制作 6「パーツ制作2」</p> <p>第12回 art work 制作 7「組み立て」</p> <p>第13回 art work 制作 8「仕上げ」</p> <p>第14回 art work 作品の提出</p> <p>第15回 art worksの発表+講評の会</p> <p><テキスト><参考文献> 森羅万象、この地球上のあらゆるものの色や形やマチエールがモチーフとなる。</p> <p><評価方法> 授業への参加度:15% レポートと作品:85%</p>			

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
アート・コミュニケーション・実験・省察・制作 ー素材の森を彷徨ー		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	自分の中の発信したいコト、伝えたい想いを編集する中で、自分に適した素材の選択をしていく。ここからの展開はまさに、自分自身と向き合うことなしには絞り込むことはできないだろう。手で思考するプロセスから、自らのアートプロジェクトのコンセプトと表現したい想いを「かたちになる」ように構築していくことができるようになる。		
授業の概要	作品のコンセプトをもとに、素材研究ワークショップ・技法講習の中から、素材のちがいが表現する内容とどのような関連性があるかをさらに検討していく。自分の表現に適した素材探しの実験、素材自体の研究・調査も各自とirikumu。学外での調査・見学も積極的に実施する。研究内容は進級制作作品としてまとめる。		
授業計画	【後期】 第1回 夏期休暇期間の特研合宿の振り返り 第2回 イメージの編集ワークショップ 第3回 イメージの編集「テーマを考察」 第4回 イメージの編集「コンセプトを考察」 第5回 イメージの編集「テーマ・コンセプトを考察」 第6回 プレゼンテーション 1 第7回 アート ワークショップ 1「素材研究」 第8回 アート ワークショップ 2「素材実験」 第9回 アート技法講習「Book Making講習1」 第10回 アート技法講習「Book Making講習2」 第11回 アート技法講習「Book Making講習3」 第12回 進級制作作品 制作1 第13回 進級制作作品 制作2 第14回 プレゼンテーション 2 進級制作作品 仮提出 第15回 進級制作作品 提出		
テキスト	適宜、技法講習ブック・ワークシートを配布する。	参考文献	文献、作品、資料などを紹介する
評価方法	平常の取り組み:40% 進級制作作品:60%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
アート・コミュニケーション・省察・制作・発信 ー素材の森とイメージの泉の融合ー		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中で自分のイメージを深化させながら表現のコアとして、じっくり育ててきたテーマとコンセプトを自分で選択した素材をつかい「かたち」に表現していく。アートとして成り立つよう主体的で創造的な制作活動を取り組み、同時に作品発表の方法を検討して完成させた作品を発表することができる。		
授業の概要	各自のアートプロジェクトにそった自由制作が中心。「作品」は決められた提出日に提出する。同時に、作品のコンセプト・概要・制作のプロセス・素材などをドキュメントした「制作ノート」を同時に提出。卒業制作作品の発表は「作品発表会」での作品上演・上映、または「卒展」での作品展示となる。		
授業計画	【後期】 第1回 自由制作 マケットの制作 第2回 自由制作 マケットの検討 第3回 自由制作 全員にアドバイス 第4回 自由制作 個人別にアドバイス 第5回 プレゼンテーション 中間発表 第6回 自由制作 グループ1にアドバイス 第7回 自由制作 グループ2にアドバイス 第8回 自由制作 グループ3にアドバイス 第9回 自由制作 グループ1にアドバイス 第10回 自由制作 グループ2にアドバイス 第11回 自由制作 グループ3にアドバイス 第12回 自由制作 個人別にアドバイス 第13回 卒業制作 作品 仮提出／プレゼンテーション 第14回 制作ノート 仮提出 第15回 卒業制作 作品 提出 展示・上演など発表		
テキスト	特にない	参考文献	この地球上のすべての事象がとても参考になる
評価方法	平常の取り組み:20% 卒業制作作品:80%		

図画工作Ⅱ		後期 1 単位	1年
芸術表現の原体験 part2 —平面造形の制作をさらに—		久保 制一（くぼ せいいち） 中根 のり子（なかね のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	筆を持つ手は思うようにのびやかに動いてくれないし、感性は常識と固定概念でしなやかさを失いかけているし、冒険するには勇気が足りない。でも子どものように自由でのびやかに絵を描くことができたら素敵だと思う。ここで、冒険心と勇気をもって絵を描いてみるなかからいつしか自由なartの世界の中にいる自分にふと気づく時が必ず訪れるのである		
授業の概要	油絵を2枚描く。主に人間をテーマに油絵を自由な発想で描いていく。幼い日の自由な魂を呼び醒まし、自分のフォルムやカラーを発見しながら、ダイナミックに個性豊かな造形表現の可能性を追求し、絵を描く楽しさ・創造するよるこびをさらに深めていく。「仕事着」を着用。油絵具の追加、キャンパスの購入は第1回の授業で説明する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 木炭で絵を描く「デッサン 1」 第2回 木炭で絵を描く「デッサン 2」 第3回 学外授業／美術館でArtを鑑賞する 第4回 油絵を描く1「art work 3」F10号キャンパスに描く 第5回 油絵を描く2「art work 3」 第6回 油絵を描く3「art work 3」 第7回 油絵を描く4「art work 3」 第8回 油絵を描く5「art work 3」制作終了 第9回 「アートドキュメントムービー」とワークショップ 第10回 油絵を描く6「art work 4」F10号キャンパスに描く 第11回 油絵を描く7「art work 4」 第12回 油絵を描く8「art work 4」 第13回 油絵を描く9「art work 4」 第14回 油絵を描く10「art work 4」制作終了 第15回 クラス全員の油絵作品を鑑賞し講評を聞く会		
テキスト	特になし	参考文献	展示会の絵。短大図書館の美術書コーナーの画集。 森羅万象、この世界のすべてがモチーフ。
評価方法	授業への参加度:15% 作品・レポート:85%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
ピンホールカメラで写真を撮る —見ること見えること見てないこと—		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	写真はデジタルカメラや携帯電話で撮るといことが当たり前になっている。写真そのものの歴史は数百年に満たないものであるが、現在急速な「進化」を遂げている。その原点に立ちかえりピンホールカメラで撮影し、カメラの針穴から見たビジョンを印画紙に定着させる作業を通じて、見ることの理解を深めることができる。		
授業の概要	身近な素材からピンホールカメラを制作し、毎回異なるテーマに即した写真を撮影する。その写真を暗室で現像しイメージを定着させる。ピンホールカメラに封じ込められた時間と空間をモノクローム写真として再現し、その表現力や写真本来の魅力を感じつつ、見ることの意味を考察していく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 写真の誕生 第2回 ピンホールカメラの制作1 第3回 ピンホールカメラの制作2 第4回 ピンホールカメラの制作3 第5回 「テーマ1」自作カメラで撮影・ネガ現像 第6回 「テーマ2」自作カメラで撮影・ネガ現像 第7回 「テーマ3」自作カメラで撮影・ネガ現像 第8回 「テーマ4」自作カメラで撮影・ネガ現像 第9回 「テーマ5」自作カメラで撮影・ネガ現像 第10回 「テーマ6」自作カメラで撮影・ネガ現像 第11回 「テーマ7」撮影・ネガ現像、ネガポジ現像1 第12回 「テーマ8」撮影・ネガ現像、ネガポジ現像2 第13回 ネガポジ現像3 第14回 ネガポジ現像4 第15回 写真の発表、シェアする		
テキスト	ワークシートを配布する。	参考文献	短大図書館にある写真集、画集。
評価方法	平常の取り組み:20% レポート:30% 作品:50%		

造形表現Ⅱ	後期 1 単位	2年
芸術表現の原体験 part4 - 立体造形の制作の更なる深化 -		
【担当教員】 久保 制一（くぼ せいいち）、長江 眞弥（ながえ なおや）、本田 悦久（ほんだ よしひさ） <授業の到達目標およびテーマ> 造形表現Ⅱは造形表現Ⅰに引き続き立体の作品を制作する。五感のすべてを稼働させて形の発見をしていく。その中で立体的な形態の把握をし再構成することが徐々に実感できるとその存在感やなしとげた達成感に喜びを感じることができる。生命感のある素材との出会い、素材のマチエール、道具の用法、立体の構造など多くのことを探りながら、自分のフォルムを彫り刻み出していく。この創造を究めるプロセスを通じて「手と心で考える」という芸術表現のマインドを実践的に感じとり修得していくことができる。 <授業の概要> 立体造形の課題作品の制作が主体の実技の授業。素材は、主に木材を使う。粘土も使用する予定。3名の教員によるチームティーチング。「仕事着」「作業靴」を必ず着用。 <授業計画> 【後期】 第1回 作品2013年度のテーマを提示 デッサンを描く 第2回 形の研究 粘土によるテーマ研究 第3回 素材との出会い 素材の研究 第4回 道具・工具の基本用法 接着の技法 第5回 作品のイメージスケッチ 素材の選択 第6回 art works 制作 1「素材」 第7回 art works 制作 2「構成」 第8回 art works 制作 3「彫る」 第9回 art works 制作 4「刻む」 第10回 art works 制作 5「接合」 第11回 art works 制作 6「研磨」 第12回 art works 制作 7「組立」 第13回 art works 制作 8 提出 第14回 クリスマス Art Works 研究 第15回 作品の発表+講評の会 <テキスト><参考文献> 森羅万象、この宇宙のすべてがモチーフ。 <評価方法>		

子ども学特別研究Ⅰ	前期 2 単位	2年
論文に向けて		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）
授業の到達目標及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、2年後の締めくくりとしての論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。	
授業の概要	資料、情報の収集、グループディスカッション、個別相談等を通して、テーマを考え、自身で決めたテーマに基づいて、調査、研究に取り組む準備をする。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。	
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 資料、情報の収集、ディスカッション 第4回 資料、情報の収集、ディスカッション 第5回 資料、情報の収集、ディスカッション 第6回 資料、情報の収集、ディスカッション 第7回 資料、情報の収集、ディスカッション 第8回 資料、情報の収集、ディスカッション 第9回 経過報告 第10回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第11回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第12回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第13回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第14回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第15回 経過報告	
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献 必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表内容を考慮:40%	

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
論文に向けて		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、学生生活の締めくくりとしての論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。		
授業の概要	自身で決めたテーマに基づいて、分析、文章化、に向けて、テーマ設定をし、個別相談を通して、取り組む。課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	【前期】 第1回 経過報告 第2回 分析、文章化に向けて 第3回 分析、文章化に向けて 第4回 分析、文章化に向けて 第5回 分析、文章化に向けて 第6回 分析、文章化に向けて 第7回 分析、文章化に向けて 第8回 分析、文章化に向けて 第9回 個別相談 第10回 個別相談 第11回 個別相談 第12回 個別相談 第13回 個別相談 第14回 個別相談 第15回 経過報告		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表の内容を考慮:40%		

音楽表現Ⅱ		前期 1 単位	2年
音楽表現の基礎と実践		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現の基礎の理解と実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的理解。		
授業の概要	発声と美しい発音の為のエクササイズ、記譜、幼児のための歌、歌唱と身体的表現、歌唱と伴奏表現。 楽器の使用、身体的表現、等の、音楽表現の基礎の総合的な理解と実践。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 幼児のための歌唱と身体表現 第3回 幼児のための歌唱と身体表現 第4回 歌唱と身体表現 第5回 歌唱と身体表現 第6回 幼児のための音楽表現と実践 第7回 幼児のための音楽表現と実践 第8回 音楽表現と実践 第9回 音楽表現と実践 第10回 音楽表現と実践 第11回 音楽表現と実践 第12回 音楽表現と実践 第13回 音楽表現と実践 第14回 音楽表現と実践 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽総合表現		前期 2 単位	3年
音楽表現の実践、音楽の総合的な理解。		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現についての理解と実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的な理解。		
授業の概要	楽器の使用、身体的表現、ドキュメンタリーを通して、等、音楽表現の総合的な理解。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方 第2回 音楽表現と実践 第3回 音楽表現と実践 第4回 幼児のための音楽表現と実践 第5回 幼児のための音楽表現と実践 第6回 音楽表現と実践 第7回 音楽表現と実践 第8回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第9回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第10回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第11回 音楽鑑賞を通して研究、考察 第12回 音楽鑑賞を通して研究、考察 第13回 音楽表現のまとめ 第14回 音楽表現のまとめ 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽		前期 2 単位	1年
音楽の基礎		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の基礎、理解、発表。 より良い発声のための呼吸法の理解と実践、楽譜を読みこなせるように、写譜をすることにより記譜法を学び、調の理解、移調に取り組む。歌詞を理解し暗譜で歌う音楽表現の発表をする。		
授業の概要	2クラスに分かれて授業を進めます。 C1A 第1回～第7回及び第15回 C1B 第8回～第14回及び第15回 授業内容は、状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、読譜の基礎、歌 第3回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第4回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第5回 発声、記譜の基礎、写譜の基礎、歌。幼児のための音楽表現。 第6回 発声、記譜の基礎、移調の基礎、歌。音楽表現。 第7回 発表(歌) 第8回 授業の進め方、発声の基礎 第9回 発声の基礎、読譜の基礎、歌 第10回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第11回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第12回 発声、記譜の基礎、写譜の基礎、歌。幼児のための音楽表現。 第13回 発声、記譜の基礎、移調の基礎、歌。音楽表現。 第14回 発表(歌) 第15回 レポート試験(課題提出)		
テキスト	「幼児の音楽教育」(音楽教育研究協会)。 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』(保育出版社)。	参考文献	必要な場合は、指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、発表の内容:40%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
論文、発表		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、学生生活の締めくくりとして、論文を完成させ、発表する。		
授業の概要	自身で決めたテーマで論文を完成させ、レジュメを完成させ、発表する。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	【後期】 第1回 経過報告 第2回 個別相談 第3回 個別相談 第4回 個別相談 第5回 個別相談 第6回 個別相談 第7回 個別相談 第8回 個別相談 第9回 個別相談 第10回 論文仮提出 第11回 個別相談 第12回 個別相談 第13回 個別相談 第14回 論文提出 レジュメ提出 第15回 発表		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表の内容を考慮:40%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
論文に向けて		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、来年の学生生活の締めくくりとして論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。		
授業の概要	資料、情報の収集、テーマ設定に向けて、グループディスカッション、個別相談を通して、自身で決めたテーマに基づいて、分析、文章化に向けて、取り組む。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	【後期】 第1回 経過報告 第2回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第3回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第4回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第5回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第6回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第7回 経過報告 第8回 分析、文章化に向けて 第9回 分析、文章化に向けて 第10回 分析、文章化に向けて 第11回 分析、文章化に向けて 第12回 分析、文章化に向けて 第13回 分析、文章化に向けて 第14回 分析、文章化に向けて 第15回 経過報告		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表の内容を考慮:40%		

音楽表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
音楽表現の理解と実践		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現についての実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的な理解と実践。		
授業の概要	発声と美しい発音の為のエクササイズ、幼児のための歌、歌唱と創作表現、歌唱と楽器を使用した身体表現、音楽表現の総合的な理解と実践。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方、音の表現 第2回 音の表現 第3回 歌唱と創作表現 第4回 歌唱と創作表現 第5回 歌唱と創作表現 第6回 身体表現(歌唱と楽器等) 第7回 身体表現(歌唱と楽器等) 第8回 幼児のための音楽表現と実践 第9回 幼児のための音楽表現と実践 第10回 音楽表現と実践 第11回 音楽表現と実践 第12回 音楽表現と実践 第13回 音楽表現と実践 第14回 音楽表現と実践 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽表現Ⅰ		後期 1 単位	1年
音楽表現の基礎		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の基礎の理解。 基礎的な音楽表現の実践、発表。コードネームの基礎を学び実践する。楽器の製作、童謡の歴史、演奏家の人生を知り、理解を深める。		
授業の概要	音楽表現、障害と音楽、楽器の製作、楽器の製作者、日本の童謡の歴史、演奏家の人生、等の理解。手作り創作楽器を発表する。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方、 第2回 音楽表現 第3回 幼児のための音楽表現 第4回 幼児のための音楽表現 第5回 音楽表現 第6回 音楽表現 第7回 障害と音楽 第8回 弦楽器 第9回 演奏家の人生 第10回 発表(手作り創作楽器) 第11回 発表(手作り創作楽器) 第12回 クリスマスの音楽 第13回 日本の童謡 第14回 子守歌 第15回 レポート試験(課題提出)		
テキスト	「幼児の音楽教育」(音楽教育研究協会) 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』(保育出版社)	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
欧米社会と日本の社会		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会を取り巻く地球環境、異文化理解、家族、等のテーマを、調査、映像、見学、等により、現代社会の状況の理解、問題提議、ディスカッション等をする。		
授業の概要	図書館の利用、資料、情報の収集、新聞の利用、見学(国連ギャラリー、東京ウイメンズプラザ、等)により、現代社会の状況理解、問題提議、ディスカッション、レポートを書く。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 家族(欧米と日本) 第4回 家族(欧米と日本) 第5回 見学 第6回 女性(欧米と日本) 第7回 女性(欧米と日本) 第8回 女性(欧米と日本) 第9回 見学 第10回 環境(欧米と日本) 第11回 環境(欧米と日本) 第12回 環境(欧米と日本) 第13回 見学 第14回 演習の総括 第15回 レポート試験		
テキスト	必要な場合は、指示、または、資料を配布します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
絵本を深く読む		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 長く読み継がれてきた絵本作品の成り立ちや背景について理解する。 * 文献を調べたり、自分らしい発表ができるようになる。 * 作品を総合的に評価することができるようになる。		
授業の概要	ゼミ方式。『絵本のよろこび』についてはグループで発表したり、それについて討論したりする。それ以外に学生は絵本を取り上げたブックトークを一人ずつ行う。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 各自が好きな絵本を紹介しあう 第3回 『絵本のよろこび』を読んで具体的に考える 第4回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ1 第5回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ2 第6回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ3 第7回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ4 第8回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ5 第9回 作品の読み方、書評の書き方について 第10回 資料の収集や検索方法について 第11回 客観的に読むとは 第12回 書評や紹介文を書いてみる 第13回 書評を発表する 第14回 全体ディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	松井直著『絵本のよろこび』(NHK出版)	参考文献	授業時に紹介
評価方法	授業参加度:30% ブックトークや発表:40% レポート:30%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
問いつけ、考え続ける		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 卒業論文提出に向けて、テーマをしばらくこみ、論文の柱を立てることができるようになる。 * 考えて書く技術を磨く。		
授業の概要	ゼミ形式。各自の発表を中心に、ディスカッションやアドバイスを通して、考える力、書く力を養っていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 気になっているテーマを短文にして持ち寄り、発表、討論 第3回 上記についての発表・討論：グループ1 第4回 上記についての発表・討論：グループ2 第5回 上記の文章を書き直し再提出して合評会：グループ1 第6回 上記の文章を書き直し再提出して合評会：グループ2 第7回 論文の書き方について（約束事の指導） 第8回 卒業生の論文を読んでみる 第9回 現時点での各自のテーマ発表：グループ1 第10回 現時点での各自のテーマ発表：グループ2 第11回 論文の柱を考える 第12回 論文の構成を考える 第13回 部分的に書いて発表する：グループ1 第14回 部分的に書いて発表する：グループ2 第15回 中間発表会		
テキスト	必要に応じてプリント配布	参考文献	授業時に紹介
評価方法	レポート:40% 授業時の発表:40% 授業参加度:20%		

子どもの文学Ⅰ		前期 2 単位	2年
作家と作品の間、文学と映像の間		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 著名な作品を読み、作家の生涯を知る。 * 文学作品とそれを映像化した作品の違いとそれぞれの特徴を理解する。 * 作家の想像力とその背景にあるものを理解する。		
授業の概要	英米の著名な児童文学作家の生涯と、その作品の関係を考察する。原作と映像化されたもののイメージの違いを理解し、それぞれの特徴を考える		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODククション 第2回 『ピーターラビットのおはなし』シリーズの絵本を読む 第3回 ビアトリクス・ポターの生涯と創作への動機 第4回 映画「Miss Potter」を見て、映像と文学の違いを考える 第5回 バレエ表現による「ピーターラビット」シリーズ 第6回 『クマのプーさん』を読む 第7回 A. A. ミルンの生涯と創作への動機 第8回 ディズニー版のアニメ映画を見て、原作との違いを考える 第9回 『影との戦い』を読む 第10回 アーシュラ・K・ル＝グウィン の生涯と創作への動機 第11回 ジブリ映画「ゲド戦記」と原作の距離 第12回 『指輪物語』を読む 第13回 トールキンの生涯と創作への動機 第14回 映画『ロード・オブ・ザ・リング』と原作の違い 第15回 まとめ		
テキスト	『ピーターラビットのおはなし』（ポター）、『クマのプーさん』（ミルン）、『影との戦い』（ル＝グウィン）、『指輪物語1』（トールキン）は各自で読んでお	参考文献	授業の中で随時紹介する
評価方法	授業への参加度:30% 提出物:40% 期末レポート:30%		

子どもの文化と現在	前期 2 単位	2年
子どもたちは今、どのような状況を生きているのか—その豊かさと貧しさと	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * 日本ばかりでなく世界にも目を向け、子どもや若者がどんな状況に置かれ、どんなふうに住きているのかを理解する。 * 思考の幅や視野を広げ、さまざまな問題について考えるきっかけをつかむ。 * 子ども及び自分自身について、多角的にとらえることができるようになる。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>それぞれの分野で活躍している特別講師の方たちのお話を聞き、考える。質疑応答やミニレポートを通して、さらに理解を深める。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 にしまきかやこ：絵本作家の仕事 第3回 野坂悦子：紙芝居とはどういうものか。絵本との違いは何か 第4回 池上理恵：子どもの好奇心をどうのばしていくか 第5回 吉野裕之：福島の子どもの現状 第6回 池上理恵：子どものための科学の本 第7回 村中李衣：絵本の読み合いから見えてくる物語の力 第8回 佐々波幸子：被災した子どもを支える 第9回 森山暁子：浮世絵の中の江戸の子どもたち 第10回 中村衿子：赤ちゃんも絵本が大好き 第11回 吉原美穂：「月刊クーヨン」が考える子どもの育ち 第12回 上林史代：病院の中の子どもたち 第13回 多文化社会に生きる子ども 第14回 世界の子どもを支えるのに必要なもの 第15回 まとめ</p> <p>〈テキスト〉適宜プリントを配布する。</p> <p>〈参考文献〉授業の中で随時紹介する。</p>		

本・子ども・大人 I	前期 2 単位	1年
子どもの文学の歴史と現在	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 子どもの文学の多様性や重要性を理解する。 * 主な児童文学作品について理解する。 * 児童文学にまつわるトピックや児童文学が直面する問題について考え、自分なりの意見をもてるようになる。 	
授業の概要	絵本や児童文学の特徴や問題点について、毎回のテーマに沿って講義する。作品や作家についての図版や写真をスライドで紹介する。	
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 児童文学とは何か？ 第2回 子どもに本は必要か？ 第3回 絵本や児童文学の変遷 第4回 文字の文学と口承の文学 第5回 昔話は残酷なのか？ 第6回 ディズニーの功罪 第7回 児童文学と差別 第8回 マイノリティーをめぐる児童文学 第9回 ハリー・ポッターとファンタジー文学 第10回 子ども心の糧となる絵本の探し方 第11回 児童文学作品の評価の仕方 第12回 児童文学のタブー 第13回 世界の子どもたちは今 第14回 すぐれた児童文学作品を探す 第15回 まとめ</p>	
テキスト	必要に応じてプリント配布	参考文献 授業の中で紹介
評価方法	平常点・授業への意欲:40% 定期試験:60%	

本・子ども・大人Ⅱ		後期 2 単位	1年
絵本がもつ豊かな世界		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 時代を超えて読み継がれていく絵本に触れ、すぐれた作品の特徴を理解する。 * 絵本を子どもに手渡すときの注意点や問題点を理解する。 * 子どもの心に届く読みかきかせができるようになる。 		
授業の概要	講義+学生参加。学生は、テーマに沿った絵本を探したり、自分で読みかきかせを行ったりする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 イン트로ダクション：絵本とは何か</p> <p>第 2回 絵本の歴史と現在</p> <p>第 3回 絵本の種類</p> <p>第 4回 絵本の絵の特徴</p> <p>第 5回 絵本の文章の特徴</p> <p>第 6回 絵本の構成と本作り</p> <p>第 7回 絵本が読者の手に渡るまで</p> <p>第 8回 美術的観点からのアプローチ</p> <p>第 9回 心理的観点からのアプローチ</p> <p>第10回 絵本作家の工夫について考える</p> <p>第11回 特殊なニーズをもつ子どものための絵本</p> <p>第12回 読み聞かせと読み合い</p> <p>第13回 絵本読みを体験する</p> <p>第14回 科学の絵本と知識の絵本</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する	参考文献	松岡享子著『えほんのせかい こどものせかい』(日本エディタースクール出版部)ほか。随時紹介する。
評価方法	平常点・授業参加度:40% 定期試験:60%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子どもの本にとってのワンダー		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 討論したり、発表したりすることに慣れる。 * 子どもにとってのワンダーの必要性を理解する。 * 子どもの本の多様性を理解し、ありきたりでない自分の意見を持てるようになる。 		
授業の概要	前半は、『センス・オブ・ワンダー』を読んで、子どもにとって必要なものについて考え、討論する。 後半は、主に社会問題を扱った子どもの本を題材にして、視野を広げ、さまざまな問題についての理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 イン트로ダクション</p> <p>第 2回 レイチェル・カーソンについて</p> <p>第 3回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第一部</p> <p>第 4回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第二部</p> <p>第 5回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第三部</p> <p>第 6回 実習体験を語り合う</p> <p>第 7回 子ども本にも必要なワンダーとは</p> <p>第 8回 自然環境を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第 9回 戦争と平和を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第10回 生と死を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第11回 いじめや差別を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第12回 人権を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第13回 異文化を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第14回 家族を扱った子どもの本を読んで考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』(新潮社ほか)	参考文献	授業の中で紹介する
評価方法	平常点:30% プレゼンテーション:30% レポート:40%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
作品を客観的に評価する		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 子どもの本に関するエッセイや、文学に関する評論を読み、理解する。 * 自分の意見をもって討論に臨むことができるようになる。 * 客観的な作品紹介（ブックトーク）や評論ができるようになる。 		
授業の概要	ゼミ形式。発表や討論を通して視野を広げ、自分の意見を持てるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 インTRODクッション</p> <p>第2回 すぐれたブックトークとは</p> <p>第3回 すぐれた書評とは</p> <p>第4回 文学作品の書評を読む：新聞</p> <p>第5回 文学作品の評論を読む：書評誌その他</p> <p>第6回 各自が書評を持ち寄りディスカッション</p> <p>第7回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ1</p> <p>第8回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ2</p> <p>第9回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ3</p> <p>第10回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ4</p> <p>第11回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ5</p> <p>第12回 客観的な作品評価について：ディスカッション</p> <p>第13回 今自分が興味をもっているテーマについて：ディスカッション</p> <p>第14回 卒業論文への橋渡し</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業時にプリント配布	参考文献	授業時に紹介
評価方法	授業参加度:30% ブックトークや発表:30% レポート:40%		

女性・環境・平和		後期 2 単位	2年
過去から現在をふりかえり、世界に視野を広げて考える		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 地球環境が抱える諸問題を理解し、考えることができるようになる。 * 女性が生きること、働くことについて、考えることができるようになる。 * 世界の政治的・経済的状況についても把握できるようになる。 		
授業の概要	それぞれの分野で活躍している特別講師の方たちのお話を聞き、考える。質疑応答やミニレポートを通して、さらに理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 鳥居ヤス子：太陽熱利用とソーラーキッチン</p> <p>第3回 森山暁子：江戸の女性とエコロジー</p> <p>第4回 羽仁カンタ：ゴリラと携帯電話をつなぐ環境活動</p> <p>第5回 ウィリー・トコ：日本のアフリカ報道から世界を見る</p> <p>第6回 中村証子：子どもの育ちと環境</p> <p>第7回 佐久間典子：難民・砂漠化・地域開発</p> <p>第8回 落合由利子：生きること、表現すること</p> <p>第9回 楠原 彰：見えない隣人としてのマイノリティ</p> <p>第10回 谷口由美子：サウンド・オブ・ミュージックを生きた女性</p> <p>第11回 落合由利子：歴史を紡ぐ</p> <p>第12回 岩橋亜希菜：子どもの成長と建築＝空間環境</p> <p>第13回 地球環境と平和</p> <p>第14回 歴史から学ぶ姿勢</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	適宜プリントを配布する	参考文献	授業の中で随時紹介する
評価方法	平常点:20% ミニレポート:30% 定期試験:50%		

文学	後期 2 単位	3年
ファンタジー文学を旅する	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * ファンタジー文学について、すぐれた作品を知り、その特徴を理解する。 * ファンタジー文学の楽しさを理解する。 * 心に届くファンタジーの特徴をつかむ。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>絵本と読み物の両方を取り上げる。作品を読みながらファンタジーの特徴やおもしろさをつかむ。ゼミ形式。受講生は必ず作品を読むこと。本好きな学生に受講してほしい。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 ファンタジーとは何か？ 第3回 『人魚姫』と先駆者アンデルセン 第4回 『赤い蠟燭と人魚』と小川未明の時代 第5回 『ドリトル先生アフリカ行き』と動物のファンタジー 第6回 『星の王子さま』とさまざまな再版本 第7回 『かいじゅうたちのいるところ』とセンダックの魔法 第8回 『モモ』とドイツのファンタジー 第9回 『モモ』の映画と原作を比較する 第10回 日常の魔法 第11回 『精霊の守り人』と異世界 第12回 『ローワンと魔法の地図』にみる作者像 第13回 異世界の作り方 第14回 ファンタジー文学の評価法 第15回 まとめ</p> <p>〈テキスト〉以上にあげた作品をそれぞれが入手して読む。古い作品はネットでも入手可能。</p> <p>〈参考文献〉授業の中で随時紹介する</p>		

子ども学特別研究Ⅳ	後期 2 単位	3年
卒業論文（作品）を形にしよう	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 論文を完成させるのに必要な技術を習得する。 * 文章を推敲するポイントを理解する。 	
授業の概要	研究室での個人指導が中心だが、折に触れて全員で集まる。	
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ1 第3回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ2 第4回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ3 第5回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ4 第6回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ5 第7回 中間発表：グループA 第8回 中間発表：グループB 第9回 論文仮提出 第10回 合評 第11回 個別指導（まとめ）：グループ1&2 第12回 個別指導（まとめ）：グループ3&4 第13回 個別指導（まとめ）：グループ5 第14回 論文提出、レジュメ提出 第15回 発表</p>	
テキスト	なし	参考文献 必要に応じて個々に紹介
評価方法	平常の取り組み:20% 論文:80%	

子どもの文学Ⅱ	後期 2 単位	2年
口承文芸と文学—アフリカの昔話や児童文学から考える	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「語る・聞く」の文化と「書く・読む」の文化の違いを理解する。 * 口承文芸が持つ意味や特徴やおもしろさを理解する。 * アフリカ地域の昔話、絵本、児童文学について知る。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>文献を読んだり映像を見たりしながらゼミ形式で進める。</p> <p>〈授業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 イントロダクション 第2回 声の文化と文字の文化 第3回 世界の口承文芸 第4回 日本の口承文芸 第5回 アフリカの口承文芸 (1) 一般の人たち 第6回 アフリカの口承文芸 (2) プロの語り部 第7回 グリオと音楽 第8回 アフリカにおける文字の文化 第9回 アフリカの昔話を読む 第10回 アフリカの昔話の特徴を考える 第11回 アフリカ人作家の絵本を考察する 第12回 アフリカにおける子どもの文化を考える 第13回 途上国における図書館の役割 第14回 学生の疑問に答える 第15回 まとめ <p>〈テキスト〉 適宜プリントを配布する</p> <p>〈参考文献〉 授業の中で随時紹介する</p> <p>〈評価方法〉 授業参加度:40% レポート:60%</p>		

子ども学特別研究Ⅰ	前期 2 単位	2年
現代教育問題の歴史的・原理的研究	清水 康幸 (しみず やすゆき)	
授業の到達目標及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①基礎的文献を読みつつ、学問研究の基礎を学ぶ、②自らの主体的関心に基づく具体的テーマを深めていく、③そのための資料探索、研究方法を学んでいく、ことを目標とする。	
授業の概要	前期は、基礎的文献の研究と各自の研究関心を深める点に重点を置く。文献の読み方、レポートの仕方等を発表しつつ学んでいく。さらに各自の研究関心に即したテーマを深めていく。	
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ゼミの進め方について 第2回 図書館等、資料探索の方法 第3回 文献研究 (1) 第4回 文献研究 (2) 第5回 文献研究 (3) 第6回 文献研究 (4) 第7回 文献研究 (5) 第8回 文献研究 (6) 第9回 文献研究 (7) 第10回 文献研究 (8) 第11回 文献研究 (9) 第12回 各自の研究関心の発表 (1) 第13回 各自の研究関心の発表 (2) 第14回 各自の研究関心の発表 (3) 第15回 まとめ 	
テキスト	授業時に提示する	参考文献 随時、授業時に提示する
評価方法	期末レポート:60% 授業での発表:20% 平常点:20%	

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①自らの主体的関心に基づく具体的テーマを設定し、②テーマに関わる文献・資料を収集整理し、③卒業論文を執筆するにあたっての方法論を吟味し、卒業論文の執筆構想を完成させること、を目標とする。		
授業の概要	次の3段階のステップを踏んで進めていく。いずれも各自の発表が中心となる。 ①各自のテーマ設定と文献の収集整理、②主要な先行研究について整理する、③論文構成と方法論について検討する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ゼミの進め方について 第2回 論文の書き方（1） 第3回 論文の書き方（2） 第4回 各自の発表（1） 第5回 各自の発表（2） 第6回 各自の発表（3） 第7回 各自の発表（4） 第8回 各自の発表（5） 第9回 文献研究（1） 第10回 文献研究（2） 第11回 文献研究（3） 第12回 各自の発表（6） 第13回 各自の発表（7） 第14回 各自の発表（8） 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。必要に応じて授業時に提示する。	参考文献	特に定めない。必要に応じて授業時に提示する。
評価方法	期末レポート:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期で構想した論文テーマ、構成案に基づき、3年間の学習の成果を集大成するものとして卒業論文を執筆し完成させる。		
授業の概要	卒業論文執筆が課題となるため、個別指導が中心となる。各自計画的に作業を進め、そのつど状況に応じた指導を行う。12月始めに「仮提出」を行い、残り1ヶ月で仕上げ作業を行う。1月下旬には卒論発表会を行い、それぞれの成果を確認し合う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ゼミの進め方について 第2回 各自の進捗状況について（1） 第3回 各自の進捗状況について（2） 第4回 論文指導（1） 第5回 論文指導（2） 第6回 論文指導（3） 第7回 論文指導（4） 第8回 論文指導（5） 第9回 論文指導（6） 第10回 論文指導（7） 第11回 第一次稿の提出（仮提出） 第12回 論文指導（8） 第13回 論文指導（9） 第14回 論文指導（10） 第15回 卒論発表会に向けて		
テキスト	特に定めない。	参考文献	特に定めない。
評価方法	卒業論文:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①基礎的文献を読みつつ、学問研究の基礎を学ぶ、②自らの主体的関心に基づくテーマを設定し、検討すべき文献を読む、③そのための資料探索、研究方法を学んでいく、ことを目標とする。		
授業の概要	後期は、①資料検索の方法や論文作成法を学びつつ、②各自の研究テーマを絞り深めることに重点を置きたい。そのためには相当な読書量が求められ、またゼミ参加者の相互の意見交換が重要となる。		
授業計画	【後期】 第1回 ゼミの進め方について 第2回 資料検索の方法（1） 第3回 資料検索の方法（2） 第4回 文献研究（1） 第5回 文献研究（2） 第6回 文献研究（3） 第7回 文献研究（4） 第8回 文献研究（5） 第9回 文献研究（6） 第10回 文献研究（7） 第11回 各自の研究テーマの発表（1） 第12回 各自の研究テーマの発表（2） 第13回 各自の研究テーマの発表（3） 第14回 各自の研究テーマの発表（4） 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に提示する	参考文献	授業時に提示する
評価方法	期末レポート:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

小児保健学Ⅱ		前期 2 単位	2年
子どもの病気と看護		白子 純子（しらこ じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育・幼児教育において子どもの心身の健康と安全対策の重要性を理解する。免疫力の少ない子どもは病気にかかりやすいことを理解したうえで子どもの病気を学び対処の仕方を知る。症状を理解し看護の方法、援助方法を学ぶ。		
授業の概要	講義を中心に進める。理解を助けるため、新生児の人形・視聴覚教材・プリントなどを取り入れて説明する。内容は小児保健学Ⅰを基礎に進めるので復習をしておくこと。子どもの病気や看護の方法を学ぶとともに、自分自身の健康管理を行える知識も同時に習得する。（その他トピックスとして重要なものについては適宜取り上げる）		
授業計画	【前期】 第1回 小児保健学Ⅰのおさらいと小児保健学Ⅱの概要 第2回 免疫について、感染症予防と予防接種 第3回 感染症疾患の看護と保育 第4回 消化器系の症状別看護と保育 第5回 呼吸器系の症状別看護と保育 第6回 その他の症状別看護と保育 第7回 小児の病気と看護 第8回 保育の中の保健指導 第9回 事故防止と安全教育 第10回 保育環境 第11回 学童期・思春期の問題と援助 第12回 児童福祉施設における保健対策 第13回 母子保健行政と保育との連携 第14回 集団保育における健康管理 第15回 まとめ		
テキスト	兼松百合子他著「子どもの保健実習」すこやかな育ちをサポートするために 同文書院	参考文献	小児看護学概論 小児臨床看護各論 その他適宜紹介する
評価方法	定期試験:80% ミニテスト・提出物:10% 授業参加状況:10%		

小児保健学 I		後期 2 単位	1年
小児の心身を医学的に学ぶ		白子 純子 (しらこ じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	成長発達の過程にいる小児の心身の健康が理解できる。子どもの一生に影響をおよぼす養育環境と保育の意義がわかる。小児の成長発達における身体的、精神的な変化を医学的・公衆衛生的視点で考察できる。		
授業の概要	講義を中心に、場合によってはグループワークなども取り入れながら進める。理解を助けるため、新生児の人形・視聴覚教材・プリントなどを取り入れて説明する。		
授業計画	【後期】 第 1回 小児保健学の概要 第 2回 小児保健学の意義・小児期の特徴 第 3回 小児の形態的变化と保育 第 4回 小児の身体発育の評価と保育 第 5回 小児の発育と影響因子 第 6回 小児の生理機能の発達と保育 第 7回 小児の臓器・知覚等の機能発達と保育 第 8回 小児の基本的生活習慣 ～睡眠～ 第 9回 小児の基本的生活習慣 ～排泄～ 第 10回 小児の基本的生活習慣 ～栄養～ 第 11回 小児の基本的生活習慣 まとめ 第 12回 小児期の病気の特徴 ～食物アレルギーなど～ 第 13回 小児期の病気と保育 ウイルス感染症～細菌感染症など 第 14回 小児期の病気と症状のまとめ 第 15回 まとめ		
テキスト	岸井 勇雄 他著「子どもの保健」—理論と実際— 同文書院	参考文献	随時紹介する
評価方法	定期試験:80% ミニテスト・提出物:10% 授業参加状況:10%		

小児保健実習		後期 1 単位	2年
看護技術および方法、応急処置等の実践		白子 純子 (しらこ じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	小児保健学 I・II で習得した知識を基礎とし、保育現場において適切に実践できる健康観察や看護の方法、応急処置の技術および応用力を習得する。		
授業の概要	実習を中心に進める。新生児の人形を使用したり、友人同志で実習する。小児保健学 I・II の知識を基礎に進めるので復習をしておくこと。現場で活用できるように真剣にかつ主体的な参加を望む。		
授業計画	【後期】 第 1回 小児保健実習の意義 第 2回 養護技術 その I 着脱衣・オムツの交換他 第 3回 養護技術 その II 沐浴実習 グループA 第 4回 養護技術 その III 沐浴実習 グループB 第 5回 保護者の育児不安など 第 6回 小児の健康状態の観察と評価～生理的機能の観察と評価～ 第 7回 小児の身体発育の測定とその評価 第 8回 基本的な看護技術 子どもとくすり 第 9回 基本的な看護技術 乳幼児の事故と応急処置 第 10回 基本的な看護技術 三角巾法 第 11回 乳幼児の事故の種類、事故防止の原則 第 12回 応急処置 第 13回 応急処置 乳幼児の心肺蘇生法 第 14回 最近のトピックスほか、まとめ 第 15回 まとめ		
テキスト	初回の授業時に指示するもののほか、「小児保健学 I」および「小児保健学 II」で使用したテキストを使用する	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	定期試験:80% 実習評価:10% 授業参加状況:10%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～あたりまえを疑う		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じ取った、こころとその育ちに関する問題について、論文にまとめることを目標とする。この授業では問いを立てる力を培う。具体的にはディスカッションを通して、他者の視点に気づき、自己の視点を理解する。また自らの考えを自分のことばで表現し伝える力、他者のことばに耳を傾けその考えを理解する力を培う。		
授業の概要	演習形式で進める。日常生活への素朴な問いをきっかけに、共通文献の購読やフィールドワークを通して、あたりまえと思っている日常の相対化、自己の視点の相対化を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 "心理学"を問う 第3回 研究とは、論文とは 第4回 現場（フィールド）、日常生活から考えるということ 第5回 「人」や「こころ」に関する素朴な疑問をあげてみよう 第6回 血液型別性格判断や占いはあたるのか？ 第7回 数字の落とし穴 第8回 相手の立場になることはできるのか？ 第9回 映像資料視聴 第10回 映像資料についての振り返り 第11回 フィールドワークとは～みること、考えること 第12回 フィールドワーク①宇宙人が学食に降り立ったら？ 第13回 フィールドワーク②自分で問いを立てる 第14回 フィールドワーク③報告会 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	未定（授業内で指定）	参考文献	未定（授業内で適宜紹介する）
評価方法	授業への参加度:50% 期末レポート:50%		

教育心理学 I		前期 2 単位	1年
人々との関係のなかで育つこころ		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の心身の発達と学習について、「教える育てる一学び育つ」という関係性に注目して学ぶ。講義を通して、さまざまな人々との関係のなかで乳幼児の心身が育まれていくことを理解する。障害をもつ乳幼児の心身の発達についても同様に学び、「障害」や「遅れ」といった概念のとらえ方を考えるとともに、個々の発達障害についても具体的に理解する		
授業の概要	講義形式で行う。まず生涯発達および関係性の観点から発達と学習をとらえ、続いて乳幼児期の人間関係がどのように形成されていくかについて明らかにする。障害に関しては、まず「障害」をどうとらえるかについて、自身の障害観を振り返りながら考えていく。具体的な子どものイメージを膨らませながら理解できるように事例を多くを用いる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 心理学とは、教育心理学とは 第2回 発達とは～生涯発達の観点から 第3回 生涯発達における乳幼児期 第4回 学習とは～関係性のなかでの学ぶ 第5回 関係の中で育つ（1）胎児期 第6回 関係の中で育つ（2）新生児期 第7回 関係の中で育つ（3）信頼関係の形成 第8回 関係の中で育つ（4）自我の芽生え 第9回 関係のなかで育つ（5）集団生活のはじまり 第10回 関係のなかで育つ（6）仲間とのかかわり 第11回 発達をつまづき（1）障害とは、発達の遅れとは 第12回 発達をつまづき（2）発達障害～自閉症スペクトラム 第13回 発達をつまづき（3）発達障害～ADHD、LD 第14回 発達をつまづき（5）障害をもつ子どもを育てること 第15回 まとめ：関係のなかで育つということ		
テキスト	岡本依子・菅野幸恵・塚田一城みちる「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」「エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て」 新曜社	参考文献	未定（授業内で随時紹介）
評価方法	定期試験:80% 課題等の提出状況:20%		

発達心理学 I		前期 2 単位	2年
子どもの生活世界の探究		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児期の心身の発達および学習のプロセスについて、認知、感情、言葉、の各側面から学ぶ。授業を通して、乳幼児の認知、感情、言葉がどのようなプロセスを経て育まれるのかについて理解するとともにその世界への興味を深めていくことを目標とする。その上で、発達しつつある乳幼児を支えるおとなのかかわりについて理解を深めていく。		
授業の概要	演習形式で行う。毎回トピックに関わる事例を紹介し、具体的な保育場面での子どもの姿を通して子どもの生活世界についての理解を深める。認知に関しては他者視点の獲得のプロセスと幼児期独特の子どもの内的世界のありようを、感情に関しては表出と理解の双方について、言葉に関しては前言語期から会話が成立するまでのプロセスについて取り上		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 発達とは～年齢のなぞ 第2回 他者の心の理解（1）三項関係の成立 第3回 他者の心の理解（2）他者視点の獲得 第4回 想像力の発達 第5回 子どものうそ 第6回 子どもの記憶 第7回 時間概念の発達 第8回 感情の発達 第9回 感情の理解 第10回 言葉の発達（1）前言語期 第11回 言葉の発達（2）語彙の獲得 第12回 言葉の発達（3）会話の成立 第13回 言葉の発達（4）読み書きことばの獲得 第14回 言葉の発達（5）障害と言葉 第15回 まとめ：乳幼児の発達とおとなのかかわり		
テキスト	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる 「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」「エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て」 新曜社	参考文献	未定（授業内で随時紹介）
評価方法	定期試験：50% 課題等の提出状況：20% 授業への取り組み方：30%		

いのちとケアの人間学		前期 2 単位	3年
いのちをめぐる諸問題とその本質～いのちを生かすケアを考える		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ) 横堀 昌子 (よこぼり まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは単に生命を維持するだけでなく、人間らしく生きる（いのちを生かす）ことを望むが、他者とのかかわりによって、かえっていのちが損なわれることもある。そこで、いのちを生かす他者とのかかわり（「ケア」のかかわり）とはどのようなものか、生・老・病・死をめぐる具体的な場面を題材にしながら根源的な問いに取り組み、探究する。		
授業の概要	菅野担当の前半（パートⅠ）では、ケアの関係性を再検討する。横堀担当の授業の後半（パートⅡ）では、いのちとケアをめぐる問題を再発見し、社会的な文脈で読み解く。講義・視聴覚教材視聴・演習・ディスカッションを活用し複合的に展開するため、3年次ならではの積極的な授業参加と教師へのフィードバックを求める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン～いのちとケアをめぐる問い 第2回 ケアの二面性 第3回 ケアの関係性を問う 第4回 ケアの関係性のなかにある権力性 第5回 ケアされるという経験 第6回 ケアするという経験 第7回 ケアする一される経験を超えて 第8回 ケアの現場が抱える課題～ケア関係とケアの成り立ち 第9回 いのちの起源をめぐる諸問題 第10回 いのちの価値をめぐる諸問題 第11回 人間の死と喪失体験、喪失と獲得 第12回 誕生と死をめぐるケア～喪失体験がもたらすグリーフ 第13回 グリーフケア（グリーフワーク）の展開と、生への問い 第14回 人間のいのちを生かすケアとは 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	参考文献・参考資料とも、随時、授業にて紹介していく。
評価方法	授業参加態度・感想：20% 提出物：30% レポート：50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
こころとその育ちにかかわる問題について現場（フィールド）から考える～問いの探究		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じとった、こころとその育ちにかかわる問題について、論文にまとめることをめざす。それぞれのテーマに沿った研究方法を用いながら考察を深める。それぞれのテーマを探求しつつ、グループメンバーのテーマにも関心をむけ理解し、互いに刺激を受け与えることで学びあう。		
授業の概要	2年次にあたためたテーマをもとに、研究計画を立てる。研究計画に基づき、文献研究、インタビューやアンケートなどの調査を行う。授業内での報告とディスカッションを通して、グループメンバーが互いのテーマについても共有し、意見交換をしながら、考察を深めていく。期末に2年次生と合同で中間報告会を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーションと春休みの報告 第2回 研究報告とディスカッション①テーマの検討 第3回 研究報告とディスカッション②テーマの検討 第4回 研究報告とディスカッション③方法の検討 第5回 研究報告とディスカッション④方法の検討 第6回 研究報告とディスカッション⑤先行研究の検討 第7回 研究報告とディスカッション⑥先行研究の検討 第8回 研究報告とディスカッション⑦先行研究の検討 第9回 研究報告とディスカッション⑧先行研究の検討 第10回 研究報告とディスカッション⑨調査を実施するにあたって 第11回 研究報告とディスカッション⑩調査結果の検討 第12回 研究報告とディスカッション⑪調査結果の検討 第13回 研究報告とディスカッション⑫調査結果の検討 第14回 研究報告とディスカッション⑬中間報告会に向けて 第15回 中間報告会		
テキスト	授業内で適宜紹介	参考文献	授業内で適宜紹介
評価方法	授業への取り組み:50% レポート:50%		

教育心理学Ⅱ		後期 2 単位	1年
ひとりの子どもの育ちから子どもの発達を知る・考える		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標及びテーマ	教科書に描かれる子どもの発達は、抽象的で一般的な子どもの姿である。しかし私たちが実際に出会うのは、それぞれの”いま”を生きる、一人ひとりの具体的で特定の子どもの姿である。この授業ではある子どもの誕生から小学校入学前までを追ったテキストをてがかりにして、子どもが育つ／子どもを育てるといことはどのようなことか理解する。		
授業の概要	テキストを順に読み進める。各自があらかじめテキストの指定された箇所を読み授業に臨む。毎回の授業ではテキストの内容について担当者が補足説明を行い、その後それぞれがテキストについて感じたこと、考えたことを発表する。授業でのディスカッションをふまえ、毎回最後にリアクションペーパーを提出する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 具体的な子どもの姿から見えてくること 第3回 誕生、家族になること 第4回 1歳前半：ものやひととかわる 第5回 1歳後半：“わたし”の芽生え 第6回 2歳前半：個性 第7回 2歳後半：自己主張の始まり、きょうだいの誕生 第8回 3歳前半：保育園に行くこと 第9回 3歳後半：知性のはじまり 第10回 4歳前半：競争心の芽生え 第11回 4歳後半：夢と死 第12回 5歳前半：友だち 第13回 5歳後半：家族 第14回 6歳：就学 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	矢野喜夫・矢野のり子「子どもの自然誌」ミネルヴァ書房	参考文献	未定。授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への取り組み:50% 期末レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～問いの発見		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じ取った、こころとその育ちに関する問題について、論文にまとめることを目標とする。授業の前半では、実際の研究に触れながら、さまざまな研究方法を理解する。後半では自身のテーマについて探究し、学期末までに論文作成に向けての問いを立てることを目指す。		
授業の概要	演習形式で進める。前半は共通文献の講読から問いの立て方や研究方法について学ぶ。後半は各自の関心のあるテーマを探りつつ、それに関する文献を読み報告を行い、グループディスカッションをする。最終回の中間発表会では各自が次年度探究していくテーマを発表し、その後テーマについてのミニレポートを作成、提出する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 問いを探究するために 第3回 質問紙調査について学ぶ①質問紙の作り方、まとめ方 第4回 質問紙調査について学ぶ②質問紙調査の実際 第5回 質問紙調査について学ぶ③質問紙調査でわかること、わからないこと 第6回 インタビューについて学ぶ①インタビューのしかた、まとめ方 第7回 インタビューについて学ぶ②インタビューの実際 第8回 インタビューについて学ぶ③インタビューでわかること、わからないこと 第9回 各自の問いを探究する①テーマの探し方 第10回 各自の問いを探究する②文献の探し方 第11回 各自の問いを探究する③発表の仕方 第12回 各自の問いを探究する④研究報告 第13回 各自の問いを探究する⑤研究報告 第14回 各自の問いを探究する⑥研究報告 第15回 中間発表会		
テキスト	特になし	参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	授業への取り組み方:50% レポート:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子どもの”居場所”を考える		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近年大人が一方向的に子どもに与えるのではない居場所のあり方—子どもの意見を反映させた居場所づくり—が注目されている。この授業では児童期以降の子どもたちによる居場所づくりの実践を、グループメンバーとの対話を通して学び、それぞれの子ども観、大人観を再構築しながら、子どもと大人の関係性についての理解を深める。		
授業の概要	”居場所”について書かれたテキストを中心に演習形式で進める。机上の学びだけではなく実際の居場所に出かけることも予定している。決められたテキストを事前に読み、各自の考えをまとめ授業に臨むなど積極的な参加を求める。対話のルールを確認したうえで授業を進め、対話を通して他者の視点を理解し自己の視点を相対化する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 グループワーク～子ども観、大人観を探る 第3回 居場所とは 第4回 子どもの参画とは 第5回 フリースペースの実践から①フリースペースとは 第6回 フリースペースの実践から②子どもの立場から 第7回 フリースペースの実践から③親の立場から 第8回 フリースペースの実践から④スタッフの立場から 第9回 実際の居場所に出かけてみよう（見学） 第10回 見学振り返り 第11回 遊び場づくりの取り組みから①遊び場とは 第12回 遊び場づくりの取り組みから②子どもと大人の関係性 第13回 子どものまちの取り組みから①子どものまちとは 第14回 子どものまちの取り組みから②子どもと大人の関係性 第15回 全体まとめとふりかえり		
テキスト	授業内で指定	参考文献	子どもの参画情報センター編『居場所づくりと社会的つながり』萌文社 西野博之『居場所のちから』教育資料出版会
評価方法	授業への取り組み方:50% レポート:50%		

発達心理学Ⅱ		後期 2 単位	2年
”わたし”の不思議		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「わたしはなぜ私なのか」「私はどこから来たのか」「私とは何者なのか」思春期から青年期にかけてこのような問いが頭からはなれなくなることがある。この授業では、思春期青年期の”わたし”をめぐる問題を考える。また”わたし（私）”という存在を考えると他者の存在は欠かせない。”わたし”と他者の関係性についてもあわせて理解する。		
授業の概要	演習形式で進める。毎回指定されたテキストを読みディスカッションを行う。まず”わたし”についての基本的知識および、人の生涯において思春期、青年期がどのような時期であるのかについて学ぶ。続いて”わたし”の揺らぎを取り上げたテキストに基づいて授業を進める。後半は他者との間でゆらぐ”わたし”に関するテキストを読み進める。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 私・自分・自己 第3回 思春期とは 第4回 青年期とは 第5回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ①レールを降りる 第6回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ②自分のいる場を問う 第7回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ③自分らしさとキャラ 第8回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ④望ましい自分とは 第9回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ⑤生の能動性と受動性 第10回 他者との間で揺らぐ”わたし” ①羞恥という感情 第11回 他者との間で揺らぐ”わたし” ②内なる他者 第12回 他者との間で揺らぐ”わたし” ③自閉症を生きる 第13回 他者との間で揺らぐ”わたし” ④マイノリティを生きる 第14回 他者との間で揺らぐ”わたし” ⑤他者とともに生きる 第15回 まとめ		
テキスト	大倉得史「拡散」ミネルヴァ書房、浜田寿美男「わたしをめぐる冒険」洋泉社ほか適宜授業内で紹介する。	参考文献	未定。授業内で適宜紹介する
評価方法	授業への取り組み方:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～論文の作成		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	2年間あたたためて育てたテーマを論文にしていく。文献研究から見てきたこと、調査の結果明らかになったことを、自分のことばでまとめることを目指す。さらに論文発表会では、自分がどんなテーマについて研究をし、何がわかったのかについて、初めて話を聞く人に対しても分かるように伝えることを目標とする。		
授業の概要	前半は論文を書くことについて具体的に学びながら、論文作成にむけて、各自の研究をまとめていく。後半は個別相談を中心にしながら、論文を作成していく。論文提出後は発表会に向けての準備を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 研究報告とディスカッション① 第3回 研究報告とディスカッション② 第4回 研究報告とディスカッション③ 第5回 研究報告とディスカッション④ 第6回 個別相談① 第7回 個別相談② 第8回 個別相談③ 第9回 個別相談④ 第10回 仮提出 第11回 仮提出をふまえての個別相談① 第12回 仮提出をふまえての個別相談② 第13回 仮提出をふまえての個別相談③ 第14回 論文提出についての最終確認 第15回 レジューメの書き方、発表についての注意		
テキスト	特になし	参考文献	授業内で適宜紹介
評価方法	授業への取り組み方:25% 論文作成状況:25% 論文:40% 発表会での発表内容:10%		

生涯発達心理学		後期 2 単位	3年
子どもが育つということ、子どもを育てるということ		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	次世代を育成することは人の生涯発達において重要な課題の一つである。子育てとは文字通り子どもを育てることであるが、“育てよう”とするあまり、子どもの育ちを損ねてしまうこともあるし、育てるもの自身が苦しくなって追い詰められてしまうこともある。この授業では子育てが抱える矛盾、問題について理解していくことを目標とする。		
授業の概要	子育て／子育てに関する2冊のテキストをてがかりにしながら演習形式で進める。毎回指定されたテキストを読んだ上で授業に臨みディスカッションを行う。前半は文献①を用いて現代の子どもが置かれている状況を理解しつつ自身の子ども観、発達観をとらえ直す。後半は文献②を用いて子どもの育ちを支えるものの視点から障害や虐待について考える。		
授業計画	【後期】 第 1回 オリエンテーション 第 2回 「幼児期」についてのディスカッション① 第 3回 「幼児期」についてのディスカッション② 第 4回 「幼児期」についてのディスカッション③ 第 5回 「幼児期」についてのディスカッション④ 第 6回 「幼児期」についてのディスカッション⑤ 第 7回 「幼児期」まとめ 第 8回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション① 第 9回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション② 第10回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション③ 第11回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション④ 第12回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション⑤ 第13回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション⑥ 第14回 「子どもの育ちをひらく」まとめ 第15回 全体まとめ		
テキスト	文献①岡本夏木「幼児期」岩波書店 文献②牧真吉「子どもの育ちをひらく」明石書店	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

フィールドワーク・子ども	後期集中 1 単位	1・2・3年
子どものくらしについて考える	菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
<p>授業の到達目標およびテーマ</p> <p>子どもは”いま”を生きる存在である。子どもたちのくらしは彼らの”いま”が保障されるものでなければならない。ただ、現在の状況を改めてみると、子どもたちの”いま”が十分に保障されているかどうかかわからない、あるいは脅かされている現状が見えてくる。この授業では、乳児期から学齢期の子どもに焦点をあて、子どもたちの生活の場に自ら赴き、直接見たり聞いたりすることを通して、子どものくらしについて考えることを目的とする。</p> <p>子どもの生活の場は多岐にわたるが、この授業では正規（法制度に基づいた）の保育施設や教育機関以外の場所に注目する。認可外の施設や普段あまりなじみのない子どもたちの生活の場は、現状への違和感からできたもの、正規な保育・教育では扱いきれない子どもの生活を支えるものなどがあり、子どものくらしを考えるためのヒントがたくさんあると考えるからである。</p> <p>具体的には、まず、認可外の保育施設や学童保育など、認可の保育施設や教育機関以外に子どもたちが過ごす場所にはどのようなものがあるのかについて理解する。そのうえで、自分の居住する地域にどのような子どもの居場所があるかを調べ、実際にその場に身をおき体感することを通して理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>フィールドワークに赴くための準備として、4月と7月に授業を行う（月曜5、6限を予定している）。前期のうちに各自がフィールドに入るための準備を進め、7月までにフィールドワーク先を探し先方に連絡し日時などを決定する。フィールドワーク先の検討にあたっては個別相談をする。夏季休業中にフィールドワークを行い、後期に報告会を行う。</p> <p>互いのフィールドワークの体験を共有しながら、子どものくらしについて考えていく。可能であれば全員で学外施設の見学を行う。</p> <p>フィールドワークでは、どこに行き、何を見るか、交渉もふくめてすべて自分で調べて進めるため、受講者には積極的な参加を求める。フィールドで見たり聞いたりしたことをフィールドノーツにまとめ、期末レポートとともに提出する。</p> <p>授業計画</p> <p>4月（15日22日29日を予定） オリエンテーション フィールドを探す：フィールドエントリーのしかた 子どもの居場所を知る（フリースクール、学童保育、自主保育、森のようちえん）</p> <p>5月～6月（個別相談） フィールドワーク先を探す</p> <p>7月（8日15日22日を予定） フィールドワークの実際 フィールドノーツのまとめかた フィールドの去り方</p> <p>9月（未定） 報告会 まとめとふりかえり</p> <p>テキスト 授業内で適宜プリントを配布</p> <p>参考文献 授業内で適宜紹介する</p> <p>評価方法 授業への参加度：40% フィールドノーツ：40% 期末レポート：20%</p>		

社会福祉方法論		後期 2 単位	2年
保育者の専門性と社会福祉援助技術		杉崎 敬（すぎさき たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育のなかで社会福祉援助技術がなぜ必要になったのか、その背景を考えながら社会福祉援助技術を用いた保育の方法に関して理解する。保育士を中心とした児童福祉領域の専門職制度の概要と、保育士固有の倫理やチームアプローチにおける保育士の位置・役割を確認し理解する。		
授業の概要	保育の現場における社会福祉援助技術の個々の課題や方法に関して、理論と実践から具体的に理解すると同時に、子どもの問題や保護者からの相談に対してどのように向き合うのか等、多様なニーズに対応できる保育者の専門性について理解することをねらいとする。		
授業計画	【後期】 第1回 社会福祉を考える 第2回 社会福祉援助技術とは何か 第3回 社会福祉援助技術の定義・体系 第4回 個別援助技術（1）視点・歴史・原則・展開課程 第5回 個別援助技術（2）方法と技法 第6回 集団援助技術（1）定義・意義・目標・原則 第7回 集団援助技術（2）展開課程と方法 第8回 地域援助技術 第9回 専門職としての保育士の職種と社会福祉援助技術 第10回 社会福祉援助技術と子育て支援 第11回 児童虐待を考える 第12回 障害児・者を育てるといふこと 第13回 社会福祉援助技術と児童福祉施設の子ども 第14回 社会福祉援助技術と子どもの権利 第15回 講義のまとめ		
テキスト	岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修、松本寿昭編著『社会福祉援助技術』（保育・教育ネオシリーズ⑧）同文書院・2004年	参考文献	随時紹介する。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

人間と障害		後期 2 単位	2・3年
ノーマライゼーション理念を通して、共生的で多様な社会の再構築を考える（障害をもつ当事者たちの生き方から学ぶべきもの）		杉崎 敬（すぎさき たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	障害をもつ当事者の地域における日常生活とノーマライゼーション理念とのつながりの重要性を認識し、「共に生きる社会」とは何かを理解すること。講義では、障害当事者の中でも特に知的障害をもった当事者たちの地域生活を中心に取り上げ、その問題点や課題、解決策等を整理し、当事者たちが生きてきた存在を理解できるようにすること。		
授業の概要	障害をもつ当事者たちが置かれてきた生活環境や、差別・偏見といった社会のまなざし、そして、地域社会で困難を抱えながらも生きようとしている当事者たちの姿を、講義ではいま一度捉えなおす。同時にその背景を明らかにして、これからの障害者と非障害者が共に歩む道とは何かを考え、学生自らの障害認識を再構成できるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 「障害」「障害者」とは何か 第2回 障害者は歴史的にどうみられてきたか 第3回 地域生活支援の思想と運動（1）障害者親と脱施設化 第4回 地域生活支援の思想と運動（2）障害者の権利擁護の問題 第5回 障害者の生活の場（1）日本 第6回 障害者の生活の場（2）スウェーデン 第7回 障害者が働くということ：当事者が働く就労の場を考える 第8回 障害者の本人活動：知的障害者たちの活動を通して 第9回 障害者とノーマライゼーション：同じ社会で共に生きる 第10回 障害者のセクシュアリティ（1）多様な性を生きる人たち 第11回 障害者のセクシュアリティ（2）知的障害者の性と支援 第12回 障害者の子育て：知的障害者が子育てをするということ 第13回 地域生活支援に向けて（1）共に生きる社会を目指して 第14回 地域生活支援に向けて（2）エンパワメントとは何か 第15回 講義のまとめ		
テキスト	特に指定せず、随時プリント資料を使用する。	参考文献	講義中、必要に応じて紹介する。
評価方法	試験：50% レポート：20% リアクションペーパー：30%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
マイノリティ（少数派）の当事者の視点に近づく。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	2年生で学んできた文献やディスカッション、レポートをもとに、自分の興味のある研究テーマを固めていく。さらにテーマに関してどのような問題意識、仮説を立てているのかを、発表し、卒業論文の作成への手がかりをつかむ。その際、マイノリティ（少数派）の視点に近づきながら、得られた気づきを大切にいく。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、文献研究の成果を発表し、さらに深めたいテーマについて、論文を作成するために必要な方法を検討する。必要に応じて調査のフィールドやインタビュー対象者を探し、本調査を実施し、論文を作成していく。		
授業計画	【前期】 第1回 春休みの成果発表（1） 第2回 春休みの成果発表（2） 第3回 テーマと仮説の検討（1） 第4回 テーマと仮説の検討（2） 第5回 調査方法の検討（1） 第6回 調査方法の検討（2） 第7回 プレ調査の実施（1） 第8回 プレ調査の実施（2） 第9回 関連文献の発表（1） 第10回 関連文献の発表（2） 第11回 テーマの絞り込み（1） 第12回 テーマの絞り込み（2） 第13回 本調査の検討・準備（1） 第14回 本調査の検討・準備（2） 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業後の感想レポート:40% 発表内容:40% 論文作成の状況:20%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
マイノリティ（少数派）の当事者から学ぶ。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	自分がマジョリティ（多数派）の中にいると、そのことに気付かないことがある。例えば皆さんの多くは現在「しょうがない人」が多いと思いますが、そのことにどれほど気付いているだろうか。マイノリティの人たちの語りから学び、自分たちの社会をみる視点を豊かにする。		
授業の概要	まずは、教員が提示した文献の中から購読したいものを選び、マイノリティの当事者に学ぶことの意味を理解する。さらに自分の関心あるテーマについての文献紹介をした後、論文作成に向けてテーマを設定し発表する。仲間同士の意見交換を大切にしながら、テーマを深めたり、絞ったりしていく。		
授業計画	【前期】 第1回 シラバスの紹介、文献についての話し合い 第2回 自己紹介 第3回 文献購読（1） 第4回 文献購読（2） 第5回 文献購読（3） 第6回 文献購読（4） 第7回 文献購読（5） 第8回 関心のあるテーマの紹介 第9回 文献紹介（1） 第10回 文献紹介（2） 第11回 文献紹介（3） 第12回 関心あるテーマの発表（1） 第13回 関心あるテーマの発表（2） 第14回 関心あるテーマの発表（3） 第15回 まとめ		
テキスト	ゼミ生と相談しながら決定する。	参考文献	渡辺一史「こんな夜更けにバカかよ」北海道新聞社2003、浦河べてるの家「べてるの家の非援助論」医学書院2002など
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

施設実習Ⅱ A	前期 1 単位	3年
福祉施設における支援活動の理解と施設職員の役割の考察～施設実習の準備とふり返り	杉田 穂子（すぎた やすこ） 横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、福祉施設における体験学習（施設実習Ⅱ B）を通して、福祉施設の機能と役割・利用者を支援する生活実践の実際・（保育士を含む）施設職員の役割について学ぶ。 そのための準備を中心に行いながら、実習後のふり返りとをあわせて総合的に学ぶ学内授業である。</p> <p><授業の概要> 施設実習Ⅱ Aは、福祉施設に約2週間出向き実習する施設実習Ⅱ Bに向けて、学内にて実習計画作成と各施設の特性に即した諸準備、実習後のふり返りを行う。</p> <p>施設実習Ⅱ Bにおける実習は、各実習施設の受け入れ状況にあわせてあらかじめ設定した実習期間（原則として2013年4月から10月までのさまざまな時期の中から配属された約2週間）にそれぞれ出向くこととなる。実習に出るためにはこの授業への出席が不可欠となる。</p> <p>授業のもち方としては、施設実習Ⅱ A履修者の配属された実習先施設種別ごとに分かれて行う授業と履修者全員での授業とを活用する。また、施設実習Ⅱ Aと保育所実習Ⅱ Aの各授業時間を相互に活用し同時併行的に進めていく。加えて、適宜、卒業生・施設現場からの学外講師にも出講を願う予定である。</p> <p><授業内容> 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法について 第2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成について 第4回 実習の心構え（生活参加に際して求められる理解と倫理） 第5回 施設における実践内容と生活参加の理解 第6回 施設機能と利用者理解・支援の実際についての理解 第7回 学外講師による実習事前指導 第8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第9回 施設実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書のしあげと提出） 第11回 卒業生の実習体験に学ぶ （施設実習） 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 開講時に提示する。</p> <p><参考文献> 民秋言他編著『保育ライブラリ 施設実習』北大路書房ほか。 ※なお、実習する施設種別に即した参考文献および実習事前準備のための各種資料を、適宜紹介していく予定。</p> <p><評価方法> 平常点と授業参加態度（70%）、 実習計画書・実習報告書作成を含めた実習事前事後の取り組み状況、実習報告、提出物（あわせて30%）を基準として総合評価する。</p>		

社会福祉論		前期 2 単位	1年
社会福祉の基本概念を理解する。		杉田 穂子 (すぎた やすこ)	
授業の到達目標及びテーマ	21世紀を迎えて社会福祉の役割は、より身近で重要になってくる。「弱者に恵み与える福祉」から「権利としてサービスを利用する福祉」への流れについて理解する。さらに「中央が与える福祉」から「地方を軸に住民が創り出す福祉」へ転換しつつある流れについて理解する。		
授業の概要	まず学生の経験した差別問題を取り上げ、学生と福祉との関係性を探る。さらに福祉概念の変遷、中でも貧困に対する社会の見方の変化に焦点をあて、社会の見方によって支援が変化することを学ぶ。さらに、公的扶助、高齢者、児童家庭、障害の各福祉分野について焦点をあて、現状と課題を理解する。		
授業計画	【前期】 第1回 シラバスについて 第2回 差別とは何か(1) 自らの体験を出し合う 第3回 差別とは何か(2) 文献より 第4回 社会福祉とは何か(1) 基本的な考え方と構成要素 第5回 社会福祉とは何か(2) 問題の特徴と援助技術 第6回 社会福祉とは何か(3) 援助技術の原則 第7回 社会福祉概念の変遷(1) 相互扶助、慈善事業、社会事業 第8回 社会福祉概念の変遷(2) 厚生事業、社会福祉事業 第9回 社会福祉概念の変遷(3) 社会福祉基礎構造改革 第10回 公的扶助 第11回 高齢者福祉 第12回 児童家庭福祉 第13回 障害者福祉(1) 思想の変遷 第14回 障害者福祉(2) 日本の現状と課題 第15回 全体のまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	好井裕明「差別原論」平凡社新書2007, 山縣文治他「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 2002, 厚生統計協会「国民福祉の動向」厚生統計協会
評価方法	授業後の感想:30% テスト:70%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
マイノリティ(少数派)の当事者の視点に近づく。		杉田 穂子 (すぎた やすこ)	
授業の到達目標及びテーマ	各自が進めてきた研究のテーマ、仮説に基づき、文献、フィールドワーク調査などから得られた知見をもとに論文を作成する。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、論文を作成する。必要に応じて助言する。		
授業計画	【後期】 第1回 論文の概要の発表(1) 第2回 論文の概要の発表(2) 第3回 各自の論文についての発表(1) 第4回 各自の論文についての発表(2) 第5回 各自の論文についての発表(3) 第6回 各自の論文についての発表(4) 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 論文の発表と検討(1) 第14回 論文の発表と検討(2) 第15回 論文の発表と検討(3)		
テキスト	個別に紹介します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業後の感想レポート:30% 発表内容:30% 論文作成の状況:40%		

保育所実習 I A	後期 1 単位	2年
保育所保育の理解と保育士の役割の考察～保育所実習の準備とふり返し		
<p>【担当教員】 杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、保育所における体験学習（保育所実習 I B）を通して、保育所の機能と役割、保育の実際、保育士の役割などについて学習します。 そのための準備を中心に行ないながら、実習後のふり返しをあわせて総合的に学内で学びます。</p> <p><授業の概要> 保育所実習 I Aは、保育所に約2週間出向き実習する保育所実習 I Bに向けて、学内にて実習計画作成と諸準備、実習後のふり返しを行ないます。 保育所実習 I Bの実習期間は2013年11月中の2週間です。（日程など詳細は保育実習ガイダンスや授業で伝達） 実習に出るためには本講義への出席が不可欠です。 講義は担当者による4分級での授業と合同のそれとを併用します。 本講義は、原則として、1年次で保育士資格取得に必要な必修科目の単位を修得をした者にのみ履修を認めています。</p> <p><授業計画> 第 1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法 第 2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第 3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成 第 4回 実習の心構え（保育参加に際して求められる理解と倫理） 第 5回 乳幼児の生活と遊びの理解（視聴覚教材を用いて） 第 6回 保育所と利用者理解・子育て支援活動の理解 第 7回 学外講師による実習事前指導 第 8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第 9回 保育所実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書の仕上げと提出） 第11回 実習の具体的準備と留意点の確認 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 帆足英一監修『実習保育学』第4版（日本小児医事出版社、2008年）。実習の事前準備および実習中の活用のために、必ず購入のこと。</p> <p><参考文献> 民秋言ほか編著『保育ライブラリ 保育所実習』（北大路書房、2009年）。</p> <p><評価方法> 講義への参加度（30%）、計画書・報告書・感想文などを含めた実習の事前・事後のとりくみの状況（70%）を基準として総合的に評価します。</p>		

養護内容演習		後期 1 単位	3年
保育者としての自分の価値観に気づき、支援が価値観の影響を受けていることを学ぶ。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標及びテーマ	保育や福祉の現場で利用者やその家族を支援するときには、保育者一人ひとりの価値観が言葉かけ・支援方法・内容を大きく左右する。一人ひとりが自分の持っている価値観を理解し、それぞれの価値観が支援のあり方にどのように影響するのかを理解する。		
授業の概要	設定されたテーマについての仲間とのディスカッションを通して、自分の価値観がどのようなものかを理解する。さらに基本的なかかわり方の技法を学んだうえで、利用者だけでなく、利用者の家族に対する対応の仕方を学ぶ。さらに実習で体験した具体的な対人援助場面を取り上げ、ロールプレーを通して、より実践的な対人援助について学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 シラバスの紹介、グループ分け 第2回 グループディスカッション(1) 専門性とは何か 第3回 グループディスカッション(2) 命の価値について 第4回 グループディスカッション(3) しょうがい個性か 第5回 ディスカッションまとめ 第6回 かかわるための技法(1) 傾聴とは 第7回 かかわるための技法(2) カウンセリングの技法 第8回 かかわるための技法(3) 葛藤場面への対応 第9回 かかわるための技法(4) インリアル・アプローチ 第10回 実習場面のレポートの話し合い 第11回 ロールプレーでの発表(1) 第12回 ロールプレーでの発表(2) 第13回 統合保育場面についての話し合い 第14回 統合保育場面についての発表 第15回 手紙を書こう		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて指示する。保育実習、幼稚園実習での実習ノート。
評価方法	授業後の感想レポート:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
マイノリティ（少数派）の当事者から学ぶ。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標及びテーマ	各自が卒論のテーマを明確化させる。さらに論文作成に当たっての基本的な方法について理解する。具体的にいくつかのテーマを設定し、プレ調査を実施したり、試行的に論文を作成する。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、文献研究の成果を発表する。さらに文献や先輩の論文の購読を通して、論文を作成するために必要な事柄について理解する。その後、必要に応じて調査のフィールドやインタビュー対象者を探し、プレ調査を実施したり、試行的に論文を作成する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 シラバスの説明 第2回 夏休みの成果発表(1) 第3回 夏休みの成果発表(2) 第4回 夏休みの成果発表(3) 第5回 論文作成方法の検討(1) 第6回 論文作成方法の検討(2) 第7回 論文作成方法の検討(3) 第8回 中間報告(1) 第9回 中間報告(2) 第10回 中間報告(3) 第11回 中間報告(4) 第12回 論文発表会に向けて(1) 第13回 論文発表会に向けて(2) 第14回 論文発表会に向けて(3) 第15回 ふりかえり		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
「視る」「聴く」を経験する。		杉田 穂子 (すぎた やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは、日頃「見たり、聞いたり」しながら生活している。そのことをふまえ、「見る」と「視る」、「聞く」と「聴く」の違いを意識し、生活の中から疑問やおもしろさを見つけていくことを目標とする。		
授業の概要	「視る」については、日常生活でである人たちを観察するヒューマンウォッチングを通して考えてく。また「聴く」については、身近な人へのインタビューを通して考えていく。そしてヒューマンウォッチングやインタビューをレポートにまとめ発表し、仲間と意見交換するなかで、自分の問題意識を理解する。		
授業計画	【後期】 第 1回 シラバスの紹介 第 2回 自己紹介 第 3回 ヒューマンウォッチングについて 第 4回 実際に街にでてみよう。 第 5回 ヒューマンウォッチングのレポート発表 (1) 第 6回 ヒューマンウォッチングのレポート発表 (2) 第 7回 ヒューマンウォッチングのレポート発表 (3) 第 8回 インタビューについて 第 9回 実際にインタビューしてみよう。 第10回 インタビューレポートについての発表 (1) 第11回 インタビューレポートについての発表 (2) 第12回 インタビューレポートについての発表 (3) 第13回 インタビューレポートについての発表 (4) 第14回 気づきについての話し合い 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	特になし	参考文献	伊藤哲司・能智正博・田中共子編「動きながら識る、関わりながら考える」ナカニシヤ出版 2005
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

施設実習 I B	後期集中 2 単位	3年
施設職員の役割の体験学習と考察～施設利用者にとって必要な支援のあり方を考える		
<p data-bbox="107 214 211 237">【担当教員】</p> <p data-bbox="97 239 1256 285">杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p data-bbox="97 287 319 311"><実習の概要とテーマ></p> <p data-bbox="117 312 1167 428">福祉施設で約2週間の実習において利用者と施設職員とともに生活することを通して、施設実践や利用者の人権保障、支援の実際を学ぶとともに、福祉施設の果たす社会的役割と機能・（保育士を含む）施設職員の役割とあり方・利用者やその背後にいる家族への支援の実際を考察する。 実習体験を通して、人が人として成長すること・他者とかがわりながら社会に生きることを支える福祉の営みに今後何が求められるか、その本質についても考える機会とする。</p> <p data-bbox="97 479 219 502"><実習期間></p> <p data-bbox="117 504 1029 527">各自の配属された時期（約2週間）に、それぞれの実習施設に出向き、原則的に宿泊での実習を行う。</p> <p data-bbox="97 577 278 600"><実習の到達目標></p> <p data-bbox="127 602 707 625">（さまざまな実習先がありますが、モデルとして以下を示します）</p> <ol data-bbox="117 647 868 884" style="list-style-type: none"> 1. 実習する施設の概要と果たす機能を理解する。 2. 施設の1日の生活の流れを理解する。 3. 利用者の様子（デイリープログラム・生活の実際・施設での活動など）を知る。 4. 施設職員の利用者へのかかわり（個別・全体）と配慮している点を理解する。 5. 施設職員の保護者（親）へのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 施設職員のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 生活への参加を通じ、環境設定上の配慮と特性を知る。 8. 人間らしい成長・社会参加・暮らしの実現に何が求められるか考察する。 9. 日々の生活参加・実習内容のふり返りと日誌による省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p data-bbox="127 909 1167 956">（※ただし、実習する施設の特性や実習時期・個別の状況により実習内容プログラムのちがいや変更がありうるので、臨機応変に対応のこと）</p> <p data-bbox="97 981 1238 1027">実習中の巡回指導は、専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子に加え実習担当講師の和田秀一が行う。</p> <p data-bbox="97 1052 219 1076"><テキスト></p> <p data-bbox="117 1078 396 1101">必要に応じ、随時紹介していく</p> <p data-bbox="97 1126 219 1149"><参考文献></p> <p data-bbox="117 1151 396 1174">必要に応じ、随時紹介していく</p> <p data-bbox="97 1199 219 1222"><評価方法></p> <p data-bbox="117 1224 1148 1248">実習ノートを含む実習そのものへの取り組み状況（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合評価する。</p>		

施設実習ⅡB	後期集中 2 単位	3年
施設職員の役割の体験学習と考察～施設利用者にとって必要な支援のあり方を考える	杉田 穂子（すぎた やすこ） 横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
<p><実習の概要及びテーマ> 福祉施設での約2週間の実習において利用者や施設職員とともに生活することを通して、施設実践や利用者の人権保障、支援の実際を学ぶとともに、各施設の果たす社会的役割と機能・（保育士を含む）施設職員の役割とあり方・利用者やその背後にいる家族への支援の実際を考察する。 実習体験を通して、人が人として成長すること・他者とかかわりながら社会に生きることを支える福祉の営みに今後何が求められるか、その本質についても考える機会とする。</p> <p><実習期間> 2013年4月～10月までの間の各自配属された時期（約2週間）に、それぞれの実習施設に出向き、宿泊または通いでの実習を行う。</p> <p><実習の到達目標> （さまざまな実習先があるが、モデルとして以下を示す）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する施設の概要と果たす機能を理解する。 2. 施設の1日の生活の流れを理解する。 3. 利用者の様子（デイリープログラム・生活の実際・施設での活動など）を知る。 4. 施設職員の利用者へのかかわり（個別・全体）と配慮している点を理解する。 5. 施設職員の保護者（親）へのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 施設職員のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 生活への参加を通し、環境設定上の配慮と特性を知る。 8. 人間らしい成長・社会参加・暮らしの実現に何が求められるか考察する。 9. 日々の生活参加・実習内容のふり返りと日誌による省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p>（※ただし、実習する施設の特性や実習時期・個別の状況により実習内容プログラムのちがいや変更がありうるので、臨機応変に対応のこと）</p> <p>実習中の巡回指導は、専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子が行う。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習そのものへの取り組み状況（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合評価する。</p>		

保育所実習 I B	後期集中 2 単位	2年
保育士の役割の体験学習と考察～保育所保育との出会い		
<p>【担当教員】 杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p><実習の概要とテーマ> 保育所で約2週間、園児や保育者とともに生活し保育に参加することを通して、保育所保育や保育の実際を学ぶとともに、保育所の果たす社会的役割や機能・保育士の役割とあり方を理解します。 人間として日々成長する乳幼児の姿にふれ、保育者として、人としての感受性を耕すとともに、保育需要を有する乳幼児とその家族の支援にあたって保育所に何が求められるかについても考察する機会とします。</p> <p><実習期間> 2013年11月中の2週間（日程など詳細は保育実習ガイダンスおよび授業で伝達）</p> <p><実習の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する保育所の概要と果たす機能を理解する。 2. 配属クラスの1日の生活の流れを理解する。 3. 配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活状況など）を理解する。 4. 保育者の子どもとのかかわりの意味・保育内容を理解する。 5. 保育者の保護者（親）とのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 保育者のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 保育準備・環境設定への参加を通し、保育者の意図と配慮を知る。 8. 保育の観察・参加と日誌を通しての省察。 9. 部分実習・責任実習の体験と省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p>実習中の巡回指導は専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、鈴木俊之、杉田穂子、菅野幸恵、村知稔三、横堀昌子に加え、実習担当講師の和田秀一が行ないます。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習へのとりくみ（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合的に評価します。</p>		

施設実習 I A	後期集中 1 単位	3年
福祉施設実践の理解と施設職員の役割の考察～施設実習の準備とふり返り	杉田 穂子（すぎた やすこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、福祉施設における体験学習（施設実習 I B）を通して、福祉施設の機能と役割・利用者を支援する生活実践の実際・（保育士を含む）施設職員の役割について学ぶ。そのための準備を中心に行いながら、実習後のふり返りとをあわせて総合的に学ぶ学内授業である。</p> <p><授業の概要> 施設実習 I Aは、福祉施設に約2週間出向き実習する施設実習 I Bに向けて、学内にて実習計画作成と諸準備、実習後のふり返りを行う。 施設実習 I Bにおける実習は、各実習施設の受け入れ状況にあわせてあらかじめ設定した実習期間にそれぞれ出向くこととなる。 実習に出るためにはこの授業への出席が不可欠となる。 授業の持ち方としては、上記担当者による4グループに分かれて行う授業と、合同で行う授業とを活用する。 また、施設実習 I Aと保育所実習 I Aの各授業時間を相互に活用し同時併行的に進めていく。 加えて、適宜、卒業生・施設現場からの学外講師にも出講を願う予定である。 なお、この科目は、原則として1年次に保育士資格取得のために必要な必修科目の単位を修得をした者のみ履修を認めている。</p> <p><授業計画> 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法について 第2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成について 第4回 実習の心構え（生活参加に際して求められる理解と倫理） 第5回 施設における実践内容と生活参加の理解 第6回 施設機能と利用者理解・支援の実際についての理解 第7回 学外講師による実習事前指導 第8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第9回 施設実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書のしあげと提出） 第11回 卒業生の実習体験に学ぶ （施設実習） 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 開講時に提示する。</p> <p><参考文献> 民秋言他編著『保育ライブラリ 施設実習』北大路書房ほか。 ※授業でも参考文献および資料を紹介していく予定。</p> <p><評価方法> 平常点・授業参加態度（70%）、 実習計画書・実習報告書作成を含めた実習事前事後の取り組み状況、実習報告、提出物（あわせて30%）を基準として総合評価する。</p>		

子どものあそびと創造性		後期集中 2 単位	2・3年
<p>たくさん遊びやゲームなど、さまざまなおもしろさに接します。すぐれた遊びを実際に体験し、おもしろさとはなにかについて考察し、人に教えられるようにもします。</p>		杉山 亮（すぎやま あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>たくさん遊びを実際に楽しみながらおぼえます。おもしろい遊びを知っていて、その場にあわせて伝えられる力があると、子どもの前に立ったとき、必ず喜ばれるし、自分も楽です。また、その幸福な実感のうちに、大人子ども共に新しい発見や成長に至るまでの時間をつなぐことができます。</p>		
授業の概要	<p>教室で少人数にわかれて、すべて実際に遊び、古今東西のたくさん遊びが自分のレパートリーになるようにします。どうしても、もっとおもしろくなるかということも考えます。鉛筆とノートはいつも必要。時間によっては色鉛筆と折り紙が必要。体を使う遊びではころげまわってもいい服装が必要です。</p>		
授業計画	<p>【後期】 第1回 総論。ことば遊び。文字遊びいろいろ。なぞなぞなど。 第2回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。マルバツなど。 第3回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。二人ビンゴなど。 第4回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。恋占いなど。 第5回 ことば遊び。文字遊びいろいろ。はやくちことばなど。 第6回 おえかき。ぬり絵など。 第7回 カードゲーム。(トランプゲーム 基礎) 第8回 カードゲーム。(トランプゲーム 応用) 第9回 体を使った二人あそび。じゃんけんなど。 第10回 体を使った二人あそび。手遊び指遊びなど。 第11回 伝統あそび。ずいずいずっころばしなど。 第12回 体を使って大勢でするゲームいろいろ。 第13回 折り紙。 第14回 あやとり。 第15回 テストとレポート書き</p>		
テキスト	<p>テキストは使いません。かって大きい子が小さい子に伝えたように、すべて、口伝です。ときにプリントを使用します。</p>	参考文献	<p>なし。ただし、自分が子どもの頃、じっさいに遊んだ遊びを説明できるようにしてください。</p>
評価方法	<p>テスト:30% レポート:70%</p>		

教育学Ⅱ		前期 2 単位	2年
現代社会の変化と教育の課題		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>この授業を履修した者は、1. 教育社会学に関する基礎的な知識を獲得する、2. その知識を使用し、教育現象を社会的に説明する、3. ポスト工業化社会における教育問題について記述する、事ができるようになる。</p>		
授業の概要	<p>教育の社会的分析を通じて、現代社会における教育の諸問題について考える。内容的には教育学Ⅰよりも発展的になるため、教育と社会、経済の関係などに興味がないと履修は厳しい。講義では毎回スライドを使って講義し、ルーチェ・フォリオあるいはミニッツ・ペーパーの提出を求める。</p>		
授業計画	<p>【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 教育の発展と社会Ⅰ 近代国家と教育 第3回 教育の発展と社会Ⅱ 教育の社会的機能 第4回 階層と学歴 第5回 経済現象としての教育Ⅰ 人はなぜ学校へ行くのか 第6回 経済現象としての教育Ⅱ 社会的投資としての教育 第7回 カリキュラムと社会 第8回 中間まとめ 第9回 才能教育の現在 第10回 少年非行 第11回 学校の病理 第12回 多文化社会と教育 第13回 高等教育の社会学 第14回 教育改革の現在 第15回 前期まとめ</p>		
テキスト	<p>授業中に指示する。</p>	参考文献	<p>天野他著『教育社会学』改訂版 放送大学教育振興会 1998年;金子・小林著『教育の政治経済学』放送大学 教育振興会 2000年など</p>
評価方法	<p>試験:80% 平常点:20%</p>		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
現代における教育の諸問題の研究 I		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を受講した者は、1. 現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育学的視点から考察するための基礎的な知識を獲得する、2. その知識を教育現象に適用し、初歩的な分析を行う、3. 分析した内容を説得的に他者に提示する、事ができるようにする。		
授業の概要	受講生は全員、前週までに指定されたテキスト・論文などを読み、そのテキスト・論文の主張およびそれに対する批判的検討を加え、A4一枚程度にまとめてくる。授業ではそれにもとづき、少人数グループで討論をする。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 授業方針の説明 第2回 受講生による討論 第3回 受講生による討論 第一章 第4回 受講生による討論 第二章 第5回 受講生による討論 第三章 第6回 受講生による討論 第四章 第7回 受講生による討論 第五章 第8回 受講生による討論 第六章 第9回 受講生による討論 第七章 第10回 受講生による討論 第八章 第11回 受講生による討論 教育と格差(1) 第12回 受講生による討論 教育と格差(2) 第13回 受講生による討論 教育と格差(3) 第14回 受講生による討論 教育と格差(4) 第15回 前期まとめ		
テキスト	広田・伊藤著『教育問題はなぜまちがって語られるのか?—「わかったつもり」からの脱却』日本図書センター、2010。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

教育学 I		前期 2 単位	1年
現代社会における教育とその問題		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育に関する初歩的な幅広い知識を獲得する、2. その知識を用いて、現在の教育現象を簡潔に説明する、事ができるようにする。		
授業の概要	講義形式で行う。前半は教育の理論的・原理的な事柄について扱う。中間まとめではその内容を理解しているかをテストする。後半は教育の制度的・社会的事柄について扱う。毎回授業の終了後にルーチェ・フォリオにて授業の理解度を測る。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 教育とは何か I 教育の定義 自然環境と社会環境 第3回 教育とは何か II 発達 学習 社会の中の教育 第4回 教育の歴史 I 制度としての教育の発生 第5回 教育の歴史 II 公教育制度の歴史 第6回 教育内容 I 教育課程の歩み I (戦前～戦後初期) 第7回 教育内容 II 教育課程の歩み II (1960年代～2000年代) 第8回 教育内容 III ゆとり教育 第9回 中間まとめ 第10回 教育行政 I 学校教育制度 第11回 教育行政 II 教育を受ける権利 第12回 国際化と教育 第13回 宗教と教育 第14回 教育改革と現在 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	黒崎・大田編『学校をよりよく理解するための教育学』シリーズ、学事出版：江原・山崎編『基礎教育学』放送大学教育振興会、2007年ほか
評価方法	試験:70% 中間まとめ:25% 平常点:5%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
現代における教育の諸問題の研究Ⅲ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	前年度に引き続き、現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育学的立場から考察し、究明することをねらいとする。論文作成に向けて、文献検索、基礎的な理解、仮説の構築までが前期の到達目標である。		
授業の概要	各人がそれぞれのテーマを選択し、そのテーマに沿って文献検索、主題の整理、仮説の構築を15回かけて行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 第3回 受講生による発表 第4回 受講生による発表 第5回 受講生による発表 第6回 受講生による発表 第7回 受講生による発表 第8回 中間発表 第9回 受講生による発表 第10回 受講生による発表 第11回 受講生による発表 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:70% レポートなど:30%		

教育人間学		前期 2 単位	2・3年
変貌する子ども世界と現代		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 第二次世界大戦後の社会の変化について、2. 新たな子ども観と変化する子ども—大人関係について、理解できるようになる。また3. そうした変化を理解した上で、これからの子どもやそれを取り巻く関係について深く洞察できるようになる。		
授業の概要	講義形式ではあるが、少人数によるグループワークを重視して行う。受講生には毎回テキストを読み込み、A4一枚程度のレジュメを作成した上で、授業に臨んでもらう。ハードワークのため覚悟して受講すること。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 人口異変と学校教育の対応Ⅰ ①～③ 第3回 人口異変と学校教育の対応Ⅱ ④～⑥ 第4回 子どもの身体の戦後処理Ⅰ ①～③ 第5回 子どもの身体の戦後処理Ⅱ ④～⑥ 第6回 メディア社会と子どもⅠ ①～③ 第7回 メディア社会と子どもⅡ ④～⑥ 第8回 娯楽雑誌の市民権Ⅰ ①～③ 第9回 娯楽雑誌の市民権Ⅱ ④～⑥ 第10回 食品市場の救世主Ⅰ ①～③ 第11回 食品市場の救世主Ⅱ ④～⑥ 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 まとめ		
テキスト	本田和子『変貌する子ども世界』中公新書、1999年。	参考文献	特になし
評価方法	平常点（発表・レジュメ含む）:70% レポート:30%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
宗教と社会		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 公教育における宗教と教育の関係について理解する、2. 日本の教育における宗教の地位について説明する、3. 各国の宗教教科書について説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	テキストを全員が毎回読み、その上でA4一枚にその主張、それに対する批判的見解、感想をまとめてくる。授業ではその内容についてミニグループで討論し、授業のおわりにその内容を他グループと共有する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 1章 教科書が推進する宗教教育 第3回 2章 なぜ宗派教育的なのか 第4回 3章 教科書が内包する宗教差別Ⅰ 第5回 3章 教科書が内包する宗教差別Ⅱ 第6回 4章 なぜ偏見・差別が見逃されてきたのか 第7回 5章 海外の論争と試行錯誤Ⅰ 第8回 6章 宗教を語りなおすために 第9回 中間まとめ 第10回 イスラームとは何か 第11回 イスラームと教育 第12回 映画に見るイスラーム 第13回 日本におけるイスラーム 第14回 スピリチュアル・ブーム 第15回 まとめ		
テキスト	藤原聖子(2011)『教科書の中の宗教——この奇妙な実態』岩波書店。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:80% レポート:20%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
現代における教育の諸問題の研究Ⅱ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を受講した者は、1. 現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育的視点から考察するための応用的な知識を獲得する、2. その知識を教育現象に適用し、深い分析を行う、3. 分析した内容を説得的に他者に提示する、事ができるようになる。		
授業の概要	受講生は全員、前週までに指定されたテキスト・論文などを読み、そのテキスト・論文の主張およびそれに対する批判的検討を加え、A4一枚程度にまとめてくる。授業ではそれにもとづき、少人数グループで討論をする。		
授業計画	【後期】 第1回 後期オリエンテーション 第2回 受講生による発表 第3回 受講生による発表 第4回 受講生による発表 第5回 受講生による発表 第6回 受講生による発表 第7回 受講生による発表 第8回 受講生による発表 第9回 受講生による発表 第10回 受講生による発表 第11回 受講生による発表 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 後期まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

世界の教育		後期 2 単位	2・3年
比較教育学を学ぶ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	比較教育学とは「世界の国や文化圏における教育を、歴史的、現代的な視点から、比較し、また、それぞれのあいだのさまざまな関係や、国、文化圏における世界(地球)的な関係などを明らかにし、教育の本質的なあり方を究めようとする学問」である。本講義では様々な教育現象に対して比較教育的に考察するスキルを身につけてもらう。		
授業の概要	基本的に講義形式で行う。スライドを用いて行い、毎回ルーチェ・フォリオあるいはミニッツ・ペーパーの提出を求める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の教育 第3回 アメリカの教育 第4回 イギリスの教育 第5回 韓国の教育 第6回 東南アジアの教育 第7回 中間まとめ 各国の教育制度から見てくること 第8回 学力の国際比較Ⅰ PISA・TIMSSの結果より 第9回 学力の国際比較Ⅱ 各国の教育改革 第10回 いじめの国際比較Ⅰ いじめの定義 日本の現状 第11回 いじめの国際比較Ⅱ 英国・オランダ・ノルウェーとの比較 第12回 子育て支援の国際比較Ⅰ 日・米・英・韓・中の制度比較 第13回 子育て支援の国際比較Ⅱ 保育の質の国際比較 第14回 宗教教育の国際比較 第15回 まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験あるいはレポート:80% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
現代における教育の諸問題の研究Ⅳ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育学のテーマに関してまとまった文章を書く、2. 教育学の理論に基づいた分析をする、3. 説得的で論理的な文章で論文を作成する、事ができるようになる。		
授業の概要	受講生が毎回レジュメを作成し、論文の進捗状況を報告する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 論文の構想Ⅰ 第3回 受講生による発表 論文の構想Ⅱ 第4回 受講生による発表 論文の構想Ⅲ 第5回 受講生による発表 中間発表Ⅰ 第6回 受講生による発表 中間発表Ⅱ 第7回 受講生による発表 中間発表Ⅲ 第8回 受講生による発表 初稿の発表Ⅰ 第9回 受講生による発表 初稿の発表Ⅱ 第10回 受講生による発表 初稿の発表Ⅲ 第11回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅰ 第12回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅱ 第13回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅲ 第14回 論文の最終チェック 第15回 論文発表会		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:20% 論文:80%		

幼児教育史		後期 2 単位	3年
歴史の中の子ども－教育と選抜		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を受けた者は、1. 教育における選抜の歴史についての知識を獲得する、2. 現在の状況を歴史的観点、教育学的観点から説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	「お受験」という言葉が定着して久しいが、そもそも教育システムは選抜機能を持っているからこそ社会システムの一部として発達したといえる。本講義ではそもそも教育がいかんして近代国家に取り込まれていったのか、そしてどのように選抜システムが日本社会で学歴社会を生み出したのかについて扱う。ゼミ形式のため、予習および発言を重視す		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 近代化と試験の時代 第3回 試験と選抜の伝統 第4回 教育と試験の制度化 第5回 小学校から中学校へ 第6回 高等教育と試験制度 第7回 資格試験制度の成立 第8回 中間まとめ 第9回 官僚任用試験と学歴主義 第10回 帝国大学への道 第11回 受験の世界―一九〇〇年前後 第12回 試験と上昇移動の道 第13回 試験の近代・テストの現代 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2		
テキスト	『試験の社会史―近代日本の試験・教育・社会』 増補版、平凡社、2007年。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

小児栄養学 I		後期 2 単位	2年
子どもの食生活と栄養		高橋 恭子（たかはし きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 栄養や食品の基本的知識を習得し、自分自身の食生活を改善する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連を理解する。 3. 子ども各期の栄養特性と食生活のあり方を理解する。		
授業の概要	子どもの栄養と食の体験は心身の発育・発達に大きな影響を及ぼし、生涯にわたる健康と健全な生活の基盤となるものである。「小児栄養学 I」では栄養や食品についての基本的な事項および子どもの発育・発達と食生活の関連について講義をする。3年次開講の「小児栄養学 II」と併せて発育・発達に応じた適切な食育と保護者への支援を行う力を養ってい		
授業計画	【後期】 第1回 食生活の意義 第2回 栄養素の種類と機能 ①炭水化物、脂質 第3回 栄養素の種類と機能 ②たんぱく質 第4回 栄養素の種類と機能 ③ミネラル、ビタミン、水分 第5回 食べ物の消化と栄養素の吸収 第6回 食事摂取基準と献立、食事バランスガイド 第7回 子どもの発育・発達と食生活 ①子どもの食生活の特徴 第8回 子どもの発育・発達と食生活 ②摂食行動の発達 第9回 子どもの発育・発達と食生活 ③胎児期（妊娠期） 第10回 子どもの発育・発達と食生活 ④乳児期：母乳栄養 第11回 子どもの発育・発達と食生活 ⑤乳児期：人工乳栄養 第12回 子どもの発育・発達と食生活 ⑥乳児期：離乳 第13回 子どもの発育・発達と食生活 ⑦幼児期 第14回 子どもの発育・発達と食生活 ⑧学童期・思春期 第15回 まとめ		
テキスト	飯塚美和子他『最新子どもの食と栄養』学建書院、石井克枝監修『新カラーチャート食品成分表』教育図書	参考文献	二木武他『小児の発達栄養行動』医師薬出版、坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』医師薬出版、幼児食懇話会編『幼児食の基本』日本小児医事
評価方法	筆記試験:70% 提出物:10% 学習態度:20%		

社会福祉方法論		後期 2 単位	2年
人権・権利擁護を基盤においた、社会福祉の方法を理解する		高山 直樹（たかやま なおき）	
授業の到達目標 及びテーマ	身近な生活の課題や地域のなかにある課題に焦点をあてて、社会福祉の価値・構造・機能を理解する。特に人権、権利擁護を実践の基盤に置き、社会福祉援助の専門性、価値、倫理を押さえ、個別、集団、地域援助の方法についてその意義、機能、過程について理解する。さらには子どもの権利に基づいた社会福祉援助のあり方を事例を通して理解する。		
授業の概要	子どもの生活を支える保育士は、専門職としての社会福祉実践の価値や倫理そして技術を修得することが不可欠である。またその実践は、子どものいのち、家族、地域社会、国家そして国際社会における幸福や平和につながるものでなければならない。本講では、現代におけるさまざまな生活課題を押さえつつ、社会福祉の方法を修得することを目的と		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会福祉とは何かを考える 第2回 社会福祉援助とは何か（1）援助の価値を捉える 第3回 社会福祉援助とは何か（2）援助の対象を捉える 第4回 社会福祉援助（1）個別援助技術の基本原則を学ぶ 第5回 社会福祉援助（2）個別援助技術の過程を学ぶ 第6回 社会福祉援助（1）集団援助技術の基本原則を学ぶ 第7回 社会福祉援助（2）集団援助技術の過程を学ぶ 第8回 社会福祉援助（1）地域援助技術の基本原則を学ぶ 第9回 社会福祉援助（2）地域援助技術の過程を学ぶ 第10回 社会福祉援助（1）ケアマネジメントを理解する 第11回 社会福祉援助（2）ネットワークングを理解する 第12回 子どもの権利と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第13回 家族支援と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第14回 子育て支援と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第15回 まとめ：保育と社会福祉援助のこれからを学ぶ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	平常点:30% 試験:70%		

里親養育論		後期 2 単位	2・3年
子ども支援から見る里親養育の形と里親家庭への支援のあり方について		長田 淳子（ちょうだ じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育でも家庭的保育が重んじられているが、さまざまな家庭の事情から家族から離れて生活する子どもたちにとって、生活の場のもつ意味、必要な支援は何かを理解する。それらを踏まえ、子どもが血縁を超えて出会う里親家庭での養育の意義について、また、家庭での養育に対する援助方法や支援体制のあり方・展望について検討する。		
授業の概要	前提となる社会的養護への理解を深めながら、子どもにとって「生活」とは何かを、自身の「生活観」をふり振り返りながら考察する。中途養育となる里親養育の難しさ・よさを確認しながら、多様なニーズと課題を持つ子どもにとって里親養育とは何か、里親養育の支援に何が求められているか、支援の実際を含め理解する。事例や文献、視聴覚教材などを		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会的養護 家庭的養護・家庭養護とは 第2回 家庭で生活することのもつ意味～「生活観」をとおして～ 第3回 子どもに必要な「生活」とは 第4回 子どもを取り巻く環境について（保護者の状況など） 第5回 子どもの状況① 子ども虐待 第6回 子どもの状況② 発達障がい 第7回 子どもの状況③ 親との分離体験 第8回 里親家庭の種類と養育の形 第9回 里親の養育力とは何か 第10回 養育の実際① 子どもの成長にともなう課題 第11回 養育の実際② 実親との関係（面会・真実告知など） 第12回 養育の実際③ 子どもの自立・自立支援をめぐる 第13回 里親家庭への支援① 里親とその家族への支援 第14回 里親家庭への支援② 各機関との連携と支援のあり方 第15回 必要な子育て支援（里親家庭支援を含む）の充実		
テキスト	開講時に提示する。	参考文献	参考文献・資料ともに、必要に応じて紹介していく。
評価方法	授業への参加状況:30% 提出課題:20% レポート:50%		

演劇表現 I		前期 1 単位	3年
ドラマによる表現教育		土屋 康範（つちや やすのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	ドラマとは何か、それに取り組むことによって身体的な表現力やコミュニケーションの能力がどのように向上するのかを理解する。それを応用して日常生活における自身のコミュニケーションの質を高め、また他者の能力を高める手助けができるようになる。		
授業の概要	ドラマの創作に取り組む。中間にはドラマの筋書きを提出してもらう。身体表現の基礎トレーニングから始めて演技、演出上の重要概念を体得し、最後には創作したドラマを上演して自己批評する。参加型の授業なので出席を重視する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 ガイダンス、心身の解放、マイム、「ドラマ」の概念 第 2回 身体表現の基礎トレーニング① 行動の概念 第 3回 身体表現の基礎トレーニング② 行動とそれに応じる行動 第 4回 身体表現の基礎トレーニング③ 相互交流 第 5回 スケッチ（短い劇）に挑戦しよう① 舞台上の交流 第 6回 スケッチに挑戦しよう② 観客と舞台との間接的交流 第 7回 スケッチに挑戦しよう③ 観客と舞台との直接的交流 第 8回 ドラマの創作① プロットの設定 第 9回 ドラマの創作② 序盤の場面を作る 第 10回 ドラマの創作③ 中盤の場面を作る 第 11回 ドラマの創作④ 終盤の場面を作る 第 12回 ドラマの創作⑤ 役の感情表現を磨く 第 13回 ドラマの創作⑥ キャラクターの表現を磨く 第 14回 修了公演（創作ドラマの発表） 第 15回 修了公演の自己批評と講評、まとめ		
テキスト	随時、教材のプリントを配付する。	参考文献	B. ウェイ著・岡田陽他訳『ドラマによる表現教育』（玉川大学出版）、V. スポーリン著・大野あきひこ訳『即興術』（未来社）、その他随時紹介す
評価方法	授業への参加態度:45% 中間レポートの内容:20% 公演の到達度と批評:35%		

身体表現 I		後期 1 単位	1年
身体を楽しく自由にのびのびと使うことによって、一人ひとりが自分の「からだ」について理解する		中川 聖子（なかがわ せいこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽に合わせて楽しく動かなかで、踊りの中での身体の見え方や見せ方、踊るための身体の作り方や動かし方、ダンスの基本を理解し、実践できるようになる。その中で、自分自身の「からだ」を理解し、踊りの中での他者との関わり方や自分自身の表現ができるようになる。		
授業の概要	自由な表現力を養うために、のびのびと身体を動かすことを目指す。毎回少しづつコンビネーションをつないでいき、一連の動きや踊りを集中して表現することを学ぶ。また、他者と同じ空間で踊ることによって、他者や空間を意識しながら動いていくことを学ぶ。まとめとしてレポートを提出する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 立つ：いろいろな立ち方と姿勢 第 2回 座る：いろいろな座り方 第 3回 寝る：いろいろな寝転がり方 第 4回 身体を部分的に動かす① 第 5回 身体を部分的に動かす② 第 6回 まわる① 両足でまわる 第 7回 まわる② 片足でまわる 第 8回 まわる③ ターンコンビネーション 第 9回 飛ぶ：いろいろなジャンプ 第 10回 ゆっくり動く 第 11回 はやく動く 第 12回 数人で動く 第 13回 集団で動く 第 14回 楽しく踊る① 第 15回 楽しく踊る② まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	授業時に提示・配布する
評価方法	授業への取り組み方:60% 実技点:10% レポート:30%		

キリスト教と教育		前期 2 単位	2・3年
キリスト教と「いのち」の教育。		野村 祐之（のむら ゆうし）	
授業の到達目標 及びテーマ	ヒトにとって最も根源的な問いは「いのち」の問題でしょう。その「いのち」がいま危機的状况にあります。IT革命、環境問題をはじめ、個人レベルから地球レベルまで、人類の考え方に大転換が迫られています。聖書の世界観、人間観に光を当て「いのち」の深い理解を獲得し、それに基づく「いのち」の教育の可能性を探ります。		
授業の概要	講義あるいは研究発表の形で課題を提示し、ディスカッションで問題点の把握と自分なりの理解を得ます。ビデオ映像などを多用し、事実にして具体的に学びます。毎回、レスポンスシートを記入し、自分の理解を整理します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーションと自己紹介。 第2回 21世紀、キリスト教の暦と現代人の生活。 第3回 キリスト教の一週間と一年間。教会暦は太陽暦。 第4回 「ひと」とは何か：「心身」と「身体性・知性・霊性」。 第5回 聖霊降臨日・聖霊と、キリスト教会誕生の物語。 第6回 「聖霊と霊性」：キリスト教的人間観のカギ 第7回 「こころ」とは何か。日本語・英語・科学の言葉。 第8回 「こころ」を育む教育と「良心」。 第9回 「いのち」とは何か。日本語・英語・科学の言葉。 第10回 聖書の「いのち」：「ビオス」と「ゾーエー」 第11回 生命倫理と、聖書に見る「いのち」と「いやし」。 第12回 復活の主、キリスト。「生と死」そして「永遠の命」。 第13回 教育者、イエス。その教えの核心と「幼な子」。 第14回 キリスト教教育の現代的課題と未来のビジョン。 第15回 「まとめ」と、テストあるいはインタビューによる評価		
テキスト	聖書（旧約、新約そろいのもの）は毎回必要。特定の教科書はありませんが毎回、資料を配布あるいは指定します。	参考文献	各回の主題に応じてプリントなどの資料を配布し、関連する参考資料等はそれつど紹介します。
評価方法	授業への積極的参加：40% レスポンスシート：30% レポート2回：30%		

造形教育研究		前期 2 単位	3年
表現と素材・色彩と形		原田 ロクゴー（はらだ ろくごー）	
授業の到達目標 及びテーマ	美術表現における素材のもたらす効果を考察し、多様な素材から適切なものを選択し表現できる力を養う。また、「色」を理論的に理解し、「色料」を表現素材の1つとして使うことができる力を養う。以上2点が到達目標である。		
授業の概要	造形表現に用いる素材は多種多様であるが、本講義は“繊維”と“顔料と染料”に焦点を絞り進めていく。理解を助けるために、色彩演習・紡糸/製織演習などを行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 色 第2回 色料 顔料と染料 第3回 色料 演習【自分の色を作り色名をつける】 第4回 色料 演習【自分の色で連続模様をつくる】 第5回 繊維の組成と歴史 羊毛／綿 第6回 繊維から糸に 演習【紡錘車による糸紡ぎ】 第7回 繊維の組成と歴史 絹／麻 第8回 糸から布に 織機の構造 演習【枠機作り】 第9回 糸から布に 織り物の組織 演習【機織り】 第10回 ショワの布 第11回 民族布 第12回 “包む”と“衣の形式” 第13回 正倉院の染織 第14回 小袖を読み解く 第15回 講評会		
テキスト	適宜ハンドアウトを配付	参考文献	図書館にある「正倉院」関連の書籍／「色彩学」の書籍／染織・美術等の書架にある書籍
評価方法	小テスト：25% 提出物：35% 発表/質疑応答など：40%		

乳児保育演習		後期 2 単位	2年
乳児の発達の特徴と保育のあり方		韓 仁愛 (はん いんえい)	
授業の到達目標 及びテーマ	近年、社会状況の変化と共に親の就労形態や家庭環境が多様化し、待機児童の多くを占めるのは乳児である。乳児保育の必要性が要求されると共に、乳児保育の重要性と質の向上が問われている。乳児の発達・成長を理解し、この時期に相応しい保育のあり方、乳児との関わり方を理解し、深める。		
授業の概要	実践事例の検討やビデオやDVD等の映像を通して子どもの言葉や行動から年齢別の 発達を理解し、乳児との関わり方を学生自らが考える場にする。また、グループディスカッションにより各年齢別のあそびの工夫とおもちゃ作りを行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 保育園の1日と保育所保育指針 第 2回 0歳児の発達の特徴と保育のポイント 第 3回 離乳食とアレルギー食について 第 4回 0歳児のあそびの理解とおもちゃ作り 第 5回 1歳児の発達の特徴と保育のポイント 第 6回 2歳児の発達の特徴と保育のポイント 第 7回 1・2歳児のあそびの理解とおもちゃ作り 第 8回 2歳児保育の事例検討と関わり方の工夫 第 9回 乳児の基本的な生活づくり 第10回 乳児保育の歴史と現状 第11回 「三歳児神話」と乳児保育 第12回 施設と在宅における乳児保育のあり方 第13回 保護者の理解と支援 第14回 保育計画と記録 第15回 複数担任制の課題とチームワーク		
テキスト	乳児保育研究会編『改訂新版 資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房。	参考文献	実践事例は随時プリントを使用する。
評価方法	演習課題:30% 試験:50% 年齢別おもちゃ作り:20%		

家族の社会学		前期 2 単位	2・3年
社会学的アプローチによる家族の理解のために		平岡 佐智子 (ひらおか さちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	家族は、生涯にわたる人間発達にあたって大きな役割をになう。また、家族は人びとの生活の基盤でもある。人間の総合的理解のためには家族および家族関係についての的確な認識が欠かせない。そこで、社会学的アプローチによる家族研究を中心に、現代家族の特質や家族変動の方向性について基礎知識を習得する。		
授業の概要	講義中心となるが、学生自身の関心を深められるような課題を適宜、盛りこむ予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 家族について学ぶ意義 第 2回 家族を対象とした社会学的研究の射程 第 3回 家族変動をとらえる分析視角 第 4回 その1 構造機能論 第 5回 その2 システム論 第 6回 その3 相互作用論 第 7回 現代家族の特質に焦点をあてた分析視角 第 8回 家族周期論とライフコース論 第 9回 社会的ネットワーク論 第10回 家族ストレス論 第11回 現代社会における家族変動の方向性 第12回 現代社会に生きる個人と家族関係 第13回 現代社会のかかえる課題とこんにちの家族 第14回 現代社会の変容と家族・家族関係 第15回 まとめ		
テキスト	指定しない。	参考文献	必要に応じて、紹介する。
評価方法	定期試験:60% 授業感想文:20% 課題の提出:20%		

小児栄養学Ⅱ		前期 1 単位	3年
食育を実践するために		福留 奈美 (ふくとめ なみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもの発育・発達に応じた食生活のあり方や援助を理解する。 2. 子どもの食の現状と課題を理解する。 3. 食育の基本とその内容や食育の環境について理解する。		
授業の概要	この授業は「小児栄養学Ⅰ」の単位取得者を対象とする。「小児栄養学Ⅰ」で学んだ内容を踏まえながら、実習を通して子どもの発育・発達に応じた食のあり方への理解を深め、保育士としての対応を考える。調理実習の際にはエプロン、三角巾、ハンドタオル必携。長い爪やマニキュア等は衛生の観点から禁止する。実習後にはレポート提出を課す。		
授業計画	【前期】 第1回 衛生管理 第2回 乳汁栄養：調乳 第3回 離乳期の食生活と栄養①離乳の基本と離乳の支援 第4回 離乳期の食生活と栄養②離乳食の進め方 第5回 離乳期の食生活と栄養③生後5～6ヶ月頃の食事 第6回 離乳期の食生活と栄養④生後7～18ヶ月頃の食事 第7回 幼児期の食生活と栄養①食生活の特徴と問題点 第8回 幼児期の食生活と栄養②幼児期の食事 第9回 幼児期の食生活と栄養③幼児の間食 第10回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第11回 児童福祉施設における食事と栄養 第12回 保育所給食 第13回 食育の基本と内容 第14回 保育所における食育 第15回 まとめ		
テキスト	「小児栄養学Ⅰ」で使用したテキスト(最新子どもの食と栄養、食品成分表)や配布資料を活用する。これに加え、毎回印刷教材を配布する。	参考文献	保育所における食育研究会編「乳幼児の食育実践へのアプローチ」児童育成協会児童給食事業部、現代と保育編集部編「食事で気になる子の指導」ひとなる書房
評価方法	筆記試験:40% レポート:40% 学習態度:20%		

キリスト教保育Ⅱ		前期 2 単位	2・3年
希望への教育		松浦 浩樹 (まつうら ひろき)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教信仰に根差した保育の理念と実践を理解し、自分も生かされていることを知ることで、子どもの育ちにかかわる使命感を培う。また乳幼児を取り巻く社会や家庭の現状を踏まえつつ、キリスト教保育の使命とは何かを学び、「育てる者へ」の意識の転換を喚起し、子どもの心的・身体的な育ちを促し、子どもの希望を培う大人のあり方を探		
授業の概要	講義の後、5名前後のグループディスカッションをし、その中で意見交換や自分なりの考えを述べ、理解できないことを明確にし、再度講義の中でまとめる。またテーマに沿って、キリスト教保育の現場を観察し、自分で資料や教材・資料を収集し、実践的に学ぶ。学んだものを発表し、共有する。		
授業計画	【前期】 第1回 キリスト教保育とは—キリスト教保育の現代的使命— 第2回 保育現場の動向と保育者・教育者のこれから 第3回 保育と祈り、省察 第4回 遊びを大切にする保育の理解 第5回 神・人のかかわりを大切にする保育の理解 第6回 キリスト教保育の環境の理解 (歴史的取り組みの理解) 第7回 キリスト教保育の実際 (1) ビデオ観察とカンファレンス 第8回 キリスト教保育の実際 (2) 保育現場報告 第9回 キリスト教保育の実際 (3) 保育現場報告 第10回 キリスト教保育の実際 (4) 保育現場報告 第11回 見えないものに目をそそぐ—保育の実践と省察の再考— 第12回 キリスト教保育の内容と展開 第13回 保育を共に創る—子ども・保護者と共に— 第14回 保育を共に創る—保育者と共に、地域と共に— 第15回 まとめ—保育者として、人として成長する—		
テキスト	『新キリスト教保育指針』『キリスト教保育 50の質問 見えないものに目をそそぐ』	参考文献	『幼児さんびか1,2』、『こどもさんびか』 月刊『キリスト教保育』、その他、これらの資料を随時配布
評価方法	最終レポート:60% 中間レポート、発表:20% 意欲(討論):20%		

キリスト教保育Ⅰ		後期 2 単位	1年
見えないものに目をそそぐ		松浦 浩樹 (まつうら ひろき)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教信仰に根差した保育の理念と実践を理解し、自分も生かされていることを知ることで子どもに関わる使命感を培う。また乳幼児を取り巻く社会や家庭の現状を踏まえつつ、キリスト教保育の実際を学び、子どもの心的・身体的な育ちに何が必要であるかを考察し、振り返ることと(省察)の重要性を知る。		
授業の概要	講義の後、5名前後のグループディスカッションをし、その中で意見交換や自分なりの考えを述べ、理解できないことを明確にし、再度講義の中でまとめる。またテーマに沿って、自分で資料や教材を選んだり、収集し、学ぶ。その学んだものを発表し、共有し合う。		
授業計画	【後期】 第1回 キリスト教保育とはーキリスト教保育が大事にしてきたことー 第2回 幼稚園・保育所を取り巻く現状 第3回 子どもを取り巻く環境とキリスト教保育の使命 第4回 キリスト教保育の環境・保育者の役割(信頼関係) 第5回 見えないものに目をそそぐー保育の実践と省察ー 第6回 キリスト教保育の実際① 保育の理念と礼拝の意味と実際 第7回 キリスト教保育の実際② フレーベルの思想と恩物 第8回 キリスト教保育の実際③ 賛美歌と子ども 第9回 キリスト教保育の実際④ 遊び・生活 その1 第10回 キリスト教保育の実際⑤ 遊び・生活 その2 第11回 キリスト教保育の実際⑥ 絵本と子ども 第12回 キリスト教保育の実際⑦ キリスト教保育現場見学と学び 第13回 キリスト教保育の実際⑧ クリスマスの意味と準備 第14回 教会訪問・教会学校見学レポート 第15回 「共に歩む」「共に生きる」ということ・レポート作成		
テキスト	『新キリスト教保育指針』『キリスト教保育 50の質問 見えないものに目をそそぐ』『幼児さんびかⅠ・Ⅱ』	参考文献	こどもさんびか 月刊『キリスト教保育』、その他これらの資料を随時配布
評価方法	意欲(宿題):10% レポート2回分:30% 最終レポート:60%		

家族支援論		後期 2 単位	3年
家族支援の視点とそのアプローチ		宮内 珠希 (みやうち たまき)	
授業の到達目標 及びテーマ	●子ども福祉の専門職としての価値と倫理を踏まえ、子育て家庭への支援の意義を理解する。●多様な家族のあり方や家族が直面する様々な課題を、社会的、心理的文脈から理解できるようになる。●対人援助の原則、基本的な家族支援プロセス、援助方法を理解する。		
授業の概要	演習、ディスカッション等を通し、自己理解を進め、基本的な対人援助の方法を学んでいく。事例、文献、視聴覚教材等を通して、現代社会における様々な家族のあり方、家族が直面する様々な危機的状況と、その社会的、心理的背景、それぞれの状況に関連する社会資源とその活用を学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション:子育て家庭への支援の意義 第2回 家族支援の視点:援助者の価値と倫理・家族の機能と発達 第3回 現代社会と家族(1):多様な家族のあり方・ジェンダー 第4回 現代社会と家族(2)子どもの貧困 第5回 相談援助技術(1)面接技術の基本 第6回 相談援助技術(2)コミュニケーションスキル 第7回 困難な状況を抱える家族(1)障がい・精神病理など 第8回 困難な状況を抱える家族(2)トラウマ・DV 第9回 子どもの虐待(1)保護者の理解 第10回 子どもの虐待(2)子どもの理解 第11回 子どもの虐待(3)虐待の対応 第12回 子どもの虐待(3)虐待の予防 第13回 家族支援の実際(1)アセスメント・支援計画 第14回 家族支援の実際(2)チームアプローチとネットワーク 第15回 まとめ		
テキスト	指定のテキストはありません。	参考文献	参考文献、資料ともに、必要に応じて紹介していく。
評価方法	授業感想文:30% レポート:70%		

メディアと子ども		後期 2 単位	2・3年
子どもとメディアのよりよい関係		向田 久美子（むかいだ くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の子どもは、生後すぐからテレビやテレビゲーム、DVD、携帯電話、PCなどの電子メディアに囲まれて育つ。これらのメディアは子どもの知的・情緒的・社会的発達にどのような影響を及ぼすのだろうか。また、子どもの発達を支える大人として、私たちに何ができるのだろうか。これらの点について、最新の研究成果や事例、映像を通して理解を深め		
授業の概要	毎回資料を配布し、客観的データに基づきながら、メディアのさまざまな影響力について解説する。また、関連する映像の視聴を通して、メディアの制作技法やその効果についても説明する。ディスカッションやリアクション・ペーパーを通して、なるべく双方向的な形で授業を進めていきたい。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 メディア視聴の実態：乳幼児期 第3回 メディア視聴の実態：児童期 第4回 子どもがメディアに引きつけられる理由 第5回 メディアの影響を研究する方法 第6回 メディアと認知能力 第7回 メディアと暴力（1）短期的影響 第8回 メディアと暴力（2）長期的影響 第9回 メディアと不安心理 第10回 メディアと社会性 第11回 メディアとジェンダー 第12回 メディアと身体イメージ 第13回 メディアと人種ステレオタイプ 第14回 メディア・リテラシーの育成 第15回 子どもとメディアのよりよい関係を支援するために		
テキスト	特に指定しない。資料を適宜配布する。	参考文献	『メディアと人間の発達』（坂元章編，学文社）
評価方法	レポート:55% 授業感想文:45%		

保育所実習Ⅱ A	前期 1 単位	3年
保育所保育の理解と保育士の役割の考察の深化－保育所実習の準備とふり返り－	村知 稔三（むらち としみ） 和田 秀一（わだ しゅういち）	
<p><講義の到達目標・テーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、保育所における体験学習（保育所実習Ⅱ B）を通して、保育所の機能と役割、保育実践の実際、保育士の役割について学びます。 そのための準備を中心にしながら、実習後のふり返りをあわせて行ない総合的に学ぶ学内授業です。</p> <p><講義の概要> 保育所実習Ⅱ Aは、保育所に約2週間出向き実習する保育所実習Ⅱ Bに向けて、実習計画作成と準備、保育所実習Ⅱ Bのふり返りを学内で行ないます。 保育所実習Ⅱ Bの実習期間は原則として8月26日（月）～9月7日（土）です。ただし、多少前後する場合があります。 この実習に出るためには本講義への出席が不可欠です。 もち方としては、4名の担当者によるグループ別の授業と、合同で行なうそれとを組み合わせます。 また、保育所実習Ⅱ Aと施設実習Ⅱ Aの各講義時間を相互に活用し、同時に進めていきます。</p> <p><講義計画> 第1回 保育所実習の準備（実習の枠組み理解） 第2回 保育所実習の準備（実習配属確認と準備過程） 第3回 保育所実習の準備（保育所の役割・機能理解） 第4回 保育所実習の準備（保育問題と保育ニーズの理解） 第5回 保育所実習の準備（乳幼児の発達理解） 第6回 保育所実習の準備（乳幼児の遊びの理解） 第7回 保育所実習の準備（乳幼児の生活の理解） 第8回 保育所実習の準備（保育者の役割の理解） 第9回 保育所実習の準備（保育の留意点の理解） 第10回 保育所実習の準備（事前学習のまとめ） 第11回 保育所実習の準備（実習テーマの検討） 第12回 保育所実習の準備（実習計画の作成） 第13回 保育所実習の準備（実習計画への助言） 第14回 保育所実習の準備（実習の省察） 第15回 教員からのフィードバックと全体のまとめ</p> <p><テキスト> 帆足英一監修『実習保育学』第4版（日本小児医事出版社、2008年）。</p> <p><参考文献> 民秋言ほか編著『保育ライブラリー 保育所実習』（北大路書房、2009年）。</p> <p><評価方法> 講義への積極的関与の度合い（30%）、計画書・報告書・感想文などを含めた実習の事前・事後のとりくみの状況（70%）を基準として総合的に評価します。</p>		

現代社会と保育		前期 2 単位	2・3年
現代社会と保育		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「戦後日本社会における保育の位置」をテーマにする本講義では、20世紀後半の日本社会における家庭養育と施設保育の変遷を理解する。そのために家族史・女性史・労働史・人口史などの成果を積極的に摂取し、隣接諸科学と対話できる基礎的能力を身につける。		
授業の概要	本年度は主に家族史研究の成果から多くを学ぶ。1945年の敗戦時に前近代的な色彩の濃かった家庭や家族が1960年代の高度経済成長期に近代的な存在になり、1990年代以降はそこに新たな問題や困難が生まれ、近代家族からの脱皮が求められているという経過を追い、その原因や背景を考え、そこでの養育の特徴を見つめる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 本講義のねらい・内容・進め方などの説明 第2回 戦後直後の家庭や家族の状況 第3回 1950年代の家庭や家族の状況 第4回 高度経済成長期の農村における家庭や家族の変化 第5回 高度経済成長期の都市における家庭や家族の変化 第6回 主婦へのあこがれと近代家族の広まり 第7回 「男は仕事、女は家事」への疑いと働き続ける女性の増大 第8回 中間まとめと小レポート 第9回 男女雇用機会均等法と女性差別 第10回 男女共同参画社会とジェンダー問題 第11回 児童虐待とドメスティック・バイオレンス 第12回 「失われた20年間」における家族の変容 第13回 社会や家族の二極化と養育の困難性 第14回 現代家族と養育の共同化 第15回 全体のまとめ		
テキスト	講義中に配布する資料など	参考文献	講義中に提示
評価方法	小レポート:30% 試験:70%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
子ども学特別研究Ⅰ		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界の保育と日本の保育」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、近現代日本の保育の歴史と現状に関する理解を踏まえて、それをより深くするために幾つかの先進諸国の保育の歴史と現状についての知見を得ることである。		
授業の概要	現代日本の保育を広がりのなかで捉え、その長短とそれをもたらす要因などについて考えるため、世界の国々とりわけ主要国の保育の実態や歴史について学ぶ。同時に、それらを通して、ゼミナール員が個別の学習課題をもち、卒論テーマの発見に繋がるようにする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 本ゼミのねらい・進め方の説明と討議 第2回 現代日本の保育の現状と到達点 第3回 戦前日本における保育の推移－19世紀後半－ 第4回 戦前日本における保育の推移－20世紀前半－ 第5回 戦後日本における保育の推移－1970年中頃まで－ 第6回 戦後日本における保育の推移－1990年中頃まで－ 第7回 戦後日本における保育の推移－世紀転換期以降－ 第8回 中間まとめ 第9回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(1)－ 第10回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(2)－ 第11回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(3)－ 第12回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(4)－ 第13回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(5)－ 第14回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(6)－ 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
子ども学特別研究Ⅱ		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界の保育と日本の保育」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、近現代日本の保育の歴史と現状に関する理解を踏まえて、それをより深くするために幾つかの先進諸国の保育の歴史と現状についての知見を得ることである。		
授業の概要	現代日本の保育を広がりの中で捉え、その長短とそれをもたらす要因などについて考えるため、世界の国々とりわけ主要国の保育の実態や歴史について学ぶ。同時に、それらを通して、ゼミナール員が個別の学習課題をもち、卒論テーマの発見に繋がるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前期の反省と後期の課題 第2回 日本の保育に直接に影響した米国の保育 第3回 米国の保育の開始に影響を与えたドイツの保育 第4回 異なる経緯で始まったフランスの保育 第5回 独自の経過でスタートしたイギリスの保育 第6回 近年、世界的に注目されているイタリアの保育 第7回 ドイツの保育がその東側に影響したロシアの保育 第8回 中間まとめ 第9回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(1)－ 第10回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(2)－ 第11回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(3)－ 第12回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(4)－ 第13回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(5)－ 第14回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(6)－ 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

保育原理Ⅱ		後期 2 単位	1年
保育原理Ⅱ		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「乳幼児の変化と保育の公共性」をテーマとする本講義の到達目標は、保育の理念・歴史・思想の基本的な推移を理解し、保育に関する社会的・制度的・経営的事項をめぐる現代的課題について考察することである。		
授業の概要	前期の「保育原理Ⅰ」を踏まえ、講義の前半では乳幼児の成長・発達や保育の様子を実践記録にもとづいて検討し、保育の理念・歴史・思想の理解を深める。後半では「構造改革」のなかで大きく変化している保育の実態を主に社会的・制度的・経営的側面から分析する。最後に保育の公共性の現代的意義について考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 講義のねらい・内容・進め方などの説明 第2回 近代欧米社会と保育 第3回 現代欧米社会と保育 第4回 戦前日本社会と保育 第5回 戦後日本社会と保育 第6回 乳児保育の変遷 第7回 幼児保育の変遷 第8回 中間まとめと小レポート 第9回 保育施設の性格と特徴 第10回 戦後日本の保育行政の変遷 第11回 現代日本の保育行政・経営の課題 第12回 乳児期の保育実践の特徴と課題 第13回 幼児前半期の保育実践の特徴と課題 第14回 幼児後半期の保育実践の特徴と課題 第15回 後半と全体のまとめ		
テキスト	講義中で配布する資料など	参考文献	講義中に提示
評価方法	小レポート:30% 試験:70%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子ども学基礎論		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界と日本の子ども学の歩みと成果」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、国内外の子ども学の歴史と現状について基本的な理解を得て、その成果と課題について考察することである。同時に、ゼミでのレポートのまとめと発表、それをめぐる討論の仕方について基礎的能力を身につける。		
授業の概要	若い学問である子ども学を国内外の広がりの中で捉え、その歴史と到達点を理解するために教員の講義部分とゼミナール員の発表部分を組み合わせる。		
授業計画	【後期】 第 1回 ゼミのねらい・進め方の説明と討議 第 2回 日本の子ども学の歴史 第 3回 日本の子ども学の到達点 第 4回 欧米の子ども学の歴史－19世紀－ 第 5回 欧米の子ども学の歴史－20世紀－ 第 6回 欧米の子ども学の到達点 第 7回 国内外の子ども学の交錯 第 8回 中間まとめ 第 9回 ゼミグループ(1)の発表と討論 第10回 ゼミグループ(2)の発表と討論 第11回 ゼミグループ(3)の発表と討論 第12回 ゼミグループ(4)の発表と討論 第13回 ゼミグループ(5)の発表と討論 第14回 ゼミグループ(6)の発表と討論 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

保育所実習ⅡB	後期集中 2 単位	3年
保育士の役割の体験学習と考察の深化－保育所保育との出会い－	村知 稔三（むらち としみ） 和田 秀一（わだ しゅういち）	
<p><実習の概要・テーマ> 保育所で約2週間、園児や保育者とともに生活し、保育に参加することを通して、保育所保育や保育の実際を学ぶとともに、保育所の果たす社会的役割や機能、保育士の役割とあり方を理解します。 人として日々成長する子どもの姿にふれ、保育者として、人としての感受性を耕すとともに、保育需要をもつ子どもと家族の支援にあたって保育所に今、何が求められるかについても考察します。</p> <p><実習期間> 原則として2013年8月26日（月）～9月7日（土）。ただし、多少前後する場合があります。</p> <p><実習の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する保育所の概要と果たす機能を理解します。 2. 配属クラスの1日の生活の流れを理解します。 3. 配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活状況など）を理解します。 4. 保育者の子どもとのかかわりの意味・保育内容を理解します。 5. 保育者の保護者（親）とのかかわりと連携のあり方を考察します。 6. 保育者のチームワークと連携のとり方を理解します。 7. 保育準備・環境設定への参加を通し、保育者の意図と配慮を知ります。 8. 保育の観察・参加と日誌を通しての省察を行ないます。 9. 部分実習・責任実習の体験と省察を行ないます。 10. 実習全体のふり返りと成果・課題の考察を行ないます。 <p>ただし、実習する保育所の状況により実習内容にちがいや変化があるので、臨機応変に対応することが求められます。 実習中の巡回指導は専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子に加え、実習担当講師の和田秀一が行なう予定です。</p> <p><テキスト> 必要に応じて随時紹介します。</p> <p><参考文献> 必要に応じて随時紹介します。</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習へのとりくみ（60%）と実習先からの評価（40%）をもとに、総合的に評価します。</p>		

子どもと言葉		後期 2 単位	2年
子どもの育ちにおける言葉について、保育の場をはじめとする生活全般における言葉の多様性への理解を深める		森 真理（もり まり）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども（乳幼児）の言葉の育つ道すじを理解する ・子どもの言葉の発達に影響する環境について理解する ・領域「言葉」の捉え方とその内容について理解する 		
授業の概要	子どもの育ちにおける言葉について、子どもの言葉の発達理論と保育内容「言葉」の理解を土台に、子どもの生活（遊びと学び）にて繰り広げられる言葉の世界を探究します。さらに、子どもの言葉の育ちの環境としての絵本をはじめとする児童文化やおとなの言葉の生活についても考えていきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：言葉との出会い・「私」の言葉考察 第2回 「言葉」と子どもの育ち（1）：乳児期 第3回 「言葉」と子どもの育ち（2）：幼児期 第4回 「言葉」と環境（1）：人との関係 第5回 「言葉」と環境（2）：モノとの関係 第6回 「言葉」と環境（3）：地域社会・文化との関係 第7回 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』と領域「言葉」 第8回 領域「言葉」と小学校教科との関係 第9回 「言葉」と児童文化（1）：おはなし・絵本 第10回 「言葉」と児童文化（2）：紙芝居・パルシター・人形劇 第11回 「言葉」と児童文化（3）：演ずることからの学び 第12回 「言葉」をめぐる課題(1)：特別なニーズの子ども 第13回 「言葉」をめぐる課題(2)：母語・外国語（英語）教育 第14回 「言葉」をめぐる課題(3)：「子どもの100の言葉」 第15回 まとめとふりかえり・展望		
テキスト	小田豊・芦田宏編著『保育内容 言葉』北大路書房（2011） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』	参考文献	・戸田雅美編著『演習保育内容言葉』建帛社（2011） ・ガンティニら編『子どもたちの100の言葉 レジヨ・ミリアの幼児教育』世織書房（2001） ・その
評価方法	授業省察（出席カード）：40% 期末試験：60%		

精神保健論		前期 2 単位	3年
精神保健とは、日常生活への役立て方		矢花 美美子（やばな ふみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	楽しく生きていけるようになるためにはどうしたらよいか？ 「精神保健」とは何か？ 具体的にどのようなことか？ 人間の精神を、精神医学的にはどうとらえ、どう考えていくか、を講義を通して理解してもらおう。そして、学生各自が自己理解を深め、精神的、肉体的に健康を保つことに対する対策を、各自で考えていけるようになることをめざす。		
授業の概要	精神保健の基本的なことを（精神医学についても）講義する。また講師の日常の臨床または経験を通して、どう病気というものに対応していくのかを語るつもりである。健康でいるためにはどうしたらいいのか、などを学生と対話しながら進めていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 精神保健とは 1 第2回 精神保健とは 2 第3回 心身の健康とは 第4回 自己理解について 第5回 他者理解について 第6回 精神医学 総論 第7回 精神医学 各論 第8回 児童期精神医学 第9回 青年期精神医学 第10回 統合失調症 1 第11回 統合失調症 2 第12回 うつ病 1 第13回 うつ病 2 第14回 双極性障害 第15回 高齢者精神医学		
テキスト	特になし	参考文献	山上敏子監修「お母さんの学習室」（二瓶社） 精神医学（金芳堂）
評価方法	試験：40% レポート：30% 授業感想文の内容：30%		

子どもと法		前期 2 単位	2・3年
子どもをめぐる法を学ぶ		山岸 秀（やまぎし しげる）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の子どもはかつてないほどの病理に中におかれている。それが子どもの発達のゆがみなどとなって現出しつつある。この講義では、子どもの発達を憲法的な権利として捉え、その発達保障をする制度、発達がゆがめられた子どもを扱うシステムを法律の視点から、また可能な限り事例・実務・判例などを参照しつつ学んでゆく。		
授業の概要	多人数が予想されるので講義中心。それぞれの課題について、よく知られた事例を取り上げ感想を聞いたり、小レポートを書いてもらったりして、できるだけ個々の対応はしたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 法律の体系。憲法・条約・法律・命令・条令などの体系。 第2回 憲法の基本原理・最高法規としての憲法。憲法の基本原則 第3回 憲法における社会権保障。社会権としての発達権。 第4回 子どもの権利条約。国内法としての条約。 第5回 教育基本法（1）。旧教育基本法の意義。 第6回 教育基本法（2）。戦後教育改革。 第7回 教育基本法（3）教育基本法改正の意味。変わった部分。 第8回 教育と法。現代教育の抱える問題（1）。管理教育。 第9回 教育と法。現代教育の抱える問題（2）。いじめ・非行。 第10回 発達のゆがみと法。非行少年の審判。 第11回 発達のゆがみと法。非行少年の処遇。 第12回 現代非行の特徴と少年法。 第13回 児童虐待と福祉法制。 第14回 家庭と民法。親権と親の義務。 第15回 子ども買・売春、子ども人身売買。		
テキスト	指定しない。授業にプリント等配布。	参考文献	授業中に紹介。
評価方法	テスト:60% レポート:40%		

保育臨床相談		前期 2 単位	3年
子どもの育ちを支えるために		山口 美和（やまぐち みわ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育の中で出会う様々な問題に対し、どのように理解し、どのように援助することができるかということを考える力をつける。		
授業の概要	講義を中心に授業を進めるが、ビデオなどの教材も適宜用いる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 保育における子どもの理解 第3回 カウンセリングマインド 第4回 子どもの心の発達 第5回 子どもの心の問題 第6回 子どもの発達の問題 第7回 園の中で話さない子どもの事例 第8回 他児とのトラブルが多い子どもの事例 第9回 1人遊びの多い子どもの事例 第10回 集団の活動に参加しない子どもの事例 第11回 場面の切り替えに時間がかかる子どもの事例 第12回 保護者に対するカウンセリング的アプローチ 第13回 子育て支援 第14回 外部機関との連携 第15回 まとめ ・ 試験		
テキスト	浜谷直人「保育力 子どもと自分を好きになる」（新読書社）。必要に応じて、資料等を配布する。	参考文献	浜谷直人編著「発達障害児・気になる子の巡回相談～すべての子どもが『参加』する保育へ」（ミネルヴァ書房） その他、授業内で随時紹介する。
評価方法	授業感想文:50% 授業内試験:50%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
社会的意識と知的好奇心を耕す～人間社会の探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども・家族の福祉の領域をベースとしながら、さまざまな状況を生きる子ども、大人、社会の諸問題に出会い、ともに検討・考察する。とくに、いわゆるマイノリティの側を生きる人たちの生活をめぐる諸問題に着目し、「問題」を探しながら深めあうことで、考える力、発信する力、書く力を育てあう機会とする。		
授業の概要	いずれ個人研究に挑む前提として、福祉領域や関連分野からいくつか共通の文献や資料を読みこむ。発題やディスカッション、論評を重ねながら諸問題を探究する観点や人への感受性を互いに育てる。ゼミの特性を活かした演習や個人指導・提出課題に出会いながら、主体性を育て、教員との対話により研究に向かう力を獲得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業ガイダンス～福祉研究とフィールドの広がり 第2回 身近な問題の再発見 第3回 社会的な問題の発見 第4回 文献・資料を用いてのディスカッション（グループ1） 第5回 文献・資料を用いてのディスカッション（グループ2） 第6回 文献・資料を用いてのディスカッション（グループ3） 第7回 社会的問題に関するリサーチと発題（グループ1） 第8回 社会的問題に関するリサーチと発題（グループ2） 第9回 社会的問題に関するリサーチと発題（グループ3） 第10回 研究論文との出会い～研究に求められる要素 第11回 研究することの意味を考える～研究の方向性 第12回 考察を深めたい課題をめぐる討論（グループ1） 第13回 考察を深めたい課題をめぐる討論（グループ2） 第14回 考察を深めたい課題をめぐる討論（グループ3） 第15回 まとめとレポート提出・シェアリング		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	必要に応じ参考資料とともに紹介していく。基本的な福祉関連の文献も紹介する。
評価方法	平常点・授業参加態度:50% 提出課題・レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
人間らしく生きることの探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究することの意義や目的を確認しながら、各自がテーマを設定し、内容を育てていく。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちの抱える課題、中でもとくに福祉的援助を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、私たちの生活の内外にある社会的な課題を中心とした考察を行う。		
授業の概要	2年次の特別研究の成果をふまえ、各自がテーマ（研究課題）を構想し、研究計画を立て深めていく。研究の展開については個別に助言する中で確認するが、共通の文献・持ち寄るテーマやトピックスにそった発題・ディスカッションを重ね、仲間とともに学びあうことも重視する。主体的に取り組み、多くの発見と出会いを獲得していくこと。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション・授業ガイダンス 第2回 研究課題に関するディスカッション 第3回 文献・資料活用の検討と討論 第4回 研究課題の検討、発表、討論 第5回 個別研究指導（グループ1） 第6回 個別研究指導（グループ2） 第7回 研究課題の精査、発表、討論（グループ1） 第8回 研究課題の精査、発表、討論（グループ2） 第9回 研究方法論の精査（グループ1） 第10回 研究方法論の精査（グループ2） 第11回 個人別研究指導（グループ1） 第12回 個別研究指導（グループ2） 第13回 夏休み以後の研究計画の発表会（グループ1） 第14回 夏休み以後の研究計画の発表会（グループ2） 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	参考文献・資料ともに、個別あるいは履修者全体に随時紹介していく。
評価方法	授業参加態度:30% 研究取り組み状況:30% 提出物・レポート:40%		

社会的養護論		前期 2 単位	2年
児童福祉施設における子どもたちの生活と権利～社会的養護の意義と方法の理解		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	被虐待ほか多様な家庭の事情により家族と離れ、社会的な養護・養育を必要とする子どもたちにとって必要な理解・援助内容・援助方法論を、権利保障の意義やその価値とともに体系的に理解する。主に施設での援助内容を学びながら、専門的理解やケアを必要とする子どもの自立支援の意味を、自分自身の生活とも重ねながら考える。		
授業の概要	さまざまな児童福祉施設での支援のもつ意味を構造的に理解し、ケアの現場の持つ役割や機能、専門性を理解する。施設養護および家庭養護の具体的実践事例に出会い、施設職員や養育者に求められる子ども理解、支援のあり方、今後の課題の要点を獲得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 社会的養護とは～その概念と基本理念、果たす役割</p> <p>第 2回 児童福祉施設の体系・機能とソーシャルワークの活用</p> <p>第 3回 信頼関係の形成と日常生活を通しての自立支援</p> <p>第 4回 子どもたちとの生活～施設職員の役割と働き</p> <p>第 5回 養護問題の変遷と家族危機、ホスピタリズム</p> <p>第 6回 日本および海外の児童養護と里親制度、養子縁組制度</p> <p>第 7回 ケア単位の小規模化と家庭的養護の推進をめぐる課題</p> <p>第 8回 児童福祉施設最低基準と施設の生活の質（QOL）の検討</p> <p>第 9回 子どもたちの理解と援助方法論～事例研究</p> <p>第10回 家族関係の理解・調整とファミリーソーシャルワーク</p> <p>第11回 障がいをもつ子どもへの支援、子ども虐待の理解とケア</p> <p>第12回 非行・思春期の諸問題とそのケア、性教育と子どもの権利</p> <p>第13回 先人の築いた児童養護の歴史とキリスト教児童養護</p> <p>第14回 児童福祉施設実践をめぐる今後の課題</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	開講時に提示する（必ず購入のこと）。	参考文献	参考資料とともに授業の中で紹介していく。
評価方法	授業感想文:20% 提出課題:30% 試験:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
人間らしく生きることの探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	研究方法論と内容の吟味・確認をしながら、各自の研究論文を育てる。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちの抱える課題、中でもとくに福祉的援助を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、「私たち」の生活の内外にある社会的な課題を中心とした考察を行っていく。		
授業の概要	個別指導を中心として体験しながら、研究論文の作成を進め、提出、発表、ふり返りまで自らが責任をもって行う。自ら論文を主体的に「動かしていく」力を発揮しながら研究を深め、整えていく。SOSを出しながら教員に助言を求めると、問題解決の力、言語でまとめ発信する力も高める。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 オリエンテーション・授業ガイダンス</p> <p>第 2回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ1）</p> <p>第 3回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ2）</p> <p>第 4回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ3）</p> <p>第 5回 個人別研究指導（グループ1）</p> <p>第 6回 個人別研究指導（グループ2）</p> <p>第 7回 個人別研究指導（グループ3）</p> <p>第 8回 個人別研究指導（グループ1）</p> <p>第 9回 個人別研究指導（グループ2）</p> <p>第10回 個人別研究指導（グループ3）</p> <p>第11回 仮提出</p> <p>第12回 仮提出をふまえての助言・指導</p> <p>第13回 論文のしあげにあたっての確認</p> <p>第14回 レジュメ執筆・論文発表の確認</p> <p>第15回 論文発表会</p>		
テキスト	特になし。	参考文献	参考文献・参考資料とともに、個別あるいは履修者全体に随時紹介していく。
評価方法	授業参加態度:25% 研究取り組み状況:25% 成果物（卒業論文）:50%		

子ども家庭福祉論		後期 2 単位	1年
子ども家庭福祉（児童福祉）はなぜ必要か～子どもと家族への社会的支援のあり方を考える		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	次代を担う子どもたちの福祉（しあわせ）とは何か、子どもの育ちの保障、家族の支援に社会的な取り組みがなぜ必要なのかを理解する。子どもや家族が抱える福祉ニーズを社会的背景と文脈の中でとらえ、福祉支援のあり方、福祉サービスを支える福祉の思想を理解する。		
授業の概要	子ども家庭福祉の前提となる福祉観、子ども観、支援観に出会う。また、子どもの権利とは何か、子どもの権利保障の取り組みの意義は何かを理解する。また、さまざまな福祉ニーズを抱える子どもとその家庭を支援する仕組みについて体系的に理解する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 子どものいのちを守り、育ちを支えるとは 第2回 子ども家庭福祉の理念と、基盤となる子ども観 第3回 子ども家庭福祉のさまざまな取り組み 第4回 保育施策の現状と課題～子育て環境と福祉ニーズ 第5回 子ども虐待と社会的養護、家族支援の取り組み 第6回 子どもの権利条約の成立に至る歴史とコルチャックの思想 第7回 子どもの権利保障の実際と課題 第8回 子どものいのちをめぐる諸問題と母子保健、健全育成 第9回 ひとり親家庭の現状と課題 第10回 障がいをもつ子どもの社会的支援 第11回 非行問題と社会的背景、社会的支援 第12回 子ども家庭福祉の実施体制 第13回 諸外国における子ども家庭福祉の動向 第14回 子ども家庭福祉の今後の課題～子どもの権利条約の時代に 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に提示するので、確認のうえ、必ず購入のこと。	参考文献	参考文献・参考資料とともに必要に応じ授業内で紹介する。
評価方法	授業の感想文:20% 提出物:30% 試験:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
人として生きることの豊かさを考える～他者をこころに住ませるために		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	子どもから高齢者まで社会を構成する人々の生きる姿や生活の多様性、抱える諸問題、それらの文化的・社会的・歴史的背景に出会い、より広い観点から人間と社会をとらえ考え始めることを大きな到達目標とする。そこで、大小の問いを探求しあう場を、感受性を耕す体験の共有と、ダイナミックな、あるいは静かな討論によってともにつくりたい。		
授業の概要	国内外の映像資料（主にドキュメンタリー作品）や文献等の資料を素材とし、テーマに関する演習と討論を重ねる。映像のなかに人間や社会の姿がどう描かれていたか。描かれなかった余白に何があるか。私たちに投げかけられた問いかけとは何か。そこから人間社会の課題や可能性をどう見いだせるのか。ともに語り、大人としてより深く考え始めた		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション～授業構成と扱うトピックスの紹介 第2回 ドキュメンタリー作品視聴 ① 第3回 討論と演習：いのちの価値と人権、人間らしい暮らしとは 第4回 プレゼンテーションとワークショップ：「他者」とは誰か 第5回 討論と演習：他者と出会う力、他者につながる力 第6回 討論：保育の営みが子ども・家庭・地域にもたらすもの 第7回 ドキュメンタリー作品視聴 ② 第8回 討論と演習：女性を生きる、「マイノリティ」を生きる 第9回 ワークショップと討論：“Who are you?” 第10回 討論と演習：「学ぶ」ことの意味と社会参加 第11回 ドキュメンタリー作品視聴 ③ 第12回 プレゼンテーション：私が出会った人と社会（1） 第13回 プレゼンテーション：私が出会った人と社会（2） 第14回 ワークショップ：「センス・オブ・ワンダー」を探して 第15回 まとめのコラージュ作成と発表、シェアリング		
テキスト	固定して用いるテキストはないが、購入して読む文献はある（なお、用いる映像資料や流れは、授業展開や学生からのフィードバックにより決定してい	参考文献	必要に応じ、取り扱う各トピックスに関連する文献・資料を随時紹介する予定。
評価方法	授業参加状況・感想文:40% 提出課題:20% まとめのレポート:40%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
人として育つこと・生きること・暮らすこと再発見～人間社会の探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	研究の意義や研究の向かう先を考えながら、各自がテーマを設定し、構想を育て始める。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちと社会の諸問題、中でもとくに福祉的支援を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、「私たち」の生活の内外にある課題をとらえ考察を深める。		
授業の概要	前期に続き、今こそ考えておきたい問題を探し、深めあう。個別に持ち寄る発題や共通課題による討論、論評を織りまぜて進める。個々の問題意識をふまえて研究テーマの焦点化を試み、あたためながら、研究方法論についても確認し、3年次に向けて少しずつ研究に着手する。分野の特性から実証的な研究と取り組みへの意欲を育てる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス～夏休み中の取り組みの成果発表 第2回 共通素材を用いての討論と論評（グループ1） 第3回 共通素材を用いての討論と論評（グループ2） 第4回 共通素材を用いての討論と論評（グループ3） 第5回 先行研究に学ぶ 第6回 研究課題と焦点化のヒント 第7回 研究の意義を考える～研究に求められる視点 第8回 研究とは何か～研究に必要な枠組みとフィールド 第9回 研究方法～研究に必要な方法論と手順、留意点 第10回 文献を読みこむ・要約する～発題（グループ1） 第11回 文献を読みこむ・要約する～発題（グループ2） 第12回 文献を読みこむ・要約する～発題（グループ3） 第13回 研究課題の焦点化の発想と研究方法 第14回 研究計画をめぐるディスカッション 第15回 まとめとレポート提出・シェアリング		
テキスト	開講時に示すか、受講生とともに選定して使用する。	参考文献	必要に応じ個別に、あるいは受講生全体に、参考資料とともに紹介する。
評価方法	平常点・授業参加態度:50% レポート提出課題:50%		

子どもと表現		後期 2 単位	3年
保育実践における表現（総合的芸術表現）の在り方。		吉仲 淳（よしなか あつし）	
授業の到達目標及びテーマ	「保育は芸術なり」とも言われるが、子どもの日常そのものが芸術として捉えることができる。その子どもの生きる環境において幾重にもなった関係の中で繰り広げられる表現そのものが子どもの存在観やその宇宙を形成する。本講座では、人間としてまた保育する立場としてこれらの事柄を探索し、本来持つ根源的欲求としての表現の在り方を見つめな		
授業の概要	テーマにしたがって保育実践でのエピソードなどを用いて進める。各単元での意見や考察を振り返りとして小レポートを提出する。なお保育だけに偏ることなく、今日の芸術表現にも焦点を当て、表現本来の意義を探る。講義形式で進められるが、「表現」という領域をテーマとするため、演習的な要素も導入し、表現世界を体感する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 他 第2回 子どもの世界と表現 第3回 環境と音 その表現1：秋の歌 第4回 環境と音 その表現2：サウンドスケープ 第5回 芸術表現とその教育 第6回 海外の表現教育について 第7回 芸術表現と身体の知：音からのアプローチ 第8回 芸術表現と身体の知：絵本を用いて 第9回 演習 1（制作） 第10回 演習 2（発表） 第11回 文化とその表現 第12回 文化とその表現 プレゼンテーション1 第13回 文化とその表現 プレゼンテーション2 第14回 まとめ 第15回 ディスカッション：課題レポートをもとに		
テキスト	『子どもと表現』浅見均編著（日本文教出版）	参考文献	授業時間内で紹介する。
評価方法	レポート課題:40% コメント等の提出物:30% 取り組みや発言など:30%		

音楽総合表現		後期 2 単位	3年
THE SOUND EXPLORER:実験的音(音楽)表現とその実践		吉仲 淳(よしなか あつし)	
授業の到達目標 及びテーマ	オーセンティックなノーテーションを用いる音楽のみならず環境音などの生活に溢れている音や身体の動きや状態などにも注目し様々な音に対する表現の可能性を探求する。そこから見える芸術表現領域における最重要課題の発見(音楽テクニクやプラクティスの所在など)をテーマとする。それをもとに自らの音楽観の再構築を目指すこと。		
授業の概要	講義と実技の両面から進める。聴覚(Aural-Skill)が主体となる音楽的な材料だけでなく筋肉組織での音楽記憶(Musical Muscular-Memory)などの芸術表現における身体知(Kinesthetic-Skill)や空間の感覚(Spatial-Skill)などの間主観的共通感覚的な材料を検討し、聴覚だけに頼ることのない音の聴取(The Second Auditory Senses)を考え		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 他 第2回 音の自分史 第3回 音の自分史 その2 第4回 音環境 第5回 音環境 その2 第6回 音環境のノーテーション化 第7回 音にならない世界の音 第8回 Graphic Notation 第9回 Graphic Notation 2: モーション化 第10回 作曲とインプロビゼーション 第11回 作曲とインプロビゼーション 2 第12回 子どものための作曲法 第13回 レポート課題および作品のデザイン発表 第14回 プレゼンテーション 第15回 プレゼンテーション 2 および総括		
テキスト	マリー・シェーファー著『音さがしの本』(春秋社)	参考文献	マリー・シェーファー著『サウンド・エデュケーション』(春秋社)ほか
評価方法	積極的に関わる姿勢:50% 提出物その他:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
子どもに関わる音楽分野に関する研究		渡辺 善忠(わたなべ よしただ)	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の専門的な研究を行います。最終年度は、制作、論文ともオリジナルな視点で研究を深めることを目標とします。実習での学びも含めて、幼稚園、保育園、福祉施設へ生かせるように研究を具体的に展開させることを願っています。		
授業の概要	テーマを定めて個別に研究を進めます。テーマが絞りこめない場合は、グループで基礎文献を読みながらテーマを考えつつ研究を進めます。		
授業計画	【前期】 第1回 研究テーマの相談① 第2回 研究文献の購読① 第3回 研究文献の購読② 第4回 研究文献の購読③ 第5回 研究文献の購読④ 第6回 研究文献の購読⑤ 第7回 研究テーマの相談② 第8回 発表・レポートの準備① 第9回 発表・レポートの準備② 第10回 発表・レポートの準備③ 第11回 発表・レポートの準備④ 第12回 発表・レポートの準備⑤ 第13回 発表・レポートの作成① 第14回 発表・レポートの作成② 第15回 発表・レポートの提出		
テキスト	授業時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
子どもに関わる音楽についての基礎的な研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の基礎的な研究を行いません。本年度は音楽の基本的な内容を学びます。制作発表・論文とも、半期ごとにレポートや制作で研究をまとめる機会を設けて、一年間で研究の基礎的な能力を養うように学びを進めます。		
授業の概要	受講者と私の発表形式で進めます。子どもと音楽に関する音楽の基礎的な文献を読みつつ、個々の研究テーマを考える予定です。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンスと研究計画の相談 第2回 基礎文献講読①（渡辺が担当） 第3回 基礎文献講読②（学生が担当） 第4回 基礎文献講読③（学生が担当） 第5回 基礎文献講読④（学生が担当） 第6回 基礎文献講読⑤（学生が担当） 第7回 研究テーマの相談① 第8回 基礎文献講読⑥（学生が担当） 第9回 基礎文献講読⑦（学生が担当） 第10回 基礎文献講読⑧（学生が担当） 第11回 基礎文献講読⑨（学生が担当） 第12回 基礎文献講読⑩（学生が担当） 第13回 研究テーマの相談② 第14回 前期のまとめとレポートや制作の相談 第15回 夏休みと後期の研究計画の相談		
テキスト	開講時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
子どもに関わる音楽についての研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の基礎的な研究を発展させます。後期は前期で学んだ基礎的な内容を土台として各自のテーマについて学びを展開致します。制作発表・論文とも、年度末に研究をまとめる機会を設けることを目標に研究を進めます。		
授業の概要	個人でテーマを定めて個別に研究を進めます。テーマが絞りこめない場合は、グループで音楽に関わる文献を読みながら各自のテーマを考えつつ研究を進めます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 研究計画の相談 第2回 研究発表① 第3回 研究発表② 第4回 研究発表③ 第5回 研究発表④ 第6回 研究発表⑤ 第7回 中間発表 第8回 研究の個別指導① 第9回 研究の個別指導② 第10回 研究の個別指導③ 第11回 研究の個別指導④ 第12回 研究の個別指導⑤ 第13回 論文・製作発表の準備① 第14回 論文・製作発表の準備② 第15回 論文・製作発表		
テキスト	授業時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
子どもに関わる音楽分野に関する研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の研究をさらに深めます。後期は、グループ研究や個々の研究を中心として学びを進めます。将来の仕事につながる内容を実践的に学ぶと共に、他の授業の内容も合わせて総合的な視点で研究を深めることを目標とします。		
授業の概要	個人やグループのテーマごとに論文や制作発表の準備を進めます。ゼミでの研究だけにとどまらず、3年間の学びをしめくり、卒業後も研究を続けることを目標に研究を展開したいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 研究の個別指導① 第2回 研究の個別指導② 第3回 研究の個別指導③ 第4回 研究の個別指導④ 第5回 研究の個別指導⑤ 第6回 研究の個別指導⑥ 第7回 中間発表 第8回 論文・製作発表の準備① 第9回 論文・製作発表の準備② 第10回 論文・製作発表の準備③ 第11回 論文・製作発表の準備④ 第12回 論文・製作発表の準備⑤ 第13回 論文・製作発表のリハーサル① 第14回 論文・製作発表のリハーサル② 第15回 論文・製作発表		
テキスト	授業中に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% 論文か制作発表:50%		

保育所保育研究		前期 2 単位	3年
保育所保育の理解のために		和田 秀一（わだ しゅういち）	
授業の到達目標及びテーマ	子ども理解に大切な「遊び」と「内面の成長」を中心に学びながら、大人の役割と保育者としての成長についても理解する。		
授業の概要	テーマに沿いながら、ひとりひとりが考え、自分の意見を持ちそれを互いに出し合うことによってテーマの理解を深めていく。具体的な事例などを通して、子ども理解の深さと多面性についても学んでいく。子どもの内面の世界の豊かさを知ることによって、保育に携わる者としての基礎的な力をつけていく。		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに・保育者としての経験から子どもを思う 第2回 園長としての経験を通してみた保育園について 第3回 保育所の子どもの様子と保育者の姿 第4回 乳児期のひととの関わり 第5回 幼児期のひととの関わり 第6回 乳児期の生活の営み 第7回 幼児期の生活の営み 第8回 乳児期の遊び 第9回 幼児期の遊びと活動 第10回 子どもと食について 第11回 保護者との関係について 第12回 地域と子育て支援について 第13回 あらためて子どもについて問う 第14回 保育者の喜びと保育者としての成長 第15回 まとめ		
テキスト	その都度、プリントを用意します。	参考文献	随時紹介。
評価方法	授業への積極性:40% ミニレポート:30% レポート:30%		

キリスト教学Ⅰ		前期 2 単位	1年
聖書の構造と信仰の理解のために		及川 信 (おいかわ しん)	
授業の到達目標 及びテーマ	旧約聖書の天地創造物語、原初物語を通して創造と墮罪の関係を理解する。その上で、イエス・キリストの誕生とその生涯（癒し、十字架・復活）を学ぶ。		
授業の概要	毎回『聖書』を読みつつ、そこに記されている内容を深く吟味していく。毎回、授業感想レポート書いてもらう。時折、映像を見つつ共に考える。		
授業計画	【前期】 第1回 天地創造 第2回 人間の創造 第3回 エデンの園の物語 1 第4回 エデンの園の物語 2 第5回 エデン東の物語 第6回 エデン東の物語 第7回 十戒 第8回 イエス・キリストの誕生 第9回 イエス・キリストの業・盲人の癒し 第10回 イエス・キリストの業・盲人の癒し 第11回 イエス・キリストの業・死人の復活 第12回 イエス・キリストの業・死人の復活 第13回 イエス・キリストの祈り（主の祈り） 第14回 イエス・キリストの十字架 第15回 イエス・キリストの復活		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）『アダムとエバ物語・説教と黙想』（及川信著・教文館）『盲人の癒し・死人の復活』（及川信著・一麦出	参考文献	特になし
評価方法	授業感想レポート:40% 試験:40% キャンパス礼拝出席:20%		

キリスト教学Ⅰ		前期 2 単位	1年
聖書に親しむ—キリスト教入門—		清弘 剛生 (きよひろ たかお)	
授業の到達目標 及びテーマ	聖書のいくつかの物語を実際に読み、その意味するところを学ぶことによって、聖書全体に親しみ、自ら楽しみながら聖書を読んで味わうことができるようになる。また、それぞれの聖書箇所やいくつかの具体的なテーマを足がかりに、キリスト教の基礎を学び理解する。		
授業の概要	旧約聖書、新約聖書からそれぞれ五つの物語を取り上げ、その全体もしくは一部を実際に読み進めながら、そこに書かれている一つ一つの事柄が今日の私たちにとっていかに重要な意味を持っているかを学ぶ。さらに三回の特別講義においては、今後直面するであろう人生の様々な場面を取り上げ、聖書を開きながらその時々課題について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 旧約聖書に親しむ (1) 「天地創造物語」 第3回 旧約聖書に親しむ (2) 「エデンの園の物語」 第4回 旧約聖書に親しむ (3) 「アブラハムの物語」 第5回 旧約聖書に親しむ (4) 「エジプト脱出の物語」 第6回 旧約聖書に親しむ (5) 「ダビデ王の物語」 第7回 特別講義 (1) 「恋愛と結婚」 第8回 新約聖書に親しむ (1) 「イエスと出会った人々」 第9回 新約聖書に親しむ (2) 「イエスのたとえ話」 第10回 新約聖書に親しむ (3) 「イエスの教えた祈りの世界」 第11回 新約聖書に親しむ (4) 「イエスの処刑と復活」 第12回 新約聖書に親しむ (5) 「はじめの頃の教会」 第13回 特別講義 (2) 「仕事・病気・老い」 第14回 特別講義 (3) 「死と葬儀」 第15回 まとめ		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	講義の中で指示
評価方法	平常点:40% 中間レポート:20% 期末レポート:20% チャペルレポート:20%		

キリスト教学 I		前期 2 単位	1年
キリスト教と現代世界		佐久本 正志 (さくもと まさし)	
授業の到達目標 及びテーマ	西欧を含めた現代世界を理解するためには、その源泉のひとつであるキリスト教の理解が必要である。そして、その根幹をなす聖書の研究と教会の歴史を含めたキリスト教の歴史的展開の把握が肝要となる。		
授業の概要	聖書や資料を読み、聖書の言葉が現代に生きる私たちにとって、どのような行き方を提示しているかを考えながら、考える力、表現する力を養うことをめざしたい。授業レポートやチャペルレポートを書き、提出してもらいます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 天地創造物語 第 2回 出エジプトからカナン定着まで 第 3回 預言者 第 4回 イエスと神の国 第 5回 十字架と復活 第 6回 イエスと弟子たち 第 7回 キリスト教の成立と聖書聖典化 第 8回 初代教会 第 9回 宗教改革 第 10回 教派の出現 第 11回 アメリカ大陸のキリスト教 第 12回 キリスト教と日本 第 13回 キリスト教の暦と行事 第 14回 諸宗教との対話 第 15回 前期のまとめ		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	レポート:30% 試験:25% その他:45%		

キリスト教学 I		前期 2 単位	1年
聖書とキリスト教の基礎		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教の由来、イエス・キリストの存在と教え、聖書を通して見られる神、そして、キリスト教信仰の内容についての基本的なことが理解出来るようになることを目指します。		
授業の概要	毎回クリスチャンミュージック紹介から始まります。ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の講義に関するミニクイズを行います。それらは中間と期末テストの基礎となります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 コース紹介 第 2回 カルト 第 3回 新約聖書の紹介 第 4回 ジーザス 第 5回 イエスの名 第 6回 イエスの宣教 第 7回 イエスの苦しみ 第 8回 中間テスト 第 9回 旧約聖書の紹介 第 10回 モーゼ 第 11回 旧約聖書の内容 第 12回 旧約聖書のテーマ 第 13回 聖書の連続性 第 14回 クリスマン信仰の核 第 15回 特講		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	必要に応じ、随時紹介していく
評価方法	平常点:30% レポート:20% 中間テスト:25% 期末テスト:25%		

キリスト教学Ⅰ	前期 2 単位	1年
キリスト教学Ⅰ	宍戸 基男（ししど もとお）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>○青山学院の建学の精神であるキリスト教信仰の大筋を理解する。 ○キリスト教の歴史、青山学院の歴史、聖書の内容を理解し、キリスト教信仰が現代に生きていけることがわかる。 ○人前に出て自分の意見や学んだことを発表することができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>キリスト教の歴史の具体的な発展として、現在の日本にどのような教会や学校や病院や施設が存在しているかを知る。そこから逆にキリスト教の歴史をさかのぼっていくと、その根源に聖書があることがわかる。その聖書の中心にいるのが、イエス・キリストである。聖書は世界中の多くの人々に読まれ、その内容が語られ、伝えられてきたことにより、時代と場所を越えて普遍的な影響力を与えてきた。</p> <p>歴史の中のキリスト教と音楽や美術、教育や政治・経済、道徳等の具体的な姿に触れながら、その中核にある聖書の神観、人間観、自然観、に迫っていく。苦悩する人間存在の根底に語りかけてくる聖書の言葉に出会っていくことが授業の根底に流れている通奏低音である。</p> <p>また自分の学んだことをプレゼンテーションすることで、自分の理解が明確になるので、その練習をしていく。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第 1回 オリエンテーション。カルトについての注意。 第 2回 授業課題の各項目の説明と仮登録。 第 3回 青学の歴史 キャンパス内探訪(代表的な史跡)+図書館ガイダンス (PCの使い方) 第 4回 キリスト教史の概観 (ローマ・カトリック、ギリシア正教、聖公会、プロテスタント諸教会) 第 5回 キリスト教と諸分野 (音楽、美術、教育、政治、経済、道徳)との関わり。 第 6回 聖書は人間の現実についてどう語っているのか。(1)なぜ人は人を殺してはならないのか。 第 7回 (2)なぜ人は姦淫してはならないのか。 第 8回 学生プレゼンテーション (1回目) 第 9回 (3)聖書は正義についてどう語っているか。 第10回 学生プレゼンテーション (2回目) 第11回 (4)聖書は自然についてどう語っているか。震災をどう受け止めるべきか。 第12回 学生プレゼンテーション (3回目) 第13回 学生プレゼンテーション (4回目) 第14回 学生プレゼンテーション (5回目) 第15回 まとめ</p> <p>【テキスト】</p> <p>新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』(日本聖書協会)</p> <p>【参考文献】</p> <p>『キーワードでたどるキリスト教の歴史』林信孝 日本キリスト教団出版局、 『聖書』船本弘毅 青春出版社 『幸いへの招き』一山上の説教に学ぶー齊藤正彦 新教出版社 『倫理の探索』関根清三 中公新書 その他随時紹介する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>1. 授業感想文(注:出席カード、3分の2以上) 25% 2. プレゼンテーション20%。 3. 期末レポート30% 4. 礼拝参加レポート(5回)15% 5. 日めくりカレンダー製作10%</p>		

キリスト教学Ⅰ	前期 2 単位	1年
キリスト教概論-その思想と自分との接点-		
<p><授業の到達目標及びテーマ> 現代のこの日本に生きる私たちが、キリスト教を意識する機会は少ない。 しかし確かに私たちは、その影響と歴史の中を生活している。 イエス・キリストという人物、2000年間キリスト教会・社会が大切にしてきたものを知り、現代社会に生きる私たちの明日に活かそう。</p> <p><授業の概要> 教員からの一方向だけの講義ではなく、双方向に求め応えあう授業の時を持ちたい。無論、新たな知識としての「キリスト教学」も必要だが、新たな感性、新たな生き方に出会う時としたい。そのためにも、できるだけ今を生きる若者の視点からキリスト教との接点を見つめたい。</p> <p><授業計画> 【前期】 第 1回 オリエンテーション。-青山学院とキリスト教- 第 2回 信仰とは、宗教とはなにか。-カルトを題材に- 第 3回 聖書とは-総論と私たちとの接点- 第 4回 旧約聖書①：天地創造・人間創造・エデンの園での原罪・罪の歴史 第 5回 旧約聖書②：アブラハム以後からエジプト脱出。栄華と衰退・離散、そして現代へ 第 6回 イエス・キリストとは-総論：全てはこの人から始まった- 第 7回 新約聖書①：4つの福音書に描かれていること 第 8回 新約聖書②：使徒らの働きとその手紙 第 9回 キリスト教会とは-教派の歴史とその差異、私たちとの接点- 第10回 キリスト教と社会-戦争・犯罪・死刑・差別・貧困・災害- 第11回 キリスト教と社会-医療・福祉・教育・ボランティア- 第12回 キリスト教と文化-音楽・美術・芸術・映画・文学・ファッション- 第13回 キリスト教と人間-恋愛と結婚・家庭・新しい命・老いと病・そして葬儀- 第14回 学生グループ・プレゼンテーション① 第15回 学生グループ・プレゼンテーション②</p> <p><テキスト> 新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）</p> <p><参考文献> 講義の中でお伝えする。</p> <p><評価方法> 平常点:40% チャペルレポート:20% 小レポート:20% 期末レポート:20%</p>		

キリスト教学Ⅰ		前期 2 単位	1年
聖書の世界		増田 将平 (ますだ しょうへい)	
授業の到達目標 及びテーマ	聖書物語からキリスト教の本質を学び、聖書を手がかりにしてこの時代を生きる力を養うことを目指す。		
授業の概要	実際に聖書そのものを開いて読み進めながら学び、キリスト教における「愛」とは何かを考察する。内容に応じて関連した音楽、映画、文学を紹介する。期末にはレポートを提出する。さらに学校あるいはキリスト教会の礼拝に5回以上出席してレポートを提出する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 天地創造 第3回 エデンの園、楽園喪失 第4回 カインとアベル、洪水物語、バベルの塔 第5回 アブラハム 第6回 イサクとヤコブ 第7回 ヤコブとその家族 第8回 ヨセフ物語(誕生から) 第9回 ヨセフ物語(青年期) 第10回 モーセ 第11回 出エジプト(十戒) 第12回 イエスの生涯 第13回 イエスの教え 第14回 愛について～C. S. ルイスの『四つの愛』から 第15回 愛について～聖書における愛		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』(日本聖書協会)	参考文献	講義において適宜提示する。
評価方法	積極的な授業態度:50% 期末レポート:30% 礼拝出席レポート:20%		

キリスト教学Ⅰ		前期 2 単位	1年
キリスト教の中心は何なのかを学ぶ。ただ教理的にその課題に迫るのではなく人生論的視点を大切にしつつ理解できるようにする。		山北 宣久 (やまきた のぶひさ)	
授業の到達目標 及びテーマ	15のテーマは古今東西で扱われ今日に至っている。それらの拡がりや深さを思いつつ、このテーマ一つ一つに向かって行きたい。偏見や独断を離れ、しかしキリスト教世界でどのように考えてきたのか様々な人々の考え方や言葉をも参考に今後の人生の歩みに資する授業としたい。		
授業の概要	一応講義のかたちをとる。そしてノートに書いてもらう言葉を次々と紹介していく。あとで「ああ、あの時の言葉は今にして実感できる」と追体験し共感することができるように。レジュメを用意する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 人生の意味(Ⅰ) 人が生きる 人を生かす これぞ人生 第2回 人生の意味(Ⅱ) 人生あれこれ 第3回 聖書をめぐって 第4回 イエス・キリストをめぐって 第5回 三位一体をめぐって 第6回 罪と赦しをめぐって 第7回 信仰をめぐって 第8回 いのちの二重性 第9回 死をめぐって 第10回 愛をめぐって アガペーとエロース 第11回 人間をめぐって 第12回 つきまとう二つのism 第13回 人間関係をめぐって 第14回 幸福をめぐって 第15回 地の塩、世の光をめぐって		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』(日本聖書協会)	参考文献	山北宣久著『おもしろキリスト教Q&A77』(教文館) 山北宣久著『おもしろキリスト教質問箱 [Q&A
評価方法	試験:60% レポート:40%		

キリスト教学Ⅰ		前期 2 単位	1年
キリスト教概論－神の前に真実に生きる		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	青山学院の教育の基礎であるキリスト教信仰について学び、神の前に真実に生きる意味を考える。聖書、キリスト教会の歴史・文化、信仰を持って生きた人々の人生を知る事をおして、神・隣人・自己との出会いを経験し、学生生活と人生の土台を築き、生きる勇気を獲得する事を目標とする。		
授業の概要	講義が中心となるが、DVD・音楽観賞、礼拝出席など様々な角度、機会からキリスト教に出会うことを目指す。		
授業計画	【前期】 第1回 人は何を信じて生きるのか 第2回 キリスト教会とは何か 第3回 教会の歩み 第4回 青山学院で学ぶ意味 第5回 旧約聖書－創造・世界 第6回 旧約聖書－歴史・神と人間 第7回 新約聖書－イエス・キリスト 第8回 新約聖書－使徒の働き 第9回 文学からみるキリスト教 第10回 音楽からみるキリスト教 第11回 映画からみるキリスト教 第12回 聖書における人間理解 第13回 聖書における悪の問題 第14回 良く生きることは良く死ぬこと 第15回 死と復活		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）吉岡康子『旧約聖書の人間模様』（日本キリスト教団出版局）	参考文献	授業の中で指示
評価方法	平常点:40% チャペルレポート:15% 小レポート:15% 期末レポート:30%		

キリスト教学ⅡA（キリスト教死生学）		後期 2 単位	2年
キリスト教死生学		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「メント・モリ」－汝の死を憶えよ－私たちの人生にとって確実かつ最大の課題は、家族をはじめとした親しい人々の「おくりびと」とならざるを得ないこと、そしていつか必ず自分自身の死と向き合わなくてはならないことです。キリスト教の立場から死の諸問題を考察し、死を見つめる心、姿勢を整えることが目標です。		
授業の概要	講義のみならず、ワークショップやディスカッション、ゲストスピーカーとの出会い等をおして学びを深めます。		
授業計画	【後期】 第1回 良く生きることはよく死ぬこと 第2回 日本における死－死のタブー化 第3回 日本における死－「おくりびと」が語ること 第4回 旧約聖書における生と死－アブラハム・モーセ・ダビデ 第5回 旧約聖書における生と死－預言者たち 第6回 新約聖書における生と死－イエス・キリスト 第7回 新約聖書における生と死－使徒たちの死生観 第8回 文学における生と死 第9回 音楽における生と死 第10回 映画における生と死 第11回 「ハンセン病」における生と死 第12回 グリーフワーク 第13回 死んだらどこに行くのか 第14回 生前準備－私らしい葬儀とは 第15回 死は終わりではない		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）吉岡康子『旧約聖書の人間模様』（日本キリスト教団出版局）	参考文献	授業中に指示
評価方法	授業への参加態度・授業感想文:50% 期末レポート:50%		

キリスト教学ⅡB（キリスト教と平和）		後期 2 単位	2年
平和と修復的司法について聖書の教えを学ぶ		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）	
授業の到達目標 及びテーマ	このコースでは、講義と討論をとおして、ピースメーカーの聖書的、神学的、歴史的根幹を探求する。特に、非暴力的な紛争解決について考察する。キリスト教を紛争変遷の源とする立場から、国際的社会的紛争及び、人的葛藤の解決の方法を学習し、様々な紛争の原因の基礎知識を習得し、戦争なき解決、平和活動の道を見出すことを目指す。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始める。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ワーシップ等）の一曲を聞く。続いて授業計画に基づいて映像講義を行う。最後の10分程度にその日の話に関する小テストする。それらは中間テストや期末テストの基礎となる。		
授業計画	【後期】 第1回 孤独 第2回 帰属感 第3回 排除と一体性 第4回 自由への道 第5回 許し 第6回 イエスと非暴力 第7回 キリスト教と平和の道 第8回 暴力による贖罪の神話 第9回 ガンディーと人間連帯 第10回 修復的司法とは 第11回 修復の倫理 第12回 修復活動 第13回 因果応報と修復的司法の違い 第14回 平和と実現する 第15回 まとめ		
テキスト	「人間になる」ジャン・パニエ(新教出版社) 「イエスと非暴力, 第三の道」ウALTER・ウイグ(新教出版社) 「修復的司法とは何か」ハワード・ゼア(新泉社)	参考文献	授業時に指示
評価方法	授業への参加姿勢:30% 小レポート:20% 中間テスト:25% 期末テスト:25%		

キリスト教学ⅡC（キリスト教と現代）		後期 2 単位	2年
キリスト教と現代		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちが生きるうえで向き合わざるを得ない諸問題についてキリスト教の立場から考察することをとおし、自分自身と隣人と出会い、自由で真に豊かな人生を切り開く力を得ることが目的。		
授業の概要	講義のみならず、ワークショップやディスカッション、ゲストスピーカーとの出会い等をおして学びを深めます。		
授業計画	【後期】 第1回 「3.11」サバイバーとして生きる 第2回 いのちは誰のものか①—生きる意味 第3回 いのちは誰のものか②—なぜ殺してはいけないのか 第4回 男と女 第5回 女と男 第6回 家族をめぐる問題①—親と子 第7回 家族をめぐる問題②—危機と再生 第8回 「9.11」の問いかけ 第9回 神と金 第10回 何のために働くのか①—召命としての職業 第11回 何のために働くのか②—「人間力」をつけるために 第12回 日本人の過ち①—ハンセン病者の戦い 第13回 日本人の過ち②—「原発問題」をめぐる 第14回 死と向き合う 第15回 死を超えるもの		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	授業中に指示
評価方法	授業への参加態度・授業感想文:50% 期末レポート:50%		

キリスト教学ⅡD（キリスト教と精神医学）		後期 2 単位	2年
キリスト教的理念に基づく人生		ジャンセン ウェイン（JANSEN, W. A.）	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教信仰をもつ人々の魂的世界について知り、そうした人々のニーズに応えていくことを目指します。とりわけ子ども達との対応の仕方や教育の方法について、キリスト教教育は一般の教育とどのように異なるのかをともに考察していきます。		
授業の概要	おもにレクチャーやケース・スタディーを通して、キリスト教と社会問題との接点を指摘し、信仰の働きを考える。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 神の存在 第3回 自らの存在 第4回 神義論 第5回 罪意識、罪悪感、鬱 第6回 自殺 第7回 中間評価 第8回 DV（家庭内暴力） 第9回 ひきこもり問題 第10回 人格障害 第11回 薬物乱用、依存症 第12回 精神修養 第13回 危機管理 第14回 まとめ 第15回 期末評価		
テキスト	『聖書』、他に必要に応じて教室でプリントを配布する。	参考文献	ヘンリ・J・M・ナウウェン『傷ついた癒し人』（日本キリスト教団出版局）
評価方法	小感想文:30% ディスカッション参加:30% レポートと発表:40%		

キリスト教学ⅡE（キリスト教美術）		後期 2 単位	2年
キリスト教美術・システィーナ礼拝堂のミケランジェロを中心に。		野村 祐之（のむら ゆうし）	
授業の到達目標 及びテーマ	ミケランジェロがシスティーナ礼拝堂天井画を完成させて500年、秋にはミケランジェロ展も開かれます。キリスト教美術史全体の流れをふまえつつ、ルネッサンス美術の到達点でもあるシスティーナ礼拝堂のミケランジェロ作品を詳細に見ることを通して、キリスト教美術の役割と意味を理解し、美術鑑賞の力を深めます。		
授業の概要	前半と後半にわけ、前半ではヴァチカンのシスティーナ礼拝堂に集中し、ミケランジェロの作品である天井画と祭壇壁画の詳細な検討と理解につとめます。後半はキリスト教美術の全体像を学びます。なお、秋に企画されている上野のミケランジェロ展観賞を授業の一環として予定しています。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション(教会用語です!)。キリスト教美術とは。 第2回 ヴァチカン・システィーナ礼拝堂とルネッサンス。 第3回 ミケランジェロ・生涯と信仰、芸術作品。 第4回 システィーナ礼拝堂:天井画(1)天地創造。 第5回 システィーナ礼拝堂:天井画(2)人の創造・大洪水。 第6回 システィーナ礼拝堂:最後の審判(1)審判者キリスト。 第7回 システィーナ礼拝堂:最後の審判(2)天国と地獄。 第8回 キリスト教美術の歴史:「カタコンベ」に見るその原点。 第9回 キリスト教化したローマ帝国と「バシリカ」大聖堂。 第10回 ローマ帝国の東西分裂とキリスト教美術の二大潮流。 第11回 中世:東方教会の美術、「ビザンチン」。 第12回 中世:西方教会の美術、「ロマネスク」「ゴシック」。 第13回 「ルネッサンス」と「宗教改革」:近現代のあけぼの。 第14回 近現代の美術・建築史と青山学院キャンパスの礼拝堂。 第15回 まとめ・信仰告白としてのキリスト教美術と現代。		
テキスト	特定のテキストはありません。毎回プリント資料を配布します。	参考文献	それぞれのテーマ、必要に応じて紹介、プリント配布します。
評価方法	毎回、応答シート提出:50% 教会堂、聖堂訪問報告:20% 美術作品研究レポート:30%		

キリスト教学ⅡF（キリスト教音楽A）		後期 2 単位	2年
「ことばの世界」の他に「音のせかい」がある。キリスト教はどちらの世界とも密接に関わる。		菊地 純子（きくち じゅんこ）	
授業の到達目標及びテーマ	キリスト教と「音の世界」の関係に光をあてる。日本では音楽を邦楽と洋楽に分けるが、洋楽のルーツはキリスト教の礼拝であると言って良い。古代オリエント時代から現代まで歴史を追って調べながら、他の学生の発表や講義を聞きながら学んでいくと、新しい「音の世界」の理解が起こる。そして同時に「キリスト教世界」を新たに発見する。		
授業の概要	古代オリエント時代すなわち聖書の音楽シーンの調査からはじまり、ヨーロッパ中世の西方キリスト教会の音楽、ルネッサンスやバロック時代の音楽とキリスト教、近代、所謂クラシック音楽とキリスト教そして現代の音楽とキリスト教の関わりについて、参加者の発表と講義とで学んでいく。楽器やCD、DVDなどで実際に音を聞きながら学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教と音楽概論 第3回 学生担当：グループ1：古代オリエント時代の音楽 第4回 講義：古代オリエント時代の音楽 第5回 学生担当：グループ2：中世西方キリスト教会の音楽 第6回 講義：中世西方キリスト教会の音楽 第7回 学生担当：グループ3：ルネッサンスの音楽とキリスト教 第8回 講義：ルネッサンス時代の音楽とキリスト教 第9回 学生担当：グループ4：バロック時代の音楽とキリスト教 第10回 講義：バロック時代の音楽とキリスト教 第11回 学生担当：グループ5：近代の音楽とキリスト教 第12回 講義：近代の音楽とキリスト教 第13回 学生担当：グループ6：現代の音楽とキリスト教 第14回 講義：現代の音楽とキリスト教 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。	参考文献	オリエンテーション時にテーマごとに示し、また講義で補足する。
評価方法	全テーマごとの感想文：20% 自分の選択テーマ発表：20% 発表時のメディア工夫：20% 礼拝音楽体験学習：20% 期末レポート：20%		

キリスト教学ⅡG（キリスト教教育）		後期 2 単位	2年
キリスト教から見た教育の本質、基礎、目的を探る。		古谷 正仁（ふるや まさよし）	
授業の到達目標及びテーマ	教育とは元来、社会的な要請に基づいて営まれるが、キリスト教教育は、それとは別にキリスト教的人間観の形成を目指してなされるものである。この授業においては、学生が①キリスト教教育とは何か。②その目指すもの何か。③その実践に対して大きな責任を担う教師は、どのような役割を果たすべきかの3つの観点から学び、担い手としての基礎力		
授業の概要	この科目において学生は、①キリスト教教育とは何か。②その目指すもの何か。③その教育において教師が果たすべき課題は何か学ぶことが求められる。そこで、現代日本において問われている「教育の問題」に焦点を当てつつ、キリスト教教育理論を学び、それを通して、この問題の解決への糸口共に考えたい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション。教育における共同性の回復について。 第2回 知識の暴力。知識の起源と行き着く先。 第3回 祈りのある教育。知識と学習者の人格的關係。 第4回 修道院教育の目指したもの。知る者と知られるものの本質。 第5回 教育の客観主義の問題性。隠されているカリキュラム。 第6回 今日の教育の原点。観察することと関係すること。 第7回 真理の共同性。真理の相互性。 第8回 真理を人格的に学ぶと言うこと。真理と倫理。 第9回 教育の場の開放性、境界性、受容性。 第10回 教室を実践練習の場とすること。コンセンサスによって学ぶ。 第11回 題材が発する声。題材と教師。 第12回 求められる教師像（1）謙遜と信念。 第13回 求められる教師像（2）畏敬の念を持つ。 第14回 求められる教師像（3）学ぶ教師。 第15回 求められる教師像（4）見守る教師。		
テキスト	P. J. パーマー（小見のぞみ、原 真和訳）『教育のスピリチュアリティ』日本キリスト教団出版局（2200円＋税）	参考文献	未定。
評価方法	小レポート（作文）：60% 試験：40%		

キリスト教学ⅡH（聖書の女性）		後期 2 単位	2年
聖書は人間とは、女性とは誰かを私達に語る。異なる人生の価値観を示す聖書を通して、日本人の世界観が語る女性と聖書が語る女性を対話させつつ深く考察し、女性であることの意味を考え		平岡 仁子（ひらおか ひろこ）	
授業の到達目標及びテーマ	○聖書が語る世界観とは何か。それがこの時代を生きる私達・女性とどのような関係があるのか。「女性」という言葉が持つ意味を聖書から理解する。 ○日本人が描く世界観と現代社会の関係を通して、日本人女性として生きる意味を深く考えることができるようになる		
授業の概要	聖書の様々なテキストが語る女性を日本の脈絡の中で再考し、女性である自分自身をより明らかにする。自分の知らない自分を聖書の御言葉という光の中で見つける。授業は講義と発表によって進められ、積極的な参加によって、主体的かつ実存的に理解してゆく。		
授業計画	【後期】 第1回 女から見た人間とは 創世記と雅歌 第2回 調和を壊す女 マルコ福音書と出エジプト記 第3回 世界観の逆転 マルコ福音書 第4回 「女」の意味 エレミヤ書とマタイ福音書 第5回 土俵に上がれぬ女 レビ記とマルコ福音書 第6回 かわいいと美しいの違い エステル記と箴言 第7回 男と女の出会い ヨハネ福音書 第8回 結婚のその後 ヨブ記とマタイ福音書 第9回 不倫の行方 サムエル記下とヨハネ福音書 第10回 不妊が意味すること サムエル記上とルカ福音書 第11回 女性の社会的役割 創世記とルカ福音書 第12回 聖母マリアとは誰か ルカ福音書 第13回 女性が描く世界観 雅歌 第14回 21世紀の女性たち ヨハネ福音書とマルコ福音書 第15回 まとめ		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	随時紹介する。
評価方法	授業感想文:30% 発表:30% 期末レポート:40%		

キリスト教学ⅡI（キリスト教と文化）		後期 2 単位	2年
キリスト教の歴史を文化史との関連で概説する		深井 智朗（ふかい ともあき）	
授業の到達目標及びテーマ	1) キリスト教の歴史性を理解する 2) キリスト教の歴史を文化や政治との関連で理解する 3) キリスト教の影響史を考える		
授業の概要	宗教というと、心の問題、あるいは形而上学など超越的な問題を考えてしまうことが多いが、宗教的なテキストには必ず、それを生み出した社会的なコンテキストがあり、逆にその社会的なコンテキストの形成には多くの場合宗教的なテキストが大きな影響を与えている。このコースではこの両者の相関関係に注目しながら、キリスト教の歴史を概観す		
授業計画	【後期】 第1回 講義の概要と説明 第2回 キリスト教の生みの母としてのユダヤ教 第3回 キリスト教の成立 第4回 エウセビオスの政治神学 第5回 中世モデルのキリスト教 第6回 ローロッパの古層とキリスト教の祝祭日 第7回 ルターのいわゆる「宗教改革」とその終わり方 第8回 カルヴィニズム 第9回 ビューリタニズムと17世紀のイングランドの政治 第10回 フランス革命とキリスト教 第11回 ヴィルヘルム期のドイツの政治神学 第12回 アングロ・アメリカとキリスト教 第13回 ラテン・アメリカとキリスト教 第14回 日本とキリスト教 第15回 まとめ		
テキスト	毎回講義の概要を配布する	参考文献	最初のクラスで詳細な文献表を配布する。
評価方法	授業のコメントシート:30% 読書レポート:30% 試験:40%		

キリスト教学Ⅱ J (世界のキリスト教)		後期 2 単位	2年
世界のキリスト教		荒瀬 牧彦 (あらせ まきひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○世界各地に広がったキリスト教が、それぞれの土地の環境や文化の中で発展・変質を遂げた様を観察する。○礼拝の行為や賛美歌、また主な祝祭を通して信仰を理解する。○現代社会において命と正義を脅かす諸問題に対して、キリスト教がどう教え、どう行動してきたか(してこなかったか)を検討し、それを媒介として自分の考えを形成する。		
授業の概要	教派や地域によって異なる礼拝慣習や音楽については、視聴覚素材を積極的に活用する。礼拝レポートは、礼拝からできる限り多くのものを汲み取って、それを実際の人生・生活に活かせるようにすることを目的とする。現代社会の諸課題については、各自の見解を何らかの形で発表する機会を設ける。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン キリスト教の多様な表情 第2回 正教(東方教会)の信仰 第3回 ローマ・カトリックの信仰 第4回 プロテスタントによる改革(マルチン・ルターを中心に) 第5回 キリスト教の祝祭(ケルトのキリスト教化とハロウィン) 第6回 キリスト教の祝祭(クリスマスの歴史) 第7回 キリスト教の祝祭(イースターが祝うもの) 第8回 アメリカ大陸に渡ったキリスト教(植民地支配と宣教) 第9回 M.L.キングの信仰と実践 第10回 マザー・テレサの信仰と実践 第11回 キリスト教と現代社会(1) 命の尊厳、自殺、安楽死 第12回 キリスト教と現代社会(2) 性、妊娠、出産をめぐる 第13回 キリスト教と現代社会(3) 死刑制度、環境破壊 第14回 キリスト教と現代社会(4) 戦争、貧困 第15回 キリスト教と現代社会(5) “原発”をどう考えるか		
テキスト	『聖書』 毎回必ず持参すること	参考文献	教室で随時紹介する。
評価方法	授業への応答ペーパー:50% 発表:25% 礼拝レポート:25%		

キリスト教学Ⅱ K (キリスト教と文学)		後期 2 単位	2年
キリスト教と文学		樋渡 さゆり (ひわたし さゆり)	
授業の到達目標 及びテーマ	文学を通して、私たちの生活の根底にキリスト教思想があることを理解する。英文学にあらわれる風景・自然・言語をテーマとし、神話の世界と自然科学、絵画、造園、音楽などの多様な分野やエコロジーの思想、環境保全活動が有機的につながり、展開していることを理解する。現代社会にあって私たちはどう生きるのか、ともに考えられるようにな		
授業の概要	英文学にあらわれる風景・自然・言語をテーマとする。聖書をふくめた日本語・英語のテキスト読解、絵画や写真、DVD、CD などの視聴覚資料による理解、ポエトリー・リーディングなどの演習を交えた講義である。毎回、講義内容に関する小課題を提出し、主体的にテーマを掘り下げられるようにする。青学短大クリスマス礼拝に参加予定。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 文学とは? : 英文学の場合 第2回 秩序ある世界: 数学、音楽、詩、庭 第3回 神のみ言葉と自然科学: 虹と洪水 第4回 生と死、おとなと子ども 第5回 言語の多様性: バベルの塔 第6回 人と自然 第7回 楽園(1): 楽園のイメージ 第8回 楽園(2): 庭と風景の創造 第9回 内なる楽園からエコロジーの思想・環境保全活動へ 第10回 み言葉と音楽(1): 聖書と讃美歌 第11回 み言葉と音楽(2): クリスマス・キャロル 第12回 イギリスのクリスマス 第13回 荒地と楽園(1): 現代の荒地 第14回 荒地と楽園(2): 現代の楽園回復 第15回 まとめ: 現代社会にあって私たちはどう生きるのか?		
テキスト	青山学院指定の新共同訳聖書・中型ハンディパイプ ルを毎回持参のこと。 ほかはプリントを用いる。	参考文献	山形孝夫『図説聖書物語 旧約篇・新約篇』河出書 房新社。小池滋・青木康編『イギリス史重要人物1 01』新書館。ほか
評価方法	授業参加・小課題提出:50% 期末試験:50%		

キリスト教学ⅡL（聖書の間人論・新約）		後期 2 単位	2年
イエスの教えた「主の祈り」を通し、愛すること、生きること、性役割について考え、発信してみよう。		塩谷 直也（しおたに なおや）	
授業の到達目標 及びテーマ	「女らしさ」を期待され、「良い子」であることを求められ、いつも人前で演じていた私でした。しかし、そんな演技は神の前では不要。祈りとは、神の前で演技をやめる行為。「主の祈り」を学びながら、（周囲の期待にこたえる）女らしい自分になるのではなく（神の前に立つ）本来の自分になっていく「きっかけ」をつかみましょう。		
授業の概要	数々の聖書物語を取り上げ、それが私たちの課題とどうリンクするか問いつつ、そこで得たものを最終エッセイ（期末テスト）に反映していきます。なお聖書の不携帯は減点します。ほとんど毎回小テストを行います。選抜者にはプレゼンテーションも課せられます。常に予習、復習が必要なクラスです。以上を覚悟して履修登録をしてください。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン～祈りとは何か 第2回 イエスと祈り 第3回 「主の祈り」概説 第4回 天の父～男と女、性って何だろう？ 第5回 み名をあげめさせたまえ～名前の大切さ 第6回 み国をきたらせたまえ～天国ってどんなところ？ 第7回 プレゼンテーション① 第8回 みこころの天になるごとく～私たちの願いと神の願い 第9回 日用の糧を与えたまえ～先のことまで心配しない 第10回 我らに罪をおかす者を～許すということ 第11回 我らの罪をもゆるしたまえ～テートロVを理解しよう 第12回 我らを試みにあわせず～悪魔との付き合い方 第13回 国と力と栄とは～いつまでも続くもの 第14回 プレゼンテーション② 第15回 まとめ、質疑応答		
テキスト	「新共同訳聖書」（日本聖書協会） 「信仰生活の手引き 聖書」（塩谷直也著 日本キリスト教団出版局） 購買で購入して出席のこと	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 小テスト:40% 試験:40%		

キリスト教学ⅡM（聖書の間人論・旧約）		後期 2 単位	2年
私たちの出会い問題について聖書は何を語るだろうか。		菊地 純子（きくち じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	聖書の3/2にあたる旧約聖書は、現在からはかけ離れた古い本ではなく、守るべき規則を羅列しているのでもなく、道徳をひたすら説いてもいない。人とはどのような存在なのかを書いている。聖書がそういうものであることを確認すること、私たちが会おうさまざまな問題について熱く語りかけているその内容を理解し、自分の人間論の形成を進める。		
授業の概要	参加する学生自身の問題意識に添って進める。旧約聖書は古代オリエント世界の中で書かれたが、当時の常識（現在の常識とどこが違う？）に比べて独特のところを切り取る。新約聖書に受け継がれて行き、キリスト教会が理解しようとした、旧約聖書の語る内容を参加者が理解に努める。学生の発表と講師の講義を交互にし、対話の中で学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 授業のオリエンテーション 第2回 旧約聖書の概観についての講義 第3回 学生の中間発表：グループ1：テーマ『人のいのち』 第4回 講義：テーマ『人のいのち』 第5回 学生の中間発表：グループ2：テーマ『差別の問題』 第6回 講義：テーマ『人々の間にある違いと差別の問題』 第7回 学生の中間発表：グループ3：テーマ『どう繋がるのか』 第8回 講義：テーマ『私たちは人とどのように繋がるのか』 第9回 学生の中間発表：グループ4：テーマ『苦難や災害』 第10回 講義：テーマ『苦難や災害はどう考えるのか』 第11回 学生の中間発表：グループ5：テーマ『生きるとは』 第12回 講義：テーマ『生きるとはどういうことなのか』 第13回 学生の中間発表：グループ6：テーマ『仕事をすると』 第14回 講義：テーマ『仕事をするとということ』 第15回 まとめ		
テキスト	菊地純子『神は生きておられる』日本キリスト教会大会教育委員会	参考文献	A. ラウハウス『信じるということ』上、下巻。
評価方法	全主題の個々の感想文:20% 自分のテーマの発表:20% 中間発表時のメディア:20% 期末レポート:20% 礼拝体験学習:20%		

キリスト教学ⅡN（比較宗教論）		後期 2 単位	2年
世界の宗教についての概括的な知識を学ぶ		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）	
授業の到達目標 及びテーマ	このコースは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教等の主要な世界の宗教を調査し、様々な宗教間の類似と違いを比較、研究する。特に、各宗教の倫理を中心に学習する。各宗教が社会に与えた影響を学び、それぞれの文化と霊性について考えることを目標とする。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始める。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ワーシップ等）の一曲を聞く。続いて授業計画に基づいて映像講義を行う。最後の10分程度にその日の話に関する小テストする。それらは中間テストや期末テストの基礎となる。		
授業計画	【後期】 第1回 コース紹介 第2回 宗教の基礎 第3回 ユダヤ教 第4回 ナザレのイエス 第5回 キリスト教 第6回 ムハンマド 第7回 イスラム教 第8回 中間テスト 第9回 仏教 第10回 神道 第11回 ヒンドゥー教 第12回 ジャイナ教とシーク教 第13回 他の宗教 第14回 日本人と宗教 第15回 まとめ		
テキスト	「図解世界の宗教」 渡辺 和子	参考文献	授業時に指示
評価方法	授業への参加姿勢:30% 小レポート:20% 中間テスト:25% 期末テスト:25%		

キリスト教学ⅡO（キリスト教カウンセリング）		後期 2 単位	2年
キリスト教カウンセリングの理解のために		西田 恵一郎（にしだ けいいちろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	○自己・他者・神への理解を考え深める。○基本的なカウンセリングとコミュニケーションの技法を学び、実生活に応用できるようになる。○カウンセリング・マインドを身に付け、個々のキャリアに活かせるようにする。○カウンセリングにおいてキリスト教信仰が果たす役割を知る。○キリスト教カウンセリングの独自性を知る。		
授業の概要	ディポジション（聖書朗読と祈り）をもって授業を始める。講義の他、ディスカッション・1分間スピーチ・テーマ発表・グループ発表・事例研究・ロールプレイなどを通して互いに教え合い、学び合う。		
授業計画	【後期】 第1回 コース紹介、導入：カウンセリングとは 第2回 なぜキリスト教カウンセリングか？ 第3回 「わたしはだれ？」－自己理解 第4回 「わたしはこれ！」－自己表現 第5回 カウンセラーの仕事Ⅰ：傾聴 第6回 カウンセラーの仕事Ⅱ：共感と対決 第7回 カウンセラーの仕事Ⅲ：教育 第8回 にわかカウンセラーの危険 第9回 カウンセラーの資質Ⅰ 第10回 カウンセラーの資質Ⅱ 第11回 聖書の中のカウンセリング 第12回 カウンセリングと祈り 第13回 カウンセリングの動機：自己実現を超えて 第14回 "Wonderful Counselor" －「キリストに倣いて」－ 第15回 まとめ		
テキスト	主としてプリントを用いる	参考文献	未定。随時紹介する。
評価方法	授業感想文:30% レポート:40% プレゼンテーション:30%		

キリスト教学ⅡP（キリスト教音楽B）		後期 2 単位	2年
聖書と賛美歌（キリストの生涯と賛美歌）		飯 靖子（いい せいこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽の歴史は賛美の歴史、ともいわれます。今、私たちがつかっている賛美歌から2000年の賛美の歴史を振り返ります。そして、聖書と賛美歌の関係を考えます。		
授業の概要	まず、それぞれの家庭ではどんな宗教（風習）を守っているのでしょうか？日本ではどんな宗教が生活の中に根付いているのでしょうか？そんなことを考えながら、キリスト教のことをおもに新約聖書をよみながら、キリストの生涯を知ります。そして、おりのりの賛美歌に触れていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教の常識 第3回 日本におけるキリスト教 第4回 キリストの生涯Ⅰ キリストの誕生 第5回 キリストの生涯Ⅱ キリストの誕生 第6回 キリストの生涯Ⅲ キリストの誕生の賛美歌 第7回 賛美歌ってなに？ 第8回 キリスト教にかかわる祭り ハローウィン 第9回 キリストの生涯Ⅳ キリストの伝道の日々 第10回 青山学院の成り立ち 第11回 青山学院探検 第12回 キリストの生涯Ⅴ キリストの伝道の日々 第13回 キリストの生涯Ⅵ キリストの十字架 第14回 キリストの生涯Ⅶ キリストの十字架 第15回 キリストの十字架とその音楽		
テキスト	『聖書、讃美歌21』	参考文献	『こどもさんびか改訂版』
評価方法	我が家の宗教:15% 日本のお正月:15% ハローウィンについて:15% キリストの生涯について考えたこと:30% キリストの受難について考えたこと:25%		

キリスト教学実践A	後期集中 1 単位	1・2年
ハンセン病を生きたキリスト者に学ぶ	吉岡 康子（よしおか やすこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教実践は、青山学院教育基本方針によってあきらかとされているキリスト教信仰にもとづく本学の建学の精神を実践的・体験的に学ぶことを目標とする。キリスト教実践Aは、過酷な歴史をキリスト教信仰をもって生き抜いてきたハンセン病元患者の方々の人生と、療養所内教会の歩みを学び、今を生きる私たちが知るべきこと、伝えるべきこと、行動すべきことを出会いをとおして考え、また奉仕活動を行う。</p> <p><授業の概要> ハンセン病をめぐる諸問題の事前学習、国立療養所多摩全生園および国立ハンセン病資料館訪問、秋津キリスト教会礼拝出席および交流会、奉仕活動、振り返り学習によって構成される。</p> <p><注意事項> ①履修登録は教務課にて行うが、説明会等問い合わせは宗教活動センターが行う。 ②履修登録の時期は6月中になる予定。この点も他の授業と異なるので、各自、ポータル、掲示等で確認すること。 ③履修登録人数は、限定される。(最大10名) ④卒業年次にこの科目を履修登録する場合は、この科目以外の授業で卒業単位を満たす前提で登録すること。 ⑤その他、詳細は履修指導時に説明する。</p> <p><テキスト> 授業にて指示</p> <p><参考文献> 授業にて指示</p> <p><評価方法> 実習への参加度合い(事前・事後学習) 30% レポート 70%</p>		

キリスト教学実践B		春休集中 2 単位	1・2年
海外での奉仕体験フィリピン実習		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標及びテーマ	実習と教室での学びを組み合わせ実践的な教育である。事前学習、奉仕、レポートの三つの部分から全体のコースが構成されている。講義において基礎知識を習得し、さらに各自の具体的な計画作りの作業をととして能力を養い、海外での奉仕体験を充実した授業を目指す。		
授業の概要	フィリピンの美しい田舎の環境マニラ近郊にあるキリスト教系孤児院サマリタンズ・プレースの実習プログラムへの参加。0歳-8歳、15人程度の子どもたち、9人のスタッフ、明るくあたたかい孤児院です。安心出来るゲーテッド・コミュニティ。女性専用宿。スタッフと協力し、子どもの遊び、町づくり、いろいろな文化体験などが予定されている。		
授業計画	【後期】 第1回 事前学習① 第2回 事前学習② 第3回 事前学習③ 第4回 事前学習④ 第5回 事前学習⑤ 第6回 現地での奉仕① 第7回 現地での奉仕② 第8回 現地での奉仕③ 第9回 現地での奉仕④ 第10回 現地での奉仕⑤ 第11回 現地での奉仕⑥ 第12回 現地での奉仕⑦ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 研究発表③		
テキスト	未定。参考文献等は必要に応じ講義時に紹介します。	参考文献	授業時に指示。
評価方法	事前学習:20% 現地での奉仕:60% レポート:20%		

共通英語	1 単位	1年
テーマ別に英語を学ぶ		
<p>【担当教員】 井伊 順彦（いゐ のぶひこ）、磯崎 京子（いそざき きょうこ）、上原 美知子（うえはら みちこ）、江崎 聡子（えざき さとこ）、木村 さなえ（きむら さなえ）、黒岩 裕（くろいわ ゆたか）、菅野 昌彦（すがの まさひこ）、杉田 弘也（すぎた ひろや）、鈴木 千加子（すずき ちかこ）、藤村 待子（ふじむら まちこ）、プラット（PLATT, I. R.）、海琳 泰子（みたま やすこ）、宮内 華代子（みやうち かよこ）、矢部 寿美子（やべ すみこ）、吉田 裕子・リナ（よしだ ひろこ・りな）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 自分の選んだテーマに沿って楽しみながら英語を学び、4技能、文法、語彙について大学初級レベルの能力を身につけることがこの科目の目標です。</p> <p><授業の概要> 学生は前期・後期それぞれに、以下の共通英語A～Gの中からどれか一つを選択・履修します。ただし、再履修の場合を除き、前期と後期に同じアルファベットの共通英語科目を選択・履修することはできません。また共通英語Gは前期のみの開講となります。</p> <p>共通英語A (Reading) 正確で深い英文読解能力を養成する。 共通英語B (Media English) 英字新聞や英語ニュースを教材として、深く世界を理解する。 共通英語C (Oral Communication) 現代社会で必要とされる基本的な英会話能力を習得する。 共通英語D (TOEIC) TOEIC Test の受験準備を行う。 共通英語E (Children's Story Books) 英語の児童書・絵本を題材にして、英語の4技能を習得する。 共通英語F (English Movies) 英語の映画を使って、リスニング能力を養い、会話表現や英語圏文化について学ぶ。 共通英語G (Basic English Grammar) 基本的な英文法を学びなおす。</p>		

共通英語 A		後期 1 単位	1年
現代社会における女性の生き方		井伊 順彦 (いい のぶひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	内容・文法ともに歯ごたえのある英文を読み、現代先進国社会で起きている諸問題に若い女性としてどう対応してゆくべきかを考える。到達目標は、英語読解力の強化を図りながら、先進諸国独特の問題点を具体的に把握し、その改善に向けての対策を自ら思索し、なんらかのかたちで発表できるようにすること。		
授業の概要	毎回、前もって指名された複数の受講者が自分の担当箇所を読んで訳す。次いで、同一箇所を読むネイティブスピーカーの発音を音声機器で確認してから、担当者に対して教員から質問や解説がなされる。担当者には資料収集や説明、感想も求められよう。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業の内容紹介および受講に際しての注意事項の確認 第2回 ジェンダーについての基本知識の学習 第3回 多様なパートナーシップの考察(1) 日本の現状 第4回 多様なパートナーシップの考察(2) 米国の現状 第5回 多様なパートナーシップの考察(3) 英独仏の現状 第6回 多様なパートナーシップの考察(4) 北欧の現状 第7回 女性の労働、夫婦間での家事分担(1) 日本の現状 第8回 女性の労働、夫婦間での家事分担(2) 米国の現状 第9回 女性の労働、夫婦間での家事分担(3) 英独仏の現状 第10回 女性の労働、夫婦間での家事分担(4) 北欧の現状 第11回 女性にとっての美的認識(1) 日本の現状 第12回 女性にとっての美的認識(2) 米国の現状(a) 第13回 女性にとっての美的認識(3) 米国の現状(b) 第14回 女性にとっての美的認識(4) 欧州諸国の現状 第15回 まとめ		
テキスト	特には定めない。こちらから印刷物を配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	平常点:20% 試験:25% 小テスト:10% レポート:10% 授業感想文:20% 授業に対する貢献度:15%		

共通英語 A		前期 1 単位	1年
Scienceのオンライン版Science Nowの記事をよむ。		海琳 泰子 (みたま やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会では毎日のニュースで科学的情報は不可欠である。Scienceのオンライン版の記事を深く理解し、新鮮な情報を正確に得ることができるようになる。		
授業の概要	授業最初の20分間はBBC World のニュースの聞き取り。4回提出、採点。次週に解説。テキストは、パラグラフ毎の要約を授業中に作成。内容をしっかり理解した上での音読。Exercisesは解説者になったつもりで、起立し大きな声で解答。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Scienceについて オンライン版Science Nowについて 第2回 「なぜダイエットは失敗するか」 第3回 Exercises 発表 第4回 「ダンスの動き」 第5回 Exercises 発表 第6回 「きれい好きの期限」 第7回 Exercises 発表 第8回 「マダガスカルのカモメの糸」 第9回 「太陽の黒点」 第10回 Exercises 発表 第11回 「月の相と降水」 第12回 Exercises 発表 第13回 「サケにとっての安全な通り道」 第14回 Exercises 発表 第15回 印象に残った記事 理解度の確認		
テキスト	野崎嘉信 松本和子 Kevin Cleary著 Science Fair 南雲堂	参考文献	ネイチャー特別編集 「知の歴史 世界を変えた21の科学理論」 徳間書店
評価方法	試験:60% ニュースの聞き取り:20% 授業中の発表 解答:20%		

共通英語 A		後期 1 単位	1年
医療 健康問題をテーマにしたAP通信、ライター通信の記事を読む。		海琳 泰子 (みたま やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会では、毎日のニュースで医療、健康、食品問題は重要なテーマである。AP通信 ロイター通信の記事を深く理解し、新鮮な情報を正確に得ることができるようになる。		
授業の概要	授業最初の20分間はBBC World のニュースの聞き取り。4回提出、採点。次週に解説。テキストは、パラグラフ毎の要約を授業中に作成。Exercisesは解説者になったつもりで、起立し大きな声で解答。		
授業計画	【後期】 第1回 AP通信 ロイター通信について 第2回 「マグロ養殖計画」 第3回 「オボッサムのダイエット」 第4回 Exercises 発表 第5回 「うなぎの保護」 第6回 Exercises 発表 第7回 「肥満者のためのナイトクラブ」 第8回 Exercises 発表 第9回 「アンデス山脈の穀物キヌア」 第10回 Exercises 発表 第11回 「自転車通勤」 第12回 Exercises 発表 第13回 「ボトル詰め飲料水」 第14回 Exercises 発表 第15回 印象に残った記事 理解度の確認		
テキスト	小笠原真司 Pino Cutrone 大坪有美 古場なおみ著 <i>The Picture of Health</i> 南雲堂	参考文献	モートン・マイヤーズ著 小林力訳「セレンディピティーと近代医学」中央公論新社
評価方法	試験:60% ニュースの聞き取り:20% 授業中の発表 解答:20%		

共通英語 B		前期 1 単位	1年
Media English		上原 美知子 (うえはら みちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	目標：英語で発信される情報を効率よくキャッチし、深く世界を理解する。 テーマ：現在、世界をリードするアメリカの、語られてこなかった歴史をよみ、アメリカの素晴らしさと共に負の面を知ることで世界情勢への理解を深めます。同時に内容把握、リスニングの力をつけることを目指します。		
授業の概要	現在、マスメディアへの不信から、現場からネットで直接発信される情報が重視されつつあります。玉石混交のそれらのネット情報から上質で信用に値するものを選択する事が必須です。そこでアメリカの場合を例に、最新のニュースの背景と本質を、良質な調査報道を把握した上で、受け止める姿勢を学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 授業方針、英語で自己紹介を書く 第2回 Chapter 1 Rachel Carson 第3回 Chapter 1 "Silent Spring", 小テスト 第4回 Chapter 3 Think Different. 第5回 Chapter 3 S. Jobs, Speech, 小テスト 第6回 Chapter 5 War for sale 第7回 Chapter 5 False Testimony, 小テスト 第8回 中間テスト, Chapter 1, 3, 5 第9回 Chapter 6 Barbara Lee Votes ' No' 第10回 Chapter 6 Spiral of Violence, 小テスト 第11回 Chapter 10 E. Debs and J. McCarthy 第12回 Chapter 10 Fear of Communism, 小テスト 第13回 Chapter 11 The end of "Separate but Equal" 第14回 Chapter 11 African American, 小テスト 第15回 Review Test, Chapter 6, 10, 11		
テキスト	Different Histories: 金星堂 第一回目の授業から持参してください。当日、予習復習の方法を詳しく説明します。	参考文献	背景理解用に映像資料、プリントを適宜使用します。
評価方法	定期試験:50% 平常点:30% 提出物:20%		

共通英語A（再履修者用）		前期 1 単位	1年
共通英語A(Reading)		菅野 昌彦（すがの まさひこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の基礎的運用能力を養う。特に「読む」運用能力に重点を置き、併せて文法能力の向上を図る。		
授業の概要	英語がどのような構造で出来上がっているのかを理解し、ネイティブが英文を読む様に頭ごなしに読んで行ける事を目指す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Language is a system 第2回 What are post-positions doing? 第3回 How important are pre-positions? 第4回 Learn how cases are given 第5回 Are word-orders important? 第6回 What is a constituent? 第7回 How do you construct a phrase? 第8回 Noun-clause 第9回 Adjectival-clause 第10回 Adverbial-clause 第11回 What are conjunctions doing? 第12回 How do you construct a sentences? 第13回 What is a good paragraph? 第14回 How to enhance your reading skills 第15回 Term end review		
テキスト	プリント使用	参考文献	なし
評価方法	期末試験:80% 授業内参加度:10% 課題・小テスト:10%		

共通英語B		後期 1 単位	1年
Media English		上原 美知子（うえはら みちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>目標：英語で発信される情報を効率よくキャッチし、深く世界を理解する。</p> <p>テーマ：現在、世界をリードするアメリカの、語られてこなかった歴史をよみ、アメリカの素晴らしさと共に負の面を知ることで世界情勢への理解を深めます。同時に内容把握、リスニングの力をつけることを目指します。</p>		
授業の概要	現在、マスメディアへの不信から、現場からネットで直接発信される情報が重視されつつあります。玉石混交のそれらのネット情報から上質で信用に値するものを選択する事が必須です。そこでアメリカの場合を例に、最新のニュースの背景と本質を、良質な調査報道を把握した上で、受け止める姿勢を学びます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業方針、英語で自己紹介を書く 第2回 Chapter 1 Rachel Carson 第3回 Chapter 1 "Silent Spring", 小テスト 第4回 Chapter 5. War for Sale 第5回 Chapter 5 False Testimony, 小テスト 第6回 Chapter 6 Barbara Lee Votes ' No' 第7回 Chapter 6 Spiral of War, 小テスト 第8回 中間テスト Chapter 1, 5, 6, 第9回 Chapter 10 E. Debs and J. McCarthy 第10回 Chapter 10 Fear of Communism, 小テスト 第11回 Chapter 11 The End of ' Separate but Equal' 第12回 Chapter 11 African American, 小テスト 第13回 Chapter 12 Wounded Knee 第14回 Chapter 12 Native American, 小テスト 第15回 Review test Chapter 10, 11, 12		
テキスト	Different Histories: 金星堂 第一回目の授業から持参してください。 当日、予習復習の方法を詳しく説明します。	参考文献	背景理解用にオンライン映像資料、プリントを適宜使用します。
評価方法	定期試験:50% 平常点:30% 提出物:20%		

共通英語B		後期 1 単位	1年
日本はどのように報じられているか		杉田 弘也 (すぎた ひろや)	
授業の到達目標 及びテーマ	新聞やニュースで使われている英語を理解する。 日本の政治や歴史認識の問題が、海外（主としてオーストラリア）でどのように報じられているか、英語のニュース報道を読み、又映像からも理解する。		
授業の概要	日本での反核（反原発）運動や政治状況、戦争責任について報じたオーストラリアのテレビ番組のトランスクリプトを読んでいきます。テレビ番組は、映像があるのでそれもみる予定にしています。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODakション 第2回 The Fukushima Syndrome: 大間、浜岡 第3回 The Fukushima Syndrome: 上関、再び大間 第4回 PM says Japan must rely on nuclear power 第5回 Japan goes to the polls 第6回 Japan goes to the polls:discussion 第7回 Japan' s Abe returns to power 第8回 Japan' s Abe returns to power:discussion 第9回 Historian demands Japanese apology for POWs Changi 第10回 Historian demands Japanese apology for POWs Sandakan 第11回 Japanese apology for POWs discussion 第12回 An Uncomfortable Truth 第13回 Jan Ruff-O' Herne story 第14回 Jan Ruff-O' Herne story:discussion 第15回 まとめ		
テキスト	授業ごとに読む材料を配布します。	参考文献	最初の授業で指示します。
評価方法	授業への参加:20% テキストの要約と感想:40% レポート:40%		

共通英語B		前期 1 単位	1年
Media English		鈴木 千加子 (すずき ちかこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 英語圏のコラム・レポート記事を読んだり視聴したりして、内容を理解する。 2. 日常よく使用される英語の語彙や表現を理解する。 3. メディア特有の語彙や表現を理解する。		
授業の概要	1. 聞き取りと内容理解のポイントを押さえる。 2. 各トピックにおける重要語彙や表現を習得する。 3. リポート番組を視聴し、キーワードを聞き取ることが出来る。		
授業計画	【前期】 第1回 Orientation 第2回 Extreme Ironing 第3回 Food and Culture 第4回 Life after Death? 第5回 Addicted to the Mall 第6回 The Working Poor 第7回 A Child Hero 第8回 まとめ 第9回 Don' t be Fooled Again 第10回 The Government Department of Dating and Marriage 第11回 Undercover Marketing 第12回 A Healthy Diet for Everyone 第13回 Anger around the World 第14回 Online Dating goes Mainstream 第15回 まとめ		
テキスト	<i>Phrase Reading</i> 田村朋子・西田晴美・笹井悦子 センゲージラーニング株式会社	参考文献	開講時指定
評価方法	授業内での発表:10% レポート:10% 小テスト:80%		

共通英語B（再履修者用）		後期 1 単位	2年
ニュースを英語で理解する		矢部 寿美子（やべ すみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	英語のニュースを理解することは、事実を把握することだけでなく、民族性、地域性など多様な価値観との出会いでもある。この授業では、様々なジャンルのニュースを通して英語の発音・文法・読解を総復習し、学生の英語コミュニケーション能力を強化する。		
授業の概要	毎回の授業でひとつのテーマを扱う。授業の冒頭で、前の週に終了したユニットの単語テストを行う。テキストは1回の授業で1ユニットをカバーするが、随時、プリントや動画も用いる。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction 第2回 Unit 1 : Soccer Brain Study 第3回 Unit 2 : The World' s Population 第4回 Unit 3 : Quake Concerns 第5回 Unit 4 : Fat Tax 第6回 Unit 6 : Light Pollution 第7回 復習 第8回 Test 1 第9回 Unit 8 : New Arcade Trend 第10回 Unit 9 : Smell of Success 第11回 Unit 12 : Shoe Frenzy 第12回 Unit 11 : Power of the Consumer 第13回 Unit 13 : Multigenerational Homes 第14回 復習 第15回 Test 2		
テキスト	Fuyuhiko Sekido, 他. 『CNN Student News』 Asahi Press.	参考文献	特に定めない
評価方法	授業時の感想文:10% クイズ:20% テスト:70%		

共通英語 C	前期 1 単位	1年
Speaking in English	プラット (PLATT, I.R.)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> The purpose of this course is to develop confidence and ability in students to organize and prepare material for presentation (avoiding plagiarism), and to speak in English.</p> <p><授業の概要> Students will develop their English speaking skills in pairs and small groups before building up to make presentations on selected topics to larger groups of listeners. Students will have homework where they will prepare and practise ready for the activities in class. <i>This homework is essential</i> and must be completed <i>on time</i>. More than three unauthorised absences will result in no grade.</p> <p><授業計画> 第 1回 Introductions within the class. Thinking about talking to groups: What is required? How is it different from a one-to-one conversation? 第 2回 The physical message: posture and eye contact. 第 3回 Gestures 第 4回 Voice inflection 第 5回 Performances 第 6回 The visual message: effective visuals 第 7回 Explaining visuals 第 8回 Performances (Group 1) 第 9回 Performances (Group 2) 第10回 The story message: The introduction 第11回 The body 第12回 The conclusion 第13回 Performances (Group 3) 第14回 Performances (Group 4) 第15回 Performances N.B. The Instructor reserves the right to change and modify the above according to the abilities and progress of class members.</p> <p><定期試験> As this is a skills class, there is no final exam: grading will be by continuous assessment.</p> <p><テキスト> <i>Speaking of Speech: New Edition</i>. David Harrington & Charles LeBeau Tokyo: Macmillan Languagehouse (2009), ISBN978-4-7773-6271-4.</p> <p><参考文献> None</p> <p><評価方法> Class participation: 40% Homework preparation: 30% Presentation performances: 30%</p>		

共通英語C	後期 1 単位	1年
Speaking in English	プラット (PLATT, I.R.)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> The purpose of this course is to develop confidence and ability in students to organize and prepare material for presentation (avoiding plagiarism), and to speak in English.</p> <p><授業の概要> Students will develop their English speaking skills in pairs and small groups before building up to make presentations on selected topics to larger groups of listeners. Students will have homework where they will prepare and practise ready for the activities in class. <i>This homework is essential and must be completed on time.</i> More than three unauthorised absences will result in no grade.</p> <p><授業計画> 第1回 Introductions within the class. Thinking about talking to groups: What is required? How is it different from a one-to-one-conversation? 第2回 The physical message: posture and eye contact. 第3回 Gestures 第4回 Voice inflection 第5回 Performances 第6回 The visual message: effective visuals 第7回 Explaining visuals 第8回 Performances (Group 1) 第9回 Performances (Group 2) 第10回 The story message: The introduction 第11回 The body 第12回 The conclusion 第13回 Performances (Group 3) 第14回 Performances (Group 4) 第15回 Performances N.B. The Instructor reserves the right to change and modify the above according to the abilities and progress of class members.</p> <p><定期試験> As this is a skills class, there is no final exam: grading will be by continuous assessment.</p> <p><テキスト> <i>Speaking of Speech: New Edition.</i> David Harrington & Charles LeBeau Tokyo: Macmillan Languagehouse (2009), ISBN978-4-7773-6271-4.</p> <p><参考文献> None</p> <p><評価方法> Class participation: 40% Homework preparation: 30% Presentation performances 30%</p>		

共通英語C		後期 1 単位	1年
Oral Communication		磯崎 京子 (いそざき きょうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 海外旅行英会話と簡単な日常英会話ができるようになる。		
授業の概要	DVDを見ながら、海外旅行に必要なとされるホテルのチェックイン、道案内、買い物などの英会話を練習する。加えて、家族、食べ物などをトピックとした日常英会話を練習する。ペアワーク、グループワークで練習する。期末には、学んだことを使ってグループで小さな英語劇を創作し、発表する。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction 第2回 Checking in at a Hotel 第3回 Taking a Taxi 第4回 Asking Directions 第5回 Asking Directions with a Map 第6回 Review 第7回 Shopping 第8回 Shopping with a Friend 第9回 The London Tube 第10回 The London Tube with a Map 第11回 Review 第12回 Dinner at a Restaurant 第13回 Lunch at a Fast-Food Place 第14回 Presentation (group-work) 第15回 後期授業のまとめ		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	特になし
評価方法	筆記試験:70% 発表:20% 授業中の貢献度:10%		

共通英語D		前期 1 単位	1年
TOEICの英語入門		江崎 聡子 (えざき さとこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	この講座はTOEIC TESTの受験準備を目的とする。授業中にリーディング、リスニングの両セクションの問題を実際に受講者の皆さんに解いていただき、それぞれのパート別の解法や対策を十分に理解できるようになることが目標である。予習や復習はもちろんのこと、受講者の皆さんの授業中の積極的な取り組みを大いに期待する。		
授業の概要	テキストに沿ってすすめる。毎回、Part 1から7にわたって、それぞれの問題形式の類似問題を受講者の皆さんに解いてもらい、問題を解く上で必要な基礎的な文法事項の確認や解説を教員が行う。学期の中ごろにレビューテストを実施する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 Unit1:shopping 第3回 Unit1の文法、リーディング 第4回 Unit2:restaurant 第5回 Unit2の文法、リーディング 第6回 Unit3:entertainment 第7回 Unit3の文法、リーディング 第8回 Unit4:job hunting 第9回 Unit4の文法、リーディング 第10回 Review Section 第11回 Unit 5:hotel stay 第12回 Unit5の文法、リーディング 第13回 Unit6:business 第14回 Unit6の文法、リーディング 第15回 復習		
テキスト	Aim High for the TOEIC Test by Kayoko Shiomi, Richard Silver and Naohiro Takita	参考文献	特になし。必要な場合は授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業の課題:35% 平常点:15% 定期試験:50%		

共通英語D		後期 1 単位	1年
TOEICの英語入門		江崎 聡子 (えざき さとこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	この講座はTOEIC TESTの受験準備を目的とする。授業中にリーディング、リスニングの両セクションの問題を実際に受講者の皆さんに解いていただき、それぞれのパート別の解法や対策を十分に理解できるようになることが目標である。予習や復習はもちろんのこと、受講者の皆さんの授業中の積極的な取り組みを大いに期待する。		
授業の概要	テキストに沿ってすすめる。毎回、Part 1から7にわたって、それぞれの問題形式の類似問題を受講者の皆さんに解いてもらい、問題を解く上で必要な基礎的な文法事項の確認や解説を教員が行う。学期の中旬にリビューテストを実施する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 Unit7:sports 第3回 Unit7の文法、リーディング 第4回 Unit8:education 第5回 Unit8の文法、リーディング 第6回 Review Section 第7回 Unit9:services 第8回 Unit9の文法、リーディング 第9回 Unit10:housing 第10回 Unit10の文法、リーディング 第11回 Unit11:environment 第12回 Unit11の文法、リーディング 第13回 Unit12:vacation 第14回 Review Section 第15回 復習		
テキスト	Aim High For the TOEIC TEST by Kayoko Shiomi, Richard Silver, and Naohiro Takita	参考文献	特にない。適宜紹介する。
評価方法	授業の課題:35% 平常点:15% 定期試験:50%		

共通英語D		前期 1 単位	1年
数学的英文解釈		菅野 昌彦 (すがの まさひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	構造面から英語をシステムティックに理解できるようにする。		
授業の概要	我々が使用する言語は約70%が構造で決まっていると言われてている。その構造と言う観点から英文を理解する上で勘の入る余地を無くしシステムとして理解できるようにしていく。		
授業計画	【前期】 第1回 guidance 第2回 post-position 第3回 pre-position 第4回 word-order 第5回 case-marking 第6回 phrase 第7回 noun-phrase 第8回 adjective-phrase 第9回 adverbial-phrase 第10回 noun-clause 第11回 adjective-clause 第12回 adverbial-clause 第13回 conjunction 第14回 cohesion 第15回 term end review		
テキスト	自作プリント	参考文献	特に無し
評価方法	期末試験:80% 授業内小テスト:10% 平常点:10%		

共通英語D		後期 1 単位	1年
数学的解釈の実践		菅野 昌彦 (すがの まさひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	TOEICまたはTOEFLの問題を解く上でのシステマティックな方法を得る。		
授業の概要	すべての言語に共通する普遍文法を英語と日本語、二つの言語に焦点を当て言語そのものを理解できるようにトレーニングしていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 guidance 第2回 structure of word 第3回 structure of phrase 第4回 structure of clause 第5回 structure of sentence 第6回 what is a good sentence? 第7回 how to make a good sentence 第8回 what is a wrong sentence? 第9回 how to find a wrong sentence 第10回 read a sentence correctly 第11回 speed up reading skill 第12回 language as system 第13回 analyze phrase systematically 第14回 analyze sentence systematically 第15回 term end review		
テキスト	自作プリント	参考文献	特に無し
評価方法	期末試験:80% 授業内小テスト:10% 平常点:10%		

共通英語E		前期 1 単位	1年
Children' s Story Book		磯崎 京子 (いそざき きょうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* ディズニーの「シンデレラ」を読んで理解する。 * ストーリー展開を口頭で英語表現することができるようになる。 * シンデレラの話から、自分の生き方を考えることができるようになる。		
授業の概要	前半は、ディズニーの英語の絵本「シンデレラ」の絵を見ながら、ストーリーの展開を英語で質問し、英語で答える練習をする。ストーリーの初めから終わりまでを簡単な英語で口頭表現できるようにする。後半は、ディズニー以外のシンデレラにも触れ、シンデレラへの様々な解釈を紹介し、シンデレラの生き方についてクラスで考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction. DVD:Cinderella 第2回 Cinderella' s life 第3回 Invitation to the palace 第4回 Fairy godmother 第5回 Meeting the prince at the palace 第6回 Glass slipper 第7回 Marriage 第8回 Review 第9回 Presentation (pair work) 第10回 Various kinds of Cinderella in the world 第11回 Cinderella: or the Little Glass Slipper 第12回 Criticism of Disney' s Cinderella 第13回 Discussion on Cinderella' s Life 第14回 Discussion on your life 第15回 前期授業のまとめ		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	特になし
評価方法	試験:70% 発表:20% 授業感想文:10%		

共通英語E		前期 1 単位	1年
児童文学、YA文学の楽しみ方		杉田 弘也 (すぎた ひろや)	
授業の到達目標 及びテーマ	いくつかの児童文学、YA(ヤングアダルト)文学の抜粋を原書で読むことを通じ英語を理解する。 児童文学やYA文学は、どのように読むことができるのか、「大人になって読む児童文学」や「深読み」の面白さを理解する。		
授業の概要	Emily Rodda著 The Key to Rondo、同 The Sister of the South、Jackie French著 Hitler's Daughter、JK Rowling 著 Harry Potter and the Deathly Hallowの4冊の本から一部を選んで読んでいきます。お話の内容を理解するとともに、著者の意図について議論ができればと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 The Key to Rondo: Chapter 17 第3回 The Key to Rondo: Chapter 17 discussion 第4回 The Key to Rondo: Chapter 18 第5回 The Key to Rondo: Chapter 18 discussion 第6回 The Sister of the South Chapter 18 第7回 The Sister of the South Chapter 19 第8回 The Sister of the South Chapter 20 第9回 Hitler's Daughter Chapters 8 & 9 第10回 Hitler's Daughter Chapter 11 第11回 Hitler's Daughter discussion 第12回 Harry Potter and the Deathly Hallow Chapter 1 第13回 Harry Potter and the Deathly Hallow Chapter 24 前半 第14回 Harry Potter and the Deathly Hallow Chapter 24 後半 第15回 Harry Potter and the Deathly Hallow discussion		
テキスト	授業時に配布します。	参考文献	最初の授業で指示します。
評価方法	授業への参加:20% テキストの要約と感想:40% 学期末レポート:40%		

共通英語E		後期 1 単位	1年
Children's Storybooks		鈴木 千加子 (すずき ちかこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 英語で書かれた童話を読んだり聴いたりすることで英語に慣れ親しみ、英語の理解力を深めていくとともに英語特有の表現についても理解する。 2. 童話を聴き、その内容を理解する。		
授業の概要	1. 良く知られた童話の一部を読んだり聴いたりして、英語の読解力と聴解力を鍛える。 2. 英語の文法的構造を理解し、英文理解をより向上させる。 3. 内容に関する問題を解くことによって、英語の習得度を確認する。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction (Jack and the Beanstalk) 第2回 Sindbad the Sailor (Listening & Reading) 第3回 Sindbad the Sailor (Comprehension) 第4回 Hansel and Gretel (Listening & Reading) 第5回 Hansel and Gretel (Comprehension) 第6回 Puss in the Boots (Listening & Reading) 第7回 Puss in the Boots (Comprehension) 第8回 Ali Baba and the Forty Thieves (Listening & Reading) 第9回 Ali Baba and the Forty Thieves (Comprehension) 第10回 Pinocchio (Listening & Reading) 第11回 Pinocchio (Comprehension) 第12回 Sleeping Beauty (Listening & Reading) 第13回 Sleeping Beauty (Comprehension) 第14回 Alice in Wonderland (Listening & Reading) 第15回 Alice in Wonderland (Comprehension)		
テキスト	English Cradle Atsuko Uemura Cengage Learning	参考文献	開講時指定
評価方法	授業内発表:10% レポート:10% 小テスト:80%		

共通英語E		後期 1 単位	1年
C. S. Lewisの <i>The Lion, the Witch and the Wardrobe</i> (『ライオンと魔女』)を読む		藤村 待子 (ふじむら まちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<i>The Chronicles of Narnia</i> の <i>The Lion, the Witch and the Wardrobe</i> を読みながら、英文法についての知識を確認し、英語で書かれた文章を正確に理解することができるようになることを目指します。作品中でキリスト教にどのように言及がなされているかも見ていき、様々な角度から作品を楽しむことができるようになることを目標とします。		
授業の概要	授業では、本文中で使われている大切な表現や文法、キリスト教への言及などを中心に、プリントで丁寧に確認していきます。また、映像資料を視聴したり、感想などを書いていただく機会をほぼ毎回少しずつ作りたと思います。ただ、受講者の興味、理解度に応じて、柔軟に修正していきたいと思っています。		
授業計画	【後期】 第1回 To Lucy Barfield 第2回 The House of an Old Professor 第3回 Lucy and a Wardrobe 第4回 A Daughter of Eve 第5回 The House of Mr. Tumnus 第6回 Turkish Delight 第7回 Into the Forest 第8回 After Dinner 第9回 Father Christmas 第10回 Aslan 第11回 Deep Magic from the Dawn of Time 第12回 The Triumph of the Witch 第13回 Before the Dawn of Time 第14回 The End of the Adventure of the Wardrobe 第15回 まとめ		
テキスト	C. S. Lewis, <i>The Lion, the Witch and the Wardrobe</i> (HarperCollins 本の統一のため教科書売り場で購入してください)、またプリントを配布します	参考文献	『ライオンと魔女』(瀬田貞二訳、岩波書店)、その他の授業中に適宜紹介いたします。
評価方法	毎回の短い授業感想文:30% 課題の提出:10% 期末試験:60%		

共通英語E		前期 1 単位	1年
English using Children's Storybooks		吉田 裕子・リナ (よしだ ひろこ りな)	
授業の到達目標 及びテーマ	This 4-skills course looks at various elements, especially language features used in English children's storybooks. The final project of the course is for each student to create her original children's storybook using the language features learned, and present to the class.		
授業の概要	この授業は英語で行われます。英語の児童書、絵本を使用して4技能(話・聞・書・読)を磨くユニークな英語授業です。最終課題は授業内で紹介された“language features”をもとにして、英語のオリジナル児童絵本を各自で作成し、発表します。◆出席重視のクラスです。最低限必要な出席率: 2/3。		
授業計画	【前期】 第1回 Class orientation 第2回 Rhyme: rhyming part of a word 第3回 Rhyme: creating poems that rhyme 第4回 Alliteration: short alliteration examples 第5回 Alliteration: creating tongue twisters 第6回 Onomatopoeia: English vs. Japanese 第7回 Onomatopoeia: Effective use of onomatopoeia 第8回 Poem presentation 第9回 Usage of Articles 第10回 Writing style: purpose & audience 第11回 Story writing 第12回 Review activities 第13回 Preparation for final project 第14回 Storybook presentation 第15回 Peer Book Look & Course feedback		
テキスト	Information will be given in class.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Mini research:20% Poem presentation:20% Storybook project:30% Effort & Participation:30%		

共通英語 E		後期 1 単位	1年
English using Children' s Storybooks		吉田 裕子・リナ (よしだ ひろこ りな)	
授業の到達目標 及びテーマ	This 4-skills course looks at various elements, especially language features used in English children' s storybooks. The final project of the course is for each student to create her original children' s storybook using the language features learned, and present to the class.		
授業の概要	この授業は英語で行われます。英語の児童書、絵本を使用して4技能（話・聞・書・読）を磨くユニークな英語授業です。最終課題は授業内で紹介された“language features”をもとにして、英語のオリジナル児童絵本を各自で作成し、発表します。◆出席重視のクラスです。最低限必要な出席率： 2/3。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 Class orientation 第 2回 Rhyme: rhyming part of a word 第 3回 Rhyme: creating poems that rhyme 第 4回 Alliteration: short alliteration examples 第 5回 Alliteration: creating tongue twisters 第 6回 Onomatopoeia: English vs. Japanese 第 7回 Onomatopoeia: Effective use of onomatopoeia 第 8回 Poem presentation 第 9回 Usage of Articles 第10回 Writing style: purpose & audience 第11回 Story writing 第12回 Review activities 第13回 Preparation for final project 第14回 Storybook presentation 第15回 Peer Book Look & Course feedback		
テキスト	Information will be given in class.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Mini research:20% Poem presentation:20% Storybook project:30% Effort & Participation:30%		

共通英語 F		前期 1 単位	1年
Visits to the World Heritage on DVD plus More		木村 さなえ (きむら さなえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	To improve your skills in English, you will have to prepare a lot before you come to the classroom. However, by doing so, you will realize all of a sudden you are getting better in understanding information given in English.		
授業の概要	In each lesson, we will see one World Heritage Site. As an activity outside the classroom, you are to watch three films and hand in reports on them. (Most of the films are in our library.) Review vocabulary quizzes at the end of each unit and an overall vocabulary test at the end of the term will be given.		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 the Orientation 第 2回 Unit 1 第 3回 Unit 2 第 4回 Unit 3 第 5回 Unit 4 第 6回 Unit 5 第 7回 Unit 6 第 8回 Unit 7 第 9回 Unit 8 第10回 Unit 9 第11回 Unit 10 第12回 Unit 11 第13回 Unit 12 第14回 Unit 13 第15回 Unit 14 + Overall Review		
テキスト	World Heritage on DVD	参考文献	None
評価方法	participation :20% scores of quizzes:40% reports on films :40%		

共通英語 F		後期 1 単位	1年
Visits to the World Heritage on DVD Plus More		木村 さなえ (きむら さなえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	To improve your skills in English, you will have to prepare a lot before you come to the classroom. However, by doing so, you will notice all of a sudden you are getting better in understanding information given in English.		
授業の概要	In each lesson, we will see one World Heritage site. As an activity outside the classroom, you are to watch three films and hand in reports on them. (Most of the films are in our library.) Review vocabulary quizzes at the end of each unit and an overall vocabulary test at the end of the term will be given.		
授業計画	【後期】 第 1回 the Orientation 第 2回 Unit 1 第 3回 Unit 2 第 4回 Unit 3 第 5回 Unit 4 第 6回 Unit 5 第 7回 Unit 6 第 8回 Unit 7 第 9回 Unit 8 第 10回 Unit 9 第 11回 Unit 10 第 12回 Unit 11 第 13回 Unit 12 第 14回 Unit 13 第 15回 Unit 14 + Overall Review		
テキスト	World Heritage on DVD	参考文献	None
評価方法	participation:20% scores of quizzes:40% reports on films:40%		

共通英語 F		後期 1 単位	1年
映画で英語を学ぶ		黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
授業の到達目標 及びテーマ	英米の映画を題材として、英語のリスニング能力を養う。さらに、英語の会話表現や映画の背景となる社会事情・文化事情を学ぶ。		
授業の概要	毎回映画のワンシーンをみて、スクリプトの穴埋めを行う。また、重要な語彙・文法を取り上げて説明し、会話表現や映画の背景について解説する。今年度は以下の2つの映画を取り上げる予定だが、後半は希望があれば別の映画をみることも検討する。		
授業計画	【後期】 第 1回 イントロダクション：英語のリスニングについて 第 2回 ワーキング・ガール テスの英語 第 3回 ワーキング・ガール キャサリンの英語 第 4回 ワーキング・ガール Middle Class と Working Class 第 5回 ワーキング・ガール 格差 第 6回 ワーキング・ガール アメリカのビジネス 第 7回 ワーキング・ガール キャリア 第 8回 前半のまとめとテスト 第 9回 ゴースト 背景 第 10回 ゴースト 女性の台詞 第 11回 ゴースト 男女の会話 第 12回 ゴースト 黒人の英語 第 13回 ゴースト 白人と黒人 第 14回 ゴースト 結末 第 15回 後半のまとめとテスト		
テキスト	毎回プリントを使用する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	課題:20% テスト1:40% テスト2:40%		

共通英語 F		前期 1 単位	1年
映画を楽しみながら英語を学ぼう		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマ：オードリー・ヘップバーン主演の名作「ローマの休日」が与える感動を味わい、シナリオの英語を聞き取り、読みこなせる英語力を養成する。		
授業の概要	毎回授業の最初に英語表現構文修得、英語力養成のためにリスニングの小テストを行います。映画のシナリオを英語教材として用い、それぞれのシーンごとに内容を理解し、重要語彙、文法、役に立にたつ表現を学びます。名場面の名台詞は音読し、暗記します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 退屈な毎日ほうざり 第3回 出会い 第4回 アパート 第5回 パジャマ姿で目が覚めて 第6回 特ダネ 第7回 髪を切る 第8回 スペイン広場 第9回 初めてのタバコ 第10回 真実の口 第11回 船上パーティ 第12回 人生はままならない 第13回 別離 第14回 特ダネを諦める 第15回 記者会見での再会		
テキスト	Loman Holiday (栄光社) 英語表現構文 (南雲堂)	参考文献	授業中に随時紹介
評価方法	前期試験:50% 小テスト:30% レポート:10% 平常点:10%		

共通英語 F		後期 1 単位	1年
映画を楽しみながら英語を学ぼう		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマ：アーネスト・ヘミングウェイの長編小説『武器よさらば』（1929）を映画化した同名の作品が与える感動を味わい、シナリオの英語を聞き取り、読みこなせる英語力を養成する。		
授業の概要	毎回授業の最初に、英語表現構文修得による英語力養成のためのリスニングの小テストを行います。映画のシナリオを英語教材として用い、それぞれのシーンごとに内容を理解し、重要語彙、文法、役に立にたつ表現を学びます。名場面の名台詞は音読し、暗記します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 帰還 第2回 戦友 第3回 出会い 第4回 聖アントニウスのお守り 第5回 名誉の負傷 第6回 ミラノでの再会 第7回 祝福 第8回 つかの間の蜜月 第9回 ふたたび戦線へ 第10回 プリサーゴからの手紙 第11回 届かない手紙 第12回 脱走兵 第13回 解けた謎 第14回 プリサーゴへ 第15回 折り		
テキスト	A Farewell to Arms (朝日出版) 英語表現構文 (南雲堂)	参考文献	授業中に随時紹介
評価方法	前期試験:50% 小テスト:30% レポート:10% 平常点 :10%		

共通英語 F		前期 1 単位	1年
映画で英語を学ぶ		矢部 寿美子 (やべ すみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	映画の教材を通して多様な英語の表現・発音を学び、英語圏文化とその歴史的・社会的背景に対する知識と理解を深めながらコミュニケーション能力を強化する。特に1960年代以降の現代アメリカ社会に焦点をあて、様々な地域・時代・文化・民族の中での英語表現の違いを理解する。		
授業の概要	映画の教材として、Forrest Gump, Burlesque, Joy Luck Club の3つを取り上げる。授業のはじめに映画の一部を見て、概要を掴む。その後、発音・語彙・表現・文法を確認する。当時の時代背景なども明らかにしながら、言語・非言語表現を会得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 Forrest Gump - 1 第3回 Forrest Gump - 2 第4回 Forrest Gump - 3 第5回 Forrest Gump - 4 第6回 Forrest Gump - 5 第7回 Test 1 第8回 Burlesque - 1 第9回 Burlesque - 2 第10回 Burlesque - 3 第11回 Joy Luck Club - 1 第12回 Joy Luck Club - 2 第13回 Joy Luck Club - 3 第14回 Review 第15回 Test 2, レポート提出		
テキスト	配布資料を用いる。	参考文献	特に定めない
評価方法	授業感想・課題:15% レポート:15% テスト:70%		

共通英語 F		後期 1 単位	1年
映画で英語を学ぶ		矢部 寿美子 (やべ すみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	映画の教材を通して多様な英語の表現・発音を学び、英語圏文化とその歴史的・社会的背景に対する知識と理解を深めながらコミュニケーション能力を強化する。特に1960年代以降の現代アメリカ社会に焦点をあて、様々な地域・時代・文化・民族の中での英語表現の違いを理解する。		
授業の概要	映画の教材として、The Devil Wears Prada, Stand By Me, The Help, Transamerica の4つを取り上げる。授業のはじめに映画の一部を見て、概要を掴む。その後、発音・語彙・表現・文法を確認する。当時の時代背景なども明らかにしながら、言語・非言語表現を会得する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction 第2回 The Devil Wears Prada - 1 概要 第3回 The Devil Wears Prada - 2 表現・文法等 第4回 The Devil Wears Prada - 3 時代背景 第5回 Stand By Me - 1 概要 第6回 Stand By Me - 2 表現・文法等 第7回 Test, Review 第8回 The Help - 1 概要 第9回 The Help - 2 表現・文法等 第10回 The Help - 3 時代背景 第11回 Transamerica - 1 概要 第12回 Transamerica - 2 表現・文法等 第13回 Transamerica - 3 時代背景 第14回 Review 第15回 Test, レポート提出		
テキスト	配布資料を用いる。	参考文献	特になし
評価方法	授業感想・課題:15% レポート:15% テスト:70%		

共通英語 F (再履修者用)		前期 1 単位	2年
映画で英語を学ぶ		矢部 寿美子 (やべ すみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	映画の教材を通して、多様な英語の表現・発音を学び、日本と英語文化の違い、表現の違い、文の構成の違いなどに着目しながらコミュニケーション能力を強化する。		
授業の概要	日本のアニメーション『Spirited Away』(千と千尋の神隠し)を教材として使用し、字幕の英語に焦点をあて、日本語と英語の違い、独特な表現、文法、発音などを総復習する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 Spirited Away - 1 : 基本構文 第3回 Spirited Away - 2 : 品詞 第4回 Spirited Away - 3 : 前置詞 第5回 Spirited Away - 4 : 時制 第6回 Spirited Away - 5 : 過去・現在形 第7回 復習 第8回 Test 1 第9回 Spirited Away - 6 : 未来形 第10回 Spirited Away - 7 : 現在完了 第11回 Spirited Away - 8 : 関係詞 第12回 Spirited Away - 9 : 仮定法 第13回 Spirited Away - 10 : 表現 第14回 Review 第15回 Test 2		
テキスト	配布資料を活用する。	参考文献	
評価方法	授業感想・課題:30% テスト:70%		

共通英語 G		前期 1 単位	1年
英文法を学び直す		井伊 順彦 (いい のぶひこ)	
授業の到達目標及びテーマ	英文法の基礎中の基礎から始めて、関係代名詞の初歩まで理解できるようにする。		
授業の概要	文法項目ごとに解説を聴き、練習問題を解いてゆく。学んでいるさなかの文法事項が入った英文を、前もって指名された担当者が読んで訳すという作業も取り入れる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の内容紹介および受講に際しての注意事項の確認 第2回 英語の要素、品詞、人称の説明 第3回 第1、2文型および自動詞の説明 第4回 第3、4文型および他動詞の説明 第5回 第4および5文型の説明 第6回 第1～5文型の復習 第7回 助動詞、接続詞の説明 第8回 to付き不定詞の名詞的用法および形容詞的用法の説明 第9回 to付き不定詞の副詞的用法およびtoなし不定詞の説明 第10回 分詞および動名詞の説明 第11回 受動態および進行形の説明 第12回 完了形の説明 第13回 関係代名詞の説明 (1) 制限用法 第14回 関係代名詞の説明 (2) 非制限用法 第15回 まとめ		
テキスト	とくには定めない。こちらから印刷物を配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	平常点:20% 試験:25% 小テスト:10% レポート:10% 授業感想文:20% 授業に対する貢献度:15%		

共通英語G		前期 1 単位	1年
英文法の基礎を学ぶ		黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) 品詞、5文型、修飾と被修飾の関係について理解する。 2) 時制、助動詞、動名詞、不定詞、現在分詞、過去分詞、受動態、比較、関係代名詞、関係副詞、仮定法など、重要な文法事項を正確に理解する。		
授業の概要	毎回のテーマにそって、講義を中心に授業を進める。 適宜授業内容に関連する課題を与え、クラスで発表してもらう。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション 英語の基礎とは？ 第2回 品詞 第3回 5文型：第1～第3文型 第4回 5文型：第4～第5文型 第5回 時制 第6回 助動詞 第7回 動名詞 第8回 現在分詞 第9回 過去分詞 第10回 受動態 第11回 不定詞 第12回 比較 第13回 関係代名詞 第14回 関係副詞 第15回 仮定法		
テキスト	「読むための基礎英文法」(朝日出版)	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	課題:20% 中間試験:40% 期末試験:40%		

共通英語G		前期 1 単位	1年
英文法と英文読解の基礎		藤村 待子 (ふじむら まちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語を様々な角度から読み解くための手掛かりを理解すること、特に英文読解の前提となる文法の基礎を理解することを目指します。また、それによって、英語で書かれた文章を正確に読んでいくことができるようになることを目標とします。		
授業の概要	教科書とプリントに沿って、英文法を丁寧に確認していきます。補足プリントの例文では、Peter Rabbitやナルニア物語などの引用も用いる予定ですが、授業内容は、なるべく受講者の興味、理解度などで柔軟に修正していきたいと思っています。また、もしも時間があれば、世界の子どもたちと人権の二つに関連して書かれた短い英文も読みたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 文型 第3回 代名詞 第4回 助動詞、時制 第5回 態(1) コミュニケーション上受動態が好まれる場合 第6回 態(2) さまざまな文の受動態 第7回 不定詞 第8回 動名詞 第9回 分詞 第10回 準動詞の復習 第11回 関係詞(1) 関係代名詞 第12回 関係詞(2) 関係副詞 第13回 比較 第14回 仮定法 第15回 まとめ		
テキスト	Keiichiro Fukui and Chikara Kato, <i>Basic English Grammar with Short Readings</i> (『読むための基礎英文法』朝日出版社)、プリントも配布します。	参考文献	授業中に適宜紹介いたします。
評価方法	授業内の課題への取組:30% 提出物:10% 期末試験:60%		

応用英語 I A		前期 1 単位	1年
Talking and learning about Japanese culture through English		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
授業の到達目標及びテーマ	1) to deepen students' understanding of Japanese culture 2) to learn to explain effectively about Japanese culture in English to non-Japanese people		
授業の概要	Before class students read assigned materials and complete weekly worksheets; they share their answers in class in English with other students, interact with the teacher and listen to short lectures.		
授業計画	【前期】 第 1回 Course introduction & Kabuki I 第 2回 Koinobori 第 3回 Boys' Day 第 4回 Kimono 第 5回 Take 第 6回 National Holidays 第 7回 Japanese Religion I 第 8回 Tanuki, Kappa, Tengu & Maneki Neko 第 9回 Kabuki II 第10回 Kekkon & Omiai 第11回 Washi 第12回 Ikebana 第13回 Geisha 第14回 Miso, Shoyu & Tofu 第15回 Review		
テキスト	Introduction to Japanese Culture, edited by Daniel Sosnoski, pub. Tuttle, ISBN 978-4-8053-1095-3	参考文献	None
評価方法	Worksheets :60% Class participation:20% Quizzes:20%		

応用英語 I B		前期 1 単位	1年
American Culture I		オクマ (OKUMA, G. S.)	
授業の到達目標及びテーマ	This semester-long course will explore the questions: What is the nature of American culture? Is America a multicultural country?		
授業の概要	1. To introduce students to the events that have resulted in the present culture of America. 2. To introduce students to the term 'multicultural'. 3. To give students the opportunity to think about their own roots.		
授業計画	【前期】 第 1回 Course Introduction 第 2回 Native Americans 第 3回 Colonial Period 第 4回 European Immigration (Old immigrants) 第 5回 European Immigration I (New immigrants) 第 6回 Effects of Immigration 第 7回 Presentations 第 8回 Midterm Examination 第 9回 African Americans (Slave Trade) 第10回 African Americans (Slavery) 第11回 African Americans (Civil Rights Movement I) 第12回 African Americans (Civil Rights Movement II) 第13回 Racism in America 第14回 Presentations 第15回 Final Examination		
テキスト	Handouts will be provided by the instructor.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Tests:50% Presentations:30% Homework:20%		

応用英語 I C		前期 1 単位	1年
Giving presentations in English		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) to help students understand the structure of speeches and how to write them 2) to build students' confidence in giving oral presentations effectively in front of others.		
授業の概要	Students listen to model speeches, practice them in pairs, write original speeches, and present them in class. They also learn pronunciation, posture, eye contact, vocal techniques and gestures, and use of visual aids.		
授業計画	【前期】 第 1回 Class and course/introduction 第 2回 Self-introduction study 第 3回 Self-introduction/practice 第 4回 Self-introduction/preparation 第 5回 Self-introduction/presentation 第 6回 Introducing someone/study 第 7回 Introducing someone/practice 第 8回 Introducing someone/preparation 第 9回 Introducing someone/presentation 第10回 Demonstration speech/study 第11回 Demonstration speech/practice 第12回 Demonstration speech/preparation 第13回 Demonstration speech/presentation 第14回 Layout speech/study 第15回 Layout speech/practice		
テキスト	Getting Ready For Speech by Charles LeBeau / David Harrington, pub. Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9	参考文献	None
評価方法	Presentations:80% Class Participation:20%		

応用英語 I D		前期 1 単位	1年
English Through Drama I		オクマ (OKUMA, G. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	1.To introduce students to drama techniques. 2.To give students an opportunity to express themselves in English in front of an audience.		
授業の概要	Students in this semester-long course will learn English through drama techniques. This informal, fun, and non confrontational method will increase their confidence in communicating in English inside and outside the classroom. Games, short sketches, role plays and other activities will be brought into the classroom.		
授業計画	【前期】 第 1回 Course Introduction 第 2回 Games & Physical Warm-ups 第 3回 Voice Warm-up Activities 第 4回 Role-Plays 第 5回 Sketches 第 6回 Sketch Assignments A 第 7回 Rehearsals A 第 8回 Mini-Sketch Presentations 第 9回 Evaluations 第10回 Mini-Activities 第11回 Body Language 第12回 Sketch Assignments B 第13回 Video Clip/Discussion 第14回 Rehearsals B 第15回 Final Presentations		
テキスト	Handouts will be provided by the instructor.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Presentations :50% Participation :25% Homework:25%		

応用英語 I E		前期 1 単位	1年
This course is designed to help students improve their English ability to work effectively in a business setting. Students will learn some idiomatic expressions...		ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)	
授業の到達目標 及びテーマ	Students will improve their interpersonal and communication skills. At the end of the course, they can express their thoughts and opinions with confidence, and be able to prepare good resumes.		
授業の概要	This course offers a good setting for students who are preparing to seek employment. Detailed description of the course will be explained at the first lecture.		
授業計画	【前期】 第 1回 Course introduction: Expectations, values, attitudes 第 2回 Communication strategies 第 3回 Role play 第 4回 Idiomatic expressions 第 5回 Skills and interests 第 6回 Business letters 第 7回 Write business letter 第 8回 Re-write business letter 第 9回 Answering a job advertisement 第10回 Re-write application letter 第11回 Writing a resume 第12回 Re-write resume 第13回 Writing a cover letter 第14回 Rewrite cover letter 第15回 Submit resume and cover letter; course evaluation		
テキスト	No textbook.	参考文献	None
評価方法	Participation:30% Homework:20% Final test:40% In-class work:10%		

応用英語 II A		後期 1 単位	1年
Talking and learning about Japanese culture through English		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) to deepen students' understanding of Japanese culture 2) to learn how to explain effectively about Japanese culture in English to non-Japanese people.		
授業の概要	Before class students read assigned materials and complete weekly worksheets; they share their answers in class in English with other students, interact with the teacher and listen to short lectures.		
授業計画	【後期】 第 1回 Course Introduction & Mata Tabi 第 2回 Enka 第 3回 Soba & Udon 第 4回 Japanese Writing 第 5回 Japanese Names 第 6回 Geta 第 7回 Shichi-Go-San 第 8回 Kabuki III 第 9回 Japanese Religion II 第10回 Ocha & Chanoyu 第11回 Japanese Games/ Hanafuda & Hyakunin Isshu 第12回 Hagoita 第13回 Shogatsu 第14回 Wagashi 第15回 Review		
テキスト	Introduction to Japanese Culture, edited by Daniel Sosnoski, pub. Tuttle, ISBN 979-4-8053-1095-3	参考文献	None
評価方法	Worksheets:60% Class participation:20% Quizzes:20%		

応用英語ⅡB		後期 1 単位	1年
American Culture II		オクマ (OKUMA, G. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	This semester-long course follows American Culture I. Students will continue to examine the different changes which each ethnic group brought to America.		
授業の概要	1. To introduce students to the events that have resulted in the present culture of America. 2. To introduce students to the term 'multicultural' .		
授業計画	【後期】 第1回 Course Introduction 第2回 Asian and Pacific Americans 第3回 Chinese Americans 第4回 Korean Americans 第5回 Japanese Americans (Immigration and Assimilation) 第6回 Japanese Americans (Incarceration, War, Redress) 第7回 Presentations 第8回 Midterm Examination 第9回 Latinos 第10回 Hispanics 第11回 Illegal Immigration 第12回 Refugees 第13回 Contemporary Immigration 第14回 Presentations 第15回 Final Examination		
テキスト	Handouts will be provided by the instructor.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Tests:50% Presentations:30% Homework :20%		

応用英語ⅡC		後期 1 単位	1年
Giving presentations in English		ウィルソン (WILSON, J. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) to help students understand the structure of speeches and how to write them 2) to build students' confidence in giving oral presentations effectively in front of others.		
授業の概要	Students who have completed the first semester continue to listen to model speeches, practice them, write original speeches and present them in class. Students also learn pronunciation, posture, eye contact, vocal techniques and gestures, and use of visual aids.		
授業計画	【後期】 第1回 Layout speech/preparation 第2回 Layout speech/presentation 第3回 Book & movie review/study 第4回 Book & movie review/practice 第5回 Book & movie review/preparation 第6回 Book & movie review/presentation 第7回 Show and tell speech/study 第8回 Show and tell speech/practice 第9回 Show and tell speech/preparation 第10回 Show and tell speech/presentation 第11回 Final speech/study 第12回 Final speech/practice 第13回 Final speech/preparation 第14回 Final speech/presentation (group1) 第15回 Final speech/presentation (group2)		
テキスト	Getting Ready For Speech by Charles LeBeau / David Harrington, pub. Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9	参考文献	None
評価方法	Presentations:80% Class participation:20%		

応用英語ⅡD		後期 1 単位	1年
English Through Drama II		オクマ (OKUMA, G. S.)	
授業の到達目標 及びテーマ	1.To introduce students to drama techniques. 2.To give students an opportunity to express themselves in English in front of an audience.		
授業の概要	This semester-long course follows English Through Drama I. Students will continue to learn and enjoy using English using drama techniques.		
授業計画	【後期】 第1回 Course Introduction 第2回 Drama Techniques 第3回 Expressions 第4回 Emotions/Role plays 第5回 Sketch I 第6回 Preparation/Practice/Presentations 第7回 Sketch II 第8回 Preparation/Practice/Presentations 第9回 Sketch III 第10回 Preparation/Practice/Presentations 第11回 Sketch IV 第12回 Preparation/Practice/Presentations 第13回 Rehearsals 第14回 Final Performance 第15回 Evaluations		
テキスト	Handouts will be provided by the instructor.	参考文献	Information will be given in class.
評価方法	Final Performance:50% Participation:25% Homework:25%		

応用英語ⅡE		後期 1 単位	1年
Students will learn communication strategies, critical thinking, about advertisements, buying and selling, job interviews and business meetings.		ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)	
授業の到達目標 及びテーマ	Students will improve their interpersonal and communication skills, prepare for interviews; build up teamwork and actively participate in problem-solving activities.		
授業の概要	This course offers a good setting for students who are preparing to seek employment. A detailed description of the course will be explained at the first lecture.		
授業計画	【後期】 第1回 Course introduction; expectations, values, attitude 第2回 Communication strategies/inquiries 第3回 Communication strategies/Job interviews 第4回 Role play - job interviewing 第5回 Critical thinking 第6回 Advertisements 第7回 Problem-solving and simulation 第8回 Buying and selling exercises 第9回 Organizing a meeting, agenda, writing minutes 第10回 Role play - conducting a business meeting 第11回 Review resume and cover letter writing 第12回 Rewrites 第13回 Final practice 第14回 Review 第15回 Final role play		
テキスト	No textbook. Printouts will be handed out in class accordingly.	参考文献	None
評価方法	Participation:30% Homework:20% Final test:40% In-class work:10%		

フランス語 I		前期 1 単位	1年
日常のコミュニケーション能力を獲得するために		加藤 行男 (かとう ゆきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	毎回の授業を通してフランス語の綴り字と発音の対応関係をしっかりと身につける。基本動詞の現在形の活用を学習し、それに基づいて、疑問の表し方、あるいは答え方などを習得し、必要な情報を獲得し、また発信できるようになること。		
授業の概要	毎回の授業で音読の練習を行う。初めてのフランス語であるから、フランス語の仕組み＝文法に関しては教員が少しづつ説明していくが、その他の練習などは教員と受講生との口頭でのやり取りを基本として進めていき、最後に板書によって確認していく。各テーマが終わる毎に小テストとしてディクテーションを行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 フランス語の音と文字、数字 第2回 フランスとはどんな国？ 第3回 あいさつの表現 第4回 名詞の性数、冠詞、前置詞と定冠詞の縮約 第5回 空港での会話―両替所にて 第6回 形容詞の変化、所有形容詞、提示の表現 第7回 ホテルでの会話―フロントにて 第8回 特殊な形容詞、人称代名詞強勢形、il y a ~の表現 第9回 郵便局の窓口での会話 第10回 電話での会話 第11回 否定文、指示形容詞 第12回 avoir +無冠詞名詞の表現 第13回 カフェでのウェイターとの会話 第14回 疑問文、非人称構文 第15回 メトロの窓口での会話		
テキスト	はじめてのパリ―新・改訂版― (朝日出版社)	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%		

フランス語 I		前期 1 単位	1年
フランス語の基礎の理解と実践		杉山 友一 (すぎやま ゆういち)	
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語の初歩的な文法と会話表現を習得する。特に規則動詞を中心とする基本的な動詞を、主に1人称及び2人称の現在形で用いた単文、及びそれによって作られている短い会話の理解と発話ができるようになる。		
授業の概要	最初からテキスト付属のCDを使い、文字を見ずに発音を聞きまねをして、音に親しむ。できる限り1人1人が発音し、フランス語を発音する行為自体に慣れると共に、2人での発話練習も行う。発話するメカニズムとしての文法を重視し、文法を当初から丁寧に学習する。各課ごとに本文の内容と文法の復習を行う。小テストによって効果測定を実施する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 自己紹介 (日本語)、フランスの地理、挨拶の練習 第2回 挨拶の復習、名前、国籍、職業を言う (文法と発音) 第3回 名前、国籍、職業を言う (会話と練習問題) 第4回 前課の復習、年齢と家族 (文法と発音) 第5回 年齢と家族 (会話と練習問題) 第6回 前課の復習、好きなもの (文法と発音) 第7回 好きなもの (会話と練習問題) 第8回 前課の復習、持ち物 (文法と発音) 第9回 持ち物 (会話と練習問題) 第10回 前課の復習、友達 (文法と発音) 第11回 友達 (会話と練習問題) 第12回 前課の復習、近い未来と近い過去 (文法と発音) 第13回 近い未来と近い過去 (会話と練習問題) 第14回 前課の復習、時間、天候 (文法と発音) 第15回 時間、天候 (会話と練習問題)		
テキスト	東京-パリ、初飛行 (藤田祐二、藤田知子、S. Gyllet : 駿河台出版社)	参考文献	東京-パリ、フランス語の旅 (藤田祐二他 : 駿河台出版社)、フランス文法の入門 (島岡茂 : 白水社)
評価方法	試験:70% 授業中の問題:10% 小テスト:20%		

フランス語 I		前期 1 単位	1年
初めてのフランス語		檜垣 嗣子（ひがき つぎこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	英語とは異なるフランス語の音・綴りに慣れ、知らない単語でも発音を推測できるようになる。 挨拶などの初歩的な表現を身につける。		
授業の概要	教科書にそって進みますが、発音練習やフランス語での受け答えを頻繁におこなうため、受講者には積極的な参加が求められます。また、習ったことが確実に身につくよう、第3回以降の授業では冒頭に必ず小テストをおこないます。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／フランス語の発音とアルファベット</p> <p>第2回 あいさつの表現</p> <p>第3回 男性名詞と女性名詞：「ここに～がある」</p> <p>第4回 冠詞：「これは何ですか」</p> <p>第5回 主語と第一群規則動詞：「私はフランス語を話します」</p> <p>第6回 疑問文の作り方</p> <p>第7回 まとめの試験/形容詞：「彼女は青い花が好きです」</p> <p>第8回 疑問に対する答え方と否定文</p> <p>第9回 所有形容詞：「君は自分の部屋で勉強するの」</p> <p>第10回 動詞être：「あなたのお母さんはお医者さんですか」</p> <p>第11回 様々な職業や家族に関する言葉をおぼえる</p> <p>第12回 動詞avoir：「冷蔵庫にリンゴがあります」</p> <p>第13回 冠詞の変化</p> <p>第14回 部分冠詞と動詞prendre：「毎朝コーヒーを飲みます」</p> <p>第15回 まとめと復習</p>		
テキスト	内藤陽哉・玉田健二著『フランス語へのパスポート（三訂版）』（白水社）	参考文献	授業で随時紹介。仏和辞典の購入については初回にアドバイスします。
評価方法	小テストと提出物:20% 授業内試験:30% 定期試験:50%		

フランス語 I		前期 1 単位	1年
フランス語入門		二川 佳巳（ふたがわ よしみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語入門のクラスとして、フランス語を正しく発音し、文法規則の初歩を身につけることを目標とする。		
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時小テストを行い、最後に定期試験を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イントロダクション、ABC</p> <p>第2回 短母音字と複母音字の読み方</p> <p>第3回 鼻母音字と子音字の読み方</p> <p>第4回 簡単な挨拶</p> <p>第5回 名詞と定冠詞</p> <p>第6回 -er動詞、リエゾン・アンシェヌマン</p> <p>第7回 不定冠詞、命令文</p> <p>第8回 動詞 être、国籍・職業の名詞</p> <p>第9回 形容詞の性・数</p> <p>第10回 指示形容詞、否定文</p> <p>第11回 疑問文</p> <p>第12回 所有形容詞、前置詞と定冠詞の縮約</p> <p>第13回 動詞 avoir、数</p> <p>第14回 疑問形容詞</p> <p>第15回 動詞 aller と venir</p>		
テキスト	足立和彦ほか『パルトン！パルロン！』（第三書房）	参考文献	最初の授業で指示
評価方法	定期試験:50% 課題:20% 小テストと平常点:30%		

フランス語Ⅱ		後期 1 単位	1年
コミュニケーションの幅を広げよう		加藤 行男 (かとう ゆきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	綴り字と発音の対応関係の習得度をより確かなものとする。また不規則動詞の活用、さまざまな代名詞の使い方を学習し、現在形だけでなく過去形による幅広い表現を理解し、多様な話題について発信できるようになること。		
授業の概要	毎回、音読の練習を行う。文法事項の説明は教員が行うが、その他の作業は受講生各人にやってもらうので、受け身の学習にならないように積極的に取り組んでもらいたい。口頭でのやり取りだけでなく、受講生に板書してもらうこともある。各テーマが終わる毎にディクテーションを実施する。		
授業計画	【後期】 第1回 近い未来と近い過去の表現、疑問形容詞 第2回 中性代名詞 en と y 第3回 観光バスに乗るための会話 第4回 命令形、目的語となる人称代名詞 第5回 食料品店での会話 第6回 疑問代名詞 第7回 疑問副詞 第8回 レストランでの会話 第9回 過去分詞、複合過去形 第10回 受動態 第11回 美術館での会話 第12回 比較級・最上級 第13回 代名動詞、性数のある指示代名詞 第14回 プティックでの会話 第15回 さらなるフランス語学習を目指してーフランス語の全体像		
テキスト	はじめてのパリー新・改訂版ー (朝日出版社)	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%		

フランス語Ⅱ		後期 1 単位	1年
フランス語の基礎の理解と実践 過去、彼／彼女		杉山 友一 (すぎやま ゆういち)	
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語の初歩的な文法と会話表現を習得する。使用する動詞を不規則動詞及び3人称、過去形・完了形に広げ、単文の他に複文構造も取り入れて、次第に複雑な内容の会話ができるようになる。		
授業の概要	1から引き続き1人1人が発音し、フランス語を発音する行為自体に慣れていくが、発音が同じでもスペルが異なる表現など知識の正確さ、多様さを重視する。そのため、IIでは筆記のウェイトを増やし、学生が板書する機会を増やす。		
授業計画	【後期】 第1回 7月の試験の解説 第2回 数量の表現 (文法と発音) 第3回 数量の表現 (会話と練習問題) 第4回 前課の復習、紹介する (文法と発音) 第5回 紹介する (会話と練習問題) 第6回 前課の復習、一日を語る (文法と発音) 第7回 一日を語る (会話と練習問題) 第8回 前課の復習、依頼と命令 (文法と発音) 第9回 依頼と命令 (会話と練習問題) 第10回 前課の復習、未来について語る (文法と発音) 第11回 未来について語る (会話と練習問題) 第12回 前課の復習、過去について語る (完了形、文法と発音) 第13回 過去について語る (完了形、会話と練習問題) 第14回 前課の復習、過去について語る (半過去、文法と発音) 第15回 過去について語る (半過去、会話と練習問題)		
テキスト	東京-パリ、初飛行 (藤田祐二、藤田知子、S. Gyllet : 駿河台出版社)	参考文献	東京-パリ、フランス語の旅 (藤田祐二他 : 駿河台出版社)、フランス文法の入門 (島岡茂 : 白水社)
評価方法	試験:70% 授業中の問題:10% 小テスト:20%		

フランス語Ⅱ		後期 1 単位	1年
フランス語の基礎		檜垣 嗣子（ひがき つぎこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	基礎的なフランス語の理解力・運用能力を身につける。 簡単な質問や受け答え、自己紹介ができるようになる。		
授業の概要	教科書にそってフランス語の基礎を学びます。 発音練習や基本文の変形練習をくり返し、また、授業のはじめには前回の内容について小テストをおこないます。		
授業計画	【後期】 第1回 発音と綴りの練習 第2回 第二群規則動詞を使った表現 第3回 疑問形容詞を使った質問 第4回 allerとvenirを使った表現 第5回 場所を示す代名詞/命令法 第6回 近い未来と近い過去 第7回 授業内試験/疑問副詞の使い方 第8回 目的語人称代名詞を使う 第9回 pouvoirとvouloirを使った表現 第10回 前置詞を使った表現/疑問代名詞 第11回 関係代名詞/比較級と最上級 第12回 比較の表現と人称代名詞強勢形 第13回 代名動詞を使った表現 第14回 非人称動詞：天気や時間の表現 第15回 作文練習と総まとめ		
テキスト	内藤陽哉・玉田健二著『フランス語へのパスポート （三訂版）』（白水社）	参考文献	授業中に随時紹介します。
評価方法	小テストと提出物:20% 授業内試験:30% 定期試験:50%		

フランス語Ⅱ		後期 1 単位	1年
フランス語の初級		二川 佳巳（ふたがわ よしみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	フランス語Ⅰに続く初級のクラスとして、やさしいフランス語の文を理解し表現できるようにする。		
授業の概要	毎回必要事項を解説した後、演習形式で授業をすすめる。随時動詞活用の小テストを行い、最後に定期試験を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 人称代名詞の強勢形 第2回 -ir動詞、動詞 vouloirとpouvoir 第3回 時刻表現と時間に関する疑問文 第4回 天候表現、場所やいき方をたずねる 第5回 部分冠詞、動詞 prendreとboire 第6回 疑問代名詞 第7回 代名動詞、理由をたずねる疑問副詞 第8回 目的語人称代名詞 第9回 中性代名詞 en、数・量をたずねる疑問副詞 第10回 動詞 faire、否定文の冠詞 第11回 近接未来と近接過去、動詞 savoirとconnaître 第12回 中性代名詞 y、様子・方法・状態をたずねる疑問副詞 第13回 過去分詞、知覚動詞、序数 第14回 複合過去 第15回 比較級と最上級		
テキスト	足立和彦ほか 『パルトン！パルトン！』（第三書房）	参考文献	特になし
評価方法	定期試験:50% 課題:20% 小テストと平常点:30%		

ドイツ語 I		前期 1 単位	1年
ドイツ語の第一歩		飯田 道子 (いいた みちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語初習者を対象とした授業です。初級文法を学びながら、「話す・聴く・書く・読む」の基本的な力をつけていきます。あいさつや自己紹介からはじまり、簡単な日常会話ができるようになります。		
授業の概要	初級文法、基本単語、表現、正確なイントネーションと発音等、話す・聴く・書く・読むの総合的な力をバランスよく身につけていきます。授業はパートナー練習を多く取り入れていきますので、積極的な参加を重視します。ほかにも映像などの資料を多くとりいれて、ドイツを身近に感じられるようにしていきたいと思います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 簡単なあいさつから 第2回 自己紹介 アルファベットと発音の基礎知識 第3回 お互いに知り合う 第4回 動詞の現在人称変化 (規則変化) 第5回 動詞の現在人称変化 (sein) 第6回 動詞の現在人称変化 (haben 不規則変化動詞) 第7回 名詞の性 第8回 冠詞 ~好きな食べ物 第9回 冠詞類 第10回 不規則な変化をする動詞 第11回 分離動詞 ~週末の予定、一日の行動など 第12回 話法の助動詞 ~「~したい」という表現 第13回 非人称 ~天気の状態 第14回 「夏休みは何をする？」 第15回 前期の総まとめ、試験		
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」(飯田・江口)三修社	参考文献	特になし
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%		

ドイツ語 I		前期 1 単位	1年
ドイツ語入門		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標 及びテーマ	読む、書く、聴く、話すという多角度で、実際のドイツ語の初歩ができるようになる。		
授業の概要	ドイツ語について各章ごとにテーマのある、学生同士の対話中心のテキストに沿って進め、発音練習、文法説明後に確認練習、テキスト付属CDを使っているキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の概要説明、アルファベット 第2回 発音 第3回 動詞、語順 第4回 挨拶 第5回 名詞 第6回 冠詞 第7回 前置詞 第8回 人称代名詞 第9回 不規則変化動詞 第10回 命令文 第11回 冠詞類 第12回 話法の助動詞 第13回 形容詞 第14回 複数形 第15回 まとめ		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書 (最初の時間に紹介するので、毎時間携帯してくること)
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

ドイツ語Ⅱ		後期 1 単位	1年
ドイツ語の基礎がため		飯田 道子 (いいだ みちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	初級文法に関する基本的な知識を完成させ、コミュニケーション力を養成していきます。複雑な文章にもチャレンジしてドイツ語の文体に慣れていきます。		
授業の概要	前期に学んだ内容を発展させて、さらに複雑な構造の文を理解し、話し、書けるようにしていきます。前期と同様に、パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。映像資料を参考に、ドイツの歴史なども学んでいきたいと思えます。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期の簡単な復習</p> <p>第2回 「夏休みは何をした？」など過去のできごとを表現する</p> <p>第3回 動詞の三基本形を学ぶ</p> <p>第4回 前置詞を使って、位置や場所に関する表現を学ぶ</p> <p>第5回 過去形と現在完了</p> <p>第6回 受動文 ～修理や・家事・料理に関する表現</p> <p>第7回 再帰表現 ～趣味や楽しみにしていることなど</p> <p>第8回 ふたつの文をひとつにする方法</p> <p>第9回 比較・最上級</p> <p>第10回 zu不定詞を使って表現</p> <p>第11回 従属の接続詞と副文</p> <p>第12回 非現実の表現</p> <p>第13回 「もしも～だったら」という表現</p> <p>第14回 総復習</p> <p>第15回 一年のまとめ、試験</p>		
テキスト	「アプファールト スキットで学ぶドイツ語」(飯田・江口著 三修社)	参考文献	特になし
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題,小テスト:30% 期末試験:40%		

ドイツ語Ⅱ		後期 1 単位	1年
初級ドイツ語		大谷 美奈 (おおたに みな)	
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語Ⅰで習得した入門ドイツ語をさらに深めて、初級ドイツ語を一通り理解し、実践的運用ができるようになる。		
授業の概要	テキストに沿って進め、文法説明後に確認練習、日常会話の練習、テキスト付属のCDを使ってのキーワード聞き取り練習などに取り組む。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期の復習、数字</p> <p>第2回 現在完了形</p> <p>第3回 過去形</p> <p>第4回 動詞の三基本形</p> <p>第5回 形式上の主語es</p> <p>第6回 比較表現</p> <p>第7回 副文</p> <p>第8回 日付、時刻の言い方</p> <p>第9回 接続法</p> <p>第10回 手紙の書き方</p> <p>第11回 分離動詞</p> <p>第12回 再帰動詞</p> <p>第13回 受動</p> <p>第14回 関係文</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	『はじめようドイツ語』 Elisabeth Schmidt・須澤通・浜泰子 (郁文堂)	参考文献	独和辞書、その他随時紹介
評価方法	試験:40% 課題提出:60%		

中国語 I		前期 1 単位	1年
はじめの中国語		孔 令敬（こう れいけい）	
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙量と文法の習得を到達目標とする。		
授業の概要	前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 中国語とは 第2回 母音と声調について 第3回 子音について 第4回 鼻母音と特殊母音について 第5回 音節と軽声 第6回 発音と発音表記のまとめ 第7回 動詞述語と形容詞が述語の表現について 第8回 疑問文の作り方について 第9回 まとめと練習（小テストを含む） 第10回 所在と存在を表す表現について 第11回 動作の進行と状態の持続を表す表現について 第12回 まとめと練習（小テストを含む） 第13回 前置詞による構文を使う表現について 第14回 動作の完了と過去を表す表現について 第15回 まとめと練習（小テストを含む）		
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所：東方書店、定価：¥2100 ②中日辞書・発行所：小学館（電子辞書も可）
評価方法	小テストと授業参加度：50% 筆記テスト：50%		

中国語 I		前期 1 単位	1年
中国語で簡単な会話をする		本間 由香利（ほんま ゆかり）	
授業の到達目標 及びテーマ	ピンイン（発音記号）を読めるようにすることと、発音練習を重視し、単語単位ではなく文章を「中国語らしく」読めるよう訓練します。次に、必要最小限の文法を学び、シンプルな文を自分で組み立てられるようになることを目指します。		
授業の概要	比較的簡単なテキストを用いてゆっくりと授業を進めます。次々に新しい事を学ぶのではなく、十分に理解した上で反復訓練を行なうことを中心にします。学生諸君には大きな声で発音すること、進んで質問すること等、積極的に授業に参加して頂くことを期待します。また第三の言語を学び、日本語・英語を見る別の視線を身につける事にも配慮します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 私達が学ぶ「中国語」とは何か 第2回 発音記号について 第3回 発音練習（基礎） 第4回 発音練習（応用） 第5回 第1課 第6回 復習と練習問題 第7回 第2課 第8回 復習と練習問題 第9回 第3課 第10回 復習と練習問題 第11回 第4課 第12回 復習と練習問題 第13回 第5課 第14回 復習と練習問題 第15回 前期のまとめ		
テキスト	『ゼロから学ぶ中国語 検定試験合格への道のり』 周一川 他著 同学社	参考文献	授業内で指示する
評価方法	平常点：60% 定期テストの平均：40%		

中国語Ⅰ		前期 1 単位	1年
初修中国語		劉 書明 (りゅう しよめい)	
授業の到達目標 及びテーマ	初心者に中国語の基礎を教える。 ①中国語の基礎発音、基礎文法、基礎句型等の知識を正確に理解し、確実に身につける。②凡そ単語1000語、基本文法、句型20個を目指す。③日常挨拶、日簡単な会話ができる。		
授業の概要	まず、中国語の発音を母音、子音、声調の3回に分けて授業を進め、練習と復習を念入りに繰り返して行う。 次に、簡単な会話文と文章を中心に基礎文法、句型を習うと同時に、発音の復習も重ねて行う。 尚、授業の一環として宿題、小テストも行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 第1課 発音1、母音 第3回 母音の練習、復習 第4回 第2課 発音2、子音 第5回 子音の練習、復習 第6回 第3課 発音3、声調 第7回 声調の練習、復習 発音の小テスト 第8回 第4課 夏休み 第9回 本文の練習、復習 小テスト 第10回 第5課 外国語学習 第11回 本文の練習、復習 小テスト 第12回 第6課 どこから来たの？ 第13回 本文の練習、復習 小テスト 第14回 1課から3課までの発音の総合復習 第15回 4課から6課までの総合復習		
テキスト	初修中国語テキスト 標準中国語 総合編	参考文献	中日辞典、日中辞典(小学館)、その他、随時配布。
評価方法	練習:20% 宿題:20% 小テスト:10% 定期試験:40% その他:10%		

中国語Ⅱ		後期 1 単位	1年
はじめの中国語		孔 令敬 (こう れいけい)	
授業の到達目標 及びテーマ	到達目標：この講座を通して、習得した発音要領による正確な発音と発音記号の運用、および基礎文型を使った簡単な表現に熟練する上で、修飾語の的確な使用による実用的なコミュニケーションができ、前期と後期を通して中検4級の語彙の習得を目指す。		
授業の概要	授業内容：前期は中国語の発音要領と発音表記の規則をしっかりと理解させた上で、その正確な運用と簡単な文型の学習に重点を置き、後期はより複雑な文型と正しい修飾語の使用による豊かな表現を中心に授業を展開していく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 助動詞を使う表現について 第2回 経験と実現ずみのことを表す表現について 第3回 慣用句を使う表現について 第4回 まとめと練習 (小テストを含む) 第5回 動詞を運用する構文による表現について 第6回 行為の程度を表す表現について 第7回 動作の結果を表す表現について 第8回 まとめと練習 (小テストを含む) 第9回 動作の方向を表す表現について 第10回 これから起きることを表す表現と処置を表す表現について 第11回 比較を表す表現について 第12回 まとめと練習 (小テストを含む) 第13回 使役を表す表現について 第14回 受身を表す表現について 第15回 総まとめと練習 筆記テスト		
テキスト	「はじめの中国語」・私家版	参考文献	①「やさしくくわしい中国語文法の基礎」・発行所： 東方書店、定価：¥2100
評価方法	小テストと授業参加度:50% 筆記試験:50%		

中国語Ⅱ		後期 1 単位	1年
中国語で簡単な会話をする		本間 由香利（ほんま ゆかり）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に学んだ文法事項の理解と反復練習を通じて、自分のこと、身の回りの事柄について、簡単な中国語で会話ができるようになることを目標とします。		
授業の概要	比較的簡単なテキストを用いてゆっくりと授業を進めます。次々に新しい事を学ぶのではなく、十分に理解した上で反復訓練を行なうことを中心にします。学生諸君には大きな声で発音すること、進んで質問すること等、積極的に授業に参加して頂くことを期待します。また第三の言語を学び、日本語・英語を見る別の視線を身につける事にも配慮しま		
授業計画	【後期】 第1回 前期の内容復習 第6課 第2回 復習と練習問題 第3回 第7課 第4回 復習と練習問題 第5回 第8課 第6回 復習と練習問題 第7回 第9課 第8回 復習と練習問題 第9回 第10課 第10回 復習と練習問題 第11回 第11課 第12回 復習と練習問題 第13回 第12課 第14回 復習と練習問題 第15回 後期のまとめ		
テキスト	『ゼロから学ぶ中国語 検定試験合格への道のり』 周一川 他著 同学社	参考文献	授業内で指示する
評価方法	平常点:60% 定期テストの平均:40%		

中国語Ⅱ		後期 1 単位	1年
初修中国語		劉 書明（りゅう しょめい）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に引き続き、中国語の基礎を学ぶ。 ①すでに習った中国語の発音、基礎文法、基礎句型を復習し、更に単語1000語、句型20個を増やす。 ②日常会話、簡単な文章を書けることを目指す。		
授業の概要	始めに、前期の発音、文法、挨拶、会話等の復習を行う。それを基礎にスキルアップを図る。 次に、更に中級の難易度にレベルアップし、会話と文章の学習を行うと同時に、作文の訓練も行う。 前期同様、授業の一環として課題、小テストを行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 前期の復習 第3回 復習の練習、小テスト 第4回 第7課 部屋探し 第5回 本文の練習、復習 第6回 第8課 北京と上海 第7回 本文の練習、復習 小テスト 第8回 第9課 アルバイト 第9回 本文の練習、復習 第10回 第10課 レポート 第11回 本文の練習、復習 小テスト 第12回 第11課 計画と目標 第13回 本文の練習、復習 小テスト 第14回 7課から9課までの総合復習 第15回 10課から11課までの総合復習		
テキスト	初修中国語テキスト 標準中国語 総合編 （朝日出版社）	参考文献	中日辞典、日中辞典（小学館）。その他は、随時配布。
評価方法	練習:20% 宿題:20% 小テスト:10% 定期試験:40% その他:10%		

韓国語 I		前期 1 単位	1年
韓国語と韓国文化		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
授業の到達目標 及びテーマ	この講義では、韓国語の基礎をマスターすることを目的とする。到達目標は基本的な韓国語の読み、書き、聞き取り、それから簡単な日常会話ができるようにすることである。		
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式。 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 オリエンテーション及び韓国語についての全般的な説明 第 2回 第 1 課 基本母音 第 3回 第 1 課 子音について (読み、書き) 第 4回 第 2 課 単語の発音 第 5回 第 3 課 濃音について 第 6回 第 4 課 複合母音 第 7回 第 5 課 終音について 第 8回 第 6 課 子音の呼称 第 9回 第 7 課 鼻音化について 第 10回 第 8 課 流音化について 第 11回 第 9 課 連音について 第 12回 第 1 0 課 平音の濃音化 第 13回 第 1 1 課 私は学生です (肯定形) 第 14回 第 1 2 課 私は学生ではありません (体言否定形) 第 15回 ハングルのワードの打ち方実習		
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業時に随時提示紹介する
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%		

韓国語 I	前期 1 単位	1年
韓国語の発音と会話と文化	金 元恵 (きむ うおんへ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 言語はコミュニケーション及びその国の文化理解のために大切な手段です。 一番近い外国である韓国の言葉を楽しく身につけ、新しい世界を発見することを目指す。 基礎的ハングルの読み書き、簡単な会話、口頭での自己紹介ができるようになることを目標とし、ビデオを見ながら聞き取りの練習をします。</p> <p><授業の概要> テキストが中心になります。練習問題を宿題として出します。同時にテキスト以外のものも多く学びます。 文法を習得して短文作成を学ばせる。充分練習した自己紹介を発表することによって、自信を持たせます。 「friends」のビデオを見せつつ言葉、会話、文化を学びます。</p> <p><授業計画> 前期 第 1回 ハングルの由来と文化 第 2回 文字について、母音について、単語の発音と書く練習 第 3回 文字について、子音について、単語の発音と書く練習 第 4回 文字について、濃音について、単語の発音と書く練習 第 5回 文字について、終声（バッチム）の練習 第 6回 日常生活の基本的な単語の意味と発音練習（TESTのため） 第 7回 自己紹介の文をつくる。発音の練習（発表のため） 第 8回 基本的な文法を習得。単文づくりを学ぶ。現在形、過去形の表現 第 9回 基本的な文法を習得。単文づくりを学ぶ。否定文の表現 第10回 単語TEST、自己紹介の練習 第11回 日韓合作ドラマ「friend」感想 第12回 日韓合作ドラマ「friend」感想と、言葉を学ぶ 第13回 ビデオに出て来る韓国の文化を学ぶ 第14回 自己紹介の発表TEST 第15回 自己紹介の発表と日・韓合作ドラマの感想文の提出</p> <p><テキスト> 「韓国語の初歩」、白水社、著者：巖基珠 金三順 金天鶴 甲鉉竣 吉川知丈</p> <p><参考文献> 特に定めず授業時に紹介する。</p> <p><評価方法> 発音のTEST:20% 自己紹介のTEST:30% 単語TEST:30% 宿題、授業感想文の内容:20%。 *なお欠席4回を越える受講生は評価の対象としない。</p>		

韓国語 I		前期 1 単位	1年
韓国語		富所 明秀 (とみどころ みよんす)	
授業の到達目標 及びテーマ	韓国語の文字とその音価について学び、正確に発音できるようにする。 活用の基礎となる文法を学ぶ。		
授業の概要	授業の初めに復習をし、小テストを実施するので遅刻はしないこと。小テストの準備をして授業に臨んでほしい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 第1課 基本母音字、第2課子音字その1 第2回 第3課 子音字その2 第3回 第4課 子音字その3 第4回 第5課 7つの終声 第5回 第6課 用言の「ですます形」 第6回 第7課 激音 第7回 第8課 合成母音字 第8回 第9課 濃音 第9回 第10課 連音化 第10回 第11課 疑問形と否定形 第11回 第12課 平音の濃音化 第12回 第13課 日本語のハングル表記 第13回 第14課 激音化・鼻音化・口蓋音化 第14回 復習その1 第15回 復習その2		
テキスト	内山政春著、『しくみで学ぶ初級朝鮮語』、白水社	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:30% 期末テスト:70%		

韓国語 II		後期 1 単位	1年
韓国語と韓国社会		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
授業の到達目標 及びテーマ	この講座では、韓国語の読み書き、聞き取り、会話能力を身につけ、様々な場面で韓国語が駆使できるようにする。		
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出し、翌授業時に提出してもらう。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 第13課 3年生です(漢数詞について) 第2回 第13課 練習 (漢数詞を使つての物の言い方) 第3回 第14課 何と言いますか(物の値段の言い方) 第4回 第14課 練習 疑問文について 第5回 第15課 今、何時ですか(時刻の言い方) 第6回 第15課 練習 固有数字について 第7回 第16課 どこへ行くのですか(用言とその上称形) 第8回 第16課 練習 動詞の上称形について 第9回 第17課 駅から家まで(主な助詞) 第10回 第17課 練習 形容詞について 第11回 第18課 ちょっとお尋ねします(意推量を表わす表現) 第12回 第18課 練習 位置を表わす表現 第13回 第19課 おいくつでいらっしゃいますか(尊敬形) 第14回 第19課 練習 動詞の尊敬形 第15回 第20課 好きではありません(用言否定形)		
テキスト	「書いて覚える朝鮮語」 高島淑郎著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 中間発表:20% 期末試験:30%		

韓国語Ⅱ	後期 1 単位	1年
書いて覚える韓国語	金 元恵 (きむ うおんへ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 多くの日常生活の単語と文法を覚えて、年末年始の生活ぶりに関する内容が書けることを目指す。テキストの各テーマに従って会話ができるようになる。文法に従って様々な長目の文章造りができるようになる。</p> <p><授業の概要> テキストが中心になり、練習問題を宿題として出す。同時にテキスト以外のものも多く学ぶ。形容詞と動詞の語尾の変化を学び、「お正月」のテーマで手紙を書くことを目指します。</p> <p><授業計画> 第 1回 発音の復習 第 2回 基本的な文法を習得。単文作りを学ぶ。 (～している[進行形]、～したい[願望]、の表現) 第 3回 基本的な文法を習得。単文作りを学ぶ。(～するために[目的]、の表現) 第 4回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ① テキスト15課 第 5回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ② テキスト16課 第 6回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ③ テキスト18課 第 7回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ④ テキスト19課 第 8回 日常生活の基本的な形容詞の意味と発音 第 9回 形容詞の発音と単文作りを学ぶ 第10回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ⑤ テキスト20課 第11回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ⑥ テキスト21課 第12回 形容詞のTEST、「カエルの物語」 第13回 テキストに従ってpointとなる日常会話を学ぶ⑦ テキスト23課 第14回 韓国のお正月用語と手紙の書き方、お料理の紹介 第15回 総まとめと復習</p> <p><テキスト> 「韓国語の初歩」、白水社 著者：巖基珠 金三順 金天鶴 甲鉉竣 吉川知文</p> <p><参考文献> 特に定めず、授業時に紹介する。</p> <p><評価方法> 発音のTEST:20% 単語TEST:30% 「お正月」のテーマで手紙を書く:30% 宿題、授業感想文の内容:20% * なお欠席4回を越える受講生は評価の対象にしない。</p>		

TOEIC I		前期 1 単位	1・2年
基本文法の確認とListeningを中心としたTOEIC対策演習		江連 和章（えづれ かずあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	TOEICテスト全般に向けての演習授業だが、特に、基本的文法の復習とListeningに焦点を当てる。（文法全般とReadingについては後期開講のTOEIC IIで扱う。）TOEICで求められる基礎レベルの英語の課題に対応できるようになる。		
授業の概要	TOEICテスト全般に対応するための素地となる基本的文法の確認と、補足説明を加えながらのListeningの演習を中心に行う。更に、語彙の補強や簡単なReadingの演習も行う。教科書とプリントを併用した講義と演習からなる授業であり、毎回の予習と復習が重要である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方、TOEICテストとテキストの紹介 第2回 Listening: Daily Life、文型 第3回 Listening: Eating Out & Amusement、修飾 第4回 Listening: Cooking & Purchasing、形容詞、副詞 第5回 演習（文法、語彙、Reading） 第6回 Listening: Traffic & Travel、基本時制 第7回 Listening: Production & Logistics、進行形 第8回 Listening: Business & Economics、完了形 第9回 演習（文法、語彙、Reading） 第10回 Listening: Advertising & ICT、受動態 第11回 Listening: Health & the Environment、不定詞、動名詞 第12回 Listening: Law & Administration、分詞 第13回 Listening: Employment & Personnel、関係詞 第14回 演習（文法、語彙、Reading） 第15回 総合演習、まとめ		
テキスト	1. 『Seize the Essence of the TOEIC Test』安丸雅子他（著）、金星堂 2. 文法解説資料と補足演習問題（授業時に配布）	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業への参加度:20% 試験:80%		

韓国語 II		後期 1 単位	1年
韓国語		富所 明秀（とみどころ みよんす）	
授業の到達目標 及びテーマ	様々な語尾の意味、活用を学び、ある程度まとまった文章を読解できるようにする。		
授業の概要	前期同様、授業の初めに復習をし、小テストを実施するので遅刻はしないこと。小テストの準備をして授業に臨んでほしい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 第15課 子音語幹用言 第2回 第16課 複数の用言をつなぐ 第3回 第17課 動詞の進行形と連体形 第4回 第18課 固有数字とその単位 第5回 第19課 過去形その1 第6回 第20課 過去形その2 第7回 第21課 あいさつと尊敬形 第8回 第22課 指定詞の否定形・用言の活用と語基 第9回 第23課 形容詞ともうひとつの否定形 第10回 第24課 命令形と意思形 第11回 第25課 リウル語幹用言 第12回 私家版テキストその1（パンマルとヘヨ体） 第13回 私家版テキストその2（ヘヨ体の尊敬形） 第14回 復習その1 第15回 復習その2		
テキスト	内山政春著、『しくみで学ぶ初級朝鮮語』、白水社	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:30% 期末テスト:70%		

TOEIC I		前期 1 単位	1・2年
TOEICへの挑戦— 英語圏の文化に親しもう		佐久間 晶子（さくま あきこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	TOEICは日常生活やビジネスという具体的な場面での「より実地的な英語の能力」を客観的に測るテストです。TOEIC対策には英語のシャワーを浴びること、これが大事です。国内外のニュースを英語で聞いたり、小テストに取り組みます。英語圏の文化に親しみをもちTOEICに挑戦しつづける実践力を身につけていくことを前期の主要テーマとします。		
授業の概要	授業はまずListeningから始める。会話やアナウンス、さらに説明文などを聞きとり、理解するための鍵を解説することに前半が使われる。Listeningの後は、語彙や文法問題に関する小テストを行う。授業の後半はReadingに専念したい。速読やParagraph readingのスキルを確認し、英文を的確に読み取れる訓練をしていきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期の授業方針とクラスルールについて 第2回 Unit 1: Arts & Amusement 第3回 Unit 2: Lunch & Parties 第4回 Unit 3: Medicine & Health 第5回 Unit 4: Traffic & Travel 第6回 Extra work 第7回 Unit 5: Ordering & Shipping 第8回 Unit 6: Factories & Production 第9回 Unit 7: Research & Development 第10回 Unit 8: Computers & Technology 第11回 Unit 9: Employment & Promotions 第12回 Unit 10: Advertisements & Personnel 第13回 Unit 11: Telephone & Messages 第14回 Unit 12: Banking & Finance 第15回 Review & extra work		
テキスト	Essential Approach for the TOEIC Test 大須賀直子、Robert VanBenthuyzen他著 成美堂 出版	参考文献	授業中に紹介します
評価方法	積極的な授業参加:40% 小テスト:30% 期末テスト:30%		

TOEIC II		後期 1 単位	1・2年
文法とReadingを中心としたTOEIC対策演習		江連 和章（えづれ かずあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	TOEICテストの演習授業だが、特に、文法とReadingに焦点を当てる。前期開講のTOEIC I と合わせて、TOEICで求められる英語の課題全般に対応できるようになる。		
授業の概要	TOEICテストで求められる文法事項全般についての整理、語彙の補強そしてReadingの演習を中心に行う。教科書とプリントを併用した講義と演習からなる授業であり、毎回の予習と復習が重要である。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業の進め方、TOEICテストとテキストの紹介 第2回 文型と修飾、演習（文法） 第3回 基本時制、演習（文法） 第4回 演習（文法、語彙、Reading） 第5回 不定詞と動名詞、演習（文法、語彙、Reading） 第6回 分詞と分詞構文、演習（文法、語彙、Reading） 第7回 助動詞、演習（文法、語彙、Reading） 第8回 代名詞、演習（文法、語彙、Reading） 第9回 演習（文法、語彙、Reading） 第10回 関係詞、演習（文法、語彙、Reading） 第11回 比較、演習（文法、語彙、Reading） 第12回 前置詞、演習（文法、語彙、Reading） 第13回 仮定法、演習（文法、語彙、Reading） 第14回 演習（文法、語彙、Reading） 第15回 総合演習、まとめ		
テキスト	1. 『Seize the Essence of the TOEIC Test』安丸雅子他（著）、金星堂 2. 文法解説資料と補足演習問題（授業時に配布）	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業への参加度:20% 試験:80%		

TOEIC II		後期 1 単位	1・2年
TOEICへの挑戦— さらに英語力を磨く		佐久間 晶子（さくま あきこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	TOEICは日常生活やビジネスという具体的な場面での「より実際的な英語の能力」を客観的に測るテストです。前期に引き続き、授業中ならびに授業外に課題をこなす集中力と努力が要求される。就職活動や社会人としてのキャリアアップにおいてもTOEICの高得点が求められる時代だからこそ、切磋琢磨を学生に求めたい。		
授業の概要	授業はまずListeningから始める。会話やアナウンス、さらに説明文などを聞きとり、理解するための鍵を解説することに前半が使われる。Listeningの後は、語彙や文法問題に関する小テストを行う。授業の後半はReadingに専念したい。速読やParagraph readingのスキルを確認し、英文を的確に読み取れる訓練をしていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 後期授業の計画 第2回 Unit 1: Computers and Society 第3回 Unit 2: Business Transaction 第4回 Unit 3: At the Office 第5回 Unit 4: Cars and Society 第6回 Unit 5: Eating and Drinking 第7回 Unit 6: Shopping 第8回 Unit 7: Entertainment 第9回 Unit 8: Accidents & Crimes 第10回 Unit 9: Teaching & Learning 第11回 Unit 10: Medicine & Hospitals 第12回 Unit 11: Finance and Banks 第13回 Unit 12: Economy and Industry 第14回 Unit 13: Geography and Travels 第15回 Review & Extra work		
テキスト	Total Strategy for the TOEIC Test 石井隆之、Thomas Koch他著 成美堂出版	参考文献	授業中に指示します。
評価方法	積極的な参加:40% 小テスト:30% 期末テスト:30%		

編入の英語 I		前期 1 単位	1・2年
基本的な学術的英語能力を修得する		江連 和章（えづれ かずあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	編入に必要な文法や文章読解を中心とする基本的な学術的英語技能を修得し、編入全般に共通して求められる基礎レベルの英語の課題に対応できるようになる。		
授業の概要	講義と演習を通じて、文法、読解、和訳、内容説明、作文を中心とした基礎レベルの学術的英語技能の修得に重点を置く。また、編入英語の一般的傾向を理解し、実際の試験問題を用いた実践的演習も取り入れ、編入英語全般に対応できる基礎力を身につける。そのためには、授業毎回の予習と復習が重要である。		
授業計画	【前期】 第1回 導入 編入に求められる英語能力、授業の進め方 第2回 英文読解（基礎、前半）、品詞と文型 第3回 英文読解（基礎、後半）、修飾 第4回 英文読解（応用、前半）、時制 第5回 英文読解（応用、後半）、助動詞 第6回 英文和訳（基礎）、代名詞と冠詞 第7回 英文和訳（応用）、不定詞と動名詞 第8回 英文の内容説明（基礎）、分詞 第9回 英文の内容説明（応用）、関係詞 第10回 英作文（基礎）、比較 第11回 英作文（応用）、仮定法 第12回 総合演習（基礎、前半） 第13回 総合演習（基礎、後半） 第14回 総合演習（応用、前半） 第15回 総合演習（応用、後半）、まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業への参加度:20% 試験:80%		

編入の英語Ⅰ		前期 1 単位	1・2年
社会・人文系の論説を読み解くための基礎訓練		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会系（政治・社会・経済・法律など）および人文系（哲学・教育・心理・言語・文化など）のアカデミックな論説文をていねいに解読しながら基礎的な文法事項を修得することによって、曖昧な部分を残さずに英文を論理的に読む力を身につけ、編入学試験に求められる英文読解力を養成する。		
授業の概要	論説文のテキストを逐語的に解読する作業を基本としながら、良質な例文を数多く提示することによって文法事項を説明し、訳読にあたっての留意点を示していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業計画と進め方の説明 第2回 テキスト第1課の訳読 第3回 テキスト第1課の文法事項説明 第4回 テキスト第1課の問題演習 第5回 テキスト第2課の訳読 第6回 テキスト第2課の文法事項説明 第7回 テキスト第2課の問題演習 第8回 テキスト第3課の訳読 第9回 テキスト第3課の文法事項説明 第10回 テキスト第3課の問題演習 第11回 テキスト第4課の訳読 第12回 テキスト第4課の文法事項説明 第13回 テキスト第4課の問題演習 第14回 編入学過去問演習（社会系） 第15回 編入学過去問演習（人文系）		
テキスト	教室で随時配布	参考文献	教室で随時提示
評価方法	期末試験：99% 平常点：1%		

編入の英語Ⅱ		後期 1 単位	1・2年
実践的な学術的英語能力を修得する		江連 和章（えづれ かずあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	編入で求められる文章読解を中心とする実践的な学術的英語技能を修得し、専門的な英語の課題にも対応できるようにする。		
授業の概要	受講者数にもよるが、受講者の目指す分野に合わせた編入試験問題を主な教材として、読解、和訳、内容説明、要約、作文を中心とした実践的演習を行う。また、各分野の英語に特徴的な表現や語彙についても補い、それぞれの編入英語に対応できる力を養う。授業毎回の予習と復習が重要である。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入 編入に求められる英語能力、授業の進め方 第2回 英文読解（基礎、応用） 第3回 英文読解（発展） 第4回 英文和訳（基礎、応用） 第5回 英文和訳（発展） 第6回 英文の内容説明（基礎、応用） 第7回 英文の内容説明（発展） 第8回 英文の要約（基礎） 第9回 英文の要約（応用） 第10回 英作文（基礎） 第11回 英作文（応用、発展） 第12回 総合演習（受講者志望分野1：前半） 第13回 総合演習（受講者志望分野1：後半） 第14回 総合演習（受講者志望分野2：前半） 第15回 総合演習（受講者志望分野2：後半）、まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	授業への参加度：20% 試験：80%		

編入の英語Ⅱ		後期 1 単位	1・2年
社会・人文系の論説を読み解くための文脈理解力の養成		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	基本的な文法事項の修得は完了していることを前提に、やや高度な社会系（政治・社会・経済・法など）および人文系（哲学・歴史・教育・心理・言語・文化など）の論説文を読み、さまざまな知識を動員しながら、より深いところに流れる文脈を探り当てる力を養成する。		
授業の概要	論説文のテキストを逐語的に解読する作業を行っていくが、そのさいに、センテンス単位だけで英文を理解するのではなく、パラグラフや文章全体の構造を把握することに重点をおく。さらに、文脈理解のための背景知識を動員する力——歴史認識、社会認識、人間理解の力——を同時に養っていく。		
授業計画	【後期】 第1回 授業計画と進め方の説明 第2回 テキスト第1課の訳読 第3回 テキスト第1課の構造理解 第4回 テキスト第1課の問題演習 第5回 テキスト第2課の訳読 第6回 テキスト第2課の構造理解 第7回 テキスト第2課の問題演習 第8回 テキスト第3課の訳読 第9回 テキスト第3課の構造理解 第10回 テキスト第3課の問題演習 第11回 テキスト第4課の訳読 第12回 テキスト第4課の構造理解 第13回 テキスト第4課の問題演習 第14回 編入学過去問演習（社会系） 第15回 編入学過去問演習（人文系）		
テキスト	教室で随時配布	参考文献	教室で随時提示
評価方法	期末試験：99% 平常点：1%		

フランス語Ⅲ		前期 1 単位	2年
確実な理解を目指して		加藤 行男（かとう ゆきお）	
授業の到達目標 及びテーマ	1年次に学習したことを復習するとともに、話し言葉でも書き言葉でも最もよく用いられる過去形の運用を確実なものにする。また自分自身について、しっかりとした情報を発信できるようになる。		
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、簡単な会話文の理解や作文が授業の中心的な作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や訳読、作文は受講生各自にやってもらう。したがって積極的な取り組みが望まれる。3、4課ごとに小テストを実施する。		
授業計画	【前期】 第1回 綴り字の読み方の復習 第2回 限定詞（冠詞、指示形容詞、所有形容詞） 第3回 聞き取り：人物選択 第4回 直説法現在（規則動詞、不規則動詞）、命令形 第5回 作文：自己紹介 第6回 代名動詞 第7回 人称代名詞、代名詞 on 第8回 短い手紙を読む 第9回 疑問詞 第10回 インタビュー：あなた自身について 第11回 直説法複合過去、近接過去 第12回 インタビュー：夏休みについて 第13回 比較級、最上級 第14回 性・数の一致 第15回 まとめと復習		
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし
評価方法	小テスト：30% 定期試験：70%		

フランス語Ⅳ		後期 1 単位	2年
フランス語の全体像をつかみ、基礎を完成させよう		加藤 行男 (かとう ゆきお)	
授業の到達目標及びテーマ	フランス語基礎学習の最終段階である。未来形やさまざまな過去形を学習し、フランス語の全体像を理解する。同時に語彙力をつけて、検定試験などに対応できるようになる。		
授業の概要	文法事項の学習と練習問題、会話文の理解や作文が授業の中心的作業である。新しい文法事項の説明は教員が行うが、練習問題や会話文の訳読、作文は受講生各自にしてもらう。予習は必須である。3、4課ごとに小テストを実施する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 直説法単純未来、近接未来、非人称表現 第2回 作文：旅行の日程 第3回 直説法半過去 第4回 文の完成：昔と今 第5回 関係代名詞 第6回 直説法複合過去と半過去 第7回 指示代名詞、所有代名詞 第8回 会話文：ショッピング 第9回 中性代名詞 第10回 会話文：青果店での買物 第11回 現在分詞、ジェロンティフ、受動態 第12回 作文：リラックスの仕方 第13回 条件法現在・過去 第14回 接続法現在・過去 第15回 まとめと復習		
テキスト	クリック！クリケ！2年目のフランス語（第三書房）	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:30% 定期試験:70%		

ドイツ語Ⅲ		前期 1 単位	2年
中級へのステップアップ		飯田 道子 (いいた みちこ)	
授業の到達目標及びテーマ	1年次に学んだ文法を復習しながら、未習の文法事項を学び完成させることで、初級から中級へのステップアップをはかります。		
授業の概要	1年次の文法を復習・強化しながら、さらに未習の文法を学びます。パートナー練習を多用しながら実践力をつけていきます。文法の復習順序は参加者のレベルと照らし合わせながら決めていきますが、以下のような内容を考えています。文法学習以外にも、映画を観たりしたいと思います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 自己紹介 第2回 現在完了の復習 第3回 過去のことを語る 第4回 副文の復習 第5回 副文を使って表現 第6回 助動詞の構文 第7回 ニュアンスのある表現 第8回 受動文 第9回 歴史のことを読む 第10回 関係文 第11回 再帰表現 第12回 接続法 第13回 非現実の表現 第14回 夏休みの予定 第15回 まとめ		
テキスト	参加者と話し合っ決定します	参考文献	授業内に適宜指示します
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%		

ドイツ語Ⅳ		後期 1 単位	2年
総合的な力をつけよう		飯田 道子 (いいた みちこ)	
授業の到達目標及びテーマ	これまでに学習したドイツ語文法を使って、高度な内容の文章を読み、聴き取り、自ら発信していく力を養います。		
授業の概要	ドイツについてのさまざまなテーマを選んで、これまでより高度な内容の文章を読んでいきます。ドイツの歴史や文化についての理解を深められるよう、映像資料を取り入れたり、パソコンを使った授業も行っていきたいと思っています。テーマごとのプレゼンテーションも行いたいと思っています。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 夏休みはなにをした？</p> <p>第2回 ドイツとは</p> <p>第3回 ドイツの歴史的、地理的理解</p> <p>第4回 ヨーロッパにおけるドイツ</p> <p>第5回 ドイツのことを調べる</p> <p>第6回 ドイツのことを調べて発表する</p> <p>第7回 ドイツ現代史</p> <p>第8回 ベルリンの壁</p> <p>第9回 壁崩壊</p> <p>第10回 東西ドイツの問題点</p> <p>第11回 メルヒエンを読む—Part.1</p> <p>第12回 メルヒエンを読む—Part.2</p> <p>第13回 メルヒエンの発表</p> <p>第14回 メルヒエンの受容史</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	適宜コピーを配布します	参考文献	授業内に適宜指示します
評価方法	授業での積極性:30% 授業内課題:30% レポート:40%		

中国語Ⅲ		前期 1 単位	2年
役に立つ中国語のために		呉 秀月 (ご しゅうげつ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 初級の復習1：基本動詞・基本形容詞をチェック</p> <p>第2回 初級の復習1：基本形容詞をチェック</p> <p>第3回 初級の復習2：基本文型をチェック</p> <p>第4回 第1課：助動詞の学習</p> <p>第5回 第1課：主述述語文の学習</p> <p>第6回 第1課：目的語が主述句の学習</p> <p>第7回 第2課：「原因・理由」表現の学習</p> <p>第8回 第2課：「逆接」を表す「可是」の学習</p> <p>第9回 第3課：文末の助詞連動文の学習</p> <p>第10回 第3課：「是…的」の文・疑問詞の学習</p> <p>第11回 第4課：「了」の3つの用法</p> <p>第12回 第4課：副詞「就」</p> <p>第13回 第5課：結果補語(1)の学習</p> <p>第14回 第5課：副詞「有点儿」・「假定」を表す「要是」の学習</p> <p>第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】伊景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」(白水社、2013)</p> <p>【参考文献】特になし</p> <p>【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>			

中国語Ⅳ	後期 1 単位	2年
役に立つ中国語のために	呉 秀月 (ご しゅうげつ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>本授業は、中級の中国語履修者を対象とし、中国語のリスニング、会話力、作文及び読解力の向上ができるようになる。実際の授業の進め方は、全員参加を原則とし、一人ずつの会話練習、朗読をくり返すとともに、作文練習によって文法の習熟度を高めていくことができるようになる。リスニングについては、CDやビデオ等の教材を用いて練習し、実際に学生それぞれの中国語聞き取り能力を高めていくことができるようになる。また、受講生の興味に合わせて、中国、台湾、華僑等の文化事情についても随時解説することで、学生の学習意欲を高めていくことができるようになる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中国語Ⅳは、前期の中国語Ⅲに引き続き、一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め一年間の履修を通じて中国語のリスニング、会話、作文、読解力の総合的レベルアップを目指します。授業の進め方は、学生に表現力を身につけさせるため、テキスト以外の文例を学生一人一人に作らせます。さらに学生に自分が作った文例を暗記させ、実際に会話する練習をくりかえすことにより、より高度の表現力や聴き取り能力を身につかせます。また、ビデオ等を使って、現在中国社会のあり方と変化についての理解を深めていくことです。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第 1回 第6課：存現文・主語がブレイズのときの学習 第 2回 第6課：「又…又」の用法の学習 第 3回 第7課：「状態の持続」を表す「着」の学習 第 4回 第7課：副詞「再」・部分否定の学習 第 5回 第8課：方向補語の学習 第 6回 第8課：「使役」を表す疑問詞の不定用法の学習 第 7回 第9課：可能補語の学習 第 8回 第9課：強調表現の学習 第 9回 第10課：「目的」を表す学習 第10回 第10課：「推測」を表す「会」・「～了～了」の用法の学習 第11回 第11課：結果補語(2)の学習 第12回 第11課：「受身」を表す「被」の学習 第13回 第12課：「快～了」の用法の学習 第14回 第12課：介詞「把」の学習 第15回 授業内容の理解</p> <p>【テキスト】尹景春・竹島毅著「中国語 さらなる一歩」(白水社、2013) 【参考文献】特になし 【評価方法】授業参与：30% 試験：70%</p>		

韓国語Ⅲ	前期 1 単位	2年
もっと知りたい韓国語・韓国文化	川村 受映 (かわむら じゅえい)	
授業の到達目標及びテーマ	この講座では、韓国語初級を学んだ学生を対象に、一年目に習った文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能(聞く、話す、読む、書く)を一層高めることを目標にする。	
授業の概要	聞き取り、会話発表、パートナー学習などを取り入れた練習を行う。具体的には授業中二人一つのペアーを組み、会話の練習を繰り返すことである程度の日常会話ができるようにする。なお、韓国関係のDVDや映画などを用いることで、韓国の現代社会や文化にもふれる。	
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 第 1 課 お名前は何とおっしゃいますか(尊敬) 第 2回 第 1 課 ~たら (条件・仮定) 第 3回 第 1 課 ~たら ~しようと思います(意図・計画) 第 4回 第 2 課 朝子といいますが、日本から来ました(説明) 第 5回 第 2 課 ~した後で ~する前に(動作の順序) 第 6回 第 2 課 ~してから、~して以来(期間) 第 7回 第 3 課 魚は焼かないでください(義務) 第 8回 第 3 課 ~てもいいです(許可・禁止) 第 9回 第 3 課 ~しなければなりません(義務) 第10回 第 4 課 ファンの集いに行くことにしました(形容詞) 第11回 第 4 課 ~て、~なので(理由) 第12回 第 4 課 ~することにしました(決心・約束) 第13回 第 5 課 道を渡って左にずっと行ってください(位置) 第14回 第 5 課 ~で(手段) 第15回 第 5 課 ~してから(動作の順序・連絡)</p>	
テキスト	「ちょこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔榮美著 白水社	参考文献 授業時に随時提示紹介する
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%	

韓国語Ⅳ		後期 1 単位	2年
もっと知りたい韓国語・韓国社会		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
授業の到達目標及びテーマ	この講座では、韓国語Ⅲを学んだ学生を対象に、文法、語彙、表現を復習しながら、韓国語のコミュニケーション技能（聞く、話す、読む、書く）を一層高めることを目標にする。		
授業の概要	教科書に沿って講義をすすめる。 講義形式 復習内容：毎回宿題を出す		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 6課 ファンの集いへ行ってみたんですけど 第2回 6課 ～している、～する（動詞・存在詞の現在連体形） 第3回 6課 ～してみました（試行・経験） 第4回 6課 ～なんだけれど（物やできごとの状況説明・感想） 第5回 7課 少し安くしてください 第6回 7課 ～してください（依頼） 第7回 7課 ～してみてください（勧誘・アドバイス） 第8回 7課 ～していただけますか？（より丁寧な依頼） 第9回 8課 私の気持ちですから受け取ってください 第10回 8課 ～だから（理由・根拠） 第11回 8課 ～ですねえ（感嘆） 第12回 8課 ～そうです、～だろうと思います（推測） 第13回 9課 咳がひどくて眠れませんでした 第14回 9課 ～でいらっしゃいます（かしこまった尊敬） 第15回 9課 ～できない（不可能）		
テキスト	「ちょこっとチャレンジ 韓国語」 金順玉・阪堂千津子 崔栄美著 白水社	参考文献	授業中随時紹介する
評価方法	授業態度:20% 課題:30% 期末試験:50%		

短期語学留学A		後期集中 2 単位	1・2年
オーストラリアで英語を学ぶ（夏期）		黒岩 裕（くろいわ ゆたか）	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> 1. オーストラリアのアデレード大学における3～4週間の英語研修で、英語の4技能を向上させる。 2. ホームステイ、他国の学生との交流、現地での生活を通して、日本では経験できない英語使用の機会をもつ。 3. オーストラリアの文化と社会に関する理解を深める。 <p><授業の概要></p> 平日は朝から昼過ぎまで習熟度別の少人数クラスで世界各地からの留学生と机を並べて学び、週末は現地での見学旅行を予定。宿泊はホームステイになる。 <p><テキスト> 現地の英語学校のテキストを用いる。</p> <p><参考文献> 適宜紹介する。</p> <p><評価方法> 現地の英語学校での成績を基に判定する。</p>			

短期語学留学B	春休集中 4 単位	1・2年
オーストラリアで英語を学ぶ（春期）	黒岩 裕（くろいわ ゆたか）	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーストラリアのアデレード大学における5～6週間の英語研修で英語の4技能を向上させる。 2. ホームステイ、他国の学生との交流、現地での生活を通して、日本では経験できない英語使用の機会を持つ。 3. オーストラリアの文化と社会に関する理解を深める。 <p><授業の概要></p> <p>平日は朝から昼過ぎまで習熟度別の少人数クラスで世界各地からの留学生と英語を学ぶ。週末は現地での見学旅行を予定。宿泊はホームステイになる。</p> <p><テキスト> 現地の英語学校のテキストを用いる。</p> <p><参考文献> 適宜紹介する。</p> <p><評価方法> 現地の英語学校での成績を基に判定する。</p>		

日本語Ⅰ		通年 2 単位	1年
アカデミック・ジャパニーズ入門編 (大学で求められる日本語力の養成)		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標及びテーマ	専門書を読むための基礎的技術、講義を聞いてノートを取る技術、レポート・小論文作成など論理的文章を書く際に必要な表現技術の基礎と口頭表現の技術 (特にインタビューとスピーチ等) 大学で学ぶ留学生が必要とされ、求められる日本語力 (アカデミック・ジャパニーズ) の基礎力養成を目指す。		
授業の概要	上記到達目標を目指し、大学で学ぶ留学生が必要とされ求められるアカデミック・ジャパニーズの基礎力養成を日本語の「話す・聞く・読む・書く」の4技能にわたり総合的に伸ばしていく授業である。学生の自律的取り組みを促しつつ、個々の学生の日本語力や学習目的に応じて指導、サポートしていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 文章表現 (表記) / 読解演習/自己紹介 第2回 文章表現 (文体) / 読解 (指示語) 他者紹介 第3回 文章表現・読解 (事実関係) / インタビュー技術導入 第4回 文章表現・読解 (意味解釈) / インタビュー実施 第5回 文章表現・読解 (展開予測) / インタビューまとめ 第6回 文章表現・読解 (推理) / テーマインタビュー導入 第7回 文章表現・読解 (理由・根拠) / テーマインタビュー実施 第8回 小論文 (段落) / 読解 (内容) / テーマインタビュー発表 第9回 小論文 (要約文) / 読解 (意見) / 自由インタビュー導入 第10回 小論文 (要約練習) / 読解 (資料) / 自由インタビュー実施 第11回 小論文 (感想文) / 読解 (手紙) / 自由インタビュー発表 第12回 小論文 (感想文練習) / 読解 (メール) / インタビュー総括 第13回 小論文 (説明文) / 読解まとめ (前半) 第14回 小論文 (説明文練習) / 読解まとめ (後半) 第15回 前期試験前の総復習	<p>【後期】</p> 第1回 小論文技術 (意見文導入) / スピーチ導入 第2回 小論文技術 (意見文練習) / コメントの仕方 第3回 小論文技術 (引用の仕方導入) / 方法説明前半 第4回 小論文技術 (引用の仕方練習) / 方法説明後半 第5回 読解&文章表現 (解説) / 情報提供スピーチ準備 第6回 読解&文章表現 (論説前半) / 情報提供スピーチ実施 第7回 読解&文章表現 (論説後半) / 意見提供スピーチ準備 第8回 読解&文章表現 (随筆前半) / 意見提供スピーチ実施 第9回 読解&文章表現 (随筆後半) / 提言スピーチ準備 第10回 読解&文章表現 (小説前半) / 提言スピーチ実施 第11回 読解&文章表現 (小説後半) - 要約・意見文作成へ 第12回 読解&文章表現 (紀行文) - 要約・意見文作成へ 第13回 読解&文章表現 (ルボ) - 要約・意見文作成へ 第14回 読解&文章表現まとめ - 要約・意見文作成へ 第15回 後期試験前の総復習	
テキスト	授業時に指示する。	参考文献	授業時に適宜指示する。
評価方法	平常点:30% 小課題等の成果:20% 最終試験の成績:50%		

日本語Ⅱ		通年 2 単位	2年
アカデミック・ジャパニーズ 応用編 (大学で求められる日本語力の養成)		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標及びテーマ	日本語Ⅰ (アカデミック・ジャパニーズ入門編) で身に付けた日本語力を更に高め、実践的に伸ばしていくことをねらいとして授業を進める。最終目標としては、各学科で作成する卒業論文の作成過程をこの授業の中でシミュレーションし、総仕上げとする。		
授業の概要	前期では論文の書き方と口頭発表及び討論の技術を扱う。後期では日本又は各自の専門からテーマを選び小論文を作成する。資料収集、調査を実施し、結果を分析し小論文を作成、最後に口頭発表を行う予定。日本語Ⅰと同じく学生の自律的取り組みを促し、個々の学生の日本語力や学習目的、専門に応じた指導、サポートをしていく方針である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 文章表現知識確認1/ニュース概要・意見 第2回 文章表現知識確認2/ニュース概要・意見 第3回 論理的文章の書き方1 (段落) / ニュース概要・意見 第4回 論理的文章の書き方2 (仕組) / ニュース概要・意見 第5回 論理的文章の書き方3 (歴史) / ニュース概要・意見 第6回 論理的文章の書き方4 (分類) / 討論の方法 第7回 論理的文章の書き方5 (定義) / 討論練習1 第8回 論理的文章の書き方6 (要約) / 討論練習2 第9回 論理的文章の書き方7 (要約) / 討論フィードバック 第10回 論理的文章の書き方8 (比較・対照) / ディベートの方法 第11回 論理的文章の書き方9 (因果関係) / ディベート練習 第12回 論理的文章の書き方10 (論説文) / 同上フィードバック 第13回 論理的文章の書き方11 (資料の利用) 第14回 前期まとめ (予備) 第15回 前期試験	<p>【後期】</p> 第1回 小論文作成手順について、アウトラインとは 第2回 テーマ決定、小論文計画書作成、作成方針発表 第3回 資料収集、調査方法について 第4回 資料収集、調査票作成 第5回 資料収集、調査実施前半 第6回 資料分析、調査実施後半 第7回 資料分析、調査結果集計・分析 第8回 小論文作成 (序論) 第9回 小論文作成 (本論) 第10回 小論文作成 (本論) 第11回 小論文作成 (本論) 第12回 小論文作成 (結論) 第13回 小論文作成 (結論、参考文献)、要約文作成 第14回 口頭発表原稿作成 第15回 小論文提出、口頭発表、口頭試問	
テキスト	授業時に指示する。	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	平常点:30% 課題の取り組みと成果:20% 小論文、発表の成績:50%		

健康科学 A		前期 2 単位	1・2年
ライフステージの健康と運動		森下 春枝 (もりした はるえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性の健康について幅広く知識と理解を深め、日常生活に活かせるようにする。 ○ 長寿社会にあって、年老いても自立し生きがいのある生活を送るためには、若い時からどのように心がけることが必要なのかを模索する。 		
授業の概要	健康について歴史上ではどう考えられてきたか、フィットネスブームとダイエットブームは現在の健康や運動のあり方にどう影響を与えてきたか、女性の立場から日常生活を健康で生きがいをもって送るために必要な知識とは、など授業計画に沿って講義する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 現代社会における課題 第 2回 健康な体と心 (歴史上ではどう考えられてきたか) 第 3回 スポーツとジェンダー (社会的な女性スポーツの位置づけ) 第 4回 フィットネスブームとダイエットブーム (ダイエットは必要か) 第 5回 推定エネルギー必要量と運動強度 (身体活動量) 第 6回 運動と栄養 (運動に必要な栄養素、サービッツ数) 第 7回 女性の体と健康 (妊娠、出産、依存症) 第 8回 測定 (骨密度、BMI、体脂肪、背筋力、運動強度など) 第 9回 運動と筋肉 (効果的に鍛えるには) 第 10回 健康維持のための有酸素運動 第 11回 運動と疲労 (疲労回復のために) 第 12回 運動と呼吸・睡眠 第 13回 運動と骨 (健康な骨のために) 第 14回 スポーツ傷害と応急処置 第 15回 まとめ 		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

健康科学 A		後期 2 単位	1・2年
ライフステージの健康と運動		森下 春枝 (もりした はるえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性の健康について幅広く知識と理解を深め、日常生活に生かしていく。 ○ 長寿社会にあって、年老いても自立し生きがいのある生活を送るためには、若い時からどのように心がけることが必要なのかを模索する。 		
授業の概要	健康について歴史上ではどう考えられてきたか、フィットネスブームとダイエットブームは、現在の健康や運動のあり方にどう影響を与えてきたか。女性の立場から日常生活を健康で生きがいを持って送るために必要な知識について、授業計画に沿って講義する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 現代社会における課題 第 2回 健康な体と心 (歴史上ではどう考えられてきたか) 第 3回 スポーツとジェンダー (社会的な女性スポーツの位置づけ) 第 4回 フィットネスブームとダイエットブーム (ダイエットは必要か) 第 5回 推定エネルギー必要量と運動強度 (身体活動量) 第 6回 運動と栄養 (運動に必要な栄養素、サービッツ数) 第 7回 女性のからだと健康 (妊娠、出産、依存症) 第 8回 測定 (骨密度、BMI、体脂肪、背筋力、運動強度など) 第 9回 運動と筋肉 (効果的に鍛えるには) 第 10回 健康維持のための有酸素運動 第 11回 運動と疲労 (疲労回復のために) 第 12回 運動と呼吸・睡眠 第 13回 運動と骨 (健康な骨のために) 第 14回 スポーツ傷害と応急処置 第 15回 まとめ 		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

健康科学B		前期 2 単位	1・2年
女性の健康と運動		昆野 まり子 (こんの まりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	女性らしく生きいきとした生活を送るために、健康とは何か、運動の必要性、思春期の女性として身につけておきたい知識を、講義と演習を通して学びます。		
授業の概要	前半は講義中心で行います。後半は、測定やWS、ライフスタイルチェック等、健康が自分自身の身体、生活習慣と深く結びついていることを再確認する為に、演習的な内容も含んでいきます。講義ですが出席を重視します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 健康と身体の知識 第3回 運動と骨・筋肉 第4回 運動と食事 第5回 運動と呼吸・睡眠 第6回 運動とダイエット① あなたは本当に太っていますか？ 第7回 運動とダイエット② ダイエットのために大切なこと 第8回 測定とワークショップ① あなたの数値を知りましょう 第9回 女性のライフスタイル 第10回 女性の病気 第11回 様々な依存症 第12回 測定とワークショップ② 1か月後のあなたは？ 第13回 障害者とスポーツ 第14回 自己実現 第15回 応急手当 まとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中、適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションシート:20% 最終時のレポート内容:20%		

健康科学B		後期 2 単位	1・2年
女性の健康と運動		昆野 まり子 (こんの まりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	女性らしく生きいきとした生活を送るために、健康とは何か、運動の必要性、思春期の女性として身につけておきたい知識を、講義と演習を通して学びます。		
授業の概要	前半は講義中心で行います。後半は、測定やWS、ライフスタイルチェック等、健康が自分自身の身体、生活習慣と深く結びついていることを再確認する為に、演習的な内容も含んでいきます。講義ですが出席を重視します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 健康と身体の知識 第3回 運動と骨・筋肉 第4回 運動と食事 第5回 運動と呼吸・睡眠 第6回 運動とダイエット① あなたは本当に太っていますか？ 第7回 運動とダイエット② ダイエットのために大切なこと 第8回 測定とワークショップ① あなたの数値を知りましょう 第9回 女性のライフスタイル 第10回 女性の病気 第11回 様々な依存症 第12回 測定とワークショップ② 1か月後のあなたは？ 第13回 障害者とスポーツ 第14回 自己実現 第15回 応急処置 まとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションシート:20% 授業最終レポート:20%		

健康科学C		前期 2 単位	1・2年
運動と健康 一体が変われば心が変わる、心が変われば体も変わる ー		林 眞幾子 (はやし まきこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現在の「体と心=まるごとのからだ」をみつめ、近未来のリアルな「私像」を描きながら健康を身近に引き寄せる具体策を探り、日々の運動実践に繋ぐ意欲的姿勢を育む。		
授業の概要	運動と健康の理論について多角的な視座からアプローチを進め、「からだ」の教養を深めるとともに、ライフステージを輝いて生きる、そのあり方を探究する。 講義を中心とするが、体への気づきを促すためのワークショップ（実践体験）も含めて計画する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 現在の健康度チェックと“からだ”クイズ 第2回 からだ（体と心）ー発育・発達と健康 第3回 20歳からのからだ① 考えて食べる 第4回 20歳からのからだ② 考えて寝る 第5回 20歳からのからだ③ 考えて動く 第6回 からだと運動① 私の体は？ ※ワークショップ 第7回 からだと運動② 体力とは？運動器とは？ 第8回 からだと運動③ 生活のなかでフィットネス 第9回 「感染症や薬物」とからだ 第10回 女性の身体特性 第11回 ダイエットと摂食障害 第12回 健康的なダイエットーリバウンドの秘密 第13回 ボディ・ケア ※ワークショップ 第14回 体のリズム、心の健康 第15回 まとめ、小テスト		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著；共栄出版	参考文献	授業時に資料配付（適宜）
評価方法	理解度チェック（毎時）：80% 小テスト：20%		

健康科学C		後期 2 単位	1・2年
運動と健康 一体が変われば心が変わる、心が変われば体も変わる ー		林 眞幾子 (はやし まきこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現在の「体と心=まるごとのからだ」をみつめ、近未来のリアルな「私像」を描きながら健康を身近に引き寄せる具体策を探り、日々の運動実践に繋ぐ意欲的姿勢を育む。		
授業の概要	運動と健康の理論について多角的な視座からアプローチを進め、「からだ」の教養を深めるとともに、ライフステージを輝いて生きる、そのあり方を探究する。 講義を中心とするが、体への気づきを促すためのワークショップ（実践体験）も含めて計画する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 現在の健康度チェックと“からだ”クイズ 第2回 からだ（体と心）ー発育・発達と健康 第3回 20歳からのからだ① 考えて食べる 第4回 20歳からのからだ② 考えて寝る 第5回 20歳からのからだ③ 考えて動く 第6回 からだと運動① 私の体は？ ※ワークショップ 第7回 からだと運動② 体力とは？運動器とは？ 第8回 からだと運動③ 生活のなかでフィットネス 第9回 「感染症や薬物」とからだ 第10回 女性の身体特性 第11回 ダイエットと摂食障害 第12回 健康的なダイエットーリバウンドの秘密 第13回 ボディ・ケア ※ワークショップ 第14回 体のリズム、心の健康 第15回 まとめ、小テスト		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著；共栄出版	参考文献	授業時に資料配付（適宜）
評価方法	理解度チェック（毎時）：80% 小テスト：20%		

健康科学D		前期 2 単位	1・2年
健康と運動（スポーツ）		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯の健康について運動の観点から考えていくことが中心となる。また、身体のような変化が起るかなどと合わせ健康作りへの知識を深めることが課題となる。		
授業の概要	授業では、現代人の（私たちの）生活習慣や健康への課題を整理し、運動（スポーツ）による身体への影響や変化、そしてその効果と運動の仕方について講義する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 現代のスポーツ 第2回 私たちにとって「健康」とは？ 第3回 生活習慣と健康 第4回 運動の行い方 第5回 運動による影響と効果 第6回 運動と体脂肪の関係 第7回 運動とダイエット 第8回 有酸素運動 第9回 運動と栄養 第10回 運動と骨や筋肉の関係 第11回 骨密度測定 第12回 スポーツと傷害（障害）予防 第13回 成長と運動 第14回 運動プログラムの組み立て方 第15回 スポーツの魅力		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	テスト：70% 平常点：30%		

健康科学D		後期 2 単位	1・2年
健康と運動（スポーツ）		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯の健康について運動の観点から考えていくことが中心となる。また、身体のような変化が起るかなどと合わせ健康作りへの知識を深めることが課題となる。		
授業の概要	授業では、現代人の（私たちの）生活習慣や健康への課題を整理し、運動（スポーツ）による身体への影響や変化、そしてその効果と運動の仕方について講義する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 現代のスポーツ 第2回 私たちにとって「健康」とは？ 第3回 生活習慣と健康 第4回 運動の行い方 第5回 運動による影響と効果 第6回 運動と体脂肪の関係 第7回 運動とダイエット 第8回 有酸素運動 第9回 運動と栄養 第10回 運動と骨や筋肉の関係 第11回 骨密度測定 第12回 スポーツと傷害（障害）予防 第13回 成長と運動 第14回 運動プログラムの組み立て方 第15回 スポーツの魅力		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	テスト：70% 平常点：30%		

健康科学E		前期 2 単位	1・2年
こころの健康		鈴木 幹夫 (すずき みきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>身体の健康に比べ、心の健康について、日常我々は、さほど気にとめないように思われます。それは、心が自らを見つめるとき、その当の心自身の不健康さには気づきにくいという、心の構造上の事情があるのかも知れません。眼は、自らを直接視ることができず、おのれを視るためには鏡を要するように、です。そんな心の健康、不健康について考え</p>		
授業の概要	<p>講義が中心となります。解らないこと疑問があれば、随時その場で質問をしてください。イメージし易いように、なるべく具体的な例を挙げ、解りやすく説明するよう心がけます。下記の授業計画は、おおよその予定であり、多少前後する場合があります。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 総論1 こころと脳</p> <p>第2回 総論2 こころの発達 1 (フロイトの発達理論)</p> <p>第3回 総論3 こころの発達 2 (発達論的性格類型)</p> <p>第4回 各論1 性格の形成、神経症総論</p> <p>第5回 各論2 女性に多い神経症 (ヒステリーについて)</p> <p>第6回 各論3 男性に多い神経症 (強迫症について)</p> <p>第7回 各論4 小児期の問題 (妊娠中注意すべきことなど)</p> <p>第8回 各論5 青年期のこころの健康 1 (思春期やせ症)</p> <p>第9回 各論6 青年期のこころの健康 2 (薬物依存など)</p> <p>第10回 各論7 気分障害 1 (うつ病性障害と双極性障害)</p> <p>第11回 各論8 気分障害 2 (うつ病のメカニズムなど)</p> <p>第12回 各論9 統合失調症 1 (成因、症状と経過など)</p> <p>第13回 各論10 統合失調症 2 (分類、治療など)</p> <p>第14回 周辺領域1 司法精神医学 (精神鑑定について)</p> <p>第15回 周辺領域2 創造と精神医学 (病跡学について)</p>		
テキスト	鈴木幹夫著 『コメディカルのための精神医学』 DTP出版	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書を参照のこと。他は、授業時に随時紹介します。
評価方法	授業途中でのレポート:30% 期末提出のレポート:40% レポートの評価に平常点を加味する:30%		

健康科学E		後期 2 単位	1・2年
こころの健康		鈴木 幹夫 (すずき みきお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>身体の健康に比べ、心の健康について、日常我々は、さほど気にとめないように思われます。それは、心が自らを見つめるとき、その当の心自身の不健康さには気づきにくいという、心の構造上の事情があるのかも知れません。眼は、自らを直接視ることができず、おのれを視るためには鏡を要するように、です。そんな心の健康、不健康について考え</p>		
授業の概要	<p>講義が中心となります。解らないことがあれば、随時その場で質問をしてください。イメージし易いように、なるべく具体的な例を挙げ、解りやすく説明するよう心がけます。下記の授業計画は、おおよその予定であり、多少前後する場合があります。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 総論1 こころと脳</p> <p>第2回 総論2 こころの発達 1 (フロイトの発達理論)</p> <p>第3回 総論3 こころの発達 2 (発達論的性格類型)</p> <p>第4回 各論1 性格の形成、神経症総論</p> <p>第5回 各論2 女性に多い神経症 (ヒステリーについて)</p> <p>第6回 各論3 男性に多い神経症 (強迫症について)</p> <p>第7回 各論4 小児期の問題 (妊娠中注意すべきことなど)</p> <p>第8回 各論5 青年期のこころの健康 1 (思春期やせ症)</p> <p>第9回 各論6 青年期のこころの健康 2 (薬物依存など)</p> <p>第10回 各論7 気分障害 1 (うつ病性障害と双極性障害)</p> <p>第11回 各論8 気分障害 2 (うつ病のメカニズムなど)</p> <p>第12回 各論9 統合失調症 1 (成因、症状と経過など)</p> <p>第13回 各論10 統合失調症 2 (分類、治療など)</p> <p>第14回 周辺領域 1 司法精神医学 (精神鑑定について)</p> <p>第15回 周辺領域 2 創造と精神医学 (病跡学について)</p>		
テキスト	鈴木幹夫著 『コメディカルのための精神医学』 DTP出版	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書を参照のこと。他は、授業中に随時紹介します。
評価方法	授業途中でのレポート:30% 期末提出のレポート:40% レポートの評価に平常点を加味する:30%		

体育実技 A (日本の踊り)		前期 1 単位	1・2年
日本の伝統的民俗舞踊の体得		近藤 清 (こんどう きよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の各地に古くから伝承されている舞踊の中から二つほど習得していくことによって、現代人が忘れかけている日常生活の身体づかひの基本を身につけると共に、心への響き、国際化の中での日本人としての自覚を認識していけるようにする。		
授業の概要	踊りの背景を理解し、練習を積み重ねる。足の動き、重心の動き、手の動き、頭の動き、全身の調和という手順で身につけていく。伝統の振りを模倣するところから始まって、解放された身体でのびのびと踊れることを目指す。浴衣を着て練習を積む。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーションおよびシャトルラン 第2回 こきりこ踊り (足、手) 第3回 こきりこ踊り (総合的に) 第4回 西馬音内盆踊り「音頭」(足) 第5回 西馬音内盆踊り「音頭」(手) 第6回 西馬音内盆踊り「音頭」(足、手) 第7回 西馬音内盆踊り「音頭」(目線、意識) 第8回 西馬音内盆踊り「音頭」(総合的に) 第9回 西馬音内盆踊り「がんけ」(足、手) 第10回 西馬音内盆踊り「がんけ」(目線、意識) 第11回 西馬音内盆踊り「がんけ」(総合的に) 第12回 西馬音内盆踊り「音頭」と「がんけ」(音に乗る) 第13回 西馬音内盆踊り「音頭」と「がんけ」(身体の解放) 第14回 西馬音内盆踊り「音頭」と「がんけ」(動きの統合化) 第15回 発表会とまとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版	参考文献	伝統芸能の系譜 本田安治編 錦正社 「疲れない体をつくる『和』の身体技法」宮田登著 祥伝社
評価方法	受講態度等の平常点:50% 技術点:20% レポート:30%		

体育実技 A (ダンスエクササイズ)		前期 1 単位	1・2年
ダンスエクササイズ		昆野 まり子 (こんの まりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	バレエやコンテンポラリーダンスをはじめとする様々なダンスにおけるエクササイズを学ぶことにより、ダンスに必要なとされる身体性を知り、そこに共通して求められる身体の軸を得ることを目的としています。		
授業の概要	各回ごとに、テーマとなるダンスのVTRを鑑賞し、それぞれのダンサーがどのような技術や表現を行うのかを理解した上で、実際に各ダンスにおけるエクササイズを行っていきます。一言でダンスといっても表現の幅が広いことを知り、実際に行ってみることでより理解を深めたいと思います。(ダンスの入門編の授業となります。)		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション / シャトルラン 第2回 ストレッチ① 全身を大きく伸ばそう 第3回 ストレッチ② 呼吸を用いて伸ばそう 第4回 バレエ① プリエ・ルルヴェ 第5回 バレエ② タンジュ・バットマン 第6回 バレエ③ パッセ・フォンデュ 第7回 コンテンポラリーダンス① リリース 第8回 コンテンポラリーダンス② フロアテクニック 第9回 VTR鑑賞 第10回 ピラティス 第11回 ヨガラティス 第12回 舞踏 第13回 コンタクトインプロヴィゼーション 第14回 ソシアルダンス 第15回 まとめ レポート提出		
テキスト	「健やかな身体をめざして」森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:70% 授業内レポート:15% 授業最終レポート:15%		

体育実技A（バレエエクササイズ）		前期 1 単位	1・2年
バレエエクササイズ		昆野 まり子（こんの まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バレエの基本を楽しく身につけながら、身体に起こる歪みの補正と筋力強化を行います。リラックスした状態の中で自分の心と身体に向き合い、身体のバランス力を回復することを目的とします。		
授業の概要	毎回ゆっくりとしたストレッチから始め、自分の状態をチェックしていきます。その後、バーレッスン、フロアレッスンへと移行していきます。リラックスしながら呼吸法を行ったり、身体についての意識を高めるよう促していきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション / シャトルラン 第2回 ストレッチ 第3回 バーレッスン① VTR鑑賞 プリエ・ルルヴェ 第4回 バーレッスン② タンジュ 第5回 バーレッスン③ パッセ 第6回 バーレッスン④ 2人組でのストレッチ 第7回 バーレッスン⑤ ロンデジャンプ・アテール 第8回 バーレッスン⑥ フォンデュ 第9回 バーレッスン⑦ グラン・バットマン 第10回 VTR鑑賞 第11回 ヨガ ピラティス 第12回 フロアレッスン① ウォーキング 第13回 フロアレッスン② シェネ ワルツ 第14回 フロアレッスン③ ワルツ 第15回 まとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:70% 授業内レポート:10% 授業最終レポート:20%		

体育実技A（ピラティス）		前期 1 単位	1・2年
ピラティス		昆野 まり子（こんの まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	ジョセフ・ピラティスにより考案されたエクササイズを行いながら、しなやかで美しく、バランスのとれた身体作りをしていきます。週1度ピラティスを行うことにより、日頃抱えている身体の問題（腰痛、肩こり、冷え症、生理痛等）も解消していきましょう。		
授業の概要	ピラティスでは、呼吸とコアの意識が非常に重要です。まず、呼吸とコアの意識を持つことを丁寧に行い、次第にアクティブなエクササイズへと移行していきます。回を重ねるごとに身体への意識が高まるよう促していきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション/シャトルラン 第2回 自分の身体を知ろう 測定 ストレッチ 第3回 プレ・ピラティス①呼吸 第4回 プレ・ピラティス②Cカーブ 第5回 スモールボール ストレッチ 第6回 スモールボール 腹筋群 第7回 スモールボール 背筋群 第8回 VTR鑑賞 第9回 セラバンド 四肢 第10回 セラバンド 肩関節肩甲骨周辺 第11回 ビッグボール 骨盤回り 第12回 ビッグボール 背筋腹筋 第13回 ビッグボール ダイナミックな動き 第14回 マットピラティス まとめ 測定 第15回 マットピラティス まとめ レポート提出		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:70% 授業内レポート:10% 授業最終レポート:20%		

体育実技A（バレーボール）		前期 1 単位	1・2年
バレーボール		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯スポーツの1つでもあるバレーボールについてゲームを中心としたプログラムで取り組む。内容としては、ゲームの簡単な構造を理解した上でチームとして一体感を持ってプレーすることを実践し楽しんで身体を動かす。		
授業の概要	はじめに、バレーボールの基本技術であるスパイク、パス、レシーブetcについて、練習を通して技術の確認と調整を行う。次に、その個人の基本技術を連係プレーに発展させていき、チームプレーとして一体感を発揮しゲームに活かしていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン 第2回 ボールヒッティング 第3回 スパイク 第4回 オーバーハンドパスとアンダーハンドパス 第5回 トス 第6回 レシーブ 第7回 基本的な連係プレー 第8回 応用的な連係プレー 第9回 ゲーム① サブレシーブのフォーメーションを知る 第10回 ゲーム② サブレシーブのフォーメーションを活用する 第11回 ゲーム③ カバーリング 第12回 ゲーム④ ラリー中の動き方1 第13回 ゲーム⑤ ブロック 第14回 ゲーム⑥ 状況判断の仕方 第15回 ゲームのまとめ		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版（株）	参考文献	基礎からのバレーボール ナツメ社
評価方法	平常点:60% レポート課題:40%		

体育実技A（フットサル）		前期 1 単位	1・2年
フットサルを楽しむために		武井 大輔（たけい だいすけ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「フットサル」という、11人制のサッカーと比較して、接触プレーが少なく安全及び簡易に行なえるスポーツを体験・習得することにより、今後の人生における「生涯スポーツの実践」に役立てることを目指す。スポーツにおける身体活動を通じて、コミュニケーション能力を高める。		
授業の概要	ゲームを楽しく安全に実施できるようにすることが目的なので、ゲーム及びゲーム形式の練習が中心となります。同時にルールについても習得していきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン 第2回 ①ボールの蹴り方及び止め方の練習 ②簡易ゲーム 第3回 ①ドリブルの練習 ②簡易ゲーム 第4回 ①ボールキープの練習（1対1） ②簡易ゲーム 第5回 ①ボールキープの練習（4対2） ②簡易ゲーム 第6回 ①シュートの練習（パスから） ②ゲーム（5対5） 第7回 ①シュートの練習（ドリブルから） ②ゲーム（5対5） 第8回 ①攻撃におけるチーム戦術 ②ゲーム（5対5） 第9回 ①守備におけるチーム戦術 ②ゲーム（5対5） 第10回 ゲーム（1班vs6班 2班vs5班 3班vs4班） 第11回 ゲーム（5班vs6班 2班vs3班 1班vs4班） 第12回 ゲーム（3班vs6班 1班vs5班 2班vs4班） 第13回 ゲーム（4班vs5班 2班vs6班 1班vs3班） 第14回 ゲーム（4班vs6班 3班vs5班 1班vs2班） 第15回 最終ゲーム（トーナメント戦）		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	実技テスト:70% 提出物（レポート等）:20% 授業への参加態度:10%		

体育実技A（バドミントン）		前期 1 単位	1・2年
バドミントンを楽しむために		武井 大輔（たけい だいすけ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バドミントンという、比較的安全及び簡易に行なえるスポーツを体験・習得することにより、今後の人生における「生涯スポーツの実践」に役立てることを目指す。スポーツにおける身体活動を通じて、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
授業の概要	ゲームを楽しく安全に実施できるようにすることが目的なので、ゲーム及びゲーム形式の練習が中心となります。同時にルールについても習得していきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン 第2回 ①ラケットの握り方及びラケットワークの基本 第3回 ①ハイクリアーの練習 ②サーブの練習 ③簡易ゲーム 第4回 ①ドロップの練習 ②サーブの練習 ③簡易ゲーム 第5回 ①ヘアピンの練習 ②ドライブの練習 ③簡易ゲーム 第6回 ①スマッシュ&レシーブの練習 ②簡易ゲーム 第7回 シングルスゲーム予選 第8回 シングルスゲーム決勝 第9回 ダブルスゲーム予選 第10回 ダブルスゲーム決勝 第11回 団体戦 1班vs6班 2班vs5班 3班vs4班 第12回 団体戦 5班vs6班 2班vs3班 1班vs4班 第13回 団体戦 3班vs6班 1班vs5班 2班vs4班 第14回 団体戦 4班vs5班 2班vs6班 1班vs3班 第15回 団体戦 4班vs6班 3班vs5班 1班vs2班		
テキスト	『 健やかな身体をめざして』 共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	実技テスト:70% 提出物（レポート等）:20% 授業への参加態度:10%		

体育実技A（バドミントン）		前期 1 単位	1・2年
バドミントンで楽しく体を動かそう！		夏目 麻子（なつめ あさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バドミントンの正しいルールを覚え、ゲームに必要な基礎的な技術を習得・向上を目指します。クラスの中で多くの人と交流を深め、スポーツをする楽しさや喜びを実感してください。		
授業の概要	ゲームを中心に進めていきます。色々な人と対戦したり、ダブルスのパートナーまたは団体戦のチームメートになってもらいます。多くの人とバドミントンを通して交流を深めてください。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション、20mシャトルラン 第2回 用具・グリップ・ストロークの説明・実践 第3回 色々なショットの説明・実践、簡易ゲーム 第4回 スマッシュ・ドロップに挑戦、簡易ゲーム 第5回 サービスの説明・練習、シングルスゲームの進め方 第6回 ダブルスゲームの進め方 第7回 基本練習、ゲーム（団体戦の進め方など） 第8回 基本練習、ゲーム（団体戦リーグ戦など） 第9回 チーム練習、ゲーム（団体戦リーグ戦など） 第10回 基本練習、ゲーム（団体戦トーナメントなど） 第11回 基本練習、ゲーム（ダブルス、パートナー固定など） 第12回 基本練習、ゲーム（ダブルス、パートナー毎回交代など） 第13回 基本練習、ゲーム（シングルス・ダブルス） 第14回 ゲーム（シングルス・ダブルス） 第15回 まとめ		
テキスト	未定	参考文献	未定
評価方法	授業への積極的な参加:50% 理解力・技能:40% 提出物:10%		

体育実技 A (ゴルフ)		前期 1 単位	1・2年
ゴルフに挑戦!		夏目 麻子 (なつめ あさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	歩くことができれば生涯スポーツとして、何歳になっても楽しむことができる「ゴルフ」。いつか雄大な自然に囲まれたコースでプレーすることを目標に、授業では基本的な打ち方と共にルール・エチケット・マナーなども身につけていきます。		
授業の概要	クラブの握り方から始まり、構え・振り方等基本動作を反復します。その後アイアンを使ってフルスイングやアプローチの練習、更にはパターを使ってパッティングの練習など盛り沢山です。最終的にゴルフ場（千葉県内ショートコース）で実習を行います。コースデビューに向けてしっかり目標を持って、楽しみながら技術を習得していきましょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション、20mシャトルラン 第2回 用具の説明・スイングしてみよう 第3回 スナッグゴルフ体験① ランチャー 第4回 スナッグゴルフ体験② ローラー 第5回 7番アイアンを使ってみよう 第6回 9番アイアンを使ってみよう 第7回 アプローチショット① 基礎練習 第8回 アプローチショット② 実践練習 第9回 パッティング① 基礎練習 第10回 パッティング② ロングパットに挑戦 第11回 総合練習① ビデオ撮影でフォーム確認 第12回 総合練習② 実践練習 第13回 コースデビューに向けてのルール・マナー解説 第14回 コース実習 第15回 まとめ		
テキスト	未定	参考文献	未定
評価方法	授業への積極的な参加:50% 理解力、技能:40% 提出物:10%		

体育実技 A (ボディ・コンディショニング)		前期 1 単位	1・2年
ボディ・コンディショニング		林 真幾子 (はやし まきこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自己や他者の「からだ=体と心」への気づきを高めるとともに、ライフステージを輝いていきける「からだ」を主体的につくる方法を実践的に学び、運動の日常化を目指す。		
授業の概要	ボディワークや他者との関わりを楽しむゆるやかな運動・ダンス的な運動の実践を通して、リラクゼーションを図りながら体の機能向上を目指す。現在の「からだ」の状態を見極めながら段階的に進めるので、個々の力量や障がい等の有無は問わない。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、20mシャトルラン 第2回 「いまの体」チェック、出会いのダンス 第3回 ストレッチングの効果と方法 第4回 「いまの体」-測る、撮る、観る 第5回 ボディワーク① 体のバランスを整える 第6回 ボディワーク② 鬼ごっこもエアロビクス? 第7回 ボディワーク③ いろいろなエアロビクス 第8回 ボディワーク④ 筋肉を引き締める 第9回 ボディワーク⑤ 身近な用具の活用 第10回 リラクゼーションとボディケア 第11回 「私のための実践プログラム」作成 第12回 生活のなかでフィットネス① 映像の活用 第13回 生活のなかでフィットネス② Wダッチ 第14回 やさしいダンスでリフレッシュ 第15回 まとめ、レポート作成		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著; 共栄出版	参考文献	授業時に資料配付 (適宜)
評価方法	授業記録の内容:70% 実践プログラムの成果:20% まとめレポート:10%		

体育実技A (バスケットボール)		前期 1 単位	1・2年
バスケットボール		藤原 裕子 (ふじわら ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自らの健康を考えつつ、生涯に渡りスポーツを楽しむための技術の習得とゲームなどの運営ができるようになる。		
授業の概要	バスケットボールを楽しむために必要な個人技術・集団技術・ルール及びゲーム運営を習得する。授業はゲームを中心に進めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション及び20Mシャトルラン</p> <p>第2回 個人技術 (ハンドリング・各種シューティング)</p> <p>第3回 速攻パターン</p> <p>第4回 対人攻防① (2対1)</p> <p>第5回 対人攻防② (3対2)</p> <p>第6回 対人攻防③ (2対2, 3対3)</p> <p>第7回 ルール・審判法の理解</p> <p>第8回 ルール・審判法の練習</p> <p>第9回 マン・ツー・マン・ディフェンス (方法と理解)</p> <p>第10回 マン・ツー・マン・ディフェンス (ミニゲーム)</p> <p>第11回 ゾーン・ディフェンス (方法と理解)</p> <p>第12回 ゾーン・ディフェンス (ミニゲーム)</p> <p>第13回 リーグ戦① (審判・運営)</p> <p>第14回 リーグ戦② (攻防の戦術)</p> <p>第15回 リーグ戦③ (レポート提出)</p>		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版 (株)	参考文献	特になし
評価方法	レポート課題:20% 理解力・技能:30% 授業への積極的な参加:50%		

体育実技A (バドミントン)		前期 1 単位	1・2年
バドミントン		森下 春枝 (もりした はるえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	バドミントンに関する知識、技術の習得、さらに技能の向上を目指す。また、いろいろな人と組み、コミュニケーションを図りながら、シングルス、ダブルスのゲームを楽しむ。バドミンントンのゲーム、審判の仕方、正式な試合の進め方についての知識を深める。		
授業の概要	ゲームで必要とされる基本技術を練習する。ゲーム形式の練習を行うことで初歩的な戦術を学習する。ダブルスの試合ができるように、技術の向上を目指す。バドミンントンのゲームを楽しみながら、歴史、ルール、審判の仕方、記録の仕方など総合的に理解を深める。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン</p> <p>第2回 バドミンントンの基礎 (用具、グリップ、ストローク)</p> <p>第3回 基礎練習 (ラケットワーク、サーブ、ハイクリアー)</p> <p>第4回 基礎練習 (基本のショットの説明と実践)、簡易ゲーム</p> <p>第5回 ヘアピン、ドロップの練習、サーブ練習、簡易ゲーム</p> <p>第6回 シングルスゲームの進め方、スマッシュの練習</p> <p>第7回 シングルスゲームの試合、ドライブの練習</p> <p>第8回 ダブルスゲームの進め方 (ルール)、簡易ゲーム</p> <p>第9回 ダブルスゲーム (フォーメーション、戦術)</p> <p>第10回 ダブルスゲームの練習、審判の仕方</p> <p>第11回 ダブルスゲームの実践、審判用紙の書き方</p> <p>第12回 グループでのダブルスゲームの試合 (挑戦方式)</p> <p>第13回 グループ対抗ダブルスゲームの試合 (リーグ戦)</p> <p>第14回 ダブルスゲーム (勝ちあがり負けさがり方式)</p> <p>第15回 まとめ (レポート提出など)</p>		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% 提出物 (レポート等):40%		

体育実技B（日本の踊り）		後期 1 単位	1・2年
日本の伝統的民俗舞踊の体得		近藤 清（こんどう きよし）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の各地に古くから伝承されている舞踊の中から二つほど習得していくことによって、現代人が忘れかけている日常生活の身体づかひの基本を身につけると共に、心への響き、国際化の中での日本人としての自覚を認識していけるようにする。		
授業の概要	踊りの背景を理解し、練習を積み重ねる。足の動き、重心の動き、手の動き、頭の動き、全身の調和の手順で身につけていく。伝統の振りを模倣するところから始めて、解放された身体でのびのびと踊れることを目指す。浴衣を着て練習を積む。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーションとシャトルラン 第2回 こきりこ踊り（足、手） 第3回 こきりこ踊り（総合的に） 第4回 さんさ踊り「二度踊り一拍子」（足、手） 第5回 さんさ踊り「二度踊り一拍子」（目線） 第6回 さんさ踊り「二度踊り一拍子」（総合的に） 第7回 さんさ踊り「庭ならし」（足、手） 第8回 さんさ踊り「庭ならし」（目線） 第9回 さんさ踊り「庭ならし」（総合的に） 第10回 さんさ踊り「二度踊り二拍子」（総合的に） 第11回 さんさ踊り「二度踊り三拍子」（足、手） 第12回 さんさ踊り「二度踊り三拍子」（目線、総合的に） 第13回 さんさ踊り「礼踊り」（足、手） 第14回 さんさ踊り「礼踊り」（目線、総合的に） 第15回 発表会とまとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版	参考文献	「伝統芸能の系譜」本田安治編 錦正社 「疲れない体をつくる『和』の身体技法」宮田登著 祥伝社 「踊る雀は百までも」黒川さんさ踊り保存
評価方法	受講態度等の平常点:50% 技術点:20% レポート:30%		

体育実技B（バレエエクササイズ）		後期 1 単位	1・2年
バレエエクササイズ		昆野 まり子（こんの まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バレエの基本を楽しく身につけながら、身体に起こる歪みの補正と筋力強化を行います。リラックスした状態の中で自分の心と身体に向き合い、身体のバランス力を回復することを目的とします。		
授業の概要	毎回ゆっくりとしたストレッチから始め、自分の状態をチェックしていきます。その後、パーレッスン、フロアレッスンへと移行していきます。リラックスしながら呼吸法を行ったり、身体についての意識を高めるよう促していきます。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション / シャトルラン 第2回 ストレッチ 第3回 パーレッスン① VTR鑑賞 プリエ・ルルヴェ 第4回 パーレッスン② タンジュ 第5回 パーレッスン③ パッセ 第6回 パーレッスン④ 2人組でのストレッチ 第7回 パーレッスン⑤ ロンデジャンプ・アテール 第8回 パーレッスン⑥ フォンデュ 第9回 パーレッスン⑦ グラン・バットマン 第10回 VTR鑑賞 第11回 ヨガ ピラティス 第12回 フロアレッスン① ウォーキング 第13回 フロアレッスン② シェネ ワルツ 第14回 フロアレッスン③ ワルツ 第15回 まとめ レポート		
テキスト	「健やかな身体をめざして」森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します
評価方法	授業への積極的な参加:70% 授業内レポート:10% 授業最終レポート:20%		

体育実技B（ピラティス）		後期 1 単位	1・2年
ピラティス		昆野 まり子（このん まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	ジョセフ・ピラティスにより考案されたエクササイズを行いながら、しなやかで美しく、バランスのとれた身体作りをしていきます。週1度ピラティスを行うことにより、日頃抱えている身体の問題（腰痛、肩こり、冷え症、生理痛等）も解消していきましょう。		
授業の概要	ピラティスでは、呼吸とコアの意識が非常に重要です。まず、呼吸とコアの意識を持つことを丁寧に行い、次第にアクティブなエクササイズへと移行していきます。回を重ねるごとに身体への意識が高まるよう促していきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション / シャトルラン 第2回 自分の身体を知ろう 測定 ストレッチ 第3回 プレ・ピラティス① 呼吸 第4回 プレ・ピラティス① Cカーブ 第5回 スモールボール ストレッチ 第6回 スモールボール 腹筋群 第7回 スモールボール 背筋群 第8回 VTR鑑賞 第9回 セラバンド 四肢 第10回 セラバンド 肩関節・肩甲骨周辺 第11回 ビッグボール 骨盤回り 第12回 ビッグボール 腹筋・背筋群 第13回 ビッグボール ダイナミックな動き 第14回 マットピラティス まとめ 測定 第15回 マットピラティス まとめ レポート提出		
テキスト	「健やかな身体をめざして」 森下春枝編著 共栄出版株式会社	参考文献	授業中適宜紹介します。
評価方法	授業への積極的な参加:70% 授業内レポート:10% 授業最終レポート:20%		

体育実技B（バレーボール）		後期 1 単位	1・2年
バレーボール		高橋 宏文（たかはし ひろぶみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯スポーツの1つでもあるバレーボールについてゲームを中心としたプログラムで取り組む。内容としては、ゲームの簡単な構造を理解した上でチームとして一体感を持ってプレーすることを実践し、楽しんで身体を動かす。		
授業の概要	はじめに、バレーボールの基本技術であるスパイク、パス、レシーブetcについて、練習を通して技術の確認と調整を行う。次に、その個人の基本技術を連係プレーに発展させていき、チームプレーとして一体感を発揮しゲームに活かしていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン 第2回 ボールヒットとスパイク1 第3回 スパイク2 第4回 オーバーハンドパスとトス 第5回 アンダーハンドパスとレシーブ 第6回 基本的な連係プレー 第7回 ゲームにおける連係プレー 第8回 ゲームのルールを覚える 第9回 ゲーム① サーブレシーブのフォーメーションを知る 第10回 ゲーム② サーブレシーブのフォーメーション 第11回 ゲーム③ ラリー中の動き方1 第12回 ゲーム④ ラリー中の動き方2 第13回 ゲーム⑤ ブロック 第14回 ゲーム⑥ カバリングの活用 第15回 ゲームのまとめ		
テキスト	「健やかな身体をめざして」共栄出版（株）	参考文献	基礎からのバレーボール ナツメ社
評価方法	平常点:60% レポート課題:40%		

体育実技B（バドミントン）		後期 1 単位	1・2年
バドミントンを楽しむために		武井 大輔（たけい だいすけ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バドミントンという、比較的安全及び簡易に行なえるスポーツを体験・習得することにより、今後の人生における「生涯スポーツの実践」に役立てることを目指す。スポーツにおける身体活動を通じて、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
授業の概要	ゲームを楽しく安全に実施できるようにすることが目的なので、ゲーム及びゲーム形式の練習が中心となります。同時にルールについても習得していきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン 第2回 ①ラケットの握り方及びラケットワークの基本 第3回 ①ハイクリアーの練習 ②サーブの練習 ③簡易ゲーム 第4回 ①ドロップの練習 ②サーブの練習 ③簡易ゲーム 第5回 ①ヘアピンの練習 ②ドライブの練習 ③簡易ゲーム 第6回 ①スマッシュ&レシーブの練習 ②簡易ゲーム 第7回 シングルスゲーム予選 第8回 シングルスゲーム決勝 第9回 ダブルスゲーム予選 第10回 ダブルスゲーム決勝 第11回 団体戦 1班vs6班 2班vs5班 3班vs4班 第12回 団体戦 5班vs6班 2班vs3班 1班vs4班 第13回 団体戦 3班vs6班 1班vs5班 2班vs4班 第14回 団体戦 4班vs5班 2班vs6班 1班vs3班 第15回 団体戦 4班vs6班 3班vs5班 1班vs2班		
テキスト	『 健やかな身体をめざして』 共栄出版（株）	参考文献	特になし
評価方法	実技テスト:70% 提出物（レポート等）:20% 授業への参加態度:10%		

体育実技B（バドミントン）		後期 1 単位	1・2年
バドミントンで楽しく体を動かそう！		夏目 麻子（なつめ あさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	バドミントンの正しいルールを覚え、ゲームに必要な基礎的な技術を習得・向上を目指します。クラスの中で多くの人と交流を深め、スポーツをする楽しさや喜びを実感してください。		
授業の概要	ゲームを中心に進めていきます。色々な人と対戦したり、ダブルスのパートナーまたは団体戦のチームメートになってもらいます。多くの人とバドミントンを通して交流を深めてください。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション、20mシャトルラン 第2回 用具・グリップ・ストロークの説明・実践 第3回 色々なショットの説明・実践、簡易ゲーム 第4回 スマッシュ・ドロップに挑戦、簡易ゲーム 第5回 サービスの説明・練習、シングルスゲームの進め方 第6回 ダブルスゲームの進め方 第7回 基本練習、ゲーム（団体戦の進め方など） 第8回 基本練習、ゲーム（団体戦リーグ戦など） 第9回 チーム練習、ゲーム（団体戦リーグ戦など） 第10回 基本練習、ゲーム（団体戦トーナメントなど） 第11回 基本練習、ゲーム（ダブルス、パートナー固定など） 第12回 基本練習、ゲーム（ダブルス、パートナー毎回交代など） 第13回 基本練習、ゲーム（シングルス・ダブルス） 第14回 ゲーム（シングルス・ダブルス） 第15回 まとめ		
テキスト	未定	参考文献	未定
評価方法	授業への積極的な参加:50% 理解力・技能:40% 提出物:10%		

体育実技B（テニス）		後期 1 単位	1・2年
テニスで楽しく体を動かそう！		夏目 麻子（なつめ あさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	硬式テニスの正しいルールを覚え、ゲームに必要な基礎的な技術を習得・向上を目指します。クラスの中で多くの人と交流を深め、スポーツをする楽しさや喜びを実感してください。		
授業の概要	ダブルスのゲームを中心に進めていきます。色々な人と対戦したり、パートナーまたは団体戦のチームメートになってもらいます。多くの人とテニスを通して交流を深めてください。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション、20mシャトルラン 第2回 用具の説明・基本練習 第3回 基本練習（グラウンドストローク） 第4回 基本練習（サーブの説明と実践） 第5回 基本練習（サーブとサーブレシーブ） 第6回 基本練習（ボレーとスマッシュ） 第7回 総合練習 第8回 ゲームの説明・簡易ゲーム 第9回 ゲーム（ダブルス、パートナー固定等） 第10回 ゲーム（ダブルス、パートナー毎回交代等） 第11回 ゲーム（ダブルス、トーナメント戦等） 第12回 ゲーム（ダブルス、入れ替え戦等） 第13回 ゲーム（団体戦） 第14回 チーム練習・ゲーム（団体戦） 第15回 まとめ		
テキスト	未定	参考文献	未定
評価方法	授業への積極的な参加:50% 理解力・技能:40% 提出物:10%		

体育実技B（ボディ・コンディショニング）		後期 1 単位	1・2年
ボディ・コンディショニング		林 真幾子（はやし まきこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	自己や他者の「からだ＝体と心」への気づきを高めるとともに、ライフステージを輝いていきる「からだ」を主体的につくる方法を実践的に学び、運動の日常化を目指す。		
授業の概要	ボディワークや他者との関わりを楽しむゆるやかな運動・ダンス的な運動の実践を通して、リラクゼーションを図りながら体の機能向上を目指す。現在の「からだ」の状態を見極めながら段階的に進めるので、個々の力量や障がい等の有無は問わない。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス、20mシャトルラン 第2回 「いまの体」チェック、出合いのダンス 第3回 ストレッチングの効果と方法 第4回 「いまの体」一測る、撮る、観る 第5回 ボディワーク① 体のバランスを整える 第6回 ボディワーク② 鬼ごっこもエアロビクス？ 第7回 ボディワーク③ いろいろなエアロビクス 第8回 ボディワーク④ 筋肉を引き締める 第9回 ボディワーク⑤ 身近な用具の活用 第10回 リラクゼーションとボディケア 第11回 「私のための実践プログラム」作成 第12回 生活のなかでフィットネス① 映像の活用 第13回 生活のなかでフィットネス② Wダッチ 第14回 やさしいダンスでリフレッシュ 第15回 まとめ、レポート作成		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著；共栄出版	参考文献	授業時に資料配付（適宜）
評価方法	授業記録の内容:70% 実践プログラムの成果:20% まとめレポート:10%		

体育実技B (バドミントン)		後期 1 単位	1・2年
バドミントン		藤原 裕子 (ふじわら ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自らの健康を考えつつ、生涯に渡りスポーツを楽しむための技術の習得とゲームなどの運営ができるようになる。		
授業の概要	バドミンントンのゲームを楽しむ為に必要な基礎知識・ルール及び審判法を習得する。授業はゲームを中心に進めていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20Mシャトルラン 第2回 基本技術 (サービス・ストローク) 第3回 基本技術 (ハイクリヤー、スマッシュ) ・ミニゲーム 第4回 基本技術 (ドロップ、ヘアピン、ドライブ) ・ミニゲーム 第5回 シングルのルールと審判法の理解 第6回 シングルスゲーム① (審判と運営) 第7回 シングルスゲーム② (リーグ戦) 第8回 シングルスゲーム③ (レベル別) 第9回 ダブルスのルールと審判法の理解 第10回 ダブルスゲーム① (審判と運営) 第11回 ダブルスゲーム② (戦術・トップ&バック) 第12回 ダブルスゲーム③ (戦術・サイドbyサイド) 第13回 ダブルスゲーム④ (レベル別) 第14回 リーグ戦 (団体) ① (審判と運営) 第15回 リーグ戦 (団体) ②・・・レポート提出		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版 (株)	参考文献	特になし
評価方法	レポート課題:20% 理解力・技能:30% 授業への積極的な参加:50%		

体育実技B (バスケットボール)		後期 1 単位	1・2年
バスケットボール		藤原 裕子 (ふじわら ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自らの健康を考えつつ、生涯に渡りスポーツを楽しむための技術の習得とゲームなどの運営ができるようになる。		
授業の概要	バスケットボールを楽しむために必要な個人技術・集団技術・ルール及びゲーム運営を習得する。授業はゲームを中心に進めていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション及び20Mシャトルラン 第2回 個人技術 (ハンドリング・各種シューティング) 第3回 速攻パターン 第4回 対人攻防① (2対1) 第5回 対人攻防② (3対2) 第6回 対人攻防③ (2対2、3対3) 第7回 ルール・審判法の理解 第8回 ルール・審判法の練習 第9回 マン・ツー・マン・ディフェンス (方法と理解) 第10回 マン・ツー・マン・ディフェンス (ミニゲーム) 第11回 ゾーン・ディフェンス (方法と理解) 第12回 ゾーン・ディフェンス (ミニゲーム) 第13回 リーグ戦① (審判・運営) 第14回 リーグ戦② (攻防の戦術) 第15回 リーグ戦③ (レポート提出)		
テキスト	『健やかな身体をめざして』 共栄出版 (株)	参考文献	特になし
評価方法	レポート課題:20% 理解力・技能:30% 授業への積極的な参加:50%		

体育実技B（フォークダンス）		後期 1 単位	1・2年
世界の踊りと日本の踊りを楽しむ		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界と日本の踊りを通して体への気づきや身体感覚を養い、踊りを楽しむ心を培う。 ○ 世界と日本の文化の違い（衣装・リズム・踊り方など）についての知識と理解を深める。 ○ 世界と日本の踊りに必要な身体感覚を養い、より洗練された踊りの向上を目指す。 		
授業の概要	はじめに比較的簡単に楽しめる各国のフォークダンスを皆で踊って楽しむ。日本の各地域に伝承されている民俗舞踊から比較的簡単に踊れる踊りを選び、日本の伝統文化を踊りを通して体験する。フォークダンスの衣装や浴衣を身につけたりすることで、文化の違いを体験する。伝統楽器の練習も行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション及び20mシャトルラン</p> <p>第2回 世界の踊りと日本の踊りの解説、からだづくり</p> <p>第3回 世界の踊り初級編1（身体感覚を養う、からだづくり）</p> <p>第4回 世界の踊り初級編2（簡単な踊り、基礎知識）</p> <p>第5回 世界の踊り初級編3（比較的簡単な踊りを楽しむ）</p> <p>第6回 世界の踊り初級編4（隊形の違う踊りを楽しむ）</p> <p>第7回 世界の踊り初級編5（グループで違う踊りを発表し合う）</p> <p>第8回 日本の踊り1（浴衣を着る、筑子など）</p> <p>第9回 日本の踊り2（筑子を踊る、伝統楽器の練習）</p> <p>第10回 日本の踊り3（筑子の踊りを完成させ発表や演奏を行う）</p> <p>第11回 世界の踊り中級編1（ワルツとポルカ、レベルアップ）</p> <p>第12回 世界の踊り中級編2（ワルツの曲を使いターンの練習）</p> <p>第13回 世界の踊り中級編3（ターンをしながら自由に踊る）</p> <p>第14回 世界の踊り中級編4（さまざまな曲で踊りを楽しむ）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	『健やかな身体をめざして』森下春枝編著、共栄出版株式会社	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% 課題提出（レポート等）:40%		

体育実技B（エアロビクス）		後期 1 単位	1・2年
エアロビクス		吉宇田 和泉（よしうだ いずみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講では、エアロビクスを通して運動の楽しさ、重要性、安全にかつ効果的に運動を遂行するための能力を、実践的および理論的に理解する。また、自分の心身への気づきから、日常生活において自分の状態に適した運動を選択して実行できるようになる。		
授業の概要	ベーシックなエアロビクスから様々な要素が入ったものまで幅広く取り扱う。全員が一斉に行うグループ学習であるが、受講者が自分の体力や技術等に合わせて調整できるように展開する。エアロビクスの前後にストレッチや身体機能を高めるためのエクササイズなどを行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイドダンス、運動強度の設定について、シャトルラン</p> <p>第2回 基本ステップ（主にマーチやステップタッチ等）とそのコンビネーション</p> <p>第3回 基本ステップ（主にエアアップやトジャン等）とそのコンビネーション</p> <p>第4回 マーチやステップタッチを中心とした4×8コンビネーション</p> <p>第5回 前回のコンビネーションにエアアップ等を含めた4×8コンビネーション</p> <p>第6回 アクセントやリズムに変化のある4×8コンビネーション</p> <p>第7回 前回のコンビネーションにターンや方向変換のある4×8コンビネーション</p> <p>第8回 ステップエクササイズの基本ステップ</p> <p>第9回 ステップエクササイズの4×8コンビネーション</p> <p>第10回 ダンスエアロ（ラン系）の基本エクササイズとそのコンビネーション</p> <p>第11回 ダンスエアロ（ラン系）の特徴を多く取り入れたコンビネーション</p> <p>第12回 ダンスエアロ（ヒップホップ系）の基本エクササイズとそのコンビネーション</p> <p>第13回 ダンスエアロ（ヒップホップ系）の特徴を多く取り入れたコンビネーション</p> <p>第14回 ボクシングエクササイズ（構えとパンチ、防御のバリエーション）</p> <p>第15回 ボクシングエクササイズ（キックのバリエーションとコンビネーション）</p>		
テキスト	「健やかな身体をめざして」森下春枝著 共栄出版	参考文献	特になし
評価方法	課題レポート:30% 授業参加状況:70%		

体育実技C (スキー)		春休集中 1 単位	1・2年
「スキー」を楽しむことができる技術の向上を目指す		森下 春枝 (もりした はるえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学友と合宿形式の実習を通して、コミュニケーション能力を培う。 ○ 実習での経験が生涯スポーツとしても楽しめるよう幅広いスキーの知識と技術の向上を目指す。 ○ 大自然の中で「スキー」実習を通して、スポーツをすることの意義を探る。 		
授業の概要	学内において事前オリエンテーションを行い、岩原スキー場において3泊4日で集中授業を行う。宿泊施設はスキー場内にある。技術のレベルによって班をつくり、各班ごとに練習することによって技術の向上を目指す。毎日日誌をつけてもらいます。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 事前オリエンテーションと講義 (実習の概要)</p> <p>第2回 事前オリエンテーションと講義 (基礎知識と実習費)</p> <p>第3回 開講式、班分け、それぞれの班で基礎練習</p> <p>第4回 基礎練習1、スキー技術の説明、講義その1</p> <p>第5回 基礎練習1、各班ごとにスキー技術の練習</p> <p>第6回 基礎練習2、ブルークボーゲン、シュテムターン</p> <p>第7回 基礎練習2、ブルークボーゲン、シュテムターンの応用</p> <p>第8回 基礎練習3、小まわり、シュテムターン、講義その2</p> <p>第9回 基礎練習3、小まわり、シュテムターンの応用</p> <p>第10回 応用練習1、大まわり、パラレルターン</p> <p>第11回 応用練習1、大まわり、パラレルターン、講義その3</p> <p>第12回 応用練習2、斜面、斜度の変化に対応する練習</p> <p>第13回 応用練習2、技術を駆使した応用練習</p> <p>第14回 実技と理論のテスト、日誌と課題提出</p> <p>第15回 実技 (応用練習)、閉講式、現地解散</p>		
テキスト	オリエンテーションで指示します。	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% 日誌・課題:20% テスト:20%		

体育実技C (フラ)		夏休集中 1 単位	1・2年
ハワイの文化「フラ」		森下 春枝 (もりした はるえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「フラ」は、ハワイに伝承されている民族舞踊です。「フラ」の練習を通してハワイの文化に触れ、また身体表現の豊かさやその背景にも思いをはせながら、自らの身体感覚も磨きましょう。品性とハッピーな心で踊ることができるよう目指しましょう。		
授業の概要	まず、ハワイってどこの国か、ハワイってどんなところか、歴史、表現、古典やモダンなど踊りを通して、「フラ (アロハの心)」ってどんなダンスなのかを理解し知識を深める。基本ステップなどベーシックな踊りの練習をし、次にアウアナ (モダン) の踊りの練習をします。グループごとに踊って鑑賞しあいます。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 事前オリエンテーションと講義</p> <p>第2回 ダンスウォーミングアップ、ハワイと「フラ」の基礎知識</p> <p>第3回 さあ踊りましょう (ベーシックの練習)</p> <p>第4回 音楽にのって (ハワイアン曲で練習)</p> <p>第5回 歴史、フラの表現、古典 (カヒン) とモダン (アウアナ)</p> <p>第6回 音楽にのり、カホロ、カオ、ヘラ、アミのステップ練習</p> <p>第7回 新しいステップ、カラカウア、レレウエへの練習</p> <p>第8回 アウアナ (モダン) の練習</p> <p>第9回 「フラ」のメレ (歌)、ベーシック練習</p> <p>第10回 楽器、リズム、道具について、ベーシック練習</p> <p>第11回 正しいステップで音楽にのり、繰り返しベーシックの練習</p> <p>第12回 グリーンローズフラを踊りましょう、歌詞の意味について</p> <p>第13回 ベーシック、グリーンローズフラ (アウアナ) の練習</p> <p>第14回 グリーンローズフラの練習 (1番から5番まで)</p> <p>第15回 グループ別に踊って鑑賞しあう、まとめ</p>		
テキスト	なし	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:70% 提出物 (レポート等):30%		

体育実技C（テニス）		後期集中 1 単位	1・2年
「テニス」の技術の向上・試合レベルの向上・ルールと審判の知識を深める		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学友と合宿形式の実習を通して、コミュニケーション能力を培う。 ○ 実習での経験が生涯スポーツとしても楽しめるような幅広いテニスの知識と技術の向上を目指す。 ○ 自然環境豊かな場所での「テニス」実習を通して、スポーツをすることの意義を探る。 		
授業の概要	<p>学内で事前オリエンテーションを行い、短大軽井沢寮において3泊4日で集中授業を行う。テニスに関する知識や技術、マナーなどを習得し、そのうえでゲームを楽しむことができるようめざす。ゲームで必要とされる正しいルールや基本的な戦術を身につけ、最終的にはダブルスの試合を楽しめるよう技術の向上を目指す。毎日日誌をつけてもらいま</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 事前オリエンテーションと講義（実習の概要）</p> <p>第2回 事前オリエンテーションと講義（基礎知識と実習費）</p> <p>第3回 コートの使い方、からだづくり、基礎練習</p> <p>第4回 からだづくり、基礎練習、基本ルール</p> <p>第5回 基礎練習、基本ルール、ミニテニス</p> <p>第6回 ストローク、サーブ、ボレーの練習、ミニテニス</p> <p>第7回 ストローク、サーブ、ボレーの練習、ゲーム形式での練習</p> <p>第8回 シングルスを中心としたゲーム形式での練習、基本ルール</p> <p>第9回 シングルスを中心としたゲーム形式での練習、審判の仕方</p> <p>第10回 ダブルスの練習、審判の仕方</p> <p>第11回 ダブルスの練習、審判の仕方、フォーメーションの練習</p> <p>第12回 試合形式によるダブルスの練習、審判の仕方</p> <p>第13回 試合形式によるダブルスの練習、審判の仕方、戦術</p> <p>第14回 実技と理論のテスト、日誌と課題提出</p> <p>第15回 ダブルスのトーナメントによる試合、閉講式、現地解散</p>		
テキスト	オリエンテーションで指示します。	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% 日誌・課題:20% テスト:20%		

情報処理 I	前期 2 単位	1年
コンピューター・リテラシー		
<p>【担当教員】 飯田 千代（いいだ ちよ）、齋藤 真弓（さいとう まゆみ）、宮田 雅智（みやた まさのり）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 コンピューターは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピューターを使っての実習を通して、情報のデジタル化、文書処理、インターネットの利用、プレゼンテーション技術等、基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 コンピューターの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。続いて課題を仕上げることにより、IT技術を確実に身につける。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 講義：コンピューターの基礎知識 第 3 回 コンピューターの基本操作 第 4 回 ワープロ（1）文字入力の基本、ファイル操作、印刷環境 第 5 回 ワープロ（2）文字修飾、文字の位置、インデント 第 6 回 ワープロ（3）課題演習 第 7 回 インターネット実習（1）インターネットの基礎、ブラウザの利用 第 8 回 インターネット実習（2）e-mail（基本操作、添付ファイル、署名） 第 9 回 ワープロ（4）罫線処理 第 10 回 ワープロ（5）画像処理 第 11 回 ワープロ（6）図形処理 第 12 回 パワーポイント（1）基本操作 第 13 回 パワーポイント（2）アニメーションの設定 第 14 回 パワーポイント（3）画像の挿入、図形処理 第 15 回 パワーポイント（4）課題演習 <p>【テキスト】 第1回目の授業で指示する</p> <p>【参考文献】 必要に応じて紹介する</p> <p>【評価方法】 課題演習:60% 平常点:40%</p>		

情報処理 I	後期 2 単位	1年
コンピューター・リテラシー		
<p>【担当教員】 飯田 千代（いいた ちよ）、齋藤 真弓（さいとう まゆみ）、宮田 雅智（みやた まさのり）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 コンピューターは通信技術の進歩によって、私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピューターを使っての実習を通して、情報のデジタル化、文書処理、インターネットの利用、プレゼンテーション技術等、基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 コンピューターの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。続いて課題を仕上げることにより、IT技術を確実に身につける。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 講義：コンピューターの基礎知識 第 3 回 コンピューターの基本操作 第 4 回 ワープロ（1）文字入力の基本、ファイル操作、印刷環境 第 5 回 ワープロ（2）文字修飾、文字の位置、インデント 第 6 回 ワープロ（3）課題演習 第 7 回 インターネット実習（1）インターネットの基礎、ブラウザの利用 第 8 回 インターネット実習（2）e-mail（基本操作、添付ファイル、署名） 第 9 回 ワープロ（4）罫線処理 第 10 回 ワープロ（5）画像処理 第 11 回 ワープロ（6）図形処理 第 12 回 パワーポイント（1）基本操作 第 13 回 パワーポイント（2）アニメーションの設定 第 14 回 パワーポイント（3）画像の挿入、図形処理 第 15 回 パワーポイント（4）課題演習 <p>【テキスト】 第1回目の授業で指示する</p> <p>【参考文献】 必要に応じて紹介する</p> <p>【評価方法】 課題演習：60% 平常点：40%</p>		

情報処理Ⅱ	前期 2 単位	1・2年
表計算と統計／集計処理	齋藤 真弓（さいとう まゆみ） 宮田 雅智（みやた まさのり）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 事務的処理等でよく利用される表計算について、実際にパソコンを利用しながら操作方法を習得するとともに、統計やデータベースの基礎概念を理解することを目的とします。</p> <p>【授業の概要】 例題を用いて基本的な操作を解説したのち、演習課題にとりかかります。実際の操作を繰り返すことによって技能を身につけていきます。課題演習の中で随時、統計的な概念を説明していきます。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 ガイダンス 第 2回 Excelの基本操作 第 3回 式と関数の基礎 第 4回 表示形式と表の清書 第 5回 グラフ作成 第 6回 課題演習 第 7回 関数（1）条件付き書式、IF、COUNTIF 第 8回 課題演習（関数IF） 第 9回 課題演習（関数COUNTIF） 第10回 関数（2）LEN、LEFT、RIGHT、MID、課題演習 第11回 関数（3）SUMIF、VLOOKUP、課題演習 第12回 データベース（1）ピボットテーブル、課題演習 第13回 データの並べ替え（数値データ、文字データ） 第14回 データベース（2）入力規則の設定他 第15回 課題演習 <p>【テキスト】 第1回目の授業で指示する</p> <p>【参考文献】 必要に応じて紹介する。</p> <p>【評価方法】 課題演習：60% 平常点：40%</p>		

情報処理Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
表計算と統計／集計処理		飯田 千代 (いいた ちよ) 齋藤 真弓 (さいとう まゆみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	事務的処理等でよく利用される表計算について、実際にパソコンを利用しながら操作方法を習得するとともに、統計やデータベースの基礎概念を理解することを目的とします。		
授業の概要	例題を用いて基本的な操作を解説したのち、演習課題にとりかかります。実際の操作を繰り返すことによって技能を身につけていきます。課題演習の中で随時、統計的な概念を説明していきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 Excelの基本操作 第3回 式と関数の基礎 第4回 表示形式と表の清書 第5回 グラフ作成 第6回 課題演習 第7回 関数 (1) 条件付き書式、IF、COUNTIF 第8回 課題演習 (関数IF) 第9回 課題演習 (関数COUNTIF) 第10回 関数 (2) LEN、LEFT、RIGHT、MID、課題演習 第11回 関数 (3) SUMIF、VLOOKUP、課題演習 第12回 データベース (1) ピボットテーブル、課題演習 第13回 データの並べ替え (数値データ、文字データ) 第14回 データベース (2) 入力規則の設定他 第15回 課題演習		
テキスト	第1回目の授業で指示する	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	課題演習:60% 平常点:40%		

情報処理Ⅲ		後期 2 単位	1・2年
プログラミングの初歩		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	コンピューター利用というワープロや表計算などの既存のソフトウェアを使う場合が多いが、そういったものに頼らず、作業することも可能です。本講義は、プログラミングに関してまったくの初心者を対象にVisual Basicというプログラミング言語を使って簡単なソフトウェアを作ってコンピューター上で動作させることを体験します。		
授業の概要	例題を用いて基本的な操作を解説したのち、演習課題にとりかかります。実際の操作を繰り返すことによって技能を身につけていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 プログラムの概念、Visual Basicとは 第3回 フォーム、ボタン、ファイルの保存 第4回 変数と変数名、四則演算、代入文 第5回 四則演算の課題演習 第6回 日付関数、課題演習 第7回 処理の分岐 (1) IF~THEN、課題演習 第8回 処理の分岐 (2) IF~THEN~ELSE、課題演習 第9回 繰り返し処理 (1) FOR~NEXT、課題演習 第10回 繰り返し処理 (2) 2重の繰り返し、課題演習 第11回 グラフィックス (1) PictureBox、Line、課題演習 第12回 グラフィックス (2) DrawとBrush 課題演習 第13回 グラフィックス (3) Ellipse、課題演習 第14回 グラフィックス (4) Polygon、課題演習 第15回 まとめの課題演習		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	課題演習:60% 平常点:40%		

キャリア・ライフ・デザイン I		後期 2 単位	1年 現代教養
キャリア論、キャリア形成上の諸問題		宇田 美江 (うだ みえ) 奈良 堂史 (なら たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	①キャリアを取り巻く環境の変化を理解する。②自分と向き合い、どのように人生を送りたいのか、社会で活躍したいのか、どのような心構えを持つべきかを真剣に考える。③大まかな将来の方向性や卒業後の進路をイメージする。最終的には、1年の短期目標の設定と行動計画を立てる。		
授業の概要	内容を、①外部環境理解、②自己理解(キャリアに関する理論を含む)、③キャリア・デザインに大きく分ける。講義だけでなく、ビデオ等の視聴覚教材を使用する予定である。原則として、講義内容に対する意見や感想、課題を提出してもらう。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 キャリアの環境要因① 産業構造や雇用の変化 第3回 キャリアの環境要因② 女性を取り巻く環境変化 第4回 キャリアの環境要因③ 女性労働に関する法律等 第5回 キャリアの環境要因④ 女性の仕事の質の変化 第6回 キャリアの環境要因⑤ 女性のさまざまなライフコース 第7回 キャリアとは何か？ 第8回 キャリアの節目とは？ 節目の意味と重要性 第9回 キャリア・アンカー① キャリアのこだわりとは何か？ 第10回 キャリア・アンカー② キャリア・アンカーを知る 第11回 キャリア形成における他者との関係とは？ 第12回 自己理解 自己の振り返りと他者からの視点 第13回 外部環境理解と自己理解を結びつける 第14回 具体的目標と行動計画 第15回 まとめ		
テキスト	宇田美江(2012)『女子学生のためのキャリア・デザイン』中央経済社	参考文献	齊藤毅憲責任監修、菊地達昭・合谷美江編著(2007)『キャリア開発論』文眞堂。その他、随時紹介する。
評価方法	感想および課題提出:50% 期末レポート:50%		

キャリア・ライフ・デザイン I		後期 2 単位	2年 子ども
現代女性のライフコースについて考える		大野 祥子 (おおの さちこ) 鈴木 俊之 (すずき としゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代女性のライフコースについて、働くことと家族を持つことの両面から学びます。自分の近い将来について、具体的なイメージをもち、知識に基づいて考えることを目指します。		
授業の概要	前半(2~8回)はキャリア・ライフ・デザインに関する講義、後半(9~14回)は幼稚園・保育園その他で働いている外部講師などから直接働くということに関して話を聴く。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 「家族」とは何か 第3回 現代の家族 第4回 仕事とお金の話 第5回 女性のライフコース 第6回 子どもを持つということ 第7回 家族を営むということ 第8回 男性の生き方を考える 第9回 働くということ 第10回 幼稚園で働くということ 第11回 保育園で働くということ 第12回 施設で働くということ 第13回 企業で働くということ 第14回 進路を考えるにあたって 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:30% レポート(小レポート含む):70%		

キャリア・ライフ・デザインⅡ		前期 2 単位	1・2年
労働市場の変化とその影響、企業における人材育成、従業員のキャリア形成		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	個人と企業組織の調和のために、個人が企業組織でどのようにキャリア形成していくかを人材マネジメントの観点から理解できるようにする。そこから、将来どのように企業組織で働くかのイメージと心構えをつくることのできるようになる。		
授業の概要	働く個人が企業においてキャリアを形成する流れに沿って、人材の獲得、人材育成、配置や異動、昇進、評価や処遇といった内容について取り上げる。具体的なイメージを持つために、ビデオ等の視聴覚教材を使用する。また、自己理解を深めるための課題への取り組み等を実施する。原則として、講義内容に対する意見や感想を毎回書いて提出してもら		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 企業におけるキャリア形成とは？ 第2回 人材の獲得① 労働市場の変化、雇用の多様化 第3回 人材の獲得② 求職と求人、就職活動 第4回 人材育成① 人材育成の目的 第5回 人材育成② OJTとOff-JT、キャリア・パス 第6回 人材フロー 配置と異動 第7回 管理職の役割の変化 第8回 管理職の早期選抜と育成 第9回 人材の評価 評価制度の変化 第10回 人材の処遇① 外面的報酬と内面的報酬 第11回 人材の処遇② 賃金管理の変化 第12回 人材の尊重 働く環境の整備、福利厚生 第13回 転職・失業・定年退職 第14回 変化する企業と個人の関係 第15回 まとめ さまざまなキャリア形成		
テキスト	開講時に指示する	参考文献	阿部正浩、松繁寿和（2010）『キャリアのみかた 図で見る109のポイント』有斐閣、守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社
評価方法	感想及び課題提出:50% 期末のレポート:50%		

キャリア・ライフ・デザインⅢA		前期 2 単位	2年
キャリア論、志望業界・職種・企業の分析		奈良 堂史（なら たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、自身の志望する業界・職種・企業について、講義を通じてその研究方法を理解・習得し、「業界研究シート」「職種研究シート」「企業研究シート」の3点を作成し、完成させる。		
授業の概要	(1) 業界研究 (2) 職種研究 (3) 企業研究の3部で構成される。各回の授業は、講義と作業（宿題を含む）が中心となる。(1)～(3)を通じて、自身の希望進路に関して、どのような業種・企業があり、どのような職種や働き方があるのかを理解する。さらに、それぞれについて研究シートにまとめることで、習得した知識を“見える化”することがで		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス（講義の進め方、受講者アンケートなど） 第2回 就職活動と「業界研究」「職種研究」「企業研究」 第3回 第1部「業界研究」（1）業界研究の手順 第4回 （2）業界情報の収集① 大企業編 第5回 （3）業界情報の収集② 中小企業編 第6回 （4）業界研究に役立つ分析フレームワーク 第7回 （5）業界研究シートの完成 第8回 第2部「職種研究」（1）自己分析・適正と職種 第9回 （2）職種の調べ方 第10回 第3部「企業研究」（1）企業研究の重要性とその手順 第11回 （2）企業情報の収集 第12回 （3）企業プロフィール・企業特性の分析 第13回 （4）財務諸表による企業分析 第14回 （5）企業研究シートの完成 第15回 半期のまとめと基礎理解確認テスト		
テキスト	特になし（講義内で担当者作成のプリント等を配布する）	参考文献	友岡賛編、齊藤博・紺野喜文・中山重穂（2012）『就活生のための企業分析』八千代出版、森田松太郎（2009）『経営分析入門（第4版）』日本経済新聞
評価方法	レポート:40% 平常点:30% 小テスト等:30%		

キャリア・ライフ・デザインⅢB		前期 2 単位	2年
キャリア論、社会人基礎力の養成（プレゼンテーション、グループワーク）		奈良 堂史（なら たかし）	
授業の到達目標及びテーマ	どのような企業の、どのような職種においても「自己を表現し、他者とのコミュニケーションを図る」ことは、共通に求められる社会人の能力・スキルである（社会人基礎力）。本講義では、プレゼンテーションとグループワークを通じて、「自己表現力」「コミュニケーション能力」「関係調整力」「チームマネジメント力」などの諸力の養成を目標とす		
授業の概要	(1) プレゼンテーション (2) グループワークの2部で構成される。各回の授業は、講義と（学生による）作業や発表が中心となる。積極的に出席し、他の受講生とコミュニケーションを図る意欲のある学生の受講を歓迎する。なお、グループワーク（第9回以降）の内容は、クラスサイズ（履修者の人数）等により、変更することがある（講義内で指示す		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 本講義の進め方、履修上の注意、受講者アンケートなど</p> <p>第 2回 社会人基礎力（就業力）とは、どのような能力か？</p> <p>第 3回 プレゼンテーションの知識① 目的、構成、手順、マナー</p> <p>第 4回 プレゼンテーションの知識② 発表の種類、ツール、方法</p> <p>第 5回 プレゼンテーションの知識③ 図解表現の技法</p> <p>第 6回 プレゼンテーションの知識④ フレームワークシンキング</p> <p>第 7回 受講生による口頭発表（前半）</p> <p>第 8回 受講生による口頭発表（後半）</p> <p>第 9回 グループワーク①（クラスサイズにより、適宜指示する）</p> <p>第10回 グループによる成果発表①</p> <p>第11回 グループワーク②（クラスサイズにより、適宜指示する）</p> <p>第12回 グループによる成果発表②</p> <p>第13回 グループワーク③（クラスサイズにより、適宜指示する）</p> <p>第14回 グループによる成果発表③</p> <p>第15回 半期のまとめ —— 再び、社会人基礎力とは何か？</p>		
テキスト	特になし（講義内にて指示する）	参考文献	上村・内田（2008）『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版。竹田・藤木（2006）『大学生と新社会人のための知のワークブック』く
評価方法	平常点：60% 期末レポート：40%		

現代教養コア入門	前期集中 2 単位	1年
現代教養学科で学ぶ基本姿勢を身につけよう		
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、梅垣 千尋（うめがき ちひろ）、河見 誠（かわみ まこと）、小林 瑞乃（こばやし みずの）、齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）、鈴木 直子（すずき なおこ）、趙 慶姫（ちょう きょうひ）、森下 春枝（もりした はるえ）、吉岡 康子（よしおか やすこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 現代教養学科での学びの基盤となるのは「現代教養コア科目」である。この授業は、「現代教養コア科目」とはどのような内容でありそこで何を学ぶのかということを理解し、これから始まる現代教養学科での学びに向けた基本姿勢を身につけることを目標とする。</p> <p><授業の概要> 現代教養コア科目の三つの科目群である「女性と現代(自分を知る)」「共生(他者とつながる)」「表現(発信しコミュニケーションする)」について、それぞれの科目群の学びを通して体得してもらいたい姿勢、視座がどういふものかを、映像資料や体験談、また学生間の討議なども交えながら、考えていく。基本的に専攻ごとの授業として進められるが、小グループに分かれた話し合い、学科全体で集まった講演会・座談会も組み込まれる。</p> <p><授業計画> ・クラス、学問入門演習に分かれた話し合い ・女性と現代(専攻ごとの授業) (1) 「女性と現代」をなぜ学ぶのか(映像資料等を通して) (2) 女性の〈私〉が大学で学ぶ意味(グループ討議) (3) 世界(アジア)から学ぶ「女性と現代」(映像資料等を通して) (4) 現代日本に生きる〈私〉が学ぶ意味(グループ討議) ・共生(専攻ごとの授業) (1) 「共生」で何を学ぶのか：共生社会実習等を例に (2) 人はなぜ共生を求めるのか(映像資料等を通して) (3) 共生から人間関係をみる(聖書と家族) (4) グループ討議、全体討論 ・表現(専攻ごとの授業) (1) 表現/創作：物語世界を創造してみよう (2) 表現/身体・技術：身体文化・表現の在り方を探る (3) 表現/造形：視覚伝達の効果について ワークショップ、グループ討議 (4) 表現/造形：グループ討議の全体発表/まとめ：「表現」を何のために学ぶのか ・共通企画(学科全体) 卒業生のお話を聞こう：OGパネルディスカッションとグループ討議</p> <p><テキスト> 特になし。</p> <p><参考文献> 特になし。</p> <p><評価方法> 授業参加度合い(討議、リアクションペーパー含む) 50% レポート 50%</p>		

女性と現代A		前期 2 単位	1・2年
女性が主体的に生きることを考える		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義は、現代日本社会において、女性が主体的に生きる力を養成することを目的とする。 長期的視野に立って自分自身のライフデザインを考える上で、日本社会における女性を取り巻く社会環境を理解する。		
授業の概要	就職活動、職業選択、結婚、家族形成など、各ライフステージにおいて女性が直面するであろう諸問題を、男性の変容を視野に入れつつ、把握していく。		
授業計画	【前期】 第1回 統計でみる女性の一生：進学・就職・仕事編 第2回 統計でみる女性の一生：結婚・家族編 第3回 現在の就職事情 第4回 女性のライフコースの変化 第5回 性別役割分業意識の変容 第6回 ジェンダー規範と自己形成 第7回 ジェンダーと職業選択 第8回 経済変動と結婚の変容 第9回 結婚の現代的意味を考える 第10回 未婚化・非婚化の進行 第11回 シングルマザー 第12回 専業主婦再考 第13回 家族団欒の変容 第14回 親密性の中の暴力：DV 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントを配布する。	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	ミニペーパー：30% 試験：70%		

女性と現代B		後期 2 単位	1・2年
現代の家族を考える		原 葉子 (はら ようこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 「家族」を社会的な視角からとらえ、私たちが日常的に当たり前だと思っているごく身近な問題を改めて問い直すことの重要性を理解する。 (2) 家族を考えるための基礎的な概念や枠組みを習得し、具体的なテーマについて自ら考えることができるようになる		
授業の概要	「家族」という概念についての基礎知識や歴史を学んだ後、結婚から高齢期に至るまでのさまざまな段階における具体的な問題を、国際比較もまじえながら考えていく。受講者は、リアクションペーパーの記入やディスカッションを通じて、授業に積極的に参加していくことが求められる。		
授業計画	【後期】 第1回 「家族」を考えるための基礎知識 第2回 家族とは何か 第3回 「近代家族」とは 第4回 家族とジェンダー (1) 性別役割分業 第5回 家族とジェンダー (2) 「家」と「家族」 第6回 結婚の現代的意味 第7回 少子化の要因 第8回 出産をめぐる状況の変化 第9回 育児と親役割 第10回 変わる父親像 第11回 さまざまな家族のかたち (1) 離婚後の家族 第12回 さまざまな家族のかたち (2) 非血縁家族 第13回 親密な関係性における葛藤 第14回 高齢期の家族 第15回 まとめとディスカッション		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布する。	参考文献	講義の中で適宜紹介する。
評価方法	期末試験：70% 平常点：30%		

女性と文学		後期 2 単位	1・2年
文学と映像で学ぶ女性身体とライフコース		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性が直面している諸事態を、文学や映像作品を通じて理解します。 ・女性の身体、ライフコース選択、妊娠・出産・墮胎、母娘関係、美醜、国家・社会・民族と女性、平和と女性などのテーマを取り上げ、現代女性を取り巻く諸問題を理解します。 		
授業の概要	講義形式で、前半は、身体とライフコースなど女性たちの私的な体験とその表現について、後半は、戦争やナショナリズム・平和など大きな政治の中の女性の体験とその表現について、映像資料なども交えながら紹介します。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 導入 世界に女しかなかったら？ SF小説の想像力</p> <p>第2回 ライフコース選択と専業主婦 大庭みな子</p> <p>第3回 ネガティブな女性身体 与謝野晶子と倉橋由美子</p> <p>第4回 身体加工・ダイエット・化粧 松本侑子</p> <p>第5回 妊娠を文学する 小川洋子</p> <p>第6回 中絶を選ぶということ</p> <p>第7回 母と娘は永遠のライバル?! 笹野頼子</p> <p>第8回 セクシュアリティと売買春</p> <p>第9回 戦争と女性1 第二次大戦時の日本と「従軍慰安婦」問題</p> <p>第10回 戦争と女性2 ナチスドイツと女性</p> <p>第11回 戦争と女性3 現代の紛争と平和構築</p> <p>第12回 異文化体験と女性1 外国人からみた日本女性</p> <p>第13回 異文化体験と女性2 李良枝と在日文学</p> <p>第14回 異文化体験と女性3 多和田葉子とドイツ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業時にプリントを配布します。	参考文献	斉藤美奈子『モダンガール論』（文春文庫）
評価方法	授業感想文の内容:40% 期末レポート:60%		

女性と歴史		前期 2 単位	1・2年
女性の視点から歴史をみる		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○女性の視点から歴史をとらえる方法を理解する。 ○現代の女性の生き方を、歴史的に広い視野から相対化できるようになる。 ○歴史上の女性にかんする評伝の執筆に取り組み、ひとりの女性の人生から歴史をつかみとる方法を習得する。 		
授業の概要	前半を女性史にかんする講義に、後半を女性評伝の執筆準備にあてる。前半では、西洋近代史を中心として、フェミニズム思想の成立、女性の政治参加の歩み、性的自己決定権の確立などの女性史の流れについて講義を行う。後半では、学生全員がそれぞれの選んだ歴史上の女性にかんするプレゼンテーションを行い、女性評伝の執筆を進めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 歴史のなかの女性を可視化する</p> <p>第3回 女性史の視点から (1) ジェンダーと性差</p> <p>第4回 女性史の視点から (2) 近代フェミニズムの理論と歴史</p> <p>第5回 女性史の視点から (3) 女性の政治参加の歩み</p> <p>第6回 女性史の視点から (4) 女性の性的自己決定権</p> <p>第7回 女性史の視点から (5) 女性と身体表現</p> <p>第8回 女性評伝の執筆にむけて (1) 対象と視点</p> <p>第9回 女性評伝の執筆にむけて (2) 文献の利用</p> <p>第10回 女性評伝の執筆にむけて (3) 個別相談</p> <p>第11回 女性評伝のプレゼンテーション (1) グループ1</p> <p>第12回 女性評伝のプレゼンテーション (2) グループ2</p> <p>第13回 女性評伝のプレゼンテーション (3) グループ3</p> <p>第14回 女性評伝のプレゼンテーション (4) グループ4</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% プレゼンテーション:30% レポート(女性評伝):40%		

女性と芸術		前期 2 単位	1・2年
創作の実作者の観点から興味深い女性美術家、デザイナー、作品等を取り上げ、芸術表現と女性について考察する		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標及びテーマ	芸術表現は男女を問わず人間にとって根源的なものであるが、本講では女性というキーワードで、特に生活との結びつきが強い分野における活動を含め、芸術表現、芸術活動と女性について考察する。生活や社会全般の芸術環境といかに関わり続けてきたかについて、自ら考察することを目的とする。		
授業の概要	講義はパワーポイントや画集を用い、各回1〜3名の女性を取り上げ、それぞれの作品や関連画像などを示しながら授業をすすめる。学生発表を含む。ビデオ、DVD鑑賞の他、関連する展覧会などがあれば紹介する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 人間と芸術表現活動について 第2回 繊維造形、彫刻家：M・アヴァカノヴィッチ、他 第3回 画家：フリーダ・カーロ、他 第4回 フォトコラージュ：ハンナ・ヘッヒ、他 第5回 「Women in the Art」（ビデオ鑑賞） 第6回 生活と芸術：パウハウスの女性達（1） 第7回 生活と芸術：パウハウスの女性達（2） 第8回 生活と芸術：S・T・アルプ、ソニア・ドローネ、他 第9回 生活と芸術：ルーシー・リー、他 第10回 様々な分野で活躍する日本の女性達 第11回 デザイナー：石岡瑛子 第12回 写真家：石内都 「hiroshima」（DVD鑑賞） 第13回 学生発表の準備 第14回 学生発表 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:50% 発表:20% レポート :30%		

女性とキリスト教		後期 2 単位	1・2年
文学・聖書・美術から学ぶ〈キリスト教と女性〉		安藤 公美（あんどう まさみ）	
授業の到達目標及びテーマ	キリスト教を、特に聖書や文学・美術における〈女性〉に注目し、新しい視点から理解していく。それぞれの時代、地域によって〈女性〉の宗教的社会的役割はいかに変容し、またその表象はいかに多様化したのか。現代日本を生きる女性として、その歴史的文化的基盤を見据えることで、より豊かな可能性をもてるようになる。		
授業の概要	男性中心の世界観に彩られたキリスト教理解に対して、近年フェミニスト神学から積極的な女性性の優位が唱えられてきた。聖書に描かれた女性たちの多様な地位と役割を概括し、固定化する像・女性観を脱構築しながら、その複雑さ・多様性を明らかにする。異文化として受容された日本の文化・文学に表出する女性の物語も講読する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 グローバル・ジェンダー・フェミニズム・多様性を問う 第2回 西洋におけるキリスト教と日本の異文化受容 第3回 聖書が語る女性たち1 旧約篇 楽園のエバ 第4回 誘惑と追放の文学 芥川龍之介「三つの室」を読む 第5回 聖書が語る女性たち2 旧約篇 友愛のルツ 第6回 旧約聖書における女性の宗教的社会的役割と現在 第7回 聖書が語る女性たち3 新約篇 聖母マリア 第8回 偏在するマリアの図像（アイコン） 第9回 聖書が語る女性たち4 新約篇 マグダラのマリア 第10回 エロスとアガペーの塑型 芥川「南京の基督」 第11回 映画《南京的基督》における中国・作家・少女 第12回 聖書が語る女性たち5 新約篇 マルタとマリア 第13回 象徴の姉妹 太宰治「雪の夜の物語」を読む 第14回 固定化された女性像／多様化・複数の人間性 第15回 まとめ 〈キリスト教と女性〉を現代に問う		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	竹下節子『聖母マリア』講談社、岡田温司『マグダラのマリア』中公新書など。その他、随時紹介する。
評価方法	レポート:60% 授業のコメント・講評:40%		

女性と法律		前期 2 単位	1・2年
女性の一生に関係する法律について学ぶ		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	法律は日常生活において人の行動に関連するものであるが、女性が一生のライフステージを通して関係し、知っておかなくては困ることになる法律について理解することを授業の到達目標とする。		
授業の概要	学生が一番興味のある恋愛関係に関する法律から講義を始め、結婚と離婚に関する法律、家族の介護・相続に関する法律、女性が働くことに関する法律の順に講義を行う。学生の将来のライフプラン・キャリア形成に役に立つ授業となっている。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 女性と法律学の関係 第2回 性暴力(レイプ・痴漢)と法律 第3回 恋愛・婚約と法律 第4回 不倫・セクハラと法律 第5回 結婚 事実婚と法律婚 第6回 ドメスティックバイオレンス・国際結婚 第7回 児童虐待 第8回 離婚 破綻婚主義 第9回 離婚 財産分与と慰謝料請求 第10回 親の介護 第11回 相続と遺言 第12回 働く女性の法律 雇用機会均等法 第13回 働く女性の法律 産休・育休 第14回 働く女性の法律 パート・アルバイト・派遣 第15回 女性と法律 総括		
テキスト	副田隆重他著『ライフステージと法』有斐閣アルマ	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%		

生活管理学		前期 2 単位	1・2年
「老い」との共生		原 葉子 (はら ようこ)	
授業の到達目標及びテーマ	私たちは「老い」に、社会の一員として、家族として、また自分自身の問題として向き合っていかなければならない。そのためこの講義では(1)日本社会が直面している高齢社会の現状や基本的な問題点を理解し、(2)「老い」と共生するためにどのような社会を築いていけばよいのかを、自ら考え議論できるようになることを目標とする。		
授業の概要	授業は講義形式で行う。はじめは、人口構造、歴史、国際比較を通じ、現代の高齢者を取り巻く環境の変化を概観する。中盤では「介護」に焦点をあて、家族介護や、ケアワークについて考える。さいごに、高齢期をめぐる社会政策や社会的な位置付けについて考察を行う。受講者は、リアクションペーパーを記入しテーマへの考察を深めることが期待		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 「高齢社会」とは何か 第2回 高齢社会の人口学的側面 第3回 社会は「老人」をどう見てきたか 第4回 高齢者と家族(1)変わる関係性 第5回 高齢者と家族(2)国際比較 第6回 高齢社会と介護(1)介護の戦後史 第7回 高齢社会と介護(2)家族と介護 第8回 高齢社会と介護(3)変わる介護のかたち 第9回 高齢社会と介護(4)男性とケアワーク 第10回 福祉社会のあり方 第11回 高齢期の格差 第12回 高齢者の社会的位置付け(1)社会政策 第13回 高齢者の社会的位置付け(2)メディア 第14回 老いの経験 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。毎回プリントを配布する。	参考文献	毎回のテーマに合わせて、講義のなかで紹介する。
評価方法	期末試験:70% 平常点:30%		

女性と労働		後期 2 単位	1・2年
女性が働くことを考える		柚木 理子 (ゆき まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、女性が労働者として自立的に社会参画する力を養成することを目的とする。 現代日本社会の変化の著しい雇用状況を理解した上で、女性のキャリアをデザインできるようにする。		
授業の概要	激変する雇用環境の中で、若者や女性が就職活動や職場でいかなる問題に直面するかを理解し、働く際に必要となる社会的知識を身につけ、問題解決の方法や能力を養っていく。		
授業計画	【後期】 第1回 働く女性をめぐる問題の諸相 第2回 現代の就職事情 第3回 若者の雇用状況 第4回 日本の雇用システムの変化 第5回 求められる人材とは？ 第6回 正規・非正規で働くこと 第7回 バイト・パート・派遣で働くこと 第8回 女性の働き方と生涯賃金 第9回 ワーキング・プア／貧困の女性化 第10回 給与・社会保障の仕組み 第11回 男女雇用機会均等法 第12回 セクシュアル・ハラスメント 第13回 パワー・ハラスメント 第14回 職場で困った時には 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントを配布する。	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	ミニペーパー:30% 試験:70%		

女性と身体		後期 2 単位	1・2年
「身体」を通じてジェンダーを学ぶ		荒木 純子 (あらかき じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	生む性としての機能を備えた女性の身体がどのように捉えられてきたのか、歴史的に理解する。とくに西洋における時代ごとの科学・医学・技術とのかかわりを念頭において理解することで、現代の女性としての生き方を設定できるようにする。		
授業の概要	女性の身体を「知る」「使う」「装う」の3つの観点から考えていく。「知る」では伝統的な女性観を聖書や医学書など男性知識人によって展開された言説と表象から学ぶ。「使う」では女性が自らの身体とどのように向き合ってきたかを健康と病、妊娠出産といった機会から検討する。「装う」では女性の身体を飾り、変え、演出する諸相について考え		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション：女性は「得」？ 第2回 女性の身体を「知る」1 聖書の女性観 第3回 女性の身体を「知る」2 聖人伝と異性装 第4回 女性の身体を「知る」3 発生学の発展 第5回 女性の身体を「知る」4 婦人科学の発展 第6回 女性の身体を「使う」1 聖女と魔女 第7回 女性の身体を「使う」2 魔術と医術 第8回 女性の身体を「使う」3 母性と看護 第9回 女性の身体を「使う」4 産科学の発展 第10回 女性の身体を「使う」5 病理と生理 第11回 女性の身体を「装う」1 美とエロス 第12回 女性の身体を「装う」2 セクシーな所作 第13回 女性の身体を「装う」3 身体加工 第14回 女性の身体を「装う」4 化粧と身なり 第15回 まとめ		
テキスト	プリントを使用します。	参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末レポート:80% レスポンスシート:20%		

女性と健康		後期 2 単位	1・2年
女性と健康・命・長寿社会		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	女性の健康は、自ら生きがいを持って充実した生活をおくるために不可欠であるとともに、次世代の命と健康を支える存在でもある。女性の健康についての基本的な知識や考え方を学ぶとともに、日常生活の中で直面する問題の解決、対処する知恵や考え方を探る。		
授業の概要	女性として生きていくうえで、健康の問題やジェンダーの問題は避けて通ることができない。健康、体力、ジェンダー、医療、老い、生きがいについて具体的事例を上げ、その中から自らの健康とどう向きあっていくのかを考える機会とする。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の概要説明、年齢の心理 第2回 長寿社会と健康（100歳の壁は越えられるか） 第3回 女性のスポーツから見るジェンダー オリンピックを例に 第4回 女性とスポーツ スポーツは健康をもたらす？ 第5回 女性と体力 第6回 女性と健康1、健康科学から見た女性と身体 第7回 女性と健康2、身体・医療とジェンダー 第8回 女性と健康3、妊娠・出産・子育て 第9回 女性と健康4、ダイエットは必要ですか 第10回 暴力とジェンダー 第11回 近代の家族のかたち 第12回 現代の家族のかたち 第13回 女性と老い・生きがい1、健康と寿命 第14回 女性と老い・生きがい2、高齢社会を生きる 第15回 まとめ		
テキスト	プリントを中心にする	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:60% リアクションペーパー・感想文:20% 課題:20%		

生活デザイン		前期 2 単位	1・2年
道具やシステムの理解と使いこなす工夫		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	・生活のさまざまな場面に登場する道具について詳しく観察し、道具のデザインと使い方のライフスタイルを把握する。 ・道具やシステムとの関わり方によってものが変わっていくプロセスを理解する。		
授業の概要	身近な道具と専門的なシステムを交互に紹介しながら、設計とデザイン、使い方の基本を示していく。また、生活の一場面についてどのように工夫・改善できるかを考えてもらい、集まった考えを比較評価する。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨN／人と道具の関係 第2回 生活行動の観察（1）道具を使う目標と使った結果 第3回 生活行動の観察（2）自分でする・人に任せる 第4回 生活行動の観察（3）動物と人間を比べる 第5回 デザインの方針（1）目的・状況に応じた形と空間 第6回 デザインの方針（2）実用性に留まらないデザイン 第7回 デザインの方針（3）合理的なデザインとは 第8回 事例の比較観察（1）わかりやすい表示 第9回 事例の比較観察（2）わかりにくい道具やシステム 第10回 事例の比較観察（3）大切な記憶と道具 第11回 比較考察（1）安全性 第12回 比較考察（2）自動化 第13回 比較考察（3）アシスト 第14回 比較考察（4）デザインの寿命 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 平常点:20% レポート:60%		

女性と現代特論A		後期 2 単位	1・2年
女性とエスニシティ：宗教と民族から世界の女性を考える		岩本 裕子（いわもと ひろこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	エスニシティつまり民族や宗教をキーワードに世界の女性の状況を知ることテーマとする。自分のことだけでなく、様々な状況に置かれた女性を理解でき、自らが何をなされるかを考えられるようになることを目標とする。知識を得て、寛容性を身につけて、考える力をつけることに期待する。		
授業の概要	毎回の講義テーマに即して、講義形式で行う。指定されたテキストの予習部分をしっかり読み込んで参加することを前提に講義を進めるので、自分らしいノートを作りながら講義に臨んでほしい。毎回の講義で自分の理解度を確かめながら「考える」力をつけてほしい。映像や音楽は、毎回教材とするので、耳目を刺激しつつ理解を深められるだろう。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに（講義内容紹介） 第2回 2013年夏のニュースから世界を学ぶ 第3回 女性と暴力① 従軍慰安婦問題を考える 第4回 女性と暴力② 『カラーバブル』からDVを考える 第5回 女性と暴力③ 映画『ティナ』からDVを考える 第6回 女性と暴力④ FGMを考える 第7回 宗教と女性 ① 聖書のなかの女性 第8回 宗教と女性 ② ユダヤ教の女性観 第9回 宗教と女性 ③ キリスト教とアメリカ女性 第10回 宗教と女性 ④ イスラム教文化圏の女性 第11回 大学生として「パール・ハーバー」を考える 第12回 民族と女性 ① クリスマスを迎える 第13回 民族と女性 ② 新年を迎えた世界を考える 第14回 民族と女性 ③ 日本女性の今を考える 第15回 おわりに（講義から学んだことは生きているか？）		
テキスト	岩本裕子『スクリーンに投影されるアメリカ』（メタ・ブレン、2003年）	参考文献	岩本裕子『語り継ぐ黒人女性』（メタ・ブレン、2010年）『アメリカ黒人女性の先駆者たち（仮題）』（明石書店、2013年4月刊行予定）
評価方法	積極的な授業参加：20% 冬休み中のレポート：20% 学期末試験：60%		

女性と現代特論B		前期 2 単位	1・2年
女性とマイノリティ：アメリカ黒人女性の視点から女性を考える		岩本 裕子（いわもと ひろこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ女性、特にマイノリティということで、黒人女性をテーマに現代社会を考える。1619年に初めて「運ばれた」アフリカ人20人のうち3人が女性だった。この年から390年目で初めて黒人女性のファーストレディが誕生した。奴隷解放宣言から150年目の今年、黒人大統領二期目の合衆国の女性たちのことを考える。		
授業の概要	毎回の講義テーマに即して、講義形式で行う。指定されたテキストの予習部分をしっかり読み込んで参加することを前提に講義を進めるので、自分らしいノートを作りながら講義に臨んでほしい。毎回の講義で自分の理解度を確かめながら「考える」力をつけてほしい。映像や音楽は、毎回教材とするので、耳目を刺激しつつ理解を深められるだろう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに（講義内容紹介） 第2回 黒人で最初のファーストレディ、ミシェル・オバマを知る 第3回 アメリカ社会における黒人女性の位置づけ 第4回 アメリカ黒人女性の歴史概観 第5回 奴隷制時代の黒人女性たちに出会う 第6回 アンテベラム期の黒人女性たちから学ぶ 第7回 ノーベル文学賞受賞『ピラウド』を映画で考える 第8回 20世紀転換期の黒人女性の先駆者たちを知る 第9回 20世紀前半の先駆者たちの軌跡をたどる 第10回 公民権運動を黒人女性の視点から学び直す 第11回 20世紀末のアメリカ社会の問題に直面する 第12回 21世紀前半の展望を描く 第13回 まとめ（アメリカ黒人女性の先駆者たちを振り返る） 第14回 考える大学生になるために「マンハッタン計画」を知る 第15回 おわりに（講義から学んだことは生きているか？）		
テキスト	岩本裕子『アメリカ黒人女性の先駆者たち（仮題）』（明石書店、2013年4月刊行予定）	参考文献	岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』（メタ・ブレン、1999年）『語り継ぐ黒人女性』（メタ・ブレン、2010年）
評価方法	積極的な授業参加：20% 学期途中の小レポート：20% 学期末試験：60%		

女性と現代特論C		後期 2 単位	1・2年
性暴力と性の商品化		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性に対する性暴力と被害者支援の現状を学び、今後の支援のありかたや性暴力をなくすための問題点を理解する。 ・性の商品化の問題点や議論の対立点を学び、性の自己決定及び、主体的な性と生について理解する。 		
授業の概要	全体を①歴史②性暴力③性の商品化にわける。①では性差別、性暴力に関する学問の成立の歴史的経緯とその成果を学ぶ。②では、現在の痴漢、強姦、ストーカー、セクシャル・ハラスメント、DVなどの性暴力の実態と被害者心理や支援を学ぶ。③では性産業やメディアにおける性表現や情報を検討し、女性の主体的な性と生のあり方を探る。		
授業計画	【後期】 第1回 ジェンダーとは何か 第2回 性暴力と女性運動 第3回 女性運動と学問研究 第4回 セクシャル・ハラスメント 第5回 ストーカー 第6回 ちかん・強姦 第7回 性暴力の被害者支援 第8回 DVの構造と実態 第9回 DV被害者の生活再建 第10回 DV加害者の更生 第11回 性の商品化 現状と問題点 第12回 メディアにおける性表現①新聞、雑誌 第13回 メディアにおける性表現②映像 第14回 性の自己決定 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。資料を配布する。	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	レポート:50% 授業感想文:50%		

現代女性特別演習A		後期 2 単位	1・2年
ライフヒストリー探求		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	自分自身や家族、そして他者など身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直すための授業。様々なライフヒストリーの考察を通して、現代女性をめぐる状況を調査・検証し、これからの課題を探求する。その後各自のテーマを決め、調査・分析の実践力を養い、結果をまとめていく。		
授業の概要	まず、フィールドワークや聞き取りなど調査・研究の方法等について説明する。また女性をめぐる現状と問題について具体的な事例を通して学ぶ。自由活発にディスカッションを行って各自の問題意識を明確にし、調査対象や研究目標を決定する。後半では、各自の調査・研究の報告と議論を重ね、それぞれ検証を深めて、成果としてまとめる。		
授業計画	【後期】 第1回 ライフヒストリーとは何か：現状とその分析 第2回 調査・研究の方法論 第3回 事例研究（1）文献・資料 第4回 事例研究（2）聞き取り・フィールドワーク 第5回 事例研究（3）映像資料 第6回 事例研究（4）体験談を聞く 第7回 調査・研究課題の設定（1）グループディスカッション 第8回 調査・研究課題の設定（2）全体報告 第9回 調査・研究課題の設定（3）方法の検討 第10回 調査・研究の経過報告（1） 第11回 調査・研究の経過報告（2） 第12回 調査・研究の経過報告（3） 第13回 調査・研究の経過報告（4） 第14回 調査・研究の完成報告会 第15回 まとめ：問題の所在とその歴史的意義について		
テキスト	資料プリントを配布する	参考文献	法政大学大原社会問題研究所編『人文・社会科学研究とオーラル・ヒストリー』（御茶の水書房、2009年）など、随時紹介する。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

現代女性特別演習B		前期 2 単位	1・2年
女性とライフストーリー		三具 淳子 (さんぐ じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業はライフストーリー研究を通して、女性の人生と社会・歴史との関わりを考察することを目標とする。授業参加者は、ライフストーリー研究の方法論的議論や研究成果について学ぶと同時に、ライフストーリーを語ったドキュメントあるいはインタビューの収集を自ら行って作品化していく。		
授業の概要	授業では、具体的なライフストーリー研究の方法を学び、歴史上の人物に関する史料を調べたり、家族など存命の人々に直接インタビューをしたりしてライフストーリーを収集する。そのうえで、ライフストーリーをより深く内面的に理解して再構成し、社会や歴史との関わりを考察しながら、研究レポートを作成する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ライフストーリー研究とは 第2回 なぜ女性のライフストーリーに注目するのか 第3回 ファミリー・ストーリーの手法 第4回 オーラル・ストーリー研究の可能性 第5回 インタビューの具体的手法 第6回 インタビュー実習 第7回 録音インタビューの整理 第8回 録音インタビューの分析 第9回 ライフストーリー研究における倫理問題 第10回 ライフ・ドキュメントの収集 第11回 ライフストーリー研究の事例 第12回 ライフストーリー研究の事例 第13回 ライフストーリー研究の事例 第14回 ライフストーリー研究の成果報告 第15回 ライフストーリー研究の成果報告		
テキスト	指定しない。プリントを配布する。	参考文献	授業時に必要に応じて指示する。
評価方法	授業への参加度:40% 研究レポート:60%		

共生論A		前期 2 単位	1・2年
共生ケア論		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	我々が「共に生きる」生活・社会を豊かに形成していく基盤として、「ケア」の姿勢と関わりは不可欠である。本講義では第一に、ケアとはどのようなものであるのかを学ぶ。第二に、ケアが共生をどのように生み出すのかについて学ぶ。そして第三に、自らの他者への向き合い方を「共生とケア」という観点から問い直し、深く考えることを目標とする。		
授業の概要	まず身近な家庭や地域という観点から「認知症高齢者とケア」「障がい者と共生」を、そしてグローバル社会という観点から「世界の子どもたちと共生」を課題とする。これらを切り口にして、映像等を用いつつ、授業では「共生とは？」「ケアとは？」という問いを常に投げかけ、皆さんの「共生」観「ケア」観を深めていってもらおう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに：共生とは？ 第2回 <認知症高齢者とケア>認知症とは？ 第3回 認知症ケアの問題点は？ 第4回 ケアの理想と現実 第5回 寄り添うケアの試み 第6回 本人に寄り添うことの難しさ 第7回 寄り添うケアは可能か 第8回 <障がい者と共生>障がい者の観念に立つこと 第9回 ノーマライゼーション、バリアフリー 第10回 障がい者との共生とは？ 第11回 <世界の子どもたちと共生>バングラデシュの子どもたち 第12回 貧困の現場 第13回 構造的暴力と平和 第14回 私たちは何をすべき？何が出来る？ 第15回 まとめ：共生ケアの視座がどれだけ深められたか		
テキスト	指定しない。	参考文献	河見誠『現代社会と法原理』（成文堂） その他、適宜指示する。
評価方法	期末レポート:80% 授業参加（提出物含）:20%		

共生論B		後期 2 単位	1・2年
共生の方法としてのトランスセンド		杉田 明宏 (すぎた あきひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	人々が多様性を前提として共生していくために、コンフリクト（衝突・紛争）を非暴力的・共感的・創造的に転換するトランスセンドの理論と方法が重要である。本講義の目標は、第1コンフリクトの現象と理論を理解すること、第2にトランスセンドの方法論を理解すること、第3にトランスセンドの観点から共生論をとらえ直すことができるようになること。		
授業の概要	この授業では、映像資料や読み物、生活上の実例を取り上げ、意見交換、討論なども交えながら、個人間（けんかや諍い）から、組織・集団間、民族・国家間、宗教・文化間等、さまざまな分野・レベルでのコンフリクトを分析し、その原因構造、プロセス、予防・低減、和解の考え方と実践の方法を身につけていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：コンフリクトと共生 第2回 コンフリクトのゴール・アクターとABC 第3回 コンフリクトの3つの局面 第4回 コンフリクトの4つのレベル 第5回 コンフリクトの5つの結果 第6回 和解の方法 第7回 トランスセンド演習(1)ミクロレベル 複雑度低 第8回 トランスセンド演習(2)ミクロレベル 複雑度中 第9回 トランスセンド演習(3)メソレベル 複雑度低 第10回 トランスセンド演習(4)メソレベル 複雑度中 第11回 トランスセンド演習(5)マクロレベル 第12回 持ち寄り事例検討会(1) グループ1 第13回 持ち寄り事例検討会(2) グループ2 第14回 持ち寄り事例検討会(3) グループ3 第15回 まとめ トランスセンドからの「共生」再論		
テキスト	指定しない	参考文献	平和教育アニメーションプロジェクト『みんながHappyになる方法ー関係をよくする3つの理論』（平和文化）井上孝代『あの人と和解するー仲直りの心理学』（集英社）等
評価方法	期末レポート:50% 授業参加（提出物）:50%		

共生の言語 I		前期 2 単位	1・2年
日本手話を学ぶ		大石 勝彦 (おおいし かつひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	手話は、皆さんが日ごろ話している日本語とは異なる体系を持った言語です。手話は「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではなく、むしろ英語などの外国語のようなもの。手話は、文法的な動きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。		
授業の概要	<p>【ナチュラル・アプローチの基本原則】いくつかある原則の中でも、特に重要な二つをあげておきます。</p> 1、先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2、先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。大切なのは手話で話されることを「理解する」ことです。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 講義（手話とは） 第2回 自己紹介（名前 色 数字） 第3回 自己紹介（自分の家族） 第4回 自己紹介（出身地 現住所） 第5回 自己紹介の会話ー1（今までの学んだ範囲） 第6回 自己紹介（職業 学生） 第7回 略歴 カレンダー 第8回 タイムテーブルー1（朝の過ごし方） 第9回 タイムテーブルー2（一日の過ごし方） 第10回 通学（通学方法 電車 バス 自転車など） 第11回 自己紹介の会話ー2（今までの学んだ範囲） 第12回 スポーツ（部活動など） 第13回 旅行（修学旅行 旅行） 第14回 食習慣（ご飯 パンなど） 第15回 今までの復習		
テキスト	特になし	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1200円）
評価方法	試験:60% レポート:40%		

共生の言語Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
日本手話を学ぶⅡ		大石 勝彦（おおいし かつひこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	手話は、皆さんが日ごろ話している日本語とは異なる体系を持った言語です。 手話は「日本語を手の動きに置き換えた記号」ではなく、むしろ英語などの外国語のようなもの。 手話は文法的な動きを持つ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目（視覚）で受け取る「視覚言語」です。目		
授業の概要	【ナチュラル・アプローチの基本原則】いくつかある原則の中でも、特に重要な二つをあげておきます。 1、先生は手話だけで授業をすすめます。日本語の話し言葉による説明はしません。 2、先生は学生に手話の文を話すことをあまり強制しません。大切なのは手話で話されることを「理解」ことです。		
授業計画	【後期】 第1回 前期の復習（自己紹介） 第2回 夏休み（過ごし方） 第3回 趣味 第4回 買い物（場所 誰と いつなど） 第5回 会話-1（今までの学んだ範囲） 第6回 運動会（競争 応援など） 第7回 休日（過ごし方） 第8回 ペット（飼ったペット 今まで飼ったこと） 第9回 勉強（学科 宿題 試験） 第10回 会話-2（今までの学んだ範囲） 第11回 お正月（今までのお正月 旅行 年賀状など） 第12回 クリスマス（ツリー ケーキ プレゼントなど） 第13回 冬休み（過ごし方） 第14回 バイト（時間 どんななど） 第15回 今までの復習		
テキスト	特になし	参考文献	「はじめての手話」（木村晴美・市田康弘共著、日本文芸社、定価1200円）
評価方法	試験:60% レポート:40%		

共生の文学		前期 2 単位	1・2年
他者と共に生きるためには何が必要か？現代アメリカ女性文学を通じて考える。		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
授業の到達目標 及びテーマ	①日本の狭い常識を異化し、自明視してきた自己像や世界観を批判的に見直すための「鏡」として、外国文学の魅力を理解する。②真に他者と共生するために、人種民族・国籍・階級・性別等の狭量で単一のカテゴリーに閉じこもる本質主義的アイデンティティ観を脱し、未知や異質との接触を成長の糧にできるしなやかで耐性に富む生き方を理解する。		
授業の概要	・メールリポート講評 ・キーワード解説 ・テキスト読解と自由討議		
授業計画	【前期】 第1回 イントロ：〈判断〉と〈理解〉～映画鑑賞 第2回 『ヘルプ』1～3章、キーワード集Ⅰ&Ⅱの概説 第3回 4～6章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議 第4回 7～10章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議 第5回 11～14章、キーワード集Ⅰより講義と自由討議 第6回 15～18章、小まとめ、中間レポート概要 第7回 社会と時代の背景、キーワード集Ⅱ導入 第8回 19～22章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議 第9回 23～26章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議 第10回 27～28章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議 第11回 29～33章、キーワード集Ⅱより講義と自由討議 第12回 34章～訳者あとがき、キーワード集Ⅱより講義と自由討議 第13回 キーワード集Ⅰ&Ⅱのまとめ 第14回 資料紹介、期末レポート概要 第15回 まとめ		
テキスト	キャスリン・ストケット『ヘルプ』（上巻・下巻） 集英社文庫、他配布プリント	参考文献	随時紹介
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールリポート:20% 自由討議参加度:20%		

共生の倫理		後期 2 単位	1・2年
いのちの法と倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代は、技術発展により数多くの選択肢を我々に提供してくれる一方、逆にどのような選択をすればよいのか見えにくくなっている時代でもある。この授業は、特に「いのち」にまつわる医療に焦点を当てて、我々の選択が自らを生かすと共に他者をも生かす「共に生きる」選択となるための「共生の倫理」を身につけることを目標とする。		
授業の概要	人工生殖、人間のクローン、人工妊娠中絶、ガン告知等に関する法的規制と倫理的課題を取り上げる。その中で、親子・夫婦関係を貫く原理、子産みの人格的意味について考える。そして患者・家族と医療者・社会の関わりも取り上げ、共に生きる人間関係について自分の課題として考えていく。皆さんに質問を投げかけ、応答しながら展開する授業		
授業計画	【後期】 第1回 はじめに：自律した個人と、共に生きる家族・社会 第2回 代理出産と家族 第3回 代理出産をどう考えるか 第4回 代理出産と正義・ケア・いのちの尊厳 第5回 人工生殖の法と倫理 第6回 生殖の人格的意味と家族関係 第7回 人間のクローニング：技術はどこまで進んでいるか 第8回 人間のクローニングが問いかける家族関係の在り方 第9回 人工妊娠中絶：プロチョイスとプロライフ 第10回 中絶の法的規制とその倫理的根拠 第11回 選別中絶について考える 第12回 中絶からみた家族と国家、家族の権利、女性の権利 第13回 医療現場における家族と患者 第14回 患者を支える家族、看護、医療、社会 第15回 「共に生きる」家族・社会。そして私はどう生きる？		
テキスト	葛生・河見・伊佐『新・いのちの法と倫理』（法律文化社）	参考文献	指定しない。
評価方法	期末試験：80% 授業参加（提出物含）：20%		

宗教と平和		後期 2 単位	1・2年
宗教と平和		豊川 慎 (とよかわ しん)	
授業の到達目標 及びテーマ	時に「宗教」は戦争や争い、憎しみの連鎖の原因に挙げられます。では、はたして「宗教」は「平和」と相容れないものなのでしょうか。本授業ではキリスト教の思想と歴史に焦点を合わせながら、ユダヤ教、イスラム教、仏教などの世界宗教との比較を通じて、各宗教伝統における平和思想を深く理解することを目標とします。		
授業の概要	パワーポイントやDVD映像などを用いつつ、講義を中心とする授業を下記の授業計画に沿って進めて行きます。宗教がもたらす負の側面と同時に、宗教が平和構築の原動力となり得る要件の探究、そして諸宗教の平和的共存を保障する社会の形成という21世紀のグローバルな課題を共に考えたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション—世界の諸宗教と平和の課題 第2回 ユダヤ教の平和思想 第3回 新約聖書における平和思想 第4回 古代における宗教と平和 第5回 中世における宗教と平和—イスラームとの共存 第6回 宗教改革の時代から近代における宗教と平和 第7回 日本におけるキリスト教の平和思想（1） 第8回 日本におけるキリスト教の平和思想（2） 第9回 核兵器廃絶とキリスト教—アメリカの宗教事情と平和 第10回 赦しと和解の宗教思想（1）—クワイ河収容所の事例から 第11回 赦しと和解の宗教思想（2）—キリスト教思想と罪責告白 第12回 ヒンドゥー社会とマザー・テレサの平和思想 第13回 キング牧師の愛と非暴力の平和思想 第14回 ユダヤ・パレスチナ問題から考える宗教と平和 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用しません。レジメを毎回配布します。	参考文献	毎回配布するレジメに参考文献を記します。
評価方法	リアクション・ペーパー：40% レポート：60%		

政治と共生		後期 2 単位	1・2年
共生への政治的合意形成に向けて		松本 高明 (まつもと たかあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講座は、「基礎知識を充実」と「政治的自我を確立」を目標とし、来るべき共生社会へ参画していくために必要な政治意識の確立と実践力の基礎を養ってもらう予定である。そのために(1)政治の原理と民主主義制度、(2)現代日本政治の成り立ちと課題、(3)地域社会の諸変動と地方自治について理解する。		
授業の概要	原論では、政治が身近で誰でも関わっているものであることを理解し、政治参加と民主主義制度、および有権者の政治行動を考える。また政治史では、政治史を学ぶことで日本政治の持つ特質を理解する。さらに地方自治論で、中央集権の下で整備された地方自治体について基礎を知り、現代における社会変動に対応するために必要な思考を養う。		
授業計画	【後期】 第1回 原論(1) 政治とは何か？ 第2回 原論(2) 正当性とリーダーシップ 第3回 原論(3) 市民社会と政治意識 第4回 原論(4) 民主主義を支える政治制度 第5回 原論(5) 選挙制度と政治心理 第6回 政治史(1) 中央集権制と地方自治体の整備 第7回 政治史(2) 55年体制と中央地方関係 第8回 地方自治論(1) 現代地方自治体制度 第9回 地方自治論(2) 地方自治体と財政 第10回 地方自治論(3) 新しい中央地方関係への胎動 第11回 社会変動と地方自治(1) 少子高齢化と地域社会 第12回 社会変動と地方自治(2) 交通網整備と自治体 第13回 社会変動と地方自治(3) 労働力移動と地域自治 第14回 社会変動と地方自治(4) 災害と地域の復興 第15回 社会変動と地方自治(5) 政治的合意形成に向けて		
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントにて配布。	参考文献	高島通敏著「政治学への道案内」三一書房
評価方法	レポート:60% 平常点(課題など):40%		

国際社会と共生		前期 2 単位	1・2年
東アジアにおける共生実現のための国際政治		松本 高明 (まつもと たかあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	課題を通じて、継続的に国際社会観察への目を養っていくとともに、講義にて ・国際政治の基礎理論を理解する。・国際社会の構成主体とその行動原理を知り、その社会形成の過程を理解する。・東アジア(特に中国)についてその動向を知る。・国際的紛争の諸形態とその解決について知る。		
授業の概要	初めに原論にて「近代国民国家体系」の原理について理解してもらい、それを基礎として現代国際社会の特質についてまとめた後、各論で東アジアの国際政治を扱う。特に中国については、富裕化することによって発生した経済格差、政治的自由の制限、中央地方関係、さらには民族紛争といった統合の問題まで概観したい。		
授業計画	【前期】 第1回 原論(1) 国際社会とは何か？ 第2回 原論(2) 近代国際社会の成立 第3回 原論(3) 国民統合と国民意識、そして民主主義 第4回 原論(4) 国際政治学の成立とその理論1 第5回 原論(5) 国際政治学の成立とその理論2 第6回 現代国際政治史(1) 冷戦期のパワー論 第7回 現代国際政治史(2) 国際組織論 第8回 現代国際政治史(3) 地域共同体論 第9回 現代中国論(1) 現代中国の成立と特質 第10回 現代中国論(2) 改革開放以降の政治 第11回 現代中国論(3) 大国を目指した90年代 第12回 現代中国論(4) 国民統合と民族紛争 第13回 現代中国論(5) 地域格差と国家市場形成 第14回 現代中国論(6) 戦後の日中関係 第15回 まとめ 共生実現への政治とは		
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	阿部斎・高橋和夫著「国際関係論」放送大学教材 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣
評価方法	レポート:60% 平常点(課題など):40%		

共生生活の経済		前期 2 単位	1・2年
平和をもたらす「豊かさ」と「共生生活の経済」		石戸 充 (いしど みつる)	
授業の到達目標 及びテーマ	情報通信技術の発展により、新しいグローバル経済の時代が到来しています。これは、地球の裏側にいる「隣人」との緊密な共生関係が必要となっていることを意味します。自然との共生、多文化共生、成熟社会での共生、など、現場に即したテーマから平和に生きる経済について学びます。		
授業の概要	毎回自由な意見交換をするので、積極的に講義に参加してください。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 概論 共生生活の経済の課題 第2回 共生生活の主役とグローバル経済 第3回 I 自然との共生 資源 第4回 I 自然との共生 再生 第5回 II 多文化との共生 民族 第6回 II 多文化との共生 多言語 第7回 III グローバルな共生 グローバル経済 第8回 III グローバルな共生 多国籍企業 第9回 グローバル経済の成立と共生 経済と社会 第10回 グローバル社会の成立と共生 経済の離脱 第11回 グローバル情報技術と共生 第12回 共生生活とは何か 平和と共存 第13回 共生生活とは何か 自由と正義 第14回 平和と共生 第15回 正義と共生		
テキスト	『平和と国際情報通信』（早稲田大学出版）加納貞彦・本間勝・石戸充編著）	参考文献	東條隆進著『よい社会とは何か』（成文堂）
評価方法	平常点と発言:30% 課題・レポート:40% 試験:30%		

生態学 A		前期 2 単位	1・2年
生態系を理解し、その一員としての人間について生態学的認識を深める		高坂 宏一 (たかさか こういち)	
授業の到達目標 及びテーマ	生態系がひとつのシステム（系）であること、さまざまな生物種が相互に依存していること、それぞれの生物種は環境の制約を受けることを理解する。また、生態系の一員である人間について生態学的理解を深めると同時に、人間が生態系に及ぼした影響について理解する。		
授業の概要	食物連鎖などを取上げ、生態系の構造と機能を明らかにする。あわせて人間の諸活動が生態系に及ぼした影響を環境問題として取上げる。同時にそうした問題を引越すに到った人間の特性を進化史的に概観する。また生態学の基本事項であるポピュレーション（個体群、人口）について講じる。インドネシアやボリビアなどでの現地調査の映像を使用		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論 第2回 生態系とは 第3回 生態系の構造と機能 第4回 自然生態系と人間化された生態系 第5回 食物連鎖と生物濃縮 第6回 環境問題と健康問題 第7回 生態系におけるヒトの特殊性 第8回 人類の起源をめぐって 第9回 人類の進化をめぐって 第10回 人間の生存様式の推移とその生態系への影響 第11回 個体群の生態学 第12回 個体群の成長 第13回 個体群の抑制 第14回 人口（ヒト個体群）の推移—過去・現在・将来 第15回 まとめ		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.
評価方法	試験:85% 平常点:15%		

生態学B		後期 2 単位	1・2年
人間の生態学的理解をめざし、人類史を踏まえ適応・文化・人口を考える		高坂 宏一（たかさか こういち）	
授業の到達目標及びテーマ	人間が世界中に暮らしているのは移動・拡散し、さまざまな異なる地域環境にそれぞれ適応することができた結果であることを踏まえ、文化をもつ生物である人間の適応について生態学的視点から理解する。人間の繁栄は資源の利用や人口に表れているが、一方で生態学的問題も抱えていることを理解する。		
授業の概要	人類の全世界への移動の経緯を概観し、さまざまな環境への適応が人類の多様性を生み出したことを論じる。人は他の生物と同様に生物学的に適応すると同時に、文化を適応の手段とすることについて考える。人の適応力の高さや生活様式の変化は人口に表れているが、人口問題も含め人口現象について講じる。ポリビアなどでの現地調査の映像を使用す		
授業計画	【後期】 第1回 序論：人間の生態学について 第2回 多様な環境に暮らす人間 第3回 人類史から見た全世界への移動・拡散 第4回 環境と適応 第5回 生物学的適応について 第6回 人類の多様性 第7回 農耕の起源と生態系への影響 第8回 事例：アンデス高地の環境・人・暮らし 第9回 文化的適応：アンデス高地のジャガイモ加工と適応の意味 第10回 文化的適応：アンデス高地の育児様式をめぐって 第11回 人類の繁栄と人口 第12回 人口現象の把握 第13回 少子高齢化と人口問題 第14回 地球環境問題と生態学 第15回 まとめ		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』東京大学出版会.	参考文献	適宜紹介する.
評価方法	試験:85% 平常点:15%		

環境と共生		後期 2 単位	1・2年
環境問題を通して、社会のとの関わりを考え、国際的な日本の位置付けも考察する。		牧 昌次郎（まき しょうじろう）	
授業の到達目標及びテーマ	1. 環境保護を意識するあまり、現状を否定しがちである。なぜ、科学技術を発展させたのか、その視点も含めた思考力を養う。2. 化石燃料を利用しない社会は、健康弱者に厳しい状況となることを理解し、他者への配慮を確かな知識で説明できるような思考力を養う。3. 環境問題を考えることで、社会へ貢献する意識を再認識する。		
授業の概要	テキストに沿って、ポイントをチェックし、解説を加える形式で授業を進めます。授業の最後に、環境問題に関わる視点をパワーポイントで紹介するので、異なった視点や考え方・思考方法を学んでください。単に知識の暗記や記憶を勉強と考えている方には不向きな授業です。科学政策にも触れますので、総合力をつけたい方には絶好の内容と考えま		
授業計画	【後期】 第1回 概要説明と総論 環境問題の概要の理解 第2回 持続可能な社会をめざして1 20世紀の環境問題 第3回 持続可能な社会をめざして2 自然とどう向き合うか 第4回 地球の自然環境と生物1 地球の資源について考える 第5回 地球の自然環境と生物2 水について考える 第6回 地球の自然環境と生物3 物質循環について考える 第7回 地球規模の環境問題1 環境問題と国際社会を考える 第8回 地球規模の環境問題2 酸性雨と大気汚染を考える 第9回 地球規模の環境問題3 その他の環境問題を考える 第10回 水と食と環境1 飲料水と環境を考える 第11回 水と食と環境2 食品の安全性を考える 第12回 水と食と環境3 これからの方向性を考える 第13回 住まいと環境1 住まいと化学物質 第14回 住まいと環境2 室内空気を汚染する化学物質 第15回 住まいと環境3 住環境と化学物質の総合的理解		
テキスト	暮らしと環境科学（日本化学会編：東京化学同人）	参考文献	台所からの地球環境（環境総合研究所）
評価方法	テスト:70% レポート（課題）:30%		

共生社会実習A	後期集中 1 単位	1・2年
清里ワークキャンプを通して共生を考える	武田 美亜 (たけだ みあ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 共生社会実習は、「共に生きる」ためのエトスを実際に体得するための実習である。共生社会実習Aは、「自然」との共生の体験的理解とともに、「自然」という言葉が指すものについて再考することを目標とする。</p> <p><授業の概要> 本学学生部が企画する国内スタディ・ツアー参加を中核にして、事前学習、事後の振り返り学習によって構成される。本科目が対象とするツアーは、清里キープ協会にて、牛飼い体験、森林散策などを行なうワークキャンプ（9月上旬、2泊3日で実施予定）である。</p> <p><注意事項> 他の講義科目と異なる点が多いので、以下のことに充分注意すること。 (1) 指定されたスタディ・ツアーへの申し込みと履修登録は別である。ツアーへの申し込みは学生課窓口にて直接行なうが、それによって自動的に本科目の履修登録がされるわけではない。 (2) スタディ・ツアーへの申し込みおよび履修登録の時期は、学期途中（6～7月予定）である。詳細はポータル、掲示等を確認すること。 (3) 履修登録人数は、当該スタディ・ツアー参加可能人数に伴い、限定される。 (4) 諸般の事情により、当該スタディ・ツアーが中止となる場合がある。その場合、本科目も閉講となる。 (5) その他、詳細は履修指導時に説明する。</p> <p><評価方法> 実習への参加度合い（事前・事後学習、報告書作成等を含む）：20% レポート：80%</p>		

共生社会実習C	後期集中 1 単位	1・2年
国際協力への理解を通して共生を考える	趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 共生社会実習は「共に生きる」ためのエートスを実際に体得するための実習である。共生社会実習Cは、「グローバル社会での共生」の体験的理解を目標とする。国際的な知見を養うとともに、自らが出来ることを参加者同士で議論しながら課題解決能力を身につけることを目指す。</p> <p>【授業の概要】 Cは国際理解教育に携わっている組織による3日間程度のワークショップへの参加を実習内容とする。今回、対象となるプログラムは、国際協力塾等を展開しているNPOのGLMiによる「国際協力プランナー入門～今日からあなたも国際協力プランナー」(9月中旬【夏期休暇期間内】に、本学内にて開催予定)である。</p> <p><プログラム例></p> <p>1日目 ○イントロダクション ○ワークショップ「おいしいチョコレートの実実」 ○プロジェクト企画会議「なぜ学校に行けない子どもたちがいるのだろうか」-問題解決の糸口を探る ○国際協力の取り組み-NPO編-：ゲストスピーカーによる講義</p> <p>2日目 ○講義「ようこそ国際協力の世界へ」 ○プロジェクト企画会議-アクションプラン作成 ○国際協力の取り組み-国際機関編-：国連機関の見学 ○国際協力の取り組み-フェアトレードショップ編-：ショップの訪問</p> <p>3日目 ○プロジェクト企画会議-アクションプラン完成 ○ゲストスピーカー（在日アフリカ人）による講義 ○発表会</p> <p>【注意事項】 ・この科目は人数制限科目となる。 ・日時や内容の詳細、登録の仕方については、年度初頭行事における説明・配付資料によって確認のこと。</p> <p>【テキスト】 プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 授業中に紹介する。</p> <p>【評価方法】 実習への参加度合い：20% レポート：80%</p>		

共生社会実習D (1)	春休集中 2 単位	1・2年
アジアのスタディ・ツアーを通して共生を考える	河見 誠 (かわみ まこと)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 共生社会実習は、「共に生きる」ためのエートスを実際に体得するための実習である。共生社会実習Dは、「アジアとの共生」の体験的理解を目標とする。</p> <p><授業の概要> D (2) は本学学生部が企画する国外スタディ・ツアー参加を中核にして、事前学習、事後の振り返り学習によって構成される。今回、対象となるツアーは、カンボジア・スタディ・ツアー (2月に6日程度) である。</p> <p><テキスト> 指定しない。</p> <p><参考文献> 指定しない。</p> <p><注意事項> a) 指定されたスタディ・ツアーへの申し込みと、履修登録は別個である。ツアー申し込みは学生課窓口にて直接行うが、それによって自動的に履修登録されるわけではないことに留意すること。 b) スタディ・ツアーへの申し込み、及び履修登録の時期は、学期途中である (いずれも9-11月の間の指定された期間となる予定)。この点も、他の授業とは異なるので、各自、ポータル、掲示等で確認すること。 c) 履修登録人数は、当該スタディ・ツアー参加可能人数に伴い、限定される。 d) 諸般の事情により、当該スタディ・ツアーが中止となる場合がある。その場合にはこの授業も閉講となる。 e) D (1) とD (2) をともに履修することはできない。 f) 卒業年次にこの科目を履修登録をする場合は、この科目以外の授業で卒業単位を満たす前提で登録をすること。 g) その他、詳細は履修指導時に説明する。</p> <p><評価方法> 実習への参加度合い (事前・事後学習・報告書作成等を含む) 20% レポート 80%</p>		

共生社会実習D (2)	後期集中 2 単位	1・2年
アジアのスタディ・ツアーを通して共生を考える	河見 誠 (かわみ まこと)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 共生社会実習は、「共に生きる」ためのエートスを実際に体得するための実習である。共生社会実習Dは、「アジアとの共生」の体験的理解を目標とする。</p> <p><授業の概要> D (1) は国際NGO等が企画する国外スタディ・ツアー参加を中核にして、事前学習、事後の振り返り学習によって構成される。今回、対象となるスタディ・ツアーは、ACEF (アジアキリスト教教育基金) 主催・夏期バングラデシュ・スタディ・ツアー (8月に2週間程度) である。</p> <p><テキスト> 指定しない。</p> <p><参考文献> 指定しない。</p> <p><注意事項> a) 指定されたスタディ・ツアーへの申し込みと、履修登録は別個である。ツアー申し込みはACEFに対して直接行うが、それによって自動的に履修登録されるわけではないことに留意すること。 b) スタディ・ツアーへの申し込み、及び履修登録の時期は、学期途中である (いずれも5-7月の間の指定された期間となる予定)。この点も、他の授業とは異なるので、各自、ポータル、掲示等で確認すること。 c) なお、対象となるスタディ・ツアーは本学の特別奨学金給付対象となる可能性があるが、その奨学金応募についても、学生自身が別途行うことになる。 d) 履修登録人数は、当該スタディ・ツアー参加可能人数に伴い、限定される。 e) 諸般の事情により、当該スタディ・ツアーが中止となる場合がある。その場合にはこの授業も閉講となる。 f) D (1) とD (2) をともに履修することはできない。 g) その他、詳細は履修指導時に説明する。</p> <p><評価基準> 実習への参加度合い (事前・事後学習・報告書作成等を含む) 20% レポート 80%</p>		

共生社会実習E	後期集中 1 単位	1・2年
子どものくらしについて考える	菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
<p>授業の到達目標およびテーマ</p> <p>子どもは”いま”を生きる存在である。子どもたちのくらしは彼らの”いま”が保障されるものでなければならない。ただ、現在の状況を改めてみると、子どもたちの”いま”が十分に保障されているかどうか分からない、あるいは脅かされている現状が見えてくる。この授業では、乳児期から学齢期の子どもに焦点をあて、子どもたちの生活の場に自ら赴き、直接見たり聞いたりすることを通して、子どものくらしについて考えることを目的とする。</p> <p>子どもの生活の場は多岐にわたるが、この授業では正規（法制度に基づいた）の保育施設や教育機関以外の場所に注目する。認可外の施設や普段あまりなじみのない子どもたちの生活の場は、現状への違和感からできたもの、正規な保育・教育では扱いきれない子どもの生活を支えるものなどがあり、子どものくらしを考えるためのヒントがたくさんあると考えるからである。</p> <p>具体的には、まず、認可外の保育施設や学童保育など、認可の保育施設や教育機関以外に子どもたちが過ごす場所にはどのようなものがあるのかについて理解する。そのうえで、自分の居住する地域にどのような子どもの居場所があるかを調べ、実際にその場に身をおき体感することを通して理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>フィールドワークに赴くための準備として、4月と7月に授業を行う（月曜5、6限を予定している）。前期のうちに各自がフィールドに入るための準備を進め、7月までにフィールドワーク先を探し先方に連絡し日時などを決定する。フィールドワーク先の検討にあたっては個別相談をする。夏季休業中にフィールドワークを行い、後期に報告会を行う。</p> <p>互いのフィールドワークの体験を共有しながら、子どものくらしについて考えていく。可能であれば全員で学外施設の見学を行う。</p> <p>フィールドワークでは、どこに行き、何を見るか、交渉もふくめてすべて自分で調べて進めるため、受講者には積極的な参加を求める。フィールドで見たり聞いたりしたことをフィールドノーツにまとめ、期末レポートとともに提出する。</p> <p>授業計画</p> <p>4月（15日22日29日を予定） オリエンテーション フィールドを探す：フィールドエントリーのしかた 子どもの居場所を知る（フリースクール、学童保育、自主保育、森のようちえん）</p> <p>5月～6月（個別相談） フィールドワーク先を探す</p> <p>7月（8日15日22日を予定） フィールドワークの実際 フィールドノーツのまとめかた フィールドの去り方</p> <p>9月（未定） 報告会 まとめとふりかえり</p> <p>テキスト 授業内で適宜プリントを配布</p> <p>参考文献 授業内で適宜紹介する</p> <p>評価方法 授業への参加度：40% フィールドノーツ：40% 期末レポート：20%</p>		

共生社会特別演習	春休集中 2 単位	1・2年
沖縄を学ぶ旅	輪島 達郎（わじま たつろう）	
<p>この科目は、学生部主催「沖縄を学ぶ旅」への参加者にたいして、一定の条件を満たした場合に単位を付与するものです。9月もしくは10月に参加者を公募し、11月から12月にかけて、5限終了後に3回のワークショップを行い、2月中旬に3泊4日の沖縄への研修旅行を行います。また、旅行終了後、2月中に1回のワークショップを行い、所定のレポートを提出します。</p> <p>以上のプログラムにすべて参加することが、単位取得の条件となります。</p> <p>また、旅行にともない、参加者には5万円前後の費用を負担していただきます。</p> <p>おもな訪問先は、ひめゆり平和祈念資料館、平和の礎、首里城、南風原文化センター、旧南風原陸軍病院20号壕、佐喜真美術館、国立療養所沖縄愛楽園（ハンセン病療養施設）、慶佐次マングローブ林、名護市辺野古地区、道の駅かでな、シムクガマ、チビチリガマ、読谷やちむんの里、です（前年度の例）。</p> <p>高校までの修学旅行や、観光旅行での訪問と異なり、事前に十分に学習を行い、訪問先ではさまざまな方にじっくり話をうかがい、質疑応答の時間をもって、それぞれの参加者の問題意識を深めていきます。</p> <p>沖縄は豊かな自然と文化と生活が息づく島である一方、いまなお続く日本による植民地的な支配、沖縄戦、米軍基地問題など、日本について考えるべき多くの問題を提起している場所です。沖縄について現地で対話しながら学ぶことによって、日本について、自己について、深く思索していく機会となります。</p>		

ヴィジュアルコミュニケーション基礎演習A	前期 2 単位	1・2年
造形表現の基礎を講義と演習を通して学ぶ	阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高めるために、基礎演習Aでは、造形の3要素（色彩、形、素材・質感）について学ぶ。講義と演習により、デザイン・造形における基本を理解し、デザイン・造形表現の基礎力を身につけることを目的とする。	
授業の概要	講義は各テーマにそった様々な図版、画像による例を示しながら解説する。講義後、テーマに合わせた課題演習を行う。演習作品の講評会を行うことにより、参加学生の様々な表現を共有する。	
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ヴィジュアルコミュニケーションとは／造形の3要素とは</p> <p>第2回 講義：色彩について／演習1：色相環とグレースケール</p> <p>第3回 演習1：続き</p> <p>第4回 演習2：色彩によるストライプ</p> <p>第5回 演習2：続き</p> <p>第6回 演習2：続き</p> <p>第7回 講評：演習1、2／講義：形（点・線・面）について</p> <p>第8回 演習3：点による構成</p> <p>第9回 演習3：続き</p> <p>第10回 演習3：続き</p> <p>第11回 講評：演習3／講義：素材・質感（テクスチャー）</p> <p>第12回 演習4：フロッタージュによる質感表現カラーージュ</p> <p>第13回 演習4：続き</p> <p>第14回 演習4：続き</p> <p>第15回 総合講評：演習1～4／まとめ</p>	
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献 授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点：30% 課題演習作品：50% レポート :20%	

ヴィジュアルコミュニケーション基礎演習B		前期 2 単位	1・2年
造形表現の基礎を講義と演習を通して学ぶ		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高めるために、基礎演習Bでは、造形の3要素(色彩、形体、素材・質感)について、主に「形体」を中心に学ぶ。講義と制作を交えた演習により、「デザイン・造形」における基本を理解し、「デザイン・造形表現の基礎力」を身につけることを目標とする。		
授業の概要	3要素について、それぞれ図版、画像を用いて講義を行い、テーマにそった課題制作(紙や色材を用いた抽象形体による平面構成)を行う。課題ごとの講評会で学生が発表し、教員と学生、また学生相互の意見交換を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス/造形の3要素について</p> <p>第2回 講義:色彩</p> <p>第3回 演習:色彩<明暗対比・無彩色></p> <p>第4回 演習:色彩<明暗対比・有彩色></p> <p>第5回 演習:色彩<明暗対比・有彩色>(続き)</p> <p>第6回 講評会:色彩/講義:形体</p> <p>第7回 演習:形体<線による構成・直線></p> <p>第8回 演習:形体<線による構成・直線>(続き)</p> <p>第9回 演習:形体<線による構成・曲線></p> <p>第10回 演習:形体<線による構成・曲線>(続き)</p> <p>第11回 講評会:形体/講義:素材・質感</p> <p>第12回 演習:素材・質感<コラージュ></p> <p>第13回 演習:素材・質感<コラージュ>(続き)</p> <p>第14回 演習:素材・質感<コラージュ>(続き)</p> <p>第15回 講評会:素材・質感/まとめ</p>		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 課題作品:50%		

ヴィジュアルコミュニケーション基礎演習C		前期 2 単位	1・2年
造形表現の基礎を講義と演習をととして学ぶ。色彩効果と色彩計画を理解する。		奥村 健一 (おくむら けんいち)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高める。基礎演習Cでは、造形の3要素(色、形、素材・質感)のうち主に色彩について学ぶ。色彩のもつ基本的な視覚効果を理解し、身近な色彩計画に含まれる要素が指摘できるようになることを目標とする。		
授業の概要	色彩と形の組み合わせによって生じる視覚効果を観察する。色は隣り合う色によって見え方が変わるので、色紙でサンプルを作り確認する。動植物に見られる色彩の豊かさや身近な色彩設計の事例についてはスライドで紹介する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス/ヴィジュアルコミュニケーションとは</p> <p>第2回 造形の3要素とその中の色彩について</p> <p>第3回 光と色の性質</p> <p>第4回 色彩の対比効果</p> <p>第5回 色彩の同化作用</p> <p>第6回 同系色の調和</p> <p>第7回 反対色の組み合わせ</p> <p>第8回 錯視と補正</p> <p>第9回 色彩の微調整</p> <p>第10回 形の微調整</p> <p>第11回 色彩計画の方針</p> <p>第12回 表示のデザイン</p> <p>第13回 身近な色彩と形体-1</p> <p>第14回 身近な色彩と形体-2</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	テキスト:『デザインの色彩』(日本色研)	参考文献	特になし
評価方法	サンプル制作:20% 平常点:20% レポート:60%		

ヴィジュアルコミュニケーション演習A		後期 2 単位	1・2年
造形要素の一つ「素材・質感」について講義と演習を通して学び、さらに表現へと展開する		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高めるために、演習Aでは、基礎演習の応用として、色彩や形との統合における「素材・質感」の視覚効果について学び、造形においてバランスのとれた力を養うことを目指す。講義による解説と応用演習課題を通して、デザイン・造形表現の幅を広げることを目的とする。		
授業の概要	講義では参考となる芸術、デザインの作品を紹介し、「素材・質感」の効果がどのように用いられているかを学ぶ。演習では、色彩における質感の違いによる平面構成や、素材の加工による質感表現など、造形表現への可能性を探る。演習作品の講評会を行うことにより、参加学生の様々な表現を共有する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 造形の3要素、素材・質感（テクスチャー）について 第2回 講義：素材と色彩について／演習1：課題導入 第3回 演習1：色と質感・黒のコラージュ 第4回 演習1：続き 第5回 演習1：続き 第6回 講評：演習1 第7回 講義：視覚的テクスチャーについて 第8回 演習2：雑誌のコラージュ 第9回 演習2：続き 第10回 講評：演習2 第11回 講義：触覚的テクスチャーについて 第12回 演習3：素材を用いたテクスチャー表現 第13回 演習3：続き 第14回 演習3：続き 第15回 総合講評：演習1～3、まとめ		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 課題演習作品:50% レポート :20%		

ヴィジュアルコミュニケーション演習B		後期 2 単位	1・2年
造形要素の一つ「形体」について講義と演習を通して学び、さらに表現へと展開する		趙 慶姫（ちょう きょんひ）	
授業の到達目標及びテーマ	現代社会で求められるコミュニケーション能力の中でも重要な視覚伝達力を高めるために、演習Bでは、基礎演習の応用として、色彩や素材・質感との統合による「形体」の視覚効果について学び、造形においてバランスのとれた力を養うことを目指す。講義による解説と応用演習課題を通して、デザイン・造形表現の幅を広げることを目標とする。		
授業の概要	着彩による平面構成で、まず基本となる幾何形体の構成により形体と色彩のバランスを学び、次に幾何形体をモチーフにイメージを表現する課題制作を行う。さらに紙のレリーフ制作で、素材の特質を形体に生かすことと光による視覚効果を学ぶ。課題ごとの講評会で学生が発表し、教員と学生、また学生相互の意見交換を行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス／講義：幾何形体 第2回 演習：平面構成1＜円・正方形・正三角形＞ 第3回 演習：平面構成1＜円・正方形・正三角形＞（続き） 第4回 演習：平面構成1＜円・正方形・正三角形＞（続き） 第5回 講評会：平面構成1／講義：抽象化 第6回 演習：平面構成2＜四季のイメージ表現＞ 第7回 演習：平面構成2＜四季のイメージ表現＞（続き） 第8回 演習：平面構成2＜四季のイメージ表現＞（続き） 第9回 演習：平面構成2＜四季のイメージ表現＞（続き） 第10回 講評会：平面構成2／講義：紙の造形表現 第11回 演習：立体構成＜紙によるレリーフ＞ 第12回 演習：立体構成＜紙によるレリーフ＞（続き） 第13回 演習：立体構成＜紙によるレリーフ＞（続き） 第14回 演習：立体構成＜紙によるレリーフ＞（続き） 第15回 講評会：立体構成／まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 課題作品:50%		

ヴィジュアルコミュニケーション演習C		後期 2 単位	1・2年
造形表現を深め、視覚効果を用いた画面の表示をデザインする。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	演習Cでは、基礎演習の応用として、情報伝達や自己表現などコミュニケーションの手段としての視覚表現に発展させる。PCのPowerPointを用いてさまざまな視覚効果を調整しながら表示のデザインの基本を把握することを目的とする。		
授業の概要	画像を用いた視覚表現について、事例を取り上げて比較観察し、PCで視覚効果を用いた画像を制作する。紹介した事例と制作した画像を観察し、気がついたことと感想を書いていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス/ヴィジュアルコミュニケーションとは 第2回 目的に応じたさまざまな視覚表現を紹介 第3回 色彩の対比効果のサンプル制作 第4回 文字情報の配置と配色について試作と比較 第5回 色彩の同化作用についてサンプル制作 第6回 錯視の図形と補正のサンプル制作 第7回 課題(1) 図形パズルの制作 第8回 課題(1) 発表と講評 第9回 フェードイン・フェードアウトの練習 第10回 動き・変化を用いる練習 第11回 動き・変化を用いる練習 続き 第12回 課題(2) リンクを用いた視覚デザインを制作開始 第13回 課題(2) 続き 第14回 課題(2) 続き 第15回 課題(2) 発表と講評		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:10% 平常点:30% 課題作品:60%		

造形特論A		後期 2 単位	1・2年
人間の多様な造形表現活動と出会い、人間と造形芸術について考察する		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	コア科目・表現「ビジュアルコミュニケーション」及び「造形ワークショップ」における演習、作品制作を深める一助として、また多様な造形表現と出会うことで、人間と造形芸術、創造力と表現について理解を深め、自ら考察することを目的とする。		
授業の概要	創作の実作者の観点から興味深い美術家やデザイナー、作品などをとりあげ、画集やパワーポイントを用い、作品図版や関連画像、映像などを示しながら授業をすすめる。学内の美術作品探訪、学生発表を含む。ビデオ、DVD鑑賞の他、関連する展覧会などがあれば紹介する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション、人間にとって表現とは 第2回 学内の美術作品探訪 第3回 自己との対話 第4回 自然との対話 第5回 素材と表現 第6回 形態と表現 第7回 色彩と表現 第8回 具象と抽象 第9回 DVD鑑賞「マティスとピカソ 二人の芸術家の対話」 第10回 生活と芸術 第11回 環境と芸術 第12回 社会と芸術 第13回 学生発表の準備 第14回 学生発表 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:50% 発表:20% レポート :30%		

造形特論B		前期 2 単位	1・2年
造形理念「構成」を学ぶ		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	視覚によるコミュニケーション力、表現力を養うため、全ての芸術表現の基礎となる造形理念であり、形体・色彩・材質といった造形に普遍的に存在する要素を探求していく「構成」について学び、私たちが快適な社会生活を送るための美意識、造形感覚を高めることを目標とする。		
授業の概要	構成は20世紀初頭に新しい抽象造形運動として登場し、特にデザインにおいて重要な役割を担ってきた。前半は造形芸術と社会の関わりにおける構成の役割について、後半は造形の各要素、心理効果などについて、講義する。作品などのスライドを多く用いて、知識の習得と同時に、感性を刺激し鍛えていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 構成とは／近代以降の産業と芸術1 第2回 近代以降の産業と芸術2 第3回 20世紀初頭の抽象造形運動 第4回 構成主義とバウハウス 第5回 バウハウスの教育と作品 第6回 造形と理論 第7回 形体 第8回 色彩 第9回 材質・テクスチャ 第10回 運動・光 第11回 造形の秩序 第12回 造形の心理1 第13回 造形の心理2 第14回 空間の構成 第15回 まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 提出物:20% 定期試験:50%		

造形特論C	前期 2 単位	1・2年
映像の歴史と映像表現を理解するための作品分析	濱崎 好治（はまさき こうじ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 写真と映画の歴史を具体的な作品を見ながら、その表現技法と時代社会的背景を概説し作家性を考察する。視覚文化の拡がりから批評的な読み解きと内容分析できる理論を身につける。</p> <p><授業の概要> 毎回、映像を見る。 映像とは何か、18世紀中頃～20世紀まで代表的な作品を紹介しながら多様な視点の分析方法を解説する。幅広いジャンルの映像を数多く見ることで、技法と表現の規制、作家の創造力、人々の受容される要素を発見し、テレビの草創期から現在のインターネットの動画まで、映像表現の今日的な問題点も探る。</p> <p><授業計画> 第 1回 写真術の発明によって何がもたらされたか？ 第 2回 写真の技法と写真の読み方 第 3回 映画の誕生と20世紀の科学技術 第 4回 映画の文法 カメラワーク 第 5回 映画の文法 モンタージュ 第 6回 映画の物語性と演技力 第 7回 ニュース映画とプロパガンダ・コマーシャル 第 8回 ドキュメンタリー映画の系譜（文化映画・PR映画・記録映画・テレビドキュメンタリー） 第 9回 映画の作家性（外国映画） 第10回 映画の作家性（日本映画） 第11回 映画の芸術性 第12回 映画とテレビの比較文化とメディア論 第13回 ニュー・テレビジョンとビデオ（1960～1970） 第14回 万博パビリオンから映像インスタレーション 第15回 インターネットと投稿動画</p> <p><テキスト> 特に指定はないが、授業時間内に印刷物を配布する。</p> <p><参考文献> 授業時間内に紹介する。</p> <p><評価方法> 平常点:15% 質疑応答:20% レポート:65%</p>		

造形ワークショップ I A		前期 1 単位	1・2年
繊維による表現として「織」の基礎技法を学び、制作を通して表現力を高め、人間の手の可能性を知る		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標及びテーマ	1本の線である経糸と緯糸が交差することにより布という面を構成する「織」の基礎を学ぶことにより、生活空間から造形表現にまで及ぶ繊維造形世界の理解を深める。織の構造と素材や道具との関係を学び、自らの手を使い制作し表現することで、人間の根源的な喜びを知ると共に、繊維が何を発信し現代まで語りかけてきたかを考える。		
授業の概要	色系による絵織物表現・タピスリーの基礎技法を習得する。課題制作を通して織の構造と制作工程、表現効果等を学ぶ。授業では講義、ビデオ鑑賞等により、繊維素材を用いた様々な表現の可能性について理解を深める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、織・繊維造形について／課題導入 第2回 タピスリー技法・平面効果（基礎技法1） 第3回 続き（基礎技法2） 第4回 続き（基礎技法3） 第5回 続き（基礎技法4） 第6回 続き（基礎技法5） 第7回 続き（基礎技法6） 第8回 講義、DVD鑑賞 第9回 続き（基礎技法7） 第10回 続き（基礎技法8） 第11回 タピスリー技法・レリーフ効果（基礎技法1） 第12回 続き（基礎技法2） 第13回 経糸始末、作品の仕上げ 第14回 続き 第15回 講評 /まとめ		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 課題作品:50% レポート :20%		

造形ワークショップ I B		前期 1 単位	1・2年
版を用いた造形表現 I		趙 慶姫（ちょう きょんひ）	
授業の到達目標及びテーマ	造形ワークショップBでは版画技法を中心とした作品制作を通して、偶然性、反転の意外性など版画の技法特徴から、造形表現の魅力を感じるにより、表現力＝積極的に自ら発信する力を高めることを目標とする。		
授業の概要	身近な材料のコラージュを版にする「コラグラフ」を学ぶ。材料実験から版制作、同じ版の凸版刷りと凹版刷り、フロッタージュ制作、最終的には版自体をレリーフ作品とするなど、様々な技法による表現を試みる。I、IIを重ねての履修も可とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス／版画の技法 第2回 材料実験（コラグラフ）：テスト版制作 第3回 材料実験（コラグラフ）：テスト版刷り 第4回 材料実験（コラグラフ）：テスト版刷り 第5回 課題1（コラグラフ）：版制作 第6回 課題1（コラグラフ）：版制作およびフロッタージュ 第7回 課題1（コラグラフ）：刷り 第8回 課題1（コラグラフ）：刷り 第9回 課題1：講評会／課題2：エスキース 第10回 課題2（コラグラフ）：版制作 第11回 課題2（コラグラフ）：版制作およびフロッタージュ 第12回 課題2（コラグラフ）：刷り 第13回 課題2（コラグラフ）：刷り 第14回 版の作品化 第15回 課題2：講評会／まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 課題作品:50%		

造形ワークショップ I C		前期 1 単位	1・2年
視覚的な表現手段の一つである写真を詳しく観察し、写真を用いた表現力を養う。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・写真画像を比較観察することにより、テーマやそこに生じた特徴を感じ取り評価ができるようになる。 ・写真を撮影し、機材の扱い方を把握した上で表現力を身につける。 ・画像を加工し、編集について理解する。 		
授業の概要	日常化している写真について、事例をもとに詳細な比較観察を促す。写真を通してものごとの価値観にも触れる。また、写真撮影の課題を数回行い、各自の作例を持ち寄って意見交換をする。PCを使った写真の編集方法もあわせて紹介する。I、IIを重ねての履修も可とし、その場合は制作の内容をさらに発展させることを課する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イントロダクション／写真をくわしく観る</p> <p>第2回 写真の歴史と価値の移り変わり</p> <p>第3回 写真の再生忠実度</p> <p>第4回 写真のコントラスト・ダイナミックレンジ</p> <p>第5回 課題（1）お気に入りの写真</p> <p>第6回 カメラのレンズの性質</p> <p>第7回 シャッタースピード</p> <p>第8回 課題（2）被写体の光の当たり方</p> <p>第9回 課題（3）計画的でない撮り方</p> <p>第10回 写真のさまざまな構図</p> <p>第11回 課題（4）クイズ写真</p> <p>第12回 レンズの被写界深度</p> <p>第13回 課題（5）瞬間を狙った写真</p> <p>第14回 課題（6）複数の写真の組み合わせ</p> <p>第15回 作品発表と講評</p>		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 平常点:20% 課題作品:60%		

造形ワークショップ II A		後期 1 単位	1・2年
繊維による表現として「織」の基礎技法を学び、制作を通して表現力を高め、人間の手の可能性を知る		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標及びテーマ	1本の線である経糸と緯糸が交差することにより布という面を構成する「織」の基礎を学ぶことにより、生活空間から造形表現にまで及ぶ繊維造形世界の理解を深める。織の構造と道具との関係を学び、自らの手を使い制作し表現することで、人間の根源的な喜びを知ると共に、繊維が何を発信し現代まで語りかけてきたかを考える。		
授業の概要	羊の原毛から糸を手紡ぎし、その糸を用いて布を織る技術を習得する。課題制作を通して織の構造と制作工程、表現効果等を学ぶ。授業では講義、ビデオ鑑賞等により、繊維素材を用いた様々な表現の可能性について理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス、織・繊維造形について</p> <p>第2回 講義：繊維から糸へ、糸から布へ / 課題導入</p> <p>第3回 原毛をハンドカーダーにかける</p> <p>第4回 原毛から糸を紡ぐ</p> <p>第5回 続き</p> <p>第6回 続き</p> <p>第7回 紡ぎ糸の繰上げ、撚り止め加工</p> <p>第8回 製織準備（段ボール紙の簡易織機）</p> <p>第9回 紡いだ糸で布を織る</p> <p>第10回 続き</p> <p>第11回 続き</p> <p>第12回 続き、織り上がり</p> <p>第13回 経糸始末、房づくり、仕上げ（縮絨加工、起毛）</p> <p>第14回 続き</p> <p>第15回 講評 / まとめ</p>		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 課題作品:50% レポート :20%		

造形ワークショップⅡB		後期 1 単位	1・2年
版を用いた造形表現Ⅱ		趙 慶姫（ちょう きょんひ）	
授業の到達目標 及びテーマ	造形ワークショップBでは版画技法を中心とした作品制作を通して、偶然性、反転の意外性など版画の技法特徴から、造形表現の魅力を感じるにより、表現力＝積極的に自ら発信する力を高めることを目標とする。		
授業の概要	身近な材料のカラーズを版にする「コラグラフ」を学ぶ。材料実験から版制作、同じ版の凸版刷りと凹版刷り、フロッタージュ制作、最終的には版自体をレリーフ作品とするなど、様々な技法による表現を試みる。Ⅰ、Ⅱを重ねての履修も可とし、Ⅰを修得した者は「ドライポイント」技法も学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス／版画の技法 第2回 材料実験（コラグラフ／ドライポイント）：テスト版制作 第3回 材料実験（コラグラフ／ドライポイント）：テスト版刷り 第4回 材料実験（コラグラフ／ドライポイント）：テスト版刷り 第5回 課題1（コラグラフ／ドライポイント）：版制作 第6回 課題1（コラグラフ／ドライポイント）：版制作（続き） 第7回 課題1（コラグラフ／ドライポイント）：刷り 第8回 課題1（コラグラフ／ドライポイント）：刷り 第9回 課題1：講評会／課題2：エスキース 第10回 課題2（コラグラフ／ドライポイント）：版制作 第11回 課題2（コラグラフ／ドライポイント）：版制作（続き） 第12回 課題2（コラグラフ／ドライポイント）：刷り 第13回 課題2（コラグラフ／ドライポイント）：刷り 第14回 版の作品化 第15回 課題2：講評会／まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 課題作品:50%		

造形ワークショップⅡC		後期 1 単位	1・2年
視覚的な表現手段の一つである写真を詳しく観察し、写真を用いた表現力を養う。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・写真画像を比較観察することにより、テーマやそこに生じた特徴を感じ取り評価ができるようになる。 ・写真を撮影し、機材の扱い方を把握した上で表現力を身につける。 ・画像を加工し、編集について理解する。 		
授業の概要	日常化している写真について、事例をもとに詳細な比較観察を促す。写真を通してものごとの価値観にも触れる。また、写真撮影の課題を数回行い、各自の作例を持ち寄って意見交換をする。PCを使った写真の編集方法もあわせて紹介する。Ⅰ、Ⅱを重ねての履修も可とし、その場合は制作の内容をさらに発展させることを課する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクッション／写真をくわしく観る 第2回 写真の歴史と価値の移り変わり 第3回 写真の再生忠実度 第4回 写真のコントラスト・ダイナミックレンジ 第5回 課題（1）お気に入りの写真 第6回 カメラのレンズの性質 第7回 シャッタースピード 第8回 課題（2）被写体の光の当たり方 第9回 課題（3）計画的でない撮り方 第10回 写真のさまざまな構図 第11回 課題（4）クイズ写真 第12回 レンズの被写界深度 第13回 課題（5）瞬間を狙った写真 第14回 課題（6）複数の写真の組み合わせ 第15回 作品発表と講評		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 平常点:20% 課題作品:60%		

創作入門A		前期 2 単位	1・2年
詩に親しむ1		平田 俊子（ひらた としこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本にも世界にも人のこころを豊かにする詩は豊富にあります。歌詞に親しむだけで、詩に対する興味や関心がないのはもったいない話です。詩に触れ、詩と親しみ、詩を書くことで、詩の面白さを知ってください。		
授業の概要	詩の鑑賞と創作を通じて、詩への理解を深め、詩を書く力を養っていきます。一人で書くこともあれば、連詩をすることもあります。自由なテーマで書くこともあれば、テーマを決めて書いてもらうこともあります。自由かつ率直に意見や感想を交換しましょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 詩について思うこと 第2回 詩の鑑賞 石垣りん 第3回 詩の鑑賞 辻征夫 第4回 詩の鑑賞 吉野弘 第5回 詩の創作 テーマを決めて 第6回 詩の批評 互いの作品について 第7回 詩の観賞 レイモン・クノー 第8回 詩の観賞 海外の詩あれこれ 第9回 詩の創作 第10回 詩の批評 互いの作品について 第11回 詩の観賞 茨木のり子 第12回 詩の創作 連詩 第13回 詩の批評 互いの作品について 第14回 詩の創作 第15回 詩の批評 互いの作品について		
テキスト	基本的にこちらでコピーを用意します。	参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業への意欲・発言:50% 作品・レポート:50%		

創作入門B		前期 2 単位	1・2年
小説を書くための方法を学ぶ		増田 みず子（ますだ みずこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書く基礎力を養うことを目的とする。小説の概念を理解してもらい、言葉と文字、小説文学の歴史を学んでもらい、さらに先人たちがどんなことをどんなふうにな小説で表現してきたかを知ってもらった上で、学生一人ずつに自身の書くべきテーマを模索してもらおう。		
授業の概要	近現代の日本の小説作品を参考に、描写、説明、会話の文章の書き方を練習し、構成方法を学んでもらう。講義を中心とした授業であるが、できるだけ学生一人ずつが自身の個性を発揮できるような個別の指導に力を入れたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 小説の概念について 第2回 文字と言葉について 第3回 世界の小説について 第4回 日本の小説について 第5回 女性小説家のテーマと個性について 第6回 小説の文章 ①描写文（テキスト書写） 第7回 小説の文章 ②描写文（美しい風景を描写する） 第8回 小説の文章 ③会話文（創作） 第9回 小説の文章 ④説明文（大学生活を説明する） 第10回 小説の種類と構造について 第11回 小説のテーマについて 第12回 小説の材料を集める 第13回 習作 ①「私」をテーマに小品創作 第14回 習作 ②「風景」をテーマに小品創作 第15回 習作 ③「事件」をテーマに小品創作		
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%		

創作基礎演習A		後期 2 単位	1・2年
詩に親しむ2		平田 俊子（ひらた としこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本にも世界にも人のこころを豊かにする詩は豊富にあります。歌詞に親しむ一方で、詩に対する興味や関心がないのはもったいない。詩に触れ、詩と親しみ、詩を書くことで、詩の面白さを知ってください。「詩の観賞と創作1」で養った力をさらに強化していきます。		
授業の概要	詩の鑑賞と創作を通じて、詩への理解を深め、詩を書く力を養っていきます。一人で書くこともあれば、連詩をすることもあります。自由なテーマで書くこともあれば、テーマを決めて書いてもらうこともあります。自由かつ率直に意見や感想を交換しましょう。授業の進め方は「詩の観賞と創作1」と同じです。		
授業計画	【後期】 第1回 詩の観賞 伊藤比呂美 第2回 詩の観賞 松井啓子 第3回 詩の創作 テーマを決めて 第4回 詩の批評 互いの作品について 第5回 詩の観賞 萩原朔太郎 第6回 詩の観賞 草野心平 第7回 詩の創作 連詩 第8回 詩の批評 互いの作品について 第9回 詩の観賞 若い詩人たち 第10回 詩の鑑賞 海外の詩あれこれ 第11回 詩の創作 第12回 詩の批評 互いの作品について 第13回 詩の創作 連詩 第14回 詩の批評 互いの作品について 第15回 まとめ		
テキスト	基本的にこちらでコピーを用意します。	参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業への意欲・発言:50% 作品・レポート:50%		

創作基礎演習B		後期 2 単位	1・2年
小説を書く		増田 みず子（ますだ みずこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書く基礎力を養うことを目的とする。実際に作品を書いてもらいながら、適宜助言をして刺激を与えることによって、より深い観察力、想像力、文章力を引き出すようにしたい。学生自身の感性の生き生きとした作品作りを目指す。		
授業の概要	個別指導を中心とした演習授業である。まず短い課題小説の創作から取り組み、その作品を土台に、学生の個性的なテーマを発見し、オリジナルの小説作品の完成を目指して、執筆と添削指導を繰り返す。テーマの探求と執筆の過程を大事にしたい。		
授業計画	【後期】 第1回 課題作文①テーマ 写真 第2回 課題作文②テーマ 眠り 第3回 実作のための個人面談① 第4回 実作のための個人面談② 第5回 実作の開始 第6回 実作と添削指導① 第7回 実作と添削指導② 第8回 実作と添削指導③ 第9回 実作と添削指導④ 第10回 実作と添削指導⑤ 第11回 実作と添削指導⑥ 第12回 実作と添削指導⑦ 第13回 実作と添削指導⑧ 第14回 作品提出 第15回 作品返却と個人面談		
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%		

創作演習 I A		前期 2 単位	2年
エッセーに親しむ1		平田 俊子（ひらた としこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	古今のエッセーの名作を数多く読み、また実際に書いてみることで読解力と文章力を磨いていきます。何をどのように書けばいい文章になるか、鑑賞と実作を通して探っていきます。		
授業の概要	比較的短めのエッセーを数多く鑑賞しながら文章に慣れ、かつ文章の書き方を学びます。それと並行して実際に2000字前後のものを何度か書いていき、互いに意見や感想を交換します。		
授業計画	【前期】 第 1回 エッセーとは何か 第 2回 現代のエッセーを読む 第 3回 現代のエッセーを読む 第 4回 エッセーの実作 第 5回 作品批評 第 6回 昭和のエッセーを読む 第 7回 昭和のエッセーを読む 第 8回 エッセーの実作 第 9回 作品批評 第10回 海外のエッセーを読む 第11回 海外のエッセーを読む 第12回 エッセーの実作 第13回 作品批評 第14回 大正・明治のエッセーを読む 第15回 大正・明治のエッセーを読む		
テキスト	基本的にこちらでコピーを配布します。	参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業への意欲・発言:50% 作品:50%		

創作演習 I B		前期 2 単位	2年
小説を書き上げる		増田 みず子（ますだ みずこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書くことによって、ものの見方、感じ方、考え方を深めてもらいたい。また、文章力を磨くことによって、表現力が豊かになってもらいたい。		
授業の概要	作品完成を目標に習作と添削指導を中心にする。		
授業計画	【前期】 第 1回 小説の概念 第 2回 小説を読む（大庭みな子作品） 第 3回 小説を読む（高橋たか子作品） 第 4回 小説を読む（河野多恵子作品） 第 5回 文章を書く①日記 第 6回 文章を書く②手紙 第 7回 文章を書く③エッセイ 第 8回 文章を書く④1人称小説 第 9回 文章を書く⑤3人称小説 第10回 精密な文章を書く①「空」について詳述する 第11回 精密な文章を書く②「時間」について詳述する 第12回 精密な文章を書く③「化粧」について詳述する 第13回 「空」をテーマに小品創作 第14回 「時間」をテーマに小品創作 第15回 「化粧」をテーマに小品創作		
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	小説全般
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%		

創作演習Ⅱ A		後期 2 単位	2年
エッセーに親しむ2		平田 俊子（ひらた としこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「エッセーに親しむ1」で得た読解力と文章力をさらに高めていきます。		
授業の概要	基本的には「エッセーに親しむ1」と同じように進めていきます。古今のエッセーの名作を数多く鑑賞することで視野を広げると同時に、文章の書き方を学んでいきます。それと並行して実際に2000字前後のものを何度か書き、互いに意見や感想を交換します。		
授業計画	【後期】 第1回 エッセーとは何か 第2回 現代のエッセーを読む 第3回 現代のエッセーを読む 第4回 エッセーの実作 第5回 作品批評 第6回 昭和のエッセーを読む 第7回 昭和のエッセーを読む 第8回 エッセーの実作 第9回 作品批評 第10回 海外のエッセーを読む 第11回 海外のエッセーを読む 第12回 エッセーの実作 第13回 作品批評 第14回 明治・大正のエッセーを読む 第15回 明治・大正のエッセーを読む		
テキスト	基本的にこちらでコピーを配布します。	参考文献	必要に応じて授業で紹介します。
評価方法	授業への意欲・発言:50% 作品:50%		

創作演習Ⅱ B		後期 2 単位	2年
小説を書き上げる		増田 みず子（ますだ みずこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	小説を書くことによって、ものの見方、感じ方、考え方を深めてもらいたい。また、文章力を磨くことによって、表現力が豊かになってもらいたい。		
授業の概要	作品完成を目標に習作と添削指導を中心にする。		
授業計画	【後期】 第1回 習作の添削指導 第2回 小説書き方・実作準備 第3回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談① 第4回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談② 第5回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談③ 第6回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談④ 第7回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑤ 第8回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑥ 第9回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑦ 第10回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑧ 第11回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑨ 第12回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑩ 第13回 実作に集中し、完成に向けて適宜添削指導、個人面談⑪ 第14回 仕上げ。作品提出 第15回 作品返却・講評・著作権と個人情報保護法		
テキスト	必要に応じて指示する。配布資料を活用する。	参考文献	小説全般
評価方法	課題提出率:30% 作品評価:70%		

創作特論A		前期 2 単位	1・2年
俳句に親しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	俳句は400年以上の長い伝統をもつ形式であり、今もなお世代を超えて多くの人々に愛好されている文芸であることを理解する。その表現方法を身につけ、自分自身の日々の歩みと心の記録を残す喜びを味わう。また、季語を通して自然の豊かさを知り、日本文化の奥深さにも目を向けることをめざす。		
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句までの作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技術を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、楽しみながらさまざまな季語に触れてゆく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語解説と実作指導 第4回 作品鑑賞と実作への応用 第5回 俳句の表現法 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 句会 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記 (角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい)
評価方法	レポートの内容:40% 進歩の度合:50% 取り組みの姿勢と意欲:10%		

創作特論B		前期 2 単位	1・2年
童話・児童文学(絵本からヤングアダルト小説まで)を通じて、創作表現の基礎を学ぶ		那須田 淳 (なすだ じゅん)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○ 童話の源流としての「子どもの心」の意味を考えながら、絵本、童話、ミステリー、ファンタジー、ジュニア小説、ヤングアダルト小説などの広い範囲の児童文学の基礎を学び、表現としての創作のために必要な技術を理解する。</p> <p>○ 創作を通じて、想像力や考える力を養い、表現することの意味を理解する。</p>		
授業の概要	絵本からヤングアダルト小説までの幅広い児童文学に触れ、それぞれの特徴を明らかにし、課題の実作やワークショップ、合評会を交えて、物語の構造や創作の基礎的な文章表現技術の会得を図る。書くことは自らと向き合うことでもあり。授業の全体を通して、自己表現としての創作についてあらためて理解を深めることができるように図る。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン: 創作をすること 第2回 ファンタジーへの招待① 神話から現代作品まで 第3回 ファンタジーへの招待② 異世界とキャラクター 第4回 ワークショップ グループで物語作り 第5回 ワークショップ プレゼンテーション 第6回 物語の書き方 文章表現・レトリック 第7回 課題「一枚絵を使って」 短い物語を書く 第8回 絵本へのアプローチ① 絵本の構造 第9回 絵本へのアプローチ② 場面の展開 第10回 マンガと子どもの本・子ども文化の源流について 第11回 ジュニア小説の基本 自分探しについて 第12回 ヤングアダルト小説 社会との出会い 第13回 課題「一枚絵を使って」の合評会 第14回 課題「一枚絵を使って」の合評会 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	那須田淳著『願かけネコの日』(学研)『少年のころ』(小峰書店)、那須田淳・木本栄共訳『ちいさなちいさな王様』(講談社)など
評価方法	授業の感想文:20% 課題やレポートの提出:50% 授業への取り組み:30%		

創作実践A		後期 2 単位	1・2年
俳句を楽しむ		片山 由美子 (かたやま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	俳句はわずか17音であるが、小さな昆虫から宇宙まで、何でもテーマとなる文芸であることを理解する。独自の表現法を学び、楽しみながら日々の生活の記録を残すことをめざす。また、季語を通して自然の豊かさを知るとともに、日本語の美しさに触れる。		
授業の概要	句会を楽しむことを目標とする。毎回5句まで作品を提出することができ、添削指導によって具体的に作句の技法を学ぶ。DVDの映像歳時記なども使い、さまざまな季語に触れてゆく。		
授業計画	【後期】 第1回 俳句と季語についての基礎知識 第2回 俳句の基本 第3回 季語を知る 第4回 名句鑑賞と実作への応用 第5回 実作指導 第6回 実作指導 第7回 実作指導 第8回 句会の方法 第9回 句会を体験する 第10回 句会 第11回 句会 第12回 句会 第13回 句会 第14回 季語体験 (かるた会) 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めず	参考文献	歳時記 (角川学芸出版『合本俳句歳時記』第4版がのぞましい)
評価方法	レポートの内容:50% 進捗状況:40% 取り組みの姿勢と意欲:10%		

創作実践B		後期 2 単位	1・2年
童話・児童文学(絵本からヤングアダルト小説まで)の創作演習を通じて、表現の意味を学ぶ		那須田 淳 (なすだ じゅん)	
授業の到達目標 及びテーマ	○ 童話・児童文学(絵本からヤングアダルト小説まで)の創作演習を通じ、発想力を高め、考える力を深めていくことを目標とする。 ○ 創作には現代への問題意識や理想の追求も必要で、そのためにも教養や広い視野を持つことの重要性を理解する。		
授業の概要	幼年から十代後半までの「子ども」をキーワードに物語の創作演習を行い、最終的にオリジナル作品の一つ仕上げる。優れた物語や小説を読み、音楽やマンガなどからイメージを膨らませ、またワークショップや合評会で他者の考えを聞くことを通じて、創作のための文章技術の習得に留まらず、物事に対する多様な思考を深めるきっかけになるようにす		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクッション: テーマの発見と創作の意味について 第2回 課題①『空想日記』 「わたしはだれ？」 第3回 課題①の合評会と批評 1 第4回 課題①の合評会と批評 2 第5回 登場人物とキャラクターの設定 第6回 会話文・地の文・描写文の書き方 第7回 レトリックの使い方 第8回 ストーリーの構築 マンガや短編を読んで 第9回 ワークショップ 「物語のつづきを考える」 第10回 ワークショップ 「物語のつづきを書く」 第11回 ワークショップのプレゼンテーション 第12回 課題②『オリジナル作品』 合評会① 第13回 課題②『オリジナル作品』 合評会② 第14回 課題②『オリジナル作品』 合評会③ 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	那須田淳著『一億百万光年先に住むウサギ』(理論社)、森絵都著『宇宙のみなしご』(角川文庫)など、他に絵本や童話、青春小説など図書館の蔵書も活用
評価方法	課題の提出:50% 授業への取り組み:30% 授業感想文:20%		

表現演習A		後期 2 単位	1・2年
身体文化・身体表現を考える		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○ 身体表現は、日常生活での身体動作が基本になっている。その身体動作から日本の特徴的な身体・表現・身ぶり・しぐさ・身体感覚を探り、日本文化の素晴らしさや魅力を再発見する。</p> <p>○ 日本と西洋の身体文化や身体表現の違いを演習形式で学び、新たな身体文化・表現の様式を模索する。</p>		
授業の概要	日常生活における基本的な姿勢や動作（運動・質・レベル）が崩れてきている中で、身体動作を分析し、それに関わる課題や問題点を探る。日本舞踊、日本の民俗舞踊、西洋のコンテンポラリーダンス等を例として取り上げ、基本的な舞踊形式の違いについて演習形式によって理解する。ワークショップ（例えば、アイヌの踊りなど）も、行う予定で		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 授業概要の説明</p> <p>第2回 基本的な身体動作について、ビデオ鑑賞</p> <p>第3回 コンテンポラリーダンスとは 実技1</p> <p>第4回 みんなで踊ってみましょう 実技2</p> <p>第5回 みんなで踊ってみましょう 実技3（発表）</p> <p>第6回 日本人の身体作法、立ち居振る舞いについて</p> <p>第7回 日本の民俗舞踊に触れる1、日本の民俗芸能とは</p> <p>第8回 日本の伝統舞踊に触れる2、西馬音内盆踊りの基本</p> <p>第9回 日本の伝統舞踊に触れる3、西馬音内盆踊りの練習</p> <p>第10回 日本の伝統舞踊に触れる4、西馬音内盆踊りの発表</p> <p>第11回 日本舞踊と身体動作・基本1、浴衣を着る</p> <p>第12回 日本舞踊と身体動作・基本2、立ち居振る舞い</p> <p>第13回 日本舞踊と身体動作・基本3、踊りの練習</p> <p>第14回 日本舞踊と身体動作・基本4、練習の成果を発表</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業内で指定する	参考文献	授業内で紹介する
評価方法	授業への積極的な参加:70% 提出物（レポート等）:30%		

表現演習 I B		前期 2 単位	1・2年
演劇芸術の本質を探究する		土屋 康範（つちや やすのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	戯曲（drama）に取り組むことを通じて演劇芸術の本質を理解する。さらに演技者同士、演技者と観客との間の意思疎通を行う訓練によってコミュニケーションの能力を高めるとともに、役の行動の動機や感情を身体的に表現することができるようになる。		
授業の概要	最初に演劇の構成単位である「行動」の概念を理解してもらい、それを応用してH・イプセンの『人形の家』（受講人数が多い場合はS・ワイルダーの『わが町』）に取り組む。具体的にはグループごとに各幕各場面を担当し、実際に役を振って表現する。他の受講者は観客として批評を行う。最後に戯曲の表現と内容に関するレポートを提出してもらおう。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス、戯曲を表現する準備① 心身の解放</p> <p>第2回 戯曲を表現する準備② 行動の概念</p> <p>第3回 戯曲を表現する準備③ 行動と相互交流</p> <p>第4回 戯曲を表現する準備④ 自己交流</p> <p>第5回 『人形の家』第一幕の冒頭を表現する。</p> <p>第6回 『人形の家』第一幕の序盤を表現する。</p> <p>第7回 『人形の家』第一幕の中盤を表現する。</p> <p>第8回 『人形の家』第一幕の終盤を表現する。</p> <p>第9回 『人形の家』第二幕の序盤を表現する。</p> <p>第10回 『人形の家』第二幕の中盤を表現する。</p> <p>第11回 『人形の家』第二幕の終盤を表現する。</p> <p>第12回 『人形の家』第三幕の序盤を表現する。</p> <p>第13回 『人形の家』第三幕の中盤を表現する。</p> <p>第14回 『人形の家』第三幕の終盤を表現する。</p> <p>第15回 まとめ 演劇芸術の本質とは何か。</p>		
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	K・スタニスラフスキー著、堀江新二他訳『俳優の仕事』第一部（未来社）の第3章・10章・15章、『山田肇演劇論集』（白凰社）の「戯曲と演技」
評価方法	戯曲の表現:40% 表現に対する批評:30% 課題レポート:30%		

表現演習 I C		前期 2 単位	1・2年
表現演習 I C		迎 康子 (むかい やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	発音や発声のしくみを理解する。自然な話し方や聞く力の基本を理解し、実践をとおして身につけることで上手な受け答えができるようになる。 名文を味わい、声に出して読むことで、日本語の表現の豊かさを理解する。		
授業の概要	毎回、発声練習をすることで、自然な発声や発音を身につける。話し方や聞き方の基本を実践をとおして学び、コミュニケーション能力を高める。名文を味わい、声に出して朗読することで、表現の幅を広げ、豊かな日本語を身につける。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 発音・発声のしくみ 第2回 自然な話し方 第3回 聞く力をつける 第4回 上手な受け答え 第5回 自己紹介 第6回 あいさつのことば 第7回 個性を生かした表現 第8回 説明する力をつける 第9回 ユーモアのある表現 第10回 朗読の基本 第11回 詩を朗読する 第12回 名文を味わう 第13回 名文の表現を学ぶ 第14回 擬音語・擬態語の表現を学ぶ 第15回 心とことばを豊かに		
テキスト	特になし 適宜プリントを配付。	参考文献	工藤直子著「のはらうた」（童話屋）ほか
評価方法	授業感想文:30% 小テスト:30% リポート:40%		

表現演習 I D		前期 2 単位	1・2年
国語表現法 I		多田 孝志 (ただ たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	グローバル時代における対話力の重要性について認識を深める。 多様な表現方法を体験し、自己の潜在的な表現力に気づく。 聴く、話す、対話するの口頭表現の理論の学習と技能の習得を目標とする。		
授業の概要	グローバル時代における対話力の重要性について映像の視聴を通して知る。 聴く、話す、対話するについて基本的考え方を学ぶ。聴く、話す、対話する力を高めるためのスキルを習得する。 グループでの調査活動⇒プレゼンテーションの活動を通して対話力を高めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 日本人の国語表現力の特色について知る。 第2回 対話力の重要性について認識する。 第3回 聴くの理論を学び、聴く力を高めるスキルを習得する。 第4回 理論を学び、スピーチ力を高めるスキルを習得する。 第5回 対話の基礎力としての観察力を高める。 第6回 対話の基礎力としてのイメージ力を高める。 第7回 対話についての理論を学ぶ。 第8回 ささまざまな対話スキルを体験する。 第9回 グループプレゼンテーションの手法を学ぶ。 第10回 グループでの調査を活動を計画する。 第11回 グループでの調査をし、分析する。 第12回 グループプレゼンテーションをする。 第13回 グローバル時代の対話力について認識を深める。 第14回 既習事項を活用して、パブリックスピーチをする。 第15回 授業の反省をする。		
テキスト	授業で育てる対話力 教育出版	参考文献	特に定めず、適時資料を配布する。
評価方法	平常点:40% 授業中の活動:30% プレゼンテーション:30%		

表現演習ⅡB		後期 2 単位	1・2年
さまざまな表現をやってみる - おもに演劇を中心に -		柏木 陽（かしわぎ あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	演劇を作ることを通じてさまざまな表現について考えてみる。 人のふるまいがどのように受け止められるのか、自分ならどうふるまうか、ほかの人がどのようにするか演劇を作ることを通じて考えていく。自分の中にあることをどうやったら他の人に伝えていくことが出来るかを実践してみる。		
授業の概要	集まった人たちと実際に演劇を作ってみます。 この授業は集まった人々によって進め方が異なっていきます。 その場での合意や探求が重要だと考えますのでこの授業計画も可変的な物だと思っていてください。		
授業計画	【後期】 第1回 あそぶ～他者との関係を探る 第2回 あそぶ～変化を見つけていく 第3回 あそぶ～楽しい時間は何をもちたらずか 第4回 つくる～場面をつくってみる 第5回 つくる～言葉のないもの 第6回 つくる～言葉から作ってみる 第7回 かえる～同じ内容を違う方法で表す 第8回 かえる～どうやったら意図が伝わるか 第9回 かえる～伝わらないけど魅力的なものに 第10回 みせる～見せてみてその反応を知る 第11回 みせる～同じ内容で方法を変えてみる 第12回 みせる～どう見えているか伝え合う 第13回 まとめる～自分たちの合意点を探す 第14回 まとめる～何かと結び付けてみる 第15回 まとめる～分け合うための方法を考える		
テキスト	必要に応じて授業中にプリントを配布	参考文献	必要に応じて授業中に提示
評価方法	授業への参加:50% 発表などの内容:30% レポート:20%		

表現演習ⅡC		後期 2 単位	1・2年
表現演習ⅡC		迎 康子（むかい やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期で身につけた基本を磨き、自然な発声や発音ができるようになる 会話力をつけ、自信をもって人前で話すことができるようになる 敬語表現を理解し、正しいことばづかいができるようになる 声に出して朗読することで、豊かなことばを身につけ、日本語のリズムや美しさを理解する		
授業の概要	前期と同じように、毎回、発声練習を行いながら、自然な話し方を獲得する。さらに、実践をとおして敬語表現を身につける。詩や古典を声に出して読むことで、日本語の表現の特徴を理解し、豊かな表現力をつける。		
授業計画	【後期】 第1回 人前で話す 第2回 話すことを楽しむ 第3回 聞きわけ力 第4回 会話力をつける 第5回 敬語表現の基本 第6回 尊敬語と謙譲語 第7回 敬語表現を身につける 第8回 美しいことば一季節の表現を知る 第9回 美しいことば一色彩の表現を知る 第10回 古典の表現に学ぶ 第11回 詩を味わう 第12回 朗読を楽しむ 第13回 朗読で養う想像力 第14回 朗読で養う表現力 第15回 心とことばを磨く		
テキスト	特になし 適宜プリントを配付する	参考文献	宮澤賢治著「注文の多い料理店」（新潮文庫）ほか
評価方法	授業感想文:30% 小テスト:30% レポート:40%		

表現演習ⅡD		後期 2 単位	1・2年
日本語の基礎トレーニング		津島 知明（つしま ともあき）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語表現力の向上を目指して、実践的なトレーニングを行う。独りよがりではなく、きちんと相手に伝わるような表現力を身につけてゆく。		
授業の概要	演習形式で行う。文章の推敲・添削などを通して、各自が自身の表現をより高めてゆけるよう個別指導してゆく（ただし、指導回数は受講者数による）。敬語の使い方、コメントの仕方など、実生活における様々な局面を想定することで、確実なスキルアップにつなげたい。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 自己紹介文 第3回 テーマを選ぶ 第4回 推敲と再構成 第5回 タイトルと書き出し 第6回 他人の表現に学ぶ 第7回 文章の縮約 第8回 文章の添削 第9回 相手の立場を考えたコメント 第10回 同音異義語の区別 第11回 改まった手紙文 第12回 自己アピール文 第13回 敬語のまとめ 第14回 誤りやすい漢字 第15回 まとめ		
テキスト	「日本語リテラシー」（新典社）	参考文献	特になし。
評価方法	課題の提出:90% 特別課題:10%		

書道 I	前期 2 単位	1・2年
書を楽しむ	長谷川 耕史 (はせがわ こうし)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 書の実用性と芸術性を書作を通して学ぶ。基本を身につけることに主眼をおく。手書きのぬくもりに触れあいながら、古典をふまえた自己表現を追求する。</p> <p><授業の概要> 毎回課題を用意する。楷書・行書・草書・平仮名の書体を、いろはうたを通して基本を学ぶ。 有名法帖の古典を臨書し書の奥深さを学んでいく。 毎時間、実習を中心に進め、随時、清書を提出する。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1回 漢字の基礎 (永字八法) 第 2回 楷書の練習 (いろはうたの練習・概要) 第 3回 楷書の練習 (いろはうた) (転折、波法、布置、章法) 第 4回 行書の練習 (いろはうた・行書概要) 第 5回 行書の練習 (いろはうたのまとめ) 第 6回 草書の練習 (いろはうた・草書概要) 第 7回 草書の練習 (いろはうたのまとめ) 第 8回 ひらがなの練習 (いろはうた) 第 9回 臨書楷書 (九成宮醴泉銘・概要) 第10回 臨書楷書 (九成宮醴泉銘・波法の練習) 第11回 臨書行書 (蘭亭叙・概要) 第12回 臨書行書 (蘭亭叙・遲速緩急の練習) 第13回 臨書草書 (千字文・概要) 第14回 臨書草書 (千字文・まとめ) 第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p> <p><テキスト> 随時資料を配布する <参考文献> 教場にて随時指示する <評価方法> 提出物の平均点 (50%) 積極性 (30%) 感想文 (10%) 平常点 (書道具の準備) (10%)</p>		

書道Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
書の美		長谷川 耕史（はせがわ こうし）	
授業の到達目標及びテーマ	書の実作を通して、書の実用性と芸術性を理解して習得出来るようにする。 社会生活において即役立つ様、仮名の基本を身につけたうえで、自己表現としての書を追求していけるようにする。		
授業の概要	小筆をメインに、仮名の基礎からはじめ、有名法帖の臨書を行う。 実用書道では毛筆以外にも硬筆を取り入れて実践的に使用出来るものも取り入れる。 毎時間実習を中心に進め随時清書を提出する。		
授業計画	【後期】 第 1回 仮名とは（講義） 硬筆にて名前の練習 第 2回 変体仮名（単体） 第 3回 変体仮名（二字連綿） 第 4回 変体仮名（多字連綿） 第 5回 臨書（高野切第3種） 連綿を生かす 第 6回 臨書（高野切第3種） 散らし方の練習 第 7回 臨書（高野切第3種） まとめ 第 8回 実用語（贈答用語の練習） 第 9回 実用語（地名の練習） 第10回 葉書の練習（硬筆） 第11回 葉書の練習 宛名書き 第12回 葉書の練習 手紙文 第13回 葉書の練習 第14回 書初め（創作書道） 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない、主としてプリントを用いる。	参考文献	特になし。
評価方法	提出物の平均点:50% 積極性:30% 授業態度:10% 平常点（持ち物）:10%		

読解トレーニングA		前期 2 単位	1・2年
小説という窓から社会と歴史を学ぶ		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	小説をさまざまな角度から読み、討論することを通じて、読解力を養います。小説を読むことは、現代とは異なる時代・文化・社会に生きる人間の内面を深く理解することです。今回は戦争・暴力・平和をテーマに、テキストをとりまく社会的文化的背景に理解を深めつつ読み進めます。		
授業の概要	芥川賞を受賞した現代沖縄の小説から、映画化されるなど話題の作品を選び、参加者全員でいっしょに読み進めながら、戦争と女性、沖縄と日本とアメリカ、平和と暴力、などのテーマについて理解を深めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 小説で読む戦争 目取真俊「風音」準備 第3回 小説で読む戦争 (同上) 初読 第4回 小説で読む戦争 (同上) 精読 第5回 小説で読む戦争 (同上) 発展1 第6回 小説で読む戦争 (同上) 発展2 第7回 小説で読む戦争 (同上) 発展3 第8回 小説で読む暴力 又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」準備 第9回 小説で読む暴力 (同上) 初読 第10回 小説で読む暴力 (同上) 精読 第11回 小説で読む暴力 (同上) 発展1 第12回 小説で読む暴力 (同上) 発展2 第13回 小説で読む暴力 (同上) 発展3 第14回 まとめ1 沖縄と日本 第15回 まとめ2 戦争と平和		
テキスト	授業時に配布します。	参考文献	現代沖縄文学作品選 (講談社文芸文庫)、岡本恵徳 他編『沖縄文学選 日本文学のエッジからの問い』 (勉誠出版)
評価方法	発言、コメントカード:50% 期末レポート:50%		

読解トレーニングB	後期 2 単位	1・2年
<p>ことばを読み解く・表現を読み解く——小学校の、中学校の、また高等学校の教室教材をふりかえる。そして、気づく。進む。翔ぶ。——</p>	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> みなさんが、これまでの人生で出会い、あつかつてきた文章でもっとふかく親しんだのは、きっと〈教科書〉の〈教材〉となったものではないかと思えます。この講座（=演習方式）は、人の知育を国家的に支えてきているみなもとと言えるそうした教科書にあらためて焦点をあて、教材の読み解きのありようを体験的にふりかえって、できるだけおおくの観点から、事実をまた推測的な知見をかさねます。そして、そこにちいさからぬ課題をみだし得ることについて考えを深めることを目標とします。新学科の新視点に立った継続的なテーマですが、今年度は、とくに、宮沢賢治、中原中也、高村光太郎、萩原朔太郎などをはじめとして世のなかのありとあらゆる作品と作者のうちから、教科書にきわめて頻繁に採用されている詩の作品をとりあげ、作品そのものはもちろん、それについてのおおくのコメント、研究者たちの研究の文章を読み解きます。</p> <p><授業の概要> みなさんの高等学校までの〈教科書体験〉をとりまとめたのち、図書館での文献検索的学習によって、教科書にしばしば採録され続けている定番的な作品と詩人に着目して、それぞれの教科書編集者たちのとりあげかた、とりあつかいかた、また、実際の教室教授者の指導のありようについて考えるのを、授業の前半の基礎的達成とします。授業の後半は、具体的な、詳細な〈読み解き〉を進行し、その達成の度合いにしたがって、また参加するきみたちの希望にしたがって、その応用面を、鬼束ちひろ、野田洋次郎、浜崎あゆみ、中島みゆき、井上陽水など、現代のよく知られたミュージシャンの作品の〈読み解き〉について実践します。なお、この講義は、申し出によって父母、祖父母の参加が可能です。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマに亘ってまると参加することが要請されます。</p> <p><授業計画> 第1回 高等学校までにもちいた教科書を持ち寄る——報告会（かならず、すくなくとも一冊の学校教科書、印章持参。三文判が適切） 第2回 教科書体験・報告会の内容から感じられること→考えられること。 第3回 教科書採録のベストランキングを調べる（図書館・ブラウジングルーム集合） 第4回 調査の対象とする文献を定める 第5回 研究の対象とする文献について——グループをつくる—— 第6回 研究の対象とする文献について——発表の資料を作るために—— 第7回 研究の対象とする文献について——分担作成資料の配布—— 第8回 詩作品を読み解く 第9回 作品についてのコメントを読み解く 第10回 作品についての研究を読み解く——どんな準備が必要か？—— 第11回 作品についての研究を読み解く——実践—— 第12回 作品についてのコメントを比較する 第13回 作品についての研究を比較する 第14回 作品についての読み解きを深める思考を考える 第15回 作品についての読み解きを深める科学的態度を考える</p> <p><テキスト> 第3回・ベストランキングの結果判明にしたがって、決定。</p> <p><参考文献> 第3回・ベストランキング検索ののちに、頻出状況にしたがって、提示。</p> <p><評価方法> 授業貢献の度合い：50% 期末レポートの内容：50%</p>		

読解トレーニングC		前期 2 単位	1・2年
社会と歴史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	読解の基礎を確認した後、継続的に新聞を読むためのコツを学ぶ。重要な新聞記事を具体例に、内容の正確な理解、問題点、自分の見解を明らかにすることを軸に、読み込む力を修得する。現状を深く理解するには、原因と結果の歴史的経緯を知る必要がある。これらの作業を通して自ら検証・考察する力、総合的な読解力を鍛えていく。		
授業の概要	興味を持った記事を選び、記事の内容を正確に理解し、何が問題なのか、自分はどうのような意見なのかを簡潔にまとめることを習慣化し、実践的読解を体得していく。ディスカッションで様々な見方を知り、自分の意見を自覚し、さらに発展させるといった作業に慣れていく。知的発見の楽しさを、ぜひ知ってほしい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンスと自己紹介 第2回 文章読解の基礎を学ぶ(1) まずは腕試し 第3回 文章読解の基礎を学ぶ(2) 「いいたいこと」をつかむ 第4回 新聞を読む(1) 案外楽勝!? 第5回 新聞を読む(2) ポイントはどこ? 第6回 新聞読解の方法論: 三つのOで考えよう 第7回 グループワークに慣れる(その1) 問題の提示 第8回 グループワークに慣れる(その2) 議論を深める 第9回 読解とディスカッション(1) テーマの理解 第10回 読解とディスカッション(2) 問題の発見 第11回 読解とディスカッション(3) 情報の整理 第12回 読解とディスカッション(4) どう読むか 第13回 読解とディスカッション(5) どう考えるか 第14回 読解とディスカッション(6) 着地点はどこか? 第15回 まとめ		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	テーマに合わせて随時紹介する
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

読解トレーニングD		後期 2 単位	1・2年
論説文読解を中心に実践的読解力を養う		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	読む力を養うことを目標とする演習授業である。この授業では、論説文の読解トレーニングを中心に、文章を読みこなす訓練を行う。参加者が、現代文の試験に取り上げられた論説文の読解を繰り返し試みることにより、読解力養成に努める。訓練を通して出題者の意図を推測し、設問に対して正しく解答できるようになる。		
授業の概要	論説文問題の「解き方の公式」を学んでから、過去に出題された中学校、高校、大学の入試問題、そして就職試験問題に挑戦する。試験問題を解いてみて、出題者の要求する解答と自分のそれとのずれを知り、読解のポイントをつかむ。このトレーニングを繰り返すことによって論説文の読解力を養成する。さらに新聞記事の読み方も学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 読解入門: 論説文を読むとはどういうことか 第2回 中学校入試問題に挑戦する(1) 思想・哲学 第3回 中学校入試問題に挑戦する(2) 科学・学問 第4回 中学校入試問題に挑戦する(3) 言語・文化 第5回 高校入試問題に挑戦する(1) 思想・哲学 第6回 高校入試問題に挑戦する(2) 科学・学問 第7回 高校入試問題に挑戦する(3) 言語・文化 第8回 大学入試問題に挑戦する(1) 思想・哲学 第9回 大学入試問題に挑戦する(2) 科学・学問 第10回 大学入試問題に挑戦する(3) 言語・文化 第11回 就職試験問題に挑戦する(1) 第12回 就職試験問題に挑戦する(2) 第13回 新聞の記事を読む(1) 社説 第14回 新聞の記事を読む(2) コラム 第15回 全体まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	授業参加度:30% 小テスト:30% 期末レポート:40%		

読解トレーニングE		前期 2 単位	1・2年
修紫田舎源氏—室町御所の光源氏		小林 正明 (こばやし まさあき)	
授業の到達目標及びテーマ	<input type="radio"/> 古文の基礎(古語、古典文法)を実践的に運用できる。 <input type="radio"/> 原典『源氏物語』に遡ってパロディが理解できる。 <input type="radio"/> 読解の着眼を自分の言葉で筆記/発言できるようになる。		
授業の概要	『修紫田舎源氏』は、『源氏物語』の全享受史において、冠絶した翻案である。国貞描く挿絵も絶品との定評あり。架空の室町將軍家の御曹司・光氏(みつうじ)。柳亭種彦が奔筆を振るったこの佳作は、將軍家育の大奥を諷しているとの廉により、天保改革で発禁となった。今、国貞の18枚を含む、この枕頭の書の初編を開く。		
授業計画	【前期】 第1回 授業説明と情報交換 第2回 初編[以下同じ]室町花の御所。 第3回 架空將軍家義正(杏、七代「義政」)。 第4回 正妻富御前(とよし)。 第5回 源氏物語の馬道(めどう)挿話。 第6回 侍女たちの暗躍と確執。 第7回 敵役の予告。 第8回 光氏誕生。 第9回 花桐、偽手紙事件。 第10回 花桐、退場。『源氏物語』桐壺更衣の死去。 第11回 嵯峨館の花桐母。 第12回 野分の段。 第13回 新参刈萱の正体。 第14回 敵役同志討ち。 第15回 総括：原作と翻案。		
テキスト	一括コピー配布(修紫田舎源氏初編 - 国貞挿絵付)	参考文献	特になし
評価方法	発言:20% 発表:20% 提出物:20% 試験:40%		

日本語学A	前期 2 単位	1・2年
日本語のあつかい方の基礎を、科学的、また歴史的観点から身につける。	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><テーマ> 自分中心に言語をあつかい感覚するのではなく、言語科学としての日本語学の基盤を学ぶ。とくに、日本語の歴史的なあつかいかたを、古代語が中世語を経て現代語へ至るみちすじ、日本語の歴史の探求として、学生自身の調査と発表を交えて学ぶこと。いくつかの日本語資料をテキストとしてつねに身近において、今年度は、とくに、文字史・文字論、そして辞書史・辞書論を中心にとりあげ、日本語史構築の基本的知見を学生自身が体験的、自律的に学ぶ。</p> <p><到達目標> ・主観的理解や感想的受容を離れ、言語を科学的、客観的にあつかう力の養成。 ・用例dataの意義をじゅうぶんに理解し、集取できる力の養成。 ・それらのdataから読み取るべき内容を認定するすじみちを考え、結論を導く力の養成。</p> <p><授業の概要> 日本語の真のありようを知るてがかりとするための言語の歴史的探求を、学生自身の自覚的な参加を得ながら進める授業です。真摯に学習しようとする意欲ある学生のための実質的な講座とするため、講義者との質疑、コミュニケーション、雑談などが学生の積極的参加力、授業貢献度として要請されて進みます。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準にしたがった自己評価の申告を原則とします。 ただし、著しい思い違いについては参加者の知見、判断をも導入して、是正します。</p> <p><授業計画> 第1回 導入篇・日本語watching（印鑑持参） 第2回 日本語を科学的にあつかうこと 第3回 日本語を歴史的にあつかうこと 第4回 現代日本語へのみちすじ＝漢字の伝来・漢字の特質を中心に 第5回 現代日本語へのみちすじ＝かなの誕生・万葉仮名を中心に 第6回 日本語をさかのぼる・ひらがなの誕生を中心に 第7回 日本語をさかのぼる・かたかなの誕生を中心に 第8回 課題学習にとりくむ（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視）・辞書・辞典のなかの若者ことば 第9回 日本語と辞書 第10回 日本語と辞書史・昔々の若者ことば 第11回 若者ことばのあつかい方を考える 第12回 若者ことばを見つめる・自己評価票の提出 第13回 若者ことばを記述する試み 第14回 若者ことばを点検する試み 第15回 総合・自己評価票の提出</p> <p><テキスト> いま、参加学生の関心と力量を認め得ないまま決めることを憂慮し、第1～第3回の試問時に、言語および言語以前の課題にかかわるテキストを選定します。</p> <p><参考文献> 図書館文献を中心に講義中の質疑また雑談に応じて指示します。</p> <p><評価方法> ノート発展的作成度：35% 論理的思考力養成度：35% 授業貢献度：30% 上記方式によって評価し得ないばあいは、定期試験を行うことにします。なお、「毎回静かに出席した」というのは、どの評価ポイントにも属しません。</p>		

日本語学B	前期 2 単位	1・2年
言語科学としての日本語のあつかいかたの応用面を研究するちからを身につける。	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日本語学A」の学習上の基盤のうえに、言語科学の応用領域をあつかい、日本語と近代・現代におよぶ日本文化を読み解く skill の獲得をめざし、次下三つの到達目標をたてる。 ①主観を離れて言語を科学的にあつかう力量の養成。 ②用例dataの意義をたたく理解し、その集収にあたる力量の養成。 ③該当のdataからあらたな知見を導き求める力量の養成。</p> <p><授業の概要> 日本語学Aの履修を了えた学生、また履修している学生が、下記<授業計画>に明記したような日本語学の応用面にのりだして、論理性、客観性、科学性を養うための学生参加型の授業である。おおよそ、平均的に、講義者の講義および発表割合 1～1.5 に対し、参加学生 1.0 の思考、調査、発表活動をあてて進行する。 あくまでも、1年生時「日本語学A」を履修し、単位を得た2年生、また現在「日本語学A」を履修中の意欲的な学生のための応用言語学的な講座である。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準に従って自己評価の申告を原則とする。ただし、著しい思い違いについては、他の参加者たちの知見、判断などをも導入して、是正する。 なお、この講義は、申し出によって父母の参加が可能である。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマ以上に亘ってまると参加することが要請される。</p> <p><授業計画> 第1回 introduction→印鑑持参。 第2回 文学を読み解く言語学 第3回 文豪たちを読み解く言語学 第4回 夏目漱石と森鷗外についての科学的観察。 第5回 J-popの文化を読み解く言語学・アーティストの歌詞を繙く科学的思考 第6回 鬼束ちひろと中島みゆきを読み解く 第7回 Musicianを読みとくちから 第8回 課題発見レポートの提出日（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視） 第9回 たとえば、わらべ唄をみつめる言語……発展自由領域…… 第10回 たとえば、わらべ唄を読み解く……発展自由領域…… 第11回 たとえば、わらべ唄を読み解く言語学……発展自由領域…… 第12回 好きなテーマについて読み解く……発展自由領域…… 第13回 好きなテーマについての文化的側面にせまる言語学……発展自由領域…… 第14回 社会のできごとを読み解く言語学……発展自由領域…… 第15回 まとめて、まとめてwords&culture</p> <p><テキスト> 日本語学A使用のものの継続のほか、いま、参加学生の興味と力量を認め得ないまま決めることを憂慮し、第1～第3回の試問時に、言語および言語以前の課題にかかわるテキストを選定する。</p> <p><参考文献> 図書館文献を中心に講義中の質疑また雑談に応じて指示する。</p> <p><評価方法> ノートの展開的作成力 言語data収集力 収集dataからみちすじをたてて考える力の度合い 授業貢献の度合 各25%</p>		

日本語論 A		前期 2 単位	1・2年
日本語の音声・音韻		小川 晋史（おがわ しんじ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>【テーマ】日本語の音声・音韻</p> <p>【到達目標】日本語の音声・音韻特徴を理解する。普段自分たちが使っている日本語を科学的な目線で分析する思考ができるようになる。</p>		
授業の概要	<p>ここでは日本語に関する事項の中で、人間が意思疎通を図る基本手段である言語音とそれに関連する現象について講義する。対象は共時的な（現在の日本語の）ものを中心だが、通時的な（歴史的な）内容にも触れる。また、音声・音韻を題材として、日常使っている日本語を分析的に捉えるとはどういうことかを解説する。テキストの内容に沿って進め</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 講義の進め方の説明、言語学の基本概念</p> <p>第 2回 母音と子音① 調音</p> <p>第 3回 母音と子音② 音の有標性と無標性</p> <p>第 4回 音の獲得① 音素</p> <p>第 5回 音の獲得② 日本語の音素</p> <p>第 6回 音の成分① 音声素生</p> <p>第 7回 音の成分② 様々な現象と音声素生</p> <p>第 8回 連濁と音の交替① 形態音素交替</p> <p>第 9回 連濁と音の交替② 連濁</p> <p>第10回 日本語の特質とモーラ① モーラとは何か</p> <p>第11回 日本語の特質とモーラ② 歌謡、言い間違い、混成語</p> <p>第12回 日本語の特質とモーラ③ 音韻規則とモーラ</p> <p>第13回 音節とアクセント① 音節とは何か</p> <p>第14回 音節とアクセント② 音節とアクセント規則</p> <p>第15回 音節とアクセント③ 音節構造</p>		
テキスト	『日本語の音声』窪菌晴夫[著]（岩波書店）	参考文献	特になし
評価方法	講義の感想と質問表:40% テスト:60%		

日本語論B	後期 2 単位	1・2年
国語辞典・古語辞典をのりこえる	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><テーマ> ひごろ使い慣れている辞書、辞典を、言語科学の視点から客観的、論理的に見つめ直す。あわせて、その記述を追い、たしかめながら、語の来歴をも学びつつ、古代語から中世語を経て現代語へいたる日本語の歴史的な遷り変わりのありようをも具体的に学びそのおおきな転換点のダイナミックな構造的特質についての科学的知見にふれる。</p> <p><到達目標> ・辞書、辞典の言語の記述を客観的に観察する力の養成。 ・おおくの辞書、辞典の記述を比べ読み、それらの語のあつかいの差異を論理的にみさだめ、妥当性を批評する力の養成。 ・辞書、辞典の歴史を理解し、あわせて日本語の歴史的な変遷の知見を得てゆく力の養成。</p> <p><授業の概要> ふだん特別の課題また研究の意欲などをもたずに引き、日本語のありようをたしかめ便利に活用している国語辞典の記述の内容について、あらためて読み、点検し、みずから、またみずからの世代の言語感覚、言語認識のありかたを問い、さらに父母、さらに祖父母、祖父母たちの世代との段階差を認識し、さらさらにそのもつ根源的な言語の時代差のありようを論理的、科学的に見つめる眼をやしないながら、学生の調査・発表を交えつつ古代語から現代語への歴史的な変遷の視点を具体的、有機的に理解するねらいの、「学習」と「研究」との中間位的な講座である。 評価は、下記「評価方法」の三つの基準に従って自己評価の申告を原則とします。ただし、著しい思い違いについては、他の参加者たちの知見、判断を導入して、是正します。</p> <p><授業計画> 第1回 導入篇（図書館集合、印鑑を持参） 第2回 国語辞典・古語辞典を持ち寄る 第3回 さまざまな記述を観察する 第4回 辞書、辞典をあじわうーくらべる 第5回 辞書、辞典を「ひく」から「考える」へ 第6回 辞書、辞典を「考える」から「超える」へ 第7回 課題レポート提出の日（とくに、課題の新鮮さ・創見性を重視） 第8回 父母の言葉と私の言葉一言語の世代差 第9回 祖父母の言葉と私の言葉一言語の世代差 第10回 曾祖父母たちの言語を観察する一言語の世代差 第11回 辞書、辞典の記述と言語の時代差・明治時代 第12回 辞書、辞典の記述と言語の時代差・江戸時代 第13回 辞書、辞典の記述と言語の時代差・鎌倉、室町時代 第14回 辞書、辞典の記述と言語の時代差・奈良以前、平安時代 第15回 まとめて、まとめて、辞書史学 定期試験</p> <p><テキスト> 高校時代までに用いた国語辞典および古語辞典</p> <p><参考文献> 講義中の質疑、コミュニケーションにあわせて図書館資料を中心に指示。</p> <p><評価方法> ノートの創造的作成度：35% 論理的思考力養成度：35% 授業貢献度：30%</p>		

日本文化研究A		前期 2 単位	1・2年
近現代の沖縄と文学		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 近代沖縄がたどった歴史を、沖縄の現代文学を通じて理解し、戦争と平和について理解を深めます。 沖縄という場所・文化・歴史を学び、よりそうことで、一面的に捉えがちな「日本」のイメージや自明性を捉え直し、相対化する視点を得ます。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 目取真俊、又吉栄喜、大城立裕、崎山多美など優れた現代作家の短編をとりあげ、実際に作品を学生と共に読み進めてその表現内容を精読し、ビデオや映画など視聴覚資料なども観賞しながら、沖縄戦とその前後の状況、戦後の米占領時代に沖縄が置かれた立場について理解を深め、平和と和解への糸口を探ります。 		
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 インTRODククション 第2回 近代沖縄入門1 映像資料で学ぶ沖縄 第3回 近代沖縄入門2 沖縄方言論争と沖縄戦 第4回 目取真俊「魂込め」初読 第5回 目取真俊「魂込め」精読 第6回 記憶と忘却の暴力 第7回 現代沖縄入門 映像資料で学ぶ占領期沖縄 第8回 大城立裕「カクテル・パーティー」初読 第9回 大城立裕「カクテル・パーティー」精読 第10回 米軍基地問題と女性への暴力 第11回 平和構築と法 第12回 崎山多美「風水譚」を読む 第13回 沖縄文化と女性 第14回 現代沖縄の文化と政治 第15回 まとめ 		
テキスト	授業時に配布します。	参考文献	岡本恵徳・高橋敏夫編『沖縄文学選 日本文学のエッジからの問い』勉誠出版
評価方法	平常点と授業感想文:50% 期末レポート:50%		

日本文化研究B		後期 2 単位	1・2年
文学・文化分析を通して、文化の脱中心的で協同的な未来を考える		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>日本文化を単一的で一枚岩のものとするのではなく、複層的で多様な社会的アクセント (M・バフテン) が交差する力学の中に捉えられるようにする。文学、文化、思想……テキストに制限を設けず、わたしたちの文化のあり方が協同的で脱中心的な未来の文化生産へ繋がれるはずの「現在」として把握し直せるような、視座と分析力と感性を獲得する。</p>		
授業の概要	<p>講義および発表・討議の形式。具体的な文献資料などを共に読み進め、時に映像も交えながら考える。講義、各人の読み取り作業と討議を通じて、文化の単なる享受主体であることから、文化を歴史過程のなかで分析し、創造的に意味づけられる主体へと転換を図る。主として多数者の利益のためにそぎ落とされてきた声・感性に基づくものをテーマとす</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 導入—文化研究とは何か 第2回 導入—文化研究の歴史 第3回 貧しさと記録文学—ルポルタージュとは 第4回 ルポルタージュ作品から—破壊と文学 (石牟礼道子など) 第5回 ルポルタージュ作品から—戦争の技術と文化 (広河隆一など) 第6回 エネルギー—権力の歴史と文学 第7回 言語の個性・地域性と文学 第8回 野蠻としての文化—W・ベンヤミンほか 第9回 まなざしの文化とその支配 第10回 戦争と文学—感性の政治学 (表現について) 第11回 戦争と文学—感性の政治学 (プロパガンダについて) 第12回 戦争と文学—感性の政治学 (文学に対抗する文学) 第13回 ハンセン病と文学—その歴史 第14回 ハンセン病と文学—北条民雄 第15回 まとめ 		
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	随時指示します。
評価方法	レポート (調査・考察・文の巧拙) :70% 授業での発表:15% 授業での討議:15%		

日本文化研究C		前期 2 単位	1・2年
日本近現代文学の思潮を捉える		井上 明芳 (いのうえ あきよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本近代文学史について理解する。 文学における「私」の意義が説明できる。		
授業の概要	日本近代文学の思潮を捉えることを目標とする。日本の明治期以降の文学思潮の中でも重要な問題として「私」をどう描くかということがあった。これを作品を取り上げ、「私」問題の変遷を捉えていきたい。具体的には、私小説から取り組み、それがどのように継承され、発展したかを芥川龍之介や横光利一などを講義形式で取り上げ検討する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 講義の進め方、成績等の説明 第2回 日本近代文学の始まりについて 第3回 自然主義文学1 リアリズムについて 第4回 自然主義文学2 国木田独歩・田山花袋など 第5回 自然主義文学3 島崎藤村・徳田秋声など 第6回 白樺派の文学1 概要 第7回 白樺派の文学2 志賀直哉を中心に 第8回 芥川龍之介について1 他者の発見 第9回 芥川龍之介について2 「私」の発見 「歯車」を中心に 第10回 プロレタリア文学について 第11回 新感覚派の文学1 概要 第12回 新感覚派の文学2 川端康成など 第13回 新感覚派の文学3 横光利一など 第14回 森敦「月山」 物語構造について 第15回 まとめ 近代文学に表れた「私」をめぐって		
テキスト	講義で取り上げる作品は入手可能な文庫を使用する。資料等はプリント配布する。	参考文献	中村光夫「日本の近代小説」（岩波新書）奥野健男「日本文学史」
評価方法	学期末レポート:60% 講義時の小レポート:25% 提出物:15%		

日本文化研究D		後期 2 単位	1・2年
現代日本のサブカルチャーにおけるジェンダー表象		上戸 理恵 (うえと りえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	やおい・BL（ボーイズラブ）と称される、女性によって読み書きされる男性同士の恋愛ものというジャンルの成立過程を理解し、ジェンダー研究の領域にこれらの表象を位置づけることができるようになる。また、このジャンルに特有の物語構造を明らかにし、物語を生成する機構について理解する。		
授業の概要	講義形式。必要に応じて履修者の発表や討議の機会を設ける。現在の研究動向を整理し、やおい・BLのジェンダー表象がどのように位置づけられているのかを検討する。やおい・BLの系譜にある作品を取り上げ、ジェンダーの表象や創作のプロセスなどを具体的に考察する。また、それぞれのセクションの終わりに小テストを行い理解の定着を図る。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 今日のやおい・BL研究（1） やおい言説の変遷 第3回 今日のやおい・BL研究（2） やおいた想像力への注目 第4回 今日のやおい・BL研究（3） ジェンダーの言説との関連 第5回 今日のやおい・BL研究（4） 議論の整理／小テストI 第6回 やおい・BL前史（1） 森茉莉を中心に 第7回 やおい・BL前史（2） 24年組の少女漫画家たち① 第8回 やおい・BL前史（3） 24年組の少女漫画家たち② 第9回 やおい・BL前史（4） 議論の整理／小テストII 第10回 やおい・BLの展開（1） 栗本薫／中島梓を中心に 第11回 やおい・BLの展開（2） 想像力とパロディ 第12回 やおい・BLの展開（3） ボーイズラブと腐女子 第13回 やおい・BLの展開（4） ジェンダーの実験 第14回 やおい・BLの展開（5） 議論の整理／小テストIII 第15回 講義のまとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを配布しそれを用いる。	参考文献	永久保陽子『女性のためのエロス表現 やおい小説論』専修大学出版会など。その他、随時紹介し、必要に応じてプリントを用意する。
評価方法	授業感想カードの内容:20% 小テスト:30% レポート課題:50%		

日本文化特論		前期 2 単位	1・2年
文化を体験し、分析的な考察を試みる		辻 吉祥（つじ よしひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	文化に関する調査・実地体験を通して、「文化」と称されているものの現在の姿のあり方を分析的に考える。歌舞伎・能にとどまらず、「日本文化」と称されてきたものを実際に検証しつつ、その制度化、「文化」化、階級性、政治性、排他性、異種混交性などの要素と経緯を、客観的に見つめられる視座と分析力を獲得する。		
授業の概要	「国文学実地研究」を引き継ぐ本授業は「教室」を市街に拡張します。歌舞伎や能、演劇、映画、美術・博物館、文学館……「文化」を実際に出かけて調査・見聞することを課します。もちろん表参道も、多国籍資本による多彩な消費文化の地であり分析の対象です。体験を歴史的に検証する、その作業を繰り返し、文化分析の報告書に厚みを加えていき		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 導入—この授業の意味について</p> <p>第 2回 報告書の作成法について（基礎）</p> <p>第 3回 報告書の作成法について（実習）</p> <p>第 4回 実地研修 I 文献調査</p> <p>第 5回 実地研修 II 下調べ</p> <p>第 6回 実地研修 III 訪問</p> <p>第 7回 実地研修 IV 報告書作成</p> <p>第 8回 各自の成果発表</p> <p>第 9回 文化の歴史的な意味を考える</p> <p>第10回 実地研究 I 文献調査</p> <p>第11回 実地研究 II 下調べ</p> <p>第12回 実地研究 III 訪問</p> <p>第13回 実地研究 IV 報告書作成</p> <p>第14回 各自の成果発表</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	プリントを配布。	参考文献	『創られた伝統』 E. ホブズボウム他編 紀伊国屋書店 『芸術の規則』 I II P. ブルデュー 藤原書店 『啓蒙の弁証法』 M. ホルハイマー、T. W. アドル 岩波文庫
評価方法	レポート（調査力・分析力）：70% 授業内での報告・討議：30%		

日本古典文学史 I	前期 2 単位	1・2年
日本古典文学史の基礎と発展 I 古代・中古篇	小林 正明 (こばやし まさあき)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>○上代から平安末期までの文学史を理解する。 ○時代ごとの特質・ジャンル・社会歴史的な背景等々を理解する。 ○古典文学史の著名群像に親炙することができるようになる。 ○『源氏物語』などの日本古典作品を原文で読むことができるようになる。</p> <p><授業の概要></p> <p>○[形態] 講義を基調とするが、学生参加型・問題探求型として、学生発表の形態も併用する。 ○[小試験] 小試験を、授業回数に進捗と連動しながら実施する。基礎知識の定着を求めて。 ○[時代の順序] 取り使う時代の順序は、必ずしも時系列に従わない。リサーチ指示・学生発表設定・小試験実施等の日程事情もある。 ○[授業速度と教材量] あわただしい授業のやりくりとなる。半期科目の文学史として、古代から平安末期まで縦断する、カリキュラムの設定はもともと無謀。上滑りな説明や省略の部分を補うために、授業内で扱える以上の資料を配布することもある。 ○[メモ等の励行] 過密な授業に適応するためには、各自による、配布資料の管理やメモについて自覚的な励行が必要。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 ガイダンス：授業説明、情報交換。*リサーチI(万葉集)割り当て。#万葉集地図・系図配布 第2回 古代神話論：記紀神話の体系と代表的な神話事例を紹介。*リサーチII(源氏絵)割り当て。#源氏絵配布 第3回 日記・平安女流篇：平安日記の系譜と平安女流の問題。日記作品の紹介と読解。漢詩文史についても瞥見。 第4回 古代歌謡論ⅰ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅰ。 □5分試験(古代神話) 第5回 古代歌謡論ⅱ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅱ。 □5分試験(日記・平安女流) 第6回 古代歌謡論ⅲ：*リサーチI(万葉集)学生発表ⅲ。 第7回 古今集篇：古今集の諸問題を中心にして、勅撰八代集、紀貫之なども。和歌の修辞・歌枕、歌論書小史を補足。 □10分試験(万葉集) 第8回 源氏物語篇：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅰ。 □5分試験(古今集) □口頭短問(源氏物語の基礎知識①) 第9回 源氏物語篇ⅰ：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅱ。 □口頭短問(源氏物語の基礎知識②) 第10回 源氏物語篇ⅲ：*リサーチII(源氏絵)学生発表ⅲ。 □口頭短問(源氏物語の基礎知識③) 第11回 伊勢物語・竹取物語篇：両物語を紹介。伊勢物語の主要場面と本文を読解。両物語は源氏物語にとって不可欠なので徹底学習が必要。主要物語の基礎知識も背景として補足。 □15分試験(源氏物語) 第12回 枕草子篇：枕草子、定子後宮の基本知識。 □5分試験(伊勢・竹取・平安物語) 第13回 歴史物語篇：栄花物語・大鏡などの紹介。 □5分試験(枕草子) 第14回 説話文学篇：今昔物語集・説話系譜の紹介。民衆文化や漢籍類書(大平広記など)との比較など、関連見も参照する。 □5分試験(歴史物語) 第15回 今様篇：梁塵秘抄の読解。遊女・白拍子・傀儡(くぐつ)の芸能も。 □5分試験(今様)</p> <p><テキスト></p> <p>プリント配布(講義資料・学生リサーチ集等の配布物が多いので、各自ファイル管理すること。原則として、欠席者への後日配布なし)。</p> <p><参考文献></p> <p>特になし。</p> <p><評価方法></p> <p>小試験70% リサーチ・発表10% 発言・授業姿勢10% メモ・資料管理10%</p>		

日本古典文学史Ⅱ	後期 2 単位	1・2年
日本古典文学史の基礎と発展 Ⅱ 中世・近世篇	小林 正明 (こばやし まさあき)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象範囲として中世から江戸末期までの日本古典文学史を理解する。 ○ 古典作品の名称・作者・時代・ジャンルを記憶することができる。 ○ 日本古典文学の著名群像に親炙することができるようになる。 ○ 中世から江戸末期までの古典作品を原文で読むことができるようになる。 <p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [形態] 講義授業の形態を基調とするが、学生参加型・発見学習型として、学生によるリサーチ発表の形態も併用する。 ○ [小試験] 授業回数に進行に雁行しながら小試験を実施する。基本知識の徹底を求めている。 ○ [時代の順序] 必ずしも時系列とせず。リサーチ指示・学生発表・小試験等の日程との都合による。 ○ [速度と教材量] 倍速の進捗とならざるをえない。半期科目の文学史で、鎌倉から江戸末期までを縦断する、カリキュラムの設定はほとんど無謀。やむなく、徒然草、芭蕉などいくつかの重要項目を割愛。説明の上滑りや作品読解の不足を補うために、各自の自主学習を期して、授業内で扱える以上の資料を配布する。 ○ [授業メモ等] 過密な進行に適応するために、各自が、配布物管理と授業中メモを自覚的に励行する。 <p><授業計画></p> <p>第1回 準備篇：ガイダンス、情報交換。 * リサーチⅠ『中世近世群像名鑑』割り当てリスト（石堂丸・おまん・万寿姫・安寿姫・大磯虎・朝比奈三郎・清姫・逆髪・八百屋お七・和藤内・鉢かつぎ姫・中将姫・景清・塩谷判官・大塔宮護良 親王・天満屋お初・高師直・梅若・俊徳丸・渡辺綱・玉藻前・二条・志水冠者・伏姫・静御前・悪七兵衛景清・阿古屋・安部保名・大経師おさん・猿源氏・小栗判官・照手姫・最明寺入道・桜姫・弁慶・松王丸・佐藤庄司・崇徳院・夕霧太夫・吉野太夫・小春）。</p> <p>第2回 西行・実朝篇：和歌史で特異な位置を占める両歌人。政治史の背景や 『吾妻鑑』『日本外史』も参照にする。 * リサーチⅡ『平家物語群像名鑑』割り当て。</p> <p>第3回 新古今和歌集篇：定家を主に扱う。定家なしでは今日の源氏物語はありえない、その仕事や『明月記』等も紹介。他の若干の新古今時代の歌人（俊成、式子内親王）に触れたい。 <input type="checkbox"/> 5分試験（西行・実朝）</p> <p>第4回 世阿弥能楽理論：『世阿弥十六部集』の紹介。 <input type="checkbox"/> 5分試験（新古今）</p> <p>第5回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅰ：リサーチ発表ⅰ。 <input type="checkbox"/> 5分試験（世阿弥）</p> <p>第6回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅱ：リサーチ発表ⅱ。</p> <p>第7回 『中世近世群像名鑑』篇Ⅲ：リサーチ発表ⅲ。</p> <p>第8回 中世語物り物篇：小栗・刈萱・身毒など五説経、『義経記』『曾我物語』の紹介と本文。あわせて、御伽草子挿絵配布。</p> <p>第9回 南北朝篇：『東西南北赤心卍崩一私版』寸劇参加によるブレイン・ストーミング。増鏡、梅松論など関連書物も参照する。ジャンルとしての軍記物について知識を理解を強化する。</p> <p>第10回 A 『平家物語群像名鑑』篇Ⅰ：リサーチ発表ⅰ。 B 西鶴篇：俳諧、阿蘭陀流西鶴、矢数俳諧。 <input type="checkbox"/> 5分試験（語り物）</p> <p>第11回 A 『平家物語群像名鑑』篇Ⅱ：リサーチ発表ⅱ。 B 西鶴篇：好色物。 <input type="checkbox"/> 5分試験（南北朝）</p> <p>第12回 A 『平家物語群像名鑑』篇Ⅲ：リサーチ発表ⅲ。 B 西鶴篇：町人物。 <input type="checkbox"/> 20分試験（『中世近世群像名鑑』）</p> <p>第13回 近松門左衛門篇Ⅰ：元禄文学対照略史。近松世話物の紹介。 <input type="checkbox"/> 15分試験（『平家物語群像名鑑』）</p> <p>第14回 近松門左衛門篇Ⅱ：近松世話物・時代物の紹介。 <input type="checkbox"/> 10分試験（近松）</p> <p>第15回 南総里見八犬伝篇：八犬伝の世界、挿絵、馬琴の他作品など紹介。 <input type="checkbox"/> 5分試験（八犬伝）</p> <p><テキスト></p> <p>配布教材使用（講義要旨・作品抄出・学生リサーチ集など配布資料がおおいので、要ファイル。原則的には、欠席者への後日配布なし）。</p> <p><参考文献></p> <p>特になし。</p> <p><評価方法></p> <p>小試験70% リサーチ・発表10% 発言・姿勢10% メモ・教材ファイル10%</p>		

日本芸能史Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
中世から近世初期までの日本芸能		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	中世から近世初期に至る日本芸能の歴史を俯瞰する。		
授業の概要	中世の語り物の「平曲」や演劇芸能である「能楽」・「狂言」について、その成立背景や特徴を知る。さらにこれらを母体として生まれた近世（江戸時代）初期の諸芸能について、映像・音源資料をもとに講義する。授業を通じて、日本の「芸能」に関する理解と知識を深めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 古代の芸能 第2回 大陸系芸能の渡来・伎楽（消えてしまった仮面劇） 第3回 雅楽・舞楽 第4回 雑芸・白拍子など・散楽（猿楽） 第5回 公家から武家へ（延年舞曲） 第6回 田楽（田楽能） 第7回 猿楽（能楽） 第8回 観阿弥と世阿弥 第9回 能と狂言 第10回 平曲 第11回 幸若舞曲 第12回 説経 第13回 浄瑠璃 第14回 傾き者たち 第15回 そして庶民へ		
テキスト	『日本演劇史』（おうふう）¥2000+税。	参考文献	『演劇百科大事典』全7巻（平凡社）など
評価方法	授業への積極的参加:30% レポート&テスト:70%		

日本芸能史Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
江戸時代から明治中期までの日本芸能史		大木 京子（おおき きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代庶民の最大の娯楽であった「歌舞伎」を中心に講義を進める。		
授業の概要	出雲の阿国から女歌舞伎、若衆歌舞伎、そして野郎歌舞伎の順に発生期の諸相を明らかにした後、上方と江戸の芸風の違い、また隣接する人形浄瑠璃との相互影響などについて講義する。さらに、明治維新後、西洋の影響を受けて、これらの芸能がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかについても言及していく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 阿国歌舞伎 第2回 女歌舞伎の禁止 第3回 若衆歌舞伎から野郎歌舞伎へ 第4回 離れ狂言と続き狂言 第5回 市川團十郎と坂田藤十郎（荒事と和事） 第6回 芳沢あやめ（女形について） 第7回 近松門左衛門（歌舞伎と浄瑠璃と） 第8回 竹本座・竹田座・豊竹座 第9回 三大浄瑠璃について 第10回 浄瑠璃と歌舞伎 第11回 上方歌舞伎と江戸歌舞伎 第12回 鶴屋南北について 第13回 河竹黙阿弥について 第14回 幕末から明治にかけて 第15回 新派・新国劇・新劇について		
テキスト	『日本演劇史』（おうふう）¥2000+税。	参考文献	『演劇百科大事典』全7巻（平凡社）・『歌舞伎年表』（岩波）など
評価方法	授業への積極的参加:30% レポート&テスト:70%		

日本近代文学史Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
文学史の諸問題と思想		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	明治・大正期を主に、日本の近代文学について通覧する。加えて、「日本」「近代」「文学(とその歴史)」とは何であるか、メタ・レヴェルの考察も平行して取り扱う。個々の名作史に文学史を還元せず、貧民窟ルポ、大逆事件、「青鞥」の意義、関東大震災と文学者の対応などの重要テーマとともに、文学を歴史過程のなかで考察できる力を身につける		
授業の概要	講義形式。「日本」が自明の地理・国家概念ではないこと、「近代性」「文学性」をめぐる論議、芸術性は前史との連続よりもその否定によって担保されるものであることなどを見定めつつ、各回の重要テーマについて考察を深めてゆきます。必要な資料はプリントにして配布します。具体的な作品の場面、歴史の資料などを一緒に読みながら考えていき		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 第2回 近代文学の成立期 坪内逍遙「当世書生気質」——優勝劣敗の近代 第3回 近代への懐疑1 石川啄木——挫折の近代 第4回 近代への懐疑2 正宗白鳥——弱い身体の近代 第5回 近代への失望 島崎藤村「破戒」——あぶりだす近代 第6回 近代の貧困 松原岩五郎「最暗黒の東京」 横山源之助「日本の下層社会」 第7回 暴力の近代1 大逆事件と文学 第8回 暴力の近代2 植民地の獲得と新しい女の近代 第9回 生殖をめぐる近代1 「青鞥」 第10回 生殖をめぐる近代2 「青鞥」と女たち 第11回 近代への叛乱1 大杉栄——生と相互扶助 第12回 近代への叛乱2 大杉栄——生と無政府 第13回 生命の近代1 宮沢賢治の生命思想 第14回 生命の近代2 宮沢賢治と暴力/非暴力 第15回 中野重治の詩 金時鐘の唾蟬の声		
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	随時指示します。
評価方法	レポート(調査・考察・文の巧拙):70% 授業への積極的な参加:30%		

日本近代文学史Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
日本近現代文学とジェンダー		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	・日本近現代文学をジェンダーとナショナリズムの視点から歴史的に概観します。諸外国とのせめぎあいの中の明治期の文学・文化政策や、清水紫琴・一葉が切り拓いた表現領域を概観し、漱石・花袋・芥川・太宰・大江などの主要作品から現代女性文学まで、さまざまな作品を時代状況に照らして理解します。		
授業の概要	ジェンダー的視点を軸に、明治以降現代までの歴史社会状況と文学の関わり、とくに女性の置かれた社会的状況や、植民地時代の力学に配慮しつつ、主要な作品を具体的に紹介していきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 明治期の文学1 植民地主義と啓蒙主義 第3回 明治期の文学2 紫琴と一葉 第4回 明治期の文学3 「菽の鶯」と「蒲団」 第5回 大正期の文学1 『青鞥』と晶子・らいてう 第6回 大正期の文学2 少女・専業主婦・職業婦人 第7回 大正期の文学3 女中・娼婦・プロレタリア 第8回 戦争・占領期の文学1 総力戦体制と女性 第9回 戦争・占領期の文学2 太宰治・野間宏にみる戦場と敗戦 第10回 現代文学の諸相1 島尾敏雄・大庭みな子にみる近代家族 第11回 現代文学の諸相2 ネガティブな女性身体 倉橋由美子 第12回 現代文学の諸相3 身体加工とダイエット 松本侑子 第13回 現代文学の諸相4 妊娠体験・母になること 小川洋子 第14回 現代文学の諸相5 多和田葉子のドイツ、李良枝の韓国 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントを配布します。	参考文献	齊藤美奈子『モダンガール論』文春文庫、一柳廣孝他編『文化のなかのテキスト』双文社出版、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫
評価方法	コメントカード:40% 期末レポート:60%		

古典文学A		前期 2 単位	1・2年
万葉歌人の詩を読む（山上憶良）		小川 靖彦（おがわ やすひこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 『万葉集』についての基本的知識を得る。2. 受講生一人一人が、「詩」としての『万葉集』の「やまと歌」の美や力を、自分の感性で受け止められるようになる。3. 『万葉集』の「やまと歌」から受け止めたものを、自分のことばで表現できるようにする。4. 日本文学・文化の根幹を学ぶとともに、現代とは異なる文化との対話の方法を身につ		
授業の概要	この授業では、日本文学史の最初期の文学『万葉集』を取り上げ、誕生したばかりの文学のことばの美や力について考察する。具体的には山上憶良の作品を講読する。憶良は中国とその文学との出会いを踏まえて、“人間とは何か”と問う思想性の高い「詩」を制作した。その多彩なスタイルと人間に向けられた温かな眼差しを味わう（授業中の発言重		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 『万葉集』の世界へのいざない：憶良の作品に触れる 第2回 中国との鮮烈な出会い・憶良の生涯 第3回 人々の間で：筑前国守以前の歌 第4回 大伴旅人との出会い 第5回 人間の脆さ（よわ）と勁（つよ）さと：日本挽歌 第6回 世俗に背を向ける人へことば：心の迷いを正す歌 第7回 『万葉集』の研究法とレポートの書き方 第8回 子への愛：子らを思う歌 第9回 梅花の宴：風雅の底に横たわる無常 第10回 若くして亡くなった少年のために：熊凝哀悼歌 第11回 貧しい者への眼差し：貧窮問答歌 第12回 自分の病についての思索：沈痾自哀文 第13回 絶望の裏にある〈生〉への願い：無常を嘆く漢詩 第14回 死への誘いを引き留めるもの：老身重病の歌 第15回 まとめ		
テキスト	・中西進『万葉集 全訳注原文付』（一）、講談社文庫、講談社（＊必ず購入すること） ・毎回プリントを配布	参考文献	・小川靖彦『万葉集 隠された歴史のメッセージ』角川選書、角川学芸出版
評価方法	期末レポート:50% 平常点（予習・復習）:20% 授業の積極的参加:30%		

古典文学B		後期 2 単位	1・2年
古代における「旅」を考える		今井 俊哉（いまい としや）	
授業の到達目標 及びテーマ	古代（上代・中古）における人々の暮らしの中で、その時代の「文学」が担ってきた意味を考えます。現代とは社会システムも生活環境も異なる時代では、人々の考えかたや、またその考えかたの表しかた、即ち言葉による表現のしかたにも違いが表れます。そうした古代における言語表現を学び、理解することがこの授業での目標であり、テーマとなります		
授業の概要	古代の人々にとって「旅」とはどのようなものだったのでしょうか。旅にあるとき、また親しい人を旅に送り出したとき、人はその際の心情をどう言葉にあらわしてきたのでしょうか。また、その旅じたいを、言葉でどう表現してきたのでしょうか。この授業では、そうした古代における「旅」のありかたを、和歌を中心に眺めていきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 『万葉集』における旅の歌1・旅をするもの 第2回 『万葉集』における旅の歌2・送り出す側 第3回 『万葉集』太宰帥大伴旅人1・律令官人としての旅 第4回 『万葉集』太宰帥大伴旅人2・妻の死と帰京 第5回 『万葉集』巻十五 遣新羅使一行の歌1・古代の外交 第6回 『万葉集』巻十五 遣新羅使一行の歌2・旅先での障害 第7回 『万葉集』における「地方」・東歌、防人歌ほか 第8回 『古今和歌集』の旅の歌 第9回 紀貫之の『土佐日記』1・旅の表現—漢文日記とかな日記 第10回 紀貫之の『土佐日記』2・子供の死と帰京 第11回 『うつほ物語』・清原俊隆の大冒険 第12回 番外編1：渋沢龍彦『高岳親王航海記』 第13回 『伊勢物語』・昔男の東下り 第14回 『源氏物語』・光源氏の須磨退去 第15回 番外編2：そして西行、芭蕉へ		
テキスト	各回予習用としてテキストのプリントを配布します。	参考文献	適宜指示します。
評価方法	定期試験:70% 平常点（授業態度等）:30%		

古典文学C		前期 2 単位	1・2年
枕草子を読む		津島 知明 (つしま ともあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	清少納言の枕草子を精読しながら、平安文学の政治背景、生活文化を理解する。同時に古典文学を学ぶ上で必要な基礎知識も身につけてゆく。		
授業の概要	講義形式で行う。日本文学史において、平安時代とはいかなる時代だったのか。当時の女性は、どのような環境で、何に悩み、何を生きがいとしていたのか。現代との差異や共通点を確認しながら、丁寧に枕草子を読解してゆく。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 テキストについての概説</p> <p>第 3回 写本と活字本</p> <p>第 4回 摂関政治について (背景)</p> <p>第 5回 本文を精読する (1) 6 段を読む</p> <p>第 6回 本文を精読する (2) 7 段を読む</p> <p>第 7回 本文を精読する (3) 6 段と 7 段の間</p> <p>第 8回 写本を読む (1) 初段</p> <p>第 9回 本文を精読する (4) 2 1 段を読む</p> <p>第10回 本文を精読する (5) 2 1 段の背景</p> <p>第11回 本文を精読する (6) 8 4 段を読む</p> <p>第12回 本文を精読する (7) 8 4 段の背景</p> <p>第13回 本文を精読する (8) 8 4 段の享受</p> <p>第14回 写本を読む (2) 跋文</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	「新編 枕草子」 (おうふう)	参考文献	授業時に紹介する。
評価方法	課題 (コメントなど) :60% まとめレポート:40%		

古典文学D	後期 2 単位	1・2年
『平家物語』の世界—歴史を物語るとのこと—	清水 眞澄 (しみず ますみ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>本授業は、古典文学を学ぶことで、教員を志望する者にふさわしく人間を多角的に深く理解する視座を養うことを目標とする。すなわち日本中世文学の白眉（はくび）である『平家物語』を取り上げて、動乱の時代に生きた人々の心情に触れる。さらに、伝承文学を人々が生きた具体的な証しとしてとらえ、歴史叙述との間に存在する問題点を考えたい。また、『平家物語』を伝えた琵琶法師について学び、芸能史から障害者の歴史にも理解を深めてゆく。</p> <p><授業の概要></p> <p>講義形式を基本とし、必要に応じて音声・映像資料を活用する。特に『平家物語』は語り物として伝えられただけではなくて、能、浄瑠璃、歌舞伎、現代演劇などに取り入れられて、後世の文芸に大きな影響を与えた。このような『平家物語』の特性を学ぶために、音声・映像を鑑賞し、朗読を体験する。また毎回、課題を課して受講票での回答を求め、講義の理解を深める。しかし同時に、受講票を質問票としても活用し、学生と教員との相互コミュニケーションに努めたい。</p> <p><授業計画></p> <p>第1回 『平家物語』入門—文学史の整理 第2回 巻第一「祇園精舎」—平氏政権の誕生と無常観 第3回 巻第一「祇王」—白拍子と尼 第4回 巻第三「足摺」—俊寛の悲劇 第5回 巻第五「宮御最期」—以仁王の挙兵と宇治川合戦 第6回 巻第六「入道死去」—清盛悪行者像の真実 第7回 巻第九「宇治川先陣」—名馬争いと頼朝 第8回 巻第九「木曾最期」—巴の行方 第9回 巻第十一「敦盛最期」—武士の罪業 第10回 巻第十一「那須与一」—弓の技と義経の真実 第11回 巻第十一「内侍所都入」—平家滅亡と三種の神器 第12回 灌頂巻「大原御幸」—女院の祈り 第13回 琵琶法師と芸能—中世・近世芸能史 第14回 『平家物語』の影響—能と歌舞伎 第15回 まとめ</p> <p><テキスト></p> <p>講談社文庫『平家物語』上・下 高橋貞一 校注</p> <p><参考文献></p> <p>『図説 平家物語』 鈴木彰・出口久徳・樋口州男・錦昭江・松井吉昭 編 河出書房新社</p> <p><評価方法></p> <p>平常点（毎回、受講票に課題を回答）50%、レポート50%</p>		

古典文学E	前期 2 単位	1・2年
江戸のラブストーリー	井上 泰至 (いのうえ やすし)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の文学の長い歴史で、最初に女性読者を対象に商品化された恋愛小説、人情本の代表作に触れることにより、女性が小説を読むことの原初的意味を理解する。	
授業の概要	江戸後期の恋愛小説、人情本の代表作「春色梅児誉美（しゅんしょくうめぐよみ）」「春色辰巳園（しゅんしょくたつみのその）」を読むことを通して、現代のサブカルチャー・自己啓発本・広告・雑誌にも通じる、女性の読書をめぐる根源的な諸問題を考える。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 女性向け恋愛小説誕生の事情 第2回 プロダクションシステムの作家永春水 第3回 江戸と近代の恋愛観の相違 第4回 擬似恋愛行為としての読書 第5回 演技としての恋愛1 恋愛の儀礼性 第6回 演技としての恋愛2 冷静と情熱の間 第7回 演技としての恋愛3 感情の再現と提示 第8回 恋愛の会話を成り立たせるもの1 繰り返し 第9回 恋愛の会話を成り立たせるもの2 リズム 第10回 「いき」の美学1 媚態 第11回 「いき」の美学2 意気地 第12回 「いき」の美学3 諦観 第13回 女の涙 不幸と恋愛のカタルシス 第14回 物語の面影・歌心の引用 第15回 恋のふるまいと女の願い 美と道徳の調和	
テキスト	井上泰至『江戸の恋愛作法』（春日出版）	参考文献 井上泰至『恋愛小説の誕生 ロマンズ・消費・いき』（笠間書院）・『日本古典文学大系 春色梅児誉美』（岩波書店）
評価方法	授業への積極的参加:30% 期末にノート提出:70%	

古典文学F	後期 2 単位	1・2年
サムライの文学	井上 泰至 (いのうえ やすし)	
授業の到達目標 及びテーマ	東アジア世界の中でも、日本は長らくサムライの国だった。江戸文学に現れたサムライ像を追いかけて、日本人のヒーロー像やその背景について知る。	
授業の概要	江戸時代のサムライ達が、自己および自己の分身に言及した物語・言説を、いくつかのタイプに分けて紹介し、リーダーのためのモラル・カリスマ性を産むもの、あるいはその語り方について分析する。	
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 サムライ階層 東アジアにおける日本の特異性 第2回 ヒーローの語り方 講談的方法 第3回 平和な時代のサムライへ 戦う者からリーダーへ 第4回 死生観 スイッチとしての禪 第5回 武士の旅 心の遍歴と情報蒐集 第6回 ヒーロー像の膨らみ方 娯楽化 第7回 家意識 武士のアイデンティティー 第8回 仇討1 暴力的解決の美学 第9回 仇討2 リーダー像の理想 第10回 自伝1 子孫たちへ 第11回 自伝2 名誉・決断・修養・志 第12回 武家文人1 心身一致の教育 第13回 武家文人2 読書階級の自覚 第14回 志士 武士像のファッション化 第15回 武士道 世界の中の日本のアイデンティティー	
テキスト	井上泰至『サムライの書齋 江戸武家文人列伝』（ペリカン社）	参考文献 谷口真子『武士道考』（角川学芸出版）。随時授業中紹介、コピー配布。
評価方法	授業への積極的参加:30% 期末にノート提出:70%	

近代文学A		前期 2 単位	1・2年
原稿で読む昭和文学		宗像 和重 (むなかた かずしげ)	
授業の到達目標 及びテーマ	おもに戦前から戦後の昭和期の小説を対象として、近代文学の作品を一般の活字のテキストではなく、作家の原稿を通して読み解く。明治・大正期とは異なる大きな時代の変動期のなかで、昭和期の作家がそれぞれの時代をどのように生き、どのように表現したかを、肉筆の原稿を通して考え、時代と文学・作家とのかかわりを具体的に理解する。		
授業の概要	昭和文学の作家と作品をいくつか選び、その原稿を写真版や複製などで紹介しながら、表現や文体、視点や方法、時代背景や作者との関わりなどに眼を向けて、読み解いてみる。戦争の暗い谷間をくぐり抜けた昭和の文学は、時代と人間との切実なかかわりを教えてくれるだろう。受講生の発表も予定し、下記の授業計画は変更することもある。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめにー授業の概要と進め方 第2回 芥川龍之介の原稿 第3回 志賀直哉の原稿ー「暗夜行路」前編 第4回 志賀直哉の原稿ー「暗夜行路」後編 第5回 宮沢賢治の原稿ー「銀河鉄道の夜」冒頭 第6回 宮沢賢治の原稿ー「銀河鉄道の夜」末尾 第7回 宮沢賢治の原稿ー「雨ニモマケズ」 第8回 横光利一の原稿ー「花園の思想」 第9回 横光利一の原稿ー「旅愁」 第10回 谷崎潤一郎の原稿ー「蘆刈」 第11回 谷崎潤一郎の原稿ー「春琴抄」 第12回 太宰治の原稿ー「人間失格」 第13回 川端康成の原稿ー「雪国抄」 第14回 詩歌の原稿 第15回 まとめー昭和文学と現代		
テキスト	プリントを配布する予定。具体的には教室で指示する。	参考文献	その都度、教室で指示する。
評価方法	発表、提出物等の評価:30% 学期末レポート:70%		

近代文学B		後期 2 単位	1・2年
日常の中に生起する細やかな感情を、小品から読み取る		佐々木 さよ (ささき さよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	近代という時代が私たちにもたらしたものは何か、それらは現代を生きる上でどのような意味を持っているのか、などを文学を通して考えるということを理解する。少なくとも、文学作品を読むことが自分と自分が生きている現代という時代を読むことであることがわかる。		
授業の概要	時代や社会、文化の変化を視野に入れつつ、日本の近代文学が取り上げてきた日常の事柄を考えていく場としたい。講義形式に履修者が参加する形式を適宜加えて行う。授業中または終了後にミニレポートのような形あるいは口頭で意見を求めていくようにしたい。したがって、履修者各自が考える契機を得られるような授業を目指すことになる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入 (全15回の概要、授業の進め方、評価方法 等) 第2回 小品、掌編というジャンルについて 第3回 導入ー夏目漱石の場合 第4回 夏目漱石『永日小品』からー「日常」に密着して 第5回 夏目漱石『永日小品』からー「日常」から離れて 第6回 意見交換を中心に 第7回 夏目漱石『文鳥』について 第8回 夏目漱石『文鳥』と『永日小品』 第9回 川端康成『掌の小説』についてー導入 第10回 『掌の小説』から選んで読む①ー取り上げるテーマ選定へ 第11回 『掌の小説』から選んで読む②ー論点の整理 第12回 『掌の小説』から選んで読む③ー具体的分析と意見交換 第13回 『掌の小説』から選んで読む④ー周辺作品への視野 第14回 意見交換を中心に 第15回 全体の振り返りとレポートについて		
テキスト	夏目漱石『文鳥・夢十夜』(新潮文庫)、配付プリントなど	参考文献	必要に応じて授業時に指示する。授業の進行状況によって図書館等で閲覧してほしい。また、文献の一部をプリントして配布する場合もある。
評価方法	レポート:50% ミニ・レポート:30% 平常点:20%		

近代文学C		後期 2 単位	1・2年
「坊っちゃん」で読み解く明治文学		宗像 和重 (むなかた かずしげ)	
授業の到達目標 及びテーマ	夏目漱石の「坊っちゃん」を主な対象として、明治期の文学作品を多角的に読み解く力を養うことを目標とする。日本が近代化を迎えた明治という時代は、新しい文学が成立・形成された時代でもあった。この授業では、漱石の「坊っちゃん」を中心として、明治期の文学の文体や表現形式、そして作品研究の方法などを理解する。		
授業の概要	「坊っちゃん」は現在でも多くの読者に親しまれているが、決して子供向けのやさしい作品ではない。この作品をさまざまな角度から読み解き、明治期の文学の歴史や時代背景、作家と作品の関わり、文体や表現の試みなどを考察し、文学研究や作品論・作家論の方法も会得する。受講生の発表も予定し、下記の授業計画は変更することもある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめにー授業の概要と進め方 第2回 明治文学の出版 第3回 明治文学の形成 第4回 夏目漱石の出版期 第5回 「坊っちゃん」の発表ー初出と単行本 第6回 小説の書き出しをめぐって 第7回 小説の文体と視点 第8回 小説の時間と空間、時代背景 第9回 作品研究ー分析メモをつくる 第10回 作品研究ー作品論のテーマを考える 第11回 作中人物論ー主人公をめぐって 第12回 作中人物論ーマドンナをめぐって 第13回 「坊っちゃん」と同時代の小説 第14回 「坊っちゃん」の研究史 第15回 まとめー「坊っちゃん」と明治文学		
テキスト	夏目漱石『坊っちゃん』（岩波文庫）	参考文献	その都度、教室で指示する。
評価方法	発表、提出物等の評価:30% 学期末レポート:70%		

近代文学D		後期 2 単位	1・2年
昭和文学の成立ー短編小説を中心にー		岡崎 直也 (おかざき なおや)	
授業の到達目標 及びテーマ	急激な科学の進歩と社会の合理化とによって精神を蝕まれ、国家間の対立や世界的な大恐慌などの危機を経験した人々は〈現実〉に不信を抱き、客観小説を支える文学観は崩壊した。そうした状況下で関東大震災の衝撃を受けて出発した昭和文学の様々な文学表現の特質と可能性について理解する。		
授業の概要	本演習では昭和文学の特質と可能性とを検討するため、作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、近・現代文学の研究方法を演習発表のなかで修得させる。提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業概要・演習発表方法の紹介【講義】 第2回 近代小説史概説・坪内逍遙【講義】 第3回 近代小説史概説・二葉亭四迷【講義】 第4回 横光利一「蠅」1（研究史・注釈） 第5回 横光利一「蠅」2（分析・鑑賞） 第6回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」1（研究史・注釈） 第7回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」2（分析・鑑賞） 第8回 梶井基次郎「闇の絵巻」1（研究史・注釈） 第9回 梶井基次郎「闇の絵巻」2（分析・鑑賞） 第10回 堀 辰雄「聖家族」1（研究史・注釈） 第11回 堀 辰雄「聖家族」2（分析） 第12回 堀 辰雄「聖家族」3（鑑賞） 第13回 太宰 治「ヴィヨンの妻」1（研究史・注釈） 第14回 太宰 治「ヴィヨンの妻」2（分析） 第15回 太宰 治「ヴィヨンの妻」3（鑑賞）		
テキスト	プリント使用	参考文献	『近代文学・現代文学 論文・レポート作成必携』学燈社/『日本文学史ー近代から現代へー』奥野健男中央公論新社〈新書〉
評価方法	平常点:60% 単位レポート:40%		

近代文学特論A		前期 2 単位	1・2年
物語や伝説を媒介にした小説から現代における人と人の関係を探る		佐々木 さよ (ささき さよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	この日本という国の近代のかたちとその時代を生きた人間の姿を文学作品を通して読み、現代を生きている私たち自身、私たちの社会のあり方について考えを深めていけるようになる。人間とは何か、人間と社会との関わりはどのようなものか、といった普遍的な問いに対する答えを文学の中に探究することを理解する。		
授業の概要	近現代の小説には伝説や説話などを物語の枠組みとして用いたものがある。それを現代の女性作家の連作小説集の場合で考えてみたい。現代における親子や男女、兄弟姉妹等の関係を物語の枠組みを用いてどのように描いているのかを読んでみよう。枠組みが形成する広大な流域を現代文学において眺め、枠の意味をも考える機会としたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入—全回の予定、授業の進め方など 第2回 津島佑子と連作小説集『逢魔物語』について 第3回 「伏姫」を読む①—物語の枠組みと論点 第4回 「伏姫」を読む②—「異類」をめぐって 第5回 「伏姫」を読む③—まとめ 第6回 「三ツ目」を読む①—物語の枠組みと論点 第7回 「三ツ目」を読む②—「見ること」と「空間」を中心に 第8回 「三ツ目」を読む③—まとめ 第9回 「おろち」を読む①—物語の枠組みと論点 第10回 「おろち」を読む②—「胎の内」に込めたものを中心に 第11回 「おろち」を読む③—まとめ 第12回 「厨子王」を読む①—物語の枠組みと論点 第13回 「厨子王」を読む②—「姉」と「弟」を中心に 第14回 「厨子王」を読む③—まとめ 第15回 全体のまとめと振り返り		
テキスト	津島佑子『逢魔物語』（講談社文芸文庫）を基に、参考資料のプリントを配布する。	参考文献	進行状況に合わせて紹介する。また、文献の一部をプリントとして配布する場合もある。
評価方法	レポート:50% ミニ・レポート:30% 平常点:20%		

近代文学特論B		後期 2 単位	1・2年
芥川龍之介文学の展開と可能性		岡崎 直也 (おかざき なおや)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本における近代小説の高度な到達点を示し、国語教育の教材としても周知の芥川龍之介の代表作を精読する。西洋文化と東洋文化との狭間で揺れ動き、近代の終焉を身をもって告げた芥川が現代文学へ受け渡した諸問題について、小説の具体的な読解のなかで考察できる。		
授業の概要	演習発表（本文批評・注釈・研究史・鑑賞など）を想定しているが、受講者数によっては講読形式とすることもあする。どちらの場合も活発な質疑応答のなかで、近・現代文学の研究方法を修得し、合わせて複眼的思考を養うものとする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業概要・演習形式か講読形式かの選択〔講義〕 第2回 明治小説史概要〔講義〕 第3回 大正小説史概要〔講義〕 第4回 芥川龍之介「大川の水」1〔研究史・注釈〕 第5回 芥川龍之介「大川の水」2〔分析・鑑賞〕 第6回 芥川龍之介「羅生門」1〔研究史・注釈〕 第7回 芥川龍之介「羅生門」2〔分析・鑑賞〕 第8回 芥川龍之介「鼻」1〔研究史・注釈〕 第9回 芥川龍之介「鼻」2〔分析・鑑賞〕 第10回 芥川龍之介「奉教人の死」1〔研究史・注釈〕 第11回 芥川龍之介「奉教人の死」2〔分析〕 第12回 芥川龍之介「奉教人の死」3〔鑑賞〕 第13回 芥川龍之介「螢気楼」1〔研究史・注釈〕 第14回 芥川龍之介「螢気楼」2〔分析・鑑賞〕 第15回 芥川龍之介文学の概括		
テキスト	宮坂 覺〔編〕『芥川龍之介一人と作品』翰林書房、文庫本・プリント併用	参考文献	『芥川龍之介全作品事典』関口安義・庄司達也〔編〕勉誠出版/『芥川龍之介新事典』関口安義〔編〕翰林書房/『芥川龍之介大事典』志村有弘
評価方法	平常点:60% 単位レポート:40%		

映像と文学A		後期 2 単位	1・2年
差別・戦争と文学		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	映像メディアと文学、それらの作品が構成し、また問いかけている「問題」を熟考する。なかでもこの日常世界からは一見、ないものであるかのように見紛いがちな「差別」、さまざまな意図の下に正体が隠される「戦争」をテーマとし、屈折し、微妙で、秘められつつ顕れるような表現の世界を読み解けるようになることを主眼とする。		
授業の概要	映像は、文学理解の単純な補助手段ではありません。ここでは文学作品による印象世界と、映像メディアによるそれとを混同せずに、それぞれが独自に持ちえた意義について考え、その二つのメディアが指し示すところを考えることにします。「問題と私」ではなく、「問題の中に生きる私」「問題を構成する私」に出会う創造的な機会を提供します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入——宮沢賢治『よだかの星』 第2回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・日本） 第3回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・朝鮮半島） 第4回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・現在の日本） 第5回 ハンセン病（文学）についての理解（映像・テキスト） 第6回 原一男の映画—戦争の傷痕（映像） 第7回 原一男の映画—戦争の傷痕（映像とテキスト） 第8回 武田泰淳『ひかりごけ』—映像と考察 第9回 武田泰淳『ひかりごけ』—映像・テキストと考察 第10回 井上光晴『地の群れ』—映像と考察 第11回 井上光晴『地の群れ』—映像・テキストと考察 第12回 井上ひさし『父と暮らせば』—映像と考察 第13回 井上ひさし『父と暮らせば』—映像・テキストと考察 第14回 戦場の女たち—映像と考察 第15回 戦場の女たち—映像・テキストと考察		
テキスト	授業中に多く配布するほか、各自の探究に必要なものは随時案内します。	参考文献	北條民雄『いのちの初夜』角川文庫
評価方法	レポート（調査・考察・文の巧拙）：70% 授業内での考察シート作成：15% 授業への積極的な参加：15%		

映像と文学B		前期 2 単位	1・2年
文学と映画		中澤 弥 (なかざわ わたる)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本映画の歴史の中で文学作品が重要な素材となるのは、1930年代に当時のベストセラー小説を映画化した「文芸映画」に始まります。その後、1950年代の映画黄金期を経てメディアが多様化した現代にいたるまでの文学と映画の関係を探求します。		
授業の概要	文学と映画は互いに刺激を受けながら作品を生み出してきました。この授業では、映像化された文学作品を検討することで、両者の関係をその発生から変質まで追ってみたいと思います。それはまた、ジャンルを超えての芸術の交流を考えることにもなります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 文芸映画というジャンルの成立 第2回 豊田四郎の登場 第3回 成瀬巳喜男「浮雲」 第4回 森田芳光「家族ゲーム」 第5回 文芸映画のリメイク 第6回 安部公房と勅使河原宏 第7回 寺山修司と映像の実験 第8回 鈴木清順 大正ロマン三部作 第9回 大林宣彦「廃市」の世界 第10回 モスラと中村真一郎 第11回 鈴木清順 大正ロマン三部作 第12回 黒沢清のホラー映画 第13回 青山真治と岩井俊二 第14回 松尾スズキとケラリーノ・サンドロヴィッチ 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	随時紹介する。
評価方法	レポート：70% 平常点：30%		

漢文入門A		後期 2 単位	1・2年
中国古典詩の世界—白楽天「長恨歌」を読む		坂口 三樹 (さかぐち みき)	
授業の到達目標 及びテーマ	中国古典を読むために必要な基礎学力の習得を目指す。特に、われわれ日本人が漢文を読むために生み出した漢文訓読の基礎知識を整備し、あわせて作品読解に必要な語彙・語法や歴史・文化に対する理解を深めることで、独力でも原典が読解できるようにする。		
授業の概要	中唐の白居易、字は楽天(772-846)の「長恨歌」は、唐の玄宗と楊貴妃との悲劇に終わった恋愛に取材した長篇の物語詩である。授業では、唐詩についての概説の後、全120句からなるこの詩をいくつかの段に分けて読解・鑑賞する。その際、時代背景などにもできる限り言及しながら、作者の表現意識や作品の特色について考察を加える。		
授業計画	【後期】 第1回 唐詩概説—時代区分と形式分類 第2回 傾国の美女(第1~8句) 第3回 早春の華清池(第9~16句) 第4回 寵愛の独占と一門の栄華(第17~26句) 第5回 安史の乱の勃発(第27~32句) 第6回 馬嵬の悲劇(第33~42句) 第7回 蜀地流寓(第43~50句) 第8回 長安還御(第51~60句) 第9回 寂寥の日々(第61~74句) 第10回 道士の異界行脚(第75~88句) 第11回 仙女太真との対面(第89~100句) 第12回 玄宗への思い(第101~112句) 第13回 永遠の愛の誓い(第113~120句) 第14回 「長恨歌」と日本文学 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。プリントを用意する。	参考文献	川合康三訳注『白楽天詩選』上(岩波文庫)、村山吉廣著『楊貴妃』(中公新書)。その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	授業時の課題:30% 小テスト:20% 定期試験:50%		

漢文入門B		前期 2 単位	1・2年
漢文訓読の基礎		古田島 洋介 (こたじま ようすけ)	
授業の到達目標 及びテーマ	漢文を訓読するための基礎知識を習得することを目標とする。「対象としての漢文」と「方法としての訓読」を明確に意識し、最終的には、与えられた書き下し文に従って、白文に対して正確に「返り点」「送り仮名」が付けられるようになる。		
授業の概要	「対象としての漢文」と「方法としての訓読」を踏まえ、訓読の基礎知識すなわち発音としての「音読み」「訓読み」および特殊な発音を持つ「再読文字」「置き字」について認識を深め、「漢文法」の基礎事項をも確認したうえで、最も主要な訓点たる「返り点」について十分な練習作業を課す。		
授業計画	【前期】 第1回 対象としての漢文 第2回 方法としての訓読 第3回 発音(1)音読み 第4回 発音(2)訓読み 第5回 特殊な発音を持つ文字(1)再読文字 第6回 特殊な発音を持つ文字(2)置き字 第7回 漢文法の基礎事項(1)文型 第8回 漢文法の基礎事項(2)語間連結構造 第9回 漢文の加工(1)書き下し文の書式 第10回 漢文の加工(2)固有名詞符号 第11回 返り点の概要:符号の整理と用法の原則 第12回 返り点実践練習(1)基礎事項確認問題 第13回 返り点実践練習(2)連続符号(ハイフン)応用問題 第14回 返り点実践練習(3)例外措置を必要とする問題 第15回 まとめ+質疑応答		
テキスト	古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』(明治書院)	参考文献	古田島洋介『これならわかる返り点』(新典社《新典社新書》25);古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』(新典社《新典社選書》46)
評価方法	学期末筆記試験:90% 積極性:10%		

漢文特殊講義		後期 2 単位	1・2年
「赤い糸」原話講読		古田島 洋介 (こたじま ようすけ)	
授業の到達目標 及びテーマ	〔唐〕李復言「定婚店」（訓点付き）を精読することにより、漢文の読解力を養成することを目標とする。当該説話は、日本の殊に若い女性のあいだに広まっている「赤い糸」の伝説の原話と推定され、漢文の読解力を向上させるためにも恰好の素材であり、訓点付きの漢文が平易に読めるようになる。		
授業の概要	〔唐〕李復言「定婚店」（訓点付き）を精読する。訓点すなわち「返り点」「送り仮名」はもとより、文型や助字その他についても詳細な解説を加えつつ講読してゆく。受講者は積極的に質問を提出すること。 なお、平常レポート（複数回）として、書き下し文の作成を課す。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 概要の説明：教材の説明＋書き下し文の作成要領 第2回 「定婚店」講読（1）固有名詞の処理法 第3回 「定婚店」講読（2）基本構文 第4回 「定婚店」講読（3）疑問文 第5回 「定婚店」講読（4）反語文 第6回 「定婚店」講読（5）会話文の処理法 第7回 「定婚店」講読（6）音読みと訓読み 第8回 「定婚店」講読（7）副詞に関する注意点 第9回 「定婚店」講読（8）多義語への対処法 第10回 「定婚店」講読（9）語間連結構造の把握 第11回 「定婚店」講読（10）話型：Predestined Wife の特徴 第12回 「赤い糸」の日本への伝来（1）中世 第13回 「赤い糸」の日本への伝来（2）近世 第14回 「赤い糸」の日本への伝来（3）近現代 第15回 まとめ＋質疑応答		
テキスト	ナシ。必要な教材は、すべてプリントで配付する。	参考文献	古田島洋介『「縁」について——中国と日本』（新典社）；古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院）
評価方法	学期末筆記試験：50% 学期末レポート：20% 平常レポート：20% 積極性：10%		

日本史A I		前期 2 単位	1・2年
日本中世史		関口 崇史 (せきぐち たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	鎌倉・南北朝時代の歴史を学習し、中世の日本を理解する。 武士の動向を中心に中世社会を理解する。 中世から現代に引き継がれたものは何か、また、引き継がれなかったものは何かを理解する。		
授業の概要	史料（原点）を利用して、鎌倉・南北朝時代における日本を明らかにする。 具体的には、武士の実態、合戦、中世における神仏、裁判などを通じて中世社会とはいかなる社会であったかを考察して		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 中世とはどんな時代だったのか？ 第2回 年号の歴史 第3回 サインの歴史 第4回 「イクニ」作ってないよ鎌倉幕府 第5回 御恩と奉公 第6回 ミミラキリ、ハナヲソギ（1） 第7回 ミミラキリ、ハナヲソギ（2） 第8回 自力救済の社会—中世の法廷から 第9回 命の値段 第10回 中世人の夢 第11回 鴨長明が見た世界 第12回 中世の神様 第13回 軍忠状の世界 第14回 戦場に赴く武士 第15回 総括		
テキスト	特になし。プリントを配布する予定	参考文献	石井進『日本の歴史』7（中公文庫、2004年） 佐藤進一『日本の歴史』9（中公文庫、2005年）
評価方法	授業感想文：20% レポート：80%		

日本史 A II		後期 2 単位	1・2年
日本の歴史と宗教		関口 崇史（せきぐち たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の宗教を歴史的・客観的に理解し、国際社会で言われ続けている「日本人は宗教音痴」という現状を克服する		
授業の概要	古代末期から中世・近世・近代までを扱い、それぞれの時代の特徴を示し、かつ現在の日本の問題とも深く関係する事柄を取り上げて講義する。各時代が抱えた問題や文化的事象の背景にある人々の意識を探り、日本の宗教や日本人の宗教意識を解明する。これによって、自分の信じている宗教について、客観的に語れるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 インTRODクッション 「いろは歌」について</p> <p>第2回 平安貴族社会と仏教</p> <p>第3回 「臨終出家」から「死後出家」へ 葬式仏教の成立</p> <p>第4回 鎌倉新仏教とは何か</p> <p>第5回 禅宗の展開</p> <p>第6回 ゆとりの時間 日本人の生活との関係／または博物館見学</p> <p>第7回 室町時代の政治と文化（1） 北山文化</p> <p>第8回 室町時代の政治と文化（2） 東山文化</p> <p>第9回 戦国時代の政治と宗教</p> <p>第10回 幕藩体制の成立と宗教</p> <p>第11回 鎖国と宗教</p> <p>第12回 近世的檀家制度の成立</p> <p>第13回 江戸時代の文化と宗教</p> <p>第14回 江戸時代の学問と宗教</p> <p>第15回 まとめ 歴史から現代を見る</p>		
テキスト	特に定めない	参考文献	三橋正『平安時代の信仰と宗教儀礼』（続群書類従完成会、2000年）、各出版社による『日本の歴史』など
評価方法	平常点:30% 授業内テスト:70%		

日本史 B I		前期 2 単位	1・2年
私たちと近代史		小林 瑞乃（こばやし みずの）	
授業の到達目標 及びテーマ	明治以後の変化について、社会・思想・政治・経済など様々な角度から考察する。第1に人々の思いや生活といった観点から歴史を解くと何がみえてくるのか。第2に国家と社会、国際問題、アジアとの関係など現状の課題を歴史的経緯の中で理解する。この2つを軸に、近代日本の歩みを身近な視点かつグローバルな視野から通観できるようにする。		
授業の概要	重要なテーマを中心に時代状況と問題を探求し、歴史の推移やその特質を多面的に考察する。文献や映像など様々な資料を用いて学びを深め、今日的課題を考えていく。毎回授業の感想や意見等を所定用紙に記入・提出し、参加意欲や理解度をみながら授業を進める。後半に1回レポート提出を課す。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 序論：歴史・社会・人間</p> <p>第2回 世界史の中の明治維新</p> <p>第3回 文明開化と民衆</p> <p>第4回 国境の確定と周辺諸国</p> <p>第5回 琉球から（沖縄）へ</p> <p>第6回 蝦夷から（北海道）へ</p> <p>第7回 自由民権運動</p> <p>第8回 日清・日露戦争</p> <p>第9回 戦後の経済と社会状況</p> <p>第10回 韓国併合</p> <p>第11回 第一次世界大戦</p> <p>第12回 大戦期の日本とアジア</p> <p>第13回 国際協調の時代へ</p> <p>第14回 大正デモクラシー</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義のテーマに合わせて随時紹介する
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%		

日本史BⅡ		後期 2 単位	1・2年
私たちの近現代史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	大正から昭和の歴史について、社会・思想・政治・経済など様々な角度から考察する。第1に人々の思いや生活といった観点から歴史を解くとは何が見えてくるのか。第2に国家と社会、国際問題、アジアとの関係など現代的課題を歴史的推移の中で理解する。この2つを軸に、近現代史を身近な視点かつグローバルな視野から通観できるようにする。		
授業の概要	重要なテーマを中心に時代状況とその問題を探求し、歴史の推移やその特質を知る。文献や映像など様々な資料を手がかりに歴史をみる力を養い、今日的課題を考える。毎回授業の感想や意見等を所定用紙に記入・提出し、参加意欲や理解度をみながら授業を進める。後半に1回レポート提出を課す。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 明治から大正へ 大きな流れをつかむ 第2回 民衆運動の展開 第3回 植民地の諸問題 第4回 世界恐慌と日本経済 第5回 関東大震災 第6回 満州事変と軍部の台頭 第7回 国家主義教育と子どもたち 第8回 日中戦争から太平洋戦争へ 第9回 戦線の拡大と「大東亜共栄圏」 第10回 戦争と人間①「健康」の推進 第11回 戦争と人間②戦場の兵士たち 第12回 戦争の終結と占領政策 第13回 戦後日本の出発 第14回 現代社会の中で 第15回 まとめ		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	講義のテーマに合わせて随時紹介する
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%		

日本思想研究A		前期 2 単位	1・2年
近代天皇制と現代日本		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史を参照しつつ、現代の私たち自身の問題を考えるための材料と思考力を獲得することが目標です。教育、植民地主義、戦争、ジェンダー、差別、といった事柄に即しながら、私たちの「内なる天皇制」を見出すことをテーマとします。		
授業の概要	天皇制は、日本社会を奥深いところで規定しています。日本国憲法下の象徴天皇制であってもなおそうであると言えます。というより、私たちの社会や心のありようが天皇制を必要としていると言ったほうがよいでしょう。それはどのような社会や心のありようなのか。天皇制を通して、日本の社会と精神状況について考えます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 近代天皇制の成立と教育勅語(1)―「教育勅語体制」の成立 第3回 近代天皇制の成立と教育勅語(2)―教育勅語の社会的機能 第4回 宗教装置としての天皇制 第5回 靖国神社問題(1)―靖国問題とは何か 第6回 靖国神社問題(2)―靖国問題の争点 第7回 天皇制・日本精神・キリスト教(1)―キリスト教と天皇制 第8回 天皇制・日本精神・キリスト教(2)―キリスト教の戦争協力 第9回 天皇制とジェンダー(1)―女性皇族のメディア報道 第10回 天皇制とジェンダー(2)―皇位継承問題 第11回 天皇制とハンセン病差別(1)―ハンセン病問題の歴史と現在 第12回 天皇制とハンセン病差別(2)―ハンセン病問題と天皇制 第13回 天皇制と沖縄(1)―沖縄の皇民化 第14回 天皇制と沖縄(2)―「天皇メッセージ」と沖縄の基地化 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:50% 期末レポート:50%		

日本思想研究B		後期 2 単位	1・2年
女性の生き方からたどる日本近現代史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	恋愛・結婚・子育て・仕事など多くの選択肢がある現代女性の自由で多様な生き方は、強い制限に縛られていた過去の女性達の願望や行動によって獲得したものである。国民国家の形成、世界情勢の変転、繰り返される戦争など近代以降激変していく時代状況について、女性をめぐる社会的な変遷過程を軸に考察し、近現代史を理解する。		
授業の概要	近代以降の日本の動向について、様々な文献・資料や視聴覚教材などから女性の生活や社会的変化の歴史として検証し、その特質を明らかにする。また、欧米やアジアの女性史との比較などを通じて、世界的視野から諸問題を取り上げ、国際社会における現代日本女性の歴史的位置を明示する。		
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 明治国家と「家」制度 第3回 自由民権運動と女性 第4回 「良妻賢母」主義の教育 第5回 農村の少女達 第6回 日清・日露戦争：出征・戦死・遺家族 第7回 大正デモクラシーと婦人運動 第8回 「専業主婦」の誕生 第9回 女性解放思想と「母性保護論争」 第10回 昭和期の社会と生活 第11回 戦争と女性 ①代替労働力として 第12回 戦争と女性 ②「いのち」をめぐって 第13回 敗戦と民主化 第14回 現代社会と女性①諸問題の確認 第15回 現代社会と女性②未来に向けて		
テキスト	毎回資料プリントを配布する	参考文献	脇田晴子他編『日本女性史』（吉川弘文館、1987年） 歴史教育者協議会編『学びあう 女と男の日本史』（青木書店、2001）他、講義時に随時紹介する
評価方法	平常点:40% レポート:30% 試験:30%		

近代日本社会論		前期 2 単位	1・2年
近代日本社会を複眼的に見る		高 成鳳 (こう そんぼん)	
授業の到達目標 及びテーマ	○日本の近現代史を、同時代の周辺アジア諸国の歴史と比較しながら読み解き、歴史を動かす要因と、歴史が持つ今日の意味について考えます。 ○歴史と社会を複眼的、多面的に捉えることを通して、あらゆる情報に対し自分で考え理解するための視座を養いま		
授業の概要	明治維新以降、国家の近代化で他のアジア諸国に先んじた日本は、周辺アジア諸国・地域とどのように関わってきたのか、朝鮮半島や中国大陸で起きた様々な変化や出来事は、当時の日本国内においてどのように受け止められ、日本の世論形成や政策決定にどう影響したのかをたどり、その今日の意味を検証しながら、近代日本社会を読み解いていしま		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに-歴史を複眼的に見る 第2回 近代の幕開け-日本、東アジア 第3回 日清戦争と台湾 第4回 日露戦争と朝鮮 第5回 日本の近代化と植民地の「近代化」 第6回 外地の内地人と内地の外地人 第7回 在日朝鮮人と大阪 第8回 東アジアの近代史と日本語・日本商品 第9回 近代日本の「自画像」-観光の眼差し 第10回 メディア・世論・文化人に見るアジア観 第11回 近代日本の大衆文化と東アジア 第12回 日本版ファシズム・総力戦体制と東アジア 第13回 日本の敗戦、第二次大戦終結と東アジア 第14回 東アジアに残る「日本の記憶」-建築・産業遺産・文化 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは特に定めず、資料を配付します。	参考文献	授業内で随時紹介します。
評価方法	授業感想文:40% ミニレポート:20% レポート試験:40%		

現代日本社会論		後期 2 単位	1・2年
現代日本社会を複眼的に見る		高 成鳳（こう そんぼん）	
授業の到達目標 及びテーマ	○日本の近現代史を、同時代の周辺アジア諸国の歴史と比較しながら読み解き、歴史を動かす要因と、歴史が持つ今日的意味について考えます。 ○歴史と社会を複眼的、多面的に捉えることを通して、あらゆる情報に対し自分で考え理解するための視座を養いま		
授業の概要	第二次大戦終結後、日本と周辺アジア諸国はどのような社会を形作ってきたのか、そこでは日本と周辺諸国との間にいかなる利害や対立が存在し、それらがどう変化してきたのかをたどり、現状分析や未来への展望も交えながら、現代日本社会を読み解いていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 はじめに-戦後日本の始動 第2回 講和と東アジア冷戦 第3回 日韓条約締結まで 第4回 日中国交回復と台湾 第5回 韓国・台湾の民主化と日本 第6回 冷戦終結-転換期の東アジア 第7回 戦後日本社会における対外イメージの変遷 第8回 メディアと世論-日本の特殊性 第9回 国際化と在日外国人-「オールドカマー」の場合 第10回 国際化と在日外国人-「ニューカマー」の場合 第11回 交流拡大と相互理解-日本と東アジア 第12回 成熟社会の到来とその課題-日本と東アジア 第13回 沖縄と基地問題再考 第14回 3.11以後-地方から考える 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは特に定めず、資料を配付します。	参考文献	授業内で随時紹介します。
評価方法	授業感想文:40% ミニレポート:20% レポート試験:40%		

日本社会と国家		後期 2 単位	1・2年
近代沖縄の歴史と思想——植民地化と抵抗		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	琉球王国が日本に編入された琉球処分(1872～9年)以降の沖縄の歴史・文化・思想を学びながら、日本が沖縄に行ってきた「植民地化」および「軍事要塞化」と、それにたいする沖縄の「抵抗」について考えます。 沖縄を学ぶことを通して、植民者としての日本と日本人、という視点を獲得することが目標です。		
授業の概要	近代以降の沖縄の歴史に沿って進めますが、多文化主義や少数民族論など、つねに現代社会の課題を念頭に置きます。また、「沖縄の植民地化と抵抗」という課題に、政治・経済だけでなく、言語、生活習慣、芸能など文化的な面からもアプローチしますので、沖縄芸能の鑑賞や沖縄語の学習も随所に織り交ぜていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 沖縄に何を学ぶか 第3回 琉球処分と沖縄の植民地化(1)—琉球処分の経過 第4回 琉球処分と沖縄の植民地化(2)—旧慣温存策とその転換 第5回 沖縄差別と自由民権運動 第6回 沖縄の音楽と演劇(1)—民謡と沖縄芝居 第7回 日本化・皇民化と方言論争 第8回 沖縄戦と住民 第9回 沖縄の音楽と演劇(2)—現代の沖縄芸能 第10回 米軍統治と復帰運動 第11回 歴史教科書問題 第12回 自立への課題(1)—基地と経済 第13回 沖縄の音楽と演劇(3)—組踊と古典芸能 第14回 自立への課題(2)—文化とアイデンティティー 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	新崎盛暉『現代日本と沖縄』（山川出版社、2001年） 沖縄歴史教育研究会『改訂版 高等学校 琉球・沖縄
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%		

日本社会と家族		前期 2 単位	1・2年
家族の法と倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	まず第一に、現代日本社会において家族関係がどのような特徴を持っており、どのような課題を抱えているかを把握することを目標とする。そして第二に、自己決定の尊重を旨としている現代において、家族は個人の生き方にどのように関わるとされているかを吟味し、各人の生き方を支え合う家族関係の在り方を見出すことを目標とする。		
授業の概要	重要な社会的課題を題材にして、個人の生き方と家族の関わりについて考えていく。テーマとして、脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死、夫婦別氏論議などを取り上げる。その際、学生自身が現在持っている家族観を探っていく形で授業を進めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに：人間関係の原理と家族 第2回 <臓器移植から考える>脳死・臓器移植と自己決定 第3回 脳死・臓器移植と家族 第4回 臓器は誰のものか 第5回 個人の自由と家族の役割 第6回 <安楽死から考える>生命の尊重と安楽死と家族 第7回 なぜ人を殺してはいけないのか：具体例から考える 第8回 あなたならどうする？医療と家族とケア 第9回 <家族の法と倫理>現代日本社会における家族問題の諸相 第10回 家族法における家族関係、夫婦関係の原則 第11回 夫婦別氏論議から考える家族 第12回 東海大学安楽死事件から考える家族 第13回 三つのモデルから考える家族 第14回 家族関係における自由・平等・福祉 第15回 まとめ：生き方を支え合う家族関係のために必要なこと		
テキスト	河見誠『現代社会と法原理』（成文堂）	参考文献	指定しない。
評価方法	期末レポート：80% 授業参加（提出物含）：20%		

日本社会と人権		後期 2 単位	1・2年
働くことの意味・心をつなぐ平等・平和に生きるために		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代日本社会がどのような特徴を持っており、課題を抱えているかということ、人権と平和の観点から検討する講義である。21世紀に入り、個人主義が行き詰まり、グローバリズムの波が押し寄せ、紛争・テロが蔓延する時代の中で、日本国憲法の基本原理たる基本的人権の尊重、国民主権、平和主義についてじっくり考え、捉え直すことを目標と		
授業の概要	「働くことと人権」「平等と在日外国人の人権」「平和に生きる権利」について、具体的に検討していく。この取り組みは、現代日本社会に生きる私たち一人ひとりが、「何のために働くのか」「同質社会をどう乗り越えるか」「平和に生きるために必要なことは何か」ということを、人権という観点から考えていく作業でもある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに：現代日本社会の抱える問題 第2回 <基本的人権の尊重>労働権とは 第3回 19世紀の労働状況と社会権としての労働権 第4回 戦後日本の経済発展と働き方 第5回 90年代日本的経営の転換と働き方 第6回 自己実現としての労働権 第7回 「働かされ方」の知恵でよいか 第8回 21世紀の労働権：何のために働くのか 第9回 <国民主権>心をつなぐ平等 第10回 在日外国人と参政権 第11回 多元社会に向けて 第12回 <平和主義>戦争に絶対に反対か？ 第13回 憲法9条と平和的生存権（前文） 第14回 平和とは何か：平和創出のために必要なこと 第15回 まとめ：現代日本社会を導く人権理解		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	河見誠『現代社会と法原理』（成文堂） その他、適宜指示する。
評価方法	期末試験又はレポート：80% 授業参加（提出物含）：20%		

日本社会とメディア		前期 2 単位	1・2年
ニュースのメカニズムと影響について学ぶ		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちが毎日接触しているニュースはどのようにして出来上がっているのか。また、それはどのように受け止められ、どのような影響を私たちに及ぼしているのか。これらについての理解を深めることでリテラシーを高めることを目指したい。ニュースに主体的に向き合い、批判的に読むことができるようになる。		
授業の概要	講義形式による。まず、コミュニケーション、マス・コミュニケーション、日本のマスコミの特徴、ニュースのメカニズムについて概観する。次に、国際報道、災害報道、犯罪報道の現状と問題点について検討する。さらに、マスコミの報道の影響について具体的事例を取り上げて、批判的に考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 コミュニケーションとマス・コミュニケーション 第2回 日本のマスコミの特徴 第3回 ニュースとジャーナリズム 第4回 国際報道 (1) 南北問題 第5回 国際報道 (2) アジア報道 第6回 災害報道 (1) 震災報道 第7回 災害報道 (2) 報道と防災 第8回 犯罪報道 (1) 報道の問題 第9回 犯罪報道 (2) 取材の問題 第10回 犯罪報道 (3) 人権侵害 第11回 誤報 第12回 マスコミ報道の影響 (1) 健康と食 第13回 マスコミ報道の影響 (2) 選挙 第14回 マスコミ報道の影響 (3) 自殺 第15回 マスコミ報道の影響 (4) パニック		
テキスト	特になし。関連資料を適宜配布する。	参考文献	上前淳一郎『支店長はなぜ死んだか』（文春文庫） 読売新聞社『「人権」報道』（中央公論新社）梓澤和幸『報道被害』（岩波新書）
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%		

マス・コミュニケーション論A		後期 2 単位	1・2年
これからの情報化社会：ブロードバンドとユビキタス時代		川村 受映 (かわむら じゅえい)	
授業の到達目標 及びテーマ	私達は今「インターネット」や「ブロードバンド」「モバイル通信」「ユビキタス」など、情報通信ネットワークと切り離せない社会に生きている。「情報化社会」とはどんな社会なのか、私たちの生活は以前とどのように変わり、これからどのような未来に向かっていくのかを探求するのがこの授業の目標である。		
授業の概要	毎回パワーポイントやインターネットを使い、講義形式で授業を進める。学生がどれだけ理解しているのかを確認するため、授業の最後に小レポートを作成してもらおう。皆で共有した方がいいと判断される意見や質問などは次回の授業で発表する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 情報化社会 第2回 IT情報技術の進歩 第3回 世界のメディア統計 第4回 メディアの歴史 第5回 インターネットの世界 第6回 ブロードバンド 第7回 ソーシャルネットワークサービス (SNS) 第8回 ブログ フェースブック ツイッター 第9回 モバイル通信 第10回 情報通信の未来 第11回 ユビキタス社会 第12回 ユビキタスと私たちの生活 第13回 諸外国のユビキタス事情 第14回 オンライン・ジャーナリズム 第15回 これからの世界		
テキスト	特になし	参考文献	授業中に提示する
評価方法	授業中の小レポート:50% 期末レポート:50%		

マス・コミュニケーション論B		前期 2 単位	1・2年
マス・メディアの過去と現在		長谷川 倫子（はせがわ ともこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	マス・メディアの成り立ちから現状までを概観しながら、社会生活におけるマス・メディアの存在意義を問うことで、マス・コミュニケーションとは何かを理解する。		
授業の概要	メディア論の視点から、近代化とともに新しく登場したメディアがマス・コミュニケーションの手段となるまでを理解します。マス・メディアがそれぞれの生活の中でどのような役割を果たしているのかを考えながら、日本の新聞・放送・出版・映画それぞれの現状と今後を産業論の視点から紹介します。講義ではパワーポイントや映像資料も使用しま		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 マス・コミュニケーションとマス・メディアとは 第2回 近代化と印刷メディアの登場 第3回 新聞王ビュリツター 第4回 映画の輸入・定着からトーキーへ 第5回 ラジオの登場とその普及 第6回 プロパガンダとマス・メディア 第7回 高度経済成長とテレビ 第8回 メディアイベントとマス・メディア 第9回 若者文化とマス・メディア 第10回 音楽とマス・メディア 第11回 日本の新聞 第12回 日本の放送（1）放送制度とは 第13回 日本の放送（2）これからの放送 第14回 日本の出版 第15回 日本の映画		
テキスト	未定	参考文献	春原昭彦他編著『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、2004年）
評価方法	平常点（積極的参加）:30% 課題や感想文の内容:30% レポートか試験:40%		

マス・コミュニケーション論C		後期 2 単位	1・2年
マス・メディアの社会的役割を理解する		長谷川 倫子（はせがわ ともこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	マス・メディアの影響や効果をめぐる学説を学びながら、マス・メディアと個人との関係を理解する。		
授業の概要	アメリカの先行研究から導き出された仮説を中心に、これまでのマス・メディアの影響や効果をめぐるさまざまな考えを紹介します。身近な事例をクリティカルな視点から見直すことで、マス・コミュニケーションとは何かをより深く理解できるようになります。講義ではパワーポイントや映像資料も用います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 マス・メディアの影響と効果 第2回 アメリカにおけるマス・コミュニケーション研究の流れ 第3回 戦時期のプロパガンダ研究とマス・メディア 第4回 火星からの侵入と大衆説得 第5回 アメリカの大統領選挙 第6回 2段の流れ研究 第7回 利用と満足の研究 第8回 ロジャーズのイノベーション理論 第9回 世論とは何か 第10回 議題設定機能と沈黙のらせん 第11回 テレビと子ども 第12回 ジャーナリズムとは何か 第13回 ニュース番組を考える 第14回 災害報道を考える 第15回 マス・メディアと社会制度		
テキスト	未定	参考文献	春原昭彦他編著『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、2004年）
評価方法	平常点（積極的参加）:30% 課題や感想文の内容:30% レポートか試験:40%		

メディア論A		前期 2 単位	1・2年
編集の意義と実態 I		高橋 至 (たかはし いたる)	
授業の到達目標 及びテーマ	企画、原稿依頼、校正、印刷、宣伝など、一冊の本が世に出るまでに編集者がいかに関わっているのか？ 企画立案から校了まで、編集の本質と実態を理解させる。また、現代文学のおおまかな見取り図を把握させる。		
授業の概要	講義を中心とし、編集の持つ意義と方法についての理解を深めることに重点を置く。企画から校了までの手順とその意味を明らかにする。出席カードを利用し、必要に応じて質問、提案等を受け、次回に回答する。希望者に対して、出版社への見学会を予定している。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス (編集者24時) 第2回 編集者への多様な道筋について 第3回 企画から校了までについて 第4回 活字、用紙、印刷、製本について 第5回 本・雑誌と編集者との具体的な関わりについて 第6回 著者と編集者との具体的な関わりについて 第7回 企画の立て方の基本と応用について 第8回 著者への原稿依頼について 第9回 原稿の受理と入稿について 第10回 校正の基本について 第11回 掌編小説の読解について 第12回 掌編小説の創作について 第13回 文芸各誌の新人賞について 第14回 編集者が見た戦後の文学のおおまかな流れについて 第15回 レポートなど		
テキスト	なし。	参考文献	なし。
評価方法	課題レポート:70% 授業内レポート:30%		

メディア論B		前期 2 単位	1・2年
印刷・出版の歴史を学び、パッケージ・メディアとしての「本」について考え、電子書籍についての最新情報を得る。		榎本 正樹 (えのもと まさき)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷や出版について自分の視点で考察し、分析する力を養う。 ・ゲーテンベルクによって発明された近代的な印刷術の意味と意義を理解する。 ・パッケージ・メディアとしてのリアル書籍の特性を理解する。 		
授業の概要	印刷や出版の歴史を踏まえつつ、「メディアとしての本」の意味と意義について考えていきます。リアル書籍の発展形としての電子書籍に注目し、メディア的な可能性を探ります。上に述べたことに加え、「メディア」「ネット」「デジタル」をキーワードに、最新のトピックス、ニュース、動向、事象などを紹介、分析するコーナーを設置します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 授業内容についての説明 第2回 「ライティングスペース」という概念をめぐって 第3回 ライティングスペースからリーディングスペースへ 第4回 印刷・出版の歴史(1) ヨハネス・ゲーテンベルクの生涯 第5回 印刷・出版の歴史(2) 活版印刷というテクノロジー 第6回 印刷・出版の歴史(3) 印刷書籍がもたらした文化的意味 第7回 メディアとしての「本」について考える 第8回 本とコンピュータの相関性 第9回 リアル書籍と電子書籍 第10回 Amazon Kindle研究 第11回 Apple iPad研究 第12回 その他の端末の研究 (Androidタブレットなど) 第13回 電子書籍をつくってみる 第14回 電子書籍を配信してみる 第15回 授業のまとめ&レポート提出		
テキスト	使用しません。	参考文献	参考文献は教室で指示します。また、必要な資料は適宜、配付します。
評価方法	授業へのレスポンス:20% レポート:80%		

メディア演習A		後期 2 単位	1・2年
編集の意義と実態Ⅱ		高橋 至（たかはし いたる）	
授業の到達目標 及びテーマ	実践を通してより深く、習得した内容を理解させる。編集者の存在意義と編集の持つ本質を把握させ、また現代文学に関する興味を喚起し、文学の持つ意味合いを十分に体得させる。		
授業の概要	テーマに沿った具体的な作業に携わり、編集の意義についてより深く理解し、実践的な適応が可能なまでに高める。出席カードを利用し、必要に応じて質問、提案等を受け、次回に回答する。希望者に対して、出版社への見学会を予定している。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス（編集者24時） 第2回 活字、用紙の選定、印刷、製本の選択について 第3回 企画案の作成の方法について 第4回 企画案の作成について 第5回 企画案の分析と講評 第6回 原稿依頼の手紙を書く方法について 第7回 原稿依頼の手紙の分析と講評 第8回 校正の意味と実態について 第9回 校正の実習作業について 第10回 校正の分析と講評 第11回 掌編小説を分析し、創作化する方法について 第12回 与えられたテーマから創作に挑む 第13回 創作の分析と講評 第14回 近年の新人賞の動向について 第15回 レポートなど		
テキスト	なし。	参考文献	なし。
評価方法	課題レポート:60% 授業内レポート:40%		

メディア演習B		後期 2 単位	1・2年
コンピュータを使ってクリエイティブな「何か」をしてみよう		榎本 正樹（えのもと まさき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使って情報発信を行う。 ・デジタル時代のコミュニケーションの仕方を体験的に学ぶ。 ・デジタル環境でものをつくる楽しさとむずかしさを理解する。 		
授業の概要	皆さんの前に一台のコンピュータ端末があります。この端末を使って「何か」をしてみましょう。TwitterやFacebookのようなソーシャルメディアを極めるもよし、写真や動画や音楽の編集に挑戦したり、電子書籍をつくるのもいいでしょう。自分の行うべき「目標」を設定し、コンピュータを使って実現してください。この演習は情報処理関係教室で行い		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 演習内容の説明 第2回 ソーシャルメディアについて考えてみよう 第3回 TwitterとFacebook 第4回 ソーシャルメディアの積極的な活用法 第5回 コンピュータを使って何をするか 第6回 各自の「目標」の設定 第7回 目標実現のための準備(1) 第8回 目標実現のための準備(2) 第9回 コンピュータを使った作業(1) 第10回 コンピュータを使った作業(2) 第11回 コンピュータを使った作業(3) 第12回 中間報告 第13回 コンピュータを使った作業(4) 第14回 コンピュータを使った作業(5) 第15回 まとめ		
テキスト	使用しません。	参考文献	参考文献は教室で指示します。また、必要な資料は適宜、配付します。
評価方法	目標の達成度:70% 授業へのレスポンス:30%		

メディア演習C		前期 2 単位	1・2年
メディア・リテラシーを修得し、広告の基本を理解する。		井上 雅義 (いのうえ まさよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	メディアの構造転換や多様化など、変化するメディアの全体像を理解する。 情報のグローバル化やデジタル化を踏まえ、メディアと広告の社会性を学習する。 各メディアの特性に適した広告企画力を修得し、広告表現ができるようになる。		
授業の概要	授業の進行方法は、各回のテーマごとに基礎知識を学習した後、日本と世界のCMを視聴する。 インタラクティブ広告や国際NGOのPRビデオなど最新の映像表現を分析し、広告表現や広告企画を実践する。		
授業計画	【前期】 第1回 メディア概論：メディア・リテラシー 第2回 インタラクティブ・メディアとマス・メディア 第3回 広告の構造：広告設計の構造とブランディング 第4回 広告計画と戦略：各メディアの使い分け 第5回 都市メディア：商業空間・イベント・交通広告 第6回 マーケティングとブランディング 第7回 広告表現（1）：映像の表現技法 第8回 広告表現（2）：物語の構造と表現技法 第9回 広告表現（3）：コピー・音楽・音響効果など 第10回 テレビ広告：日本と欧米のCMを比較する 第11回 新聞・雑誌広告：メディアの特徴と広告効果 第12回 ラジオ広告：メディアの特徴と広告効果 第13回 インターネット広告：ネットワークの進化 第14回 広告の社会性（1）：途上国支援事業の広告・PR 第15回 広告の社会性（2）：世界の公共広告		
テキスト	特に定めない。資料のコピーを配布する。	参考文献	「現代デザイン事典2013年版」平凡社（2013年3月中旬発行） 北田暁大「広告の誕生」岩波現代文庫
評価方法	レポート:40% 平常点（課題など）:60%		

メディア演習C		後期 2 単位	1・2年
メディア・リテラシーを修得し、広告の基本を理解する。		井上 雅義 (いのうえ まさよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	メディアの構造転換や多様化など、変化するメディアの全体像を理解する。 情報のグローバル化やデジタル化を踏まえ、メディアと広告の社会性を学習する。 各メディアの特性に適した広告企画力を修得し、広告表現ができるようになる。		
授業の概要	授業の進行方法は、各回のテーマごとに基礎知識を学習した後、日本と世界のCMを視聴する。 インタラクティブ広告や国際NGOのPRビデオなど最新の映像表現を分析し、広告表現や広告企画を実践する。		
授業計画	【後期】 第1回 メディア概論：メディア・リテラシー 第2回 インタラクティブ・メディアとマス・メディア 第3回 広告の構造：広告設計の構造とブランディング 第4回 広告計画と戦略：各メディアの使い分け 第5回 都市メディア：商業空間・イベント・交通広告 第6回 マーケティングとブランディング 第7回 広告表現（1）：映像の表現技法 第8回 広告表現（2）：物語の構造と表現技法 第9回 広告表現（3）：コピー・音楽・音響効果など 第10回 テレビ広告：日本と欧米のCMを比較する 第11回 新聞・雑誌広告：メディアの特徴と広告効果 第12回 ラジオ広告：メディアの特徴と広告効果 第13回 インターネット広告：ネットワークの進化 第14回 広告の社会性（1）：途上国支援事業の広告・PR 第15回 広告の社会性（2）：世界の公共広告		
テキスト	特に定めない。資料のコピーを配布する	参考文献	「現代デザイン事典2013年版」平凡社（2013年3月中旬発行）
評価方法	レポート:40% 平常点（課題など）:60%		

メディア特論	後期 2 単位	1・2年
ジャーナリズムの領域／ジャーナリストの立ち位置／伝える言葉へのデリカシーと的確さを身につける。出版、編集作業の実際を理解する。	林 佳恵（はやし よしえ）	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉 楽しいことを増やすことも大切ですが、嫌なこと、不快なことがそのまま、解決されない社会が続くとしたらどうでしょう。まずは、あなたの不快なことを社会化してみませんか。自分だけの特別なことと思っていたものが、実は多くの人の悩みだと気付くことをスタートラインにおいて、誰に何をどう伝えるのか、届く言葉を獲得する。 企画、立案の編集会議から、著者との交渉、スケジュールの作り方、編集作業の工程、造本（装幀＝ブックデザイン）の依頼、印刷所、製本屋さんとのやりとり、取次店、書店との交渉まで、ノウハウを学ぶ。</p> <p>〈授業の概要〉 林が関わった仕事——装幀(ブックデザイン)を柱に、暦、座談会、町おこし事業、業界新聞コラム連載、企画立案した著書などもテキストに使います。町の広告、ポスター、テレビのCM、雑誌、新聞等、目や耳に触れた情報で感動したもの、不愉快だったものも取り上げ、その原因を探します。女性ならではの気付きを論の出発点にして、個人の問題をどう社会化して表現できるのか、その道筋を探ります。編集・デザインのプロセス、造本、企画書の書き方等を具体的に示します。</p> <p>〈授業計画〉 第1回 林の歩き方、出版社設立から、執筆まで。「あなたはすでに編集長！」編集とは何か。 第2回 本、雑誌ができるまでの工程。企画をたてることから販売、返品までの流れ。取次店の役割 第3回 「じゃなかしやば」への希求から、ルポルタージュ『橋の上の殺意』鎌田慧へ 第4回 これを毎日続ければ、あなたもジャーナリスト。企画書の作り方、想いを現実にする方法。 第5回 雑誌、書籍が店頭と並ぶまで。編集、制作、営業は楽しい！ 書店の店員さんと仲良くなるろう！ 第6回 目に留まる広告の作り方・届く言葉とは。書評等、マスコミへの依頼のポイント 第7回 対談・座談会・インタビューで心がけること 第8回 ジャーナリストとしての足元、戦争と女性史。 第9回 フェミニズムとは……。 「言葉」から見える女性・「わたくし」からのスタート。 第10回 失礼のない、書きたいと思ってもらえる依頼書。取りあえず話を聞きたいと言われた時。スケジュール表の用意ほか。 第11回 本のサイズ、製本（並製・上製）、割り付け（字体、字数、行数、行間、位置）、ゲラと文字校正、カバー、表紙、ヘッドバンド、花切れ、etc. 装幀者（ブックデザイナー）林の装幀論。 第12回 装幀のワークショップ。あなたのブックデザイン。 第13回 アナウンサー、出演者の言葉の？と！を探す。しのぎをけずるCM。 第14回 言葉を届ける、竹内敏晴さんの「からだ」と「ことば」のレッスン。 林から送る言の葉 第15回 これまでのまとめ。</p> <p>〈テキスト〉 そのつど用意します。</p> <p>〈参考文献〉 鹿野政直『現代日本女性史—フェミニズムを軸として』有斐閣、『吉武輝子対話集「私」が「わたくし」であることへ』パド・ウィメンズ・オフィス</p> <p>〈評価方法〉 積極的な授業参加:30% 作業:20% レポート:50%</p>		

異文化間コミュニケーション論A		前期 2 単位	1・2年
異文化コミュニケーションの基本的理論を学ぼう		横溝 環（よこみぞ たまき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションの基本的理論を理解する。 自己および他者への気づきを高め、両者が相互に尊重し合えるような関係を築くことができるようになる。 		
授業の概要	<p>国籍はもとより、ジェンダー、年齢、ひいては個人的特性など、人と人との間に存在する様々な差異を「異文化」として捉え、ある特定の文化に関する知識を学ぶというよりも、文化的枠組みの異なる者同士の関わりに焦点をあてていく。講義とともに、それに関連したエクササイズを行い、さらにグループ討議、全体討議へとつなげていく。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／文化とは 第2回 コミュニケーションとは 第3回 自分とは 第4回 価値観と文化的特徴（1）： クラックホーンとストロッドベック 第5回 価値観と文化的特徴（2）：ホフステード 第6回 価値観と文化的特徴（3）：トロンベナルス 第7回 アイデンティティ 第8回 ステレオタイプと偏見 第9回 言語および非言語コミュニケーションの特徴および役割 第10回 言語コミュニケーション（1）：意味づけ、スタイル 第11回 言語コミュニケーション（2）：ポライトネス／準言語 第12回 非言語コミュニケーション（1）：表情、視線等 第13回 非言語コミュニケーション（2）：ジェスチャー 第14回 非言語コミュニケーション（3）：空間とテリトリー 第15回 グループディスカッション／まとめ</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング（改訂版）』三修社 その他、授業時に適宜紹介する。
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%		

異文化間コミュニケーション論B		後期 2 単位	1・2年
諸問題を多面的に捉えた上で解決方法を考えてみよう		横溝 環（よこみぞ たまき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 諸問題を多面から解釈できるようになる。 異文化に接した時の自らの感情および行動の癖に気づく。 相手を尊重しつつ、自分の考え、感情、権利が主張できるようになる。 		
授業の概要	<p>異文化コミュニケーションに関する基本的理論を、映像、事例研究、ディスカッション（人数的に可能であればロールプレイ、シミュレーションゲーム）など異文化トレーニングの様々な手法を通して、具体的かつ総合的に捉えていく。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス／異文化トレーニング概要 第2回 ディスカッションから学ぶ：コンセンサス 第3回 映像『ガンホー』（1）：ステレオタイプ 第4回 映像『ガンホー』（2）：アイデンティティ 第5回 カルチャーショック、協調的問題解決 第6回 異文化コミュニケーションスキル：アサーティブ、DIE法 第7回 メディアの中の文化（1）：ステレオタイプと社会的現実 第8回 メディアの中の文化（2）：記号化された人々 第9回 正義とは？：ヒーローと悪役 第10回 事例研究から学ぶ 第11回 シミュレーションゲームから学ぶ 第12回 映像『シャルウィダンス』（1）：ジェンダー他 第13回 映像『シャルウィダンス』（2）：コンテクスト他 第14回 文化心理学的視点から物事を捉えてみよう 第15回 まとめ</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	試験:40% 提出物（レポート）:50% 授業への貢献度:10%		

比較社会論 A		前期 2 単位	1・2年
国家と権力——20世紀における国家システムの形成		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀の前半に、強力に人間を支配するものとして成立した「国家」という巨大システムを、さまざまな観点から検討します。私たちが普段はあまり意識していない国家権力を、歴史を振り返ることをとおして、また私たちの身近にある権力作用の分析をとおして意識化していくことがこの授業の目標です。		
授業の概要	あらゆる階層の人々を「国民」に変え、国家のために動員していく際に、どのような仕掛けが使われたか、まず教育と公衆衛生という観点から考察します。つぎに、おもにメディア支配という視点から、国家が国民をどのように操作していったかを検討します。さらに、家族制度は、国家権力によってどのように構築され、利用されてきたかを考察しま		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 教育と国民の形成(1)—国民国家と国民の形成 第3回 教育と国民の形成(2)—教育と国民の動員 第4回 公衆衛生と優生思想(1)—優生思想の登場とその背景 第5回 公衆衛生と優生思想(2)—ハンセン病問題 第6回 公衆衛生と優生思想(3)—優生保護法と母体保護法 第7回 全体主義と国民の動員(1)—第一次世界大戦と世界史の転換 第8回 全体主義と国民の動員(2)—全体主義の思想と行動 第9回 全体主義と国民の動員(3)—日本の全体主義・歴史と現代 第10回 メディア支配と世論操作(1)—メディア寡占の構造 第11回 メディア支配と世論操作(2)—世論操作の実際 第12回 家族制度と労働の再生産(1)—近代家族の形成 第13回 家族制度と労働の再生産(2)—生殖にたいする国家の支配 第14回 家族制度と労働の再生産(3)—社会保障制度の抱える問題 第15回 総括		
テキスト	授業中にプリントを配布します。	参考文献	授業中に指示します。
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%		

比較社会論 B		後期 2 単位	1・2年
グローバル化と生活世界		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	「グローバルな資本の支配」という観点から現代社会を分析し、私たちの生活のさまざまな側面に及んでいる「グローバル化」の力を意識化しながら、望ましい社会や生を構想する思考力を養うことがこの授業の目標です。		
授業の概要	まず、グローバル化の構造を決定づけてきた16世紀からはじまるヨーロッパ諸国の植民地支配の構造から検討し、現代における先進国と大企業による世界支配の構図を見ていきます。つぎに、私たちの具体的な生活領域にたいして、この支配がどのように及んでいるかを考察することへと進みます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 植民地支配の歴史と構造(1)—プランテーションと奴隷貿易 第3回 植民地支配の歴史と構造(2)—多国籍企業と途上国の貧困化 第4回 途上国支援の課題(1)—ODAの諸問題 第5回 途上国支援の課題(2)—市民活動の課題 第6回 グローバル化と食生活(1)—食生活のリスク 第7回 グローバル化と食生活(2)—アグリビジネスの農業支配 第8回 グローバル化と食生活(3)—日本における食の課題 第9回 グローバル化とジェンダー(1)—ジェンダーと無償労働 第10回 グローバル化とジェンダー(2)—売春と人身売買 第11回 グローバル化とジェンダー(3)—女性たちの抵抗運動 第12回 グローバル化と文化(1)—文化の多様化? 画一化? 第13回 グローバル化と文化(2)—文化の商品化 第14回 グローバル化と文化(3)—アイデンティティの問題 第15回 総括		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:50% 期末試験:50%		

世界の中の日本 A		前期 2 単位	1・2年
『竹取物語』と世界の中の「日本」		上原 作和 (うへはら さくかず)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本文学ならびに日本文化を代表する言語藝術『竹取物語』。このテキストを生み出した世界の政治制度や文化、藝術について、比較文化学と言う視点からアプローチします。そこで、日本の古代文化は中国文明およびシルクロード文明と密接な関係にあることを遣唐使ならびに日中交流史に学びつつ、『竹取物語』成立の背景を明らかにしたいと思いま		
授業の概要	導入の5回で日本古代史を遣唐使や日中交流史を中心に学びます。ついで、古代日本語の成立から平安朝文学の成立までを概説します。こののち、『竹取物語』のテキストを講義します。講読では、芸能、音楽、宗教、年中行事、政治制度のテーマを念頭に、古代日本語テキストに見られる「世界の中の日本」について考えて行くこととします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 王朝人の見た世界 ガイダンス 第2回 日中交流史① 漢字、仏教の伝来と遣隋使 第3回 日中交流史② 遣唐使と鑑真 正倉院御物 第4回 日中交流史③ 遣唐使と正倉院御物 第5回 日中交流史④ 王朝人と唐人 付・日宋貿易と平清盛 第6回 日本古代文学史① 漢字の伝来と記紀、万葉集 第7回 日本古代文学史② うつほ物語と漢文学 第8回 日本古代文学史③ 白楽天と平安朝文学 第9回 『竹取氏物語』精読①「かぐや姫誕生」「妻問い」 第10回 『竹取氏物語』精読②「仏の御石の鉢」「蓬莱の玉の枝」 第11回 『竹取氏物語』精読③「火鼠の皮衣」「龍の首の玉」 第12回 『竹取氏物語』精読④「燕の子安貝」「御門の御行」 第13回 『竹取氏物語』精読⑤「天の羽衣」 第14回 『竹取氏物語』精読⑥「富士の煙」 第15回 日本古典文学と世界の文学		
テキスト	上原作和・安藤徹・外山敦子校注『かぐや姫と絵巻の世界 一冊で読む『竹取物語』訳注付』武蔵野書院	参考文献	上原作和編集『うつほ物語引用漢籍註疏』新典社、Website 物語学の森
評価方法	授業態度:15% タームペーパー:30% 試験:55%		

世界の中の日本 B		後期 2 単位	1・2年
あおい目をした古都へのイザナイ		小林 正明 (こばやし まさあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○京都の基本知識を説明することができる。</p> <p>○京都の基本知識を簡単な英文で理解できる。</p> <p>○京都を通じて日本文化の基礎について復習することができる。</p>		
授業の概要	世界文化遺産である京都に焦点を合わせて、日本文化を学習する。京都が、伝統という限りにおいて、日本文化の精華であるらしいこと。これは、国内外を問わず、異論はなさそうである。科目「世界の中の日本」ということに鑑みて、英文(たぶん英検準2級程度)による京都案内を参照する。観光や日本文化に興味があるなら、英文にこだわる必要は		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業案内と情報交換。 第2回 日本のなるもの。 第3回 日本の世界文化遺産、総覧。 第4回 京都古典文学地図。 第5回 地域Ⅰ：清水寺周辺。 第6回 地域Ⅰ：清水寺と古典文学。 第7回 地域Ⅰ：祇園界隈。 第8回 地域Ⅰ：祇園と映画『さゆり』の世界。 第9回 地域Ⅱ：嵯峨野。 第10回 地域Ⅱ：嵯峨野・嵐山と古典文学。 第11回 地域Ⅲ：北野天満宮。天神信仰。 第12回 地域Ⅳ：宇治周辺。 第13回 地域Ⅳ：宇治と古典文学。 第14回 地域Ⅴ：石山寺周辺。源氏物語と石山寺伝説。 第15回 総括：逆輸入のオリエンタリズム		
テキスト	配布資料	参考文献	特になし
評価方法	英文担当:50% 発言・授業姿勢:30% 調査・提出物:20%		

日本語教育 A		前期 2 単位	1・2年
日本語教育の基礎知識の習得		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	外国人に日本語を教える「日本語教育」の理論と実践に基づき、以下の①～③の能力を育成することを大きなねらいとして授業を進める。 ①日本語の言語的特徴の基礎を理解する能力②自己の言語生活を内省する能力③日本語をより適切に運用する能力		
授業の概要	言語としての日本語の特徴を音声、文字表記、語彙、社会言語学(待遇表現を中心に)の面からつかみ、日本語教育の基礎知識の習得を目指すと同時に、日本語運用能力を高めるためのトレーニングも適宜行なっていく予定。		
授業計画	【前期】 第1回 日本語教育と国語教育、日本語の系統、類型 第2回 日本語の特性、日本語の音声(音、音節、リズム) 第3回 日本語の音声(母音、子音) 第4回 日本語の音声(子音、調音点、調音法他) 第5回 日本語の音声(アクセント、イントネーション) 第6回 日本語の文字・表記(常用漢字表、筆順、送り仮名) 第7回 日本語の文字・表記(仮名遣い、外来語の表記) 第8回 日本語の文字・表記(ローマ字、文字の歴史) 第9回 日本語の語彙(語彙と語、語種) 第10回 日本語の語彙(語構成、体系) 第11回 日本語の語彙(教え方、位相) 第12回 社会言語学①(待遇表現を中心に) 第13回 社会言語学②(待遇表現を中心に) 第14回 前期のまとめ(前半) 第15回 前期のまとめ(後半)		
テキスト	高見澤孟他著『新・はじめての日本語教育・I 日本語教育の基礎知識』アスク	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	授業参加度:30% 小課題等評価:20% 最終試験:50%		

日本語教育 B		後期 2 単位	1・2年
日本語教授法入門(教授法の知識の実践的活用を目指して)		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語教育(現状と歴史を中心に)を概観し、日本語教授法の基礎知識を得ると同時に日本語を外国語としてとらえることで、客観的に日本、日本語を見直す視点を養っていくことを大きなねらいとする。		
授業の概要	日本語を教える上で必要となる文法的知識を整理、確認しながら、実際に外国語として日本語を教える際の具体的な方法について考察していく。後半、時間的に可能であれば模擬授業を導入し、今まで習ってきた日本語教育の知識を実践的に活用できたらと考えている。		
授業計画	【後期】 第1回 国内の日本語教育事情/日本語教師の役割 第2回 海外の日本語教育事情/日本語教育史(明治期以前) 第3回 日本語教育史(明治期以降)/コースデザイン、シラバス 第4回 日本語教育史(戦後)/カリキュラム 第5回 外国語教授法(中世・近世)/教室活動について 第6回 オーディオリンガルアプローチ/教材・教具について 第7回 新しい外国語教授法/評価法について 第8回 日本語文法と国文法(文法用語、品詞分類、活用) 第9回 日本語のテンス、アスペクト、ムード 第10回 初級文法の指導法(名詞文) 第11回 初級文法の指導法(指示詞) 第12回 授業の実際(教材分析、教案の立て方) 第13回 授業の実際(模擬授業前半) 第14回 授業の実際(模擬授業後半) 第15回 後期試験前の総復習		
テキスト	高見澤孟他著『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	授業参加度:30% 小課題、模擬授業等:20% 最終試験:50%		

日本語事情 A		前期 2 単位	1・2年
日本語コミュニケーションにおける言語問題		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	文化庁による『国語に関する世論調査』の結果をもとに、日本語コミュニケーションにおける言語問題について考察し、これからの時代に求められる日本人の言語能力について考えていくことを大きな授業のねらいとする。		
授業の概要	教室内でのアンケート調査結果と文化庁の調査結果を照らし合わせながら考察を加えていく。実際のコミュニケーション場面から用例を採集し分析したり、アンケートやインタビュー調査の実施結果を発表しレポートにまとめる。学生主体の自律的取り組みを重視し、ディスカッションやディベート等の教室活動も適宜取り入れ授業を進めていく予定であ		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 アンケート調査実施、気になる言い方について 第 2回 若者言葉、言葉遣いの乱れに対する意識①前半発表 第 3回 若者言葉、言葉遣いの乱れに対する意識②後半発表 第 4回 外来語、カタカナ語の使用状況についての意識①前半発表 第 5回 外来語、カタカナ語の使用状況についての意識②後半発表 第 6回 日本語コミュニケーションにおける敬語①前半発表 第 7回 日本語コミュニケーションにおける敬語②後半発表 第 8回 携帯電話、電子メールの言語生活への影響について 第 9回 共通語と方言について 第 10回 男女の言葉遣いに対する意識 第 11回 日本語の国際化、日本語を学ぶ外国人の増加について 第 12回 向上させたい日本語能力、美しい日本語とは 第 13回 これからの時代に求められる日本人の言語能力 第 14回 最終レポート内容について口頭発表①前半 第 15回 最終レポート内容について口頭発表②後半		
テキスト	調査結果データなどを資料として配布予定	参考文献	授業時に適宜紹介する
評価方法	授業参加度:20% 小課題、発表の成果:30% 最終レポートの成績:50%		

日本語事情 B		後期 2 単位	1・2年
第二言語としての日本語の習得研究入門		南口 順子 (みなみぐち じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本語を母語としない人たちが、日本語をどのように習得していくのか、その過程をたどることにより、無意識に習得した自分自身の日本語の意識化を図っていく。母語でない言語の習得過程に焦点を当てた研究「第二言語習得研究」の基礎を学ぶことを大きな狙いとした授業である。		
授業の概要	第二言語習得研究の基礎を学ぶことを中心として授業を進めていくが、第二言語習得の前提として、第一言語(母語)習得において、子供がどのように言語を獲得していくのか、脳のメカニズムについても触れ、自分自身がどのように母語を習得してきたのか、それが第二言語、外国語の習得とどのように関わっていくのかも探っていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 第二言語習得研究とは/第一言語習得研究(脳の発達) 第 2回 第一言語習得研究(子供のことばの発達過程) 第 3回 第二言語習得研究の流れ(対照分析研究) 第 4回 第二言語習得研究の流れ(誤用分析研究、中間言語研究) 第 5回 第二言語習得理論(普遍文法理論) 第 6回 第二言語習得理論(モニター・モデル) 第 7回 第二言語習得にかかわる要因(言語転移他) 第 8回 第二言語習得にかかわる要因(学習者のストラテジー) 第 9回 言語接触とバイリンガリズム(敷居理論他) 第 10回 言語接触とバイリンガリズム(バイリンガル教育) 第 11回 第二言語習得研究の方法 第 12回 日本語の第二言語習得研究(文法) 第 13回 日本語の第二言語習得研究(語彙、文字・表記等) 第 14回 日本語の第二言語習得研究(年少者の日本語習得) 第 15回 後期の総復習		
テキスト	適宜プリントを使用	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	授業参加度:30% 小課題:20% 最終レポート又は試験:50%		

日本美術研究A		後期 2 単位	1・2年
日本美術史における動物表現の系譜		石田 佳也 (いしだ よしや)	
授業の到達目標 及びテーマ	屏風絵や絵巻、掛軸などの画面形式に代表される日本絵画には、山水画や花鳥画、物語絵や風俗画など、様々なテーマがある。この講義では日本美術史における動物表現に着目し、日本美術史の基礎事項を習得すると共に、同時代の文学や芸能とも関連づけながら考察し、個々の動物がどのように表現されて来たのかについて文化史的な背景と併せて理解		
授業の概要	毎回、特定の動物をテーマに取り上げ、日本の近世絵画を中心に、漆工や染織などの工芸作品も含めて関連する作例を画像で紹介する。その過程で、個々の作品の作者や流派、技法などに関する基礎事項を確認し、日本美術史における位置づけや文化史的背景を明らかにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 授業内容のガイダンス・導入</p> <p>第2回 日本絵画史の基礎事項(1) 画面形式</p> <p>第3回 日本絵画史の基礎事項(2) 技法と用語</p> <p>第4回 日本絵画史の基礎事項(3) 画家と流派</p> <p>第5回 日本絵画史における動物表現の概観 十二支をめぐって</p> <p>第6回 動物表現の諸様相 ウサギ 鳥獣戯画の世界</p> <p>第7回 動物表現の諸様相 サル 水墨画と動物</p> <p>第8回 動物表現の諸様相 ライオン 宗教絵画の名脇役</p> <p>第9回 動物表現の諸様相 ソウ 記録された異国の動物</p> <p>第10回 動物表現の諸様相 シカ 和歌の世界に生きる動物</p> <p>第11回 動物表現の諸様相 ウシとウマ 暮らしの中の動物</p> <p>第12回 動物表現の諸様相 リュウとトラ 武将好みの動物たち</p> <p>第13回 動物表現の諸様相 イヌとネコ 描かれた愛玩動物</p> <p>第14回 動物表現の諸様相 近現代における展開</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	とくに定めない。主としてプリントを毎回配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業感想文:20% 期末レポート:80%		

日本美術研究B		後期 2 単位	1・2年
絵巻がわかる・絵巻を読み解く		成原 有貴 (なりはら ゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	平安時代から江戸時代初期の絵巻を対象とし、内容と表現について学ぶ。物語や縁起・説話などを描いた各時代の代表的作品をとりあげ、絵巻ならではの表現方法を学習し、絵が語り出すメッセージを理解する。		
授業の概要	絵巻は、特徴的な画面形式と表現によって、さまざまなメッセージを見る者に訴えかける。授業ではそうしたメッセージを、作品が生み出された時代の社会・文化状況を視野に入れて読み解く。また、絵巻の制作事情や制作目的について考察し、社会における美術の機能を明らかにする。授業は講義形式で行い、毎回パワーポイントを使用し作品を映写す		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 はじめに：絵巻の世界へようこそ</p> <p>第2回 「源氏物語絵巻」1：主人公の心理はいかに表現されるか</p> <p>第3回 「源氏物語絵巻」2：不可欠の脇役・女房像の意味</p> <p>第4回 「地獄草紙」「餓鬼草紙」：現世と他界のイメージ</p> <p>第5回 「病草紙」：病への視線と差別</p> <p>第6回 「平家納経」：平家一門の祈りの造形</p> <p>第7回 「紫式部日記絵巻」：絵にあらわれた貴族の願望</p> <p>第8回 「源氏物語絵巻」：描かれた浮舟像の意味</p> <p>第9回 「華嚴宗祖師伝絵」1：「誘惑者」としての女性像の意味</p> <p>第10回 「華嚴宗祖師伝絵」2：龍に変身する女性像の意味</p> <p>第11回 「道成寺縁起絵巻」1：蛇に変身する女性像の意味</p> <p>第12回 「道成寺縁起絵巻」2：絵巻と芸能</p> <p>第13回 「当麻曼荼羅縁起絵巻」：女性の祈りと往生</p> <p>第14回 「山中常盤物語絵巻」：女性への暴力はなぜ描かれたか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	特に指定しない。授業の要点を記したプリントを毎回配布する。	参考文献	『新修日本絵巻物全集』角川書店、『日本絵巻大成』中央公論社、『続日本絵巻大成』中央公論社。該当巻などは授業時に指示する。
評価方法	授業感想文:30% 試験:70%		

日本芸能研究A		前期 2 単位	1・2年
歌舞伎の魅力を探る		津金 規雄 (つがね のりお)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代に生まれた古典的な演劇でありながら、現代もお私たちの娯楽のひとつとして生き続けている歌舞伎の魅力、実際の舞台上に即しつつ探っていきます。		
授業の概要	江戸歌舞伎を代表する、荒事を中心に授業を進めます。 6月の国立劇場の歌舞伎公演を見て、レポートを提出してもらいます。チケットの購入・料金負担は学生各自が行います。また上演される演目については、事前に授業で取り上げ、詳しく解説します。		
授業計画	【前期】 第1回 歌舞伎についての総論 第2回 荒事 第3回 「暫」 第4回 「雷神不動北山桜」のうち「鳴神」 第5回 「雷神不動北山桜」のうち「毛抜」 第6回 国立劇場6月公演の演目の台本精読 第7回 国立劇場6月公演の演目の解説・鑑賞 第8回 歌舞伎十八番 第9回 市川團十郎（初代から七代目） 第10回 市川團十郎（八代目から十二代目） 第11回 「矢の根」 第12回 「助六」 第13回 「勸進帳」 第14回 江戸の名優たち 第15回 上方の名優たち		
テキスト	プリントを中心にこちらで用意します。	参考文献	『歌舞伎オン・ステージ』（白水社）、『名作歌舞伎全集』（東京創元新社）の各巻。月刊誌「演劇界」（演劇出版社）の特集号・増刊号など。
評価方法	観劇レポート:70% 授業態度:30%		

日本芸能研究B		後期 2 単位	1・2年
古典演劇「能・狂言（能楽）」の理解と鑑賞		三浦 裕子 (みうら ひろこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	室町時代に演劇的基礎を固めた能・狂言（能楽）は、音楽・舞踊・美術・文学・演劇などの諸要素が不可分に融合した総合芸術である。本講義では、このような特徴を持つ能・狂言に関して、さまざまなアプローチを試みつつ、とくに文学的な価値を理解することに重点を置く。		
授業の概要	能・狂言の基本的知識および演劇的・文学的特徴を概説する。そのうえで、狂言〈附子〉〈蚊相撲〉〈悪太郎〉、能〈黒塚〉のテキストを丁寧に講読し、映像資料による鑑賞を行う。能・狂言をより深く理解するため能舞台の見学を行う予定。		
授業計画	【後期】 第1回 総合芸術としての能・狂言を概説する 第2回 狂言〈附子〉前半の講読と鑑賞 第3回 狂言〈附子〉後半の講読と鑑賞 第4回 狂言〈蚊相撲〉前半の講読と鑑賞 第5回 狂言〈蚊相撲〉後半講読と鑑賞 第6回 狂言〈蚊相撲〉の講読と鑑賞～大名・太郎冠者を考える 第7回 狂言〈悪太郎〉の講読と鑑賞 第8回 狂言〈悪太郎〉の講読と鑑賞～悪人正義説を考える 第9回 能・狂言の演技術と舞台を考える 第10回 能〈黒塚〉前半の講読と鑑賞 第11回 能〈黒塚〉中盤の講読と鑑賞 第12回 能〈黒塚〉後半の講読と鑑賞 第13回 能〈黒塚〉の講読と鑑賞～能面・能装束・演技を考える 第14回 まとめⅠ～映画〈蜘蛛巣城〉の紹介と鑑賞 第15回 まとめⅡ～能・狂言の総括		
テキスト	三浦裕子著『能・狂言』（シリーズ「学校で教えない教科書」、日本文芸社） 竹本幹夫著『対訳でたのしむ安達原 黒塚』（檜書	参考文献	必要に応じて講義時に提示する
評価方法	平常点（集中度）:40% 講義時のアンケート等:10% 定期試験:50%		

日本民俗研究A		前期 2 単位	1・2年
日本の四季と年中行事		持田 叙子 (もちだ のぶこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	まわりを海に囲まれた日本列島は、山の緑と水に恵まれ、春夏秋冬の季節をもちます。各季節には多彩なハレの日、年中行事がちりばめられています。たとえばお正月、お盆、雛祭り、七夕…。民俗学者の柳田国男は、年中行事にはゆたかに私たちの先祖の生活の面影が残ると言っています。年中行事を通し、古代の日本人の生活や信仰を学びます。		
授業の概要	講義を主とします。資料は毎回配布いたします。私たちの生活に今も残る年中行事や、あまり知られない年中行事について紹介し、日本文化・民俗に関する基礎教養を身につけていただきます。学生の皆さんには一人一回、年中行事その他に関する五分ほどのお話をさせていただきます。また折にふれ、季節の和歌や俳句もごいっしょに作ってみましょ		
授業計画	【前期】 第 1回 雛祭り 第 2回 花見その一 第 3回 花見その二 第 4回 たなばた 第 5回 お盆その一 第 6回 お盆その二 第 7回 秋立つ 第 8回 月見 第 9回 収穫祭 第10回 クリスマス 第11回 花祭り・雪祭り 第12回 お正月 第13回 冬から春へ 第14回 若菜つむ 第15回 太陽信仰		
テキスト	授業時に配布いたします。	参考文献	授業時に指示いたします。
評価方法	教務課提出リポート:80% 授業時提出物:20%		

日本民俗研究B	後期 2 単位	1・2年
日本人の恐怖とあこがれ —他界・怪異・神秘—	持田 叙子（もちだ のぶこ）	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <p>日本人は古代より、私たちの生きるこの世界だけで世界が完結するのではなく、もう一つ別の世界があると信じてきた民族であると言われます。その他界とは、ある時は海のかなたにあるとされる〈常世（とこよ）〉という、永遠のいのちの授かるすばらしい世界であり、ある時は死者の魂の終結する恐ろしい〈常夜〉の国であったりします。古事記や風土記、万葉集にあらわされる種々の世界のイメージをあげてから、近代作家による他界と神秘の物語も読んでみましょう。日本人の死や生についての感じ方や考え方について学ぶことができるでしょう。時々、皆さんに要約文や感想文を書いていただきます。</p> <p>〈授業の概要〉</p> <p>講義を主とします。資料は毎回配布いたします。古事記や万葉集などの古代文学からはじまり、時代をこえて近代までの文学や民俗学の著作を読み、基礎教養を身につけます。</p> <p>学生の皆さんには一人一回、怖いお話や神秘的なお話をさせていただきます。</p> <p>教室でいっしょに恐がり、感動しましょう！</p> <p>こわい話の文章による創作もさせていただきます。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>第1回 古事記の死の世界 第2回 風土記—他界に通ずるほら穴 第3回 万葉集の靈魂信仰 第4回 “ ” 第5回 岩手県 遠野地方のざしきわらし 第6回 “ ” のオシラサマ 第7回 柳田国男の『妖怪談義』 第8回 宮沢賢治「ざしきぼっこの話」 第9回 小泉八雲「雪女」 第10回 夏目漱石『夢十夜』 第11回 芥川龍之介「妖婆」 第12回 泉鏡花『夜叉ヶ池』 第13回 “ 『夜叉ヶ池』 第14回 “ 「葎（きのこ）の舞姫」 第15回 “ 「眉（まゆ）かくしの霊」</p> <p>〈テキスト〉</p> <p>授業時に配布いたします。</p> <p>〈参考文献〉</p> <p>授業時に指示いたします。</p> <p>〈授業評価〉</p> <p>教務課提出レポート：80% 授業時提出物：20%</p>		

日本研究特論A		前期 2 単位	1・2年
1980～90年代の文化表象を通じて、学校空間における政治学を考察する		上戸 理恵（うへと りえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代日本の文学作品およびサブカルチャーにおいて、学校空間がどのように表象されているのかを検討し、そこにある特有の力学を歴史的・社会的文脈から考察することができるようになる。学校空間における「いじめ」の表象を読み解き、多様な暴力の形態について考えることで、現代日本の社会関係をめぐる問題を理解する。		
授業の概要	講義形式。主に80年～90年代の作品を取り上げ、そこに描かれた〈少年／少女〉たちを取り囲む空間がどのような力学に支えられているのかを考察し、その社会的背景を明らかにする。必要に応じて履修者の発表や討議の機会を設け、自らの考えを発信し問い直す場を提供する。また、それぞれのセクションの終わりに小テストを行い理解の定着を図		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 社会学的アプローチ（1） いじめの社会関係論 第3回 社会学的アプローチ（2） いじめをめぐる言説 第4回 社会学的アプローチ（3） 現代的コミュニケーション 第5回 議論の整理と小テストⅠ 第6回 山田詠美作品を読む（1） 学校という舞台 第7回 山田詠美作品を読む（2） 「風葬の教室」の読解 第8回 重松清作品を読む（1） 重松作品と「いじめ」 第9回 重松清作品を読む（2） 「ナイフ」の読解 第10回 議論の整理と小テストⅡ 第11回 岡崎京子作品を読む（1） 岡崎京子の描く社会関係 第12回 岡崎京子作品を読む（2） 岡崎京子の〈暴力〉表象 第13回 岡崎京子作品を読む（3） 『リバーズ・エッジ』の読解 第14回 議論の整理と小テストⅢ 第15回 講義のまとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを配布しそれを用いる。	参考文献	内藤朝雄『いじめの社会理論 その生態学的秩序の生成と解体』柏書房など。その他、随時紹介する。
評価方法	授業感想カードの内容:20% 小テスト:30% レポート課題:50%		

日本研究特論B		後期 2 単位	1・2年
2000年代以降の文化表象を通じて、学校空間における政治学を考察する		上戸 理恵（うへと りえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	2000年代以降の文学作品やポップカルチャーにおいて、学校空間がどのように表象されているのかを検討し、そこにある特有の力学を歴史的・社会的文脈から考察することができるようになる。学校空間における「いじめ」の表象を読み解き、多様な暴力の形態について考えることで、現代日本の社会関係をめぐる問題を理解する。		
授業の概要	講義形式。2000年代以降に発表された作品を通じて、学校空間を支配する力学がどのように描かれているのかを考察し、多様化する暴力に対峙していく方法を検討する。必要に応じて履修者の発表や討議の機会を設け、自らの考えを発信し問い直す場を提供する。また、それぞれのセクションの終わりに小テストを行い理解の定着を図る。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 近年の議論（1） 従来の議論との接点と差異 第3回 近年の議論（2） スクールカーストの問題化 第4回 近年の議論（3） 「キャラ」による闘争 第5回 近年の議論（4） 孤立化と同調圧力 第6回 小テストⅠ 第7回 『野ブタ。をプロデュース』（1） テレビ的空間の拡大 第8回 『野ブタ。をプロデュース』（2） 価値の相対化 第9回 『野ブタ。をプロデュース』（3） メディア論的考察 第10回 小テストⅡ 第11回 『りはめより100倍恐ろしい』（1） 自己演出の主題 第12回 『りはめより100倍恐ろしい』（2） いじりという暴力 第13回 『りはめより100倍恐ろしい』（3） 関係性の転覆 第14回 『りはめより100倍恐ろしい』（4） 小テストⅢ 第15回 小テストⅢ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを配布しそれを用いる。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	授業感想カードの内容:20% 小テスト:30% レポート課題:50%		

学問入門演習	前期 2 単位	1年
大学での学び方を習得しよう		
<p>【担当教員】 岡崎 和夫（おかざき かずお）、河見 誠（かわみ まこと）、小林 正明（こばやし まさあき）、小林 瑞乃（こばやし みずの）、鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）、鈴木 直子（すずき なおこ）、辻 吉祥（つじ よしひろ）、森下 春枝（もりした はるえ）、吉岡 康子（よしおか やすこ）、輪島 達郎（わじま たつろう）、渡邊 良智（わたなべ よしとも）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：大学での学び方を習得しよう 大学での学びは、学生自らの主体的な関心と意欲が基本になっています。この学びを実りあるものにするためには、一定の約束事やスキルを身につける必要があります。この演習では、大学での「学び方」の初歩を修得し、大学生生活のスタートを上手に切っていたくことを期待しています。具体的には、次のような力の修得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での学びの特徴を理解する。 ②基礎的な学習スキルを身につける。 ③基礎的な情報検索・文献探索能力を身につける。 ④基礎的な文章読解力を身につける。 ⑤基礎的な口頭発表能力と討論の仕方を身につける。 ⑥基礎的な文章作成能力を身につける。 <p>【授業の概要】 各グループ十数名の少人数による発表や討論が中心になります。授業の進め方は担当教員によって異なりますが、例えば、○互いの関心を発表し合い、大学で何を学びたいか交流する、○共通のテキストを読み、レジュメを作り、発表し、討論する、○テーマを決め、関連する文献や資料を探し、まとめて発表する、○テーマにもとづき作品を完成させ、互いに批評し合う、○身体活動やロールプレイ、ワークショップなどを通じ、多様な自己表現を試みたり体験的認識を深める、○レポートを作成することを通じて、わかりやすく自分の考えを他人に伝えられるようにする、などを組み合わせたものとなるでしょう。どのような形であれ、自ら問いを発し、自分と他人の関心や意見を突き合わせることから、物事の新しい見方が開かれてきます。</p> <p>【授業計画】 グループごとに授業計画は異なります。</p> <p>【テキスト】 グループごとにテキストは異なります。</p> <p>【評価方法】 平常点50%、提出課題50%</p>		

専攻基礎演習	後期 2 単位	1年
<p>Kyoto学入門。伝承的生活文化史の研究。生活体験のなかから「日本」について、また「京都」について、広域的な知見をやしなない、研究的な姿勢を身につける。</p>	<p>岡崎 和夫（おかざき かずお）</p>	
<p><授業の到達目標及びテーマ> わが国の伝統的な生活文化事象をとりあげた学びをテーマとします。ひろい観点にたつて、その行事の準備や進行の具体的なありよう、また付随している独特の和菓子づくりの文化、小道具の文化ほかにつき、京都のありようを中心に、地方による差違などに眼をこらしながら知見をつみかさねることを目標とします。</p> <p><授業の概要> はじめ、文献学的な学びを主としつつ、たとえば「七夕」「お月見」「七五三」「十三詣り」「初詣」「おひなまつり」などの伝承文化、伝統行事のうちに、日本人のどのようなところが込められているか考えます。また、みずからの〈お節供（旬）〉体験ほかを披瀝しながら、授業計画・第1回～第7回（総授業の前半部）のように、既知と未知をきりわけて、先行の諸研究を整理します。口頭発表は、持ちまわりとし、順番をくずさないように進めます。</p> <p>こののち、後半部の進行において、わが国の独特の庭園様式、日本画の様式、神仏の礼拝の様式、喫茶の文化ほかについて、そこに、日本人のどのような心が蔵われているか、すでに公表されている調査や知見を、みずからの創見とはことなるものとして識別する姿勢を得させることに意を用いながら、科学的研究の論理的・客観的ありようを学んで、総合レポートをつくりあげます。</p> <p>なお、後半部の計画進行において、「雅叙園」「根津美術館」「山種美術館」、あるいは「とらや文庫」（前期、学問入門演習で向いたばあいは、「とらや文庫」を除く）ほかいくつかの近隣の資料館へ出向き、知見をふかめる予定（午前～午後にわたるため土曜か日曜を予定）。</p> <p><授業計画> 【後期】 第1回 Introduction 関西を学ぶ・「恵方巻」という文化。 第2回 Kyoto学の初歩 第3回 Kyoto学の第二歩 第4回 Kyotoの歴史と文化 第5回 明治維新の京都 第6回 山本覚馬・八重 第7回 Kyotoの現在 第8回 これまでの調査と学習を顧み、研究の対象とする行事と文化を決定する。 第9回 第8回内容を文書化し、テーマ決定の理由を添える。 第10回 調査と学習から〈研究〉の道へ……初歩をふみだす。日本画という文化 第11回 調査と学習から〈研究〉の道へ……keywordsから。庭園の文化・和菓子の文化 第12回 調査と学習から〈研究〉の道へ……dataはどこに？神仏の文化 第13回 調査と学習から〈研究〉の道へ……dataを読む。神仏の礼拝様式 第14回 総合のためのmeetingをこころみる。 第15回 総合レポート提出。</p> <p><テキスト> 発表、基礎的知見のありようを確かめて、第3講義ごろまでに決定する。</p> <p><参考文献> 進行に合わせて、図書館資料を適宜に指示する。</p> <p><評価方法> Noteの発展的度合い：25% 授業への貢献の度合い：25% 科学的な思考力の養成の度合い：25% 調査する力・data収集力：25%</p>		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
生命倫理・社会倫理と法		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	「日本社会はどうあるべきか」「日本社会にどう向き合うべきか」「日本社会の中でどのように生きていくべきか」ということについて、いわゆる生命倫理の課題を通して検討していく。日本社会が「いのち」にどんな関わり方をしていくかを学ぶこと、日本社会における倫理と法の傾向性を把握することを通して、社会倫理的検討の基礎を学ぶ。		
授業の概要	「人工生殖」「安楽死・尊厳死」「脳死・臓器移植」などをテーマとし、学生の報告と討論によって進めていく。 (1) 前半はテキストを分担報告して、生命倫理の内容理解を深める。(2) 後半は各自が重要と考える課題に関してそれぞれ報告し、話し合っていく(下記授業計画における記載は、あくまで参考のための、課題「例」である)。		
授業計画	【後期】 第1回 はじめに：生命倫理と現代社会・日本社会 第2回 <内容理解> 1-1 脳死 第3回 1-2 臓器移植 第4回 1-3 安楽死 第5回 1-4 尊厳死 第6回 1-5 人工授精・体外受精 第7回 1-6 代理出産 第8回 <課題検討> 2-1 脳死と日本人の死生観(例) 第9回 2-2 臓器移植と人間の死(例) 第10回 2-3 安楽死の是非(例) 第11回 2-4 現代的課題としての尊厳死(例) 第12回 2-5 人工生殖の現在と未来(例) 第13回 2-6 代理出産を法規制すべきか(例) 第14回 まとめ1：生命倫理から見る現代日本社会の課題 第15回 まとめ2：いのちを生かす日本社会に向けて		
テキスト	葛生・河見・伊佐『新・いのちの法と倫理』（法律文化社） （最初の授業から使用するので必携のこと。）	参考文献	適宜指示する。
評価方法	期末レポート:75% 授業での報告・討論:25%		

専攻基礎演習	後期 2 単位	1年
『修紫田舎源氏』—『源氏物語』への捷径として	小林 正明（こばやし まさあき）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古文読解力を強化することができる。 ○ 翻案と『源氏物語』とを対照して、反復／差異について理解できる。 ○ 読解の着眼を自分の言葉で筆記／発言できるようになる。 ○ 挿絵の絵解きができるようになる。 <p>【授業の概要】</p> <p>『修紫田舎源氏』は『源氏物語』の翻案として最たるものである。主人公は、架空將軍家の御書司・光氏。国貞描く挿絵も絶品との定評あり。この半期科目では、その19枚の挿絵とともに、夕顔巻後半に相当する第5編の本文を精読する。黄昏（たそがれ＝夕顔）の死を、將軍位継承の宝器「小鳥丸」紛失に絡めて、能・歌舞伎仕立で象る第5編は、柳亭種彦の奔筆が思う存分発揮された章譚であろう。『源氏物語』手引きとしても推奨したい。</p> <p>【授業計画】 （後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 授業説明、情報交換。 第2回 夕顔巻、花の和歌贈答。 第3回 敵役、母・凌晨。 第4回 八月十五夜の睦言。 第5回 近隣の黎明。 第6回 某院のあやかし。 第7回 謡曲『葵上』という媒介項。 第8回 鬼女と山伏との活劇。 第9回 敵役の告白、末期の真実。 第10回 負の連鎖、暗い家筋。 第11回 黄昏の自裁。 第12回 將軍位継承の宝器。 第13回 『源氏物語』夕顔巻の要諦。 第14回 翻案と原作との反復／差異。パロディ論。 第15回 総括と情報交換、『源氏物語』に向けて。 <p>【テキスト】</p> <p>配布プリント（修紫田舎源氏 - 国貞挿絵付、源氏物語夕顔巻）</p> <p>【参考文献】</p> <p>特になし</p> <p>【評価方法】</p> <p>発表：20% 事前読解報告書：15% 提出物：15% 発言：50%</p>		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
自分のなかの「歴史」を知る		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会と歴史について様々な角度から学ぶ。世界と日本、アジアとの関係、戦争と貧困、格差、差別、エネルギーなど重要な問題を〈今を・共に・生きる〉という視点から考えていく。また新聞を読む習慣をつけて記事について議論し合い、日本、世界、そして自分と未来を切り開く構想力を養っていく。		
授業の概要	テキストと新聞読解によって、内容を正確に理解し、各自の関心や問題意識を深め、現代の諸問題を歴史的な流れを踏まえて考察できるようにする。個別報告や討論、新聞記事のワークシート作成などによって学問的な基礎を体得する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンスと自己紹介 第2回 世界地図を書こう！ 第3回 読むこと・書くこと・話すこと 第4回 個別報告と討論（1） 第5回 個別報告と討論（2） 第6回 個別報告と討論（3） 第7回 個別報告と討論（4） 第8回 個別報告と討論（5） 第9回 個別報告と討論（6） 第10回 個別報告と討論（7） 第11回 ワークショップ（1）模造紙は自由なキャンパスだ！ 第12回 ワークショップ（2） 第13回 ワークショップ（3） 第14回 ワークの報告と討論会 第15回 まとめ 問題の歴史的検証とこれからの課題		
テキスト	日本の現状や国際問題、経済格差など社会の様々な問題に関する文献の中から、履修者の関心に合わせ、相談の上で決定する。	参考文献	課題にあわせて適宜紹介する
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
江戸から東京へ		井上 泰至 (いのうえ やすし)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代の風俗・文化・文学について様々なアプローチを試みる。		
授業の概要	江戸（近世）という時代を知るために様々な文献、芸能、また現在に残る当時の遺物などを調査する。そうすることによって、この時代の風俗・文化・文学について考察し、さらには現代につながる「江戸」を見ていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 江戸時代について（フリー・ディスカッション） 第2回 各々のテーマの設定Ⅰ 第3回 各々のテーマの設定Ⅱ 第4回 レファレンス調査指導（全体） 第5回 レファレンス調査指導（個別Ⅰ） 第6回 レファレンス調査指導（個別Ⅱ） 第7回 レファレンス調査指導（個別Ⅲ） 第8回 各自レポート作成（個別指導あり） 第9回 同上 第10回 レポート発表（20分程度）Ⅰ 第11回 レポート発表（20分程度）Ⅱ 第12回 レポート発表（20分程度）Ⅲ 第13回 レポート発表（20分程度）Ⅳ 第14回 江戸から東京につながるもの（フリーディスカッション） 第15回 次なるテーマを求めて・・・		
テキスト	なし	参考文献	その都度、指定する
評価方法	授業参加:50% レポート内容:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
近現代の小説を読んでみよう		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	近現代の小説を読む訓練をし、卒業論文に備えます。読んで考え、資料を調べ、レジュメにまとめ、発表し、討論する、というゼミ発表の方法に即して、読解力・思考力・調査力を養います。また、皆で共に考え、意見交換することでより理解が深まるという経験をぜひもってほしいと思います。		
授業の概要	それぞれ深く読んでみたい作品を自分で選び（下記は一例です）、熟読してレジュメを作り、発表準備をします。テーマに合わせて図書館で資料を探し、読んでまとめます。発表とディスカッションを通じて、作品についてさらに理解を深めます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インタロダクション 発表する作品を決める 第2回 発表する作品を読み、文献を調べる 第3回 発表とディスカッション 太宰治 第4回 発表とディスカッション 芥川龍之介 第5回 発表とディスカッション 志賀直哉 第6回 発表とディスカッション 葉山嘉樹 第7回 発表とディスカッション 江戸川乱歩 第8回 発表とディスカッション 宮沢賢治 第9回 発表とディスカッション 三島由紀夫 第10回 発表とディスカッション 安部公房 第11回 発表とディスカッション 倉橋由美子 第12回 発表とディスカッション 山田詠美 第13回 発表とディスカッション 多和田葉子 第14回 発表とディスカッション シリン・ネザマフィ 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に配布します。	参考文献	その都度指示します。
評価方法	発表:40% 発言、コメントカード:30% 期末レポート:30%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
フィクションとノンフィクション——生活と生命の表現を読む		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	〈帝国〉システムの世界的な破綻、その下での貧富の両極分解は、さらに災害ショックを縦横に活用しながら止め処なく進行させられています。深まる凄惨な事態を捉える小説、ルポ、なかでも「災害」「貧困」「戦争」をテーマに、さまざまな作品を読みます。この作業を通して、他ならぬ自分自身の「生きる現在」を解読し、照らしだせるようにします		
授業の概要	各自が前期「学問入門演習」で学習したことを基礎にしたうえで、それぞれのテーマについて、教員の提示する作品リスト（多量な素材があり、どれを選んでもかまいません（授業計画はそのごく一例）。もちろん自分で探してきても可）から選んだ作品について、発表・討議します——たのしく、深く、そしてなにより、現在の自分をのり越えるため		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 導入—文献案内 第2回 ルポ ルポ①—鎌田慧『自動車絶望工場—ある季節工の手記』 第3回 ルポ ルポ②—石牟礼道子『苦海浄土—わが水俣病』 第4回 ルポ ルポ③—荒畑寒村『谷中滅亡史』 第5回 戦争の表現1—芥川龍之介『奇怪な再会』 第6回 戦争の表現2—武田泰淳『ひかりごけ』 第7回 戦争の表現3—大岡昇平『野火』 第8回 学生による発表と質疑応答（Aグループ） 第9回 学生による発表と質疑応答（Bグループ） 第10回 学生による発表と質疑応答（Cグループ） 第11回 学生による発表と質疑応答（Dグループ） 第12回 学生による発表と質疑応答（Eグループ） 第13回 学生による発表と質疑応答（Fグループ） 第14回 学生による発表と質疑応答（Gグループ） 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリントで配布します	参考文献	ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』上下（岩波書店） ルポの本は文庫本で入手できます。必読。
評価方法	レポート（調査・考察・文の巧拙）:50% 発表:30% ディスカッション参加度:20%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
生きること・愛すること・死ぬこと		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	健康でお金があればそれで幸せか、恋と愛はどのがちがうのか、結婚して子どもを産むのは「当たり前」か、家族は仲良くできるのか、「ドナーになってほしい」と言われたらどうするか、人は死んだらどこに行くのか-人生における疑問・課題をキリスト教信仰を基礎にしつつ、様々な角度から検討し、発表、討論を通して思索を深めることを目標とす		
授業の概要	それぞれのテーマについて担当者が発表をした後、ディスカッション。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 生きている・生かされているいのち 第2回 いのちをめぐる発表とディスカッション① 第3回 いのちをめぐる発表とディスカッション② 第4回 いのちをめぐる発表とディスカッション③ 第5回 4つの愛 第6回 親子をめぐる発表とディスカッション 第7回 友をめぐる発表とディスカッション 第8回 恋愛をめぐる発表とディスカッション 第9回 結婚・離婚・シングルをめぐる発表とディスカッション 第10回 アガペーをめぐる発表とディスカッション 第11回 死を見つめること 第12回 なぜ死は怖いのかをめぐる発表とディスカッション 第13回 死んだらどこに行くのかをめぐる発表とディスカッション 第14回 死別体験をめぐる発表とディスカッション 第15回 本当の幸せとは何か		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	授業のなかで指示
評価方法	発表:40% ディスカッション参加:20% 期末レポート:40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
日本を社会科学の領域から考察していくための基礎演習		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会科学の著作や論文を読み、社会科学の思考をしていくための、基礎的な教養を獲得し、方法を学ぶことが目標です。		
授業の概要	日本社会についての著作、あるいは日本社会を分析するために応用できる著作をいくつかセレクトし、内容を正確に読み解き、それを実際の社会分析に応用する練習を積み重ねていきます。また、社会諸科学においては正解のない問題も数多くあります。そのような問題について、読み、話し、書くことを通して探求する意味を体得したいと思います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーションと自己紹介 第2回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(1) 第3回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(2) 第4回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(3) 第5回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(4) 第6回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(5) 第7回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(6) 第8回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(7) 第9回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(8) 第10回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(9) 第11回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(10) 第12回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(11) 第13回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(12) 第14回 社会科学の著作の読解と討論・レポート作成指導(13) 第15回 総括		
テキスト	初回授業時に指定もしくは配布します。	参考文献	授業時に指示します。
評価方法	平常点:50% 期末レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
日本社会についての理解を深める		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
授業の到達目標 及びテーマ	学問入門演習で学んだスキルを応用し、日本社会の様々な問題について、文献・資料を共に読みながら理解を深める演習である。あわせて2年次の卒業研究のためのテーマを模索する。日本社会について深く学ぶことで読解力と調査力を養い、自主性とコミュニケーション力を身につけることができる。		
授業の概要	本年度は、日本社会・日本人にとって避けることのできない災害を取り上げ、災害問題や日本人の自然観を中心に日本社会・日本人について考える。具体的には、災害に関する共通テキストを輪読した後で、各自がテーマをたてて調査研究した結果をレジュメにまとめて発表し、それに基づいて討論を行い、共通理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 日本社会論、日本人論とは何か 第2回 日本人と災害 第3回 テキストの輪読（1） 第4回 テキストの輪読（2） 第5回 テキストの輪読（3） 第6回 テキストの輪読（4） 第7回 テキストの輪読（5） 第8回 発表（1） 第9回 発表（2） 第10回 発表（3） 第11回 発表（4） 第12回 発表（5） 第13回 発表（6） 第14回 発表（7） 第15回 全体まとめ		
テキスト	広瀬弘忠『人はなぜ逃げおくれるのか』（集英社新書）寺田寅彦『天災と日本人』（角川ソフィア文庫）	参考文献	テーマに応じて適宜紹介する。
評価方法	授業参加度:50% 期末レポート:50%		

卒業演習 I	前期 4 単位	2年
<p>科学・論理を読む＝研究論文にふれる……論および論理による主張とは何か。科学的態度に基づく主張とは何か……</p>	<p>岡崎 和夫（おかざき かずお）</p>	
<p><授業の到達目標及びテーマ> すでに分っていること、研究されていることを知るのは楽しい。しかし誰も気づかなかったことを知り、誰も考えなかったことについて考えるのは、もっと楽しい。その楽しみを知る。また、それに向けた学習のなかで、当該の研究史とその発展的検証がなされ、感覚・感情・思い付き的判断が修正されること、また、そうしたいとなみをひとあしひとあしふみしめふみかためるなかで、自己中心性から解放されていくことが強く期待される。それで充分。</p> <p><授業の概要> 誰も気づかなかったこと、考えなかったことについて考える芽を伸ばすのが教室の講義者としてのわたくしの役目と考えています。気づいたこと・考えついたことは授業中にわたくしにどんどんぶつけて下さい。その為に先行研究の把握は早くからおちついて、着実に、段階的に進めること。毎回の出席を特に大切に、質問はどんな小さなことでも授業中に全員の中で尋ねて宜しいです。確かな個人指導は、そこから、そして、そこに生まれています。なお、この講義は、申し出によって父母の参加が可能です。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマ以上に亘るごとに参加することが要請されます。</p> <p><授業計画> (前期) 第1回 導入(0) 研究論文が書けるちからとは？ 第2回 導入(1) 研究論文とはどうかきものか調べる 第3回 導入(2) 目標評価票および年間計画表提出 第4回 先行研究にふれる(1) 第5回 先行研究にふれる(1')・収集ノートとは？ 第6回 先行研究にふれる(2)・読破ノートとは？ 第7回 先行研究にふれる(2')・収集ノートの作成 第8回 先行研究にふれる(3)・読破ノートの作成 第9回 先行研究にふれる(3')・収集・読破ノートの成果 第10回 先行研究にふれる(4)・先行研究を超えるということ。 第11回 先行研究にふれる(4')・先行研究を超えるためのちから－知識篇－ 第12回 先行研究にふれる(5)・先行研究を超えるためのちから－思考力篇－ 第13回 先行研究にふれる(5')・先行研究を超えるために 第14回 先行研究を超える歩み(独創性ということ) 第15回 先行研究を超える歩み(研究的思考の愉しみ)</p> <p><テキスト> 共通の書物は『知の技法』, 旧版。手に入らなければ新版、可。 このほか各自、先行研究文献の集積を大切なテキストと考えて下さい。</p> <p><参考文献> 適宜指示します。</p> <p><評価方法> 論文の内容的達成度50% 学習姿勢50%</p>		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
生命倫理・社会倫理と法		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	「日本社会はどうあるべきか」「日本社会にどう向き合うべきか」「日本社会の中でどのように生きていくべきか」ということについて、生命倫理の課題を中心に深く検討する。そのなかで社会倫理的探究における自らのスタンスを形成していくと共に、基本的方法論を身に付けていく。そして、その成果を卒業論文にまとめるための準備を行う。		
授業の概要	授業は討論、話し合いが中心となる。予め指示された課題(文献を読んでくる、報告を用意する、卒業論文に関して指示されたことについてまとめてくる、など)を準備して授業に臨むこと。期末には卒業論文の準備としてのレポートの提出がある。なお夏休みに、卒業論文の中間報告に向けたゼミ合宿を行う可能性もある。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 『病院で死ぬということ』を巡る話し合い(医療の問題点) 第3回 " (家族の苦しみ) 第4回 " (患者の苦しみ) 第5回 " (医療がなすべきこと) 第6回 " (社会がなすべきこと) 第7回 「ケア」についての発表・討論 第8回 「ケア」についての発表・討論 第9回 「ケア」についての発表・討論 第10回 「ケア」についての発表・討論 第11回 ホスピスの理念と実際:「いのちを支える」ことを話し合う 第12回 在宅ホスピスの試み:「いのちを支える」ことを話し合う 第13回 卒論準備レポートの発表と話し合い 第14回 卒論準備レポートの発表と話し合い 第15回 前期のまとめ		
テキスト	最初に、山崎章郎『病院で死ぬということ』(文春文庫)。他のテキストは随時指定する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	授業への参加度合い:75% 卒論準備期末レポート:25%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
卒業論文 I—日本古典文学篇		小林 正明 (こばやし まさあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	○日本古典文学の卒業論文にむけ準備ができるようになる。 ○卒業論文の対象作品を直接読むことができる。 ○卒業論文のテーマを探究することができる。		
授業の概要	毎週2コマなので、各コマをA全体授業とB個別面談とに分けて、進行する。前期は、対象とする本文に親しむ時期。本文を読まずに研究文献だけで済ませるような卒論は空論にしかならない。履修者との相談によりけりだが、Aでは『源氏物語』多読に充て、古典文学の読書力を身につけたい。Bは、半期予定表に基き面談を実施する。		
授業計画	【前期】 第1回 A 授業案内と情報交換。B 半期面接予定周知。 第2回 A 『源氏物語』履歴確認。B 希望作品聴き取り。 第3回 A 『源氏物語』多読① B 希望作品調整。 第4回 A 『源氏物語』多読② B テキスト入手確認。 第5回 A 『源氏物語』多読③ B 読書計画報告。 第6回 A 『源氏物語』多読④ B 読書ノート吟味。 第7回 A 『源氏物語』多読⑤ B 読書進捗確認。 第8回 A 『源氏物語』多読⑥ B 着眼筆記提出。 第9回 A 『源氏物語』中間総括 B 着眼筆記訂正。 第10回 A 『源氏物語』多読⑦ B 立論対象の相談。 第11回 A 『源氏物語』多読⑧ B 立論対象の修正。 第12回 A 『源氏物語』多読⑨ B 模範論文リサーチ。 第13回 A 『源氏物語』多読⑩ B 夏期草稿の骨子案。 第14回 A 『源氏物語』多読⑪ B 夏期草稿骨子修正。 第15回 A 『源氏物語』前期講評 B 夏期草稿諸注意。		
テキスト	各自によりけり。	参考文献	個別面接にて指示する。
評価方法	多読水準:50% 個別進捗の達成:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
歴史を学び社会を知り自己をみつめる		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会の諸問題を歴史的経過と共に考察する。女性の〈自立〉、経済格差、アジア、日米関係、教育、食、エネルギー、戦争と平和などテーマを決めて報告する。文献読解・調査・分析・報告の方法を体得し実践力を鍛える。新聞は必読。毎週各自の選択した記事を議論し、認識を深める。映像視聴や実習、アニメなど様々な素材を考える。		
授業の概要	日本社会の様々な現状を理解し分析力をつける。テキストを講読し、分担して発表を行い、読解の方法・報告の仕方等について体得する。その後、各自のテーマを決めて研究の準備を行う。テキスト講読や問題の分析などの結果について、活発に議論し、各自のテーマを深めることに還元していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 現状の分析と問題の確認① 第3回 現状の分析と問題の確認② 第4回 現状の分析と問題の確認③ 第5回 テキスト講読と討論① 第6回 テキスト講読と討論② 第7回 テキスト講読と討論③ 第8回 テキスト講読と討論④ 第9回 テキスト講読と討論⑤ 第10回 テキスト講読と討論⑥ 第11回 テキスト講読と討論⑦ 第12回 テキスト講読と討論⑧ 第13回 研究課題に取り組む① 第14回 研究課題に取り組む② 第15回 まとめ		
テキスト	小熊英二『日本という国』（理論社）、鹿野政直『日本の近代思想』（岩波新書）など（履修者との話し合いによって変更する場合もある）。新聞は各	参考文献	課題にあわせて適宜紹介する
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
江戸時代文化・文芸・芸能・風俗・歴史の研究		鹿倉 秀典 (しかくら ひでのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代の「文学・文化・芸能・風俗・歴史など」に関するテーマで卒業論文を作成する学生を対象として、論文作成に向けた指導を行う。		
授業の概要	まず、学生各人が関心を持つ分野について、基礎的な資料を探索することから始める。その資料を基に、さらに深くその分野を知り、自己の論文の主題を決定する。また、周辺資料も広くあたり、テーマの深化を計る。論文そのものの構成と内容、文献あるいは絵画資料、場合によっては音声資料などの用い方についても具体的に指示する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 課題（テーマ）・研究ノートの作成 第2回 5枚程度の概略文の作成 第3回 上記概略文を元にした個別指導 ① 第4回 同 上 ② 第5回 同 上 ③ 第6回 10枚程度の発表原稿用意（個別指導）① 第7回 同 上 ② 第8回 同 上 ③ 第9回 研究発表① 第10回 同 上 ② 第11回 同 上 ③ 第12回 各発表者による討議・検討① 第13回 同 上 ② 第14回 総評（さらに発展させるために） 第15回 15枚程度のレポート提出		
テキスト	個人各々の「テーマ」により、それぞれに指示します。	参考文献	「テーマ」に応じて、指示するとともに、各々が作成した「研究ノート」が参考文献となります。
評価方法	過程報告:50% レポート:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
近現代小説研究 1		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	研究対象を各自の問題関心に沿って調査研究する方法および、長い文章を論理的に構築しわかりやすく適切に表現する力を身につけます。テーマは一葉・漱石・賢治・太宰から戦争・沖縄・現代女性文学まで文学研究の他、ジェンダー・性・サブカルチャーなど現代文化論からも選択可。		
授業の概要	各自、対象作品等の分析、参考文献調査・読破を経て、ゼミ発表をします。 ゼミ発表に参加し、さまざまな研究に触れ、ディスカッションで理解を深めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 研究テーマを決め、計画を立てる 1 第 3回 研究テーマを決め、計画を立てる 1 第 4回 文献調査法を学ぶ 第 5回 個人研究中間報告 第 6回 発表とディスカッション 1 第 7回 発表とディスカッション 2 第 8回 発表とディスカッション 3 第 9回 発表とディスカッション 4 第 10回 発表とディスカッション 5 第 11回 発表とディスカッション 6 第 12回 発表とディスカッション 7 第 13回 発表とディスカッション 8 第 14回 前期の研究成果を振り返る 第 15回 夏休み以降の研究計画を立てる		
テキスト	とくになし	参考文献	授業中に指示
評価方法	発表:40% 発言とコメントカード:30% 期末レポート:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
近現代文学・評論の研究		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降の小説、ルポルタージュ、評論などを主として対象とし、みずからの問題意識を大切に育てながら、総合的な「論」を形作る。その過程で、先行研究の調査、他の分野で行なわれている発想・研究方法との比較をすること、論理的な説得の手順、自分自身の文体を見つけることなどを学習する。		
授業の概要	論文は、わかりやすい比喻で言えば、建築です。ヴィジョンを練り、よい材料を時間をかけて集め、柱と梁をしっかりと構築し、(論理的)不整合の無いようにブロックを組んでいきます。どうか雨漏りのないように、ひとりびとりの大切な問題意識が、その中で育ち、成長できている建築でありますように。そのために必要な技術を順次指導します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 論文作成に先立つ問題意識について 第 2回 テーマ、問題意識を固める I (序) 第 3回 テーマ、問題意識を固める II (図書館の利用) 第 4回 テキストの確定 第 5回 先行研究を収集する 第 6回 調査研究・論文作成と77-ロチ法の指導 I (先行研究の系統化) 第 7回 調査研究・論文作成と77-ロチ法の指導 II (筋立ての作成) 第 8回 調査研究・論文作成と77-ロチ法の指導 III (テーマの追究) 第 9回 調査研究・論文作成と77-ロチ法の指導 IV (テーマの深化) 第 10回 概要の発表 I (グループ A) 第 11回 概要の発表 II (グループ B) 第 12回 概要の発表 III (グループ C) 第 13回 概要の発表 IV (グループ D) 第 14回 概要の発表 V (グループ E) 第 15回 夏季の課題を確認		
テキスト	各自の対象とするテキストとノート	参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します。
評価方法	論文内容:70% 中間報告など作成過程における達成:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
身体・健康論、日本の舞踊文化		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標及びテーマ	健康・身体文化・身体表現全般から各自の関心に沿って調査・研究を進め、論文の作成を目指します。		
授業の概要	テーマに応じてグループを作り、途中経過報告と質疑応答、ミニレクチャーを中心にすすめます。発表と活発な討論によって互いに視野を広げるとともに、自らの必要な作業は何なのかを明確にし、独自性や妥当性を論証する具体的な研究方法を身につける。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業演習の進め方 第3回 身体・健康論 第4回 日本の舞踊文化と西洋の舞踊文化 第5回 研究テーマの模索 第6回 研究計画の発表 1 第7回 研究計画の発表 2 第8回 研究計画の発表 3 第9回 発表とディスカッション 1 第10回 発表とディスカッション 2 第11回 発表とディスカッション 3 第12回 個別指導 1 第13回 個別指導 2 第14回 前期のまとめ 第15回 下書き作成上の注意点（夏休み中の作業について）		
テキスト	テーマに沿って、その都度指示します	参考文献	その都度指示します
評価方法	論文執筆過程:50% 論文:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
卒業演習・卒業論文		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標及びテーマ	各自のテーマをキリスト教を基に考察することをおし、自分自身と他者を新たに発見し、真に自由で豊かな人生を切り開く力をつけるための演習。聖書・キリスト教文化・文学・教会史・比較宗教・「3・11」・死生学等をおして学ぶ。		
授業の概要	講義、ディスカッション、ワークショップ等により考察を深め、各自のテーマ設定を行い、研究・論文作成へと向かう。夏期休暇中に卒論中間報告のためゼミ合宿を行う予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 ワークシヨップ① 第3回 ワークシヨップ② 第4回 グループ面談① 第5回 グループ面談② 第6回 グループ面談③ 第7回 発表とディスカッション① 第8回 発表とディスカッション② 第9回 発表とディスカッション③ 第10回 発表とディスカッション④ 第11回 発表とディスカッション⑤ 第12回 ワークシヨップ③ 第13回 個別指導① 第14回 個別指導② 第15回 前期のまとめ		
テキスト	新共同訳聖書『中型ハンディバイブル』（日本聖書協会） 吉岡康子『旧約聖書の人間模様』（日本キリスト教	参考文献	各自に指示
評価方法	授業への参加態度:50% 論文執筆の過程:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする専門的研究手法の獲得		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会科学の領域から日本という対象にアプローチしていくために、研究の方法や、論理の構築方法を学ぶ。		
授業の概要	共通の研究書や論文を読み解き、たがいに議論しながら、粘り強く、論理的に思考する訓練を行うと同時に、メンバーそれぞれの個性から豊かに学ぶことができる空間を作っていく。		
授業計画	【前期】 第 1回 オリエンテーションと自己紹介 第 2回 オリエンテーションと自己紹介 第 3回 テキストの読解と討論 第 4回 テキストの読解と討論 第 5回 テキストの読解と討論 第 6回 テキストの読解と討論 第 7回 テキストの読解と討論 第 8回 資料探索の手法 第 9回 テキストの読解と討論 第10回 テキストの読解と討論 第11回 テキストの読解と討論 第12回 テキストの読解と討論 第13回 卒業論文のテーマ設定のために 第14回 卒業論文のテーマ設定のために 第15回 卒業論文のテーマ設定のために		
テキスト	授業中に指示	参考文献	授業中に指示
評価方法	平常点:80% 振り返りレポート:20%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
日本の社会やメディアについての理解を深める。		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	2年後期の卒業演習Ⅱの準備段階として、日本の社会やメディアについての共通理解を深めるとともに、将来社会人として要求される学生の諸能力を少人数授業の中で養成する。学生は、問題発見力、調査力、分析力、討議力、表現力および発表力を合わせたコミュニケーション能力、が身に着くことが期待される。		
授業の概要	授業の前半は、災害という切り口から日本社会についての理解を深めるため、共通テキストを輪読する。後半は、各自自由に現代日本社会に関するテーマを選択して調査研究を行い、分析結果をレジュメにまとめて発表し、それに基づいて討論を行い、現代日本社会についての理解を深める。		
授業計画	【前期】 第 1回 導入と今後のスケジュール 第 2回 テキストの輪読 (1) 第 3回 テキストの輪読 (2) 第 4回 テキストの輪読 (3) 第 5回 テキストの輪読 (4) 第 6回 テキストの輪読 (5) 第 7回 テキストの輪読 (6) 第 8回 発表と討論 (1) 第 9回 発表と討論 (2) 第10回 発表と討論 (3) 第11回 発表と討論 (4) 第12回 発表と討論 (5) 第13回 発表と討論 (6) 第14回 発表と討論 (7) 第15回 全体まとめ		
テキスト	寺田寅彦『天災と日本人』（角川ソフィア文庫）寺田寅彦『天災と国防』（講談社文庫）	参考文献	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	演習参加度:30% 中間発表:30% 最終レポート:40%		

卒業演習Ⅱ	後期 4 単位	2年
<p>科学・論理を読む＝研究論文にふれる……論および論理による主張とは何か。科学的態度に基づく主張とは何か……</p>	<p>岡崎 和夫（おかざき かずお）</p>	
<p><授業の到達目標及びテーマ> すでに分っていること、研究されていることを知るのは楽しい。しかし誰も気づかなかったことを知り、誰も考えなかったことについて考えるのは、もっと楽しい。その楽しみを知る。また、それに向けた学習のなかで、当該の研究史とその発展的検証がなされ、感覚・感情・思い付き的判断が修正されること、また、そうしたいとなみをひとあしひとあしふみしめふみかためるなかで、自己中心性から解放されていくことが強く期待される。それで充分。</p> <p><授業の概要> 誰も気づかなかったこと、考えなかったことについて考える芽を伸ばすのが教室の講義者としてのわたくしの役目と考えています。気づいたこと・考えついたことは授業中にわたくしにどんどんぶつけて下さい。その為に先行研究の把握は早くからおちついて、着実に、段階的に進めること。毎回の出席を特に大切に、質問はどんな小さなことでも授業中に全員の中で尋ねて宜しいです。確かな個人指導は、そこから、そして、そこに生まれています。なお、この講義は、申し出によって父母の参加が可能です。ただし、そのばあい、すくなくとも連続する週の2コマ以上に亘るごとに参加することが要請されます。</p> <p><授業計画> (後期) 第1回 草稿の調整へ提出(1) 第2回 草稿の調整へ提出(2)→9/28の正午締め切り(厳守) 第3回 草稿からの展開 第4回 草稿からの展開・ほんとうの論文とは、どんな書きもの？ 第5回 草稿からの展開・ほんとうの論文へ向けて 第6回 草稿からの展開・ほんとうの論文へshiftするちから。 第7回 学友の稿から学ぶということ 第8回 学友の稿から学ぶことが正しく見えてくるか？ 第9回 学友の稿から学ぶことのおおきさ・共通的なもの。 第10回 学友の稿から学ぶこと・自己中心性からの脱却 第11回 学友の稿から学ぶこと・「要旨」は出来た？！ 第12回 提出後の指導《最重要》・自己評価の提出 第13回 提出後の指導《最重要》・後輩へどんなことがらを伝えたいか 第14回 提出後の指導《最重要》・後輩へ伝えることば 第15回 提出後の指導《最重要》・後輩へ伝えるころ</p> <p><テキスト> 共通の書物は『知の技法』, 旧版。手に入らなければ新版、可。 このほか各自、先行研究文献の集積を大切なテキストと考えて下さい。</p> <p><参考文献> 適宜指示します。</p> <p><評価方法> 論文の内容的達成度50% 学習姿勢50%</p>		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
生命倫理・社会倫理と法		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	「日本社会はどうあるべきか」「日本社会にどう向き合うべきか」「日本社会の中でどのように生きていくべきか」ということについて、生命倫理の課題を中心にして深く検討する。卒業演習Ⅰでなされた準備をもとに、学びの集大成として卒業論文を作成する。		
授業の概要	授業は卒業論文に関する討論、話し合いと卒業論文指導が中心となる。予め指示された課題(文献を読んでくる、報告を用意する、卒業論文原稿を指示されたところまで書いてくる、など)を準備して授業に臨むこと。		
授業計画	【後期】 第1回 卒業論文中間報告 第2回 卒論に関連するテーマを選んだ討論 第3回 卒論に関連するテーマを選んだ討論 第4回 卒論に関連するテーマを選んだ討論 第5回 卒論に関連するテーマを選んだ討論 第6回 卒論に沿った報告と討論 第7回 卒論に沿った報告と討論 第8回 卒論に沿った報告と討論 第9回 卒論に沿った報告と討論 第10回 卒論に沿った報告と討論 第11回 卒論に沿った報告と討論 第12回 卒論に沿った報告と討論 第13回 卒論に沿った報告と討論 第14回 卒論提出とフリーフィング 第15回 卒業演習のふりかえり		
テキスト	特になし。	参考文献	卒業論文のテーマごとに指示する。
評価方法	卒業論文:75% 授業への参加度合い:25%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒業論文Ⅱ—日本古典文学篇		小林 正明 (こばやし まさあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	○卒業論文を完成することができる。 ○卒業論文の前提となる作品に習熟することができる。 ○卒業論文に必要な方法論を体得することができる。		
授業の概要	週に2コマなので、原則的には、各コマごとにA全体授業とB個別面談に分けて運用する。Aでは方法論に主眼とおいた論文研究、Bでは各自の作品・テーマに沿った面談内容とする。対象論文は履修者との相談によりけりだが、方法論の見本とするに値する論稿を扱う。では卒論の進捗を督励する。		
授業計画	【後期】 第1回 A模範論文申告B草稿提出 第2回 A模範論文①検討B草稿修正指示 第3回 A模範論文②検討B草稿修正確認 第4回 A模範論文③検討B草稿補足 第5回 A模範論文④検討B補充計画申告 第6回 A模範論文⑤検討B補充計画点検 第7回 A模範論文⑥検討B補充進捗確認 第8回 A模範論文⑦検討B補充草稿相談 第9回 A模範論文①止揚B補充草稿骨子提出 第10回 A模範論文②止揚B提出論文諸注意 第11回 A模範論文③止揚B提出論文下見 第12回 A模範論文④止揚B提出論文修正 第13回 A模範論文⑤止揚B論文提出確認 第14回 A模範論文⑥止揚B論文訂正指示 第15回 A模範論文⑦止揚B論文講評		
テキスト	各自によりけり	参考文献	個別に指示する
評価方法	模範論文の解説精度:50% 完成論文の水準:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
歴史を学び社会を知り自己をみつめる		小林 瑞乃（こばやし みずの）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が興味をもったテーマについて問題の所在を探り、調査・研究する。研究と報告を積み重ねることで学問的方法を習得し、オリジナリティのある卒業論文を完成する。また、毎週各自の選んだ新聞記事について議論し、現代社会の諸状況を歴史的背景とともに理解する。		
授業の概要	毎週新聞記事の記入シート作成と議論を行う。また分担して論文のテーマ研究の報告を行い、全体で活発に議論しあいながら次の課題や問題点を探り、各自の研究を深めていく。先行研究や史料読解、論文の書き方など、論文完成に向けた全般的な指導を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 テーマ研究の結果報告① 第2回 テーマ研究の結果報告② 第3回 問題点の確認① 第4回 問題点の確認② 第5回 各自の研究報告と討論① 第6回 各自の研究報告と討論② 第7回 各自の研究報告と討論③ 第8回 各自の研究報告と討論④ 第9回 卒論中間報告会① 第10回 卒論中間報告会② 第11回 各自の研究報告と討論⑤ 第12回 各自の研究報告と討論⑥ 第13回 各自の研究報告と討論⑦ 第14回 完成直前！対策 第15回 卒論完成報告会		
テキスト	適宜資料を配布する	参考文献	授業中に随時紹介する
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
江戸時代文化・文芸・芸能・風俗・歴史の研究論文の作成		井上 泰至（いのうえ やすし）	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代の「文学・文化・芸能・風俗・歴史など」に関するテーマで卒業論文を作成する学生を対象として、論文作成に向けた指導を行う。江戸という時代を俯瞰し、学生各人が持つ「江戸時代」に関する課題について、歴史的な位置づけを考察し、各々の知識の充実を図る。		
授業の概要	江戸時代の地域的差異にも着目して論文作成を進めていく。京坂（上方）と江戸の差異、「都市」と「地方」の差異などの観点なども各人のテーマに合わせて探っていく。また、先行研究や他の学説への言及も含め、主張の一貫性、説得性、論理性、言語表現の適切性などを確認し、「論文」を完成させることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 「卒業演習Ⅰ」で作成したレポートを読み直す 第2回 上記レポートを元に論文構成を考える 第3回 個別指導Ⅰ 第4回 個別指導Ⅱ 第5回 個別指導Ⅲ 第6回 中間発表Ⅰ 第7回 中間発表Ⅱ 第8回 中間発表Ⅲ 第9回 相互意見交換 第10回 論文下書き期間Ⅰ 第11回 論文下書き期間Ⅱ 第12回 個別指導（添削）Ⅰ 第13回 個別指導（添削）Ⅱ 第14回 個別指導（自己申告） 第15回 卒業論文提出		
テキスト	各個人の「テーマ」に応じて、それぞれ指示します。	参考文献	卒業演習Ⅰで作成したレポート・「研究ノート」・その他、各々に指示します。
評価方法	過程報告:40% 論文内容:60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
近現代小説研究 2		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	研究対象を各自の問題関心に沿って調査研究する方法および、長い文章を論理的に構築しわかりやすく適切に表現する力を身につけます。テーマは一葉・漱石・賢治・太宰から戦争・沖縄・現代女性文学まで文学研究の他、ジェンダー・性・サブカルチャーなど現代文化論からも選択可。		
授業の概要	前期の成果と夏期中の研究をまとめた夏期レポートを提出します。各自、新たに設定した研究テーマをさらに研究し、ゼミ発表します。論理的で分かりやすい文章作法を学び、論文を作成します。相互に添削しあうことを通して、「伝わる文章」を目指します。		
授業計画	【後期】 第1回 後期イントロダクション 第2回 発表とディスカッション1 第3回 発表とディスカッション2 第4回 発表とディスカッション3 第5回 発表とディスカッション4 第6回 発表とディスカッション4 第7回 文章作成法1 第8回 文章作成法2 第9回 個別指導1 第10回 個別指導2 第11回 個別指導3 第12回 個別指導4 第13回 ふりかえりと共有1 第14回 ふりかえりと共有2 第15回 まとめ		
テキスト	とくになし	参考文献	授業中に指示
評価方法	夏期レポート:10% ディスカッション:20% 卒論制作過程:30% 卒論:40%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
近現代文学・評論の研究		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降の小説、ルポルタージュ、評論などを主として対象とし、みずからの問題意識を大切に育てながら、総合的な「論」を形作る。その過程で、先行研究の調査、他の分野で行なわれている発想・研究方法との比較をすること、論理的な説得の手順、自分自身の文体を見つけることなどを学習する。		
授業の概要	論文は、わかりやすい比喻で言えば、建築です。ヴィジョンを練り、よい材料を時間をかけて集め、柱と梁をしっかりと構築し、(論理的)不整合の無いようにブロックを組んでいきます。どうか雨漏りのないように、ひとりびとりの大切な問題意識が、その中で育ち、成長できている建築でありますように。そのために必要な技術を順次指導します。		
授業計画	【後期】 第1回 草稿を提出 第2回 課題の修正、追補 第3回 論文推敲Ⅰ (テーマ・構成について) 第4回 論文推敲Ⅱ (章ごとの内容について) 第5回 論文推敲Ⅲ (部分と全体の関係について) 第6回 論文推敲Ⅳ (序論と結論について) 第7回 論文推敲Ⅴ (注について) 第8回 グループごとの指導A 第9回 グループごとの指導B 第10回 グループごとの指導C 第11回 グループごとの指導D 第12回 グループごとの指導E 第13回 口頭試問面接 (グループⅠ) 第14回 口頭試問面接 (グループⅡ) 第15回 口頭試問面接 (グループⅢ)		
テキスト	各自の対象とするテキストとノート	参考文献	各自のテーマに応じて適宜紹介します。
評価方法	論文内容:70% 中間報告など作成過程における達成:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
身体・健康論、日本の舞踊文化		森下 春枝（もりした はるえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	健康・身体文化・身体表現全般から各自の関心に沿って調査・研究を進め、論文の作成を目指します。		
授業の概要	テーマに応じてグループを作り、途中経過報告と質疑応答、ミニレクチャーを中心にすすめます。発表と活発な討論によって互いに視野を広げるとともに、自らの必要な作業は何なのかを明確にし、独自性や妥当性を論証する具体的な方法を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 中間報告提出と今後の予定等 第2回 中間報告をもとに個別指導1 第3回 中間報告をもとに個別指導2 第4回 Aグループ面談指導1 第5回 Bグループ面談指導1 第6回 Cグループ面談指導1 第7回 Aグループ面談指導2 第8回 Bグループ面談指導2 第9回 Cグループ面談指導2 第10回 個人面談1 第11回 個人面談2 第12回 論文提出前の指導 第13回 最終報告1 第14回 最終報告2 第15回 最終報告3		
テキスト	テーマに沿って、その都度指示します	参考文献	その都度指示します
評価方法	論文執筆過程:50% 論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒業演習・卒業論文		吉岡 康子（よしおか やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	ディスカッションやワークショップ、ゼミ生間の交流等をとおして各自の研究テーマを深め「自分にとって納得のできる」卒論を完成させ、また「青山学院で学んで良かった」と喜んで卒業の日を迎えることが目標。		
授業の概要	ディスカッションやワークショップ、グループ、個人指導を重ねつつ、論文完成を目指す。		
授業計画	【後期】 第1回 後期イントロダクション 第2回 ワークショップ① 第3回 ワークショップ② 第4回 個別指導① 第5回 個別指導② 第6回 個別指導③ 第7回 個別指導④ 第8回 発表とディスカッション① 第9回 発表とディスカッション② 第10回 発表とディスカッション③ 第11回 発表とディスカッション④ 第12回 発表とディスカッション⑤ 第13回 発表とディスカッション⑥ 第14回 発表とディスカッション⑦ 第15回 最終発表とシェアリング		
テキスト	新共同訳聖書『ハンディバイブル』（日本聖書協会）	参考文献	各自に指示
評価方法	授業参加態度:40% 卒業論文:60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
政治学・社会思想・沖縄学にかんする卒業論文の作成		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標及びテーマ	前期に社会科学領域から日本という対象にアプローチするための研究手法を獲得していくと同時に、各自のテーマに沿って卒業論文を作成する。		
授業の概要	メンバーそれぞれが研究発表を行い、それについて全員で議論していく。たがいにとおいに学び合うことが、内容の濃い卒業論文に結実していくので、教室ではとことん議論することを重んじる。卒業論文の具体的な作成の仕方の指導も行う。		
授業計画	【後期】 第1回 研究発表と討論 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 研究発表と討論 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 研究発表と討論		
テキスト	なし	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
日本社会論・日本人論のテーマで卒業論文を書く。		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標及びテーマ	日本社会論・日本人論の枠内で大きくテーマを設定し、自主的に文献やデータを収集し分析する。過去の研究を参考に、自分のテーマを絞り込み、討議および教員のアドバイスを受けつつ修正をくわえ、最終的に、平常の授業レポートを上回るレベルの卒業論文を完成する。問題発見力、文献探索力、発表力、文章表現力を養成する。		
授業の概要	まず各自が卒業論文の大きなテーマを決め、論文の構想を立てる。それに必要な文献およびデータを収集し、分析する。さらに、これまでの研究を参考に追求すべき論点を絞り込むことによりテーマを決める。目次を立てて論文を作成し、修正を加えつつ論文を完成する。論文作成途中で中間報告、進行状態の報告を行い、お互いの理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 導入と今後の予定 第2回 大きなテーマの選択 第3回 論文の構想(1) 第4回 論文の構想(2) 第5回 文献やデータの収集(1) 第6回 文献やデータの収集(2) 第7回 これまでの研究のレビュー(1) 第8回 これまでの研究のレビュー(2) 第9回 これまでの研究のレビュー(3) 第10回 論文の構想(3) 第11回 論文の構想(4) 第12回 論文の概要の決定 第13回 論文の作成(1) 第14回 論文の作成(2) 第15回 論文の完成		
テキスト	特になし。	参考文献	各人の選択したテーマごとに指示する。
評価方法	授業参加度:30% 中間報告:20% 卒業論文:50%		

Introductory College English I A (英語講義)	前期 1 単位	1年
Listening and Speaking		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy) 【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.</p> <p>【授業の概要】</p> <p>In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations <p>Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.</p> <p>Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.</p> <p>【授業計画】 First Semester Week 1 Course Goals and Objectives Week 2 Unit 1: Talking about Introductions Week 3 Unit 2: Talking about Family Week 4 Unit 3: Talking about Movies Week 5 Unit 4: Talking about Directions Week 6 Preparing a three -minute Presentation; Prepare for Test 1 Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion Week 8 Test Feedback; preparing a three-minute presentation Week 9 Three-minute presentation Week 10 Unit 5: Talking about Travel Week 11 Unit 6: Talking about Recipes Week 12 Unit 7: Talking about Health Week 13 Unit 8: Talking about Making a Speech Week 14 Test 2 Dictation, Listening Comprehension and Discussion Week 15 How to Make a Speech - Preparing your three-minute Speech</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests and 3-minute Speech 50% テストとスピーチの点数は、2回のテストと一回のスピーチ結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Participation/Homework 20% Vocabulary Quizzes 15% Three-minute Presentation 15%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English I B (英語講義)	前期 1 単位	1年
Writing		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p>Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Teacher and Course Introduction; Introduction to Paragraph writing Week 2 3 Parts of a Paragraph Week 3 Kinds of Paragraphs Week 4 Writing an Outline/concluding sentences Week 5 From Outline to Paragraph - Paragraph 1 - Time order Week 6 Test 1: Outlines; Booklet: Time Order - Error Paragraph Week 7 Test Feedback; Paragraph Unity and Concluding Sentences Week 8 Simple and Compound Sentences; Coordinate Conjunctions Week 9 Introduction to Listing Order Paragraphs Week 10 Listing Order Paragraph - Process; Writing Concluding sentences Week 11 Test 2: Time Order Paragraphs; Booklet: Process - Error Paragraph Week 12 Test Feedback; Listing Order Paragraph - Comparison; Transition Signals Week 13 Listing Order Paragraph - Contrast; Transition Signals Week 14 Listing Order Paragraph- Process Paragraphs and Sentence Structure Week 15 Preparation for Test 3: Listing Order Paragraphs</p> <p>【テキスト】 Booklet First Steps in Academic Writing-Level Two</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Paragraph Assignments 40% Homework and Class Participation 20%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English I C (英語講義)	前期 1 単位	1年
Reading		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)、ホホワイト (WHYTE, D. W.)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to utilize a range of reading skills in order to achieve the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. find specific information in a text easily 2. read more quickly 3. read short books (e.g. graded readers) 4. discuss and write about books you have read understand and enjoy texts written in natural English. <p>Without limiting the foregoing, students will be expected to master the following specific reading skills:</p> <p>Identifying the topic Skimming Scanning Predicting Identifying patterns of organization Making inferences</p> <p>In addition, students will be expected to at least double their reading speed by the end of the course.</p> <p>Finally, students will be expected to read at least one graded-reader per week.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, you will practice three different types of reading methods, as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Extensive Reading 2. Speed-Reading 3. Reading Skills <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the Course - Extensive Reading 2 Speed Reading & Skimming 3 Scanning & Thinking Skills 4 Previewing and Predicting 5 Making Predictions & Guessing Word Meaning 6 Review of Speed Reading and Reading Skills 7 Reading Test 1- Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 8 Reading Discussion 9 Looking for the Topic 10 Skimming - Review 11 Pronouns & Synonyms 12 Synonyms & Reading Comprehension 13 What is a Paragraph? & Review for the Test 14 Reading Test 2 - Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 15 Preparing Book Report Oral Presentation (Test 3) <p>【テキスト】 Booklet Cries from the Heart</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 TESTS 60% There will be three tests. Two will include speed-reading, reading-skills exercises, and a short story. You will need to answer comprehension questions about the story you read. The third will be an oral presentation about one of the books you read during the semester. Please see your course schedule for the dates. テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順に並べて、その上位 2 つの平均点になります。</p> <p>GRADED READERS 20% (Short stories that you will read at home) You will be asked to give brief summaries of and comments on the books you have read. Your comments will be given in written, oral, or written and oral form.</p> <p>HOMEWORK and CLASS PARTICIPATION 20%</p>		

Introductory College English I D	前期 1 単位	1年
語彙・文法・速読・精読		
<p>【担当教員】 黒岩 裕（くろいわ ゆたか）、後藤 千織（ごとう ちおり）、齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）、高野 嘉明（たかの よしあき）、山田 美穂子（やまだ みほこ）、湯本 久美子（ゆもと くみこ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 この科目では、Introductory College English I A・B・Cの学習内容の復習と再確認を踏まえつつ、そこで学習したリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四技能をより有機的に総合し、大学レベルに必要な語彙力・読解力・思考力・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>【授業の概要】 語彙・文法・速読・精読の四分野に焦点を当てた教材に沿って、問題練習とその解説を行う。これを通して、より正確に語義や構文を理解し、パラグラフや文章全体の論理構成を把握し、その内容を要約したり、自分の言葉で言い換えたり、批評的な読みに基づいてコメントしたりする実践的訓練を積む。</p> <p>【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 “Introductions”の語彙・速読 第3回 “Family”の語彙・速読 第4回 “Movies”の語彙・速読 第5回 “Directions”の語彙・速読 第6回 4ユニット分の語彙・文法の復習 第7回 発展読解素材の精読：“Introductions” “Family” 第8回 発展読解素材の精読：“Movies” “Directions” 第9回 “Travel”の語彙・速読 第10回 “Recipes”の語彙・速読 第11回 “Health”の語彙・速読 第12回 “Making a Speech”の語彙・速読 第13回 4ユニット分の語彙・文法の復習 第14回 発展読解素材の精読：“Travel” “Recipes” 第15回 発展読解素材の精読：“Health” “Making a Speech”</p> <p>【テキスト】 プリント。ほかは担当者の指示による。</p> <p>【参考文献】 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>【評価方法】 テスト：50% 平常点：50%</p>		

Introductory College English II A (英語講義)	後期 1 単位	1年
Listening and Speaking		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to carry out conversations, discussions and presentations on a range of topics, at the same time students will have mastered a vocabulary of high-frequency words.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, each week, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listening to extended conversations and checking comprehension 2. Discussion dictation 3. Rapid-speech dictation 4. Form-focused dictation 5. TOEIC Quizzes 6. Vocabulary Quizzes 7. Group conversations and discussions 8. Presentations <p>Each week, students will practice dictation, listening comprehension and discussion with a partner and in small groups. In addition, they will do homework each week consisting of dictation and listening exercises.</p> <p>Most listening and dictation exercises will be set as homework, and classroom time will concentrate on oral skills.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Three-minute presentation 1 (Summer Vacation) Week 2 Unit 9: Talking about Music Week 3 Unit 10: Talking about Friends Week 4 Unit 11: Talking about Money and Jobs Week 5 Unit 12: Talking about Superstitions Week 6 Preparing a three-minute presentation; Preparing for Test 1 Week 7 Test 1: Dictation, Listening Comprehension and Discussion Week 8 Three-minute presentation 2 on Units 9-12 Week 9 Speech Contest Week 10 TOEIC - IP Week 11 Unit 13: Talking about Sports Week 12 Unit 14: Talking about the News Week 13 Unit 15: Talking about Fashion Week 14 Unit 16: Talking about the Past and Future Week 15 Test 2: Dictation, Listening Comprehension and Discussion</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 50% テストとFinal Presentationの点数は、2回のテストと一回のグループプレゼンテーション結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Participation/Homework 20% Vocabulary Quizzes 15% Three-minute Presentations 15%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II B (英語講義)	後期 1 単位	1年
Writing		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to write paragraphs following an academic writing model.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, students will practice the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Brainstorming 2. Outlining 3. Topic Sentences 4. Supporting Sentences 5. Concluding Sentences 6. Types of Paragraph: Time Order; Listing Order; Space Order 7. Providing evidence and Support <p>Students will write paragraphs and outlines for homework and hand these in to teachers. Teachers will correct these paragraphs and hand them back to students, who will then rewrite their paragraphs based on the teachers' corrections.</p> <p>【授業計画】 Week 1 Describing the world around you: Space Order Week 2 Space Order Week 3 Paragraph Writing: Introduction to Reasons and Examples Week 4 Test 1: Space Order Paragraphs; Classwork – Error Paragra Week 5 Test Feedback; Complex Sentences Week 6 Facts and Opinions – Transition Signals Week 7 Supporting your opinion with evidence and examples Week 8 Writing an Opinion Paragraph with Supporting Evidence Week 9 In Class Writing: Supporting your reasons and Paraphrasing Week 10 Test 2: Opinion Paragraphs; Classwork – Opinion Paragraph Week 11 Test Feedback; Introduction to Summarizing - Avoiding Plagiarism - Paraphrasing Week 12 Identifying Main Points Week 13 Writing a Reaction Week 14 Supporting your reaction with examples Week 15 Reaction and Opinion; Prepare for Test 3</p> <p>【テキスト】 Booklet First Steps in Academic Writing–Level Two</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 Your grade for this course will be based on the following: Tests 40% テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順にして、その上位2つの平均点になります。 Paragraph Assignments 40% Homework and Class Participation 20%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

Introductory College English II C (英語講義)	後期 1 単位	1年
Reading		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)、ホホワイト (WHYTE, D. W.)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 By the end of this course, students will be able to utilize a range of reading skills in order to achieve the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. find specific information in a text easily 2. read more quickly 3. read short books (e.g. graded readers) 4. discuss and write about books you have read understand and enjoy texts written in natural English. <p>Without limiting the foregoing, students will be expected to master the following specific reading skills:</p> <p>Identifying the topic Skimming Scanning Predicting Identifying patters of organization Making inferences</p> <p>In addition, students will be expected to at least double their reading speed by the end of the course.</p> <p>Finally, students will be expected to read at least one graded-reader per week.</p> <p>【授業の概要】 In order to reach the goals listed above, you will practice three different types of reading methods, as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Extensive Reading 2. Speed-Reading 3. Reading Skills <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Book Presentations 2 What is the Topic and Main Idea? 3 Patterns of Organization 4 Paragraph Pattern - Listing Order 5 Paragraph Pattern - Cause & Effect 6 Skimming & Scanning -Review 7 Test 1 - Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 8 Paragraph Pattern: Time Order 9 TOEIC Test Reading or listening 10 Paragraph Patterns: Comparison/Contrast 11 Making Inferences 12 Reading Discussion: Short Story 6 'Callus' 13 Making Inferences (continued) 14 Test 2- Including Speed Reading, Reading Comprehension and Thinking Skills 15 Preparing Book Presentations for Test 3 <p>【テキスト】 Booklet Cries From the Heart</p> <p>【参考文献】 なし</p> <p>【評価方法】 TESTS 60% There will be three tests. Two will include speed-reading, reading-skills exercises, and a short story. You will need to answer comprehension questions about the story you read. The third will be an oral presentation about one of the books you read during the semester. Please see your course schedule for the dates. テストの点数は、3回のテスト結果を高得点順に並べて、その上位 2 つの平均点になります。 GRADED READERS 20% (Short stories that you will read at home) You will be asked to give brief summaries of and comments on the books you have read. Your comments will be given in written, oral, or written and oral form. HOMEWORK and CLASS PARTICIPATION 20%</p>		

Introductory College English II D	後期 1 単位	1年
語彙・文法・速読・精読		
<p>【担当教員】 黒岩 裕（くろいわ ゆたか）、後藤 千織（ごとう ちおり）、齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）、高野 嘉明（たかの よしあき）、山田 美穂子（やまだ みほこ）、湯本 久美子（ゆもと くみこ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 この科目では、Introductory College English II A・B・Cの学習内容の復習と再確認を踏まえつつ、そこで学習したリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四技能をより有機的に総合し、大学レベルで必要な語彙力・読解力・思考力・表現力を身につけることを到達目標とする。</p> <p>【授業の概要】 語彙・文法・速読・精読の四分野に焦点を当てた教材に沿って、問題練習とその解説を行う。これを通して、より正確に語義や構文を理解し、パラグラフや文章全体の論理構成を把握し、その内容を要約したり、自分の言葉で言い換えたり、批評的な読みに基づいてコメントしたりする実践的訓練を積む。</p> <p>【授業計画】 第1回 イン트로ダクション 第2回 “Music”の語彙・速読 第3回 “Friends”の語彙・速読 第4回 “Money and Jobs”の語彙・速読 第5回 “Superstitions”の語彙・速読 第6回 4ユニット分の語彙・文法の復習 第7回 発展読解素材の精読：“Music” “Friends” 第8回 発展読解素材の精読：“Money and Jobs” “Superstitions” 第9回 “Sports”の語彙・速読 第10回 “the News”の語彙・速読 第11回 “Fashion”の語彙・速読 第12回 “the Past and Future”の語彙・速読 第13回 4ユニット分の語彙・文法の復習 第14回 発展読解素材の精読：“Sports” “the News” 第15回 発展読解素材の精読：“Fashion” “the Past and Future”</p> <p>【テキスト】 プリント。ほか担当者の指示による。</p> <p>【参考文献】 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>【評価方法】 テスト：50% 平常点：50%</p>		

Intermediate College English IA (英語講義)	前期 1 単位	2年
Intermediate College English IA		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course students will continue to develop the reading and discussion skills they learned last year. During the semester, students will focus on two broad topics that are important in the world today (environmental issues and moral issues). For each unit students will learn new vocabulary, do a dictation exercise, a listening exercise, read articles, answer comprehension questions about the article, and have an opportunity to discuss the issues in pairs or small groups and express their opinions.</p> <p>【授業の概要】 There are a number of goals for this content-based course. The first four are English language use goals, and the other three are intellectual and personal development goals. Please see the course booklet for details.</p> <p>【授業計画】 (前期) 第1回 Introduction to the Course 第2回 Environmental Issues 1: Our Planet 第3回 Environmental Issues 2: Minamata 第4回 Environmental Issues 3: Water 第5回 Environmental Issues 4: Fast Food 第6回 Environmental Issues- Development and Feeding th 第7回 Reviewing Environmental Issues 第8回 Vocabulary and multiple Choice Test 1 第9回 Presentation 1 第10回 Moral Issues 1: A Moral World: Gender 第11回 Moral Issues 2: Parasite Singles 第12回 Moral Issues 3: Charity 第13回 Moral Issues 4: AIDS 第14回 Reviewing Moral Issues 第15回 Vocabulary and multiple Choice Test 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Participation:15% Homework:15%</p>		

Intermediate College English IB (英語講義)	前期 1 単位	2年
Intermediate College English IB		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (前期) 第1回 Introduction to the Course 第2回 Environmental Issues 1: Our Planet 第3回 Environmental Issues 2: Minamata 第4回 Environmental Issues 3: Water 第5回 Environmental Issues 4: Fast Food 第6回 Environmental Issues- Development and Hunger 第7回 Reviewing Environmental Issues 第8回 Presentation 1 第9回 Test 1 第10回 Moral Issues 1: A Moral World: Gender 第11回 Moral Issues 2: Parasite Singles 第12回 Moral Issues 3: Charity 第13回 Moral Issues 4: AIDS 第14回 Reviewing Moral Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>		

Intermediate College English II A (英語講義)	後期 1 単位	2年
Intermediate College English IIA		
<p>【担当教員】 カリガン (GULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course students will continue to develop the reading and discussion skills they learnt last year. During the semester, students will focus on two broad topics that are important in the world today (Health issues and World issues). For each unit students will learn new vocabulary, do a dictation exercise, a listening exercise, read articles, answer comprehension questions about the article, and have an opportunity to discuss the issues in pairs or small groups and express opinions.</p> <p>【授業の概要】 There are a number of goals for this content-based course. The first four are English language use goals, and the other three are intellectual and personal development goals.</p> <p>【授業計画】 (後期) 第 1回 Introduction to the Course - 4 Big Issues 第 2回 Health Issues 1: The Meaning of Health 第 3回 Health Issues 2: Smoking 第 4回 Health Issues 3: Organ Transplants 第 5回 Health Issues 4:Cloning 第 6回 Health Issues - Counterpoint 1: My life - My body 第 7回 Review of Health Issues 第 8回 Vocabulary and multiple Choice Test 1 第 9回 Presentation 1 第10回 TOEIC 第11回 World Issues 1: Free Trade 第12回 World Issues 2: Fair Trade 第13回 World Issues 3: Rich and Poor 第14回 Review of World Issues 第15回 Vocabulary and multiple Choice Test 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2:15% Participation:15% Homework:15%</p>		

Intermediate College English II B (英語講義)	後期 1 単位	2年
Intermediate College English IIB		
<p>【担当教員】 カリガン (CULLIGAN, B. A.)、グリック (GLICK, J.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、フィリップス (PHILLIPS, J. R.)、ピンター (PINTER, B.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、テラダ (TERADA, Betsy)</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 In this course, you will make use of the English you already know and continue to develop the discussion and writing skills you learned last year.</p> <p>【授業の概要】 You will concentrate on two broad issues that face the world today. Each week, you will learn about a particular issue. For homework, you will be required to do some vocabulary and question making exercises. You will also have to conduct some research in order to prepare for your presentations.</p> <p>【授業計画】 (後期) 第1回 Introduction to the Course 第2回 Health Issues 1: The Meaning of Health 第3回 Health Issues 2: Smoking 第4回 Health Issues 3: Organ Transplants 第5回 Health Issues 4: Cloning 第6回 Health Issues- My Life-My Body 第7回 Reviewing Health Issues 第8回 Presentation 1 第9回 Test 1 第10回 TOEIC 第11回 World Issues 1: Free Trade 第12回 World Issues 2: Fair Trade 第13回 World Issues 3: Rich and Poor 第14回 Reviewing World Issues 第15回 Test 2 and Preparation for Presentation 2</p> <p>【テキスト】 Booklet</p> <p>【参考文献】 An English-English Dictionary (electronic or otherwise) is recommended.</p> <p>【評価方法】 Written Test 1:20% Written Test 2:20% Presentation 1:15% Presentation 2 :15% Classwork/ Active Participation:15% Homework:15%</p>		

総合英語基礎A		前期 1 単位	1年
基礎から学ぶ英語の仕組み		水澤 祐美子 (みずさわ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	なんとなく理解できた気になっている英語の仕組み(文法)を基礎から学びます。英語の仕組みに慣れ、英語を使いこなす基礎を固めましょう。		
授業の概要	英語の仕組みを理解する上で重要な要素を毎週学びながら、練習問題を解いていき、定着を図ります。小テストを行いますので、授業内外での積極的な参加が望まれます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Verb and Basic Sentece Pattern (動詞と文型) 第2回 Sentence Type (文の種類) 第3回 Verb and Tense (動詞と時制) 第4回 Present, Past and Future Perfect (完了形) 第5回 Auxiliary Verb (助動詞) 第6回 Voice (態) 第7回 Infinitive (不定詞) 第8回 Gerund (動名詞) 第9回 Participle (分詞) 第10回 Comparison (比較) 第11回 Relative Pronoun (関係代名詞) 第12回 Relative Adverb (関係副詞) 第13回 Subjunctive (仮定法) 第14回 Sequence of Tenses and Narration (時制の一致と語法) 第15回 Review (まとめ)		
テキスト	Horiguchi, K. (2009) <i>Mastering Grammar Basics</i> . Longman.	参考文献	授業内で適宜紹介します。毎回必ず英和・和英辞書を持参してください。
評価方法	期末試験:50% 小テスト:40% 授業参加:10%		

総合英語基礎B		後期 1 単位	1年
英語の発音に慣れる		水澤 祐美子 (みずさわ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語でコミュニケーションを図る上で、スピーキング・リスニングは欠かせません。英語の発音に必要な知識を学びながら、英語をナチュラルスピードで聞き、憶測を交えることなく理解すると同時に、発話していく力を身につけましょう。		
授業の概要	英語に特有な母音や子音、様々な音の規則を中心に学習します。ディクテーション、音読筆写等を行いながら、演習形式で進めていきます。受講生は授業内外での積極的な参加が求められます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 日本語にない音 第3回 音の連結 (1) (子音+母音) 第4回 音の脱落 (1) (doin' etc.) 第5回 注意すべき母音 第6回 音の同化 (did you etc.) 第7回 音の脱落 (2) (破裂音) 第8回 音声変化の複合 第9回 音の弱化 第10回 音の連結 (2) (make you etc.) 第11回 音の脱落 (3) (曖昧な母音) 第12回 短縮形の音 (1) (助動詞+have) 第13回 短縮形の音 (2) (ストレスパターン) 第14回 音の脱落 (4) (似た子音の繋がり) 第15回 まとめ		
テキスト	Kadoyama, T. & Capper, S. (2011) <i>English with Hit Songs</i> . 4th Ed. Seibido	参考文献	授業中に適宜紹介します。毎回、必ず英和・和英辞書を持参してください。
評価方法	期末試験:50% 課題:40% 授業参加:10%		

言語科学A		前期 2 単位	1・2年
日英語の音		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では言語を科学的に研究する第一歩として、日英語の音声を取り上げ、受講生自身の口の動き、耳の働きをデータとして発音の仕組み・音韻構造の「なぜ」を明らかにしていく。毎回自身で課題と取り組むことにより、観察から仮説構築、そして仮説検証という一連の研究方法を習得する。加えて、英語の母音及び音変化の習得も目標とする。		
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction：音声器官・調音の仕組み 第2回 日本語の母音の発音 第3回 英語の母音の発音 第4回 日本語の連母音と英語の二重母音 第5回 開音節構造とモーラ 第6回 日本語の50音図：母音の歴史的变化とハ行転呼 第7回 日本語の50音図：音変化（連濁・促音・撥音） 第8回 音素と異音 第9回 英語の開音節構造 第10回 音節と聞こえ度 第11回 英語の音変化：短縮・消失・連結 第12回 英語の音変化：脱落・同化・弱化 第13回 日本語のピッチアクセント 第14回 英語のストレスアクセント 第15回 まとめ		
テキスト	特定のテキストを用いず担当者によるプレゼンテーションで進める。発音記号の記載のある学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会
評価方法	期末試験:50% 授業貢献・課題:50%		

言語科学B		後期 2 単位	1・2年
日英語の構造		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講座では、日英語の語彙(形態)・文の仕組み(統語)・意味(意味)の「なぜ」を取り上げる。受講生自らがデータを分析することにより、「なぜ」に対して説明を与えられるようにするのが目標である。また、母語である日本語と英語を対照することにより、英語の仕組みの理解を深めることも目標である。		
授業の概要	毎回、担当者のイントロダクションに引き続きグループ毎による課題ディスカッション・発表で授業を進める。課題に取り組むことにより、受講者自らがデータを分析し、そこからメカニズムを導き出す。毎回課題レポートの提出を求める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction 第2回 語の仕組み：拘束形態素・派生形態素 第3回 語の仕組み：転換・複合語・日本語複合動詞と英語表現 第4回 語の仕組み：逆形成・短縮・略語・頭文字語 第5回 文の仕組み：日本語の格助詞・英語の動詞と文型 第6回 文の仕組み：構造的曖昧性・構成素 第7回 文の仕組み：英語文の分析 第8回 生成文法概説・認知言語学概説 第9回 意味の仕組み：多様な意味・意味変化 第10回 意味の仕組み：多義語・同意語・反意語・上位語 第11回 意味の仕組み：メタファー・メトニミー 第12回 意味の仕組み：日英語語彙対照分析 第13回 意味の仕組み：英語冠詞分析 第14回 言語コミュニケーションと言語の特徴 第15回 まとめ		
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションで進め、適宜、資料を配布する。学習用英語辞書・A4サイズのバインダーを持参。	参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 2009. 『言語学第2版』東京大学出版会. その他授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末試験:50% 授業貢献・課題:50%		

文法理論A		前期 2 単位	1・2年
文法理論：形態論		狩野 郁子 (かのう いくこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	形態論に焦点を当て、講義を展開する。形態論を学習することで、語彙力の強化に繋がり、同時に母国語に関する知識をも深めてもらうこととなる。		
授業の概要	英語のmorphemesに関しての認識を深めた後、affixes, free/bound morphemes, derivational/inflectional morphemesを把握、判別しながら、形態論を習得していく。次に、word coinageと題して、新単語創造の過程を学習する。最後には、英語の形態論の概念を基に、世界の様々な言語においても同様の分析を行い、言語の普遍文法の一部を知ってもらう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction to Morphology 第2回 Classes of words: lexical content/function words 第3回 Morphemes in English: free/bound morphemes 第4回 Morphemes in English: prefix and suffix 第5回 Morphemes : derivational and inflectional morphemes 第6回 Review of morphemes 第7回 Quiz on morphemes 第8回 Word coinage: compounds and blends 第9回 Acronyms and back-formations 第10回 Other types of word coinage 第11回 Review of word coinage 第12回 Morphosyntax 第13回 Morphosyntax in other languages: Dutch and Russian 第14回 Morphosyntax in other languages: Zulu and Swahili 第15回 Wrap-up on morphology and morphosyntax		
テキスト	Hand-outs	参考文献	They will be introduced in class.
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

文法理論B		後期 2 単位	1・2年
文法理論：統語論		狩野 郁子 (かのう いくこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語の統語論を展開する。高校までの学校文法で学習してきたであろうtraditional grammarに関する知識を駆使しながら、transformational grammarを紹介し、知識を深めてもらう。		
授業の概要	まずは、phrase structure rulesを適用しtree diagramを作成していく方法を学ぶ。これにより、文章がphrasesの結合による立体構造をもつものであると認識してもらう。その後、日本語の文章構造との対照分析を行い、母語に関する知識も定着させていく。統語論の学習を通して、listening, speaking, reading, writingの4技能の向上を図る。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction to Syntax 第2回 Grammatical or ungrammatical? 第3回 Sentence structure: syntactic categories 第4回 Phrase structure trees 第5回 More phrase structure trees 第6回 The infinitude of language 第7回 Phrase structure rules 第8回 The relationship between phrase structure rules 第9回 Review of tree diagrams through a quiz 第10回 More phrase structure rules 第11回 Introduction to X-bar theory 第12回 The lexicon: subcategorization 第13回 Transformational rules 第14回 NP-movement and V-movement 第15回 WH-movement		
テキスト	Hand-outs	参考文献	English Syntax and Argumentation by Bas Aarts / Transformational Grammar by Andrew Radford
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

英語学A		前期 2 単位	1・2年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子 (みずさわ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。		
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 What is English linguistics? (英語学ってなんだろう?) 第3回 What is language? (ことばってなんだろう?) 第4回 History of English1 (様々な言語) 第5回 History of English2 (英語の歴史) 第6回 Phonetics and Phonology1 (発話のメカニズム) 第7回 Phonetics and Phonology2 (音の分類) 第8回 Phonetics and Phonology3 (イントネーションとリズム) 第9回 Morphology1 (語の特徴) 第10回 Morphology2 (語の形成) 第11回 Morphology3 (語の変化) 第12回 Syntax1 (句の構造) 第13回 Syntax2 (文の構造) 第14回 Syntax3 (情報の構造) 第15回 Review (まとめ)		
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内に随時指示します。
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%		

英語学B		後期 2 単位	1・2年
英語を通して言葉の科学を学ぶ		水澤 祐美子 (みずさわ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	言葉の様々な側面を科学的視点から捉えていながら、英語学について基本的な事項を理解していきます。		
授業の概要	慣れ親しんだ日本語と対照しながら英語学を学び、身近な事柄をテーマに授業を進めます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Semantics1 (ことばの意味) 第2回 Semantics2 (さまざまな意味関係) 第3回 Semantics3 (メタファー) 第4回 Pragmatics1 (談話のしくみ) 第5回 Pragmatics2 (ことばと文脈) 第6回 Pragmatics3 (発話行為) 第7回 Pragmatics4 (ポライトネス) 第8回 Sociolinguistics1 (ことばと社会) 第9回 Sociolinguistics2 (ことばと文化) 第10回 Sociolinguistics3 (ことばの違い) 第11回 Psycholinguistics1 (心とことば) 第12回 Psycholinguistics2 (ことばの習得) 第13回 Neurolinguistics (ことばと脳) 第14回 Other issues (ことばを取り巻く諸問題) 第15回 Review (まとめ)		
テキスト	初回授業で指示します。	参考文献	授業内で随時指示します。
評価方法	期末試験:50% レポート:40% 授業参加:10%		

音声学A		前期 2 単位	1・2年
英語音声学：子音		狩野 郁子 (かのう いくこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語子音の分析を中心に講義を展開する。日本語音との対照考察・分析しながら、共通点、相違点を見だし、どうすれば適切な英語子音が生み出せるかを学習する。発音記号の習得、判別、認識は必須となる。		
授業の概要	毎回の講義で、学生による発音練習、実践を繰り返し、英語子音の習得を図る。また、一つ一つのphoneを習得した上で、音のつながりによって起こるphonesの変化を観察し、音韻論を導入した講義展開へと移行する。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction to Phonetics 第2回 Articulatory phonetics 第3回 Bilabial stops 第4回 Alveolar and velar stops 第5回 Labiodental fricatives 第6回 Interdental fricatives 第7回 Alveolar fricatives 第8回 Alveo-palatal and palatal fricatives 第9回 Liquids 第10回 Glides/semi-vowels 第11回 Review of consonants through exercises 第12回 Review of consonants through a quiz 第13回 Prosodic suprasegmental feature 第14回 Tone and intonation 第15回 Review		
テキスト	Sounds Right! Sounds Good!	参考文献	An Introduction to Language / A Linguistics Workshop
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

音声学B		後期 2 単位	1・2年
英語音声学：母音		狩野 郁子 (かのう いくこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語母音の分析を中心に講義を展開する。日本語音との対照考察・分析しながら、共通点、相違点を見だし、どうすれば適切な英語母音が生み出せるかを学習する。発音記号の習得、判別、認識は必須となる。		
授業の概要	毎回の講義で、学生による発音練習、実践を繰り返し、英語母音の習得を図る。また、一つ一つのphoneを習得した上で、音のつながりによって起こるphonesの変化を観察し、音韻論を導入した講義展開へと移行する。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction to Phonetics 第2回 Classification of vowels 第3回 High/front vowels 第4回 Mid/front vowels 第5回 Low/front and central vowels 第6回 Central vowels 第7回 High/back vowels 第8回 Mid/back vowels 第9回 Review of vowels through exercises 第10回 Review of vowels through a quiz 第11回 Introduction to Phonology 第12回 Classes of words 第13回 Rhythm and intonation 第14回 Assimilation 第15回 Review		
テキスト	Sounds Right! Sounds Good!	参考文献	An Introduction to Language / A Linguistics Workshop
評価方法	In-class tasks:20% Homework and a quiz:20% Term examination:60%		

対照言語学		前期 2 単位	1・2年
日本語と英語の比較対照		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	音声、文字、文法、発想法、語彙・意味などの観点から見た日本語と英語の違いについて、実例を参照しながら具体的に観察することにより、日本語と英語の言語的な特徴や相違をよりよく、より深く理解することを目標とします。また、誤った「日本語特殊論」についても考察します。		
授業の概要	授業に必要な資料はプリントにして配布し、基本的には講義形式で授業を進めることとなりますが、受講者の積極的な授業参加も期待されます。必要な事柄はしっかりノートを取るようして下さい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 序論：世界の諸言語の中の日本語と英語 第3回 音声の日英語比較(母音) 第4回 音声の日英語比較(子音) 第5回 音節に関する日英語比較 第6回 アクセント・リズムに関する日英語比較 第7回 日本語と英語の文字体系 第8回 文法的類型からみた日本語と英語 第9回 文法の日英語比較(名詞・動詞) 第10回 文法の日英語比較(代名詞) 第11回 日本語の助詞と英語の冠詞、日本語の敬語体系 第12回 日本語と英語の発想法 第13回 語彙・意味の日英語比較 第14回 日本語と英語の造語法 第15回 補足とまとめ		
テキスト	特には使用せず、プリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:25% 授業参加度:25% 試験:50%		

社会言語学		後期 2 単位	1・2年
社会の諸相と言語の関係		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語を対象言語として、主に音声や文法に関する言語変種の特徴について詳細に観察することにより、社会の諸側面と言語の関係に関する基本的な概念を理解することを目標とします。言い換えれば、社会に存在する言語使用および言語使用者、という観点からみた場合の言語変種について考察することになります。		
授業の概要	基本的には講義形式で授業を進めますが、受講者の積極的な授業参加も期待されます。また、授業内容は英語に関するものですが、日本社会と日本語の関係について考えてみることも期待されます。必要な資料は配付しますが、ノートもしっかり取って下さい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会言語学の全体像 第2回 社会言語学の歴史と周辺領域 第3回 地域と言語(概論) 第4回 地域と言語(アメリカ) 第5回 地域と言語(イギリス) 第6回 地域と言語(その他の国々) 第7回 階級と言語(アメリカ) 第8回 階級と言語(イギリス) 第9回 人種・民族と言語 第10回 性別と言語 第11回 年齢層と言語 第12回 言語使用領域と言語 第13回 言語の格式度 第14回 伝達媒体(話し言葉と書き言葉) 第15回 補足とまとめ		
テキスト	特には使用せず、必要に応じてプリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:25% 授業参加度:25% 試験:50%		

コミュニケーション論A		前期 2 単位	1・2年
異文化間コミュニケーションの理解		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	コミュニケーションの基本的な仕組みについて観察することにより、外国語(この授業では英語)によるメッセージの発信から受信までの全体像を把握することを目標とします。言語を用いるコミュニケーションはもとより、異文化の影響、非言語的コミュニケーション、周辺言語について理解することを目指すことになります。		
授業の概要	基本的には講義形式で授業を行います。受講者の積極的な授業参加も期待されます。各授業の終わりに翌週扱う事柄に関して考えておくべき課題を提示し、翌週の授業はその課題に対して考えておいてもらった事柄を含めて展開されます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 (異文化間)コミュニケーションの全体像 第2回 コミュニケーション・モデル(情報の発信・受信) 第3回 コミュニケーション・モデル(情報の記号化) 第4回 コミュニケーション・モデル(情報伝達の媒体) 第5回 コミュニケーション・モデル(情報の解読) 第6回 コミュニケーション・モデル(ノイズ・余剰性) 第7回 コミュニケーションに対する異文化の影響 第8回 異文化間コミュニケーションのモデル 第9回 非言語コミュニケーション(ジェスチャーと姿勢) 第10回 非言語コミュニケーション(顔の表情) 第11回 非言語コミュニケーション(空間の捉え方) 第12回 非言語コミュニケーション(時間の捉え方) 第13回 非言語コミュニケーション(身体接触) 第14回 非言語コミュニケーション(外見的特徴) 第15回 周辺言語の問題		
テキスト	特には使用せず、必要に応じてプリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:25% 授業参加度:25% 試験:50%		

コミュニケーション論B		後期 2 単位	1・2年
様々なコミュニケーションにおける言葉を考える		田中 弥生 (たなか やよい)	
授業の到達目標 及びテーマ	生活の中の様々な場面におけるコミュニケーションについて考え、理解する。		
授業の概要	対面のコミュニケーションと電話や携帯メール、あるいはLINEなどのコミュニケーションは同じなのか、また相手や場面によって違いはあるのか、どのような言葉が使われているのか、ということそれぞれ実例によって考える。TV番組やCM、医療や裁判のコミュニケーションにおける言語の問題についても考える。日英語の比較も行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーションの種類 第3回 インターネットにおけるコミュニケーションの概要 第4回 インターネットにおけるコミュニケーションの変化 第5回 インターネットにおける言語コミュニケーション 第6回 インターネットにおける非言語コミュニケーション 第7回 インターネットにおけるコミュニケーションのまとめ 第8回 文章のコミュニケーション 第9回 TV番組におけるコミュニケーション 第10回 CMにおけるコミュニケーション 第11回 TV番組やCMにおける異文化コミュニケーション 第12回 医療におけるコミュニケーション 第13回 裁判におけるコミュニケーション 第14回 医療や裁判における異文化コミュニケーション 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	末田清子・福田浩子(2003)『コミュニケーション学—その展望と視点』 その他、講義にて紹介する。
評価方法	授業感想文:20% 提出物:20% レポート:60%		

世界の諸英語A		前期 2 単位	1・2年
世界の諸英語A		江田 優子 (こうだ ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代英語は国際的普及とそれに伴う英語の多様化という側面を持つ。本講ではNative Englishと、いわゆる正統派英語の流れを受け継ぐオーストラリア、カナダなどの英語の特徴を知り、英語の歴史、未来についての考察を行い、国際英語への理解を深める。		
授業の概要	前半は映像、音声などを随時使用しNative Englishの特徴を学び、リスニングなどの演習を行っていく。後半は、学生の発表を中心に授業を進めていく。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション、Globishとは？ 第2回 世界の諸英語という考え方 第3回 American English 第4回 British English 第5回 Scottish English 第6回 Australian English 第7回 Canadian English 第8回 History of English 第9回 Future of English 第10回 Preparation for Presentation 第11回 Student Presentation 1 第12回 Student Presentation 2 第13回 Student Presentation 3 第14回 Student Presentation 4 第15回 予備日		
テキスト	資料配布	参考文献	地球語としての英語 D.クリスタル みすず書房
評価方法	提出物、授業参加度:40% プレゼンテーション:30% レポート:30%		

世界の諸英語B		後期 2 単位	1・2年
世界の諸英語B		江田 優子 (こうだ ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講では、英語を外国語として位置付けている世界の国々の英語の特徴を扱う。シンガポール、ブラジル、インド、中国、日本では、人々はどのような英語を話し、どのように活用しているだろうか。会話やドキュメンタリー映像を通じて、各国の英語変種を分かりやすく学んでいく。		
授業の概要	前半は各国の英語変種についてリスニングなどの演習を行いながらNon-Native Englishの特徴をつかんでいく。後半は、学生の発表を中心に授業を進めていく。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODakション、TED鑑賞 第2回 国際英語とは？ 第3回 English in Singapore - シングリッシュの誕生 第4回 English in Singapore - コメディ、キャンペーン 第5回 サビア・ウォーフの仮説(雪、色、「雪国」) 第6回 English in Brasil 第7回 English in India 第8回 English in China 第9回 English in Japan 第10回 Preparation for Presentation 第11回 Student Presentation 1 第12回 Student Presentation 2 第13回 Student Presentation 3 第14回 Student Presentation 4 第15回 予備日		
テキスト	資料配布	参考文献	多言語社会の言語政治学 ひつじ書房
評価方法	提出物、授業参加度:40% プレゼンテーション:30% レポート:30%		

児童英語教育論A		前期 2 単位	1・2年
児童に英語を教えるために必要な、英語教授法、心理学、異文化コミュニケーションの理論と文部科学省の小学校英語の理念を学ぶ。		椿 まゆみ (つばき まゆみ)	
授業の到達目標及びテーマ	①英語教授法・言語習得の基礎を自分自身の英語学習体験の分析を通して理解する。 ②心理学の観点からの児童はどのように英語を学ぶべきかわかる。③異文化コミュニケーションを学び、文化の異なる人々と交流する際に必要な知識を理解する。④文部科学省の小学校学習指導要領外国語活動の理念や実践を理解する。		
授業の概要	児童英語教育に関するさまざまな理論を、講義および学生参加型共同学習により理解・考察する。具体的には、英語教授法、心理学、異文化コミュニケーションの分野からの理論や文部科学省での学習指導要領での小学校外国語活動の理念の理解を主眼とし、自身の学習体験や教育実践を考慮しながら理論と実践の関連についても考えていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 小学校学習指導要領 外国語活動の理論と実践 第3回 英語圏以外で英語を学ぶ学習者のための英語教育 第4回 英語教授法：インプットの役割 第5回 英語教授法：アウトプットの役割 第6回 英語教授法：モチベーション 第7回 テスト1 一般の英語教授法 第8回 子供のための英語教授法 第9回 発達心理学：ピアジェ 第10回 発達心理学：ヴィゴツキー 第11回 多重知能理論 第12回 言語コミュニケーション 第13回 非言語コミュニケーション 第14回 世界の人々の価値観の違いと異文化コミュニケーション 第15回 テスト2、子供に英語を教えるための理論の応用		
テキスト	アレン玉井光江 (2010) 『小学校英語の教育法—理論と実践』 大修館書店	参考文献	八代 京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子(2009) 『異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる』 三修社
評価方法	クラス参加:40% テスト・小テスト:40% 課題:20%		

児童英語教育論B		後期 2 単位	1・2年
児童英語教育理論と実践をつなぐ		椿 まゆみ (つばき まゆみ)	
授業の到達目標及びテーマ	①前期で学んだ児童英語教育に必要な英語教授法、発達心理学、異文化コミュニケーションの知識を含めて新しい内容を理解する。②理論と実践（教育現場での実際の指導）をどのように結びつけるか考え、伝えることができるようになる。③理論に基づいた指導を計画し、模擬授業を行うことができるようになる。		
授業の概要	前期で学んだ英語教授法、発達心理学、異文化コミュニケーションの知識を深めると共に、それらの教育現場での実践を考える。具体的には、グループでそれらの理論や児童英語教育のありかたについて話し合い、理論に基づいた指導案作成や物語や歌などを題材としたミニレクソンを実施する。これにより、理論を実践にどのように応用するか考察す		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 国際言語としての英語、異文化コミュニケーション 第3回 英語教育理論 第4回 活動を中心とした英語教育 第5回 活動を中心とした英語教育の実践 第6回 内容を中心とした英語教育 第7回 内容を中心とした英語教育の実践 第8回 レッスンプランとカリキュラム 第9回 レッスンプランの作成 第10回 英語教育に基づいた模擬授業とフィードバック 第11回 ストーリーを中心とした英語教育 第12回 ストーリーを中心とした英語教育の実践 第13回 英語教育に基づいた模擬授業1 第14回 英語教育に基づいた模擬授業2 第15回 まとめ		
テキスト	アレン玉井光江 (2010) 『小学校英語の教育法—理論と実践』 大修館書店	参考文献	アレン玉井光江 (2011) 『ストーリーと活動を中心とした小学校英語』 小学館 本名信行 (2006) 『英語はアジアを結ぶ』 玉川大学
評価方法	授業への参加:40% テスト・小テスト:20% 課題:40%		

翻訳の理論と実践A		前期 2 単位	1・2年
翻訳理論から翻訳実践を考える		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	参考文献に挙げたマンデイとビムによる二書の内容を（日本で英語を学習する立場から再解釈しつつ）紹介することで、翻訳理論（Translation Studies）の概要を知る。英日／日英の翻訳のさまざまなあり方に触れることで、翻訳とは何かについての考えを深める。また自分自身で翻訳課題に取り組むことによって言語感覚を鍛える。		
授業の概要	翻訳理論の概要に関する講義と組み合わせて、ワークショップ形式も取り入れて、毎回何らかの形で〈翻訳〉に関わる課題に取り組んでもらい、それについてグループ内で発言することも求められる。学期末には、短い翻訳課題と、それについての（翻訳理論を踏まえた）コメントを、レポートとして課す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに：身の回りのさまざまな「翻訳」 第2回 翻訳の歴史：イギリスと日本を中心に 第3回 等価に基づく翻訳へのアプローチ～語彙 第4回 等価に基づく翻訳へのアプローチ～イディオムなど 第5回 等価に基づく翻訳へのアプローチ～文法・談話 第6回 等価の方向性と等価仮説の限界 第7回 翻訳への談話分析的アプローチ1（ハリデイ） 第8回 翻訳への談話分析的アプローチ2（プラハ派） 第9回 目的による翻訳へのアプローチ 第10回 記述による翻訳へのアプローチ 第11回 不確定性に基づく翻訳へのアプローチ 第12回 ローカリゼーションとしての翻訳～国際化とテクノロジー 第13回 文化翻訳～翻訳への社会学的アプローチ 第14回 翻訳者の役割と「使命」 第15回 まとめ：改めて翻訳とは		
テキスト	プリントを配布する	参考文献	ジェレミー・マンデイ『翻訳学入門』（みすず書房）、アンソニー・ビム『翻訳理論の探求』（みすず書房）
評価方法	平常提出課題：60% 期末レポート／課題：40%		

翻訳の理論と実践B		後期 2 単位	1・2年
実践を通して「翻訳」を考える		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	詩と短編小説を題材に、毎回指定された一定量の英文を翻訳し、訂正する訓練を積むことで、英文読解力と日本語表現力のふたつを総合的に高めることを目指す。またその実践を通して、翻訳という作業の難しさと面白さを体験する。最終的な成果として、小さな翻訳ブックレットを作成する。		
授業の概要	Luce Folioを利用して、毎回250語程度の英文の訳文を提出。授業時間の前半では、ウェブ上の解説や他の学生の訳文を参考に、自分の訳文を修正・推敲。後半には、解説を参考に、次回指定箇所までの物語展開を確認する。自宅からインターネットに接続可能であることが望ましい。それが難しい場合は、空き時間に短大情報処理室を利用できることが必		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション：コンピュータ利用方法の確認など 第2回 課題1：Tim Burton, "Anchor Baby" 第3回 課題2：Ursula K. Le Guin, "The Wife' s Story" (1) 第4回 課題3：Ursula K. Le Guin, "The Wife' s Story" (2) 第5回 課題4：Ursula K. Le Guin, "The Wife' s Story" (3) 第6回 課題5：Diana Wynne Jones, "The Girl Jones" (1) 第7回 課題6：Diana Wynne Jones, "The Girl Jones" (2) 第8回 課題7：Diana Wynne Jones, "The Girl Jones" (3) 第9回 課題8：Diana Wynne Jones, "The Girl Jones" (4) 第10回 課題9：Jean Rhys, "Mannequin" (1) 第11回 課題10：Jean Rhys, "Mannequin" (2) 第12回 課題11：Jean Rhys, "Mannequin" (3) 第13回 課題12：Jean Rhys, "Mannequin" (4) 第14回 最終課題の作成方法について 第15回 課題発表と相互評価		
テキスト	翻訳課題となる詩1篇と現代英米女性作家の短編小説3作品を、プリントで配布する。	参考文献	齊藤兆史『翻訳の作法』、柴田元幸『翻訳教室』、真野泰『英語のしくみと訳しかた』ほか。
評価方法	毎回の提出課題：60% 期末課題の小冊子：40%		

アメリカの歴史A		前期 2 単位	1・2年
女性の視点からみたアメリカ史—植民地期から再建期まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標及びテーマ	植民地時代から南北戦争後の再建期にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。		
授業の概要	植民地時代から再建期までのアメリカの歴史を扱う。まず、女性史という学問領域がどのように発達したのかを概観する。その後、植民地建設・奴隷制社会の生成・アメリカ革命・連邦共和国の成立・領土膨張・南北戦争などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 女性の目からアメリカ史を見る意味 第 2回 「新世界」の女性たち①先住民女性 第 3回 「新世界」の女性たち②南部植民地 第 4回 「新世界」の女性たち③ニューイングランド・中部植民地 第 5回 アメリカ革命 第 6回 革命の遺産 第 7回 共和国の成長と民主制の登場 第 8回 市場時代の家庭性：真の女性らしさ 第 9回 市場経済から産業革命へ：女性と賃金労働 第10回 南部奴隷制社会と女性 第11回 「明白な運命」と南北対立の激化 第12回 南北戦争前の改革運動 第13回 南北戦争 第14回 南部再建とその遺産 第15回 ギルディッド・エイジ		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%		

アメリカの歴史B		後期 2 単位	1・2年
女性の視点からみたアメリカ史—19世紀後半から現代まで—		後藤 千織（ごとう ちおり）	
授業の到達目標及びテーマ	南北戦争後から現代にいたるまでの、人種・エスニシティ・階級を異にする女性のアメリカでの経験を理解する。アメリカ史の大きな流れを把握し、女性の視点からアメリカの歴史を考える意義を理解する。		
授業の概要	南北戦争後から現代までのアメリカの歴史を扱う。産業社会の発展・革新主義改革・世界大戦・大恐慌・冷戦・公民権運動などアメリカ史の様々な出来事を、女性の経験からたどる。最後に女性の視点から歴史を学ぶ意義を考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 西部併合とフロンティア 第 2回 工業化、労働者、新移民 第 3回 海外膨張—世界強国への歩み 第 4回 女性の労働と労働文化（1890年～1930年） 第 5回 革新主義時代の女性 第 6回 第一次世界大戦 第 7回 繁栄の1920年代 第 8回 大恐慌とニューディール 第 9回 第二次世界大戦中の女性 第10回 冷戦と「フェミニン・ミスティーク」 第11回 公民権運動の高揚 第12回 ウーマンリブの時代 第13回 ニューライトの台頭 第14回 冷戦の終焉、グローバル化、テロリズム 第15回 まとめ		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢：20% レスポンス・ペーパー：30% 期末試験：50%		

イギリスの歴史A		前期 2 単位	1・2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——古代から近世まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	古代から近世にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。		
授業の概要	近世までのイギリス史を取り上げる。イギリスが島国国家として統一される16世紀までの歴史を概説したのち、16世紀以降の各時代に活躍した歴史上の女性に焦点を合わせながら、国教会体制の成立、連合王国の成立、科学革命、名誉革命、議会制度の形成、出版文化の繁栄などのイギリス史の流れをたどる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODククション：イギリス史を学ぶ意味 第2回 概説：16世紀までのイギリス 第3回 エリザベス1世：英国国教会体制の確立 第4回 『エリザベス』：宗教対立の時代 第5回 メアリ・ステュワート：連合王国の成立過程 第6回 マーガレット・キャヴェンディッシュ：17世紀の科学革命 第7回 『ハリー・ポッター』から：錬金術・科学・ジェンダー 第8回 メアリ・アステル：18世紀の啓蒙と宗教 第9回 フィリス・ウィートリー：アメリカ独立と奴隷貿易 第10回 デヴォンシャー公爵夫人：議会政治の形成過程 第11回 『ある公爵夫人の生涯』：貴族の政治と文化 第12回 メアリ・ウルストンクラフト：革命とフェミニズム 第13回 ジェイン・オースティン：近代小説の成立過程 第14回 『いつか晴れた日に』：女性にとっての結婚 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%		

イギリスの歴史B		後期 2 単位	1・2年
イギリスの歴史をつくった女性たち——近代から現代まで		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近代から現代にいたるまで、イギリスのさまざまな時代を生きてきた女性たちの姿をつうじて、イギリス史の流れをつかみ、イギリス社会の成り立ちを理解する。また、それぞれの女性たちがどのようにして自分の人生を意味あるものにしていったのかを学ぶことにより、女性の生き方について考察を深められるようになる。		
授業の概要	イギリスの近現代史を取り上げる。19世紀から21世紀までの各時代を代表する女性の活躍に迫りながら、イギリスが大英帝国として世界各地に勢力を広げていく過程と、その時期の国内の政治、社会、文化の動き、さらに帝国支配終焉後のイギリスの独自の発展の過程を跡づける。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODククション：19世紀以降のイギリス 第2回 ヴィクトリア女王：大英帝国の繁栄 第3回 シャーロット・ブロンテ：ヴィクトリア時代の道徳規範 第4回 『ジェイン・エア』：ガヴァネスとしての女性 第5回 フローレンス・ナイティンゲール：戦争と看護の専門化 第6回 アンナ・レオノーウエンス：大英帝国とその周縁 第7回 『アンナと王様』：オリエンタリズムと帝国主義 第8回 ミリセント・フォーセット：女性参政権運動の展開 第9回 ピアトリクス・ポター：工業化と自然保護 第10回 『ミス・ポター』：女性にとっての家庭 第11回 ヴァージニア・ウルフ：戦間期イギリス社会の変容 第12回 マーガレット・サッチャー：新自由主義の功罪 第13回 『マーガレット・サッチャー』：女性政治家の生き方 第14回 ヴィヴィアン・ウエストウッド：ファッションと文化創造 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリント（パワーポイントのスライド・コピー）を教材にする。	参考文献	授業中に配布する参考文献一覧表を参照のこと。
評価方法	授業への参加姿勢：30% 試験：70%		

アメリカ文学史A		前期 2 単位	1・2年
アメリカ文学史A		遠藤 恵子 (えんどう けいこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ文学史の中でアメリカという国について考えていく。歴史的背景を確認しながら、アメリカ社会の特徴である多民族性、地域による違いを作品を通して学ぶ。主として植民地時代から19世紀までの小説を中心に学び、アメリカ社会とそれを映し出すアメリカ文学に対する理解を深めることを目的とする。		
授業の概要	文学史の講義と同時に作品鑑賞を積極的に行う。ビデオ教材も活用し、作品の背景となる時代、地域について映像を通して理解を深める。必要な基本知識を確認するために小テストを行う。実際に作品を読んでレポートを書くことが求められる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 アメリカ文学史Aについて説明 第2回 植民地時代(ニューイングランドとピューリタニズム) 第3回 独立戦争から「アメリカンルネッサンス」へ 第4回 フロンティアとは 第5回 ロマン主義について (エマソン) 第6回 ソロー 第7回 南北戦争とその意味 第8回 リアリズムについて 第9回 マーク・トウエイン (金びか時代) 第10回 ヘンリ・ジェイムズ 第11回 アメリカ社会の広がり 第12回 シカゴルネッサンス (中西部の発展) 第13回 シャーウッド・アンダーソン 第14回 自然主義について 第15回 今までのまとめ		
テキスト	プリント配布	参考文献	授業中に指示する
評価方法	小テスト:60% レポート:30% 授業感想文:10%		

アメリカ文学史B		後期 2 単位	1・2年
アメリカ文学史B		遠藤 恵子 (えんどう けいこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	時代によって強弱をつけながらアメリカ文学を「文学」という視点から学ぶ。主として19世紀以降の文学に焦点を当て、ロストジェネレーション、1970年代に「正典」とされた作品や黒人文学を紹介し、アメリカ文学に対する理解を深める。		
授業の概要	文学史の講義と同時に作品鑑賞を積極的に行う。ビデオ教材も活用し、作品の背景となる時代、地域について映像を通して理解を深めたい。必要な知識の確認のための小テストを行う。また実際に作品を読んでレポート書くことが求められる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 アメリカ文学史Bについて説明 第2回 植民地時代 第3回 独立戦争から「アメリカンルネッサンス」 第4回 南北戦争とその意味 第5回 リアリズムの時代 第6回 アメリカ文学の地方への広がり 第7回 マーク・トウエイン (作品の紹介) 第8回 第一次世界大戦 金びか時代とは 第9回 20世紀の文学 第10回 ロストジェネレーションとは 第11回 多民族の文学 第12回 女性文学について 第13回 黒人文学 第14回 ユダヤ系作家 第15回 人種の垣塙から人種のサラダボウルへ		
テキスト	プリント配布	参考文献	授業中に必要に応じて指示する
評価方法	小テスト:60% レポート:30% 授業感想文:10%		

イギリス文学史A		前期 2 単位	1・2年
イギリス文学一国の創生から18世紀まで		山田 美穂子（やまだ みほこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	イギリス連邦の言語、人種、宗教の多重性を確認したのち、いわゆる英文学の創成期にあたる8世紀あたりから近代社会が確立する18世紀までを通史的に概観する。		
授業の概要	各時代のイギリスの社会背景と文化的思潮を並行して解説しながら文学作品を紹介する。取り上げる予定の作品は「ペーオウルフ」、チョーサーの「カンタベリー物語」、シェイクスピアの諸作品、ジョン・ミルトンの「失樂園」、形而上詩人の作品、デフォーの「ロビンソン・クルーソー」、スウィフト「ガリヴァー旅行記」等。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 古英語の時代「ペーオウルフ」 第3回 国民創生の伝説群 アーサー王伝説 第4回 国民創生の伝説群 ロビンフッド伝説 第5回 シェイクスピア 歴史劇 第6回 シェイクスピア 喜劇 第7回 シェイクスピア 悲劇 第8回 シェイクスピア ロマンズ劇 第9回 宗教革命とピューリタン文学 第10回 ミルトン「失樂園」 第11回 形而上詩人 ジョージ・ハーバート他 第12回 近代社会の成立とジャーナリズム 第13回 小説の誕生 第14回 デフォー 「ロビンソン・クルーソー」 第15回 スウィフト 「ガリヴァー旅行記」		
テキスト	『コンプトンの英国史・英文学史』	参考文献	授業内に適宜指導。
評価方法	授業内コメント提出:60% 各期末レポート提出:40%		

イギリス文学史B		後期 2 単位	1・2年
イギリス文学—19世紀から現代まで		山田 美穂子（やまだ みほこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	大英帝国として世界に君臨した19世紀イギリスの多面性を文学作品を通じて学び、世界大戦を経て変容してゆくイギリスの現在までの道のりを小説や戯曲、詩を紹介しながら概観する。		
授業の概要	18世紀末からわき起こったロマン派運動と社会改革の精神の連動を軸に、ヴィクトリア朝文学、主に詩作品と小説、幾つかの戯曲を読む。続けて20世紀の多様化、英語圏文学への変容を主に小説を扱いながら学ぶ。取り上げる予定の作家はオースティン、ディケンズ、ルイス・キャロル、ワイルド、ウルフ、カズオ・イシグロ等。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 ロマン派詩人の作品 第3回 メアリー・シェリー 第4回 ジェイン・オースティン 第5回 ディケンズ 第6回 ルイス・キャロル 第7回 ワイルド、ショー 第8回 戦争詩人の作品 第9回 ヴァージニア・ウルフ 第10回 ジョージ・オーウェル 第11回 C. S. ルイス、J. R. R. トールキン 第12回 T. S. エリオット 第13回 W. H. オーデン 第14回 カズオ・イシグロ 第15回 イギリス文学のまとめ		
テキスト	『コンプトンの英文学史』	参考文献	授業内に適宜指導。
評価方法	授業内コメント提出:60% 期末レポート提出:40%		

アメリカの文化と社会A		前期 2 単位	1・2年
現代アメリカ社会を知る		後藤 千織 (ごとう ちおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ合衆国の成り立ちや、現代アメリカ社会が直面する諸問題を理解する。アメリカに関する情報を理解し、議論できるようにする。また、アメリカ社会の経験と比較することで、私たちが生きる日本社会の特徴や問題を考える視点をも身につける。		
授業の概要	多文化社会・政治・経済・外交という4つのテーマに分けて、現代アメリカ社会の特徴と諸問題を明らかにする。講義にくわえて、アメリカの社会問題に関する新聞・雑誌記事を読み、内容を理解して自分の考えをまとめてもらう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション 第2回 多文化社会①人種とは何か？ 第3回 多文化社会②移民国家アメリカの生成 第4回 多文化社会③アメリカ先住民 第5回 多文化社会④ジェンダー、セクシュアリティ 第6回 多文化社会⑤宗教 第7回 多文化社会⑥国民統合のメカニズム 第8回 アメリカ政治①大統領 第9回 アメリカ政治②民主主義 第10回 アメリカ政治③保守／リベラル 第11回 アメリカ経済①経済政策と経済学 第12回 アメリカ経済②格差社会 第13回 アメリカ外交①「帝国」としてのアメリカ 第14回 アメリカ外交②日米関係 第15回 まとめ		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%		

アメリカの文化と社会B		後期 2 単位	1・2年
映画から見るアメリカ社会		後藤 千織 (ごとう ちおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	20世紀初頭から現代にいたるまで、アメリカ映画のなかでアメリカの人種／エスニシティ・階級・ジェンダー・セクシュアリティがどのように描かれてきたかを理解する。また、映画の中のイメージと「現実の世界」がどのように関係しているのかを考える視点を身につける。		
授業の概要	最初の2回でアメリカ映画の歴史と文化理論を概観し、人種／エスニシティ、階級、ジェンダー、セクシュアリティの4つのテーマに沿って、アメリカ映画の中で多様性がどのように表象されてきたかをたどる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イン트로ダクション：アメリカ映画と日本 第2回 ハリウッド映画の歴史 第3回 人種・エスニシティ①映画の中の白人性 第4回 人種・エスニシティ②アフリカ系アメリカ人 第5回 人種・エスニシティ③アメリカ先住民 第6回 人種・エスニシティ④アジア系アメリカ人 第7回 人種・エスニシティ⑤ラティノー 第8回 階級①初期の階級の表象 第9回 階級②大恐慌以降の階級表象 第10回 ジェンダー①女性らしさの表象 第11回 ジェンダー②見るということ 第12回 ジェンダー③男性らしさの表象 第13回 ジェンダー④1960年代以降のジェンダー表象 第14回 セクシュアリティ①異性愛／同性愛 第15回 セクシュアリティ②性的革命以降		
テキスト	特にテキストは使用せず、レジュメを配布する。	参考文献	授業時に配布するレジュメの参考文献を参照。
評価方法	授業への参加姿勢:20% レスポンス・ペーパー:30% 期末試験:50%		

イギリスの文化と社会A		前期 2 単位	1・2年
イギリス社会の諸問題——階級、福祉国家、家族		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスにおける階級の成り立ちと構造、階級に根ざした文化のかたち、②イギリスにおける福祉国家体制の成立と解体、新自由主義の台頭とその葛藤、③イギリスにおける近代家族の成立と変容、現代の家族の多様化について理解を深める。		
授業の概要	「社会階級」「福祉国家」「家族と女性」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3回の授業と1回のディベートを行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 イギリス社会を生きる人びと 第3回 社会階級（1）階級社会イギリスの成り立ちと構造 第4回 社会階級（2）『マイ・フェア・レディ』 第5回 社会階級（3）階級にねざした文化のかたち 第6回 社会階級（4）ディベート・小レポート 第7回 福祉国家（1）福祉国家イギリスの変容 第8回 福祉国家（2）『ナビゲーター』 第9回 福祉国家（3）社会民主主義と新自由主義の相克 第10回 福祉国家（4）ディベート・小レポート 第11回 家族と女性（1）近代家族モデルの形成と変容 第12回 家族と女性（2）『Dear フランキー』 第13回 家族と女性（3）家族の多様化と女性の「自己決定」 第14回 家族と女性（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%		

イギリスの文化と社会B		後期 2 単位	1・2年
イギリス社会の諸問題——帝国、植民地、多文化主義		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	イギリスが直面してきた問題を学ぶことで、現代日本のあり方を相対化できる視点を養う。具体的には、①イギリスによるインド支配の事例にみられる帝国支配の歴史の功罪、②北アイルランド紛争の事例にみられる植民地問題の解決の難しさとその可能性、③イギリスにおける移民社会の成り立ち、多文化共生にむけた模索過程について理解を深める。		
授業の概要	「帝国支配」「北アイルランド問題」「多文化主義」という3つのテーマからイギリスの文化と社会の諸特徴を明らかにする。各テーマにつき、3～4回の授業と1回のディベート（またはロールプレイング）を行い、イギリスが直面してきたさまざまな問題にたいする複眼的な思考の習得を促す。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 帝国支配（1）大英帝国としてのイギリス 第3回 帝国支配（2）イギリスのインド支配 第4回 帝国支配（3）植民地支配の功罪とグローバリゼーション 第5回 帝国支配（4）ディベート・小レポート 第6回 北アイルランド問題（1）イギリスのアイルランド支配 第7回 北アイルランド問題（2）北アイルランド紛争の展開 第8回 北アイルランド問題（3）『ナッシング・パーソナル』 第9回 北アイルランド問題（4）ロールプレイング・小レポート 第10回 北アイルランド問題（5）和解にむけた取り組み 第11回 多文化主義（1）移民社会イギリスの成り立ちと構造 第12回 多文化主義（2）『ぼくの国、パパの国』 第13回 多文化主義（3）多文化共生の模索 第14回 多文化主義（4）ディベート・小レポート 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用せず、授業中に配布するプリントを教材とする。	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:15% 小レポート（3回分）:45% 試験:40%		

英語圏の文化と社会A		前期 2 単位	1・2年
現代オーストラリア社会		杉田 弘也 (すぎた ひろや)	
授業の到達目標 及びテーマ	アジア・太平洋地域にある英語圏の国であるオーストラリアについて、その現代社会を多面的に理解する。オーストラリアにおける先住民と非先住民との関係や、多文化主義社会を学ぶことにより、マイノリティが置かれている立場を理解する。		
授業の概要	導入部として、オーストラリア社会の概要と歴史的背景を把握した後、オーストラリアにおける先住民について、先住民ではないオーストラリア人とのかかわりを中心に学ぶ。後半では、オーストラリアの多文化主義政策、教育・社会政策を中心に学び、日本とは異なった社会があることを認識し、日本が何を学ぶことができるかを考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 オーストラリアの概要 第3回 オーストラリアの歴史の流れ 第4回 先住民社会の過去と現在 第5回 Stolen Generations 第6回 先住民への謝罪 第7回 先住民の権利 第8回 オーストラリア人戦争捕虜の問題 第9回 オーストラリアに住む人々 第10回 オーストラリアはどのように多文化主義社会を実現したか 第11回 オーストラリアにとって多文化主義とは何か 第12回 オーストラリアの教育制度 (1) 就学前・初等・中等教育 第13回 オーストラリアの教育制度 (2) 高等教育 第14回 オーストラリアの社会保障 (福祉) 制度 第15回 まとめ：日本はオーストラリアから何を学ぶか		
テキスト	特に定めない。授業ごとにハンド・アウトを配布する	参考文献	竹田いさみ、森健、永野隆行 (編著) 『オーストラリア入門第2版』など、最初の授業でリストを配布する。
評価方法	授業へのコメント:30% 学期末試験ないしレポート:70%		

英語圏の文化と社会B		後期 2 単位	1・2年
多民族国家 カナダの歴史		木野 淳子 (きの じゅんこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	カナダは、同じ北米大陸にあるアメリカ合衆国と共通点が多いといわれるが、どのようにしてアメリカと異なる国家となったのか、先住民と白人の接触から、現代にいたるまでのカナダの歴史を学ぶ。多民族国家カナダの成り立ちを知り、過去から現在までのカナダとアメリカの関係を理解することを到達目標とする。		
授業の概要	講義が中心となるが、視覚的な資料も使用して、カナダのイメージを構築していく。授業内で、提出課題を出す予定である。授業では、プリントを配布するが、プリントには書き込み用のスペースは特に設けていないので、各自ノートを用意すること。初回の授業において、説明する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 INTRODUCTION—授業の進め方、参考文献紹介など 第2回 カナダの地理と国境 第3回 カナダの先住民と対先住民政策 第4回 ヨーロッパがカナダに求めたもの—毛皮と鱈 第5回 フランス領時代のカナダ 第6回 イギリス領時代のカナダ—1) アメリカ独立革命とカナダ 第7回 イギリス領時代のカナダ—2) 1812年戦争 第8回 イギリス領時代のカナダ—3) 1837年の反乱と責任政府 第9回 コンフェデレーション (連邦結成)—カナダの建国 第10回 「海から海へ」—版図の拡大とその問題 第11回 北大西洋三角形—カナダと英米 第12回 第二次世界大戦と日系カナダ人 第13回 第二次世界大戦後のカナダ 第14回 多文化主義国家カナダへ 第15回 まとめ		
テキスト	特定のテキストは使用しない。	参考文献	木村和男編 『カナダ史』 山川出版社、1999年。 日本カナダ学会編 『新版 史料が語るカナダ』 有斐閣、2008年。その他、授業時に指示する。
評価方法	レポート等課題:40% 試験:40% 出席:20%		

子どもと英米文学Ⅰ		前期 2 単位	1・2年
イギリス児童文学：ファンタジーの黄金時代		成瀬 俊一（なるせ しゅんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	1) イギリス児童文学黄金時代（1860年代～1930年代）のファンタジーの特質を理解する。 2) 物語の読み方（登場人物・舞台・出来事のとらえ方）を習得する。		
授業の概要	イギリス児童文学のファンタジーの誕生と発展の軌跡を、代表的な作品を題材に焦点を当てつつ1860年代から1930年代までたどります。各作家・作品の背景、読み方のポイントに関する講義と作品原文の一部の講読をします。一部の作品に関しては小レポートの発表を履修者に求めます。各作品の映画版またはTV版を部分的に視聴します。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション&講義「イギリス児童文学の誕生」 第2回 講義「ファンタジーの誕生と発展」 第3回 『不思議の国のアリス』（1865）講義 第4回 『お姫さまとゴブリンの物語』（1872）講義 第5回 『お姫さまとゴブリンの物語』（1872）レポート発表 第6回 『砂の妖精』（1902）講義 第7回 『ピーターラビットのおはなし』（1902）講義 第8回 『たのしい川べ』（1908）講義 第9回 『たのしい川べ』（1908）レポート発表 第10回 『ピーター・パン』（1911）講義 第11回 『ピーター・パン』（1911）レポート発表 第12回 『クマのプーさん』（1926）講義 第13回 『クマのプーさん』（1926）レポート発表 第14回 『風によってきたメアリー・ポピンズ』（1934）講義 第15回 まとめ		
テキスト	本多英明、桂宥子、小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房	参考文献	小レポート課題で用いる作品を地元の図書館で借りるか地元の書店で購入してください（原書・翻訳どちらでも可）。
評価方法	小レポート:20% 期末試験:80%		

子どもと英米文学Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
イギリス児童文学：現代のファンタジー		成瀬 俊一（なるせ しゅんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	1) 1930年代以降のイギリス児童文学のファンタジーの特質を理解する。 2) 物語の読み方（登場人物・舞台・出来事のとらえ方）を習得する。		
授業の概要	1930年代～現代のイギリス児童文学のファンタジー作品の発展の軌跡を、代表的な作品を題材にたどります。各作家・作品の背景、読み方のポイントに関する講義と作品原文の一部の講読をします。一部の作品に関しては小レポートの発表を履修者に求めます。各作品の映画版またはTV版を部分的に視聴します。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション&講義「ファンタジーの誕生と発展」 第2回 『ホビットの冒険』（1937）講義 第3回 『人形の家』（1947）講義 第4回 『人形の家』（1947）レポート発表 第5回 『ライオンと魔女』（1950）講義 第6回 『ライオンと魔女』（1950）レポート発表 第7回 『床下の小人たち』（1952）講義 第8回 『トムは真夜中の庭で』（1958）講義 第9回 『トムは真夜中の庭で』（1958）レポート発表 第10回 『くまのバディントン』（1958）講義 第11回 『チャーリーとチョコレート工場』（1964）講義 第12回 『風が吹くとき』（1982）講義 第13回 『ハリー・ポッターと賢者の石』（1997）講義 第14回 『ハリー・ポッターと賢者の石』（1997）レポート発表 第15回 まとめ		
テキスト	本多英明、桂宥子、小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房	参考文献	小レポート課題で用いる作品を地元の図書館で借りるか地元の書店で購入してください（原書・翻訳どちらでも可）。
評価方法	小レポート:20% 期末試験:80%		

英語圏の文学		前期 2 単位	1・2年
アイルランドについて学ぶ		舟橋 美香 (ふなはし みか)	
授業の到達目標 及びテーマ	アイルランドの歴史、社会、文学と演劇を含む文化について、旅行ガイドの英文から、現代の短編小説や詩をふくむ、さまざまなジャンルの英語による文を読み、また、映画や上演された劇などの映像を見る事で理解を深める。		
授業の概要	アイルランドは長い歴史と豊かな文化をもつ国であり、近年経済的にも大きな発展を遂げたが、ここ数年は経済状況の悪化がニュースとなっている。アイルランドの作品を読むときに必要と思われるアイルランドの歴史的背景や社会について解説、講義し、文化を紹介し、講義の途中からは、実際に作品を読んだり観たりし、ディスカッションにつなげ		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 Introduction to Ireland: 地理と領土 第 2回 アイルランドの基礎知識- 中世〜大飢饉〜現在&スポーツ 第 3回 イースター蜂起から内乱までの映画 (前半) 対英戦争まで 第 4回 映画 (後半) 条約と分割 & 北アイルランド問題 第 5回 ジェイムス・ジョイスの短編を読む 第 6回 アイルランドの現代詩を読む-1 泥炭とじゃがいも 第 7回 アイルランド現代詩を読む-2 中世の聖人 第 8回 詩のまとめ&アイルランド語 第 9回 アラン諸島とシング&アイルランドの料理・伝統文化 第10回 アイルランド演劇を観る-1 幕の悲劇 (英語上演) 第11回 アイルランド演劇を観る-笑いと風刺 (英語上演) 第12回 アイルランド演劇を観る-笑いを再考 第13回 サミュエル・ベケットと不条理演劇から現代演劇 第14回 アイルランドの映画を英語字幕で見る 第15回 まとめ		
テキスト	上野格・アイルランド文化研究会編著『図説アイルランド』河出書房新社 配布プリント	参考文献	授業で随時指示する。
評価方法	授業での姿勢と提出物:40% 期末レポート:60%		

マイノリティ文化論		後期 2 単位	1・2年
米国黒人女性文学を通じて、有色女性のエンパワーメント (自尊・自立) の方向性を考える		齋藤 修三 (さいとう しゅうぞう)	
授業の到達目標 及びテーマ	①肌の色、貧富の差、性差などをめぐる二重三重の差別と抑圧に立ち向かう米国少数派女性文学の魅力を理解する。②強さを求めた白人中流女性のフェミニズムから、「弱さ」を怖れずに、それを「南」の女性たちと連帯するための契機に読み替える有色女性のフェミニズムへの展開を押さえ、マイノリティ文化の可能性へつなげて理解する。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・メールリポート講評 ・キーワード解説 ・テキスト読解と自由討議 		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 歴史という表象の政治学〜『青い目がほしい』導入 第 2回 同 pp. 15-88 第 3回 同 pp. 91-138 第 4回 同 pp. 141-194 第 5回 同 pp. 195-240 第 6回 同 pp. 241-304 第 7回 小まとめ〜中間レポート概要 第 8回 『カラーパープル』導入 第 9回 同 pp. 7-80 第10回 同 pp. 80-162 第11回 同 pp. 162-246 第12回 同 pp. 246-313 第13回 同 pp. 314-361 第14回 小まとめ〜期末レポート概要 第15回 まとめ		
テキスト	トニ・モリスン『青い目がほしい』ハヤカワepi文庫 A・ウォーカー『カラーパープル』集英社文庫 他配布プリント	参考文献	随時紹介
評価方法	中間レポート:30% 期末レポート:30% メールレポート:20% 自由討議参加度:20%		

ヨーロッパの文化と社会A		前期 2 単位	1・2年
ドイツ語圏の文化と社会		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	ドイツ語圏の思想、文学、芸術について、時代背景を踏まえつつ、理解を深める。 社会と文化の関連を理解する。 思想や文学の文章、美術や音楽の作品を直接味わい、理解する。		
授業の概要	講義を中心とするが、学生が直接、テキストや作品にふれて、考察することを重視する。 美術の画像や音楽作品を鑑賞する。 考えたこと、コメントを文章にして提出する。		
授業計画	【前期】 第1回 ドイツ語圏の風土、およびドイツ語について。 第2回 中世とルネサンスの社会と文化 第3回 中世とルネサンスの自然観 第4回 ルターと宗教改革 第5回 デューラーやクラナッハの絵画 第6回 プロテスタント教会とバッハの音楽 第7回 バロック時代の詩と美術と音楽 第8回 ドイツ啓蒙思想と日本 第9回 ゲーテ時代の思想 第10回 ゲーテの文学 第11回 ドイツロマン派の文学とメルヘン 第12回 グリム童話 第13回 ヨーロッパの中のスイスとオーストリア 第14回 20世紀のドイツ 第15回 現代ドイツの社会と文化		
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	図書館の蔵書の中から紹介する。
評価方法	講義コメント:40% レポート:30% 試験:30%		

ヨーロッパの文化と社会B		後期 2 単位	1・2年
戦争と革命の比較文化史		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
授業の到達目標 及びテーマ	違いが分る女になってくれ！本講義の目的は違いが分る力=分析力の育成である。色々な戦争と革命の文化の比較をし、「戦争や革命なんてどれもおんなじ。ぜんぶ、こわーい。アタシは平和が好き」といった類の幼稚な思考方法を改善する。花屋の店先の花は色々。人生色々、男も色々、女も色々、暴力だって色々。薔薇と他の草花の違いを見せてや		
授業の概要	イギリス・アメリカ・フランス・ロシアの諸革命、帝国主義、第1次・第2次世界大戦、植民地独立運動等の比較を行う。またウィキペディアの歴史観を批判する。講義は時代と地域を絶えず横断するので、話についていくには西洋近現代史の基礎知識（高校世界史）が必要である。難解だとは思いますが、もしも学生が全く理解できなかったら私は青短を辞		
授業計画	【後期】 第1回 「違いが分る女になれよ」・学生との会話から・歴史認識 第2回 「大いなる反動の台頭」・狼たちに狙われた自由の女神 第3回 ・地獄のフィーリングカップル・鉄の女に愛された歴史家 第4回 「革命と恐怖政治」・知識人は狂人・アイルランド大殺戮 第5回 ・建国の父は火あぶりが好き・諸革命の収支決算 第6回 ・処刑に飽きた貴婦人・サディストと狂った預言者 第7回 「世界内戦と植民地」・魔の山の下で眠れ 第8回 ・裏切りの美学・伝道は死の香・毒ガスに祝福を 第9回 「野蠻人との戦い」・片手にピストル、心に礼束 第10回 ・頭蓋骨をお土産に・ドイツ人を去勢せよ・紳士協定破壊 第11回 「色々なジェノサイド」・死体から石鹸を作る方法 第12回 ・ミイラとり・地獄は続く・自動車王と悪魔・拷問の先生 第13回 ・吸血鬼の野望・皆殺しの詩・愛と哀しみのウクライナ 第14回 ・カティンの虐殺・捕虜はいらぬ・残酷な神々 第15回 「青短残酷物語」・先天性原理・植民地・功利主義		
テキスト	資料を配布する。	参考文献	フュレ『フランス革命を考える』・アーレント『全体主義の起源』・パーク『フランス革命の省察』・トクヴィル『アンシャン・レジームと革命』
評価方法	講義感想文(4回):60% 期末レポート:40%		

ヨーロッパの文化と社会C		前期 2 単位	1・2年
民衆版画から見るロシア文化		坂内 徳明 (ばんない とくあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	17世紀後半から20世紀初頭までのロシア社会で広範に流布していた素朴な版画作品を取り上げ、そこに描かれたヒト、モノ、コトが何か、背景の歴史と文化は何かを理解します。そのことは美術研究、民俗学、民衆文化史の研究方法について考え、ロシア・ヨーロッパの近世・近代文化史に関する基本的アプローチについて考える手がかりとなるはずで		
授業の概要	かつてロシアの多くの人々が生活の中でごく当たり前に目にし、知っていた版画作品の解説とその理解を通して、現代のコミックやポスター、デザイン、さらにジョークやチャットにまで通じる文化にも言及する予定です。授業は講義となりますが、版画作品（そのコピー）をさまざまな形でプレゼンテーションすることは当然です。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ロシア文化への誘い（1）民族、言語、宗教、歴史 第2回 ロシア文化への誘い（2）ことば、感性、文化的特徴 第3回 ロシア民衆版画（ルポーク）とは何か 第4回 ロシア民衆版画概観（1）-美術史の観点から 第5回 ロシア民衆版画概観（2）-社会史の観点から 第6回 ロシア民衆版画概観（3）-庶民生活誌の観点から 第7回 「ひげは切らねばいけません」-作品解題（1） 第8回 「なんばしないでよ」-作品解題（2） 第9回 「サプライズ、サプライズ」-作品解題（3） 第10回 「かけあい漫才、万歳」-作品解題（4） 第11回 「妻たるものつとめは？」-作品解題（5） 第12回 「ロシア版桃太郎は誰？」-作品解題（6） 第13回 「さあ、祭りだ、祭りだ」-作品解題（7） 第14回 「ねずみがネコを・・・」-作品解題（8） 第15回 ロシア民衆版画の文化的意義		
テキスト	教科書として、坂内徳明「ルポーク ロシアの民衆版画」（東洋書店、2006年）を使用します。	参考文献	各回の授業中に配布資料があり、また、授業中に、ロシアだけでなく関連する日本や欧米の参考文献を紹介します。
評価方法	レポート:70% 授業コメントシート:30%		

アジアの文化と社会A		前期 2 単位	1・2年
考古学から見た東アジアの文化と社会		高浜 侑子 (たかはま ゆうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	近年、東アジアでは多くの考古遺跡が発掘調査され、新資料が続々と発見されている。この講義ではこうした実際に出土した考古資料を通して、さまざまなテーマから東アジアの文化や社会、生活について、より具体的に理解することを目的とする。		
授業の概要	初めに衣食住に関する遺跡、出土品を通して文化、社会、生活について考察し、さらに産業、文書、戦争、祭祀、宗教、娯楽などからも考察を進めたい。扱う時代は古代～中世にかけて、地域は中国が中心となるが、関わりや影響のある朝鮮、日本などについても合わせて紹介したい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 初めに：東アジアの歴史と文化の概略紹介 第2回 石器時代の農耕集落と社会 第3回 古代～中世の都市から見た社会と生活文化 第4回 宮殿・住居 第5回 身なり（衣服の変遷） 第6回 身なり（髪型・装身具などの変遷） 第7回 食文化（貴族夫人の食卓〈馬王堆漢墓の出土品〉など） 第8回 飲酒文化（酒造りや酒器などから） 第9回 農業・商業から見た社会と生活（農具、貨幣の歴史） 第10回 文書（文字の歴史、印章制度など） 第11回 戦争（万里の長城、秦の始皇帝の兵馬俑坑、戦車、武器） 第12回 祭祀（祭祀遺跡、甲骨、祭器などから） 第13回 宗教（仏教遺跡などから見た文化と社会） 第14回 娯楽（狩猟・音楽・舞踏・ゲームなど） 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	松丸道雄・永田英正『中国文明の成立』（《ビジュアル版》世界の歴史5）講談社
評価方法	レポート:60% 小レポート:20% 授業感想文:20%		

アジアの文化と社会B		後期 2 単位	1・2年
異文化としてのアジアを理解するために		菅野 美佐子 (かんの みさこ)	
授業の到達目標及びテーマ	<p>○アジア社会を、南アジアを中心に宗教、民族、伝統、経済、教育、開発、環境などの多角的な視点でとらえ、その多様性を理解する。</p> <p>○アジアの国や人々が、日本社会や日本人の生活と密接に結びついていることを理解する。</p>		
授業の概要	授業前半は、民族、宗教、伝統の多様性について、中盤から後半にかけては、格差問題やジェンダー、開発、環境などをめぐる現代的諸問題について、南アジアを中心にアジア社会を幅広く概観する。それらを踏まえつつ、最後に日本のアジアにおける位置づけとアジアへの貢献の可能性を検討する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 インTRODakション：アジア社会への接近</p> <p>第2回 多様な世界観①家族・親族とライフサイクル</p> <p>第3回 多様な世界観②宗教と精神世界</p> <p>第4回 多様な世界観③人びとの暮らしのいろいろ（衣食住）</p> <p>第5回 民族の多様性とナショナリズム/エスニシティ</p> <p>第6回 伝統/近代の接触とグローバリゼーション</p> <p>第7回 アジアの諸問題①急速な経済発展と貧困・格差の拡大</p> <p>第8回 アジアの諸問題②沸騰するアジアの教育と親子の苦悩</p> <p>第9回 アジアの諸問題③ジェンダー/セクシュアリティと暴力</p> <p>第10回 アジアの諸問題④女性差別とエンパワーメントへの取り組み</p> <p>第11回 アジアの諸問題⑤開発・環境・都市問題と解決への取り組み</p> <p>第12回 グループ発表/ディスカッション</p> <p>第13回 アジアのなかの日本①戦争の歴史と日本の責任</p> <p>第14回 アジアのなかの日本②日本の位置づけと貢献の可能性</p> <p>第15回 グループ発表/ディスカッション</p>		
テキスト	とくに定めない。授業毎にレジュメを配布する。	参考文献	片山隆裕編『アジアから観る、考える—文化人類学入門』カンザ出版、信田敏宏ほか編『東南アジア・南アジア開発の人類学』明石書店。ほか授業時に提
評価方法	授業感想文:20% レポート:80%		

アジアの文化と社会C		後期 2 単位	1・2年
東南アジア—身近な異文化・社会の理解のために		長瀬 理英 (ながせ りえい)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>○自然環境、社会・文化・政治・経済、人々の暮らしについて親しみを持ちながら理解し、固定観念から脱却できるようにする。</p> <p>○多様な環境や価値観・基準（モノサシ）について理解する。○日本との関わり、その影響について理解する。○以上の理解を通じ、自らの「モノサシ」や暮らし、集団間に作用する力関係について複眼的に捉え直し、再考し、自ら選び直す機会が得られる。</p>			
<p><授業の概要></p> <p>①入門編では様々な地図や人々による表現から、多様な成り立ちと複雑さについて明らかにする。②大陸部編ではメコン河流域に焦点を当て、近年の経済開発と人々への暮らしの影響について概観する。③島嶼部編ではフィリピンのミンダナオ島に焦点を当て、紛争について普遍的な観点から理解を導き、多様性や多文化共生の重要性について明らかにする。</p>			
<p><授業計画></p> <p>第1回 INTRODUCTION/オリエンテーション</p> <p>第2回 なぜ「モノサシ」が重要か？—3.11後と私たち</p> <p>第3回 地図から見えてくるもの（1）自然・人びと・歴史</p> <p>第4回 地図から見えてくるもの（2）社会・文化・政治・経済</p> <p>第5回 表現から見えてくるもの（1） 絵画・詩からみる多様性</p> <p>第6回 表現から見えてくるもの（2）映画からみる政治と宗教</p> <p>第7回 大陸部の暮らし（1）メコン河流域の自然と人々</p> <p>第8回 大陸部の暮らし（2）メコン河流域諸国の歴史と変化</p> <p>第9回 大陸部の暮らし（3）日本など外部者の関わり—開発を中心に</p> <p>第10回 グループ・ディスカッション</p> <p>第11回 島嶼部の暮らし（1）フィリピン・ミンダナオの人々と争い</p> <p>第12回 島嶼部の暮らし（2）「国民国家」と「エスニック集団」から見る紛争の根本原因</p> <p>第13回 島嶼部の暮らし（3）紛争解決のための努力と多文化共生にむけて</p> <p>第14回 グループ・ディスカッション</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
<p><テキスト> 特に定めない。主としてプリントを用いる。</p> <p><参考文献> プリントの中で随時紹介する。</p> <p><評価方法> 授業感想文:30% レポート:70%</p>			

アフリカの文化と社会		後期 2 単位	1・2年
現代アフリカの多様な人々の暮らしと文化		椎野 若菜（しいの わかな）	
授業の到達目標 及びテーマ	アフリカの特徴的な自然環境、人間集団、社会、文化、経済活動、国民国家群の様相を、歴史的変遷とともに現代的な社会問題に至るまで幅広く知識を蓄積。いま、アフリカで何がおこっているのか。アフリカとはどのような土地か。どのような人々が暮らしているのか。人々の視点からみて、世界情勢との関係を双方から捉えられるようになることが目		
授業の概要	アフリカ大陸が、西洋列強による植民地化から脱するのは1960年代。その「アフリカの年」から約半世紀がたった現在、またアフリカは急速に変化する新たな時代に突入している。本講義では、人類学視点から、多様なアフリカ人の社会と文化とその変化を具体的な事例から映像を交え学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 狩猟採集民 ブッシュマンの食べ物 第3回 狩猟採集民 森の暮らし 第4回 農牧漁撈民ルオの民族誌：ジェンダーの視点から 第5回 牧畜民 バンナの民族誌、通過儀礼（男子） 第6回 通過儀礼（女子） 第7回 アフリカの結婚の多様性 第8回 牧畜民 トウルカナの結婚 第9回 一夫多妻の運営の方法 第10回 寡婦の暮らし 第11回 ルオにおける子育て 第12回 アフリカの植民地期と今 第13回 シングルをはじく村、うけいれる都市ナイロビ 第14回 都市：ナイロビ・スラムと開発の問題 第15回 まとめ		
テキスト	『文化人類学のレッスン 増補版 フィールドからの出発』奥野克巳・花淵馨也共編、学陽書房	参考文献	『「シングル」で生きる—人類学者のフィールドから』椎野若菜編、御茶の水書房。ほか授業時に提示。
評価方法	レスポンスペーパー：20% レポート：80%		

イスラームの文化と社会		前期 2 単位	1・2年
イスラームの文化と社会：ムスリム社会の女性をとりまく環境、地位に注目して		椎野 若菜（しいの わかな）	
授業の到達目標 及びテーマ	2010年末にチュニジアを筆頭に始まった最近のアフリカが国際ニュースを賑わせている理由や、その流れをおえるようにする。イスラームの人々に起きている変化とは何か、当該文化と社会の歴史的文化的背景をみながら、とくに女性の地位、境遇に注目して迫り生活者の視点からの理解を深め語れるようになることが目標。		
授業の概要	現在イスラーム社会は10億人以上の人口を抱え急成長している。2001年の9.11米国同時多発テロ事件以降、一部の原理主義者たちの活動によりイスラームの暴力性が強調され、誤解を生んでいることは周知の事実だ。本講義では、日本人にとりまだ理解しづらいイスラームの文化と社会の人々の生活について、映像を用いながらアフリカ大陸を中心にみて		
授業計画	【前期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 アラブの春：チュニジアの場合 第3回 アラブの春：エジプトの場合 第4回 イスラームの親族家族、結婚、女性の地位 第5回 北アフリカの場合：チュニジアの女性たち 第6回 結婚生活：スーダンの場合 第7回 イスラームのセクシュアリティ 第8回 ムスリム社会の女性解放 第9回 イスラームにおけるファッション、ビジネス 第10回 イスラームにおけるシングル 第11回 イスラーム都市 第12回 東アフリカ、スワヒリ世界の形成 第13回 ザンジバルの女性たち 第14回 コモロの女性：結婚・離婚とシングルの生き方 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に紹介する	参考文献	授業時に紹介する
評価方法	レスポンスペーパー：20% レポート：80%		

ラテンアメリカの文化と社会		後期 2 単位	1・2年
ラテンアメリカについて、私たちが知らなかったこと		後藤 雄介（ごとう ゆうすけ）	
授業の到達目標 及びテーマ	高校段階までに十分に学ばれてこなかったラテンアメリカと総称される地域の文化と社会、および歴史に関する理解を深め、より豊かな世界認識を持てるようになることを目標とします。		
授業の概要	ラテンアメリカの歴史を、コロンブスによる「新大陸発見」から今日までトピックごとに振り返るなかで、それらがいかに現代の文化と社会の形成に影響を与えているかを、日本社会の特徴等と比較しながら明らかにしていきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 なぜ「ラテンアメリカ」なのか—ラテンアメリカの基礎知識 第2回 すべては1492年に始まった—アメリカ大陸「発見」の持つ意味 第3回 植民地時代の「空白」—身体と魂の征服 第4回 ラテンアメリカ「独立」の語られ方 第5回 アメリカ大陸の奴隷解放「ネットワーク」 第6回 米西戦争の「影」のラテンアメリカ 第7回 2つの大戦の「狭間」のラテンアメリカ—「大衆」の登場／への応答 第8回 冷戦下のラテンアメリカ1—「キューバ革命」のインパクト 第9回 冷戦下のラテンアメリカ2—「刊の実験」から軍政へ 第10回 冷戦下のラテンアメリカ3—中米紛争と平和の萌芽 第11回 現代のラテンアメリカ1—民主化の潮流 第12回 現代のラテンアメリカ2—新自由主義の展開 第13回 現代のラテンアメリカ3—「反米大陸」化するラテンアメリカ 第14回 ラテンアメリカと日本—日系移民の「帰還」 第15回 ラテンアメリカの最前線を行く		
テキスト	伊藤千尋『反米大陸——中南米がアメリカにつきつけるNO!』（集英社新書、2007年）	参考文献	授業時に指示します。
評価方法	レポート:90% 授業へのコメント:10%		

国際関係論A		前期 2 単位	1・2年
国際関係論入門I 国際関係の歴史と国際政治学・国際関係論の基本概念		芝崎 厚士（しばさき あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義の到達目標は、（1）ウェストファリア体制成立から21世紀初頭に至る国際関係の歴史の基本的な流れを理解すること（2）国際関係を分析するさまざまな理論や分析概念を、古典的なものから最新のものまで幅広く理解すること、（3）2012年現在の国際関係の動きを（1）（2）に基づいて分析する考え方を身につけること、である。		
授業の概要	グローバル社会で生きていく上で学んでおくべき、国際関係論・国際政治学の基本的な歴史と理論、考え方を初學者にわかりやすく教えます。授業はテスト形式で、（1）報道を分析するニュースウォッチ（2）小論文のリーディング（3）映像や音楽を分析するメディアウォッチで構成されます。毎回答案用紙を提出して、成績評価を行います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：世界と自分、自分と世界の関わり 第2回 学問としての国際関係論・国際政治学とは何か 第3回 国際関係の歴史1 17世紀から19世紀まで 第4回 国際関係の歴史2 20世紀 2つの世界大戦と冷戦 第5回 映像分析1 20世紀とは何だったのか 第6回 国際関係の歴史3 21世紀 冷戦崩壊から現在まで 第7回 国際関係論の基本概念1 主権国家 第8回 国際関係論の基本概念2 多国籍企業・NGO 第9回 国際関係論の基本概念3 国際関係におけるパワー 第10回 映像分析2 グローバルな世界と日本のかかわりを考える 第11回 国際関係の理論1 リアリズムと勢力均衡 第12回 国際関係の理論2 リベラリズムと相互依存 第13回 国際関係の理論3 コンストラクティビズムと社会変化 第14回 映像分析3 21世紀の世界を考える 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

国際関係論B		後期 2 単位	1・2年
国際関係論入門I グローバル社会の現状と課題		芝崎 厚士（しばさき あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義の到達目標は、（1）21世紀初頭のグローバルな社会が抱える諸問題を基礎から理解する（2）それらの問題を解決するためになされている取り組みを幅広く理解する（3）それらの問題を解決するために必要な考え方や物の見方を習得することである。		
授業の概要	前期の「国際関係論A」では基礎的な知識を学び、後期の「国際関係論B」では現在のグローバル社会で生じている環境問題、グローバル資本主義、格差、貧困、援助、子どもや女性の人権、紛争といった諸問題を取りあげます。ニュースウォッチ、リーディング、メディアウォッチを組み合わせたテスト形式で行い、多様なメディア・リテラシーを養い		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：君たちはどう世界に生きているか 第2回 グローバリゼーションとは何か 第3回 国際関係からグローバル関係へ 第4回 グローバル市場経済 第5回 映像分析：グローバル経済の功罪 第6回 地球環境問題 第7回 子ども・女性と人権 第8回 紛争とナショナリズム 第9回 映像分析：紛争の中の弱者達 第10回 紛争解決と平和構築 第11回 貧困と開発 第12回 グローバルな安全保障 第13回 映像分析2：マルチチユードの挑戦 第14回 グローバル市民社会 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。.
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

国際協力		前期 2 単位	1・2年
国際協力と民際協力へ協力のありかたを考える		佐伯 奈津子（さえき なつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	○国際化、グローバル化といわれる今日、開発、人権、紛争、労働、女性、環境などは、一国内にとどまらない地球的問題になっている。このような地球的問題から、国際協力が必要とされる背景を理解する。○国際協力は、国家から草の根までさまざまなレベルで実施されている。具体的な協力の事例を挙げつつ、国際協力の意義や課題を理解する。		
授業の概要	○前半では、身の回りのモノを通じて、わたしたちが暮らす世界の仕組みを明らかにする。 ○後半では、日本の政府開発援助（ODA）の歴史や概観を説明したのち、ODA事業や非政府組織（NGO）による国際協力について説明する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション：授業の進め方とねらい 第2回 ツナ缶：インドネシアのカツオ漁とツナ缶工場 第3回 コーヒー：おいしいコーヒーの真実 第4回 カカオ：先物取引市場と児童労働 第5回 パームオイル：「環境にやさしい」は本当か 第6回 ジーンズ：綿花から製品まで 第7回 ナイキのスポーツ・シューズ：グローバル化時代の労働 第8回 日本の国際協力：政府開発援助（ODA） 第9回 インドネシアのダム開発：電力需要と住民の立ち退き 第10回 インドネシアの天然ガス開発：エネルギー安全保障と人権 第11回 ビルマの天然ガス開発：民主化と軍事政権 第12回 スマトラ沖地震・津波：オール・ジャパンの緊急援助 第13回 ロールプレイ 第14回 まとめ：国際協力と民際協力 第15回 長文リスポンスシート記入		
テキスト	授業時に配布	参考文献	授業時に提示
評価方法	授業感想文の内容:60% ロールプレイ:20% 長文リスポンスシート:20%		

文化人類学A		前期 2 単位	1・2年
ツーリズム研究の地平 — 移動と場所			
授業の到達目標 及びテーマ	ツーリズム（旅・観光・巡礼）を切り口に、人間は移動を通して場所とどのように関わっているのかについて人類学と結びつけながら考える。ツーリズムにかんする三方向からの問い（実用的、社会科学的、哲学的）を通じて、関連知識と理論的な思考力を身につける。また、これらをつまみ、理解した内容を説得的にまとめ、構成する方法を学ぶ。		
授業の概要	文化人類学は異文化に詳しくなることだけが目的ではありません。扱うトピックは多彩ですが、できるだけ具体的かつ包括的に、自分のものの見方を豊かにすることを目指す学問です。そのことを意識しつつ、事例や関連知識、ものごとの背景の読み解き方、思考の深め方を学びます。グループあるいは各自で発表してもらう機会を設けます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン - 文化人類学とは？ 第2回 労働と余暇 第3回 観光人類学・観光社会学という視座 第4回 名所旧跡から海や廃墟へ—アトラクシヨ ンの変遷 第5回 「どこに行くか」から「どう行くか」へ 第6回 世界遺産とランドスケープ 第7回 観光地・巡礼地の作られ方 第8回 観光という商品の作られ方 第9回 世界の巡礼／ツーリズム（1）グループまたは個人発表 第10回 世界の巡礼／ツーリズム（2）グループまたは個人発表 第11回 世界の巡礼／ツーリズム（3）スペインの事例 第12回 世界の巡礼／ツーリズム（4）スペインの事例 第13回 レポ ー トの書き方と議論のしかた 第14回 移動と定住、日常と非日常 第15回 居場所があるとはどういうことか		
テキスト	星野英紀・山中弘・岡本亮輔編（2012）「聖地巡礼 ツーリズム」弘文堂	参考文献	授業の中で紹介します
評価方法	口頭発表:30% リアクシヨ ンペーパ ー:20% レポ ー ト:50%		

文化人類学B		後期 2 単位	1・2年
文化人類学的に考える			
授業の到達目標 及びテーマ	○幅広い題材を用いて、文化人類学に特徴的な考え方、とりわけ「ものごとを丁寧に見ること・考えること」を学ぶ ○文化人類学で扱う多彩な問題関心のあいだにある地続きの部分が把握できるようになる ○当講座内容に関連したレポ ー トの書き方（作法、議論、構成の仕方）を身につける		
授業の概要	扱うトピックは各回ごとに異なるが、具体的に徹した内容から少しずつ抽象度の高い内容へと移行しながら授業をすすめる。文化人類学においては「客観的にみて正しい／間違っ た答 え」というものはない。なので、授業の参加者からの積極的な発言を期待する。ペアワ ー クを取り入れたり課題を課すことがある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン—文化人類学的思考とは 第2回 人類学の出発点とその歴史の概略 第3回 フィールドワ ー クの方法（1）調査の仕方と目的 第4回 フィールドワ ー クの方法（2）事例から思考を組み立てる 第5回 民族誌的映像を見る 「極北のナヌーク」 第6回 民族誌的映像を見る 「ライフ・イン・ア・デイ」 第7回 細かな問題・身近な問題・遠くの問題 第8回 経済と開発—効率や成功の裏側 第9回 アーティファクトと物質性 第10回 集合性とは何か—本質主義と相対主義 第11回 グローバル化と社会変容 第12回 国家—権力と資本主義から考える 第13回 レポ ー トの書き方（1）基本的な作法と議論の仕方 第14回 レポ ー トの書き方（2）議論と構成の仕方 第15回 文化・社会・環境—二つの視点		
テキスト	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	授業参加貢献度:20% リアクシヨ ンペーパ ーと提出物:20% レポ ー ト:60%		

世界の地理と環境A		後期 2 単位	1・2年
新大陸都市の理解のために		廣松 悟（ひろまつ さとる）	
授業の到達目標及びテーマ	授業の全体テーマは、「新大陸における都市発展」である。当該テーマに関する全体像と有効な分析視角の獲得を目標とする。		
授業の概要	主としてアメリカ合衆国における都市発展とその背景に関する通時的アプローチをとり、そのために必要な地理学的分析概念の紹介を随時実施する。また、カナダやメキシコを含めたラテンアメリカ諸地域における都市発展も比較事例として適宜取り扱う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 新大陸都市とは？：その普遍性と特殊性について 第3回 合衆国独立以前の新世界と都市発展 第4回 合衆国独立前後期における都市の分布とその特徴 第5回 都市化と地域発展：中心地論と都市の階層構造変化 第6回 初期（18世紀後期～19世紀前期）の都市化傾向 第7回 中期（19世紀後期～20世紀前期）の都市化要因 第8回 現代（20世紀半ば～現在に至る）の都市化条件 第9回 都市空間の内部構造について 第10回 新大陸都市における都心とその周辺地域の形成 第11回 新大陸都市における初期的郊外（路面電車郊外）の形成 第12回 新大陸都市における自動車郊外の発展とその現状 第13回 合衆国以外の北米都市（カナダ・メキシコ）の地理的分布 第14回 中南米都市の現状とそれを規定した諸条件について 第15回 まとめ：新大陸における都市研究と地域研究について		
テキスト	特定のテキストは指定しない。	参考文献	初回ガイダンス時に、詳細な文献リストを配布する。
評価方法	中間ショートレポート：40% 期末定期試験：60%		

世界の地理と環境B		後期 2 単位	1・2年
新大陸各地域発展の理解をめざして		廣松 悟（ひろまつ さとる）	
授業の到達目標及びテーマ	授業の全体テーマは、「新大陸における地域発展」である。当該テーマに関する全体像と有効な分析視角の獲得を目標とする。		
授業の概要	主としてアメリカ合衆国の地域発展とその社会経済及び文化的背景に関する通時的展望を主に行い、そのために必要な地理学的アプローチの紹介を随時実施する。また、カナダやメキシコを含めたラテンアメリカ諸地域における都市発展についても比較事例として適宜取り扱う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 新大陸の地理的特色：地形と気候分布 第3回 新大陸の各地域：地域区分とその諸要素 第4回 人口分布の特色とその背景 第5回 極地域とその周辺地域の地誌 第6回 アングロアメリカ地誌1：アメリカ合衆国 第7回 アングロアメリカ地誌2：カナダ 第8回 ラテンアメリカ地誌1：メキシコ合衆国 第9回 ラテンアメリカ地誌2：中米およびカリブ海諸国圏 第10回 ラテンアメリカ地誌3：南米アンデス諸国 第11回 ラテンアメリカ地誌4：ブラジル及びパラナ諸国圏 第12回 新大陸地域を巡る政治及び経済・文化の諸問題 第13回 新大陸地域についての資源・環境問題の諸相 第14回 新大陸諸国の地域と都市発展について：ケーススタディ 第15回 まとめ：新大陸の地域発展とそのグローバルな意味		
テキスト	特定のテキストは指定しない。	参考文献	初回ガイダンス時に、詳細な文献リストを配布する。
評価方法	中間ショートレポート：40% 期末定期試験：60%		

比較文化論A		前期 2 単位	1・2年
自然と芸術		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>「自然と芸術」をめぐる思想を歴史的背景を考慮しつつ理解する。 「自然に学ぶ」ということの多様なあり方を考える。 ヨーロッパと中国・日本の芸術思想を比較する。</p>		
授業の概要	<p>講義を中心とする。講義を踏まえて、考えたことをコメントとして提出する。 「芸術と自然」に関する文章を読む。 画像やDVD、図書館の画集などを実際に見る。</p>		
授業計画	<p>【前期】 第1回 「自然と芸術」について 第2回 美術のはじまり～先史時代の美術 第3回 神話における自然と芸術 第4回 ギリシアの古代哲学における芸術と自然 第5回 キリスト教の自然観と芸術 第6回 中国の自然哲学と山水画 第7回 レオナルド・ダ・ヴィンチにおける自然と芸術 第8回 近世オランダにおける自然と芸術～DVD「オランダの光」 第9回 ロマン主義哲学と芸術 第10回 ロマン主義の絵画 第11回 ゴッホと日本 第12回 パウル・クレーにおける自然と芸術～クレーの日記 第13回 クレーにおける自然と芸術～作品 第14回 抽象絵画と自然 第15回 現代美術における自然</p>		
テキスト	<p>文章を配布する。 画像、DVDを教室で鑑賞する。</p>	参考文献	図書館の蔵書のなかから紹介する。
評価方法	コメント:40% レポート(複数回):30% 試験:30%		

比較文化論B		後期 2 単位	1・2年
ヨーロッパ文化と日本文化		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>来日したヨーロッパ人の眼に映った日本文化を考察する。 ヨーロッパ文化と日本文化の出会いの時代背景を理解する。 現代文明と伝統的な日本文化・ヨーロッパ文化を比較する。</p>		
授業の概要	<p>時代背景や文化の背景を講義する。 来日ヨーロッパ人の日本紀行・旅行記や手紙を直接読み、理解する。 ほぼ毎回、講義を聴いて考えたことについてコメントを提出する。</p>		
授業計画	<p>【後期】 第1回 ヨーロッパ文化と日本文化の比較について 第2回 マルコ・ポーロと「東方見聞録」 第3回 大航海時代～コロンブスとラス・カサス 第4回 ロヨラとイエズス会 第5回 フランシスコ・ザビエルと日本 第6回 フロイスの「日欧文化比較」 第7回 ささまざまなイエズス会士と日本 第8回 「南蛮文化」 第9回 キリスト教と日人～キリシタン 第10回 江戸時代とヨーロッパ～ケンベルの日本論 第11回 ツェンペリーの日本旅行記 第12回 新井白石と「世界」 第13回 蘭学について 第14回 シーボルトと日本 第15回 幕末明治の来日欧米人の見た日本</p>		
テキスト	授業時間内に配布する。	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』
評価方法	授業コメント:40% レポート(複数回):30% 試験:30%		

比較芸術論		前期 2 単位	1・2年
美術と文学		大野 芳材 (おおの よしき)	
授業の到達目標 及びテーマ	画家や彫刻家が作品を構想するとき大きな着想源となったのは、聖書や神話などの文学作品であった。それらは「歴史画」と呼ばれて、主題の中で最も高貴なものとして、「歴史画家」は最も優れた画家とされた。どのような文学作品が参照されたのか、どのような表現が生まれたかを検証しながら、歴史画を高貴とした西洋精神を理解したい。同時に美術作品の見方を		
授業の概要	スライドで美術作品を見ながら、聖書や神話を手がかりにして、その主題を検討していく。必ずしも時代の順ではなく、ひとつの主題が異なる時代でどのように表現されたかを考える。日本の美術にも触れる。授業の中で、近くの美術館見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション：講義の概要、参考文献の紹介 第2回 キリストと美術（1） 旧約の時代 第3回 キリストと美術（2） キリストの誕生 第4回 キリストと美術（3） キリストの生涯 第5回 キリストと美術（4） キリストの死 第6回 マリアと美術 第7回 使徒たちと美術 第8回 神話と美術（1） ユピテルの物語 第9回 神話と美術（2） ウェヌスの物語 第10回 神話と美術（3） アポロンの物語 第11回 神話と美術（4） 様々な神々 第12回 日本の美術（1） 王朝の物語 第13回 日本の美術（2） 近世の物語 第14回 まとめ 第15回 美術館見学（授業の中で期日を指定）		
テキスト	教科書は特に用いない。	参考文献	講義のなかで紹介する。
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%		

文化交流		後期 2 単位	1・2年
旅と芸術		金沢 文緒 (かなざわ ふみお)	
授業の到達目標 及びテーマ	ヨーロッパの芸術の展開にもたらした旅の意義について考える。本講義では、17～19世紀における旅を取り上げ、主に美術の伝播の実態を明らかにする。芸術の中心地であるイタリア、フランスとの関係に注目し、中心地への旅と中心地からの旅、という二つの移動ベクトルを設定することで、この時代における各国の文化交流のあり方を見ていく。		
授業の概要	授業は講義を中心に進め、各種視覚教材を用いて解説を行う。本授業において「旅」として扱う人的・物的移動について理解を深めたうえで、旅から創作上の影響を受けた画家や、旅に関わる芸術現象を具体的に取り上げ、その社会背景や時間的推移を論じていく。また、展覧会見学や学期末のグループ発表の機会も予定している。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 クロード・ロランとニコラ・プッサン 第3回 ヴァン・ダイク 第4回 ベラスケス 第5回 グランド・ツアー①：ヴェネツィアと祝祭 第6回 グランド・ツアー②：ローマと観光客 第7回 グランド・ツアー③：ローマと外国人芸術家 第8回 グランド・ツアー④：ナポリと古代遺跡 第9回 辺境の地への旅①：ドイツ、オーストリア 第10回 辺境の地への旅②：ポーランド、ロシア 第11回 ロマン主義と旅 第12回 印象派の旅：新しい風景の発見 第13回 グループ発表会 第14回 美術館見学（展覧会の会期に応じて日程を決定） 第15回 総括		
テキスト	特になし（適宜プリントを配布）	参考文献	授業の中で随時紹介
評価方法	平常点：40% グループ発表：20% レポート：40%		

美術史 A		前期 2 単位	1・2年
ルネサンスの美術		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	ルネサンスとして知られる西洋で14世紀頃から始まる新しい美術の表現は、今日の美術の基本を形作った。それは古代ギリシャ・ローマの文芸の復興を目指し、人間をすべての中心とする人文主義を主張でもあった。美術作品を手がかりにしてその内容を具体的に確かめながら、西洋の精神の源流のひとつを理解し、その今日的な意味を検討する。		
授業の概要	毎回西欧のルネサンスの時代に活躍した画家を取り上げて、スライドでそれぞれの画家や作品の特徴を考える。古代ギリシャ・ローマや中世の美術と比較するとともに、後の時代への影響を考える。授業の中で、近くの美術館見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イン트로ダクション：ルネサンスとは何か 第2回 中世のキリスト教美術 第3回 ジョットの革新 第4回 1401年のコンクール：フィレンツェとルネサンス 第5回 マザッチョとフラ・アンジェリコ：ふたりの宗教画家 第6回 ファン・エイク：ネーデルラントのルネサンス 第7回 ポッティチェッリ：神話画 第8回 レオナルド・ダ・ヴィンチ 第9回 ラファエッロ 第10回 ミケランジェロ 第11回 ボスとブリューゲル：ネーデルラントの展開 第12回 ティツィアーノとヴェネツィアの美術 第13回 マニエリスム：新しい展開 第14回 まとめ 第15回 美術館見学（授業の中で期日を指定）		
テキスト	特に教科書は用いない。	参考文献	高階秀爾・遠山公一編著『ルネサンスの名画101』新書館/『世界美術大全集』小学館など。講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%		

美術史 B		後期 2 単位	1・2年
ロマン主義から印象派へ		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	18世紀末のフランス革命と、イギリスで始まった産業革命は西欧の政治経済のみならず文化にも大きな影響を及ぼした。王侯貴族や教会の権威の没落は、美術の世界では一般の大衆が鑑賞者として登場する機会になったのである。多くの美術家の活動を、新しい社会の構造の中で理解することを目標にしたい。		
授業の概要	西欧の19世紀から20世紀初頭の美術の動向を、毎回スライドで作品を見ながら具体的に検討する。それぞれの画家たちが当時どのように評価されていたか、今日の評価とそれはどう違うか、などを考えながら、社会と芸術家の関係についても考えたい。授業の中で、近くの美術館見学も行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イン트로ダクション：講義の概要と参考文献の紹介 第2回 ダヴィッドとアングル：新古典主義 第3回 ジェリコーとドラクロワ：ロマン主義、美術の革新 第4回 ターナーとフリードリヒ：イギリスとドイツの美術 第5回 ゴヤ：ふたつの「マハ」とスペイン美術 第6回 コローとミレー：「想い出」シリーズと「落ち穂拾い」 第7回 ラファエロ前派：イギリスの革新 第8回 クールベとマネ 第9回 1874年、第1回印象派展 第10回 モネとルノワール 第11回 ゴッホとゴーガン 第12回 ロダンと彫刻 第13回 セザンヌ 第14回 マチスとピカソ：まとめに替えて 第15回 美術館見学（講義のなかで期日を指定）		
テキスト	特に教科書は用いません。	参考文献	『世界美術大全集』小学館、など。講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート(2000字)：70% 授業への取り組み：30%		

世界のデザイン		後期 2 単位	1・2年
デザイン史に学ぶ		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代はものが豊かにあふれており、それらは全てデザインされている。近代以降の西洋における産業の発達の中で、時代や社会の諸相を反映してきたデザインの歴史を学ぶことを通じて、現代の社会が直面している問題に関心を持ち、考える視座を得ることを目標とする。また良い作品をみて感性を磨くこと、見る目を養うことを目指す。		
授業の概要	19世紀半ばから20世紀半ばまでのヨーロッパ、アメリカ、日本を中心に、特徴のある優れた作品をスライドで見ながら、地域、時代ごとのデザインの変遷を学んでいく。また受講者が日常生活の中でデザインを意識することを目的とするアンケートや授業の内容に対するリアクションペーパーを用いて、コミュニケーションをはかりながら進めていく		
授業計画	【後期】 第1回 導入／産業革命前後／講師の作品紹介 第2回 ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 第3回 アール・ヌーヴォー 第4回 グラスゴー派／19世紀のメディア環境 第5回 ウィーン工房／ドイツ工作連盟 第6回 バウハウス 第7回 デ・ステイル／ロシア・アヴァンギャルド 第8回 アール・デコ／アメリカの近代化 第9回 アメリカのインダストリアルデザイン 第10回 ミッドセンチュリー／グッドデザイン運動 第11回 イタリアのデザイン 第12回 北欧のデザイン 第13回 日本のデザイン (明治から第二次世界大戦まで) 第14回 日本のデザイン (戦後の高度経済成長の中で) 第15回 現代社会とデザイン／まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布	参考文献	授業中に適宜紹介
評価方法	平常点:30% 提出物:20% 定期試験:50%		

世界の宗教		前期 2 単位	1・2年
現代の宗教・民族問題の諸相		杉本 隆司 (すぎもと たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	現在のニュースで話題になることの多い世界の民族・宗教問題の基本的な歴史的・文化的背景について授業する。主に宗教をめぐるヨーロッパの過去と現在を扱うが、今後は日本でも問題関心が高まるものと予想される。世界にはどのような問題があるのか、具体的事例や歴史を通じてその諸要因を理解し、私たちの問題として共有することを目的とする		
授業の概要	21世紀に入り西欧とイスラムに象徴されるように宗教的価値の摩擦に注目が集まっている。政治的にも世俗化・政教分離の問題はなお解決の努力が続いている。授業の前半では現代の問題を考える上で欠かせない近代社会や宗教の基本理論を学ぶ。後半では映像も交え、具体的な地域や歴史を取り上げて多文化主義等の視点から西欧が抱える諸問題を検討		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：授業の概要と進め方 第2回 現代世界の宗教問題：アメリカのイスラム教徒を例に 第3回 国民国家と宗教：近代は宗教が民族や国家と結びついた 第4回 人種概念と宗教：近代は宗教の違いが人種と結びついた 第5回 近代社会と宗教：世俗化論は宗教復興を説明できるか 第6回 近代科学と宗教：宗教学は神学からどのように成立したか 第7回 世界宗教と民族宗教（1）：世界三大宗教とユダヤ教 第8回 世界宗教と民族宗教（2）：ユダヤ教からキリスト教へ 第9回 宗教と地域（キリスト教1）：キリスト教世界の歴史 第10回 宗教と地域（キリスト教2）：旧体制からフランス革命へ 第11回 宗教と地域（キリスト教3）：ライシテ政策と多文化主義 第12回 宗教と地域（イスラム教1）：イスラム世界の歴史 第13回 宗教と地域（イスラム教2）：神の法と政教分離 第14回 宗教と地域（イスラム教3）：西欧とイスラムの現在 第15回 まとめ—私たちのなかの異文化（アイヌを例に）		
テキスト	特に定めない。毎回プリントを配布する。	参考文献	内藤正典『ヨーロッパとイスラム：共生は可能か』 岩波新書／梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版／伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草
評価方法	中間小テスト:30% 期末試験:70%		

学問入門演習	前期 2 単位	1年
大学での学び方を習得しよう		
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、梅垣 千尋（うめがき ちひろ）、大野 芳材（おおの よしき）、奥村 健一（おくむら けんいち）、黒岩 裕（くろいわ ゆたか）、後藤 千織（ごとう ちおり）、齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）、高野 嘉明（たかの よしあき）、谷本 信也（たにもと しんや）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）、中井 章子（なかい あやこ）、松村 伸一（まつむら しんいち）、宮内 華代子（みやうち かよこ）、山田 美穂子（やまだ みほこ）、湯本 久美子（ゆもと くみこ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：大学での学び方を習得しよう 大学での学びは、学生自らの主体的な関心と意欲が基本になっています。この学びを実りあるものにするためには、一定の約束事やスキルを身につける必要があります。この演習では、大学での「学び方」の初歩を修得し、大学生生活のスタートを上手に切っただけを期待しています。具体的には、次のような力の修得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での学びの特徴を理解する。 ②基礎的な学習スキルを身につける。 ③基礎的な情報検索・文献探索能力を身につける。 ④基礎的な文章読解力を身につける。 ⑤基礎的な口頭発表能力と討論の仕方を身につける。 ⑥基礎的な文章作成能力を身につける。 <p>【授業の概要】 各グループ十数名の少人数による発表や討論が中心になります。授業の進め方は担当教員によって異なりますが、例えば、○互いの関心を発表し合い、大学で何を学びたいか交流する、○共通のテキストを読み、レジュメを作り、発表し、討論する、○テーマを決め、関連する文献や資料を探し、まとめて発表する、○テーマにもとづき作品を完成させ、互いに批評し合う、○身体活動やロールプレイ、ワークショップなどを通じ、多様な自己表現を試みたり体験的認識を深める、○レポートを作成することを通じて、わかりやすく自分の考えを他人に伝えられるようにする、などを組み合わせたものとなるでしょう。どのような形であれ、自ら問いを発生し、自分と他人の関心や意見を突き合わせることから、物事の新しい見方が開かれてきます。</p> <p>【授業計画】 グループごとに授業計画は異なります。</p> <p>【テキスト】 グループごとにテキストは異なります。</p> <p>【評価方法】 平常点50%、提出課題50%</p>		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
The Next 50 Years – A World in Turmoil		フィリップス (PHILLIPS, J.R.)	
授業の到達目標 及びテーマ	By the end of this course, students will be able to use research and critical thinking skills to investigate, discuss, present and report on important issues facing the world.		
授業の概要	The lecturer will lead a seminar style discussion, and students are expected to actively participate in this discussion. The course will be conducted in English and Japanese.		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Introduction – 4 Big Issues 第2回 Climate Change – The Evidence 第3回 Climate Change – Controversy 第4回 Climate Change – Implications – Quiz 1 第5回 Population Demographics – The Facts 第6回 Population Demographics – The North-South Problem 第7回 Population Demographics and Japan – Quiz 2 第8回 Energy – A Historical Overview – Peak Oil 第9回 Energy – Tragedy of the Commons 第10回 Energy – Sustainability – Quiz 3 第11回 Species Extinction – Introduction 第12回 Species Extinction – Biodiversity – Does it Matter? 第13回 Species Extinction – Connections – Quiz 4 第14回 Making a Presentation 第15回 Preparing your Oral Presentation		
テキスト	Handouts	参考文献	Included in handouts
評価方法	Participation:25% Quizzes:25% Oral Presentation:25% Written Presentation:25%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
「世界を知る力」を身につける		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○外国の文化や社会について学ぶ意義を理解する。 ○外国との「比較」と「関係」のなかで、日本のあり方をとらえる視点を身につける。 ○国際的な視野にたつて、身近な暮らしのなかに「問題」を発見することができるようになる。		
授業の概要	前半では全員でテキストを輪読し、分担箇所にかんするプレゼンテーションとディスカッションをつうじて、外国との「比較」と「関係」のなかで日本をとらえ直す方法を学ぶ。後半は、国際的な視野をもつと身近な暮らしのなかにどのような「問題」を見つけることができるのかを各自が考え、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション：外国の文化や社会を学ぶ意義 第2回 テキスト (1) 時空を超える視界 (1) 第3回 テキスト (2) 時空を超える視界 (2) 第4回 テキスト (3) 相関という知 (1) 第5回 テキスト (4) 相関という知 (2) 第6回 テキスト (5) 相関という知 (3) 第7回 テキスト (6) 世界潮流のなかの日本 (1) 第8回 テキスト (7) 世界潮流のなかの日本 (2) 第9回 テキスト (8) 世界を知る力 第10回 発表にむけた個別指導 第11回 問題発見のプレゼンテーション (1) 第12回 問題発見のプレゼンテーション (2) 第13回 問題発見のプレゼンテーション (3) 第14回 問題発見のプレゼンテーション (4) 第15回 まとめ		
テキスト	寺島実郎『世界を知る力』 (PHP新書、2009年)	参考文献	必要に応じて授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% プレゼンテーション:30% レポート:40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
美術史で何を学ぶか		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	美術はそれを生み出した社会や文化の状況を強く反映している。美術史は作者や作品の考察で終わるのではなく、広く人間の知的・感覚的営みを考える学問である。美術について書かれた文章を読みながら、美術作品の鑑賞の方法とともに、作者と彼が生きた時代の精神を読み解くことを学ぶ。レポートのまとめ方も学ぶ。		
授業の概要	西洋のみならず日本の美術について書かれた文章を題材にして、文献の読み方、それに関連する別の文献を探して、ひとつのテーマを深めていく方法を学ぶ。文献は最初の授業で、全体の意見を聞いて選ぶ。実際に作品を見るために、展覧会見学も行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：講義のねらいの説明、文献を選択 第2回 第一文献講読（1）短い文章を全体で読む 第3回 第一文献講読（2）全体で討議、まとめ 第4回 第二文献講読（1）ルネサンス美術についての文献を読む 第5回 第二文献講読（2）文献について全体で討議 第6回 第二文献講読（3）内容をまとめる 第7回 第三文献講読（1）日本美術についての文献を読む 第8回 第三文献講読（2）文献について全体で討議 第9回 第三文献講読（3）内容をまとめる 第10回 第四文献講読（1）近代美術についての文献を読む 第11回 第四文献講読（2）内容をまとめ、簡単なレポートを制作 第12回 第四文献講読（3）レポートについて討議 第13回 第四文献講読（4）全体のまとめ 第14回 展覧会見学（1）期日は講義で指示 第15回 展覧会見学（2）期日は講義で指示		
テキスト	コピーを用意する。	参考文献	講義のなかで紹介する。
評価方法	レポート（2000字位）：60% 授業への取り組み：40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
アメリカを知る		黒岩 裕（くろいわ ゆたか）	
授業の到達目標 及びテーマ	1）差別、格差、戦争など、アメリカの抱える問題に関する知識を得ること。 2）アメリカ関係の新聞記事や論文を読んで、内容を正確に理解し、深く考える力を養うこと。 3）自分の考えをまとめ、分かりやすく発表する力を養うこと。		
授業の概要	アメリカに関する新聞記事や論文などを読み、その内容と自分の考えを発表する。教員は発表に関する補足説明を行う。さらに、発表に基づきディスカッションも行う。今年度は以下のテーマを取り上げる予定だが、新聞記事の紹介や論文のレポートの際は、他のテーマを取り上げても構わない。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：アメリカの光と影 第2回 講義1 アメリカのマイノリティ 第3回 ビデオとディスカッション2 アメリカのマイノリティ 第4回 学生による新聞記事の紹介A アメリカのマイノリティ 第5回 学生による新聞記事の紹介B その他 第6回 講義2 差別 第7回 ビデオとディスカッション2 差別 第8回 学生による新聞記事の紹介A 差別 第9回 学生による新聞記事の紹介B その他 第10回 講義3 戦争 第11回 ビデオとディスカッション3 戦争 第12回 論文の探し方について 第13回 アメリカに関する論文のレポートA 第14回 アメリカに関する論文のレポートB 第15回 まとめ		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	授業中適宜紹介する。
評価方法	授業参加：20% 新聞記事の発表：40% 論文レポート：40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
アメリカ史を学ぶ意味		後藤 千織 (ごとう ちおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	○日本のなかの「アメリカ」について考える視点を身につける ○アメリカ社会史の主要テーマを理解する ○外国の歴史や社会を学ぶ意義を考える		
授業の概要	前半では日本社会のなかの「アメリカ」について考え、後半はアメリカ社会史の主要テーマを学ぶ。全員でテキストを輪読し、発表者はテキストの議論をまとめ、論点や疑問点をあげる。参加者はディスカッションに積極的に貢献すること。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 近代日本の「アメリカ」受容 第3回 戦後日本の「アメリカ」受容①国家空間 第4回 戦後日本の「アメリカ」受容②都市空間 第5回 戦後日本の「アメリカ」受容③家庭 第6回 政治的無意識としての「アメリカ」 第7回 ティズニーの帝国 第8回 アメリカ社会史①黒人史 第9回 アメリカ社会史②先住民史 第10回 アメリカ社会史③「白人性」の歴史 第11回 アメリカ社会史④アジア系アメリカ人史 第12回 アメリカ社会史⑤ラティノーノ／ヒスパニック 第13回 アメリカ社会史⑥作られる性差 第14回 アメリカ社会史⑦セクシュアリティ 第15回 まとめ		
テキスト	吉見俊哉『親米と反米—戦後日本の政治的無意識』（岩波書店）、有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有	参考文献	授業中適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% プレゼンテーション:30% レポート:40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
原書で触れる米文学の魅力：チカーナ（メキシコ系アメリカ人女性）の少女が語る「自分探し」の物語		齋藤 修三（さいとう しゅうぞう）	
授業の到達目標 及びテーマ	①シカゴのスラム街で思春期を生きるラティーナ少女の成長物語を通じ、人種民族、貧富の差、性差等の格差に満ちた多文化社会アメリカの実情に触れながら、差別・抑圧のメカニズムを理解する。②引用や要約のスキルを身につけることで、自分の読みを段落構成に基づく論理的な文章で伝えたり、実のある対話ができるコミュニケーション力を身につ		
授業の概要	・メールリポート講評、キーワード説明、レポートやプレゼンテーションの指導 ・チカーノ・シネマ倶楽部：グループごとのプレゼン ・作者朗読の鑑賞とレジュメに基づくリポーター中心のテキスト読解（スタディクイズ 含む）&自由討議		
授業計画	【後期】 第1回 インTRO～1章 第2回 2、3、4章 第3回 5、6章 第4回 11、12章、シネマ倶楽部発表1 第5回 14、18章、シネマ倶楽部発表2 第6回 21、22章、シネマ倶楽部発表3 第7回 25、28章、シネマ倶楽部発表4 第8回 29、30章、シネマ倶楽部発表5 第9回 33、34章 第10回 35、36章 第11回 37、39章 第12回 40、41章 第13回 42、43章 第14回 44、45章 第15回 まとめ		
テキスト	Sandra Cisneros, <i>The House on Mango Street</i> , New York: Vintage Books, 1989	参考文献	『マンゴー通り、ときどきさよなら』サンドラ・シスネロス（くぼたのぞみ訳）、晶文社、1996年
評価方法	中間・期末レポート:50% 担当者レポート:10% プレゼンテーション:10% メールレポート:20% 討議貢献度など平常点:10%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
対人関係とコミュニケーション		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	コミュニケーションの性質と行為が個人関係に与える影響を分析する。文化やジェンダーや世代の違いを含めて異文化コミュニケーションに関する様々な課題を取り上げていく。		
授業の概要	バイリンガル環境を目指し、授業は英語を生かすクラス・アクティビティから始まる。続いて授業計画に基づいて英語で映像講義を行い、そして、日本語でQ&A時間を設け、講義に関する小グループ議論する。		
授業計画	【後期】 第1回 Introduction 第2回 Interpersonal Communication 第3回 Identity 第4回 Perception 第5回 Emotions (1) 第6回 Emotions (2) 第7回 Nonverbal Communication 第8回 Active Listening (1) 第9回 Active Listening (2) 第10回 Relational Dynamics 第11回 Improving Communication (1) 第12回 Improving Communication (2) 第13回 Managing Conflict (1) 第14回 Managing Conflict (2) 第15回 Summary		
テキスト	未定	参考文献	必要に応じて教室で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% 宿題:20% 中間テスト:25% 期末テスト:25%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
効果的な英語学習法を探る		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の英語産業界・教育界に多く存在する誤った英語観・英語教育観に関して、それらのどこがどのように間違っているのか、ということについて詳細に究明し、それによって正しい効果的な英語学習法を身に付け、それを実践することができるようになることを目標とします。		
授業の概要	まず各授業のテーマに関する資料を読み、それについてグループに分かれてディスカッションし、各グループごとに意見をまとめてプレゼンテーションする(略して「ディスプレ」)、次に教員が解説する、というやり方で授業を進めます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス(日本は英語ができない国か) 第2回 学校の英語教育は間違っているか(ディスプレ) 第3回 学校の英語教育は間違っているか(解説) 第4回 赤ん坊と同じやり方で英語習得が可能か(ディスプレ) 第5回 赤ん坊と同じやり方で英語習得が可能か(解説) 第6回 英語習得に文法は不要か 第7回 文法力テストの実施 第8回 英語学習に発音記号は不要か 第9回 単語を知っているとはどういうことか(ディスプレ) 第10回 単語を知っているとはどういうことか(解説) 第11回 英語の読解には何語知っている必要があるか 第12回 自分の語彙力をどうやって測るか 第13回 語彙力テストの実施 第14回 最も効果的な単語の覚え方とは(ディスプレ) 第15回 最も効果的な単語の覚え方とは(解説)		
テキスト	特には使用せず、必要に応じてプリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:30% 授業参加度:30% レポート:40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
近世の日本とヨーロッパの比較文化論		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	来日した欧米人の日本旅行記をととして、日本とヨーロッパの文化について比較し、考察する。 自然と文化の関係、現代文明と伝統文化の関わりについても考えることとする。		
授業の概要	渡辺京二『逝きし世の面影』を共通のテキストとして、担当者の発表を踏まえ、議論する。 要約(レジュメ)、まとめ、レポートなどの書き方をしっかり身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 日本とヨーロッパの近世と近代と現代 第2回 人びとの気質 第3回 「簡素とゆたかさ」 第4回 マナー 第5回 「雑多と充溢」 第6回 「労働と身体」 第7回 「身分と自由」 第8回 裸と性の問題 第9回 女性の位置 第10回 子ども 第11回 自然観と風景 第12回 動物の位置 第13回 信仰 第14回 心のあり方 第15回 現代の日本とかつての日本		
テキスト	渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー	参考文献	図書館蔵書の中から適宜紹介する。
評価方法	発表・議論・まとめ:50% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
シェイクスピアに学ぶ〈学び〉の愉しみ		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	1)シェイクスピアの主要作品の内容や有名なセリフなどを知り、それが現在もしばしば引用されることに気づけるようになる。2)初期近代イギリスの言語と文化について概要を知る。3)自宅の書棚に複数回読んだシェイクスピア作品のコレクションを作る。4)翻訳やさまざまな批評の手助けを借りつつ、400年以上昔の外国で書かれた戯曲を心から楽しむ。		
授業の概要	最初に講義形式で時代背景等を説明した後は、ゼミ形式。毎回シェイクスピア作品を翻訳で一冊、発表担当者を決めて、読み進めていく。発表では、あらずじや人物関係をまとめ、有名なセリフを原文で読むほか、ビデオ鑑賞なども取り入れて作品を紹介する。発表者以外の参加者も、発表者からの問題提起に対して、積極的に発言することが求められ		
授業計画	【後期】 第1回 シェイクスピアとその時代 第2回 『タイタス・アンドロニカス』 第3回 『リチャード三世』 第4回 『ロミオとジュリエット』 第5回 『夏の夜の夢』 第6回 『ヴェニス商人』 第7回 『から騒ぎ』 第8回 『ヘンリー五世』 第9回 『恋の骨折り損』 第10回 『ハムレット』 第11回 『十二夜』 第12回 『オセロー』 第13回 『マクベス』 第14回 『あらし（テンペスト）』 第15回 まとめ		
テキスト	各自できる限り全ての作品の文庫版（ちくま文庫を推奨）を購入すること。新本の場合一冊500～800円程度。無論古書も可だが、ある程度の投資は求めら	参考文献	高田康成他編『シェイクスピアへの架け橋』、ブライソン『シェイクスピアについて僕らが知りえたすべてのこと』、阿刀田高『シェイクスピアを楽しむ』
評価方法	平常点（発表・発言）:50% 期末レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
英語で学ぶ日米比較		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日米の伝統・文化・思考方法を比較したテキストを用い、英文エッセイの読み方、英文読解の基本的なスキルを習得し、さらに、研究書や資料を読みこなすのに必要な英語力の増強を図る。2年次の卒論作成の準備として、自らテーマを設定して研究する面白さ・楽しさを知る。		
授業の概要	英文テキストを分担し、担当者が作成したレポートをもとに、口頭発表を行い、質疑応答とディスカッションによって収録されたエッセイを読み進めます。随時、課題について記述式解答を提出する。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 Sports 第3回 Job Hopping 第4回 Cash or Credit Card? 第5回 Independent or Parasite? 第6回 Working Year Round 第7回 Low Birthrate 第8回 American Food 第9回 Anime in USA 第10回 Work and Family 第11回 High School and University 第12回 Politeness 第13回 Loan Words 第14回 A Buddhist Christmas 第15回 DVD鑑賞 まとめ		
テキスト	Spotlight on America and Japan (南雲堂) 英語表現構文 (南雲堂)	参考文献	授業中に随時紹介
評価方法	前期定期試験:40% レポート・発表:10% 小テスト:20% 課題提出:20% 平常点:10%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
20世紀イギリス小説を読む		山田 美穂子 (やまだ みほこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の読者にも比較的読みやすい20世紀初頭のイギリス小説を読み、文学の味わいかたを知るとともに、今後大学で学ぶために必要な精読や情報収集、プレゼンテーションなどの基礎的な技能を修得することを目指す。		
授業の概要	小説の抜粋を輪読しながら、エドワード朝イギリスの社会背景や文化的思潮について講義する。図書館ガイダンスや中間発表などを通じて情報収集と発信の方法について学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 映画鑑賞 第3回 テキスト輪読 第1回 第4回 テキスト輪読 第2回 第5回 テキスト輪読 第3回 第6回 テキスト輪読 第4回 第7回 テキスト輪読 第5回 第8回 図書館ガイダンス予定 第9回 テキスト輪読 第6回 第10回 テキスト輪読 第7回 第11回 中間発表 第1班 第12回 中間発表 第2班 第13回 中間発表 第3班 第14回 中間発表の総括 第15回 「専攻基礎演習」のまとめ		
テキスト	『ジーヴズの事件簿 ウッドハウス選集1』 (文藝春秋)	参考文献	授業内に適宜指導。
評価方法	授業内コメント提出:60% 発表担当:40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
ことばの世界へのいざない		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語と日本語の諸相を概観することにより、言語研究の様々な分野を紹介するとともに（比較言語学・英語史・社会言語学・類型論・対照言語学・意味論・語用論・情報構造・言語の特徴・理論言語学）ことばの世界の楽しさを知る。		
授業の概要	担当者による講義と受講生との議論で授業を進める。DVDやプリント等の補助教材を用いて、これまでの英語学習や日常の言語使用において「なぜ」と疑問に思っていたことを一緒に楽しく明らかにしていくことにより言語研究の世界へ案内する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODククション 第2回 英語はフランス語と日本語のどちらに似ていますか？ 第3回 英語はどこから来たのですか？ 第4回 英語はどのように発達したのですか？ 第5回 世界の中の英語を考えてみましょう 第6回 なぜ英語を学ぶのでしょうか 第7回 英語はSVO・日本語はSOV 第8回 「ジュース」と "juice"は同じですか？ 第9回 意味の世界へようこそ 第10回 ことばを使うときに気をつけていますか？ 第11回 私「は/が」田中です。どちらがいますか？ 第12回 Information packaging 第13回 ことばの特徴 - Design features 第14回 ことばについての二つの考え方 第15回 課題発表・まとめ		
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーション・DVD等で進める。英語辞書・A4サイズのバインダーを持参のこと。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末レポート:50% 議論参加・課題:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
The History of Canada		フィリップス (PHILLIPS, J.R.)	
授業の到達目標 及びテーマ	This course will provide an overview of the history and culture of Canada. Emphasis will be placed on the way in which Canadian history and culture has evolved in a way distinct from that of the United States, resulting in superficially similar but deeply different societies.		
授業の概要	Each week, there will be a reading assignment set for homework. In class there will be one period consisting of a lecture and/or presentation followed by discussion in the second period. The lecture and discussion will be based on the reading assignment.		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction to the Course 第2回 Thinking about History 第3回 The Crossing 第4回 First Nations 第5回 When World' s Collide - First Contact 第6回 The Rise of New France 第7回 The Fall of New France 第8回 The Failed Republic 第9回 The Roads to Confederation 第10回 Western Expansion 第11回 World War I 第12回 Depression 第13回 World War II 第14回 Constitution and Nationalism 第15回 Student Presentations		
テキスト	Handouts	参考文献	References will be provided
評価方法	Tests:25% Presentation:25% Written Research Project:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
織表現におけるデザインから作品完成まで、そのプロセスを学ぶ		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	イメージをどのように「織」で表現するか、デザインから機ごしらえ等の準備、製織、作品完成までの工程を、課題制作を通して学び習得することを目指す。また様々な織物や繊維造形など図版の紹介により、イメージと表現、素材、道具や技術についての理解を深め、さらに人間と繊維と創造力の関わりを考察することを目的とする。		
授業の概要	テーマ：季節のイメージを、色系を用いたストライプデザインの織、およびタピスリー技法で表現する。デザイン画、織機のセッティング、製織、仕上げ、完成までの工程を課題制作を通して学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、講義：組織について、ストライプのデザイン 第2回 課題1：ストライプ：経系の準備（整経） 第3回 織機セッティング（機ごしらえ） 第4回 続き、織り出し 第5回 製織 第6回 織り上がり、経系始末、作品の仕上げ 第7回 課題2：タピスリー：デザイン演習、経系の準備（整経） 第8回 織機セッティング（機ごしらえ） 第9回 実手下絵、織り出し 第10回 製織 第11回 続き 第12回 続き 第13回 続き、織り上がり、経系始末 第14回 作品の仕上げ 第15回 講評会、まとめ（卒業制作にむけて）		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 課題作品:50% レポート :20%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
イギリスの文化・社会・歴史を学ぶ		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	○イギリスの文化、社会、歴史についての理解を深め、身近な事柄を時間的にも空間的にも広い視野からとらえることができるようになる。 ○イギリス文化の多層性・ダイナミズムの理解を通じて、現代世界を多角的・複眼的に把握できるようになる。		
授業の概要	テキストの輪読を中心としながら、関連する映画の鑑賞、学んだ内容にかんするディスカッションを行う。レポーターは、担当箇所についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、レポーターの立てた「問い」にたいして全員で議論する。授業と並行するかたちで、卒業論文のテーマ設定にむけての個別指導も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：イギリス文化とは？ 第2回 はじめに：プレゼンテーションの方法 第3回 イギリス人とは誰か？：『ラブ・アクチュアリー』 第4回 イギリス近現代史概観 第5回 政治と文化：伝統と革新の18世紀 第6回 現代君主制の揺らぎ：『クイーン』 第7回 労働と文化：『平凡な日常』とアイデンティティ 第8回 福祉と文化：チャールズ・ディケンズの世界 第9回 貧困と慈善：『オリヴァー・ツイスト』 第10回 教育と文化：連合王国の教育文化史 第11回 イギリス料理はなぜまずい？ 第12回 連合王国としてのイギリス：『ウェールズの山』 第13回 「われわれ」の山はどこにある？ 第14回 卒論個別相談 第15回 まとめ		
テキスト	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』（昭和堂、2010年）	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:40% プレゼンテーション:30% レポート:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
美術史・文化史研究		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	西洋の美術を中心に、日本や東洋の美術も視野に入れながら、芸術と文化、人間と歴史、人間と社会などの問題を広い視野から深く考える。芸術作品に触れ、多くの書物を読みながら、芸術家、芸術作品を考え、それを自らの言葉で表現することを目標にする。		
授業の概要	授業の参加者の意見を聞きながら、それぞれの関心に応じて、将来の論文のテーマを絞っていくようにしたい。展覧会見学も随時行い、その感想の発表や討論を通じて、芸術作品を考えることに慣れていきたい。		
授業計画	【前期】 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 ルネサンス美術研究 1 第 3回 ルネサンス美術研究 2 第 4回 ルネサンス美術研究 3 第 5回 フランス17・18世紀美術研究 1 第 6回 フランス17・18世紀美術研究 2 第 7回 フランス17・18世紀美術研究 3 第 8回 近現代美術研究 1 第 9回 近現代美術研究 2 第 10回 近現代美術研究 3 第 11回 日本美術研究 1 第 12回 日本美術研究 2 第 13回 日本美術研究 3 第 14回 展覧会見学（1） 第 15回 展覧会見学（2）		
テキスト	授業の中で指示	参考文献	各自の関心に応じて指示
評価方法	レポート:60% 授業への取り組み:40%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
道具のデザインを比較考察し、試作する。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具やシステムのデザインとその働きを観察し、日常からさらに一歩踏み込んだヒトとモノとの関係をより深く理解する。 ・ 生活行動に見受けられる問題や可能性の中から目標を設定し、試行錯誤も交えて探索していく。目標を実現する方法 		
授業の概要	共通の課題を数種類行う。身近な生活環境の観察については、計画やレポートにまとめて発表する。また、設定した目標を実現するデザインについては、模型制作や図示によって各自の考えを示す。		
授業計画	【前期】 第 1回 ガイダンス／日常にあるテーマの発見・研究の進め方 第 2回 研究事例の紹介・共通課題の決定 第 3回 課題 (1) 色彩・形体・空間の観察とデザインの目標設定 第 4回 課題 (1) 目標に沿ったサンプルの試作・模型の制作 第 5回 課題 (1) 制作の続き 第 6回 課題 (1) 発表と講評 第 7回 課題 (2) 生活観察：課題説明、各自が対象を設定 第 8回 課題 (2) 生活観察：対象のようすを収集 第 9回 課題 (2) 生活観察：各自の対象について観察と考察 第 10回 課題 (2) 観察・考察のまとめ 第 11回 課題 (3) 実験的なデザイン：課題説明、試作開始 第 12回 課題 (3) 試作と制作の続き 第 13回 課題 (3) 制作の続き 第 14回 課題 (3) 制作の続き 第 15回 課題 (3) 発表と講評		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	レポート:20% 課題作品:50% 平常点:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
多民族社会アメリカ I		黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) 多民族社会アメリカの光と影の両面について理解を深め、アメリカを多面的、批判的にみる力を養うこと。 2) 夏休み中に卒業論文の準備を進められるように、前期の終わりまでに、各自卒業論文のテーマを決めること。 3) 自分の言葉で分かりやすく発表する力を養うこと。		
授業の概要	移民の歴史、日系アメリカ人、アメリカ先住民を主要テーマとして、講義を中心に授業を進める。関連するビデオや新聞記事も利用する。学生による発表も行う。		
授業計画	【前期】 第 1回 インTRODクシヨン アメリカをみる視点 第 2回 移民の歴史 (植民地時代) 第 3回 移民の歴史 (旧移民) 第 4回 移民の歴史 (新移民) 第 5回 移民の歴史 (現代の移民) 第 6回 学生の発表 (新聞記事) 第 7回 日系アメリカ人 (移民の始まり) 第 8回 日系アメリカ人 (日系移民排斥) 第 9回 日系アメリカ人 (太平洋戦争と強制収容) 第 10回 紀要論文のレポート グループ 1 第 11回 アメリカ先住民 (歴史) 第 12回 アメリカ先住民 (同化政策) 第 13回 アメリカ先住民 (今日のアメリカ先住民) 第 14回 紀要論文のレポート グループ 2 第 15回 卒業論文のテーマ発表		
テキスト	明石紀雄、飯野正子著 『エスニック・アメリカ[第3版]』有斐閣、2011年	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加:40% 新聞記事の発表:20% 紀要論文のレポート:20% 卒業論文のテーマ発表:20%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
アメリカ社会史をまなぶ (1)		後藤 千織 (ごとう ちおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	研究論文や一次資料の購読を通じて、資料の検索・収集方法、資料の読み方、議論の組み立て方など、論文作成に必要な技術を学びます。夏休み前までに卒業論文のテーマを各自決定します。		
授業の概要	ジェンダー史やアメリカ社会史の研究論文や資料を読み、参加者で議論します。報告者には論点や疑問点をまとめてもらいます。期末レポートでは、自分の卒業論文に関連する本を書評します。		
授業計画	【前期】 第 1回 インTRODクシヨン 第 2回 つくられる性差 第 3回 近代国家建設とジェンダー 第 4回 「帝国」とジェンダー編成 第 5回 階級とジェンダー編成 第 6回 教育と性差 第 7回 「売春」をめぐる社会改革運動 第 8回 政治文化とジェンダー (1) 第 9回 政治文化とジェンダー (2) 第 10回 異性愛/同性愛の誕生 第 11回 アメリカ・ジェンダー史 (1) 近代家族の成立 第 12回 アメリカ・ジェンダー史 (2) 「真の女らしさ」の登場 第 13回 アメリカ・ジェンダー史 (3) 19世紀の女性同士の親密性 第 14回 アメリカ・ジェンダー史 (4) 求婚のかたち 第 15回 まとめ: 卒論執筆にむけて		
テキスト	歴史学研究会編 『性と権力関係の歴史』 (青木書店)	参考文献	授業時に適宜紹介します。
評価方法	授業への参加姿勢:50% 期末レポート:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
卒論入門と近現代のアメリカ詩を読む		齋藤 修三 (さいとう しゅうぞう)	
授業の到達目標 及びテーマ	①近現代アメリカ詩の代表作を読み、生の様々な局面を切り取った英語詩の魅力に触れ、社会や文化を批判的に思考するリテラシーを磨くことで、日常の自明性に麻痺した私たちの知性と感性の刷新をめざす。②口頭や文章で疑問や考えを論理的に表現する力を磨き、卒論の基礎的スキルを身につけつつ、英米文学・文化から各自卒論のテーマを絞り込		
授業の概要	卒論の心構え・リサーチ法や情報カード術習得・パラグラフ作文練習・リポーターによるレジュメを用いた詩や資料の読解報告と自由討議・メールレポート講評・キーワード解説・プレゼンテーション		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入～19Cアメリカ詩1；戦後アメリカ詩1 第2回 卒論入門1、19Cアメリカ詩2；戦後アメリカ詩2 第3回 卒論入門2、19Cアメリカ詩3；戦後アメリカ詩3 第4回 卒論入門3、19Cアメリカ詩4；戦後アメリカ詩4 第5回 卒論入門4、20C前半アメリカ詩1；現代アメリカ詩1 第6回 卒論入門5、20C前半アメリカ詩2；現代アメリカ詩2 第7回 卒論入門6、20C前半アメリカ詩3；現代アメリカ詩3 第8回 卒論入門7、20C前半アメリカ詩4；現代アメリカ詩4 第9回 卒論入門8、20C前半アメリカ詩5；現代アメリカ詩5 第10回 卒論入門9、20C前半アメリカ詩6；現代アメリカ詩6 第11回 卒論入門10、20C前半アメリカ詩7；現代アメリカ詩7 第12回 卒論入門11、現代アメリカ詩8 第13回 卒論入門12、現代アメリカ詩9 第14回 卒論入門13、プレゼンテーション1 第15回 プレゼンテーション2～まとめ		
テキスト	榎木伸明『卒論を書こう』（三修社）	参考文献	随時紹介
評価方法	プレゼンテーション:40% リポーター回数:20% 討議への参加度:10% メールレポート:10% パラグラフ作文提出:10% 小報告:10%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
異文化研究		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。		
授業の概要	大学での教育経験を活かして、関心を持ったものについてテーマ化することが大きく一歩を踏み出したことになると考えている。前期には、個々に関心を持ったものについて、テーマ化できたものを個々に報告してもらい、夏休みまでに卒論テーマを絞り込んでもらいたいと思う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入(前期ゼミの運営方針を提起) 第2回 文化の正体 第3回 自民族中心主義 第4回 グローバリゼーション 第5回 ハイコンテクスト文化とローコンテクスト文化 第6回 マスメディアと現在社会 第7回 固定観念を捨てること 第8回 価値観と信念 第9回 一体性と多様性 第10回 卒論テーマ発表と討論1 第11回 卒論テーマ発表と討論2 第12回 卒論テーマ発表と討論3 第13回 卒論テーマ発表と討論4 第14回 卒論テーマ発表と討論5 第15回 まとめ、懇談		
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
異文化間コミュニケーション		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業では音声言語、身体言語、文化の観点から異文化間コミュニケーションの性質と問題点、その克服法に関する理解を深めることを目標とします。前期は日米間での英語によるコミュニケーションを想定し、まず(異文化間)コミュニケーションのモデルについて考察し、次に母語の日本語と外国語としての英語の言語的な相違について検討します。		
授業の概要	基本的には上記の事柄に関する文献を交替で読んでいく形式で授業を進めます。また、二人一組(単独可也)で前期に学習する範囲内の事柄から1つテーマを決め、資料に当たり、それをまとめて発表することも行います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 異文化間コミュニケーションの重要性と現状 第3回 コミュニケーション・モデル(情報発信者の観点) 第4回 コミュニケーション・モデル(情報受信者の観点) 第5回 コミュニケーションに対する文化の影響 第6回 コミュニケーションの断絶 第7回 異文化間コミュニケーション・モデル 第8回 異文化間コミュニケーションの問題点 第9回 音声言語による異文化間コミュニケーションの問題点 第10回 異文化間コミュニケーションにおける音声上の問題 第11回 異文化間コミュニケーションにおける文法上の問題 第12回 異文化間コミュニケーションにおける語彙・意味の問題 第13回 異文化間コミュニケーションの非言語的側面 第14回 異文化間コミュニケーションにおける文化の問題 第15回 まとめと補足		
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:40% 授業参加度:30% 発表:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
デザイン造形による表現演習		趙 慶姫 (ちよう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	デザインは社会と密接に関わることから、普遍的な造形美が求められる。このデザイン造形の研究により、他者とコミュニケーションする社会性をもった表現力を身につけることを目標とする。Iでは題制作の中で参考作品から多様な表現を学び、卒業制作のテーマの決定を目指す。		
授業の概要	前半は共通の課題として着彩による平面構成を行う。この間に各自の方向性を探り、後半は選択により平面構成または立体構成の課題制作を行い、卒業制作のテーマを絞る。制作は各自が授業外の時間も使って進め、授業ごとに経過の確認、個別の指導を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス/課題説明 第2回 課題1:ストライプによる構成 第3回 課題1:ストライプによる構成(続き) 第4回 課題1:ストライプによる構成(続き) 第5回 課題2:色彩研究 第6回 課題2:色彩研究(続き) 第7回 課題2:色彩研究(続き) 第8回 講評会/課題説明 第9回 課題3a:平面構成 3b:立体構成 第10回 課題3a:平面構成 3b:立体構成(続き) 第11回 課題3a:平面構成 3b:立体構成(続き) 第12回 課題4a:平面構成 4b:立体構成 第13回 課題4a:平面構成 4b:立体構成(続き) 第14回 課題4a:平面構成 4b:立体構成(続き) 第15回 講評会/まとめ(卒業制作にむけて)		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 課題作品:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
比較文化論、来日した欧米人の目に映った日本文化		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	16世紀から19世紀に来日した欧米人の旅行記をとおして、異文化交流、日本文化とヨーロッパ文化の比較について学ぶ。 卒業論文のテーマを各自が決め、研究方法を学び、実践する。		
授業の概要	1. 共通のテキストを決め、要約し、ディスカッションし、報告書を書く。 2. 卒業論文については、各自で決めたテーマに基づき、文献を収集する。 3. 現代世界における日本文化について考えるため、新聞を読んできて話し合う。		
授業計画	【前期】 第1回 演習の進め方、卒業論文について 第2回 現代世界のなかの日本 第3回 世界の中の日本文化 第4回 来日したヨーロッパ人の背景 第5回 来日したヨーロッパ人の背景 第6回 来日したヨーロッパ人さまざま 第7回 来日したヨーロッパ人さまざま 第8回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第9回 来日したヨーロッパ人の旅行記・書簡 第10回 卒業論文に関する文献リストの作成 第11回 卒業研究の進め方 第12回 レポートを書く 第13回 レポートについての話し合い 第14回 研究計画について 第15回 研究の進め方		
テキスト	渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー	参考文献	演習の中で紹介する
評価方法	コメント:20% 議論、発言:30% まとめ:20% レポート:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
卒業論文作成に向けて		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文の作成方法について概要を知る。卒業論文のテーマを決める。関係する本を自主的に読み進める。卒業論文のためのメモを継続的に書き続ける。英語文献を読み解く語学力を磨く。夏休みに読むべき文献のリストを作る。		
授業の概要	卒業論文の作成に向けて、隔週でブックレポートを課す。また、並行して、19世紀末イギリスの文学作品（英文）および関連資料の輪読を進める。輪読の導入としてワイルドの入門的作品を用意するが、その後は学生の希望を考慮して素材を選択する予定。19世紀末イギリスの文学作品をメインとするが、美術・歴史・文化論など関連領域でのテーマ選択		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 <i>The Happy Prince</i> 講読1とブックレポート 第3回 <i>The Happy Prince</i> 講読2とブックレポート 第4回 <i>The Happy Prince</i> 講読3とブックレポート 第5回 選択文献1の講読とブックレポート 第6回 選択文献2の講読とブックレポート 第7回 選択文献3の講読とブックレポート 第8回 選択文献4の講読とブックレポート 第9回 選択文献5の講読とブックレポート 第10回 選択文献6の講読とブックレポート 第11回 選択文献7の講読とブックレポート 第12回 選択文献8の講読とブックレポート 第13回 選択文献9の講読とブックレポート 第14回 選択文献10の講読とブックレポート 第15回 まとめと夏休みの課題の確認		
テキスト	英文はプリントを用意する	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常の提出課題:70% 卒論中間レポート:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
アメリカ1920年代 (Jazz Age) と「失われた世代」の作家たち		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ1920年代 (Jazz Age) 又は「失われた世代」の作家たちに関する卒業論文執筆の準備。テーマ例: ロスト・ジェネレーション/フィッツジェラルド又はヘミングウェイの作家・作品研究/ジャズ・エイジ/映画 (ジャズ) の流行/ファッション (モラル) 革命/禁酒法/カボネとギャング/大強気相場		
授業の概要	配布プリント (英文) の講読・内容理解/テキスト輪読/担当者の発表/随時課題に対する記述式答案作成/グループ学習・研究/毎回個別論文指導		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 Jazz Age, (F) Winter Dreams 第3回 Lost Generation, (H) The Killers 第4回 Fitzgerald & Hemingway 第5回 <論文題目 (仮) 届出・研究調査開始> 第6回 Life & Work as an Artist 第7回 Hard-boiled Style, 小説の技法 第8回 <テーマに関する文献リスト完成> 第9回 The Revolution in Manners and Morals 第10回 Alcohol and Al Capone, (H) Indian Camp 第11回 The Big Bull Market 第12回 Crash!, 作家と時代背景 第13回 <論文作成進行状況発表> 第14回 <DVD鑑賞・質疑応答> The Great Gatsby 第15回 まとめ		
テキスト	F. L. Allen, <i>Only Yesterday</i> . Harper and Row Babylon Revisited and Winter Dreams (研究社) The Killers and Other Stories (南雲堂)	参考文献	S. Beach, <i>Shakespeare & Company</i> . Univ. of Neb. A. Turnbull, <i>Scott Fitzgerald</i> . Scribner's C. Baker, <i>Ernest Hemingway</i> . Scribner's
評価方法	小テスト:10% ゼミ発表:20% 平常点:20% 前期試験:20% レポート:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
20世紀イギリス小説を読む 『眺めのいい部屋』		山田 美穂子 (やまだ みほこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	E. M. フォースターがよく知られた教養小説を通じて20世紀初頭イギリスの社会背景と思潮の動向を探り、現代につづくさまざまな問題 (ジェンダー、ナショナリティ、女性の自立、社会階級、経済) を考える契機をつくる。また、小説を原語で味わい、翻訳の問題点と面白さを知ることを目指す。		
授業の概要	数回の講義ののち、担当分担を決めて学生によるテキスト輪読を行う。適宜映画や美術作品の鑑賞で作品理解を深める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 小説の読みかた 第2回 講義1 映画作品鑑賞 第3回 講義2 第4回 講義3 第5回 テキスト輪読1 第6回 テキスト輪読2 第7回 テキスト輪読3 第8回 美術館鑑賞 第9回 テキスト輪読4 第10回 テキスト輪読5 第11回 テキスト輪読6 第12回 テキスト輪読7 第13回 テキスト輪読8 第14回 テキスト輪読9 第15回 テキスト輪読10		
テキスト	E. M. Forster, <i>A Room with A View</i> (Penguin Books)	参考文献	授業内で適宜指導。
評価方法	授業内コメント提出:30% 担当箇所の講読:30% 期末課題の提出:40%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
日英語語用論		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	ことばは私たちの考え・捉え方に形を与え、そして人と人との結びつきを作り上げてくれます。本講座では、「あることばが使われるとき、それはどのような捉え方が反映されているのだろうか」という角度から、様々な言語事象を日本語と英語を比較しながら考え、「ことば」のおもしろさを一緒に楽しんできたいと思います。		
授業の概要	本講座ではことばの意味を話し手と聞き手がいる使用場面で考えていきます。担当者の講義と受講生の議論によって様々な「なぜ」を解き明かしていきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction 第2回 人称代名詞：あなた・わたし・彼・彼女・私達 第3回 人称代名詞：You・I・He・She・We 第4回 人称代名詞：歴史的変化 第5回 指示詞：これ・それ・あれ 第6回 指示詞・冠詞・代名詞：This・That・A・The・It 第7回 情報構造：That・It 第8回 卒業論文ガイダンス 第9回 ポライトネス（発話の力と丁寧さ）：日本語の敬語 第10回 ブラウン・レビンソンによるポジティブポライトネス 第11回 ブラウン・レビンソンによるネガティブポライトネス 第12回 リーチによるポライトネス 第13回 Fashion of Speech：サビア・ウォーフの仮説 第14回 Fashion of Speech：するべき英語・なるべき英語 第15回 まとめ		
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者のプレゼンテーション・資料配布で進める。英語辞書とA4サイズのバインダーを持参のこと。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	議論・課題:70% 卒業論文準備:30%		

卒業演習 II		後期 4 単位	2年
The Culture of Canada		フィリップス (PHILLIPS, J. R.)	
授業の到達目標 及びテーマ	This course will provide an overview of the culture of Canada. Emphasis will be placed on the way in which Canadian culture has evolved in a way distinct from that of the United States, resulting in superficially similar but deeply different societies.		
授業の概要	Each week, there will be a reading assignment set for homework. In class there will be one period consisting of a lecture and/or presentation followed by discussion in the second period. The lecture and discussion will be based on the reading assignment.		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 Thinking about Culture 第2回 Canadian Culture - US culture: 第3回 Immigration and Multiculturalism 第4回 The Japanese in Canada 1 第5回 The Japanese in Canada 2 第6回 Literature, the Arts and Music 第7回 Sports and Leisure 第8回 The Environment 1 第9回 The Environment 2 第10回 Canada's and the World 第11回 Peacekeeping 第12回 Canada's Economy 第13回 Work, Health and Welfare 第14回 The Future of Canada 第15回 Student Presentations		
テキスト	Handouts	参考文献	References will be provided
評価方法	Test:25% Presentation:25% Written Research Project:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
「織」による卒業作品の制作		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業制作において各自のテーマを「織」で表現、前期までの経験をふまえた自己表現の集大成の作品制作となる。完成作品を学年末の卒業展で展示、発信することで多くの他者とコミュニケートすることを目指し、人間と繊維と創造力についての考察を深める。		
授業の概要	テーマは自由だが相談の上、決定する。デザイン、素材、技法、工程表など、自分で計画し実行、作品を制作する。学年末の卒業展の展示も各自で行うことで、作品の見せ方、発信の仕方も学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 各自のテーマ、作品内容、計画の発表 第2回 各自の計画にそって、制作準備に入る 第3回 各自の計画による作品制作 第4回 続き 第5回 続き、中間チェック 第6回 続き 第7回 続き 第8回 続き 第9回 続き、中間チェック 第10回 続き 第11回 続き 第12回 終糸始末、作品仕上げ 第13回 続き、完成 第14回 講評会 第15回 卒業展の展示準備、まとめ		
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 卒業制作作品:50% レポート :20%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒業論文の完成にむけて		梅垣 千尋（うめがき ちひろ）	
授業の到達目標 及びテーマ	○イギリスの文化、社会、歴史についての理解を深め、学んだことをもとに自分自身にとっての「問題」をつかみとる。 ○自分自身が設定した「問題」を探求し、文献を用いて調査を進め、自身の考えを的確に文章化し、卒業論文を完成させる。		
授業の概要	前半は、卒業論文の個別指導を交えつつ、テキストの輪読、関連する映画の鑑賞、学んだ内容にかんするディスカッションを行う。後半は、全員が卒業論文の準備にあたり、中間報告での意見交換や個別指導を踏まえて、それぞれが卒業論文の作成を進めていく。		
授業計画	【後期】 第1回 後期イントロダクション 第2回 卒業個別指導 第3回 「われわれ」の居場所はどこにある？：女たちのイギリス 第4回 総力戦という経験：第一次世界大戦と徴兵制 第5回 帝国の逆襲：ともに生きるために 第6回 移民の暮らし：『ベッカムに恋して』 第7回 ニュー・カルチャーの誕生？：1960年代文化の再考 第8回 揺らぐアイデンティティ：「イギリス人」のゆくえ 第9回 卒業論文中間発表（1） 第10回 卒業論文中間発表（2） 第11回 卒業論文中間発表（3） 第12回 卒業論文中間発表（4） 第13回 卒業論文中間発表（5） 第14回 卒業論文中間発表（6） 第15回 まとめ		
テキスト	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』（昭和堂、2010年）	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% プレゼンテーション:15% 卒業論文中間報告:15% 卒業論文:40%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
美術史・文化史演習		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標及びテーマ	前期の演習の成果に基づいて、卒業論文を仕上げる。		
授業の概要	それぞれの関心に即した研究論文と一緒に読み進めながら、個々の論文のテーマをより明確に練り上げていく。進行に応じて経過の発表を行って、意見の交換の場を設ける。後半には、個別に論文の指導をする。展覧会見学も行う。		
授業計画	【後期】 第1回 後期のイントロダクション、夏期休暇の成果発表 第2回 研究論文1 読解1 第3回 研究論文1 読解2 第4回 研究論文1 読解3 第5回 途中経過報告1 第6回 研究論文2 読解1 第7回 研究論文2 読解2 第8回 研究論文2 読解3 第9回 途中経過報告2 第10回 個別指導1 第11回 個別指導2 第12回 個別指導3 第13回 研究発表 第14回 展覧会見学1 第15回 展覧会見学2		
テキスト	授業で指示。コピーを配る。	参考文献	各自の研究に応じて授業で指示。
評価方法	卒業論文:70% 授業への取り組み:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
道具のデザインを比較考察し、試作する。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標及びテーマ	・道具やシステムのデザインとその働きを観察し、ヒトとモノとの関係をより深く理解する。 ・生活行動に見受けられる問題や可能性の中から目標を設定し、試行錯誤も交えて探索していく。目標を実現する方法とデザインの提案に至る。		
授業の概要	各自がテーマを決めて研究を進めていく。身近な生活環境にある問題点に対処する工夫がテーマになる場合と、生活にプラスアルファになる視覚効果をデザインするテーマなどがある。論文または作品制作にまとめる。状況に応じて実現方法を見つけて選び、必要なアドバイスを受けて進める。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス／研究事例の紹介・研究の進め方 第2回 各自のテーマの絞り込み 第3回 各自のテーマとスケジュールを確認 第4回 各自のテーマによる研究開始 第5回 各自の研究 続き 第6回 各自の研究 続き 第7回 各自の研究 途中経過の確認 第8回 各自の研究 続き 第9回 各自の研究 続き 第10回 各自の研究 続き 第11回 各自の研究 途中経過について本人が確認 第12回 各自の研究 続き 第13回 各自の研究 最終チェック 第14回 各自の研究 まとめ 第15回 発表と講評		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	平常点:30% 研究テーマ提出物:70%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
多民族社会アメリカⅡ		黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) 多民族社会としてのアメリカを多面的に理解すること。 2) 卒業論文のテーマに関する文献を読み、卒業論文の原稿を書き進め、経過報告を行うこと。		
授業の概要	アフリカ系アメリカ人、差別、人種民族間の格差、同化の問題、アメリカの言語事情を主要なテーマとして講義を行う。関連するビデオや新聞記事も利用する。受講者は、卒業論文のテーマに関連する文献について報告し、さらに、卒業論文の経過報告を行う。また、教員の論文指導を参考にしつつ、卒業論文を完成させる。		
授業計画	【後期】 第1回 夏休みの課題についての報告 第2回 アフリカ系アメリカ人 (奴隷制) 第3回 アフリカ系アメリカ人 (解放運動) 第4回 アフリカ系アメリカ人 (公民権運動) 第5回 アフリカ系アメリカ人 (今日の状況) 第6回 差別の問題 第7回 論文指導 1 第8回 関連文献報告 グループ 1 第9回 関連文献報告 グループ 2 第10回 人種民族間の格差 第11回 同化の問題 第12回 アメリカの言語事情 第13回 卒論報告 グループ 1 第14回 卒論報告 グループ 2 第15回 論文指導 2		
テキスト	明石紀雄、飯野正子著『エスニック・アメリカ[第3版]』有斐閣、2011年	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業参加:40% 関連文献報告:20% 卒業論文:40%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
アメリカ社会史をまなぶ(2)		後藤 千織 (ごとう ちおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に引き続き、研究論文や一次資料の講読を通じて、資料の検索・収集方法、資料の読み方、議論の組み立て方など、論文作成に必要な技術を学びます。中間報告での議論を組み込んで、卒業論文を完成させます。		
授業の概要	前半はアメリカ・ジェンダー史の研究論文を読み、参加者で議論します。報告者には論点や疑問点をまとめてもらいます。中盤では、それぞれの卒論の中間報告を行います。後半はテキストの輪読を通じて歴史を研究する意味を考えつつ、卒論執筆に向けた個人面談を並行して行います。		
授業計画	【後期】 第1回 アメリカ・ジェンダー史(5) 家族史 第2回 アメリカ・ジェンダー史(6) 性規範 第3回 アメリカ・ジェンダー史(7) 離婚と女性の地位 第4回 アメリカ・ジェンダー史(8) 離婚にみるジェンダー規範 第5回 卒論中間報告(1) 第6回 卒論中間報告(2) 第7回 卒論中間報告(3) 第8回 卒論中間報告(4) 第9回 卒論中間報告(5) 第10回 歴史を書く(1) 真実の物語 第11回 歴史を書く(2) 歴史研究の専門化 第12回 歴史を書く(3) 資料とは何か? 第13回 歴史を書く(4) 物語をつくる 第14回 歴史を書く(5) 心性の歴史 第15回 まとめ:歴史研究の意味		
テキスト	ジョン・H・アーノルド『歴史』(岩波書店)	参考文献	授業時に適宜紹介します。
評価方法	授業への参加姿勢:50% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒論実践指導		齋藤 修三 (さいとう しゅうぞう)	
授業の到達目標 及びテーマ	入学後の英米文学・文化体験を振り返り、前期の演習で学んだ卒論スキルをもとに、各自テーマを決め、リサーチ、問い、パラグラフ作文を用いた構想、論証、推敲等の論文作成の課題に実践的に取り組む。またレジュメを使いながら進捗状況や中間報告、最終プレゼンテーションを行うことで、口頭での表現力や対話力も身につけてもらう。		
授業の概要	リポーターによるレジュメを用いたテキスト・資料報告、論文書式習得、パラグラフ作文推敲、メールリポート講評、論文構想、自由討議		
授業計画	【後期】 第1回 導入～卒論テーマの候補報告1 第2回 メールリポート（パラグラフ作文）講評、テーマ候補2 第3回 メールリポート（パラグラフ作文）講評、リサーチ報告1 第4回 メールリポート（パラグラフ作文）講評、リサーチ報告2 第5回 テーマ決定・構想指導1、書式説明1 第6回 テーマ決定・構想指導2、書式説明2 第7回 テーマ決定・構想指導3、書式説明3 第8回 テーマ決定・構想指導4、書式説明4 第9回 中間報告1 第10回 中間報告2 第11回 中間報告3 第12回 中間報告4 第13回 合評会1 第14回 合評会2 第15回 合評会3		
テキスト	榎木伸明『卒論を書こう』（三修社）	参考文献	随時紹介
評価方法	卒業論文・合評会:60% メールリポート:10% リポーター:20% 小報告:5% 討議への参加度:5%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
異文化研究		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	異文化の多様性を知ると同時に自文化との共通性を発見する。それを糸口にして異文化交流によって視野を広げ、幅広い感受性と考え方を育む。地球環境や移民問題等を考える手がかりにする。バイリンガル環境を目指し、英語で映像講義を行い、日本語でディスカッション意見交換する。		
授業の概要	論文のテーマをさらに分析し、深化させて、卒業論文の作成が進むよう援助していきたくて考えている。お互い助け合い、情報交換に努めて欲しいと思う。卒論の完成に向け、卒論の中身について議論しあいたいと考えている。		
授業計画	【後期】 第1回 導入(後期のゼミ運営方針の提起) 第2回 卒論概要発表 について 第3回 概要発表と討論 1 第4回 概要発表と討論 2 第5回 概要発表と討論 3 第6回 概要発表と討論 4 第7回 概要発表と討論 5 第8回 概要発表と討論 6 第9回 卒論表現法の点検について 第10回 総論 1：句読点の使い方等 第11回 総論 2：引用等 第12回 構成 1：序論 第13回 構成 2：先行研究と自説 第14回 構成 3：資料盛り込みと結論 第15回 まとめ、懇談		
テキスト	「よくわかる卒論の書き方」白井 利明	参考文献	授業時に指示
評価方法	参加意欲と貢献と努力:50% 独自性と分析能力:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
異文化間コミュニケーション		高野 嘉明 (たかの よしあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業では音声言語、身体言語、文化の観点から異文化間コミュニケーションの性質と問題点、その克服法に関する理解を深めることを目標とします。後期も日米間での英語によるコミュニケーションを想定し、まず最初にジェスチャーや時間、空間などに関する非言語的要素、次に自己認識や欲求、価値観、役割などの文化的側面について検討します。		
授業の概要	基本的には上記の事柄に関する文献を交替で読んでいく形式で授業を進めます。また、通年の範囲内の事柄から卒業論文のテーマを決め、それに関する口頭発表も行います。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 非言語的要素の役割と問題点 第3回 動作 第4回 外見 第5回 身体接触 第6回 空間 第7回 時間 第8回 周辺言語 第9回 異文化の影響と問題点／口頭発表 第10回 知覚・認識／口頭発表 第11回 自己認識／口頭発表 第12回 欲求／口頭発表 第13回 価値観・信念・態度／口頭発表 第14回 役割／口頭発表 第15回 まとめと補足		
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布します。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介します。
評価方法	平常点:20% 授業参加度:30% 口頭発表:20% 卒業論文:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
デザイン造形による作品制作		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	デザインは社会と密接に関わることから、普遍的な造形美が求められる。このデザイン造形の研究により、他者とコミュニケーションする社会性をもった表現力を身につけることを目標とする。Ⅱでは鑑賞にたえる完成度の高い作品制作を目指し、発表によりプレゼンテーション力を養う。		
授業の概要	制作テーマは前期の研究をふまえて相談の上、決定し、テーマに合わせた表現技法、素材を各自で選択する。エスキース・試作の段階での発表と中間講評を経て本制作にとりかかる。制作は各自が授業外の時間も使って進め、授業ごとに経過の確認、個別の指導を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 各自のテーマ、作品内容、計画の発表 第2回 エスキース 第3回 エスキース(続き) 第4回 エスキースの発表、中間講評 第5回 試作 第6回 試作(続き) 第7回 試作(続き) 第8回 試作の提示、中間講評 第9回 制作 第10回 制作(続き) 第11回 制作(続き) 第12回 制作(続き) 第13回 制作(続き)、完成 第14回 講評会 第15回 卒業展の展示準備、まとめ		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% レポート:20% 卒業制作作品:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
比較文化論に関連する卒業論文を書く		中井 章子（なかい あやこ）	
授業の到達目標及びテーマ	<p>（卒業論文の作成）前期から決めたテーマに関する卒業論文を書く。文献の集め方、論文の構成、論文の書き方を学ぶ。研究の口頭発表の仕方を学ぶ。 （共同研究）来日した欧米人の日本旅行記を読み、異文化理解や文化比較について学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>共同研究では、共通の文献を読み、担当者の要約に基づき話し合う。 卒業論文に関しては、適宜、各自の研究を途中で報告しつつ、卒業論文を完成させる。 英語のテキストを決め、輪読する。</p>		
授業計画	<p>【後期】 第1回 卒論に関する報告 第2回 卒論の進め方、書き方について検討する 第3回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（1） 第4回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（2） 第5回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（3） 第6回 来日したヨーロッパ人の文献を読む（4） 第7回 卒論の中間発表 第8回 卒論に関する文献を共同で読む（1） 第9回 卒論に関する作品の検討 第10回 卒論の形式についての検討 第11回 論文の仮提出 第12回 論文の改訂 第13回 論文の提出 第14回 論文についての口頭発表 第15回 論文の評価</p>		
テキスト	授業時間中に指示する	参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	演習での議論:25% 発表、報告:25% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒業論文の完成		松村 伸一（まつむら しんいち）	
授業の到達目標及びテーマ	卒業論文を完成させる。		
授業の概要	<p>卒業論文の作成に向けた個別指導では、隔週で論文メモを提出してもらう。また並行して、参加学生が選択した文学作品（英文）および関連資料の輪読を進める。19世紀末イギリスの文学作品をメインとするが、美術・歴史・文化論など関連領域でのテーマ選択も可。</p>		
授業計画	<p>【後期】 第1回 夏休みの課題についての発表 第2回 選択文献の講読および論文メモの提出 第3回 選択文献の講読および論文メモの提出 第4回 選択文献の講読および論文メモの提出 第5回 選択文献の講読および論文メモの提出 第6回 選択文献の講読および論文メモの提出 第7回 選択文献の講読および論文メモの提出 第8回 選択文献の講読および論文メモの提出 第9回 選択文献の講読および論文メモの提出 第10回 選択文献の講読および論文メモの提出 第11回 選択文献の講読および論文メモの提出 第12回 選択文献の講読および論文メモの提出 第13回 プレゼンテーションの準備（草稿作成） 第14回 プレゼンテーションの準備（仕上げ） 第15回 まとめ</p>		
テキスト	選択文献はプリントとして配布する	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常点（課題提出）:15% 卒業論文:85%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
アメリカ1920年代 (Jazz Age) と「失われた世代」の作家たち		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ1920年代 (Jazz Age) 又は「失われた世代」の作家たちに関する卒業論文の作成。テーマ例：ロスト・ジェネレーション/フィッツジェラルド又はヘミングウェイの作家・作品研究/ジャズ・エイジ/映画 (ジャズ) の流行/ファッション (道徳) 革命/アメリカン・ドリーム/禁酒法/フラッパー/禁酒法/カボネとギャング/大強気相場		
授業の概要	配布プリント (英文) の講読・内容理解/テキスト輪読/担当者の発表/随時課題に対する記述式答案作成/グループ学習・研究/毎回個別論文指導		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 <先行研究の概要提出> 第2回 Back to Normalcy, (F) Babylon Revisited 第3回 The Big Red Scare, (H) Cat in the Rain 第4回 America Convalescent, (F) The Undeclared 第5回 <論文進捗状況発表> 第6回 <題目・目次確定・論文執筆開始> 第7回 The Revolt against the Accepted American Order 第8回 Harding and the Scandals, Maxwell Perkins 第9回 Coolidge Prosperity, Gertrude Stein & Sylvia Beach 第10回 The Ballyhoo Years, Shakespeare & Company 第11回 The Revolt of the Highbrows 第12回 Aftermath:1930-31 第13回 <論文発表会その1> 第14回 <論文発表会その2> 第15回 まとめ		
テキスト	F. L. Allen, <i>Only Yesterday</i> . Harper and Row Babylon Revisited and Winter Dreams (研究社) The Killers and Other Stories (南雲堂)	参考文献	S. Beach, <i>Shakespeare & Company</i> . Univ. of Neb. A. Turnbull, <i>Scott Fitzgerald</i> . Scribner's C. Baker, <i>Ernest Hemingway</i> . Scribner's
評価方法	小テスト:10% ゼミ発表:10% 平常点:10% 後期テスト:10% 卒論:60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
20世紀イギリス小説を読むⅡ 『眺めのいい部屋』		山田 美穂子 (やまだ みほこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に引き続き、E. M. フォースターの作品を題材に20世紀初頭イギリスの社会とその問題への理解を深め、現代日本の自分に引きつけて考察し、期末には卒業論文を作成する。		
授業の概要	前半は教員による解説を加えながらフォースターの表題作以外の短編・評論文や同時代の作家・評論家の文章を読む。後半では各学生による中間発表を行い、ディスカッションをまじえつつ卒業論文作成に向けて段階的に準備する。論文作成の方法についても同時に指導する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション テーマ解説 第2回 短編「コロノスへの道」 第3回 短編「パニックの話」 第4回 評論『民主主義に万歳二唱』 第5回 評論『民主主義に万歳二唱』 第6回 ジョージ・オーウェル 評論 第7回 ウィリアム・モリス 評論 第8回 美術館鑑賞 第9回 中間発表1 第10回 中間発表2 第11回 中間発表3 第12回 論文作成指導1 第13回 論文作成指導2 第14回 論文作成指導3 第15回 チュートリアル		
テキスト	E. M. Forster, <i>A Room with A View</i> (Penguin Books)	参考文献	授業内で適宜指導。
評価方法	中間発表:50% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
日英語意味論		湯本 久美子 (ゆもと くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	ことばは私たちの考え・捉え方に形を与え、そして人と人との結びつきを作り上げてくれます。本講座では、「あることばが使われるとき、それはどのような捉え方が反映されているのだろうか」という角度から、様々な言語事象を日本語と英語を比較しながら考え、「ことば」のおもしろさを一緒に楽しんでいきたいと思います。		
授業の概要	本講座では「意味論」と呼ばれる範疇でのさまざまな日英語の意味を分析していきます。担当者の講義と受講生の議論を進めます。		
授業計画	【後期】 第 1回 卒業論文テーマ発表 (予定) 第 2回 Introduction 第 3回 進行相 V-ing・テイル 第 4回 英語進行相：ベンドラーによる動詞分析 第 5回 日本語進行相：金田一による動詞分析 第 6回 移動動詞：移動を構成する要素と言語化 第 7回 移動動詞：イベントの統合 第 8回 移動動詞：主観的移動表現 第 9回 受動態：英語受動態の機能 第10回 受動態：英語受動態の歴史 第11回 受動態：日本語受動態 (直接受け身) 第12回 受動態：日本語受動態 (間接受け身) 第13回 受動態：日本語受動態の歴史 第14回 まとめ 第15回 卒業論文発表 (予定)		
テキスト	特定のテキストは用いず、担当者によるプレゼンテーションを進める。英語辞書・A4サイズのバインダーを持参のこと。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	議論課題:50% 卒業論文:50%		

人間社会研究	後期 2 単位	1年
グローバルゼーション—世界に向かって—		
<p>【担当教員】 秋富 創（あきとみ はじめ）、宇田 美江（うだ みえ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、西願 広望（せいがん こうぼう）、武田 美亜（たけだ みあ）、田中 志帆（たなか しほ）、谷本 信也（たにもと しんや）、信澤 久美子（のぶさわ くみこ）、橋本 典子（はしもと のりこ）、廣田 道夫（ひろた みちお）、堀川 照代（ほりかわ てるよ）、宮田 雅智（みやた まさのり）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 人間社会専攻にかかわる1つのテーマを切り口にして、それぞれの専門性に共通すること、または異なる見解について伝え、理解することで、現代教養を修め、これからの社会に生きる人間力を涵養することを目標とする。今年度の統一テーマは「グローバルゼーション」である。</p> <p><授業の概要> 12名の教員が1回ずつ、「グローバルゼーション」について各分野から講義を行うというリレー式オムニバス方式を採用。本年は、Aチーム（理数科学・経済系）、Bチーム（哲学・史学・法学・経営系）、Cチーム（教育・心理系）の3分野に大きく分け、チームごとのテーマに基づき講義を行うことで、各学問分野におけるグローバルイズムの解釈、批評、考察についての学びを段階的に深めつつ構築することを旨とする。以下に各教員の講義テーマを記すが、講義の順は前後チーム内で移動することもある。</p> <p><授業計画> 【後期】 第1回 ガイダンス 講義計画について</p> <p>第2回～5回 A分野 「グローバル化を政治・経済・科学から見る」 谷本 食糧生産とグローバル化 宮田 グローバル化に向けて数学とどうつき合うか 廣田 環境問題のグローバル化＝地球環境問題 秋富 経済のグローバル化の光と影</p> <p>第6回～9回 B分野 「グローバルゼーションと文化と政治」 西願 血塗られたグローバルゼーション 信澤 グローバル時代の法律と文化 宇田 多国籍企業における文化摩擦 橋本 グローバリゼーション 普遍性と個別性</p> <p>第10回～第13回 C分野 「グローバル社会に生きる子ども・若者たち」 清水 グローバル社会と「愛国心」教育—その意味と問題 堀川 これからの子どもたちに求められる力と学校図 武田 コミュニケーションのグローバル化 田中 グローバル社会がもたらすアイデンティティの課題</p> <p>第14回～第15回 まとめ</p> <p><テキスト> 特に定めないが、各教員が配布資料を用いる場合がある。</p> <p><参考文献> 講義の中で適宜紹介する。</p> <p><評価方法> 出席は毎回取る。A分野、B分野、C分野それぞれについて各1回、計3回ミニレポート課す（6割）。最後に総合レポートを課す（4割）。</p>		

現代社会と倫理A		前期 2 単位	1・2年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。		
授業の概要	授業では、さまざまな倫理的立場のうちから、「地域や文化が異なれば善悪の基準も違ってくる（相対主義）」という立場と「善悪とは客観的な事柄ではない（主観主義）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらい、検討したり回答したりする時間を設けます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インロトダクション：倫理について考えること 第2回 文化的相対主義（1）：ヘロドトスが伝えたいこと 第3回 文化的相対主義（2）：文化ごとの生活習慣などの違い 第4回 文化的相対主義（3）：文化や習俗に優劣はない 第5回 道徳相対主義（1）：相対主義を道徳にあてはめてみる 第6回 道徳相対主義（2）：あなたはFGMを許容するか否か 第7回 道徳相対主義（3）：隠された共通性に目を向けること 第8回 倫理的な主観主義（1）：客観的事実ではない道徳 第9回 倫理的な主観主義（2）：主体の感情に基づいた道徳 第10回 情緒主義（1）：道徳判断とは何をしていることなのか 第11回 情緒主義（2）：感情の表れとしての道徳判断 第12回 情緒主義（3）：態度を報告すること・表明すること 第13回 指令主義（1）：命令としての道徳判断 第14回 指令主義（2）：道徳の客観性・普遍性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること		
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	坂井昭宏・柏葉武秀（編）『現代倫理学』ナカニシヤ出版、2007年；赤林朗（編）『入門・医療倫理Ⅱ』勁草書房、2007年。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

現代社会と倫理B		後期 2 単位	1・2年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	倫理的な立場・考え方が異なると「あることが倫理的に善いとみなされるのはどうしてか」という問いに対する回答が、どのように異なってくるのかについて理解する。そして、いくつかの倫理的な立場の検討を通して「善いとはどういうことか」という問題について考えることができるようになる。		
授業の概要	授業では、「自分がすべきことは自分が一番よく知っている（利己主義）」という立場、「多くの人が幸せになることが善いことだ（功利主義）」という立場、「すべきことは端的にしなければならない（義務論）」という立場を主にとりあげます。講義を中心に進めますが、期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを書いてもらいます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インロトダクション：倫理について考えること 第2回 心理的利己主義（1）：自分の利益になることをする 第3回 心理的利己主義（2）：行動を利己的に解釈する 第4回 心理的利己主義（3）：心理的利己主義の問題点 第5回 倫理的利己主義（1）：ふたつの利己主義の違い 第6回 倫理的利己主義（2）：利己主義から利他主義を考える 第7回 功利主義（1）：最も多くの人が最も幸せになるように 第8回 功利主義（2）：結果がよければいいのだろうか 第9回 行為功利主義と規則功利主義：ふたつの功利主義 第10回 規則功利主義（1）：何が功利的であるのか 第11回 規則功利主義（2）：功利主義から考える道徳的普遍性 第12回 義務論（1）：どんなときでも嘘をついてはいけないか 第13回 義務論（2）：端的にすべきである 第14回 義務論（3）：義務論から考える道徳の個性 第15回 まとめ：倫理についての立場の違いから見えてくること		
テキスト	特になし。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	児玉聡『功利主義入門』ちくま新書、2012年；田中朋弘『文脈としての規範倫理学』ナカニシヤ出版、2012年。
評価方法	試験：70% リアクションペーパー：30%		

哲学A	前期 2 単位	1・2年
古代・中世の自然観・人間観・世界観	橋本 典子（はしもと のりこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 哲学的術語の意味を理解し、哲学の知的基礎をしっかりと身につける。古代からの本来的知恵を確認し、哲学的に考察することを可能にする。西洋の古代、中世、ルネサンスの自然観、人間観、世界観を中心に論じ、現代社会で「よく生きること」とは何か、哲学史に登場した哲学者達の考えから導出する。</p> <p><授業の概要> 講義を中心に進める。哲学史の基本的な知識を確実なものとするべく、哲学のダイナミックな展開を明確にし、哲学的考え理解したうえで、時々それまでのまとめと問題点を明らかにする。対話形式を实践し、哲学に於ける「対話」の重要性を経験できるように努力する。</p> <p><授業計画> 第 1回 序論、哲学の基礎知識と現代社会での意味 第 2回 ソクラテース以前の哲学、東の自然観と西の宗教的特質 第 3回 哲学の始まり、アルケーについての問い 第 4回 パルメニデースとエムペドクレス、「物」についてと「神」について 第 5回 人間を哲学の根本問題とする、ソクラテースについて 第 6回 プラトーン初期対話篇—倫理的問い 第 7回 プラトーンの二世界説—イデア論 第 8回 プラトーンの『国家』と宇宙論の展開 第 9回 アリストテレスの学問体系と形而上学 第 10回 幸福論、「よく生きること」とポリスの学 第 11回 実践哲学、混乱の時代の哲学、コスモポリタンの意味 第 12回 宗教と哲学、ユダヤ思想とキリスト教 第 13回 教父哲学、ギリシア教父とラテン教父 —グレゴリウスとアウグスティヌス 第 14回 大学の精神、アベラール 第 15回 トマス『神学大全』とルネサンスの哲学—神と人間 定期試験</p> <p><テキスト> 今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫） 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p><参考文献> 必要に応じて使用する 『プラトン全集』『アリストテレス全集』『アウグスティヌス著作集』他</p> <p><評価方法> 学期末試験 60%、授業への参加及び貢献度 20%、レポート 20%</p>		

哲学B	後期 2 単位	1・2年
近世から現代までの世界観の変遷	橋本 典子（はしもと のりこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 近世、近代、現代の世界観の変遷を、人間と社会の連関を中心に理解することを目的とする。それぞれの時代の知的文化を形成し支えてきた基本的考えを的確にとらえ、それらの哲学の現代への影響と我々の在り方を考察する。</p> <p><授業の概要> 講義を中心に進めるが、哲学のダイナミックな展開を明確にし、それぞれの哲学者の考えを互いの影響関係を軸に体系的に考える努力をする。時々まとめと問題点を明らかにすることによって哲学史の流れを的確に捉えられるようにする。対話形式を実践し、哲学における「対話」の重要性を実感できるようにする。</p> <p><授業計画> 第 1回 Humanism の考えとピコー人間の尊厳について 第 2回 エラスムスとモアアー理想と現実 第 3回 自我の発見、デカルト『方法序説』 第 4回 デカルトの方法論、神の存在証明、心身二元論 第 5回 ホッブスの社会思想、国家論 第 6回 考える葦ーバスキアルの人間論と神の問題 第 7回 ライブニッツー二つの真理と汎神論 第 8回 イギリス経験論ーロック、ヒューム、バークリ 第 9回 カント、理論と実践の関係ー道徳論の位置づけ 第 10回 超越論ーカントの立場と『永遠平和のために』 第 11回 ドイツ観念論ーロマン主義と芸術 第 12回 シェリング、同一性とその克服としてのヘーゲル 第 13回 ヘーゲル、弁証法と歴史の展開 第 14回 ニーチェ、キルケゴール、現代哲学の始まり 第 15回 象徴論と宗教学ーリクールとレヴィナス 定期試験</p> <p><テキスト> 今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫）</p> <p><参考文献> 講義の際に指示するが、『カント全集』、『ヘーゲル全集』等の全集 その他、著作集、研究書等必要に応じて紹介する</p> <p><評価方法> 学期末試験 5 5 %、授業感想文の内容と参加及び貢献度点 3 5 %、レポート 1 0 %</p>		

数学A		前期 2 単位	1・2年
一筆書きの数理／魔方陣の数理		宮田 雅智（みやた まさのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	比較的身近な題材を通して数学を学びます。2つのテーマ（一筆書き、魔方陣）をとりあげ、数学的な意味を理解するとともに、数学的思考力を身につけます。		
授業の概要	2つのテーマを数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 一筆書きの数理：ケーニヒスベルグの橋渡り 第3回 グラフの定義、次数、偶点と奇点 第4回 数学的帰納法 第5回 一筆書きの条件 第6回 イリテーションパズルと彩色グラフ 第7回 順列グラフと有向グラフ 第8回 重畳彩色グラフ 第9回 魔方陣の数理：魔方陣の定義、行列 第10回 色々な魔方陣 第11回 自然方陣の性質 第12回 自然方陣と魔方陣 第13回 汎魔方陣とは 第14回 汎魔方陣の条件 第15回 汎魔方陣の作成		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

数学B		後期 2 単位	1・2年
二進法／素数		宮田 雅智（みやた まさのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	比較的身近な題材を通して数学を学びます。2つのテーマ（二進法、素数）をとりあげ、数学的な意味を理解するとともに、数学的思考力を身につけます。		
授業の概要	2つのテーマを数回の授業で完結するように進めていきます。一方的に講義を聞くだけでなく、演習を通して、問題の本質がどこにあるかを考え、その意味を明らかにし、数学の面白さを体験したいと思います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 二進法の数理：スイッチの形 第3回 二進法と十進法 第4回 倍加法と逆倍加法 第5回 二進数の演算 第6回 数当てゲーム、二進カードの分類 第7回 情報のデジタル化（1）文字のデジタル化 第8回 情報のデジタル化（2）音と画像のデジタル化 第9回 素数：素数の定義、エラトステネスのふるい 第10回 素数は無限にあるか 第11回 素因数分解の一意性 第12回 約数の和 第13回 完全数 第14回 メルセンヌ数とユークリッド型完全数 第15回 素数と暗号		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

芸術人間学		前期 2 単位	1・2年
芸術創造と人間		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	21世紀の人間の在り方や芸術の在り方を追究するためには、芸術を、環境を形成する壮大なプロジェクトと見る「新しい芸術観」に基づく考察が必要である。芸術人間学は20世紀後半からの新しい学問で、個別の芸術作品や様々な芸術現象の考察をとおして人間を論ずるものである。西洋と東洋の比較芸術、芸術現象の様々な歴史的事実を多角的に理解す		
授業の概要	講義形式で行うので必ず出席すること。必要に応じてレポートを課する。芸術の諸問題をテーマに即して論ずるが、現代に於ける芸術の重要性を常に考えながら授業を進める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論、芸術人間学の定義 第2回 西洋に於ける創造論―「創世記」光あれ！ 第3回 人間の創造―芸術家の創造行為、Instraution (創建) 第4回 artの概念―動物のartと芸術家のart 第5回 現代の環境―技術連関と芸術 (コンピューターアート) 第6回 靈感説―プラトンの『イオン』磁石の説 第7回 超越―孔子の芸術段階説 第8回 芸術作品の層構造―スーリオの美学 第9回 模倣と表現―逆現象の同時展開、東西の芸術論 第10回 ルネサンスの芸術観―絵画科学 第11回 東洋の芸術論―書道論に於ける創造の条件 第12回 抽象芸術の提出した問題 第13回 技術時代に於ける人間の存在―マルセルの芸術論 第14回 時間と芸術―ラオコーン群像 第15回 芸術人間学の将来		
テキスト	『講座美学』1. 美学の歴史 (東京大学出版会) 必要に応じてプリントを使用する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験:60% コミュニケーション実践力:35% レポート:5%		

美学		後期 2 単位	1・2年
美の学 (Calonologia) 研究		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	美は真・善と並んで重要な価値である。美は芸術作品だけが具現する価値なのか。否。人間は芸術ばかりでなく、自然、技術的な機械、人間の行為などにも美を見出す。講義では、古代からヘーゲルまでの美学の緒論を紹介し、最後に、現代に於ける美学をカロンロジア (Calonologia)として、その方向性を論じる。美の価値の現代的意味を理解す		
授業の概要	古典古代のプラトンは超越的なアイデアを目指す”美 (ト・カロン) の学”を最高の学とした。つまり18世紀の”美学” 成立以前に美を論じた”美の学” はあった。講義では古代から現代までの美についての緒論を紹介し、最後に現代の美学をカロンロジアとして論ずる。講義形式で行うが、レポートも必要に応じて課する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 序論、美学の定義 第2回 美学の始まり―バウムガルテンの感覚重視の美学 第3回 日本に於ける美学―「美学」の語の翻訳の問題―西岡 第4回 ギリシア悲劇 第5回 プラトンの「美の学」と靈感説 第6回 アリストテレスの『詩学』 第7回 中世美学の特徴―超越と光 第8回 象徴の美学―象徴と解釈の問題 第9回 トマスの超越論―キリスト教的美学 第10回 フランスの合理主義美学―数と「真実らしさ」 第11回 カント美学―崇高論と天才論―自然美 第12回 ロマン主義の芸術観―詩、絵画、音楽 第13回 ドイツ観念論の美学―シェリングとヘーゲル―自然美と芸術美 第14回 日本の美学―詩歌論、間の問題 第15回 カロのロジアと芸術の学		
テキスト	今道友信『講座美学』1 美学の歴史 (東京大学出版会)、絶版のためプリントを使う	参考文献	今道友信『美について』 (講談社現代新書)
評価方法	試験:60% コミュニケーション実践力:35% レポート:5%		

芸術鑑賞		前期 2 単位	1・2年
ヨーロッパの17-18世紀美術		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	16世紀に起こった宗教改革は、西欧の精神生活に大きな影響を与えた。その影響は美術にも及び、同じ頃から始まる近代国家の形成とともに、美術家はこの事態に直面して独自の表現を模索する。一般にバロックと呼ばれる17世紀の美術、さらにそれが展開した18世紀のロココ美術を、それらが生み出された社会と時代の精神とともに理解する。		
授業の概要	17-18世紀に活躍した幾人かの画家の作品や室内装飾、工芸品をスライドで見ながら講義を進める。近く的美術館の見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン：講義の概要、参考文献の紹介 第2回 カラヴァッジョの革新 第3回 ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと夜の世界 第4回 ルーベンス、バロック美術の神髄 第5回 ニコラ・プッサンとフランス古典主義 第6回 レンブラントと「夜警」 第7回 ペラスケスとスペインの美術 第8回 ヴェルサイユの装飾 第9回 ヴァトーと雅宴画 第10回 プーシェと神話画 第11回 ロココの工芸品 第12回 シャルダンの世界 第13回 フラゴナールと前ロマン主義 第14回 まとめ 第15回 美術館の見学（授業の中で期日は指定）		
テキスト	教科書は特に指定しない。	参考文献	講義のなかで参考文献を紹介します。
評価方法	レポート（2000字位）：70% 授業への取り組み：30%		

歴史学		前期 2 単位	1・2年
西洋史学概論 歴史のための闘争		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	様々な歴史家と彼らの研究を追うことで、歴史学的な思考方法を身につけ、自分の人生に応用する。つまり、歴史学が、君を幸せにする、君を自由にする、君を強くする、君を優しくする、君をカッコよくする、君を君らしくする、君を大きくする、君を深くする、君を濃くする、君を賢くする、そして君を笑わせる！？ことをリアルに実感する。		
授業の概要	講義が主体だが、学生にも参加してもらいたい新しいタイプの授業にしたい。そもそも本講義において重要なのは、暗記よりも、分析と考察である。高校の世界史とは全く違う。レポートの題目も歴史の授業とは思えない突飛で面白いものとなる予定である。例えば「太郎と花子が別れました。何故でしょう。原因を箇条書きにして説明しなさい」など。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 第1章嘘つきの私だって真実が欲しい！ーヘロドトスー 第2回 ートゥキディデスー 第3回 第2章風が吹けば桶屋が儲かる？ーモンテスキューー 第4回 ーデュルケームー 第5回 ーマルク・ブロックー 第6回 ーリュシアン・フェーヴルー 第7回 ーフェルナン・ブローデルー 第8回 ーロジェ・シャルチエー 第9回 第3章舌先三寸のチ・カ・ラ！ ーキケローー 第10回 ータキトゥスー 第11回 ーミシュレー 第12回 第4章運命の女神は誰に微笑むー神の摂理（メストル）ー 第13回 ー自由と文明の道（ギゾー）ー 第14回 ー矛盾の哲学の誕生（ヘーゲル、マルクス）ー 第15回 ーそして神は死んだ（ニーチェ）ー		
テキスト	授業中に資料を配布する。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文（4回）：40% レポート（4回）：60%		

西洋史A		前期 2 単位	1・2年
西洋宗教社会史（17世紀から19世紀）		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	日本人は信心深い。8千万人が初詣をする。驚愕の現象だ。自動車には交通安全のお守りをつるす。自衛隊は潜水艦の絵馬を金毘羅に奉納する。寿司屋には神棚がある。高層ビルを建てるのに地鎮祭をする。受験の前に神社に行く。縁起をかつぐ。男の子に愛の告白をする前に占いを見る。何故だ？西洋史を学んで、日本人の精神世界を相対化しよう。		
授業の概要	国王と教皇の権力争い、革命下での聖像破壊、悪魔憑き、天使出現の奇跡、魔女狩り、性愛にこだわる「セックス偏執狂」の教会などを、変にカタクなく、妙にマジメすぎることなく、面白おかしく、なおかつクールな論理性を大事にして提示したい。重要なのは暗記よりも、科学的分析だ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 カトリシムの政治制度的没落 -王国の宗教- 第2回 カトリシムの政治制度的没落 -王国の宗教- 第3回 カトリシムの政治制度的没落 -革命後- 第4回 カトリシムの政治制度的没落 -革命後- 第5回 カトリシムの政治制度的没落 -ライシテの誕生- 第6回 カトリシムの政治制度的没落 -ライシテの誕生- 第7回 非キリスト教化の歴史 -数量的分析- 第8回 非キリスト教化の歴史 -数量的分析- 第9回 非キリスト教化の歴史 -推進要因- 第10回 非キリスト教化の歴史 -推進要因- 第11回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -制度改革- 第12回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -制度改革- 第13回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -18世紀の宗教熱- 第14回 「しぶとい」キリスト教のチカラ -19世紀の民間信仰- 第15回 予備日		
テキスト	特になし。資料を授業中に配布する。	参考文献	適宜、授業中に紹介する。
評価方法	講義感想文（4回）：60% 期末レポート：40%		

西洋史B		後期 2 単位	1・2年
西洋メディア史（17世紀から20世紀）		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	西洋近現代史におけるマスメディアの役割を考える。歴史学の方法を用いてメディアと政治・社会・人間の知覚との関係を明らかにし、学生のメディアリテラシーを高め、メディアが現代人に及ぼす影響を考察する。また西洋史Bは西洋史Aの続編とも言える。西洋史Aで扱った宗教とメディアは重要な関係にある。その関係が西洋史Bで明らかとな		
授業の概要	18世紀の地下出版、19世紀の新聞小説、20世紀のハリウッド・スター等を扱う。また今日の連載漫画・コンピューターゲーム、携帯電話、インターネットと過去のメディアの比較も行う。（いつも笑ってばかりいますが、実は学問を尊敬する教師ですので、一生懸命学ぶ気のない学生は履修しないことをオススメします。あ、ちょっとこわかったかし		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前近代における出版業界（18世紀後半） 第2回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第3回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第4回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第5回 印刷物と革命と政治参加（18世紀末から19世紀初頭） 第6回 産業革命の影響（19世紀） 第7回 産業社会における著者・テキスト・読者（19世紀） 第8回 産業社会における著者・テキスト・読者（19世紀） 第9回 コミュニケーション網の整備（19世紀後半から20世紀初頭） 第10回 新聞の黄金期（19世紀後半から20世紀初頭） 第11回 映画（20世紀） 第12回 映画（20世紀） 第13回 映画（20世紀） 第14回 ラジオ（20世紀） 第15回 予備日		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	講義感想文（4回）：60% 期末レポート：40%		

東洋史A	前期 2 単位	1・2年
現代のアジア諸地域の制度や経済、社会や文化の基礎を形づくる前近代の歴史について、長期的な視点から論じる。	村上 正和（むらかみ まさかず）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 私たちがアジアと呼んでいる諸地域の制度や経済、社会や文化はどのように形成されてきたのだろうか。現代のアジア諸地域を特徴づける要素は、その長期的な歴史過程のなかで形成されたものであり、その理解には幅広い時間軸のなかで事象を捉える視点が必要とされる。本講義は、こうした問題意識のもとに、東洋史の前近代部分に関する基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握することを目標とする。</p> <p><授業の概要> 本講義では、現代のアジア地域の基礎を形作った前近代の歴史過程について、時系列に沿ってわかりやすく解説していく。</p> <p><授業計画> 第1回 ガイダンス 第2回 東洋史とは何か？ 第3回 西アジアとオリエント世界 第4回 南アジア・東南アジア世界の形成 第5回 殷・周の成立から春秋・戦国時代へ 第6回 秦・漢帝国の成立 第7回 南北朝時代と隋唐帝国 第8回 宋とモンゴル帝国の興亡 第9回 明の統一と北虜南倭 第10回 清の中国統一と繁栄 第11回 明清期中国の思想と学問 第12回 中国文化の広がり 第13回 イスラーム世界の形成と拡大 第14回 イスラームの文化と社会 第15回 まとめ 定期試験</p> <p><テキスト> 「世界の歴史」編集委員会編『もういちど読む山川世界史』山川出版社、2009年 また、講義内容に関連するプリントを随時配布</p> <p><参考文献> 成瀬治・佐藤次高・木村靖二・岸本美緒・桑島良平『山川世界史総合図録』山川出版社、1994年 また、講義内容に関連する参考文献を随時紹介</p> <p><評価方法> 授業感想カード：30% 定期試験：70%</p>		

東洋史B	後期 2 単位	1・2年
現代のアジア諸地域の情勢に直接関連する近現代の歴史について、その地域間の相互関係に注目しつつ論じる。	村上 正和（むらかみ まさかず）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 現代世界においてそのプレゼンスを高めつつあるアジア地域の国々や人々と円滑にコミュニケーションを図り共存していくためには、その歴史的背景を十分に理解することが不可欠である。 本講義は、こうした問題意識のもとに、東洋史の近現代部分に関する基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握することを目標とする。</p> <p><授業の概要> 本講義では、現代のアジア地域の情勢に直接的に関連する近現代の歴史過程について、時系列に沿ってわかりやすく解説していく。</p> <p><授業計画> 第 1回 ガイダンス 第 2回 結ばれる世界 第 3回 近代とは何か？ 第 4回 西アジア・南アジアの動揺 第 5回 東アジアの動揺 第 6回 太平天国と洋務運動 第 7回 変法運動から辛亥革命へ 第 8回 近代中国の文化 第 9回 第一次世界大戦とアジア 第10回 日中戦争と太平洋戦争 第11回 冷戦構造とアジア諸国の戦争 第12回 中華人民共和国の展開 第13回 近代台湾の歴史 第14回 多元化する世界 第15回 まとめ 定期試験</p> <p><テキスト> 「世界の歴史」編集委員会編『もういちど読む山川世界史』山川出版社、2009年 また、講義内容に関連するプリントを随時配布</p> <p><参考文献> 成瀬治・佐藤次高・木村靖二・岸本美緒・桑島良平『山川世界史総合図録』山川出版社、1994年 また、講義内容に関連する参考文献を随時紹介</p> <p><評価方法> 授業感想カード：30% 定期試験：70%</p>		

心理学A		前期 2 単位	1・2年
世界を捉えるこころのしくみ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>心が世界を認識するための基本的なしくみについて理解することを目標とする。具体的には以下の通り。</p> <p>(1) 心理学的な現象、概念を適切に理解する。</p> <p>(2) 心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。</p>		
授業の概要	<p>授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、知覚（主に視覚）、学習、認知などの研究領域について、2～3回かけて解説する。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス／心理「学」の研究対象</p> <p>第2回 現実の世界とこころが捉える世界</p> <p>第3回 視知覚(1)：形の知覚、空間の知覚</p> <p>第4回 視知覚(2)：運動の知覚、色の知覚</p> <p>第5回 視知覚(3)：恒常性と錯覚</p> <p>第6回 注意とパターン認識／中間まとめ</p> <p>第7回 学習(1)：学習についての考え方</p> <p>第8回 学習(2)：条件づけ、技能の学習</p> <p>第9回 学習(3)：社会的学習</p> <p>第10回 記憶(1)：記憶のしくみ</p> <p>第11回 記憶(2)：日常世界の記憶／中間まとめ</p> <p>第12回 表象(1)：イメージと心的操作</p> <p>第13回 表象(2)：概念とカテゴリ</p> <p>第14回 言語の理解と使用</p> <p>第15回 思考と推論／全体のまとめ</p>		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	田山・須藤(2012)『基礎心理学入門』培風館／御領謙ほか(1993)『最新 認知心理学への招待』(ともにサイエンス社)／このほか授業中に適宜紹介
評価方法	期末試験:60% 小テスト・レポート:40%		

心理学B		後期 2 単位	1・2年
「わたし」と「あなた」とその間に見るこころ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>自己、他者、他者との関係や相互作用について理解する。具体的には以下の点を目標とする。</p> <p>(1) 心理学的な現象、概念を適切に理解する。</p> <p>(2) 心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。</p>		
授業の概要	<p>授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、自己、パーソナリティ、対人コミュニケーションなどの研究領域について、3～4回かけて解説する。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス／学問としての心理学とは</p> <p>第2回 自己(1)：自己概念、自己表象</p> <p>第3回 自己(2)：自己評価</p> <p>第4回 自己(3)：自己に関わる動機づけ、自己制御</p> <p>第5回 パーソナリティ(1)：パーソナリティとは</p> <p>第6回 パーソナリティ(2)：特性と状況の関係</p> <p>第7回 パーソナリティ(3)：遺伝と環境の関係</p> <p>第8回 対人心理学(1)：他者の認知、他者への欲求</p> <p>第9回 対人心理学(2)：対人関係</p> <p>第10回 対人心理学(3)：対人行動・対人コミュニケーション</p> <p>第11回 対人コミュニケーションとは</p> <p>第12回 しぐさのコミュニケーション</p> <p>第13回 暗黙のコミュニケーション</p> <p>第14回 メディアを介したコミュニケーション</p> <p>第15回 専門家によるコミュニケーション／全体のまとめ</p>		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	戸田ほか(2005)『グラフィック性格心理学』サイエンス／深田(1999)『コミュニケーション心理学』北大路書房／このほか授業中に適宜紹介する。
評価方法	期末試験:60% 小テスト・レポート:40%		

臨床心理学A		前期 2 単位	1・2年
臨床心理学A（心理療法とこころの理解）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現在の主要な心理療法の理論や技法について学び、人間の心身の失調の意味について、自己や他者の心のつまづきについてより適切に向き合い、支援するためのアイデアを持つことができるようにする。		
授業の概要	以下のトピックについて、各1～2回の講義を行います。実習形式で行うことがありますので、静粛かつ積極的な参加を希望します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 臨床心理学とは 第2回 欧米における精神保健の歴史① 第3回 日本における精神保健の歴史② 第4回 内因性精神障害 第5回 心因性精神障害 第6回 器質性の精神障害 第7回 行動療法①学習理論と行動療法 第8回 行動療法②各種技法、認知行動療法 第9回 来談者中心療法 第10回 日本オリジナルの心理療法 森田療法 臨床動作法 第11回 心の状態を見立てる① 心理検査とテストバッテリー 第12回 心の状態を見立てる② 性格検査、臨床描画法実習 第13回 児童期の心理療法 事例から考える 第14回 思春期・青年期の心理療法 事例から考える 第15回 まとめ		
テキスト	坂上裕子・繁樹江里・薬師神玲子・田中志帆・武田美亜ら著 大学1、2年生のためのすぐわかる心理学 東京図書 ￥2200	参考文献	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房
評価方法	授業感想文:40% 最終レポート:60%		

臨床心理学B		後期 2 単位	1・2年
臨床心理学B（精神分析入門）		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標 及びテーマ	精神分析的な心理療法における基礎的な理論や方法、心の失調とは何かを学び、人間の深層心理について考える。生後1年～2年までの乳幼児の心の状態を含め、人の心の成長と生と死の本能の意味について触れ、人間と社会について精神分析的な視点で考察できるようになることを目指す。		
授業の概要	フロイト理論と対象関係論について、解りやすく解説する。アニメや芸術作品を鑑賞したり、また心理療法のケースを紹介しながら、人間の深層心理について共に考える。授業中にプリント課題を配布して、実習形式で講義を行う場合がある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 精神分析が誕生した時代 第2回 フロイトの人生（その生涯） 第3回 精神分析の基本的な原則と概念 第4回 自我・エス・超自我①防衛機制 第5回 自我・エス・超自我②発達段階 第6回 神経症のなりたち 第7回 エディプスコンプレックスとは 第8回 アルプスの少女ハイジを分析する 第9回 夢の意味と理論 第10回 やってみよう夢分析 第11回 芸術家や作家の人生、作品にみる反復強迫 第12回 生と死の本能—人はなぜ戦争をするのか 第13回 対象関係論①P/Sポジション 第14回 対象関係論②Dポジション 第15回 精神分析とは何か？（まとめ）		
テキスト	特に指定しない	参考文献	推薦図書を授業中に配布する。
評価方法	授業時の課題や感想文:60% 最終レポート:40%		

発達心理学A		前期 2 単位	1・2年
生涯発達心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	この科目では生涯発達心理学の基礎を学びます。人間はその誕生から死に至るまで、一生涯発達し続ける存在です。環境との相互作用を通して自分を形成していく発達のダイナミズムを知り、人間について、自己についての理解を深めます。		
授業の概要	講義形式で授業を進めますが、子どもの発達については具体的なイメージをつかむために視聴覚教材を多用する計画です。青年期の発達については、現在の自分の問題と照らし合わせた理解を助けるようなワークを取り入れます。		
授業計画	【前期】 第1回 生涯発達心理学とは何か 第2回 赤ちゃんの有能さ 第3回 赤ちゃんの社会性 第4回 他者を知る・自分を知る 第5回 言葉の発達 第6回 考える力の発達 第7回 養育者との絆 第8回 発達の可塑性 第9回 対人ネットワークの中での発達 第10回 エリクソンの発達理論（乳児期から幼児期まで） 第11回 エリクソンの発達理論（学童期から青年期まで） 第12回 青年期の心理 第13回 エリクソンの発達理論（成人期から老年期まで） 第14回 年をとるとはどういうことか 第15回 全体のまとめ		
テキスト	テキストは指定せず、資料を配布します。	参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	リアクションペーパー:40% 試験:60%		

発達心理学B		後期 2 単位	1・2年
女性のライフコースと発達		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「働くこと」と「家族を持つこと」は個人の発達の上で大きなテーマですが、特に女性は個人としての人生選択と家庭生活が葛藤する場面に多く遭遇します。この授業では、ジェンダーを切り口に、青年期以降の発達と家族心理学を学びます。成人発達とジェンダーについての知識を身につけるとともに、近い将来の自分の生き方について考えます。		
授業の概要	主に講義形式で授業を進めます。一般的・抽象的な存在としての人間の発達でなく現代を生きる自分の問題として考えることができるよう、現実の社会現象や社会制度とも関連づけながら学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 家族とは何か 第2回 現代家族をとらまく社会状況 第3回 女性のライフコース 第4回 母性神話を考える 第5回 子育て中の心理（ビデオ視聴） 第6回 育児不安はなぜ起こるか 第7回 家族役割分担を考える 第8回 結婚・夫婦関係の心理 第9回 働くことと家族をもつこと 第10回 親子関係の心理 第11回 親子関係の発達 第12回 家族システム論 第13回 個人の発達と家族 第14回 家族カウンセリング 第15回 全体のまとめ		
テキスト	柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待（第2版）』ミネルヴァ書房	参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	リアクションペーパー:40% 試験:60%		

教育心理学A		前期 2 単位	1・2年
子供の個性に応じる		宮脇 郁 (みやわき かおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の個性、特に性格を理解するための知識と方法を理解する。 ・学校生活において生じやすい問題を知り、その対処法の1つとしてのカウンセリングの基礎がわかる。 ・障害児教育、特に発達障害の児童生徒に対する指導方法を理解する。 		
授業の概要	本講では、まず子供の個性の把握に役立てるために、性格の理論と測定方法を学ぶ。さらに、学校における問題（不適応）の種類およびその対処方法としてのカウンセリングを概観する。また、学級集団内の人間関係、障害児教育についても学ぶ。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子供の個性の把握① 性格の理論</p> <p>第3回 子供の個性の把握② 性格を理解する</p> <p>第4回 適応と不適応</p> <p>第5回 学校における不適応① 不登校</p> <p>第6回 学校における不適応② いじめ、その他</p> <p>第7回 学校における不適応② 心の病気</p> <p>第8回 学校におけるカウンセリング① 概論</p> <p>第9回 学校におけるカウンセリング② さまざまな心理療法</p> <p>第10回 学校におけるカウンセリング③ 教育相談</p> <p>第11回 学級集団の心理</p> <p>第12回 心理教育的援助① 概論</p> <p>第13回 心理教育的援助② 発達障害</p> <p>第14回 心理教育的援助③ 特別支援教育</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
テキスト	未定	参考文献	服部 環 (監修) 『「使える」教育心理学 <増補改訂版>』 北樹出版
評価方法	定期試験:80% 授業への積極的参加度:20%		

教育心理学B		後期 2 単位	1・2年
子供の学びをサポートする		宮脇 郁 (みやわき かおり)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達の道筋がわかる。 ・人間の知的能力の仕組みを理解し、日常場面での知的活動にに当てはめることができる。 ・代表的な学習指導法と教育評価の方法を身に付ける。 		
授業の概要	効果的な学習指導を行うためには、子供の知的な側面を正しく把握する必要がある。そこで本講では、子供の知的能力の理解に役立つトピックである発達・学習・記憶と認知・知能などについて基礎的な知識を学び、教育場面への応用を考える。講義が中心だが、体験的な理解も目指すため、演習や映像教材の視聴も折に触れて行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 子供の発達の特徴① 乳児期、幼児期</p> <p>第3回 子供の発達の特徴② 児童期、青年期</p> <p>第4回 子供の発達の特徴③ 発達の理論</p> <p>第5回 学習の仕組み① 古典的条件づけとオペラント条件づけ</p> <p>第6回 学習の仕組み② 条件づけを応用する</p> <p>第7回 学習意欲</p> <p>第8回 記憶と認知① 概論</p> <p>第9回 記憶と認知② 記憶の種類</p> <p>第10回 記憶と認知③ 知識の仕組み</p> <p>第11回 記憶と認知④ 考える力</p> <p>第12回 知能とは何か</p> <p>第13回 学習指導の方法</p> <p>第14回 教育評価</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
テキスト	未定	参考文献	柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』 (北樹出版 2011年)
評価方法	定期試験:80% 授業への積極的参加度:20%		

社会心理学A		前期 2 単位	1・2年
社会に生きる個人のこころ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学（特に個人内過程および対人行動）の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人認知、自己、社会的推論、態度、対人行動などの研究領域について解説する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／（社会）心理学の前提と研究法 第2回 対人認知1：印象の形成 第3回 対人認知2：対人情報の処理 第4回 社会心理学的研究の変遷 第5回 帰属過程 第6回 社会的推論 第7回 感情と認知 第8回 態度1：認知的斉合性の観点から 第9回 態度2：情報処理の観点から 第10回 自己1：自己の認知、自己の評価 第11回 自己2：自己の他者への表出 第12回 対人行動1：援助行動 第13回 対人行動2：攻撃行動 第14回 コミュニケーションのしくみ 第15回 コミュニケーションのチャネル／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤（2009）『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら（2007）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／その他適宜紹介する。
評価方法	期末試験：60% 小テスト・レポート：40%		

社会心理学B		後期 2 単位	1・2年
個人のあつまりと社会		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会心理学（特に対人関係および集団・集合過程）の研究知見の理解を目標とする。具体的には、以下の通り。 (1) 社会心理学の用語、概念などを適切に理解、説明できるようになる。 (2) 社会心理学の研究方法の特徴や限界を理解する。		
授業の概要	授業は基本的に講義形式で進めるが、適宜、簡単な調査や実験も取り入れる。最初に社会心理学の基本的な前提や研究方法を解説し、その後、対人関係、集団行動、集団間関係、集合行動などの研究領域について解説する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス／社会心理学の前提と研究法 第2回 社会に生きる「個人」のこころのしくみ 第3回 対人関係1：対人魅力と親密化 第4回 対人関係2：親密な関係 第5回 社会的交換 第6回 社会的影響：他者の存在による影響 第7回 集団1：集団での問題解決と意思決定 第8回 集団2：社会的規範と同調 第9回 社会的ジレンマ 第10回 リーダーシップ 第11回 集団間関係1：集団間葛藤 第12回 集団間関係2：ステレオタイプ、偏見、差別 第13回 集合・群衆の行動 第14回 マス・コミュニケーション 第15回 文化と人のこころ／全体のまとめ		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	池上・遠藤（2009）『グラフィック社会心理学第2版』ナカニシヤ／山田ら（2007）『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房／その他適宜紹介する。
評価方法	期末試験：60% 小テスト・レポート：40%		

教育学A		前期 2 単位	1・2年
ヒトが人になるとはどういうことか		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	I. 教育の本質について、種の保存という観点から、「ヒトが人になるとはどういうことか」について考え、人間にとつての教育の根源的意味を理解する。II. 日本における近代教育の歴史的展開をたどることで、教育が国家や社会のあり方、文化や価値観の変遷と密接な関連を持つことを理解する。		
授業の概要	全体を本質編と歴史編に分ける。本質編では、教育という営みの人類史的意味を明らかにする。歴史編では、近世における教育の習俗を明らかにしつつ、それが明治以降の近代教育へどのように転換していったかを明らかにする。近代国家と教育の関係、学歴社会の成立、戦争と教育、戦後教育改革の展開、など。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 種の持続と人間の子育て・・・動物と人間を分かちつもの 第3回 人間の子育ての特徴 第4回 子育ての習俗①・・・通過儀礼など 第5回 子育ての習俗②・・・子供組、若者組など 第6回 商人の教育、女子の教育 第7回 寺子屋と藩校 第8回 文明開化と教育・・・近代学校のはじまり 第9回 試験制度の始まり 第10回 国家と教育 第11回 学歴社会の成立 第12回 「教育する家族」の登場 第13回 戦争と教育 第14回 戦後教育改革の展開 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない	参考文献	ポルトマン『人間はどこまで動物か』（岩波新書）、大田堯著『教育とは何か』（岩波新書）、その他随時紹介する。
評価方法	感想文:20% レポート:80%		

教育学B		後期 2 単位	1・2年
現代の教育問題を問う		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	I 戦後から今日にいたる「教育問題」を取り上げ、その歴史的背景やそれぞれに内在する教育学的論点を理解する。 II 世界の教育改革動向に目を向け、日本の教育問題の特殊性や普遍性に気づくことで、自らの教育観の基礎を培う。		
授業の概要	教育における「競争」「管理主義」「早期教育」「いじめ」「学級崩壊」等の諸問題を取り上げ、それらの内生的な関連を、近代教育の歴史的特質や社会構造の変化との関連で明らかにしていく。さらに「子どもの権利条約」や外国の教育改革動向との関連で、日本の教育問題の解決の方向を国際的視野から考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 序論 第2回 戦後における学歴競争：「競争」の性格変化 第3回 学歴・資格の社会的意味 第4回 「管理主義教育」の実態：校則と体罰、ビデオ視聴 第5回 「管理主義教育」をどう考えるか 第6回 早期教育の実態と論点：ビデオ視聴 第7回 早期教育をどう考えるか：討論 第8回 「いじめ」の構造と対応 第9回 「学級崩壊」とは何か 第10回 欧米における教育改革①：育児支援と子ども観 第11回 欧米における教育改革②：学力観 第12回 欧米における教育改革③：討論 第13回 「子供の権利条約」が提起するもの：新しい子ども観 第14回 「子供の権利条約」をどう考えるか：討論 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない	参考文献	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』（岩波新書）、その他随時紹介する。
評価方法	感想文:20% レポート:80%		

保育学A		前期 2 単位	1・2年
子どもの健やかな発達と大人のかかわり		林 浩子（はやし ひろこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誕生から思春期までの子どもの心身の発達や生活について理解し、子どもの健やかな成長に必要な知識と対応について理解できるようにする。 ○ 講義だけではなく、育児に必要な技術を実習を通して学んでいくことで、子育てが身近に感じられるようになる。 		
授業の概要	現代、育児をめぐる親子関係のあり方は、社会の変化とともに様々な問題が生じているが、子どもの発達を正しく理解することで、育児への不安を解消し、喜びへと変換していくことができる。本授業では、子どもの発達や育児の実践を映像や事例で取り上げることで、将来の具体的実践に結びつく学びを目指していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション：自らの育ちを振り返る</p> <p>第2回 一赤ちゃん 成長の不思議な道のりのビデオ視聴</p> <p>第3回 子どもの発達(1)人間の発達の方向性</p> <p>第4回 子どもの発達(2)妊娠～出産</p> <p>第5回 子どもの発達(3)新生児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第6回 子どもの発達(4)乳児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第7回 子どもの発達(5)幼児期の発達の特性と育児のあり方</p> <p>第8回 子どもの発達(6)学童期～思春期の発達の特性とかかわり</p> <p>第9回 子どもの発達(7)特別支援を要する子どものかかわり</p> <p>第10回 子どもの発達(8)早期教育とその問題点</p> <p>第11回 子どもの生活(1)食事、排泄、睡眠</p> <p>第12回 子どもの生活(2)疾病とその予防</p> <p>第13回 子どもの生活(3)事故と安全</p> <p>第14回 子どもの生活(4)遊びの意味と意義</p> <p>第15回 子どもと生活(5)絵本の意味と意義</p>		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業内で随時紹介する。
評価方法	授業感想文:30% 試験:70%		

保育学B		後期 2 単位	1・2年
現代における「子育て」の現状と課題		林 浩子（はやし ひろこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを取り巻く社会環境の変化とともに浮かび上がってくる、子育ての現状と課題を理解する。 ○ 現代の子育て事情や課題に対する法的制度の変遷と現状を学び、これからの子育て支援のあり方と方向性について理解する。 		
授業の概要	現代の子どもが育つ、あるいは、子どもを育てる社会環境は複雑で様々な問題を抱えている。上記にあげた授業の到達目標に向けて、講義だけではなく、学生自らが情報を収集したりグループディスカッションを行ったりしながら、現代の子育てに必要な社会的制度を探索し、将来への子育ての具体的実践に結びつく学びを目指していく。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション：子どもをめぐる法的制度</p> <p>第2回 社会環境の変化と子育て(1)子どもを「生む」ということ</p> <p>第3回 社会環境の変化と子育て(2)母親が抱える育児不安</p> <p>第4回 社会環境の変化と子育て(3)虐待の背景にあるもの</p> <p>第5回 社会環境の変化と子育て(4)子育て支援施策の動向</p> <p>第6回 社会環境の変化と子育て(5)子育て支援の情報収集</p> <p>第7回 社会環境の変化と子育て(6)子育て支援の課題と方向性</p> <p>第8回 社会環境の変化と子育て(7)色々な家族のあり方</p> <p>第9回 保育現場の「今」(1)一幼稚園、保育園、子ども園一</p> <p>第10回 保育現場の「今」(2)発達感の今、昔</p> <p>第11回 保育現場の「今」(3)ぶつかり合いの中で育つもの</p> <p>第12回 ケアリングとは(1)ケアの変遷とその意味</p> <p>第13回 ケアリングとは(2)共感的他者の役割とその意義</p> <p>第14回 ケアリングとは(3)家庭から始めよう</p> <p>第15回 まとめ「子育て」と「自分育て」</p>		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業内で随時紹介する。
評価方法	授業感想文:20% レポート:60% 課題:20%		

家族社会学		前期 2 単位	1・2年
家族社会学の基礎		平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会における家族をめぐる意識と行動、その変化と持続性を理解することを一般目標とし、社会の変化と個人の生き方、家族のあり方に関して、次の内容の授業を行う。①社会学の分野での家族研究に基づき家族と家族関係について基礎から学ぶ。②隣接諸社会科学における家族論の成果から学び、家族についての理解を深める。		
授業の概要	家族の研究のための視角や理論的枠組みを説明し、社会的アプローチによる現代家族の特質や変動の方向性の理解をすすめるため、以下の4点を中心に講義を進める。①歴史的・比較文化的な観点からみた家族をめぐる意識と行動②家族の機能と自己組織化のメカニズム③家族とその他の社会関係との関連④家族形成のプロセスと人間発達		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 家族について学ぶ意義 第2回 家族を対象とした社会学的研究の射程 第3回 家族変動をとらえる分析視角 第4回 その1 構造機能論 第5回 その2 システム論 第6回 その3 相互作用論 第7回 現代家族の特質に焦点を当てた分析視角 第8回 家族周期論とライフコース論 第9回 社会的ネットワーク論 第10回 家族ストレス論 第11回 現代社会における家族変動の方向性 第12回 現代社会に生きる個人と家族 第13回 現代社会のかかえる問題とこんにちの家族 第14回 現代社会の変容と家族の特性 第15回 現代社会学の展開における「家族」		
テキスト	特になし	参考文献	必要に応じて、紹介する。
評価方法	定期試験:60% 平常点（課題提出等）:40%		

教育社会学	後期 2 単位	1・2年
近代学校論からみる教育の諸課題	山田 哲也（やまだ てつや）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 本講義のテーマは、近代以降の社会における教育や学校の特有の性格とそれに内在する問題を社会学的な視座から理解することにある。 到達目標は次の3つである。</p> <p>①教育社会学の基本的な知識の学習を通じて、自らの教育経験とそこで培われた「常識」を相対化できるようになること。</p> <p>②学校知識、教師—生徒関係、学歴社会とメリトクラシーに関する教育社会学理論・実証研究の知見を理解すること。</p> <p>③これらの知識を習得したうえで、現代的な教育問題に関する議論を組み立てられるようになること。</p> <p><授業の概要> 本講義では、教育社会学、とりわけ「近代学校論」の知見をもとに、近代以降の社会で学校が果たす役割とその独特な性格について学ぶ。</p> <p>講義の前半では、近代学校が社会のなかで果たす機能を概観した後に、学校それ自体をひとつの小社会として捉え、その特質について学ぶ。</p> <p>後半は現代の学校が直面する諸問題を取りあげ、前半で論じた知見を応用しつつ、現代の学校で生じる「教育問題」について議論する。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1回 教育の「常識」を問い直す（ガイダンスを含む） 第 2回 近代学校の登場（1）：近代学校の特質とその人間形成作用 第 3回 近代学校の登場（2）：教職の誕生と教師—生徒関係の独特な難しさ 第 4回 学校文化とはなにか（1）：教員文化と学校知識 第 5回 学校文化とはなにか（2）：生徒文化論の射程 第 6回 階級・階層問題と学校（1）：学校と社会移動 第 7回 階級・階層問題と学校（2）：再生産装置としての学校と社会的排除 第 8回 前半のまとめ：近代学校論の到達点と課題 第 9回 学校コミュニティの病理—いじめ問題を考える 第10回 学校による包摂と排除—不登校問題の今日的展開 第11回 学校で学ぶ意味を問い直す—学校知識論の視点から 第12回 教育と貧困をめぐる諸問題—公営住宅の子育て・教育調査から 第13回 子育てをめぐる不安とリスク—保護者は「モンスター」なのか？ 第14回 教育改革と教師—調査データに映し出された教員世界の変化 第15回 後半のまとめ：教育の未来・学校の未来</p> <p><テキスト> 特になし。基本的に毎回資料を配布する。</p> <p><参考文献> 久富善之・長谷川裕編『教育社会学』学文社、2008年 若槻健・西田芳正編『教育社会学への招待』大阪大学出版会、2010年</p> <p><評価方法> 授業感想文の内容（20%）、中間レポート（30%）、テスト（50%）で判断する。</p>		

法学（日本国憲法）		前期 2 単位	1・2年
法学（日本国憲法）		山岸 秀（やまぎし しげる）	
授業の到達目標 及びテーマ	立憲主義に基づいて日本国憲法の基本原理を理解し、そのうえで社会の様々な分野における法の働きを概観し、物事を法的にとらえる目を養う。		
授業の概要	人数が少なくないので講義形式となるが、できるだけ、レポート・質問などを活用して個別指導にも心がける。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 法とは。行為規範、裁判規範の理解。法の体系。 第2回 憲法の基礎。民定憲法、成文憲法、硬性憲法。憲法の基本原則。 第3回 公法としての憲法。 第4回 裁判所の違憲判決。 第5回 近代的憲法の意味。 第6回 人権・権利の主体。 第7回 人権制約の原理。 第8回 人権の体系。 第9回 天皇と法。 第10回 戦争と法。 第11回 犯罪と法。 第12回 非行と法。 第13回 家庭と法。 第14回 教育と法。 第15回 現代社会と法、まとめ。		
テキスト	使用しない。	参考文献	適宜授業の中で紹介。
評価方法	テスト:60% レポート:40%		

法学（日本国憲法）		後期 2 単位	1・2年
日本国憲法と法学の基礎を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	法学の基礎と憲法を学ぶ。法学に接したことのない者を対象として、法とは何か、法の歴史、裁判の方法、近代国家と近代憲法、明治憲法、現代国家と日本国憲法の概要を教えることによって、良き市民としてのリーガルマインドを涵養し、教員となる者に対して必要な知識と法的判断能力、そして、人権に関する感覚を醸成することを目的とする。		
授業の概要	基本的な教科書にそって、講義形式で進める。法学と憲法に関する基礎的な知識をしっかりと教える。一方的な講義にならないように、適宜講義中に指名し、対話を通してソクラテス方式で進める。特別な予習はいらぬが、必ず、教科書を持参し、ノートをしっかりとして欲しい。公務員試験や法学部への編入を目指す人は本講義をとって欲しい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 法学と憲法について 第2回 法学を学ぶにあたって 第3回 法とは何か 社会と規範 第4回 法とは何か 日本法と外国法 第5回 法の発展 法の発展と社会の発展 第6回 法の発展 封建社会・近代社会・現代社会の法 第7回 法と裁判 裁判制度 第8回 裁判の基準 制定法と判例法 第9回 法の解釈 概念法学と自由法学 第10回 近代国家と憲法 近代憲法の理念 第11回 明治憲法と日本国憲法 自由権と社会権 第12回 権力分立 違憲立法審査権 第13回 基本的人権 法の下での平等など 第14回 基本的人権 表現の自由・情報プライバシー 第15回 基本的人権 思想・良心・心境の自由など		
テキスト	末川博編『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%		

現代社会と法律A		前期 2 単位	1・2年
現代社会と法律の基本を学ぶ		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	法律を初めて学ぶ者を対象として、法律の基礎を教える。憲法については、法学として他の講義が開講されているので、それ以外の法律の基礎が中心となる。刑法と刑事法、民法の家族法と財産法の基礎的知識を習得することを目標とする。		
授業の概要	現代社会には多くの社会問題があり、法律はこれらの社会問題を解決するためにある。本講義では、法律の基礎的知識を教えつつ、現代社会に特有の社会問題を取りあげて、講義を進める。講義はなるべく一方的にならないように、受講者と議論をしながら進めたい。積極的参加を希望する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 法律学とはなにか 第2回 法律学基礎の基礎 民事法・刑事法 第3回 法律学基礎の基礎 裁判制度 条文と判例 要件事実論 第4回 犯罪と刑罰 刑事責任と刑事訴訟法 逮捕から裁判まで 第5回 犯罪と刑罰 刑事責任と刑法 構成要件から責任まで 第6回 民法と家族法 家族をめぐる法律の歴史 第7回 民法と家族法 結婚と離婚 第8回 民法と家族法 親子関係と相続 第9回 契約法 契約とはなにか 契約の成立と効力 第10回 契約法 契約の当事者・内容・意思表示 第11回 契約法 現代の契約の諸問題 第12回 損害賠償法 不法行為 交通事故 第13回 損害賠償法 過失責任と厳格責任 第14回 環境法 第15回 情報法 インターネットに関する法律		
テキスト	末川博『法学入門』有斐閣双書	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加 :7% テスト:93%		

現代社会と法律B		後期 2 単位	1・2年
現代社会と法律の応用編を学ぶ		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会と法律Aでは基礎的な法律的知識を扱ったが、更に発展的に現代における社会問題を学ぶことを目標とする。労働法、消費者法、情報法、環境法など、特別法を中心に現代社会における最先端の法律を学ぶ。		
授業の概要	現代社会には多くの社会問題があり、法律はこれらの社会問題を解決するためにある。本講義では、教科書を使って、労働法、消費者法などに関して現代社会に生じている諸問題に関する法律に関して講義を行う。講義はなるべく一方的にならないように、受講者と議論をしながら進めたい。積極的参加を希望する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション 法律学を学ぶために 第2回 法律学の基礎の確認 第3回 働くことに関する法律 労働法とは？ 第4回 働くことに関する法律 雇用機会均等法 第5回 働くことに関する法律 間接差別 第6回 働くことに関する法律 同一労働同一賃金の原則 第7回 働くことに関する法律 子育てに関する法律 第8回 働くことに関する法律 アルバイト・派遣の問題点 第9回 民法・消費者法 民法における契約とは？ 第10回 民法・消費者法 悪徳商法のあれこれ 第11回 民法・消費者法 クーリングオフ 第12回 民法・消費者法 民法における保護の規定 消費者契約法 第13回 民法・消費者法 クレジットカードと三者関係 第14回 民法・環境法 公害 環境アセスメント 地球環境問題 第15回 民法・情報法 インターネットと名誉毀損・プライバシー		
テキスト	副田隆重他著『ライフステージと法』有斐閣アルマ	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:7% テスト:93%		

現代社会と政治A		前期 2 単位	1・2年
現代政治とリベラリズム		村田 玲（むらた あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	政治と権力をめぐる現代政治学の議論を瞥見することで、諸々の政治学の基本的概念とその用法を理解する。ついで、近世ヨーロッパにおけるリベラリズム（自由主義）の発生と変容の歴史展開を理解する。さらに広義の「リベラリズム」の多様性を把握することで、現代政治のひとつの重大な対立軸を理解する。		
授業の概要	本講義は、現代政治を理解し、これに参加するにあたって有用な思考の枠組みを受講生に提供することを期する。講義は、おおむねテキストに沿って進行する。「現代社会と政治A」においては、リベラリズムに関わる諸々の問題とその起源を概説する。諸論点をより根本的に考察するために、随時、政治学史上の諸々の古典にも言及する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論および授業概要 第2回 リベラリズムの岐路 第3回 グローバリゼーションの展開 第4回 政治権力の諸形態 第5回 政治権力の正当性 第6回 リベラリズムの歴史：17世紀～19世紀 第7回 リベラリズムの歴史：19世紀～20世紀 第8回 福祉国家の性格 第9回 福祉国家批判の諸相 第10回 ロールズの正義論 第11回 ロールズ批判の諸相 第12回 リベラル・コミュニタリアン論争 第13回 リベラリズムの問題点 第14回 リベラリズムと規範理論 第15回 総括		
テキスト	川崎修・杉田敦編著『【新版】現代政治理論』（有斐閣、2012年）	参考文献	随時、授業時に指定する。
評価方法	定期試験：50% レポート：30% 平常点・授業参加度：20%		

現代社会と政治B		後期 2 単位	1・2年
現代政治とデモクラシー		村田 玲（むらた あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	デモクラシー（民主主義）に関連する基本的概念とその用法を理解する。ついで、古典古代におけるデモクラシーの発生とその後の近代ヨーロッパにおける歴史的展開を理解する。さらに現代デモクラシーが直面している諸々の問題を瞥見することで、現代政治の若干の重大な争点を理解する。		
授業の概要	本講義は、現代政治を理解し、これに参加するにあたって有用な思考の枠組みを受講生に提供することを期する。講義は、おおむねテキストに沿って進行する。「現代社会と政治B」においては、デモクラシーに関わる諸々の問題とその起源を概説する。諸論点をより根本的に考察するために、随時、政治学史上の諸々の古典にも言及する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 序論および授業概要 第2回 戦前日本政治 第3回 戦後日本政治 第4回 デモクラシーの歴史：古代～近代 第5回 デモクラシーの歴史：近代～現代 第6回 現代デモクラシー論の諸相 第7回 市民社会論 第8回 デモクラシーと公共性：アレント 第9回 デモクラシーと公共性：ハーバーマス 第10回 ネーションとエスニシティ 第11回 フェミニズム 第12回 グローバリゼーションと政治 第13回 グローバリゼーション批判の諸相 第14回 デモクラシーと規範理論 第15回 総括		
テキスト	川崎修・杉田敦編著『【新版】現代政治理論』（有斐閣、2012年）	参考文献	随時、授業中に指定する。
評価方法	定期試験：50% レポート：30% 平常点・授業参加度：20%		

社会学A		前期 2 単位	1・2年
ミクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであるが、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによって、その目的を達成する。社会について多角的、批判的に見るができるようになる。		
授業の概要	講義形式の授業であるが、何回かは参考資料を配布する。講義の対象とする社会学の分野は、個人と社会、家族社会学、うわさの社会心理といったミクロ社会学である。毎回、これらの分野の中で異なるテーマやトピックスを取り上げて講義を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 社会学の性格および社会とは何か 第2回 個人と社会 (1) 社会的ジレンマ 第3回 個人と社会 (2) 社会化 第4回 個人と社会 (3) 地位と役割 第5回 個人と社会 (4) 社会的性格 第6回 個人と社会 (5) 近代人の誕生と資本主義の成立 第7回 個人と社会 (6) 社会統制と逸脱 第8回 家族社会学 (1) 家族と親族 第9回 家族社会学 (2) 結婚と離婚 第10回 家族社会学 (3) 家族の機能 第11回 家族社会学 (4) シングル化社会と家族の将来 第12回 うわさの社会心理 (1) 流言・ゴシップ・都市伝説・デマ 第13回 うわさの社会心理 (2) 流言 第14回 うわさの社会心理 (3) ゴシップと都市伝説 第15回 うわさの社会心理 (4) うわさの伝達と対策		
テキスト	とくになし。	参考文献	A・ギデンズ(松尾精文他訳)『社会学(第5版)』(而立書房)森下伸也『社会学がわかる事典』(日本実業出版社)
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%		

社会学B		後期 2 単位	1・2年
マクロ社会学を学んで現代社会についての理解を深める		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
授業の到達目標 及びテーマ	授業の到達目標は、現代社会についての理解を深めることであり、社会学の基本的な考え方・視点を会得することによってその目標達成を目指したい。社会について多角的、批判的に見るができるようになる。		
授業の概要	講義形式でおこなう。講義の対象とする社会学の主要な分野は、マクロ社会学の階級・階層論と現代社会論であるが、毎回、これらの分野に含まれる異なるテーマを取り上げて、講義する。参考資料として、社会調査データ、関連統計データ等を配布する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会の構造と変動 第2回 社会階級 第3回 社会階層と社会移動 第4回 エリート 第5回 学歴社会 第6回 中流社会から格差社会へ 第7回 近代社会としての産業社会 第8回 近代社会から現代社会へ 第9回 現代社会論 (1) 大衆社会 第10回 現代社会論 (2) 情報化社会 第11回 現代社会論 (3) 消費社会 第12回 現代社会論 (4) 都市社会 第13回 現代社会論 (5) リスク社会と監視社会 第14回 現代社会論 (6) グローバル化社会 第15回 日本社会の特質		
テキスト	特になし。	参考文献	金子勇・長谷川公一『マクロ社会学』(新曜社)現代位相研究所編『フシギなくらい見えてくる!本当にわかる社会学』(日本実業出版社)
評価方法	平常点:20% 定期試験:80%		

社会福祉論A		前期 2 単位	1・2年
社会福祉入門		山内 陽子（やまうち ようこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会福祉の理念、歴史、福祉サービスの成り立ちについて概観するとともに、基礎的な知識を身につけることが目標である。		
授業の概要	社会福祉は私たちの生活と関わりが深く、身近である。本講義では、社会福祉を第三者的に学ぶのではなく、社会的関心の高いさまざまな福祉の問題を挙げ、学生自身の生活と結びつけて考え、現在の社会状況および、福祉サービスについて基礎的な理解を深めていく。講義中心だが、学生同士のディスカッション等の学習形態も取り入れる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会福祉の理念と概念 第3回 社会福祉の歴史 第4回 社会福祉の法制度 第5回 子ども虐待問題と対策 第6回 ドメスティック・バイオレンス 第7回 社会的養護1 施設養護（乳児院） 第8回 社会的養護2 施設養護（児童養護施設） 第9回 社会的養護3 家庭的養護 第10回 少年非行問題とその対策 第11回 貧困問題と生活保護制度 第12回 障害児・者福祉制度 第13回 高齢者福祉制度 第14回 社会福祉に携わる専門職 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。プリント等資料を配布する。	参考文献	鈴木力「あたらしい社会的養護とその内容」青踏社 山縣文治「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会 随時紹
評価方法	リアクションペーパー:10% 中間レポート:40% 試験:50%		

社会福祉論B		前期 2 単位	1・2年
社会問題と福祉サービス		山内 陽子（やまうち ようこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会的関心の高い福祉問題を取り上げ、学生自身が主体的に社会問題を適切に理解し、福祉、サービスについて深く考察できるようになることが目標である。		
授業の概要	従来の「最低限度の保障」に重きをおいた「福祉」の考え方から、近年「すべての人が自分らしくよりよく生きる」ことができるように支援を展開していくことが「福祉」であるという考え方への転換が求められている。その視点に立ち、本講義では、福祉問題を取り上げて映像資料等を用いた学び、ディスカッションや発表を中心に行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 社会福祉とは 第3回 子育て支援 第4回 子ども虐待問題 第5回 ドメスティック・バイオレンス 第6回 社会的養護1 施設養護（乳児院） 第7回 社会的養護2 施設養護（児童養護施設） 第8回 社会的養護3 家庭的養護（グループホーム） 第9回 社会的養護4 家庭的養護（里親） 第10回 少年非行問題 第11回 ひとり親家庭 第12回 障害児・者問題1（生活支援） 第13回 障害児・者問題2（就労支援） 第14回 高齢者問題 第15回 まとめと振り返り		
テキスト	特に定めない。プリント等資料を配布する。	参考文献	山縣文治「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会 その他、随時紹介する
評価方法	リアクションペーパー:50% 中間レポート:50%		

人文地理学A		前期 2 単位	1・2年
人文地理学の基礎		齋藤 元子（さいとう もとこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の基本を理解する。人文地理学の主要分野である地理教育・歴史地理学・文化地理学を取り上げ、それぞれの研究対象ならびに研究の方法を理解する。人文地理学の基本ツールである地図があらゆる分野の研究に活用されていることを理解し、様々な時代やスケールの地図を解読できるようにする。		
授業の概要	地理教育では、教科書の歴史に焦点を当て、特に掲載された地図に着目する。歴史地理学では、東京の歴史地理をテーマとし、江戸時代から現在に至る空間的な変遷を多様なスケールの地図を用いて検証する。文化地理学では、国際交流やジェンダーの問題を地理学的な視点から考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 人文地理学の研究対象と方法 第3回 近世の世界地図・日本地図 第4回 地理教育史1：初等教育 第5回 地理教育史2：中等教育 第6回 地理教育史3：社会教育 第7回 東京の歴史地理1：江戸から東京へ 第8回 東京の歴史地理2：山の手に移り変わり 第9回 東京の歴史地理3：下町に移り変わり 第10回 東京の歴史地理4：青山学院の地を遡る 第11回 国際姉妹都市1：友好活動のケーススタディ 第12回 国際姉妹都市2：地理教育への活用 第13回 ジェンダーの地理1：世界 第14回 ジェンダーの地理2：日本 第15回 まとめ		
テキスト	使用しない	参考文献	授業中に適宜指示
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%		

人文地理学B		後期 2 単位	1・2年
人文地理学の実践		齋藤 元子（さいとう もとこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	人文地理学の実践として、宗教地理学・民族地理学を取り上げ、その研究の対象と方法を日本ならびに世界各地の事例を用いて理解する。人文地理学の基本ツールである地図が、それぞれの調査や研究にいかんにか活用できるかを理解する。		
授業の概要	世界各地の宗教集団や民族集団が形成した景観や空間を分析することを通して、文化の固有性を学ぶとともに、自然環境や歴史的環境が生み出した地域性に着目する。考察対象としては、アメリカのキリスト教集団アーミッシュ、英国北アイルランドのカトリックとプロテスタント、日本の隠れキリシタン、富士山信仰、日米のエスニックタウンを取り上		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 宗教地理学・民族地理学の研究対象と方法 第3回 アーミッシュの社会 第4回 アーミッシュの地域差 第5回 アーミッシュの観光化 第6回 北アイルランドの歴史地理 第7回 ベルファストの都市構造 第8回 ビースラインとミューラル 第9回 紛争地観光の展開 第10回 和平と地理教育 第11回 隠れキリシタン伝承の島々 第12回 富士山信仰と富士塚 第13回 アメリカのジャパントウン 第14回 日本のチャイナタウン 第15回 まとめ		
テキスト	使用しない	参考文献	授業中適宜指示
評価方法	授業コメントシート:30% 試験:70%		

経済学		前期 2 単位	1・2年
経済学概論		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経済学の基本的な考え方やしくみについて説明する。経済学的なものの方や考え方の基礎を身に付けて、私たちが生きている現代社会を経済学的な立場から理解したり、批判できるようになることが目標である。		
授業の概要	いわゆる「近代経済学」のカテゴリーであるミクロ経済学・マクロ経済学の基礎について説明する。「近代経済学」以外の経済学については、「現代社会と経済B」で説明する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 経済学の予備知識1 経済学と希少性</p> <p>第3回 経済学の予備知識2 選択・機会費用・インセンティブ</p> <p>第4回 需要と供給について考える1 需要</p> <p>第5回 需要と供給について考える2 供給</p> <p>第6回 需要と供給について考える3 均衡</p> <p>第7回 市場について考える1 分業</p> <p>第8回 市場について考える2 資本主義社会のしくみ</p> <p>第9回 政府について考える1 市場の失敗</p> <p>第10回 政府について考える2 財政のしくみと財政政策</p> <p>第11回 お金について考える1 貨幣</p> <p>第12回 お金について考える2 金融政策</p> <p>第13回 経済全体について考える1 経済成長とGDP</p> <p>第14回 経済全体について考える2 国際収支</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

現代社会と経済A		前期 2 単位	1・2年
グローバリゼーションについての考察		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	21世紀「現代社会」がどのような特徴を持っている社会なのかということ、人類の歴史という長い時間軸の中で認識し、「ほかの時代・空間の社会」における例との比較を試みながら理解するとともに、複雑化する現代社会においてこれから生きていく際に必要とされるであろう、「人間力」を形成するための知識・物事の考え方などについて学ぶ。		
授業の概要	東西冷戦の終結以降、地球全体を巻き込んで進行している「グローバリゼーション」について、様々な角度から検討を加えて考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 現代社会と経済学</p> <p>第3回 現代社会の課題</p> <p>第4回 資本主義と社会主義1 冷戦の歴史</p> <p>第5回 資本主義と社会主義2 政治経済の対立</p> <p>第6回 2つのグローバリゼーション1 市場経済</p> <p>第7回 2つのグローバリゼーション2 民主主義</p> <p>第8回 政治的企図1 新自由主義</p> <p>第9回 政治的企図2 オルター・グローバリゼーション</p> <p>第10回 過程1 世界システム論</p> <p>第11回 過程2 経済成長論</p> <p>第12回 状況1 モノのグローバリゼーション</p> <p>第13回 状況2 カネのグローバリゼーション</p> <p>第14回 状況3 ヒトのグローバリゼーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

現代社会と経済B		後期 2 単位	1・2年
現代経済の問題を経済学の歴史から考察する		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「経済学」の授業で取り上げた「近代経済学」とあわせて、新たに「近代経済学以外の経済学」についての説明を行う。正統派経済学である「近代経済学」流の考え方では見えてこなかったものを新たに発見し、物事を相対的に見ることができている態度を養うことが目標である。		
授業の概要	古典派以降の様々な経済学の学説について、それぞれの代表的論者である経済学者に焦点を当てて説明を行う。経済学者が生きていた時代背景や、それぞれの学説の中身だけではなく、それぞれの主張が現代にとっていったいどのような意味を持っているのか、ということも問題となるはずである。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済学はなぜ生まれたのか 第3回 古典派1 アダム・スミス(1) 市場のしくみ 第4回 古典派1 アダム・スミス(2) 自由主義と消費者 第5回 古典派2 リカードとマルサス(1) 人口問題と成長の限界 第6回 古典派2 リカードとマルサス(2) 比較優位と自由貿易 第7回 マルクス経済学1 マルクス 資本家と労働者 第8回 マルクス経済学2 マルクス 資本主義社会の相対化 第9回 新古典派1 限界革命の3人組(1) 効用と限界効用 第10回 新古典派2 限界革命の3人組(2) 市場の均衡 第11回 新古典派3 マーシャルほか 古典派の継承 第12回 ケインズ経済学1 ケインズ 市場と国家の役割 第13回 ケインズ経済学2 ケインズ 総需要管理政策 第14回 そのほかの経済学 モラル・エコノミー、行動経済学ほか 第15回 まとめ		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

現代社会と経済C		後期 2 単位	1・2年
金融の基礎を学ぶ		阿川 裕里（あがわ ひろさと）	
授業の到達目標 及びテーマ	金融の基礎を学習して、身近に起きている金融問題を理解する力を身につける。		
授業の概要	金融市場のしくみ、銀行の役割、金利や株価、外国為替のしくみなど、金融の基礎を最新のニュースを取り入れて学習する。とくに身近な多重債務問題は、外部の専門家を招いて理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 財務諸表の見方(1) 貸借対照表と損益計算書 第2回 財務諸表の見方(2) 企業会計と社会会計 第3回 金融市場のしくみ(1) 資金循環 第4回 金融市場のしくみ(2) 直接金融と間接金融 第5回 銀行の役割(1) 決済システム 第6回 銀行の役割(2) 信用創造 第7回 金利はどのように決まるのか(1) 流動性 第8回 金利はどのように決まるのか(2) 利息制限 第9回 消費者金融問題 第10回 外国為替市場のしくみ(1) 貿易取引 第11回 外国為替市場のしくみ(2) 資本取引 第12回 為替相場はどのように決まるのか(1) 直物相場 第13回 為替相場はどのように決まるのか(2) 購買力平価 第14回 国際通貨制度を考える(1) 変動相場制 第15回 国際通貨制度を考える(2) ユーロ危機		
テキスト	初日に指示する。	参考文献	初日に指示する。
評価方法	レポート:60% 受講態度:20% 授業感想文の内容:20%		

経営学A		前期 2 単位	1・2年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江 (うだ みえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。まずは経営学の全体像を理解できるようにする。「経営学とは何か」「企業とは何か」から出発し、経営学の歴史的な発展をとらえつつ、モチベーション理論やリーダーシップ理論などの基礎論を講義する。また、企業とは社会の中でどのような存在であるべきか、企業の社会的責任等も合わせて考える。		
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 企業の役割とは何か 第3回 企業を理解する 企業というシステム 第4回 会社の種類とは 第5回 企業は誰のものか コーポレート・ガバナンス 第6回 企業の社会的責任とは 第7回 経営学の考え方と発展 第8回 大企業の生成、テイラーシステム、フォードシステム 第9回 管理過程論 第10回 人間関係論 第11回 モチベーション理論 第12回 リーダーシップ理論 第13回 経営における意思決定 第14回 起業はどのようにして行われるのか 第15回 まとめ		
テキスト	齊藤毅憲編著 (2012) 『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。
評価方法	定期試験:80% 課題やレポート等:20%		

経営学B		後期 2 単位	1・2年
初めて学ぶ経営学		宇田 美江 (うだ みえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学を初めて学習する学生を対象にしている。経営資源、戦略、組織形態、マネジャーの仕事、さらに、企業の各職能として、情報管理、研究開発、生産管理、マーケティング等についての基礎を理解できるようにする。教科書の前半部分は経営学Aで講義するため、経営学Aと合わせて受講することが望ましい。		
授業の概要	講義が中心であるが、理解を深めるために、視聴覚教材や新聞・雑誌等の資料を使用しながら進める。また、企業の具体的な事例をなるべく多数取り入れる予定である。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 経営者の仕事とは 第3回 企業の仕組みとは 第4回 企業間関係とは 第5回 経営戦略① 戦略とは 多角化 第6回 経営戦略② 競争戦略 第7回 組織構造とは 第8回 企業を取り巻く環境とは 第9回 経営資源とは 第10回 情報管理・研究開発管理・生産管理とは 第11回 マーケティング① マーケティングとは 第12回 マーケティング② マーケティング戦略 第13回 財務管理とは 第14回 企業の国際経営 第15回 まとめ		
テキスト	齊藤毅憲編著 (2012) 『経営学を楽しく学ぶ Version3』中央経済社	参考文献	必要に応じて随時紹介する。
評価方法	定期試験:80% 課題やレポート等:20%		

商品学・流通論A		前期 2 単位	1・2年
消費者への価値創造・伝達過程としての流通と企業活動		伊藤 匡美 (いとう まさみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	大ヒット商品や人気のお店が生まれるのはなぜか。その背後では、どんな企業がどのような活動を行っているのか。わたしたちが日頃目にする現象やその仕組みについて、流通・マーケティングの見地から論理的に考え、理解する力を養っていく。		
授業の概要	講義形式の授業形態で行い、流通に関する論点を軸に取り上げていく。 生産と消費の間をつなぐ流通があるからこそ、われわれは日々近隣の店舗で商品を買ひ、豊かで便利な生活を送ることができるのである。当講義では流通のもつ基本的役割や特質、昨今の環境変化の方向性について論じていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 流通の位置づけと構造 第2回 消費者と流通 (1) 消費構造と其の変化 第3回 消費者と流通 (2) 店舗選択基準 第4回 消費者と流通 (3) 買い物行動と商品分類 第5回 流通の役割と卸売業・小売業 第6回 小売業の機能と構造 第7回 小売業の店舗形態と経営特性—業態とは— 第8回 百貨店について 第9回 チェーンストアとは何か 第10回 日本のチェーンストアについて 第11回 コンビニエンスストアについて 第12回 マーケティング (1) 基本的な考え方 第13回 マーケティング (2) マーケティング環境分析 第14回 マーケティング (3) マーケティング・チャネル 第15回 マーケティング (4) マーケティング戦略		
テキスト	鈴木安昭『新・流通と商業』(有斐閣)	参考文献	講義の中で随時紹介する。
評価方法	定期試験:95% 小レポート:5%		

商品学・流通論B		後期 2 単位	1・2年
流通の機能・役割と其の変化		長原 紀子 (ながはら のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	製品やサービスは流通過程を経て“商品”となり、消費者に選別されることを理解する。流通の機能・役割の基本と、変化する流通業の実態を理解する。		
授業の概要	基本的には座学を中心に行うが、街で実際に店舗を見て比較・観察するストアコンパリゾンを組み入れる。身近で具体的な事例を数多くとりあげ、流通についての要点を会得する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス 第2回 流通の社会的役割と仕組み 第3回 流通の機能 第4回 卸売業の役割と機能 第5回 小売業の役割と機能 第6回 小売業の形態と構造および変化 第7回 消費者と流通 第8回 ストアコンパリゾンへのオリエンテーションと実習へ 第9回 ストアコンパリゾン発表会 第10回 流通とマーケティング 第11回 顧客心理と接客 第12回 顧客心理とVMD 第13回 顧客満足とホスピタリティ 第14回 ウェブ時代の流通 第15回 流通・商業に関する公共政策		
テキスト	新・流通と商業(有斐閣) お客がわかれば売り方がわかる(商業界)	参考文献	必要に応じて資料を紹介する。
評価方法	授業参加度&受講態度:50% レポート(2回提出):50%		

家庭経済学		後期 2 単位	1・2年
家計・消費者・女性		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	資本主義社会においては、家計や家庭経済の活動とは企業や政府と密接な関係を保ちながら、非常に重要な意味を有していることを理解するとともに、自らの家計の営みを管理したり、人生設計を立てることの重要性についても考えることを目標とする。		
授業の概要	経済学で言う、1つの経済主体としての「家計」、あるいはそれを含む家庭経済のしくみを説明するだけでなく、消費者としての、あるいは女性としての視点から、家計をどのように捉えることができるのかということもあわせて考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 現代社会と家庭経済1 家庭経済学とはどんな学問か 第3回 現代社会と家庭経済2 家庭経済の誕生 第4回 日本経済と家庭経済1 戦後復興期から高度経済成長期 第5回 日本経済と家庭経済2 安定成長期から現在まで 第6回 現代社会と家族・子ども1 世帯の多様化 第7回 現代社会と家族・子ども2 少子高齢化社会 第8回 家計研究の歴史 世界と日本 第9回 家計のしくみ 収入・支出・家計簿記帳 第10回 ライフサイクルと家計 第11回 職業と労働1 日本型雇用慣行のしくみと限界 第12回 職業と労働2 女性労働をめぐる諸問題 第13回 社会保障のしくみ 第14回 消費者問題 第15回 まとめ		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験又はレポート:70%		

簿記原理A		前期 2 単位	1・2年
簿記の基本		小阪 敬志（こさか たかし）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。		
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業ガイダンス、簿記の基礎概念 第2回 貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産） 第3回 損益計算書とその構成要素（収益・費用・純損益） 第4回 確認テスト①、取引 第5回 勘定と仕訳 第6回 問題演習による仕訳方法の習得 第7回 勘定への転記 第8回 確認テスト②、試算表の作成 第9回 現金・当座預金 第10回 当座借越・小口現金 第11回 確認テスト③、商品売買（分記法） 第12回 商品売買（三分法、値引・返品処理） 第13回 売掛金と買掛金 第14回 確認テスト④、約束手形と為替手形 第15回 手形の裏書譲渡と割引		
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし
評価方法	試験:70% 平常点（確認テスト）:30%		

簿記原理B		後期 2 単位	1・2年
簿記の基本		小阪 敬志 (こさか たかし)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、企業の財務諸表作成の前提となる複式簿記を学習します。複式簿記は企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術です。したがって、本講義では当該技術の習得を目的とし、具体的な到達目標は、日本商工会議所簿記検定試験3級レベルの能力獲得とします。		
授業の概要	授業計画に記載した範囲のレジュメを配布し、例題を用いた具体的な計算演習を交えた講義を行い、テーマによってはさらに問題演習も実施します。また、一定の進捗ごとにそれまでの講義内容を確認するための小テストを実施します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 簿記原理Aで学習した内容のおさらい 第2回 その他の債権と債務 第3回 有価証券 第4回 確認テスト①、固定資産 第5回 資本金と引出金 第6回 決算整理の流れ 第7回 確認テスト②、現金過不足、商品評価 第8回 貸倒引当金、消耗品 第9回 有価証券の評価、減価償却 第10回 確認テスト③、収益・費用の見越し 第11回 収益・費用の繰延べ 第12回 当期純損益の計算と勘定の締切り 第13回 精算表の作成 第14回 確認テスト④、問題演習による精算表作成方法の習得 第15回 授業内容の総括		
テキスト	渡部裕巨・片山覚・北村敬子 編著『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社	参考文献	特になし
評価方法	試験:70% 平常点(確認テスト):30%		

統計学A		前期 2 単位	1・2年
記述統計の基礎		内山 義英 (うちやま よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。		
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Aでは、記述統計を学んでいく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ、ン、統 計 学 と は 第2回 デー タ の 種 類 第3回 度 数 分 布 表 (1) — 度 数 、 相 対 度 数 第4回 度 数 分 布 表 (2) — 累 積 度 数 、 累 積 相 対 度 数 第5回 ヒ ス ト グ ラ ム 第6回 累 積 相 対 度 数 グ ラ フ 第7回 分 布 の 特 性 値 (1) — 平 均 、 メ デ ィ ア ン 、 モ ー ド 第8回 分 布 の 特 性 値 (2) — 平 均 偏 差 、 標 準 偏 差 、 分 散 第9回 分 布 の 特 性 値 (3) — デー タ の 基 準 化 、 偏 差 値 第10回 量 的 デー タ の 関 係 分 析 (1) — 散 布 図 第11回 量 的 デー タ の 関 係 分 析 (2) — 相 関 係 数 第12回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (1) — ク ロ ス 集 計 第13回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (2) — 分 割 表 第14回 質 的 デー タ の 関 係 分 析 (3) — 同 時 分 布 と 条 件 付 き 分 布 第15回 今 学 期 の ま と め		
テキスト	配布プリント、ただし平方根(ルート)を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%		

統計学B		後期 2 単位	1・2年
推測統計の基礎		内山 義英 (うちやま よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	統計分析において、コンピューターなどで計算した結果を見て自分自身で分析、あるいは解釈して意味のある結論を導き出せるようになることが目標である。		
授業の概要	統計分析を行うとき、コンピューターは計算はしてくれるが、分析はしてくれない。分析するのは我々自身である。そこでこの講義では、統計学的なものの方の見方、考え方とは一体どのようなものであるかを中心に解説していく予定である。この統計学Bでは、推測統計を学んでいく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨン、推測統計学とは 第2回 標本空間と標本点 第3回 数学的確率、確率変数 第4回 確率変数の期待値と分散 第5回 中心極限定理と正規分布 第6回 母集団からの標本抽出 第7回 仮説検定の考え方 第8回 仮説検定の手順 第9回 t 検定 第10回 分散分析 (F検定) 第11回 独立性検定 (カイ2乗検定) 第12回 回帰分析とは 第13回 単回帰分析 第14回 重回帰分析 第15回 今学期のまとめ		
テキスト	配布プリント、ただし平方根 (ルート) を計算できる卓上計算機を毎回持参すること。	参考文献	特になし
評価方法	小テスト:15% 第1回レポート:25% 第2回レポート:25% 第3回レポート:35%		

現代社会と生活A		前期 2 単位	1・2年
衣生活文化		根本 由香 (ねもと ゆか)	
授業の到達目標 及びテーマ	衣服は人体を保護し快適に保つだけでなく、社会的な記号として、美意識を反映させるものとして、人の心と深く関わっていることを理解する。物質的に豊かになった現代では短い周期で流行が移り変わり、多様な衣服が着られているが、真に豊かな衣生活とはどのようなものかを衣生活文化の変遷を学び理解する。		
授業の概要	本授業では、近世の「きもの」文化と近代の洋装の導入から定着までを概観し、着ること・作ることに込められた思いとその様相について学ぶ。季節感と生活、個性と集団、流行、慣習などの観点からも歴史の中の事例をとり上げ解説する。授業は講義形式で行い、必要に応じて文献資料・図像資料を使用する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 INTRODUCTION: 現代の衣生活への視点 第2回 「きもの」の文化1 江戸時代の小袖から現代のきものへ 第3回 「きもの」の文化2 文様に込められた意味 第4回 「きもの」の文化3 「ゆかた」のうつりかわり 第5回 伝統染織を学ぶ 第6回 日本人と洋服1 洋服との出会い 第7回 日本人と洋服2 洋風摂取による近代の衣生活の変化 第8回 日本人と洋服3 洋装の定着 第9回 百貨店が発信した流行ー近代の流通革命ー 第10回 日本の色彩1ー多様な色名と色相ー 第11回 日本の色彩2ー歴史の中の色ー 第12回 制服をめぐるー個性と集団ー 第13回 衣服と慣習ー祝い着・衣がえー 第14回 衣服と環境ー衣服を大切にす心ー 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	試験:70% 授業感想文:30%		

現代社会と生活B		後期 2 単位	1・2年
食料生産の歴史と食生活での食料の意義		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	食料が、どのようなもので、どう生産され人がどのように利用してきたかを理解できるように、そして食が食品素材としてどのように体を支えているか、食そのものが我々の社会生活をどのように支えているのかを、理解できるようにする。全体として食生活をどのように捉えればよいのかを考え、自分なりに答えを出せるようにする。		
授業の概要	地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史を見て、食と捕食者の関係と食の量の面を生態系から考察し、次に農耕が始まり人がどのように食糧生産を行ってきたのかを学ぶ。さらに食が人体に与える影響を、栄養素から体が組み立てられ各組織とクロストークして動いてゆくのかを見る。流通面からも食の人体への貢献を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 地球の地学的な歴史と生存競争と進化の歴史を概観する 第2回 人類の誕生と進化人としての特徴を食生活も交えて概観 第3回 捕食者と食われるものの関係と食糧生産での利用を概観 第4回 採集による食獲得形態の利点と問題点を学ぶ 第5回 初期の農耕による食糧生産の利点と問題点を学ぶ 第6回 現在の農耕による食糧生産の利点と問題点を学ぶ 第7回 生産流通消費の食糧供給の現状を食生活との関係から見る 第8回 将来の食糧生産、流通、消費を考えてみる 第9回 食構成成分の人体への影響を栄養素から概観する 第10回 栄養素以外の食成分が体組織へ与える影響を概観する 第11回 栄養素以外の食成分が病人へ与える影響を概観する 第12回 栄養素以外の食成分が健康面へ与える影響を概観する 第13回 栄養素以外の食成分が精神面へ与える影響を概観する 第14回 何をどう食べてゆくか個人でどう異なるかを考えてゆく 第15回 食生活そのものが生活に及ぼす効果、問題点を考えてゆく		
テキスト	使用せず。	参考文献	生物学から文化へ(みすず書房)、機能性食品の事典(朝倉書店)、食品大百科事典(朝倉)、ヒューマンニュートリション(医歯薬出版)
評価方法	理解を期末試験で判断:70% 授業への取り組みの評価:30%		

現代社会と生活C		後期 2 単位	1・2年
現代日本における家族と住居		松本 真澄 (まつもと ますみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	少子高齢社会に向けて大きく変容しつつある現代日本の住居をめぐる様々な問題を認識し、これからの住居のあり方を考えるための基本的な知識と判断力を養うことを目指す。「社会のなかの住宅」、「家族と住居」、「住環境と地域」、「住居経済」、「住居のマネジメント」などをテーマにとりあげ、生活の器である住居の現状や社会背景を理解		
授業の概要	授業は毎回テーマごとに講義を中心に進め、理解を助けるために写真などのビジュアルデータや、映像などを適宜取り入れる。また、理解を深めるために授業中に簡単な課題を行うことがある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 住居学について 第2回 日本の住宅事情 第3回 住宅政策 第4回 統計からみる住宅と世帯 第5回 住まいの変遷 第6回 住生活と間取り 第7回 高齢者と居住環境 第8回 住宅関係費と家計 第9回 住情報と消費者問題 第10回 不動産としての住宅 第11回 都市計画と住まい 第12回 住まいの維持管理 第13回 集合住宅のマネジメント 第14回 住宅のストック活用と環境問題 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。主として配布資料を用いる	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	授業中感想・課題:30% レポート:70%		

現代社会と環境		後期 2 単位	1・2年
環境科学への招待－環境問題を学際的に考える－		内山 弘美（うちやま ひろみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義では、環境問題を生活者の視点で捉え直し、市民として必要な環境リテラシーと学際的な視野を涵養することを、到達目標とする。そのため、参加体験型学習を重視し、グループ・ディスカッション、環境の実験実習、大学周辺の環境関連施設見学を導入する。		
授業の概要	人間活動の結果として生じた環境問題の現状を概観し、環境問題の解決には自然科学・社会科学・人文科学の諸学問の融合と、市民・科学技術者・行政・企業等の学際的協働が必要であることを、事例を通して学ばせる。その上で、環境問題の解決に向けて我々が何をできるかを考察させる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨN-環境科学とは何か？- 第2回 世界の環境問題の歴史- 20世紀後半の欧米を中心に- 第3回 地球環境問題と社会-環境政策を中心に- 第4回 日本の環境問題の歴史-公害と政府・自治体・科学者- 第5回 環境問題の解決へ向けて-学際的な研究と教育- 第6回 環境問題と科学技術者の社会的責任 1 第7回 環境問題と科学技術者の社会的責任 2 第8回 グループ・ディスカッション 第9回 事前学習（環境関連施設の見学） 第10回 環境関連施設の見学 第11回 事後学習（環境関連施設の見学） 第12回 国際機関の取り組み 第13回 青山キャンパスでの気象観測実験 第14回 GISと環境情報 第15回 青山エコ・キャンパス		
テキスト	基本的に、プリントを配布します。	参考文献	随時、紹介します。
評価方法	平常点:40% 提出物:30% レポート:30%		

自然と人間A		前期 2 単位	1・2年
科学の社会史		河野 俊哉（こうの としや）	
授業の到達目標 及びテーマ	東日本大震災及びそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、科学・技術と上手に付き合っていくための科学リテラシーの修得を目標とす		
授業の概要	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」の誕生：「歴史観」について説明します。 第3回 「古代ギリシアの自然観」について説明します。 第4回 「錬金術と絵画」：『ハリー・ポッターと賢者の石』 第5回 「12世紀ルネサンス」と「大学の誕生」：『薔薇の名前』 第6回 「科学革命論」再考Ⅰ：概略とその問題点を説明します。 第7回 「科学革命論」再考Ⅱ：中国の科学と西洋中心主義 第8回 「科学革命論」再考Ⅲ：魔術的自然観と機械論的自然観 第9回 「科学革命論」再考Ⅳ：化学革命の検討。『バビューム』 第10回 「酸素の発見」と「パラダイム論」：「絵画と科学」 第11回 啓蒙主義と聖俗革命：百科事典と学問分類 第12回 BSE(狂牛病)と科学コミュニケーション 第13回 原発問題とリスク社会、科学リテラシーについて説明。 第14回 「大学の誕生(日本)」、「教養教育の再構築」 第15回 本講義のまとめ		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000
評価方法	平常点（小レポート）:40% 授業外レポート:30% 試験:30%		

自然と人間B		後期 2 単位	1・2年
科学の社会史		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	東日本大震災及びそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること(科学リテラシー)が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、科学・技術と上手に付き合っていくための科学リテラシーの修得を目標と		
授業の概要	本講義では科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに「科学と英文学」、「科学と絵画」、「ジェンダーと科学」等のテーマを考察し、最終的には科学技術社会論的観点から考察します。細かな科学知識は必要としませんが、各自の関心分野(英文学、芸術、教育等)から積極的に「科学」との関連を模索して下さい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：概要と衝撃について説明します。 第3回 「社会ダーウィニズム」と「日本における進化論の受容」 第4回 「科学とイギリス文学」に関する研究を概観します。 第5回 ダーウィニズムとウエルズ：『タイムマシン』を考察。 第6回 『フランケンシュタイン』を科学的に考察しましょう。 第7回 絵画と科学：フェルメール等を例に考察してみよう。 第8回 戦争と科学：フリッツ・ハーバーの生涯と業績 第9回 レイチェル・カーソン：科学・文学・環境：DDTの功罪 第10回 日本人と近代科学Ⅰ：長州ファイブ、山尾庸三、ダイアー 第11回 日本人と近代科学Ⅱ：『JIN』：病気の文化史：華岡青洲 第12回 ジェンダーと科学：マリー・キュリーを題材に考察。 第13回 GMO(遺伝子組み換え作物)と科学コミュニケーション 第14回 原発問題とリスク社会、科学リテラシー 第15回 本講義のまとめ：教養教育の再構築		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』(ベレ出版、2009年)。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』(南窓社、2000年)。 井山弘幸・金森修『現代科学論』(新曜社、2000)
評価方法	平常点(小レポート):40% 授業外レポート:30% 試験:30%		

科学と社会A		前期 2 単位	1・2年
情報科学と社会		小山 俊士 (こやま しゅんし)	
授業の到達目標 及びテーマ	情報社会的確につきあっていくための、基礎教養を身につけることを目的とする講義である。情報処理技術や通信技術は現代社会のあらゆる場面で使われており、その基本は誰もが知っていなければならない。コンピュータやインターネットの誕生と基本原理を学び、社会での有効な利用法やトラブルへの対処方法などを考えていく。		
授業の概要	情報科学の考え方を解説し、情報技術が社会でどのように使われているかといったことを紹介するための講義を行う。講義の中で提示する資料を読み、関連する事項について自ら調べ、考えたことをレポートにするかまたは発表することも求める。コンピュータに関する基礎知識は必要としないが、ホームページを検索し、参照することができるのが望ま		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 情報科学とは 第2回 計算の原理 第3回 プログラム 第4回 コンピュータはどのように生まれたか 第5回 半導体と集積回路 第6回 シリコンバレーと情報産業 第7回 パーソナル・コンピュータ 第8回 インターネット 第9回 携帯電話 第10回 ワードプロセッサと日本語 第11回 データベースと検索 第12回 音楽配信と著作権 第13回 ネットビジネス 第14回 情報倫理とセキュリティ 第15回 まとめ		
テキスト	特に指定しない。 講義でプリントを配布する。	参考文献	毎回の講義の中で指示する。
評価方法	毎講の小テスト:60% レポート:40%		

科学と社会B		後期 2 単位	1・2年
現代の科学・技術が抱える諸問題について、歴史的視点および具体的事例から検討する。		栗原 岳史（くりはら たけし）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会を生きるうえで欠かすことのできない科学・技術に関する諸問題について、歴史的出来事や具体的な事例から検討することで、専門家でなくともそれらについて考えられるようになることを授業の目標とする。		
授業の概要	講義形式を進める。毎回の講義終了時に講義の感想、意見、または質問などを簡単に書き、それを小レポートとして提出することで、授業に出席したとみなす。小レポートの内容を講義に反映させるので、積極的な意見や質問を希望する。時事的な問題を取り入れるため授業の内容を変更する場合もある。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 原子爆弾の誕生とその影響 (1) 原子爆弾構想の起源 第2回 原子爆弾の誕生とその影響 (2) 原子爆弾開発の決定 第3回 原子爆弾の誕生とその影響 (3) 原子爆弾使用の正当化 第4回 日本の核開発 (1) 日本の原子力開発のはじまり 第5回 日本の核開発 (2) 日本の原子力開発体制の成立 第6回 日本の核開発 (3) 日本の原子力開発体制の特質 第7回 日本の公害問題 (1) 水俣病とは？ 第8回 日本の公害問題 (2) 歴史としての水俣病 第9回 日本の公害問題 (3) イタイイタイ病とは？ 第10回 日本の公害問題 (4) 歴史としてのイタイイタイ病 第11回 現代の科学と技術 (1) 戦争と科学について 第12回 現代の科学と技術 (2) 大規模事故について 第13回 現代の科学と技術 (3) 食品問題について 第14回 現代の環境問題 (1) フロンガスと国政政治 第15回 現代の環境問題 (2) 地球温暖化		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	各授業毎に提示する。
評価方法	授業時の小レポート:40% レポート:60%		

科学文化史A		前期 2 単位	1・2年
文化としての科学・教養としての科学		河野 俊哉（こうの としや）	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。		
授業の概要	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素や文化的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。良い意味で皆さんの科学観が変わることを願っています。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 「科学」と「技術」：「歴史観」についても説明します。 第3回 古代ギリシアの自然観：女性哲学者ヒュパティア 第4回 「錬金術と絵画」Ⅰ：錬金術の基礎理解とその表象 第5回 「錬金術と絵画」Ⅱ：ブリュッセルから『ポッター』まで 第6回 図書館と科学：12世紀ルネサンス：『薔薇の名前』 第7回 ガリレオの斜塔：科学とキリスト教・文学・音楽 第8回 ケプラーと世界の調和：科学・音楽・占星術 第9回 ニュートンの光と影：錬金術師としてのニュートン 第10回 ラヴォワジエとプリーストリ：『バヒューム』 第11回 ジェンダーと科学：マリー・ラヴォワジエ：ダヴィッド 第12回 百科事典と科学：ペーコン、百科全書、ブリタニカ 第13回 コーヒーハウスと科学：公共圏とサイエンス・カフェ 第14回 原発問題とリスク社会：科学コミュニケーション 第15回 本講義のまとめ：科学リテラシーと教養教育の再構築		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000
評価方法	平常点（小レポート）:40% 授業外レポート:30% 試験:30%		

科学文化史B		後期 2 単位	1・2年
文化としての科学・社会における科学		河野 俊哉 (こうの としや)	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、「文化としての科学」の側面から科学に対する理解を深め、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とします。		
授業の概要	本講義では科学と社会の相互作用、科学的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。さらに、科学哲学の視点からアプローチし、理論と事実、仮説と法則等のテーマを考察し、疑似科学とどう対峙していくかを学び、最終的には現代における科学・技術の諸問題を科学技術社会論的観点から考察することにします。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：講義の概要、成績評価について説明します。 第2回 ダーウィンと進化論：科学とキリスト教～社会進化論 第3回 モンキー裁判再考：創造論～インテリジェント・デザイン 第4回 科学哲学Ⅰ：理論と事実、仮説と法則 第5回 科学哲学Ⅱ：疑似科学と反証条件、実験と観察 第6回 フェルメールと科学：合成染料の歴史：パーキンとモーブ 第7回 微生物学の歴史：レーヴェンフック、バスツール、コッホ 第8回 日本人と近代科学Ⅰ：『JIN』：病気の文化史：緒方洪庵 第9回 日本人と近代科学Ⅱ：『JIN』：病気の文化史：吉原・梅毒 第10回 ジェンダーと科学：津田梅子を題材に考察・山川捨松 第11回 戦後日本の科学観：アトムとゴジラ：手塚治虫と科学 第12回 高木仁三郎と市民の科学：科学コミュニケーション 第13回 原発問題とリスク社会：大石又七と大江健三郎 第14回 教養教育の再構築：科学リテラシー 第15回 本講義のまとめ		
テキスト	河野俊哉共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009年）。および授業時に適宜プリントを配布します。	参考文献	古川安『科学の社会史[増訂版]』（南窓社、2000年）。 井山弘幸・金森修『現代科学論』（新曜社、2000年）
評価方法	平常点（小レポート）：40% 授業外レポート：30% 試験：30%		

生物学		前期 2 単位	1・2年
ヒトの生物学		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○地球上の生命の発生からのヒトまでの進化を理解する。 ○ヒトの体の構造と機能を、生体成分の代謝系、神経・感覚系、免疫系、性と生殖系を通して理解する。 ○ヒトの一生をライフステージ別に理解する。		
授業の概要	ヒトが4000万種といわれる生物の1つの種にすぎないことを忘れがちである。講義は、分子から細胞へ、細胞から器官系（体の構造と機能）、遺伝、生殖と発生、進化などを通して生物界の一員としてのヒトの特徴を理解させる。最後に、自然環境との関連性を講義する。映像資料も活用する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 進化1 化学進化～植物・昆虫の上陸 第2回 進化2 オルドビス紀～現代 第3回 情報の伝達1 神経系 第4回 情報の伝達2 感覚系 第5回 細胞／組織／器官系／個体 第6回 生命のレシピとしての遺伝子 第7回 生殖と発生 第8回 男と女の違い 第9回 食べ物の摂取／消化器系 第10回 栄養素・エネルギーの代謝 第11回 免疫系感染症 第12回 なぜ老いなぜ死ぬか 第13回 長寿遺伝子 第14回 ヒトのライフステージまとめ 第15回 ヒトと自然／地球生物圏は持続しうるか		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	永田恭介監訳『ヒトの生物学』（丸善株式会社）および図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート：80% 授業中の小テスト：20%		

生理学		後期 2 単位	1・2年
食事と臓器・組織の応答		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>○食欲を通して感覚。記憶などの高次神経機能の一端を理解する。</p> <p>○消化吸収、代謝、循環、運動、排泄を通して自律神経機能、内分泌機能を理解する。</p> <p>○個体の恒常性の維持しながらも生理的变化として現れる老化について、遺伝・環境因子から理解する。</p>		
授業の概要	<p>外部環境の1つである食事の変化に対して、内部環境を維持するために、生体がどのように応答するかを諸臓器の機能を通して講義する。映像資料も活用する。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 生命と水</p> <p>第2回 内分泌系概説</p> <p>第3回 自律神経系概説</p> <p>第4回 食欲／脳の感覚・記憶機能</p> <p>第5回 摂取／歯・唾液・味覚・嚥下機能</p> <p>第6回 消化管／消化吸収機能・生体防御1機能</p> <p>第7回 肝臓の機能（体内の化学工場）</p> <p>第8回 脂肪細胞機能1 エネルギー貯蔵と肥満</p> <p>第9回 脂肪細胞機能2 ダイエットということ</p> <p>第10回 筋肉と骨格の機能</p> <p>第11回 身体（筋肉と骨格）つくりと栄養・運動および休養の役割</p> <p>第12回 心臓機能と血液機能</p> <p>第13回 腎臓機能と尿</p> <p>第14回 癌予防</p> <p>第15回 リズム（概日、月、季節、年など）と栄養</p>		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する・	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:80% 授業中の小テスト:20%		

地球科学		後期 2 単位	1・2年
気象学入門		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>猛暑、突風、地球温暖化、オゾン層の破壊等の問題を通して、また各種リモートセンシング技術の進歩により、気象現象や地球大気そのものがごく身近に意識されるようになってきました。ここでは大気中の種々の気象現象・大気現象の基礎を理解できるよう講義します。</p>		
授業の概要	<p>講義を中心に進めます。気象の広範囲な内容 一大気の組成・構造、高気圧と低気圧、風、雲の種類、雨と雲、光の散乱などー について、主に観測や実験に基づいた基本的な事柄を説明します。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 大気の温度構造</p> <p>第2回 大気の組成（平均組成・鉛直分布）</p> <p>第3回 低気圧と高気圧、台風</p> <p>第4回 風—大気の大循環</p> <p>第5回 風—局地風</p> <p>第6回 雲の種類とでき方</p> <p>第7回 雨と雪</p> <p>第8回 梅雨と降雪</p> <p>第9回 太陽放射</p> <p>第10回 地球の熱収支</p> <p>第11回 大気の光学現象</p> <p>第12回 気象観測技術（地上観測・高層観測）</p> <p>第13回 気象観測技術（気象衛星・リモートセンシング）</p> <p>第14回 日本の気候（二十四節気）</p> <p>第15回 日本の気候（気温・雨量等）</p>		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	山岸照幸「理科のおさらい 気象」（自由国民社）、山岸米二郎「気象学入門」（オーム社）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

環境科学A		前期 2 単位	1・2年
環境科学の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	環境と調和した社会を築くためには、環境の科学的な理解が不可欠です。ここでは大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の化学的メカニズム、健康被害、浄化対策、また一般廃棄物、産業廃棄物、特に化学物質の処理、リサイクル等について、その基礎を理解できるよう講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。はじめに環境問題の背景にある急速な人口増加、食料や資源・エネルギー確保といった問題について説明し、ついで主に我が国の公害・環境問題を具体例として大気、水質、土壌汚染について、そのメカニズム、健康被害、浄化対策を、また廃棄物問題とその対策について説明します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 環境科学入門 第2回 人口問題、食糧問題 第3回 資源・エネルギーと環境 第4回 自然の浄化作用 第5回 環境汚染物質 第6回 大気汚染（ガス） 第7回 大気汚染（エアロゾル） 第8回 大気汚染（二次汚染質） 第9回 水質汚濁（河川・湖沼） 第10回 水質汚濁（海洋） 第11回 水質汚濁（上水・下水） 第12回 土壌汚染（農薬など） 第13回 土壌汚染（重金属） 第14回 廃棄物とリサイクル 第15回 化学物質の健康影響・安全管理		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）、世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

環境科学B		後期 2 単位	1・2年
地球環境問題の基礎		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	産業革命以後、人間活動は際限なく拡大し、地球全体に影響を及ぼすようになってきました。そして我々は地球温暖化、海洋汚染、希少生物の絶滅等地球規模の環境問題に直面しています。ここでは個々の地球環境問題に関するメカニズム、影響、対策、将来予測等について、その基礎を理解できるよう講義します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。まず地球大気の構造について説明し、その上で地球温暖化・オゾン層破壊について説明します。また酸性雨、海洋汚染、放射能汚染等について説明するとともに、それらに関連する化学物質の観測方法、データの見方等についても説明します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 大気の構造 第2回 地球温暖化の現状、温室効果 第3回 地球温暖化の将来予測 第4回 二酸化炭素の観測・監視 第5回 オゾン層破壊－オゾンの生成・消滅反応 第6回 オゾン層破壊－フロンガスの影響、オゾンホール 第7回 酸性雨－生成メカニズム 第8回 酸性雨－現状 第9回 海洋汚染 第10回 放射能汚染 第11回 熱帯雨林の破壊 第12回 砂漠化 第13回 生物多様性 第14回 環境と調和した暮らし方 第15回 省エネルギー・新しいエネルギー		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	世良力「環境科学要論（第三版）」（東京化学同人）、小島次雄・川平浩二・藤倉良「これからの環境科学」（化学同人）
評価方法	時々の小テスト:40% 試験:60%		

環境デザイン論A	前期 2 単位	1・2年
私たちの生活を取り巻く環境としての建築・都市空間 “built environment”	禅野 靖司（ぜんの やすし）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>私たちの「環境」を構成している建築や都市空間を意識的に認識する眼を養い、観察のテクニックを学び、見たものを自分の言葉で分析して表現する力をつける。そこでまずは、身近な住宅の持つ建築的特性を論じることからはじめ、そこから寺社など歴史的な建築にまで観察の範囲を広げて、日本建築の一般的特徴を、中国・朝鮮半島の伝統建築や、西洋のゴシック建築などと比較することで理解していく。さらにキャンパスの建物や都心の超高層ビルなどに注目して、建築デザインから何を読み取ることができるかを考える。また、建築から都市のレベルへと観察を深化させ、一生モノとなる「読解力」を身に付ける。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>毎回いくつもの建物や街並みの写真を見せ、皆さんにそれぞれの写真を自分の言葉で分析、描写してもらいます。この授業のために一冊のノートを必ず用意し、そこに書くようにして下さい。毎回の授業で使われたいろいろな言葉、表現をノートに記録し、またそれに関する自分の考察を記録することでボキャブラリーを増やし、次回の授業では、それに基づいてより多くの、そしてより豊かな言葉で建築や都市空間を表現できるようになっていきます。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イントロダクション（縁側について考える） 第 2 回 日本の伝統建築の主な特徴（1） 第 3 回 日本の伝統建築の主な特徴（2） 第 4 回 日本の伝統建築の主な特徴（3） 第 5 回 日本の伝統建築の主な特徴のまとめ＋ミニクイズ 第 6 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（1） 第 7 回 古代中国から渡来した進んだ建築技術と構造（2） 第 8 回 構造から見た日本建築と西洋建築の違い＋中間試験 第 9 回 ヨーロッパの石造建築（1） 第 10 回 ヨーロッパの石造建築（2） 第 11 回 キャンパスゴシック 第 12 回 コスプレ建築としてのゴシック調建築 第 13 回 都市空間の特性（1）：キャンパスと都市に見られるバロック空間 第 14 回 都市空間の特性（2）：ランドマーク 第 15 回 総復習 <p>【テキスト】なし 【参考文献】なし</p> <p>注意点： この授業には教科書がありません。配付物を随時渡しますが、基本は授業中に見せる写真と私の説明が全てですから、欠席したり居眠りしていると授業についていけなくなってしまいます。十分注意して下さい。</p> <p>【評価方法】</p> <p>中間試験の結果（全体の30%）と期末試験の結果（全体の50%）によって成績をつけます。残りの20%は出席点です。出席は毎回とるわけではありませんが、一学期で大体8回前後（もしくはそれ以上）取りますから、たまたま全員の出席を取った週に欠席した人の場合は、欠席1回分としマイナス4点にカウントされます。もし5回欠席したら、マイナス20点（100点中）となりますから、その場合は試験で満点を取ったとしても、総合点は80点（30点＋50点＋0点）となります。もちろん全回出席していれば、総合点は100点（30点＋50点＋20点）です。中間および期末試験の時に欠席した場合は、基本的にあとから受けることはできません。もし病気でやむを得ず欠席した場合は、必ず医師の診断書を提出して下さい。</p>		

環境デザイン論B		後期 2 単位	1・2年
市民主体の環境づくりを考える～身近な環境をより豊かにしていくために		狩野 三枝 (かりの みえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	我々を取り巻く環境は、地球レベルの話から家族関係や毎日自分が出すゴミに至るまで、すべて切り離すことのできな いつながりを持っている。ここでは、社会の中で市民一人一人が当事者として主体的に誰もが自分らしく生きられる環 境づくりを考え実践するために、自らが課題を発見し・掘り下げ・解決する姿勢とその方法を体験・習得する。		
授業の概要	海外及び日本における社会の革新的な仕組や考え方を事例から学び、自らのコミュニティが抱える課題に取り組むための 話し合いや合意形成の方法を習得する。進め方としては、課題テーマ毎のグループワークを通して個人個人がつながり協 力することで生み出される創造の可能性を体験し、個人に関わる社会の課題に対して主体的に関わることを意味を学		
授業計画	【後期】 第1回 コミュニケーションの技術(1)～グループ討論体験 第2回 新しい世界を知り発想力を磨く～持続可能な社会 第3回 コミュニケーションの技術(2)～対話のレッスン 第4回 新しい世界を知り発想力を磨く～子どもの世界 第5回 新しい世界を知り発想力を磨く～コレクティブハウジング 第6回 新しい世界を知り発想力を磨く～日本のコミュニティ 第7回 課題説明～(仮)暮らしやすいまちの秘密発見 第8回 テーマのディスカッション 第9回 グループ決め・テーマ決めと課題スケジュール計画 第10回 グループで調査・議論～仮説を立てる 第11回 グループで調査・議論～考えを広める 第12回 グループで調査・議論～考えを深める 第13回 グループで調査・議論～現場を見る 第14回 グループでまとめ作業 第15回 発表と評価		
テキスト	特に使わない。必要な資料は随時配付。課題のま とめに必要な記録用写真やコピー代、地図・交通費等 の費用は随時個人負担。通年で三千元程度。	参考文献	僕たちの街づくり作戦/マイケル・ノートン著(都市 文化社)、参加するまちづくり(OM出版)など。そ の他、授業時に随時紹介。
評価方法	平常点:30% レポート:30% グループ課題:40%		

情報学		後期 2 単位	1・2年
私たちの生活と情報		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	本科目は、情報の性質を理解した上で、私たちの生活において情報がどのように伝達されどのように受け止められてい るのかを知り、受講生自身が情報を使う力(情報リテラシー)を高めることを目的としている。		
授業の概要	まず、情報及び情報学とは何かを押さえ、現代の高度情報通信社会に至るまでの情報の歴史を振り返る。そして、我が 国の情報政策や日本人の情報行動の特徴を確認したうえで、身の回りの情報システムやメディアと報道、情報リテラ シーについて考える。また、グループで県単位に観光客誘致のための企画書を作成し発表することを課題とする。		
授業計画	【後期】 第1回 情報学とは何か 第2回 高度情報通信社会への道 第3回 我が国の情報政策 第4回 日本人の情報行動 第5回 生活のなかの情報システム(1) 行政情報など 第6回 生活のなかの情報システム(2) 福祉情報など 第7回 メディアと報道 第8回 情報の入手と利用(1) インターネット、Webページの評価 第9回 情報の入手と利用(2) 図書館、印刷情報とWeb情報 第10回 発表 グループ1 第11回 発表 グループ2 第12回 発表 グループ3 第13回 発表 グループ4 第14回 情報リテラシーの理論 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% レポート:50%		

生活文化A		前期 2 単位	1・2年
着ることの意味を文化史的に問う		野口 ひろみ (のぐち ひろみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	時代や文化によって違う衣服のありようを、表現の観点から整理し、理解する。		
授業の概要	まず、衣服が人間にとってどんな意味をもって成立しているのかを分析し、衣服が実用的な存在であるのと同時にさまざまな意味において人間の表現を担うものであることを理解する。次に、古今東西さまざまな文化の中でいろいろな形で現れた衣服を、画像資料によって知り、表現の観点から考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 着るものを表す言葉 第 2回 衣服の意味 第 3回 表現としての衣服 第 4回 服飾の形態 1 ギリシャの衣服 第 5回 服飾の形態 1 マント 第 6回 服飾の形態 2 ビザンチンの衣服 第 7回 服飾の形態 2 日本の衣服 第 8回 服飾の形態 3 近世以降の洋服の変遷 第 9回 服飾の形態 3 武家服飾 第 10回 形態の表現 1 ドレープ 第 11回 形態の表現 2 面 第 12回 形態の表現 3 形態感の強調 第 13回 形態の表現 4 装飾部分① 襟・曳き裾 第 14回 形態の表現 4 装飾部分② 袖・帯 第 15回 服飾の表現 まとめ		
テキスト	特に定めない。画像資料のプリントを配布する。	参考文献	谷田関次・石山彰『服飾美学・服飾意匠学』（光生館） その他図書館にある服飾事典の類を参考にするとよ
評価方法	試験:70% レポート:20% 平常点:10%		

生活文化B		後期 2 単位	1・2年
食文化論		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	食文化と宗教や思想の関連を理解する。食文化を歴史の中で考える。 食文化と自然環境の関連を理解する。マナーや社交性について理解する。 現代における食文化の問題点を理解する。		
授業の概要	講義を中心とし、コメントを書いて提出する。 映画、絵画、文学などにふれて、考えたことを文章にする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第 1回 現代日本の食文化の特徴と問題 第 2回 食文化の見方 第 3回 神話と食文化 第 4回 食のタブー 第 5回 宗教と食文化～ユダヤ教とキリスト教 第 6回 宗教と食文化～禅 第 7回 宗教と食文化～イスラーム 第 8回 風土と食文化 第 9回 食文化の異文化交流 第 10回 マナーと文明化 第 11回 グルメの誕生 第 12回 質素と贅沢、断食と飽食 第 13回 食文化の身体性と精神性 第 14回 酒とコーヒーと茶 第 15回 現代の食の風景		
テキスト	文章を配布する。画像や映画を鑑賞する。	参考文献	図書館資料を紹介する。
評価方法	授業コメント:40% レポート(複数回):30% 試験:30%		

生活文化C		後期 2 単位	1・2年
豊かに生きるために住空間を考える		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	多様化している現代の生活様式のもと、利便性や安全性を備え、健康的で快適な、かつ環境に配慮した住まいのあり方を学ぶ。人間生活のベースとなる住空間への意識を高め、問題を見出し、考える力を養うことが目標。「真の豊かさとは」をテーマに、豊かな人間社会の形成において住居が果たす役割を認識し、実現するために何をすべきかを問う。		
授業の概要	まず住まいの役割、構造の基本知識を共有し、インテリアの構成要素の中から特に光と空間の関わりをとり上げる。次に20世紀を代表する住宅建築を写真と図面により学ぶ。さらに日本の住まいの変遷をなぞり、住生活の今日的な諸問題について考える。最後に理想の住まいについて各人がプランを提示する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 住まいとは：住まいと風土／住まいの機能／住まいの空間</p> <p>第2回 住まいの構造1：住要求と居住性／住宅平面要素</p> <p>第3回 住まいの構造2：インテリアとエクステリア</p> <p>第4回 住空間と光1：自然光／透光不透視</p> <p>第5回 住空間と光2：照明／器具とライティング</p> <p>第6回 20世紀の住宅建築1：マッキントッシュ、ライト</p> <p>第7回 20世紀の住宅建築2：リートフェルト、コルビュジェ</p> <p>第8回 20世紀の住宅建築3：アアルト、イームズ、ミース、他</p> <p>第9回 日本の住まい1：歴史／地域性／西洋との比較</p> <p>第10回 日本の住まい2：1950年代以降の生活様式／集合住宅</p> <p>第11回 日本の住宅建築1：吉村順三、中村好文</p> <p>第12回 日本の住宅建築2：安藤忠雄、他</p> <p>第13回 住まいと環境問題</p> <p>第14回 理想の住まい：プランニング</p> <p>第15回 理想の住まい：プレゼンテーション／まとめ</p>		
テキスト	資料を配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 提出物:20% 定期試験:50%		

生活科学A		前期 2 単位	1・2年
日常生活と科学 (物質)		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	人間と人間生活を物質を通して理解する。物質を構成する元素と元素どうしの結合から身の回りの物質のおおよその性質を理解し、生物にまで範囲を広げて生物と人間の特徴を生物学的に理解する。次に人間が作り出したさまざまな物質がどのような性質を持ちどのような存在意義を持つかを検証し、物質を通して生物と生活の理解が出来ることとする。		
授業の概要	前半は物質を構成している元素と元素同士の結合を学び、身の回りの物質の性質がどのようにして成り立つのかを扱い、その後自然界の物質の存在意義とその特徴を生物にまで範囲を広げる。終盤では、人間が作り出したさまざまな物質がどのような性質を持ちどのような存在意義を持つかを検証し、物質を通して生物と生活の理解が出来ることとする。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 全体の概要と元素について、また、そのエネルギーを扱う</p> <p>第2回 分子についてそのエネルギーを扱う</p> <p>第3回 高分子の特性をその構成元素、構造から理解する</p> <p>第4回 身の回りの物質の概観をおこなう</p> <p>第5回 生活環境を支える物質の概観をおこなう</p> <p>第6回 自然界を支える物質の概観をおこなう</p> <p>第7回 生物の構成成分の概観をおこなう</p> <p>第8回 生物の代謝についての物質の概観をおこなう</p> <p>第9回 生物の生体維持の為に物質変転の物質の概観をおこなう</p> <p>第10回 外部物質が生体に与える影響の物質の概観をおこなう</p> <p>第11回 石油などエネルギー資源に関する概観をおこなう</p> <p>第12回 石油由来の化学合成品と生活に関し概観をおこなう</p> <p>第13回 それら以外の天然資源由来物質と生活との関わりを概観</p> <p>第14回 食料資源の概観をおこなう</p> <p>第15回 地球規模での生活のこれからを物質から概観する</p>		
テキスト	全体を網羅するテキストが無く、特に指定なし	参考文献	人間・環境・安全 共立出版、エネルギー・環境・生命 化学同人、安全な暮らし方事典、食料の世界地図 丸善、他図書館カウンターの指定図書
評価方法	到達度を期末試験で :70% 授業の積極的な参加 :30%		

生活科学B		後期 2 単位	1・2年
化学の基礎		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	身近な衣食住に関わる物質の性質を化学の目で見られるよう、化学の基礎—元素の周期律、化学結合等—を分かりやすく解説します。また物質が違っても共通にみられる気体・液体・固体の性質、さらに生活との関係が深く、極めて多種多様な化合物を包含する有機化学の基礎についてやさしく解説します。		
授業の概要	講義を中心に進めます。原子の電子構造から元素の周期律を学び、さらに化学結合を学びます。物質の三態（気体・液体・固体）及び希薄溶液やコロイドの性質を学んだ後、有機化学の基礎を学びます。		
授業計画	【後期】 第1回 原子、元素 第2回 同位体 第3回 元素の周期表 第4回 原子の電子構造 第5回 化学結合—イオン結合 第6回 化学結合—共有結合 第7回 物質の三態—気体の状態方程式 第8回 物質の三態—液体・希薄溶液の性質 第9回 物質の三態—コロイド 第10回 物質の三態—固体・結晶 第11回 有機化合物—分類 第12回 有機化合物—構造・異性体 第13回 有機化合物—反応 第14回 低分子有機化合物 第15回 高分子化合物		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	長島弘三・富田功著「一般化学（三訂版）」（裳華房）
評価方法	時々の小テスト:50% 試験:50%		

生活科学C I		前期 2 単位	1・2年
食品と食品栄養学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	栄養成分だけではなく非栄養素まで含めた食品成分を理解し健康的なまた調理にも適した食品が選べるように。食品調理加工において、食品成分がどのように変化しどのような特性を得ているのかを理解し、理論を説明できるように。適切な貯蔵法も選べるようにする。以上より安全で健康な食生活を提示できるようにすることが全体のテーマである。		
授業の概要	始めに食品構成成分を理解し、次に植物性食材や動物性食材の組成を説明することで各食材の特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につける。流通加工における組成組織の変化を学ぶ中で、商品の見分け方保存方法栄養学的に見た加工調理法も学びとる。最後に流通と表示を中心に、法律と政策を学び食生活の多方面な知識を得総合的に食品を見る		
授業計画	【前期】 第1回 原子の構造と元素、分子の分類から、食成分の特性を俯瞰 第2回 水の性質を知り食品全体の性質と加工貯蔵との関連も学ぶ 第3回 炭水化物、脂質、タンパク質と、食品中の多量成分を扱う 第4回 灰分ビタミンと有害成分等微量成分の人への影響を学ぶ 第5回 動植物生育の条件と食品保蔵方法を扱い次に微生物も学ぶ 第6回 畜肉とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第7回 卵牛乳とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第8回 魚介類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第9回 豆イモ類とその加工品を扱い購入保存法調理加工法も学ぶ 第10回 穀物とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第11回 野菜とその加工品を扱い、購入保存法調理加工法も学ぶ 第12回 果物海藻類とその加工品を扱い購入保存法調理加工も学ぶ 第13回 食品関係の法律と行政政策を扱い生活を組み立てられる様 第14回 安全性確保のための試験法と食品添加物を扱い見解を学ぶ 第15回 食品流通の実態と食品表示を学び商品の選択ができる様に		
テキスト	食品学 I 五十嵐脩編 光生館	参考文献	ヒューマンニュートリション（医歯薬出版）、食品安全ハンドブック（丸善）、食品技術総合辞典（朝倉書店）、食品大百科事典（朝倉書店）
評価方法	到達度を期末試験で:70% 授業の積極的な参加:30%		

生活科学C II		後期 2 単位	1・2年
味、香り、色、食感と健康の食品学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	理は生活の中で大きな位置を占め、また食事では加工食品の利用も多い。この講義では、調理や加工によって、食品の特性がどのように付与されてゆくかを学び取り、また、その特性を保持するために、なぜどのような保蔵方法を取るべきかを学び、それらによって健康な体の養成と食生活を営むことが出来るようにする。		
授業の概要	始めの5回の講義では、味、色、匂いなどの成分が何であり、どのように生成されるのか、どのような意味を持つのかを理解する。次の4回の講義では、食感がどのように生じ、どのようにコントロールして特性を持たせ、意味のある食品とするかを学ぶ。次の6回では、安全性と保蔵について扱い、安全な食品の選定について理解できるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 食品の構成成分と機能 第2回 食品の味、呈味成分1 甘味を中心として 第3回 食品の味、呈味成分2 旨味、酸味を中心として 第4回 食品の色、色素成分 第5回 食品の匂い、匂い成分 第6回 食品の物性1 デンプンとデンプン食品 パン等 第7回 食品の物性2 チーズ、ヨーグルトの乳製品 第8回 食品の物性3 蒲鉾と豆腐など 第9回 食品の物性4 脂質の乳化 第10回 毒性物質 外来のもの 第11回 毒性物質 食品由来のもの 第12回 食品の劣化 第13回 食品の保蔵 第14回 食品と医薬品 表示事項や食品衛生法と日本農林規格など 第15回 日本型食生活など政策からの食生活		
テキスト	1年生 食品学 I 五十嵐脩編 光生館。2年生 アクセス機能成分(基礎食品学にて使用したもの)または1年生用を使用	参考文献	ヒューマンニュートリション 医歯薬出版、食品安全ハンドブック 丸善、食品技術総合辞典と食品大百科事典 朝倉書店、参考書リストも参考のこと。
評価方法	授業への参加の評価:30% 期末試験:70%		

栄養健康学A		前期 2 単位	1・2年
栄養素の役割と食事摂取基準		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○身体の内部環境の維持と健康の関係を理解する。 ○外部環境の一部である食事・各栄養素の機能・代謝を理解する。 ○日本人の食事摂取基準を理解する。		
授業の概要	外部環境の一部である食事を理解するため糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの化学とそれらの栄養素の消化吸収・代謝およびエネルギー代謝を講義する。また、栄養素以外の水と食物繊維の役割も講義する。		
授業計画	【前期】 第1回 栄養・栄養素とは 第2回 糖質の化学と消化吸収/食物繊維の化学 第3回 糖質の代謝と食事摂取基準 第4回 糖質の代謝調節/内部環境の維持 第5回 脂質の化学と消化吸収 第6回 脂質の代謝と食事摂取基準 第7回 タンパク質・アミノ酸の化学と消化吸収 第8回 タンパク質・アミノ酸の代謝と食事摂取基準 第9回 ロレンツォのオイル 第10回 エネルギー代謝 第11回 臓器別エネルギー代謝 水の機能 第12回 カルシウム・マグネシウム・リンの機能と食事摂取基準 第13回 鉄とその他のミネラルの機能と食事摂取基準 第14回 水溶性ビタミンの機能と食事摂取基準 第15回 脂溶性ビタミンの機能と食事摂取基準		
テキスト	吉田勉ほか著『新基礎栄養学第8版』(医歯薬出版)	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:80% 授業中の小テスト:20%		

栄養健康学B		後期 2 単位	1・2年
栄養学を実践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○ (若い) 女性が陥りやすい栄養に関する疾病を症状、予防、治療の面から理解する。 ○ 成人女性の「日本食事摂取基準」を理解する。		
授業の概要	はじめに外部刺激に対する神経系、内分泌系、免疫系の調節方法を講義する。その調節系の破綻と病気の関係を講義する。また、病気ではないが、妊娠・授乳期の調節方法を講義する。さらに、食事摂取基準、食事療法、食品選択。調理方法の注意点・工夫・献立例など栄養知識の実践方法を講義する。		
授業計画	【後期】 第1回 女性ホルモン変化と身体組成の変化 第2回 成人女性の食事摂取基準 第3回 ダイエット1 失敗例に学ぶ 第4回 ダイエット2 神経性食欲不振 第5回 ダイエット3 ダイエットの意味とダイエット食 第6回 ダイエット4 ダイエット食献立作成と運動 第7回 皮膚、毛髪と栄養 第8回 便秘 第9回 脂肪肝、高脂血症 第10回 貧血、生理不順 第11回 低血圧(冷え)、妊娠中毒症1(高血圧) 第12回 むくみ、妊娠中毒症2(浮腫) 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート結果と討論		
テキスト	特に定めず、配布資料を参考とする。	参考文献	図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 授業中小テスト:20%		

被服構成論		後期 2 単位	1・2年
被服構成論		植竹 桃子 (うえたけ ももこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	○ 被服と社会生活との関わりおよび被服と人体との関係を理解し、衣生活を合理的に計画し、適切に設計・選択・着装することができるようになる。 ○ 現代の衣生活の長所や問題点を捉え、今後の社会を支える立場から、現代の衣生活が抱える課題を明確化できるようになる。		
授業の概要	基本的な知識として、人間生活の中で果たしてきた被服の機能、人体の形態的要因と被服との関係を理解する。次に、被服の着用感、着用者の年齢層や身体的・社会的状況に適応した被服環境の設計について理解し、それぞれに望まれる要件を考える。教材の中には和服と既製衣料品も取り入れ、日本文化の維持・継承および現代生活に即した学びを目指す		
授業計画	【後期】 第1回 現代生活における被服の機能 第2回 被服行動の原則 第3回 被服の構造 (1) 被服の原型 (2) 和服と洋服 第4回 人体形態の計測法 第5回 人体形態と衣服原型 第6回 衣服原型から衣服パターンへのデザイン展開 第7回 被服の動作適合性 第8回 被服圧の人体への影響・効果 第9回 乳幼児用被服 (1) おむつの装着感 第10回 乳幼児用被服 (2) 成人用被服との相違点 第11回 ユニバーサルファッション 第12回 既製衣料品 (1) 企画・設計・生産 第13回 既製衣料品 (2) 流通・処分経路 第14回 既製衣料品 (3) サイズ規格 第15回 まとめ		
テキスト	衣服製作の科学 (松山容子編著, 建帛社)	参考文献	特になし
評価方法	中間提出物:20% 試験:80%		

被服構成実習A		前期 1 単位	1・2年
服作りの基礎A（スカート）		茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	身体と衣服との関係理解を目的とした実習である。平面的な布を立体的な身体に合わせて構成する方法が理解できる。前期の実習Aでは女性下衣の基本であるセミタイトスカート（裏つき）を製作することで、素材に応じた縫製技法が習得できる。		
授業の概要	実習であるため必要な教材を揃えて出席し、提出日までに仕上げるのが求められる。自身の採寸結果を得て型紙を選択、作成し、基本スタイルの範囲内でデザインの工夫を試みる。好みの布地を選び、裁断、印し付け、しつけやミシン縫い、ファスナー付けなどスカート縫製の基本を学ぶ。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期実習計画の説明 第2回 採寸 型紙作成 第3回 裁断 第4回 印し付け 第5回 芯貼り、縫い代の始末 第6回 ダーツを縫う 第7回 脇を縫う 第8回 見返しをつける 第9回 コンシールファスナーをつける 第10回 裾の始末 第11回 裏スカートのダーツと脇を縫う 第12回 裏スカートの裾の始末 第13回 表スカートに裏スカートをつける 第14回 ファスナーまわりの始末 第15回 カギホックつけ、仕上げ 提出		
テキスト	研究室作成のテキストを配布する	参考文献	随時紹介する
評価方法	作品評価:70% 平常点:30%		

被服構成実習B		後期 1 単位	1・2年
服作りの基礎B（ブラウス）		茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期の実習Aと同様に身体と衣服との関係理解を目的とした被服実習である。平面的な布を立体的な身体に構成する方法が理解できる。後期の実習Bでは女性上衣の基本であるブラウス（半袖）を製作することで、素材に応じた縫製技法が習得できる。		
授業の概要	実習であるため必要な教材を揃えて出席し、提出日までに仕上げるのが求められる。自身の採寸結果を得て型紙を作成し、基本スタイルの範囲内でデザインの工夫を試みる。好みの布地を選び、裁断、印し付け、しつけやミシン縫い、ボタン付けなどブラウス縫製の基本を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 後期実習の計画と説明 第2回 採寸 型紙作成 第3回 裁断 第4回 印し付け 第5回 芯貼り、縫い代の始末 第6回 ミシン練習 第7回 肩を縫う 第8回 脇を縫う 第9回 裾の始末 第10回 衿を作る 第11回 衿を付ける 第12回 袖を作る 第13回 袖を付ける 第14回 ボタンホールとボタンを付ける 第15回 仕上げ 提出		
テキスト	研究室作成のテキストを配布する。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	作品評価:70% 平常点:30%		

調理学実習A		前期 1 単位	1・2年
食品と調理の知識と技術を実践的に身につける。		田中 京子（たなか きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	食品と調理の基本的な技術と知識を実習を通して身につける。おいしさと栄養に配慮した日常食の献立作成と調理ができるようになる。食品の調理性や調理操作を科学的に理解するとともに、食文化やマナーの意義を認識し、実践・伝承できる力をつける。調理設備や器具の管理と扱い方を学び、衛生、安全に配慮して調理実習を指導する力を養う。		
授業の概要	調理実習を中心に行う。示範により、食品の調理性や調理の科学、調理手順と留意点を理解した後、班に分かれて実習する。調理、盛り付け、配膳、試食、片付けを時間内に終える。毎回、実習記録と関連事項の研究レポートを作成し、次回授業時に提出する。実習内容は食材などの都合で変更することがある。実習用には所定の服装が必用である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス・調理の基本 第2回 調理実習①炊飯・みそ汁・青菜のごまあえ 第3回 調理実習②そばろ丼・すまし汁・即席漬け 第4回 献立作成と栄養価計算 第5回 調理実習③アフタヌーンティー（スコーン・サンドイッチ・紅茶） 第6回 調理実習④ちらしずし・煎茶 第7回 調理実習⑤かゆ・茶碗蒸し 第8回 調理実習⑥チキンマカロニサラダ・マヨネーズソース 第9回 調理実習⑦鱈のフライ・粉ふきいも・ゼリー 第10回 調理実習⑧焼き餃子・黄花湯 第11回 調理実習⑨チキンカレー・バターライス 第12回 調理実習⑩手打ちうどん・つけつゆ 第13回 調理実習⑪赤飯・豚肉のしょうが焼き・ゆで野菜サラダ 第14回 調理実習⑫ロッククッキー・レモネード 第15回 まとめ・実習室整備・小テスト		
テキスト	毎回、プリントを配布する。	参考文献	山崎清子他著「NEW調理と理論」同文書院 手持ちの食品成分表
評価方法	レポート:50% 実習への意欲・態度:30% 小テスト:20%		

調理学実習B		後期 1 単位	1・2年
食品と調理の知識と技術を実践的に身につける。		田中 京子（たなか きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	食品と調理の基本的な技術と知識を実習を通して身につける。日常食の献立に加えて弁当、行事食の実習により食文化の重要性を意識し、伝承することの意義を認識する。食品の調理性や調理操作を科学的に理解するとともに、調理設備や器具の管理や扱い方を学び、衛生、安全に配慮した調理実習の指導力を養う。		
授業の概要	調理実習を中心に行う。示範により、食品の調理性、調理の科学、手順と留意点を理解した後、班に分かれて実習する。調理、盛り付け、配膳、試食、片付けを時間内に終える。実習記録と関連事項の研究レポートを次回授業時に提出する。実習内容は食材などの都合で変更することがある。実習用の服装が必用である。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス・献立の基本・栄養価計算 第2回 調理実習①：いもご飯・けんちん汁・いわしの蒲焼 第3回 調理実習②：弁当の調理 第4回 調理実習③：てんぷら・てんつゆ 第5回 調理実習④：鯖の味噌煮・みぞれあえ・吸い物 第6回 調理実習⑤：いかの中国風炒め物・蒸しカステラ 第7回 調理実習⑥：春巻き・杏仁クッキー 第8回 調理実習⑦：スパゲティミートソース・カスタードブ ディング 第9回 調理実習⑧：クリスマス料理（薪型ケーキ・チキンソ テー） 第10回 調理実習⑨正月料理Ⅰ 第11回 調理実習⑩正月料理Ⅱ 第12回 調理実習⑪クリームシチュー・シュークリーム 第13回 調理実習⑫酢豚・中華スープ・杏仁クッキー 第14回 調理実習⑬グラタン・ココア 第15回 まとめ・小テスト・実習室整備		
テキスト	毎回、プリントを配布する。	参考文献	山崎清子他著「NEW調理と理論」同文書院 手持ちの食品成分表
評価方法	レポート:50% 実習への意欲・態度:30% 小テスト:20%		

学問入門演習	前期 2 単位	1年
大学での学び方を習得しよう		
<p>【担当教員】 秋富 創（あきとみ はじめ）、宇田 美江（うだ みえ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、西願 広望（せいがん こうぼう）、武田 美垂（たけだ みあ）、田中 志帆（たなか しほ）、信澤 久美子（のぶさわ くみこ）、橋本 典子（はしものりこ）、廣田 道夫（ひろた みちお）、堀川 照代（ほりかわ てるよ）、宮田 雅智（みやた まさのり）、八耳 俊文（やつみみ としふみ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 テーマ：大学での学び方を習得しよう 大学での学びは、学生自らの主体的な関心と意欲が基本になっています。この学びを実りあるものにするためには、一定の約束事やスキルを身につける必要があります。この演習では、大学での「学び方」の初歩を修得し、大学生生活のスタートを上手に切っただけを期待しています。具体的には、次のような力の修得をめざします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大学での学びの特徴を理解する。 ②基礎的な学習スキルを身につける。 ③基礎的な情報検索・文献探索能力を身につける。 ④基礎的な文章読解力を身につける。 ⑤基礎的な口頭発表能力と討論の仕方を身につける。 ⑥基礎的な文章作成能力を身につける。 <p>【授業の概要】 各グループ十数名の少人数による発表や討論が中心になります。授業の進め方は担当教員によって異なりますが、例えば、○互いの関心を発表し合い、大学で何を学びたいか交流する、○共通のテキストを読み、レジュメを作り、発表し、討論する、○テーマを決め、関連する文献や資料を探し、まとめて発表する、○テーマにもとづき作品を完成させ、互いに批評し合う、○身体活動やロールプレイ、ワークショップなどを通じ、多様な自己表現を試みたり体験的認識を深める、○レポートを作成することを通じて、わかりやすく自分の考えを他人に伝えられるようにする、などを組み合わせたものとなるでしょう。どのような形であれ、自ら問いを発し、自分と他人の関心や意見を突き合わせることから、物事の新しい見方が開かれてきます。</p> <p>【授業計画】 グループごとに授業計画は異なります。</p> <p>【テキスト】 グループごとにテキストは異なります。</p> <p>【評価方法】 平常点50%、提出課題50%</p>		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
経済学専攻基礎演習		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「学問入門演習」で各人が達成できた成果を踏まえて、経済学の立場から物事を考えたり、批判することができるような態度を身に付けることが目標である。		
授業の概要	経済学や現代経済を幅広く扱っている書籍（新書）を全員で輪読し議論を行う。学期中に最低1回は発表の分担がある。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククシヨシ 第2回 書籍の輪読および発表 第3回 書籍の輪読および発表 第4回 書籍の輪読および発表 第5回 書籍の輪読および発表 第6回 書籍の輪読および発表 第7回 書籍の輪読および発表 第8回 書籍の輪読および発表 第9回 書籍の輪読および発表 第10回 書籍の輪読および発表 第11回 書籍の輪読および発表 第12回 書籍の輪読および発表 第13回 書籍の輪読および発表 第14回 書籍の輪読および発表 第15回 まとめ		
テキスト	授業の中で紹介する。	参考文献	授業の中で紹介する。
評価方法	平常点:50% 期末試験又はレポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
経営学の基礎、人的資源管理、従業員のキャリア形成		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学とは、主に企業組織にスポットをあてた学問です。企業とはどのような存在か、現代企業はどのような問題を抱えているか、企業の具体的な活動や機能にはどのようなものがあるか、企業で働く人をどのようにマネジメントするか、または個人がどのようにキャリアを築くか等、討論しながら幅広い視点で考えられるようにします。		
授業の概要	毎回レポーターを決め、経営学に関するテーマを基に発表してもらいます。その後、講義をまじえて討論します。担当箇所に限らず、文献は全員読んでおくこと。参加者には、ディスカッションへの積極的参加を期待します。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス・発表担当の決定 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	授業中に、適宜紹介する。
評価方法	発表:40% 授業への参画度:60%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
教育学入門		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	①教育学という学問の対象や方法論について理解する。 ②具体的テーマにそった共通文献を読みあい、発表と討論ができるようにする。 ③各自の関心・テーマにそって文献・資料を探索し、発表できるようにする。		
授業の概要	①については、はじめに教員がレクチャーを行うが、その後も随時補足を行う。②については、分担に沿って全員が発表し、討論の仕方を実際に学ぶ。③については、最後の段階で発表を行うので、日頃から自らの関心を深める努力が必要である。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーションと自己紹介 第2回 教育学の対象と方法について① 第3回 文献探索の方法 第4回 共通文献の決定 第5回 学生による発表と討論① 第6回 学生による発表と討論② 第7回 学生による発表と討論③ 第8回 討論のまとめ 第9回 学生による発表と討論④ 第10回 学生による発表と討論⑤ 第11回 学生による発表と討論⑥ 第12回 討論のまとめ 第13回 各自の関心を発表① 第14回 各自の関心を発表② 第15回 全体のまとめ		
テキスト	学生の関心によって定める	参考文献	随時、紹介する
評価方法	レポート発表／感想文など:30% 期末レポート:70%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
歴史学入門		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	歴史学の方法を学び、卒論の準備をする。また自由と平等と友愛の意味を学ぶ。青短において希薄な平等概念に関して言えば、授業中、西願は教師なので学生よりも上であるが、授業時間以外は西願も学生と同じ一市民である。これが平等。この一市民同士が助け合うのが友愛。それ故学生は西願を助けねばならない。彼を助ければ、彼から助けられよ		
授業の概要	西願ゼミは「西願軍団」と呼ばれる。体育会系のノリ。一生懸命勉強した後、ワイワイガヤガヤケラケラと食事を共にする。だがそれは決して「お友達くらぶの仲良しごっこ」ではない。授業では愛の鞭が乱れ飛ぶ。スパルタ教育は死んでなかった。戦場と化した教室で、戦友らは慈しみという名の一滴の水を分けあい、傷を舐めあい、必死に学び生き		
授業計画	【後期】 第1回 序論 第2回 歴史への問い 歴史からの問い 第3回 証拠としての史料・資料 第4回 歴史の舞台としての環境 第5回 時間の認識と時代区分 第6回 歴史の重層性と地域からの視線 第7回 グローバルな歴史の捉え方 第8回 身体と病と「生死観」 第9回 歴史人口学が拓いた地平 第10回 人と人とを結ぶもの 第11回 比較というまなざし 第12回 政治と文化の再考 第13回 歴史と記憶または歴史と現在 第14回 史料を使って歴史を書く 第15回 卒業論文のテーマの「だいたい」設定		
テキスト	福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店、2006年）。	参考文献	二宮宏之『歴史学再考』（日本エディタースクール出版部、1994年）。カー『歴史とは何か』（岩波書店、1962年）。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
意思決定と判断の心理学		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 社会心理学のいくつかのテーマに的を絞って、その研究知見についてより深く理解する。 (2) 研究方法の特徴や長所・短所について実践的に理解する。 (3) 自分の疑問を明確にし、研究可能な形にできるようにする。		
授業の概要	授業は主に演習形式で行なう。中盤以降は担当を決めて発表してもらい、ゼミ生全員でディスカッションを行なう。また、卒論に向けた練習として、実験の実施、分析、レポート(研究の報告)作成や、文献検索などの実習を行なう。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、発表担当者決定 第2回 実験1: デモンストレーション 第3回 実験2: 解説とレポート作成 第4回 文献調査のしかた 第5回 調査1: デモンストレーション 第6回 調査2: 解説とレポート作成 第7回 フリーディスカッション1: 関心の表明、共有 第8回 発表とディスカッション1: 感想の共有 第9回 発表とディスカッション2: 意見を明示する 第10回 発表とディスカッション3: 他者の意見を理解する 第11回 発表とディスカッション4: 他者の意見をまとめる 第12回 発表とディスカッション5: 対立する意見を統合する 第13回 発表とディスカッション6: 視点を変えて見る 第14回 フリーディスカッション2: 関心の変化に気づく 第15回 冬休みの課題の発表、全体のまとめ		
テキスト	繁樹算男 (2007) 『後悔しない意思決定』 岩波書店 履修者と相談の上、この他に1~2冊のテキストを使用する可能性がある。	参考文献	アイエンガー (2010) 『選択の科学』 文芸春秋/社会心理学全般の参考文献として、池上・遠藤 (2009) 『グラフィック社会心理学第2版』 ナカニ
評価方法	発表:30% 授業への参加度:20% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
臨床心理学と研究		田中 志帆 (たなか しほ)	
授業の到達目標 及びテーマ	臨床心理学にかかわる基本的な知識を学び、カウンセリングや心理療法、また心の健康や健全な精神とは何かについて理解を深める。2年次の卒業論文作成に向けて、臨床心理学領域の研究論文や著作を読み、概ね内容を理解したうえで、各自が取り組みたいと思うテーマを発見することを目標とする。		
授業の概要	興味や関心のある精神的な失調にかかわる事象について書かれた論文を各自1本読み、その概要についてレジュメを作成して発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、多面的に考察する。また研究するとしたらどうするかを考察する。また心理学の研究では統計解析が必要になるので、簡単な解析ソフトを使用する実習を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 心理学的に研究するとしたら? (論文の書き方) 第3回 臨床心理学領域の論文・著作を読む① 第4回 臨床心理学領域の論文・著作を読む② 第5回 臨床心理学領域の論文・著作を読む③ 第6回 臨床心理学領域の論文・著作を読む④ 第7回 臨床心理学領域の論文・著作を読む⑤ 第8回 臨床心理学領域の論文・著作を読む⑥ 第9回 臨床心理学領域の論文・著作を読む⑦ 第10回 研究方法を学ぶ① 第11回 研究方法を学ぶ② 第12回 研究方法を学ぶ③ 第13回 研究方法を学ぶ④ 第14回 取り組みたい研究テーマの発表と課題を見つける 第15回 研究計画を立てて今後の見通しを立てよう		
テキスト	都筑学著 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ ¥1995	参考文献	よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房
評価方法	授業感想文:40% 最終レポート:60%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
論文作成までに至る過程の習得		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	学問入門演習の成果を基に、各自の課題に対し、資料の収集、読み取り、まとめと自身の意見を生み出すことが出来るようにする。さらに、各自がプレゼンテーション内容を作成できるように、また演習グループ内での討議をとおして、他の意見にも耳を傾け、自身ばかりでなく他の意見も高めることが出来るようにする。		
授業の概要	この演習では、学問入門演習の成果を基に各自が自身で課題を設定し資料検索・収集を行い、資料を読み解き討論資料の作成を行って発表する。それぞれの発表を聞いて必ず質問や意見を述べることも必要。それに答えられるべく予習も行ってもらう。この一連の結果をレポートや論文の形に作成することも行います。出来れば、2サイクル行いたい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 演習グループ各自の興味を持つ課題候補の紹介 第2回 各人の課題候補をまとめ、課題を決定する。 第3回 資料検索を行う。その1 第4回 資料検索を行う。その2と読み取りの練習 第5回 プレゼンテーション資料作成。その1 第6回 プレゼンテーション資料作成。その2と読み取りの練習 第7回 各自の発表と討論。その1 第8回 各自の発表と討論。その2とレポート作成 第9回 各自の発表と討論。その3とレポート作成 第10回 各自の発表と討論。その4とレポート作成 第11回 各自のレポートの発表とその検討。その1 第12回 各自のレポートの発表とその検討。その2 第13回 各自のレポートの発表とその検討。その3 第14回 卒業演習への取り組みを扱う 第15回 人間、社会、環境と生活をテーマとして討論		
テキスト	学問入門講座で使用したものを使ってください	参考文献	大学生のための基礎力養成ブック丸善、大学生学びのハンドブック世界思想社、改訂版知のツールボックス新入生援助集専修大出版局 参考書リストも参
評価方法	平常点 :60% レポートや論文 :40%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
法学学を通して社会問題について考える		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちの社会にはいろいろな社会問題が起こっています。法学は社会問題に対して、法律を作ることによってこれを解決する学問です。本演習では、具体的な社会問題を取り上げて法的な解決方法を考えることで、法的な考え方の訓練をすることを目標にします。		
授業の概要	日頃気になる社会の問題というものがあると思いますが、それについて、法律ではどのように規定され、どのような解決がなされているか、それは果たして十分かどうか、不十分ならどのような法律改正が必要か、発表してもらいます。それについて、討論を行います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODakション 演習の進め方等について1 第2回 インTRODakション 演習の進め方等について2 第3回 インTRODakション 演習の進め方等について3 第4回 レポーターによる報告と討論 第5回 レポーターによる報告と討論 第6回 レポーターによる報告と討論 第7回 レポーターによる報告と討論 第8回 レポーターによる報告と討論 第9回 レポーターによる報告と討論 第10回 レポーターによる報告と討論 第11回 レポーターによる報告と討論 第12回 レポーターによる報告と討論 第13回 レポーターによる報告と討論 第14回 レポーターによる報告と討論 第15回 総括		
テキスト	特に使用しません。必要な場合、適宜指示します。	参考文献	法律の条文が必要になる場合、インターネットでダウンロードしてください。
評価方法	ゼミへの積極的参加:50% レポーターの出来:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
哲学・美学演習		橋本 典子（はしもと のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	哲学、美学、個別芸術学及び法哲学などに関心のある学生と共にそれぞれの興味に相応しいテキストを選び読解する。テキスト選択の方法論の習得、読解力の育成、的確に内容を理解しまとめる。独自の視点を設定し新しい問を立る。これらの過程を経ることで論理的思考を確立し、テキストを場として解釈の可能性を開く。この結果を発表する。		
授業の概要	テキスト読解及び解釈に積極的に参加することによってコミュニケーションの場を造り、他者の意見を聴き、さらに自分の言葉で表現する。発表の機会を多くし、必要に応じて講義も行い、それぞれの学生に個別にアドバイスする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 大学に於ける研究とは何か 第2回 個別分野の特徴－哲学、美学、個別芸術学、法哲学等 第3回 テキスト選択の方法論 第4回 具体的課題の見つけ方－テーマ設定 第5回 テキストの位置－広い視野からの展望 第6回 比較研究の方法論－多視点の可能性 第7回 テキスト読解と解釈－哲学 第8回 テキスト読解と解釈－美学 第9回 テキスト読解と解釈－個別芸術論 第10回 テキスト読解と解釈－法哲学 第11回 テキスト読解と解釈－テーマの関係性 第12回 報告書作成の仕方 第13回 簡単な報告の実践 第14回 テーマを通してのコミュニケーションの実践 第15回 問題の更なる展開の可能性の発見		
テキスト	個別に相談し決定する。共通テキストについてはプリントを使用する。	参考文献	その都度、授業の時に指示する。
評価方法	発表の成果:60% レポート等:20% コミュニケーション力:20%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
環境化学入門		廣田 道夫（ひろた みちお）	
授業の到達目標 及びテーマ	暮らしと密接に関連する種々の環境問題について、主に化学的な観点から学習します。実験や文献調査をもとに、各人がレポートを作成し、発表する形式で、環境の理解を深めるとともに、レポートのまとめ方、発表の仕方等を身につけます。		
授業の概要	環境化学に関わる基礎的な実験を行いレポートを作成します。また入門書等を題材に、各自テーマを選択してレポートにまとめ、口頭発表を行います。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 環境化学入門の講義（ビデオによる） 第2回 環境化学入門の講義（ビデオによる） 第3回 入門書を題材に各自テーマの選択 第4回 各自のテーマに関する調査（継続） 第5回 化学実験の説明（酸性・アルカリ性） 第6回 化学実験（酸性・アルカリ性） 第7回 化学実験の説明（プラスチックの性質） 第8回 化学実験（プラスチックのリサイクル） 第9回 化学実験（プラスチックの性質） 第10回 化学実験の説明（石鹼） 第11回 化学実験の説明（石鹼－ビデオによる） 第12回 化学実験（石鹼の働き・性質） 第13回 各自のテーマに関する調査、口頭発表（グループⅠ） 第14回 口頭発表（グループⅡ） 第15回 調査報告の取りまとめ・提出		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）
評価方法	実験ごとのレポート:50% 文献調査のレポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
図書館の可能性を探る		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	図書館に関する文献を読み、レジュメを作り、発表し、ディスカッションするなかで、図書館に関する知識が蓄積されると同時に、読み・書き・話す力も高めていく。また、ひとつのテーマについて調べるなかで、検索能力を高め、レポートの書き方についても理解する。		
授業の概要	『未来をつくる図書館』等を輪読し、図書館の可能性についてディスカッションをする。その後、各自が選んだテーマについて文献等により調べてまとめ、卒業研究の足がかりとする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 輪読。発表とディスカッション 第3回 輪読。発表とディスカッション 第4回 輪読。発表とディスカッション 第5回 輪読。発表とディスカッション 第6回 輪読。発表とディスカッション 第7回 輪読。発表とディスカッション 第8回 輪読。発表とディスカッション 第9回 輪読。発表とディスカッション 第10回 輪読。発表とディスカッション 第11回 輪読。発表とディスカッション 第12回 輪読。発表とディスカッション 第13回 輪読。発表とディスカッション 第14回 輪読。発表とディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	『未来をつくる図書館』菅谷明子著 岩波書店 2003 その他ゼミ生の関心に応じて決める。	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
情報科学		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	情報科学に関する知見を深めるとともに、演習を通してアカデミックスキルズの応用力を高め、卒業論文に繋がるテーマを探します。		
授業の概要	「情報」の意味、「情報科学」の考え方、情報技術、情報の通信技術等の解説をします。その中で、重要な事項については各自で調査し、レポートしていただき、知見を共有しつつ進めていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス (演習の進め方) 第2回 情報とは 第3回 情報科学とは 第4回 コンピューター概説 (ハードウェア) 第5回 コンピューター概説 (ソフトウェア) 第6回 情報のデジタル化 第7回 マルチメディア 第8回 コンピューター・ネットワーク 第9回 クラウド・コンピューティング 第10回 コミュニケーション・システム 第11回 インターネット 第12回 情報倫理 第13回 知的所有権とプライバシー 第14回 情報革命の光と影 第15回 まとめ		
テキスト	文献及び資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

専攻基礎演習		後期 2 単位	1年
生命倫理の基礎		八耳 俊文（やつみみ としふみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	科学技術の発展は社会を大きく動かし、社会は新しい科学技術にどのような対応をとるか常に迫られるようになってい る。この例を医療から考える。本授業では先端医療の内容を知り、これらの医療技術の社会的受容にあたってどのよう な議論が起きているか理解する。		
授業の概要	テキストを演習参加者間で分担して読み、担当者はレジュメを作成して、担当部分を発表します。参加者はその発表を もとに議論をおこないます。		
授業計画	【後期】 第 1回 科学と社会の関係 第 2回 生命倫理学の誕生 第 3回 テキスト 第1章 第 4回 テキスト 第2章(1) 生殖革命 第 5回 テキスト 第2章(2) 脳死 第 6回 テキスト 第2章(3) 安楽死 第 7回 テキスト 第3章(1) クローン 第 8回 テキスト 第3章(2) iPS細胞 第 9回 テキスト 第4章(1) 脳科学 第10回 テキスト 第4章(2) 脳倫理 第11回 テキスト 第5章(1) 古代・中世の死生観 第12回 テキスト 第5章(2) 近世の死生観 第13回 テキスト 第5章(3) 近現代の死生観 第14回 テキスト 第6章(1) 脳死問題 第15回 テキスト 第6章(2) 臓器移植問題		
テキスト	江川晃、嘉吉純夫、霞田光三『生命倫理について考 える』（文眞堂、2010年）	参考文献	今井道夫『生命倫理学入門』第3版（産業図書、 2011年）、村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』 （勤草書房、2008年）
評価方法	発表:80% 演習への参加度:20%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
経済学卒業演習 I		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経済学や現代経済に関する文献や資料を購読することによって、経済学や現代経済に関する理解を深め、経済学的な発 想方法や「ものの見方」について学ぶ。あわせて、後期の経済学卒業演習Ⅱに向けて、卒業論文のテーマについて検討 することが目標である。		
授業の概要	経済学や現代経済に関する文献や資料を出席者の間で輪読し全員で議論を行う。現実の経済を肌で感じるために、 フィールドワークとして社会科見学に行くことも予定している。		
授業計画	【前期】 第 1回 イントロダクション 第 2回 経済学卒業演習 I (1) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 3回 経済学卒業演習 I (2) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 4回 経済学卒業演習 I (3) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 5回 経済学卒業演習 I (4) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 6回 経済学卒業演習 I (5) 社会科見学1 第 7回 経済学卒業演習 I (6) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 8回 経済学卒業演習 I (7) 文献や資料の輪読・発表・討論 第 9回 経済学卒業演習 I (8) 文献や資料の輪読・発表・討論 第10回 経済学卒業演習 I (9) 文献や資料の輪読・発表・討論 第11回 経済学卒業演習 I (10) 社会科見学2 第12回 経済学卒業演習 I (11) 文献や資料の輪読・発表・討論 第13回 経済学卒業演習 I (12) 文献や資料の輪読・発表・討論 第14回 経済学卒業演習 I (13) 文献や資料の輪読・発表・討論 第15回 まとめ		
テキスト	現代の経済問題を扱っている複数の文献、資料など を購読するが、詳細については出席者と相談の上決 定する。	参考文献	授業中に言及する。
評価方法	平常点:50% 期末試験又はレポート:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
経営学演習		宇田 美江 (うだ みえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆するため、自分の興味を見つけることができるようにする。		
授業の概要	毎回レポーターを決め、経営学に関する文献などを読みつつ、さまざまな企業や仕事、働く女性などを調査したり、それを基に発表や議論を中心に行う。担当箇所に限らず、文献は全員読んでおくこと。チームでの取り組みも模索する。参加者には、ディスカッションへの積極的参加を期待する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス・発表担当の決定 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 前期のまとめ・卒論に向けて		
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表:40% 授業への参画度:60%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
現代教育の歴史的・原理的研究		清水 康幸 (しみず やすゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマ：教育学的テーマを発見し、吟味しよう 到達目標：①共通文献を読み、討論しつつ、学問研究の基礎を学ぶ。②卒業論文につながる自らのテーマを発見し、参考文献一覧を作る。③テーマに関わる論点を吟味し、卒業論文の章立てについて見通しをつける。		
授業の概要	前期の卒業演習 I では、これまでの学びや関心にもとづき、自らのテーマを確立することを課題とする。そのため、全体指導と個別指導を組み合わせ、共通文献の読みあい、個別発表、文献探索等を進めていく。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 図書館等、資料探索の方法 第3回 卒業論文の書き方 第4回 共通文献の購読 (1) 第5回 共通文献の購読 (2) 第6回 共通文献の購読 (3) 第7回 共通文献の購読 (4) 第8回 共通文献の購読 (5) 第9回 共通文献の購読 (6) 第10回 共通文献の購読 (7) 第11回 各自の研究関心の発表 (1) 第12回 各自の研究関心の発表 (2) 第13回 各自の研究関心の発表 (3) 第14回 各自の研究関心の発表 (4) 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に提示する	参考文献	随時、授業時に提示する
評価方法	授業への参加度:20% レポート発表:20% 期末レポート:60%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
西洋史、卒論、始動		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	第一に歴史学とはすぐには役に立たないことを自負する学問であることを学ぶ。第二に固有名詞を覚える＝愛する大切さを学ぶ。第三に問題意識（ある問いを探究する理由）を練磨する。これが根源的で普遍的で具体的で真剣なものであると、凄味のある鋭い論文ができあがる。あらゆる問いは剣である。されど我が教えは活人剣なり。殺人剣にあら		
授業の概要	卒論の作成を中心に指導をおこなう。青短に来るような女の子は中高時代に放置されてきた子が多い。つまり成績も品行もまあまあ普通なので、成長のために必要なポジティブなストレスを受けてこなかった子が多い。その結果、考えがふわふわとした甘い子が多い。卒論指導をとおして、甘くもぬるくもゆるくもない、本当の優しさと厳しさを教え		
授業計画	【前期】 第1回 卒論のテーマを考える 第2回 もいちど卒論のテーマを考える 第3回 文献目録の作成 第4回 続文献目録の作成 第5回 続々文献目録の作成 第6回 続々々文献目録の作成 第7回 続々々々文献目録の作成 第8回 書評 第9回 また書評 第10回 またまた書評 第11回 またもや書評 第12回 またしても！書評 第13回 読むべき欧文文献をさがす 第14回 くりかえし読むべき欧文文献をさがす 第15回 予備日		
テキスト	適宜指示する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	平常点:40% 書評の報告:30% 参考文献リストの作成:30%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
実証研究を行なって論文にまとめる！		武田 美亜（たけだ みあ）	
授業の到達目標 及びテーマ	実証研究を行なって卒業論文をまとめるための準備を行なう。自分たちで先行研究を調べて研究テーマを絞り、実験や調査の計画、準備を行なう。論文の執筆もできるところから順次進める。研究を行なう上で考慮しなければならないことを理解する。		
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、先行研究を調べながら実験または調査の研究計画を立て、準備を行う。授業外の時間も大量に使って自主的に作業を進めることが必須である。研究は基本的にグループで行なうが、論文は各自で執筆する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／春休みの成果の発表 第2回 卒論テーマの検討 第3回 卒論テーマの決定 第4回 心理統計：導入 第5回 心理統計：基礎 第6回 文献探し 第7回 文献の検討 第8回 先行研究のまとめ 第9回 先行研究の発表 第10回 研究の方向性の検討 第11回 研究計画の立案 第12回 研究計画の吟味 第13回 研究計画の決定 第14回 実験・調査の準備 第15回 まとめ／夏の課題の確認		
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	戸田山和久（2012）『論文の教室』NHK出版／向後千春・富永敦子（2007）『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。
評価方法	課題発表:60% 授業への参加:40%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
臨床心理学とその周辺領域の研究		田中 志帆 (たなか しほ)	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文提出に向けて、調査、執筆を進め、論文にまとめる。		
授業の概要	論文のテーマを固め、必要に応じて各自先行研究を読み、問題や目的を設定する。そして、レビューや調査を進めてゆく。各自の研究テーマに沿う形で、執筆に着手して考察を深める。個別指導が主体となるため、各自相談の前には準備しておくこと。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、進捗状況確認 第2回 目次、構成決め、研究方法の決定① 第3回 目次、構成決め、研究方法の決定② 第4回 目次、構成決め、研究方法の決定③ 第5回 調査、資料収集、文献考察を実施 第6回 調査、資料収集、文献考察を実施 第7回 調査、資料収集、文献考察を実施 第8回 調査、資料収集、文献考察を実施 第9回 調査、資料収集、文献考察を実施 第10回 進行状況の確認と報告 第11回 研究上の問題点、課題の見直し 第12回 研究上の問題点、課題の見直し 第13回 結果の整理、データ解析 第14回 結果の整理、データ解析 第15回 まとめ 中間発表		
テキスト	心理学論文の書き方 おいしい論文のレシピ 都筑 学著 有斐閣アルマ ¥1800	参考文献	心理学のためのレポート・卒業論文の書き方 杉本 敏夫著 サイエンス社 ¥1900
評価方法	論文作成への取り組み:50% 研究の内容:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
食品学・食生活		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	食品・栄養・食生活の分野で各自がそれぞれ食に関するテーマを選び、資料検索・解読・報告とディスカッションをマスターし独立して研究を進められるようになること、本格的な論文を書けるようになることとその発表を行えるようになることを、目的とする。		
授業の概要	食品・栄養・食生活の分野で各自がそれぞれ食に関するテーマを選び、1年次に学んだ調査・研究方法をもとに、各自で資料を検索入手して読み解き、その内容を授業で報告し全員で議論を行い、より深いものへと高めて、論文作成へとつなげる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 研究の進め方、論文作成についてその1 第2回 研究の進め方、論文作成についてその2 第3回 研究の進め方、論文作成についてその3 第4回 研究テーマの決定その1 第5回 研究テーマの決定その2 第6回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその1 第7回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその2 第8回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその3 第9回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその4 第10回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその5 第11回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその6 第12回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその7 第13回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその8 第14回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその9 第15回 全員の中間報告と論文内容の概要報告		
テキスト	各自のテーマに沿って改めて決定する。	参考文献	各自のテーマに沿って各自も見つけ出さねばならない。
評価方法	資料検索・内容解読:50% 発表と討論:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
法学を学び卒業論文のテーマを見つける		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	各自、日頃気になっている社会問題に関して主体的に関心を持ち、それについて調査研究し、演習でレポーターとして発表し、議論をして意見交換を行うことを通じて、テーマに深く切り込み、最後には卒業論文として、一つの社会問題への解決方法を提案することを目標とする。		
授業の概要	主体的に決定したテーマについて、図書資料等を調べ、演習でレポーターとして発表してもらう。活発な意見交換を望む。最近の学生に不足しているプレゼンテーション能力が磨かれることと思う。必ず、全員が一回は発言すること。自分のテーマに対する愛情と他人のテーマに対する関心を持って欲しい。また、英語の文献を読む訓練も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ ン 演習の進め方について 第2回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第3回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第4回 図書館での資料収集方法について 第5回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第6回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第7回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第8回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第9回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第10回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第11回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第12回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第13回 レポーターによる報告と討論・英書購読 第14回 裁判所見学 第15回 研究テーマに関しての総括		
テキスト	特に指定はしない。	参考文献	特に指定はしない。必要な場合は、その都度、指示を行う。
評価方法	レポーター発表の出来:50% 討論への積極的参加:40% 英訳の出来:10%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
卒業研究・論文作成 I		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代教養学科人間社会専攻の卒業論文作成に向けて、それぞれ自分で選んだテーマについて、時代背景、問題設定の多視眼的接近を試みる。他の学生のテーマとの接点等、対話を通してそれぞれの学生が自己の問題を深め、他の問題を理解し、互いに影響し合うことを目標とする。良いノートを作る。		
授業の概要	自己のテーマについては資料を見つけ、読解し、まとめる力を育成する。他者の発表に際してはしっかり聞くこと、良いノートを取ることで、理解すること、的確な質問をすること、そして互いに刺激し合えるように工夫をする。時にはそれぞれのテーマについて教師が講義をする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論、卒業論文とは？ 良いノートを作るために 第2回 テーマ設定の試み (1) 前年の論文を参考にして 第3回 参考文献の選択方法 (1) 第4回 テーマの発表 (1) 参考文献へのアドバイス 第5回 卒業論文作成までの日程設定について 第6回 テーマ設定の試み (2) 全員の仮テーマの発表 第7回 参考文献の選択方法 (2) 簡単に手に入る文献の構造発表 第8回 文献表作成の例、引用の仕方、前年の論文を参考にして 第9回 テーマの発表 (2) 具体的例として教師自身のものを提示 第10回 参考文献の選択方法 (3) テーマに即して発表 I 第11回 参考文献の選択方法 (4) テーマに即して発表 II 第12回 テキスト読解と解釈、アドバイス (1) 第13回 テキスト読解と解釈、アドバイス (2) 第14回 テキスト読解と解釈、アドバイス (3) 第15回 題目決定、夏休みの課題提示		
テキスト	プリントを使用する	参考文献	2012年度を含めてそれ以前の卒業論文、参考文献は必要に応じて紹介する
評価方法	発表:50% コミュニケーション力:30% レポート:20%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
人間活動と環境との関わり		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	産業革命以来、人間活動は際限なく拡大し、我々は環境に多大の負荷を与えることとなり、地球温暖化など様々な環境問題に直面しています。本研究では、種々の環境問題について文献調査やデータ解析を通して、変化の実態を見、メカニズムを理解します。		
授業の概要	各種の環境問題について、ビデオ、解説、報道記事、研究論文、見学などをもとに学習し、環境問題に関する理解を深めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 環境科学入門 第2回 地球環境問題の概説 (大気汚染・酸性雨) 第3回 地球環境問題の概説 (水質汚濁・海洋汚染) 第4回 地球環境問題の概説 (有害化学物質) 第5回 地球環境問題の概説 (地球温暖化) 第6回 地球環境問題の概説 (オゾン層破壊) 第7回 施設見学 (水再生センター) 第8回 施設見学 (気象科学館) 第9回 課題調査 (課題提示・解説・選択) 第10回 課題調査 (個別指導-グループⅠ) 第11回 課題調査 (個別指導-グループⅡ) 第12回 課題調査 (個別指導-グループⅢ) 第13回 課題調査 (発表・質疑討論-グループⅠ) 第14回 課題調査 (発表・質疑討論-グループⅡ) 第15回 課題調査 (発表・質疑討論-グループⅢ)		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	テーマにより個別に紹介する。
評価方法	課題ごとのレポート:50% 受講態度:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
図書館の可能性を探る		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	図書館に関連したテーマを設定し、関連文献を探索・収集し、卒業論文の執筆にとりかかることができるようにする。この作業のプロセスで、ゼミ生同士のコミュニケーションや情報リテラシーの力が高まる。並行して子どもの読書に関する文献を輪読して基本となる知識を得る。		
授業の概要	まず、各自のテーマを決定するために、事前調査を行い先行研究を読み概略をつかむ。テーマがほぼ決定したら関連文献を探索し収集して、本格的に文献を読んでいく。同時に、『読む力は生きる力』を輪読し、ディスカッションしながら子ども時代の読書の意義について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 卒論テーマの検討 第2回 卒論テーマの検討。輪読とディスカッション 第3回 論文作成の方法。 輪読とディスカッション 第4回 事前調査。 輪読とディスカッション 第5回 関連文献の探索・収集。輪読とディスカッション 第6回 関連文献の探索・収集。輪読とディスカッション 第7回 関連文献の探索・収集。輪読とディスカッション 第8回 関連文献の探索・収集。輪読とディスカッション 第9回 関連文献の探索・収集。輪読とディスカッション 第10回 文献の読解。 輪読とディスカッション 第11回 文献の読解。 輪読とディスカッション 第12回 文献の読解。 輪読とディスカッション 第13回 文献の読解。 輪読とディスカッション 第14回 文献の読解。 輪読とディスカッション 第15回 前期のまとめ・後期へ向けて		
テキスト	『読む力は生きる力』 脇明子著 岩波書店 2005	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	論文作成への取り組み:50% 輪読への参加度:50%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
情報科学演習		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマを決め、文献収集、調査、分析をとおして、卒業論文としてまとめるための準備をしていきます。		
授業の概要	各自で卒業論文のテーマを設定し、それに基づいて自ら文献収集、調査、分析をします。その過程を発表し、討論して研究を深化させていきます。必要に応じて全体指導・個別指導をします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 卒業論文作成に向けて全体指導 第 2回 卒業論文のテーマ検討① 第 3回 卒業論文のテーマ検討② 第 4回 卒業論文のテーマ決定 第 5回 文献調査の方法 第 6回 個別発表・討論① 第 7回 個別発表・討論② 第 8回 個別発表・討論③ 第 9回 個別発表・討論④ 第 10回 個別発表・討論⑤ 第 11回 個別指導① 第 12回 個別指導② 第 13回 まとめ。卒業演習 II に向けてのガイダンス 第 14回 卒業論文 I のまとめ発表① 第 15回 卒業論文 I のまとめ発表②		
テキスト	使用しません。必要に応じて資料を準備します。	参考文献	適宜紹介します。
評価方法	論文作成の進捗:60% 演習での発表:40%		

卒業演習 I		前期 4 単位	2年
ケアと3.11を考える		八耳 俊文 (やつみみ としふみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	科学技術の発展は人間の生命観や自然観の修正を迫り、それに応じての新しい社会意識が形成されつつある。本演習は卒業論文の準備段階としてゼミ生が共通のテキストを読み、問題意識の深め方を理解する。卒論の書き方の基礎についての知識と、必要な技能を習得する。卒論を早めに意識し、本演習の中で着手できるようにする。		
授業の概要	人間のケアを考えるために『看護の力』、3.11以後の日本の社会システムを考えるために『東北発の震災論』を輪読する。卒業論文の基礎は講義形式で伝えるが、卒論執筆のための情報を使い方の指導は図書館で実習形式でおこなう。演習の最後の2回はそれぞれが関心あるテーマについて、情報を整理して発表する時間とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 卒業演習のガイダンス 第 2回 『看護の力』第 1 章 第 3回 『看護の力』第 2 章 第 4回 『看護の力』第 3 章 第 5回 『看護の力』第 4 章 第 6回 『看護の力』第 5 章・まとめ 第 7回 卒論の書き方についての指導 第 8回 『東北発の震災論』第 1 章 第 9回 『東北発の震災論』第 2 章 第 10回 『東北発の震災論』第 3 章 第 11回 『東北発の震災論』第 4 章 第 12回 『東北発の震災論』第 5 章 第 13回 『東北発の震災論』第 6 章・まとめ 第 14回 卒論のテーマに関する発表 (グループ 1) 第 15回 卒論のテーマに関する発表 (グループ 2)		
テキスト	川嶋みどり『看護の力』(岩波新書、2012年)、山下祐介『東北発の震災論: 周辺から広域システムを考える』(ちくま新書、2013年)	参考文献	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房、2008年)、榎木伸明『卒論を書こう』第二版(三修社、2006年)
評価方法	レポート(その1):30% レポート(その2):30% 授業への参加度:40%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
経済学卒業演習Ⅱ		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標及びテーマ	前期の卒業演習Ⅰに引き続き、経済学や現代経済に関する文献や資料を購読して全員で議論するとともに、卒業論文の中間報告会を行う。最終的には、前期で検討したテーマに沿って、各人が卒業論文を完成させることが目標である。		
授業の概要	前期の卒業演習Ⅰに引き続き、経済学や現代経済に関する文献や資料を出席者の間で輪読し全員で議論を行い、あわせて、卒業論文の中間報告会を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済学卒業演習Ⅱ(1) 文献や資料の輪読・発表・討論 第3回 経済学卒業演習Ⅱ(2) 文献や資料の輪読・発表・討論 第4回 経済学卒業演習Ⅱ(3) 文献や資料の輪読・発表・討論 第5回 卒業論文中間報告会(1) Aグループ 第6回 卒業論文中間報告会(2) Bグループ 第7回 卒業論文中間報告会(3) Cグループ 第8回 卒業論文中間報告会(4) Dグループ 第9回 卒業論文中間報告会(5) Eグループ 第10回 卒業論文中間報告会(6) Fグループ 第11回 卒業論文中間報告会(7) Gグループ 第12回 経済学卒業演習Ⅱ(4) 文献や資料の輪読・発表・討論 第13回 経済学卒業演習Ⅱ(5) 文献や資料の輪読・発表・討論 第14回 経済学卒業演習Ⅱ(6) 文献や資料の輪読・発表・討論 第15回 まとめ		
テキスト	現代の経済問題を扱っている複数の文献、資料などを購読するが、詳細については出席者と相談の上決定する。	参考文献	授業中に言及する。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
経営学演習		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標及びテーマ	経営学に関する文献を講読したり、事例研究をすることによって、経営学に関する理解を深める。最終的には、自分の興味によって、経営学に関するひとつのテーマを定め、卒業論文を執筆する。		
授業の概要	各自が興味のあるテーマを選び、卒業論文の作成を中心に行う。課題（文献を読んでくる、報告を用意する）を与えるため、その際は必ず準備して臨むこと		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス・卒業論文に向けて 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 論文仮提出と手直し 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表と論文提出		
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	発表:30% 授業への参画度:40% 卒業論文:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
現代教育の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>テーマ：卒業論文を執筆し完成させよう</p> <p>到達目標：前期で構想した論文のテーマ、章立てにもとづき、2年間の学びの集大成として卒業論文を執筆し、完成させる。</p>		
授業の概要	<p>後期は卒業論文執筆が課題となるため、個別指導に重点が置かれる。各自計画的に作業を進め、そのつど状況に応じた指導を行う。またグループ会、全体会を持ち、中間発表、仮提出、卒論発表会という節目を設けて、お互いの成果を共有し合う。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 卒論執筆のスケジュールについて</p> <p>第2回 各自の進捗状況について発表と討議（1）</p> <p>第3回 各自の進捗状況について発表と討議（2）</p> <p>第4回 各自の進捗状況について発表と討議（3）</p> <p>第5回 各自の進捗状況について発表と討議（4）</p> <p>第6回 グループごとの発表と討議（1）</p> <p>第7回 グループごとの発表と討議（2）</p> <p>第8回 グループごとの発表と討議（3）</p> <p>第9回 グループごとの発表と討議（4）</p> <p>第10回 個別指導（1）</p> <p>第11回 個別指導（2）</p> <p>第12回 個別指導（3）</p> <p>第13回 個別指導（4）</p> <p>第14回 個別指導（5）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	特に定めない	参考文献	随時、授業で紹介する
評価方法	卒業論文：60% 授業時の発表：40%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
西洋史、卒論、完結		西願 広望（せいがん こうぼう）	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>教養としての歴史学を会得する。教養として即ち人間らしく生きるためのそれ。この場合の人間とはしばしば反社会的で革命的だ。社会が非人間的ならば、人間を愛しつつ社会を断罪することもあるだろう。殺人剣は己の利益のために使われるが、活人剣は人間を人間らしくキラキラと活かすために己を空とし悪を斬る。娘らよ、活人剣の道を極めよ。</p>		
授業の概要	<p>本当の優しさとは飴玉ではない。人参でありホウレン草だ。野菜のくさみとにがみを美味しく感じるのが、人生をエンジョイできる、たくましい大人なのだ。人生に目標などない。勝利などない。ただ戦えば負けずにすむ。たった一度の人生だから、死を覚悟しつつ、思う存分、戦い、愛そう。そしてそのためのノウハウを、歴史学をとおして学ぼう。</p>		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 中間報告</p> <p>第2回 かさねがさね中間報告</p> <p>第3回 明けても暮れても中間報告</p> <p>第4回 毎度おなじみの中間報告</p> <p>第5回 これで最後の中間報告</p> <p>第6回 卒論作成の方法について</p> <p>第7回 いよいよ始まった卒論草稿作成</p> <p>第8回 粘り強く卒論草稿作成</p> <p>第9回 疲れをみせた卒論草稿作成</p> <p>第10回 滋養強壮剤がほしくなる卒論草稿作成</p> <p>第11回 ようやく卒論草稿提出</p> <p>第12回 戦慄の西願先生の指導</p> <p>第13回 凜々と卒論清書作成</p> <p>第14回 淡々と卒論清書作成</p> <p>第15回 燃え尽きて灰になって幸福を感じて卒論完成稿提出</p>		
テキスト	適宜指示する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	平常点：40% 卒論：60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
実証研究を行なって論文にまとめるⅡ		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	研究計画に基づいて、実験または調査の実施、分析を行ない、論文を完成させる。 実験に参加してくれる人への倫理的配慮を理解する。		
授業の概要	授業形態は演習形式およびグループ・個人での活動である。いくつかのテーマごとに、実験または調査の実施、ExcelやSPSSなどの統計ソフトを用いた分析も必要に応じて行う。論文は各自で執筆する。授業外の時間も大量に使って自主的に作業を進めることが必須である。		
授業計画	【後期】 第1回 進行状況と課題の確認 第2回 実験・調査の最終準備 第3回 実験の実施 第4回 調査の実施 第5回 分析手順の確認 第6回 データ入力 第7回 データ分析・基礎 第8回 データ分析・応用 第9回 結果の解釈 第10回 結果の解釈の吟味 第11回 結果の考察 第12回 考察の吟味 第13回 論文作成 第14回 研究参加者への報告の作成 第15回 研究成果の発表、総まとめ		
テキスト	特に指定しない。各自卒論のために必要な文献を用いる。	参考文献	松井豊 (2006) 『心理学論文の書き方』 (河出書房新社) / 向後千春・富永敦子 (2007) 『統計学がわかる』 (技術評論社) / このほか適宜紹介する。
評価方法	卒業論文:70% 研究への取り組み:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
臨床心理学とその周辺領域の研究 ラストスパート		田中 志帆 (たなか しほ)	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文提出に向けて、準備や執筆を進めてまとめる。また互いの成果を発表しあう。楽しく研究をすすめましょう。		
授業の概要	各自実施した調査結果や資料収集した内容をもとに、論理的な考察を試み、執筆を進める。自分自身の研究テーマを大切にし、新たな発見を大事にして文章化する。論文の書き方、最終的なまとめ方を学ぶ。個別指導とグループ指導を適宜組み合わせて行う。		
授業計画	【後期】 第1回 進捗状況の確認と、報告会 第2回 解決すべき問題や疑問に取り組む① 第3回 解決すべき問題や疑問に取り組む② 第4回 個別指導 論文作成 前半部分 第5回 個別指導 論文作成 前半部分 第6回 個別指導 論文作成 前半部分 第7回 個別指導 論文作成 後半部分 第8回 個別指導 論文作成 後半部分 第9回 個別指導 論文作成 後半部分 第10回 個別指導 論文作成 結果と考察を深める 第11回 個別指導 論文作成 結果と考察を深める 第12回 個別指導 論文作成 結果と考察を深める まとめ 第13回 提出までの最終推敲、校正、仕上げ 第14回 成果の発表へ向けての準備 第15回 成果の発表会		
テキスト	特になし	参考文献	適宜紹介する
評価方法	論文作成への取り組み:50% 作成された論文内容:50%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
食品学・食生活		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	食品・栄養・食生活等の分野で各自がそれぞれ食に関するテーマを選び、資料検索・解読・報告とディスカッションをマスターし、本格的な論文を書けるようになることとその発表が行えるようになることを、目標とする。		
授業の概要	食品・栄養・食生活等の分野で各自がそれぞれ食に関するテーマを選び、1年次に学んだ調査・研究方法をもとに各自で資料を検索入手して読み解き、その内容を授業で報告し全員で討論を行い、より深いものへと高めて、論文作成へとつなげる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 夏季休暇中に進んだ内容の報告と討論 第2回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその1 第3回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその2 第4回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその3 第5回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその4 第6回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその5 第7回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその6 第8回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその7 第9回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその8 第10回 資料の検索と資料の内容報告・ディスカッションその9 第11回 論文内容の報告とディスカッション1 第12回 論文内容の報告とディスカッション2 第13回 論文内容の報告とディスカッション3 第14回 論文内容の報告とディスカッション4 第15回 論文発表とディスカッション		
テキスト	各自のテーマに沿って改めて決定する。	参考文献	テーマに沿って各自がそれぞれ見つけ出さねばならない。
評価方法	検索解読・発表と討論:30% 論文:70%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
法学学を学び卒業論文をしあげる		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	各自、日頃気になっている社会問題に関して調査研究し、卒業論文をしあげ、一つの社会問題への解決方法を提案することを目標とする。すでに、決定しているテーマに関して、夏休み中に調査研究してきたことを踏まえて、いよいよ卒業論文を仕上げることを目標とする。		
授業の概要	主体的に決定したテーマについて、演習でレポーターとして発表し、自分の考えと他人の考えの衝突から、テーマをさらに深く掘り下げる。卒業論文の執筆に早くからとりかかってもらう。卒業論文の内容を発表し、卒業論文指導を受けることが義務である。適宜、英書購読も行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 卒業論文テーマと論文概要に関する報告会 第2回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第3回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第4回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第5回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第6回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第7回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第8回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第9回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第10回 報告者による卒業論文途中経過報告と討論・英書購読 第11回 卒業論文指導 第12回 卒業論文指導 第13回 卒業論文指導 第14回 卒業論文指導 第15回 最終卒業論文指導および卒業論文提出		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	特に指定しない。その都度指示する。
評価方法	卒業論文指導での出来:40% 卒業論文の出来:50% 英書購読の出来:10%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
人間社会特別研究・卒業論文		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
授業の到達目標及びテーマ	各自、独自のテーマを決定し、複数の参考文献を読解し、解釈することによって卒業論文(400字x50枚、20,000字)を完成する。途中経過(4回以上の発表)、レジュメ、論文作成のためのノート等重要視する。他のメンバーとの対話を通してコミュニケーションを養う。		
授業の概要	参考文献を選択し、それらを読解し、論文を立体的に構成する。参照すべき文献を個別的に紹介し部分的に一緒に読み解釈する。他のメンバーと互いに刺激し合いながら、自分自身のテーマを深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 序論—卒業論文の完成のために 第2回 論文の全体構成(2012年度の具体例を示す) 第3回 夏休みに読解した参考文献の進捗状況 第4回 論文題目および副題の決定 第5回 論文の展開部の機能と位置付け 第6回 卒業論文のOriginality(獨創性)とは? 第7回 各章のタイトルおよび論ずる内容 第8回 テキストの読解と解釈(1) 第9回 テキストの読解と解釈(2) 第10回 テキストの読解と解釈(3) 第11回 自分のテーマと他のメンバーのテーマとの関連性 第12回 論文の序と結論との関係 第13回 書いた論文の発表とそれに対するアドバイス 第14回 他の視点からの質疑応答 第15回 発表会への準備		
テキスト	必要に応じて配布する。	参考文献	個別的にアドバイスする。
評価方法	論文、途中経過:70% 発表とそのレジュメ:20% コミュニケーション力:10%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
人間活動と環境との関わり(続)		廣田 道夫(ひろた みちお)	
授業の到達目標及びテーマ	産業革命以来、人間活動は際限なく拡大し、我々は環境に多大の負荷を与えることとなり、地球温暖化など様々な環境問題に直面しています。本研究では、種々の環境問題について文献調査やデータ解析を通して、変化の実態を見、メカニズムを理解します。		
授業の概要	各人が選択した環境問題について、文献を調査し、データを解析し、変化の実態やメカニズムについて考えていきます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 研究テーマの提示・解説 第2回 研究テーマの選択の個別指導 第3回 研究テーマの個別指導(グループⅠ) 第4回 研究テーマの個別指導(グループⅡ) 第5回 研究テーマの個別指導(グループⅢ) 第6回 研究報告の作成に関する指導 第7回 研究報告の作成—個別指導(グループⅠ) 第8回 研究報告の作成—個別指導(グループⅡ) 第9回 研究報告の作成—個別指導(グループⅢ) 第10回 研究報告の取りまとめ(グループⅠ) 第11回 研究報告の取りまとめ(グループⅡ) 第12回 研究報告の取りまとめ(グループⅢ) 第13回 研究報告の発表会(グループⅠ) 第14回 研究報告の発表会(グループⅡ) 第15回 研究報告の発表会(グループⅢ)		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	テーマにより個別に紹介する。
評価方法	受講態度:40% 報告書:60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
図書館の可能性を探る		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文を完成させる。論文のプロセスを振り返って、研究のプロセスと成果を自ら評価できる力を培いたい。ゼミ生同士の意見交換会をとおして分析的に物事を見る力を高める。		
授業の概要	各人個別のテーマのため、作業は個別になることもあるが、進捗状況や疑問点などを出し合う意見交換会（中間報告）を基本とする。		
授業計画	【後期】 第1回 卒論中間報告 第2回 卒論中間報告 第3回 卒論中間報告 第4回 卒論中間報告 第5回 卒論中間報告 第6回 卒論中間報告 第7回 卒論中間報告 第8回 卒論中間報告 第9回 卒論中間報告 第10回 卒論中間報告 第11回 卒論中間報告 第12回 卒論中間報告 第13回 卒論中間報告 第14回 卒論中間報告 第15回 卒業論文提出		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業への参加度:40% 卒業論文:60%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
情報科学演習		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が設定したテーマで卒業論文を作成します。		
授業の概要	各自が設定したテーマに即して、演習での発表、個別指導とおして卒業論文を完成させます。		
授業計画	【後期】 第1回 後期演習の進め方について 第2回 論文執筆要領 第3回 卒業論文概要発表と討論① 第4回 卒業論文概要発表と討論② 第5回 卒業論文概要発表と討論③ 第6回 個別指導① 第7回 個別指導② 第8回 個別指導③ 第9回 中間発表と討論① 第10回 中間発表と討論② 第11回 中間発表と討論③ 第12回 個別指導① 第13回 個別指導② 第14回 卒業論文口頭発表① 第15回 卒業論文口頭発表②		
テキスト	使用しません。必要に応じて資料を配布します。	参考文献	適宜紹介します。
評価方法	卒業論文:70% 発表と討議への参加:30%		

卒業演習Ⅱ		後期 4 単位	2年
卒業論文を作成しよう		八耳 俊文（やつみみ としふみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	卒業論文を作成することにより、どのテーマにも、多くの論議の蓄積と、さまざまな視点によるアプローチがあることを理解する。また関連文献を「読む」だけでなく、「まとめる」という作業を通じて、自らが選んだテーマについて体系的な知識を身につけることができるようにする。		
授業の概要	卒業論文のテーマにより、3グループに分けるので、情報の整理から論文執筆までの途中経過をグループごとに、個別に発表してもらう。この発表を重ね、最終的に卒論の完成に至るようにする。授業は基本的に演習参加者の発表とそれについての議論からなる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 卒業論文のガイダンス・卒業論文のテーマの確認 第2回 卒業論文に関係する発表（Aグループ、1回目） 第3回 卒業論文に関係する発表（Bグループ、1回目） 第4回 卒業論文に関係する発表（Cグループ、1回目） 第5回 卒業論文に関係する発表（Aグループ、2回目） 第6回 卒業論文に関係する発表（Bグループ、2回目） 第7回 卒業論文に関係する発表（Cグループ、2回目） 第8回 卒業論文に関係する発表（Aグループ、3回目） 第9回 卒業論文に関係する発表（Bグループ、3回目） 第10回 卒業論文に関係する発表（Cグループ、3回目） 第11回 卒業論文の提出前指導（構成・目次案について） 第12回 卒業論文の提出前指導（論文の形式について） 第13回 卒業論文一次稿の提出 第14回 卒業論文の口頭発表会 第15回 卒業論文の完成稿の提出		
テキスト	特になし	参考文献	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房、2008年）、榎木伸明『卒論を書こう』第二版（三修社、2006年）
評価方法	卒業論文：80% 演習への参加度：20%		

ワークショップ・人間と表現		前期 2 単位	1年																																																												
(子ども学コア科目) 発見する身体、感受する身体、学習する身体、そして発信する身体へ		久保 制一 (くぼ せいいち)																																																													
授業の到達目標及びテーマ	自由に感じ、考え、自らの問を発するという大学での学びの方法を確立する第一歩として多様な表現のワークショップを体験する。ホンモノの表現との出会いから自己の頭脳と身体で感じ知覚し、更に他者の表現を受容できる心豊かなコミュニケーションマインドを体得することができる。																																																														
授業の概要	第一線で活躍のゲスト講師によるオムニバスのワークショップ。多様な表現の基礎と方法に出会い、感性を研ぎ澄まし自らを発見し全身の感覚を駆使して身体を解放し頭脳とところを耕し、これからの大学での耕しと種蒔きに備える。動きやすい服装を推奨。毎回ポートフォリオを作成し提出。(講師・日程は変更の場合がある)																																																														
授業計画	<p>【前期】</p> <table border="0"> <tr><td>第 1回</td><td>イントロダクション</td><td>出会いと発見</td><td>久保制一</td></tr> <tr><td>第 2回</td><td>遊びとの出会いと発見</td><td></td><td>柏木 陽</td></tr> <tr><td>第 3回</td><td>五感との出会いと発見</td><td></td><td>横堀昌子</td></tr> <tr><td>第 4回</td><td>言葉との出会いと発見 I</td><td></td><td>小川Kenku郎</td></tr> <tr><td>第 5回</td><td>言葉との出会いと発見 II</td><td></td><td>小川Kenku郎</td></tr> <tr><td>第 6回</td><td>身体との出会いと表現</td><td></td><td>上村なおか</td></tr> <tr><td>第 7回</td><td>身体との出会いと表現 (身体技法)</td><td></td><td>上村なおか</td></tr> <tr><td>第 8回</td><td>自然との出会いと発見 (別日程で学外授業)</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>第 9回</td><td>自然との出会いと表現 (別日程で学外授業)</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>ドラマとの出会いと発見</td><td></td><td>柏木 陽</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>ドラマの発信と受容</td><td></td><td>柏木 陽</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>アートとの出会いと発見</td><td></td><td>久保制一</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>身体と言葉との出会いと発見 (野口体操)</td><td></td><td>羽鳥 操</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>音とリズムとの出会いと発見</td><td></td><td>大家 百子</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>ポートフォリオの編集と提出</td><td></td><td>久保制一</td></tr> </table>			第 1回	イントロダクション	出会いと発見	久保制一	第 2回	遊びとの出会いと発見		柏木 陽	第 3回	五感との出会いと発見		横堀昌子	第 4回	言葉との出会いと発見 I		小川Kenku郎	第 5回	言葉との出会いと発見 II		小川Kenku郎	第 6回	身体との出会いと表現		上村なおか	第 7回	身体との出会いと表現 (身体技法)		上村なおか	第 8回	自然との出会いと発見 (別日程で学外授業)		未定	第 9回	自然との出会いと表現 (別日程で学外授業)		未定	第10回	ドラマとの出会いと発見		柏木 陽	第11回	ドラマの発信と受容		柏木 陽	第12回	アートとの出会いと発見		久保制一	第13回	身体と言葉との出会いと発見 (野口体操)		羽鳥 操	第14回	音とリズムとの出会いと発見		大家 百子	第15回	ポートフォリオの編集と提出		久保制一
第 1回	イントロダクション	出会いと発見	久保制一																																																												
第 2回	遊びとの出会いと発見		柏木 陽																																																												
第 3回	五感との出会いと発見		横堀昌子																																																												
第 4回	言葉との出会いと発見 I		小川Kenku郎																																																												
第 5回	言葉との出会いと発見 II		小川Kenku郎																																																												
第 6回	身体との出会いと表現		上村なおか																																																												
第 7回	身体との出会いと表現 (身体技法)		上村なおか																																																												
第 8回	自然との出会いと発見 (別日程で学外授業)		未定																																																												
第 9回	自然との出会いと表現 (別日程で学外授業)		未定																																																												
第10回	ドラマとの出会いと発見		柏木 陽																																																												
第11回	ドラマの発信と受容		柏木 陽																																																												
第12回	アートとの出会いと発見		久保制一																																																												
第13回	身体と言葉との出会いと発見 (野口体操)		羽鳥 操																																																												
第14回	音とリズムとの出会いと発見		大家 百子																																																												
第15回	ポートフォリオの編集と提出		久保制一																																																												
テキスト	毎回ハンドアウトシート・ワークシートなどを配布。	参考文献	適宜参考文献・ビデオなどを紹介する。																																																												
評価方法	平常の授業への参加度:40% ポートフォリオ:60%																																																														

子ども人間学概論		後期 2 単位	1年																														
子ども観の歴史の変遷 ー西洋と日本ー		伊藤 巳令 (いとう みれい) 鈴木 俊之 (すずき としゆき)																															
授業の到達目標及びテーマ	本講義を履修した者は、1. 子どもに対するまなざしの変遷を歴史的に跡づけることによって子ども像の移り変わりとその時代背景を理解する、2. 人間的諸権利を根底にすえた現代子ども像についての多角的な考察を行い、子どもの人間的成長発達の意味を説明する、ことができるようになる。																																
授業の概要	講義形式で行う。前半は伊藤が担当し、西洋絵画についての講義を行う。後半は鈴木が担当し、日本における子どもの歴史についての講義を行う。																																
授業計画	<p>【後期】</p> <table border="0"> <tr><td>第 1回</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2回</td><td>西洋美術に描かれた子ども①ギリシア・ローマ美術のなかの子ども</td></tr> <tr><td>第 3回</td><td>西洋美術に描かれた子ども②ブット</td></tr> <tr><td>第 4回</td><td>西洋美術に描かれた子ども③幼児キリストと天使</td></tr> <tr><td>第 5回</td><td>西洋美術に描かれた子ども④ブリュゲルの「子供の遊び」</td></tr> <tr><td>第 6回</td><td>西洋美術に描かれた子ども⑤オランダ市民社会と子ども</td></tr> <tr><td>第 7回</td><td>西洋美術に描かれた子ども⑥無垢なる子どもから普通の子どもへ</td></tr> <tr><td>第 8回</td><td>中間まとめ</td></tr> <tr><td>第 9回</td><td>日本の子ども① 古代から中世(1)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>日本の子ども② 古代から中世(2)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>日本の子ども③ 近世 寺子屋(1)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>日本の子ども④ 近世 寺子屋(2)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>日本の子ども⑤ 近世 藩校</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>日本の子ども⑥ 近世 私塾</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>			第 1回	オリエンテーション	第 2回	西洋美術に描かれた子ども①ギリシア・ローマ美術のなかの子ども	第 3回	西洋美術に描かれた子ども②ブット	第 4回	西洋美術に描かれた子ども③幼児キリストと天使	第 5回	西洋美術に描かれた子ども④ブリュゲルの「子供の遊び」	第 6回	西洋美術に描かれた子ども⑤オランダ市民社会と子ども	第 7回	西洋美術に描かれた子ども⑥無垢なる子どもから普通の子どもへ	第 8回	中間まとめ	第 9回	日本の子ども① 古代から中世(1)	第10回	日本の子ども② 古代から中世(2)	第11回	日本の子ども③ 近世 寺子屋(1)	第12回	日本の子ども④ 近世 寺子屋(2)	第13回	日本の子ども⑤ 近世 藩校	第14回	日本の子ども⑥ 近世 私塾	第15回	まとめ
第 1回	オリエンテーション																																
第 2回	西洋美術に描かれた子ども①ギリシア・ローマ美術のなかの子ども																																
第 3回	西洋美術に描かれた子ども②ブット																																
第 4回	西洋美術に描かれた子ども③幼児キリストと天使																																
第 5回	西洋美術に描かれた子ども④ブリュゲルの「子供の遊び」																																
第 6回	西洋美術に描かれた子ども⑤オランダ市民社会と子ども																																
第 7回	西洋美術に描かれた子ども⑥無垢なる子どもから普通の子どもへ																																
第 8回	中間まとめ																																
第 9回	日本の子ども① 古代から中世(1)																																
第10回	日本の子ども② 古代から中世(2)																																
第11回	日本の子ども③ 近世 寺子屋(1)																																
第12回	日本の子ども④ 近世 寺子屋(2)																																
第13回	日本の子ども⑤ 近世 藩校																																
第14回	日本の子ども⑥ 近世 私塾																																
第15回	まとめ																																
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。																														
評価方法	平常点:30% 試験あるいはレポート:70%																																

子どもの文化と現在	前期 2 単位	2年
子どもたちは今、どのような状況を生きているのか—その豊かさと貧しさと	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * 日本ばかりでなく世界にも目を向け、子どもや若者がどんな状況に置かれ、どんなふうに住きているのかを理解する。 * 思考の幅や視野を広げ、さまざまな問題について考えるきっかけをつかむ。 * 子ども及び自分自身について、多角的にとらえることができるようになる。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>それぞれの分野で活躍している特別講師の方たちのお話を聞き、考える。質疑応答やミニレポートを通して、さらに理解を深める。</p> <p>〈授業計画〉</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 にしまきかやこ：絵本作家の仕事 第3回 野坂悦子：紙芝居とはどういうものか。絵本との違いは何か 第4回 池上理恵：子どもの好奇心をどうのばしていくか 第5回 吉野裕之：福島の子どもの現状 第6回 池上理恵：子どものための科学の本 第7回 村中李衣：絵本の読み合いから見えてくる物語の力 第8回 佐々波幸子：被災した子どもを支える 第9回 森山暁子：浮世絵の中の江戸の子どもたち 第10回 中村証子：赤ちゃんも絵本が大好き 第11回 吉原美穂：「月刊クーヨン」が考える子どもの育ち 第12回 上林史代：病院の中の子どもたち 第13回 多文化社会に生きる子ども 第14回 世界の子どもを支えるのに必要なもの 第15回 まとめ</p> <p>〈テキスト〉 適宜プリントを配布する。</p> <p>〈参考文献〉 授業の中で随時紹介する。</p>		

女性・環境・平和	後期 2 単位	2年
過去から現在をふりかえり、世界に視野を広げて考える	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 地球環境が抱える諸問題を理解し、考えることができるようになる。 * 女性が生きること、働くことについて、考えることができるようになる。 * 世界の政治的・経済的状況についても把握できるようになる。 	
授業の概要	それぞれの分野で活躍している特別講師の方たちのお話を聞き、考える。質疑応答やミニレポートを通して、さらに理解を深める。	
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 鳥居ヤス子：太陽熱利用とソーラーキッチン 第3回 森山暁子：江戸の女性とエコロジー 第4回 羽仁カンタ：ゴリラと携帯電話をつなぐ環境活動 第5回 ウィリー・トコ：日本のアフリカ報道から世界を見る 第6回 中村証子：子どもの育ちと環境 第7回 佐久間典子：難民・砂漠化・地域開発 第8回 落合由利子：生きること、表現すること 第9回 楠原 彰：見えない隣人としてのマイノリティ 第10回 谷口由美子：サウンド・オブ・ミュージックを生きた女性 第11回 落合由利子：歴史を紡ぐ 第12回 岩橋亜希菜：子どもの成長と建築=空間環境 第13回 地球環境と平和 第14回 歴史から学ぶ姿勢 第15回 まとめ</p>	
テキスト	適宜プリントを配布する	参考文献 授業の中で随時紹介する
評価方法	平常点:20% ミニレポート:30% 定期試験:50%	

いのちとケアの人間学		前期 2 単位	3年
いのちをめぐる諸問題とその本質～いのちを生かすケアを考える		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ) 横堀 昌子 (よこぼり まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは単に生命を維持するだけでなく、人間らしく生きる(いのちを生かす)ことを望むが、他者とのかかわりによって、かえっていのちが損なわれることもある。そこで、いのちを生かす他者とのかかわり(「ケア」のかかわり)とはどのようなものか、生・老・病・死をめぐる具体的な場面を題材にしながら根源的な問いに取り組み、探究する。		
授業の概要	菅野担当の前半(パートⅠ)では、ケアの関係性を再検討する。横堀担当の授業の後半(パートⅡ)では、いのちとケアをめぐる問題を再発見し、社会的な文脈で読み解く。講義・視聴覚教材視聴・演習・ディスカッションを活用し複合的に展開するため、3年次ならではの積極的な授業参加と教師へのフィードバックを求める。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakクシヨン～いのちとケアをめぐる問い 第2回 ケアの二面性 第3回 ケアの関係性を問う 第4回 ケアの関係性のなかにある権力性 第5回 ケアされるという経験 第6回 ケアするという経験 第7回 ケアするーされる経験を越えて 第8回 ケアの現場が抱える課題～ケア関係とケアの成り立ち 第9回 いのちの起源をめぐる諸問題 第10回 いのちの価値をめぐる諸問題 第11回 人間の死と喪失体験、喪失と獲得 第12回 誕生と死をめぐるケア～喪失体験がもたらすグリーフ 第13回 グリーフケア(グリーフワーク)の展開と、生への問い 第14回 人間のいのちを生かすケアとは 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	参考文献・参考資料とも、随時、授業にて紹介していく。
評価方法	授業参加態度・感想:20% 提出物:30% レポート:50%		

教育学Ⅰ		前期 2 単位	1年
現代社会における教育とその問題		鈴木 俊之(すずき としゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育に関する初歩的な幅広い知識を獲得する、2. その知識を用いて、現在の教育現象を簡潔に説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	講義形式で行う。前半は教育の理論的・原理的な事柄について扱う。中間まとめではその内容を理解しているかをテストする。後半は教育の制度的・社会的事柄について扱う。毎回授業の終了後にルーチェ・フォリオにて授業の理解度を測る。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 教育とは何かⅠ 教育の定義 自然環境と社会環境 第3回 教育とは何かⅡ 発達 学習 社会の中の教育 第4回 教育の歴史Ⅰ 制度としての教育の発生 第5回 教育の歴史Ⅱ 公教育制度の歴史 第6回 教育内容Ⅰ 教育課程の歩みⅠ(戦前～戦後初期) 第7回 教育内容Ⅱ 教育課程の歩みⅡ(1960年代～2000年代) 第8回 教育内容Ⅲ ゆとり教育 第9回 中間まとめ 第10回 教育行政Ⅰ 学校教育制度 第11回 教育行政Ⅱ 教育を受ける権利 第12回 国際化と教育 第13回 宗教と教育 第14回 教育改革と現在 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	黒崎・大田編『学校をよりよく理解するための教育学』シリーズ、学事出版：江原・山崎編『基礎教育学』放送大学教育振興会、2007年ほか
評価方法	試験:70% 中間まとめ:25% 平常点:5%		

教育学Ⅱ		前期 2 単位	2年
現代社会の変化と教育の課題		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育社会学に関する基礎的な知識を獲得する、2. その知識を使用し、教育現象を社会的に説明する、3. ポスト工業化社会における教育問題について記述する、事ができるようになる。		
授業の概要	教育の社会的分析を通じて、現代社会における教育の諸問題について考える。内容的には教育学Ⅰよりも発展的になるため、教育と社会、経済の関係などに興味がないと履修は厳しい。講義では毎回スライドを使って講義し、ルーチェ・フォリオあるいはミニッツ・ペーパーの提出を求める。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 教育の発展と社会Ⅰ 近代国家と教育 第3回 教育の発展と社会Ⅱ 教育の社会的機能 第4回 階層と学歴 第5回 経済現象としての教育Ⅰ 人はなぜ学校へ行くのか 第6回 経済現象としての教育Ⅱ 社会的投資としての教育 第7回 カリキュラムと社会 第8回 中間まとめ 第9回 才能教育の現在 第10回 少年非行 第11回 学校の病理 第12回 多文化社会と教育 第13回 高等教育の社会学 第14回 教育改革の現在 第15回 前期まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	天野他著『教育社会学』改訂版 放送大学教育振興会 1998年;金子・小林著『教育の政治経済学』放送大学 教育振興会 2000年など
評価方法	試験:80% 平常点:20%		

教育人間学		前期 2 単位	2・3年
変貌する子ども世界と現代		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 第二次世界大戦後の社会の変化について、2. 新たな子ども観と変化する子ども—大人関係について、理解できるようになる。また3. そうした変化を理解した上で、これからの子どもやそれを取り巻く関係について深く洞察できるようになる。		
授業の概要	講義形式ではあるが、少人数によるグループワークを重視して行う。受講生には毎回テキストを読み込み、A4一枚程度のレジュメを作成した上で、授業に臨んでもらう。ハードワークのため覚悟して受講すること。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 人口異変と学校教育の対応Ⅰ ①～③ 第3回 人口異変と学校教育の対応Ⅱ ④～⑥ 第4回 子どもの身体の戦後処理Ⅰ ①～③ 第5回 子どもの身体の戦後処理Ⅱ ④～⑥ 第6回 メディア社会と子どもⅠ ①～③ 第7回 メディア社会と子どもⅡ ④～⑥ 第8回 娯楽雑誌の市民権Ⅰ ①～③ 第9回 娯楽雑誌の市民権Ⅱ ④～⑥ 第10回 食品市場の救世主Ⅰ ①～③ 第11回 食品市場の救世主Ⅱ ④～⑥ 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 まとめ		
テキスト	本田和子『変貌する子ども世界』中公新書、1999年。	参考文献	特になし
評価方法	平常点（発表・レジュメ含む）:70% レポート:30%		

世界の教育		後期 2 単位	2・3年
比較教育学を学ぶ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	比較教育学とは「世界の国や文化圏における教育を、歴史的、現代的な視点から、比較し、また、それぞれのあいだのさまざまな関係や、国、文化圏における世界(地球)的な関係などを明らかにし、教育の本質的なあり方を究めようとする学問」である。本講義では様々な教育現象に対して比較教育的に考察するスキルを身につけてもらう。		
授業の概要	基本的に講義形式で行う。スライドを用いて行い、毎回ルーチェ・フォリオあるいはミニッツ・ペーパーの提出を求める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 日本の教育 第3回 アメリカの教育 第4回 イギリスの教育 第5回 韓国の教育 第6回 東南アジアの教育 第7回 中間まとめ 各国の教育制度から見てくること 第8回 学力の国際比較Ⅰ PISA・TIMSSの結果より 第9回 学力の国際比較Ⅱ 各国の教育改革 第10回 いじめの国際比較Ⅰ いじめの定義 日本の現状 第11回 いじめの国際比較Ⅱ 英国・オランダ・ノルウェーとの比較 第12回 子育て支援の国際比較Ⅰ 日・米・英・韓・中の制度比較 第13回 子育て支援の国際比較Ⅱ 保育の質の国際比較 第14回 宗教教育の国際比較 第15回 まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	試験あるいはレポート:80% 平常点:20%		

キリスト教と教育		前期 2 単位	2・3年
キリスト教と「いのち」の教育。		野村 祐之（のむら ゆうし）	
授業の到達目標 及びテーマ	ヒトにとって最も根源的な問いは「いのち」の問題でしょう。その「いのち」がいま危機的状況にあります。IT革命、環境問題をはじめ、個人レベルから地球レベルまで、人類の考え方に大転換が迫られています。聖書の世界観、人間観に光を当て「いのち」の深い理解を獲得し、それに基づく「いのち」の教育の可能性を探ります。		
授業の概要	講義あるいは研究発表の形で課題を提示し、ディスカッションで問題点の把握と自分なりの理解を得ます。ビデオ映像などを多用し、事実即して具体的に学びます。毎回、レスポンスシートを記入し、自分の理解を整理します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーションと自己紹介。 第2回 21世紀、キリスト教の暦と現代人の生活。 第3回 キリスト教の一週間と一年間。教会暦は太陽暦。 第4回 「ひと」とは何か：「心身」と「身体性・知性・霊性」。 第5回 聖霊降臨日・聖霊と、キリスト教会誕生の物語。 第6回 「聖霊と霊性」：キリスト教的人間観のカギ 第7回 「こころ」とは何か。日本語・英語・科学の言葉。 第8回 「こころ」を育む教育と「良心」。 第9回 「いのち」とは何か。日本語・英語・科学の言葉。 第10回 聖書の「いのち」：「ビオス」と「ゾーエー」 第11回 生命倫理と、聖書に見る「いのち」と「いやし」。 第12回 復活の主、キリスト。「生と死」そして「永遠の命」。 第13回 教育者、イエス。その教えの核心と「幼な子」。 第14回 キリスト教教育の現代的課題と未来のビジョン。 第15回 「まとめ」と、テストあるいはインタビューによる評価		
テキスト	聖書（旧約、新約そろいのもの）は毎回必要。特定の教科書はありませんが毎回、資料を配布あるいは指定します。	参考文献	各回の主題に応じてプリントなどの資料を配布し、関連する参考資料等はそのつど紹介します。
評価方法	授業への積極的参加：40% レスポンスシート：30% レポート2回：30%		

幼児教育史		後期 2 単位	3年
歴史の中の子ども—教育と選抜		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標及びテーマ	この授業を受けた者は、1. 教育における選抜の歴史についての知識を獲得する、2. 現在の状況を歴史的観点、教育学的観点から説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	「お受験」という言葉が定着して久しいが、そもそも教育システムは選抜機能を持っているからこそ社会システムの一部として発達したといえる。本講義ではそもそも教育がいかんして近代国家に取り込まれていったのか、そしてどのように選抜システムが日本社会で学歴社会を生み出したのかについて扱う。ゼミ形式のため、予習および発言を重視す		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 近代化と試験の時代 第3回 試験と選抜の伝統 第4回 教育と試験の制度化 第5回 小学校から中学校へ 第6回 高等教育と試験制度 第7回 資格試験制度の成立 第8回 中間まとめ 第9回 官僚任用試験と学歴主義 第10回 帝国大学への道 第11回 受験の世界—一九〇〇年前後 第12回 試験と上昇移動の道 第13回 試験の近代・テストの現代 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2		
テキスト	『試験の社会史—近代日本の試験・教育・社会』 増補版、平凡社、2007年。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

保育原理 I		前期 2 単位	1年
乳幼児が「育つ」ということ、保育の役割と課題		阿部 真美子（あべ まみこ）	
【授業の到達目標及びテーマ】 この講義は、乳幼児が育つことについて考え、理解し、多角的な視点から幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、幼児教育・保育にかかわる仕事の重要性和責任感について理解することをねらいとしています。			
【授業の概要】 多岐にわたるたくさんの知識について学んでいただく講義が中心となりますが、視聴覚教材や補助のプリントなども使用します。			
【授業計画：前期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績評価の出し方等の説明 第2回 保育の意義と目的—保育の意義（幼稚園、保育所） 第3回 保育の意義と目的—家庭との連携、保育所保育指針、幼稚園教育要領 第4回 保育の基本・理念—保育所保育と幼稚園教育 第5回 保育の基本・理念—保護者との連携、保育者の倫理観 第6回 保育における目標・内容・方法—生活・遊びを通しての総合的な保育 第7回 保育における目標・内容・方法—保育における「個」と「集団」の意義 第8回 ミニテスト（第7回までの内容を確認することを目的） 第9回 保育思想—欧米 第10回 保育思想—日本 第11回 保育の現状と課題—諸外国（ヨーロッパ） 第12回 保育の現状と課題—諸外国（アメリカ） 第13回 保育の現状と課題—東アジア、北米 第14回 保育の現状と課題—日本 第15回 前期授業のまとめ（試験）			
【テキスト】 『実践的 保育原理』（三晃書房） 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）			
【参考文献】 授業の中で随時紹介します。			
【評価方法】 「平常点（授業への積極的な参加、課題作業レポート、ミニレポート、ミニテスト等）」60%及び「定期試験」40%によって評価する			

保育原理Ⅱ		後期 2 単位	1年
保育原理Ⅱ		村知 稔三（むらち としみ）	
授業の到達目標及びテーマ	「乳幼児の変化と保育の公共性」をテーマとする本講義の到達目標は、保育の理念・歴史・思想の基本的な推移を理解し、保育に関する社会的・制度的・経営的事項をめぐる現代的課題について考察することである。		
授業の概要	前期の「保育原理Ⅰ」を踏まえ、講義の前半では乳幼児の成長・発達や保育の様子を実践記録にもとづいて検討し、保育の理念・歴史・思想の理解を深める。後半では「構造改革」のなかで大きく変化している保育の実態を主に社会的・制度的・経営的側面から分析する。最後に保育の公共性の現代的意義について考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 講義のねらい・内容・進め方などの説明</p> <p>第 2回 近代欧米社会と保育</p> <p>第 3回 現代欧米社会と保育</p> <p>第 4回 戦前日本社会と保育</p> <p>第 5回 戦後日本社会と保育</p> <p>第 6回 乳児保育の変遷</p> <p>第 7回 幼児保育の変遷</p> <p>第 8回 中間まとめと小レポート</p> <p>第 9回 保育施設の性格と特徴</p> <p>第10回 戦後日本の保育行政の変遷</p> <p>第11回 現代日本の保育行政・経営の課題</p> <p>第12回 乳児期の保育実践の特徴と課題</p> <p>第13回 幼児前半期の保育実践の特徴と課題</p> <p>第14回 幼児後半期の保育実践の特徴と課題</p> <p>第15回 後半と全体のまとめ</p>		
テキスト	講義中で配布する資料など	参考文献	講義中に提示
評価方法	小レポート:30% 試験:70%		

保育者論		前期 2 単位	2年
保育者の専門性とあるべき姿		阿部 真美子（あべ まみこ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>具体的に保育者の生活と姿、保育者として必要な専門的知識、倫理感について再確認し、新しい保育課題と向きあう保育者の在りようについて考えます。この講義の終わりにはそれぞれの目指す保育者像を描くことができることを期待しています。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>この講義は2年次前期で実施される幼稚園実習を念頭に行います。実践的に保育者の在りようを考え、グループ討議を含みます。</p> <p>【授業計画：前期】</p> <p>第 1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績の評価方法等の説明</p> <p>第 2回 保育者とは何か</p> <p>第 3回 幼稚園教育要領と保育所保育指針にみる保育者像</p> <p>第 4回 保育者の職務</p> <p>第 5回 保育者に求められる専門性と人間性</p> <p>第 6回 子どもを守る保育者</p> <p>第 7回 保育者の知識・技術及び判断、省察</p> <p>第 8回 保育課程・指導計画に基づく保育の展開と自己評価</p> <p>第 9回 学校教育における乳幼児教育の位置づく一連続性と一貫性</p> <p>第10回 連携一家庭</p> <p>第12回 連携・協働一保育者間、専門機関など</p> <p>第14回 専門性の向上</p> <p>第15回 まとめ（試験）</p> <p>【テキスト】</p> <p>『子どもの心によりそう 保育者論』（福村出版）</p> <p>【参考文献】</p> <p>授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】</p> <p>「平常点（授業への積極的な参加、課題作業レポート、ミニレポート、ミニテスト等）」60%及び「定期試験」40%によって評価す</p>			

保育課程論	後期 2 単位	1年
幼稚園教育の理解と実践の基礎	阿部 真美子 (あべ まみこ)	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 主に幼稚園教育における教育課程について理解を深めますが、保育課程についても扱います。幼稚園教育における指導計画の作成、保育者の役割、環境構成と援助の方法、幼児理解、評価と改善、指導要録など具体的実践的に学びます。</p> <p>【授業の概要】 この講義は1年次後期で実施される幼稚園実習を念頭に行います。講義に加え課題作業によって実践のための基礎力を養います。</p> <p>【授業計画:後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 講義のねらい、進め方、参考文献、成績の評価方法等の説明 第 2回 指導案の作成と検討 (1) 部分実習指導案の考え方と組み立て 第 3回 指導案の作成と検討 (2) 部分実習指導案の作成 第 4回 指導案の作成と検討 (3) 部分実習指導案の作成 第 5回 指導案の作成と検討 (4) 部分実習指導案のまとめ 第 6回 幼稚園における生活 第 7回 保育・教育課程の考え方 第 8回 指導計画の考え方 第 9回 保育・教育課程の編成と展開 第10回 指導計画の作成と展開 第11回 保育の省察及び記録 第12回 保育者及び保育施設における自己評価 第13回 指導要録などの作成 第14回 事例研究 第15回 まとめ (試験) <p>【テキスト】 『保育・教育課程論』(福村出版)、『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)</p> <p>【参考文献】 授業の中で随時紹介します。</p> <p>【評価方法】 「平常点(授業への積極的な参加,課題作業レポート,ミニレポート,ミニテスト等)」60%及び「定期試験」40%によって評価す</p>		

子どもと環境	前期 2 単位	1・2年
幼児教育・保育における子どもと自然環境・社会環境とのかかわり	大澤 力(おおさわ つとむ)	
授業の到達目標及びテーマ	本講義は、幼稚園・保育所・こども園などで生活する子ども達の心身の発達特性を踏まえ、そのふさわしい自然環境・社会環境とのかかわり方を領域「環境」の理解を基盤に学ぶものである。学生自身の乳幼児期の生活体験や学外実習体験など実践と講義における理論の融合を通して、理解力と実践力が身に付くよう工夫した授業展開を心掛ける。	
授業の概要	授業は、講義とグループワーク・模擬保育や実践活動も取り入れつつ、理論と実践が身に付くよう工夫して展開する。さらに、OHC・パソコン・DVDなど視聴覚教材を活用し子どもと環境に対する理解を深める。	
授業計画	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1回 はじめに 保育内容「環境」とは 第 2回 子どもと身近な環境①自然環境とのかかわり 第 3回 子どもと身近な環境②社会環境とのかかわり 第 4回 子どもと身近な環境③自宅周辺環境の散歩地図作り 第 5回 子どもと身近な環境④自宅周辺環境の散歩地図作り 第 6回 子どもと身近な環境⑤散歩地図実踏調査報告 第 7回 子どもと身近な環境⑥散歩指導案作成 試験・評価 第 8回 動植物とのかかわり①保育における飼育栽培の実際 第 9回 動植物とのかかわり②飼育活動(アルテミア) 第10回 動植物とのかかわり③栽培活動(ハツカダイコン) 第11回 動植物とのかかわり④キャンパス内散歩 試験・評価 第12回 子どもと身近な科学あそびの実際 第13回 身近な標識・記号および数量・図形・時間などの概念形成 第14回 子どもと環境教育の実際 第15回 まとめ 試験・評価 	
テキスト	「幼児の環境教育論」大澤 力著(文化書房博文社) 印刷資料も併用する	参考文献 幼稚園教育要領・保育所保育指針および図書館カウンターにある2013年度指定参考図書目録を参照
評価方法	筆記試験:30% レポートおよび作品:30% 授業への取り組み状況:40%	

子どもと環境		後期 2 単位	1・2年
幼児教育・保育における子どもと自然環境・社会環境とのかかわり		大澤 力（おおさわ つとむ）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義は、幼稚園・保育所・こども園などで生活する子ども達の心身の発達特性を踏まえ、そのふさわしい自然環境・社会環境とのかかわり方を領域「環境」の理解を基盤に学ぶものである。学生自身の乳幼児期の生活体験や学外実習体験など実践と講義における理論の融合を通して、理解力と実践力が身に付くよう工夫した授業展開を心掛ける。		
授業の概要	授業は、講義とグループワーク・模擬保育や実践活動も取り入れつつ、理論と実践が身に付くよう工夫して展開する。さらに、OHC・パソコン・DVDなど視聴覚教材を活用し子どもと環境に対する理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに 保育内容「環境」とは 第2回 動植物とのかかわり①保育における飼育栽培の実際 第3回 動植物とのかかわり②飼育活動（アルテミア） 第4回 動植物とのかかわり③栽培活動（チューリップ） 第5回 動植物とのかかわり④キャンパス内散歩 試験・評価 第6回 子どもと身近な環境①自然環境とのかかわり 第7回 子どもと身近な環境②社会環境とのかかわり 第8回 子どもと身近な環境③自宅周辺環境の散歩地図作り 第9回 子どもと身近な環境④自宅周辺環境の散歩地図作り 第10回 子どもと身近な環境⑤散歩地図実地調査報告 第11回 子どもと身近な環境⑥散歩指導案作成 試験・評価 第12回 子どもと身近な科学あそびの実際 第13回 身近な標識・記号および数量・図形・時間などの概念形成 第14回 子どもと環境教育の実際 第15回 まとめ 試験・評価		
テキスト	「幼児の環境教育論」大澤 力著（文化書房博文社） 印刷資料も併用する	参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針および図書館カウンターにある2014年度指定参考図書目録を参照
評価方法	筆記試験:30% レポートおよび作品:30% 授業への取り組み状況:40%		

子どもと人間関係		後期 2 単位	1年
保育における人間関係の探究		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」における領域「人間関係」の目指す内容を具体例を通して理解する。 ○ 乳幼児期の人間関係の発達について理解する。 ○ 保育者として乳幼児にどうかかわることが望ましいのかを理解する。 		
授業の概要	教育要領、保育指針における教育の基本を把握し、領域「人間関係」のねらいや、内容について、具体的な事例や映像を交えて考えていく。その際、人間関係の発達についても概観する。さらには、保育者同士の人間関係の重要性、保育者と保護者の人間関係の重要性についても学んでいく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 はじめに 保育の基本とは何か 第2回 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「人間関係」とは 第3回 子どもと人間関係を支える保育者の役割 第4回 乳幼児期の発達と領域「人間関係」 第5回 子どもの言葉と人間関係 第6回 子どもの遊びと人間関係 第7回 個と集団の育ち（集団化へのプロセス） 第8回 子どもの生活と人間関係 第9回 子どもの活動と人間関係 第10回 園行事と人間関係 第11回 地域とのかかわり他 第12回 小学校との連携 第13回 保育者同士の人間関係 第14回 保護者との人間関係 第15回 まとめ		
テキスト	浅見均 編著 『子どもと人間関係』 大学図書出版 2010年	参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』
評価方法	授業への参加態度:20% 授業感想文:10% 試験:70%		

子どもと言葉		後期 2 単位	2年
「子どもの言葉・自分の言葉・保育者としての言葉」を客観的に捉える		内田 紀子（うちだ のりこ）	
授業の到達目標及びテーマ	子どもの言葉は生活と遊びの中でどのような位置を占め、環境とどのように結びついているのか、言葉と発達・環境の関係を理解する。また、保育者は子どもの言葉をどう受け止め、どのように関わることができるのか、保育者の言葉の役割について理解する。更に、自分自身の言葉を客観的に捉えることで、言葉の持つ力を再確認する。		
授業の概要	最初に「言葉」が持つ力や意味について確認し、「自分の言葉」「子どもの言葉」「保育者としての言葉」について学ぶ。事例や実習での経験を基に話し合い、学びを深める。又、後半では各グループで課題を設定し、発表しあう。ペアやグループでの活動を通して、受講者同士で学び合う形で授業を進める。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 「言葉で伝えること」の意味 第3回 自分自身の言葉 第4回 子どもの言葉（感情体験と言葉） 第5回 子どもの言葉（書き言葉が広げる世界） 第6回 外国語を母語とする子どもの言葉 第7回 ことば遊び 第8回 保育者の言葉の役割（信頼関係から生み出される言葉） 第9回 保育者の言葉の役割（子どもの思いを受け止める言葉） 第10回 幼稚園教育要領の「言葉」 第11回 課題準備 第12回 課題発表（グループ1） 第13回 課題発表（グループ2） 第14回 まとめ 第15回 試験及び振り返り		
テキスト	特になし	参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領解説』 その他随時紹介する
評価方法	試験:50% 課題:30% 授業・活動への参加度:20%		

子どもと言葉		後期 2 単位	2年
子どもの育ちにおける言葉について、保育の場をはじめとする生活全般における言葉の多様性への理解を深める		森 眞理（もり まり）	
授業の到達目標及びテーマ	・子ども（乳幼児）の言葉の育つ道すじを理解する ・子どもの言葉の発達に影響する環境について理解する ・領域「言葉」の捉え方とその内容について理解する		
授業の概要	子どもの育ちにおける言葉について、子どもの言葉の発達理論と保育内容「言葉」の理解を土台に、子どもの生活（遊びと学び）にて繰り広げられる言葉の世界を探究します。さらに、子どもの言葉の育ちの環境としての絵本をはじめとする児童文化やおとなの言葉の生活についても考えていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション：言葉との出会い・「私」の言葉考察 第2回 「言葉」と子どもの育ち（1）：乳児期 第3回 「言葉」と子どもの育ち（2）：幼児期 第4回 「言葉」と環境（1）：人との関係 第5回 「言葉」と環境（2）：モノとの関係 第6回 「言葉」と環境（3）：地域社会・文化との関係 第7回 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』と領域「言葉」 第8回 領域「言葉」と小学校教科との関係 第9回 「言葉」と児童文化（1）：おはなし・絵本 第10回 「言葉」と児童文化（2）：紙芝居・パルシター・人形劇 第11回 「言葉」と児童文化（3）：演ずることからの学び 第12回 「言葉」をめぐる課題(1)：特別なニーズの子ども 第13回 「言葉」をめぐる課題(2)：母語・外国語（英語）教育 第14回 「言葉」をめぐる課題(3)：「子どもの100の言葉」 第15回 まとめとふりかえり・展望		
テキスト	小田豊・芦田宏編著『保育内容 言葉』北大路書房(2011) 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』	参考文献	・戸田雅美編著『演習保育内容言葉』建帛社(2011) ・ガディエーニら編『子どもたちの100の言葉 レッジョ・エミリアの幼児教育』世織書房(2001)・その
評価方法	授業省察(出席カード):40% 期末試験:60%		

子どもと表現		後期 2 単位	3年
保育実践における表現（総合的芸術表現）の在り方。		吉仲 淳（よしなか あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	「保育は芸術なり」とも言われるが、子どもの日常そのものが芸術として捉えることができる。その子どもの生きる環境において幾重にもなった関係の中で繰り広げられる表現そのものが子どもの存在観やその宇宙を形成する。本講座では、人間としてまた保育する立場としてこれらの事柄を探索し、本来持つ根源的欲求としての表現の在り方を見つめな		
授業の概要	テーマにしたがって保育実践でのエピソードなどを用いて進める。各単元での意見や考察を振り返りとして小レポートを提出する。なお保育だけに偏ることなく、今日の芸術表現にも焦点を当て、表現本来の意義を探る。講義形式で進められるが、「表現」という領域をテーマとするため、演習的な要素も導入し、表現世界を体感する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 他 第2回 子どもの世界と表現 第3回 環境と音 その表現1：秋の歌 第4回 環境と音 その表現2：サウンドスケープ 第5回 芸術表現とその教育 第6回 海外の表現教育について 第7回 芸術表現と身体：音からのアプローチ 第8回 芸術表現と身体：絵本を用いて 第9回 演習 1（制作） 第10回 演習 2（発表） 第11回 文化とその表現 第12回 文化とその表現 プレゼンテーション1 第13回 文化とその表現 プレゼンテーション2 第14回 まとめ 第15回 ディスカッション：課題レポートをもとに		
テキスト	『子どもと表現』 浅見均編著（日本文教出版）	参考文献	授業時間内で紹介する。
評価方法	レポート課題:40% コメント等の提出物:30% 取り組みや発言など:30%		

保育方法研究		後期 2 単位	2年
幼児期における保育方法の探究		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標 及びテーマ	○ 保育方法の基本として、乳幼児の特性、保育の原理、方法などについて理解する。 ○ 様々な主義や保育形態について理解し、保育の中でどう生かしていくことが望ましいのかということについて理解する。		
授業の概要	保育の方法について、主義、形態、環境等、様々な観点からその在り方を探る。授業展開としては、授業内講演者を招いたり、映像を見たりしながら具体的に考えていくことにより、幼児にふさわしい保育の方法のあり方について理解を深めることを中心とする。尚3名の保育実践者を招いて話を伺う予定である。		
授業計画	【後期】 第1回 保育方法研究の意義 第2回 保育方法の基本 第3回 様々な主義に基づく保育 （1）キリスト教保育など 第4回 様々な主義に基づく保育 （2）モンテッソーリメソッド 第5回 様々な保育形態による保育 （1）自由保育形態など 第6回 様々な保育形態による保育 （2）共生保育など 第7回 子どもの遊びをどう援助するか 第8回 保育環境の考え方 （1）表現を中心とした保育展開 第9回 保育環境の考え方 （2）レッジョエミリア市の保育 第10回 保育における情報機器及び教材の活用 第11回 保育方法とカリキュラム 第12回 保育方法と園行事 第13回 保育方法と保育記録 第14回 指導要録の記入の実際（保育記録を活かす） 第15回 まとめ		
テキスト	浅見均・田中正浩 編著『保育方法の探究』 大学図書出版 2009	参考文献	授業の中で指示
評価方法	授業への参加態度:20% ミニレポート:10% 試験:70%		

保育内容総論		前期 2 単位	3年
保育内容各論の学びを統合し保育内容を総合的に捉える視点を持つ		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 幼稚園・保育所の実際を振り返り、乳幼児の発達、生活の基本など再確認する。2. 保育内容の史的変遷及び「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の基本理解をし、保育内容を総合的に捉える視点を持つ。3. 子どもの主体的な活動を保障する環境の設定、遊びを通しての総合的指導、保育内容を具体化する指導計画の作成、評価の基本を学ぶ。		
授業の概要	実習体験や保育内容各論（5領域）の学びを統合して保育を総合的に考えることができるように、		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション及び授業の進め方 第2回 保育の基本と保育内容 第3回 保育の特質 第4回 保育内容の変遷 第5回 幼児の発達と生活 第6回 幼児理解と保育内容 第7回 環境と保育内容 第8回 遊びと学び 第9回 保育内容とメディア利用 第10回 保育内容と保育の計画保育内容と保育の展開 第11回 保育の評価と記録 第12回 保育者の役割 第13回 保育内容における現状と課題 第14回 今日の保育の課題と保育内容 第15回 まとめ		
テキスト	浅見均・田中正浩編著『保育内容総論』大学図書出版 2013	参考文献	授業の中で適宜紹介
評価方法	授業への参加態度:30% レポート:10% 試験:60%		

保育内容総論		後期 2 単位	3年
保育内容について視野を広げ、子どもの発達と保育内容のかかわりについて理解を深める		阿部 真美子（あべ まみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	①共通の実践材料についての確に理解する ②共通の実践材料について考え意見を出し合う ③共通の実践材料について意見をまとめ発表する		
授業の概要	2年半の学びを土台にして、共通に考えあう実践材料によって、さまざまな視点から保育内容について催行してみたいと思います。理解し、考えあい、意見を出し合うという方法で進めていきます。実践材料としては、自由保育、集団保育、モンテッソーリ教育、フレネ教育、レッジョ・エミリア・アプローチ、プロジェクト型保育等を映像やプリントで		
授業計画	【後期】 第1回 はじめに一授業の趣旨、進め方などの説明、グループを作る 第2回 自由保育について考える（その1） 第3回 自由保育について考える（その2） 第4回 集団保育について考える（その1） 第5回 集団保育について考える（その2） 第6回 自由保育か集団保育か 第7回 個の教育と環境構成—モンテッソーリ教育 第8回 個の教育と環境構成—モンテッソーリ教育 第9回 個と集団の学び—フレネ教育 第10回 個と集団の学び—フレネ教育 第11回 レッジョ・エミリア・アプローチについて考える（その1） 第12回 レッジョ・エミリア・アプローチについて考える（その2） 第13回 プロジェクト型保育について考える（その1） 第14回 プロジェクト型保育について考える（その2） 第15回 まとめ		
テキスト	特にありません	参考文献	授業内で随時紹介します
評価方法	ミニレポート:20% 授業、グループ討議への参加:20% プレゼンテーション:20% 定期試験:40%		

保育・教職実践演習（幼稚園）	後期 2 単位	3年
教養豊かで魅力あふれる大人としての保育者を目指して		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、上村 真理子（かみむら まりこ）、荘司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 幼児の傍らに寄り添う大人としての保育者はどうあるべきかについて、様々な視点より考え、討論し、子どもにとって魅力的な存在とはどのようなものかについて気付いていく（保育者として最小限必要な資質、能力の確認）。</p> <p><授業の概要> 当該科目の意義を自覚し、保育職の意義、保育者の役割、人間関係構築、幼児理解、保育内容の豊かな検討、クラス経営などについて、教職担当教員、教科に関する科目担当教員、幼稚園現職教員、保育士科目担当教員などが協力して教養及び感性豊かで魅力ある保育者に向けて授業展開をしていく。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション（演習の目的、計画等）（浅見） 第2回 子どもの育ちを支えるとは 講義と討議（上村） 第3回 環境構成と保育の見通し 講義と討議（荘司） 第4回 保育場面設定 ロールプレイ準備（浅見・上村・荘司） 第5回 保育場面設定によるロールプレイ（浅見・上村・荘司） 第6回 幼児期の豊かな造形表現 講義と討議・小論（久保） 第7回 幼児の発達理解と保育 講義・討議・小論（菅野） 第8回 幼児期の豊かな言語生活 講義・討議・小論（さくま） 第9回 保育の本質について講義・討議・小論（阿部） 第10回 保育の現状と課題1 討議（杉田・村知・横堀） 第11回 保育の現状と課題2 討議（杉田・村知・横堀） 第12回 保育の現状と課題3 討議（杉田・村知・横堀） 第13回 「保育から学んだ事」発表会 合同（杉田・村知・横堀） 第14回 「保育から学んだ事」発表会 合同（杉田・村知・横堀） 第15回 まとめ 合同</p> <p><テキスト>特に指定しない <参考文献>必要に応じて適宜示す <評価方法>授業への参加態度:40% レポート:60%</p>		

メディアと子ども	後期 2 単位	2・3年
子どもとメディアのよりよい関係		向田 久美子（むかいだ くみこ）
授業の到達目標 及びテーマ	現代の子どもは、生後すぐからテレビやテレビゲーム、DVD、携帯電話、PCなどの電子メディアに囲まれて育つ。これらのメディアは子どもの知的・情緒的・社会的発達にどのような影響を及ぼすのだろうか。また、子どもの発達を支える大人として、私たちに何ができるのだろうか。これらの点について、最新の研究成果や事例、映像を通して理解を深め	
授業の概要	毎回資料を配布し、客観的データに基づきながら、メディアのさまざまな影響力について解説する。また、関連する映像の視聴を通して、メディアの制作技法やその効果についても説明する。ディスカッションやリアクション・ペーパーを通して、なるべく双方向的な形で授業を進めていきたい。	
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 メディア視聴の実態：乳幼児期 第3回 メディア視聴の実態：児童期 第4回 子どもがメディアに引きつけられる理由 第5回 メディアの影響を研究する方法 第6回 メディアと認知能力 第7回 メディアと暴力（1）短期的影響 第8回 メディアと暴力（2）長期的影響 第9回 メディアと不安心理 第10回 メディアと社会性 第11回 メディアとジェンダー 第12回 メディアと身体イメージ 第13回 メディアと人種ステレオタイプ 第14回 メディア・リテラシーの育成 第15回 子どもとメディアのよりよい関係を支援するために</p>	
テキスト	特に指定しない。資料を適宜配布する。	参考文献 『メディアと人間の発達』（坂元章編，学文社）
評価方法	レポート:55% 授業感想文:45%	

教育心理学Ⅰ		前期 2 単位	1年
人々との関係のなかで育つこころ		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の心身の発達と学習について、“教える育てる一学び育つ”という関係性に注目して学ぶ。講義を通して、さまざまな人々との関係のなかで乳幼児の心身が育まれていくことを理解する。障害をもつ乳幼児の心身の発達についても同様に学び、“障害”や“遅れ”といった概念のとらえ方を考えるとともに、個々の発達障害についても具体的に理解する		
授業の概要	講義形式で行う。まず生涯発達および関係性の観点から発達と学習をとらえ、続いて乳幼児期の人間関係がどのように形成されていくかについて明らかにする。障害に関しては、まず“障害”をどうとらえるかについて、自身の障害観を振り返りながら考えていく。具体的な子どものイメージを膨らませながら理解できるように事例を多くを用いる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 心理学とは、教育心理学とは 第2回 発達とは～生涯発達の観点から 第3回 生涯発達における乳幼児期 第4回 学習とは～関係性のなかでの学ぶ 第5回 関係の中で育つ（1）胎児期 第6回 関係の中で育つ（2）新生児期 第7回 関係の中で育つ（3）信頼関係の形成 第8回 関係の中で育つ（4）自我の芽生え 第9回 関係のなかで育つ（5）集団生活のはじまり 第10回 関係のなかで育つ（6）仲間とのかかわり 第11回 発達をつまづき（1）障害とは、発達の遅れとは 第12回 発達をつまづき（2）発達障害～自閉症スペクトラム 第13回 発達をつまづき（3）発達障害～ADHD、LD 第14回 発達をつまづき（5）障害をもつ子どもを育てること 第15回 まとめ：関係のなかで育つということ		
テキスト	岡本依子・菅野幸恵・塚田一城みちる「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」「エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て」 新曜社	参考文献	未定（授業内で随時紹介）
評価方法	定期試験：80% 課題等の提出状況：20%		

教育心理学Ⅱ		後期 2 単位	1年
ひとりの子どもの育ちから子どもの発達を知る・考える		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	教科書に描かれる子どもの発達は、抽象的で一般的な子どもの姿である。しかし私たちが実際に出会うのは、それぞれの“いま”を生きる、一人ひとりの具体的で特定の子どもである。この授業ではある子どもの誕生から小学校入学前までを追ったテキストをてがかりにして、子どもが育つ／子どもを育てるということとはどのようなことか理解する。		
授業の概要	テキストを順に読み進める。各自があらかじめテキストの指定された箇所を読み授業に臨む。毎回の授業ではテキストの内容について担当者が補足説明を行い、その後それぞれがテキストについて感じたこと、考えたことを発表する。授業でのディスカッションをふまえ、毎回最後にリアクションペーパーを提出する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 具体的な子どもの姿から見えてくること 第3回 誕生、家族になること 第4回 1歳前半：ものやひととのかかわり 第5回 1歳後半：“わたし”の芽生え 第6回 2歳前半：個性 第7回 2歳後半：自己主張の始まり、きょうだいの誕生 第8回 3歳前半：保育園に行くこと 第9回 3歳後半：知性のはじまり 第10回 4歳前半：競争心の芽生え 第11回 4歳後半：夢と死 第12回 5歳前半：友だち 第13回 5歳後半：家族 第14回 6歳：就学 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	矢野喜夫・矢野のり子「子どもの自然誌」ミネルヴァ書房	参考文献	未定。授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への取り組み：50% 期末レポート：50%		

発達心理学Ⅰ		前期 2 単位	2年
子どもの生活世界の探究		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児期の心身の発達および学習のプロセスについて、認知、感情、言葉、の各側面から学ぶ。授業を通して、乳幼児の認知、感情、言葉がどのようなプロセスを経て育まれるのかについて理解するとともにその世界への興味を深めていくことを目標とする。その上で、発達しつつある乳幼児を支えるおとなのかかわりについて理解を深めていく。		
授業の概要	演習形式で行う。毎回トピックに関わる事例を紹介し、具体的な保育場面での子どもの姿を通して子どもの生活世界についての理解を深める。認知に関しては他者視点の獲得のプロセスと幼児期独特の子どもの内的世界のありようを、感情に関しては表出と理解の双方について、言葉に関しては前言語期から会話が成立するまでのプロセスについて取り上		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 発達とは～年齢のなぞ 第2回 他者の心の理解（1）三項関係の成立 第3回 他者の心の理解（2）他者視点の獲得 第4回 想像力の発達 第5回 子どものうそ 第6回 子どもの記憶 第7回 時間概念の発達 第8回 感情の発達 第9回 感情の理解 第10回 言葉の発達（1）前言語期 第11回 言葉の発達（2）語彙の獲得 第12回 言葉の発達（3）会話の成立 第13回 言葉の発達（4）読み書きことばの獲得 第14回 言葉の発達（5）障害と言葉 第15回 まとめ：乳幼児の発達とおとなのかかわり		
テキスト	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる 「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」「エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て」 新曜社	参考文献	未定（授業内で随時紹介）
評価方法	定期試験：50% 課題等の提出状況：20% 授業への取り組み方：30%		

発達心理学Ⅱ		後期 2 単位	2年
”わたし”の不思議		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「わたしはなぜ私なのか」「私はどこから来たのか」「私とは何者なのか」思春期から青年期にかけてこのような問いが頭からはなれなくなることがある。この授業では、思春期青年期の”わたし”をめぐる問題を考える。また”わたし（私）”という存在を考えると他者の存在は欠かせない。”わたし”と他者の関係性についてもあわせて理解する。		
授業の概要	演習形式で進める。毎回指定されたテキストを読みディスカッションを行う。まず”わたし”についての基本的知識および、人の生涯において思春期、青年期がどのような時期であるのかについて学ぶ。続いて”わたし”の揺らぎを取り上げたテキストに基づいて授業を進める。後半は他者との間でゆらぐ”わたし”に関するテキストを読み進める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 私・自分・自己 第3回 思春期とは 第4回 青年期とは 第5回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ①レールを降りる 第6回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ②自分のいる場を問う 第7回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ③自分らしさとキャラ 第8回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ④望ましい自分とは 第9回 いま・ここで揺らぐ”わたし” ⑤生の能動性と受動性 第10回 他者との間で揺らぐ”わたし” ①羞恥という感情 第11回 他者との間で揺らぐ”わたし” ②内なる他者 第12回 他者との間で揺らぐ”わたし” ③自閉症を生きる 第13回 他者との間で揺らぐ”わたし” ④マイノリティを生きる 第14回 他者との間で揺らぐ”わたし” ⑤他者とともに生きる 第15回 まとめ		
テキスト	大倉得史「拡散」ミネルヴァ書房、浜田寿美男「わたしをめぐる冒険」洋泉社ほか適宜授業内で紹介する。	参考文献	未定。授業内で適宜紹介する
評価方法	授業への取り組み方：50% レポート：50%		

生涯発達心理学		後期 2 単位	3年
子どもが育つということ、子どもを育てるということ		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	次世代を育成することは人の生涯発達において重要な課題の一つである。子育てとは文字通り子どもを育てることであるが、“育てよう”とするあまり、子どもの育ちを損ねてしまうこともあるし、育てるもの自身が苦しくなって追い詰められてしまうこともある。この授業では子育てが抱える矛盾、問題について理解していくことを目標とする。		
授業の概要	子育て／子育てに関する2冊のテキストをてがかりにしながら演習形式で進める。毎回指定されたテキストを読んだ上で授業に臨みディスカッションを行う。前半は文献①を用いて現代の子どもが置かれている状況を理解しつつ自身の子ども観、発達観をとらえ直す。後半は文献②を用いて子どもの育ちを支えるものの視点から障害や虐待について考える。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 「幼児期」についてのディスカッション① 第3回 「幼児期」についてのディスカッション② 第4回 「幼児期」についてのディスカッション③ 第5回 「幼児期」についてのディスカッション④ 第6回 「幼児期」についてのディスカッション⑤ 第7回 「幼児期」まとめ 第8回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション① 第9回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション② 第10回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション③ 第11回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション④ 第12回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション⑤ 第13回 「子どもの育ちをひらく」についてのディスカッション⑥ 第14回 「子どもの育ちをひらく」まとめ 第15回 全体まとめ		
テキスト	文献①岡本夏木「幼児期」岩波書店 文献②牧真吉「子どもの育ちをひらく」明石書店	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

臨床心理学		後期 2 単位	2年
臨床心理学		太田 沙緒梨（おた さおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	心の健康について、多角的に捉え、臨床心理学の基本的な知識を獲得することによって、日常生活における自らの心の健康増進に役立てることができるようになる。 自らの心の状態の変化に気がつき、適切な対処ができるようになる。		
授業の概要	心の健康を考える上で必要な臨床心理学の基本的な知識を網羅的に学べるように全体が構成されている。授業は、グループワーク形式と講義形式からなる。心の健康と病理、発達、ストレス、パーソナリティ、心理療法の5つの領域について概観する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 心の健康 第3回 心の病 第4回 乳幼児期の発達と危機 第5回 児童期・思春期青年期の発達と危機 第6回 成人期・老年期の発達と危機 第7回 ストレスとは～自分の状態を振り返る 第8回 ストレスマネジメント 第9回 パーソナリティの理論 第10回 パーソナリティの測定 第11回 精神分析的アプローチ 第12回 ヒューマニスティックアプローチ 第13回 認知行動療法 第14回 グループワーク 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。プリントを適宜授業内で配布する。	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	平常点（授業態度等）:30% 試験:70%		

臨床心理学Ⅱ		前期 2 単位	3年
臨床心理学Ⅱ		太田 沙緒梨（おた さおり）	
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児から学童期にある子どもと家族への支援のために、必要な知識ならびに援助の基本について理解する。 具体的には、子育て期にある現代社会の特徴と問題が分かる。 子育て支援が行われている場並びにそこで行われる心理臨床的アプローチの基本を理解する。		
授業の概要	全体を現代社会の特徴、支援の基本、子育て支援の実際の3つに分ける。現代社会の特徴では、核家族化や少子化等の特徴を知り、子育て支援の考え方について明らかにする。支援の基本では、親子の関係性の発達、心理教育、親乳幼児心理療法を概観する。子育て支援のフィールドでどのような支援が行われているかを概観する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 心理臨床的な家族支援とは 第3回 現代の子育て家族の危機 第4回 子ども虐待の防止と社会的対応 第5回 親子の関係性を捉える視点 第6回 子どもの発達と親子関係 第7回 親の心理教育 第8回 親子の関係性を促進するアプローチ 第9回 子育て・家族支援に関わる人とフィールド 第10回 ハイリスク傾向にある親子への家族支援 第11回 小児科での家族支援と実際 第12回 子どもの障害と家族支援の実際 第13回 周産期の家族支援の実際 第14回 社会的養護における家族支援の実際 第15回 まとめ		
テキスト	青木紀久代（編著）「いっしょに考える家族支援」 （明石書店）	参考文献	特になし
評価方法	平常点:30% 定期試験:70%		

小児保健学Ⅰ		後期 2 単位	1年
小児の心身を医学的に学ぶ		白子 純子（しらこ じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	成長発達の過程にいる小児の心身の健康が理解できる。子どもの一生に影響をおよぼす養育環境と保育の意義がわかる。小児の成長発達における身体的、精神的な変化を医学的・公衆衛生学的視点で考察できる。		
授業の概要	講義を中心に、場合によってはグループワークなども取り入れながら進める。理解を助けるため、新生児の人形・視聴覚教材・プリントなどを取り入れて説明する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 小児保健学の概要 第2回 小児保健学の意義・小児期の特徴 第3回 小児の形態的変化と保育 第4回 小児の身体発育の評価と保育 第5回 小児の発育と影響因子 第6回 小児の生理機能の発達と保育 第7回 小児の臓器・知覚等の機能発達と保育 第8回 小児の基本的生活習慣 ～睡眠～ 第9回 小児の基本的生活習慣 ～排泄～ 第10回 小児の基本的生活習慣 ～栄養～ 第11回 小児の基本的生活習慣 まとめ 第12回 小児期の病気の特徴 ～食物アレルギーなど～ 第13回 小児期の病気と保育 ウイルス感染症～細菌感染症など 第14回 小児期の病気と症状のまとめ 第15回 まとめ		
テキスト	岸井 勇雄 他著「子どもの保健」—理論と実際— 同 文書院	参考文献	随時紹介する
評価方法	定期試験:80% ミニテスト・提出物:10% 授業参加状況:10%		

小児保健学Ⅱ		前期 2 単位	2年
子どもの病気と看護		白子 純子（しらこ じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育・幼児教育において子どもの心身の健康と安全対策の重要性を理解する。免疫力の少ない子どもは病気にかかりやすいことを理解したうえで子どもの病気を学び対処の仕方を知る。症状を理解し看護の方法、援助方法を学ぶ。		
授業の概要	講義を中心に進める。理解を助けるため、新生児の人形・視聴覚教材・プリントなどを取り入れて説明する。内容は小児保健学Ⅰを基礎に進めるので復習しておくこと。子どもの病気や看護の方法を学ぶとともに、自分自身の健康管理を行える知識も同時に習得する。（その他トピックスとして重要なものについては適宜取り上げる）		
授業計画	【前期】 第1回 小児保健学Ⅰのおさらいと小児保健学Ⅱの概要 第2回 免疫について、感染症予防と予防接種 第3回 感染症疾患の看護と保育 第4回 消化器系の症状別看護と保育 第5回 呼吸器系の症状別看護と保育 第6回 その他の症状別看護と保育 第7回 小児の病気と看護 第8回 保育の中の保健指導 第9回 事故防止と安全教育 第10回 保育環境 第11回 学童期・思春期の問題と援助 第12回 児童福祉施設における保健対策 第13回 母子保健行政と保育との連携 第14回 集団保育における健康管理 第15回 まとめ		
テキスト	兼松百合子他著「子どもの保健実習」すこやかな育ちをサポートするために 同文書院	参考文献	小児看護学概論 小児臨床看護各論 その他適宜紹介する
評価方法	定期試験:80% ミニテスト・提出物:10% 授業参加状況:10%		

小児保健実習		後期 1 単位	2年
看護技術および方法、応急処置等の実践		白子 純子（しらこ じゅんこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	小児保健学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を基礎とし、保育現場において適切に実践できる健康観察や看護の方法、応急処置の技術および応用力を習得する。		
授業の概要	実習を中心に進める。新生児の人形を使用したり、友人同志で実習する。小児保健学Ⅰ・Ⅱの知識を基礎に進めるので復習しておくこと。現場で活用できるように真剣にかつ主体的な参加を望む。		
授業計画	【後期】 第1回 小児保健実習の意義 第2回 養護技術 そのⅠ着脱衣・オムツの交換他 第3回 養護技術 そのⅡ沐浴実習 グループA 第4回 養護技術 そのⅢ沐浴実習 グループB 第5回 保護者の育児不安など 第6回 小児の健康状態の観察と評価～生理的機能の観察と評価～ 第7回 小児の身体発育の測定とその評価 第8回 基本的な看護技術 子どもとくすり 第9回 基本的な看護技術 乳幼児の事故と応急処置 第10回 基本的な看護技術 三角巾法 第11回 乳幼児の事故の種類、事故防止の原則 第12回 応急処置 第13回 応急処置 乳幼児の心肺蘇生法 第14回 最近のトピックスほか、まとめ 第15回 まとめ		
テキスト	初回の授業時に指示するもののほか、「小児保健学Ⅰ」および「小児保健学Ⅱ」で使用したテキストを使用する	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	定期試験:80% 実習評価:10% 授業参加状況:10%		

子どもと健康		前期 2 単位	2年
小さな命と健康を守り育てる		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 乳幼児期の心と体の発達について理解する 2. 子どもの運動遊びの重要性を理解し、活動を援助できる 3. 子どもが身につけておくべき基本的な生活習慣や安全への知識について理解する		
授業の概要	子どもの発達を捉えた5領域の1つ「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目標としている。これらの内容について具体的な事例をもとに学習することで、子どもの心身の発達について理解し、保育者が行う援助や関わりに必要な知識と技術を習得する。		
授業計画	【前期】 第1回 子どもを取り巻く環境の変化と乳幼児期の健康 第2回 子どもの心と体の発達と健康 第3回 子どもの体の発達と体力・運動能力の発達 第4回 園庭環境と運動用具を使った遊び 第5回 集団・ルールのある遊び（鬼遊び） 第6回 集団・ルールのある遊び（ボール、縄） 第7回 安全管理と安全教育 第8回 いきいきとした心を育てる表現遊び 第9回 基本的な生活習慣の形成（衣服の着脱と排泄） 第10回 基本的な生活習慣の形成（食育） 第11回 運動意欲を育む園行事（運動会） 第12回 周辺環境を使った活動 第13回 季節の運動遊び 第14回 運動遊びの計画と指導案作成 第15回 計画の発表、振り返り、まとめ		
テキスト	保育内容「健康」 岸井慶子編、大学図書出版2009	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	レポート:50% 発表:30% 課題提出:20%		

子どものあそびと創造性		後期集中 2 単位	2・3年
たくさんの遊びやゲームなど、さまざまなおもしろさに接します。すぐれた遊びを実際に体験し、おもしろさとはなにかについて考察し、人に教えられるようにもします。		杉山 亮（すぎやま あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	たくさんの遊びを実際に楽しみながらおぼえます。おもしろい遊びを知っていて、その場にあわせて伝えられる力があると、子どもの前に立ったとき、必ず喜ばれるし、自分も楽です。また、その幸福な実感のうちに、大人子ども共に新しい発見や成長に至るまでの時間をつなぐことができます。		
授業の概要	教室で少人数にわかれて、すべて実際に遊び、古今東西のたくさんの遊びが自分のレパートリーになるようにします。どうしたら、もっとおもしろくなるかということも考えます。鉛筆とノートはいつも必要。時間によっては色鉛筆と折り紙が必要。体を使う遊びではころげまわってもいい服装が必要です。		
授業計画	【後期】 第1回 総論。ことば遊び。文字遊びいろいろ。なぞなぞなど。 第2回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。マルバツなど。 第3回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。二人ビンゴなど。 第4回 紙と鉛筆で机の上でするゲーム。恋占いなど。 第5回 ことば遊び。文字遊びいろいろ。はやくちことばなど。 第6回 おえかき。ぬり絵など。 第7回 カードゲーム。（トランプゲーム 基礎） 第8回 カードゲーム。（トランプゲーム 応用） 第9回 体を使った二人あそび。じゃんけんなど。 第10回 体を使った二人あそび。手遊び指遊びなど。 第11回 伝統あそび。ずいずいずっころばしなど。 第12回 体を使って大勢でするゲームいろいろ。 第13回 折り紙。 第14回 あやとり。 第15回 テストとレポート書き		
テキスト	テキストは使いません。かって大きい子が小さい子に伝えたように、すべて、口伝です。ときにプリントを使用します。	参考文献	なし。ただし、自分が子どもの頃、じっさいに遊んだ遊びを説明できるようにしててください。
評価方法	テスト:30% レポート:70%		

小児栄養学Ⅰ		後期 2 単位	2年
子どもの食生活と栄養		高橋 恭子 (たかはし きょうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 栄養や食品の基本的知識を習得し、自分自身の食生活を改善する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連を理解する。 3. 子ども各期の栄養特性と食生活のあり方を理解する。		
授業の概要	子どもの栄養と食の体験は心身の発育・発達に大きな影響を及ぼし、生涯にわたる健康と健全な生活の基盤となるものである。「小児栄養学Ⅰ」では栄養や食品についての基本的な事項および子どもの発育・発達と食生活の関連について講義をする。3年次開講の「小児栄養学Ⅱ」と併せて発育・発達に応じた適切な食育と保護者への支援を行う力を養ってい		
授業計画	【後期】 第1回 食生活の意義 第2回 栄養素の種類と機能 ①炭水化物、脂質 第3回 栄養素の種類と機能 ②たんぱく質 第4回 栄養素の種類と機能 ③ミネラル、ビタミン、水分 第5回 食べ物の消化と栄養素の吸収 第6回 食事摂取基準と献立、食事バランスガイド 第7回 子どもの発育・発達と食生活 ①子どもの食生活の特徴 第8回 子どもの発育・発達と食生活 ②摂食行動の発達 第9回 子どもの発育・発達と食生活 ③胎児期(妊娠期) 第10回 子どもの発育・発達と食生活 ④乳児期: 母乳栄養 第11回 子どもの発育・発達と食生活 ⑤乳児期: 人工乳栄養 第12回 子どもの発育・発達と食生活 ⑥乳児期: 離乳 第13回 子どもの発育・発達と食生活 ⑦幼児期 第14回 子どもの発育・発達と食生活 ⑧学童期・思春期 第15回 まとめ		
テキスト	飯塚美和子他『最新子どもの食と栄養』学建書院、石井克枝監修『新カラーチャート食品成分表』教育図書	参考文献	二木武他『小児の発達栄養行動』医師薬出版、坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』医師薬出版、幼児食懇話会編『幼児食の基本』日本小児医事
評価方法	筆記試験:70% 提出物:10% 学習態度:20%		

小児栄養学Ⅱ		前期 1 単位	3年
食育を実践するために		福留 奈美 (ふくとめ なみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもの発育・発達に応じた食生活のあり方や援助を理解する。 2. 子どもの食の現状と課題を理解する。 3. 食育の基本とその内容や食育の環境について理解する。		
授業の概要	この授業は「小児栄養学Ⅰ」の単位取得者を対象とする。「小児栄養学Ⅰ」で学んだ内容を踏まえながら、実習を通して子どもの発育・発達に応じた食のあり方への理解を深め、保育士としての対応を考える。調理実習の際にはエプロン、三角巾、ハンドタオル必携。長い爪やマニキュア等は衛生の観点から禁止する。実習後にはレポート提出を課す。		
授業計画	【前期】 第1回 衛生管理 第2回 乳汁栄養: 調乳 第3回 離乳期の食生活と栄養①離乳の基本と離乳の支援 第4回 離乳期の食生活と栄養②離乳食の進め方 第5回 離乳期の食生活と栄養③生後5~6ヶ月頃の食事 第6回 離乳期の食生活と栄養④生後7~18ヶ月頃の食事 第7回 幼児期の食生活と栄養①食生活の特徴と問題点 第8回 幼児期の食生活と栄養②幼児期の食事 第9回 幼児期の食生活と栄養③幼児の間食 第10回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第11回 児童福祉施設における食事と栄養 第12回 保育所給食 第13回 食育の基本と内容 第14回 保育所における食育 第15回 まとめ		
テキスト	「小児栄養学Ⅰ」で使用したテキスト(最新子どもの食と栄養、食品成分表)や配布資料を活用する。これに加え、毎回印刷教材を配布する。	参考文献	保育所における食育研究会編「乳幼児の食育実践へのアプローチ」児童育成協会児童給食事業部、現代と保育編集部編「食事で気になる子の指導」ひとなる書房
評価方法	筆記試験:40% レポート:40% 学習態度:20%		

精神保健論		前期 2 単位	3年
精神保健とは、日常生活への役立て方		矢花 芙美子（やばな ふみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	楽しく生きていけるようになるためにはどうしたらよいか？ 「精神保健」とは何か？ 具体的にどのようなことか？ 人間の精神を、精神医学的にはどうとらえ、どう考えていくか、を講義を通して理解してもらおう。そして、学生各自が自己理解を深め、精神的、肉体的に健康を保つことに対する対策を、各自で考えていけるようになることをめざす。		
授業の概要	精神保健の基本的なことを（精神医学についても）講義する。また講師の日常の臨床または経験を通して、どう病気というものに対応していくのかを語るつもりである。健康でいるためにはどうしたらいいのか、などを学生と対話しながら進めていきたい。		
授業計画	【前期】 第1回 精神保健とは 1 第2回 精神保健とは 2 第3回 心身の健康とは 第4回 自己理解について 第5回 他者理解について 第6回 精神医学 総論 第7回 精神医学 各論 第8回 児童期精神医学 第9回 青年期精神医学 第10回 統合失調症 1 第11回 統合失調症 2 第12回 うつ病 1 第13回 うつ病 2 第14回 双極性障害 第15回 高齢者精神医学		
テキスト	特になし	参考文献	山上敏子監修「お母さんの学習室」（二瓶社） 精神医学（金芳堂）
評価方法	試験:40% レポート:30% 授業感想文の内容:30%		

社会福祉論		前期 2 単位	1年
社会福祉の基本概念を理解する。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	21世紀を迎えて社会福祉の役割は、より身近で重要になってくる。「弱者に恵み与える福祉」から「権利としてサービスを利用する福祉」への流れについて理解する。さらに「中央が与える福祉」から「地方を軸に住民が創りだす福祉」へ転換しつつある流れについて理解する。		
授業の概要	まず学生の経験した差別問題を取り上げ、学生と福祉との関係性を探る。さらに福祉概念の変遷、中でも貧困に対する社会の見方の変化に焦点をあて、社会の見方によって支援が変化することを学ぶ。さらに、公的扶助、高齢者、児童家庭、障害の各福祉分野について焦点をあて、現状と課題を理解する。		
授業計画	【前期】 第1回 シラバスについて 第2回 差別とは何か(1) 自らの体験を出し合う 第3回 差別とは何か(2) 文献より 第4回 社会福祉とは何か(1) 基本的な考え方と構成要素 第5回 社会福祉とは何か(2) 問題の特徴と援助技術 第6回 社会福祉とは何か(3) 援助技術の原則 第7回 社会福祉概念の変遷(1) 相互扶助、慈善事業、社会事業 第8回 社会福祉概念の変遷(2) 厚生事業、社会福祉事業 第9回 社会福祉概念の変遷(3) 社会福祉基礎構造改革 第10回 公的扶助 第11回 高齢者福祉 第12回 児童家庭福祉 第13回 障害者福祉(1) 思想の変遷 第14回 障害者福祉(2) 日本の現状と課題 第15回 全体のまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	好井裕明「差別原論」平凡社新書2007,山懸文治他 「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房 2002, 厚生統計協会「国民野福祉の動向」厚生統計協会
評価方法	授業後の感想:30% テスト:70%		

子ども家庭福祉論		後期 2 単位	1年
子ども家庭福祉（児童福祉）はなぜ必要か～子どもと家族への社会的支援のあり方を考える		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	次代を担う子どもたちの福祉（しあわせ）とは何か、子どもの育ちの保障、家族の支援に社会的な取り組みがなぜ必要なのか理解する。子どもや家族が抱える福祉ニーズを社会的背景と文脈の中でとらえ、福祉支援のあり方、福祉サービスを支える福祉の思想を理解する。		
授業の概要	子ども家庭福祉の前提となる福祉観、子ども観、支援観に出会う。また、子どもの権利とは何か、子どもの権利保障の取り組みの意義は何かを理解する。また、さまざまな福祉ニーズを抱える子どもとその家庭を支援する仕組みについて体系的に理解する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 子どものいのちを守り、育ちを支えるとは 第2回 子ども家庭福祉の理念と、基盤となる子ども観 第3回 子ども家庭福祉のさまざまな取り組み 第4回 保育施策の現状と課題～子育て環境と福祉ニーズ 第5回 子ども虐待と社会的養護、家族支援の取り組み 第6回 子どもの権利条約の成立に至る歴史とコルチャックの思想 第7回 子どもの権利保障の実際と課題 第8回 子どものいのちをめぐる諸問題と母子保健、健全育成 第9回 ひとり親家庭の現状と課題 第10回 障がいをもつ子どもの社会的支援 第11回 非行問題と社会的背景、社会的支援 第12回 子ども家庭福祉の実施体制 第13回 諸外国における子ども家庭福祉の動向 第14回 子ども家庭福祉の今後の課題～子どもの権利条約の時代に 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に提示するので、確認のうえ、必ず購入のこと。	参考文献	参考文献・参考資料とともに必要に応じ授業内で紹介する。
評価方法	授業の感想文:20% 提出物:30% 試験:50%		

社会福祉方法論		後期 2 単位	2年
保育者の専門性と社会福祉援助技術		杉崎 敬（すぎさき たかし）	
授業の到達目標及びテーマ	保育のなかで社会福祉援助技術がなぜ必要になったのか、その背景を考えながら社会福祉援助技術を用いた保育の方法に関して理解する。保育士を中心とした児童福祉領域の専門職制度の概要と、保育士固有の倫理やチームアプローチにおける保育士の位置・役割を確認し理解する。		
授業の概要	保育の現場における社会福祉援助技術の個々の課題や方法に関して、理論と実践から具体的に理解すると同時に、子どもの問題や保護者からの相談に対してどのように向き合うのか等、多様なニーズに対応できる保育者の専門性について理解することをねらいとする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会福祉を考える 第2回 社会福祉援助技術とは何か 第3回 社会福祉援助技術の定義・体系 第4回 個別援助技術（1）視点・歴史・原則・展開課程 第5回 個別援助技術（2）方法と技法 第6回 集団援助技術（1）定義・意義・目標・原則 第7回 集団援助技術（2）展開課程と方法 第8回 地域援助技術 第9回 専門職としての保育士の職種と社会福祉援助技術 第10回 社会福祉援助技術と子育て支援 第11回 児童虐待を考える 第12回 障害児・者を育てるとのこと 第13回 社会福祉援助技術と児童福祉施設の子ども 第14回 社会福祉援助技術と子どもの権利 第15回 講義のまとめ		
テキスト	岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修、松本寿昭編著『社会福祉援助技術』（保育・教育ネオシリーズ⑧）同文書院・2004年	参考文献	随時紹介する。
評価方法	試験:70% リアクションペーパー:30%		

社会福祉方法論		後期 2 単位	2年
人権・権利擁護を基盤においた、社会福祉の方法を理解する		高山 直樹（たかやま なおき）	
授業の到達目標 及びテーマ	身近な生活の課題や地域のなかにある課題に焦点をあてて、社会福祉の価値・構造・機能を理解する。特に人権、権利擁護を実践の基盤に置き、社会福祉援助の専門性、価値、倫理を押さえ、個別、集団、地域援助の方法についてその意義、機能、過程について理解する。さらには子どもの権利に基づいた社会福祉援助のあり方を事例を通して理解する。		
授業の概要	子どもの生活を支える保育士は、専門職としての社会福祉実践の価値や倫理そして技術を修得することが不可欠である。またその実践は、子どものいのち、家族、地域社会、国家そして国際社会における幸福や平和につながるものでなければならない。本講では、現代におけるさまざまな生活課題を押さえつつ、社会福祉の方法を修得することを目的と		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会福祉とは何かを考える 第2回 社会福祉援助とは何か（1）援助の価値を捉える 第3回 社会福祉援助とは何か（2）援助の対象を捉える 第4回 社会福祉援助（1）個別援助技術の基本原則を学ぶ 第5回 社会福祉援助（2）個別援助技術の過程を学ぶ 第6回 社会福祉援助（1）集団援助技術の基本原則を学ぶ 第7回 社会福祉援助（2）集団援助技術の過程を学ぶ 第8回 社会福祉援助（1）地域援助技術の基本原則を学ぶ 第9回 社会福祉援助（2）地域援助技術の過程を学ぶ 第10回 社会福祉援助（1）ケアマネジメントを理解する 第11回 社会福祉援助（2）ネットワーキングを理解する 第12回 子どもの権利と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第13回 家族支援と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第14回 子育て支援と社会福祉援助を事例を通して学ぶ 第15回 まとめ：保育と社会福祉援助のこれからを学ぶ		
テキスト	特に定めない。主としてプリントを用いる。	参考文献	随時紹介する。
評価方法	平常点:30% 試験:70%		

現代社会と保育		前期 2 単位	2・3年
現代社会と保育		村知 稔三（むらち としみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「戦後日本社会における保育の位置」をテーマにする本講義では、20世紀後半の日本社会における家庭養育と施設保育の変遷を理解する。そのために家族史・女性史・労働史・人口史などの成果を積極的に摂取し、隣接諸科学と対話できる基礎的能力を身につける。		
授業の概要	本年度は主に家族史研究の成果から多くを学ぶ。1945年の敗戦時に前近代的な色彩の濃かった家庭や家族が1960年代の高度経済成長期に近代的な存在になり、1990年代以降はそこに新たな問題や困難が生まれ、近代家族からの脱皮が求められているという経過を追い、その原因や背景を考え、そこでの養育の特徴を見つめる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 本講義のねらい・内容・進め方などの説明 第2回 戦後直後の家庭や家族の状況 第3回 1950年代の家庭や家族の状況 第4回 高度経済成長期の農村における家庭や家族の変化 第5回 高度経済成長期の都市における家庭や家族の変化 第6回 主婦へのあこがれと近代家族の広まり 第7回 「男は仕事、女は家事」への疑いと働き続ける女性の増大 第8回 中間まとめと小レポート 第9回 男女雇用機会均等法と女性差別 第10回 男女共同参画社会とジェンダー問題 第11回 児童虐待とドメスティック・バイオレンス 第12回 「失われた20年間」における家族の変容 第13回 社会や家族の二極化と養育の困難性 第14回 現代家族と養育の共同化 第15回 全体のまとめ		
テキスト	講義中に配布する資料など	参考文献	講義中に提示
評価方法	小レポート:30% 試験:70%		

社会的養護論		前期 2 単位	2年
児童福祉施設における子どもたちの生活と権利～社会的養護の意義と方法の理解		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	被虐待ほか多様な家庭の事情により家族と離れ、社会的な養護・養育を必要とする子どもたちにとって必要な理解・援助内容・援助方法論を、権利保障の意義やその価値とともに体系的に理解する。主に施設での援助内容を学びながら、専門的理解やケアを必要とする子ども自立支援の意味を、自分自身の生活とも重ねながら考える。		
授業の概要	さまざまな児童福祉施設での支援のもつ意味を構造的に理解し、ケアの現場の持つ役割や機能、専門性を理解する。施設養護および家庭養護の具体的実践事例に出会い、施設職員や養育者に求められる子ども理解、支援のあり方、今後の課題の要点を獲得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 社会的養護とは～その概念と基本理念、果たす役割 第2回 児童福祉施設の体系・機能とソーシャルワークの活用 第3回 信頼関係の形成と日常生活を通しての自立支援 第4回 子どもたちとの生活～施設職員の役割と働き 第5回 養護問題の変遷と家族危機、ホスピタリズム 第6回 日本および海外の児童養護と里親制度、養子縁組制度 第7回 ケア単位の小規模化と家庭的養護の推進をめぐる課題 第8回 児童福祉施設最低基準と施設の生活の質（QOL）の検討 第9回 子どもたちの理解と援助方法論～事例研究 第10回 家族関係の理解・調整とファミリーソーシャルワーク 第11回 障がいをもつ子どもへの支援、子ども虐待の理解とケア 第12回 非行・思春期の諸問題とそのケア、性教育と子どもの権利 第13回 先人の築いた児童養護の歴史とキリスト教児童養護 第14回 児童福祉施設実践をめぐる今後の課題 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に提示する（必ず購入のこと）。	参考文献	参考資料とともに授業の中で紹介していく。
評価方法	授業感想文:20% 提出課題:30% 試験:50%		

里親養育論		後期 2 単位	2・3年
子ども支援から見る里親養育の形と里親家庭への支援のあり方について		長田 淳子（ちようだ じゅんこ）	
授業の到達目標及びテーマ	保育でも家庭的保育が重んじられているが、さまざまな家庭の事情から家族から離れて生活する子どもたちにとって、生活の場のもつ意味、必要な支援は何かを理解する。それらを踏まえ、子どもが血縁を超えて出会う里親家庭での養育の意義について、また、家庭での養育に対する援助方法や支援体制のあり方・展望について検討する。		
授業の概要	前提となる社会的養護への理解を深めながら、子どもにとって「生活」とは何かを、自身の「生活観」をふり振り返りながら考察する。中途養育となる里親養育の難しさ・よさを確認しながら、多様なニーズと課題を持つ子どもにとって里親養育とは何か、里親養育の支援に何が求められているか、支援の実際を含め理解する。事例や文献、視聴覚教材などを		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 社会的養護 家庭的養護・家庭養護とは 第2回 家庭で生活することのもつ意味～「生活観」をとおして～ 第3回 子どもに必要な「生活」とは 第4回 子どもを取り巻く環境について（保護者の状況など） 第5回 子どもの状況① 子ども虐待 第6回 子どもの状況② 発達障がい 第7回 子どもの状況③ 親との分離体験 第8回 里親家庭の種類と養育の形 第9回 里親の養育力とは何か 第10回 養育の実際① 子どもの成長にともなう課題 第11回 養育の実際② 実親との関係（面会・実告知など） 第12回 養育の実際③ 子どもの自立・自立支援をめぐる 第13回 里親家庭への支援① 里親とその家族への支援 第14回 里親家庭への支援② 各機関との連携と支援のあり方 第15回 必要な子育て支援（里親家庭支援を含む）の充実		
テキスト	開講時に提示する。	参考文献	参考文献・資料ともに、必要に応じて紹介していく。
評価方法	授業への参加状況:30% 提出課題:20% レポート:50%		

人間と障害		後期 2 単位	2・3年
ノーマライゼーション理念を通して、共生的で多様な社会の再構築を考える（障害をもつ当事者たちの生き方から学ぶべきもの）		杉崎 敬（すぎさき たかし）	
授業の到達目標及びテーマ	障害をもつ当事者の地域における日常生活とノーマライゼーション理念とのつながりの重要性を認識し、「共に生きる社会」とは何かを理解すること。講義では、障害当事者の中でも特に知的障害をもった当事者たちの地域生活を中心に取り上げ、その問題点や課題、解決策等を整理し、当事者たちが生きてきた存在を理解できるようにすること。		
授業の概要	障害をもつ当事者たちが置かれてきた生活環境や、差別・偏見といった社会のまなざし、そして、地域社会で困難を抱えながらも生きようとしている当事者たちの姿を、講義ではいま一度捉えなおす。同時にその背景を明らかにして、これからの障害者と非障害者が共に歩む道とは何かを考え、学生自らの障害認識を再構成できるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 「障害」「障害者」とは何か 第2回 障害者は歴史的にどうみられてきたか 第3回 地域生活支援の思想と運動（1）障害者観と脱施設化 第4回 地域生活支援の思想と運動（2）障害者の権利擁護の問題 第5回 障害者の生活の場（1）日本 第6回 障害者の生活の場（2）スウェーデン 第7回 障害者が働くということ：当事者が働く就労の場を考える 第8回 障害者の本人活動：知的障害者たちの活動を通して 第9回 障害者とノーマライゼーション：同じ社会で共に生きる 第10回 障害者のセクシュアリティ（1）多様な性を生きる人たち 第11回 障害者のセクシュアリティ（2）知的障害者の性と支援 第12回 障害者の子育て：知的障害者が子育てをするということ 第13回 地域生活支援に向けて（1）共に生きる社会を目指して 第14回 地域生活支援に向けて（2）エンパワメントとは何か 第15回 講義のまとめ		
テキスト	特に指定せず、随時プリント資料を使用する。	参考文献	講義中、必要に応じて紹介する。
評価方法	試験：50% レポート：20% リアクションペーパー：30%		

キリスト教保育Ⅰ		後期 2 単位	1年
見えないものに目をそそぐ		松浦 浩樹（まつうら ひろき）	
授業の到達目標及びテーマ	キリスト教信仰に根差した保育の理念と実践を理解し、自分も生かされていることを知ることで子どもに関わる使命感を培う。また乳幼児を取り巻く社会や家庭の現状を踏まえつつ、キリスト教保育の実際を学び、子どもの心的・身体的な育ちに何が必要であるかを考察し、振り返ることと（省察）の重要性を知る。		
授業の概要	講義の後、5名前後のグループディスカッションをし、その中で意見交換や自分なりの考えを述べ、理解できないことを明確にし、再度講義の中でまとめる。またテーマに沿って、自分で資料や教材を選んだり、収集し、学ぶ。その学んだものを発表し、共有し合う。		
授業計画	【後期】 第1回 キリスト教保育とはーキリスト教保育が大事にしてきたことー 第2回 幼稚園・保育所を取り巻く現状 第3回 子どもを取り巻く環境とキリスト教保育の使命 第4回 キリスト教保育の環境・保育者の役割（信頼関係） 第5回 見えないものに目をそそぐー保育の実践と省察ー 第6回 キリスト教保育の実際① 保育の理念と礼拝の意味と実際 第7回 キリスト教保育の実際② フレーベルの思想と恩物 第8回 キリスト教保育の実際③ 賛美歌と子ども 第9回 キリスト教保育の実際④ 遊び・生活 その1 第10回 キリスト教保育の実際⑤ 遊び・生活 その2 第11回 キリスト教保育の実際⑥ 絵本と子ども 第12回 キリスト教保育の実際⑦ キリスト教保育現場見学と学び 第13回 キリスト教保育の実際⑧ クリスマスの意味と準備 第14回 教会訪問・教会学校見学レポート 第15回 「共に歩む」「共に生きる」ということ・レポート作成		
テキスト	『新キリスト教保育指針』『キリスト教保育 50の質問 見えないものに目をそそぐ』『幼児さんびかⅠ・Ⅱ』	参考文献	こどもさんびか 月刊『キリスト教保育』、その他これらの資料を随時配布
評価方法	意欲（宿題）：10% レポート2回分：30% 最終レポート：60%		

キリスト教保育Ⅱ		前期 2 単位	2・3年
希望への教育		松浦 浩樹 (まつうら ひろき)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教信仰に根差した保育の理念と実践を理解し、自分も生かされていることを知ることで、子どもの育ちにかかわる使命感を培う。また乳幼児を取り巻く社会や家庭の現状を踏まえつつ、キリスト教保育の使命とは何かを学び、「育てる者へ」の意識の転換を喚起し、子どもの心的・身体的な育ちを促し、子どもの希望を培う大人のあり方を探		
授業の概要	講義の後、5名前後のグループディスカッションをし、その中で意見交換や自分なりの考えを述べ、理解できないことを明確にし、再度講義の中でまとめる。またテーマに沿って、キリスト教保育の現場を観察し、自分で資料や教材・資料を収集し、実践的に学ぶ。学んだものを発表し、共有する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 キリスト教保育とは—キリスト教保育の現代的使命—</p> <p>第2回 保育現場の動向と保育者・教育者のこれから</p> <p>第3回 保育と祈り、省察</p> <p>第4回 遊びを大切にする保育の理解</p> <p>第5回 神・人のかかわりを大切にする保育の理解</p> <p>第6回 キリスト教保育の環境の理解（歴史的取り組みの理解）</p> <p>第7回 キリスト教保育の実際（1）ビデオ観察とカンファレンス</p> <p>第8回 キリスト教保育の実際（2）保育現場報告</p> <p>第9回 キリスト教保育の実際（3）保育現場報告</p> <p>第10回 キリスト教保育の実際（4）保育現場報告</p> <p>第11回 見えないものに目をそそぐ —保育の実践と省察の再考—</p> <p>第12回 キリスト教保育の内容と展開</p> <p>第13回 保育を共に創る —子ども・保護者と共に—</p> <p>第14回 保育を共に創る —保育者と共に、地域と共に—</p> <p>第15回 まとめ —保育者として、人として成長する—</p>		
テキスト	『新キリスト教保育指針』『キリスト教保育 50の質問 見えないものに目をそそぐ』	参考文献	『幼児さんびか1,2』、『こどもさんびか』 月刊『キリスト教保育』、その他、これらの資料を随時配布
評価方法	最終レポート:60% 中間レポート、発表:20% 意欲(討論):20%		

乳児保育演習		後期 2 単位	2年
乳児の発達の特徴と保育のあり方		韓 仁愛 (はん いんえい)	
授業の到達目標 及びテーマ	近年、社会状況の変化と共に親の就労形態や家庭環境が多様化し、待機児童の多くを占めるのは乳児である。乳児保育の必要性が要求されると共に、乳児保育の重要性と質の向上が問われている。乳児の発達・成長を理解し、この時期に相応しい保育のあり方、乳児との関わり方を理解し、深める。		
授業の概要	実践事例の検討やビデオやDVD等の映像を通して子どもの言葉や行動から年齢別の 発達を理解し、乳児との関わり方を学生自らが考える場にする。また、グループディスカッションにより各年齢別のあそびの工夫とおもちゃ作りを行う。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 保育園の1日と保育所保育指針</p> <p>第2回 0歳児の発達の特徴と保育のポイント</p> <p>第3回 離乳食とアレルギー食について</p> <p>第4回 0歳児のあそびの理解とおもちゃ作り</p> <p>第5回 1歳児の発達の特徴と保育のポイント</p> <p>第6回 2歳児の発達の特徴と保育のポイント</p> <p>第7回 1・2歳児のあそびの理解とおもちゃ作り</p> <p>第8回 2歳児保育の事例検討と関わり方の工夫</p> <p>第9回 乳児の基本的な生活づくり</p> <p>第10回 乳児保育の歴史と現状</p> <p>第11回 「三歳児神話」と乳児保育</p> <p>第12回 施設と在宅における乳児保育のあり方</p> <p>第13回 保護者の理解と支援</p> <p>第14回 保育計画と記録</p> <p>第15回 複数担任制の課題とチームワーク</p>		
テキスト	乳児保育研究会編『改訂新版 資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房。	参考文献	実践事例は随時プリントを使用する。
評価方法	演習課題:30% 試験:50% 年齢別おもちゃ作り:20%		

障害児保育演習		通年（前期）	2 単位	3年
障害児保育演習		角田 雅昭（かくた まさあき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の原点としての障害児保育のあり方について学ぶ。 ・ 障害児やその家族のニーズを理解する。 ・ ニーズに応じた支援や配慮を理解する。 			
授業の概要	はじめに障害という概念について再考する。その上で、ニーズ・支援といった実践の基盤になる事柄について具体的な場面を通して理解する。その際、ただ専門性を深めるばかりではなく、その専門性自体を、実践の中で反省的に捉え直す必要性についても学ぶ。			
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 インTRODクシヨ ン 障害児との出会い 第 2回 障害児保育とは（1）障害という概念について 第 3回 障害児保育とは（2）保育者として学ぶべきこと 第 4回 障害児保育とは（3）障害児と生活をともにすること 第 5回 障害児保育とは（4）障害児のかかわりを広げること 第 6回 障害児保育とは（5）障害児の生きている世界への共感 第 7回 障害児保育の歴史と理念（1）戦前の障害児保育 第 8回 障害児保育の歴史と理念（2）石井亮一の実践 第 9回 障害児保育の歴史と理念（3）戦後の障害児保育 第 10回 障害児保育の歴史と理念（4）現代の障害児保育 第 11回 障害児保育の制度と実際（1）これまでの経緯 第 12回 障害児保育の制度と実際（2）現状と今後の課題 第 13回 保護者の声から学ぶ（1）保護者への支援と連携 第 14回 保護者の声から学ぶ（2）地域との連携 第 15回 まとめ</p>			
テキスト	鯨岡峻編著『最新保育講座15 障害児保育』ミネル ヴァ書房2009年	参考文献	授業内で適宜、紹介する	
評価方法	試験（ノート持込可）：80% リアクションペーパー：20%			

障害児保育演習		通年（後期）		3年
障害児保育演習		角田 雅昭（かくた まさあき）		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性を理解する。 ・ 保育現場における障害児や保護者への具体的なかかわりについて実践に即して理解する。 ・ 人は、誰もが共に支え合いながら生きているという共生の原点を理解する。 			
授業の概要	保育現場では、発達障害といわれる子どもを含めて、他者とのコミュニケーションに困難を抱えている子どもと出会うことは多い。それらの子どもの特性を理解しながら、コミュニケーションの可能性を探る。その上で、共生という概念を実践面から理解する。後期集中はA組は9月11日～13日、B組は9月17日～19日予定。			
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 発達障害の子どもとその保育（1）発達障害の特性 第 2回 発達障害の子どもとその保育（2）子どもの生きる世界 第 3回 発達障害の子どもとその保育（3）自閉症スペクトラム 第 4回 発達障害の子どもとその保育（4）アスペルガー症候群 第 5回 発達障害の子どもとその保育（5）実践事例から 第 6回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（1）障害特性 第 7回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（2）盲ろう障害 第 8回 視覚・聴覚障害のある子どもとその保育（3）実践事例 第 9回 言葉の遅れのある子どもの保育（1）障害特性 第 10回 言葉の遅れのある子どもの保育（2）保育の実践事例 第 11回 からだの不自由な子ども・病気がちな子どもの保育と事例 第 12回 園での保育計画と支援 保育ニーズとケース会議 第 13回 障害児保育をめぐる現状と課題 関連機関との連携・協働 第 14回 今後の障害児保育の可能性 共生ケアとその実践の紹介 第 15回 まとめ</p>			
テキスト	鯨岡峻編著『最新保育講座15 障害児保育』ミネル ヴァ書房2009年	参考文献	授業内で適宜、紹介する	
評価方法	レポート：70% リアクションペーパー：30%			

保育所保育研究		前期 2 単位	3年
保育所保育の理解のために		和田 秀一（わだ しゅういち）	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども理解に大切な「遊び」と「内面の成長」を中心に学びながら、大人の役割と保育者としての成長についても理解する。		
授業の概要	テーマに沿いながら、ひとりひとりが考え、自分の意見を持ちそれを互いに出し合うことによってテーマの理解を深めていく。具体的な事例などを通して、子ども理解の深さと多面性についても学んでいく。子どもの内面の世界の豊かさを知ることによって、保育に携わる者としての基礎的な力をつけていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに・保育者としての経験から子どもを思う 第2回 園長としての経験を通してみた保育園について 第3回 保育所の子どもの様子と保育者の姿 第4回 乳児期のひととの関わり 第5回 幼児期のひととの関わり 第6回 乳児期の生活の営み 第7回 幼児期の生活の営み 第8回 乳児期の遊び 第9回 幼児期の遊びと活動 第10回 子どもと食について 第11回 保護者との関係について 第12回 地域と子育て支援について 第13回 あらためて子どもについて問う 第14回 保育者の喜びと保育者としての成長 第15回 まとめ		
テキスト	その都度、プリントを用意します。	参考文献	随時紹介。
評価方法	授業への積極性:40% ミニレポート:30% レポート:30%		

保育臨床相談		前期 2 単位	3年
子どもの心の理解と保育者に必要なカウンセリングマインドを学ぶ		井上 万理子（いのうえ まりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	授業の目標は次の4点である①保育・幼児教育の中で求められるカウンセリングマインドを理解する②発達に問題を抱える子どもの理解や対処について学ぶ③保護者や子どもとかわる他の専門家との連携について学ぶ④対人援助職として自己理解を深め、コミュニケーション能力を身につける		
授業の概要	この科目では、対人援助職としての保育者に求められる心の理解や援助について、臨床心理学的視点から学ぶ。カウンセリングやコミュニケーションスキルについて、エクソサイズやロールプレイなど実際に体験して身につけることをめざす。また、自己理解について各種の心理テストや心理療法をおこなうなど、主体的な授業参加に基づく演習形式で進		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション：カウンセリングについて 第2回 エクソサイズを通して対人コミュニケーションを学ぶ 第3回 ロールプレイを通して傾聴、共感を体験的に理解する 第4回 自分の感情状態に気づく、又、自己開示の体験をする 第5回 心理テストを体験しその結果をもとに自己理解を深める 第6回 基礎的な精神病理や心理療法について学ぶ 第7回 心理療法を体験し、自己理解を深める 第8回 保育の場で出会う問題について事例をもとに考える 第9回 子ども心の問題について発達課題や対応を学ぶ 第10回 発達障がいについて理解と対応を学ぶ 第11回 親支援、育児支援について考える 第12回 事例を通して保護者との連携を考える 第13回 関係機関との連携について考える 第14回 事例について総合的にまとめかかわりのプランを検討する 第15回 まとめ		
テキスト	馬場禮子・青木紀久代著『保育に生かす心理臨床』ミネルヴァ書房	参考文献	青木紀久代編『いっしょに考える家族支援』明石書店
評価方法	授業への参加度:30% 授業内課題の提出:10% レポート試験 :60%		

保育臨床相談		前期 2 単位	3年
子どもの育ちを支えるために		山口 美和（やまぐち みわ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育の中で出会う様々な問題に対し、どのように理解し、どのように援助することができるかということを考える力をつける。		
授業の概要	講義を中心に授業を進めるが、ビデオなどの教材も適宜用いる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 保育における子どもの理解 第3回 カウンセリングマインド 第4回 子どもの心の発達 第5回 子どもの心の問題 第6回 子どもの発達の問題 第7回 園の中で話さない子どもの事例 第8回 他児とのトラブルが多い子どもの事例 第9回 1人遊びの多い子どもの事例 第10回 集団の活動に参加しない子どもの事例 第11回 場面の切り替えに時間がかかる子どもの事例 第12回 保護者に対するカウンセリング的アプローチ 第13回 子育て支援 第14回 外部機関との連携 第15回 まとめ ・ 試験		
テキスト	浜谷直人「保育力 子どもと自分を好きになる」 （新読書社）。必要に応じて、資料等を配布する。	参考文献	浜谷直人編著「発達障害児・気になる子の巡回相談～すべての子どもが『参加』する保育へ」（ミネルヴァ書房） その他、授業内で随時紹介する。
評価方法	授業感想文:50% 授業内試験:50%		

家族支援論		後期 2 単位	3年
家族支援の視点とそのアプローチ		宮内 珠希（みやうち たまき）	
授業の到達目標 及びテーマ	●子ども福祉の専門職としての価値と倫理を踏まえ、子育て家庭への支援の意義を理解する。●多様な家族のあり方や家族が直面する様々な課題を、社会的、心理的文脈から理解できるようになる。●対人援助の原則、基本的な家族支援プロセス、援助方法を理解する。		
授業の概要	演習、ディスカッション等を通し、自己理解を進め、基本的な対人援助の方法を学んでいく。事例、文献、視聴覚教材等を通して、現代社会における様々な家族のあり方、家族が直面する様々な危機的状況と、その社会的、心理的背景、それぞれの状況に関連する社会資源とその活用を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション：子育て家庭への支援の意義 第2回 家族支援の視点：援助者の価値と倫理・家族の機能と発達 第3回 現代社会と家族（1）：多様な家族のあり方・ジェンダー 第4回 現代社会と家族（2）子どもの貧困 第5回 相談援助技術（1）面接技術の基本 第6回 相談援助技術（2）コミュニケーションスキル 第7回 困難な状況を抱える家族（1）障がい・精神病理など 第8回 困難な状況を抱える家族（2）トラウマ・DV 第9回 子どもの虐待（1）保護者の理解 第10回 子どもの虐待（2）子どもの理解 第11回 子どもの虐待（3）虐待の対応 第12回 子どもの虐待（3）虐待の予防 第13回 家族支援の実践（1）アセスメント・支援計画 第14回 家族支援の実践（2）チームアプローチとネットワーク 第15回 まとめ		
テキスト	指定のテキストはありません。	参考文献	参考文献、資料ともに、必要に応じて紹介していく。
評価方法	授業感想文:30% レポート:70%		

児童福祉療育論		後期 2 単位	3年
障害のある子どもと家族の幸せを支援する療育のあり方		厚坂 幸子（あつさか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	幼児期における療育システムは整備されているが、障害のある子どもと家族の、地域生活における課題は山積している。幼児期に留まらず学齢期を含めて、関係機関が果たす役割を理解する。また具体的事例を通して、障害があっても一人の子供として当たり前に生活するための望ましい環境を考察し、本人と家族に寄り添った総合的支援のあり方を理		
授業の概要	講義が中心となるが、毎回授業感想や考察を書き次回授業で振り返る。障害を自分自身に引き寄せて捉えるグループワークも随時行う。教育を含め、さまざまな福祉課題を取り上げながら、障害児者の生きにくさや障害とは何かの本質に近づき、多様な角度で療育を検証する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 療育とは何か・障害とは何か 第2回 早期発見・早期療育—そのシステムと現状 第3回 障害の特性—見える障害と見えない障害 第4回 障害受容のプロセス—寄り添う支援のあり方 第5回 家族（母、父、兄弟児）の状況と求められる支援のあり方 第6回 幼稚園・保育園での受け止め方 第7回 就学期（学校選び）の対応 第8回 学齢期に求められる療育（学校教育編） 第9回 学齢期に求められる療育（放課後編） 第10回 障害児入所施設の現状と課題 第11回 権利擁護の仕組みと福祉オンブズパーソン活動実践 第12回 市民活動の意義と役割—「ともいきクラブ」実践より 第13回 地域生活支援—暮らしを総合的に支える新たな取り組み 第14回 日本の障害者福祉—カンボジア知的障害者支援から学ぶ 第15回 特別視と配慮の違いを理解する		
テキスト	特に定めず、随時資料を配布する。	参考文献	必要に応じて、その都度紹介する。
評価方法	授業感想文:56% 試験:44%		

養護内容演習		後期 1 単位	3年
保育者としての自分の価値観に気づき、支援が価値観の影響を受けていることを学ぶ。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	保育や福祉の現場で利用者やその家族を支援するときには、保育者一人ひとりの価値観が言葉かけ・支援方法・内容を大きく左右する。一人ひとりが自分の持っている価値観を理解し、それぞれの価値観が支援のあり方にどのように影響するのかを理解する。		
授業の概要	設定されたテーマについての仲間とのディスカッションを通して、自分の価値観がどのようなものかを理解する。さらに基本的なかかわり方の技法を学んだうえで、利用者だけでなく、利用者の家族に対する対応の仕方を学ぶ。さらに実習で体験した具体的な対人援助場面を取り上げ、ロールプレーを通して、より実践的な対人援助について学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 シラバスの紹介、グループ分け 第2回 グループディスカッション(1) 専門性とは何か 第3回 グループディスカッション(2) 命の価値について 第4回 グループディスカッション(3) しょうがい個性か 第5回 ディスカッションまとめ 第6回 かかわるための技法(1) 傾聴とは 第7回 かかわるための技法(2) カウンセリングの技法 第8回 かかわるための技法(3) 葛藤場面への対応 第9回 かかわるための技法(4) インリアル・アプローチ 第10回 実習場面のレポートの話し合い 第11回 ロールプレーでの発表(1) 第12回 ロールプレーでの発表(2) 第13回 統合保育場面についての話し合い 第14回 統合保育場面についての発表 第15回 手紙を書こう		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて指示する。保育実習、幼稚園実習での実習ノート。
評価方法	授業後の感想レポート:50% レポート:50%		

家族の社会学		前期 2 単位	2・3年
社会学的アプローチによる家族の理解のために		平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	家族は、生涯にわたる人間発達にあたって大きな役割をになう。また、家族は人びとの生活の基盤でもある。人間の総合的理解のためには家族および家族関係についての的確な認識が欠かせない。そこで、社会学的アプローチによる家族研究を中心に、現代家族の特質や家族変動の方向性について基礎知識を習得する。		
授業の概要	講義中心となるが、学生自身の関心を深められるような課題を適宜、盛りこむ予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 家族について学ぶ意義 第2回 家族を対象とした社会学的研究の射程 第3回 家族変動をとらえる分析視角 第4回 その1 構造機能論 第5回 その2 システム論 第6回 その3 相互作用論 第7回 現代家族の特質に焦点をあてた分析視角 第8回 家族周期論とライフコース論 第9回 社会的ネットワーク論 第10回 家族ストレス論 第11回 現代社会における家族変動の方向性 第12回 現代社会に生きる個人と家族関係 第13回 現代社会のかかえる課題とこんにちの家族 第14回 現代社会の変容と家族・家族関係 第15回 まとめ		
テキスト	指定しない。	参考文献	必要に応じて、紹介する。
評価方法	定期試験:60% 授業感想文:20% 課題の提出:20%		

子どもと法		前期 2 単位	2・3年
子どもをめぐる法を学ぶ		山岸 秀（やまぎし しげる）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の子どもはかつてないほどの病理に中におかれている。それが子どもの発達のゆがみなどとなって現出しつつある。この講義では、子どもの発達を憲法的な権利として捉え、その発達保障をする制度、発達がゆがめられた子どもを扱うシステムを法律の視点から、また可能な限り事例・実務・判例などを参照しつつ学んでゆく。		
授業の概要	多人数が予想されるので講義中心。それぞれの課題について、よく知られた事例を取り上げ感想を聞いたり、小レポートを書いてもらったりして、できるだけ個々の対応はしたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 法律の体系。憲法・条約・法律・命令・条令などの体系。 第2回 憲法の基本原理・最高法規としての憲法。憲法の基本原則 第3回 憲法における社会権保障。社会権としての発達権。 第4回 子どもの権利条約。国内法としての条約。 第5回 教育基本法（1）。旧教育基本法の意義。 第6回 教育基本法（2）。戦後教育改革。 第7回 教育基本法（3）教育基本法改正の意味。変わった部分。 第8回 教育と法。現代教育の抱える問題（1）。管理教育。 第9回 教育と法。現代教育の抱える問題（2）。いじめ・非行。 第10回 発達のゆがみと法。非行少年の審判。 第11回 発達のゆがみと法。非行少年の処遇。 第12回 現代非行の特徴と少年法。 第13回 児童虐待と福祉法制。 第14回 家庭と民法。親権と親の義務。 第15回 子ども買・売春、子ども人身売買。		
テキスト	指定しない。授業にプリント等配布。	参考文献	授業中に紹介。
評価方法	テスト:60% レポート:40%		

地域社会と子ども		後期集中 2 単位	2・3年
地域における子どもの豊かな遊びを保障するために～子育ては地域で、自分たちの手で		天野 智子（あまの ともこ）	
授業の到達目標及びテーマ	地域住民が運営する子どもの遊び場「プレーパーク（冒険遊び場）：以下、PP」の実践や親たちの手による共同の子育て「自主保育」の活動への参加（フィールドワーク：以下、FW）と考察を通して、子どもの生活と遊び環境、子どもと大人との関係、子育てと地域のつながりについて考える。		
授業の概要	9月9日（月）3～5限は学内で講義とワークショップを行う。9月11日（水）、12日（木）もしくは13日（金）、14日（土）は午前中から夕方まで学外（世田谷区内のPP）でのフィールドワーク（以下、FW）と現地でのふり返しを行うため、終日アルバイトなど他の予定を入れない。学内授業欠席の場合、FWへの参加は不可。履修人数は上限15名。		
授業計画	【後期】 第1回 子ども時代をふり返る～ワークショップ1 第2回 子ども時代をふり返る～ワークショップ2 第3回 PPと自主保育（視覚教材視聴と講義） 第4回 PPと出会う～オリエンテーション 第5回 PPを体験する～触れる・遊ぶ・作業する 第6回 放課後をPPで遊ぶ子どもたち 第7回 活動参加のふり返しとディスカッション 第8回 幼児・その親たちの活動への参加 第9回 親たちを囲んで～子育て中の親の声を聴く 第10回 放課後をPPで遊ぶ子どもたち 第11回 活動参加のふり返しとディスカッション 第12回 地域社会と子ども～ふり返しとディスカッション 第13回 地域社会と子ども～ふり返しとディスカッション 第14回 私の感じる「遊び・地域・子ども・大人」 第15回 まとめ～地域での子どもの豊かな遊びを保障するために		
テキスト	天野秀昭『子どもはおとなの育ての親』ゆじょんとブックレットシリーズ③、2002年（前期に、事前ブックレポートを提出してもらう予定）	参考文献	遊びの価値と安全を考える会『もっと自由な遊び場を』大月書店、羽根木プレーパークの会『冒険遊び場がやってきた！』晶文社（その他は授業で紹介）
評価方法	授業・FWの参加態度:50% FWノート:30% 事前・事後のレポート:20%		

本・子ども・大人 I		前期 2 単位	1年
子どもの文学の歴史と現在		さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	* 子どもの文学の多様性や重要性を理解する。 * 主な児童文学作品について理解する。 * 児童文学にまつわるトピックや児童文学が直面する問題について考え、自分なりの意見をもてるようになる。		
授業の概要	絵本や児童文学の特徴や問題点について、毎回のテーマに沿って講義する。作品や作家についての図版や写真をスライドで紹介する。		
授業計画	【前期】 第1回 児童文学とは何か？ 第2回 子どもに本は必要か？ 第3回 絵本や児童文学の変遷 第4回 文字の文学と口承の文学 第5回 昔話は残酷なのか？ 第6回 ディズニーの功罪 第7回 児童文学と差別 第8回 マイノリティーをめぐる児童文学 第9回 ハリー・ポッターとファンタジー文学 第10回 子どもの心の糧となる絵本の探し方 第11回 児童文学作品の評価の仕方 第12回 児童文学のタブー 第13回 世界の子どもたちは今 第14回 すぐれた児童文学作品を探す 第15回 まとめ		
テキスト	必要に応じてプリント配布	参考文献	授業の中で紹介
評価方法	平常点・授業への意欲:40% 定期試験:60%		

本・子ども・大人Ⅱ		後期 2 単位	1年
絵本がもつ豊かな世界		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 時代を超えて読み継がれていく絵本に触れ、すぐれた作品の特徴を理解する。 * 絵本を子どもに手渡すときの注意点や問題点を理解する。 * 子どもの心に届く読みかきかせができるようになる。 		
授業の概要	講義+学生参加。学生は、テーマに沿った絵本を探したり、自分で読みかきかせを行ったりする。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 インTRODakション：絵本とは何か</p> <p>第2回 絵本の歴史と現在</p> <p>第3回 絵本の種類</p> <p>第4回 絵本の絵の特徴</p> <p>第5回 絵本の文章の特徴</p> <p>第6回 絵本の構成と本作り</p> <p>第7回 絵本が読者の手に渡るまで</p> <p>第8回 美術的観点からのアプローチ</p> <p>第9回 心理的観点からのアプローチ</p> <p>第10回 絵本作家の工夫について考える</p> <p>第11回 特殊なニーズをもつ子どものための絵本</p> <p>第12回 読み聞かせと読み合い</p> <p>第13回 絵本読みを体験する</p> <p>第14回 科学の絵本と知識の絵本</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する	参考文献	松岡享子著『えほんのせかい こどものせかい』(日本エディタースクール出版部)ほか。随時紹介する。
評価方法	平常点・授業参加度:40% 定期試験:60%		

子どもの文学Ⅰ		前期 2 単位	2年
作家と作品の間、文学と映像の間		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 著名な作品を読み、作家の生涯を知る。 * 文学作品とそれを映像化した作品の違いとそれぞれの特徴を理解する。 * 作家の想像力とその背景にあるものを理解する。 		
授業の概要	英米の著名な児童文学作家の生涯と、その作品の関係を考察する。原作と映像化されたもののイメージの違いを理解し、それぞれの特徴を考える		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODakション</p> <p>第2回 『ピーターラビットのおはなし』シリーズの絵本を読む</p> <p>第3回 ビアトリクス・ポターの生涯と創作への動機</p> <p>第4回 映画「Miss Potter」を見て、映像と文学の違いを考える</p> <p>第5回 バレエ表現による「ピーターラビット」シリーズ</p> <p>第6回 『クマのプーさん』を読む</p> <p>第7回 A. A. ミルンの生涯と創作への動機</p> <p>第8回 ディズニー版のアニメ映画を見て、原作との違いを考える</p> <p>第9回 『影との戦い』を読む</p> <p>第10回 アーシュラ・K・ル＝グウィン の生涯と創作への動機</p> <p>第11回 ジブリ映画「ゲド戦記」と原作の距離</p> <p>第12回 『指輪物語』を読む</p> <p>第13回 トールキンの生涯と創作への動機</p> <p>第14回 映画『ロード・オブ・ザ・リング』と原作の違い</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	『ピーターラビットのおはなし』(ポター)、『クマのプーさん』(ミルン)、『影との戦い』(ル＝グウィン)、『指輪物語1』(トールキン)は各自で読んでお	参考文献	授業の中で随時紹介する
評価方法	授業への参加度:30% 提出物:40% 期末レポート:30%		

子どもの文学Ⅱ	後期 2 単位	2年
口承文芸と文学—アフリカの昔話や児童文学から考える	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「語る・聞く」の文化と「書く・読む」の文化の違いを理解する。 * 口承文芸が持つ意味や特徴やおもしろさを理解する。 * アフリカ地域の昔話、絵本、児童文学について知る。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>文献を読んだり映像を見たりしながらゼミ形式で進める。</p> <p>〈授業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 声の文化と文字の文化 第 3 回 世界の口承文芸 第 4 回 日本の口承文芸 第 5 回 アフリカの口承文芸 (1) 一般の人たち 第 6 回 アフリカの口承文芸 (2) プロの語り部 第 7 回 グリオと音楽 第 8 回 アフリカにおける文字の文化 第 9 回 アフリカの昔話を読む 第10 回 アフリカの昔話の特徴を考える 第11 回 アフリカ作家の絵本を考察する 第12 回 アフリカにおける子どもの文化を考える 第13 回 途上国における図書館の役割 第14 回 学生の疑問に答える 第15 回 まとめ <p>〈テキスト〉 適宜プリントを配布する</p> <p>〈参考文献〉 授業の中で随時紹介する</p> <p>〈評価方法〉 授業参加度:40% レポート:60%</p>		

文学	後期 2 単位	3年
ファンタジー文学を旅する	さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
<p>〈授業の到達目標及びテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> * ファンタジー文学について、すぐれた作品を知り、その特徴を理解する。 * ファンタジー文学の楽しさを理解する。 * 心に届くファンタジーの特徴をつかむ。 <p>〈授業の概要〉</p> <p>絵本と読み物の両方を取り上げる。作品を読みながらファンタジーの特徴やおもしろさをつかむ。ゼミ形式。受講生は必ず作品を読むこと。本好きな学生に受講してほしい。</p> <p>〈授業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 ファンタジーとは何か? 第 3 回 『人魚姫』と先駆者アンデルセン 第 4 回 『赤い蠟燭と人魚』と小川未明の時代 第 5 回 『ドリトル先生アフリカ行き』と動物のファンタジー 第 6 回 『星の王子さま』とさまざまな再版本 第 7 回 『かいじゅうたちのいるところ』とセンダックの魔法 第 8 回 『モモ』とドイツのファンタジー 第 9 回 『モモ』の映画と原作を比較する 第10 回 日常の魔法 第11 回 『精霊の守り人』と異世界 第12 回 『ローファンと魔法の地図』にみる作者像 第13 回 異世界の作り方 第14 回 ファンタジー文学の評価法 第15 回 まとめ <p>〈テキスト〉 以上にあげた作品をそれぞれが入手して読む。古い作品はネットでも入手可能。</p> <p>〈参考文献〉 授業の中で随時紹介する</p>		

音楽		前期 2 単位	1年
音楽の基礎指導		飯田 千夏 (いいた ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	楽譜を読むために必要な音楽の基礎的な知識を学ぶ事で、音楽の仕組みを理解する。また、様々な音楽活動を通して、歌う楽しさや喜びを経験し、幼児教育の現場で扱われる「こどものうた」を自らも楽しく歌うことができるようにする。		
授業の概要	第1回～第7回：C1B／第8回～第14回：C1A／第15回：まとめ／定期試験：音楽の基礎知識の確認（AB合同） 音楽の基礎的な知識を歌唱（こどものうた）を通して身につけていく。また、歌唱においては、手・指・身体を動かしながら歌うことを体験していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 うたに親しむ（楽譜についての基礎知識） 第2回 生活のうたを中心に歌う（ハ長調） 第3回 動物のうたを中心に歌う（ト長調） 第4回 季節のうたを中心に歌う（ヘ長調） 第5回 リズムや歌詞を活かして歌う 第6回 歌唱実技試験 第7回 合唱を楽しむ 第8回 うたに親しむ（楽譜についての基礎知識） 第9回 生活のうたを中心に歌う（ハ長調） 第10回 動物のうたを中心に歌う（ト長調） 第11回 季節のうたを中心に歌う（ヘ長調） 第12回 リズムや歌詞を活かして歌う 第13回 歌唱実技試験 第14回 合唱を楽しむ 第15回 まとめ		
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）	参考文献	特になし
評価方法	演習姿勢：50% 試験（実技・筆記）：50%		

音楽		前期 2 単位	1年
音楽の基礎		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の基礎、理解、発表。 より良い発声のための呼吸法の理解と実践、楽譜を読みこなせるように、写譜をすることにより記譜法を学び、調の理解、移調に取り組む。歌詞を理解し暗譜で歌う音楽表現の発表をする。		
授業の概要	2クラスに分かれて授業を進めます。 C1A 第1回～第7回及び第15回 C1B 第8回～第14回及び第15回 授業内容は、状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 発声の基礎、読譜の基礎、歌 第3回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第4回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第5回 発声、記譜の基礎、写譜の基礎、歌。幼児のための音楽表現。 第6回 発声、記譜の基礎、移調の基礎、歌。音楽表現。 第7回 発表（歌） 第8回 授業の進め方、発声の基礎 第9回 発声の基礎、読譜の基礎、歌 第10回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第11回 発声の基礎、読譜の基礎、記譜の基礎、歌 第12回 発声、記譜の基礎、写譜の基礎、歌。幼児のための音楽表現。 第13回 発声、記譜の基礎、移調の基礎、歌。音楽表現。 第14回 発表（歌） 第15回 レポート試験（課題提出）		
テキスト	「幼児の音楽教育」（音楽教育研究協会）。 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』（保育出版社）。	参考文献	必要な場合は、指示します。
評価方法	授業への積極的な参加：60% レポート、発表の内容：40%		

音楽表現Ⅰ		後期 1 単位	1年
打楽器と歌による音楽表現		飯田 千夏 (いいた ちなつ) 二ツ木 千由紀 (ふたつぎ ちゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	打楽器の幅広く多彩で奥深い表現力を自らの演奏を通して深めていくとともに、楽器の特徴とその奏法を理解する。また、子供と関わる現場において必要な歌の「トリ」を広げ、歌に打楽器が加わることで楽しさが膨らみ、音楽表現が豊かになることを自らの演奏を通して習得する。		
授業の概要	授業形態は「打楽器」「歌」「打楽器・歌合同」の3形態を適宜対応していく。打楽器の授業では様々な打楽器の基本奏法を学び、実際に楽器に触れながら演習していく。歌の授業では季節・行事の歌の他、コードネームを学ぶ。コードネームを活かしたオリジナル伴奏、またリズム楽器などを加え自分たちでこどものうたをアレンジできるよう指導して		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 小太鼓奏法とリズム基礎／リズムを感じながら歌う 第2回 大太鼓・シンバル奏法とリズム基礎／ディズニーソング 第3回 タンバリン・カスタネット奏法とリズム基礎／動物のうた 第4回 マリンバ奏法とリズム基礎／季節・行事の歌 (秋) 第5回 ボディ・パーカッション／実習に備えたこどものうた 第6回 言葉でパーカッション／コードネーム入門編 第7回 色々な打楽器①ラテン楽器／コードネーム実践編① 第8回 色々な打楽器②効果音／コードネーム実践編② 第9回 ラテンリズムのこどものうた 第10回 打楽器アンサンブル～スペインのカスタネット～ 第11回 合唱～クリスマスソング～ 第12回 打楽器と歌によるクリスマスコンサート 第13回 アンサンブルステップアップ①／季節・行事の歌 (冬) 第14回 アンサンブルステップアップ②／新しいこどものうた 第15回 打楽器と歌のまとめ		
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200 (チャイルド本社) その他、適宜、配布資料を用いる。	参考文献	打楽器事典：網代景介、岡田知之 共著
評価方法	演習姿勢:80% 実技試験:20%		

音楽表現Ⅰ		後期 1 単位	1年
音楽表現の基礎		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の基礎の理解。 基礎的な音楽表現の実践、発表。コードネームの基礎を学び実践する。楽器の製作、童謡の歴史、演奏家の人生を知り、理解を深める。		
授業の概要	音楽表現、障害と音楽、楽器の製作、楽器の製作者、日本の童謡の歴史、演奏家の人生、等の理解。手作り創作楽器を発表する。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業の進め方、 第2回 音楽表現 第3回 幼児のための音楽表現 第4回 幼児のための音楽表現 第5回 音楽表現 第6回 音楽表現 第7回 障害と音楽 第8回 弦楽器 演奏家の人生 第9回 発表(手作り創作楽器) 第10回 発表(手作り創作楽器) 第11回 クリスマスの音楽 第12回 日本の童謡 第13回 子守歌 第14回 レポート試験(課題提出)		
テキスト	「幼児の音楽教育」(音楽教育研究協会) 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』(保育出版社)	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽表現Ⅱ		前期 1 単位	2年
子供たちの心をひきつける		飯田 千夏 (いいだ ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	幼児教育現場の中で取り扱われているこどものうた、あそび歌、手遊びを習得し、実習や現場に出た時に必要とされる指導力を身につける。および、それらを展開するために必要な知識と技能を習得する。		
授業の概要	実習前は幼児教育現場に活かすことのできるこどものうた、あそび歌、手遊びなどを演習し、それに伴うきれいな日本語の発音、表情豊かに歌うことを身につけていく。実習後には、こどものうた、あそび歌、手遊びなどに、自ら創意工夫を凝らし、子供と共に楽しむための音楽活動を展開し、実践していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 遊びを取り入れたうたを楽しむ 第2回 みんなの好きなうた・こどもの好きなうた 第3回 リズムを活かした音楽活動 第4回 詩を活かした音楽活動 第5回 楽しさをふくらませる工夫(1) パネルシアター 第6回 楽しさをふくらませる工夫(2) 創作や替え歌 第7回 楽しさをふくらませる工夫(3) 表現と動き 第8回 実践的な活動(1) 幼児の嗜好を探る 第9回 実践的な活動(2) 幼児の表現活動の特性を探る 第10回 実践的な活動(3) 幼児との音楽活動 第11回 こどもと楽しむためのコンサート～企画と選曲 第12回 こどもと楽しむためのコンサート～表現や動き 第13回 こどもと楽しむためのコンサート～簡易楽器の挿入 第14回 こどもと楽しむためのコンサート～合唱 第15回 こどもと楽しむためのコンサート リハーサル		
テキスト	配布資料を用いる	参考文献	「手遊びうた」(学事出版) 「うたっておどっておもちゃ箱」(教育芸術社) 「音楽広場 特別編集 1-8巻」(クレヨンハウス)
評価方法	演習姿勢:60% 発表:40%		

音楽表現Ⅱ		前期 1 単位	2年
音楽表現の基礎と実践		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現の基礎の理解と実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的理解。		
授業の概要	発声と美しい発音の為のエクササイズ、記譜、幼児のための歌、歌唱と身体的表現、歌唱と伴奏表現。 楽器の使用、身体的表現、等の、音楽表現の基礎の総合的な理解と実践。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方、発声の基礎 第2回 幼児のための歌唱と身体表現 第3回 幼児のための歌唱と身体表現 第4回 歌唱と身体表現 第5回 歌唱と身体表現 第6回 幼児のための音楽表現と実践 第7回 幼児のための音楽表現と実践 第8回 音楽表現と実践 第9回 音楽表現と実践 第10回 音楽表現と実践 第11回 音楽表現と実践 第12回 音楽表現と実践 第13回 音楽表現と実践 第14回 音楽表現と実践 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
音楽表現を豊かにする		飯田 千夏 (いいだ ちなつ)	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽表現Ⅰ・Ⅱにおいて培ってきた音楽的能力を一段と高める事を目標とし、様々な音楽ジャンルの作品を通して、自身の音楽経験をより一層深めていく。演習を通じて、豊かな感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていくとともに、演奏技能を習熟させる。		
授業の概要	ミュージカル、クラシック、ポピュラー音楽等、幅広いジャンルから選曲し、それらを演習していく(例: サウンドオブミュージック、天使のラブソングなど)。学年末には授業で手掛けてきた曲(合唱、合奏など)を取り入れた演奏会を開催。自分たちで選曲から構成まで行い、皆で音楽を作り上げ、仕上げていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 イントロダクション: 心の1曲をさがす 第2回 声のアンサンブル・合唱(1) 音とり・パート練習 第3回 声のアンサンブル・合唱(2) 復習 第4回 声のアンサンブル・合唱(3) 曲想作り 第5回 楽器のアンサンブル・合奏(1) 音とり・パート練習 第6回 楽器のアンサンブル・合奏(2) 復習 第7回 楽器のアンサンブル・合奏(3) 曲想作り 第8回 表現力を磨く・ミュージカル(1) 歌唱・演技指導 第9回 表現力を磨く・ミュージカル(2) 動き・表現の創作 第10回 表現力を磨く・ミュージカル(3) まとめ 第11回 演奏会を企画する 第12回 演奏会のためのステップアップ(1) 練習 第13回 演奏会のためのステップアップ(2) 復習 第14回 演奏会のためのステップアップ(3) 全体の仕上げ 第15回 演奏会 リハーサル		
テキスト	配布資料を用いる	参考文献	特になし
評価方法	演習姿勢:70% 発表:30%		

音楽表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
音楽表現の理解と実践		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現についての実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的な理解と実践。		
授業の概要	発声と美しい発音の為のエクササイズ、幼児のための歌、歌唱と創作表現、歌唱と楽器を使用した身体表現、音楽表現の総合的な理解と実践。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業の進め方、音の表現 第2回 音の表現 第3回 歌唱と創作表現 第4回 歌唱と創作表現 第5回 歌唱と創作表現 第6回 身体表現(歌唱と楽器等) 第7回 身体表現(歌唱と楽器等) 第8回 幼児のための音楽表現と実践 第9回 幼児のための音楽表現と実践 第10回 音楽表現と実践 第11回 音楽表現と実践 第12回 音楽表現と実践 第13回 音楽表現と実践 第14回 音楽表現と実践 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽総合表現		前期 2 単位	3年
音楽表現の実践、音楽の総合的な理解。		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	芸術としての音楽の理解。 音楽表現についての理解と実践。 様々な音楽表現を通して音楽の総合的な理解。		
授業の概要	楽器の使用、身体的表現、ドキュメンタリーを通して、等、音楽表現の総合的な理解。 授業内容は状況に応じて、適宜調整する場合があります。		
授業計画	【前期】 第1回 授業の進め方 第2回 音楽表現と実践 第3回 音楽表現と実践 第4回 幼児のための音楽表現と実践 第5回 幼児のための音楽表現と実践 第6回 音楽表現と実践 第7回 音楽表現と実践 第8回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第9回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第10回 ドキュメンタリーを通して研究、考察 第11回 音楽鑑賞を通して研究、考察 第12回 音楽鑑賞を通して研究、考察 第13回 音楽表現のまとめ 第14回 音楽表現のまとめ 第15回 レポート試験		
テキスト	「実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現」 他、一年次使用のものと同じ、配布資料も用いる。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

音楽総合表現		後期 2 単位	3年
THE SOUND EXPLORER:実験的音（音楽）表現とその実践		吉仲 淳（よしなか あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	オーセンティックなノーテーションを用いる音楽のみならず環境音などの生活に溢れている音や身体の動きや状態などにも注目し様々な音に対する表現の可能性を探求する。そこから見える芸術表現領域における最重要課題の発見（音楽テクニックやプラクティスの所在など）をテーマとする。それをもとに自らの音楽観の再構築を目指すこと。		
授業の概要	講義と実技の両面から進める。聴覚（Aural-Skill）が主体となる音楽的な材料だけでなく筋肉組織での音楽記憶（Musical Muscular-Memory）などの芸術表現における身体知（Kinesthetic-Skill）や空間の感覚（Spatial-Skill）などの間主観的共通感覚的な材料を検討し、聴覚だけに頼ることのない音の聴取（The Second Auditory Senses）を考え		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 他 第2回 音の自分史 第3回 音の自分史 その2 第4回 音環境 第5回 音環境 その2 第6回 音環境のノーテーション化 第7回 音にならない世界の音 第8回 Graphic Notation 第9回 Graphic Notation 2：モーション化 第10回 作曲とインプロビゼーション 第11回 作曲とインプロビゼーション 2 第12回 子どものための作曲法 第13回 レポート課題および作品のデザイン発表 第14回 プレゼンテーション 第15回 プレゼンテーション 2 および総括		
テキスト	マリー・シェーファー著『音さがしの本』（春秋社）	参考文献	マリー・シェーファー著『サウンド・エデュケーション』（春秋社）ほか
評価方法	積極的に関わる姿勢:50% 提出物その他:50%		

器楽Ⅰ	前期 1 単位	1年
器楽の基礎技能を学ぶ（その1）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、飯田 千夏（いいた ちなつ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、大家 百子（おおや ももこ）、樫井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐々木 順子（ささき じゅんこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 幼稚園・保育園をはじめとする、子どもの教育・保育にたずさわる人々に必要な「器楽の基礎技能」を習得する。 ○ 「音楽性や芸術性」を深める学びをする。 ○ ピアノを中心に、アコーディオンも一部取り入れ弾けるようになる。</p> <p><授業概要> 履修者の幼児期から現在までの音楽経験等に配慮しながら、各学生にふさわしい教材を通して基礎技能をつけていく。メソード・ローズ、バイエル、フルグミュラー、ソナチネ、ソナタ等を通じてピアノの演奏技術を学ぶとともに、子どもの歌の伴奏、弾き歌いなどの経験を積む。保育の場で使用される比較的簡単な実際教材（行進曲、スキップの曲、子どもの歌の伴奏など）が演奏できるようになることが望ましい。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション。授業の内容や進め方の説明。各学生の課題を決める。 第2回～第14回 ピアノ教則本・子どもの歌などを教材にした、個人および少人数制のグループレッスン。 詳しい内容についてはそれぞれの進度により異なる。 第15回 実技試験</p> <p><進め方> 入学時に実施する「器楽履修調査票」と「自己申告票」に基づいて13クラスに分ける。 初心者・初歩段階の履修者向けに『基礎クラス』を設けている。 各学生の進度に応じて原則として個人レッスンを行うが、グループレッスンを取り入れる場合もある。</p> <p>『ピアノとアコーディオンの併用授業』 「1クラス」だけピアノとアコーディオンの両方を学ぶ。 アコーディオンは、アンサンブルの楽しみもあり、また保育の場では子どもの状態をよく見ながら演奏できることと、園舎外で手軽に伴奏できる利点がある。 前期では、ピアノの技術を身に付け音楽性を育てながら、コードの習得に努めアコーディオンの演奏能力を少しずつつけていく。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）など</p> <p>* <共通テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 『こどものうた200』（チャイルド本社） 『続こどものうた200』（チャイルド本社）</p> <p>* <共用テキスト> 歌唱練習曲集『世界のうたでソルフェージュ（改訂版）』（音楽之友社） （この1冊は、CⅡ・CⅢまでの音楽教育全体と幼稚園・保育園実習や就職先までを見通して考慮のうえ指定するものである。このため、テキストは3点セットとして用意する。）</p> <p><評価方法> 最終的には各担当教師が評価する。各段階に応じた課題曲が出題され発表会形式の実技試験を実施する。 授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。</p>		

器楽Ⅱ	後期 1 単位	1年
器楽の基礎技能を学ぶ（その2）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、飯田 千夏（いいた ちなつ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、大家 百子（おおや ももこ）、樫井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐々木 順子（ささき じゅんこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 教科課程上は、選択科目であるが、幼稚園教諭や保育士の資格取得希望者は、実習や就職につながる点で履修することが望ましい実技科目である。 11月に幼稚園実習もあるので「器楽Ⅰ」で習得した技術や弾き歌いなどの経験をさらに発展させ、より高い音楽性を養うとともに実践力を養う。 ○ 人前で演奏する力を身につけるとともに、お互いの演奏を聴きあうことを目標にした発表会を行う。</p> <p><授業の概要> クラス分けは、『基礎クラス』を含め、原則的には前期の「器楽Ⅰ」と同じにして継続学習を基本にする。事情のある時は、若干の微調整を行う。 各学生の進度に応じた個人レッスンを中心に進めるが、グルーブレッスンも適宜取り入れる。 ピアノとアコーディオンの併用授業も「1クラス」開講する。</p> <p><授業計画> 第1回～第4回 主に発表会準備を含む個人およびグルーブレッスン 第5回 発表会（予定） 第6回～第14回 ピアノ曲、子どもの歌などを教材にした個人およびグルーブレッスン 第15回 各担当教師ごとの実技試験</p> <p><テキスト></p> <p>* 共通テキスト やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 『こどものうた200』（チャイルド本社） 『続こどものうた200』（チャイルド本社）</p> <p>* 共用テキスト 歌唱練習曲集『世界のうたでソルフェージュ（改訂版）』（音楽之友社） （この1冊は、CⅡ・CⅢまでの音楽教育全体と幼稚園・保育所実習や就職先での活用などを見通して考慮のうえ指定するものである。このため、テキストは3点セットになる。）</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が評価する。各段階に応じた課題曲が出題され実技試験を実施する。 授業参加度50%、実技試験50%が基準となる。</p> <p>『ピアノとアコーディオンの併用授業』 「1クラス」だけピアノとアコーディオンの両方を学ぶ。 アコーディオンは、アンサンブルの楽しみもあり、また保育の場では子どもの状態をよく見ながら演奏できることと、園舎の外で手軽に伴奏できる利点がある。 前期に引き続きアコーディオンの演奏能力をピアノの学びとともに付けて行く。合奏にも取り組む。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）など</p>		

器楽Ⅲ	前期 1 単位	2年
器楽の基礎技能を学ぶ（その3）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（か しい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる （ちば かほる）、藤城 真美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 選択科目であるが、6月に幼稚園実習をひかえているので、初歩から始めた人は特に努めて履修することが望ましい。 ○ 1年次に習得した基礎技術や音楽への理解をより深め、豊かなものにしていく。 ○ 子どもの歌の伴奏や弾き歌いを多く経験することにより実践的な力も身に付けていく。</p> <p><授業の内容> 2年次には、ピアノの他にアコーディオン、オルガンを開講している。 短期間の学習であるから、あまり目先のことにとらわれず、各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら 実際の教材も併用し、土台づくりを中心としていく。</p> <p><授業の概要> 1年次同様、基本的には個人レッスンであるがグループレッスンを併用しているクラスもある。 なお、初歩的な学びの中にある履修者に対してより丁寧な手ほどきを意図する『基礎クラス』 （自己申告と教授者の判断を総合して決める）を設けているので、大いに活用してほしい。 また、難易度の高い曲を弾ける人も、さらに練習をかさねて、更なる展開や応用の力を培うことがのぞまれる。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> 1年次の『共通テキスト』を続けて使用するが、進度に応じて新しい教材を加えることもある。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が評価する。授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。</p> <p>『アコーディオン』</p> <p><授業内容と進め方> 実技による授業が中心になる。教則本を中心に、中級程度までの演奏能力をつける。 左手（ベース）の和音（コード）のメカニクを簡単に童謡の曲等で習得する。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> 「アコーディオンの本」（春秋社）ほか</p> <p>『オルガン』</p> <p><授業内容と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 同時にオルガンの構造等についての理解を深める。</p> <p><テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（ボックスビジョン出版）、『教会オルガン基礎教程』ウルフオード、『J. S. Bachオルガン曲集』 等</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>（付記） この「器楽Ⅲ」は、将来の幼稚園（保育園）等の就職に必要な基礎的技能であることを踏まえて、積極的に履修することが 望まれる。</p>		

器楽Ⅳ	後期 1 単位	2年
器楽の基礎技能を学ぶ（その４）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かほる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○選択科目であるが、11月に保育所実習もひかえているので、初歩から始めた人を中心になるべく履修することが望ましい。 ○1年次に習得した基礎技術や音楽への理解をより深め、豊かなものにしていく。 ○子どもの歌の伴奏や弾き歌いを数多く経験することにより実践的な力も身に付けていく。 ○人前で演奏する力をつけるとともに、お互いの音楽を聴き合うことを目標にした小発表会を適宜行う。</p> <p><授業の概要> 2年次には、ピアノの他にアコーディオン、オルガンを開講している。 短期間の学習であるから、あまり目先のことにとらわれず、各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、土台づくりを中心としていく。</p> <p><進め方> 1年次同様、基本的には個人レッスンであるがグループレッスンを併用しているクラスもある。 なお、初歩的な学びの中にある履修者に対してより丁寧な手ほどきを意図した『基礎クラス』（自己申告と教授者の判断を総合して決める）を設けるので大いに活用してほしい。 また、難易度の高い曲を弾ける人も、さらに練習を重ねて、更なる展開や応用の力を培うことが望ましい。 所属するクラス編成は原則として前期の「器楽Ⅲ」と同じにして継続学習を基本とする。</p> <p><授業計画> 第1回～第4回 発表会準備を中心とした個人およびグループレッスン 第5回 発表会（予定） 第6回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> 1年次の『共通テキスト』を続けて使用するが、進度に応じて新しい教材を加えることもある。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が評価する。授業参加度50%、実技試験50%を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』</p> <p><授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。後期なので、アンサンブル（合奏）の楽しさを体験学習する。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級）</p> <p><参考文献> アコーディオンの本（春秋社）ほか</p> <p>※『オルガン』</p> <p><授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 同時にオルガンの構造についての理解を深める。</p> <p><テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（バックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』（ウルフオード）、 『J. S. Bachオルガン曲集』等。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>（付記） この「器楽Ⅳ」は、将来の幼稚園・保育所等の就職に必要な基礎的技能であることを踏まえて積極的な履修が望まれる。</p>		

器楽Ⅴ	前期 1 単位	3年
ピアノ（アコーディオン・オルガン）・ギターの演奏を学ぶ（そのⅠ）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐藤 紀雄（さとう のりお）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かほる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 受講者の進度に応じて各楽器に親しんでいくと共に、演奏技術の向上や音楽性の涵養に努める。 ○ 3年次の保育所や施設での実習にも配慮し、また就職試験や現場で多く取り入れられている初見や移調などにも取り組む。</p> <p><授業の概要> 原則として、個人指導によるピアノ・アコーディオン・オルガン・ギターの授業を開講している。 各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、2年次よりの継続学習によりグレードアップに努める。</p> <p><進め方> 受講者の進度に応じた個別指導を中心に進める。 3年次での器楽Ⅴでは、各進度の違いを踏まえた混合クラスを基本にした編成で相互に刺激しあいながら学ぶ。 保育士資格取得を希望する人は、保育現場で使用する教材を優先的に学ぶことができる。 また、ピアノ連弾によるアンサンブルの経験も持つようにしたいと考えている。 パイプオルガン希望者は、礼拝堂で授業を行う。</p> <p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 それぞれの進度に応じた個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 幼児教育・保育士養成のための『幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―』（音楽教育研究協会）その他</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師で行う。 授業参加度50%、実技試験 50% を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』 <授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。 教則本を中心に、演奏能力をつける。合奏の楽しさを体験学習することにも取り組む。</p> <p><テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級） <参考文献> 「アコーディオンの本」（春秋社）ほか</p> <p>※『オルガン』 <授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけではなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 オルガンの構造等についての理解も深める。</p> <p><テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニアル』（パックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』ウルフォード、 『J. S. Bachオルガン曲集』等</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>※『ギター』 <授業の進め方> 簡単な基礎を学び、易しい曲や伴奏を実践してみる。</p> <p><テキスト> 小原安正監修『教室用ギター教本』ギタラ社</p> <p>【履修条件】 3年次からの履修も可能である。 なお、幼稚園や保育園等の就職に必要な基礎技能となることを踏まえて積極的な履修が望まれる。</p>		

器楽Ⅵ	後期 1 単位	3年
ピアノ（アコーディオン・オルガン）・ギターの演奏を学ぶ（そのⅡ）		
<p>【担当教員】 飯島 まゆみ（いじま まゆみ）、今泉 美由紀（いまいずみ みゆき）、大賀 久仁子（おおが くにこ）、櫻井 志保（かしい しほ）、北濱 美加（きたはま みか）、小高 まき子（こたか まきこ）、佐藤 紀雄（さとう のりお）、関 小百合（せき さゆり）、千葉 かほる（ちば かおる）、藤城 眞美（ふじしろ まみ）、山岡 秀明（やまおか ひであき）、湯口 依子（ゆぐち よりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> ○ 受講者の進度に応じて各楽器により一層親しんでいくと共に、更なる演奏技術の向上や音楽性の涵養に努める。 ○ 3年次の保育所・施設実習のアフターケアにも配慮し、また就職試験や現場で多く取り入れられている初見や移調などができるようになる。</p> <p><授業の概要> 原則として、個人指導によるピアノ・アコーディオン・オルガン・ギターの授業を開講している。 各進度に応じて、音楽的に優れた曲を弾きこみながら実際の教材も併用し、前期よりの継続学習により更なるグレードアップに努める。 また、人前で演奏する力をつけるとともに、お互いの音楽を聴き合うことを目標にした発表会を実施する。</p> <p><進め方> 受講者の進度に応じた個別指導を中心に進める。 なお、3年次「器楽Ⅵ」では各進度の混合グループで相互に刺激しあいながら学ぶ。 所属するクラス編成は原則として前期の「器楽Ⅴ」と同じにして継続学習を基本とする。 保育士資格取得を希望する人は、保育現場で使用する教材を優先的に学ぶことができる。 また、ピアノ連弾によるアンサンブルの経験も持つようにする。 パイプオルガン希望者は、礼拝堂で授業を行う。</p> <p><授業計画> 第 1回～第 7回 発表会準備を含む個人およびグループレッスン 第 8回 発表会（予定） 第 9回～第14回 個人およびグループレッスン 第15回 実技試験</p> <p><テキスト> やさしく・たのしく・いきいきと弾ける『子どもと遊ぶピアノ曲』（音楽之友社） 幼児教育・保育士養成のための『幼児の音楽教育―音楽的表現の指導―』（音楽教育研究協会） その他</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 各担当教師が行う。 授業参加度50%、実技試験 50% を基準とする。</p> <p>※『アコーディオン』 <授業の概要と進め方> 実技による授業が中心になる。教則本を中心に、演奏能力をつける。 合奏の楽しさを体験学習することにも取り組む。 <テキスト> マニアンテ アコーディオン教則本（1） トンボ アコーディオン教則本（初・中級） <参考文献> 「アコーディオンの本」（春秋社） ほか</p> <p>※『オルガン』 <授業の概要と進め方> 礼拝堂のパイプオルガンを使用して、オルガンの基礎的な奏法を学ぶ。 手鍵盤だけでなく、足鍵盤のパートのついた曲も演奏できるようにする。 オルガンの構造等についての理解も深める。 <テキスト> 次の中から各自の進度に合わせて選ぶ。 『オルガニスト・マニュアル』（バックスビジョン出版）、 『教会オルガン基礎教程』ウルフオード、 『J. S. Bachオルガン曲集』等 <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p>※『ギター』 <授業の概要と進め方> 基本の技術を学びながら易しい曲や歌の伴奏付けをします。 <テキスト> 小原安正監修『教室用ギター教本』ギタール社</p> <p>【履修条件】 3年次からの履修も可能である。 なお、幼稚園や保育園等の就職に必要な基礎的技能となることを踏まえて積極的に履修することが望まれる。</p>		

図画工作Ⅰ		前期 1 単位	1年
芸術表現の原体験 part 1 一平面造形の制作を主体にー		久保 制一（くぼ せいいち） 中根 のり子（なかね のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもたちの絵は実に自由でのびやかで、描きながら自在に表現する世界をひろげていく。新鮮な出会いと彷徨、冒険と実験、破壊と創造をダイナミックに展開する。誰もがかつてはこの「小さな芸術家」であった。この「小さな芸術家」と共感できる感性と創造の魂の再構築をめざし、自由に表現するすばらしさを体得できる。		
授業の概要	油絵を2ー3枚描く。描く途上で幼い頃の自由でのびやかな魂を呼び醒まし、自分の「形」自分の「色」を発見しながら、絵を描く楽しさ創造するよろこびを体感的に学ぶ。学外授業で展覧会に出掛ける。作品にはタイトルをつけ期日までに提出。絵具で汚れてもいい「仕事着」を着用。油絵具の道具の購入については4月「履修ガイダンス」で説明す		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 なぜ油絵を描くのか 道具の準備 第2回 油絵の楽しみ 絵具や筆のこと 第3回 油絵 インTRODクシヨン 小さな絵を描く 第4回 油絵を描く 1 「art work 1」何を描くか決める 第5回 油絵を描く 2 「art work 1」F10号キャンバスに描く 第6回 油絵を描く 3 「art work 1」絵の具をたっぷり 第7回 油絵を描く 4 「art work 1」サインをいれて終了 第8回 学外授業 美術展覧会 鑑賞（予定） 第9回 油絵を描く 6 「art work 2」キャンバスに下塗り 第10回 油絵を描く 7 「art work 2」絵の具をたっぷり 第11回 油絵を描く 8 「art work 2」色を混ぜる 第12回 油絵を描く 9 「art work 2」かたちをみつける 第13回 油絵を描く 10 「art work 2」サインをいれて終了 第14回 クラス全員の油絵を鑑賞し講評を聞く会 1 第15回 クラス全員の油絵を鑑賞し講評を聞く会 2		
テキスト	特に指定無し	参考文献	展覧会の絵。短大図書館の美術書コーナーの画集。 通学の車窓からの景色。隣にいる人。散歩している犬・・・
評価方法	授業への参加度:30% 作品・レポート:70%		

図画工作Ⅱ		後期 1 単位	1年
芸術表現の原体験 part 2 一平面造形の制作をさらにー		久保 制一（くぼ せいいち） 中根 のり子（なかね のりこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	筆を持つ手は思うようにのびやかに動いてくれないし、感性は常識と固定概念でしなやかさを失いかけているし、冒険するには勇気が足りない。でも子どものように自由でのびやかに絵を描くことができたら素敵だと想う。ここで、冒険心と勇気をもって絵を描いてみるなかからいつしか自由なartの世界の中にいる自分にふと気づく時が必ず訪れるであろう		
授業の概要	油絵を2枚描く。主に人間をテーマに油絵を自由な発想で描いていく。幼い日の自由な魂を呼び醒まし、自分のフォルムやカラーを発見しながら、ダイナミックに個性豊かな造形表現の可能性を追求し、絵を描く楽しさ・創造するよろこびをさらに深めていく。「仕事着」を着用。油絵具の追加、キャンバスの購入は第1回の授業で説明する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 木炭で絵を描く 「デッサン 1」 第2回 木炭で絵を描く 「デッサン 2」 第3回 学外授業/美術館でArtを鑑賞する 第4回 油絵を描く 1 「art work 3」F10号キャンバスに描く 第5回 油絵を描く 2 「art work 3」 第6回 油絵を描く 3 「art work 3」 第7回 油絵を描く 4 「art work 3」 第8回 油絵を描く 5 「art work 3」 制作終了 第9回 「アートドキュメントムービー」とワークショップ 第10回 油絵を描く 6 「art work 4」F10号キャンバスに描く 第11回 油絵を描く 7 「art work 4」 第12回 油絵を描く 8 「art work 4」 第13回 油絵を描く 9 「art work 4」 第14回 油絵を描く 10 「art work 4」 制作終了 第15回 クラス全員の油絵作品を鑑賞し講評を聞く会		
テキスト	特になし	参考文献	展覧会の絵。短大図書館の美術書コーナーの画集。 森羅万象、この世界のすべてがモチーフ。
評価方法	授業への参加度:15% 作品・レポート:85%		

造形表現Ⅰ	前期 1 単位	2年
芸術表現の原体験 part 3 ー立体造形の制作を主体にー		
【担当教員】 久保 制一（くぼ せいいち）、長江 眞弥（ながえ なおや）、本田 悦久（ほんだ よしひさ） <授業の到達目標およびテーマ> 1年次の図画工作Ⅰ・Ⅱでは油絵を描き平面の芸術表現に取り組んだが、ひきつづいて2年次のこの授業では、立体の造形表現の可能性を探究する。奥行きを把握することで「もの」の形を全面的・立体的に洞察することができ、それを再構成するなかで「もの」の本質理解に一步近づけることを実感しつつ、視覚だけではなく五感のすべてを稼働させてフォルムの発見をしていく。素材との出会い、道具の用法・立体としての構造など多くのことを学びながら、自分のフォルムを見つけ出していく。この工作のプロセスを通じて「手と心で考える」という芸術表現のマインドを実践的に深く感じとり学ぶことができるであろう。 <授業の概要> 立体造形の作品制作の授業。素材は主に紙を使用予定。3名の教員によるチームティーチング。受講生は「仕事着」を着用。 <授業計画> 【前期】 第1回 立体の作品をつくるということ 第2回 2013年度のテーマを提示 デッサンを描く 1 第3回 デッサンを描く 2 第4回 作品のイメージスケッチ 素材との出会い 第5回 素材の研究 素材の選択 道具の用法 第6回 art work 制作 1「素材選択」 第7回 art work 制作 2「素材収集」 第8回 art work 制作 3「かたち」 第9回 art work 制作 4「構造」 第10回 art work 制作 5「パーツ制作1」 第11回 art work 制作 6「パーツ制作2」 第12回 art work 制作 7「組み立て」 第13回 art work 制作 8「仕上げ」 第14回 art work 作品の提出 第15回 art worksの発表+講評の会 <テキスト><参考文献> 森羅万象、この地球上のあらゆるものの色や形やマチエールがモチーフとなる。 <評価方法> 授業への参加度:15% レポートと作品:85%		

造形表現Ⅱ	後期 1 単位	2年
芸術表現の原体験 part 4 ー立体造形の制作の更なる深化ー		
【担当教員】 久保 制一（くぼ せいいち）、長江 眞弥（ながえ なおや）、本田 悦久（ほんだ よしひさ） <授業の到達目標およびテーマ> 造形表現Ⅱは造形表現Ⅰに引き続き立体の作品を制作する。五感のすべてを稼働させて形の発見をしていく。その中で立体的な形態の把握をし再構成することが徐々に実感できるとその存在感やなしとげた達成感に喜びを感じることができる。生命感のある素材との出会い、素材のマチエール、道具の用法、立体の構造など多くのことを探りながら、自分のフォルムを彫り刻み出していく。この創造を究めるプロセスを通じて「手と心で考える」という芸術表現のマインドを実践的に感じとり修得していくことができる。 <授業の概要> 立体造形の課題作品の制作が主体の実技の授業。素材は、主に木材を使う。粘土も使用する予定。3名の教員によるチームティーチング。「仕事着」「作業靴」を必ず着用。 <授業計画> 【後期】 第1回 作品2013年度のテーマを提示 デッサンを描く 第2回 形の研究 粘土によるテーマ研究 第3回 素材との出会い 素材の研究 第4回 道具・工具の基本用法 接着の技法 第5回 作品のイメージスケッチ 素材の選択 第6回 art works 制作 1「素材」 第7回 art works 制作 2「構成」 第8回 art works 制作 3「彫る」 第9回 art works 制作 4「刻む」 第10回 art works 制作 5「接合」 第11回 art works 制作 6「研磨」 第12回 art works 制作 7「組立」 第13回 art works 制作 8 提出 第14回 クリスマス Art Works 研究 第15回 作品の発表+講評の会 <テキスト><参考文献> 森羅万象、この宇宙のすべてがモチーフ。 <評価方法>		

造形教育研究		前期 2 単位	3年
表現と素材・色彩と形		原田 ロクゴー (はらだ ろくごー)	
授業の到達目標 及びテーマ	美術表現における素材のもたらず効果を考察し、多様な素材から適切なものを選択し表現できる力を養う。また、“色”を理論的に理解し、“色料”を表現素材の1つとして使うことができる力を養う。以上2点が到達目標である。		
授業の概要	造形表現に用いる素材は多種多様であるが、本講義は“繊維”と“顔料と染料”に焦点を絞り進めていく。理解を助けるために、色彩演習・紡糸/製織演習などを行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 色 第2回 色料 顔料と染料 第3回 色料 演習【自分の色を作り色名をつける】 第4回 色料 演習【自分の色で連続模様をつくる】 第5回 繊維の組成と歴史 羊毛/綿 第6回 繊維から糸に 演習【紡錘車による糸紡ぎ】 第7回 繊維の組成と歴史 絹/麻 第8回 糸から布に 織機の構造 演習【梭機作り】 第9回 糸から布に 織り物の組織 演習【機織り】 第10回 ショワの布 第11回 民族布 第12回 “包む”と“衣の形式” 第13回 正倉院の染織 第14回 小袖を読み解く 第15回 講評会		
テキスト	適宜ハンドアウトを配付	参考文献	図書館にある「正倉院」関連の書籍／「色彩学」の書籍／染織・美術等の書架にある書籍
評価方法	小テスト:25% 提出物:35% 発表/質疑応答など:40%		

身体表現 I		後期 1 単位	1年
身体を楽しく自由にのびのびと使うことによって、一人ひとりが自分の「からだ」について理解する		中川 聖子 (なかがわ せいこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽に合わせて楽しく動くなかで、踊りの中での身体の見え方や見せ方、踊るための身体の手作り方や動かし方、ダンスの基本を理解し、実践できるようになる。その中で、自分自身の「からだ」を理解し、踊りの中での他者との関わり方や自分自身の表現ができるようになる。		
授業の概要	自由な表現力を養うために、のびのびと身体を動かすことを目指す。毎回少しずつコンビネーションをつないでいき、一連の動きや踊りを集中して表現することを学ぶ。また、他者と同じ空間で踊ることによって、他者や空間を意識しながら動いていくことを学ぶ。まとめとしてレポートを提出する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 立つ：いろいろな立ち方と姿勢 第2回 座る：いろいろな座り方 第3回 寝る：いろいろな寝転がり方 第4回 身体を部分的に動かす① 第5回 身体を部分的に動かす② 第6回 まわる① 両足でまわる 第7回 まわる② 片足でまわる 第8回 まわる③ ターンコンビネーション 第9回 飛ぶ：いろいろなジャンプ 第10回 ゆっくり動く 第11回 はやく動く 第12回 数人で動く 第13回 集団で動く 第14回 楽しく踊る① 第15回 楽しく踊る② まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	授業時に提示・配布する
評価方法	授業への取り組み方:60% 実技点:10% レポート:30%		

身体表現Ⅲ		後期 1 単位	2年
リトミックを通して幼児の音楽的表現の実際を学ぶ		伊藤 仁美 (いとう さとみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	実践的にリトミックを体験することでリズムや音楽に関わる様々な表現活動を理解する。		
授業の概要	乳幼児期の音楽的な成長や発達について理解を深め、音楽を通じた身体表現活動の実際について学習する。具体的には「ボディパーカッション」「幼児のための振り付け創作」「リトミック」「絵本・音楽・身体表現」等の様々な活動を取り上げていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 幼児のリトミック (1) 手を叩く 第3回 幼児のリトミック (2) 歩く 第4回 幼児のリトミック (3) ストップ&ゴー 第5回 幼児のリトミック (4) ギャロップ 第6回 幼児のリトミック (5) スキップ 第7回 幼児のリトミック (6) 様々なリズムパターン 第8回 わらべうたと身体表現 (1) 乳児編 第9回 わらべうたと身体表現 (2) 幼児編 第10回 ボディパーカッション (1) オルフ 第11回 ボディパーカッション (2) ロックトラップ 第12回 幼児のための振り付け創作 第13回 絵本・音楽・身体表現 (1) 乳児編 第14回 絵本・音楽・身体表現 (2) 幼児編 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。	参考文献	特になし。
評価方法	授業に対する参加意欲度:70% 授業内発表:30%		

演劇表現Ⅰ		前期 1 単位	3年
ドラマによる表現教育		土屋 康範 (つちや やすのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	ドラマとは何か、それに取り組むことによって身体的な表現力やコミュニケーションの能力がどのように向上するの かを理解する。それを応用して日常生活における自身のコミュニケーションの質を高め、また他者の能力を高める手助 けができるようになる。		
授業の概要	ドラマの創作に取り組む。中間にはドラマの筋書きを提出してもらい、身体表現の基礎トレーニングから始めて演 技、演出上の重要概念を体得し、最後には創作したドラマを上演して自己批評する。参加型の授業なので出席を重視す る。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、心身の解放、マイム、「ドラマ」の概念 第2回 身体表現の基礎トレーニング① 行動の概念 第3回 身体表現の基礎トレーニング② 行動とそれに応じる行動 第4回 身体表現の基礎トレーニング③ 相互交流 第5回 スケッチ (短い劇) に挑戦しよう① 舞台上の交流 第6回 スケッチに挑戦しよう② 観客と舞台との間接的交流 第7回 スケッチに挑戦しよう③ 観客と舞台との直接的交流 第8回 ドラマの創作① プロットの設定 第9回 ドラマの創作② 序盤の場面を作る 第10回 ドラマの創作③ 中盤の場面を作る 第11回 ドラマの創作④ 終盤の場面を作る 第12回 ドラマの創作⑤ 役の感情表現を磨く 第13回 ドラマの創作⑥ キャラクターの表現を磨く 第14回 修了公演 (創作ドラマの発表) 第15回 修了公演の自己批評と講評、まとめ		
テキスト	随時、教材のプリントを配付する。	参考文献	B. ウェイ著・岡田陽他訳『ドラマによる表現教 育』(玉川大学出版)、V. スポーリン著・大野あ きひこ訳『即興術』(未来社)、その他随時紹介す
評価方法	授業への参加態度:45% 中間レポートの内容:20% 公演の到達度と批評:35%		

演劇表現Ⅱ		後期 1 単位	3年
演劇ワークショップー演劇を作るところから考えてみるー		柏木 陽（かしわぎ あきら）	
授業の到達目標 及びテーマ	演劇を作ることを通じて演劇表現、こどもの表現を考えてみる。 他の人がどう作るか、どう感じるか、自分ならどう作るかなど様々な感じる中から、自分自身がどう充足するか、自分の中にあるものをどうやったら他の人に伝えていくことが出来るかを実践してみる。		
授業の概要	集まった人々と実際に演劇を作ってみます。 この授業は集まった人々によって進め方が異なっていきます。 その場での合意や探求が重要だと考えますのでこの授業計画も可変的な物だと思ってください。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 遊ぶ～遊びを通じて他者との関係を作る</p> <p>第 2回 アイディアを集める 表現方法の模索</p> <p>第 3回 題材を探す</p> <p>第 4回 一度作ってみる</p> <p>第 5回 検証</p> <p>第 6回 シナリオにしてみる 言葉以外の方法</p> <p>第 7回 シナリオにしてみる 言葉で</p> <p>第 8回 場面を作ってみる 短い場面を作る</p> <p>第 9回 場面を作ってみる 場面を工夫してみる</p> <p>第10回 衣裳・小道具の計画を立てる</p> <p>第11回 中間発表</p> <p>第12回 作り直し 1 全体を考えて構成を考え直す</p> <p>第13回 作り直し 2 表現方法を模索する</p> <p>第14回 発表</p> <p>第15回 まとめ それぞれの感想を話し合ってみる</p>		
テキスト	授業中にプリントを配布	参考文献	必要に応じて授業中に提示
評価方法	授業への参加:50% 発表などの内容:30% レポート:20%		

子ども学基礎論		前期 2 単位	1年
大学での学びの基礎となる教養を培う			
<p>【担当教員】</p> <p>浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>この科目は、子ども学科において、これから学習する内容の基本となる広い教養を培うことを目指しています。 人間の原点である子どもを学ぶことの現代的な意義について、様々な角度から考察します。 具体的には、子どもの発達や保育・教育・福祉・文化などの諸問題を中心にしながら、今日子どもがおかれている社会的・文化的状況についての理解を深めていきます。 あわせて、学ぶことの真の意味である、既成の概念を疑い、自らの心と頭と身体を駆使して感じ取り、考え、洞察し、頭脳と感性を耕していく自己変革の生活への一歩となる時間を、共に創造していく機会にしたいと願っています。</p> <p><授業の概要></p> <p>少人数のグループによる授業を主体にし、資料収集・討論・見学・ワークショップなどグループやそのテーマごとに多様な方法で行われます。 本年度は10のグループに分かれます。 また、途中で別のグループ分けによる学外見学が予定されています。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1～7回 グループによる相互学習</p> <p>第 8回 学外見学(幼稚園)</p> <p>第 9～14回 グループによる相互学習／第15回 まとめ</p> <p><テキスト> 各グループで適宜考えます。</p> <p><参考文献> 各グループで必要に応じ、随時紹介して行きます。</p> <p><評価方法> 平常点70%、レポート・提出物など30%を基本として各教員が評価します。</p> <p>(付記) 「子ども学基礎論」の学びの一環として、全クラスで午前中の半日、約10か所で幼稚園見学を予定していますので、幼稚園免許取得の希望と関わりなく、必ず全員が出席してください。</p>			

子ども学基礎演習	後期 2 単位	1年
大学での学びの基礎となる教養を深める		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこほり まさこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この科目は、子ども学基礎論で培った学びをより深めることを目指す科目です。 人間の原点である子どもを学ぶことの現代的な意義について、様々な角度から考察し、深めます。 具体的には、子どもの発達、保育、教育、福祉、文化などの諸問題を中心にしながら、今日子どもがおかれている社会的・文化的状況についての理解をいっそう深めていきます。 あわせて、学ぶことの真の意味である、既成の概念を疑い、自らの心と頭と身体を駆使して感じ取り、考え、洞察し、頭脳と感性を耕していく自己変革の生活への第2段階となる時間を、共に創造していく機会にしたいと願っています。</p> <p><授業の概要> 自ら選択した少人数のグループによる授業を主体にし、資料収集・討論・見学・ワークショップなどグループやそのテーマごとに多様な方法で行われます。本年度は10のグループに分かれます。 また、途中で別のグループ分けによる学外見学が予定されています。</p> <p><授業計画> 第1～7回 グループによる相互学習／第8回 学外見学(保育所)／第9～14回 グループによる相互学習 第15回 まとめ</p> <p><テキスト> 各グループで適宜考えます。 <参考文献> 各グループで必要に応じ、随時紹介して行きます。 <評価方法> 平常点70%、レポート・提出物など30%を基本として各教員が評価します。</p> <p>(付記) 「子ども学基礎演習」の学びの一環として、全クラスで午前中の半日、約10か所で保育所見学を予定していますので、保育士資格取得の希望と関わりなく、必ず全員が出席してください。</p>		

子ども学基礎演習	後期 2 単位	1年
子どもへのまなざし —子どもを通して人間や社会を考える—		浅見 均（あさみ ひとし）
授業の到達目標 及びテーマ	○ 子どもをキーワードに討議することができる。 ○ 子どもについて考え、自分の言葉で発表できる。 ○ 子どもを考えることを通して自分の考えを文章にできる。	
授業の概要	先ず、子どもをキーワードに、新聞記事を持ち寄り、子ども関連の記事を通して人間や社会について考える。次にドキュメンタリーや映画などを通して子どもについて、社会について人間についてさらに考えを深めていく。また子どもに関するテーマで調べ、文章にまとめ、発表をする。	
授業計画	【後期】 第1回 授業概要及び組み立てについて 第2回 新聞の中の子ども 新聞記事からの討議 第3回 ドキュメンタリー映像 子どもと貧困 視聴 第4回 映像を見て討議及びレポート作成 第5回 保育所見学 第6回 保育所の子ども (1) 保育所見学レポート発表 第7回 保育所の子ども (2) 保育所見学レポート発表 第8回 子どもをテーマに調べる テーマを設定 第9回 子どもをテーマに調べる 図書館で資料探索 第10回 子どもをテーマに調べる 図書館及びPCで調べる 第11回 子どもをテーマに調べた資料をまとめる 第12回 子どもをテーマに調べたものを文章にする 第13回 子どもをテーマにまとめたものを発表する 第14回 子どもをテーマにまとめたものを発表する 第15回 まとめ	
テキスト	特になし	参考文献 特になし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%	

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子どもや社会について考え、併せて学び方や研究の方法について具体的に学ぶ		阿部 真美子 (あべ まみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1) 現代社会における子どもの生活・遊びについて視点を持ち、具体的な姿からアプローチを試みる 2) グループで研究する。協働、調査、まとめ、発表に積極的に参加しようとする意欲を養う。 3) 上記の作業によって、情報の収集、理解の仕方、まとめ方、言葉の使い方などの基礎を習得する		
授業の概要	現代社会における子どもの生活・遊びにおける様々な姿を具体的に知る作業を行う。 また、テーマを絞ってグループ研究を行い、そのための情報収集や、討議、まとめの作成やプレゼンテーションを行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション(授業趣旨、進め方、評価方法) 第2回 子どもの生活・遊びの状況：視点について 第3回 子どもの生活・遊びの状況：エピソードで 第4回 上記について、学生による発表：4名 第5回 上記について、学生による発表：4名 第6回 保育園見学 第7回 保育園での子どもの姿：エピソード作成作業 第8回 保育園での子どもの姿：エピソード発表・質疑 第9回 グループ研究の方法、グループ編成、相談(テーマ) 第10回 グループ研究の計画作成 第11回 グループ研究作業 第12回 グループ研究作業 第13回 グループ研究の発表 第14回 グループ研究のまとめ(冊子)作成 第15回 グループ研究のまとめ(冊子)の作成		
テキスト	特定のテキストは無い。	参考文献	参考文献や資料については調査することを主眼とする
評価方法	平常点(積極的参加):40% プレゼンテーション:30% レポート、冊子:30%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
ピンホールカメラで写真を撮る 一見ること見えること見てないこと一		久保 制一 (くぼ せいいち)	
授業の到達目標 及びテーマ	写真はデジタルカメラや携帯電話で撮るといことが当たり前になっている。写真そのものの歴史は数百年に満たないものであるが、現在急速な「進化」を遂げている。その原点に立ちかえりピンホールカメラで撮影し、カメラの針穴から見たビジョンを印画紙に定着させる作業を通じて、見ることの理解を深めることができる。		
授業の概要	身近な素材からピンホールカメラを制作し、毎回異なるテーマに即した写真を撮影する。その写真を暗室で現像しイメージを定着させる。ピンホールカメラに封じ込められた時間と空間をモノクローム写真として再現し、その表現力や写真本来の魅力を感じつつ、見ることの意味を考察していく。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨ ン 写真の誕生 第2回 ピンホールカメラの制作1 第3回 ピンホールカメラの制作2 第4回 ピンホールカメラの制作3 第5回 「テーマ1」自作カメラで撮影・ネガ現像 第6回 「テーマ2」自作カメラで撮影・ネガ現像 第7回 「テーマ3」自作カメラで撮影・ネガ現像 第8回 「テーマ4」自作カメラで撮影・ネガ現像 第9回 「テーマ5」自作カメラで撮影・ネガ現像 第10回 「テーマ6」自作カメラで撮影・ネガ現像 第11回 「テーマ7」撮影・ネガ現像、ネガポジ現像1 第12回 「テーマ8」撮影・ネガ現像、ネガポジ現像2 第13回 ネガポジ現像3 第14回 ネガポジ現像4 第15回 写真の発表、シェアする		
テキスト	ワークシートを配布する。	参考文献	短大図書館にある写真集、画集。
評価方法	平常の取り組み:20% レポート:30% 作品:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
欧米社会と日本の社会		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会を取り巻く地球環境、異文化理解、家族、等のテーマを、調査、映像、見学、等により、現代社会の状況の理解、問題提議、ディスカッション等をする。		
授業の概要	図書館の利用、資料、情報の収集、新聞の利用、見学(国連ギャラリー、東京ウイメンズプラザ、等)により、現代社会の状況理解、問題提議、ディスカッション、レポートを書く。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の進め方 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 家族(欧米と日本) 第4回 家族(欧米と日本) 第5回 見学 第6回 女性(欧米と日本) 第7回 女性(欧米と日本) 第8回 女性(欧米と日本) 第9回 見学 第10回 環境(欧米と日本) 第11回 環境(欧米と日本) 第12回 環境(欧米と日本) 第13回 見学 第14回 演習の総括 第15回 レポート試験		
テキスト	必要な場合は、指示、または、資料を配布します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% レポート、提出物の内容:40%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子どもの本にとってのワンダー		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 討論したり、発表したりすることに慣れる。 * 子どもにとってのワンダーの必要性を理解する。 * 子どもの本の多様性を理解し、ありきたりでない自分の意見を持てるようになる。		
授業の概要	前半は、『センス・オブ・ワンダー』を読んで、子どもにとって必要なものについて考え、討論する。 後半は、主に社会問題を扱った子どもの本を題材にして、視野を広げ、さまざまな問題についての理解を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 レイチェル・カーソンについて 第3回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第一部 第4回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第二部 第5回 『センス・オブ・ワンダー』を読んで考える：第三部 第6回 実習体験を語り合う 第7回 子ども本にも必要なワンダーとは 第8回 自然環境を扱った子どもの本を読んで考える 第9回 戦争と平和を扱った子どもの本を読んで考える 第10回 生と死を扱った子どもの本を読んで考える 第11回 いじめや差別を扱った子どもの本を読んで考える 第12回 人権を扱った子どもの本を読んで考える 第13回 異文化を扱った子どもの本を読んで考える 第14回 家族を扱った子どもの本を読んで考える 第15回 まとめ		
テキスト	レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』（新潮社ほか）	参考文献	授業の中で紹介する
評価方法	平常点:30% プレゼンテーション:30% レポート:40%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子どもの”居場所”を考える		菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	近年大人が一方向的に子どもに与えるのではない居場所のあり方—子どもの意見を反映させた居場所づくり—が注目されている。この授業では児童期以降の子どもたちによる居場所づくりの実践を、グループメンバーとの対話を通して学び、それぞれの子ども観、大人観を再構築しながら、子どもと大人の関係性についての理解を深める。		
授業の概要	”居場所”について書かれたテキストを中心に演習形式で進める。机上の学びだけではなく実際の居場所に出かけることも予定している。決められたテキストを事前に読み、各自の考えをまとめ授業に臨むなど積極的な参加を求める。対話のルールを確認したうえで授業を進め、対話を通して他者の視点を理解し自己の視点を相対化する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 グループワーク～子ども観、大人観を探る 第3回 居場所とは 第4回 子どもの参画とは 第5回 フリースペースの実践から①フリースペースとは 第6回 フリースペースの実践から②子どもの立場から 第7回 フリースペースの実践から③親の立場から 第8回 フリースペースの実践から④スタッフの立場から 第9回 実際の居場所に出かけてみよう (見学) 第10回 見学振り返り 第11回 遊び場づくりの取り組みから①遊び場とは 第12回 遊び場づくりの取り組みから②子どもと大人の関係性 第13回 子どものまちの取り組みから①子どものまちとは 第14回 子どものまちの取り組みから②子どもと大人の関係性 第15回 全体まとめとふりかえり		
テキスト	授業内で指定	参考文献	子どもの参画情報センター編『居場所づくりと社会的つながり』萌文社 西野博之『居場所のちから』教育資料出版会
評価方法	授業への取り組み方:50% レポート:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
「視る」「聴く」を経験する。		杉田 穂子 (すぎた やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは、日頃「見たり、聞いたり」しながら生活している。そのことをふまえ、「見る」と「視る」、「聞く」と「聴く」の違いを意識し、生活の中から疑問やおもしろさを見つけていくことを目標とする。		
授業の概要	「視る」については、日常生活でであう人たちを観察するヒューマンウォッチングを通して考えてく。また「聴く」については、身近な人へのインタビューを通して考えていく。そしてヒューマンウォッチングやインタビューをレポートにまとめ発表し、仲間と意見交換するなかで、自分の問題意識を理解する。		
授業計画	【後期】 第1回 シラバスの紹介 第2回 自己紹介 第3回 ヒューマンウォッチングについて 第4回 実際に街にでてみよう。 第5回 ヒューマンウォッチングのレポート発表(1) 第6回 ヒューマンウォッチングのレポート発表(2) 第7回 ヒューマンウォッチングのレポート発表(3) 第8回 インタビューについて 第9回 実際にインタビューしてみよう。 第10回 インタビューレポートについての発表(1) 第11回 インタビューレポートについての発表(2) 第12回 インタビューレポートについての発表(3) 第13回 インタビューレポートについての発表(4) 第14回 気づきについての話し合い 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	特になし	参考文献	伊藤哲司・能智正博・田中共子編「動きながら識る、関わりながら考える」ナカニシヤ出版 2005
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
宗教と社会		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 公教育における宗教と教育の関係について理解する、2. 日本の教育における宗教の地位について説明する、3. 各国の宗教教科書について説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	テキストを全員が毎回読み、その上でA4一枚にその主張、それに対する批判的見解、感想をまとめてくる。授業ではその内容についてミニグループで討論し、授業のおわりにその内容を他グループと共有する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 1章 教科書が推進する宗教教育 第3回 2章 なぜ宗派教育的なのか 第4回 3章 教科書が内包する宗教差別Ⅰ 第5回 3章 教科書が内包する宗教差別Ⅱ 第6回 4章 なぜ偏見・差別が見逃されてきたのか 第7回 5章 海外の論争と試行錯誤Ⅰ 第8回 6章 宗教を語りなおすために 第9回 中間まとめ 第10回 イスラームとは何か 第11回 イスラームと教育 第12回 映画に見るイスラーム 第13回 日本におけるイスラーム 第14回 スピリチュアル・ブーム 第15回 まとめ		
テキスト	藤原聖子(2011)『教科書の中の宗教——この奇妙な実態』岩波書店。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:80% レポート:20%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
子ども学基礎論		村知 稔三（むらち としみ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界と日本の子ども学の歩みと成果」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、国内外の子ども学の歴史と現状について基本的な理解を得て、その成果と課題について考察することである。同時に、ゼミでのレポートのまとめと発表、それをめぐる討論の仕方について基礎的能力を身につける。		
授業の概要	若い学問である子ども学を国内外の広がりの中から捉え、その歴史と到達点を理解するために教員の講義部分とゼミナール員の発表部分を組み合わせて進める。		
授業計画	【後期】 第1回 ゼミのねらい・進め方の説明と討議 第2回 日本の子ども学の歴史 第3回 日本の子ども学の到達点 第4回 欧米の子ども学の歴史—19世紀— 第5回 欧米の子ども学の歴史—20世紀— 第6回 欧米の子ども学の到達点 第7回 国内外の子ども学の交錯 第8回 中間まとめ 第9回 ゼミグループ(1)の発表と討論 第10回 ゼミグループ(2)の発表と討論 第11回 ゼミグループ(3)の発表と討論 第12回 ゼミグループ(4)の発表と討論 第13回 ゼミグループ(5)の発表と討論 第14回 ゼミグループ(6)の発表と討論 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

子ども学基礎演習		後期 2 単位	1年
人として生きることの豊かさを考える～他者をここに住まわせるために		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標及びテーマ	子どもから高齢者まで社会を構成する人々の生きる姿や生活の多様性、抱える諸問題、それらの文化的・社会的・歴史的背景に出会い、より広い観点から人間と社会をとらえ考え始めることを大きな到達目標とする。そこで、大小の問いを探求しあう場を、感受性を耕す体験の共有と、ダイナミックな、あるいは静かな討論によってともに作りたい。		
授業の概要	国内外の映像資料（主にドキュメンタリー作品）や文献等の資料を素材とし、テーマに関する演習と討論を重ねる。映像のなかに人間や社会の姿がどう描かれていたか。描かれなかった余白に何があるか。私たちに投げかけられた問いかけとは何か。そこから人間社会の課題や可能性をどう見いだせるのか。ともに語り、大人としてより深く考え始めた		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション～授業構成と扱うトピックスの紹介 第2回 ドキュメンタリー作品視聴 ① 第3回 討論と演習：いのちの価値と人権、人間らしい暮らしとは 第4回 プレゼンテーションとワークショップ：「他者」とは誰か 第5回 討論と演習：他者と出会う力、他者とつながる力 第6回 討論：保育の営みが子ども・家庭・地域にもたらすもの 第7回 ドキュメンタリー作品視聴 ② 第8回 討論と演習：女性を生きる、「マイノリティ」を生きる 第9回 ワークショップと討論：“Who are you?” 第10回 討論と演習：「学ぶ」ことの意味と社会参加 第11回 ドキュメンタリー作品視聴 ③ 第12回 プレゼンテーション：私が出会った人と社会（1） 第13回 プレゼンテーション：私が出会った人と社会（2） 第14回 ワークショップ：「センス・オブ・ワンダー」を探して 第15回 まとめのコラージュ作成と発表、シェアリング		
テキスト	固定して用いるテキストはないが、購入して読む文献はある（なお、用いる映像資料の流れは、授業展開や学生からのフィードバックにより決定してい	参考文献	必要に応じ、取り扱う各トピックスに関連する文献・資料を随時紹介する予定。
評価方法	授業参加状況・感想文:40% 提出課題:20% まとめのレポート:40%		

子ども学特別研究Ⅰ	前期 2 単位	2年
特別研究への取り組み（その1）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この授業は、学生が自らの知的関心と独自の視点にもとづいて研究テーマを設定し、本学科で学んでいる知見を手掛かりに、論文の作成、品の制作にとりくむもので、このことにより課題研究の体験学習を積む。また、同じグループに属するメンバー相互の意見交換や討論により、研究テーマをできるだけ総合的に捉えることができるようにする。これらを通して、大学教育で肝心の既成概念や先入観の再吟味、自発的で創造的な課業となることが期待される。指導教員ならびにその指導の主要な分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要> 原則として、個別テーマに即した研究内容についての助言や指導とともに、それを論文や制作として構成し、記述・表現する方法などについての個別指導やグループ指導が行なわれる。グループ研究（制作）の場合もある。同じグループ内での相互の意見交換や討論・批判などが次の特別研究の取り組みへとつながっていく。この特別研究は、原則として、2年次後期「子ども学特別研究Ⅱ」、3年次前期「子ども学特別研究Ⅲ」、同後期「子ども学特別研究Ⅳ」を継続して履修するものとする。</p> <p><授業計画> 第1～15回 それぞれの研究テーマに即してその内容の深化に努め、資料収集や予備調査を行ない、後期の執筆や制作の準備を行なう。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物などを総合して評価される。</p>		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
幼児及び保育をとりまく諸課題についての探究Ⅰ		浅見 均（あさみ ひとし）	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 論文作成の基礎・基本としての読む、討議する、書くことを身につける。 ○ 幼児及び保育における様々な課題について広範な視点より探究し、自分の言葉で発表することができる。 		
授業の概要	前半は論文作成にあたっての基礎・基本を身につけることを主眼に置き、その後、保育関連の文献を読み、ディスカッションをする。また、受講生の興味あるテーマでグループ研究をし、レポートを作成し、発表、討議する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方について他</p> <p>第2回 研究テーマ方向性発表</p> <p>第3回 論文作成にあたっての資料収集の基礎（図書館）</p> <p>第4回 論文作成の基礎1 ワードの基礎</p> <p>第5回 論文作成の基礎3 エクセル及びパワーポイントの基礎</p> <p>第6回 文献研究および討議1</p> <p>第7回 文献研究および討議2</p> <p>第8回 文献研究および討議3</p> <p>第9回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第10回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第11回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第12回 テーマに基づく調査研究（グループでの活動）</p> <p>第13回 テーマに基づく報告・発表・討議</p> <p>第14回 テーマに基づく報告・発表・討議</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	授業の中で指示する。	参考文献	なし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究		阿部 真美子（あべ まみこ）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>2年間にわたる研究の最初の段階として、テーマと研究方法の関係について理解し、関心あるテーマについて考え、調べ、発表する。乳幼児の生活と発達、「場」、保育者について共に研究する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>演習形式で進めます。</p> <p>【授業計画：前期】</p> <p>第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 関心を広げる～子育て支援活動、子どもの生活と遊び、保育者像～</p> <p>第2回 研究テーマ、研究目的、研究方法の関係について理解する</p> <p>第3回 各自の関心について発表、討議</p> <p>第4回 仮テーマ、計画について発表、討議</p> <p>第5回 調査、検索について</p> <p>第6回 テーマに関する資料収集</p> <p>第7回 テーマに関する資料の発表、検討（1） 4名</p> <p>第8回 テーマに関する資料の発表、検討（2） 4名</p> <p>第9回 幼稚園における子どもの生活と子どもの姿（1）エピソード 作成</p> <p>第10回 幼稚園における子どもの生活と子どもの姿（2）エピソード 発表</p> <p>第11回 幼稚園における保育者の役割（1）エピソード 作成</p> <p>第12回 幼稚園における保育者の役割（2）エピソード 発表</p> <p>第13回 発表・討議（1）</p> <p>第14回 「研究とは」（講義）</p> <p>第15回 次の研究課題について発表・討議</p>			
【テキスト】 特になし			
【参考文献】 授業の中で随時紹介します。			
【評価方法】			
「平常点（授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等）」60%及び「レポート」40%によって評価する。			

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
発達と家族の心理学		大野 祥子 (おおの さちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	人間にとって最も身近な「家族」について、大人・子ども両方の立場から考えていきます。親子関係、夫婦関係、仕事と家庭の両立、子どもの社会経験の意味、親の役割、人間にとって家族とは何か？変化していく社会の中でこれから家族はどうなっていくのか？などを考えながら、子どもが育つ環境について理解を深めます。		
授業の概要	まず全員でテキストを講読しながら発達心理学・家族心理学の基本的な概念や研究成果を理解していきます。あわせて資料や参考文献にあたって現実の社会現象や心理学研究の方法についての理解を進めます。毎回担当を決めて輪番で発表していきますが、進める速さは受講生の理解度に合わせます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 テキスト講読・発表 第3回 テキスト講読・発表 第4回 テキスト講読・発表 第5回 テキスト講読・発表 第6回 テキスト講読・発表 第7回 テキスト講読・発表 第8回 テキスト講読・発表 第9回 テキスト講読・発表 第10回 テキスト講読・発表 第11回 テキスト講読・発表 第12回 テキスト講読・発表 第13回 テキスト講読・発表 第14回 テキスト講読・発表 第15回 まとめ		
テキスト	コピーを用意します。	参考文献	進度に合わせて授業中に紹介・配布します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
アート・コミュニケーション・出会い・省察・制作 ー素材の森に邂逅ー		久保 制一 (くぼ せいいち)	
授業の到達目標 及びテーマ	自分の中に発信したいコトはいくつもあるだろうが、どんな形でどのように表現したらいちばんその想いが人に伝わるか思い悩むことが多い。何でも良いわけではないし、いくつものイメージを編集して、何らかの素材のコトバをかりてつむぎ上げていくしかない。それには今の自分に最適な素材との出会いが決定的であるとの視点を理解することができ		
授業の概要	いくつかのタームに分けて、素材研究と表現手段のワークショップを実施していく。素材と表現する内容とがいかに関連するかを検討していく。また、素材自体の研究・調査も各自がとりくみ、研究内容はプレゼンし、レポートにまとめる。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 特研の展開 第2回 考察「ものをつくるといことからartにすること」 第3回 素材との出会い ワークショップ 1「柔らかなもの」 第4回 素材との出会い ワークショップ 2「うすいもの」 第5回 素材との出会い ワークショップ 3「かたいもの」 第6回 素材との出会い ワークショップ 4「大きいもの」 第7回 ワークショップの編集 プレゼンテーション1 第8回 表現の研究 ワークショップ 1「フォト」 第9回 表現の研究 ワークショップ 2「ドローイング」 第10回 表現の研究 ワークショップ 4「ムービー」 第11回 表現の研究 ワークショップ 5「ムービー」 第12回 表現の研究 ワークショップ 6「アニメーション」 第13回 表現の研究 ワークショップ 7「コラボレーション」 第14回 ワークショップの編集 プレゼンテーション2 第15回 夏期休暇期間の合宿 オリエンテーション		
テキスト	日々の生活の中で素敵だと思えた一瞬。	参考文献	ワークシートの配布。適宜、文献、画集、作品、資料などを紹介する。
評価方法	平常の取り組み:50% レポート:50%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
論文に向けて		小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、2年後の締めくくりとしての論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。		
授業の概要	資料、情報の収集、グループディスカッション、個別相談等を通して、テーマを考え、自身で決めたテーマに基づいて、調査、研究に取り組む準備をする。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の進め方 第2回 図書館オリエンテーション 第3回 資料、情報の収集、ディスカッション 第4回 資料、情報の収集、ディスカッション 第5回 資料、情報の収集、ディスカッション 第6回 資料、情報の収集、ディスカッション 第7回 資料、情報の収集、ディスカッション 第8回 資料、情報の収集、ディスカッション 第9回 経過報告 第10回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第11回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第12回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第13回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第14回 資料、情報の収集、テーマ設定に向けて 第15回 経過報告		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表内容を考慮:40%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
絵本を深く読む		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> * 長く読み継がれてきた絵本作品の成り立ちや背景について理解する。 * 文献を調べたり、自分らしい発表ができるようになる。 * 作品を総合的に評価することができるようになる。 		
授業の概要	ゼミ方式。『絵本のよろこび』についてはグループで発表したり、それについて討論したりする。それ以外に学生は絵本を取り上げたブックトークを一人ずつ行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 各自が好きな絵本を紹介しあう 第3回 『絵本のよろこび』を読んで具体的に考える 第4回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ1 第5回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ2 第6回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ3 第7回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ4 第8回 『絵本のよろこび』を読んで発表する:グループ5 第9回 作品の読み方、書評の書き方について 第10回 資料の収集や検索方法について 第11回 客観的に読むとは 第12回 書評や紹介文を書いてみる 第13回 書評を発表する 第14回 全体ディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	松井直著『絵本のよろこび』(NHK出版)	参考文献	授業時に紹介
評価方法	授業参加度:30% ブックトークや発表:40% レポート:30%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①基礎的文献を読みつつ、学問研究の基礎を学ぶ、②自らの主体的関心に基づく具体的テーマを深めていく、③そのための資料探索、研究方法を学んでいく、ことを目標とする。		
授業の概要	前期は、基礎的文献の研究と各自の研究関心を深める点に重点を置く。文献の読み方、レポートの仕方等を発表しつつ学んでいく。さらに各自の研究関心に即したテーマを深めていく。		
授業計画	【前期】 第1回 ゼミの進め方について 第2回 図書館等、資料探索の方法 第3回 文献研究（1） 第4回 文献研究（2） 第5回 文献研究（3） 第6回 文献研究（4） 第7回 文献研究（5） 第8回 文献研究（6） 第9回 文献研究（7） 第10回 文献研究（8） 第11回 文献研究（9） 第12回 各自の研究関心の発表（1） 第13回 各自の研究関心の発表（2） 第14回 各自の研究関心の発表（3） 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に提示する	参考文献	随時、授業時に提示する
評価方法	期末レポート:60% 授業での発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～あたりまえを疑う		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じ取った、こころとその育ちに関する問題について、論文にまとめることを目標とする。この授業では問いを立てる力を培う。具体的にはディスカッションを通して、他者の視点に気づき、自己の視点を理解する。また自らの考えを自分のことばで表現し伝える力、他者のことばに耳を傾けその考えを理解する力を培う。		
授業の概要	演習形式で進める。日常生活への素朴な問いをきっかけに、共通文献の購読やフィールドワークを通して、あたりまえと思っている日常の相対化、自己の視点の相対化を行う。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 "心理学"を問う 第3回 研究とは、論文とは 第4回 現場（フィールド）、日常生活から考えるということ 第5回 「人」や「こころ」に関する素朴な疑問をあげてみよう 第6回 血液型別性格判断や占いはあたるのか？ 第7回 数字の落とし穴 第8回 相手の立場になることはできるのか？ 第9回 映像資料視聴 第10回 映像資料についての振り返り 第11回 フィールドワークとは～みること、考えること 第12回 フィールドワーク①宇宙人が学食に降り立ったら？ 第13回 フィールドワーク②自分で問いを立てる 第14回 フィールドワーク③報告会 第15回 まとめとふりかえり		
テキスト	未定（授業内で指定）	参考文献	未定（授業内で適宜紹介する）
評価方法	授業への参加度:50% 期末レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
マイノリティ(少数派)の当事者から学ぶ。		杉田 穂子(すぎた やすこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	自分がマジョリティ(多数派)の中にいると、そのことに気付かないことがある。例えば皆さんの多くは現在「しょうがいのない人」が多いと思いますが、そのことにどれほど気付いているだろうか。マイノリティの人たちの語りから学び、自分たちの社会をみる視点を豊かにする。		
授業の概要	まずは、教員が提示した文献の中から購読したいものを選び、マイノリティの当事者に学ぶことの意味を理解する。さらに自分の関心あるテーマについての文献紹介をした後、論文作成に向けてテーマを設定し発表する。仲間同士の意見交換を大切にしながら、テーマを深めたり、絞ったりしていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 シラバスの紹介、文献について話し合い 第2回 自己紹介 第3回 文献購読(1) 第4回 文献購読(2) 第5回 文献購読(3) 第6回 文献購読(4) 第7回 文献購読(5) 第8回 関心のあるテーマの紹介 第9回 文献紹介(1) 第10回 文献紹介(2) 第11回 文献紹介(3) 第12回 関心あるテーマの発表(1) 第13回 関心あるテーマの発表(2) 第14回 関心あるテーマの発表(3) 第15回 まとめ		
テキスト	ゼミ生と相談しながら決定する。	参考文献	渡辺一史「こんな夜更けにパジャカよ」北海道新聞社2003、浦河べてるの家「べてるの家の非援助論」医学書院2002など
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

子ども学特別研究Ⅰ		前期 2 単位	2年
現代における教育の諸問題の研究Ⅰ		鈴木 俊之(すずき としゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を受講した者は、1. 現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育的視点から考察するための基礎的な知識を獲得する、2. その知識を教育現象に適用し、初歩的な分析を行う、3. 分析した内容を説得的に他者に提示する、事ができるようにする。		
授業の概要	受講生は全員、前週までに指定されたテキスト・論文などを読み、そのテキスト・論文の主張およびそれに対する批判的検討を加え、A4一枚程度にまとめてくる。授業ではそれにもとづき、少人数グループで討論をする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 授業方針の説明 第2回 受講生による討論 第3回 受講生による討論 第一章 第4回 受講生による討論 第二章 第5回 受講生による討論 第三章 第6回 受講生による討論 第四章 第7回 受講生による討論 第五章 第8回 受講生による討論 第六章 第9回 受講生による討論 第七章 第10回 受講生による討論 第八章 第11回 受講生による討論 教育と格差(1) 第12回 受講生による討論 教育と格差(2) 第13回 受講生による討論 教育と格差(3) 第14回 受講生による討論 教育と格差(4) 第15回 前期まとめ		
テキスト	広田・伊藤著『教育問題はなぜまちがって語られるのか?—「わかつつもり」からの脱却』日本図書センター、2010。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
子ども学特別研究 I		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界の保育と日本の保育」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、近現代日本の保育の歴史と現状に関する理解を踏まえて、それをより深くするために幾つかの先進諸国の保育の歴史と現状についての知見を得ることである。		
授業の概要	現代日本の保育を広がりの中で捉え、その長短とそれをもたらす要因などについて考えるため、世界の国々とりわけ主要国の保育の実態や歴史について学ぶ。同時に、それらを通して、ゼミナール員が個別の学習課題をもち、卒論テーマの発見に繋がるようにする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 本ゼミのねらい・進め方の説明と討議 第 2回 現代日本の保育の現状と到達点 第 3回 戦前日本における保育の推移-19世紀後半- 第 4回 戦前日本における保育の推移-20世紀前半- 第 5回 戦後日本における保育の推移-1970年代中頃まで- 第 6回 戦後日本における保育の推移-1990年中頃代まで- 第 7回 戦後日本における保育の推移-世紀転換期以降- 第 8回 中間まとめ 第 9回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(1)- 第10回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(2)- 第11回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(3)- 第12回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(4)- 第13回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(5)- 第14回 個別の学習課題の発表-ゼミグループ(6)- 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
社会的意識と知的好奇心を耕す～人間社会の探求		横堀 昌子 (よこぼり まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども・家族の福祉の領域をベースとしながら、さまざまな状況を生きる子ども、大人、社会の諸問題に出会い、ともに検討・考察する。とくに、いわゆるマイノリティの側を生きる人たちの生活をめぐる諸問題に着目し、「問題」を探しながら深めあうことで、考える力、発信する力、書く力を育てあう機会とする。		
授業の概要	いずれ個人研究に挑む前提として、福祉領域や関連分野からいくつか共通の文献や資料を読みこむ。発題やディスカッション、論評を重ねながら諸問題を探究する観点や人への感受性を互いに育てる。ゼミの特性を活かした演習や個人指導・提出課題に出会いながら、主体性を育て、教員との対話により研究に向かう力を獲得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 授業ガイダンス～福祉研究とフィールドの広がり 第 2回 身近な問題の再発見 第 3回 社会的な問題の発見 第 4回 文献・資料を用いてのディスカッション (グループ1) 第 5回 文献・資料を用いてのディスカッション (グループ2) 第 6回 文献・資料を用いてのディスカッション (グループ3) 第 7回 社会的問題に関するリサーチと発題 (グループ1) 第 8回 社会的問題に関するリサーチと発題 (グループ2) 第 9回 社会的問題に関するリサーチと発題 (グループ3) 第10回 研究論文との出会い～研究に求められる要素 第11回 研究することの意味を考える～研究の方向性 第12回 考察を深めたい課題をめぐるとの討論 (グループ1) 第13回 考察を深めたい課題をめぐるとの討論 (グループ2) 第14回 考察を深めたい課題をめぐるとの討論 (グループ3) 第15回 まとめとレポート提出・シェアリング		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	必要に応じ参考資料とともに紹介していく。基本的な福祉関連の文献も紹介する。
評価方法	平常点・授業参加態度:50% 提出課題・レポート:50%		

子ども学特別研究 I		前期 2 単位	2年
子どもに関わる音楽についての基礎的な研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の基礎的な研究を行いません。本年度は音楽の基本的な内容を学びます。制作発表・論文とも、半期ごとにレポートや制作で研究をまとめる機会を設けて、一年間で研究の基礎的な能力を養うように学びを進めます。		
授業の概要	受講者と私の発表形式で進めます。子どもと音楽に関する音楽の基礎的な文献を読みつつ、個々の研究テーマを考える予定です。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 ガイダンスと研究計画の相談 第 2回 基礎文献講読①（渡辺が担当） 第 3回 基礎文献講読②（学生が担当） 第 4回 基礎文献講読③（学生が担当） 第 5回 基礎文献講読④（学生が担当） 第 6回 基礎文献講読⑤（学生が担当） 第 7回 研究テーマの相談① 第 8回 基礎文献講読⑥（学生が担当） 第 9回 基礎文献講読⑦（学生が担当） 第 10回 基礎文献講読⑧（学生が担当） 第 11回 基礎文献講読⑨（学生が担当） 第 12回 基礎文献講読⑩（学生が担当） 第 13回 研究テーマの相談② 第 14回 前期のまとめとレポートや制作の相談 第 15回 夏休みと後期の研究計画の相談</p>		
テキスト	開講時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ	後期 2 単位	2年
特別研究への取り組み（その2）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> この授業は前期の「子ども学特別研究Ⅰ」を引き継ぐものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生自らの知的関心及び独自の視点に基づき研究テーマを設定し、本学科で学んでいる知見を手掛かりに、論文の作成や作品の制作にとりくむ。これにより課題研究の体験学習を引き続き積むこととなる。また、同じグループに属するメンバー相互の意見交換や討論、相互批判などにより、研究テーマを総合的に捉えられるようにする。 ○ 大学教育で肝心の既存概念や先入観の再吟味や自発的で創造的な課業とし、研究テーマについてどのように調べるか、どのような内容構成が必要かについての実践的な学びを積み重ねる。ここでの特別研究は、原則として3年次の「子ども学特別研究Ⅲ・Ⅳ」に継承され、2年間にわたる継続学習になる。教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。 <p><授業の概要> 原則として、前期に引き続き履修学生の個別的な研究テーマに即した研究内容についての助言や指導とともに、それをいかに論文や制作として構成し、記述・表現するかの方法などについての個別指導やグループ指導が行われる。グループ研究（制作）の場合もある。また、同じグループメンバーにおける相互の意見交換や討論、相互批判などは引き続きここでの特別研究の内容深化につながる。それぞれのグループにおいて、年度末には何らかの中間発表が考えられる。そして、これらの取り組みは3年次の学びへと継承される。</p> <p><授業計画> 第1～14回 前期の準備を受け、それぞれの研究テーマに即した論文の作成や作品の制作にとりくむ。 第15回 中間発表などを実施し、「子ども学特別研究Ⅲ」への準備とする。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物や中間発表などを総合して評価する。</p> <p>（付記） 3年次「子ども学特別研究」の「論文発表会」「作品発表会」「卒展・ギャラリートーク」を2014年1月に予定しているので、必ず全員が出席のこと。</p>		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
幼児及び保育をとりまく諸課題についての探究 Ⅱ		浅見 均 (あさみ ひとし)	
授業の到達目標及びテーマ	○ 論文作成の基礎基本としての、資料収集、自分の考えを書く、発表する、討議する、研究テーマを深めるなどのことができるようになる。 ○ 幼児及び保育における様々な課題について多様な視点より探究する。		
授業の概要	夏季休業中に幼児に関する課題テーマを設定して、小論文を作成し、授業の中で発表し、それに基づいて討議をすることを中心に授業を進める。その中で、文献講読も適宜行っていく。		
授業計画	【後期】 第1回 子ども学特別研究Ⅱについて 第2回 文献・資料収集について (図書館) 第3回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第4回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第5回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第6回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第7回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第8回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第9回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第10回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第11回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第12回 課題テーマに基づいての小論文発表・討議 第13回 「子ども学特別研究Ⅲ」に向けて自己課題発表 第14回 小論文集作成 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	なし
評価方法	授業への参加度:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究		阿部 真美子 (あべ まみこ)	
【授業の到達目標及びテーマ】 子ども学特別研究Ⅰ(前期)での学びを継続、発展させる。テーマと研究方法の関係についての理解を深め、関心あるテーマについて考え、調べ、発表するとともに成果を小冊子にまとめる。			
【授業の概要】 演習形式です。			
【授業計画：後期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 第2回 夏季休暇中の観察研究について発表：エピソードと考察(7名) 第3回 夏季休暇中の観察研究について発表：エピソードと考察(6名) 第4回 夏季休暇中の各自の研究テーマについて発表(7名) 第5回 夏季休暇中の各自の研究テーマについて発表(6名) 第6回 各自のテーマをさらに深めるための検討、討議 第7回 共通資料、基礎文献を検討する(1) プリントで検討 第8回 共通資料、基礎文献を検討する(2) 図書館で実施 第9回 保育所における子どもの生活と子どもの姿(観察研究) 第10回 保育所における保育者の役割(観察研究、インタビュー) 第11回 発表(保育所での子どもの姿のエピソード) 4名発表 第12回 発表(保育者の姿のエピソード) 4名発表 第13回 1年間の研究のまとめ(レポートづくり) 作業 第14回 1年間の研究のまとめ(レポートづくり) 作業 第15回 小冊子づくり(1年間の研究のまとめ)			
【テキスト】特になし			
【参考文献】授業の中で随時紹介します。			
【評価方法】 「平常点(授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等)」60% 「レポート」40%により評価する。			

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前期に引き続き、発達心理学・家族心理学の基本を学びながら、各自の興味あるテーマについての学習を深めます。年度末には次年度の卒業論文を意識して、関心を絞っていきます。		
授業の概要	前期に学んだ内容の中から受講生が関心を持った領域について、さらに理解を深める資料や文献を選んで発表していきます。全員での議論を通して、その領域の今後の課題を認識し、卒業論文のテーマ選定の手掛かりを得ることを目指します。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 文献講読と発表 第3回 文献講読と発表 第4回 文献講読と発表 第5回 文献講読と発表 第6回 文献講読と発表 第7回 文献講読と発表 第8回 文献講読と発表 第9回 文献講読と発表 第10回 文献講読と発表 第11回 文献講読と発表 第12回 文献講読と発表 第13回 文献講読と発表 第14回 文献講読と発表 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
アート・コミュニケーション・実験・省察・制作 —素材の森を彷徨—		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	自分の中の発信したいコト、伝えたい想いを編集する中で、自分に適した素材の選択をしていく。ここからの展開はまさに、自分自身と向き合うことなしには絞り込むことはできないだろう。手で思考するプロセスから、自らのアートプロジェクトのコンセプトと表現したい想いを「かたちになる」ように構築していくことができるようになる。		
授業の概要	作品のコンセプトをもとに、素材研究ワークショップ・技法講習の中から、素材のちがいが表現する内容とどのような関連性があるかをさらに検討していく。自分の表現に適した素材探しの実験、素材自体の研究・調査も各自とりくむ。学外での調査・見学も積極的に実施する。研究内容は進級制作作品としてまとめる。		
授業計画	【後期】 第1回 夏期休暇期間の特研合宿の振り返り 第2回 イメージの編集ワークショップ 第3回 イメージの編集「テーマを考察」 第4回 イメージの編集「コンセプトを考察」 第5回 イメージの編集「テーマ・コンセプトを考察」 第6回 プレゼンテーション 1 第7回 アート ワークショップ 1「素材研究」 第8回 アート ワークショップ 2「素材実験」 第9回 アート技法講習 「Book Making講習1」 第10回 アート技法講習 「Book Making講習2」 第11回 アート技法講習 「Book Making講習3」 第12回 進級制作作品 制作1 第13回 進級制作作品 制作2 第14回 プレゼンテーション 2 進級制作作品 仮提出 第15回 進級制作作品 提出		
テキスト	適宜、技法講習ブック・ワークシートを配布する。	参考文献	文献、作品、資料などを紹介する
評価方法	平常の取り組み:40% 進級制作作品:60%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
論文に向けて		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、来年の学生生活の締めくくりにして論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。		
授業の概要	資料、情報の収集、テーマ設定に向けて、グループディスカッション、個別相談を通して、自身で決めたテーマに基づいて、分析、文章化に向けて、取り組む。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	【後期】 第1回 経過報告 第2回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第3回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第4回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第5回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第6回 資料、情報収集、テーマ設定に向けて 第7回 経過報告 第8回 分析、文章化に向けて 第9回 分析、文章化に向けて 第10回 分析、文章化に向けて 第11回 分析、文章化に向けて 第12回 分析、文章化に向けて 第13回 分析、文章化に向けて 第14回 分析、文章化に向けて 第15回 経過報告		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加：60% 発表の内容を考慮：40%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
作品を客観的に評価する		さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	* 子どもの本に関するエッセイや、文学に関する評論を読み、理解する。 * 自分の意見をもって討論に臨むことができるようになる。 * 客観的な作品紹介（ブックトーク）や評論ができるようになる。		
授業の概要	ゼミ形式。発表や討論を通して視野を広げ、自分の意見を持てるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクッション 第2回 すぐれたブックトークとは 第3回 すぐれた書評とは 第4回 文学作品の書評を読む：新聞 第5回 文学作品の評論を読む：書評誌その他 第6回 各自が書評を持ち寄ってディスカッション 第7回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ1 第8回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ2 第9回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ3 第10回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ4 第11回 おもしろいと思う本について各自が発表する：グループ5 第12回 客観的な作品評価について：ディスカッション 第13回 今自分が興味をもっているテーマについて：ディスカッション 第14回 卒業論文への橋渡し 第15回 まとめ		
テキスト	授業時にプリント配布	参考文献	授業時に紹介
評価方法	授業参加度：30% ブックトークや発表：30% レポート：40%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①基礎的文献を読みつつ、学問研究の基礎を学ぶ、②自らの主体的関心に基づくテーマを設定し、検討すべき文献を読む、③そのための資料探索、研究方法を学んでいく、ことを目標とする。		
授業の概要	後期は、①資料検索の方法や論文作成法を学びつつ、②各自の研究テーマを絞り深めることに重点を置きたい。そのためには相当な読書量が求められ、またゼミ参加者の相互の意見交換が重要となる。		
授業計画	【後期】 第1回 ゼミの進め方について 第2回 資料検索の方法（1） 第3回 資料検索の方法（2） 第4回 文献研究（1） 第5回 文献研究（2） 第6回 文献研究（3） 第7回 文献研究（4） 第8回 文献研究（5） 第9回 文献研究（6） 第10回 文献研究（7） 第11回 各自の研究テーマの発表（1） 第12回 各自の研究テーマの発表（2） 第13回 各自の研究テーマの発表（3） 第14回 各自の研究テーマの発表（4） 第15回 まとめ		
テキスト	授業時に提示する	参考文献	授業時に提示する
評価方法	期末レポート:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～問いの発見		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じ取った、こころとその育ちに関する問題について、論文にまとめることを目標とする。授業の前半では、実際の研究に触れながら、さまざまな研究方法を理解する。後半では自身のテーマについて探究し、学期末までに論文作成に向けての問いを立てることを目指す。		
授業の概要	演習形式で進める。前半は共通文献の講読から問いの立て方や研究方法について学ぶ。後半は各自の関心のあるテーマを探りつつ、それに関する文献を読み報告を行い、グループディスカッションをする。最終回の中間発表会では各自が次年度探究していくテーマを発表し、その後テーマについてのミニレポートを作成、提出する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 問いを探究するために 第3回 質問紙調査について学ぶ①質問紙の作り方、まとめ方 第4回 質問紙調査について学ぶ②質問紙調査の実際 第5回 質問紙調査について学ぶ③質問紙調査でわかること、わからないこと 第6回 インタビューについて学ぶ①インタビューのしかた、まとめ方 第7回 インタビューについて学ぶ②インタビューの実際 第8回 インタビューについて学ぶ③インタビューでわかること、わからないこと 第9回 各自の問いを探究する①テーマの探し方 第10回 各自の問いを探究する②文献の探し方 第11回 各自の問いを探究する③発表の仕方 第12回 各自の問いを探究する④研究報告 第13回 各自の問いを探究する⑤研究報告 第14回 各自の問いを探究する⑥研究報告 第15回 中間発表会		
テキスト	特になし	参考文献	授業内で適宜紹介する
評価方法	授業への取り組み方:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
マイノリティ（少数派）の当事者から学ぶ。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自が卒論のテーマを明確化させる。さらに論文作成に当たっての基本的な方法について理解する。具体的にいくつかのテーマを設定し、プレ調査を実施したり、試行的に論文を作成する。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、文献研究の成果を発表する。さらに文献や先輩の論文の購読を通して、論文を作成するために必要な事柄について理解する。その後、必要に応じて調査のフィールドやインタビュー対象者を探し、プレ調査を実施したり、試行的に論文を作成する。		
授業計画	【後期】 第1回 シラバスの説明 第2回 夏休みの成果発表（1） 第3回 夏休みの成果発表（2） 第4回 夏休みの成果発表（3） 第5回 論文作成方法の検討（1） 第6回 論文作成方法の検討（2） 第7回 論文作成方法の検討（3） 第8回 中間報告（1） 第9回 中間報告（2） 第10回 中間報告（3） 第11回 中間報告（4） 第12回 論文発表会に向けて（1） 第13回 論文発表会に向けて（2） 第14回 論文発表会に向けて（3） 第15回 ふりかえり		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業後の感想レポート:50% 発表内容:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
現代における教育の諸問題の研究Ⅱ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を受講した者は、1. 現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育的視点から考察するための応用的な知識を獲得する、2. その知識を教育現象に適用し、深い分析を行う、3. 分析した内容を説得的に他者に提示する、事ができるようになる。		
授業の概要	受講生は全員、前週までに指定されたテキスト・論文などを読み、そのテキスト・論文の主張およびそれに対する批判的検討を加え、A4一枚程度にまとめてくる。授業ではそれにもとづき、少人数グループで討論をする。		
授業計画	【後期】 第1回 後期オリエンテーション 第2回 受講生による発表 第3回 受講生による発表 第4回 受講生による発表 第5回 受講生による発表 第6回 受講生による発表 第7回 受講生による発表 第8回 受講生による発表 第9回 受講生による発表 第10回 受講生による発表 第11回 受講生による発表 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 後期まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポートなど:30%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
子ども学特別研究Ⅱ		村知 稔三 (むらち としみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「世界の保育と日本の保育」をテーマとする本ゼミナールの到達目標は、近現代日本の保育の歴史と現状に関する理解を踏まえて、それをより深くするために幾つかの先進諸国の保育の歴史と現状についての知見を得ることである。		
授業の概要	現代日本の保育を広がりの中で捉え、その長短とそれをもたらす要因などについて考えるため、世界の国々とりわけ主要国の保育の実態や歴史について学ぶ。同時に、それらを通して、ゼミナール員が個別の学習課題をもち、卒論テーマの発見に繋がるようにする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 前期の反省と後期の課題 第2回 日本の保育に直接に影響した米国の保育 第3回 米国の保育の開始に影響を与えたドイツの保育 第4回 異なる経緯で始まったフランスの保育 第5回 独自の経過でスタートしたイギリスの保育 第6回 近年、世界的に注目されているイタリアの保育 第7回 ドイツの保育がその東側に影響したロシアの保育 第8回 中間まとめ 第9回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(1)－ 第10回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(2)－ 第11回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(3)－ 第12回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(4)－ 第13回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(5)－ 第14回 個別の学習課題の発表－ゼミグループ(6)－ 第15回 全体のまとめ		
テキスト	ゼミナール中に配布する資料など	参考文献	ゼミナール中に提示
評価方法	討論などへの積極関与:30% 発表の内容など:70%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
人として育つこと・生きること・暮らすことと再発見～人間社会の探求		横堀 昌子 (よこぼり まさこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	研究の意義や研究の向かう先を考えながら、各自がテーマを設定し、構想を育て始める。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちと社会の諸問題、中でもとくに福祉的支援を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、「私たち」の生活の内外にある課題をとらえ考察を深める。		
授業の概要	前期に続き、今こそ考えておきたい問題を探し、深めあう。個別に持ち寄る発題や共通課題による討論、論評を織りまぜて進める。個々の問題意識をふまえて研究テーマの焦点化を試み、あたためながら、研究方法論についても確認し、3年次に向けて少しずつ研究に着手する。分野の特性から実証的な研究と取り組みへの意欲を育てる。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス～夏休み中の取り組みの成果発表 第2回 共通素材を用いての討論と論評 (グループ1) 第3回 共通素材を用いての討論と論評 (グループ2) 第4回 共通素材を用いての討論と論評 (グループ3) 第5回 先行研究に学ぶ 第6回 研究課題と焦点化のヒント 第7回 研究の意義を考える～研究に求められる視点 第8回 研究とは何か～研究に必要な枠組みとフィールド 第9回 研究方法～研究に必要な方法論と手順、留意点 第10回 文献を読みこむ・要約する～発題 (グループ1) 第11回 文献を読みこむ・要約する～発題 (グループ2) 第12回 文献を読みこむ・要約する～発題 (グループ3) 第13回 研究課題の焦点化の発想と研究方法 第14回 研究計画をめぐるディスカッション 第15回 まとめとレポート提出・シェアリング		
テキスト	開講時に示すか、受講生とともに選定して使用する。	参考文献	必要に応じ個別に、あるいは受講生全体に、参考資料とともに紹介する。
評価方法	平常点・授業参加態度:50% レポート提出課題:50%		

子ども学特別研究Ⅱ		後期 2 単位	2年
子どもに関わる音楽についての研究		渡辺 善忠 (わたなべ よしただ)	
授業の到達目標及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の基礎的な研究を発展させます。後期は前期で学んだ基礎的な内容を土台として各自のテーマについて学びを展開致します。制作発表・論文とも、年度末に研究をまとめる機会を設けることを目標に研究を進めます。		
授業の概要	個人でテーマを定めて個別に研究を進めます。テーマが絞りこめない場合は、グループで音楽に関わる文献を読みながら各自のテーマを考えつつ研究を進めます。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 研究計画の相談 第2回 研究発表① 第3回 研究発表② 第4回 研究発表③ 第5回 研究発表④ 第6回 研究発表⑤ 第7回 中間発表 第8回 研究の個別指導① 第9回 研究の個別指導② 第10回 研究の個別指導③ 第11回 研究の個別指導④ 第12回 研究の個別指導⑤ 第13回 論文・製作発表の準備① 第14回 論文・製作発表の準備② 第15回 論文・製作発表		
テキスト	授業時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
特別研究への取り組み (その3)			
<p>【担当教員】 浅見 均 (あさみ ひとし)、阿部 真美子 (あべ まみこ)、荒松 礼乃 (あらまつ あやの)、大野 祥子 (おおの さちこ)、久保 制一 (くぼ せいいち)、小泉 由美子 (こいずみ ゆみこ)、さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)、清水 康幸 (しみず やすゆき)、菅野 幸恵 (すがの ゆきえ)、杉田 穂子 (すぎた やすこ)、鈴木 俊之 (すずき としゆき)、横堀 昌子 (よこぼり まさこ)、渡辺 善忠 (わたなべ よしただ)</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 本授業のねらいは、2年次の「子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱ」を引き継ぎ、年度末の論文発表会・作品発表会に向けて、これまで取り組み中の課題について3年前期としてのまとめをすることを通して、論文の作成や作品の制作に努めることにある。 なお、グループ編成は「子ども学特別研究Ⅱ」が継承され、渡部かなえ先生グループ所属の学生は、同先生が特別研究期間制度を利用される2013年度は、同じ専門領域の荒松 礼乃先生の指導を受ける。 指導教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要> それぞれのテーマに即して個人(グループ)研究が継続されます。 論文中心の場合は年度末の「論文発表会」に向けて、また表現領域の場合は「作品発表会」や卒展での発表を前提とした終了制作に向けてとりくむ。</p> <p><授業計画> 第1～15回 各研究テーマに即して、その内容の深化に努め、論文作成や作品制作にとりくむ。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> それぞれのグループで必要に応じ、随時紹介していく。</p> <p><評価方法> 平常点をもとにして、各種の提出物や中間発表などを総合して評価する。</p>			

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
幼児及び保育をとりまく諸課題の探究 Ⅲ		浅見 均 (あさみ ひとし)	
授業の到達目標及びテーマ	○ 子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、幼児及び保育をとりまく諸課題に対して受講者の報告、発表から、広く、深く学び合っていく。 ○ 自分の研究テーマを特定し、資料収集、論文作成に取り組む。		
授業の概要	受講生の自発的な学び及びその成果を報告・発表しそれに対する討議を中心として学び合う授業展開をする。またその中で、文献講読も随時行っていく。 夏休み中にゼミ合宿を計画		
授業計画	【前期】 第1回 授業ガイダンス 第2回 課題別資料収集の方法 (図書館) 第3回 PCを使用した論文作成の基本及び応用 第4回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第5回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第6回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第7回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第8回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第9回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第10回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第11回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第12回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第13回 受講生による研究課題の報告・発表及び討議 第14回 「子ども学特別研究Ⅲ成果集」作成 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない	参考文献	特になし
評価方法	討議への積極的参加:30% 発表内容:30% レポート内容:40%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究		阿部 真美子 (あべ まみこ)	
【授業の到達目標及びテーマ】 2年次に引き続いて、各自の関心あるテーマを絞り、研究方法を探り、論文としてまとめるための研究と作業を進めていきます。乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についても検討します。			
【授業の概要】 前半では主に、テーマ、構想、計画の作成についてとりあげますが、その後は各自のテーマ、計画に沿って指導します。			
【授業計画：前期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 論文の構想と作成について 第2回 各自の研究テーマ、研究計画を発表 (レジュメ、パワーポイント作成) 7名 第3回 各自の研究テーマ、研究計画 を発表 (レジュメ、パワーポイント作成) 6名 第4回 (仮)テーマの提出 第5回 資料収集について (講義、図書館) 第6回 研究方法について (講義) 第7回 実習における事例研究：エピソードの作成 第8回 実習における事例研究：エピソードの発表と討議 第9回 研究経過と課題の発表：7名 第10回 研究経過と課題の発表：6名 第11回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：4名 第12回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：4名 第13回 個別の研究経緯を踏まえ個別指導：5名 第14回 夏期休暇中の研究計画について発表(全員) 第15回 まとめ			
【テキスト】 特になし			
【参考文献】 随時紹介します。			
【評価方法】 「平常点 (授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等)」60%、「レポート」40%によって評価する。			

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
子どもの身体（運動）研究		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもを取り巻く運動環境について理解する 2. 様々な運動遊びについて知り、その意義について理解できる		
授業の概要	子どもの身体について、特に運動（遊び）の視点から広く考察していく。発達段階と体の動き、子どもにとっての運動遊びの意味、運動環境などについて事例やVTRなどを用いて考え、保育者として子どもにどのような援助が必要なのか、各自が自分の考えを述べられるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 子どもにとって運動遊びとは？ 第3回 様々な運動遊び、身体を使った活動 第4回 運動遊びの発達段階 第5回 安全教育 第6回 救命救急と応急処置 第7回 運動遊びの創作1（リズム） 第8回 運動遊びの創作2（集団遊び） 第9回 運動遊びの創作3（用具を使って） 第10回 文献検討1（子どもの運動能力） 第11回 文献検討2（保育の中の運動遊びの意味） 第12回 文献検討3（子どもの運動遊び環境の変化） 第13回 ディスカッション&ミニレポート作成 第14回 ミニレポート発表 第15回 振り返りとまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	前年度に引き続き、発達心理学・家族心理学について発展的に学びながら、各自の興味あるテーマについての学習を進めます。卒業論文のテーマを決め、調査計画を立てていきます。		
授業の概要	毎回の発表担当を決め、自分の選んだテーマについて調べてきた成果を発表します。全員でディスカッションをしながら、卒業論文のテーマを絞り込んでいきます。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 発表とディスカッション 第3回 発表とディスカッション 第4回 発表とディスカッション 第5回 発表とディスカッション 第6回 発表とディスカッション 第7回 発表とディスカッション 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 発表とディスカッション 第12回 発表とディスカッション 第13回 発表とディスカッション 第14回 発表とディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介します。
評価方法	担当の発表:40% 議論への積極性:30% 議論への貢献度:30%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
アート・コミュニケーション・企画・省察・制作 ーイメージの泉を探険ー		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	作品のイメージとコンセプトを大事にしながアートプロジェクトをたち上げ、最もフィットする素材の情報収集と多様な視点からの実験をする。プロセスの中から出てきた新たなイメージを言語化することにより更なる深化と広がりがでてくるよう展開し理解を深める事ができるようにする。		
授業の概要	素材のちがいが表現する内容とどのような関連性があるかを更に検討していく。また、素材自体の研究・調査も各自とirikumu。テーマやイメージをプレゼンしたり、言語化してレポートにまとめ提出する。 夏期休暇期間（2013年8月）に2泊3日の2年生と合同のK's factory合宿を実施予定。		
授業計画	【前期】 第1回 素材の実験 ワークショップ 第2回 イメージの実験 ワークショップ 第3回 素材とイメージの実験 ワークショップ 第4回 イリュージョンの実験 ワークショップ 第5回 道具の実験 ワークショップ 第6回 イメージ定着の実験 ワークショップ 第7回 素材とイメージの実験 プレゼンテーション 1 第8回 素材の編集 ワークショップ 1 第9回 素材の編集 ワークショップ 2 第10回 イメージの編集 ワークショップ 3 第11回 イメージの編集 ワークショップ 4 第12回 素材とイメージの編集 ワークショップ 5 第13回 素材とイメージの編集 ワークショップ 6 第14回 素材とイメージの編集 プレゼンテーション 2 第15回 夏期休暇中の特研合宿オリエンテーション		
テキスト	適宜、ワークシートを配布する	参考文献	出来るだけ、ホンモノに触れる。
評価方法	平常の取り組み:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
論文に向けて		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、学生生活の締めくくりとしての論文執筆、発表に向けて、調査、研究、考察を進める。		
授業の概要	自身で決めたテーマに基づいて、分析、文章化、に向けて、テーマ設定をし、個別相談を通して、取り組む。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	【前期】 第1回 経過報告 第2回 分析、文章化に向けて 第3回 分析、文章化に向けて 第4回 分析、文章化に向けて 第5回 分析、文章化に向けて 第6回 分析、文章化に向けて 第7回 分析、文章化に向けて 第8回 分析、文章化に向けて 第9回 個別相談 第10回 個別相談 第11回 個別相談 第12回 個別相談 第13回 個別相談 第14回 個別相談 第15回 経過報告		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表の内容を考慮:40%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
問いつけ、考えつける		さくま ゆみこ (さくま ゆみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	* 卒業論文提出に向けて、テーマをしばらくこみ、論文の柱を立てることができるようになる。 * 考えて書く技術を磨く。		
授業の概要	ゼミ形式。各自の発表を中心に、ディスカッションやアドバイスを通して、考える力、書く力を養っていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 オリエンテーション 第 2回 気になっているテーマを短文にして持ち寄り、発表、討論 第 3回 上記についての発表・討論：グループ1 第 4回 上記についての発表・討論：グループ2 第 5回 上記の文章を書き直し再提出して合評会：グループ1 第 6回 上記の文章を書き直し再提出して合評会：グループ2 第 7回 論文の書き方について（約束事の指導） 第 8回 卒業生の論文を読んでみる 第 9回 現時点での各自のテーマ発表：グループ1 第10回 現時点での各自のテーマ発表：グループ2 第11回 論文の柱を考える 第12回 論文の構成を考える 第13回 部分的に書いて発表する：グループ1 第14回 部分的に書いて発表する：グループ2 第15回 中間発表会		
テキスト	必要に応じてプリント配布	参考文献	授業時に紹介
評価方法	レポート:40% 授業時の発表:40% 授業参加度:20%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸 (しみず やすゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	今日の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げ、教育学的観点から歴史的・原理的に研究する。具体的には、①自らの主体的関心に基づく具体的なテーマを設定し、②テーマに関わる文献・資料を収集整理し、③卒業論文を執筆するにあたっての方法論を吟味し、卒業論文の執筆構想を完成させること、を目標とする。		
授業の概要	次の3段階のステップを踏んで進めていく。いずれも各自の発表が中心となる。 ①各自のテーマ設定と文献の収集整理、②主要な先行研究について整理する、③論文構成と方法論について検討する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 ゼミの進め方について 第 2回 論文の書き方 (1) 第 3回 論文の書き方 (2) 第 4回 各自の発表 (1) 第 5回 各自の発表 (2) 第 6回 各自の発表 (3) 第 7回 各自の発表 (4) 第 8回 各自の発表 (5) 第 9回 文献研究 (1) 第10回 文献研究 (2) 第11回 文献研究 (3) 第12回 各自の発表 (6) 第13回 各自の発表 (7) 第14回 各自の発表 (8) 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。必要に応じて授業時に提示する。	参考文献	特に定めない。必要に応じて授業時に提示する。
評価方法	期末レポート:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
こころとその育ちにかかわる問題について現場（フィールド）から考える～問いの探究		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標及びテーマ	各自が日常生活のなかで感じとった、こころとその育ちにかかわる問題について、論文にまとめることをめざす。それぞれのテーマに沿った研究方法を用いながら考察を深める。それぞれのテーマを探求しつつ、グループメンバーのテーマにも関心を向け理解し、互いに刺激を受け与えることで学びあう。		
授業の概要	2年次にあたためたテーマをもとに、研究計画を立てる。研究計画に基づき、文献研究、インタビューやアンケートなどの調査を行う。授業内での報告とディスカッションを通して、グループメンバーが互いのテーマについても共有し、意見交換をしながら、考察を深めていく。期末に2年次生と合同で中間報告会を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーションと春休みの報告 第2回 研究報告とディスカッション①テーマの検討 第3回 研究報告とディスカッション②テーマの検討 第4回 研究報告とディスカッション③方法の検討 第5回 研究報告とディスカッション④方法の検討 第6回 研究報告とディスカッション⑤先行研究の検討 第7回 研究報告とディスカッション⑥先行研究の検討 第8回 研究報告とディスカッション⑦先行研究の検討 第9回 研究報告とディスカッション⑧先行研究の検討 第10回 研究報告とディスカッション⑨調査を実施するにあたって 第11回 研究報告とディスカッション⑩調査結果の検討 第12回 研究報告とディスカッション⑪調査結果の検討 第13回 研究報告とディスカッション⑫調査結果の検討 第14回 研究報告とディスカッション⑬中間報告会に向けて 第15回 中間報告会		
テキスト	授業内で適宜紹介	参考文献	授業内で適宜紹介
評価方法	授業への取り組み:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
マイノリティ（少数派）の当事者の視点に近づく。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標及びテーマ	2年生で学んできた文献やディスカッション、レポートをもとに、自分の興味のある研究テーマを固めていく。さらにテーマに関してどのような問題意識、仮説を立てているのかを、発表し、卒業論文の作成への手がかかりをつかむ。その際、マイノリティ（少数派）の視点に近づきながら、得られた気づきを大切にす。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、文献研究の成果を発表し、さらに深めたいテーマについて、論文を作成するために必要な方法を検討する。必要に応じて調査のフィールドやインタビュー対象者を探し、本調査を実施し、論文を作成していく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 春休みの成果発表（1） 第2回 春休みの成果発表（2） 第3回 テーマと仮説の検討（1） 第4回 テーマと仮説の検討（2） 第5回 調査方法の検討（1） 第6回 調査方法の検討（2） 第7回 プレ調査の実施（1） 第8回 プレ調査の実施（2） 第9回 関連文献の発表（1） 第10回 関連文献の発表（2） 第11回 テーマの絞り込み（1） 第12回 テーマの絞り込み（2） 第13回 本調査の検討・準備（1） 第14回 本調査の検討・準備（2） 第15回 まとめ		
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業後の感想レポート:40% 発表内容:40% 論文作成の状況:20%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
現代における教育の諸問題の研究Ⅲ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	前年度に引き続き、現代社会における様々な教育問題に対して、主に比較教育学的立場から考察し、究明することをねらいとする。論文作成に向けて、文献検索、基礎的な理解、仮説の構築までが前期の到達目標である。		
授業の概要	各人がそれぞれのテーマを選択し、そのテーマに沿って文献検索、主題の整理、仮説の構築を15回かけて行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 第3回 受講生による発表 第4回 受講生による発表 第5回 受講生による発表 第6回 受講生による発表 第7回 受講生による発表 第8回 中間発表 第9回 受講生による発表 第10回 受講生による発表 第11回 受講生による発表 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 まとめ		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:70% レポートなど:30%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
人間らしく生きることの探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究することの意義や目的を確認しながら、各自がテーマを設定し、内容を育てていく。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちの抱える課題、中でもとくに福祉的援助を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、私たちの生活の内外にある社会的な課題を中心とした考察を行う。		
授業の概要	2年次の特別研究の成果をふまえ、各自がテーマ（研究課題）を構想し、研究計画を立て深めていく。研究の展開については個別に助言する中で確認するが、共通の文献・持ち寄るテーマやトピックスにそった発題・ディスカッションを重ね、仲間とともに学びあうことも重視する。主体的に取り組み、多くの発見と出会いを獲得していくこと。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション・授業ガイダンス 第2回 研究課題に関するディスカッション 第3回 文献・資料活用の検討と討論 第4回 研究課題の検討、発表、討論 第5回 個別研究指導（グループ1） 第6回 個別研究指導（グループ2） 第7回 研究課題の精査、発表、討論（グループ1） 第8回 研究課題の精査、発表、討論（グループ2） 第9回 研究方法論の精査（グループ1） 第10回 研究方法論の精査（グループ2） 第11回 個人別研究指導（グループ1） 第12回 個別研究指導（グループ2） 第13回 夏休み以後の研究計画の発表会（グループ1） 第14回 夏休み以後の研究計画の発表会（グループ2） 第15回 まとめ		
テキスト	開講時に示す。	参考文献	参考文献・資料ともに、個別あるいは履修者全体に随時紹介していく。
評価方法	授業参加態度:30% 研究取り組み状況:30% 提出物・レポート:40%		

子ども学特別研究Ⅲ		前期 2 単位	3年
子どもに関わる音楽分野に関する研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の専門的な研究を行います。最終年度は、制作、論文ともオリジナルな視点で研究を深めることを目標とします。実習での学びも含めて、幼稚園、保育園、福祉施設へ生かせるように研究を具体的に展開させることを願っています。		
授業の概要	テーマを定めて個別に研究を進めます。テーマが絞りこめない場合は、グループで基礎文献を読みながらテーマを考えつつ研究を進めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 研究テーマの相談① 第 2回 研究文献の購読① 第 3回 研究文献の購読② 第 4回 研究文献の購読③ 第 5回 研究文献の購読④ 第 6回 研究文献の購読⑤ 第 7回 研究テーマの相談② 第 8回 発表・レポートの準備① 第 9回 発表・レポートの準備② 第 10回 発表・レポートの準備③ 第 11回 発表・レポートの準備④ 第 12回 発表・レポートの準備⑤ 第 13回 発表・レポートの作成① 第 14回 発表・レポートの作成② 第 15回 発表・レポートの提出		
テキスト	授業時に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% レポート:50%		

子ども学特別研究Ⅳ	後期 2 単位	3年
特別研究への取り組み（その4）		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、荒松 礼乃（あらまつ あやの）、大野 祥子（おおの さちこ）、久保 制一（くぼ せいいち）、小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）、さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）、清水 康幸（しみず やすゆき）、菅野 幸恵（すがの ゆきえ）、杉田 穂子（すぎた やすこ）、鈴木 俊之（すずき としゆき）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、渡辺 善忠（わたなべ よしただ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 本授業は、3年前期「子ども学特別研究Ⅲ」に引き続き、特別研究の最終段階として子ども学科での学びの集大成として位置づけられる。 具体的には、年度末の論文・作品発表会でその成果を明らかにし、大学教育の締めくくりに役割を果たす。 なお、グループの編成は3年前期「子ども学特別研究Ⅲ」が継承される。 教員とその主な指導分野・領域などは別記のとおりである。</p> <p><授業の概要> それぞれのテーマに即して個人（グループ）研究が継続される。論文中心の場合は年度末の「論文発表会」に向けて、また表現領域の場合は「作品発表会」や卒展での発表を前提とした終了制作に向けてとりくむ。</p> <p><授業計画> 第1～14回 各研究テーマに即して、その内容の深化に努め、論文の作成や作品の制作にとりくみ、まとめる。 その成果は提出と発表が義務づけられている。／第15回 論文・作品発表会で発表する。</p> <p><テキスト> それぞれのグループで適宜選択する。</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 基本的には論文や作品にもとづいて評価するが、最終的には取り組みの過程を含めた総合的な視点から各教員が評価する。</p> <p><論文・作品の提出日> 後日、掲示する。日時を厳守のこと（提出先は教務課）。</p> <p><論文・作品発表会> 2013年1月。全員が発表する。</p> <p>（付記） 論文・作品の要旨を編集した「研究誌」が年度内に発行され、配布される。</p>		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
幼児及び保育をとりまく諸課題の探究 Ⅳ		浅見 均 (あさみ ひとし)	
授業の到達目標及びテーマ	<input type="radio"/> 2年間の「子ども学特別研究」の学びの集大成として、受講生各自のテーマに沿った論文を作成し、完成させる。 <input type="radio"/> 研究テーマに沿って資料収集し、それらをもとにしながら自分の言葉で論理的に論文を作成することができる。		
授業の概要	前半は論文の中間報告及び討議を中心とする。後半は仮提出を踏まえて個別指導、最後に論文発表会をゼミの中で行う。最後に受講生全員の論文集を作成する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 テーマ別資料収集の方法ガイダンス (図書館) 第3回 PCを使った論文作成の基本及び方法 第4回 論文中間報告、発表、討議 第5回 論文中間報告、発表、討議 第6回 論文中間報告、発表、討議 第7回 論文中間報告、発表、討議 第8回 論文中間報告、発表、討議 第9回 仮提出を踏まえた個別指導 第10回 仮提出を踏まえた個別指導 第11回 仮提出を踏まえた個別指導 第12回 仮提出 第13回 パワーポイントによるプレゼン準備 第14回 論文発表会 (グループ内) 第15回 論文発表会 (全体)		
テキスト	特に定めない	参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度:15% 授業参加 (出席):15% 論文の内容:70%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
乳幼児の生活と発達、「場」、保育者についての研究		阿部 真美子 (あべ まみこ)	
【授業の到達目標及びテーマ】 2年間にわたる研究を基に、各自の関心あるテーマを絞り込み、目的・方法を確定し、論文を作成するための具体的な作業を進めていきます。			
【授業の概要】 各自のテーマについて研究を進め、そのための指導とともに、中間発表・一次稿提出・論文発表レジュメ作成など、ゼミ全員での取り組みとなります。			
【授業計画：後期】 第1回 講義のねらい、進め方、参考文献、評価方法等の説明 卒業論文の構想と作成について 第2回 各自の研究計画について発表：7名 (レジュメ、パワーポイント使用) 第3回 各自の研究計画について発表：6名 (レジュメ、パワーポイント使用) 第4回 テーマ(仮)の提出 第5回 論文の構想と計画について(講義) 第6回 論文の構想と計画について：各自の計画の見直しと再構築 第7回 中間発表：7名 (レジュメ、パワーポイント使用) 第8回 中間発表：6名 (レジュメ、パワーポイント使用) 第9回 修正作業(個別指導)：5名 第10回 修正作業(個別指導)：5名 第11回 一次稿作成 第12回 修正作業(個別指導)：5名 第13回 修正作業(個別指導)：5名 第14回 論文発表会に向けての準備 (発表用レジュメ作成) 第15回 報告書レジュメ作成			
【テキスト】特になし			
【参考文献】随時紹介します。			
【評価方法】「平常点 (授業への積極的な参加、プレゼンテーション、ミニレポート等)」60% 「レポート」40%によって評価す			

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
子どもの身体（運動）研究		荒松 礼乃（あらまつ あやの）	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 子どもを取りまく環境や遊びについて理解する 2. 自分なりのテーマを定め、まとめ、自分の考えとして発表できる		
授業の概要	子どもの身体について、特に運動（遊び）の視点から広く考察していく。発達段階と体の動き、子どもにとっての運動遊びの意味、運動環境などについて事例やVTRなどを用いて考え、保育者として子どもにどのような援助が必要なのか、各自が自分の考えをまとめられるようにする。		
授業計画	【後期】 第1回 前期振り返り（ガイダンス） 第2回 子どもにとっての運動遊びの意義 第3回 事例検討1（運動遊びの発達段階） 第4回 事例検討2（運動遊びと保育者のかかわり） 第5回 事例検討3（イメージと身体のかかわり） 第6回 テーマ検討1（事例収集） 第7回 テーマ検討2（論文収集） 第8回 テーマ検討3（テーマと方向性の決定） 第9回 論文作成1 第10回 論文作成2 第11回 論文作成3 第12回 中間報告 第13回 論文作成4 第14回 論文作成5 第15回 研究のまとめ		
テキスト	特になし	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	レポート:50% 発表:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
発達と家族の心理学		大野 祥子（おおの さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	各自の決めたテーマにそって調査・研究を行い、卒業論文を作成します。現代の子ども・親・家族の状況について理解し、自分なりの意見やもの見方を構築するとともに、それを人に伝えるための学術的な表現形式・方法を学びます。		
授業の概要	毎回担当者を決め、各自時間外に進めてきた調査の成果を発表し、全員でディスカッションをして論文にまとめていきます。 必要に応じて個別指導の時間を設けます。		
授業計画	【後期】 第1回 イン트로ダクション 第2回 発表とディスカッション 第3回 発表とディスカッション 第4回 発表とディスカッション 第5回 発表とディスカッション 第6回 発表とディスカッション 第7回 発表とディスカッション 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 発表とディスカッション 第12回 発表とディスカッション 第13回 発表とディスカッション 第14回 発表とディスカッション 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めません。	参考文献	各自の関心に合わせて適宜紹介する。
評価方法	担当の発表:30% 研究への取り組み方:35% 卒業論文:35%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
アート・コミュニケーション・省察・制作・発信 －素材の森とイメージの泉の融合－		久保 制一（くぼ せいいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中で自分のイメージを深化させながら表現のコアとして、じっくり育んできたテーマとコンセプトを自分で選択した素材をつかい「かたち」に表現していく。アートとして成り立つよう主体的で創造的な制作活動を取り組み、同時に作品発表の方法を検討して完成させた作品を発表することができる。		
授業の概要	各自のアートプロジェクトにそった自由制作が中心。「作品」は決められた提出日に提出する。同時に、作品のコンセプト・概要・制作のプロセス・素材などをドキュメントした「制作ノート」を同時に提出。卒業制作作品の発表は「作品発表会」での作品上演・上映、または「卒展」での作品展示となる。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 自由制作 マケットの制作</p> <p>第2回 自由制作 マケットの検討</p> <p>第3回 自由制作 全員にアドバイス</p> <p>第4回 自由制作 個人別にアドバイス</p> <p>第5回 プレゼンテーション 中間発表</p> <p>第6回 自由制作 グループ1にアドバイス</p> <p>第7回 自由制作 グループ2にアドバイス</p> <p>第8回 自由制作 グループ3にアドバイス</p> <p>第9回 自由制作 グループ1にアドバイス</p> <p>第10回 自由制作 グループ2にアドバイス</p> <p>第11回 自由制作 グループ3にアドバイス</p> <p>第12回 自由制作 個人別にアドバイス</p> <p>第13回 卒業制作 作品 仮提出／プレゼンテーション</p> <p>第14回 制作ノート 仮提出</p> <p>第15回 卒業制作 作品 提出 展示・上演など発表</p>		
テキスト	特にない	参考文献	この地球上のすべての事象がとても参考になる
評価方法	平常の取り組み:20% 卒業制作作品:80%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
論文、発表		小泉 由美子（こいずみ ゆみこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	音楽領域を中心に、音と社会に関する問題、等、自身の関心事から、自身でテーマを決め、学生生活の締めくくりとして、論文を完成させ、発表する。		
授業の概要	自身で決めたテーマで論文を完成させ、レジュメを完成させ、発表する。 課外授業として、前期と後期の間に、2日間の合宿、又は、2日間の集中講義の予定。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 経過報告</p> <p>第2回 個別相談</p> <p>第3回 個別相談</p> <p>第4回 個別相談</p> <p>第5回 個別相談</p> <p>第6回 個別相談</p> <p>第7回 個別相談</p> <p>第8回 個別相談</p> <p>第9回 個別相談</p> <p>第10回 論文仮提出</p> <p>第11回 個別相談</p> <p>第12回 個別相談</p> <p>第13回 個別相談</p> <p>第14回 論文提出 レジュメ提出</p> <p>第15回 発表</p>		
テキスト	必要な場合は指示します。	参考文献	必要な場合は指示します。
評価方法	授業への積極的な参加:60% 発表の内容を考慮:40%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
卒業論文（作品）を形にしよう		さくま ゆみこ（さくま ゆみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	* 論文を完成させるのに必要な技術を得得する。 * 文章を推敲するポイントを理解する。		
授業の概要	研究室での個人指導が中心だが、折に触れて全員で集まる。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ1 第3回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ2 第4回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ3 第5回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ4 第6回 個別指導（各人のテーマと進度に応じて）：グループ5 第7回 中間発表：グループA 第8回 中間発表：グループB 第9回 論文仮提出 第10回 合評 第11回 個別指導（まとめ）：グループ1&2 第12回 個別指導（まとめ）：グループ3&4 第13回 個別指導（まとめ）：グループ5 第14回 論文提出、レジュメ提出 第15回 発表		
テキスト	なし	参考文献	必要に応じて個々に紹介
評価方法	平常の取り組み:20% 論文:80%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
現代教育問題の歴史的・原理的研究		清水 康幸（しみず やすゆき）	
授業の到達目標及びテーマ	前期で構想した論文テーマ、構成案に基づき、3年間の学習の成果を集大成するものとして卒業論文を執筆し完成させる。		
授業の概要	卒業論文執筆が課題となるため、個別指導が中心となる。各自計画的に作業を進め、そのつど状況に応じた指導を行う。12月始めに「仮提出」を行い、残り1ヶ月で仕上げ作業を行う。1月下旬には卒論発表会を行い、それぞれの成果を確認し合う。		
授業計画	【後期】 第1回 ゼミの進め方について 第2回 各自の進捗状況について（1） 第3回 各自の進捗状況について（2） 第4回 論文指導（1） 第5回 論文指導（2） 第6回 論文指導（3） 第7回 論文指導（4） 第8回 論文指導（5） 第9回 論文指導（6） 第10回 論文指導（7） 第11回 第一次稿の提出（仮提出） 第12回 論文指導（8） 第13回 論文指導（9） 第14回 論文指導（10） 第15回 卒論発表会に向けて		
テキスト	特に定めない。	参考文献	特に定めない。
評価方法	卒業論文:60% 授業時の発表:20% 平常点:20%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
こころとその育ちについて現場（フィールド）から考える～論文の作成		菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
授業の到達目標及びテーマ	2年間あたためて育てたテーマを論文にしていく。文献研究から見てきたこと、調査の結果明らかになったことを、自分のことばでまとめることを目指す。さらに論文発表会では、自分がどんなテーマについて研究をし、何がわかったのかについて、初めて話しを聞く人に対しても分かるように伝えることを目標とする。		
授業の概要	前半は論文を書くことについて具体的に学びながら、論文作成にむけて、各自の研究をまとめていく。後半は個別相談を中心に行いながら、論文を作成していく。論文提出後は発表会に向けての準備を行う。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 研究報告とディスカッション① 第3回 研究報告とディスカッション② 第4回 研究報告とディスカッション③ 第5回 研究報告とディスカッション④ 第6回 個別相談① 第7回 個別相談② 第8回 個別相談③ 第9回 個別相談④ 第10回 仮提出 第11回 仮提出をふまえての個別相談① 第12回 仮提出をふまえての個別相談② 第13回 仮提出をふまえての個別相談③ 第14回 論文提出についての最終確認 第15回 レジューメの書き方、発表についての注意		
テキスト	特になし	参考文献	授業内で適宜紹介
評価方法	授業への取り組み方:25% 論文作成状況:25% 論文:40% 発表会での発表内容:10%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
マイノリティ（少数派）の当事者の視点に近づく。		杉田 穂子（すぎた やすこ）	
授業の到達目標及びテーマ	各自が進めてきた研究のテーマ、仮説に基づき、文献、フィールドワーク調査などから得られた知見をもとに論文を作成する。		
授業の概要	各自が関心あるテーマについて、論文を作成する。必要に応じて助言する。		
授業計画	【後期】 第1回 論文の概要の発表（1） 第2回 論文の概要の発表（2） 第3回 各自の論文についての発表（1） 第4回 各自の論文についての発表（2） 第5回 各自の論文についての発表（3） 第6回 各自の論文についての発表（4） 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 論文の発表と検討（1） 第14回 論文の発表と検討（2） 第15回 論文の発表と検討（3）		
テキスト	個別に紹介します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	授業後の感想レポート:30% 発表内容:30% 論文作成の状況:40%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
現代における教育の諸問題の研究Ⅳ		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育学のテーマに関してまとまった文章を書く、2. 教育学の理論に基づいた分析をする、3. 説得的で論理的な文章で論文を作成する、事ができるようになる。		
授業の概要	受講生が毎回レジュメを作成し、論文の進捗状況を報告する。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 論文の構想Ⅰ 第3回 受講生による発表 論文の構想Ⅱ 第4回 受講生による発表 論文の構想Ⅲ 第5回 受講生による発表 中間発表Ⅰ 第6回 受講生による発表 中間発表Ⅱ 第7回 受講生による発表 中間発表Ⅲ 第8回 受講生による発表 初稿の発表Ⅰ 第9回 受講生による発表 初稿の発表Ⅱ 第10回 受講生による発表 初稿の発表Ⅲ 第11回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅰ 第12回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅱ 第13回 受講生による発表 第二稿の発表Ⅲ 第14回 論文の最終チェック 第15回 論文発表会		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	平常点:20% 論文:80%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
人間らしく生きることの探求		横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	研究方法論と内容の吟味・確認をしながら、各自の研究論文を育てる。福祉に連なる領域を主要な研究のフィールドとするため、さまざまな状況を生きる人たちの抱える課題、中でもとくに福祉的援助を必要としている子どもや大人・家族をめぐる諸問題、「私たち」の生活の内外にある社会的な課題を中心とした考察を行っていく。		
授業の概要	個別指導を中心として体験しながら、研究論文の作成を進め、提出、発表、ふり返りまで自らが責任をもって行う。自ら論文を主体的に「動かしていく」力を発揮しながら研究を深め、整えていく。SOSを出しながら教員に助言を求めするなど、問題解決の力、言語でまとめ発信する力も高める。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション・授業ガイダンス 第2回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ1） 第3回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ2） 第4回 研究テーマと研究内容の中間発表（グループ3） 第5回 個人別研究指導（グループ1） 第6回 個人別研究指導（グループ2） 第7回 個人別研究指導（グループ3） 第8回 個人別研究指導（グループ1） 第9回 個人別研究指導（グループ2） 第10回 個人別研究指導（グループ3） 第11回 仮提出 第12回 仮提出をふまえての助言・指導 第13回 論文のしあげにあたっての確認 第14回 レジュメ執筆・論文発表の確認 第15回 論文発表会		
テキスト	特になし。	参考文献	参考文献・参考資料とともに、個別あるいは履修者全体に随時紹介していく。
評価方法	授業参加態度:25% 研究取り組み状況:25% 成果物（卒業論文）:50%		

子ども学特別研究Ⅳ		後期 2 単位	3年
子どもに関わる音楽分野に関する研究		渡辺 善忠（わたなべ よしただ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子どもに関わる音楽分野の研究をさらに深めます。後期は、グループ研究や個々の研究を中心として学びを進めます。将来の仕事につながる内容を実践的に学ぶと共に、他の授業の内容も合わせて総合的な視点で研究を深めることを目標とします。		
授業の概要	個人やグループのテーマごとに論文や制作発表の準備を進めます。ゼミでの研究だけにとどまらず、3年間の学びをしめくり、卒業後も研究を続けることを目標に研究を展開したいと思います。		
授業計画	【後期】 第 1回 研究の個別指導① 第 2回 研究の個別指導② 第 3回 研究の個別指導③ 第 4回 研究の個別指導④ 第 5回 研究の個別指導⑤ 第 6回 研究の個別指導⑥ 第 7回 中間発表 第 8回 論文・製作発表の準備① 第 9回 論文・製作発表の準備② 第10回 論文・製作発表の準備③ 第11回 論文・製作発表の準備④ 第12回 論文・製作発表の準備⑤ 第13回 論文・製作発表のリハーサル① 第14回 論文・製作発表のリハーサル② 第15回 論文・製作発表		
テキスト	授業中に相談して決めます。	参考文献	テーマに応じてその都度紹介します。
評価方法	発表を含む授業内評価:50% 論文か制作発表:50%		

幼稚園実習ⅠA	後期 1 単位	1年
幼児理解をめざして		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 「幼稚園実習ⅠA」は、幼稚園教諭2種免許状の取得を目指す人が、幼稚園教育の実態を知り、幼児理解を深めることをねらいとする。</p> <p><授業の概要> 幼稚園実習に向けての準備のための「事前授業」と、「幼稚園実習ⅠB」での1週間実習、そしてその成果を振り返る「事後の授業」の3本立てで進めていく。 また、この授業の評価は3本を総合して行う。 なお授業は、基本的に4グループに分けて行う。</p> <p><授業計画> 後期 第1回 幼稚園実習のねらい・目的を知る 第2回 実習準備室を利用した学習 第3回 実習に向けて 幼稚園の1日を知る 第4回 実習に向けて 観察実習と参加実習その在り方 第5回 実習に向けて 実習日誌の書き方・実習の心構え等 第6回 実習に向けて1 簡単な指導案の書き方 第7回 実習に向けて2 具体的な実習準備・心構え確認 第8回 幼稚園実習（実習協力園での実習） 第9回 実習を終えて1（省察） 第10回 実習を終えて2 実習から学んだこと1（報告会） 第11回 実習を終えて3 実習から学んだこと2（報告会） 第12回 実習を終えて4 実習から学んだこと2（報告会） 第13回 「幼稚園実習Ⅱ」に向けての課題検討 第14回 「幼稚園実習Ⅱ」に向けての準備 第15回 まとめ * 幼稚園での実習は11月11日（月）～11月16日（土）の1週間行う。</p> <p>※履修上の注意： ・第1回目の授業より毎週必ず出席のこと（出席・受講態度重視）。 ・やむを得ないことでの欠席は事前に学科研究室に届け出、後日専任担当教員（安部・浅見）を訪ねること。無断欠席者に対しては厳しい対応をとる。 ・本授業への欠席があると幼稚園での1週間の実習に行けない場合があるので注意すること。 ・「幼稚園実習ⅠA」、「幼稚園実習ⅠB」の単位が取得できない場合は「幼稚園実習ⅡA」、「幼稚園実習ⅡB」の履修ができない。</p> <p><テキスト> 浅見均・田中正浩編著『子どもの育ちを支える 幼稚園教育実習』 大学図書出版</p> <p><参考文献> 授業の中で適宜紹介する。</p> <p><評価方法> 授業への参加態度40%・実習日誌・評価40%・レポート20%</p>		

幼稚園実習 I B	後期集中 1 単位	1年
幼稚園実習を通して幼児理解をする		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><実習の到達目標及びテーマ> 幼稚園での1週間の実習を通して、幼稚園教育や保育の実際を知り、幼児理解を深める。</p> <p><実習の概要> 実習期間：11月11日（月）～11月16日（土）</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、実習幼稚園の概要を知る。 2、配属クラスの1日の生活の流れを知る。 3、配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活など）を知る。 4、保育者の子どもへのかかわり方などを知る。 5、簡単な部分保育実習（点呼・ピアノ・紙芝居・遊びへの参加など）。 6、保育を観察、記録し、日誌を書き、学んだことを省察する。 7、環境構成への参加（清掃、保育準備など）。 <p>※実習巡回指導には、浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、横堀昌子、村知稔三の専任教員のほか、上村真理子、莊司紀子の幼稚園実習担当講師があたる。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく <評価方法> 実習態度20%・実習日誌30%・実習評価表30%・レポート20%</p>		

幼稚園実習ⅡA	前期 1 単位	2年
幼児と保育について本質的理解を深める		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 「幼稚園実習ⅡA・B」は、幼稚園教諭2種免許状の取得をめざすが、幼稚園の現場で3週間の実習をする。特に2年生の実習は、幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者の在り方などを学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の適性についても考える機会とすることを目的としている。</p> <p><授業の概要> 幼稚園実習に向けて準備のために毎週行う「事前授業」、3週間の実習幼稚園における「幼稚園教育実習」、そして実習後に毎週行う「事後授業」の3本立てで進める。事前と事後の授業は、基本的に4グループの分級で行う。</p> <p><授業計画> 前期 第1回 幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的 第2回 幼児理解を深めるために 第3回 幼児の発達と保育者のかかわり 第4回 幼児の生活と保育活動 第5回 6月実習をふまえた教材研究 第6回 保育の内容と方法 第7回 指導計画と保育方法 第8回 幼稚園における参加実習 第9回 幼稚園における参加実習と部分保育実習 第10回 幼稚園における責任実習 第11回 幼稚園実習の報告と検討 第12回 他園の保育状況を知る 第13回 合同報告会 第14回 幼児と保育の問題点を課題をさぐる 第15回 幼児と保育についての本質理解のまとめ</p> <p>◎幼稚園での実習は6月3日（月）～6月22日（土）の3週間です。</p> <p><テキスト> 『子どもの育ちを支える 幼稚園教育実習』浅見均・田中正浩編著 大学図書出版</p> <p><参考文献> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省</p> <p><評価方法> 平常点（授業への参加態度、課題レポートなど）50%、 実習点（実習評価票、実習録・提出レポートなどの総合評価）50%</p> <p>※履修上の注意： ・第1回目の授業より毎週必ず出席のこと（出席・受講態度重視）。 ・本授業への欠席があると幼稚園での3週間の実習に行けない場合があるので注意のこと。 ・やむを得ないことでの欠席は事前に学科研究室に届け出、後日担当教員（安部・浅見）を訪ねること。無断欠席者に対しては厳しい対応をとる。</p> <p>※「幼稚園実習ⅡA・B」の履修条件 ・1年次の「幼稚園実習ⅠA・B」が履修済みであること。 ・1年次の基礎科目（1年次の教職科目）が原則として全科目履修できていること。</p>		

幼稚園実習ⅡB	前期集中 3 単位	2年
幼稚園実習を通して幼児・保育の本質理解を深める		
<p>【担当教員】 浅見 均（あさみ ひとし）、阿部 真美子（あべ まみこ）、上村 真理子（かみむら まりこ）、莊司 紀子（しょうじ のりこ） （教育実習時の幼稚園訪問指導の教員） 実習巡回指導には、浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、横堀昌子、村知稔三の専任教員のほか、上村真理子、莊司紀子の幼稚園実習担当講師があたる。</p> <p><実習の到達目標及びテーマ> 幼稚園での3週間の教育実習を通して、幼児と保育について、本質的理解を深める。</p> <p><実習授業の概要> 実習期間 2013年6月3日（月）～6月22日（土）</p> <p>（内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 園児の観察、保育の参観など、観察・参加実習 2. 幼児の理解を深める 3. 保育内容や保育方法の研究 4. 保育者の幼児へのかかわり方などの研究 5. 保育の計画と実践（部分実習・責任実習も含む） 6. 保育の展開と記録 7. 環境構成への参加（清掃・教材準備など） 8. 幼児・保育・自己への省察 9. 幼稚園教育の理解 <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく <参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく <評価方法> 実習評価票 25%・実習録 25%・実習後のレポート 25%・訪問指導教員の評価 25%</p>		

保育所実習 I A	後期 1 単位	2年
保育所保育の理解と保育士の役割の考察～保育所実習の準備とふり返し		
<p>【担当教員】 杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、保育所における体験学習（保育所実習 I B）を通して、保育所の機能と役割、保育の実際、保育士の役割などについて学習します。 そのための準備を中心に行ないながら、実習後のふり返しをあわせて総合的に学内で学びます。</p> <p><授業の概要> 保育所実習 I Aは、保育所に約2週間出向き実習する保育所実習 I Bに向けて、学内にて実習計画作成と諸準備、実習後のふり返しを行ないます。 保育所実習 I Bの実習期間は2013年11月中の2週間です。（日程など詳細は保育実習ガイダンスや授業で伝達） 実習に出るためには本講義への出席が不可欠です。 講義は担当者による4分級での授業と合同のそれとを併用します。 本講義は、原則として、1年次で保育士資格取得に必要な必修科目の単位を修得をした者にのみ履修を認めています。</p> <p><授業計画> 第 1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法 第 2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第 3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成 第 4回 実習の心構え（保育参加に際して求められる理解と倫理） 第 5回 乳幼児の生活と遊びの理解（視聴覚教材を用いて） 第 6回 保育所と利用者理解・子育て支援活動の理解 第 7回 学外講師による実習事前指導 第 8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第 9回 保育所実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書の仕上げと提出） 第11回 実習の具体的準備と留意点の確認 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 帆足英一監修『実習保育学』第4版（日本小児医事出版社、2008年）。実習の事前準備および実習中の活用のために、必ず購入のこと。</p> <p><参考文献> 民秋言ほか編著『保育ライブラリ 保育所実習』（北大路書房、2009年）。</p> <p><評価方法> 講義への参加度（30%）、計画書・報告書・感想文などを含めた実習の事前・事後のとりくみの状況（70%）を基準として総合的に評価します。</p>		

保育所実習 I B	後期集中 2 単位	2年
保育士の役割の体験学習と考察～保育所保育との出会い		
<p>【担当教員】 杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p><実習の概要とテーマ> 保育所で約2週間、園児や保育者とともに生活し保育に参加することを通して、保育所保育や保育の実際を学ぶとともに、保育所の果たす社会的役割や機能・保育士の役割とあり方を理解します。 人間として日々成長する乳幼児の姿にふれ、保育者として、人としての感受性を耕すとともに、保育需要を有する乳幼児とその家族の支援にあたって保育所に何が求められるかについても考察する機会とします。</p> <p><実習期間> 2013年11月中の2週間（日程など詳細は保育実習ガイダンスおよび授業で伝達）</p> <p><実習の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する保育所の概要と果たす機能を理解する。 2. 配属クラスの1日の生活の流れを理解する。 3. 配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活状況など）を理解する。 4. 保育者の子どもとのかかわりの意味・保育内容を理解する。 5. 保育者の保護者（親）とのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 保育者のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 保育準備・環境設定への参加を通し、保育者の意図と配慮を知る。 8. 保育の観察・参加と日誌を通しての省察。 9. 部分実習・責任実習の体験と省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p>実習中の巡回指導は専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、鈴木俊之、杉田穂子、菅野幸恵、村知稔三、横堀昌子に加え、実習担当講師の和田秀一が行ないます。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習へのとりくみ（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合的に評価します。</p>		

保育所実習Ⅱ A	前期 1 単位	3年
保育所保育の理解と保育士の役割の考察の深化－保育所実習の準備とふり返り－	村知 稔三（むらち としみ） 和田 秀一（わだ しゅういち）	
<p><講義の到達目標・テーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、保育所における体験学習（保育所実習Ⅱ B）を通して、保育所の機能と役割、保育実践の実際、保育士の役割について学びます。 そのための準備を中心にしながら、実習後のふり返りをあわせて行ない総合的に学ぶ学内授業です。</p> <p><講義の概要> 保育所実習Ⅱ Aは、保育所に約2週間出向き実習する保育所実習Ⅱ Bに向けて、実習計画作成と準備、保育所実習Ⅱ Bのふり返りを学内で行ないます。 保育所実習Ⅱ Bの実習期間は原則として8月26日（月）～9月7日（土）です。ただし、多少前後する場合があります。 この実習に出るためには本講義への出席が不可欠です。 もち方としては、4名の担当者によるグループ別の授業と、合同で行なうそれとを組み合わせます。 また、保育所実習Ⅱ Aと施設実習Ⅱ Aの各講義時間を相互に活用し、同時に進めていきます。</p> <p><講義計画> 第 1回 保育所実習の準備（実習の枠組み理解） 第 2回 保育所実習の準備（実習配属確認と準備過程） 第 3回 保育所実習の準備（保育所の役割・機能理解） 第 4回 保育所実習の準備（保育問題と保育ニーズの理解） 第 5回 保育所実習の準備（乳幼児の発達理解） 第 6回 保育所実習の準備（乳幼児の遊びの理解） 第 7回 保育所実習の準備（乳幼児の生活の理解） 第 8回 保育所実習の準備（保育者の役割の理解） 第 9回 保育所実習の準備（保育の留意点の理解） 第10回 保育所実習の準備（事前学習のまとめ） 第11回 保育所実習の準備（実習テーマの検討） 第12回 保育所実習の準備（実習計画の作成） 第13回 保育所実習の準備（実習計画への助言） 第14回 保育所実習の準備（実習の省察） 第15回 教員からのフィードバックと全体のまとめ</p> <p><テキスト> 帆足英一監修『実習保育学』第4版（日本小児医事出版社、2008年）。</p> <p><参考文献> 民秋言ほか編著『保育ライブラリー 保育所実習』（北大路書房、2009年）。</p> <p><評価方法> 講義への積極的関与の度合い（30%）、計画書・報告書・感想文などを含めた実習の事前・事後のとりくみの状況（70%）を基準として総合的に評価します。</p>		

保育所実習ⅡB	後期集中 2 単位	3年
保育士の役割の体験学習と考察の深化－保育所保育との出会い－	村知 稔三（むらち としみ） 和田 秀一（わだ しゅういち）	
<p><実習の概要・テーマ> 保育所で約2週間、園児や保育者とともに生活し、保育に参加することを通して、保育所保育や保育の実際を学ぶとともに、保育所の果たす社会的役割や機能、保育士の役割とあり方を理解します。 人として日々成長する子どもの姿にふれ、保育者として、人としての感受性を耕すとともに、保育需要をもつ子どもと家族の支援にあたって保育所に今、何が求められるかについても考察します。</p> <p><実習期間> 原則として2013年8月26日（月）～9月7日（土）。ただし、多少前後する場合があります。</p> <p><実習の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する保育所の概要と果たす機能を理解します。 2. 配属クラスの1日の生活の流れを理解します。 3. 配属クラスの子どもの様子（発達・遊び・生活状況など）を理解します。 4. 保育者の子どもとのかかわりの意味・保育内容を理解します。 5. 保育者の保護者（親）とのかかわりと連携のあり方を考察します。 6. 保育者のチームワークと連携のとり方を理解します。 7. 保育準備・環境設定への参加を通し、保育者の意図と配慮を知ります。 8. 保育の観察・参加と日誌を通しての省察を行ないます。 9. 部分実習・責任実習の体験と省察を行ないます。 10. 実習全体のふり返りと成果・課題の考察を行ないます。 <p>ただし、実習する保育所の状況により実習内容にちがいや変化があるので、臨機応変に対応することが求められます。 実習中の巡回指導は専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子に加え、実習担当講師の和田秀一が行なう予定です。</p> <p><テキスト> 必要に応じて随時紹介します。</p> <p><参考文献> 必要に応じて随時紹介します。</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習へのとりくみ（60%）と実習先からの評価（40%）をもとに、総合的に評価します。</p>		

施設実習 I A	後期集中 1 単位	3年
福祉施設実践の理解と施設職員の役割の考察～施設実習の準備とふり返り	杉田 穂子（すぎた やすこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、福祉施設における体験学習（施設実習 I B）を通して、福祉施設の機能と役割・利用者を支援する生活実践の実際・（保育士を含む）施設職員の役割について学ぶ。そのための準備を中心に行いながら、実習後のふり返りとをあわせて総合的に学ぶ学内授業である。</p> <p><授業の概要> 施設実習 I Aは、福祉施設に約2週間出向き実習する施設実習 I Bに向けて、学内にて実習計画作成と諸準備、実習後のふり返りを行う。 施設実習 I Bにおける実習は、各実習施設の受け入れ状況にあわせてあらかじめ設定した実習期間にそれぞれ出向くこととなる。 実習に出るためにはこの授業への出席が不可欠となる。 授業の持ち方としては、上記担当者による4グループに分かれて行う授業と、合同で行う授業とを活用する。 また、施設実習 I Aと保育所実習 I Aの各授業時間を相互に活用し同時併行的に進めていく。 加えて、適宜、卒業生・施設現場からの学外講師にも出講を願う予定である。 なお、この科目は、原則として1年次に保育士資格取得のために必要な必修科目の単位を修得をした者のみ履修を認めている。</p> <p><授業計画> 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法について 第2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成について 第4回 実習の心構え（生活参加に際して求められる理解と倫理） 第5回 施設における実践内容と生活参加の理解 第6回 施設機能と利用者理解・支援の実際についての理解 第7回 学外講師による実習事前指導 第8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第9回 施設実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書のしあげと提出） 第11回 卒業生の実習体験に学ぶ （施設実習） 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 開講時に提示する。</p> <p><参考文献> 民秋言他編著『保育ライブラリ 施設実習』北大路書房ほか。 ※授業でも参考文献および資料を紹介していく予定。</p> <p><評価方法> 平常点・授業参加態度（70%）、 実習計画書・実習報告書作成を含めた実習事前事後の取り組み状況、実習報告、提出物（あわせて30%）を基準として総合評価する。</p>		

施設実習 I B	後期集中 2 単位	3年
施設職員の役割の体験学習と考察～施設利用者にとって必要な支援のあり方を考える		
<p data-bbox="107 218 211 239">【担当教員】</p> <p data-bbox="97 241 1259 285">杉田 穂子（すぎた やすこ）、村知 稔三（むらち としみ）、横堀 昌子（よこぼり まさこ）、和田 秀一（わだ しゅういち）</p> <p data-bbox="97 287 319 309"><実習の概要とテーマ></p> <p data-bbox="117 311 1170 430">福祉施設で約2週間の実習において利用者と施設職員とともに生活することを通して、施設実践や利用者の人権保障、支援の実際を学ぶとともに、福祉施設の果たす社会的役割と機能・（保育士を含む）施設職員の役割とあり方・利用者やその背後にいる家族への支援の実際を考察する。 実習体験を通して、人が人として成長すること・他者とかがわりながら社会に生きることを支える福祉の営みに今後何が求められるか、その本質についても考える機会とする。</p> <p data-bbox="97 481 220 502"><実習期間></p> <p data-bbox="117 504 1030 525">各自の配属された時期（約2週間）に、それぞれの実習施設に出向き、原則的に宿泊での実習を行う。</p> <p data-bbox="97 575 279 596"><実習の到達目標></p> <p data-bbox="127 598 709 620">（さまざまな実習先がありますが、モデルとして以下を示します）</p> <ol data-bbox="117 647 869 884" style="list-style-type: none"> 1. 実習する施設の概要と果たす機能を理解する。 2. 施設の1日の生活の流れを理解する。 3. 利用者の様子（デイリープログラム・生活の実際・施設での活動など）を知る。 4. 施設職員の利用者へのかかわり（個別・全体）と配慮している点を理解する。 5. 施設職員の保護者（親）へのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 施設職員のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 生活への参加を通じ、環境設定上の配慮と特性を知る。 8. 人間らしい成長・社会参加・暮らしの実現に何が求められるか考察する。 9. 日々の生活参加・実習内容のふり返りと日誌による省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p data-bbox="127 911 1170 956">（※ただし、実習する施設の特性や実習時期・個別の状況により実習内容プログラムのちがいや変更がありうるので、臨機応変に対応のこと）</p> <p data-bbox="97 983 1240 1027">実習中の巡回指導は、専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子に加え実習担当講師の和田秀一が行う。</p> <p data-bbox="97 1054 220 1076"><テキスト></p> <p data-bbox="117 1078 399 1099">必要に応じ、随時紹介していく</p> <p data-bbox="97 1126 220 1147"><参考文献></p> <p data-bbox="117 1149 399 1170">必要に応じ、随時紹介していく</p> <p data-bbox="97 1197 220 1219"><評価方法></p> <p data-bbox="117 1221 1149 1242">実習ノートを含む実習そのものへの取り組み状況（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合評価する。</p>		

施設実習Ⅱ A	前期 1 単位	3年
福祉施設における支援活動の理解と施設職員の役割の考察～施設実習の準備とふり返り	杉田 穂子（すぎた やすこ） 横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 保育士資格の取得を希望する学生が、福祉施設における体験学習（施設実習Ⅱ B）を通して、福祉施設の機能と役割・利用者を支援する生活実践の実際・（保育士を含む）施設職員の役割について学ぶ。 そのための準備を中心に行いながら、実習後のふり返りとをあわせて総合的に学ぶ学内授業である。</p> <p><授業の概要> 施設実習Ⅱ Aは、福祉施設に約2週間出向き実習する施設実習Ⅱ Bに向けて、学内にて実習計画作成と各施設の特性に即した諸準備、実習後のふり返りを行う。</p> <p>施設実習Ⅱ Bにおける実習は、各実習施設の受け入れ状況にあわせてあらかじめ設定した実習期間（原則として2013年4月から10月までのさまざまな時期の中から配属された約2週間）にそれぞれ出向くこととなる。実習に出るためにはこの授業への出席が不可欠となる。</p> <p>授業のもち方としては、施設実習Ⅱ A履修者の配属された実習先施設種別ごとに分かれて行う授業と履修者全員での授業とを活用する。また、施設実習Ⅱ Aと保育所実習Ⅱ Aの各授業時間を相互に活用し同時併行的に進めていく。加えて、適宜、卒業生・施設現場からの学外講師にも出講を願う予定である。</p> <p><授業内容> 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法について 第2回 実習先配属と進め方・留意点の確認 第3回 必要書類の準備と文献研究・実習計画書の作成について 第4回 実習の心構え（生活参加に際して求められる理解と倫理） 第5回 施設における実践内容と生活参加の理解 第6回 施設機能と利用者理解・支援の実際についての理解 第7回 学外講師による実習事前指導 第8回 実習記録とは（記録の意味・とり方・記述の留意点） 第9回 施設実習事前オリエンテーション 第10回 実習課題の明確化（実習計画書のしあげと提出） 第11回 卒業生の実習体験に学ぶ （施設実習） 第12回 実習報告会・実習報告書等の提出 第13回 実習報告書に基づくディスカッション 第14回 検討課題の発表と考察 第15回 担当教員によるフィードバックとまとめ</p> <p><テキスト> 開講時に提示する。</p> <p><参考文献> 民秋言他編著『保育ライブラリ 施設実習』北大路書房ほか。 ※なお、実習する施設種別に即した参考文献および実習事前準備のための各種資料を、適宜紹介していく予定。</p> <p><評価方法> 平常点と授業参加態度（70%）、 実習計画書・実習報告書作成を含めた実習事前事後の取り組み状況、実習報告、提出物（あわせて30%）を基準として総合評価する。</p>		

施設実習ⅡB	後期集中 2 単位	3年
施設職員の役割の体験学習と考察～施設利用者にとって必要な支援のあり方を考える	杉田 穂子（すぎた やすこ） 横堀 昌子（よこぼり まさこ）	
<p><実習の概要及びテーマ> 福祉施設での約2週間の実習において利用者や施設職員とともに生活することを通して、施設実践や利用者の人権保障、支援の実際を学ぶとともに、各施設の果たす社会的役割と機能・（保育士を含む）施設職員の役割とあり方・利用者やその背後にいる家族への支援の実際を考察する。 実習体験を通して、人が人として成長すること・他者とかかわりながら社会に生きることを支える福祉の営みに今後何が求められるか、その本質についても考える機会とする。</p> <p><実習期間> 2013年4月～10月までの間の各自配属された時期（約2週間）に、それぞれの実習施設に出向き、宿泊または通いでの実習を行う。</p> <p><実習の到達目標> （さまざまな実習先があるが、モデルとして以下を示す）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習する施設の概要と果たす機能を理解する。 2. 施設の1日の生活の流れを理解する。 3. 利用者の様子（デイリープログラム・生活の実際・施設での活動など）を知る。 4. 施設職員の利用者へのかかわり（個別・全体）と配慮している点を理解する。 5. 施設職員の保護者（親）へのかかわりと連携のあり方を考察する。 6. 施設職員のチームワークと連携のとり方を理解する。 7. 生活への参加を通し、環境設定上の配慮と特性を知る。 8. 人間らしい成長・社会参加・暮らしの実現に何が求められるか考察する。 9. 日々の生活参加・実習内容のふり返りと日誌による省察。 10. 実習全体のふり返りと、成果・課題の考察。 <p>（※ただし、実習する施設の特性や実習時期・個別の状況により実習内容プログラムのちがいや変更がありうるので、臨機応変に対応のこと）</p> <p>実習中の巡回指導は、専任教員の浅見均、阿部真美子、久保制一、小泉由美子、さくまゆみこ、菅野幸恵、杉田穂子、鈴木俊之、村知稔三、横堀昌子が行う。</p> <p><テキスト> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><参考文献> 必要に応じ、随時紹介していく</p> <p><評価方法> 実習ノートを含む実習そのものへの取り組み状況（60%）と実習先からの評価（40%）を基準として総合評価する。</p>		

フィールドワーク・子ども	後期集中 1 単位	1・2・3年
子どものくらしについて考える	菅野 幸恵（すがの ゆきえ）	
<p>授業の到達目標およびテーマ</p> <p>子どもは”いま”を生きる存在である。子どもたちのくらしは彼らの”いま”が保障されるものでなければならない。ただ、現在の状況を改めてみると、子どもたちの”いま”が十分に保障されているかどうかかわからない、あるいは脅かされている現状が見えてくる。この授業では、乳児期から学齢期の子どもに焦点をあて、子どもたちの生活の場に自ら赴き、直接見たり聞いたりすることを通して、子どものくらしについて考えることを目的とする。</p> <p>子どもの生活の場は多岐にわたるが、この授業では正規（法制度に基づいた）の保育施設や教育機関以外の場所に注目する。認可外の施設や普段あまりなじみのない子どもたちの生活の場は、現状への違和感からできたもの、正規な保育・教育では扱いきれない子どもの生活を支えるものなどがあり、子どものくらしを考えるためのヒントがたくさんあると考えるからである。</p> <p>具体的には、まず、認可外の保育施設や学童保育など、認可の保育施設や教育機関以外に子どもたちが過ごす場所にはどのようなものがあるのかについて理解する。そのうえで、自分の居住する地域にどのような子どもの居場所があるかを調べ、実際にその場に身をおき体感することを通して理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>フィールドワークに赴くための準備として、4月と7月に授業を行う（月曜5、6限を予定している）。前期のうちに各自がフィールドに入るための準備を進め、7月までにフィールドワーク先を探し先方に連絡し日時などを決定する。フィールドワーク先の検討にあたっては個別相談をする。夏季休業中にフィールドワークを行い、後期に報告会を行う。</p> <p>互いのフィールドワークの体験を共有しながら、子どものくらしについて考えていく。可能であれば全員で学外施設の見学を行う。</p> <p>フィールドワークでは、どこに行き、何を見るか、交渉もふくめてすべて自分で調べて進めるため、受講者には積極的な参加を求める。フィールドで見たり聞いたりしたことをフィールドノーツにまとめ、期末レポートとともに提出する。</p> <p>授業計画</p> <p>4月（15日22日29日を予定） オリエンテーション フィールドを探す：フィールドエントリーのしかた 子どもの居場所を知る（フリースクール、学童保育、自主保育、森のようちえん）</p> <p>5月～6月（個別相談） フィールドワーク先を探す</p> <p>7月（8日15日22日を予定） フィールドワークの実際 フィールドノーツのまとめかた フィールドの去り方</p> <p>9月（未定） 報告会 まとめとふりかえり</p> <p>テキスト 授業内で適宜プリントを配布</p> <p>参考文献 授業内で適宜紹介する</p> <p>評価方法 授業への参加度：40% フィールドノーツ：40% 期末レポート：20%</p>		

教師論	前期 2 単位	1年
教育とは何か、教師とは何か。	高橋 喜代治 (たかはし きよじ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 今日の教師に求められる資質と力量を明らかにし、それを身につけていくために必要な学びの計画・見通しが持てるようにする。</p> <p><授業の概要> 学生たちのこれまでの学校生活・学習経験を生かしながら、ワークショップ的に授業を進める。授業の流れは概ね、講義—事例分析・検討(小グループ)—振り返り(発表、レポート)となる。</p> <p><授業計画> 第 1回 日本の教育の現在と教師の現実(授業のガイダンスを含む) 第 2回 教師という仕事の特徴(教師像の変遷、記録にみる教師) 第 3回 教師という仕事の特徴(子どもと親が求める教師像) 第 4回 教師という仕事の特徴(教師に「なる」ことと研修の意義・内容) 第 5回 教師という仕事の特徴(部活動の存在と意義) 第 6回 教師の 1 日の仕事(仲間づくりの意義—学級指導) 第 7回 教師の 1 日の仕事(分かる授業づくりの意義—教科指導) 第 8回 教師の法的立場(教師の身分、教育公務員としての在り方) 第 9回 教師の 1 日の仕事(給食指導、係り活動の指導) 第10回 教師の 1 日の仕事(子どもの観察、触れ合い、コミュニケーション) 第11回 教師と危機管理(子どもの命を育て、守ること) 第12回 授業で学ぶことと将来設計(進路選択の意義と方法) 第13回 教師と社会認識(保護者との関係、地域の中の教師の在り方) 第14回 教師と子どもの人権(子どもの権利条約の観点、教師のことばづかい) 第15回 まとめ(これまでの授業の総括)</p> <p><テキスト>特になし <参考文献>特になし <評価方法> ①授業の振り返りで感想や授業コメントを求め、その理解度を評価する。50% ②単位修得レポート(講義に関連して5000文字程度のレポートを提出)理解度や課題の究明性を評価する。50%</p>		

教育原理	前期 2 単位	1年
教育観・学校観・子ども観を問い直す	清水 康幸（しみず やすゆき） 東 宏行（ひがし ひろゆき）	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>○教育の理念、歴史、思想に関して、大規模な教育制度改革期である明治中期、戦後初期に焦点を当てて学び、近代学校の生成展開過程を俯瞰しながら理解を深める。 また教育と社会、教育の制度と経営について、基礎的な事項を学びながら価値観の変化を理解する。</p> <p>○現代日本の学校教育をめぐる現状を、児童・生徒の様子だけでなく、親子関係や情報化社会の状況を含めて理解し、教育制度の変 化の動向を、学力のとらえ方や指導のあり方、学校経営のあり方を含めて、多面的に把握する力を身に付ける。</p> <p><授業の概要></p> <p>全体を「近代学校生成史と教育の現在」をテーマとし、大きく教育の歴史編と現状編にわけらる。</p> <p>前半の歴史編では、戦前期および戦後教育改革期に焦点を当て、日本の教育制度・理念の歴史的特質を整理する。また、近代学校の生成展開過程とその背景にある哲学や思想についても概説する。</p> <p>後半の現状編においては、学校教育をめぐる諸相を、児童・生徒だけでなく、保護者と教師の関係や情報化社会の進展等の社会的事項にも触れながら概説する。また現代の教育改革の動向を、学力、指導、経営の三つの層で整理する。</p> <p>全体を通じて、教育に関する基本的概念の概説や主要な思想、経営的事項の紹介を随時織り込みながら授業を展開する。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1回 オリエンテーション 教育とは何か（教育体験のふり返り）（清水）</p> <p>第 2回 日本の教育の歴史・制度（1）近代学校生成の特質－近世教育から近代学校への胎動（清水）</p> <p>第 3回 日本の教育の歴史・制度（2）明治期公教育制度の成立（清水）</p> <p>第 4回 日本の教育の歴史・制度（3）大正期「教育する家族」の登場（清水）</p> <p>第 5回 日本の教育の歴史・制度（4）戦時下の教育（清水）</p> <p>第 6回 戦後教育の理念と思想（1）戦後の新しい教育理念（清水）</p> <p>第 7回 戦後教育の理念と思想（2）新しい法制度と理念（教育基本法・学校教育法）（清水）</p> <p>第 8回 海外の教育哲学と思想の概略史－子ども主体の教育を構想した主要な教育哲学と思想（東）</p> <p>第 9回 現代社会と教育の諸相（1）現代の子ども・若者期の特徴（東）</p> <p>第10回 現代社会と教育の諸相（2）親子関係の変容及び学校－家庭連携のあり方（東）</p> <p>第11回 現代社会と教育の諸相（3）携帯・ネット等の情報化が進展する中での教育問題（東）</p> <p>第12回 現代の教育改革（1）学力－生きる力と基礎的・基本的な知識と技能、学習指導要領の基礎（東）</p> <p>第13回 現代の教育改革（2）指導－生活への多面的・支援的かわり目と『生徒指導提要』（東）</p> <p>第14回 現代の教育改革（3）経営－学校種間の接続への配慮と学校経営（東）</p> <p>第15回 まとめ 全体のまとめ－現代に求められる学校・教師の役割－（清水）</p> <p>定期試験</p> <p><テキスト></p> <p>特に定めない。主としてプリントを用いる。</p> <p><参考文献></p> <p>山住正巳『日本教育少史』岩波新書／尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』岩波新書／片桐芳雄他編『教育から見る日本の社会と歴史』八千代出版／文部科学省『生徒指導提要』教育図書／汐見稔幸・東宏行他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房など。その他、随時紹介する。</p> <p><評価方法></p> <p>授業感想文 20%、試験 80%</p>		

教育心理学	後期 2 単位	1年
子供の発達と学習の仕組みを学ぶ	宮脇 郁 (みやわき かおり)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達の道筋を理解する。 ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる。 ・障害児教育の基礎を理解する。 <p><授業の概要></p> <p>まず最初に、障害児教育について発達障害を中心に学ぶ。次に、子供がどのような道筋をたどって発達していくか理解するために、発達の各時期にみられる特徴を概観する。さらに、学習と記憶の仕組みについて学び、効果的な指導を行う方法を考える。最後に、学習意欲にはどのような種類があるか概観し、学習意欲を高める方法を考える。授業は講義が中心だが、ただ受動的に聞くのではなく、積極的に自分の頭で考えることが重要である。このため、授業時にしばしば課題の提出を求める。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1回 オリエンテーション 第 2回 障害児教育① 概論、発達障害の種類 第 3回 障害児教育② 特別支援教育 第 4回 発達① 概論、乳児期の発達の特徴 第 5回 発達② 幼児期の発達の特徴 第 6回 発達③ 児童期の発達の特徴 第 7回 発達④ 青年期の発達の特徴 第 8回 発達⑤ 発達段階、遺伝と環境、発達と教育 第 9回 学習と記憶① 古典的条件づけ 第10回 学習と記憶② オペラント条件づけ 第11回 学習と記憶③ 認知的な学習、技能学習 第12回 学習と記憶④ 短期記憶と長期記憶 第13回 学習意欲① 内発的動機づけと外発的動機づけ 第14回 学習意欲② 学習意欲を高めるには 第15回 まとめとふりかえり</p> <p><テキスト></p> <p>柏崎秀子編著 『教職ベーシック 発達・学習の心理学』（北樹出版 2010年）</p> <p><参考文献></p> <p>特になし</p> <p><評価方法></p> <p>定期試験70%、授業時の課題20%、授業への積極的参加度10%で評価する。</p>		

教育課程論	前期 2 単位	2年
教育課程論	藏原 三雪 (くらはら みゆき)	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>1. 学校教育の目標と教育課程の関係について理解し、カリキュラム・教育課程の意味について学習する。2. 近代教科の成立と教育課程のの関わりについて理解する。3. 日本では戦前は「教科課程」であった。戦前の「教科課程」の特徴を理解する。4. 戦後教育改革の中で、教育課程はどのような理念のもとで編成されたか、その経緯と教科・科目の変遷を理解する。5. 教育課程の編成原理としての「児童中心主義」と「学問中心主義」について理解を深める。6～8. 教育課程と学習指導要領の関わりについて学ぶ。特にアメリカのコース・オブ・スタディを取り入れた学習指導要領の作成について学ぶ。社会の変化と学習指導要領の改訂との関わり、改訂の特徴ととりわけ「ゆとり教育」から「確かな学力」への転換について理解を深める。9～10. 中学校の教育課程の構造を領域別に理解する。11. 外国の教育課程改革の動向についてアメリカ、イギリスを事例にあげて学ぶ。13. 学校文化と教育課程の関わり、特にカリキュラム概念を潜在的カリキュラムまで広げて見ることを意味を理解する。14. 学校改革と教育課程改革の関連、とりわけ小中一貫、中高一貫カリキュラムの作成理念について理解する。15. まとめと今後の課題。</p> <p><授業の概要></p> <p>学校における教育課程の全般的な知識の習得をねらいとする。すなわち教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程の編成原理と学習指導要領の変遷、諸外国のカリキュラム改革の動向等について取り上げる。本科目では教育課程の基本的な理解を深めるとともに、急速に変化しつつある教育課程とその編成原理への影響についても取り上げていきたい。</p> <p><授業計画></p> <p>第 1回 学校教育と教育課程/教育課程とは 第 2回 教育課程の歴史的展開 (1) 教科の成立と教育課程 第 3回 教育課程の歴史的展開 (2) 戦前の教科課程 (日本の場合) 第 4回 教育課程の歴史的展開 (3) 戦後の教育改革と教育課程/教科・科目の変遷 第 5回 教育課程の編成原理/教育課程における児童中心主義と学問中心主義 第 6回 教育課程と学習指導要領 (1) コース・オブ・スタディの作成 第 7回 教育課程と学習指導要領 (2) 1960年代から70年代の改訂の特徴 第 8回 教育課程と学習指導要領 (3) 近年の学習指導要領の改訂の特徴 第 9回 中学校の教育課程の構造 (1) 必修教科と選択教科 第 10回 中学校の教育課程の構造 (2) 道徳、総合的な学習の時間、特別活動の位置 第 11回 教育課程改革の動向 (1) アメリカの教育課程改革 第 12回 教育課程改革の動向 (2) イギリスの教育課程改革 第 13回 学校文化と教育課程/顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 第 14回 近年の学校改革と教育課程改革の動向/小中一貫カリキュラム・中高一貫カリキュラム 第 15回 まとめと今後の課題</p> <p><テキスト></p> <p>柴田義松編 『教育課程』 (学文社)</p> <p><参考文献></p> <p>田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著『新しい時代の教育課程』 (有斐閣)</p> <p><評価方法></p> <p>出席と授業感想文80%、レポート20%</p>		

国語科教育法 I	前期 2 単位	1年
国語教育の基本的な事柄を身につける。	原 由来恵 (はら ゆきえ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> ①国語教育の基本を学ぶ。②現代文・古典の教材研究の分析方法を身につける。③指導案作成を行い、作成した指導案をもとに模擬授業までの展開を確認する。④国語科教育における授業の方法と評価方法を体得する。</p> <p><授業の概要> 国語教育の基本的な事柄を実践できる力を身につける授業である。国語という教科の理念を踏まえたのち、国語教科に求められる事柄の実践的事項を学ぶ。また教科書に載る文学作品を教材に取り上げ、国語の教科における教材研究の分析方法を身につける。そこから指導計画・評価に則った指導案作成を行い、作成した指導案をもとに模擬授業までの流れを確認し、国語科教育における授業の方法の基礎を体得する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、ITおよびインターネットを活用した授業の方法についても修得する。</p> <p><授業計画> 第 1回 国語という教科について 第 2回 学習指導要領について 第 3回 単元学習の意味と方法 第 4回 『走れメロス』教材研究の仕方について（文学史的観点から） 第 5回 『走れメロス』教材研究の仕方について（作品内容の観点から） 第 6回 『走れメロス』の指導方法 教材分析から指導 第 7回 『走れメロス』指導案作成 第 8回 『走れメロス』板書と副教材について 第 9回 評価について 第10回 古典教材・古典文法について 第11回 『竹取物語』教材研究の仕方について 第12回 『竹取物語』の指導法 教材分析から指導 第13回 『竹取物語』指導案作成 第14回 『竹取物語』板書と副教材について 第15回 授業の展開について 定期試験 レポート</p> <p><テキスト> 教材で使用する本文・学習指導要領（国語）他</p> <p><参考文献> 学習指導要領解説</p> <p><評価方法> 教材研究分析35% 指導案作成25% 評価基準作成15% 課題 25%</p>		

国語科教育法Ⅱ	後期 2 単位	1年
国語教育の基本を身につけ、実践する。	原 由来恵 (はら ゆきえ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> ①国語の教科における教材研究の分析方法を身につける。②指導案作成を行い、作成した指導案をもとに模擬授業までを実践する。③国語科教育における授業の方法と評価方法を体得する。</p> <p><授業の概要> 国語教育の基本的事柄の実践力を身につける授業である。国語という教科の理念を踏まえたのち、国語教科に求められる事柄の実践的事柄を学ぶ。また教科書に載る文学作品を教材に取り上げ、国語の教科における教材研究の分析方法を身につける。またそこから指導案作成を行い、作成した指導案をもとに模擬授業までを実践し、国語科教育における授業の方法を体得する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、ITやインターネットを活用した授業の計画も立てる。</p> <p><授業計画> 第1回 書道について 第2回 表現の指導法 第3回 表現の指導と評価 第4回 日本文学史にみる文学作品の特徴について 第5回 日本伝統文化と享受について 教材への導入方法 第6回 『羅生門』の指導方法 教材分析から指導 第7回 『羅生門』指導方法 板書と副教材 第8回 『今昔物語集』 第9回 模擬授業実践 指導案作成 (映像資料、情報機器の活用を含む。) 第10回 模擬授業実践 導入と展開 第11回 模擬授業実践 展開とまとめ 第12回 模擬授業実践 ティベート方法 第13回 国語と総合学習について 第14回 国語と特別活動・言語活動と他科目について 第15回 教育実習について 定期試験 レポート</p> <p><テキスト> 教材で使用する本文・学習指導要領(国語)他</p> <p><参考文献> 学習指導要領解説</p> <p><評価方法> 教材研究分析30% 指導案作成15% 模擬授業実践30% 課題 25%</p>		

英語科教育法 I	前期 2 単位	1年
英語教育の理論と実践 I	黒岩 裕 (くろいわ ゆたか)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 中学生に英語を教える際に必要となる知識と技能を習得することがこの科目の到達目標となる。また、電子黒板を使った授業を念頭においた模擬授業の実施や、パワーポイントを使った英語文法の説明の習得も目指す。</p> <p><授業の概要> テキストの内容を基に、講義形式で、英語教育に関する知識を習得する。さらに、授業の実演を行ったり、関連するビデオやCDをみて、実際に授業を行う際に必要となる技能について学ぶ。また、望ましい英語教育の在り方について考える。</p> <p><授業計画> 第1回 イン트로ダクション - 前期の授業内容について 第2回 英語教育の目的1 - コミュニケーションと知性・教養 第3回 英語教育の目的2 - 学習指導要領と英語教育の目的 第4回 英語教育教材論1 - 音声、文字とつづり、語彙、文法 第5回 英語教育教材論2 - 場面と機能、談話構造、様々な英語 第6回 コミュニケーション能力の養成1 - コミュニケーション能力の構成要素 第7回 コミュニケーション能力の養成2 - コミュニケーション能力の育成 第8回 英語教授法1 - 文法訳読法と直接教授法 第9回 英語教授法2 - Audiolingual Method と Communicative Approaches 第10回 英語教授法3 - Natural Approach とタスク中心教授法 第11回 英語教授法4 - 内容中心教授法とコンピュータ支援教授法 第12回 自分の英語教育体験を振り返る 第13回 英語の授業観察 第14回 教員による模擬授業 第15回 望ましい英語教育とは 定期試験 (前期テスト)</p> <p><テキスト> 村野井仁他著「実践的英語科教育法」成美堂、2001年</p> <p><参考文献> 白畑知彦他著「改訂版 英語教育用語辞典」大修館書店、2009年</p> <p><評価方法> 感想文と授業参加：20%、レポート：40%、試験：40%</p>		

英語科教育法Ⅱ	後期 2 単位	1年
英語教育の理論と実践 Ⅱ	黒岩 裕（くろいわ ゆたか）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 中学生に英語を教える際に必要となる知識と技能を習得することがこの科目の到達目標となる。また、電子黒板を使った授業を念頭においた模擬授業の実施や、パワーポイントを使った英作文法の説明の習得も目指す。</p> <p><授業の概要> テキストの内容を基に、講義形式で、英語教育に関する知識を習得する。さらに、授業の実演を行ったり、関連するビデオやCDをみて、実際に授業を行う際に必要となる技能について学ぶ。また、指導案を作成して模擬授業を行い、よりよい授業を行うにはどうすればよいかを考える。</p> <p><授業計画> 第1回 インTRODクシヨン - 後期の授業内容について 第2回 4技能の指導1 reading and writing 第3回 4技能の指導2 listening and speaking 第4回 文法・語彙の指導 第5回 指導案の作成1 4技能と文法、語彙 第6回 指導案の作成2 ハンドアウトの作成 第7回 中高の英語教員による体験談 第8回 模擬授業1 グループ① 第9回 模擬授業2 グループ② 第10回 英語教師論 第11回 英語学習者論 第12回 学習者の自律 第13回 評価とテスト 第14回 国際理解・異文化理解 第15回 後期のまとめ 定期試験（後期テスト）</p> <p><テキスト> 村野井仁、千葉元、畑中孝寛著、「実践的英語科教育法」成美堂、2001年</p> <p><参考文献> 白畑知彦他著「改訂版 英語教育用語辞典」大修館書店、2009年</p> <p><評価方法> 授業感想文と授業参加：20%、レポート：40%、試験：40%</p>		

社会科教育法Ⅰ	前期 2 単位	1年
社会科教育の倫理と実践Ⅰ	倉持 重男（くらもち しげお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 社会科教育の使命と目標、教材研究のあり方と授業方法論等、教科の基本理論を理解し、同時に実践的資質を身につける。</p> <p><授業の概要> 社会科の使命と目標、教科構造と教材研究のあり方等の基本理論を講義すると同時に指導案の作成と演習授業（模擬授業）を通して、社会科教員としての実践的資質を育成する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、インターネットを活用した授業の計画も立てる。</p> <p><授業計画> 【前期】</p> <p>第1回 社会科教育の意義と歴史（講義） 第2回 社会科教育の目標と学力について（講義）—ビデオ視聴を含む 第3回 社会科教育の教科構造と授業方法（講義） 第4回 社会科教育の教材研究と指導案の作成（講義） 第5回 演習授業のあり方「指導案の発表と実際の授業」—知識構造図づくりから指導案づくりへ 第6回 授業研究「地理的分野の授業」—主に日本地理論 第7回 演習授業①「地理的分野の授業」—世界地理論 第8回 授業研究「歴史的分野の授業」—その内容と方法論 第9回 授業研究「歴史的分野の授業」—前近代の授業研究 第10回 演習授業②「歴史的分野の授業」—前近代の授業演習①（古代・中世） 第11回 演習授業③「歴史的分野の授業」—前近代の授業演習②（近世） 第12回 歴史的分野の授業研究（総括） 第13回 地域に根ざす社会科教育—ビデオ視聴を含む 第14回 地域調査研究 第15回 地域調査（野外見学学習）</p> <p><テキスト> 中学社会科教科書 <参考文献> 中等社会諸教科教育法（学芸図書、森秀夫・山口幸男著） <評価方法> 授業感想文の内容:20% 社会科基本理論の理解（テスト）:20% 授業演習:30% 論文:30%</p>		

社会科教育法Ⅱ	後期 2 単位	1年
社会科教育の倫理と実践Ⅱ	倉持 重男（くらもち しげお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 社会科教育の使命と目標、教材研究のあり方と授業方法論等、教科の基本理論を理解し、同時に実践的資質を身につける。</p> <p><授業の概要> 社会科の使命と目標、教科構造と教材研究のあり方等の基本理論を講義すると同時に指導案の作成と演習授業（模擬授業）を通して、社会科教員としての実践的資質を育成する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、インターネットを活用した授業の計画も立てる。</p> <p><授業計画> 【後期】</p> <p>第1回 生徒に興味関心を持たせ学習効果を高める教材の研究 第2回 同、その発表会（地理、公民） 第3回 同、その発表会（歴史） 第4回 地域教材を生かす授業の実際（ビデオ視聴を含む） 第5回 歴史の授業研究—近代の歴史論（ビデオ視聴を含む） 第6回 演習授業①—近現代の歴史（国民） 第7回 演習授業②—近現代の歴史（戦争） 第8回 演習授業③—近現代の歴史（戦後） 第9回 公民的分野の目標、内容と実際の授業（ビデオ視聴を含む。） 第10回 学習指導案の作成と授業づくり—公民（現代社会）—討論を取り入れた授業 第11回 授業研究—公民（現代社会）の学習内容と方法 第12回 公民（現代社会）の指導案作成 第13回 演習授業④「公民的分野の授業」—政治編 第14回 演習授業⑤「公民的分野の授業」—経済・社会編 第15回 統括論文作成「社会科教育法を受講して」</p> <p><テキスト> 中学社会科教科書 <参考文献> 中等社会諸教科教育法（学芸図書、森秀夫・山口幸男著） <評価方法> 授業感想文の内容:20% 社会科基本理論の理解（テスト）:20% 授業演習:30% 論文:30%</p>		

家庭科教育法 I	前期 2 単位	1年
家庭科教育の理論と実践（理論編）	安藤 美紀子（あんど う みきこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「技術・家庭」の家庭分野では、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目標としている。本科目ではそれらの指導目標や指導内容をもとに指導案の書き方と、課題解決学習について学習し、教師としての資質を養う。（課題解決学習については高等学校のホームプロジェクト学習を参考にする）</p> <p><授業の概要> 中学校学習指導要領解説「技術・家庭編」、家庭分野の教科書、家庭科教育のテキストをもとに講義する。これまでの先輩たちの優れた模擬授業や教育実習中の研究授業の学習指導案を参考にし、また先輩の優れた模擬授業のビデオをみせて学生たちに学習指導案を作成させる。課題解決学習については、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会のホームプロジェクトから全国大会のビデオを視聴させたり、実践例を配布し、各学生の家庭生活の改善向上を目指したホームプロジェクトを計画させる。夏休み中に実施させ、途中2～3回のメールで経過報告を義務付け、わからないところ・まとめかた・発表のし方を指導する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、インターネットを活用した授業の計画も立てる。</p> <p><授業計画> 第1回 家庭科教育法の授業の進め方、教師・学生の自己紹介、小・中・高校家庭科で学習した授業内容を記入する。 第2回 家庭科教育の目標、学習指導要領の読み方を学習する。 第3回 学習指導要領の記述と教科書の内容を照らし合わせ関連を理解させ、年間指導計画を作成させる。 第4回 家庭科教育のテキストをもとに家庭科の学習指導方法・評価方法・学習指導案の書き方を学習する。 第5回 課題解決学習について、高等学校家庭科のホームプロジェクトを参考に説明し、家庭生活の問題点を探させる。 第6回 教科書の家族・家庭と子どもの成長の学習をし、学習指導案例、ホームプロジェクト例を提示して理解させる。 第7回 教科書の食生活と調理の学習をし、学習指導案例、ホームプロジェクト例を提示して理解させる。 第8回 食生活と調理で学生が1日の栄養摂取基準を知り、1日の食事の献立について栄養計算をさせる。 第9回 教科書の衣生活の学習をし、学習指導案例、ホームプロジェクト例、繊維の種類と特徴を理解させる。 第10回 教科書の住生活の学習をし学習指導案例、ホームプロジェクト例、住まいの中の震災対策について話し合う。 第11回 教科書の消費生活と環境の学習をし、学習指導案例、ホームプロジェクト例、消費者問題や環境を話し合う。 第12回 先輩の優れた模擬授業のビデオを視聴させる。参考にさせて食生活と調理の学習指導案を作成させる。 第13回 全国高等学校家庭クラブ研究発表大会のホームプロジェクトのビデオを視聴し、学生の実施の参考にさせる。 第14回 家庭生活の問題点を見つけ、ホームプロジェクト実施の計画書を作成させる。家族に協力依頼書を配布する。 第15回 前期定期試験の問題について、食生活と衣生活の重要個所を明示し、塩分計算の計算方法を指導する。 前期定期試験は、試験用紙2枚に食生活と衣生活の領域についてテストする。</p> <p><テキスト> ①「家庭科教育」家政教育社 ②中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 ③教科書 新しい技術・家庭 家庭分野 東京書籍 ④教科書 技術・家庭 家庭分野 開隆堂</p> <p><参考文献> 「食品の裏側」安部司 「家庭科からひろがる食の学び」日本家庭科教育学会 「食の教育QA事典」戸井和彦 「これからの被服」中橋美智子他 「子どもの心身の発達を促す手仕事のすすめ」柳澤澄子他 「これからの住生活」川崎衿子他など</p> <p><評価方法> 前期定期試験：40% ホームプロジェクト計画書：20% レポート：30% 授業の参加度：10%</p>		

家庭科教育法Ⅱ	後期 2 単位	1年
家庭科教育の理論と実践（実践編）	安藤 美紀子（あんど う みきこ）	
<p><授業の到達目標及びテーマ></p>		
<p>前期の理論編の目標をもとに実践力を養う。夏休み中実施したホームプロジェクトの発表会を実施し、実施方法の研究をする。次に家庭科教育のテキスト、学習指導要領、教科書をもとに、学生が独自の学習指導案・教材・教具を工夫した模擬授業を実施する。模擬授業をもとに自己・相互・教師の評価をし、意見交流をしてよりよい授業を研究する。2回模擬授業を実施して教育実習校で自信ある授業が展開できることを目的としている。学習指導案の作成や教材作成にあたっては情報機器を活用することに留意する。また家庭科教育の歴史を学び、今後の課題について学習する。</p>		
<p><授業の概要></p>		
<p>中学校学習指導要領解説「技術・家庭編」、家庭分野の教科書、家庭科教育のテキストをもとに講義する。これまでの先輩たちの優れた模擬授業や教育実習中の研究授業の学習指導案を参考にし、また先輩の優れた模擬授業のビデオをみせて学生たちに学習指導案を作成させる。課題解決学習については、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会のホームプロジェクトから全国大会のビデオを視聴させたり、実践例を配布し、各学生の家庭生活の改善向上を目指したホームプロジェクトを計画させる。夏休み中に実施させ、途中2～3回のメールで経過報告を義務付け、わからないところ・まとめかた・発表のし方を指導する。なお、学習指導案は必ずパソコンを使って作成するものとする。そのほかに、パソコン教室を使用し、インターネットを活用した授業の計画も立てる。</p>		
<p><授業計画></p>		
<p>第1回 ホームプロジェクトの発表会 題目設定の理由、実施計画、実施状況、まとめと今後の課題について発表する。 第2回 ホームプロジェクトの発表会 相互評価、教師の評価をして意見交流をする。レポートと製作品を提出する。 第3回 第1回模擬授業 食生活領域 1人20分で3人実施する。自己評価・相互評価・教師の評価をする。 第4回 第1回模擬授業 食生活領域 1人20分で3人実施する。自己評価・相互評価・教師の評価をする。 第5回 第1回模擬授業 食生活領域 1人20分で3人実施する。自己評価・相互評価・教師の評価をする。 第6回 第1回模擬授業 食生活領域 1人20分で3人実施する。自己評価・相互評価・教師の評価をする。 第7回 第1回模擬授業 食生活領域 1人20分で3人実施する。自己評価・相互評価・教師の評価をする。 第8回 第1回模擬授業の反省をふまえ第2回模擬授業に向け留意点を述べ、学生も2回目の授業計画を立てる。 第9回 第2回模擬授業 興味のある領域 1人20分3人実施 自己・相互・教師の評価 教師がビデオを撮る。 第10回 第2回模擬授業 興味のある領域 1人20分3人実施 自己・相互・教師の評価 教師がビデオを撮る。 第11回 第2回模擬授業 興味のある領域 1人20分3人実施 自己・相互・教師の評価 教師がビデオを撮る。 第12回 第2回模擬授業 興味のある領域 1人20分3人実施 自己・相互・教師の評価 教師がビデオを撮る。 第13回 第2回模擬授業 興味のある領域 1人20分3人実施 自己・相互・教師の評価 教師がビデオを撮る。 第14回 模擬授業の総括、ビデオをDVDに作って配布する。学生はそれを見て感想を書く。後定期試験の説明をする。 第15回 家庭科教育の歴史を説明する。今後の課題について図書や新聞から紹介し、意見交流をする。 後定期試験は試験用紙2枚で、家族・家庭と子どもの成長、住生活、消費生活と環境の領域のテストをする。</p>		
<p><テキスト></p>		
<p>前期と同様</p>		
<p><参考文献></p>		
<p>「教育方法学」佐藤学、「教育の方法」柴田義松、「授業を拓く」武藤八恵子、「家庭科の授業をよむ」鶴田敦子他、「家庭科わくわくワーク集」武藤八恵子他など</p>		
<p><評価方法></p>		
<p>後定期試験：30% ホームプロジェクト発表・レポート・製作品：30% 第1回模擬授業：20% 第2回模擬授業：20%</p>		

道徳教育指導論	後期集中 2 単位	1年
道徳教育の指導理念と指導方法	内海崎 貴子 (うちみざき たかこ)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 授業のテーマは、中学校における道徳教育の指導理念と方法の習得である。授業の到達目標は、道徳と道徳教育に関する適切な理解、青年前期の道徳性の基礎的・基本的な知識の獲得、道徳の指導方法原理の理解、異文化理解と国際的視野から主体的日本人を育成する視点の獲得である。</p> <p><授業の概要> 本授業では道徳教育の意義と目的、道徳教育の歴史と「道徳の時間」設置経緯、学習指導要領における道徳、道徳性の発達過程について学習する。さらに、外国の道徳教育と授業方法を俯瞰しながら、学習指導案の作成・模擬授業の実施により、学校教育現場で実際に授業ができる力量を形成する。</p> <p><授業計画> 第1回 道徳とは何か？道徳教育とは何か？ 第2回 道徳教育の歴史と「道徳の時間」設置の経緯 第3回 学習指導要領における道徳―道徳の目標と全体計画― 第4回 道徳性の発達過程と青年前期の特徴 第5回 「道徳の時間」の学習指導案作成 ①. 学習指導案とは何か、学習指導案の書き方 第6回 「道徳の時間」の学習指導案作成 ②. 学級経営と指導計画の作成 第7回 「道徳の時間」の学習指導案作成 ③. 教材研究・資料選択と教材のタイプ 第8回 「道徳の時間」の学習指導案作成 ④. 授業方法の検討 第9回 「道徳の時間」の模擬授業実施 ①. 模擬授業の進め方、授業参観の記録の取り方 第10回 「道徳の時間」の模擬授業実施 ②. 模擬授業分析と討論、授業の再検討 第11回 「道徳の時間」の模擬授業実施 ③. 模擬授業再実施、改善目標の達成についての討論 第12回 さまざまな道徳の授業 ①. オーストラリア人権教育VTR視聴、授業目的、授業方法の解説 第13回 さまざまな道徳の授業 ②. モラルジレンマ授業VTR視聴、授業目的、授業方法の解説 第14回 道徳教育における教師の役割―家庭・地域との連携― 第15回 授業全体のまとめ、道徳教育の可能性</p> <p><テキスト> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』平成20年9月</p> <p><参考文献> 『学習指導要領小学校道徳』『学習指導要領中学校道徳』道徳資料集他、毎回資料を提示する。</p> <p><評価方法> 学習指導案の作成と提出 (50%)、授業参観の記録の提出 (30%)、VTR視聴記録の提出 (20%) による総合評価。</p>		

特別活動論	後期 2 単位	2年
特別活動論 (特別活動の指導法)	有村 久春 (ありむら ひさはる)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 特別活動の意義や目標の理解、中学校で取り扱う特別活動の3つの内容の理解、実践事例等の分析と考察、学習指導案の作成(とくに学級活動・ホームルーム活動)とその活用、などの理解を目標とする。また、教職にあって不可欠な生徒とのかかわりや学級をまとめる力量など、教師としての指導力を幅広く実践的に学ぶことを授業のテーマとする。</p> <p><授業の概要> 本講義で学ぶ特別活動は、学校教育における教育課程の一領域を構成する。生徒個々が実際の活動体験や生活経験を通して、「なすことによって学ぶ」ことを指導の基本理念としている。それゆえ、望ましい集団活動の実際を演習的に体験し、人間関係形成能力や自主性及び実践的な態度形成の力量を学生自らが学ぶ授業を構成する。この考えを基本に、学校教育において生徒が身に付けたい自発的・自治的な力、社会の一員としての自覚と態度、自己指導能力などについての研究を深める。具体的には、グループ体験や話し合い活動の実際、在り方生き方に関する事例研究等を行う。</p> <p>【後期】 第1回 オリエンテーション(出合いの体験)、特別活動の目標の理解 第2回 特別活動と教育課程の編成及び学校教育の課題 第3回 特別活動の目標と他の教育内容との関連 第4回 特別活動の内容構成の理解…学級活動・生徒会活動・学校行事(部活動) 第5回 各内容の特質と集団活動の原理(学習指導要領の内容など) 第6回 各内容の活動の実際…授業の特質(その実際例、模擬授業等) 第7回 各内容の指導案の作成…その内容、その方法 第8回 他の領域、生徒指導・学級経営、道徳教育との関連 第9回 特別活動を指導する教師…その役割、組織的な思考と行動 第10回 生徒の実態把握と特別活動の指導…体験の不足、対人関係の不適應など 第11回 学校の特色を生かす特別活動…学校の自主性、自律性 第12回 地域との連携を図る特別活動…ボランティア活動、社会奉仕体験活動など 第13回 特別活動における学校の指導体制…教職員の協力体制 第14回 特別活動の評価…個人的な資質、集団・社会的な資質 第15回 講義のまとめと全体評価</p> <p><テキスト> 『改訂版 キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』有村久春著 金子書房 2008年 <毎回の授業に必ず持参すること></p> <p><参考文献> 文部科学省『中学校学習指導要領解説・特別活動編』平成20年8月 その他の資料等は授業中に適宜指示する。</p> <p><評価方法> 授業感想文の内容などの平常点:20% 指導案等のレポート:20% まとめの評価(試験):60%</p>		

生徒指導論		前期 2 単位	2年
一人ひとりの児童・生徒に寄り添った生徒指導・進路指導の理解のために		森 秀善（もり ひでよし）	
授業の到達目標及びテーマ	児童・生徒の将来を左右する生徒指導・進路指導を意欲的に実践することが出来る教師志望者を育成し、学校現場で即戦力としての教育活動ができる教師を育成することを本授業の到達目標とする。 テーマ「一人ひとりの児童・生徒に寄り添った生徒指導・進路指導のできる教師とは」		
授業の概要	本講義は、生徒指導・進路指導の基本的な対応のあり方を解説し、これからの学校現場で如何に対応していくべきかを、具体的な実践事例や映像資料等を取り上げ考察し、即戦力になる教師を育てることを第一として進めていく。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション ○生徒指導の概要 第2回 ○生徒指導の原理 第3回 ○児童・生徒理解 第4回 ○生徒指導の主体と組織 第5回 ○他の教育活動と生徒指導 第6回 ○家庭・地域との連携 第7回 ○問題行動の理解とその対応 第8回 ◇進路指導とは 第9回 ◇進路指導と教育課程・学習指導要領 第10回 ◇キャリア教育と進路指導 第11回 ◇進路指導の実際 第12回 ◇進路指導の計画と実施 第13回 ◇進路指導における集団指導・個別指導 第14回 ◇進路指導の評価と活用 第15回 ◎生徒指導・進路指導の今日的課題		
テキスト	○「生徒指導・進路指導 ―ノート・資料―」森秀善著 ○講義内容及び今日的な教育課題を盛り込んだ自作教材を毎回配布。	参考文献	○「学習指導要領」文部科学省 ○「生徒指導提要」文部科学省 ※その他講義の中で適宜紹介する
評価方法	定期試験○レポート:60% 毎回の講義感想文:40%		

教育相談の基礎		前期 2 単位	2年
教育相談の基礎		田中 志帆（たなか しほ）	
授業の到達目標及びテーマ	教育現場における生徒や保護者とのコミュニケーションを含め、教育相談状況に柔軟に対応できるようになることが到達目標である。生徒や保護者から相談をうけたときに、どのように対応すべきかの基礎的な知識を学ぶ。カウンセリングマインドをもって、丁寧にかつ冷静・慎重・誠実に生徒を理解し、接するようになることをめざす。		
授業の概要	不登校・いじめ・学級の荒れなど、中学・高校生が陥ることの多い学校不適応や心の躓きについて述べ、教育相談の現代的課題について解説、より望ましい教師側の対応法についても述べる。保護者対応を含め、教育相談全般の基礎的能力を育成する。教育実習期間を考慮し内容が若干前後することがある。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 教育相談の課題と意義 第2回 スクールカウンセラーとの連携、コンサルテーション 第3回 不登校と教育相談①概要の理解 第4回 不登校と教育相談②教師による対応法 第5回 不登校と教育相談③事例検討（教育相談事例の実際） 第6回 いじめと教育相談①概要の理解 第7回 いじめと教育相談②教師による対応法 第8回 いじめと教育相談③ネットいじめの事例から 第9回 学級崩壊と教育相談①概要の理解 クラスの性質 第10回 学級崩壊と教育相談②教師による対応法 事例検討 第11回 生徒と学級のアセスメント 意義と他機関との連携 第12回 基本的かわり技法ロールプレイ① 第13回 生徒対応ロールプレイ② 第14回 保護者対応ロールプレイ③ 第15回 非行への対応、薬物乱用ほか緊急時対応の教育相談		
テキスト	教育臨床論 教師を目指す人のために 伊藤直樹編著 批評社 ¥1785	参考文献	児童精神科ケース集 小倉清 岩崎学術出版社 学校教育相談 一丸藤太郎 菅野信夫編著 ミネルヴァ書房
評価方法	講義感想文の内容:40% レポート:60%		

教職実践演習（中学校）	後期 2 単位	2年
教職実践演習（中学校）		
<p>【担当教員】 清水 康幸（しみず やすゆき）、高橋 喜代治（たかはし きよじ）、田中 志帆（たなか しほ）</p> <p>【目標】 2年間にわたる、教科ならびに教職課程に関する科目の履修状況と教育実習の成果を踏まえ、各自の課題を明らかにし、改めて教員としての総合的な力量の形成とその確認を行うことを目標とする。授業はオムニバス形式である。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 清水 全体ガイダンス（演習の目的、計画について） 第2回 清水 現場の授業参観1 第3回 清水 現場の授業参観2 第4回 清水 教育実習時の指導案と模擬授業、意見交換1 第5回 清水 教育実習時の指導案と模擬授業、意見交換2 第6回 田中 教育相談における中学、高校生の最新の課題 第7回 田中 行動観察と対話による生徒理解を学ぶ 第8回 田中 教育実習時に課題となった個別対応ロールプレイ実習 第9回 田中 教育相談にかかわる事例検討 第10回 外部講師による講演 第11回 高橋 学級経営案1学級組織作り、ショートホームルーム 第12回 高橋 学級経営案2地域性や学校文化、教育目標づくり 第13回 高橋 保護者や地域への対応 保護者会、家庭訪問 第14回 高橋 教員の含むと権利、安全管理、危機管理、校務分掌 第15回 高橋 授業における小集団指導のスキルアップ <p>【進め方】 3クラスに分け、教員3名によるオムニバス形式で講義＋演習を行う。内容は、①教科教育の専門家としてのより洗練された技術を身につけるための授業研究（清水）、②生徒理解を深める。生徒指導、教育相談技術のスキルアップ（田中）③現場の生活指導や学級経営に関する実践的指導力の育成（高橋）。上記の順番はグループによって異なる。</p> <p>【テキスト】 特に定めないが授業中に各教員から指示する。</p> <p>【参考文献】 特に定めないが、授業中に各教員から指示する。</p> <p>【評価方法】 毎回の授業感想文（4割）と、各教員から出される課題（3割）と、最終レポートを課す（4割）。</p>		

教育実習 I	後期 1 単位	1年
教育実習に向けて		
<p>【担当教員】 藏原 三雪（くらはら みゆき）、清水 康幸（しみず やすゆき）、田中 志帆（たなか しほ）</p> <p><授業の到達目標及びテーマ> 教育実習は、中学校教諭としての基礎的能力を養うとともに、教育についての実践的理解を深めることを目指している。この授業では、短大1年生の段階で教育実習における教壇実習に対応できるように、専門教科や前期の全ての教職科目の単位取得で得た知識と経験をもとに、授業を展開できるようにすることを目指す。</p> <p><授業の概要> 教育実習の事前指導の一環である。（1）教育実習にあたって必要な知識や心構えを学ぶ（指導案の書き方、校務分掌など） （2）グループに分かれて、学習指導案の作成や模擬授業を全員が20分～30分ほど展開した後、互いに講評を行い実践的訓練を行う。（3）実習経験者や本学のOGである現場教師の話聞き、各自教師になることへの心構えを醸成する。</p> <p><授業計画> 後期 第1回 ガイダンス 教育実習とは（全体） 第2回 教育実習の現場と実態（全体） 第3回 2年生の教育実習体験談を聞く（全体） 第4回 模擬授業①（グループ） 第5回 模擬授業②（グループ） 第6回 模擬授業③（〃） 第7回 模擬授業④（〃） 第8回 模擬授業⑤（〃） 第9回 模擬授業⑥（〃） 第10回 模擬授業⑦（〃） 第11回 模擬授業⑧（〃） 第12回 模擬授業⑨（〃） 第13回 模擬授業⑩（〃） 第14回 模擬授業⑪（〃） 第15回 教員であるOGの講話を聞く（全体）</p> <p><テキスト> 特になし</p> <p><参考文献> 特にないが、教員ごとに紹介する</p> <p><評価方法> 模擬授業の取り組み:80% 最終レポート:20%</p>		

教育実習Ⅱ	通年 4 単位	2年
教育実習Ⅱ（事前・事後指導）		
<p>【担当教員】 藏原 三雪（くらはら みゆき）、清水 康幸（しみず やすゆき）、田中 志帆（たなか しほ）、東 宏行（ひがし ひろゆき）</p> <p>【到達目標及びテーマ】 教育実習は、学校における教育実践（実習）参加することを通じて、中学校教諭としての基礎的能力を養うとともに、教育についての実践的理解を深めることを目標とする。大学で学んだ理論や知識をもとに、経験豊富な教諭の指導を受けて教壇実習を行うもので、教職課程の総仕上げともいうべき位置づけをもつ。</p> <p>【実習の概要】 教育実習Ⅱは、教壇実習（3週間）を本体とし、直前の事前指導と事後指導を含む。 事前指導では学習指導案作成や教育実習本番に備え、模擬授業を各自必ず20分～30分実施して実践準備を行なう。教育実習終了後は、事前指導として経験交流や反省会を行う。それらは最終的に冊子『教育実習の記録』にまとめられる。</p> <p>【授業計画】 実習開始前にグループに分かれて「事前指導」が行われ、実習終了後は、同じくグループで反省・総括のための「事後指導」が行われる。本授業の欠席は認めない。</p> <p>【テキスト】 特に指定しない。</p> <p>【参考文献】各教科学習指導要領 【評価方法】模擬授業への取り組みと授業実施感想文、講評への取り組み60%、レポート20%、実習校による実習の評価20%</p> <p>※なお、実習直前であっても、欠席が多い者や意欲に欠ける者は、実習参加を認めないことがある。（その場合、単位は取得できない）</p> <p>【履修条件】 教育実習Ⅰを履修した者のみ受講が認められる。</p>		

生涯学習概論		前期 2 単位	2年
生涯学習概論		石原 眞理 (いしはら まり)	
授業の到達目標 及びテーマ	生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解する。教育に関する法律や、地方公共団体の行財政や施策について学習する。生涯学習における社会教育の位置付けや、学校教育や家庭教育との関連、社会教育施設やそれらの施設で働く専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解する。		
授業の概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律や、地方公共団体の行財政や施策について解説する。また、生涯学習における社会教育の位置付けや、学校教育や家庭教育との関連、社会教育施設やそれらの施設で働く専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について講義する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス/生涯学習の意義と理念 第2回 ハッチンスの学習社会論 第3回 ラングランの生涯教育論 第4回 生涯学習社会における家庭・学校・社会教育の役割と連携 第5回 生涯学習の領域 第6回 生涯学習を支える行政の仕組み 第7回 生涯各期の学習課題 第8回 働くことと学ぶこと 第9回 生涯学習の形態・方法 第10回 学習支援の方法・社会教育指導者の役割 第11回 生涯学習を支える施設 第12回 図書館と生涯学習 第13回 博物館と生涯学習 第14回 公民館と生涯学習 第15回 情報技術の進展と生涯学習		
テキスト	特に定めず、プリントを授業時に配布する。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業感想文:30% レポート:70%		

図書館概論		前期 2 単位	1年
図書館とは何か		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	司書課程全体の入門として位置づけられる科目である。司書課程の科目構成や科目間の関連を知り、2年間で学ぶ司書課程の全体像を把握し、「図書館とは何か」という図書館情報学の基礎を培う。また、司書採用に関する現状や図書館界をとりまく人的状況についても把握し、自らのキャリア選択の判断材料を得ることもできる。		
授業の概要	まず、図書館の歴史に触れながら、現代社会における図書館の意義について理解を図る。次に、図書館の法的基盤および図書館の自由について解説し、さらに、図書館の5館種、すなわち、公共図書館・学校図書館・大学図書館・国立図書館・専門図書館の制度と機能を解説する。最後に、図書館員の専門性と養成、図書館の課題と展望について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 司書課程ガイダンス 第2回 現代社会と図書館 第3回 図書館の法的基盤・図書館の自由 第4回 公共図書館の制度と機能 (1) 図書館法 第5回 公共図書館の制度と機能 (2) 公共図書館の機能 第6回 公共図書館の制度と機能 (3) 公共図書館の諸問題 第7回 学校図書館の制度と機能 (1) 学校図書館法と機能 第8回 学校図書館の制度と機能 (2) 学校図書館の諸問題 第9回 大学図書館の制度と機能 (1) 大学図書館に関する法律 第10回 大学図書館の制度と機能 (2) 大学図書館の諸問題 第11回 国立図書館の制度と機能 第12回 専門図書館・図書館類縁機関 第13回 図書館と著作権 第14回 図書館員の専門性と養成、図書館の課題と展望 第15回 まとめ		
テキスト	『図書館概論』塩見昇編著 日本図書館協会 2012 (JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% 試験:50%		

図書館情報技術論		前期 2 単位	2年
図書館業務と情報処理技術		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	図書館業務を遂行するために必要なICTリテラシの修得を目標とする。まず、基礎となるコンピュータのハードウェア/ソフトウェア、コンピュータ・システム、情報のデジタル化について理解した後、図書館業務システム、電子資料、データベース、検索技術等の知識を修得する。		
授業の概要	コンピュータの基本構造、情報のデジタル化、ネットワーク等の基本的知識を解説する。その上で、図書館システム、図書館における情報通信技術活用の現状を学ぶ。次にデータベースの考え方、アルゴリズム、検索エンジンの仕組み等の理解に基づきデータベース用アプリケーションを使って実際にデータベースを作成し、検索の基礎を体験する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 コンピュータの基本構造、ハードウェア、ソフトウェア 第2回 コンピュータの利用形態 第3回 二進法、倍加法、逆倍加法、文字のデジタル化 第4回 画像・音声のデジタル化 第5回 データ形式とマルチメディア、電子資料の管理技術 第6回 デジタルアーカイブ ー現状と問題点 第7回 情報通信ネットワーク 第8回 情報技術と社会 第9回 コンピュータシステムの運用管理と情報のセキュリティ 第10回 図書館業務システムの仕組み ー管理・サービス 第11回 図書館における情報通信技術の活用と現状 第12回 データベース概論 第13回 検索エンジンの仕組み 第14回 データベース作成演習 (1) 第15回 データベース検索演習 (2)		
テキスト	使用しない	参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	平常点:60% レポート:20% 課題演習:20%		

図書館制度・経営論		後期 2 単位	2年
図書館制度・経営論		石原 眞理 (いしはら まり)	
授業の到達目標 及びテーマ	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策の理解を目標とする。図書館経営に関しては、意義、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、図書館ネットワークの形成、図書館に関する調査と評価、管理形態、広報とマーケティング等について理解することを目標とする。		
授業の概要	図書館制度に関しては、図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説する。図書館経営論については、図書館経営を学ぶことの意義、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、図書館ネットワークの形成、図書館に関する調査と評価、管理形態、広報とマーケティング等について解説する。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 図書館経営の意義 第2回 図書館法 第3回 学校図書館法・国立国会図書館法・大学設置基準等 第4回 図書館サービス関連法規 第5回 国や地方公共団体の図書館政策 第6回 図書館業務の理論と実際 第7回 図書館の組織と職員 第8回 図書館評価の基礎 第9回 図書館評価演習 第10回 図書館の計画 第11回 図書館の予算 第12回 図書館ネットワークの形成 第13回 図書館の広報とマーケティング 第14回 図書館の自由・図書館とプライバシー 第15回 図書館の管理形態の多様化		
テキスト	特に定めず、プリントを授業時に配布する。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業感想文:30% レポート:70%		

図書館サービス概論		後期 2 単位	1年
利用者のための図書館サービス		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	図書館サービスの全体像を把握するための科目である。図書館サービスは、提供する情報・資料の内容や、サービス対象者、サービス目的など、さまざまな面から特化して考えることができる。こうしたさまざまな図書館サービスや図書館の文化活動について、具体的に理解するとともに、それらのサービスを企画・運営できる資質を図る。		
授業の概要	図書館の機能を確認し、図書館サービスの種類について理解したうえで、具体的なサービスを解説する。まず、資料提供サービスと情報提供サービスについて、次に、特に図書館利用に障害のある人々や高齢者、児童、在日外国人という利用対象に応じたサービスについて、そして図書館の文化活動や広報、図書館間の連携・協力についてみていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 図書館の機能とサービス 第2回 資料提供サービス (1) 閲覧、貸出 第3回 資料提供サービス (2) 読書案内 第4回 情報提供サービス (1) レファレンスサービスなど 第5回 情報提供サービス (2) HPによる情報提供 第6回 サービスの展開 (1) 行政支援、ビジネス支援 第7回 サービスの展開 (2) 子育て支援、学校支援 第8回 利用対象別サービス (1) 図書館利用に障害のある人 第9回 利用対象別サービス (2) 高齢者、乳幼児サービス 第10回 図書館の利用空間 第11回 図書館の文化活動・利用者との交流 第12回 図書館の広報 第13回 図書館サービスとマネージメント 第14回 図書館サービスの連携・協力 第15回 まとめ		
テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著 日本図書館協会 2010（JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ）	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% 試験:50%		

情報サービス論		前期 2 単位	1年
利用者の情報要求への対応		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「図書館サービス概論」で解説する図書館の情報提供サービスについて、さらに詳しく学ぶための科目である。情報源について知り、情報サービスとくにレファレンスサービスの理論と実際を理解して、自ら情報提供サービスを行える資質を養う。また、情報リテラシーの理論を理解して、今後の新たな情報サービスを考える基盤を培う。		
授業の概要	図書館における情報サービスの歴史を振り返りながら、その意義と種類、新しい動向について解説する。次に、情報提供を行うために必要なツール（情報源）の種類と特性、およびその評価と構築について考える。さらに、レファレンスプロセスに沿って各要素について解説する。また、情報リテラシー教育について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 高度情報社会における図書館・情報サービス 第2回 図書館における情報サービスの意義と種類 第3回 情報サービスの展開 第4回 情報源の種類と選択 第5回 情報源の構築と評価 第6回 情報ニーズへの対応 (1) 情報探索行動 第7回 情報ニーズへの対応 (2) レファレンスプロセス 第8回 情報ニーズへの対応 (3) レファレンス質問 第9回 情報の検索と回答 (1) 検索の戦略と実行 第10回 情報の検索と回答 (2) 評価と記録 第11回 情報サービスの組織化・管理 第12回 大学図書館の学術情報サービス 第13回 情報リテラシーの理論 第14回 情報リテラシー教育の実際 第15回 まとめ		
テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著 日本図書館協会 2012（JLA図書館情報学シリーズⅢ）	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% 試験:50%		

児童サービス論		後期 2 単位	2年
子どものための図書館サービス		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	子ども時代における読書の意義と必要性を理解し、乳幼児からヤングアダルト（YA）までの広義の「児童」のための図書館サービスについて、知識と技術を身につける。また、児童資料の種類や特性を理解し、子どもと資料を結びつける方法であるストーリーテリングやブックトークの技術を身につけ、子ども読書推進に関わることのできる資質を高め		
授業の概要	子どもの読書力について関心が高まってきた背景を知り、子どもの読書における児童サービスの役割を学ぶ。まず児童資料、とくに絵本と児童文学、YA資料を読むことを課し、ストーリーテリングを演習する。また、乳幼児、YA、特別支援の必要な子どもたちへのサービスや、学校への支援、地域との連携について考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 児童サービスの意義と歴史 第2回 子どもの生活と読書 第3回 児童資料の種類と特色（1）絵本 第4回 児童資料の種類と特色（1）児童文学 第5回 児童コレクションの形成と管理 第6回 児童サービスの諸活動（1）資料提供、フロアワーク 第7回 児童サービスの諸活動（2）プログラムの提供 第8回 児童サービスの運営（1）組織、計画 第9回 児童サービスの運営（2）広報、評価、施設 第10回 乳幼児サービス 第11回 ヤングアダルトサービス 第12回 ヤングアダルト資料 第13回 特別支援の必要な子どもたちへのサービス 第14回 学校・学校図書館への支援 第15回 地域との連携・協力		
テキスト	特になし。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	課題:50% レポート:50%		

情報サービス演習		通年 2 単位	1年
情報や資料を提供するための知識と技術		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	情報サービスを提供するために必要な知識や技術を、演習によって身につけることを目指す。前期は、印刷体の各種情報源について、その特徴を知り、利用の習熟を目指す。後期は、web上の各種情報源について知り情報検索能力を高める。また、図書館等のwebページの分析をとおして、Web上の情報を選択・評価する実践的な力を身につける。		
授業の概要	前期は、まず、利用者からの質問を類型化することを学び、類型別の各種情報源について、本学図書館所蔵のもの（印刷体）から選択して紹介（発表）し、最後に発表者が作成した質問集に回答する。後期は、Web上の情報源を知り、図書館HPやWebページを評価し、最後に自ら設定したテーマのレポートのための情報検索を行い、その構成を考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 レファレンス質問の類型化 第2回 レファレンスブックの情報源 第3回 図書・叢書の情報源（1）書誌 第4回 図書・叢書の情報源（2）目録 第5回 新聞・雑誌記事の情報源（1）逐次刊行物リスト 第6回 新聞・雑誌記事の情報源（2）雑誌記事索引 第7回 パスファインダーの作成 第8回 言語・文字の情報源 第9回 事物・事象の情報源 第10回 歴史・日時の情報源 第11回 地理・地名の情報源 第12回 人物・団体の情報源（1）人名事典 第13回 人物・団体の情報源（2）人名索引 第14回 レファレンス質問に関する探索・回答 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 検索エンジンの比較 第2回 『インターネットで文献探索』第1章 第3回 『インターネットで文献探索』第2章 第4回 『インターネットで文献探索』第3章 第5回 『インターネットで文献探索』第4章 第6回 『インターネットで文献探索』第5章 第7回 『インターネットで文献探索』第6章 第8回 レファレンス質問に関する探索・回答 第9回 大学図書館HP（検索ツールの提供）の比較・分析 第10回 大学図書館HP（検索ツールの提供）の分析・評価 第11回 webページの評価 第12回 テーマに即した情報検索と情報の分析 第13回 テーマに即した情報検索とレポートの構成 第14回 図書館利用統計の作成とグラフ化 第15回 まとめ	
テキスト	前期は特になし 後期は『インターネットで文献探索』伊藤民雄 日 本図書館協会（JLA実践シリーズ）	参考文献	授業のなかで紹介する。
評価方法	課題:50% レポート:50%		

図書館情報資源概論		前期 2 単位	1年
図書館情報資源とは何か		加藤 久枝 (かとう ひさえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館が扱う情報資源に関する基本的知識を習得し、図書館業務での情報資源収集の位置づけ・役割を理解する。 ・ これら情報資源と関連する出版流通、著作権、図書館の自由の現状と動向および問題を理解する。 ・ 図書館のコレクション構築の理論と実務について理解する。 		
授業の概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の種類と特性および学術情報資源と学問分野別情報資源の特徴について解説する。次に出版流通システム、著作権、図書館の自由などの現状を説明し、問題点を考える。最後に図書館のコレクション形成（選択、収集、保存、評価）を解説する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 講義概要、図書館と情報資源</p> <p>第2回 図書館情報資源各論：図書・逐次刊行物</p> <p>第3回 図書館情報資源各論：視聴覚資料・マイクロ資料</p> <p>第4回 図書館情報資源各論：地域資料・政府刊行物・灰色文献</p> <p>第5回 電子資料とネットワーク情報資源</p> <p>第6回 一次情報と二次情報</p> <p>第7回 学術情報資源</p> <p>第8回 学問分野別の情報資源</p> <p>第9回 出版流通システム</p> <p>第10回 図書館の自由</p> <p>第11回 コレクション構築：概念とプロセス</p> <p>第12回 コレクション構築：資料選択</p> <p>第13回 コレクション構築：資料収集</p> <p>第14回 コレクション構築：資料の蓄積・保存</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズ111 8）日本図書館協会、2012	参考文献	随時紹介
評価方法	試験：70% 課題：30%		

情報資源組織論		後期 2 単位	1年
情報資源組織化の理論		加藤 久枝 (かとう ひさえ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館における情報資源組織化の意義や機能、理論を理解する。 ・ 書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの活用法、ネットワーク情報資源の組織化等を理解する。 ・ 主要な目録規則、分類法、件名標目表、および重要な専門用語を理解する。 		
授業の概要	図書館が扱う情報資源を組織化する意義と理論、図書館業務との関わりを概説した後、書誌コントロール、書誌記述法（記述の標準化と目録規則）、主題分析（主要な分類法、件名標目表）について詳説し、実際にこれらのツールを使ってみる。書誌データの活用法について解説し、情報資源組織化の将来について考える。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 授業概要、情報資源組織化の意義と理論</p> <p>第2回 書誌コントロールと標準化</p> <p>第3回 書誌記述法：目録、目録記入と構成要素</p> <p>第4回 書誌記述法：記述目録法、記述の標準化</p> <p>第5回 日本目録規則：概要、書誌階層と書誌単位</p> <p>第6回 日本目録規則：記述と標目</p> <p>第7回 主題分析の意義と考え方</p> <p>第8回 主題分析と分類法</p> <p>第9回 日本十進分類法</p> <p>第10回 主題分析と索引法</p> <p>第11回 基本件名標目表、国立国会図書館件名標目表</p> <p>第12回 書誌情報の作成と流通（MARC、書誌ユーティリティ）</p> <p>第13回 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）</p> <p>第14回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
テキスト	榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝著『情報資源組織論』学文社、2012（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3）	参考文献	随時紹介
評価方法	試験：70% 課題：30%		

情報資源組織演習		通年 2 単位	2年
情報資源組織の具体的手法について学ぶ		嶋田 拓哉 (ときた たくや)	
授業の到達目標 及びテーマ	○情報資源組織業務を支える主要なツール（規則・マニュアル）の概要および使用方法を理解する。 ○ツールを利用した演習問題を通して、理論と実践の両側面から情報資源組織業務の具体的内容を理解する。		
授業の概要	全体を主題組織法と目録法の2つに分ける。前期は主題検索を実現するための情報資源組織の技法である主題分析、分類作業、統制語彙の適用、件名作業に焦点を当て、演習問題を通してこれらの技法に対する理解を深める。後期は書誌データやメタデータの作成について説明を行うとともに、実際に作成を試みる。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 「情報資源組織論」の復習</p> <p>第2回 主題分析と分類作業</p> <p>第3回 「日本十進分類法（NDC）新訂9版」の概要と構成</p> <p>第4回 相関索引の使用法</p> <p>第5回 一般補助表（1）：形式区分、地理区分等</p> <p>第6回 一般補助表（2）：言語区分、言語共通区分等</p> <p>第7回 分類規程と分類作業の実際</p> <p>第8回 演習問題（分類記号の付与）</p> <p>第9回 主題分析と統制語彙の適用</p> <p>第10回 「基本件名標目表（BSH）第4版」の概要と構成</p> <p>第11回 細目（1）：一般細目、分野ごとの共通細目、言語細目</p> <p>第12回 細目（2）：地名のものとの主題細目、地名細目、時代細目</p> <p>第13回 件名規程と件名作業の実際</p> <p>第14回 演習問題（件名の付与）</p> <p>第15回 まとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 書誌データ作成の実際：目録法</p> <p>第2回 「日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版」の概要と構成</p> <p>第3回 記述総則の概要</p> <p>第4回 書誌単位の構造：記述対象の把握</p> <p>第5回 書誌的事項の記述事項（1）：タイトルと責任表示</p> <p>第6回 書誌的事項の記述事項（2）：版、出版・頒布等</p> <p>第7回 書誌的事項の記述事項（3）：形態、シリーズ</p> <p>第8回 書誌的事項の記述事項（4）：注記、標準番号</p> <p>第9回 演習問題（第5回から第8回の復習）</p> <p>第10回 図書以外の資料に対する目録記入作成</p> <p>第11回 標目の付与：タイトル標目、著者標目等</p> <p>第12回 共同目録作業と集中目録作業</p> <p>第13回 書誌データの管理と検索システムの構築の実際</p> <p>第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト	未定	参考文献	未定
評価方法	試験：60% レポート：40%		

図書館基礎特論		後前 1 単位	2年
図書館の実態を探る		堀川 照代 (ほりかわ てるよ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「図書館概論」で学んだ「図書館とは何か」についてさらに体験的に考える。実際に図書館を見学・調査して比較・分析することを通して、これまで学んできた図書館に関する知識を、自分の目で確認し検証し、さらに課題を検討する。調査結果を発表することで情報が共有され、プレゼンテーションの能力も高まる。		
授業の概要	まず、調査項目を決定し、グループごとに調査先の図書館3館を決める。それらの館についての文献があれば収集し、調査に行き、結果をまとめる。調査結果と各館の課題、それに対する提案について発表する。		
授業計画	<p>【前期】</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 調査先、関連文献について</p> <p>第3回 調査・見学</p> <p>第4回 調査・見学</p> <p>第5回 発表（1）</p> <p>第6回 発表（2）</p> <p>第7回 発表（3）</p>	
テキスト	特になし。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	発表：30% レポート：70%		

図書館サービス特論		後後 1 単位	2年
子ども読書活動推進計画を考える		堀川 照代（ほりかわ てるよ）	
授業の到達目標 及びテーマ	市町村で策定されている「子ども読書活動推進計画」の比較・分析を通して、子どもの読書活動を推進するために何が 必要かを理解し、家庭・地域・学校・行政のそれぞれの立場において子ども読書推進について柔軟に考えることのでき る資質を培う。		
授業の概要	グループごとに、同規模の自治体（市町村）の「子ども読書活動推進計画」を3つ比較分析して、それぞれの特徴を知り、 発表する。最後に、子ども読書活動推進（計画）の望ましいあり方について、家庭・地域・学校・行政の代表者の 役割をとって模擬シンポジウムを行う。		
授業計画	【前期】	【後期】	
		第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 ガイダンス 第 9回 子ども読書活動推進計画の比較・分析（1） 第10回 子ども読書活動推進計画の比較・分析（2） 第11回 子ども読書活動推進計画の比較・分析（3） 第12回 推進計画の特徴について発表 第13回 望ましい計画のあり方についてグループ討議 第14回 模擬シンポジウム 第15回 まとめ	
テキスト	特になし	参考文献	必要に応じて紹介する
評価方法	発表:30% レポート:70%		

文学理論		通年 4 単位	
文学理論の歴史		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	文学を読むことの歴史は、同時に読む主体の歴史です。文学理論、批評理論について学ぶことは、読む主体が、自分自身の背後に回り込む技術を習得すること、と考えればよいでしょう。そんなことができるだろうか——。そうできれば、読むことが、飛躍的に自在になります。ぜひ、その技術を獲得してください。		
授業の概要	自らの読みを見つめ直すための批評理論は非常に多くあります。ここではそのうち主要なものを丁寧に読み、他の理論にもできるだけ触れていこうにします。なかでもジェンダーの視点は最も重要です。他の授業内容にもつなげて理解を発展させることが大切です。後半は実際に作品の中でそれらがどのように駆使されているのか研究し、発表・討議し		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 導入</p> <p>第2回 V・シクロフスキー「手法としての芸術」——「異化」とは何か</p> <p>第3回 B・ブレヒト「実験的演劇について」——「異化効果」</p> <p>第4回 M・バフチン——フォルマリズム批判</p> <p>第5回 E・サイード『オリエンタリズム』——異者の眼差し</p> <p>第6回 学生による発表とディスカッション (グループA)</p> <p>第7回 学生による発表とディスカッション (グループB)</p> <p>第8回 学生による発表とディスカッション (グループC)</p> <p>第9回 学生による発表とディスカッション (グループD)</p> <p>第10回 学生による発表とディスカッション (グループE)</p> <p>第11回 学生による発表とディスカッション (グループF)</p> <p>第12回 学生による発表とディスカッション (グループG)</p> <p>第13回 学生による発表とディスカッション (グループH)</p> <p>第14回 学生による発表とディスカッション (グループI)</p> <p>第15回 まとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期の学習内容の確認と後期の導入</p> <p>第2回 ロラン・バルト1——「作者の死」を読む</p> <p>第3回 ロラン・バルト2——「作者の死」の文が実現したこと</p> <p>第4回 ジェンダー批評1——日本の文脈から</p> <p>第5回 ジェンダー批評2——西洋の文脈から</p> <p>第6回 学生による発表とディスカッション (グループA)</p> <p>第7回 学生による発表とディスカッション (グループB)</p> <p>第8回 学生による発表とディスカッション (グループC)</p> <p>第9回 学生による発表とディスカッション (グループD)</p> <p>第10回 学生による発表とディスカッション (グループE)</p> <p>第11回 学生による発表とディスカッション (グループF)</p> <p>第12回 学生による発表とディスカッション (グループG)</p> <p>第13回 学生による発表とディスカッション (グループH)</p> <p>第14回 学生による発表とディスカッション (グループI)</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト	プリントで配布します (丁寧に説明しますが英語も使用します)。	参考文献	David Lodge and Nigel Wood eds., <i>Modern Criticism and Theory: A Reader</i> 3rd ed. (Pearson Longman, 2008) は一生使えます。但し旧版の方が便
評価方法	レポート (前期・後期計2回) :50% 発表内容:30% 授業中の討議:20%		

国文学特講 I		通年 4 単位	
日本近現代文学とジェンダー		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	ジェンダー・セクシュアリティに関する概念・歴史・理論などについて、基本的な文献をいくつか読みながら、ジェンダー論の基礎を理解します。日本近代文学への新たな興味関心を開けるよう、身体・少女・民族・恋愛・娼婦・サブカルチャーなど多様なトピックを学びます。		
授業の概要	参加者各自の問題関心に沿ったテーマとテキストを選び、文献を読んでディスカッションします。後期はそれぞれのオリジナルな問題関心から自由に選んだテーマについて調査考察し、発表します。積極的にディスカッションに参加するよう心がけてください。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨソ</p> <p>第2回 テキスト講読 文学とジェンダー</p> <p>第3回 テキスト講読 女性身体とジェンダー</p> <p>第4回 テキスト講読 少女性とジェンダー</p> <p>第5回 テキスト講読 母性政策とジェンダー</p> <p>第6回 テキスト講読 民族・国家とジェンダー</p> <p>第7回 テキスト講読 ファンタジーとジェンダー</p> <p>第8回 テキスト講読 異類とジェンダー</p> <p>第9回 テキスト講読 ことばとジェンダー</p> <p>第10回 テキスト講読 売春寮とジェンダー</p> <p>第11回 テキスト講読 セクシュアリティとジェンダー</p> <p>第12回 テキスト講読 平和とジェンダー</p> <p>第13回 テキスト講読 スポーツとジェンダー</p> <p>第14回 まとめ1</p> <p>第15回 まとめ2</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期INTROダクシヨソ</p> <p>第2回 オリジナル発表・ディスカッション1</p> <p>第3回 オリジナル発表・ディスカッション2</p> <p>第4回 オリジナル発表・ディスカッション3</p> <p>第5回 オリジナル発表・ディスカッション4</p> <p>第6回 オリジナル発表・ディスカッション5</p> <p>第7回 オリジナル発表・ディスカッション6</p> <p>第8回 オリジナル発表・ディスカッション7</p> <p>第9回 オリジナル発表・ディスカッション8</p> <p>第10回 オリジナル発表・ディスカッション9</p> <p>第11回 オリジナル発表・ディスカッション10</p> <p>第12回 オリジナル発表・ディスカッション11</p> <p>第13回 オリジナル発表・ディスカッション12</p> <p>第14回 まとめ1</p> <p>第15回 まとめ2</p>	
テキスト	授業時に配布します。	参考文献	ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』、中山和子他編『ジェンダーの日本近代文学』、岩渕宏子他編『ジェンダーで読む愛・性・家族』
評価方法	発表:30% 発言、コメントカード:40% レポート:30%		

国文学特講Ⅱ		通年 4 単位	
通読・精読『源氏物語』		上原 作和 (うへはら さくかず)	
授業の到達目標 及びテーマ	千年の間、読み継がれた『源氏物語』。日本人なら一度は読みたいこの物語を通読するための方法を考えて行きます。《光源氏の物語》《薫の物語》のアプローチとして、作中人物を中心に、〈音楽文化〉〈書芸〉〈薫香〉などの文化史背景を学びながらこの物語世界全体を理解することを目標とします。		
授業の概要	○基本的に講義形式で進めます。ただし、一方通行にならぬよう、質問用紙を配布して、みなさんの疑問点や興味を持ったことを次回の講義に反映させる展開を考えています。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 入門『源氏物語』① 歴史背景 第2回 入門『源氏物語』② 平安朝文学史 第3回 入門『源氏物語』③ 文化としての『源氏物語』 第4回 入門『源氏物語』④ 現代の『源氏物語』 第5回 光源氏の世界 ① 第6回 光源氏の世界 ② 第7回 桐壺帝・桐壺更衣の世界 第8回 藤壺の宮の世界 第9回 紫の上の世界 第10回 六条御息所の世界 第11回 葵の上・空蝉の世界 第12回 朧月夜・源典侍の世界 第13回 朱雀院・弘徽殿の女御・右大臣の世界 第14回 もののけについて 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 玉鬘の世界 第2回 明石の君の世界 第3回 花散里・朝顔・落葉の宮の世界 第4回 内大臣・柏木・夕霧の世界 第5回 薫の世界① 第6回 薫の世界② 第7回 匂宮・八の宮の世界 第8回 『源氏物語絵巻』の世界 ① 第9回 『源氏物語絵巻』の世界 ② 第10回 『源氏物語絵巻』の世界 ④ 第11回 大君と中の君の世界① 第12回 大君と中の君の世界② 第13回 浮舟の世界① 第14回 浮舟の世界② 第15回 まとめ	
テキスト	上原作和・陣野英則 校注訳、『光源氏と薫の世界 一冊で読む源氏物語/訳注付』武蔵野書院	参考文献	物語学の森 http://www.asahi-net.or.jp/~tu3s-uehr を適宜参照のこと。 上原作和編集『人物で読む源氏物語』勉誠出版 20巻
評価方法	授業参加態度:50% レポート等:50%		

国文学特講Ⅲ		通年 (前期) 4 単位	
歌舞伎・戯作と江戸の音曲		鹿倉 秀典 (しかくら ひでのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸の演劇(人形浄瑠璃・歌舞伎)が当時の「戯作」を背後から支えていた事は、改めて指摘すべき必要のない事実です。しかし音曲(歌謡詞章)はどうでしょう。演劇・戯作をにらみながら「音曲」を「ことば」として捉え、これが当時の「文芸」でもあったという事実を確認して行きます。		
授業の概要	当時の「三味線歌謡」や「箏曲歌謡」を「ことば」として、意味を押さえながら聴くことから入ります。そうして、ここに様々な「先行歌謡」(うた)がどのように用いられていたのかを探ります。また、演奏された「場所」や「うたい手」にも言及し、巷間での流行現象の分析も行う予定です。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 江戸時代音曲の流れ I (前期について) 第2回 江戸時代音曲の流れ II (後期について) 第3回 箏曲歌謡について 第4回 生田流と山田流の歌謡の特徴 第5回 三味線歌謡について I (発生期) 第6回 三味線歌謡について II (発展期) 第7回 浄瑠璃 I (発生期) 第8回 浄瑠璃 II (発展期) 第9回 語り物と唄い物について 第10回 芝居での歌謡 第11回 歌舞伎の「小うた」 第12回 江戸長唄(初期) 第13回 江戸浄瑠璃(半太夫・河東など) 第14回 江戸豊後浄瑠璃(常磐津・清元など) 第15回 歌舞伎の伴奏としての歌謡について		
テキスト	『近世文学選・芸能篇』(和泉書院) ¥1700+税 (テキストは、あくまで便覧として用い、作品はその都度プリントにて提示します)	参考文献	『徳川文芸類聚』9・10巻など
評価方法	授業への積極的参加:30% 夏季レポート:30% 最終レポート:40%		

国文学特講Ⅲ		通年（後期）	
歌舞伎・戯作と江戸の音曲		大木 京子（おおき きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸の演劇（人形浄瑠璃・歌舞伎）が当時の「戯作」を背後から支えていた事は、改めて指摘すべき必要のない事実です。しかし音曲（歌謡詞章）はどうでしょう。演劇・戯作をにらみながら「音曲」を「ことば」として捉え、これが当時の「文芸」でもあったという事実を確認して行きます。		
授業の概要	当時の「三味線歌謡」や「箏曲歌謡」を「ことば」として、意味を押さえながら聴くことから入ります。そうして、ここに様々な「先行歌謡」（うた）がどのように用いられていたのかを探ります。また、演奏された「場所」や「うたい手」にも言及し、巷間での流行現象の分析も行う予定です。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 労働唄（民謡）について 第2回 歌謡のうたわれる場（芝居・労働・宴席） 第3回 江戸端唄と上方端歌 第4回 再び「三味線」について 第5回 江戸長唄と民謡 第6回 江戸長唄（中期） 第7回 山田流箏曲歌謡と河東節 第8回 うた澤の発生 第9回 豊後浄瑠璃とうた澤 第10回 江戸長唄と宴席歌 第11回 江戸長唄（後期） 第12回 現代における邦楽歌謡Ⅰ（いわゆる伝統音楽について） 第13回 現代における邦楽歌謡Ⅱ（現代の流行歌） 第14回 まとめ 音楽教育と音曲 第15回 テストあるいはレポート		
テキスト	『近世文学選・芸能篇』（和泉書院）¥1700+税（テキストは、あくまで便覧として用い、作品はその都度プリントにて提示します）	参考文献	『徳川文芸類聚』9・10巻など
評価方法	授業への積極的参加:30% 夏季レポート:30% 最終レポート:40%		

国文学演習Ⅰ		通年 4 単位	
江戸時代の恋愛小説を読む		大木 京子（おおき きょうこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	井原西鶴の『好色五人女』を中心に、江戸時代の恋愛小説を読んでいます。この作品は、お夏清十郎、樽屋おせん、おさん茂右衛門、八百屋お七、おまん源五兵衛という五つの物語で構成されており、実際にあった事件をもとに書かれました。こうした作品を読むことにより、創作の趣向や意図、古典受容、江戸時代の社会や文化などを理解します。		
授業の概要	江戸時代概説・作品解説をした後、担当者を決めて、各章の語釈と考察を口頭発表してもらいます。さらに先行論文を取り上げ、典拠や内容に関して意見を出し合います。なお、計画にある各巻・章は目安であり、進行の度合などで変更することもあります。前期末と後期末には、口頭発表をもとにしたレポートの提出を求めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス（江戸時代概説、担当者の決定など） 第2回 江戸時代の恋愛小説について 第3回 『好色五人女』と資料調査方法 第4回 『好色五人女』巻一の一 第5回 『好色五人女』巻一の二 第6回 『好色五人女』巻一の三 第7回 『好色五人女』巻一の四 第8回 『好色五人女』巻一の五 第9回 先行論文と考察 第10回 『好色五人女』巻二の一 第11回 『好色五人女』巻二の二 第12回 『好色五人女』巻二の三 第13回 『好色五人女』巻二の四 第14回 『好色五人女』巻二の五 第15回 先行論文と考察・レポートの説明	<p>【後期】</p> 第1回 前期授業内容の確認 第2回 『好色五人女』と芸能との関わり 第3回 『好色五人女』巻三の一 第4回 『好色五人女』巻三の二 第5回 『好色五人女』巻三の三 第6回 『好色五人女』巻三の四 第7回 『好色五人女』巻三の五 第8回 先行論文と考察 第9回 『好色五人女』巻四の一 第10回 『好色五人女』巻四の二 第11回 『好色五人女』巻四の三 第12回 『好色五人女』巻四の四 第13回 『好色五人女』巻四の五 第14回 先行論文と考察 第15回 まとめとレポートの説明	
テキスト	角川ソフィア文庫『新版 好色五人女 現代語訳付き』谷脇理史訳	参考文献	日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集（小学館）、講談社学術文庫『好色五人女 全訳注』など、適宜紹介します。
評価方法	レポート:40% 授業内発表:40% 受講態度・質疑応答:20%		

国文学演習Ⅱ		通年 4 単位	
栄花物語を読む		中村 康夫 (なかむら やすお)	
授業の到達目標 及びテーマ	文学作品の表現は、様々な資料に根拠がある場合が多く、専門の注釈書類では詳細にその資料を掲げている。この演習では、作品を読み進めると同時に、その作品の底辺に広がる資料群をできるだけ具体的に知り、読解する。その知見の広がりによって、さまざまな“文学”の可能性について視野を広げ、資料が豊かに存在している意味を理解する。		
授業の概要	初めは、版本の文字になれることが必要なので、資料調査よりも、文字の読解に重きを置いた進み方をする。慣れてきたところで、注釈書を決め、資料調査などにはいる。これは演習なので、毎時間担当者を決め、報告してもらう。史料は漢文のものが多く、必要に応じて漢文を読む学習も入れることがある。		
授業計画	【前期】 第1回 崩し字読解演習 (1) 第2回 崩し字読解演習 (2) 第3回 崩し字読解演習 (3) 第4回 崩し字読解演習 (4) 第5回 崩し字読解演習 (5) 第6回 崩し字読解演習 (6) 第7回 崩し字読解演習 (7) 第8回 崩し字読解演習 (8) 第9回 崩し字読解演習 (9) 第10回 崩し字読解演習 (10) 第11回 崩し字読解演習 (11) 第12回 崩し字読解演習 (12) 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 (1) 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 (2) 第15回 前期まとめ	【後期】 第1回 崩し字読解演習 (13) 第2回 崩し字読解演習 (14) 第3回 崩し字読解演習 (15) 第4回 『栄花物語』絵入版本演習 (3) 第5回 『栄花物語』絵入版本演習 (4) 第6回 『栄花物語』絵入版本演習 (5) 第7回 『栄花物語』絵入版本演習 (6) 第8回 『栄花物語』絵入版本演習 (7) 第9回 『栄花物語』絵入版本演習 (8) 第10回 『栄花物語』絵入版本演習 (9) 第11回 『栄花物語』絵入版本演習 (10) 第12回 『栄花物語』絵入版本演習 (11) 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 (12) 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 (13) 第15回 まとめ	
テキスト	架蔵の版本のコピーなど、手作りの資料を配付する。演習の当番に当たった人は、配付資料がかなりの多さになる場合が考えられるので、早めに取り組	参考文献	授業中に指示する。必要に応じて一緒に図書館に出かけ、資料を探索する。
評価方法	崩し字演習(授業中):20% 栄花物語演習レポート:20% 授業内容の質疑応答:40% 自由発言等:20%		

国文学演習Ⅲ		通年 4 単位	
村上春樹と現代日本		今井 清人 (いまい きよと)	
授業の到達目標 及びテーマ	○第二次世界大戦後の日本社会の政治、文化を理解する。 ○現代日本文学の中での村上春樹の位置を理解する。 ○村上春樹作品、殊に長編小説とその前テキストとなる作品群を比較対照し、その方法を理解する。		
授業の概要	村上春樹作品を分析的に検討していくことと背景となる第二次世界大戦後の政治文化史をたどることを併行していく。前期は『ノルウェイの森』とその前テキストとなる作品群を検討しながら、1970年代までの社会変化を見ていく。後期は『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』と前テキストを検討しながら、1980年代以降の社会を見ていく。		
授業計画	【前期】 第1回 『ノルウェイの森』と戦後 第2回 「螢」の構造 第3回 「螢」の細部 第4回 「めくらやなぎと眠る女」の構造 第5回 「めくらやなぎと眠る女」の細部 第6回 『ノルウェイの森』上の構造 第7回 『ノルウェイの森』上の文学 第8回 『ノルウェイの森』上の音楽 第9回 『ノルウェイの森』下の構造 第10回 『ノルウェイの森』下の文学 第11回 『ノルウェイの森』下の音楽 第12回 『ノルウェイの森』の語り 第13回 研究発表：グループ1 第14回 研究発表：グループ2 第15回 研究発表：グループ3	【後期】 第1回 『世界の終りとハードボイルド…』と戦後 第2回 「街と、その不確かな壁」の構造 第3回 「街と、その不確かな壁」の細部 第4回 「街と、その不確かな壁」の問題点 第5回 『世界の終りと…』上の構造 第6回 『世界の終りと…』上の語り 第7回 『世界の終りと…』上の文学 第8回 『世界の終りと…』上の音楽 第9回 『世界の終りと…』下の構造 第10回 『世界の終りと…』下の語り 第11回 『世界の終りと…』下の文学 第12回 『世界の終りと…』下の音楽 第13回 研究発表：グループ1 第14回 研究発表：グループ2 第15回 研究発表：グループ3	
テキスト	『ノルウェイの森』上下講談社文庫、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』上下新潮文庫、その他授業時に指示します。	参考文献	『村上春樹スタディーズ』若草書房ほか
評価方法	授業感想文、発表:70% レポート:30%		

国文学演習Ⅳ		通年 4 単位	
近代作家の原稿を読む		宗像 和重 (むなかた かずしげ)	
授業の到達目標 及びテーマ	私たちは普段、文庫本などの活字のテキストで近代の文学作品を読んでいる。しかし実際には、個性的な筆跡や推敲の跡を残した肉筆の原稿から作品は生まれる。この授業では、明治から昭和にいたる近代作家の原稿をとりあげ、活字のテキストとは異なる面白さに触れるとともに、一つの言葉や表現がどのようにして生れてくるのかを理解する。		
授業の概要	近代文学の原稿の写真版や複製などを使い、前期は明治期、後期は大正・昭和期の作品を中心にとりあげる。作品の内容のみならず、作家の筆跡や原稿用紙の特色などにも目を向けることで、活字のテキストではわからないさまざまな表情が浮かび上がる。受講生にも関心のある原稿について報告してもらい、下記の授業計画を変更することがある。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 はじめにー授業の概要と進め方</p> <p>第2回 森鷗外原稿(1) 「舞姫」の原稿</p> <p>第3回 森鷗外原稿(2) 原稿から活字へ</p> <p>第4回 森鷗外原稿(3) 活字の本文</p> <p>第5回 北村透谷の原稿</p> <p>第6回 国木田独歩の原稿</p> <p>第7回 樋口一葉の原稿(1) 「たけくらべ」の原稿</p> <p>第8回 樋口一葉の原稿(2) 推敲の痕跡</p> <p>第9回 樋口一葉の原稿(3) 女性作者の位置</p> <p>第10回 夏目漱石の原稿(1) 「坊ちゃん」の原稿</p> <p>第11回 夏目漱石の原稿(2) 筆記用具について</p> <p>第12回 夏目漱石の原稿(3) 活版印刷の工程</p> <p>第13回 島崎藤村の原稿</p> <p>第14回 柳田国男の原稿</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期の授業予定について</p> <p>第2回 芥川龍之介の原稿(1) 「蜘蛛の糸」の原稿</p> <p>第3回 芥川龍之介の原稿(2) 遺書をめぐって</p> <p>第4回 志賀直哉の原稿(1) 「暗夜行路」の原稿</p> <p>第5回 志賀直哉の原稿(2) 実体験と作品</p> <p>第6回 宮沢賢治の原稿(1) 「銀河鉄道の夜」の原稿</p> <p>第7回 宮沢賢治の原稿(2) 「雨ニモマケズ」の原稿</p> <p>第8回 谷崎潤一郎の原稿 「春琴抄」の原稿</p> <p>第9回 横光利一の原稿 「花園の思想」の原稿</p> <p>第10回 川端康成の原稿</p> <p>第11回 中島敦の原稿</p> <p>第12回 太宰治の原稿</p> <p>第13回 詩歌の原稿</p> <p>第14回 現代作家の原稿</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>	
テキスト	授業中にプリントを配付する予定、詳しくは教室で説明する。	参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	発表、提出物等の評価:30% 学期末レポートの評価:70%		

国語学演習	通年 4 単位	
<p>日本語のあつかいかたを学び、言語と文化のかかわりを探求する —日本語研究入門—方言、敬語、語源、女性語と男性語、また若者ことば、流行語と死語、新語、俗語などへのアプローチ</p>	岡崎 和夫（おかざき かずお）	
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代日本語から現代日本語へのうつりかわりを、具体的な史料・資料に基づいて体験的に学びながら、上記<方言><敬語>以下参加学生の関心にあわせ、言語と文化のかかわりを探求する方法を話します。</p>		
<p><授業の概要> たとえば、皆さんがよく知っている<めんどい> (=めんどくさい) を現代の若者ことばだと思いついてる人はいませんか。それは、残念ながら、大誤解です。「つめたい(冷)」なんてことば、大昔からあったのさ、なんて、不思議とも思わないあつからんとした人はいませんか。そういう身近なところからスタートして、参加者の学的関心にあわせてテーマを確定して行きます。それによって、自己流を離れて日本語をあつかう方法を身につけて行きます。</p>		
<p><授業計画></p>		
<p>【前期】</p>		
<p>第 1 回 導入：1「おとうさん」という語は、いつできた？</p>		
<p>第 2 回 導入：2「おかあさん」という語は、いつできた？</p>		
<p>第 3 回 <めんどい> は、いつできた？</p>		
<p>第 4 回 <つめたい> はどうできた？</p>		
<p>第 5 回 言語学としての日本語研究</p>		
<p>第 6 回 言語学としての日本語の研究基盤</p>		
<p>第 7 回 日本語のあつかいかた研究資料（上代）</p>		
<p>第 8 回 日本語のあつかいかた研究資料（平安期）</p>		
<p>第 9 回 日本語のあつかいかた研究資料（院政期）</p>		
<p>第10回 日本語のあつかいかた研究資料（鎌倉期）</p>		
<p>第11回 日本語のあつかいかた研究資料（室町期）</p>		
<p>第12回 日本語のあつかいかた研究資料（近世前期）</p>		
<p>第13回 日本語のあつかいかた研究資料（近世後期）</p>		
<p>第14回 日本語のあつかいかた研究資料（近代）</p>		
<p>第15回 総合・課題のたしかめ</p>		
<p>【後期】</p>		
<p>第 1 回 日本語・日本文化探求法（基礎）</p>		
<p>第 2 回 日本語・日本文化探求法（上代）</p>		
<p>第 3 回 日本語・日本文化探求法（平安期）</p>		
<p>第 4 回 日本語・日本文化探求法（鎌倉期）</p>		
<p>第 5 回 日本語・日本文化探求法（室町期）</p>		
<p>第 6 回 日本語・日本文化探求法（とくに切支丹文献）</p>		
<p>第 7 回 日本語・日本文化探求法（近世前期）</p>		
<p>第 8 回 日本語・日本文化探求法（近世後期）</p>		
<p>第 9 回 日本語・日本文化探求法（明治期）</p>		
<p>第10回 日本語・日本文化探求法（現代）</p>		
<p>第11回 方言研究による日本語史の知見</p>		
<p>第12回 方言研究による日本語史の構築</p>		
<p>第13回 方言研究による日本語史の成果</p>		
<p>第14回 方言研究による日本語史のdata</p>		
<p>第15回 総合</p>		
<p><テキスト></p>		
<p>第 1 回～第 3 回に、学生との対話の中で決定する</p>		
<p><参考文献></p>		
<p>適宜、図書館資料を中心に指示。指導するわたくしも、できるだけ一緒に図書館に行って、具体的にお伝えする予定。</p>		
<p><評価方法></p>		
<p>授業参加度:50% 授業貢献度:50%</p>		
<p>※第 1 回より S 校舎 4 F の A 研究室参集</p>		

翻訳論		通年 4 単位		
日本文学の英訳や英米文学の英訳を原典と比較、鑑賞する		井原 真理子 (いはら まりこ)		
授業の到達目標 及びテーマ	○翻訳という行為を意識し、英文和訳との違いなど、その問題点や特徴を理解する。 ○具体的な翻訳例と原典を比較し、辞書の定義や解説を丁寧に読み比べつつ、ある訳語がなぜ使われたのか、作品の展開上どのような役割を果たしているのかを考察し、自分の言葉で論じることができるようになる。			
授業の概要	まずは代表的な翻訳理論を取り上げ、翻訳の特性や問題点を紹介する。前期は、一回で読み切れる短い英詩や和歌等の複数の翻訳事例を比較する。英和・和英辞書や国語辞典の定義、解説を丁寧に読み、各訳のニュアンスの違いを理解し、そこから見えてくる訳者の解釈や原典の新しい姿を考察する。後期は小説を読み、学生に翻訳比較の発表をさせ			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業紹介： 俳句の原典と英訳比較 第2回 翻訳の理論について1 第3回 翻訳の理論について2 第4回 和歌を読む：「花の色は…」 第5回 和歌の英訳三種比較 第6回 「花」と“flower” 第7回 「色」と“color” 第8回 和歌を読む：「淡路島…」 第9回 英訳と原典比較 第10回 英詩を読む：“Uses of Light” 第11回 和訳と原典比較 第12回 英詩を読む：“The Mirror” 第13回 和訳と原典比較 第14回 俳句と英訳原典比較 第15回 前期小論文課題： 「月やあらぬ…」	<p>【後期】</p> 第1回 小テスト（辞書持ち込み可） 第2回 J. Austen 著 Emma を読む：エマとは誰？ 第3回 エマの家族とテイラー先生の結婚 第4回 エマの孤独 第5回 ウェストン氏の過去 第6回 フランク・チャーチル 第7回 ミス・ベイツとゴダード夫人 第8回 ハリエット・スミス 第9回 発表割り当て、打ち合わせ 第10回 翻訳二作品比較 第11回 学生による発表1 第12回 学生による発表2 第13回 後期小論文について：『エマ』翻訳比較 第14回 学生による発表3 第15回 『エマ』の映画比較鑑賞、まとめ		
テキスト	授業中に随時配布。	参考文献	辞書は必ず持参すること。『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）を薦めます。電子辞書にも搭載されている場合がありますので探してみましょう。	
評価方法	平常点:40% 学期末小論文:60%			

民俗学		通年 4 単位		
東アジアの祭りと芸能		伊藤 好英 (いとう よしひで)		
授業の到達目標 及びテーマ	祭りは人類のみが行なう特異な行動であり、芸術をはじめとするさまざまな文化の源泉です。本講義では、折口信夫の芸能史の思想を追うとともに、東アジアに残された原初的な祭りに映像・文献を通して触れながら、新たな比較芸能史の可能性を探っていきます。到達目標は、他者の多様な生活を理解することです。			
授業の概要	映像・文献を通して祭り・芸能を具体的に紹介しながら、その意義について考えていきます。「私の祭り・芸能体験」と題して、口頭発表の形で自身の祭りや芸能についての体験や見聞を語ってもらう機会をもうけたいと思います。また、各授業の最後に、授業の内容をどのように理解したかを記してもらおうフィードバックシートを配ります。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 民俗学と民俗学者 第3回 柳田国男の神樹論 第4回 折口信夫の「よりしろ」論 第5回 アジアの神樹と「よりしろ」1 第6回 アジアの神樹と「よりしろ」2 第7回 柳田国男の巫女論 第8回 折口信夫の「ほかひびと」論 第9回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」1 第10回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」2 第11回 柳田国男の祭り論 第12回 折口信夫の「まれびと」論 第13回 アジアの祭りと「まれびと」1 第14回 アジアの祭りと「まれびと」2 第15回 前期のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 沖縄の祭りと芸能1（久高島のイザイホー） 第2回 沖縄の祭りと芸能2（ウンジャミ） 第3回 沖縄の祭りと芸能3（シヌグ） 第4回 日本の祭りと芸能1（金沢の羽山籠り） 第5回 日本の祭りと芸能2（羽黒山の松例祭） 第6回 日本の祭りと芸能3（新野の雪祭り） 第7回 日本の祭りと芸能4（春日宮おん祭り） 第8回 韓国の祭りと芸能1（江陵端午祭） 第9回 韓国の祭りと芸能2（蟬島の願堂祭） 第10回 韓国の祭りと芸能3（済州島のククツ） 第11回 中国の祭りと芸能1（江西省石郵村の傩戯） 第12回 中国の祭りと芸能2（雲南省の采花山祭り） 第13回 祭りとは何か 第14回 祭りと芸能の関係 第15回 まとめ		
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	伊藤好英『折口学が読み解く韓国芸能』慶應義塾大学出版会、2006年	
評価方法	フィードバックシート:20% 発表・授業参加度:30% レポート:50%			

修了論文演習	通年 4 単位
修了論文題目と修了論文の提出期限	
<p>【担当教員】 岡崎 和夫（おかざき かずお）、小林 正明（こばやし まさあき）、鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）、鈴木 直子（すずき なおこ）、辻 吉祥（つじ よしひろ）、藤本 勝義（ふじもと かつよし）</p> <p>修了論文題目の提出期限 2013年 6月 4日（火）午後4時30分（厳守）</p> <p>修了論文 提出期限 2013年12月10日（火）午後4時30分（厳守）</p> <p>修了論文枚数 400字詰め原稿用紙に換算して40枚以上</p> <p>提出先 教務課</p>	

修了論文演習	通年 4 単位		
ふたたび、研究論文を書く。別名：研究論文を楽しむ ※第1回よりS校舎4FのA研究室参集	岡崎 和夫（おかざき かずお）		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 日本文化、また言語・翻訳などのテーマについて、本科の卒業論文レベルをすこし上昇させ、内容を発展させる。 2. とくに論の着想、論文の構想を楽しむ。 3. データや事実を大切にみつかる科学的姿勢を身につける。		
授業の概要	毎回、気づいたこと、考えたこと、調べたこと、作業したことを具体的に話しに来て下さい。それを基に、私は、ほめたり、軌道を修正したり、考え込んだり、言うべき言葉を失ったりしながら、論理的に書くことや科学的に観察することや事実を大切にすべきことや、解釈の仕方が多岐であることや史料・資料そのものの扱い方などについて話します。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> 第1回 導入篇 第2回 データとは何か？ 第3回 データのちから 第4回 データと科学的思考 第5回 データと方法 第6回 科学的方法について 第7回 データと方法の有機的な関係を考える 第8回 データと方法から恣意をとりのぞく 第9回 データと方法を語る（課題意識） 第10回 データと方法を語る（総・統合） 第11回 事実の発見 第12回 考え方の発見 第13回 事実の発見と考え方の発見のかかわりを考える 第14回 事実の発見と考え方の発見（まとめ） 第15回 前期成果を語る</td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> 第1回 導入篇 第2回 草稿の提出に向けての準備 第3回 草稿の提出に向けてのたしかめ・チェック 第4回 草稿の提出に向けての最終段階 第5回 書いて、拓げる可能性のこと 第6回 書いて、拓げて行く可能性をみだす 第7回 書いて、拓げて行く体験について 第8回 書いて、拓げて行く体験メモランダム 第9回 書いて、拓げて行く体験のなかのあらたな思考 第10回 書いて、拓げて行く体験について・メモランダムを生かす 第11回 書いて、拓げて行く体験について・総合する 第12回 書いて、拓げて行く体験について・ふりかえる 第13回 発展させるというskillを求める 第14回 発展させる方途と論理的思考力 第15回 発展させる方途を語る（総合とチェック—まとめ直す—）</td> </tr> </table>	<p>【前期】</p> 第1回 導入篇 第2回 データとは何か？ 第3回 データのちから 第4回 データと科学的思考 第5回 データと方法 第6回 科学的方法について 第7回 データと方法の有機的な関係を考える 第8回 データと方法から恣意をとりのぞく 第9回 データと方法を語る（課題意識） 第10回 データと方法を語る（総・統合） 第11回 事実の発見 第12回 考え方の発見 第13回 事実の発見と考え方の発見のかかわりを考える 第14回 事実の発見と考え方の発見（まとめ） 第15回 前期成果を語る	<p>【後期】</p> 第1回 導入篇 第2回 草稿の提出に向けての準備 第3回 草稿の提出に向けてのたしかめ・チェック 第4回 草稿の提出に向けての最終段階 第5回 書いて、拓げる可能性のこと 第6回 書いて、拓げて行く可能性をみだす 第7回 書いて、拓げて行く体験について 第8回 書いて、拓げて行く体験メモランダム 第9回 書いて、拓げて行く体験のなかのあらたな思考 第10回 書いて、拓げて行く体験について・メモランダムを生かす 第11回 書いて、拓げて行く体験について・総合する 第12回 書いて、拓げて行く体験について・ふりかえる 第13回 発展させるというskillを求める 第14回 発展させる方途と論理的思考力 第15回 発展させる方途を語る（総合とチェック—まとめ直す—）
<p>【前期】</p> 第1回 導入篇 第2回 データとは何か？ 第3回 データのちから 第4回 データと科学的思考 第5回 データと方法 第6回 科学的方法について 第7回 データと方法の有機的な関係を考える 第8回 データと方法から恣意をとりのぞく 第9回 データと方法を語る（課題意識） 第10回 データと方法を語る（総・統合） 第11回 事実の発見 第12回 考え方の発見 第13回 事実の発見と考え方の発見のかかわりを考える 第14回 事実の発見と考え方の発見（まとめ） 第15回 前期成果を語る	<p>【後期】</p> 第1回 導入篇 第2回 草稿の提出に向けての準備 第3回 草稿の提出に向けてのたしかめ・チェック 第4回 草稿の提出に向けての最終段階 第5回 書いて、拓げる可能性のこと 第6回 書いて、拓げて行く可能性をみだす 第7回 書いて、拓げて行く体験について 第8回 書いて、拓げて行く体験メモランダム 第9回 書いて、拓げて行く体験のなかのあらたな思考 第10回 書いて、拓げて行く体験について・メモランダムを生かす 第11回 書いて、拓げて行く体験について・総合する 第12回 書いて、拓げて行く体験について・ふりかえる 第13回 発展させるというskillを求める 第14回 発展させる方途と論理的思考力 第15回 発展させる方途を語る（総合とチェック—まとめ直す—）		
テキスト	用いない。		
	参考文献		
	とりくむ内容に合わせて指示。		
評価方法	進行報告内容:50% 論文の達成度:50%		

修了論文演習		通年 4 単位	
修了論文—専攻科総集篇として		小林 正明 (こばやし まさあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 修了論文の対象とした作品・文献を読み進めることができる。 ○ 着眼点を探求し続けることができる。 ○ 着眼点を論文としてまとめ上げることができる。 		
授業の概要	個人面接を主とした授業形態となります。面接にさいいて、各自から進捗具合を提示し、担当教員である私の方からは質問や助言をします。作品本文に習熟することが論文を書く大前提です。さらに、重点は、既存諸説を蒸し返すことではなく、自分の着眼を探究すること。手作りの玉稿を期待します。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 全体授業。修了論文の作品、テーマ。</p> <p>第2回 面接授業。作品進捗の初期計画。</p> <p>第3回 面接授業。関連文献のリサーチ。</p> <p>第4回 面接授業。リサーチ文献の意見交換。</p> <p>第5回 面接授業。本文進捗の初期測定と計画修正。</p> <p>第6回 面接授業。着眼事項の初期カード化。</p> <p>第7回 面接授業。着眼事項の初期補充。</p> <p>第8回 面接授業。本文進捗の中間測定と計画再修正。</p> <p>第9回 面接授業。着眼事項と関連文献との初期総合化。</p> <p>第10回 面接授業。抽出本文の一覧化。</p> <p>第11回 面接授業。一覧本文の解析要旨。</p> <p>第12回 面接授業。夏季本文進捗の計画申告。</p> <p>第13回 補遺Ⅰ。夏季草稿の諸注意。</p> <p>第14回 補遺Ⅱ。夏季草稿の構想吟味。</p> <p>第15回 補遺Ⅲ。夏季草稿の方法論探求。</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 面接授業。夏季草稿の提出と要旨報告。</p> <p>第2回 面接授業。夏季草稿の講評と修正指示。</p> <p>第3回 面接授業。修正草稿の確認と吟味。</p> <p>第4回 面接授業。補充構想と本文進捗計画。</p> <p>第5回 面接授業。着眼事項の後期カード化。</p> <p>第6回 面接授業。後期草稿の構想と計画。</p> <p>第7回 面接授業。論文提出の諸注意。</p> <p>第8回 面接授業。修了論文の仮提出。</p> <p>第9回 面接授業。修了論文の概要報告。</p> <p>第10回 面接授業。修了論文の概要報告。</p> <p>第11回 面接授業。関連テーマの構想と発展計画。</p> <p>第12回 補遺Ⅳ。補充本文範囲の確定。</p> <p>第13回 補遺Ⅴ。補充本文の一覧と解析。</p> <p>第14回 補遺Ⅵ。補充テーマの追加小論。</p> <p>第15回 補遺Ⅶ。作品、テーマの総合的意見交換。</p>	
テキスト	指示に従って、各自、入手。	参考文献	必要に応じて相談・指示。
評価方法	面接実績:30% 本文の読解:20% 取り組み姿勢:20% 論文の水準:30%		

修了論文演習		通年 (前期) 4 単位	
江戸時代文芸の研究		鹿倉 秀典 (しかくら ひでのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	江戸時代の文芸作品 (小説・演劇・韻文など) を研究対象にして「修了論文」を作成します。本科の卒業論文よりも、さらに高度な、奥深い内容を目指しましょう。		
授業の概要	自ら学ぶ姿勢を強く持って下さい。アドバイスは、適宜。時に応じて行います。原典資料の所在、その資料の読解方法、先行必読研究などに関する質問は、いつでも可能。しかし「修了論文」の作成に必要なのは、あなた自身の努力と感性、それに好奇心です。新しい「発見」を期待します。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 課題 (テーマ) 作成・研究ノート作成</p> <p>第2回 10枚程度の概略文 (個別指導)Ⅰ</p> <p>第3回 10枚程度の概略文 (個別指導)Ⅱ</p> <p>第4回 10枚程度の概略文 (個別指導)Ⅲ</p> <p>第5回 添削指導Ⅰ</p> <p>第6回 調査研究期間Ⅰ</p> <p>第7回 調査研究期間Ⅱ</p> <p>第8回 調査研究期間Ⅲ</p> <p>第9回 調査研究期間Ⅳ</p> <p>第10回 個別指導Ⅰ</p> <p>第11回 個別指導Ⅱ</p> <p>第12回 下書き作成 (添削指導)Ⅰ</p> <p>第13回 下書き作成 (添削指導)Ⅱ</p> <p>第14回 下書き作成 (添削指導)Ⅲ</p> <p>第15回 夏休み前の確認</p>		
テキスト	各個人々の「テーマ」に応じて、それぞれに指示します。	参考文献	少々厚めの「研究ノート」、あるいは「研究用FD」を作成すること。それが、あなた自身の「参考文献」となります。
評価方法	過程報告:40% 論文内容:60%		

修了論文演習		通年（後期）	
江戸時代文芸の研究		鈴木 直子（すずき なおこ）	
授業の到達目標及びテーマ	江戸時代の文芸作品（小説・演劇・韻文など）を研究対象にして「修了論文」を作成します。本科の卒業論文よりも、さらに高度な、奥深い内容を目指しましょう。		
授業の概要	自ら学ぶ姿勢を強く持って下さい。アドバイスは、適宜。時に応じて行います。原典資料の所在、その資料の読解方法、先行必読研究などに関する質問は、いつでも可能。しかし「修了論文」の作成に必要なのは、あなた自身の努力と感性、それに好奇心です。新しい「発見」を期待します。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 下書き提出 第2回 添削指導Ⅱ 第3回 添削指導Ⅲ 第4回 補完調査期間Ⅰ 第5回 補完調査期間Ⅱ 第6回 補完調査期間Ⅲ 第7回 清書のための報告 第8回 個別指導Ⅰ 第9回 個別指導Ⅱ 第10回 清書期間 第11回 清書期間 第12回 個別指導Ⅲ 第13回 清書期間 第14回 修了論文提出 第15回 最終報告		
テキスト	各個人々の「テーマ」に応じて、それぞれに指示します。	参考文献	少々厚めの「研究ノート」、あるいは「研究用FD」を作成すること。それが、あなた自身の「参考文献」となります。
評価方法	過程報告:40% 論文内容:60%		

修了論文演習		通年 4 単位	
近現代文学研究		鈴木 直子（すずき なおこ）	
授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の文学を対象とし、各自の問題関心に沿って調査・研究をすすめ、修了論文を作成します。 ・諸作業を通じて、作品を取り巻く状況に理解を深め、文学作品を丁寧に読み解きます。 ・また長い文章を論理的に構築し、わかりやすく適切に表現する技術を身につけます。 		
授業の概要	各自研究テーマ・問題設定をします。それに基づいて文献調査・分析をし、自分なりの独自の結論を導き出す作業を各自行い、口頭発表と討論をします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 初回個別面接1 第3回 初回個別面接2 第4回 初回個別面接3 第5回 全体会 第6回 調査研究指導1 第7回 調査研究指導2 第8回 発表とディスカッション1 第9回 発表とディスカッション2 第10回 発表とディスカッション3 第11回 個別指導1 第12回 個別指導2 第13回 個別指導3 第14回 個別指導4 第15回 全体会（前期のまとめ、夏期の課題確認）	<p>【後期】</p> 第1回 後期INTROダクシヨン 第2回 夏期小論文にもとづく面接1 第3回 夏期小論文にもとづく面接2 第4回 夏期小論文にもとづく面接3 第5回 発表とディスカッション1 第6回 発表とディスカッション2 第7回 発表とディスカッション3 第8回 全体会（今後の課題の確認） 第9回 個別指導1 第10回 個別指導2 第11回 個別指導3 第12回 個別指導4 第13回 個別指導5 第14回 口頭発表1 第15回 口頭発表2	
テキスト	その都度指示します。	参考文献	その都度指示します。
評価方法	論文執筆の過程:50% 修了論文:50%		

修了論文演習		通年 4 単位
近代文学研究		辻 吉祥 (つじ よしひろ)
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降の文学、批評、メディアを対象として研究を深めます。過去の著名な作家はほとんど、書く作業の苦しみを呪うように日記に書き付けています。にもかかわらず「書く」のは、そこに「こだわり」があるからなのでしょう。テキストと対峙しながら「みずから自身のなかのこだわり」をいっそう深く掘りすめてください。論文の完成が到達目	
授業の概要	みずからの問題意識がなにより大切です。そこから対象となるテキストに問いかけ、解決と同時に新たな問いを得るといふプロセスのくり返しから、ノートをふくらませていきます。(各国)文献の所在、資料調査の仕方については、どの時点でも案内します。読み続け、書き続け、夏までに10枚、夏季休暇中に25枚までは到達させます。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 論文作成の方向性、問題設定について 第2回 問題意識を固めるⅠ(序) 第3回 問題意識を固めるⅡ(図書館の利用) 第4回 テキストの確定 第5回 調査研究・論文作成1—先行研究を収集する 第6回 調査研究・論文作成2—先行研究の系統化 第7回 調査研究・論文作成3—テーマの追究 第8回 調査研究・論文作成4—テーマの深化 第9回 調査研究・論文作成5—概要の発表Ⅰ(グループA) 第10回 調査研究・論文作成6—概要の発表Ⅱ(グループB) 第11回 調査研究・論文作成7—概要の発表Ⅲ(グループC) 第12回 調査研究・論文作成8—概要の発表Ⅳ(グループD) 第13回 調査研究・論文作成9—概要の発表Ⅴ(グループE) 第14回 調査研究・論文作成10—概要の発表Ⅵ(グループF) 第15回 夏季の課題を確認	<p>【後期】</p> 第1回 草稿を提出 第2回 課題の修正、追補 第3回 調査研究・論文作成1—論文推敲Ⅰ(テーマ・構成について) 第4回 調査研究・論文作成2—論文推敲Ⅱ(章ごとの内容について) 第5回 調査研究・論文作成3—論文推敲Ⅲ(部分と全体の関係について) 第6回 調査研究・論文作成4—論文推敲Ⅳ(序論と結論について) 第7回 調査研究・論文作成5—論文推敲Ⅴ(注について) 第8回 調査研究・論文作成6—グループごとの指導A 第9回 調査研究・論文作成7—グループごとの指導B 第10回 調査研究・論文作成8—グループごとの指導C 第11回 調査研究・論文作成9—グループごとの指導D 第12回 調査研究・論文作成10—グループごとの指導E 第13回 調査研究・論文作成11—グループごとの指導F 第14回 論文講評(グループⅠ) 第15回 論文講評(グループⅡ)
テキスト	個別に指示します	参考文献 個別に指示します
評価方法	論文内容:70% 中間報告など作成過程における達成:30%	

修了論文演習		通年 4 単位
平安文学・説話・陰陽道・儀式・絵巻などの研究		藤本 勝義 (ふじもと かつよし)
授業の到達目標 及びテーマ	平安文学や陰陽道、仏教、年中行事・絵巻などを扱うもので、作品としては古今集、落窪物語、源氏物語、枕草子、更級日記、栄花物語、今昔物語、さらに安倍晴明をめぐるもの、平安・鎌倉絵巻などである。時代背景である儀式、習俗、信仰等を把握して、扱う対象のテーマ、内容、構成等を理解し、論文を仕上げることができるよう適切な指導をする	
授業の概要	主に個人面談で行う。研究対象の作品や信仰等を読んだり調べたりし、ノートする作業を行い、テーマに則した取り組み方をする。夏休み中に中間報告20枚を書き、それについて個人面談を行い、一層の調査・研究を促す。後期全体で、学生は緻密な研究内容・方法を会得し、質の高い論文を仕上げよう、適切な指導をする。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 1年間の授業の方法の提示と修了論文のテーマについて 第2回 受講者の2年次卒業論文やレポートの報告 第3回 修了論文で取り扱う内容の簡単な発表と指導 第4回 発表と指導①文学作品についての研究の指導 第5回 発表と指導②陰陽道・儀式などの研究の指導 第6回 修了論文の題目決定について 第7回 発表と参考文献等についての指導(文学作品中心) 第8回 発表と参考文献等についての指導(陰陽道・儀式中心) 第9回 面談①文学作品中心 第10回 面談②陰陽道・儀式など中心 第11回 面談の結果の講評 第12回 夏休みの課題についての注意と具体的指導 第13回 面談④文学作品中心 第14回 面談⑤陰陽道・儀式など中心 第15回 夏休み中の研究についての留意事項の指導	<p>【後期】</p> 第1回 修了論文の中間報告の提出と今後の予定等 第2回 中間報告についての指導(文学作品中心) 第3回 中間報告についての指導(陰陽道・儀式など中心) 第4回 中間報告の訂正に関する発表と指導(文学作品中心) 第5回 中間報告の訂正に関する発表と指導(陰陽道・儀式中心) 第6回 中間報告以後の発表と指導(文学作品中心) 第7回 中間報告以後の発表と指導(陰陽道・儀式など中心) 第8回 作品等の徹底的な分析の発表と指導(文学作品中心) 第9回 作品等の徹底的な分析の発表と指導(陰陽道・儀式中心) 第10回 修了論文に向けての細部の指導 第11回 修了論文の書き方等の指導 第12回 面談(論文細部の最終チェック) 第13回 面談(論文作成の反省と総括—文学作品中心) 第14回 面談(論文作成の反省と総括—陰陽道・儀式中心) 第15回 修了論文の返却と講評
テキスト	個々人に、作品に応じてそれぞれ指示する。ノートを一冊用意すること。本文引用、コピー添付、調べたこと、気付いたこと等を書き込んでいくこと。	参考文献 個々人に、研究内容に応じて指示する。
評価方法	論文内容:60% 平常点(努力度):40%	

日本美術史		通年 4 単位	
古代・中世美術の世界		成原 有貴 (なりはら ゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術の歴史を学ぶ。各時代の代表的作品（主に絵画）の主題・表現・制作背景などを 知り、個々の作品に対する理解に基づいて、歴史的展開を学習していく。作品がどのような人々により、なぜ制作され たのか、いかなる場で鑑賞されたのかを考えることによって、社会における美術の意義や機能についても理解する。		
授業の概要	古代・中世期の代表的美術作品について詳しく解説するとともに、日本と中国大陸・朝鮮半島との文化的関連を重視し て、日本美術の歴史を辿る。作品を鑑賞して美術に親しむだけではなく、教室での学習を、国際社会のなかの自己と他 者の文化について考えるきっかけにしてほしい。授業は講義形式で行い、毎回パワーポイントで作品を映写する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに - 日本美術の世界へようこそ 第2回 飛鳥・白鳳時代 仏教絵画 - 「法隆寺金堂壁画」 第3回 飛鳥・白鳳時代 仏教絵画 - 法隆寺「玉虫厨子」 第4回 飛鳥・白鳳時代 「高松塚古墳壁画」 - 死者のための絵画 第5回 飛鳥・白鳳時代 「キトラ古墳壁画」 第6回 奈良時代 正倉院宝物 1：宝物のなりたち 第7回 奈良時代 正倉院宝物 2：宝物の多様性 第8回 平安時代 唐絵とやまと絵 第9回 平安時代 仏教絵画 - 地獄絵と来迎図 第10回 平安時代 仏教絵画 - 密教画 第11回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」 1：源氏絵の伝統 第12回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」 2：人物の造形 第13回 平安時代 絵巻「伴大納言絵巻」 第14回 平安時代 装飾経「平家納経」 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 鎌倉時代 絵巻「紫式部日記絵巻」 第2回 鎌倉時代 絵巻「当麻曼荼羅縁起絵巻」 - 女性と信仰 第3回 鎌倉時代 仏教絵画 - 地獄絵と来迎図 第4回 鎌倉時代 仏教絵画 - 信仰空間での絵画の役割 第5回 鎌倉時代 神道美術 - 「神の姿」を表わす 第6回 鎌倉時代 肖像画 - 「伝源頼朝像」に描かれたのは誰か 第7回 鎌倉時代 禅宗の美術 第8回 室町時代 雪舟と水墨画 第9回 室町時代 唐絵と唐物の愛好 第10回 室町時代 やまと絵屏風 第11回 室町時代 会所の美術 - 和漢の世界 第12回 室町時代 將軍と絵巻 第13回 室町時代 御伽草子絵巻の世界 第14回 室町時代 源氏絵の伝統と展開 第15回 まとめ	
テキスト	特に指定しない。授業の要点を記したプリントを毎 回配布する。	参考文献	『日本美術全集』講談社、日高薫『日本美術のこと ば案内』小学館、2003年。全集の該当巻などは 授業時に指示する。
評価方法	授業感想文:30% 試験:70%		

日本文化史		通年 4 単位	
婚姻・陰陽道・衣食住の文化史		藤本 勝義 (ふじもと かつよし)	
授業の到達目標 及びテーマ	日本の生活になくてはならない衣食住、恋愛・結婚、陰陽道信仰、年中行事などの身近な文化史を、諸記録、文学作 品等に則って、できるだけ正確に理解する。現在の生活・文化の依って来る歴史を理解し、現代に生きる若者の考え方 に資するべく理解を深める。		
授業の概要	前期は陰陽道信仰や年中行事、後期は婚姻史を中心とした個別のテーマにそって講義を進めるが、授業は通年の長丁 場なので、教員の一方的な講義に明け暮れるのではなく、学生の調べと発表を取り入れながら意見交換を図り、日本文 化史に関する理解を促したい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の通年の概観・進め方（方法）等の提示 第2回 陰陽道と陰陽師 第3回 陰陽師・安倍晴明をめぐる 第4回 中古以降の陰陽道史 第5回 俗信と古い・夢 第6回 正月の年中行事 第7回 二、三月の年中行事（花見など） 第8回 四、五月の年中行事（葵祭など） 第9回 六～九月の年中行事（七夕など） 第10回 十～十二月の年中行事（五節の舞姫など） 第11回 仏教史の概説 第12回 出家と仏教界 第13回 仏像の歴史と見方 第14回 昔の食生活の資料提示と解説 第15回 前期のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 後期授業の概観 第2回 日本婚姻史の概説 第3回 古代の結婚をめぐる 第4回 平安朝の階級社会と結婚 第5回 平安朝の結婚の型—妻問婚、婿取婚を中心に 第6回 文学作品に表れた結婚をめぐるの解説 第7回 源氏物語に表れた結婚 第8回 平安文学以降の作品に表れた結婚 第9回 古代の着物についての概説 第10回 男性の着物（衣冠束帯など） 第11回 女性の着物（十二単など） 第12回 建物と住まい（寝殿造など） 第13回 建物と住まい（寝殿造以外） 第14回 日本人の自然観と文化の解説 第15回 日本文化史のまとめ	
テキスト	主としてプリントを用いるが、絵・写真中心の陰陽 道、仏教に関するテキスト（約千円）も使用する予 定。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート:50% 発表:20% 平常点（参加度等）:30%		

西洋文化史		通年 4 単位
古代ギリシア・ローマの文学と文化		河島 思朗 (かわしま しろう)
授業の到達目標 及びテーマ	ヨーロッパの古典文化、すなわち古代ギリシア・ローマに関して、代表的な文学作品を足掛かりに、文学・歴史・社会・文化・神話について理解する。また、古典文化がその後のヨーロッパに与えた影響について理解する。	
授業の概要	古代ギリシア・ローマの代表的な文学作品を題材としながら、背景となるギリシアとローマの文化を理解する。前期はギリシア文学を対象とし、後期はローマの文学（ラテン文学）を対象としながら、それぞれの文学が有する社会的意義を明らかにする。	
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：西洋古典学とはなにか 第2回 ホメロス『イリアス』（1）：口承叙事詩 第3回 ホメロス『イリアス』（2）：人間と運命 第4回 ホメロス『オデュッセイア』 第5回 ヘシオドス：神話の世界 第6回 抒情詩と古代オリンピック 第7回 古代アテーナイ社会 第8回 ギリシア悲劇と民主政 第9回 アイスキュロス『アガメムノン』 第10回 ソフォクレス『アンティゴネ』 第11回 ギリシア喜劇 第12回 ソクラテス文学：哲学と社会 第13回 散文 第14回 ヘレニズム文学 第15回 これまでのまとめ	【後期】 第1回 古代ローマとラテン文学 第2回 ウェルギリウス『牧歌』（1）：パストラルの伝統 第3回 ウェルギリウス『牧歌』（2）：詩人の社会的意義 第4回 ウェルギリウス『農耕詩』 第5回 抒情詩（1）：ジャンルと特徴 第6回 抒情詩（2）：ホラーティウス 第7回 恋愛詩：ラテン文学の特性 第8回 ウェルギリウス『アエネーイス』（1）：歴史と宗教 第9回 ウェルギリウス『アエネーイス』（2）：建国叙事詩 第10回 オウィディウス『変身物語』（1）：神話を伝える物語 第11回 オウィディウス『変身物語』（2）：愛をめぐる神話 第12回 悲劇・喜劇 第13回 散文・歴史 第14回 書簡文学 第15回 これまでのまとめ
テキスト	テキストは使用せず、プリントを使う。	参考文献 授業中に示す。
評価方法	コメントシート：30% 期末試験（前期）：35% 期末試験（後期）：35%	

東洋文化史		通年 4 単位
東洋を知ろう		原田 理恵 (はらだ りえ)
授業の到達目標 及びテーマ	日本が千年以上も前から政治的・経済的・文化的に深く関わってきた隣国中国と、今どう向き合ってゆくか、それは重要かつ難解な問題です。歴史学は現在と未来のために過去を知ろうとする学問です。中国と日本を含む東アジア世界の文化を知ること、そしてグローバル化する世界の中で真に文化的多様性を理解できるようになることがこの授業の目標	
授業の概要	講義が中心となります。「東洋の歴史」の広大な時間と空間の中から、中国世界を中心として人々の生活や思想あるいは社会のあり方などを、一つのテーマあたり四週間程度で講義します。区切り毎に講義に関する質問・感想・意見等を書いていただき授業で紹介いたします。また、講義に対する理解や知識の定着の程度を見るために随時小テストも行います	
授業計画	【前期】 第1回 陶磁器から時代を見る 1 —先史時代から西周— 第2回 陶磁器から時代を見る 2 —東周から魏晉南北朝— 第3回 陶磁器から時代を見る 3 —隋・唐から宋— 第4回 陶磁器から時代を見る 4 —元から清— 第5回 古代中国世界の形成 1 —都市国家の成立— 第6回 古代中国世界の形成 2 —三皇五帝伝説と易姓革命— 第7回 古代中国世界の形成 3 —都市国家連合から帝国へ— 第8回 古代中国世界の形成 4 —中央集権VS地方分権— 第9回 孔子の生涯とその思想 1 —孔子の生涯と春秋魯国— 第10回 孔子の生涯とその思想 2 —遊説家と教育者— 第11回 孔子の生涯とその思想 3 —家族の思想— 第12回 孔子の生涯とその思想 4 —儒教の功罪— 第13回 法家の思想 1 —商鞅の新法— 第14回 法家の思想 2 —韓非の時代— 第15回 前期レポートについて	【後期】 第1回 法家の思想 3 —法・術— 第2回 法家の思想 4 —勢・礼— 第3回 法家の思想 5 —性善の思想・性悪の思想— 第4回 「官僚」最も中国的なもの1 —郷孝里選— 第5回 「官僚」最も中国的なもの2 —九品官人法— 第6回 「官僚」最も中国的なもの3 —科挙沿革①隋・唐— 第7回 「官僚」最も中国的なもの4 —科挙沿革②宋～清— 第8回 「官僚」最も中国的なもの5 —科挙の実際— 第9回 元朝秘史の世界 1 —蒼き狼と淡黄色の雌鹿の物語— 第10回 元朝秘史の世界 2 —狩獵・遊牧・農耕— 第11回 元朝秘史の世界 3 —氏族集団から部族国家へ— 第12回 元朝秘史の世界 4 —大モンゴル国— 第13回 チンギス・ハーンのモンゴル帝国 第14回 征服王朝 元 第15回 “東洋文化”の視点からもう一度日本を見る
テキスト	使用しません。	参考文献 授業で紹介いたします。
評価方法	平常点：20% レポート：30% 筆記試験：50%	

キリスト教と文化		通年 4 単位	
文化におけるキリスト教の影響力		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教の歴史と伝統を知り、その展開に関する知識を得ると共に現在のキリスト教が大半を占める諸国の文化におけるキリスト教の影響力を理解させることを目標とする。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始まります。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等）一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の話に関するミニクイズをします。それらは中間テストや期末テストの基礎となります。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 コース紹介</p> <p>第 2回 マリア</p> <p>第 3回 イエスの生涯</p> <p>第 4回 初期ローマ時代</p> <p>第 5回 コプトキリスト教</p> <p>第 6回 ヴィザンティン</p> <p>第 7回 ケルズ書</p> <p>第 8回 中間テスト</p> <p>第 9回 アイオナ</p> <p>第10回 大聖堂</p> <p>第11回 ルネサンス芸術</p> <p>第12回 黒人霊歌</p> <p>第13回 誰が隣人</p> <p>第14回 平和を送る人生</p> <p>第15回 前期まとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第 1回 マグダラ・マリア</p> <p>第 2回 イエスとその文化</p> <p>第 3回 日本文化史とキリスト教</p> <p>第 4回 高等教育とキリスト教</p> <p>第 5回 アーミシュ</p> <p>第 6回 テゼ</p> <p>第 7回 ニック・ブイチチ</p> <p>第 8回 賀川豊彦</p> <p>第 9回 中間テスト</p> <p>第10回 研究発表・意見交換 1</p> <p>第11回 研究発表・意見交換 2</p> <p>第12回 研究発表・意見交換 3</p> <p>第13回 研究発表・意見交換 4</p> <p>第14回 研究発表・意見交換 5</p> <p>第15回 後期まとめ</p>	
テキスト	ハンディーバイブル、配布文書	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常点(通年) :30% 中間テスト(前期) :15% 期末テスト(前期) :20% 中間テスト(後期) :15% 研究発表(後期) :20%		

文学概論		通年 4 単位	
文学理論の歴史		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
授業の到達目標 及びテーマ	文学を読むことの歴史は、同時に読む主体の歴史です。文学理論、批評理論について学ぶことは、読む主体が、自分自身の背後に回り込む技術を得得すること、と考えればよいでしょう。そんなことができるだろうか——。そうできれば、読むことが、飛躍的に自在になります。ぜひ、その技術を獲得してください。		
授業の概要	自らの読みを見つめ直すための批評理論は非常に多くあります。ここではそのうち主要なものを丁寧に読み、他の理論にもできるだけ触れていこうにします。なかでもジェンダーの視点は最も重要です。他の授業内容にもつなげて理解を発展させることが大切です。後半は実際に作品の中でそれらがどのように駆使されているのか研究し、発表・討議し		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 導入 第2回 V・シクロフスキー「手法としての芸術」——「異化」とは何か 第3回 B・ブレヒト「実験的演劇について」——「異化効果」 第4回 M・バフチン——フォルマリズム批判 第5回 E・サイード『オリエンタリズム』——異者の眼差し 第6回 学生による発表とディスカッション (グループA) 第7回 学生による発表とディスカッション (グループB) 第8回 学生による発表とディスカッション (グループC) 第9回 学生による発表とディスカッション (グループD) 第10回 学生による発表とディスカッション (グループE) 第11回 学生による発表とディスカッション (グループF) 第12回 学生による発表とディスカッション (グループG) 第13回 学生による発表とディスカッション (グループH) 第14回 学生による発表とディスカッション (グループI) 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 前期の学習内容の確認と後期の導入 第2回 ロラン・バルト1——「作者の死」を読む 第3回 ロラン・バルト2——「作者の死」の文が実現したこと 第4回 ジェンダー批評1——日本の文脈から 第5回 ジェンダー批評2——西洋の文脈から 第6回 学生による発表とディスカッション (グループA) 第7回 学生による発表とディスカッション (グループB) 第8回 学生による発表とディスカッション (グループC) 第9回 学生による発表とディスカッション (グループD) 第10回 学生による発表とディスカッション (グループE) 第11回 学生による発表とディスカッション (グループF) 第12回 学生による発表とディスカッション (グループG) 第13回 学生による発表とディスカッション (グループH) 第14回 学生による発表とディスカッション (グループI) 第15回 まとめ	
テキスト	プリントで配布します (丁寧に説明しますが英語も使用します)。	参考文献	David Lodge and Nigel Wood eds., <i>Modern Criticism and Theory: A Reader</i> 3rd ed. (Pearson Longman, 2008) は一生使えます。但し旧版の方が便
評価方法	レポート (前期・後期計2回) :50% 発表内容:30% 授業中の討議:20%		

英文学演習 I		通年 4 単位	
英米詩を読む—ロマン派から現代まで		山田 美穂子 (やまだ みほこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	英語はコミュニケーションすなわち意思や情報伝達の道具であると同時に、その言葉をつかう者の心を映し出す働きをも担う。詩を原語で読み、考える、という行為の楽しさを知るために、優れた英米詩を紹介する。		
授業の概要	初回の講義のあと、テキスト前半の理論の箇所は解説を加えつつ輪読する。後半の作品については担当学生による発表を行う。また、随時関連する絵画や音楽、映画などを紹介する。後期期末には各自任意の作品ないし詩人を選びレポートを提出する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ 詩の定義と様式 第2回 テキスト講読 時代と作品 第3回 テキスト講読 ナシヨナリティと作品 第4回 テキスト講読 詩の「声」 第5回 テキスト講読 詩のテーマ 第6回 テキスト講読 詩の型 第7回 テキスト講読 音読と黙読 第8回 映画鑑賞 ディスカッション 第9回 作品解説・発表 第1班 第10回 作品解説・発表 第2班 第11回 作品解説・発表 第3班 第12回 作品解説・発表 第4班 第13回 作品解説・発表 第5班 第14回 作品解説・発表 第6班 第15回 発表の講評 前期まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 作品解説・発表 第1班 第2回 作品解説・発表 第2班 第3回 作品解説・発表 第3班 第4回 作品解説・発表 第4班 第5回 作品解説・発表 第5班 第6回 作品解説・発表 第6班 第7回 映画作品鑑賞 ディスカッション 第8回 担当発表 第1班 第9回 担当発表 第2班 第10回 担当発表 第3班 第11回 担当発表 第4班 第12回 担当発表 第5班 第13回 担当発表 第6班 第14回 発表の講評 後期のまとめ 第15回 現代英米詩の動向	
テキスト	研究社『新英米詩選—ロマン派から現代まで』(2000年)	参考文献	授業内に適宜紹介。
評価方法	講読担当・発表:50% 卒業レポート:50%		

英文学演習Ⅱ		通年 4 単位		
The Nation's Favourite Poemsを読む		松村 伸一 (まつむら しんいち)		
授業の到達目標 及びテーマ	イギリス人に人気の詩上位100篇を編んだ詩集 <i>The Nation's Favourite Poems</i> に収められた詩作品の読解を通して、イギリス人の文学と背景文化について理解を深める。多くの作品を読み進めていく中で、一篇、一行、いや一句でも良い、お気に入りの「ことば」を、参加者各自が見つけることを最大の到達目標と考えたい。			
授業の概要	講義形式。詩を朗読し、難しい言葉の意味や、構文などについて説明した上で、文学的な解釈を試みたり、文化的背景について触れたりする。ただし、授業参加者にも、主体的に詩のテキストの読解に取り組むことを期待する。そのための仕掛けとして、毎回何らかのコメントを書いて提出してもらう。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 Introduction:イギリス詩の歴史と技法 第2回 If: Not Waving But Drowning 第3回 The Listeners: The Lake Isle of Innisfree 第4回 The Lady of Shalott 第5回 The Daffodils: To Autumn 第6回 Ode to a Nightingale 第7回 The Cloths of Heaven: Remember: Leisure 第8回 Dulce Et Decorum Est: Dover Beach 第9回 To His Coy Mistress: The Tiger 第10回 Stop All the Clocks: Adlstop 第11回 The Soldier: Cargoes 第12回 Warning: Sea-fever 第13回 Westminster Bridge: How Do I Love Thee? 第14回 Fern Hill: The Windhover 第15回 前期まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 Elegy Written in a Country Churchyard 第2回 Ozymandias: Stopping by Woods: Everyone Sang 第3回 Do Not Go Gentle Into That Good Night: Sonnet XVIII 第4回 The Rime of the Ancient Mariner 第5回 Please Mrs Butler: Anthem for Doomed Youth 第6回 Naming of Parts: The Darkling Thrush 第7回 Kubla Khan: Home-Thoughts, From Abroad 第8回 Jabberwocky: The Owl and the Pussy-Cat 第9回 High Flight: The Road Not Taken: When You Are Old 第10回 I Remember, I Remember: Prayer Before Birth 第11回 Bloody Men: This be the Verse: Toilet 第12回 The Flea: Christmas 第13回 Abou Ben Adhem: Journey of Magi 第14回 She Walks in Beauty: Warming Her Pearls 第15回 後期まとめ		
テキスト	<i>The Nation's Favourite Poems. Foreword by Griff Rhys Jones. London: BBC Worldwide Ltd., 1996.</i>	参考文献	授業時に指示	
評価方法	レスポンスペーパー:30% 前期レポート:35% 後期レポート:35%			

米文学演習Ⅰ		通年 4 単位		
「失われた世代」とアーネスト・ヘミングウェイ		宮内 華代子 (みやうち かよこ)		
授業の到達目標 及びテーマ	ヘミングウェイの作品と研究書・書簡を取り上げ、彼の文学の特質を知り、それを生み出した時代との関連を理解する。それにより、ヘミングウェイの「人」と「作品」を多角的に捉え、波瀾に富み、数々のエピソードを生み出した彼の生涯についても学びます。ようこそ、ヘミングウェイ ワールドへ！			
授業の概要	授業の最初にヘミングウェイに関する研究論文(英文)からの抜粋を読み、内容に関して解説・解説を行う。テキストの作品・書簡は分担した学生の担当者がレポートを作成し、口頭発表と質疑応答により読み進める。後期の授業ではテーマ別のグループ研究を取り入れる。随時、課題について、記述式解答を提出する。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 通年授業、グループ研究についてガイダンス 第2回 学生の発表・討論、資料読解・解説、添削指導 第3回 Indian Camp 1 第4回 Indian Camp 2 第5回 Indian Camp 3 第6回 Indian Camp 4 第7回 ヘミングウェイの生涯 第8回 Doctor and the Doctor's Wife 1 第9回 Doctor and the Doctor's Wife 2 第10回 Doctor and the Doctor's Wife 3 第11回 Doctor and the Doctor's Wife 4 第12回 ロスト・ジェレクションとヘミングウェイ 第13回 バリ時代のヘミングウェイ 第14回 まとめ 第15回 『誰がために鐘は鳴る』DVD鑑賞、感想文提出	<p>【後期】</p> 第1回 グループ研究、資料検索方法図書館ガイダンス 第2回 グループ研究、題目決定 第3回 グループ研究、文献・資料収集 第4回 グループ研究、分担執筆計画 第5回 The End of Something 1 第6回 The End of Something 2 第7回 Soldier's Home 1 第8回 Soldier's Home 2 第9回 グループ研究論文提出、Soldier's Home 3 第10回 Hard-boiled Style 第11回 ヘミングウェイと女たち(4人の妻) 第12回 ヘミングウェイと戦争 第13回 フィッツジェラルドとヘミングウェイ 第14回 グループ研究論文発表会・質疑応答 第15回 まとめ		
テキスト	<i>Indian Camp & Other Stories of E.H.</i> (成美堂)、フィッツジェラルド/ヘミングウェイ往復書簡集(ダイナミックセララズ出版)	参考文献	<i>Carlos Baker: Hemingway</i> (Princeton Univ. Press)	
評価方法	前・後期試験:30% グループ研究レポート:20% 小テスト:20% レポート作成・発表:20% 後期レポート:10%			

米文学演習Ⅱ		通年 4 単位	
作品を通してアメリカ社会を考える		遠藤 恵子 (えんどう けいこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	Chicken Soup for the Soulや American Snap Shotなど比較的読みやすい作品や新聞のコラム、アメリカ文学の短編など様々な分野の英文を多読することで、英文を自力で読むこと、英文を英語のまま解釈することを目指す。同時に単なる英文和訳ではなく作品の背後にあるアメリカ社会やその歴史について考える。		
授業の概要	予習を前提として授業を進める。分担を決め各パートの責任者として発表するが、担当でない所でも質疑応答の過程で答えを求められる。単なる英文和訳ではなく、背後にある社会についても考える。出来る限り自分の力で読みこなせることを目指す。比較的やさしい英文の時は内容理解を確認後、英語で考えて解釈するように授業を英語で行う。		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに 授業の進め方 第2回 Chicken Soup for the Soul (現代のアメリカ社会) 第3回 Chicken Soup for the Soul 第4回 Chicken Soup for the Soul 第5回 Chicken Soup for the Soul 第6回 Chicken Soup for the Soul 第7回 大草原の小さな家 (開拓時代) 第8回 大草原の小さな家 第9回 大草原の小さな家 第10回 大草原の小さな家 第11回 若草物語 (アメリカンルネッサンス期) 第12回 若草物語 第13回 若草物語 第14回 若草物語 第15回 まとめ	【後期】 第1回 Bob Green のコラム 第2回 Bob Green のコラム 第3回 Bob Green のコラム 第4回 Bob Green のコラム 第5回 Bob Green のコラム 第6回 シャーウッド・アンダーソン (シカゴルネッサンス) 第7回 シャーウッド・アンダーソン 第8回 シャーウッド・アンダーソン 第9回 シャーウッド・アンダーソン 第10回 ケイト・ショパン (南部女性文学) 第11回 ケイト・ショパン 第12回 ケイト・ショパン 第13回 ケイト・ショパン 第14回 ケイト・ショパン 第15回 まとめ	
テキスト	プリント配布	参考文献	必要に応じて授業時に指示する
評価方法	授業参加度 発表:40% 試験、提出物:60%		

英語学演習Ⅰ		通年 4 単位	
生成統語論入門		仁科 弘之 (にしな ひろゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	言語能力の解明を目指す文法である「生成文法」の基本的発想を理解するクラスです。目標は、(1) 英語の基本的構文をこの枠組みで理解することができ、さらに(2) この枠組みで自らその構文の導出ができるようになる、ことです。(以下が扱う範囲ですが、進度は皆さんの理解度によって大きくかわる可能性があります。)		
授業の概要	英文テキストを、読める所は読んで理解に努めてきて下さい。講義をよく聞き板書をノートをしっかりとること。そうすれば必ず理解できます。辞書は語法の詳しいものを。多色ボールペンを使用してしっかりノートをとってください。何でも質問して積極的にクラスに参加して下さい。		
授業計画	【前期】 第1回 導入 第2回 ヒトは何故母語を話せる? : 文法と母語習得 第3回 文の仕組みは木で: 構造と樹形表示 第4回 品詞は実は3重構造: 範疇 第5回 文の内部構造: 構成素構造 第6回 構造は規則でつくる: 句構造規則と構成素構造 第7回 「代名詞」には種類がある! 第8回 「近距離」代名詞について: 束縛理論(1) 第9回 「長距離」代名詞について: 束縛理論(2) 第10回 品詞の松、竹、梅: Xバー理論の階層と投射 第11回 動詞の階層性: 動詞句構造、形容詞句構造 第12回 階層性の「部品」名: 主部、補部、指定部、付加部 第13回 拡張Xバー理論: 名詞、冠詞、決定詞句 第14回 時制も品詞だ!: 時制句と補文標識句 第15回 復習とまとめ	【後期】 第1回 Xバー理論の復習 第2回 動詞は主語、目的語におふだを振る: 意味役割(1) 第3回 意味役割(2) 第4回 動詞は動く、本当に: 主要部移動: V移動(1) 第5回 主要部移動: V移動(2) 第6回 時制も動く: 主要部移動、T移動とD Oの支え(1) 第7回 主要部移動: T移動とD Oの支え(2) 第8回 名詞を動かすと文が完成する: 名詞句移動と受動文 第9回 「て、に、を、、、」の文法: 格と受動文(1) 第10回 格と受動文(2) 第11回 主語は何処にいた?: 動詞句内主語仮説(1) 第12回 動詞句内主語仮説(2) 第13回 全部つかってアイルランドを: 繰上げ文と制御(1) 第14回 繰上げ文と制御(2) 第15回 まとめ	
テキスト	授業初回に英文プリントを配布。必ず出席のこと。解説プリント(日本語)も適宜配布。話をよく聞いてノートをとることが効果的な学習のための条件です。	参考文献	文献解題を配布し、クラスで随時紹介します。毎年皆さんが頑張り、良い学習成果をおさめています。今年も頑張りましょう。
評価方法	平常点:25% 講義の理解度:25% レポート(前、後期):50%		

英語学演習Ⅱ		通年 4 単位	
人々、言葉、文化はどのように絡み合い、そこから何が生まれようとしているのかを探る		江田 優子 (こうだ ゆうこ)	
授業の到達目標及びテーマ	本講では、言語と文化の変容、アイデンティティの危機という視点から人々を取り巻く国際化の問題を考えていきます。前期はシンガポールにおける英語使用の現状を踏まえ、言語と民族の関係を学んでいきます。後期は具体例として国際結婚の調査および発表を行います。前後期を通じて、言語、異文化への関心を高め、理解を深めることを目的とし		
授業の概要	原則的には教師の講義と学生の発表を交互に行っていきます。前期は言語と社会についての講義の後、教師の指定した国別言語状況調査とまとめを発表します。後期は異文化コミュニケーションの基礎を学んだのちグループ別に調査を行い、Power Pointを使用してまとめを発表します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクダクシヨ、DVD鑑賞 第2回 言語、国語、方言について改めて考えてみる 第3回 二言語使用、バイリンガル 第4回 サビア・ウォーフの仮説—虹の色・雪の言葉・「雪国」 第5回 言語変種とは 第6回 シンガポールの英語史—シングリッシュの誕生 第7回 シンガポールの英語史—コメディ番組、「良い英語運動」 第8回 発表グループ分け、準備 第9回 まとめテスト・DVD鑑賞 第10回 発表1 第11回 発表2 第12回 発表3 第13回 発表4 第14回 Review 第15回 予備日	<p>【後期】</p> 第1回 国家・人種・文化について、DVD鑑賞 第2回 世界地図のイメージ、好きな国・嫌いな国 第3回 マスコミュニケーションとステレオタイプ (偏見) 第4回 異文化コミュニケーションの基本となる考え方 第5回 言語コミュニケーション 第6回 非言語コミュニケーション 表情・ジェスチャー 第7回 非言語コミュニケーション 空間と対人距離・時間の感覚 第8回 まとめテスト、映画鑑賞・ディスカッション 第9回 国際結婚についての調査計画 第10回 発表1 第11回 発表2 第12回 発表3 第13回 発表4 第14回 国際結婚についての録画を見てディスカッション 第15回 予備日	
テキスト	必要に応じて資料配布。	参考文献	多民族社会の言語政治学 (ひつじ書房) 国際結婚 多言語化する家族とアイデンティティ (明石書房)
評価方法	テスト・発表:70% 授業参加度、宿題:30%		

英国文化演習		通年 4 単位	
イギリス文化史を学ぶ		梅垣 千尋 (うめがき ちひろ)	
授業の到達目標及びテーマ	おもに近代以降の「イギリス文化史」を学ぶ。イギリスは連合王国の内部やヨーロッパ、北米大陸、大英帝国との相互関係のなかで多層的な文化を生みだしてきた。階級、エスニシティ、人種、ジェンダーなどの絡み合いのなかで、私たちが「イギリス的」だと感じる文化がどのように創造され、変容し、さらに再創造されたのかを考える。		
授業の概要	全員が予習してくることを前提として、テキストの輪読を行う。レポーターによるプレゼンテーションやディスカッションなど、学生の積極的な参加が求められる。詳しい授業の進め方については、初回の授業で説明する。なお取り上げるテーマは、履修者の人数や関心にあわせて随時変更することもありうる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 INTRODUCTION 第2回 イギリス近現代史概説: 1600年~1800年 第3回 イギリス近現代史概説: 1800年~2010年 第4回 イギリス文化を考える時空間 第5回 文化史というアプローチ 第6回 制度と文化 (1) 宗教と文化 第7回 制度と文化 (2) 政治と文化 第8回 映画『クイーン』 第9回 制度と文化 (3) 労働と文化 第10回 制度と文化 (4) 福祉と文化 第11回 制度と文化 (5) 教育と文化 第12回 映画『クリスマス・キャロル』 第13回 「イギリス人らしさ」を読み解く (1) イギリス料理 第14回 「イギリス人らしさ」を読み解く (2) イギリス人と傘 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 後期INTRODUCTION 第2回 「イギリス人らしさ」を読み解く (3) 娯楽 第3回 映画『炎のランナー』 第4回 「イギリス人らしさ」を読み解く (4) ウェールズ 第5回 「イギリス人らしさ」を読み解く (5) 女たちのイギリス 第6回 映画『ヴェラ・ドレイク』 第7回 「悩めるイギリス」の文化的起源 (1) 第一次世界大戦 第8回 「悩めるイギリス」の文化的起源 (2) 無名兵士の追悼 第9回 映画『スカートの翼ひろげて』 第10回 「悩めるイギリス」の文化的起源 (3) 帝国の逆襲 第11回 「悩めるイギリス」の文化的起源 (4) ニューカルチャー 第12回 揺らぐアイデンティティ 第13回 「イギリス人」のゆくえ 第14回 映画『ラブ・アクチュアリー』 第15回 まとめ	
テキスト	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』昭和堂、2010年。	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業への参加姿勢:30% プレゼンテーション:30% レポート (2回):40%		

米国文化演習		通年 4 単位	
アメリカ黒人女性の語り継ぎを知る		岩本 裕子 (いわもと ひろこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ黒人の「はじめて」は、彼らの意志とは無関係にアフリカ大陸から「連れてこられて」アメリカ大陸に運ばれた1619年のことである。以後394年間のアメリカ黒人史を踏まえて、映像や音楽を通して描かれたアメリカ黒人女性について考えていきたい。彼女たちからの「語り継ぎ」は、女性として生きていく上での一つの指針となるだろう。		
授業の概要	シラバスに即して講義形式で進める。テキストの該当部分をしっかりと読み込んでから授業に参加すれば、講義をより深く理解できることになるだろう。毎回、出席確認用紙にその日の講義に関する質問をして回答を提出する。その質問内容を説き明かすような方法で、講義を進めるので、アメリカ史や黒人史に知識はなくても十分ついてこられるはずで		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 前期講義内容紹介 第2回 黒人俳優とアカデミー賞 第3回 黒人音楽の源流をたどる(黒人聖歌からヒップホップまで) 第4回 アフリカの大地から奴隷船に乗せられて 第5回 奴隷制度における黒人女性奴隷の役割 第6回 奴隷制度から解放された女性の生きる道 第7回 「どん底時代」と呼ばれる黒人差別定着時代 第8回 差別に対する怒りの表現—ジョゼフィンとベリー 第9回 黒人社会の内部告発 —『カラーパープル』と『ティナ』 第10回 映像で見る公民権運動① エメット・ティル少年殺害事件 第11回 映像で見る公民権運動② 草の根運動の指導者たち 第12回 若手黒人男性監督たちの黒人女性観 第13回 黒人女性が創る自らのための映像 第14回 学生最後の夏休み前に「贈る言葉」を！ 第15回 前期試験(手書きノート持ち込み)	<p>【後期】</p> 第1回 後期講義内容紹介 第2回 『語り継ぐ黒人女性』出版意図を知る 第3回 コラムを読む① 第4回 コラムを読む② 第5回 歓喜に包まれたオバマ大統領就任記念コンサート(2009) 第6回 世論を動かした重要人物: オブラ・ウインフレイ 第7回 黒人女性で最初のファーストレディ: ミシェル・オバマ 第8回 人生そのものを歌い描く① マリアンからアレサへ 第9回 人生そのものを歌い描く② 「ヘアスブレイ」を観る 第10回 スクリーンからの語りかけ① ベリーからダイアナへ 第11回 スクリーンからの語りかけ② ダイアナからビヨンセへ 第12回 ホイットニー・ヒューストンを悼む 第13回 黒人教会のクリスマス礼拝: 黒人女性歌手最初の舞台! 第14回 語り継ぐ黒人女性たち 第15回 後期試験(手書きノート持ち込み)	
テキスト	通年で2冊を使用: 岩本裕子『語り継ぐ黒人女性』(メタ・ブレン、2010年) 『アメリカ黒人女性の先駆者たち(仮)』(明石書店、2013年4月刊行予定)	参考文献	岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』(メタ・ブレン、1999年) 岩本裕子『アメリカ黒人女性の歴史』(明石書店、1997年初版 2001年重版)
評価方法	積極的な授業への参加:20% 夏休み中のレポート:20% 前期試験:25% 後期試験:35%		

英語表現特講		通年 4 単位	
英文法から学ぶ英語表現		宮内 華代子 (みやうち かよこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマ: 英文の構成を理解し、あるまとまった文章を英語で書けるようになる		
授業の概要	2冊のテキストに沿って、講義、学生の発表・演習を行う。テキストに沿って問題に取り組み、様々なトピックに関する模範英文を読解・暗記し、作文力増強に役立つ色々な形式の練習問題を解く。毎回授業の初めにリスニングによる小テスト、随時、自由作文作成などを実施。授業には予習、宿題をしてきて出席すること。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 文 第3回 語 第4回 品詞 第5回 名詞 第6回 代名詞 第7回 動詞 第8回 時制 第9回 形容詞 第10回 副詞 第11回 法 第12回 法助動詞 第13回 不定詞(名詞的用法) 第14回 不定詞(副詞的用法) 第15回 <Review>	<p>【後期】</p> 第1回 分詞 第2回 動名詞 第3回 関係代名詞 who, whom, which 第4回 関係代名詞 whose, what, that 第5回 関係副詞 where, when 第6回 関係副詞 why, how 第7回 直接話法 第8回 間接話法 第9回 接続詞 従属節 第10回 接続詞 条件節 第11回 パラグラフ 第12回 Writing on Topics 第13回 Writing English Correctly (1) 第14回 Writing English Correctly (2) 第15回 <Review>	
テキスト	一歩進んだ英作文(朝日出版社) 5分間ディクテーション(南雲堂)	参考文献	随時紹介
評価方法	前後期試験 :50% 自由作文:20% 平常点・小テスト:30%		

Listening and Discussion	通年 4 単位	
The course builds on the foundation students have already constructed.	カーン (KERN, D.L.)	
<p><授業の到達目標及びテーマ> By the end of the course, students should have developed confidence in their public speaking as well as conversation/discussion skills. They will also have been exposed to reading materials of an upper-intermediate level and will have encountered a range of options for continuing their English practice available on the Internet.</p> <p><授業の概要> The class will follow a listening/discussion format including several public-speaking presentations each semester. Active participation in class activities are required for success.</p> <p><授業計画> (前期) 第1回 Course Orientation 第2回 Textbook Lessons 1 - 3 第3回 Textbook Lessons 4 - 5; Extensive Reading Report 1 第4回 Textbook Lesson 6; Oral Presentation: "My Favorite Things" 第5回 Textbook Lessons 7 - 8; Extensive Reading Report 2 第6回 Textbook Lessons 9 - 11 第7回 Textbook Lesson 12 - 13; Extensive Reading Report 3 第8回 Textbook Lesson 14 Oral Presentation: "A Wonderful Book" 第9回 Textbook Lessons 15 - 16; Extensive Reading Report 4 第10回 Textbook Lessons 17 - 18 第11回 Textbook Lesson 19; Extensive Reading Report 5 第12回 Textbook Lesson 20; Oral Presentation: "A Great Place to Visit" 第13回 Textbook Review; Extensive Reading Report 6 第14回 Presentation preparation 第15回 Vocabulary Notebook check; Final presentation</p> (後期) 第1回 Oral mini-speech and group discussions: "My Summer" ; Textbook Lesson 21 第2回 Textbook Lessons 22 - 24 第3回 Textbook Lessons 25 - 26; Extensive Reading Report 1 第4回 Textbook Lessons 27; Oral Presentation: "A Great Person" 第5回 Textbook Lessons 28 - 29; Extensive Reading Report 2 第6回 Textbook Lessons 30 - 31 第7回 Textbook Lessons 32 - 33; Extensive Reading Report 3 第8回 Textbook Lessons 34; Oral Presentation: "Great Inventions" 第9回 Textbook Lessons 35 - 36; Extensive Reading Report 4 第10回 Textbook Lessons 37 - 38 第11回 Textbook Lesson 39; Extensive Reading Report 5 第12回 Textbook Lesson 40; Oral Presentation: "Hope for the Future" 第13回 Textbook Review; Extensive Reading Report 6 第14回 Group presentation preparation 第15回 Vocabulary Notebook check; Final (group) presentation: "Our Wonderful World" <p><テキスト> <i>Talk Your Head Off</i> by Brana Rish West</p> <p><参考文献> なし</p> <p><評価方法> Participation 30%; Presentations 25%; Reading Reports/Vocabulary Notebook 25%; Final Presentations (10% each semester) 20%</p>		

翻訳論		通年 4 単位
日本文学の英訳、英米文学の和訳を比較する		井原 真理子 (いはら まりこ)
授業の到達目標及びテーマ	○翻訳という行為を意識し、英文和訳との違いなど、その問題点や特徴を理解する。 ○具体的な翻訳例と原典を比較し、辞書の定義や解説を丁寧に読み比べつつ、ある訳語がなぜ使われたのか、作品の展開上どのような役割を果たしているのかを考察し、自分の言葉で論じることができるようになる。	
授業の概要	まずは代表的な翻訳理論を取り上げ、翻訳の特性や問題点を紹介する。前期は、一回で読み切れる短い英詩や和歌等の複数の翻訳事例を比較する。英和・和英辞書や国語辞典の定義、解説を丁寧に読み、各訳のニュアンスの違いを理解し、そこから見えてくる訳者の解釈や原典の新しい姿を考察する。後期は小説を読み、学生に翻訳比較の発表をさせ	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業紹介：俳句の原典と英訳比較 第2回 翻訳の理論について1 第3回 翻訳の理論について2 第4回 和歌を読む：「花の色は…」 第5回 英訳三種比較 第6回 「花」と“flower” 第7回 「色」と“color” 第8回 和歌を読む：「淡路島…」 第9回 英訳と原典比較 第10回 英詩を読む：“The Uses of Light” 第11回 和訳と原典比較 第12回 英詩を読む：“The Mirror” 第13回 和訳と原典比較 第14回 俳句と英訳比較 第15回 前期小論文について：「月やあらぬ…」	<p>【後期】</p> 第1回 小テスト（辞書持ち込み可） 第2回 J. Austen 著 <i>Emma</i> を読む：エマとは誰？ 第3回 エマの家族とテイラー先生の結婚 第4回 エマの孤独 第5回 ウェストン氏の過去 第6回 フランク・チャーチル 第7回 ベイツ一家とゴダード夫人 第8回 ハリエット・スミス 第9回 発表分担、打ち合わせ 第10回 翻訳二作品比較 第11回 学生による発表1 第12回 学生による発表2 第13回 後期小論文について：『エマ』翻訳比較 第14回 学生による発表3 第15回 『エマ』の映画比較鑑賞、まとめ
テキスト	授業中に随時配布する。	参考文献 辞書は必ず持参しましょう。『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）がおすすめです。電子辞書にも入っている場合がありますから、探してみましょう
評価方法	平常点:40% 学期末小論文:60%	

通訳法		通年 4 単位
日英逐次通訳の実践的な訓練を通じて英語力とコミュニケーション能力の向上をはかる		梅 佳代 (うめ かよ)
授業の到達目標及びテーマ	発音やスピードの違いを乗り越えて英語で話の筋を追うことができるようになり、平易な英語でメッセージを伝えることができるようになること、企業やコミュニティにおいて簡単な逐次通訳ができるようになることを目指す。	
授業の概要	授業は、第一回の講義を除いては、普通教室またはLL教室での逐次通訳演習が中心となる。国籍の異なるスピーカーによるプレゼンテーション素材を使い、話の要点を理解し、平易なことばで伝達する練習を繰り返す。逐次通訳の基本的な訓練方法（シャドーイング、パラフレーズ、ノートテイクなど）も採り入れる。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 概要説明と講義—通訳とは何か 第2回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第3回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第4回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第5回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第6回 逐次通訳演習（英→日）、センテンスリプロダクション 第7回 逐次通訳演習（英→日）、センテンスリプロダクション 第8回 逐次通訳演習（英→日）、パラフレーズ 第9回 逐次通訳演習（英→日）、パラフレーズ 第10回 逐次通訳演習（英→日）、ノートテイク 第11回 逐次通訳演習（英→日）、ノートテイク 第12回 逐次通訳演習（英→日）、ノートテイク 第13回 逐次通訳演習（英→日）、ノートテイク 第14回 逐次通訳演習（英→日）、プレゼンテーション 第15回 逐次通訳演習（英→日）、プレゼンテーション	<p>【後期】</p> 第1回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第2回 逐次通訳演習（日→英）、音読 第3回 逐次通訳演習（英→日）、音読 第4回 逐次通訳演習（日→英）、音読 第5回 逐次通訳演習（英→日）、センテンスリプロダクション 第6回 逐次通訳演習（日→英）、センテンスリプロダクション 第7回 逐次通訳演習（英→日）、パラフレーズ 第8回 逐次通訳演習（日→英）、パラフレーズ 第9回 逐次通訳演習（英→日）、シャドーイング 第10回 逐次通訳演習（日→英）、シャドーイング 第11回 逐次通訳演習（英→日）、シャドーイング 第12回 逐次通訳演習（日→英）、シャドーイング 第13回 逐次通訳演習（英→日）、プレゼンテーション 第14回 逐次通訳演習（日→英）、プレゼンテーション 第15回 まとめ
テキスト	毎回プリントを配布する	参考文献 小松達也『通訳の技術』研究社（2005）
評価方法	通訳実技:40% 小テスト:40% 授業への貢献度:20%	

比較文化論		通年 4 単位	
中国の「纏足」		古田島 洋介 (こたじま ようすけ)	
授業の到達目標 及びテーマ	中国の奇習「纏足」に関する英文を閲読することにより、女性の生き方について知識が深まるとともに、本格的な英文を正確に読解できるようになる。英文専攻科だからという狭い理由で欧米のみに目を注ぐことなく、ぜひ日本に多大な影響を与えてきた中国文化の一端にも触れてほしい。		
授業の概要	完全な演習形式を採る。受講者に英文を訳読してもらい、英文読解の要領を詳細に説明するとともに、比較文化論の視点から種々の解説を加えてゆく。受講者は積極的に質問を提出すること。英文読解力の向上も本授業の大きな眼目である。愚問ではないかと懸念する必要はまったくない。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業の趣旨・方法およびテキストなどの説明 第2回 第1章：Introductory Remarks 訳読 第3回 同上：目的格の of について 第4回 同上：同格の of について *小レポート（1） 第5回 同上：punctuation について 第6回 同上：colon の用法 *小レポート（2） 第7回 同上：semicolon の用法 第8回 同上：付加句の訳法 *小レポート（3） 第9回 同上：関係節の訳法 第10回 同上：二重否定の訳法 *小レポート（4） 第11回 同上：人称代名詞の訳法 第12回 同上：時制について *小レポート（5） 第13回 同上：if 節のない仮定法の訳法 第14回 同上：文頭 only による倒置構文 第15回 同上：まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 第2章：Origin and Presence 訳読 第2回 同上：修飾語句の捉え方 1：形容詞句 第3回 同上：修飾語句の捉え方 2：副詞句 第4回 同上：without+最上級の訳法 *小レポート（6） 第5回 同上：関係代名詞 1：制限用法 第6回 同上：関係代名詞 2：非制限用法 第7回 同上：強調構文 第8回 同上：英英辞典の使い方 1：何を調べるのか？ 第9回 同上：英英辞典の使い方 2：どう調べるのか？ 第10回 同上：形容詞の訳法 1：褒義と貶義 第11回 同上：形容詞の訳法 2：副詞としての訳出法 第12回 同上：訳法としての品詞転換 1：形容詞+名詞 第13回 同上：訳法としての品詞転換 2：副詞+動詞 第14回 まとめ（1）翻訳の要領 第15回 まとめ（2）纏足の歴史	
テキスト	Howard S. Levy, <i>Chinese Footbinding, the History of a Curious and Erotic Custom.</i> ただし、訳読用の教材はプリントで配付する。	参考文献	ドロシー・コウ『纏足の靴』（平凡社）
評価方法	前期レポート（翻訳）：15% 後期レポート（翻訳）：15% 小レポート（複数）：30% 学年末実力試験：20% 発表点：10% 積極性：10%		

西洋文化史		通年 4 単位	
古代ギリシア・ローマの文学と文化		河島 思朗 (かわしま しろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	ヨーロッパの古典文化、すなわち古代ギリシア・ローマに関して、代表的な文学作品を足掛かりに、文学・歴史・社会・文化・神話について理解する。また、古典文化がその後のヨーロッパに与えた影響について理解する。		
授業の概要	古代ギリシア・ローマの代表的な文学作品を題材としながら、背景となるギリシアとローマの文化を理解する。前期はギリシア文学を対象とし、後期はローマの文学（ラテン文学）を対象としながら、それぞれの文学が有する社会的意義を明らかにする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：西洋古典学とはなにか 第2回 ホメロス『イリアス』（1）：口承叙事詩 第3回 ホメロス『イリアス』（2）：人間と運命 第4回 ホメロス『オデュッセイア』 第5回 ヘシオドス：神話の世界 第6回 抒情詩と古代オリンピック 第7回 古代アテナイ社会 第8回 ギリシア悲劇と民主政 第9回 アイスキュロス『アガメムノン』 第10回 ソフォクレス『アンティゴネ』 第11回 ギリシア喜劇 第12回 ソクラテス文学：哲学と社会 第13回 散文 第14回 ヘレニズム文学 第15回 これまでのまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 古代ローマとラテン文学 第2回 ウェルギリウス『牧歌』（1）：パストラルの伝統 第3回 ウェルギリウス『牧歌』（2）：詩人の社会的意義 第4回 ウェルギリウス『農耕詩』 第5回 抒情詩（1）：ジャンルと特徴 第6回 抒情詩（2）：ホラーティウス 第7回 恋愛詩：ラテン文学の特性 第8回 ウェルギリウス『アエネーイス』（1）：歴史と宗教 第9回 ウェルギリウス『アエネーイス』（2）：建国叙事詩 第10回 オウィディウス『変身物語』（1）：神話を伝える物語 第11回 オウィディウス『変身物語』（2）：愛をめぐる神話 第12回 悲劇・喜劇 第13回 散文・歴史 第14回 書簡文学 第15回 これまでのまとめ	
テキスト	テキストは使用せず、プリントを使う。	参考文献	授業中に示す。
評価方法	コメントシート：30% 期末試験（前期）：35% 期末試験（後期）：35%		

女性学特講		通年 4 単位	
女性解放思想と現代		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の各国の女性解放思想の歴史的過程を学び、現代の女性たちの生き方の背景にある社会のジェンダー構造について理解する。 恋愛や結婚、出産、子育て、女性労働、美の規範など現代の女性を取り巻く諸問題を理解する。 		
授業の概要	全体を歴史編、現代の世界の女性編、現代の日本の女性編にわけるとして、歴史編では、女性解放運動の歴史を学ぶ。現代の世界の女性編では、政治、結婚、子育て、労働などに焦点をあて、各国の女性たちが現在直面している問題を日本と比較検討する。現代の日本の女性編では、現代の日本の女性をめぐる諸問題を履修者が調査研究を行い発表する。		
授業計画	【前期】 第1回 現代の女性たちをめぐる諸問題とは何か 第2回 女性解放運動の歴史①結婚・家族 第3回 ②政治 第4回 ③労働 第5回 ④教育 第6回 ⑤性暴力 第7回 ⑥文化・芸術 第8回 世界の女性①北欧 第9回 ②フランス・イギリス 第10回 ③アメリカ 第11回 ④中国、韓国 第12回 ⑤中東・アフリカ 第13回 資料の調べ方 第14回 資料収集 第15回 研究テーマの検討	【後期】 第1回 研究発表 第2回 研究発表 第3回 研究発表 第4回 研究発表 第5回 研究発表 第6回 研究発表 第7回 研究発表 第8回 研究発表 第9回 研究発表 第10回 研究発表 第11回 研究発表 第12回 研究発表 第13回 研究発表 第14回 研究発表 第15回 研究発表	
テキスト	特に定めなし。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 発表:50%		

国際関係論		通年 (前期) 4 単位	
国際関係論入門I 国際関係の歴史と国際政治学・国際関係論の基本概念		芝崎 厚士 (しばさき あつし)	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義の到達目標は、(1) ウェストファリア体制成立から21世紀初頭に至る国際関係の歴史の基本的な流れを理解すること(2) 国際関係を分析するさまざまな理論や分析概念を、古典的なものから最新のものまで幅広く理解すること、(3) 2012年現在の国際関係の動きを(1)(2)に基づいて分析する考え方を身につけること、である。		
授業の概要	グローバル社会で生きていく上で学んでおくべき、国際関係論・国際政治学の基本的な歴史と理論、考え方を初学者にわかりやすく教えます。授業はテスト形式で、(1) 報道を分析するニュースウォッチ(2) 小論文のリーディング(3) 映像や音楽を分析するメディアウォッチで構成されます。毎回答案用紙を提出して、成績評価を行います。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：世界と自分、自分と世界の関わり 第2回 学問としての国際関係論・国際政治学とは何か 第3回 国際関係の歴史1 17世紀から19世紀まで 第4回 国際関係の歴史2 20世紀 2つの世界大戦と冷戦 第5回 映像分析1 20世紀とは何だったのか 第6回 国際関係の歴史3 21世紀 冷戦崩壊から現在まで 第7回 国際関係論の基本概念1 主権国家 第8回 国際関係論の基本概念2 多国籍企業・NGO 第9回 国際関係論の基本概念3 国際関係におけるパワー 第10回 映像分析2 グローバルな世界と日本のかかわりを考える 第11回 国際関係の理論1 リアリズムと勢力均衡 第12回 国際関係の理論2 リベラリズムと相互依存 第13回 国際関係の理論3 コンストラクティビズムと社会変化 第14回 映像分析3 21世紀の世界を考える 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

国際関係論		通年（後期）	
国際関係論入門I グローバル社会の現状と課題		芝崎 厚士（しばさき あつし）	
授業の到達目標 及びテーマ	本講義の到達目標は、（１）21世紀初頭のグローバルな社会が抱える諸問題を基礎から理解する（２）それらの問題を解決するためになされている取り組みを幅広く理解する（３）それらの問題を解決するために必要な考え方や物の見方を習得することである。		
授業の概要	前期の「国際関係論A」では基礎的な知識を学び、後期の「国際関係論B」では現在のグローバル社会で生じている環境問題、グローバル資本主義、格差、貧困、援助、子どもや女性の人権、紛争といった諸問題を取りあげます。ニュースウォッチ、リーディング、メディアウォッチを組み合わせたテスト形式で行い、多様なメディア・リテラシーを養い		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：君たちはどう世界に生きているか 第2回 グローバリゼーションとは何か 第3回 国際関係からグローバル関係へ 第4回 グローバル市場経済 第5回 映像分析：グローバル経済の功罪 第6回 地球環境問題 第7回 子ども・女性と人権 第8回 紛争とナショナリズム 第9回 映像分析：紛争の中の弱者達 第10回 紛争解決と平和構築 第11回 貧困と開発 第12回 グローバルな安全保障 第13回 映像分析2：マルチチユードの挑戦 第14回 グローバル市民社会 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。.
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
文化におけるキリスト教の影響力		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教の歴史と伝統を知り、その展開に関する知識を得ると共に現在のキリスト教が大半を占める諸国の文化におけるキリスト教の影響力を理解させることを目標とする。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始まります。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等）一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の話に関するミニクイズをします。それらは中間テストや期末テストの基礎となります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 コース紹介 第2回 マリア 第3回 イエスの生涯 第4回 初期ローマ時代 第5回 コプトキリスト教 第6回 ヴィザンティン 第7回 ケルズ書 第8回 中間テスト 第9回 アイオナ 第10回 大聖堂 第11回 ルネサンス芸術 第12回 黒人霊歌 第13回 誰が隣人 第14回 平和を送る人生 第15回 前期まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 マグダラ・マリア 第2回 イエスとその文化 第3回 日本文化史とキリスト教 第4回 高等教育とキリスト教 第5回 アーミッシュ 第6回 テゼ 第7回 ニック・ブイチチ 第8回 賀川豊彦 第9回 中間テスト 第10回 研究発表・意見交換1 第11回 研究発表・意見交換2 第12回 研究発表・意見交換3 第13回 研究発表・意見交換4 第14回 研究発表・意見交換5 第15回 後期まとめ	
テキスト	ハンディーバイブル、配布文書	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常点(通年)：30% 中間テスト(前期)：15% 期末テスト(前期)：20% 中間テスト(後期)：15% 研究発表(後期)：20%		

家政特別研究	通年 4 単位
修了論文作成と修了作品制作	
<p>【担当教員】 茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）、宇田 美江（うだ みえ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、河見 誠（かわみ まこと）、谷本 信也（たにもと しんや）、露久保 美夏（つゆくぼ みか）、永田 久雄（ながた ひさお）、廣田 道夫（ひろた みちお）</p> <p>本科2年次の「家政学研究」の成果をふまえて、さらに専門的な研究を進めます。生活問題を総合的に深く理解し、より高度な研究能力を獲得することを目的とします。「家政特別研究」の研究分野は、上記担当者順に「被服構成」「女性・キャリア論」「生活用具論」「生命倫理」「食品学」「調理文化」「人間工学」「生活環境論」です。2年次の時の「家政学研究」の内容をそのまま続けて研究しなければいけないということはありません。どのようなテーマで研究をしたいか、各担当の先生と十分に話し合ってから研究分野を決定してください。</p> <p>授業の到達目標、授業の概要、授業計画、テキスト、参考文献および評価方法は、各担当者の説明を参照してください。</p>	

家政特別研究	通年 4 単位			
被服文化論	茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）			
授業の到達目標 及びテーマ	衣服について様々な角度からアプローチを試みる。各自が衣生活の中から関心のある課題を見つけ、製作や研究に取り組む。衣服への理解が深まることにより、衣生活を創造的で豊かなものとするができる。			
授業の概要	衣服製作または研究等の様々な角度から衣服に関するテーマを選択する。製作の場合は被服構成、手工芸や衣裳文化などの分野から作品を考え、素材を選び、配色やデザインを探りながら進めていく。製作過程での疑問や問題点を明らかにし、その対処を考えていく個別指導が中心となる。			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 方法を探る 第3回 課題製作 第4回 自由製作 第5回 製作の検討 第6回 研究テーマを探る 第7回 研究テーマの選択 第8回 各自テーマの個別指導① 第9回 各自テーマの個別指導② 第10回 各自テーマの個別指導③ 第11回 各自テーマの個別指導④ 第12回 各自テーマの個別指導⑤ 第13回 各自テーマの個別指導⑥ 第14回 各自テーマの個別指導⑦ 第15回 各自テーマの個別指導⑧ </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> 第1回 各自テーマの個別指導⑨ 第2回 各自テーマの個別指導⑩ 第3回 各自テーマの個別指導⑪ 第4回 各自テーマの個別指導⑫ 第5回 各自テーマの個別指導⑬ 第6回 各自テーマの個別指導⑭ 第7回 各自テーマの個別指導⑮ 第8回 各自テーマの個別指導⑯ 第9回 各自テーマの個別指導⑰ 第10回 各自テーマの個別指導⑱ 第11回 各自テーマの個別指導⑲ 第12回 各自テーマの個別指導⑳ 第13回 各自テーマの仕上げ 第14回 各自テーマの完成 第15回 各自テーマの発表 </td> </tr> </table>	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 方法を探る 第3回 課題製作 第4回 自由製作 第5回 製作の検討 第6回 研究テーマを探る 第7回 研究テーマの選択 第8回 各自テーマの個別指導① 第9回 各自テーマの個別指導② 第10回 各自テーマの個別指導③ 第11回 各自テーマの個別指導④ 第12回 各自テーマの個別指導⑤ 第13回 各自テーマの個別指導⑥ 第14回 各自テーマの個別指導⑦ 第15回 各自テーマの個別指導⑧	<p>【後期】</p> 第1回 各自テーマの個別指導⑨ 第2回 各自テーマの個別指導⑩ 第3回 各自テーマの個別指導⑪ 第4回 各自テーマの個別指導⑫ 第5回 各自テーマの個別指導⑬ 第6回 各自テーマの個別指導⑭ 第7回 各自テーマの個別指導⑮ 第8回 各自テーマの個別指導⑯ 第9回 各自テーマの個別指導⑰ 第10回 各自テーマの個別指導⑱ 第11回 各自テーマの個別指導⑲ 第12回 各自テーマの個別指導⑳ 第13回 各自テーマの仕上げ 第14回 各自テーマの完成 第15回 各自テーマの発表	
<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 方法を探る 第3回 課題製作 第4回 自由製作 第5回 製作の検討 第6回 研究テーマを探る 第7回 研究テーマの選択 第8回 各自テーマの個別指導① 第9回 各自テーマの個別指導② 第10回 各自テーマの個別指導③ 第11回 各自テーマの個別指導④ 第12回 各自テーマの個別指導⑤ 第13回 各自テーマの個別指導⑥ 第14回 各自テーマの個別指導⑦ 第15回 各自テーマの個別指導⑧	<p>【後期】</p> 第1回 各自テーマの個別指導⑨ 第2回 各自テーマの個別指導⑩ 第3回 各自テーマの個別指導⑪ 第4回 各自テーマの個別指導⑫ 第5回 各自テーマの個別指導⑬ 第6回 各自テーマの個別指導⑭ 第7回 各自テーマの個別指導⑮ 第8回 各自テーマの個別指導⑯ 第9回 各自テーマの個別指導⑰ 第10回 各自テーマの個別指導⑱ 第11回 各自テーマの個別指導⑲ 第12回 各自テーマの個別指導⑳ 第13回 各自テーマの仕上げ 第14回 各自テーマの完成 第15回 各自テーマの発表			
テキスト	<table border="0"> <tr> <td>課題やテーマに応じてテキストやプリントを配布する。</td> <td>参考文献</td> <td>随時紹介する。</td> </tr> </table>	課題やテーマに応じてテキストやプリントを配布する。	参考文献	随時紹介する。
課題やテーマに応じてテキストやプリントを配布する。	参考文献	随時紹介する。		
評価方法	作品評価:60% 平常点:40%			

家政特別研究		通年 4 単位	
女性・キャリア論		宇田 美江（うだ みえ）	
授業の到達目標 及びテーマ	職業を中心とした女性の幅広い生き方をテーマとして、最終的に各自が自分の生き方の軸を持ち、将来のイメージを確立することを目的とする。授業で学んだ幅広い内容から、それぞれの関心のある項目をテーマとし、その成果を修了論文としてまとめることで将来の自己のキャリア形成に活かしてほしい。		
授業の概要	前期は、キャリアに関する文献などを読みつつ、さまざまな企業や仕事、働く女性などを調査したり、それを基に発表や議論を中心に行う。後期は、各自が興味のあるテーマを選び、卒業論文の作成を中心に行う。課題（文献を読んでくる、報告を用意する）を与えるため、その際は必ず準備して臨むこと。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 発表と討論 第13回 発表と討論 第14回 発表と討論 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 中間報告 第2回 報告と討論 第3回 報告と討論 第4回 報告と討論 第5回 報告と討論 第6回 報告と討論 第7回 報告と討論 第8回 報告と討論 第9回 報告と討論 第10回 報告と討論 第11回 報告と討論 第12回 論文仮提出と手直し 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表と論文提出	
テキスト	開講時に指示する。	参考文献	学生各自のテーマに合わせて、適宜紹介する。
評価方法	発表:30% 授業への参画度:40% 卒業論文:30%		

家政特別研究		通年 4 単位	
道具とヒトとの関わりのデザイン		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・道具やシステムあるいは視覚効果におけるデザインの方針やプロセスをより深く理解する。 ・デザインに関わる研究や制作をとおして、問題の発見と解決の能力を高める。 		
授業の概要	道具やシステムの実用性あるいは遊びの中から各自のテーマを選び、比較考察を中心とした研究または試行錯誤を伴う制作を行う。前期の前半は、各自のテーマごとに関連する課題を課すことがある。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス／テーマの持ち方・研究の進め方 第2回 各自のテーマを説明・関連課題1の設定 第3回 関連課題1 制作開始 第4回 関連課題1 続き 第5回 関連課題1の講評・関連課題2の選択 第6回 関連課題2 制作開始 第7回 関連課題2 続き 第8回 関連課題2 続き 第9回 関連課題2の講評・各自のテーマを確認 第10回 各自のテーマによる研究 第11回 各自のテーマによる研究 第12回 各自のテーマによる研究 第13回 各自のテーマによる研究 第14回 各自のテーマによる研究 第15回 研究の中間発表	【後期】 第1回 各自の研究テーマ確認 第2回 各自のテーマによる研究 スケジュールの確認 第3回 各自のテーマによる研究 第4回 各自のテーマによる研究 第5回 各自のテーマによる研究 第6回 各自のテーマによる研究 第7回 各自のテーマによる研究 第8回 各自のテーマによる研究 第9回 研究の中間発表2 テーマの最終確認 第10回 各自のテーマによる研究 第11回 各自のテーマによる研究 状況の確認 第12回 各自のテーマによる研究 第13回 各自のテーマによる研究 第14回 最終チェック 第15回 研究発表と講評	
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 提出作品:80%		

家政特別研究		通年 4 単位	
生命倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標及びテーマ	「いのち」を豊かに生きるために、自分自身の問題として「いのちについて考える」こと、これがこの授業の第一のねらいである。そして皆さん自身のそれぞれのスタンスからいのちを生かす「ケアの関わりを学ぶ」こと、これがこの授業の第二のねらいである。		
授業の概要	授業は討論、話し合いが中心となる。予め、指示された課題（文献を読んでくる、報告を用意する、論文を指示されたところまで書いてくる、など）を準備して授業に臨むこと。扱うテーマは、皆の希望を聞きながら、随時決めていく（下記授業内容は、あくまで一例である）。なお夏休みに、論文の中間報告のための合宿を行う可能性もある。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクッション 第2回 生命倫理の課題1 (例: 人工生殖の現状) 第3回 " (例: 人工生殖の法) 第4回 " (例: 人工生殖の倫理) 第5回 生命倫理の課題2 (例: 医療と人間) 第6回 " (例: ホスピスケア) 第7回 " (例: 在宅ホスピス) 第8回 生命倫理の課題3 (例: 生命といのち) 第9回 " (例: いのちの輝く瞬間) 第10回 " (例: いのちの教育) 第11回 生命倫理の課題4 (例: なぜ人を殺してはいけないか) 第12回 " (例: 自殺と現代社会) 第13回 " (例: 安楽死) 第14回 " (例: 尊厳死) 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 修了論文中間報告 第2回 論文に関連するテーマを選んだ討論 第3回 論文に関連するテーマを選んだ討論 第4回 論文に関連するテーマを選んだ討論 第5回 論文に関連するテーマを選んだ討論 第6回 論文に沿った報告と討論 第7回 論文に沿った報告と討論 第8回 論文に沿った報告と討論 第9回 論文に沿った報告と討論 第10回 論文に沿った報告と討論 第11回 論文に沿った報告と討論 第12回 論文に沿った報告と討論 第13回 論文に沿った報告と討論 第14回 論文仮提出とフリーフィング 第15回 論文提出と一年のふりかえり	
テキスト	適宜指示する。	参考文献	河見『現代社会と法原理－自由、生命、福祉、平等、平和のゆくえ』（成文堂） 葛生・河見・伊佐『新・いのちの法と倫理』（法律文化
評価方法	修了論文:75% 授業への参加度合い:25%		

家政特別研究		通年 4 単位	
食品学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標及びテーマ	本科で学んだものを基礎とし、食品学関連事項の中で各自がテーマとしたいものを自身で追求して新しい知見を得、論文にまとめることまでを行う。		
授業の概要	1年間を通して一つのテーマで研究が進むように授業を進め、一人で学びとれるようにまで育ててゆく。決められた授業時間のみではなく、空いた時間も使わなければならない。		
授業計画	【前期】 第1回 研究の進め方、論文作成について 第2回 テーマの選択その1 第3回 テーマの選択その2 第4回 テーマの決定 第5回 特別研究実験1 第6回 特別研究実験2 第7回 特別研究実験3 第8回 特別研究実験4 第9回 特別研究実験5 第10回 特別研究実験6 第11回 特別研究実験7 第12回 特別研究実験8 第13回 特別研究実験9 第14回 特別研究実験10 第15回 中間総括	【後期】 第1回 特別研究実験11 第2回 特別研究実験12 第3回 特別研究実験13 第4回 特別研究実験14 第5回 特別研究実験15 第6回 特別研究実験16 第7回 特別研究実験17 第8回 特別研究実験18 第9回 特別研究実験19 第10回 特別研究実験20 第11回 今までのまとめと論文作成1 第12回 今までのまとめと論文作成 第13回 今までのまとめと論文作成 第14回 今までのまとめと論文作成 第15回 論文作成と発表	
テキスト	特になし。各自のテーマ決定後にそれぞれ異なるテキストを決定する。	参考文献	各自のテーマ決定後にそれぞれ異なる参考文献を自身でも検索し読み込むこと。
評価方法	授業への積極的な態度:50% 論文内容の評価:50%		

家政特別研究		通年 4 単位
調理文化	露久保 美夏 (つゆくぼ みか)	
授業の到達目標 及びテーマ	学生各自が関心をもつ食に関わる事項について調理文化の視点から研究を行い、食に関する知識をより深め、豊かな生活を創造できる能力を養う。また、研究を進めていく過程で、問題の捉え方、研究の方法などを理解することにより、現代生活の諸問題を解決する生活者としての力を養う。さらに、論文のまとめ方、発表の仕方などを理解する。	
授業の概要	初めに調理科学的な研究手法を学び、結果のまとめ方を理解する。続いて研究論文を読みながら各自の研究テーマを決め、研究に関する文献資料を調査・収集し、研究計画書を作成する。その後は、各自のテーマに沿って資料調査、アンケート調査、調理科学実験などを行い研究を進め、論文を作成し発表する。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 調理文化ゼミの概要説明 第2回 研究手法の理解1 色差の測定 第3回 研究手法の理解2 硬さの測定 第4回 研究手法の理解3 官能評価 第5回 実験結果のまとめ1 機器測定結果の扱い方 第6回 実験結果のまとめ2 官能評価結果の扱い方 第7回 論文読解と発表1 グループA 第8回 論文読解と発表2 グループB 第9回 研究計画書の提出 第10回 各自のテーマに沿って研究を進める1 第11回 各自のテーマに沿って研究を進める2 第12回 各自のテーマに沿って研究を進める3 第13回 各自のテーマに沿って研究を進める4 第14回 各自のテーマに沿って研究を進める5 第15回 中間報告会、レポート提出	<p>【後期】</p> 第1回 後期研究計画・先行研究の発表 第2回 各自のテーマに沿って研究を進める1 第3回 各自のテーマに沿って研究を進める2 第4回 各自のテーマに沿って研究を進める3 第5回 各自のテーマに沿って研究を進める4 第6回 中間報告会、レポート提出 第7回 各自のテーマに沿って研究を進める5 第8回 各自のテーマに沿って研究を進める6 第9回 各自のテーマに沿って研究を進める7 第10回 各自のテーマに沿って研究を進める8 第11回 各自のテーマに沿って研究を進める9 第12回 論文提出1 第13回 論文返却、修正 第14回 論文提出2、発表資料作成 第15回 論文発表会
テキスト	学生各自のテーマに沿って適宜配布する。	参考文献 学生各自のテーマに沿って随時紹介する。
評価方法	論文:60% 提出物:20% 平常点:20%	

家政特別研究		通年 4 単位
人間工学	永田 久雄 (ながた ひさお)	
授業の到達目標 及びテーマ	生活者のQOL向上のための生活と生活環境づくりとは何かについて、実技指導を通して深く考えていただき、その上で、各自のテーマに沿って卒業論文をまとめてもらいます。前期では、基礎技法の習得、論文執筆のための基礎について学びます。後期では、卒論のテーマ選定を行ったうえで、各自の課題ごとに論文の執筆を行います。	
授業の概要	前期は全員で同じ課題に取り組み、人間工学に関する基礎技法について学びます。各自が関心のあるテーマについて課題を絞り込みます。後期は各自の希望研究課題について取り組み、研究論文を作成します。進捗状況に応じて、適宜、シラバスは修正、変更することがあります。	
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 総合的な解説 第2回 過去の卒論の読後感の発表 第3回 基本的な論文執筆作成のポイントの解説 第4回 人間工学の基礎演習 (高齢者疑似体験と動作分析) 第5回 人間工学の基礎演習 (妊婦疑似体験と動作分析) 第6回 人間工学の基礎演習 (騒音測定) 第7回 人間工学の基礎演習 (照度測定) 第8回 人間工学の基礎演習 (心拍測定) 第9回 人間工学の基礎演習 (官能検査) 第10回 人間工学の基礎演習 (手の石膏モデル製作) 第11回 人間工学の基礎演習 (ユニバーサルデザイン製品の体験) 第12回 人間工学の基礎演習 (電磁波計測) 第13回 人間工学の基礎演習 (人体の電気抵抗の計測) 第14回 論文執筆に必須のWord、Excelなどのパソコンソフトの使い方 第15回 前期の総括とテーマ選定に関する討議	<p>【後期】</p> 第1回 夏休みの課題のプレゼン 第2回 夏休みの課題を例にして執筆指導 第3回 受講生ごとに課題の選定指導 第4回 受講生ごとに課題の選定指導 第5回 課題ごとに進める 第6回 課題ごとに進める 第7回 課題ごとに進める 第8回 課題ごとに進める 第9回 課題ごとに進める 第10回 目次案の作成指導 第11回 論文の作成に関する解説と目次案の提出 第12回 個別に論文の執筆指導 第13回 論文の仮提出と手直し 第14回 プレゼン資料の作成 第15回 論文の提出とプレゼン
テキスト	適宜、手作りのプリントを配布する。	参考文献 受講生ごとに適宜紹介する。
評価方法	報告・発言:30% プレゼン:10% 論文:60%	

家政特別研究		通年 4 単位	
暮らしと環境科学		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
授業の到達目標 及びテーマ	暮らしと密接に関連する環境の諸問題 ―エネルギー、廃棄物、有害化学物質等― について、講義、文献調査あるいはデータ解析などを通して理解を深めます。		
授業の概要	前期に文献調査・意見の交換等を演習形式で行いながら環境問題の理解に力を置き、各人が修了論文の課題を決めます。後期には各人の関心を持った個別テーマについて調査研究を行い、レポートにまとめます。またレポートの発表会を行います。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 環境科学入門</p> <p>第2回 環境問題のビデオ学習 (大気汚染、海洋汚染)</p> <p>第3回 同上 (化学物質、環境ホルモン)</p> <p>第4回 同上 (地球温暖化、オゾン層破壊)</p> <p>第5回 環境問題に関する課題調査 (課題提示・選択)</p> <p>第6回 同上 (個別指導Ⅰ) 及び参考文献の輪読</p> <p>第7回 同上 (個別指導Ⅱ) 及び参考文献の輪読</p> <p>第8回 同上 (報告及び質疑討論Ⅰ) 及び参考文献の輪読</p> <p>第9回 同上 (報告及び質疑討論Ⅱ) 及び参考文献の輪読</p> <p>第10回 参考文献の輪読</p> <p>第11回 参考文献の輪読</p> <p>第12回 参考文献の輪読の取りまとめⅠ</p> <p>第13回 参考文献の輪読の取りまとめⅡ</p> <p>第14回 研究テーマの提示・検討 (個別指導Ⅰ)</p> <p>第15回 研究テーマの提示・検討 (個別指導Ⅱ)</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 研究テーマの個別指導Ⅰ</p> <p>第2回 研究テーマの個別指導Ⅱ</p> <p>第3回 研究テーマの進捗状況の検討Ⅰ</p> <p>第4回 研究テーマの進捗状況の検討Ⅱ</p> <p>第5回 研究テーマの進捗状況の検討Ⅰ (続)</p> <p>第6回 研究テーマの進捗状況の検討Ⅱ (続)</p> <p>第7回 研究論文作成の個別指導Ⅰ</p> <p>第8回 研究論文作成の個別指導Ⅱ</p> <p>第9回 研究論文の取りまとめ</p> <p>第10回 研究論文の取りまとめ (続)</p> <p>第11回 論文発表準備 (パワーポイントによる)</p> <p>第12回 同上 (続)</p> <p>第13回 同上 (続)</p> <p>第14回 研究報告の発表と討論Ⅰ</p> <p>第15回 研究報告の発表と討論Ⅱ</p>	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」(東京化学同人)、小島次雄・川平浩二・藤倉良「これからの環境科学」(化学同人)等
評価方法	時々の小レポート:30% 発表・論文作成:70%		

家政学特論		後期 2 単位	
ライフスタイルを考える		石井 孝彦 (いしい たかひこ) 山田 岳晴 (やまだ たけはる)	
授業の到達目標 及びテーマ	第1-8回:住に関わる様々な建築文化と技術を学び理解する。豊かな生活を構築する上での建築の知識を習得、暮らしに活用できるようになる(山田)。第9-15回:食は文化、経済、国力、地勢と深く関わっていることを理解する。食の良否の知識と取捨選択する能力を修得する(石井)。		
授業の概要	西洋建築とその他の建築に分けて建築文化・技術について講義する。図面などの資料を毎回配布し講義形式で行う。総括では講義内容の理解をはかる即日記述試験を行う(山田)。毎回、食をめぐる資料を配布し、講義形式で行うが、ビデオで理解を助ける(石井)。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 建築文化:西洋建築1 エジプト・ギリシア・ローマ建築</p> <p>第2回 建築文化:西洋建築2 ビザンティン・ロマネスク建築</p> <p>第3回 建築文化:西洋建築3 ゴシック建築</p> <p>第4回 建築文化:西洋建築4 ルネサンス・バロック建築</p> <p>第5回 建築文化:様々な建築1 世界の建築文化と技術</p> <p>第6回 建築文化:様々な建築2 日本近現代建築文化と技術</p> <p>第7回 建築文化:様々な建築3 日本住宅建築文化と技術</p> <p>第8回 建築文化:総括 即日記述試験</p> <p>第9回 食と人類</p> <p>第10回 食と資源(量的安全) / 飢えか飽食か</p> <p>第11回 食と安全(質的安全) / 食物摂取に伴う健康被害</p> <p>第12回 食と健康 / 遺伝子組み換え</p> <p>第13回 環境面から見た食生活</p> <p>第14回 健康に関する社会制度・保健対策</p> <p>第15回 食生活の意義</p>		
テキスト	毎回、講義資料を配布するので、テキストは不要(山田・石井)。	参考文献	授業中に随時紹介する(山田・石井)。
評価方法	受講姿勢(山田):10% 即日記述試験(山田):40% 受講姿勢(石井):10% レポート(石井):40%		

生活文化特論	通年 4 単位
生活文化を、地域の風土・気候、伝統的な儀礼・行事、家族関係、食生活などを通して考える	
<p>【担当教員】 椎原 晶子（しいはら あきこ）、関沢 まゆみ（せきざわ まゆみ）、廣田 道夫（ひろた みちお）、山口 えり（やまぐち えり）</p> <p>家政学科で2年間学んだ多くのことがらを踏まえて、さらに視点を広げ、生活文化についてより深い考察ができるようになることを目的とします。 生活文化を、4人の担当者によるさまざまな切り口で捉え直し、事象を掘り下げて考察します。4分野からの課題に対して、それぞれレポートにまとめます。</p>	

生活文化特論	通年（前期）
日本の気候	廣田 道夫（ひろた みちお）
授業の到達目標 及びテーマ	我々の生活文化に深く関わっている我が国の気候について、その地理的な特徴、過去から現在までの変動、地球温暖化に伴い今後予想される変動等について理解できるように講義するとともに、地球環境の保全・地球との共生、持続可能な社会を目指して、個人の関わり方を考察できるようにします。
授業の概要	講義を中心に進めます。まず我が国の気候の特徴、各地方の地理的な差異による気候の変化を明らかにします。次に先史時代から現在までの気候の変動を学びます。最後に地球温暖化が我が国に齎す変動およびそれに対する対策を学び、個人の関わり方を考察します。
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 我が国の気候分布 第2回 我が国の気候の特徴・季節的な特徴 第3回 我が国の気候の特徴・季節的な特徴 第4回 過去から現在までの変動 第5回 地球温暖化 第6回 我が国の気象災害 第7回 気候の健康影響 第8回 気候の恵みと有効利用</p>
テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献 吉野正敏監修、気候影響・利用研究会編「日本の気候Ⅰ、Ⅱ」（二宮書店）</p>
評価方法	時々の小テスト:40% レポート:60%

生活文化特論		通年（前期）	
地域生活文化を読み解く視点を身につけ、自分たちの生活環境を見直し、今後の暮らし方やまちづくりを考える		椎原 晶子（しいはら あきこ）	
授業の到達目標及びテーマ	生活文化は、地域の風土、産業、住文化等を背景に、世代を越えて受け継がれ、変化を重ねて、そこに育ち暮らす人々の生き方の基盤となる。地域ごとの生活文化を読み解く視点を身につけ、コミュニティ再生や持続可能なまちづくりのあり方を考察する。		
授業の概要	町や住まいについて、自分たちが活動する町・江戸東京を主な題材に、その背景にある風土と形成史、住文化を読み込む。また国内・海外の事例を通して、生活文化保全活用の取り組みを紹介する。住み手、訪問者、行政、事業者等様々な立場に立って、地域性を生かしたまちづくりへの関わりを考える。まちフィールド調査演習含む。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 江戸の生活文化：江戸城下町の形成、武家と町人の暮らし</p> <p>第 2回 東京の生活文化：明治～昭和、山の手と下町</p> <p>第 3回 町家と商家の暮らし（京都、江戸・東京）</p> <p>第 4回 都市生活のための住まいー長屋と路地ー現代の集住</p> <p>第 5回 地域の生活文化を読み解く（青山・表参道調査演習）</p> <p>第 6回 住生活文化の近代化：武家住宅から現代の戸建てへの流れ</p> <p>第 7回 地域の生活文化を活かすまちづくり</p>		
テキスト	平井聖『対訳：日本人のすまい』市ヶ谷出版社。ほか授業中にプリントを配布。	参考文献	稲葉和也・中山繁信『日本人のすまいー住居と生活の歴史』、和辻哲郎『風土』、日本建築学会『まちづくりの方法』
評価方法	レポート:50% 授業態度、提出物:30% 平常点:20%		

生活文化特論		通年（後期）	
日本の歴史にみる生活文化		山口 えり（やまぐち えり）	
授業の到達目標及びテーマ	日本古代における家族関係、食生活、信仰心といった「生きる」ことに密接した事象についてとりあげる。生活文化は、変化を重ねながらも継承され、現在にいたっている。それらを学ぶことによって、人々が築き上げてきた伝統的な生活文化に対する理解を深め、その本質について考えることを目的とする。		
授業の概要	配布資料を中心に講義を進める。書画カメラ等の利用を通して理解を助ける。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第 1回 生活文化の継承と変化</p> <p>第 2回 古代の生活文化(家族)</p> <p>第 3回 古代の生活文化(特産物)</p> <p>第 4回 古代の生活文化(食生活)</p> <p>第 5回 古代の生活文化(仏教)</p> <p>第 6回 古代の生活文化(神祇信仰)</p> <p>第 7回 古代の生活文化(雨乞い)</p> <p>第 8回 レポート作成(筆記試験)</p>		
テキスト	特に定めない。配布資料を活用する。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	平常点(授業参加姿勢):20% レポート:80%		

生活文化特論		通年（後期）	
人の一生		新谷 尚紀（しんたに たかのり）	
授業の到達目標 及びテーマ	伝統的な儀礼や行事などを通して、私たちの身近な生活文化について学ぶ機会としたい。今年度は人の一生をめぐる儀礼（出産・産育、婚姻、葬送など）をとりあげる。これらの儀礼が1960年代の高度経済成長期を経てどのように変化したか、また、変化しにくい部分として何が残り伝えられているかについての分析を行い、儀礼の意味を理解する。		
授業の概要	講義を中心に、DVDを教材として利用する。		
授業計画	【後期】 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 現代社会と人生儀礼 第10回 結婚式の変化 第11回 出産習俗の変化 第12回 出産習俗の意味 第13回 仕事と家庭 第14回 葬送習俗の変化 第15回 まとめ		
テキスト	関沢まゆみ『現代「女の一生」－人生儀礼から読み解く－』日本放送出版協会 2008年	参考文献	その都度紹介する。
評価方法	レポート:50% 平常点:50%		

家族社会学		通年 4 単位	
家族研究概説		平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	社会学の分野でなされてきた家族研究を体系的に学ぶ。家族についてどんな接近方法があり、いかなる家族理論が構築されてきたかを理解し、現代の家族の動向を把握する。家族に関する具体的な事実をどう捉え位置づけたらよいか、家族社会学の領域に限らず、隣接諸科学の成果も学びながら、理解を深める。		
授業の概要	講義中心となるが、受講者数により演習形式をできるだけ多く取り入れる予定。		
授業計画	【前期】 第1回 家族を考える視角 第2回 家族の概念と定義 第3回 社会の変化と家族変動 第4回 比較制度論 第5回 家族形態論 第6回 現代家族の様相 第7回 家族関係論 第8回 家族の構造と機能 第9回 家族集団論 第10回 家族周期論 第11回 家族の形成過程 第12回 家族の内部構造（勢力関係・情緒） 第13回 家族ストレス論 第14回 ライフコースと家族の危機 第15回 家族の変化と現代社会の課題	【後期】 第1回 個人と家族（居場所の現在） 第2回 親密性と公共性 第3回 社会秩序と権力 第4回 社会関係と自己 第5回 相互行為と自己 第6回 組織とネットワーク 第7回 メディアとコミュニケーション 第8回 身体と自己決定 第9回 労働と社会 第10回 福祉・政策・社会 第11回 環境と社会 第12回 文化と再生産 第13回 エスニシティと境界 第14回 まとめ1（家族関係について） 第15回 まとめ2（家族と社会について）	
テキスト	特に指定しない。	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	授業感想文:40% 定期試験:60%		

民俗学		通年 4 単位	
東アジアの祭りと芸能		伊藤 好英 (いとう よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	祭りは人類のみが行なう特異な行動であり、芸術をはじめとするさまざまな文化の源泉です。本講義では、折口信夫の芸能史の思想を追うとともに、東アジアに残された原初的な祭りに映像・文献を通して触れながら、新たな比較芸能史の可能性を探っていきます。到達目標は、他者の多様な生活を理解することです。		
授業の概要	映像・文献を通して祭り・芸能を具体的に紹介しながら、その意義について考えていきます。「私の祭り・芸能体験」と題して、口頭発表の形で自身の祭りや芸能についての体験や見聞を語ってもらう機会をもうけたいと思います。また、各授業の最後に、授業の内容をどのように理解したかを記してもらうフィードバックシートを配ります。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 民俗学と民俗学者 第3回 柳田国男の神樹論 第4回 折口信夫の「よりしろ」論 第5回 アジアの神樹と「よりしろ」1 第6回 アジアの神樹と「よりしろ」2 第7回 柳田国男の巫女論 第8回 折口信夫の「ほかひびと」論 第9回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」1 第10回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」2 第11回 柳田国男の祭り論 第12回 折口信夫の「まれびと」論 第13回 アジアの祭りと「まれびと」1 第14回 アジアの祭りと「まれびと」2 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 沖縄の祭りと芸能1 (久高島のイザイホー) 第2回 沖縄の祭りと芸能2 (ウンジャミ) 第3回 沖縄の祭りと芸能3 (シヌグ) 第4回 日本の祭りと芸能1 (金沢の羽山籠り) 第5回 日本の祭りと芸能2 (羽黒山の松例祭) 第6回 日本の祭りと芸能3 (新野の雪祭り) 第7回 日本の祭りと芸能4 (春日若宮おん祭り) 第8回 韓国の祭りと芸能1 (江陵端午祭) 第9回 韓国の祭りと芸能2 (蔚山の願堂祭) 第10回 韓国の祭りと芸能3 (済州島のククック) 第11回 中国の祭りと芸能1 (江西省石郵村の儺戯) 第12回 中国の祭りと芸能2 (雲南省の采花山祭り) 第13回 祭りとは何か 第14回 祭りと芸能の関係 第15回 まとめ	
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	伊藤好英『折口学が読み解く韓国芸能』慶應義塾大学出版会、2006年
評価方法	フィードバックシート:20% 発表・授業参加度:30% レポート:50%		

女性学		通年 4 単位	
女性解放思想と現代		藤田 和美 (ふじた かずみ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の各国の女性解放思想の歴史的過程を学び、現代の女性たちの生き方の背景にあるジェンダー構造について理解する。 恋愛や結婚、出産、子育て、女性労働、美の規範など現代の女性を取り巻く諸問題を理解する。 		
授業の概要	全体を歴史編、現代の世界の女性編 現代の日本の女性編にわけると。歴史編では、女性解放運動の歴史を学ぶ。現代の世界の女性編では、政治、結婚、子育て、労働などに焦点をあて、各国の女性たちが現在直面している問題を日本と比較検討する。現代の日本の女性編では、現代の日本をめぐる諸問題を履修者が調査研究を行い、発表する。		
授業計画	【前期】 第1回 現代の女性たちをめぐる諸問題とは何か 第2回 女性解放運動史①結婚・家族 第3回 ②政治 第4回 ③労働 第5回 ④教育 第6回 ⑤性暴力 第7回 ⑥文化・芸術 第8回 世界の女性①北欧 第9回 ②フランス・イギリス 第10回 ③アメリカ 第11回 ④中国・韓国 第12回 ⑤中東・アフリカ 第13回 資料の調べ方 第14回 資料収集 第15回 研究テーマの検討	【後期】 第1回 研究発表 第2回 研究発表 第3回 研究発表 第4回 研究発表 第5回 研究発表 第6回 研究発表 第7回 研究発表 第8回 研究発表 第9回 研究発表 第10回 研究発表 第11回 研究発表 第12回 研究発表 第13回 研究発表 第14回 研究発表 第15回 研究発表	
テキスト	特に定めない。	参考文献	講義開始時に文献リストを配布する。
評価方法	レポート:50% 発表:50%		

住生活論		前期 2 単位	
住生活に関わる日本建築と伝統美術		山田 岳晴（やまだ たけはる）	
授業の到達目標及びテーマ	住の分野である日本建築や伝統美術を学ぶことによって、豊かな生活を構築する上での知識を習得し、人々が育んできた文化を理解する。日本建築や伝統美術の最新の研究成果に基づく講義によって、現在流通している諸説について見直し、生活文化の実際を理解する。		
授業の概要	前半は日本建築（神社建築・寺院建築・城郭建築など）について、後半は伝統美術（絵画・工芸品・諸道具など）について、事例を取り上げて特質を明らかにする。図面などの多くの資料を毎回配付し、各回完結の講義形式での講義を基本とする。総括として講義内容の理解をはかる即日記述試験を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 日本建築：日本建築の特徴 様式・年代と形式意匠の変化 第2回 日本建築：神社建築1 社殿配置・本殿形式・付属社殿 第3回 日本建築：日本建築 現地調査（見学・レポート提出） 第4回 日本建築：神社建築2 厳島神社／海上社殿と寝殿造 第5回 日本建築：寺院建築1 伽藍配置・本堂形式・諸堂 第6回 日本建築：寺院建築2 塔[塔婆]／五重塔と耐震性 第7回 日本建築：城郭建築1 城の配置・石垣 第8回 日本建築：城郭建築2 天守／望楼型と層塔型 第9回 日本建築：琉球建築 城(ぐすく)・民家・石造物 第10回 伝統美術：美術工芸1 絵馬 第11回 伝統美術：美術工芸2 化粧と浮世絵 第12回 伝統美術：美術工芸3 和鏡・懸仏 第13回 伝統美術：美術工芸4 日本刀・火縄銃 第14回 伝統美術：美術工芸5 甲冑(よろいかぶと) 第15回 日本建築と伝統美術：総括 即日記述試験		
テキスト	毎回講義資料を配付するので、テキストは不要。 (最新の研究成果に基づく講義であるので、一般的な教科書の内容とは異なることが多い)	参考文献	特になし。
評価方法	受講姿勢及びレポート:20% 即日記述試験:80%		

精神保健		通年 4 単位	
精神保健とは、日常生活への役立て方		矢花 美沙子（やばな ふみこ）	
授業の到達目標及びテーマ	楽しく生きていけるようになるためにはどうしたらよいか? 「精神保健」とは何か? 具体的にどのようなことか? 人間の精神を、精神医学的にはどうとらえ、どう考えていくか、を講義を通して理解してもらおう。そして、学生各自が自己理解を深め、精神的、肉体的に健康を保つことに対する対策を、各自で考えていけるようになることをめざす。		
授業の概要	精神保健の基本的なことを(精神医学についても)講義する。後期は講師の日常の臨床または経験を通して、どう病気というものに対応していくのかを語るつもりである。健康でいるためにはどうしたらいいのか、などを学生と対話しながら進めていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 精神保健とは 1 総論 第2回 精神保健とは 2 各論 第3回 心身の健康とは 第4回 自己理解について 第5回 他者理解について 第6回 精神医学 総論 第7回 精神医学 各論 第8回 児童期精神医学 第9回 青年期精神医学 第10回 統合失調症 1 総論 第11回 統合失調症 2 各論 第12回 うつ病 第13回 双極性障害 第14回 高齢者精神医学 第15回 まとめ		
	<p>【後期】</p> 第1回 精神保健の目標 第2回 地域の取組みと目標 第3回 精神障害とは(病気とは) 第4回 治療とは 第5回 精神障害の治療法 1 総論 第6回 精神障害の治療法 2 各論 第7回 ストレス障害への対応法 1 総論 第8回 ストレス障害への対応法 2 各論 第9回 依存症への対応法 1 総論 第10回 依存症への対応法 2 各論 第11回 行動療法の技法 1 行動のとり方 第12回 行動療法の技法 2 不安自覚得点 第13回 行動療法の技法 3 系統的脱感作 第14回 行動療法の技法 4 エキスパージャー 第15回 まとめ		
テキスト	特になし	参考文献	山上敏子監修「お母さんの学習室」(二瓶社) 精神医学(金芳堂)
評価方法	試験:40% レポート:30% 授業感想文の内容:30%		

生活経済論		前期 2 単位	
平和を生み出す「豊かさ」と「経済行為」		石戸 充 (いしど みつる)	
授業の到達目標 及びテーマ	世界不況と生活不安の中で、平和をもたらす「経済行為」と「豊かさ」とは何か。その意義と望ましいあり方を既存の経済学を踏まえつつ、より広い観点から考察する。生活者として。またミッションスクールに集う学徒として「グローバル」な視点を養う。(「グローバル」とは「グローバル」(地球規模的)かつ「ローカル」(地域的)の意味。)		
授業の概要	毎回自由な意見交換をするので、受講者は主体的に講義に参加してほしい。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ①現代経済社会の課題 ～生活経済とは</p> <p>第2回 ・経済開発と人間開発</p> <p>第3回 ・日本と東アジアの経済社会</p> <p>第4回 ・自然と調和する社会と経済</p> <p>第5回 ・生活と福祉</p> <p>第6回 ②資本主義経済の特徴 ～世界金融不況と多国籍企業</p> <p>第7回 ・資本主義下の巨大企業と独占利潤</p> <p>第8回 ・市場メカニズムの機能 ～価格原理と合理的な愚か者</p> <p>第9回 ・雇用と賃金、労働条件</p> <p>第10回 ・財政と国民経済 一人間の安全保障</p> <p>第11回 ③平和をもたらす生活経済</p> <p>第12回 ・平和創造の主体者として 一健全な消費者</p> <p>第13回 ・公的空間の再創造 一ボランティアリズム</p> <p>第14回 ・生活空間の創造 一キリスト教的視点</p> <p>第15回 ・平和をもたらす生活経済 一</p>		
テキスト	加納貞彦・本間勝・石戸充編著『平和と国際情報通信』(早稲田大学出版)	参考文献	東條隆進著『よい社会とは何か』(成文堂)
評価方法	平常点と発言:30% 講義参加/レポート:40% 試験:30%		

生活法律論		前期 2 単位	
21世紀の労働権		河見 誠 (かわみ まこと)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会では、法律はさまざまな生活分野に網羅的に関わっているが、ここでは特に私達に身近なテーマである労働に焦点を当てることにする。単に労働法を解釈するのではなく、法律をきっかけにして「働くとはどういうことなのか」「何のために働くのか」「どのように働くべきか」について考えるのが、この授業の主たる目的である。		
授業の概要	受講者は事前に配られたプリントを読んで予習をしてください。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 一 労働権保障の現在 ・19世紀の労働状態</p> <p>第2回 ・憲法上の権利としての労働権</p> <p>第3回 ・現在の労働権保障1</p> <p>第4回 ・現在の労働権保障2</p> <p>第5回 ・労働権保障の限界、女性の労働権の現状</p> <p>第6回 二 労働環境の変化 ・企業の論理と日本社会</p> <p>第7回 ・企業の論理の変化を見通した働き方・学び方</p> <p>第8回 ・賢く働くための視座</p> <p>第9回 三 経済環境の変化 ・消費資本主義のゆくえ</p> <p>第10回 ・個への収縮減少と関係性回復の必要性</p> <p>第11回 四 21世紀の労働権 ・再度、労働権と憲法について</p> <p>第12回 ・労働とわたし、労働と自然、労働と共同体</p> <p>第13回 ・現代社会と働くことの意味</p> <p>第14回 ・新しい働き方の模索—オランダモデル、地場の市場</p> <p>第15回 五 まとめ—「私」はどのように働くか</p>		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	期末レポート:80% 授業への参加度合い:20%		

生活情報処理		前期 2 単位	
プログラミングの初歩		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
授業の到達目標 及びテーマ	コンピューター利用というワープロや表計算ソフトウェアなど既存のソフトウェアを使う場合が多いが、そういったものには頼らず、ソフトウェアを作成し、作業することも可能です。本講義は、プログラミングに関して全くの初心者を対象に、「Visual Basic」というプログラミング言語使ってソフトウェアを作成することを体験します。		
授業の概要	例題を使って実際に操作しながら解説した後、実習課題に取り組みます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 プログラムの概念、Visual Basicとは 第3回 フォーム、ボタン、ファイルの保存 第4回 変数と変数名、四則演算、代入文 第5回 四則演算の課題演習 第6回 日付関数、課題演習 第7回 処理の分岐 (1) IF~THEN、課題演習 第8回 処理の分岐 (2) IF~THEN~ELSE、課題演習 第9回 繰り返し処理 (1) FOR~NEXT、課題演習 第10回 繰り返し処理 (2) 2重の繰り返し、課題演習 第11回 グラフィックス (1) PictureBox、Line、課題演習 第12回 グラフィックス (2) DrawとBrush 課題演習 第13回 グラフィックス (3) Ellipse、課題演習 第14回 グラフィックス (4) Polygon、課題演習 第15回 まとめの課題		
テキスト	資料を配布します。	参考文献	必要に応じて紹介します。
評価方法	レポート:60% 平常点:40%		

現代技術		通年 4 単位	
現代の科学技術とその問題点		松村 紀明 (まつむら のりあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	さまざまな意味で巨大化した現代の科学技術は、社会に大きな影響を与えており、色々な問題を引き起こしている。この授業では、その具体的な事例を検討しながら、科学技術のありかたについて理解する。		
授業の概要	最初の数回は講義を行いその後には相談してテキストを決定する。以後はこのテキストを読み進み、担当者(受講生)がテキストの該当部分の内容の発表を行う。先端医療問題、地球環境問題、IT問題などを取り上げる予定だが、受講生の興味関心によっては他のものを取り上げる場合もある。必要に応じてビデオを見た上で議論を行う回も挿入する場合があります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 私たちの生活を支える科学技術 (講義) 第2回 現代の科学技術はどのように生まれたのか? (講義) 第3回 現代の科学技術の抱える諸問題 (講義) 第4回 インターネットや図書館の利用について (講義) 第5回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第1グループの発表 第6回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第2グループの発表 第7回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第3グループの発表 第8回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第4グループの発表 第9回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第5グループの発表 第10回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第6グループの発表 第11回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第7グループの発表 第12回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第8グループの発表 第13回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第1グループの発表 第14回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第2グループの発表 第15回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第3グループの発表		
テキスト	開講時に受講者と相談して決めるが、年間で新書などを4~5冊程度を読む予定である。読みたい本がある場合は申し出ること。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	発表内容(担当時):70% 議論への参加・応答:30%		

【後期】

第1回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第4グループの発表
第2回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第5グループの発表
第3回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第6グループの発表
第4回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第7グループの発表
第5回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第8グループの発表
第6回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第1グループの発表
第7回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第2グループの発表
第8回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第3グループの発表
第9回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第4グループの発表
第10回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第5グループの発表
第11回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第6グループの発表
第12回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第7グループの発表
第13回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第8グループの発表
第14回 まとめ (講義)
第15回 これからの科学技術のあるべき姿 (講義)

商品検査		通年（前期）	4 単位
「もの」を評価するということを考える		両宮 敏子（あめみや としこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	「良い商品とは何か」を考え、その品目に求められる特性を理解しながら、いかに評価するかを考える。衣生活の中で洗濯に焦点を当て、洗浄力試験によって家庭用洗濯剤や身近な衣料品を評価しつつ「効率よく使う、特性を生かして使う」ことを理解する。		
授業の概要	講義と実験を組み合わせる。実験では生活に活かせるよう、身近な商品を例として扱う。市販の衣料用洗剤や衣料品について性能を調べ評価することで、特性を生かす使い方や目的に合う適切な商品を選択する力を身につける。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：「洗濯」とは 第2回 品質表示や洗剤について 第3回 洗浄試験の準備、試料を各家庭に持ち帰り洗濯する。 第4回 洗濯後の人工汚染布の白さを測定し、洗浄効果を知る。 第5回 履修者各家庭の洗濯を検証し、改善の可能性を考える。 第6回 洗浄試験のための人工汚染布の汚れ度を測定する。 第7回 洗浄試験の準備 第8回 洗浄試験 第9回 洗濯後の人工汚染布の白さ測定と洗浄効率算出 第10回 市販洗剤の種類、洗浄条件等の違いと洗濯効果を検証。 第11回 まとめ 第12回 市販衣料品の商品テストを企画 第13回 身近な衣料品の価格と性能変化、測定準備 第14回 洗濯の繰り返しによる変化を観察・測定・評価 第15回 まとめ		
テキスト	特に定めない。必要に応じて資料を配布する。	参考文献	片山倫子・阿部幸子他著『衣服管理の科学』建帛社、中島利誠編著『新稿 被服材料学—概説と実験』光生館、『JISハンドブック繊維』日本規格協会 な
評価方法	レポート:80% 実験への参加の積極性:20%		

商品検査		通年（後期）
「もの」を評価するということを考える		谷本 信也（たにもと しんや）
授業の到達目標 及びテーマ	授業と実験を通して「良い商品とは何か、と評価する」、また、「効率よく使う、特性を生かして使う」ことを考え、生活の中で実践する事ができるようにする。	
授業の概要	講義の後、実験を行い、実際の商品を分析してその商品の優劣を考えてゆきます。	
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 食品に関する法規 第2回 統計計算法 第3回 ポテトチップスの内容量 脂質量 第4回 ポテトチップスの脂質の過酸化物質 食塩量 第5回 蒲鉾の内容量 テンブレン含量 第6回 蒲鉾のソルビン酸量1 第7回 蒲鉾のソルビン酸量2 第8回 加工食品の着色料検出と同定1 第9回 加工食品の着色料検出と同定2 第10回 加工食品の着色料検出と同定3 第11回 加工食品の着色料検出と同定4 第12回 加工食品の亜硝酸量 第13回 加工食品のビタミンC量 第14回 加工食品のアミノ酸含量1 第15回 加工食品のアミノ酸含量2	
テキスト	そのつどプリントを配布します。	参考文献 そのつど示しますが、自分で探せるようになって下さい。ただし、図書館受付にある生活実験実習の参考書リストが実験操作についての参考になりま
評価方法	授業への積極的な態度:50% レポート:50%	

食品機能論		前期 2 単位	
食品が人体に及ぼす生体調節機能		谷本 信也 (たにもと しんや)	
授業の到達目標 及びテーマ	食品が我々の生活に及ぼす効果を学び、特にいわゆる栄養素ではない食品由来成分が体に与える影響を理解し、食生活を通じてより健康で質の高い生活を考えられるようになることを、到達目標とする。		
授業の概要	生物特に人間の組織・器官・細胞がどのように相互に連絡し合っているのかを学び、食品由来成分がそれらに与える影響を見てゆく。有益な影響ばかりでなく全体を俯瞰する。また、実際に市場に出回っている機能食品もその功罪を考え、トータルな食生活に資するようにする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 生体の構造と情報伝達 第 2回 食品成分 第 3回 食欲と食品成分 第 4回 糖の生体への影響 第 5回 匂い成分の生体への影響 第 6回 噛むことの生体への影響 第 7回 フラボノイドの生体への影響 第 8回 繊維の生体への影響 第 9回 脂質の生体への影響 第 10回 脂肪酸の生体への影響 第 11回 タンパク質の生体への影響 第 12回 アミノ酸の生体への影響 第 13回 その他の低分子の生体への影響 第 14回 微生物の生体への影響 第 15回 保健機能食品		
テキスト	アクセス機能成分（基礎・応用食品学にて使用したもの）。無ければ新たに購入する必要はない。	参考文献	図書館で食品機能は食品学関係棚と医学関係の棚に配置。生物学関連書棚にも少し。図書館受付にある参考書リストが参考になります。
評価方法	授業への参加の程度:30% 期末試験:70%		

比較調理文化		通年 4 単位	
調理文化の多様性		高橋 恭子 (たかはし きょうこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	1. 調理文化の多様性とその背景にある地域性や歴史、宗教などの要因を理解する。2. 食品の調理特性とこれを利用する世界各地域での工夫を理解する。3. 世界各地の調理文化の変遷を理解する。4. 他の地域と比較し、日本の調理文化の特徴と現状を理解する。5. 健康的でおいしく楽しい食事を整える力を養う。		
授業の概要	前期は講義を中心に行うが、視聴覚教材で理解を助ける。後期にはテーブルセッティングや食事マナー、各国の調理を実習し、講義内容の理解を深める。実習後にはレポートを課す。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第 1回 調理文化の基本 第 2回 食品の調理特性と調理文化 ①米と小麦 第 3回 食品の調理特性と調理文化 ②肉と魚 第 4回 食品の調理特性と調理文化 ③乳製品 第 5回 食品の調理特性と調理文化 ④発酵食品 第 6回 食品の調理特性と調理文化 ⑤調味料 第 7回 調理文化と食嗜好 第 8回 世界の調理文化 ①中国 第 9回 世界の調理文化 ②インド 第 10回 世界の調理文化 ③東南アジア 第 11回 世界の調理文化 ④イタリア 第 12回 世界の調理文化 ⑤フランス 第 13回 世界の調理文化 ⑥トルコ 第 14回 日本の調理文化 第 15回 日本の食の現状		
テキスト	テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。	参考文献	大塚滋・川端晶子編『調理文化学』建帛社、吉川誠次編『食文化論』建帛社、石毛直道『石毛直道 食の文化を語る』ドメス出版 その他、随時紹介す
評価方法	筆記試験:40% レポート:40% 学習態度:20%		

ビジュアルデザイン論		後期 2 単位	
視覚伝達の基本と応用。		奥村 健一（おくむら けんいち）	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に合った視覚伝達の表現方法について比較選択し、視覚情報のバランスを整えることができるようになる。 ・ PCの画面をたどって目標に至るための的確で分かりやすい手続きのデザインが制作できるようになる。 		
授業の概要	前半は視覚伝達のデザインについて、いくつかの事例を取り上げて比較観察する。 後半は各自がテーマを選び、表現方法及色彩計画を設定した上で、PowerPointを用いて複数の画面をたどる視覚伝達のデザインを制作する。		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 ガイダンス/ビジュアルデザインとは</p> <p>第2回 目的に応じた視覚効果の比較観察</p> <p>第3回 視覚効果のサンプル (1) 色彩の対比効果</p> <p>第4回 視覚効果のサンプル (2) 文字情報の配置</p> <p>第5回 視覚効果のサンプル (3) 錯視と補正</p> <p>第6回 視覚効果のサンプル (4) パズル図形の制作</p> <p>第7回 制作 (1) 各自のテーマの構想を練る</p> <p>第8回 制作 (2) 全体計画の確認</p> <p>第9回 制作 (3) 画面の制作開始</p> <p>第10回 制作 (4) 画面の制作続き</p> <p>第11回 制作 (5) リンクと画像の補い</p> <p>第12回 制作 (6) 画面の制作続き</p> <p>第13回 制作 (7) リンクの最終確認</p> <p>第14回 制作 (8) 最終チェック</p> <p>第15回 発表と講評</p>		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	授業感想文:20% 課題作品:80%		

意匠学		通年 4 単位	
欧米や日本における近代デザインの源泉とその展開をたどり、現代の社会と生活を見直して、これからのものづくり、環境づくりを考える。		椎原 晶子（しいはら あきこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近代欧米・日本等の工業化による大量生産、大量流通は、社会構造に大きな変化をもたらした。それ以前の手工芸時代と比較しつつ、前期は近代技術と芸術、産業の統合を求めた近代デザインの展開を振り返り、現代の生活環境に与えた意義や課題を理解する。後期は日本のデザインの展開を辿り、今後の持続可能なものづくり、環境づくりのあり方を理		
授業の概要	前期は、産業革命以降の近代デザイン運動が近代社会の改善に果たした役割を把握した上で、現代におけるデザインの課題を調査する。後期は、日本のデザインの源流を成す道具や住まい・まちづくりを概観した上で、戦後から現代に至るデザインの課題を把握し、今後の私たちの生活と環境づくりについて考察する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 デザインとは：人・モノ・コトの関係づくり</p> <p>第2回 産業革命、工業化、近代社会の産業とものづくり</p> <p>第3回 ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動</p> <p>第4回 アールヌーヴォーの潮流</p> <p>第5回 日本の工芸・美術とジャポニズム</p> <p>第6回 ウィーン分離派vs. アドルフ・ロース「装飾と罪悪」</p> <p>第7回 近代デザイン運動の諸相：オランダ・ロシア・ドイツ</p> <p>第8回 ドイツ工作連盟：芸術・技術・産業の積極的統合</p> <p>第9回 パウハウスの造形理念と教育・実践</p> <p>第10回 近代建築の理想：ル・コルビジェとミース</p> <p>第11回 都市生活とアールデコ、アメリカの商業デザイン</p> <p>第12回 パリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>第13回 デザインシヨールーム等見学</p> <p>第14回 地域性とデザイン：北欧の生活空間デザイン</p> <p>第15回 地域性とデザイン：日本各地の住まいと町並み</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 日本デザインの源流1:信仰の美・生活の美</p> <p>第2回 日本デザインの源流2:陶磁器の歴史</p> <p>第3回 日本デザインの源流3:陶芸の産地と作家</p> <p>第4回 日本デザインの源流4:漆芸・木工芸・竹工芸</p> <p>第5回 日本デザインの源流5:生活の中の絵画：絵巻物、障壁画</p> <p>第6回 日本デザインの源流6:琳派の工芸美術</p> <p>第7回 日本デザインの源流7:日本の文様のルーツと構成</p> <p>第8回 日本デザインの源流8:文様の展開：千代紙、襖紙、着物</p> <p>第9回 日本デザインの源流9:日本の家の構成：襖障子の役割</p> <p>第10回 日本デザインの源流10:染織工芸</p> <p>第11回 近代日本のデザイン:民芸、生活改善運動～モダンデザイン</p> <p>第12回 デザイン事例見学会</p> <p>第13回 現代のデザイン1:情報、イメージのデザイン</p> <p>第14回 現代のデザイン2:環境のデザイン</p> <p>第15回 これからのものづくり・生活環境づくり</p>	
テキスト	『世界デザイン史』阿部公正監修、美術出版社	参考文献	『20世紀の空間デザイン』矢代真己他、彰国社、 『日本デザイン史』竹原あき子+森山明子監修、美術出版社、 『現代デザイン論』藤田治彦、昭和堂
評価方法	レポート:50% 提出物:30% 授業態度・平常点:20%		

美術Ⅰ		通年 4 単位		
自己表現の可能性の探究 —自由なアートの翼をひろげよう—		久保 制一（くぼ せいいち）		
授業の到達目標 及びテーマ	美術Ⅰは「目で観て心で感じ手で考える」という絵画表現の可能性を探求する授業である。主に油絵をたっぷり時間をかけて描く。絵具をキャンパスにのせて自分らしいアートの創作をするともに、学内外での作品鑑賞も行い表現の多様性に気づくとともに自己の表現の幅と奥行きを拓いていくことができる。			
授業の概要	油絵の制作が主体となる実技と作品鑑賞の授業。前期「オブジェと窓」「部屋の中の自分」後期「人と空気と植物」などをテーマとした数枚の油絵を制作する。作品の発表、講評会、展覧会鑑賞の学外授業を実施する。制作に適した「仕事着」着用。油絵の道具などの詳細は初回授業で説明。なお、初学の学生には油絵の基礎から取り組めるよう指導す			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 油絵の道具やキャンパスの説明 第2回 油絵へのイントロダクション デッサン 1 第3回 デッサン 2 第4回 油絵「作品1」制作 1-1 「オブジェと窓」 第5回 油絵「作品1」制作 1-2 「オブジェと窓」 第6回 油絵「作品1」制作 1-3 「オブジェと窓」 第7回 油絵「作品1」制作 1-4 「オブジェと窓」 第8回 油絵「作品1」制作 1-5 「オブジェと窓」 第9回 油絵「作品2」制作 2-1 「部屋の中の自分」 第10回 油絵「作品2」制作 2-2 「部屋の中の自分」 第11回 油絵「作品2」制作 2-3 「部屋の中の自分」 第12回 「美術作品の鑑賞」・展覧会の見学1 第13回 油絵「作品2」制作 2-4 「部屋の中の自分」 第14回 油絵「作品2」制作 2-5 「部屋の中の自分」 第15回 油絵「作品2」制作 2-6 「部屋の中の自分」	<p>【後期】</p> 第1回 人物デッサン 1 第2回 人物デッサン 2 第3回 油絵「作品3」制作 3-1 「人と空気と植物」 第4回 油絵「作品3」制作 3-2 「人と空気と植物」 第5回 油絵「作品3」制作 3-3 「人と空気と植物」 第6回 油絵「作品3」制作 3-4 「人と空気と植物」 第7回 油絵「作品3」制作 3-5 「人と空気と植物」 第8回 油絵「作品3」制作 3-6 「人と空気と植物」 第9回 油絵「作品3」制作 3-7 「人と空気と植物」 第10回 油絵「作品3」制作 3-8 「人と空気と植物」 第11回 「美術作品の鑑賞」・展覧会の見学2 第12回 油絵「作品3」制作 3-9 「人と空気と植物」 第13回 油絵「作品3」制作 3-10 「人と空気と植物」 第14回 油絵「作品3」制作 3-11 「人と空気と植物」 第15回 まとめ 作品の発表と講評の会		
テキスト	なし	参考文献	美術館、ギャラリーの展示作品。通学途上の何気ない風景や人のしぐさから美しいと感じるコトやモノが参考になる。文献は図書館美術書コーナーの画	
評価方法	平常の取り組み:30% 作品:60% レポート:10%			

美術Ⅱ		通年 4 単位		
染色		原田 ロクゴ（はらだ ろくご）		
授業の到達目標 及びテーマ	染色技法を用いて作品を制作するなかで、モチーフを抽象化する力を養う。また、染着のメカニズムを理解する。			
授業の概要	実習を中心とする授業である。 絞染・型染などの模様染めの技法を用いて作品を制作する。課題ごとに構想デッサンを描き、各技法に応じたモチーフの抽象化を行い、表現力を養う。			
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 絞染① サンプル 縫い締め 第2回 絞染② サンプル 縫い締め 第3回 絞染③ サンプル 縫い締め 第4回 絞染④ サンプル 藍染め 第5回 絞染⑤ サンプル 括り解き 第6回 絞染⑥ 構想 第7回 絞染⑦ 青花描き（縫い締め工程は夏季休暇課題） 第8回 調整日（各学生の進度に合わせて調整） 第9回 型染① 構想 第10回 型染② 型彫り 第11回 型染③ 型彫り 第12回 型染④ 作品1・2 糊置き 第13回 型染⑤ 作品1・2 糊置き 第14回 型染⑥ 作品1 浸染 第15回 型染⑦ 作品2 浸染 / 講評	<p>【後期】</p> 第1回 型染①（試染）色糊抜き 第2回 型染②（試染）染料固着 第3回 型染③ Xmasパネル 構想 第4回 型染④ Xmasパネル構想 青花描き 第5回 型染⑤ Xmasパネル構想 青花描き 色糊抜き 第6回 型染⑥ Xmasパネル構想 染料固着 型彫り 第7回 型染⑦ Xmasパネル構想 型彫り 第8回 型染⑧ Xmasパネル構想 色糊抜き 第9回 型染⑨ Xmasパネル構想 色糊抜き 第10回 型染⑩ Xmasパネル構想 染料固着 第11回 型染⑪ Xmasパネル構想 パネル仕立て 第12回 型染⑫ Xmasパネル構想 パネル仕立て 第13回 藍染①（夏期休暇課題の染色） 第14回 藍染②（夏期休暇課題の染色） 第15回 作品講評		
テキスト	必要に応じてハンドアウト配布	参考文献	図書館にある「絞染」「藍染」「型染」の書籍	
評価方法	平常点:40% 提出作品:60%			

工芸		通年 2 単位	
日常使いできる金属小物（カトラリーやアクセサリ等）のデザイン及び制作		山田 瑞子（やまだ みずこ）	
授業の到達目標及びテーマ	<p>“工芸”と言う言葉は用の美を意味します。 この授業では金属（主に銀）を用いて実際に使える小物を作ります。 独自のアイデアを生かし、デザインをして、いかに具現化していくかを体験します。</p>		
授業の概要	実習中心で進めていく、但し時間が少ないので各自授業外の時間にアイデア、デザインを充分にリサーチし準備して、休まず取り組んでもらいたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 「銀の透かし彫り小物制作」アイデア出し 第2回 デザインの決定、地金取り 第3回 糸鋸による切り抜き 第4回 切り抜き断面のヤスリがけ 第5回 金具付け 第6回 研磨等の仕上げ 第7回 「鍮目リング制作」サイズ測定、地金取り 第8回 リング制作（叩いて成形し鍮付け）、サイズ合わせ 第9回 鍮目による表面のテクスチャーを付ける、仕上げ 第10回 「鍮付け技法によるジュエリー制作」アイデア出し 第11回 デザイン決定、地金取り 第12回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ 第13回 鍮付けによる組み立て 第14回 リング付け又は金具付け 第15回 研磨等の仕上げ</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 「金鍮で打つスプーン制作」デザイン 第2回 地金取り 第3回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ 第4回 木槌と臼を使ってスプーンの形を作る 第5回 装飾小物の鍮付け 第6回 当て金、金鍮による形成、硬化 第7回 研磨等の仕上げ加工 第8回 「習得した技法を使っての自由制作」デザイン 第9回 地金取り 第10回 糸鋸による切り抜き切り取り面のヤスリがけ 第11回 切り取り面のヤスリがけ 第12回 叩き加工 第13回 曲げ加工 第14回 鍮付けによる組み立て 第15回 研磨等の仕上げ加工</p>		
テキスト	特になし	参考文献	その都度用意する
評価方法	平常点:70% 作品の評価:30%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
文化におけるキリスト教の影響力		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）	
授業の到達目標及びテーマ	キリスト教の歴史と伝統を知り、その展開に関する知識を得ると共に現在のキリスト教が大半を占める諸国の文化におけるキリスト教の影響力を理解させることを目標とする。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始まります。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等）一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の話に関するミニクイズをします。それらは中間テストや期末テストの基礎となります。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 コース紹介 第2回 マリア 第3回 イエスの生涯 第4回 初期ローマ時代 第5回 コプトキリスト教 第6回 ヴィザンティン 第7回 ケルズ書 第8回 中間テスト 第9回 アイオナ 第10回 大聖堂 第11回 ルネサンス芸術 第12回 黒人霊歌 第13回 誰が隣人 第14回 平和を送る人生 第15回 前期まとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 マグダラ・マリア 第2回 イエスとその文化 第3回 日本文化史とキリスト教 第4回 高等教育とキリスト教 第5回 アーミッシュ 第6回 テゼ 第7回 ニック・ブイチチ 第8回 賀川豊彦 第9回 中間テスト 第10回 研究発表・意見交換1 第11回 研究発表・意見交換2 第12回 研究発表・意見交換3 第13回 研究発表・意見交換4 第14回 研究発表・意見交換5 第15回 後期まとめ</p>		
テキスト	ハンディーバイブル、配布文書	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常点(通年) :30% 中間テスト(前期) :15% 期末テスト(前期) :20% 中間テスト(後期) :15% 研究発表(後期) :20%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
文化におけるキリスト教の影響力		シェロ マイク (SHERRILL, M. J.)	
授業の到達目標 及びテーマ	キリスト教の歴史と伝統を知り、その展開に関する知識を得ると共に現在のキリスト教が大半を占める諸国の文化におけるキリスト教の影響力を理解させることを目標とする。		
授業の概要	毎回ミュージック紹介から始まります。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等）一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の話に関するミニクイズをします。それらは中間テストや期末テストの基礎となります。		
授業計画	【前期】 第1回 コース紹介 第2回 マリア 第3回 イエスの生涯 第4回 初期ローマ時代 第5回 コプトキリスト教 第6回 ヴィザンティン 第7回 ケルズ書 第8回 中間テスト 第9回 アイオナ 第10回 大聖堂 第11回 ルネサンス芸術 第12回 黒人霊歌 第13回 誰が隣人 第14回 平和を送る人生 第15回 前期まとめ	【後期】 第1回 マグダラ・マリア 第2回 イエスとその文化 第3回 日本文化史とキリスト教 第4回 高等教育とキリスト教 第5回 アーミシュ 第6回 テゼ 第7回 ニック・ブイチチ 第8回 賀川豊彦 第9回 中間テスト 第10回 研究発表・意見交換 1 第11回 研究発表・意見交換 2 第12回 研究発表・意見交換 3 第13回 研究発表・意見交換 4 第14回 研究発表・意見交換 5 第15回 後期まとめ	
テキスト	ハンディーバイブル、配布文書	参考文献	授業時に指示
評価方法	平常点(通年) :30% 中間テスト(前期) :15% 期末テスト(前期) :20% 中間テスト(後期) :15% 研究発表(後期) :20%		

政治と社会		後期 2 単位	
現代政治の構造的理解		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	メディア、消費生活、食生活、雇用、社会保障など、私たちの社会とのインターフェイス（接触面）について基礎的な知識を得ると同時に、社会とその権力作用（＝政治）を構造的に理解して、権力に容易にだまされたり利用されたりしない力を身につけることを目指します。		
授業の概要	少人数の授業になることが予想されるので、質疑応答を活発に行いたいと思います。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 メディアと権力(1) 第3回 メディアと権力(2) 第4回 資本主義と権力 第5回 ジェンダーと資本主義 第6回 食生活と資本主義(1) 第7回 食生活と資本主義(2) 第8回 雇用の諸問題 第9回 年金制度の仕組みと課題 第10回 医療制度の仕組みと課題 第11回 介護制度の仕組みと課題 第12回 規制緩和と競争 第13回 政治過程の利権構造 第14回 アーキテクチャルな権力 第15回 総括		
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	期末レポート:50% 小テスト:25% 平常点:25%		

科学と社会		後期 2 単位	
科学技術と倫理・社会		金山 浩司 (かなやま こうじ)	
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術が倫理の問題や社会の問題となぜ、そしていかに関連しているのかを理解する。 ・日本語による哲学・倫理について書かれた、あるいは社会問題を分析した文献を読み解く力を身につける。 		
授業の概要	科学技術と倫理との関係、社会における科学技術のあり方を扱ったテキストを精読し、その意図するところを理解する訓練を行う(セミナー形式)。テキストは初回数回については講師が指定し、中間レポートではその理解度を試すが、のちにはいくつか提案する中から受講生に選んでもらい、授業の中で報告してもらう形をとろうと考えている。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション、授業形態に関する相談 第2回 『はじめて学ぶ技術倫理の教科書』第2章を読む 第3回 『はじめて学ぶ技術倫理の教科書』第3章を読む 第4回 『はじめて学ぶ技術倫理の教科書』第4章を読む 第5回 『技術の哲学』第9章を読む 第6回 『技術の哲学』第12章を読む 第7回 中間レポートの検討 第8回 テキストの提示、発表割り振り 第9回 受講生による発表 第10回 受講生による発表 第11回 受講生による発表 第12回 受講生による発表 第13回 受講生による発表 第14回 受講生による発表 第15回 期末レポートの指針		
テキスト	今道友信、札野順(編) 『はじめて学ぶ技術倫理の教科書』(丸善、2008年) 村田純一 『技術の哲学』(岩波書店、2009年)	参考文献	第8回の授業中に提示する(科学技術と社会との関係、科学技術の哲学に関する文献)。
評価方法	授業への参加・発言:20% 授業中の口頭発表:40% 中間レポート:10% 期末レポート:30%		

日本史特講		前期 2 単位	
女性の歴史と現代社会		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	明治期以降激変した近現代日本の歴史的経過について女性の生き方の変化として捉え直し、さらに現代女性をめぐる諸問題について理解を深める。様々な考察を通して、各自のテーマを発見し、それぞれ調査・分析・検証結果を報告する。最終目標は自分の生き方についての大きな見取り図を描くこと。		
授業の概要	男女格差や少子化、婚活といった身近なテーマをはじめ、差別と同化、戦争と平和、グローバリゼーションと日本社会など、様々な観点を提示している日本近現代史や女性史の代表的文献から学ぶ。担当者の報告を中心に全員で討議を重ねる中で、現代社会の諸問題とその歴史的背景を把握する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 文献の講読と討論 第3回 文献の講読と討論 第4回 文献の講読と討論 第5回 文献の講読と討論 第6回 文献の講読と討論 第7回 文献の講読と討論 第8回 文献の講読と討論 第9回 文献の講読と討論 第10回 文献の講読と討論 第11回 文献の講読と討論 第12回 文献の講読と討論 第13回 研究報告会① 第14回 研究報告会② 第15回 まとめ		
テキスト	履修者との話し合いの上で決定する	参考文献	授業時に随時紹介する
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

ヨーロッパ史特講		前期 2 単位	
軍隊	西願 広望（せいがん こうぼう）		
授業の到達目標及びテーマ	軍隊を中心にヨーロッパの近代史を学ぶ。従来、タブー視されてきた西洋の軍事史に注目することで、歴史を多面的にかつ深いレベルでとらえることを学ぶ。		
授業の概要	専攻科は人数が少ないので、演習方式によるテキストの輪読をおこなう。学生は担当された部分のレジュメを作って発表する。特に本科が教養学科以外の学科であった学生に注意しておくが、単位を獲得することを最も重要視するのではなく、西願から学習することを第一に大切にしていきたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 序論 第2回 フランスの絶対王政と軍隊 第3回 フランスの絶対王政と軍隊 第4回 ドイツの常備軍と兵士の社会生活 第5回 ドイツの常備軍と兵士の社会生活 第6回 ロシアの農民兵士 第7回 ロシアの農民兵士 第8回 ドイツにおける軍隊と啓蒙 第9回 ドイツにおける軍隊と啓蒙 第10回 フランスの近代と軍隊 第11回 フランスの近代と軍隊 第12回 ドイツの一般兵役制と社会の軍事化 第13回 ドイツの一般兵役制と社会の軍事化 第14回 帝国主義時代のイギリス海軍 第15回 帝国主義時代のイギリス海軍		
テキスト	『近代ヨーロッパの探究⑩軍隊』（ミネルヴァ書房、2009年）	参考文献	授業中に適宜、紹介する。
評価方法	平常点:40% 期末レポート:60%		

芸術文化特講		前期 2 単位	
フランス美術研究：新古典主義とロマン主義	大野 芳材（おおの よしき）		
授業の到達目標及びテーマ	フランス革命から19世紀はじめにかけて、フランス美術は新古典主義とロマン主義へと大きく旋回する。それぞれの表現の特質を、ダヴィッドやアングル（新古典主義）、ジェリコーやドラクロワ（ロマン主義）の作品を手がかりに考えたい。それぞれが誕生し発展した社会的な背景を、ヨーロッパの歴史のなかで考える。		
授業の概要	スライド、ビデオなどを用いた講義。学生の発表も織り交ぜるので、積極的な授業参加を期待する。展覧会見学も行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション 第2回 フランスのロココ美術 第3回 革命前のダヴィッド 第4回 ダヴィッドとナポレオン 第5回 ジェリコー 第6回 ヨーロッパのロマン主義（1）イギリス 第7回 ヨーロッパのロマン主義（2）スペイン 第8回 ヨーロッパのロマン主義（3）ドイツ 第9回 ドラクロワ（1）ドラクロワの作品 第10回 ドラクロワ（2）ドラクロワとボードレール 第11回 アングル（1）アングルの作品 第12回 アングル（2）アングルとアカデミスム 第13回 クールベ 第14回 マネ 第15回 展覧会見学（期日は授業で指示）		
テキスト	授業中に指示	参考文献	各種画集など、授業中に指示
評価方法	レポート（2000字）：70% 授業への取り組み：30%		

比較文化論特講		後期 2 単位	
「愛」をめぐる比較思想・比較文学		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	「愛」は、人生にとってとても大事なものです。親子の愛、男女の愛、家族への愛など、愛には様々な形があります。旧約聖書の「雅歌」、プラトン「饗宴」、新約聖書、「トリス・イズ」物語を読んで、「愛」についてのヨーロッパ思想の古典を知り、ディスカッションをします。話し合いが盛り上がることを願っています。		
授業の概要	参加者全員、テキストを読んできて、話し合います。読書が苦手でも、議論が苦手でも、考えることが苦手でも、心配はいりません。「愛」について、20代はじめの今の時期にいろいろ考えておくことは大切。他の人の意見を聞くことは、自分の考えを深める上で参考になるはず。1200字～2000字のレポートを4回提出していただく予定です。		
授業計画	【後期】 第1回 この特講の進め方について、テーマについて 第2回 旧約聖書「雅歌」解説 第3回 旧約聖書「雅歌」討論 第4回 プラトンおよびプラトン「饗宴」解説 第5回 「饗宴」発表と討論(1) 第6回 「饗宴」発表と討論(2) 第7回 「饗宴」発表と討論(3) 第8回 新約聖書における「愛」 第9回 エロスとアガペー 第10回 ヨーロッパ中世の騎士道 第11回 「トリス・イズ」物語(1) 第12回 「トリス・イズ」物語(2) 第13回 「トリス・イズ」物語(3) 第14回 レポートについて、レポート提出 第15回 レポート講評		
テキスト	授業の中で紹介する文庫本2冊(『饗宴』『トリス・イズ』)を各自が購入する。	参考文献	授業のなかで紹介する。ルージュモン『愛について～エロスとアガペ』など。
評価方法	講読、報告、議論参加:50% レポート:50%		

ヨーロッパ古典文化		通年 4 単位	
古代ギリシア・ローマの文学と文化		河島 思朗 (かわしま しろう)	
授業の到達目標 及びテーマ	ヨーロッパの古典文化、すなわち古代ギリシア・ローマに関して、代表的な文学作品を足掛かりに、文学・歴史・社会・文化・神話について理解する。また、古典文化がその後のヨーロッパに与えた影響について理解する。		
授業の概要	古代ギリシア・ローマの代表的な文学作品を題材としながら、背景となるギリシアとローマの文化を理解する。前期はギリシア文学を対象とし、後期はローマの文学(ラテン文学)を対象としながら、それぞれの文学が有する社会的意義を明らかにする。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション:西洋古典学とはなにか 第2回 ホメロス『イリアス』(1):口承叙事詩 第3回 ホメロス『イリアス』(2):人間と運命 第4回 ホメロス『オデュッセイア』 第5回 ヘシオドス:神話の世界 第6回 抒情詩と古代オリンピック 第7回 古代アテナイ社会 第8回 ギリシア悲劇と民主政 第9回 アイスキュロス『アガメムノン』 第10回 ソフォクレス『アンティゴネ』 第11回 ギリシア喜劇 第12回 ソクラテス文学:哲学と社会 第13回 散文 第14回 ヘレニズム文学 第15回 これまでのまとめ	【後期】 第1回 古代ローマとラテン文学 第2回 ウェルギリウス『牧歌』(1):パストラルの伝統 第3回 ウェルギリウス『牧歌』(2):詩人の社会的意義 第4回 ウェルギリウス『農耕詩』 第5回 抒情詩(1):ジャンルと特徴 第6回 抒情詩(2):ホラーティウス 第7回 恋愛詩:ラテン文学の特性 第8回 ウェルギリウス『アエネーイス』(1):歴史と宗教 第9回 ウェルギリウス『アエネーイス』(2):建国叙事詩 第10回 オウィディウス『変身物語』(1):神話を伝える物語 第11回 オウィディウス『変身物語』(2):愛をめぐる神話 第12回 悲劇・喜劇 第13回 散文・歴史 第14回 書簡文学 第15回 これまでのまとめ	
テキスト	テキストは使用せず、プリントを使う。	参考文献	授業中に示す。
評価方法	コメントシート:30% 期末試験(前期):35% 期末試験(後期):35%		

アメリカ文化論		通年 4 単位	
アメリカ黒人女性の語り継ぎを知る		岩本 裕子 (いわもと ひろこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	アメリカ黒人の「はじめて」は、彼らの意志とは無関係にアフリカ大陸から「連れてこられて」アメリカ大陸に運ばれた1619年のことである。以後394年間のアメリカ黒人史を踏まえて、映像や音楽を通して描かれたアメリカ黒人女性について考えていきたい。彼女たちからの「語り継ぎ」は、女性として生きていく上での一つの指針となるだろう。		
授業の概要	シラバスに即して講義形式で進める。テキストの該当部分をしっかり読み込んでから授業に参加すれば、講義をより深く理解できることになるだろう。毎回、出席確認用紙にその日の講義に関する質問をして回答を提出する。その質問内容を説き明かすような方法で、講義を進めるので、アメリカ史や黒人史に知識はなくても十分ついてこられるはずで		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 前期講義内容紹介</p> <p>第2回 黒人俳優とアカデミー賞</p> <p>第3回 黒人音楽の源流をたどる(黒人聖歌からヒップホップまで)</p> <p>第4回 アフリカの大地から奴隷船に乗せられて</p> <p>第5回 奴隷制度における黒人女性奴隷の役割</p> <p>第6回 奴隷制度から解放された女性の生きる道</p> <p>第7回 「どん底時代」と呼ばれる黒人差別定着時代</p> <p>第8回 差別に対する怒りの表現—ジョゼフィンとビリー</p> <p>第9回 黒人社会の内部告発 —『カラーパープル』と『ティナ』</p> <p>第10回 映像で見る公民権運動① エメット・ティル少年殺害事件</p> <p>第11回 映像で見る公民権運動②草の根運動の指導者たち</p> <p>第12回 若手黒人男性監督たちの黒人女性観</p> <p>第13回 黒人女性が創る自らのための映像</p> <p>第14回 学生最後の夏休み前に「贈る言葉」を!</p> <p>第15回 前期試験(手書きノート持ち込み)</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期講義内容説明</p> <p>第2回 『語り継ぐ黒人女性』出版意図を知る</p> <p>第3回 コラムを読む①</p> <p>第4回 コラムを読む②</p> <p>第5回 歓喜に包まれたオバマ大統領就任記念コンサート(2009)</p> <p>第6回 世論を動かした重要人物:オブラ・ウィンフレイ</p> <p>第7回 黒人女性で最初のファーストレディ:ミシェル・オバマ</p> <p>第8回 人生そのものを歌い描く① マリアンからアレサへ</p> <p>第9回 人生そのものを歌い描く② 「ヘアスプレー」を観る</p> <p>第10回 スクリーンからの語りかけ① ビリーからダイアナへ</p> <p>第11回 スクリーンからの語りかけ② ダイアナからビヨンセへ</p> <p>第12回 ホイットニー・ヒューストンを悼む</p> <p>第13回 黒人教会のクリスマス礼拝:黒人女性歌手最初の舞台!</p> <p>第14回 語り継ぐ黒人女性たち</p> <p>第15回 後期試験(手書きノート持ち込み)</p>	
テキスト	通年で2冊を使用:岩本裕子『語り継ぐ黒人女性』(メタ・ブレン、2010年)『アメリカ黒人女性の先駆者たち(仮)』(明石書店、2013年4月刊行予定)	参考文献	岩本裕子『スクリーンに見る黒人女性』(メタ・ブレン、1999年) 岩本裕子『アメリカ黒人女性の歴史』(明石書店、1997年初版 2001年重版)
評価方法	積極的な授業への参加:20% 夏休み中のレポート:20% 前期試験:25% 後期試験:35%		

民俗学		通年 4 単位	
東アジアの祭りと芸能		伊藤 好英 (いとう よしひで)	
授業の到達目標 及びテーマ	祭りは人類のみが行なう特異な行動であり、芸術をはじめとするさまざまな文化の源泉です。本講義では、折口信夫の芸能史の思想を追うとともに、東アジアに残された原初的な祭りに映像・文献を通して触れながら、新たな比較芸能史の可能性を探っていきます。到達目標は、他者の多様な生活を理解することです。		
授業の概要	映像・文献を通して祭り・芸能を具体的に紹介しながら、その意義について考えていきます。「私の祭り・芸能体験」と題して、口頭発表の形で自身の祭りや芸能についての体験や見聞を語ってもらう機会をもうけたいと思います。また、各授業の最後に、授業の内容をどのように理解したかを記してもらうフィードバックシートを配ります。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 民俗学と民俗学者</p> <p>第3回 柳田国男の神樹論</p> <p>第4回 折口信夫の「よりしろ」論</p> <p>第5回 アジアの神樹と「よりしろ」1</p> <p>第6回 アジアの神樹と「よりしろ」2</p> <p>第7回 柳田国男の巫女論</p> <p>第8回 折口信夫の「ほかひびと」論</p> <p>第9回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」1</p> <p>第10回 アジアのシャーマンと「ほかひびと」2</p> <p>第11回 柳田国男の祭り論</p> <p>第12回 折口信夫の「まれびと」論</p> <p>第13回 アジアの祭り「まれびと」1</p> <p>第14回 アジアの祭り「まれびと」2</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 沖縄の祭りと芸能1(久高島のイザイホー)</p> <p>第2回 沖縄の祭りと芸能2(ウンジャミ)</p> <p>第3回 沖縄の祭りと芸能3(シヌグ)</p> <p>第4回 日本の祭りと芸能1(金沢の羽山籠り)</p> <p>第5回 日本の祭りと芸能2(羽黒山の松例祭)</p> <p>第6回 日本の祭りと芸能3(新野の雪祭り)</p> <p>第7回 日本の祭りと芸能4(春日若宮おん祭り)</p> <p>第8回 韓国の祭りと芸能1(江陵端午祭)</p> <p>第9回 韓国の祭りと芸能2(蟬島の願堂祭)</p> <p>第10回 韓国の祭りと芸能3(濟州島のククツ)</p> <p>第11回 中国の祭りと芸能1(江西省石郵村の傩戯)</p> <p>第12回 中国の祭りと芸能2(雲南省の采花山祭り)</p> <p>第13回 祭りとは何か</p> <p>第14回 祭りと芸能の関係</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	伊藤好英『折口学が読み解く韓国芸能』慶應義塾大学出版会、2006年
評価方法	フィードバックシート:20% 発表・授業参加度:30% レポート:50%		

日本美術史		通年 4 単位	
古代・中世美術の世界		成原 有貴 (なりはら ゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術の歴史を学ぶ。各時代の代表的作品（主に絵画）の主題・表現・制作背景などを 知り、個々の作品に対する理解に基づいて、歴史的展開を学習していく。作品がどのような人々により、なぜ制作され たのか、いかなる場で鑑賞されたのかを考えることによって、社会における美術の意義や機能についても理解する。		
授業の概要	古代・中世期の代表的美術作品について詳しく解説するとともに、日本と中国大陸・朝鮮半島との文化的関連を重視し て、日本美術の歴史を辿る。作品を鑑賞して美術に親しむだけではなく、教室での学習を、国際社会のなかの自己と他 者の文化について考えるきっかけにしてほしい。授業は講義形式で行い、毎回パワーポイントで作品を映写する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 はじめに - 日本美術の世界へようこそ 第2回 飛鳥・白鳳時代 仏教絵画 - 「法隆寺金堂壁画」 第3回 飛鳥・白鳳時代 仏教絵画 - 法隆寺「玉虫厨子」 第4回 飛鳥・白鳳時代 「高松塚古墳壁画」 - 死者のための絵画 第5回 飛鳥・白鳳時代 「キトラ古墳壁画」 第6回 奈良時代 正倉院宝物 1 : 宝物のなりたち 第7回 奈良時代 正倉院宝物 2 : 宝物の多様性 第8回 平安時代 唐絵とやまと絵 第9回 平安時代 仏教絵画 - 地獄絵と来迎図 第10回 平安時代 仏教絵画 - 密教画 第11回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」 1 : 源氏絵の伝統 第12回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」 2 : 人物の造形 第13回 平安時代 絵巻「伴大納言絵巻」 第14回 平安時代 装束絵「平家納経」 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 鎌倉時代 絵巻「紫式部日記絵巻」 第2回 鎌倉時代 絵巻「当麻曼荼羅縁起絵巻」 - 女性と信仰 第3回 鎌倉時代 仏教絵画 - 地獄絵と来迎図 第4回 鎌倉時代 仏教絵画 - 信仰空間での絵画の役割 第5回 鎌倉時代 神道美術 - 「神の姿」を表わす 第6回 鎌倉時代 肖像画 - 「伝源頼朝像」に描かれたのは誰か 第7回 鎌倉時代 禅宗の美術 第8回 室町時代 雪舟と水墨画 第9回 室町時代 唐絵と唐物の愛好 第10回 室町時代 やまと絵屏風 第11回 室町時代 会所の美術 - 和漢の世界 第12回 室町時代 将軍と絵巻 第13回 室町時代 御伽草子絵巻の世界 第14回 室町時代 源氏絵の伝統と展開 第15回 まとめ	
テキスト	特に指定しない。授業の要点を記したプリントを毎 回配布する。	参考文献	『日本美術全集』講談社、日高薫『日本美術のこと ば案内』小学館、2003年。全集の該当巻などは 授業時に指示する。
評価方法	授業感想文:30% 試験:70%		

日本文学		通年 4 単位	
芥川龍之介の小説を読む		岡崎 直也 (おかざき なおや)	
授業の到達目標 及びテーマ	明治・大正文学の総決算として日本における近代小説の高度な到達点を示し、国語教材として周知の芥川龍之介の代 表作を精読する。西洋文化と東洋文化との混交のただなかで生き、身をもって近代の終焉を告げた芥川が現代文学へ受 け渡した諸問題について検討したい。近代小説の方法や文章表現を追究しつつ、あわせて小説の読解力や複眼的思考を		
授業の概要	講読形式の授業を想定しているが、受講者の希望があれば、注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに発表してもら うこともある。 講読・発表の別なく受講者には、問題意識をもった授業参加と自由で活発な質疑応答とを期待する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 明治文学史概説 第2回 大正文学史概説 第3回 芥川龍之介-人と作品 第4回 「大川の水」1 【研究史・注釈】 第5回 「大川の水」2 【分析・鑑賞】 第6回 「羅生門」1 【研究史・注釈】 第7回 「羅生門」2 【分析】 第8回 「羅生門」3 【鑑賞】 第9回 「鼻」1 【研究史・注釈】 第10回 「鼻」2 【分析】 第11回 「鼻」3 【鑑賞】 第12回 「地獄変」1 【研究史】 第13回 「地獄変」2 【注釈】 第14回 「地獄変」3 【分析】 第15回 「地獄変」4 【鑑賞】	<p>【後期】</p> 第1回 「奉教人の死」1 【研究史】 第2回 「奉教人の死」2 【注釈】 第3回 「奉教人の死」3 【分析】 第4回 「奉教人の死」4 【鑑賞】 第5回 「舞踏会」1 【研究史・注釈】 第6回 「舞踏会」2 【分析】 第7回 「舞踏会」3 【鑑賞】 第8回 「杜子春」1 【研究史・注釈】 第9回 「杜子春」2 【分析】 第10回 「杜子春」3 【鑑賞】 第11回 「藪の中」1 【研究史・注釈】 第12回 「藪の中」2 【分析】 第13回 「藪の中」3 【鑑賞】 第14回 「罌気楼」1 【研究史・注釈】 第15回 「罌気楼」2 【分析・鑑賞】	
テキスト	宮坂 覺 [編] 『芥川龍之介一人と作品』翰林書 房、文庫本・プリント併用	参考文献	関口安義・庄司達也 [編] 『芥川龍之介全作品事 典』勉誠出版/関口安義 [編] 『芥川龍之介新事典』 翰林書房/志村有弘 [編] 『芥川龍之介大事典』勉誠
評価方法	平常点:60% 学年末レポート:40%		

法学特講		前期 2 単位	
社会問題を法的に考える		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会問題を法的に考えることで、解決策を探ります。私の専門は、環境問題、情報法、消費者法、事故法ですが、その他の問題を取り上げても構いません。日頃、興味を持っていたこと、どうしても納得できないこと等、詳しく調べて、みなで討議の上、私が質疑応答に答えます。社会問題の解決へ向かってより深く理解できます。		
授業の概要	毎回、あらかじめレポーターを決めて、報告をしてもらいます。それについて、みなで討議した上で、私が質疑応答を通して、解説をします。ですので、レポーターに当たっている人は休まないで下さい。レポーターが休む場合に備えて、次の順番の人も、発表できるように準備して授業に出席して下さい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第3回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第4回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第5回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第6回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第7回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第8回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第9回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第10回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第11回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第12回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第13回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第14回 レポーターの報告・討議と質疑応答授業 第15回 総括		
テキスト	使用しません	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	授業への積極的参加:40% レポーター報告:60%		

経済学特講		前期 2 単位	
経済学特講		秋富 創 (あきとみ はじめ)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の経済問題を扱っている文献、論文、記事などを購読することによって、現代社会への理解を深め、色々な角度から物事を考えることが出来るようになることが目標である。		
授業の概要	授業の履修者が少数であることが予想されるため、原則的にはゼミ形式を想定している。出席者の間で文献などを一緒に購読し、その内容について議論する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODakション 第2回 経済学特講 第3回 経済学特講 第4回 経済学特講 第5回 経済学特講 第6回 経済学特講 第7回 経済学特講 第8回 経済学特講 第9回 経済学特講 第10回 経済学特講 第11回 経済学特講 第12回 経済学特講 第13回 経済学特講 第14回 経済学特講 第15回 まとめ		
テキスト	出席者と相談の上決定する。	参考文献	出席者と相談の上決定する。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

教育学特講		前期 2 単位	
現代における教育の諸問題の研究		鈴木 俊之（すずき としゆき）	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 比較福祉レジーム論に関する基礎的な知識を獲得する、2. 現代における女性の役割について理解する、3. 就学前教育の重要性について説明する、事ができるようになる。		
授業の概要	発表者はテキストを要約、レジュメを作成し、そのレジュメに基づき発表をする。受講生はその発表について発表者に質問したり、その内容について討論する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 OECD第一章 第3回 受講生による発表 OECD第二章 第4回 受講生による発表 OECD第三章 第5回 受講生による発表 OECD第五章 第6回 受講生による発表 OECD第十章 第7回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン第一章 第8回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン第二章 第9回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン第三章 第10回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン第四章 第11回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン第五章 第12回 受講生による発表 エスピン＝アンデルセン解題 第13回 就学前教育の重要性 第14回 現代社会における女性の役割 第15回 前期まとめ		
テキスト	エスピン＝アンデルセン(2011)『平等と効率の福祉革命 新しい女性の役割』岩波書店。	参考文献	OECD編(2011)『OECD保育白書：人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較』明石書店、など。
評価方法	授業への積極的な参加:70% レポート:30%		

社会学特講		前期 2 単位	
現代社会の特徴について社会学的に考察する		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代社会は、産業主義と民主主義を主導力として、近代社会の中から生まれてきた。現代社会については、大衆社会、消費社会、情報化社会、少子高齢化社会等々、この社会の特徴を捉えたさまざまな呼称がある。この特講では、これら多様な現代社会論を取り上げて検討することにより、現代社会の特徴を、多角的、批判的に理解する。		
授業の概要	少人数の授業なので、講義よりも演習の形式で授業を進める。各自テーマを選んで報告してもらい、討論を行う。受講者には、主体的関心をもって、授業に参加することが、求められる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 近代社会から現代社会へ 第2回 高度産業社会 第3回 高度資本主義社会 第4回 大衆社会 第5回 情報化社会 第6回 消費社会 第7回 学歴社会 第8回 格差社会 第9回 都市社会 第10回 未婚・晩婚化社会 第11回 少子高齢化社会 第12回 無縁社会 第13回 リスク社会 第14回 グローバル化社会 第15回 まとめ		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	基本的文献を適宜紹介する。
評価方法	授業参加度:50% 期末レポート:50%		

社会心理学特講		後期 2 単位	
進化の観点から人のこころのしくみを捉える		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 社会心理学の研究知見を理解する。 (2) 進化生物学の基本的な考え方を理解し、この観点からの社会的行動の捉え方を理解する。 (3) 数量データを用いる科学的研究(社会的認知に関する研究)の性質を理解し、批判的に検討できるようになる。		
授業の概要	回によって講義が主になる場合もあるが、できるだけ参加者全員でのディスカッションの時間を設ける。1つひとつのテーマについて掘り下げた議論を目指す。テキストのほか、社会心理学の実証研究論文を用いて、研究の実際を理解する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、発表担当決めなど 第2回 社会心理学研究の流れ、社会的認知の考え方 第3回 テキストの発表とディスカッション1(序章) 第4回 テキストの発表とディスカッション2(1章) 第5回 テキストの発表とディスカッション3(2章) 第6回 テキストの発表とディスカッション4(3章) 第7回 テキストの発表とディスカッション5(4章) 第8回 テキストの発表とディスカッション6(5章) 第9回 テキストの発表とディスカッション7(6章) 第10回 テキストの発表とディスカッション8(7章) 第11回 テキストの発表とディスカッション9(終章) 第12回 実証研究論文の読み込みと理解 第13回 実証研究論文の批判的検討 第14回 実証研究論文を発展させた研究計画の検討 第15回 まとめ：社会的行動と適応		
テキスト	北村英哉・大坪庸介(2012)『進化と感情から解き明かす社会心理学』有斐閣	参考文献	山本真理子ほか(編)(2001)『社会的認知ハンドブック』北大路書房 この他適宜紹介する。
評価方法	発表等、授業への参加:50% レポート:50%		

情報社会論特講		後期 2 単位	
科学・技術に関する情報と、それがもたらす社会的影響について。		栗原 岳史 (くりはら たけし)	
授業の到達目標 及びテーマ	現代の情報社会で大きな影響力を持つ科学・技術に関する情報の生産・伝達、さらにその情報のもたらした社会的影響について、科学史・技術史・科学社会論の観点から考察する。専門家でなくとも、社会人の一人として、科学・技術に関する諸問題を考えられるようになることを授業の目標とする。		
授業の概要	講義形式で授業を行う。科学や技術の専門知識を前提としない。評価はレポートで行うが、単位を取得するには、提出するレポートの概要について授業内で発表することを義務とする。出席者には毎回の講義終了時に自分の意見や感想、または質問をまとめた簡単な小レポートを提出してもらい、時事的問題を取り入れるため授業の内容を変更する場合は		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス：講義のすすめ方と成績評価の方法について 第2回 情報の生産1 知識生産の場としての大学の歴史的展開 第3回 情報の生産2 研究の現場1 ー新たな知識の生まれるまで 第4回 情報の生産3 研究の現場2 ー新たな知識誕生の瞬間 第5回 情報技術と社会1 インターネット構想の起源 第6回 情報技術と社会2 テレビと原子力技術導入の社会的背景 第7回 情報技術と社会3 情報戦略としての原子力技術の導入 第8回 情報技術と社会4 情報戦略としてのテレビ技術の導入 第9回 情報の普及と社会1 学術論文と知識の信頼性 第10回 情報の普及と社会2 特に地震予知と社会 第11回 情報の普及と社会3 科学・技術の情報伝達 第12回 現代社会における科学と技術に関する知識1 第13回 現代社会における科学と技術に関する知識2 第14回 学生レポートの発表会 第15回 予備日		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	各授業毎に指示する。
評価方法	平常点と小レポート:20% 発表会の内容:20% レポートの内容:60%		

家族社会学		通年 4 単位	
家族研究概説		平岡 佐智子 (ひらおか さちこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	社会学の分野でなされてきた家族研究を体系的に学ぶ。家族についてどんな接近方法があり、いかなる家族理論が構築されてきたかを理解し、現代の家族の動向を把握する。家族に関する具体的な事実をどう捉え位置づけたらよいか、家族社会学の領域に限らず、隣接諸科学の成果も学びながら、理解を深める。		
授業の概要	講義中心となるが、受講者数により演習形式をできるだけ多く取り入れる予定。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 家族を考える視角 第2回 家族の概念と定義 第3回 社会の変化と家族変動 第4回 比較制度論 第5回 家族形態論 第6回 現代家族の様相 第7回 家族関係論 第8回 家族の構造と機能 第9回 家族集団論 第10回 家族周期論 第11回 家族の形成過程 第12回 家族の内部構造 (勢力関係・情緒) 第13回 家族ストレス論 第14回 ライフコースと家族の危機 第15回 家族の変化と現代社会の課題</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 個人と家族 (居場所の現在) 第2回 親密性と公共性 第3回 社会秩序と権力 第4回 社会関係と自己 第5回 相互行為と自己 第6回 組織とネットワーク 第7回 メディアとコミュニケーション 第8回 身体と自己決定 第9回 労働と社会 第10回 福祉・政策・社会 第11回 環境と社会 第12回 文化と再生産 第13回 エスニシティと境界 第14回 まとめ1 (家族関係について) 第15回 まとめ2 (家族と社会について)</p>		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	必要に応じて指示する。
評価方法	授業感想文:40% 定期試験:60%		

現代技術		通年 4 単位	
現代の科学技術とその問題点		松村 紀明 (まつむら のりあき)	
授業の到達目標 及びテーマ	さまざまな意味で巨大化した現代の科学技術は、社会に大きな影響を与えており、色々な問題を引き起こしている。この授業では、その具体的な事例を検討しながら、科学技術のありかたについて理解する。		
授業の概要	最初の数回は講義を行いその後には相談してテキストを決定する。以後はこのテキストを読み進み、担当者 (受講生) がテキストの該当部分の内容の発表を行う。先端医療問題、地球環境問題、IT問題などを取り上げる予定だが、受講生の興味関心によっては他のものを取り上げる場合もある。必要に応じてビデオを見た上で議論を行う回も挿入する場合がある		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 私たちの生活と科学技術 (講義) 第2回 科学革命と現代の科学技術 (講義) 第3回 現代の科学技術の抱える諸問題 (講義) 第4回 インターネットや図書館の利用について (講義) 第5回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第1グループの発表 第6回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第2グループの発表 第7回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第3グループの発表 第8回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第4グループの発表 第9回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第5グループの発表 第10回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第6グループの発表 第11回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第7グループの発表 第12回 ITを巡る諸問題 (輪読) 第8グループの発表 第13回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第1グループの発表 第14回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第2グループの発表 第15回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第3グループの発表</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第4グループの発表 第2回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第5グループの発表 第3回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第6グループの発表 第4回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第7グループの発表 第5回 産業活動と地球環境問題 (輪読) 第8グループの発表 第6回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第1グループの発表 第7回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第2グループの発表 第8回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第3グループの発表 第9回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第4グループの発表 第10回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第5グループの発表 第11回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第6グループの発表 第12回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第7グループの発表 第13回 医療の現場における諸問題 (輪読) 第8グループの発表 第14回 まとめ (講義) 第15回 これからの科学技術のあるべき姿 (講義)</p>		
テキスト	開講時に受講者と相談して決めるが、年間で新書などを4~5冊程度を読む予定である。読みたい本がある場合は申し出ること。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	発表内容 (担当時) :70% 議論参加・応答:30%		

国際関係		通年（前期）	4 単位
国際関係論入門I 国際関係の歴史と国際政治学・国際関係論の基本概念		芝崎 厚士（しばさき あつし）	
授業の到達目標及びテーマ	本講義の到達目標は、（１）ウェストファリア体制成立から21世紀初頭に至る国際関係の歴史の基本的な流れを理解すること（２）国際関係を分析するさまざまな理論や分析概念を、古典的なものから最新のものまで幅広く理解すること、（３）2012年現在の国際関係の動きを（１）（２）に基づいて分析する考え方を身につけること、である。		
授業の概要	グローバル社会で生きていく上で学んでおくべき、国際関係論・国際政治学の基本的な歴史と理論、考え方を初学者にわかりやすく教えます。授業はテスト形式で、（１）報道を分析するニュースウォッチ（２）小論文のリーディング（３）映像や音楽を分析するメディアウォッチで構成されます。毎回答案用紙を提出して、成績評価を行います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 イントロダクション：世界と自分、自分と世界の関わり 第2回 学問としての国際関係論・国際政治学とは何か 第3回 国際関係の歴史1 17世紀から19世紀まで 第4回 国際関係の歴史2 20世紀 2つの世界大戦と冷戦 第5回 映像分析1 20世紀とは何だったのか 第6回 国際関係の歴史3 21世紀 冷戦崩壊から現在まで 第7回 国際関係論の基本概念1 主権国家 第8回 国際関係論の基本概念2 多国籍企業・NGO 第9回 国際関係論の基本概念3 国際関係におけるパワー 第10回 映像分析2 グローバルな世界と日本のかかわりを考える 第11回 国際関係の理論1 リアリズムと勢力均衡 第12回 国際関係の理論2 リベラリズムと相互依存 第13回 国際関係の理論3 コンストラクティビズムと社会変化 第14回 映像分析3 21世紀の世界を考える 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

国際関係		通年（後期）	
国際関係論入門I グローバル社会の現状と課題		芝崎 厚士（しばさき あつし）	
授業の到達目標及びテーマ	本講義の到達目標は、（１）21世紀初頭のグローバルな社会が抱える諸問題を基礎から理解する（２）それらの問題を解決するためになされている取り組みを幅広く理解する（３）それらの問題を解決するために必要な考え方や物の見方を習得することである。		
授業の概要	前期の「国際関係論A」では基礎的な知識を学び、後期の「国際関係論B」では現在のグローバル社会で生じている環境問題、グローバル資本主義、格差、貧困、援助、子どもや女性の人権、紛争といった諸問題を取りあげます。ニュースウォッチ、リーディング、メディアウォッチを組み合わせたテスト形式で行い、多様なメディア・リテラシーを養い		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：君たちはどう世界に生きているか 第2回 グローバリゼーションとは何か 第3回 国際関係からグローバル関係へ 第4回 グローバル市場経済 第5回 映像分析：グローバル経済の功罪 第6回 地球環境問題 第7回 子ども・女性と人権 第8回 紛争とナショナリズム 第9回 映像分析：紛争の中の弱者達 第10回 紛争解決と平和構築 第11回 貧困と開発 第12回 グローバルな安全保障 第13回 映像分析2：マルチチャードの挑戦 第14回 グローバル市民社会 第15回 まとめ		
テキスト	テキストは、毎回配布された教材を使用する。	参考文献	特に指定しないが、毎回の講義に関連する参考文献をその都度指示する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

修了論文演習		後期 4 単位	
経済学修了論文演習		秋富 創（あきとみ はじめ）	
授業の到達目標 及びテーマ	経済学に関する修了論文の執筆を希望する者に対して論文執筆の指導を行い、最終的に修了論文を完成させることが目標である。現状分析を対象とする「狭義の経済学」だけでなく、政治学・歴史学・宗教学など、他の分野にまたがる「広義の経済学」を対象としても構わない。		
授業の概要	出席者の必要性や要望に応じて、テーマの選定や資料の購読、論文執筆に対する指導などを行う。授業は後期からの開講になっているが、前期から積極的に相談することが望ましい。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODakション 第2回 修了論文演習 第3回 修了論文演習 第4回 修了論文演習 第5回 修了論文演習 第6回 修了論文演習 第7回 修了論文演習 第8回 修了論文演習 第9回 修了論文演習 第10回 修了論文演習 第11回 修了論文演習 第12回 修了論文演習 第13回 修了論文演習 第14回 修了論文演習 第15回 まとめ		
テキスト	出席者と相談の上、決定する。	参考文献	出席者と相談の上、決定する。
評価方法	平常点:50% 修了論文:50%		

修了論文演習		後期 4 単位	
美術史論文		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標 及びテーマ	美術の問題を作家、作品、制度など、様々な視点から多角的に捉える力を養う。論文のテーマを各自で選択し、それを文書・画像資料などを用いて、論理的・実証的に論証する方法を身につける。芸術と人との関わりについて考えることを最終の目標としたい。		
授業の概要	夏休み前から論文について話を始める。テーマは7月にはおおよそ決めて、資料の収集に夏休みから入れるようにしたい。後期には参加学生のテーマに応じて資料や論文を紹介しながら、実際に論文を書き進めていく。中間発表を11月半ばに行き、互いに刺激を受けながら、よりよい論文の完成を目指したい。論文作成の進度に応じて個別指導も行う。		
授業計画	【後期】 第1回 夏休みの成果の発表と論文の方向の確認 第2回 論文指導（1） 論文の内容について 第3回 論文指導（2） 参考文献の調査 第4回 論文指導（3） 論文の構成について 第5回 論文指導（4） 書き始めた論文のチェック 第6回 論文指導（5） 美術作品の調査 第7回 論文指導（6） 論文の進行についての確認とアドヴァイス 第8回 中間発表 第9回 論文指導（7） 各自の進行に応じて、個別的に指導する 第10回 論文指導（8） 各自の進行に応じて、個別的に指導する 第11回 論文指導（9） 各自の進行に応じて、個別的に指導する 第12回 論文指導（10） 各自の進行に応じて、個別的に指導する 第13回 論文指導（11） 各自の進行に応じて、個別的に指導する 第14回 論文発表 第15回 予備日		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	論文のテーマに応じて、講義のなかで指示。
評価方法	修了論文:80% 授業への取り組み:20%		

修了論文演習		後期 4 単位	
歴史の方法論とその実践		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
授業の到達目標 及びテーマ	各自の問題関心に基づいた研究テーマを決め、その歴史的経過と現代的意味を探る。研究の現状と課題をふまえながら調査・検証を進め、独自の視点に基づいた修了論文を執筆・完成する。知力を振り絞って取り組んだ論文は、かけがえない財産となる。		
授業の概要	研究テーマの決定、先行研究の調査、研究課題の分析・検討、史料の読解など、論文作成に関する総合的な指導を行う。毎回、各自は研究の進行状況の報告を行い、全員による活発な討論を通じて研究を深め、客観的な観点を培いながら修了論文を完成する。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 準備作業①テーマの発見 第3回 準備作業②テーマを絞る 第4回 準備作業③調査・研究について 第5回 準備作業④文献目録の作成 第6回 研究報告 第7回 研究報告 第8回 研究報告 第9回 研究報告 第10回 論文中間報告 第11回 研究報告 第12回 研究報告 第13回 研究報告 第14回 研究報告 第15回 修了論文完成報告会		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。	参考文献	研究テーマに応じて適宜指示する
評価方法	平常点:50% 修了論文:50%		

修了論文演習		後期 4 単位	
現代における教育の諸問題の研究		鈴木 俊之 (すずき としゆき)	
授業の到達目標 及びテーマ	この授業を履修した者は、1. 教育学のテーマに関してまとまった文章を書く、2. 教育学の理論に基づいた分析をする、3. 説得的で論理的な文章で論文を作成する、事ができるようになる。		
授業の概要	各自のテーマを中心にすすめる。但し各自のテーマを深めるには資料や文献などを読み込み、まとめることが必要であるが、他者との議論も有益でもある。また全く異なるテーマと思える研究が自己のテーマを深めることもあるので、積極的に授業に参加することが必要である。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 受講生による発表 構想発表Ⅰ 第3回 受講生による発表 構想発表Ⅱ 第4回 受講生による発表 構想発表Ⅲ 第5回 受講生による発表 構想発表Ⅳ 第6回 受講生による発表 中間発表Ⅰ 第7回 受講生による発表 中間発表Ⅱ 第8回 受講生による発表 中間発表Ⅲ 第9回 受講生による発表 中間発表Ⅳ 第10回 受講生による発表 初稿の発表Ⅰ 第11回 受講生による発表 初稿の発表Ⅱ 第12回 受講生による発表 初稿の発表Ⅲ 第13回 受講生による発表 初稿の発表Ⅳ 第14回 卒論の最終チェック 第15回 卒論の発表		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的な参加:30% 論文:70%		

修了論文演習		後期 4 単位	
ヨーロッパ近代史		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
授業の到達目標 及びテーマ	修了論文の執筆をととして、近代の光と影を認識する。自分を取り囲む現実のなかに近代の諸要素がどのように入り込んでいるのか、あるいはいないのかを認識する。		
授業の概要	専攻科なので、本科の卒業論文よりもレベルの高いものを要求する。またヨーロッパ史なので、外国語文献の使用は当然である。従来、専攻科の学生には甘えが目立つ。また教員のなかにも学問を立身出世の手段としてとらえている人々が目立つ。しかし私は学問そのものを愛しているので、少なくとも私の愛するものに敬意を抱いてくれる学生を求		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 文献目録作成 文献読解 (グループ1) 第3回 文献目録作成 文献読解 (グループ2) 第4回 文献目録作成 文献読解 (グループ3) 第5回 中間報告 (グループ1) 第6回 中間報告 (グループ2) 第7回 中間報告 (グループ3) 第8回 修了論文草稿作成 第9回 修了論文草稿作成 (引き続き) 第10回 修了論文草稿作成 (引き続き) 第11回 修了論文草稿提出 第12回 修了論文作成 第13回 修了論文作成 (引き続き) 第14回 修了論文作成 (引き続き) 第15回 修了論文提出		
テキスト	特になし。	参考文献	柴田三千雄『近代世界と民衆運動』（岩波書店、1983年）。歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題Ⅰ・Ⅱ』（青木書店、2002-2003年）。
評価方法	平常点:10% 論文:90%		

修了論文演習		後期 4 単位	
社会心理学の実証研究論文を書く		武田 美亜 (たけだ みあ)	
授業の到達目標 及びテーマ	テーマを1つ決めて実証研究を行ない、修了論文をまとめられるようになる。自分で先行研究を調べ、研究の立案、準備、実施、分析を行なうという研究プロセスを実践的に理解する。		
授業の概要	基本的に個別指導の形で進める。先行研究を調べながら実験または調査の研究計画を立て、準備、実施、ExcelやSPSSなどの統計ソフトを用いた分析も必要に応じて行う。論文は各自で執筆する。授業としては後期科目であるが、前期のうちから、授業外の時間も大量に使って自主的に作業を進めることが必須である。		
授業計画	【後期】 第1回 研究テーマの確認 第2回 先行研究の調査 第3回 先行研究のまとめ 第4回 研究目的の設定 第5回 研究目的の吟味 第6回 研究方法の洗練 第7回 研究実施の計画 第8回 研究実施の準備 第9回 研究実施 第10回 データ入力 第11回 データ分析 第12回 結果の解釈 第13回 考察の吟味 第14回 論文作成 第15回 論文提出・総括		
テキスト	戸田山和久 (2012) 『新版 論文の教室』NHK出版	参考文献	松井豊 (2006) 『心理学論文の書き方』（河出書房新社）／向後千春・富永敦子 (2007) 『統計学がわかる』（技術評論社）／このほか適宜紹介する。
評価方法	修了論文:70% 研究への取り組み:30%		

修了論文演習		後期 4 単位	
比較文化論の修了論文を書く		中井 章子 (なかい あやこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	論文のテーマを決めて、文献を収集する。 先行研究をまとめ、テーマをしぼる。 論文の構想を考え、執筆する。		
授業の概要	前期のはじめからテーマを決めて研究を始める。 個人指導、演習形式を混ぜて行う。 必ず、前期の初めに相談に来てください。		
授業計画	【後期】 第1回 論文テーマの確認。論文の書き方について 第2回 調査、研究の方法について 第3回 文献調査、文献リストの作成 第4回 研究と報告 第5回 研究と報告に基づく討論 第6回 中間報告と検討 第7回 論文の構想 第8回 論文の目次 第9回 論文執筆 第10回 論文の文章の検討 第11回 論文執筆、参考文献リスト 第12回 論文の仮提出 第13回 論文の改訂 第14回 論文の提出 第15回 論文についての口頭試問		
テキスト	論文テーマに即して決める。	参考文献	相談の上決める。
評価方法	修了論文:70% 研究、報告、レポート:30%		

修了論文演習		後期 4 単位	
法学の修了論文を書く		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
授業の到達目標 及びテーマ	日頃、不思議に思っていた社会問題、納得がいかないと思っていた社会問題等について、詳しく調べて、法律的な解決方法を探りましょう。その解決方法で問題はないでしょうか？ 論文は自問自答です。私の専門は、環境法、情報法、消費者法、事故法等ですが、それ以外をテーマにしても構いません。		
授業の概要	まず、資料の探し方、法律論文の書き方（特に適切な引用の仕方）等、論文を書く上で必要な指導をします。論文の内容については、中間報告を通して、質疑応答をしながら進めます。中間報告では、何度もだめ出しされるかもしれませんが、指摘された点を調べ直すなどして、頑張ってください。必ずよいものが仕上がると思います。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨ ン 資料の調べ方等 第2回 インTRODクシヨ ン 論文の書き方等 第3回 テマ決定指導 第4回 資料検索及びアウトライン作成指導 第5回 資料検索及びアウトライン作成指導 第6回 資料検索及びアウトライン作成指導 第7回 修了論文中間報告 第8回 修了論文中間報告 第9回 修了論文中間報告 第10回 修了論文中間報告 第11回 修了論文中間報告 第12回 修了論文中間報告 第13回 修了論文最終報告 第14回 修了論文最終報告 第15回 ゼミ論文集作成		
テキスト	使用しません	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	修了論文中間報告:40% 修了論文:60%		

修了論文演習		後期 4 単位	
政治学・社会思想・沖縄学にかんする修了論文の作成		輪島 達郎（わじま たつろう）	
授業の到達目標 及びテーマ	政治学、社会・政治思想、沖縄学のいずれかの領域について各自の研究課題を設定し、文献を探索して先行研究をふまえた上でオリジナルな議論を構築する方法を学び、修了論文を作成します。		
授業の概要	研究課題の設定、研究の進捗報告、論文作成指導の順に進めていきます。		
授業計画	【後期】 第1回 研究発表と論文作成指導 第2回 研究発表と論文作成指導 第3回 研究発表と論文作成指導 第4回 研究発表と論文作成指導 第5回 研究発表と論文作成指導 第6回 研究発表と論文作成指導 第7回 研究発表と論文作成指導 第8回 研究発表と論文作成指導 第9回 研究発表と論文作成指導 第10回 研究発表と論文作成指導 第11回 研究発表と論文作成指導 第12回 研究発表と論文作成指導 第13回 研究発表と論文作成指導 第14回 研究発表と論文作成指導 第15回 研究発表と論文作成指導		
テキスト	なし。	参考文献	なし。
評価方法	修了論文:90% 平常点:10%		

修了論文演習		後期 4 単位	
現代社会とそこに生活している人間について考察し論文を書く		渡邊 良智（わたなべ よしとも）	
授業の到達目標 及びテーマ	この演習では専攻科での学習のまとめとして、社会学ないしマスコミ論のテーマで、修了論文を書く。現代日本社会の直面している諸問題を追求し、私達の生きている社会に対する幅広い視野や判断力を養い、日本だけでなく他の社会との比較の視点を考慮しつつ、自分自身の考えに基づいて論文を書く。卒業論文よりレベルの高い論文を書くことがで		
授業の概要	それぞれの学生が、テーマを選定し調査研究を行い、進行状況を中間報告する。それに基づいて、参加者全員で討論を行うとともに、各人のそれから先への進め方、論文のまとめ方等を、適宜指導する。		
授業計画	【後期】 第1回 テーマの設定 第2回 論文の構想（1） 第3回 論文の構想（2） 第4回 これまでの研究のレビュー（1） 第5回 これまでの研究のレビュー（2） 第6回 仮説の設定 第7回 データの収集（1） 第8回 データの収集（2） 第9回 中間報告 第10回 データの分析（1） 第11回 データの分析（2） 第12回 仮説の再検討 第13回 論文の作成（1） 第14回 論文の作成（2） 第15回 論文の完成		
テキスト	特にない。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	演習参加度:30% 修了論文の評価:70%		

英語演習		通年 2 単位	
Discussion in English for Senkoka		エリオット (ELLIOTT, M. P.)	
授業の到達目標 及びテーマ	This class will give students the opportunity to learn a variety of useful expressions for discussion in English. Students will do short readings on a wide variety of topics for homework, respond to discussion questions based on the readings in their journals, and then discuss the issues in class.		
授業の概要	This class will be completely in English. In this course, you will discuss a variety of topics and express your opinions and ideas in English in small groups. Students must do short readings for homework, answer journal questions, participate actively in group discussions, and take turns being discussion leader.		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第 1回 Course Introduction & Discussion Skills</p> <p>第 2回 Textbook: Unit 1</p> <p>第 3回 Textbook: Unit 2</p> <p>第 4回 Textbook: Unit 3</p> <p>第 5回 Textbook: Units 4</p> <p>第 6回 Textbook: Unit 5</p> <p>第 7回 Review Activities</p> <p>第 8回 Mid-Semester Reflection & Test 1</p> <p>第 9回 Textbook: Unit 6</p> <p>第10回 Textbook: Unit 7</p> <p>第11回 Textbook: Units 8</p> <p>第12回 Textbook: Unit 9</p> <p>第13回 Textbook: Unit 10</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 End-of-Semester Reflection & Test 2</p>	<p>【後期】</p> <p>第 1回 Textbook: Unit 11</p> <p>第 2回 Textbook: Unit 12</p> <p>第 3回 Textbook: Unit 13</p> <p>第 4回 Textbook: Unit 14</p> <p>第 5回 Textbook: Unit 15</p> <p>第 6回 Review</p> <p>第 7回 Mid-Semester Reflection & Test 3</p> <p>第 8回 Textbook: Unit 16</p> <p>第 9回 Textbook: Unit 17</p> <p>第10回 Textbook: Unit 18</p> <p>第11回 Textbook: Unit 19</p> <p>第12回 Textbook: Unit 20</p> <p>第13回 Review</p> <p>第14回 End-of-Semester Reflection & Test 4</p> <p>第15回 Course Review</p>	
テキスト	Impact Issues 2 by R. Day, J. Shaules, and J. Yamanaka ISBN# 978-962-01-9931-8 (book with self study CD)	参考文献	We will read about 20 different topics in English in the textbook and learn how to have good discussions in English.
評価方法	Class Participation:20% Homework:20% Discussion Leader:20% 4 Tests:40%		

芸術人間学特講	通年 4 単位
自然・技術連関・芸術	橋本 典子 (はしもと のりこ)

【ねらい】

本科で学んだ芸術人間学をさらに深め、自分の制作、論文作成等と結びつけ、芸術を総合的に勉強することを目指す。本科及び専攻科での勉強を通じて芸術人間学を明らかにする。授業に参加し、必要に応じて自分の考えをまとめ発表することを訓練する。

【授業計画】

【前期】

- 第 1回 序論－芸術人間学のまとめと展望
- 第 2回 芸術と価値
- 第 3回 超越的価値との関わり
- 第 4回 <よく生きること>と芸術
- 第 5回 芸術創造と観照－プラトンの「美の学」
- 第 6回 理性による美の発見－諸芸術の比較
- 第 7回 芸術と宗教－聖書と芸術
- 第 8回 孔子の芸術哲学－超越の問題
- 第 9回 芸術解釈の構造
- 第10回 解釈学－リクールとガダマー
- 第11回 人間の生活と洞窟絵画－原始芸術の意味
- 第12回 原色の時代－現代における「生」の意味
- 第13回 模倣と表現－芸術の東西比較
- 第14回 東洋絵画の本質－氣韻生動
- 第15回 まとめ、夏休みの課題と文献紹介

【後期】

- 第 1回 前期のまとめ－芸術解釈と価値
- 第 2回 日本の美学 1－歌論
- 第 3回 日本の美学 2－能楽論
- 第 4回 日本の美学 3－自然と芸術
- 第 5回 日本の美学 4－芸術と人生
- 第 6回 日本の美学 5－芸術に於ける「間」の問題
- 第 7回 芸術と空間論－抽象化と現実
- 第 8回 芸術と時間論－音楽的時間
- 第 9回 美の現象学－芸術作品の層構造
- 第10回 芸術と象徴－カッシーラー
- 第11回 ニーチェの美学
- 第12回 想像力の構造－バシュラール
- 第13回 自然の五元素と想像力
- 第14回 現代芸術における想像力の問題
- 第15回 まとめ、芸術人間学の総論

【進め方】

我々の環境は自然だけでなく、機械と機械とが機能的に且つ有機的に結びついた技術連関でもある。技術連関は技術と芸術との共生の可能性を実現しているが、その環境の中で生きる我々は、時間的存在という人間性の本質を喪失している。時間性をその根源とする芸術は、技術連関に於いて人間性を回復させる力を持つ。このことを講義形式で明らかにする。更に参加型の授業を目指して発言を求める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを使う。今道友信著『美について』（講談社現代新書）

【参考文献】

今道友信編『講座美学』1～5（東京大学出版会）その他授業の際に紹介する。

【評価方法】

レポート（2回以上）：70% 発表：10% 参加及びコミュニケーション実践力：20%

環境芸術論		通年 4 単位	
環境と芸術・芸術の社会性		趙 慶姫 (ちよう きょんひ)	
授業の到達目標 及びテーマ	人間は自らをとりまく環境から様々な刺激を受けて芸術表現を行い、また芸術によって社会環境を変えてきた。「環境」は現代を生きる私たちにとって重要なキーワードになっている。本講ではファインアートから建築、デザインまで、芸術を環境との関わりにおいてとらえ、その社会性について考える視座を得ることを目標とする。		
授業の概要	スライドやDVDを多く用いて事例紹介を行う。学外に出て、環境芸術の実例を鑑賞するフィールドワークを取り入れる予定。学生による報告、意見交換など積極的な授業参加を促し、講師自身の制作活動、環境芸術への取り組みの経験を活かして、生きた講義にしたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 導入／環境と芸術について</p> <p>第2回 自然環境と芸術1：芸術の歴史の中で</p> <p>第3回 自然環境と芸術2：自然の要素と芸術表現</p> <p>第4回 自然環境と芸術3：自然へのアプローチ</p> <p>第5回 自然環境と芸術4：ランドスケープ</p> <p>第6回 都市環境と芸術1：駅空間のアート（国内の事例）</p> <p>第7回 都市環境と芸術2：駅空間のアート（海外の事例1）</p> <p>第8回 都市環境と芸術3：駅空間のアート（海外の事例2）</p> <p>第9回 見学会（駅空間のパブリックアート）</p> <p>第10回 見学会の報告、意見交換</p> <p>第11回 『都市環境と芸術-地下鉄駅空間のアート-』を読む1</p> <p>第12回 『都市環境と芸術-地下鉄駅空間のアート-』を読む2</p> <p>第13回 都市環境と芸術4：建築現場仮囲いのアート</p> <p>第14回 都市環境と芸術5：落書き消去と壁画制作</p> <p>第15回 学生による都市環境と芸術に関する事例報告</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 都市の景観の美醜についての調査</p> <p>第2回 『美しい都市・醜い都市』を読む1</p> <p>第3回 『美しい都市・醜い都市』を読む2</p> <p>第4回 『美しい都市・醜い都市』を読む3</p> <p>第5回 都市の景観の美醜についてのディスカッション</p> <p>第6回 日本の環境芸術の系譜1：自治体による彫刻設置事業</p> <p>第7回 日本の環境芸術の系譜2：アートプロデューサーの登場</p> <p>第8回 日本の環境芸術の系譜3：アートプロジェクト</p> <p>第9回 日本のパブリックアート1：彫刻公園、他</p> <p>第10回 日本のパブリックアート2：地域おこし</p> <p>第11回 日本のパブリックアート3：都市の再開発</p> <p>第12回 見学会（都市空間のパブリックアート）</p> <p>第13回 見学会の報告、意見交換</p> <p>第14回 学生による地域のパブリックアート調査報告</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	平常点:30% 報告・発表:20% レポート:50%		

美学特講	通年 4 単位	
美学の現代的課題（美学の問題の共有と、その問題意識の深化）	樋笠 勝士（ひかさ かつし）	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 本講座は基本的にはゼミナールの形式を取るので、例えば芸術現象の様々な具体的な場面を素材にするなどしてディスカッションを心がけたい。同時に履修者のそれぞれの専攻内容や考えたい領域なども生かして、それらを各自自由に取り上げて調査・分析・解釈・発表などすることを通じて、相互に理解し合うような場もつくりたい。授業に対する履修者の積極的な参加意識を期待している。</p> <p>【授業の概要】 ゼミ形式で進める。</p> <p>【授業計画：前期】 第1回 打ち合わせ：前期は各人の研究や個性を生かした自由発表の予定。 第2回 「美学」の問題について1 第3回 「美学」の問題について2 第4回 自由研究発表 1 第5回 自由研究発表 2 第6回 自由研究発表 3 第7回 自由研究発表 4 第8回 自由研究発表 5 第9回 自由研究発表 6 第10回 自由研究発表 7 第11回 作品鑑賞と討論会 第12回 作品鑑賞と討論会 第13回 作品鑑賞と討論会 第14回 作品鑑賞と討論会 第15回 総評</p> <p>【授業計画：後期】 第1回 後期は作品鑑賞等を通じたディスカッションを中心にする予定。 第2回 作品鑑賞と討論会 第3回 作品鑑賞と討論会 第4回 作品鑑賞と討論会 第5回 作品鑑賞と討論会 第6回 作品鑑賞と討論会 第7回 作品鑑賞と討論会 第8回 中間総括 第9回 作品鑑賞と討論会 第10回 作品鑑賞と討論会 第11回 作品鑑賞と討論会 第12回 作品鑑賞と討論会 第13回 作品鑑賞と討論会 第14回 作品鑑賞と討論会 第15回 総評</p> <p>【テキスト】 授業中に指示する。</p> <p>【参考文献】 授業中に指示する。</p> <p>【評価方法】 プレゼンテーション:50% 平常点:50%</p>		

美術史特講		通年 4 単位	
フランス美術研究：新古典主義とロマン主義		大野 芳材（おおの よしき）	
授業の到達目標及びテーマ	フランス革命から19世紀はじめにかけて、フランス美術は新古典主義とロマン主義へと大きく旋回する。それぞれの表現の特質を、ダヴィッドやアングル（新古典主義）、ジェリコーやドラクロワ（ロマン主義）の作品を手がかりに考えたい。それぞれが誕生し発展した社会的な背景を、ヨーロッパの歴史のなかで考える。		
授業の概要	前期；スライド、ビデオなどを用いた講義。学生の発表も織り交ぜるので、積極的な授業参加を期待する。展覧会見学も行う。 後期；新古典主義とロマン主義について書かれた論文を精読する。展覧会見学も行いたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODakション</p> <p>第2回 フランスのロココ美術</p> <p>第3回 革命前のダヴィッド</p> <p>第4回 ダヴィッドとナポレオン</p> <p>第5回 ジェリコー</p> <p>第6回 ヨーロッパのロマン主義：イギリス</p> <p>第7回 ヨーロッパのロマン主義：スペイン</p> <p>第8回 ヨーロッパのロマン主義：ドイツ</p> <p>第9回 ドラクローワ（1） ドラクローワの作品</p> <p>第10回 ドラクローワ（2） ドラクローワとボードレール</p> <p>第11回 アングル（1） アングルの作品</p> <p>第12回 アングル（2） アングルとアカデミスム</p> <p>第13回 クールベ</p> <p>第14回 マネ</p> <p>第15回 展覧会見学（期日は授業で指示）</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期のINTRODUCTION、講読する文献を選ぶ</p> <p>第2回 第一文献研究（1） 全体でテキストを読む</p> <p>第3回 第一文献研究（2） 全体で討議</p> <p>第4回 第一文献研究（3） まとめ</p> <p>第5回 第二文献研究（1） 全体でテキストを読む</p> <p>第6回 第二文献研究（2） 全体で討議</p> <p>第7回 第二文献研究（3） まとめ</p> <p>第8回 第三文献研究（1） 全体でテキストを読む</p> <p>第9回 第三文献研究（2） 全体で討議</p> <p>第10回 第三文献研究（3） まとめ</p> <p>第11回 第四文献研究（1） 全体でテキストを読む</p> <p>第12回 第四文献研究（2） 全体で討議</p> <p>第13回 第四文献研究（3） まとめ</p> <p>第14回 美術館の見学</p> <p>第15回 予備日</p>	
テキスト	授業中に指示。後期のテキストはコピーを配布。	参考文献	各種画集など、授業中に指示
評価方法	レポート（4000字）：60% 展覧会レポート（2000字）：20% 授業への取り組み：20%		

芸術特別研究（制作・論文）	通年 8 単位	
修了制作・修了論文		
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、大野 芳材（おおの よしき）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 各専攻の中で自主的に各自のテーマを追求し、学年末に一年間の締め括りとして作品または論文を提出して修了展に発表する。</p> <p>【授業の概要】 各自がそれぞれのテーマに従って、主に教員の個別指導のもとに行う自主的な研究が中心となる。修了展での発表はこの科目の合格者のみとする。修了展の制作系の発表作品は、合同講評会で決定する。</p> <p>【授業計画】 各専攻について、授業内容は次の通りである。</p> <p>○制作系：修了制作は、課題作品と自由作品の二種を提出する。</p> <p> <絵画専攻> 課題作品／人物 油絵80号以上1点。 自由作品／油絵80号以上1点、および版画。</p> <p> <デザイン専攻> 課題作品／平面（S80号以上）1点または立体。 自由作品／平面（S80号以上）1点または立体。</p> <p> <織専攻> 課題作品／織作品（100cm×200cm）1点。 自由作品／織作品（70cm×90cm）1点。</p> <p> 修了制作の認定は、2014年1月15日（水）に行う。</p> <p>○論文系：修了論文題目と論文の提出期限は次の通り。</p> <p> 論文題目／提出期限 2013年10月16日（水）午後4時30分（厳守） 修了論文／提出期限 2014年 1月15日（水）午後4時30分（厳守） 論文枚数 400字詰め原稿用紙50枚（20000字）以上</p> <p> 提出先／教務課</p> <p>【評価方法】 前期末および学年末の年2回にわたり、本学科全専任教員および全実技系教員により、学生1人ずつの合同講評会を行ない総合評価をする。</p> <p> 前期講評会 35% 後期講評会 65%</p>		

芸術各論	通年 4 単位
修了展研究	
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、大野 芳材（おおの よしき）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 各自の専攻した「芸術特別研究」の支えとなる科目で、修了制作・修了論文がよりよい成果を収めることができるように、専攻した分野の教員が原則として指導する。</p> <p>【授業の概要】 内容や進め方については、各専攻ごと学生のテーマに応じて担当の教員が年度初めに定める。芸術特別研究の充実に資することを目的とする。展覧会鑑賞を含む。</p> <p>【テキスト】 特に用いない。</p> <p>【参考文献】 専攻に応じて、担当の教員が授業の中で指示する。</p> <p>【評価方法】 「芸術特別研究」と併せた平常点による。平常点 50% 授業への取り組み 50%</p>	

芸術文献講読 I	通年 4 単位																																
芸術英語文献演習	橋本 典子（はしもと のりこ）																																
授業の到達目標 及びテーマ	基礎的英語力を養い、英語で書かれた芸術論や芸術作品の解釈の文献を読解しこれを深く理解することを目的とする。特に、作品解釈や背景となる思想については独自に調べ発表することが要求される。抽象芸術について考察する。																																
授業の概要	受講者が積極的に関わる演習形式で授業は行なう。受講生は英語の文献を読み、文献に書かれた内容について発表し討論する。特に21世紀の新しい芸術との関わりを追究したい。前期・後期共に試験を行う。必ず出席すること。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>第1回 序論－英語圏の芸術論</td> <td>第1回 序論－テキスト紹介、テキスト確定</td> </tr> <tr> <td>第2回 現代の芸術論の問題</td> <td>第2回 テキストの購読と解釈1</td> </tr> <tr> <td>第3回 テキストの紹介</td> <td>第3回 テキストの購読と解釈2</td> </tr> <tr> <td>第4回 テキスト確定、テキストの購読と解釈</td> <td>第4回 テキストの購読と解釈3</td> </tr> <tr> <td>第5回 テキストの購読と解釈1</td> <td>第5回 テキストの購読と解釈4</td> </tr> <tr> <td>第6回 テキストの購読と解釈2</td> <td>第6回 テキストの購読と解釈5</td> </tr> <tr> <td>第7回 テキストの購読と解釈3</td> <td>第7回 テキストの購読と解釈6</td> </tr> <tr> <td>第8回 テキストの購読と解釈4</td> <td>第8回 テキストの解釈と発表（全員）</td> </tr> <tr> <td>第9回 テキストの購読と解釈5</td> <td>第9回 テキストの解釈と発表1</td> </tr> <tr> <td>第10回 テキストの購読と解釈6、参考作品の考察</td> <td>第10回 テキストの解釈と発表2</td> </tr> <tr> <td>第11回 テキストの購読と解釈7</td> <td>第11回 テキストの解釈と発表3</td> </tr> <tr> <td>第12回 テキストの購読と解釈8</td> <td>第12回 テキストの解釈と発表4</td> </tr> <tr> <td>第13回 テキストの購読と解釈9</td> <td>第13回 テキストの解釈と発表5</td> </tr> <tr> <td>第14回 テキストの購読と解釈10</td> <td>第14回 テキストの解釈と発表と具体的作品例の検討</td> </tr> <tr> <td>第15回 前期のまとめ</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> </table>	【前期】	【後期】	第1回 序論－英語圏の芸術論	第1回 序論－テキスト紹介、テキスト確定	第2回 現代の芸術論の問題	第2回 テキストの購読と解釈1	第3回 テキストの紹介	第3回 テキストの購読と解釈2	第4回 テキスト確定、テキストの購読と解釈	第4回 テキストの購読と解釈3	第5回 テキストの購読と解釈1	第5回 テキストの購読と解釈4	第6回 テキストの購読と解釈2	第6回 テキストの購読と解釈5	第7回 テキストの購読と解釈3	第7回 テキストの購読と解釈6	第8回 テキストの購読と解釈4	第8回 テキストの解釈と発表（全員）	第9回 テキストの購読と解釈5	第9回 テキストの解釈と発表1	第10回 テキストの購読と解釈6、参考作品の考察	第10回 テキストの解釈と発表2	第11回 テキストの購読と解釈7	第11回 テキストの解釈と発表3	第12回 テキストの購読と解釈8	第12回 テキストの解釈と発表4	第13回 テキストの購読と解釈9	第13回 テキストの解釈と発表5	第14回 テキストの購読と解釈10	第14回 テキストの解釈と発表と具体的作品例の検討	第15回 前期のまとめ	第15回 まとめ
【前期】	【後期】																																
第1回 序論－英語圏の芸術論	第1回 序論－テキスト紹介、テキスト確定																																
第2回 現代の芸術論の問題	第2回 テキストの購読と解釈1																																
第3回 テキストの紹介	第3回 テキストの購読と解釈2																																
第4回 テキスト確定、テキストの購読と解釈	第4回 テキストの購読と解釈3																																
第5回 テキストの購読と解釈1	第5回 テキストの購読と解釈4																																
第6回 テキストの購読と解釈2	第6回 テキストの購読と解釈5																																
第7回 テキストの購読と解釈3	第7回 テキストの購読と解釈6																																
第8回 テキストの購読と解釈4	第8回 テキストの解釈と発表（全員）																																
第9回 テキストの購読と解釈5	第9回 テキストの解釈と発表1																																
第10回 テキストの購読と解釈6、参考作品の考察	第10回 テキストの解釈と発表2																																
第11回 テキストの購読と解釈7	第11回 テキストの解釈と発表3																																
第12回 テキストの購読と解釈8	第12回 テキストの解釈と発表4																																
第13回 テキストの購読と解釈9	第13回 テキストの解釈と発表5																																
第14回 テキストの購読と解釈10	第14回 テキストの解釈と発表と具体的作品例の検討																																
第15回 前期のまとめ	第15回 まとめ																																
テキスト	<table border="0"> <tr> <td>授業のテキストは受講の意向を重視するが、プリントを渡し、それを使用する。</td> <td>参考文献</td> <td>必要に応じて授業中に紹介する。</td> </tr> </table>	授業のテキストは受講の意向を重視するが、プリントを渡し、それを使用する。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。																													
授業のテキストは受講の意向を重視するが、プリントを渡し、それを使用する。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。																															
評価方法	コミュニケーション力:50% 試験:40% 発表及び報告:10%																																

創作論		通年 4 単位	
創作における視野を広げるために		阿久津 光子（あくつ みつこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	現代における芸術表現は多様であり、いかに芸術が生活環境と関連しているかを考えると、自らの芸術観を築くことの大切さが求められる。本稿では学生自身が創造性の視野を広げ、その軸となるものを自ら考察していくことを目指す。		
授業の概要	創作の実作者の観点から、興味深い作家や作品を取り上げながら、画集やパワーポイント、ビデオ、DVDなどを用い授業を進める。学生発表、展覧会紹介、鑑賞を含む。		
授業計画	【前期】 第1回 原初のもづくり、芸術表現活動 第2回 造形要素と表現について 第3回 素材、技術と表現1 自然を編む 第4回 素材、技術と表現2 絵画、彫刻とタビスリー 第5回 ビデオ鑑賞「クリスト：製作中」 第6回 形体・フォルム1 具象と抽象 第7回 形体・フォルム2 平面と立体 第8回 形体・フォルム3 地と柄 第9回 DVD鑑賞「マティスとピカソ 2人の芸術家の対話」 第10回 造形手段としての色彩について 第11回 色彩と表現1 民族衣装と色彩 第12回 色彩と表現2 マーク・ロスコ、他 第13回 学生発表1 第14回 学生発表2 第15回 まとめ	【後期】 第1回 ギャラリー探訪 第2回 エイブル・アート「日本のアウトサイダーアート」 第3回 遊びの中で発見する 第4回 女性と芸術1 ハンナ・ヘーヒ、ソニア・ドローネ、他 第5回 女性と芸術2 ビデオ鑑賞「Women in the Art」 第6回 女性と芸術3 石岡瑛子、他 第7回 生活と芸術1 縫うという表現 第8回 生活と芸術2 DVD鑑賞「Signe Chanel」 第9回 生活と芸術3 ルーシー・リー、ハンス・コッパー 第10回 環境と芸術1 アンディ・ゴールズワージー、他 第11回 環境と芸術2 ビデオ鑑賞「フンデルトヴァッサー」 第12回 環境と芸術3 イサム・ノグチ 第13回 学生発表1 第14回 学生発表2 第15回 まとめ	
テキスト	特に定めず、必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:50% 発表:30% レポート:20%		

意匠学		通年 4 単位	
欧米や日本における近代デザインの源泉とその展開をたどり、現代の社会と生活を見直して、これからのものづくり、環境づくりを考える。		椎原 晶子（しいはら あきこ）	
授業の到達目標 及びテーマ	近代欧米・日本等の工業化による大量生産、大量流通は、社会構造に大きな変化をもたらした。それ以前の手工芸時代と比較しつつ、前期は近代技術と芸術、産業の統合を求めた近代デザインの展開を振り返り、現代の生活環境に与えた意義や課題を理解する。後期は日本のデザインの展開を辿り、今後の持続可能なものづくり、環境づくりのあり方を理		
授業の概要	前期は、産業革命以降の近代デザイン運動が近代社会の改善に果たした役割を把握した上で、現代におけるデザインの課題を調査する。後期は、日本のデザインの源流を成す道具や住まい・まちづくりを概観した上で、戦後から現代に至るデザインの課題を把握し、今後の私たちの生活と環境づくりについて考察する。		
授業計画	【前期】 第1回 デザインとは：人・モノ・コトの関係づくり 第2回 産業革命、工業化、近代社会の産業とものづくり 第3回 ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動 第4回 アルヌーヴォーの潮流 第5回 日本の工芸・美術とジャポニズム 第6回 ウィーン分離派vs. アドルフ・ロース「装飾と罪悪」 第7回 近代デザイン運動の諸相：オランダ・ロシア・ドイツ 第8回 ドイツ工作連盟：芸術・技術・産業の積極的統合 第9回 パウハウスの造形理念と教育・実践 第10回 近代建築の理想：ル・コルビュゼとミース 第11回 都市生活とアールデコ、アメリカの商業デザイン 第12回 パリアフリーとユニバーサルデザイン 第13回 デザインシヨールーム等見学 第14回 地域性とデザイン：北欧の生活空間デザイン 第15回 地域性とデザイン：日本各地の住まいと町並み	【後期】 第1回 日本デザインの源流1:信仰の美・生活の美 第2回 日本デザインの源流2:陶磁器の歴史 第3回 日本デザインの源流3:陶芸の産地と作家 第4回 日本デザインの源流4:漆芸・木工芸・竹工芸 第5回 日本デザインの源流5:生活の中の絵画：絵巻物、障壁画 第6回 日本デザインの源流6:琳派の工芸美術 第7回 日本デザインの源流7:日本の文様のルーツと構成 第8回 日本デザインの源流8:文様の展開：千代紙、襷紙、着物 第9回 日本デザインの源流9:日本の家の構成：襖障子の役割 第10回 日本デザインの源流10:染織工芸 第11回 近代日本のデザイン:民芸、生活改善運動～モダンデザイン 第12回 デザイン事例見学会 第13回 現代のデザイン1:情報、イメージのデザイン 第14回 現代のデザイン2:環境のデザイン 第15回 これからのものづくり・生活環境づくり	
テキスト	『世界デザイン史』阿部公正監修、美術出版社	参考文献	『20世紀の空間デザイン』矢代眞己他、彰国社、 『日本デザイン史』竹原あき子+森山明子監修、美術出版社、 『現代デザイン論』藤田治彦、昭和堂
評価方法	レポート:50% 提出物:30% 授業態度・平常点:20%		

工芸		通年 2 単位			
日常使いできる金属小物（カトラリーやアクセサリ等）のデザイン及び制作		山田 瑞子（やまだ みずこ）			
授業の到達目標及びテーマ	<p>“工芸”と言う言葉は用の美を意味します。 この授業では金属（主に銀）を用いて実際に使える小物を作ります。 独自のアイデアを生かし、デザインをして、いかに具現化していくかを体験します。</p>				
授業の概要	<p>実習中心で進めていく、但し時間が少ないので各自授業外の時間にアイデア、デザインを充分にリサーチし準備して、休まず取り組んでもらいたい。</p>				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> <p>第1回 「銀の透かし彫り小物制作」アイデア出し</p> <p>第2回 デザインの決定、地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第4回 切り抜き断面のヤスリがけ</p> <p>第5回 金具付け</p> <p>第6回 研磨等の仕上げ</p> <p>第7回 「鍍目リング制作」サイズ測定、地金取り</p> <p>第8回 リング制作（叩いて成形し鍍付け）、サイズ合わせ</p> <p>第9回 鍍目による表面のテクスチャーを付ける、仕上げ</p> <p>第10回 「鍍付け技法によるジュエリー制作」アイデア出し</p> <p>第11回 デザイン決定、地金取り</p> <p>第12回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第13回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第14回 リング付け又は金具付け</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> <p>第1回 「金鍍で打つスプーン制作」デザイン</p> <p>第2回 地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第4回 木槌と臼を使ってスプーンの形を作る</p> <p>第5回 装飾小物の鍍付け</p> <p>第6回 当て金、金鍍による形成、硬化</p> <p>第7回 研磨等の仕上げ加工</p> <p>第8回 「習得した技法を使っでの自由制作」デザイン</p> <p>第9回 地金取り</p> <p>第10回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第11回 切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第12回 叩き加工</p> <p>第13回 曲げ加工</p> <p>第14回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ加工</p> </td> </tr> </table>			<p>【前期】</p> <p>第1回 「銀の透かし彫り小物制作」アイデア出し</p> <p>第2回 デザインの決定、地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第4回 切り抜き断面のヤスリがけ</p> <p>第5回 金具付け</p> <p>第6回 研磨等の仕上げ</p> <p>第7回 「鍍目リング制作」サイズ測定、地金取り</p> <p>第8回 リング制作（叩いて成形し鍍付け）、サイズ合わせ</p> <p>第9回 鍍目による表面のテクスチャーを付ける、仕上げ</p> <p>第10回 「鍍付け技法によるジュエリー制作」アイデア出し</p> <p>第11回 デザイン決定、地金取り</p> <p>第12回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第13回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第14回 リング付け又は金具付け</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 「金鍍で打つスプーン制作」デザイン</p> <p>第2回 地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第4回 木槌と臼を使ってスプーンの形を作る</p> <p>第5回 装飾小物の鍍付け</p> <p>第6回 当て金、金鍍による形成、硬化</p> <p>第7回 研磨等の仕上げ加工</p> <p>第8回 「習得した技法を使っでの自由制作」デザイン</p> <p>第9回 地金取り</p> <p>第10回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第11回 切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第12回 叩き加工</p> <p>第13回 曲げ加工</p> <p>第14回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ加工</p>
<p>【前期】</p> <p>第1回 「銀の透かし彫り小物制作」アイデア出し</p> <p>第2回 デザインの決定、地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第4回 切り抜き断面のヤスリがけ</p> <p>第5回 金具付け</p> <p>第6回 研磨等の仕上げ</p> <p>第7回 「鍍目リング制作」サイズ測定、地金取り</p> <p>第8回 リング制作（叩いて成形し鍍付け）、サイズ合わせ</p> <p>第9回 鍍目による表面のテクスチャーを付ける、仕上げ</p> <p>第10回 「鍍付け技法によるジュエリー制作」アイデア出し</p> <p>第11回 デザイン決定、地金取り</p> <p>第12回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第13回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第14回 リング付け又は金具付け</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 「金鍍で打つスプーン制作」デザイン</p> <p>第2回 地金取り</p> <p>第3回 糸鋸による切り抜き、切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第4回 木槌と臼を使ってスプーンの形を作る</p> <p>第5回 装飾小物の鍍付け</p> <p>第6回 当て金、金鍍による形成、硬化</p> <p>第7回 研磨等の仕上げ加工</p> <p>第8回 「習得した技法を使っでの自由制作」デザイン</p> <p>第9回 地金取り</p> <p>第10回 糸鋸による切り抜き</p> <p>第11回 切り取り面のヤスリがけ</p> <p>第12回 叩き加工</p> <p>第13回 曲げ加工</p> <p>第14回 鍍付けによる組み立て</p> <p>第15回 研磨等の仕上げ加工</p>				
テキスト	特になし	参考文献	その都度用意する		
評価方法	平常点:70% 作品の評価:30%				

キリスト教と文化		通年 4 単位			
文化におけるキリスト教の影響力		シェロ マイク（SHERRILL, M. J.）			
授業の到達目標及びテーマ	<p>キリスト教の歴史と伝統を知り、その展開に関する知識を得ると共に現在のキリスト教が大半を占める諸国の文化におけるキリスト教の影響力を理解させることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>毎回ミュージック紹介から始まります。それは、芸術的に文化的にクリスチャンカルチャーを味わうために（ゴスペル、ロック、ヘビーメタル、ワーシップ等）一曲を聞きます。続いて授業計画に基づいて映像講義を行います。最後にその日の話に関するミニクイズをします。それらは中間テストや期末テストの基礎となります。</p>				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> <p>第1回 コース紹介</p> <p>第2回 マリア</p> <p>第3回 イエスの生涯</p> <p>第4回 初期ローマ時代</p> <p>第5回 コプトキリスト教</p> <p>第6回 ヴィザンティン</p> <p>第7回 ケルズ書</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 アイオナ</p> <p>第10回 大聖堂</p> <p>第11回 ルネサンス芸術</p> <p>第12回 黒人霊歌</p> <p>第13回 誰が隣人</p> <p>第14回 平和を送る人生</p> <p>第15回 前期まとめ</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> <p>第1回 マグダラ・マリア</p> <p>第2回 イエスとその文化</p> <p>第3回 日本文化史とキリスト教</p> <p>第4回 高等教育とキリスト教</p> <p>第5回 アーミッシュ</p> <p>第6回 テゼ</p> <p>第7回 ニック・ブイチチ</p> <p>第8回 賀川豊彦</p> <p>第9回 中間テスト</p> <p>第10回 研究発表・意見交換 1</p> <p>第11回 研究発表・意見交換 2</p> <p>第12回 研究発表・意見交換 3</p> <p>第13回 研究発表・意見交換 4</p> <p>第14回 研究発表・意見交換 5</p> <p>第15回 後期まとめ</p> </td> </tr> </table>			<p>【前期】</p> <p>第1回 コース紹介</p> <p>第2回 マリア</p> <p>第3回 イエスの生涯</p> <p>第4回 初期ローマ時代</p> <p>第5回 コプトキリスト教</p> <p>第6回 ヴィザンティン</p> <p>第7回 ケルズ書</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 アイオナ</p> <p>第10回 大聖堂</p> <p>第11回 ルネサンス芸術</p> <p>第12回 黒人霊歌</p> <p>第13回 誰が隣人</p> <p>第14回 平和を送る人生</p> <p>第15回 前期まとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 マグダラ・マリア</p> <p>第2回 イエスとその文化</p> <p>第3回 日本文化史とキリスト教</p> <p>第4回 高等教育とキリスト教</p> <p>第5回 アーミッシュ</p> <p>第6回 テゼ</p> <p>第7回 ニック・ブイチチ</p> <p>第8回 賀川豊彦</p> <p>第9回 中間テスト</p> <p>第10回 研究発表・意見交換 1</p> <p>第11回 研究発表・意見交換 2</p> <p>第12回 研究発表・意見交換 3</p> <p>第13回 研究発表・意見交換 4</p> <p>第14回 研究発表・意見交換 5</p> <p>第15回 後期まとめ</p>
<p>【前期】</p> <p>第1回 コース紹介</p> <p>第2回 マリア</p> <p>第3回 イエスの生涯</p> <p>第4回 初期ローマ時代</p> <p>第5回 コプトキリスト教</p> <p>第6回 ヴィザンティン</p> <p>第7回 ケルズ書</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 アイオナ</p> <p>第10回 大聖堂</p> <p>第11回 ルネサンス芸術</p> <p>第12回 黒人霊歌</p> <p>第13回 誰が隣人</p> <p>第14回 平和を送る人生</p> <p>第15回 前期まとめ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 マグダラ・マリア</p> <p>第2回 イエスとその文化</p> <p>第3回 日本文化史とキリスト教</p> <p>第4回 高等教育とキリスト教</p> <p>第5回 アーミッシュ</p> <p>第6回 テゼ</p> <p>第7回 ニック・ブイチチ</p> <p>第8回 賀川豊彦</p> <p>第9回 中間テスト</p> <p>第10回 研究発表・意見交換 1</p> <p>第11回 研究発表・意見交換 2</p> <p>第12回 研究発表・意見交換 3</p> <p>第13回 研究発表・意見交換 4</p> <p>第14回 研究発表・意見交換 5</p> <p>第15回 後期まとめ</p>				
テキスト	ハンディーバイブル、配布文書	参考文献	授業時に指示		
評価方法	平常点(通年) :30% 中間テスト(前期) :15% 期末テスト(前期) :20% 中間テスト(後期) :15% 研究発表(後期) :20%				